

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第127集

なごやじょうさん まる  
名古屋城三の丸遺跡(VII)

—旧国立名古屋病院地点の調査—

2005

財団法人愛知県教育サービスセンター

愛知県埋蔵文化財センター





# 序

尾張徳川家 62 万石の居城として建設された名古屋城は、一般にはその天守閣に飾られた金の鯨で有名です。天守閣や本丸御殿などの建物遺構は戦前まで残されていましたが、太平洋戦争で消失してしまい、現在は石垣や二の丸庭園などの一部の遺構が残されているに過ぎません。しかし、その城構えは壮大で現在は特別史跡に指定されています。一方、名古屋城の城下は、江戸時代において既に全国でも有数の近世都市として発展しており、現在では名古屋は東海地方の政治・経済・文化の中心として機能しています。

名古屋城三の丸遺跡は、名古屋城三の丸一帯を範囲とする遺跡であり、既に約 20 ヶ所で発掘調査が行われています。その結果、江戸時代の三の丸域内に展開した武家屋敷などに伴う遺構や遺物が確認されるだけに止まらず、それ以前の集落や墓域が展開していたことが明らかになっています。また、最近では近代の陸軍関係の遺構や遺物も発見され研究が進んでまいりました。

今回の調査は、国立名古屋病院（現独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター）の敷地内で行われ、名古屋城三の丸の北東部に当たります。当地点は「御屋形」と呼ばれる藩主の親族らが居住した屋敷が存在した場所に相当し、実際の発掘調査では庭園に伴う池など貴重な調査成果が上がっています。江戸時代のみならず、古墳時代から昭和時代前半までの様々な遺構や遺物も確認されており、これらの資料は名古屋台地北端部の歴史を解明する上で重要な情報となると思われます。

これらの多岐にわたる調査成果を本書に掲載することが、地域史研究に寄与し多くの方々に活用され、ひいては埋蔵文化財保護につながっていくことを願ってやみません。

最後になりましたが、発掘調査を実施するにあたり、各方面の方々にご配慮を賜り、関係者および関係機関のご理解とご協力をいただきましたことに対して、厚くお礼申し上げます。

平成 17 年 3 月

財団法人愛知県教育サービスセンター  
理事長 古池庸男

# 例言

1. 本書は愛知県名古屋市中区三の丸に所在する名古屋城三の丸遺跡(県遺跡番号 01-7027)の発掘調査報告書である。
2. 調査は国立名古屋病院(現独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター)の看護婦養成所大型化整備事業に伴う事前調査として、愛知県埋蔵文化財センターが愛知県教育委員会を通じて委託を受けて実施した。調査対象面積は1100㎡である。
3. 発掘調査は平成14年4月から9月にかけて実施した。整理および報告書作成作業は平成15年4月から平成16年9月にかけて実施した。
4. 現地における発掘調査は朝日航洋株式会社の支援を受けて行い、石黒立人(主査)、鈴木正貴(調査研究員:現主任)、鶴飼雅弘(調査研究員)が担当した。なお、朝日航洋株式会社の調査スタッフは本文第1章に記載した通りである。
5. 調査にあたっては、愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室、愛知県埋蔵文化財調査センター、国立病院機構名古屋医療センター、名古屋市教育委員会、名古屋市見晴台考古資料館、名古屋市蓬左文庫、西尾市教育委員会をはじめとして、多くの関係諸機関のご協力を得た。
6. 本書の執筆と編集は鈴木正貴が担当したが、一部に分担執筆がある。  
第3章第2節第12項埴輪:早野浩二(本センター調査研究員)  
第3章第2節第13項古代瓦:永井邦仁(本センター調査研究員)  
第4章第1節:鬼頭剛(本センター調査研究員)・古澤明(古澤地質調査研究所)  
第4章第2節:森勇一(愛知県立明和高等学校)・上田恭子(同)  
第4章第3節:堀木真美子(本センター調査研究員)・小村美代子(パレオ・ラボ)  
第4章第4節:堀木真美子(本センター調査研究員)  
第4章第5節:植田弥生(パレオ・ラボ)  
第5章第1節:鶴飼雅弘(本センター調査研究員)
7. 整理作業は鈴木正貴が担当した。なお、整理スタッフおよび作業の一部を委託した機関および協力者は本文第1章に記載した通りである。
8. 本書に示す座標数値は国土交通省に定められた平面直角座標第Ⅶ系に準拠する。海拔表記は東京湾平均海面(T.P.)の数値である。ただし、表記は日本測地系とした。
9. 遺物は、本書に掲載された遺物図版番号を登録番号として整理した。
10. 写真や図面などの調査記録は愛知県埋蔵文化財センターで保管している。  
〒498-0017 愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方 802-24 (0567-67-4161)
11. 出土遺物は愛知県埋蔵文化財調査センターで保管している。  
〒498-0017 愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方 802-24 (0567-67-4164)
12. 本書の作成に至るまで、本センター専門委員・職員をはじめとして、下記の方々から多大なご指導とご助言を得ている。記して感謝したい。(五十音順:敬称略)  
浅野弘子、伊藤厚史、伊藤正人、蟹江吉弘、上條信彦、木村有作、小島一夫、佐藤公保、下村信博、城ヶ谷和広、辻田文雄、竹内字哲、仲隆裕、中野晴久、仲野泰裕、野口泰子、服部哲也、藤井康隆、藤澤良祐、村上伸之、森本伊知郎

# 目次

第1章	調査の概要	
第1節	調査の経緯	1
第2節	調査の方法と経過	4
第3節	歴史的環境	6
第2章	遺構	
第1節	基本層序と遺構の概要	11
第2節	A期の遺構	14
第3節	B期の遺構	24
第4節	C期の遺構	35
第5節	D期の遺構	83
第3章	遺物	
第1節	遺物の概要	88
第2節	A期の遺物	91
第3節	B期の遺物	109
第4節	C期の遺物	127
第5節	D期の遺物	214
第4章	自然科学的分析	
第1節	名古屋城三の丸遺跡地下の層序、堆積環境と地形解析	234
第2節	名古屋城三の丸遺跡の埋桶の埋土より産出した双翅目のサナギについて	242
第3節	名古屋城三の丸遺跡出土の漆喰等の科学分析	247
第4節	名古屋城三の丸遺跡出土の石材について	261
第5節	名古屋城三の丸遺跡出土木製品の樹種同定	268
第5章	考察・まとめ	
第1節	文献から見た御屋形の歴史	276
第2節	名古屋城三の丸遺跡出土土師器皿の変遷	286
第3節	名古屋城三の丸遺跡出土土師器鍋類の変遷	295
第4節	御屋形庭園の意義	299
第5節	遺構の変遷	308
第6節	まとめ	318
付 表		
	遺構一覧表	331
	遺物一覧表	343
図 版		
	遺構図版	394
	写真図版	399
抄 録		

## 挿図 目次

第1図	遺跡位置図(1) .....	1	第37図	石組溝SD04土層断面図 .....	51
第2図	遺跡位置図(2) .....	2	第38図	SD01石組構成石材実測図 .....	51
第3図	調査区位置図(1) .....	3	第39図	石列SX09遺構図 .....	54
第4図	調査区位置図(2) .....	4	第40図	池SX02遺構全体図 .....	55
第5図	名古屋城三の丸遺跡の自然立地 .....	7	第41図	池SX02遺構詳細図(1) .....	56
第6図	周辺遺跡分布図 .....	8	第42図	池SX02遺構詳細図(2) .....	57
第7図	これまでの発掘調査位置図 .....	9	第43図	池SX02遺構詳細図(3) .....	58
第8図	基本土層断面図(南壁) .....	11	第44図	池SX02遺構詳細図(4) .....	60
第9図	包含層掘り下げ範囲 .....	12	第45図	池SX02遺構詳細図(5) .....	61
第10図	竪穴建物跡SB02・SB07・SB09遺構図 .....	15	第46図	池SX02遺構詳細図(6) .....	63
第11図	竪穴建物跡SB03・SB05遺構図 .....	16	第47図	池SX02遺構詳細図(7) .....	65
第12図	竪穴建物跡SB04遺構図 .....	17	第48図	池SX02遺構詳細図(8) .....	67
第13図	竪穴建物跡SB08遺構図 .....	18	第49図	池SX02エレベーション図(1) .....	68
第14図	竪穴建物跡SB06遺構図 .....	19	第50図	池SX02エレベーション図(2) .....	69
第15図	掘立柱建物跡SB10遺構図 .....	20	第51図	池SX02土層断面図 .....	71
第16図	掘立柱建物跡 SB11～14・SA01～02遺構図 .....	21	第52図	池関連施設SD41・SX03・SD40 土層断面図 .....	73
第17図	土坑SK308遺物出土状態図 .....	22	第53図	池SX02石材分布図 .....	74
第18図	土坑SK353遺物出土状態図 .....	23	第54図	池SX02玉石区分図 .....	74
第19図	掘立柱建物跡SB15～19遺構図 .....	25	第55図	池SX02周辺土坑遺構図 .....	75
第20図	掘立柱柵列跡SA03遺構図 .....	26	第56図	埋桶遺構SK145・SK37・SK228遺構図 .....	76
第21図	掘立柱柵列跡SA04・05遺構図 .....	27	第57図	地下室SK94・SK100遺構図 .....	77
第22図	井戸SK226・SK203土層断面図 .....	28	第58図	土坑SK185遺構図 .....	79
第23図	井戸SK147土層断面図 .....	30	第59図	土坑SK01遺構図 .....	80
第24図	井戸SK146土層断面図 .....	31	第60図	土坑SK484遺物出土状態図 .....	81
第25図	溝SD17・SD18・SD22・SD25 土層断面図 .....	32	第61図	土坑SK04・SX10遺構図 .....	82
第26図	掘立柱建物跡SB21遺構図 .....	36	第62図	掘立柱建物跡SB25遺構図 .....	84
第27図	掘立柱建物跡 SB22～24・SA08～09遺構図 .....	37	第63図	礎石建物跡SB01遺構図 .....	85
第28図	掘立柱柵列跡SA06・07遺構図 .....	38	第64図	礎石建物跡SB01平面復元図 .....	85
第29図	井戸SK163・SK202・SK49土層断面図 .....	40	第65図	礎石建物跡SB01土層断面図 .....	85
第30図	溝SD12・SD14・SD31土層断面図 .....	41	第66図	第三師団司令部周辺軍事施設 設配置図と調査区 .....	86
第31図	石組溝SD01～SD04遺構全体図 .....	43	第67図	名古屋衛戍病院病棟平面図 .....	86
第32図	石組溝SD01・SX01遺構図(1) .....	44	第68図	土坑SK142・SK107遺構図 .....	87
第33図	石組溝SD01遺構図(2) .....	45	第69図	A期の遺物実測図(1)SK308(1) .....	92
第34図	石組溝SD01～SD04遺構図(3) .....	47	第70図	A期の遺物実測図(2)SK308(2) .....	93
第35図	石組溝SD01・SD02遺構図(4) .....	48	第71図	A期の遺物実測図(3)SK308(3) .....	94
第36図	石組溝SD01・SD03・SD04遺構図(5) .....	50	第72図	A期の遺物実測図(4) SB02・SB07・SB09 .....	95

第73図 A期の遺物実測図(5) SB03・SB05・SB04他.....	96	第109図 C期の遺物実測図(10) SK94(3).....	138
第74図 A期の遺物実測図(6) 土坑出土遺物.....	98	第110図 C期の遺物実測図(11) SK01(1).....	139
第75図 A期の遺物実測図(7) 包含層他出土遺物(1).....	99	第111図 C期の遺物実測図(12) SK01(2).....	140
第76図 A期の遺物実測図(8) 包含層他出土遺物(2).....	100	第112図 C期の遺物実測図(13) SK01(3).....	141
第77図 A期の遺物実測図(9) 包含層他出土遺物(3).....	101	第113図 C期の遺物実測図(14) SK01(4).....	142
第78図 A期の遺物実測図(10) 包含層他出土遺物(4).....	102	第114図 C期の遺物実測図(15) SK01(5).....	143
第79図 A期の遺物実測図(11) 埴輪(1).....	104	第115図 C期の遺物実測図(16) SK01(6).....	144
第80図 A期の遺物実測図(12) 埴輪(2).....	105	第116図 C期の遺物実測図(17) SK01(7).....	145
第81図 埴輪出土分布図.....	106	第117図 C期の遺物実測図(18) SK01(8).....	146
第82図 A期の遺物実測図(12) 古代～中世の瓦..	108	第118図 C期の遺物実測図(19) SK01(9).....	147
第83図 八事萱野古窯出土瓦実測図.....	108	第119図 C期の遺物実測図(20) SK01(10).....	148
第84図 B期の遺物実測図(1) SK226.....	109	第120図 C期の遺物実測図(21) SK01(11).....	149
第85図 B期の遺物実測図(2) 溝・土坑出土遺物..	110	第121図 C期の遺物実測図(22) SX09.....	150
第86図 B期の遺物実測図(3) 包含層他出土遺物..	111	第122図 C期の遺物実測図(23) SK47・SK63..	151
第87図 B期の遺物実測図(4) SK155(1).....	112	第123図 C期の遺物実測図(24) SK105・SX02(1).....	152
第88図 B期の遺物実測図(5) SK155(2).....	113	第124図 C期の遺物実測図(25) SX02(2).....	154
第89図 B期の遺物実測図(6) SK155(3).....	114	第125図 C期の遺物実測図(26) SD01(1).....	156
第90図 B期の遺物実測図(7) SK147(1).....	116	第126図 C期の遺物実測図(27) SD02(2).....	157
第91図 B期の遺物実測図(8) SK147(2).....	117	第127図 C期の遺物実測図(28) SD01(3)・SD03.....	158
第92図 B期の遺物実測図(9) SK147(3).....	118	第128図 C期の遺物実測図(29) SK23.....	159
第93図 B期の遺物実測図(10) SD39(1).....	119	第129図 C期の遺物実測図(30) SK262・SK37・SK93.....	160
第94図 B期の遺物実測図(11) SD39(2).....	120	第130図 C期の遺物実測図(31) SK47・SK55・SK63・SK60.....	161
第95図 B期の遺物実測図(12) 溝出土遺物.....	121	第131図 C期の遺物実測図(32) 土坑・溝出土遺物(2).....	162
第96図 B期の遺物実測図(13) 土坑出土遺物(1).....	122	第132図 C期の遺物実測図(33) 包含層他出土遺物.....	163
第97図 B期の遺物実測図(14) 土坑出土遺物(2).....	123	第133図 C期の遺物実測図(34) 軒丸瓦(1).....	165
第98図 B期の遺物実測図(15) 土坑出土遺物(3).....	124	第134図 C期の遺物実測図(35) 軒丸瓦(2).....	166
第99図 B期の遺物実測図(16) 包含層他出土遺物.....	125	第135図 C期の遺物実測図(36) 軒丸瓦(3).....	167
第100図 C期の遺物実測図(1) SK185(1).....	128	第136図 C期の遺物実測図(37) 軒丸瓦(4).....	168
第101図 C期の遺物実測図(2) SK185(2).....	129	第137図 C期の遺物実測図(38) 軒平瓦(1).....	170
第102図 C期の遺物実測図(3) SK156・SK223.....	130	第138図 C期の遺物実測図(39) 軒平瓦(2).....	171
第103図 C期の遺物実測図(4) SD12.....	131	第139図 C期の遺物実測図(40) 軒平瓦(3).....	173
第104図 C期の遺物実測図(5) SD14.....	132	第140図 C期の遺物実測図(41) 軒平瓦(4).....	174
第105図 C期の遺物実測図(6) SK163・SK484.....	133	第141図 C期の遺物実測図(42) 軒棧瓦.....	175
第106図 C期の遺物実測図(7) 土坑・溝出土遺物(1).....	134	第142図 C期の遺物実測図(43) 丸瓦(1).....	180
第107図 C期の遺物実測図(8) SK94(1).....	136	第143図 C期の遺物実測図(44) 丸瓦(2).....	181
第108図 C期の遺物実測図(9) SK94(2).....	137	第144図 C期の遺物実測図(45) 丸瓦(3).....	182



第 145 図	C 期の遺物実測図 (46) 丸瓦 (4) .....	183	第 182 図	D 期の遺物実測図 (9) 活字 (2) .....	225
第 146 図	C 期の遺物実測図 (47) 平瓦 (1) .....	184	第 183 図	D 期の遺物実測図 (10) 活字 (3) .....	226
第 147 図	C 期の遺物実測図 (48) 平瓦 (2) .....	185	第 184 図	D 期の遺物実測図 (11) 活字 (4) .....	227
第 148 図	C 期の遺物実測図 (49) 平瓦 (3) .....	186	第 185 図	D 期の遺物実測図 (12) 活字 (5) .....	228
第 149 図	C 期の遺物実測図 (50) 平瓦 (4) .....	187	第 186 図	D 期の遺物実測図 (13) 活字 (6) .....	229
第 150 図	C 期の遺物実測図 (51) 棧瓦 (1) .....	188	第 187 図	D 期の遺物実測図 (14)	
第 151 図	C 期の遺物実測図 (52) 棧瓦 (2) .....	189		包含層他出土遺物 .....	230
第 152 図	C 期の遺物実測図 (53) 飾瓦 (1) .....	191	第 188 図	時期不明の遺物実測図 (1) .....	232
第 153 図	C 期の遺物実測図 (54) 飾瓦 (2) .....	192	第 189 図	時期不明の遺物実測図 (2) .....	233
第 154 図	C 期の遺物実測図 (55) 飾瓦 (3) .....	193	第 190 図	調査地点位置図 .....	238
第 155 図	C 期の遺物実測図 (56) 飾瓦 (4) .....	194	第 191 図	名古屋城三の丸遺跡 02 区における	
第 156 図	C 期の遺物実測図 (57) 飾瓦 (5) .....	195		深堀柱状図 .....	239
第 157 図	C 期の遺物実測図 (58) 飾瓦 (6) .....	196	第 192 図	名古屋城三の丸遺跡 02 区深堀地点の	
第 158 図	C 期の遺物実測図 (59) 飾瓦 (7) .....	197		テフラ分析結果 .....	240
第 159 図	C 期の遺物実測図 (60) 飾瓦 (8) .....	198	第 193 図	名古屋城三の丸遺跡における	
第 160 図	C 期の遺物実測図 (61) 飾瓦 (9) .....	199		地下層序横式断面図 .....	241
第 161 図	C 期の遺物実測図 (62) 飾瓦 (10) .....	200	第 194 図	試料採取位置 .....	254
第 162 図	C 期の遺物実測図 (63) 鬼瓦 (1) .....	201	第 195 図	蛍光 X 線スペクトル (1) .....	255
第 163 図	C 期の遺物実測図 (64) 鬼瓦 (2) .....	202	第 196 図	蛍光 X 線スペクトル (2) .....	256
第 164 図	C 期の遺物実測図 (65) 鬼瓦 (3) .....	203	第 197 図	蛍光 X 線スペクトル (3) .....	257
第 165 図	C 期の遺物実測図 (66) 菊丸瓦 .....	205	第 198 図	Ca の分布状況 (1) .....	258
第 166 図	C 期の遺物実測図 (67) 輪違い瓦 (1) .....	207	第 199 図	Ca の分布状況 (2) .....	259
第 167 図	C 期の遺物実測図 (68) 輪違い瓦 (2) .....	208	第 200 図	Ca の分布状況 (3) .....	260
第 168 図	C 期の遺物実測図 (69) 丸瓦系道具瓦 .....	209	第 201 図	池状遺構の巨礫の配置 .....	261
第 169 図	C 期の遺物実測図 (70)		第 202 図	愛知県周辺の地形図と礫採取推定地 .....	264
	平瓦系道具瓦 (1) .....	210	第 203 図	池状遺構より出土した礫 .....	267
第 170 図	C 期の遺物実測図 (71)		第 204 図	名古屋城三の丸遺跡出土木製品材組織の	
	平瓦系道具瓦 (2) .....	211		光学顕微鏡写真 (1) .....	273
第 171 図	C 期の遺物実測図 (72)		第 205 図	名古屋城三の丸遺跡出土木製品材組織の	
	緑釉陶器瓦 (1) .....	212		光学顕微鏡写真 (2) .....	274
第 172 図	C 期の遺物実測図 (73)		第 206 図	名古屋城三の丸遺跡出土木製品材組織の	
	緑釉陶器瓦 (2) .....	213		光学顕微鏡写真 (3) .....	275
第 173 図	D 期の遺物実測図 (1) SK96 (1) .....	215	第 207 図	御屋形の機能 .....	278
第 174 図	D 期の遺物実測図 (2) SK96 (2) .....	216	第 208 図	御屋形の内部空間 .....	280・281
第 175 図	D 期の遺物実測図 (3) SK96 (3) .....	217	第 209 図	御屋形の変遷 .....	284
第 176 図	D 期の遺物実測図 (4) SK96 (4) .....	218	第 210 図	名古屋城三の丸遺跡 (御屋形地点) の	
第 177 図	D 期の遺物実測図 (5) SK56 (1) .....	220		土師器皿の変遷 .....	290
第 178 図	D 期の遺物実測図 (6) SK56 (2) 他 .....	221	第 211 図	尾張における戦国時代の	
第 179 図	D 期の遺物実測図 (7) SK57・SK362 .....	222		土師器皿の地域性 .....	294
第 180 図	活字模式図 .....	223	第 212 図	名古屋城三の丸遺跡 (御屋形地点) の	
第 181 図	D 期の遺物実測図 (8) 活字 (1) 他 .....	224		土師器鍋類の変遷 .....	296

第 213 図	池 SX02 の復元想定イメージ .....	301	第 218 図	名古屋城下大曾根屋敷庭園 .....	306
第 214 図	名古屋城二の丸庭園の発掘調査状況 .....	302	第 219 図	遺構変遷図 (1) .....	314
第 215 図	名古屋城二の丸庭園 .....	303	第 220 図	遺構変遷図 (2) .....	315
第 216 図	名古屋城御深井庭園 .....	304	第 221 図	遺構変遷図 (3) .....	316
第 217 図	名古屋城下御下屋敷庭園 .....	305	第 222 図	遺構変遷図 (4) .....	317

## 挿表 目次

第 1 表	調査スタッフ .....	2	第 20 表	SK20 より出土した礫 .....	263
第 2 表	整理スタッフ .....	9	第 21 表	名古屋城三の丸遺跡出土木製品の 樹種同定結果一覧 .....	271
第 3 表	名古屋城関連年表 .....	10	第 22 表	名古屋城三の丸遺跡出土木製品の 種別の樹種集計 .....	272
第 4 表	石組溝の石材加工度 .....	53	第 23 表	三の丸御屋形居住者の変遷 .....	285
第 5 表	SX02 出土玉石組成表 .....	75	第 24 表	SK226 出土山茶碗類組成表 .....	318
第 6 表	出土遺物組成表 .....	89	第 25 表	SK155 出土陶器類組成表 .....	319
第 7 表	時期区分対照表 .....	90	第 26 表	SK147 出土陶器類組成表 .....	320
第 8 表	丸瓦出土量一覧表 .....	177・178	第 27 表	SD39 出土陶器類組成表 .....	321
第 9 表	平瓦厚さ別出土量一覧表 .....	179	第 28 表	SD17 出土陶器類組成表 .....	322
第 10 表	名古屋城三の丸遺跡 02 区深掘地点の テフラ分析結果 .....	237	第 29 表	SK185 出土瀬戸美濃窯産陶器類組成表 .....	323
第 11 表	漆喰の分析試料一覧 .....	247	第 30 表	SK156 出土瀬戸美濃窯産陶器類組成表 .....	324
第 12 表	肉眼観察結果 .....	248	第 31 表	SK163 出土瀬戸美濃窯産陶器類組成表 .....	325
第 13 表	X 線回折結果 .....	249	第 32 表	SK94 出土瀬戸美濃窯産陶器類組成表 .....	326
第 14 表	石英と方解石の最高強度 .....	250	第 33 表	SK01 出土瀬戸美濃窯産陶器類組成表 .....	327
第 15 表	方解石の検出限界実験結果 .....	251	第 34 表	SD01 出土瀬戸美濃窯産陶器類組成表 .....	328
第 16 表	蛍光 X 線分析結果 .....	252	第 35 表	SK23 出土瀬戸美濃窯産陶器類組成表 .....	329
第 17 表	SX01 より出土した巨石 .....	262	第 36 表	主要遺構出土肥前窯産磁器類組成表 .....	330
第 18 表	池状遺構の床面より出土した礫 .....	263			
第 19 表	池状遺構東張り出し部より出土した礫 .....	263			





# 第1章 調査の概要

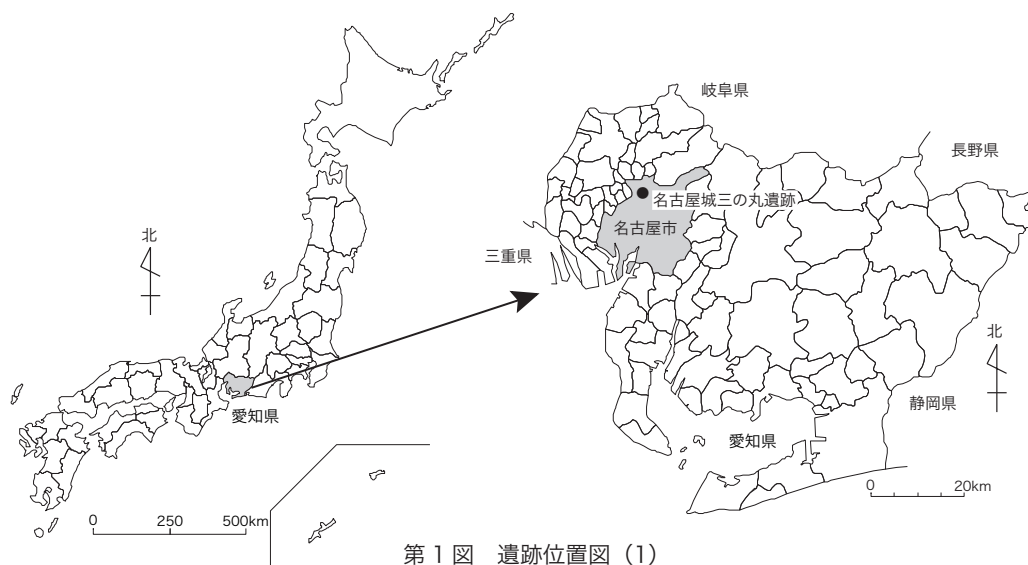
## 第1節 調査の経緯

名古屋城三の丸遺跡（県遺跡番号 01-7027）は愛知県名古屋市中区三の丸一帯に所在する遺跡である。江戸時代には尾張藩徳川家 62 万石の拠点として名古屋城が築城されたが、そのうちの三の丸域全体が遺跡の範囲となっている。遺跡の内容は、これまでの約 20 回の発掘調査などにより、名古屋城に関連する江戸時代の遺構・遺物ばかりではなく、弥生時代から近代に至るまで連綿と遺跡は継続していることが判明しており、名古屋地域の歴史を解明するために重要な遺跡と評価されている。

今回の発掘調査は国立名古屋病院（現独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター）の看護婦養成所大型化整備事業に伴う事前調査として実施した。調査地点は三の丸 4 丁目の名古屋医療センター敷地内である。まず、平成 13（2001）年に国立名古屋病院から依頼を受けて愛知県教育委員会が遺跡の有無確認調査（試掘調査）を行った。建設予定地に南接する部分にトレンチを掘削した結果、トレンチ全体が約 2m の深さに至るまで攪

乱であったが、近世の遺物が確認されたことから、発掘調査が必要と判断された。これを受けて、翌平成 14（2002）年 4 月から愛知県教育委員会を通じて委託を受けた財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した。調査面積は 1100m<sup>2</sup>、調査担当者は石黒立人・鈴木正貴・鶴飼雅弘である。

発掘調査は、調査支援として朝日航洋株式会社に作業を委託した。調査スタッフは第 1 表の通りである。調査区の設定や近代以降の整地土の掘削、事務所の設営など周辺的环境整備などについては、国立名古屋病院から看護婦養成所大型化整備事業の委託を受けた鹿島建設株式会社の多大な協力を得た。調査は、調査区が当初の予想よりも遺構・遺物の残存状況が良好であり、3 面調査が必要となった。調査期間中は当センター理事植崎彰一氏、京都芸術大学教授仲隆裕氏、愛知県教育委員会文化財保護室、愛知県埋蔵文化財調査センター、名古屋市教育委員会の他多くの方々から現地での指導を得た。そして平成 14 年 9 月 4 日に



第 1 図 遺跡位置図 (1)

## 名古屋城三の丸遺跡 VII

は江戸時代の庭園遺構などを中心に現地説明会を開催し約 500 名の参加者があった。現地での発掘調査は 9 月 20 日に終了し、終了後はすぐに鹿島建設の工事作業が開始された。遺物の洗浄・注記作業は一部を発掘調査現場で行ったが、大部分は平成 14 年度中に整理作業員によって実施した。

一方、整理・報告書作成作業は平成 15 年 4 月から平成 16 年 9 月まで実施した。調査担当者は鈴木であり、これに調査研究補助員と整理補助員が補佐した。整理担当スタッフは第 2 表の通りである。整理作業のうち、文様の複雑な染付磁器を中心とした遺物実測についてはアイシン精機株式会社に作業を委託した。また、遺物のトレース作業はアイシン精機株式会社および株式会社セビアスに作業を委託した。庭園に伴う池状遺構のコンピューターグラフィック作成については、仲隆裕氏の指導を受けて朝日航洋株式会社が行い鈴木

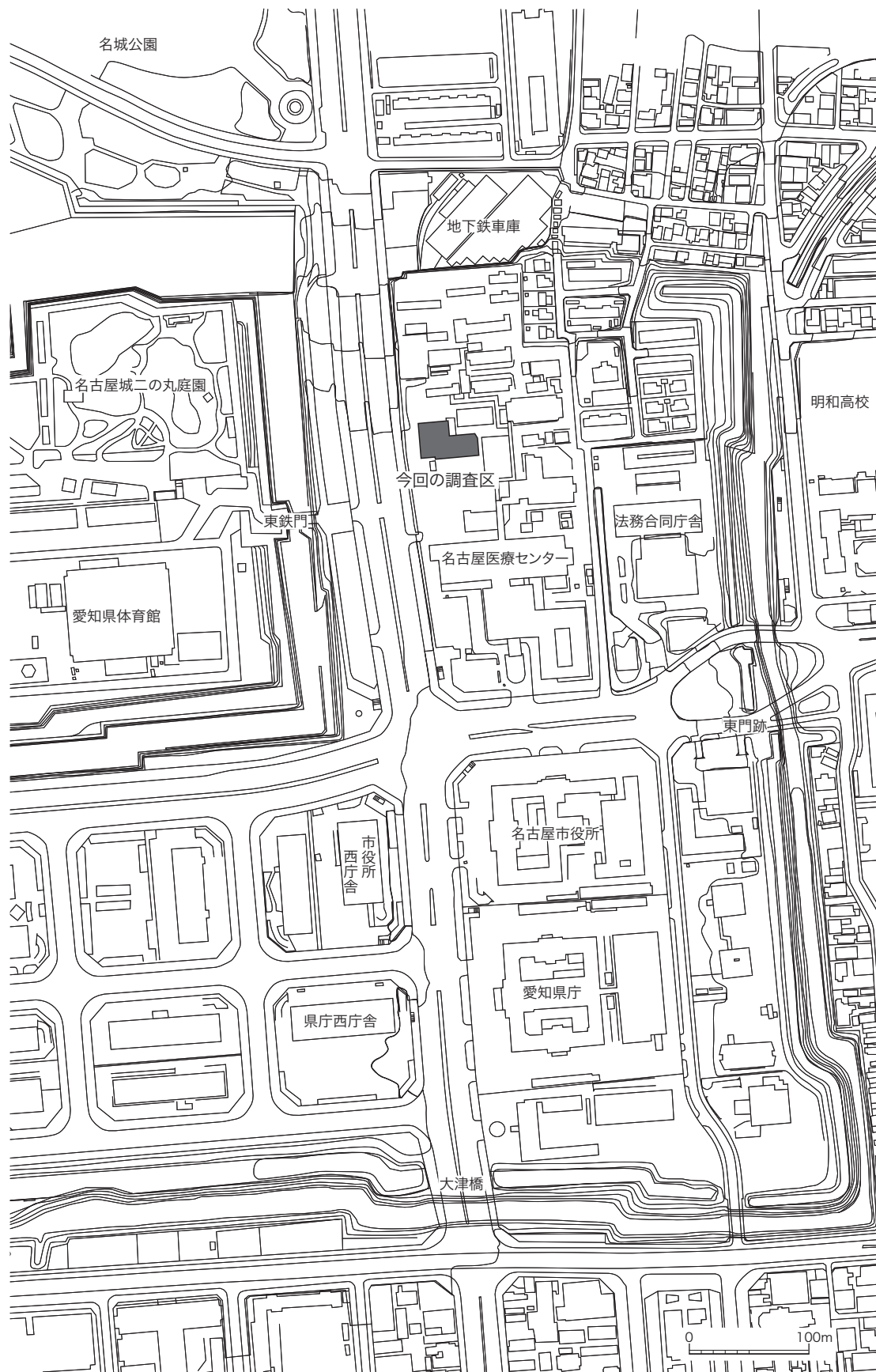
が監督した。写真撮影は福岡栄氏の手を煩わせた。自然科学的な分析については、漆喰分析をバリノ・サーヴェイ株式会社、樹種同定をパレオ・ラボ株式会社、昆虫遺体分析を森勇一氏にお願いした。遺物の実測は分担執筆を除く大部分の資料を鈴木および安達が行い、全点を鈴木が点検した。また、整理作業中には愛知県陶磁資料館仲野泰裕氏と愛知学院大学教授藤澤良祐氏をはじめとする多くの方々の指導を得た。報告書の印刷作業は西濃印刷株式会社に委託した。

第 1 表 調査スタッフ

総括責任者	岩崎直也	安田幸市	7月18日交替
現場代理人	大岩 隆		
調査補助員	木戸心界		
調査助手	近藤 緑	古田 恵	
土木測量技師	関根浩希	村井志高	7月18日交替
土木測量技師補	村井志高	本田義春	7月18日交替
発掘作業員	仲川信子	中田真澄	森田明子
	堀場美子	濱嶋英津子	野田郁子
	古田めぐみ	江口智恵子	中川豪雄
	林 満	志水康佑	吉田 清
	山田正夫	松井美佐子	高山ヒサ
	長谷川邦子		



第 2 図 遺跡位置図 (2)



第3図 調査区位置図(1)

## 第2節 調査の方法と経過

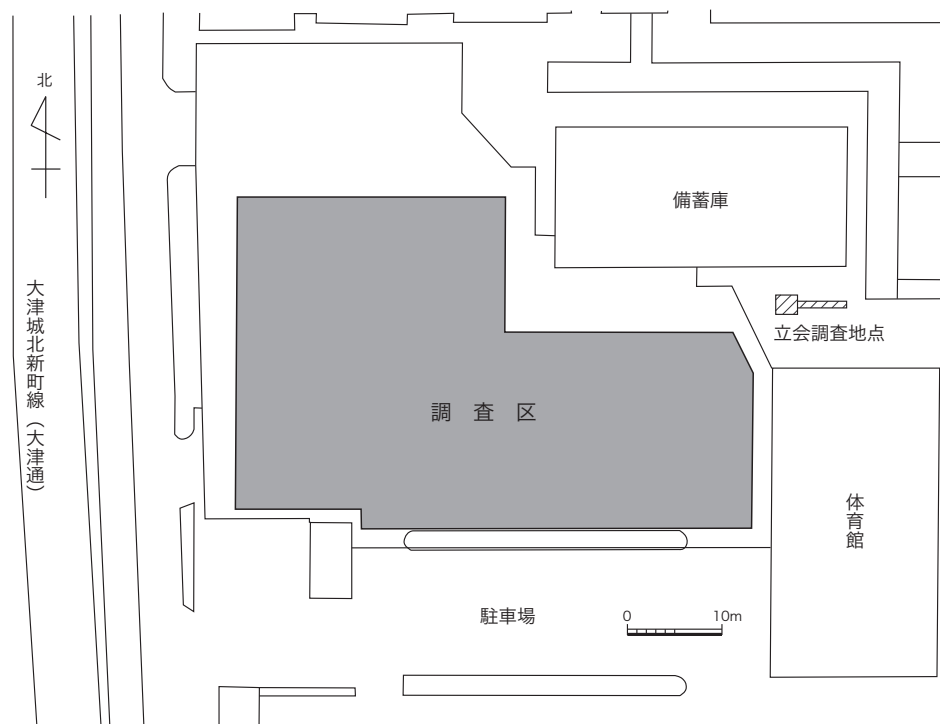
今回の発掘調査区はIINS02区と表記する。IINSは当センターにおける名古屋城三の丸遺跡の略号である。遺構図面・記録類・写真類・遺物カード・遺物の注記もすべてこの記号によっている。

発掘調査に先立って調査区の設定と近代以降の整地土の掘削を調査員の立会いのもと鹿島建設株式会社が重機によって行った。この掘削は現地表面から約1.2mまで行い、これ以下の表土掘削は愛知県埋蔵文化財センターが重機によって行った。

測量は新国土座標と海拔標高（TP）を基準に実施した。なお、これまで当センターで実施した名古屋城三の丸遺跡の6調査区では旧測地系による国土座標を基準に測量されており、これと簡易に合成できるよう巻末基本遺構図面に旧測地系による座標値を挿入しておいた。調査では国土座標に基づき5mグリッドを設定し、遺物の取り上げは一部の例外を除きこの5mグリッド単位で取り上げている。5mグリッドの名称は本センター調

査マニュアルにより4種の記号で表記され、南北方向の100mグリッドをローマ数字、東西方向の100mグリッドを大文字アルファベット、南北方向の5mグリッドを算用数字、東西方向の5mグリッドを小文字アルファベットで示す。順は南北方向が北から南へ、東西方向が西から東となっている。今回の調査区では100mグリッドは全てVCに属することから特別な場合を除き100mグリッド表記を省略し5mグリッドのみを用いることとした。

表土掘削の後トレンチを南壁・西壁付近に設定し掘削した結果、遺構面が大きく3面存在することが判明し3面調査を実施することとした（実際には部分的に1面しか残存しない部分などがある）。実際の遺構面はさらに多く存在することが認められたが、複雑に分布しており調査区全体を通した遺構面の認識が困難なため便宜上3面とした。したがって各面はおおよそ時代順に推移するが、各面には複数の時期の遺構が含まれてい



第4図 調査区位置図(2)



ることに注意する必要がある。

表土掘削以降の掘削作業は一部を除き全て人力によった。

測量は、各3面の基本平面図はラジコンヘリによる空中写真撮影測量、庭園に伴う池状遺構SX02はレーザー測量をそれぞれ実施し、それ以外は電子平板測量または手測り測量を行った。図面は多くは50分の1の縮尺で表記したが、遺構詳細図、遺物出土状態など特殊な図面は20分の1あるいは10分の1の縮尺を用いた。また一部の遺構については100分の1の図面を作成したのもある。図面類は全てデジタル表記で記録され、打ち出し図面ともども当センターで保管している。

写真類は6×7のカラーリバーサルで撮影したものを記録保存用として撮影した。撮影は全て調査担当者の指示のもとに朝日航洋株式会社の本戸心界が行った。この他に記録保存や作業記録としてデジタルカメラによる写真データも記録した。

以下に調査日誌の概要を記述する。

### 調査日誌抄

- 4月4日 国立名古屋病院敷地内での埋設物設置に伴う立会調査。
- 4月8日 表土上部（現代整地土）を整備事業工事受託業者鹿島建設が掘削開始。
- 4月10日 現地表下約1.2mで陸軍東錬兵場床面と礎石建物SB01を検出。
- 4月12日 礎石建物SB01測量写真撮影。鹿島建設表土掘削終了。伊藤厚史氏指導。
- 4月15日 表土下部の掘削を開始し、地山と黒色土を残す。蟹江吉弘氏・伊藤厚史氏指導。
- 4月18日 竹内宇哲氏指導。
- 4月23日 調査区半ばで石組溝等を検出。既掘削部分より約30cm高く表土を掘削。
- 4月24日 表土掘削終了。
- 5月7日 作業開始。調査区清掃と壁トレンチの掘削。
- 5月14日 トレンチ土層断面観察から、調査地点は3面調査が必要であると判断。
- 5月15日 第1面遺構検出開始。
- 5月24日 第1面遺構掘削開始。石組溝の掘削および清掃に着手。
- 5月31日 当センター研究会中近世部会現場検討会開催。
- 6月5日 名古屋市教委来訪。石組溝測量開始。
- 6月6日 県教委来訪。石組溝写真撮影。調査研究員堀木による石組溝構成石材の調査。
- 6月7日 SX02トレンチ掘削完了。規模と構造の概要を把握。
- 6月12日 浅野弘子氏来訪。SK01の掘削が進み遺物出土状況の写真撮影。
- 6月19日 池SX02掘削開始。埋土上位を重機により掘

- 削する。
- 6月20日 伊藤正人氏・藤井康隆氏来訪。
- 6月21日 SK96掘削。近代遺物でガラス片を多く含むためゴム手袋着用で掘削。
- 6月24日 SK94が地下室と推定。土壌サンプル採取（調査研究員鬼頭・堀木）
- 6月27日 SX02完掘し庭園に伴う池の可能性が高くなる。第1面遺構写真撮影、空中写真測量。近世遺物と遺構について植崎彰一氏招聘指導。国立名古屋病院幹部見学。
- 6月28日 写真撮影。補足調査。県教委・名古屋市教委・佐藤公保・福田敏一氏来訪。
- 7月2日 第1面遺構補足調査。SX02精査などを実施。上條信彦氏来訪。
- 7月3日 名古屋市教委2名・名古屋市政資料館小南欣治氏他9名来訪。
- 7月4日 東海テレビ取材。松村冬樹氏来訪、上條信彦氏から御屋形絵図の紹介あり。
- 7月8日 朝日新聞社取材。石組溝測量補足作業。SK147掘削開始。
- 7月15日 近世の遺構について小寺武久氏招聘指導。
- 7月17日 当センター研究会中近世部会現場検討会開催。森本伊知郎氏来訪。
- 7月18日 第2面調査のため遺物出土量が非常に少ない間層を重機で掘削。暗灰褐色粘質土を除去し黒色土上面を露出させる。CBCテレビ取材。
- 7月22日 第2面遺構検出開始。石組み溝堀肩写真撮影。下村信博氏来訪
- 7月23日 第2面遺構掘削開始。
- 7月29日 半田高校生徒15名見学。
- 7月30日 下村信博氏指導。御屋形絵図についての情報を得る。
- 8月1日 第2面空撮、写真撮影、国立名古屋病院ニュースに関連記事が掲載される。
- 8月2日 第2面遺構補足調査。第3面調査に向けて黒色土の掘削を人力で開始する。小幡早苗氏来訪。
- 8月5日 調査研究員川添が調査に助勢参加、8月22日まで。
- 8月9日 掘り下げが7割程度終了し遺構検出を開始。小島一夫氏指導。
- 8月13日 SX02清掃、写真測量とレーザー測量を実施。SK01とSK185の土壌サンプル採取（調査研究員鬼頭・堀木・森勇一氏指導）。
- 8月14日 第3面遺構検出完了。SK02補足測量。NHK取材。
- 8月16日 SX02床面断ち割り。伊藤正人氏来訪。
- 8月21日 第3面遺構掘削。庭園遺構について仲隆裕氏招聘指導。
- 8月26日 SK308掘削開始。植崎彰一氏・藤澤良祐氏に遺物指導を受ける。
- 8月30日 第3面遺構写真撮影、空撮。
- 9月2日 第3面遺構補足調査開始。土層断面精査の結果、遺構面の把握を間違えたことを認識。厚生局見学。
- 9月3日 名古屋市博3名、加藤安信氏来訪、厚生局・病院幹部見学。
- 9月4日 現地説明会開催に関する新聞記者発表（資料配布）。
- 9月7日 伊藤秋男氏来訪、現地説明会開催（約350名見学）。
- 9月9日 SX02補足調査開始（断ち割り調査などを実施）。
- 9月10日 SX02などの漆喰壁サンプル採取、SK49断ち割り調査、藤澤良祐氏・丸山竜平氏来訪。
- 9月17日 排水路SD41掘削。
- 9月19日 調査区南側中央部で深掘り調査し、必要なサンプルを採取（調査研究員鬼頭）。
- 9月20日 発掘調査に伴う掘削作業が終了。
- 9月21日 遺構測量も完了し、現地調査作業は完全に終了する。

### 第3節 歴史的環境

名古屋城三の丸遺跡は名古屋台地北西端に立地しており、北西には木曾三川によって形成された濃尾平野が広がっている。名古屋台地と沖積低地の比高差は約8mを測り、近世名古屋城はこの崖を防御上の利点として活用し崖下には外堀を構えている。加えて名古屋台地は北端部が最も標高が高く南に向かって緩やかに下がる地形であり、四方に見通しが利く場所であったといえる。

名古屋台地の縁辺部では縄文時代以降の各時代にあたる多くの遺跡が分布している。名古屋城三の丸遺跡では西端部の調査地点で弥生時代の遺構が確認され集落が営まれていた。古墳時代では東側に片山神社古墳など古墳が所在している。

古代において当地は愛智郡に属し、『和名抄』によれば愛智郡内には10郷のムラが記載されている。このうち熱田郷周辺では6世紀前葉の前方後円墳である断夫山古墳や熱田神宮が所在する。現中区正木町にある5世紀中葉から6世紀にかけて営まれた集落遺跡は古代豪族尾張氏を中心とした集落と考えられている。また、7世紀代には正木町に尾張元興寺が創建され中央との強い結びつきを窺い知れる。11世紀代に勢力が衰退した古代豪族尾張氏は藤原氏と外戚関係を持ち三河に拠点を移していくようになった。名古屋城三の丸遺跡では西端部の調査地点で奈良時代を中心とした竪穴建物跡などが確認され集落が営まれていたことが判明している。

11世紀から12世紀にかけて名古屋台地上には那古野荘という荘園が成立する。開発領主は「建春門院法花堂領尾張国那古野庄領家職相伝系図」によれば小野法印顕恵とされ、荘域は特定できない。荘域内に安養寺が所在したことから現名古屋城域を含むと考えられる。

14世紀代には那古野荘に今川氏が台頭してくる。一般に大永4(1524)年頃に今川氏親が那

古野城を築き今川氏豊が入城したといわれるが、永享3(1431)年に那古野今川氏が屋敷を構えた可能性が考えられ、その後今川氏は在国化の傾向を強めた。明応2(1493)年の細川政元の政変後には奉公衆の職務を捨て在地那古野を拠点としたという。

天文7(1538)年(天文元年説もある)に、守護代家の三奉行の一人である織田信秀が那古野城を攻略した。その後は信秀の子織田信長、林秀貞が那古野城を支配していた。那古野城廃城の経緯は詳らかではないが、天正10(1582)年頃と推測されている。中世や戦国時代の屋敷地は、名古屋城三の丸遺跡の中では台地縁辺部を中心に確認されている。特に戦国時代の那古野城関連の遺構が各地点で確認されるようになり、実情が不明であった城郭の構造が徐々に明らかになってきている。

戦国時代において尾張国の政治の中心は清須であったが、徳川家康は慶長14(1609)年に名古屋城築城を決定し翌年に普請を開始した。慶長18(1613)年にはその大略が完成し、三の丸域では多くの武家屋敷が建設された。今回の調査地点では、当初武家屋敷が展開したが、17世紀後半に御屋形と呼ばれる徳川家の親族等が居住した屋敷に変更している。この経緯の詳細については第5章第1節を参照されたい。

明治維新により江戸幕府が解体すると、版籍奉還により名古屋城主徳川義勝は名古屋藩知事になった。名古屋城は1871年(明治4年)に二の丸が兵営となり、1872年(明治5年)には東京鎮台第三分営(後の名古屋鎮台)が城内に置かれた。三の丸は1874年(明治7年)に全域が陸軍省に移管され、今回の調査地点は東練兵場となった。そして太平洋戦争終戦直前には名古屋陸軍病院第二分院が建造された。



第5図 名古屋城三の丸遺跡の自然立地

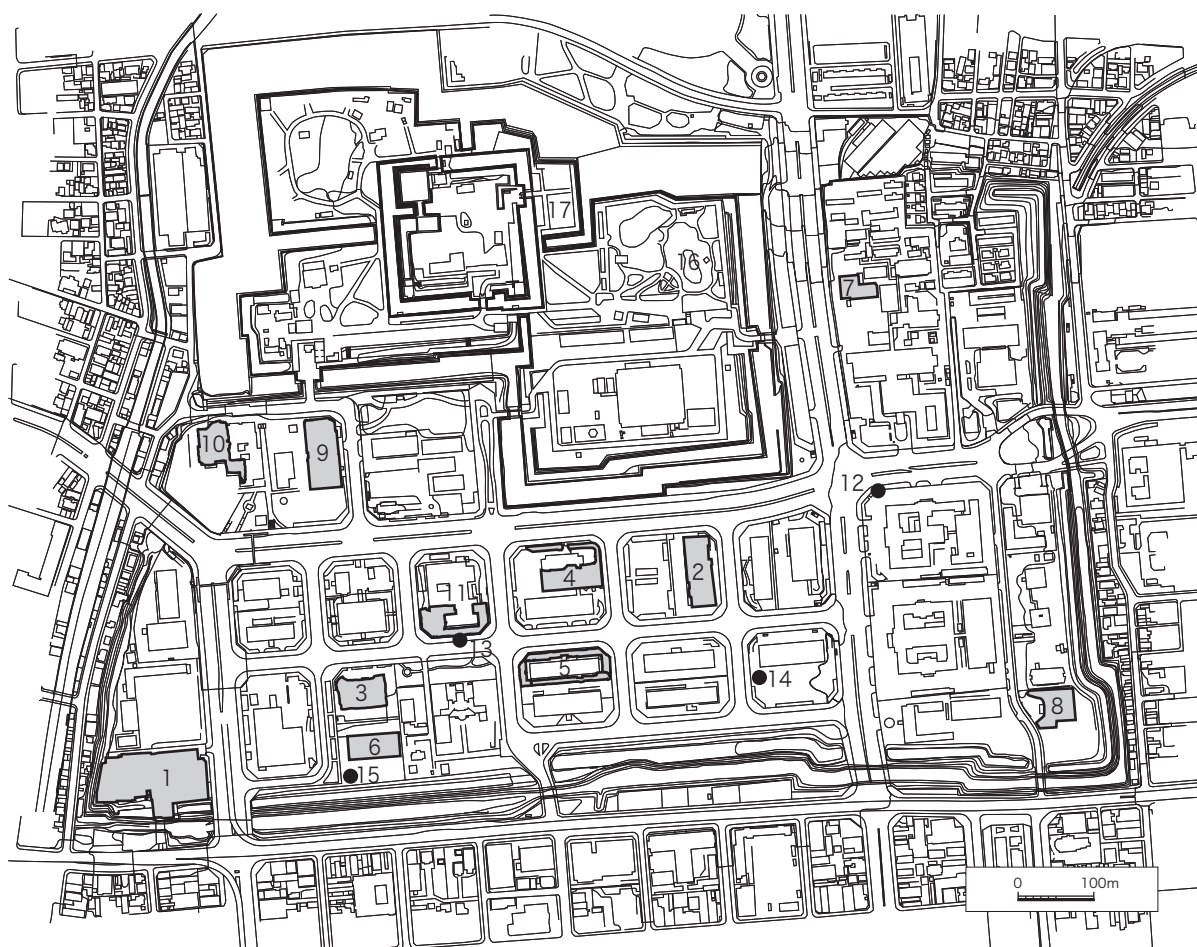




1. 志賀公園遺跡・志賀城跡 2. 黒川遺跡 3. 綿神社遺跡 4. 西志賀遺跡 5. 田幡城跡 6. 七夕町遺跡 7. 児玉町遺跡 8. 片山神社遺跡  
 9. 東芳野町遺跡 10. 長久寺遺跡 11. 東二葉町遺跡 12. 西二葉町遺跡 13. 名古屋城三の丸遺跡 14. 名古屋城大守閣貝塚  
 15. 押切城跡 16. 那古野城跡 17. 養定院跡 18. 幅下遺跡 19. 名古屋城跡 20. 小鳥町遺跡 21. 伏見遺跡 22. 白山神社古墳  
 23. 白川公園遺跡 24. 壱三蔵遺跡 25. 南大津通遺跡 26. 旧紫川遺跡 27. 日出神社古墳 28. 小林城跡 29. 那古野山古墳  
 30. 浅間神社古墳 31. 岩井通貝塚 32. 西脇町遺跡 33. 旅籠町遺跡 34. 日置城跡 35. 大須二子山古墳

第6図 周辺遺跡分布図





第7図 これまでの発掘調査位置図

1. 愛知県図書館地点『名古屋城三の丸遺跡Ⅰ』県埋文
2. 名古屋第一地方合同庁舎地点『名古屋城三の丸遺跡Ⅱ』県埋文
3. 簡易家庭裁判所地点『名古屋城三の丸遺跡Ⅲ』県埋文
4. 愛知県警察本部地点『名古屋城三の丸遺跡Ⅳ』県埋文
5. 愛知県三の丸庁舎地点『名古屋城三の丸遺跡Ⅴ』県埋文
6. 地裁簡裁合同庁舎地点『名古屋城三の丸遺跡Ⅵ』県埋文
7. 国立名古屋病院地点『名古屋城三の丸遺跡Ⅶ』県埋文
8. 名古屋市公館地点『名古屋城三の丸遺跡—1・2・3次調査の概要』市教委
9. 中部電力地下変電所地点『名古屋城三の丸遺跡第4・5次発掘調査報告書—遺構編・遺物編』市教委
10. 名古屋市能楽堂地点『名古屋城三の丸遺跡第6・7次発掘調査報告書』市教委
11. 名城病院地点『名古屋城三の丸遺跡第8・9次発掘調査報告書』市教委
12. 地下鉄出入り口地点『名古屋城三の丸遺跡第10次発掘調査概要報告書』市教委
13. 下水道管築造地点『下水道工事に伴う埋蔵文化財報告書』市教委
14. 無線統制室地点『代替無線統制室建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』県教委
16. 名古屋城二の丸庭園地点『名古屋城二の丸庭園発掘調査概要報告書』市教委
17. 名古屋城本丸東門地点：市教委

第2表 整理スタッフ

調査研究補助員	安達崇子 水野多栄
整理補助員	加藤和枝 上岡知春 小森奈菜枝 山下明美

第3表 名古屋城関連年表

1582年(天正10年) この頃那古野城廃城となる(『金城温古録』)	1739年(元文4年) 宗春が蟄居を命じられ、宗勝が封を継ぐ、儉約令を出す
1607年(慶長12年) 徳川義直が甲斐から尾張(清須)に移封(『当代記』他)	1744年(延享元年) 松平君山が深井丸に薬園を設ける
1608年(慶長13年) 徳川秀忠、義直へ尾張一円領地支配を認める(『秀忠判物』)	1745年(延享2年) 町屋に棧瓦葺を許す
1609年(慶長14年) 徳川家康が徳川義直を従え清須城に入り名古屋城築城を決定する(『事蹟録』他)	1761年(宝暦11年) 宗勝死去、宗睦が封を継ぐ
1610年(慶長15年) 徳川家康が名古屋に至り牧長勝の縄張りを決定する(『尾陽始君知』)	1799年(寛政11年) 宗睦死去
本丸・二の丸・西丸・深井丸の石垣完成(『当代記』)	1800年(寛政12年) 一橋家から斎朝が封を継ぐ
1611年(慶長16年) 本丸・二の丸・西丸・深井丸の作事	1822年(文政5年) 二の丸御殿大改造、南御庭がなくなり、東御庭を増造
1612年(慶長17年) 天守作事完了、城下の検地と町割り	1827年(文政10年) 斎朝が家督を斎温に譲る
1613年(慶長18年) 名古屋越、諸士・町人の住宅定まる	1834年(天保5年) 下深井御庭に達磨町(門前町)設立、ついで杉股町(宿場町)を造営
1615年(元和元年) 義直が本丸御殿に移徒(『敬公実録』)	1839年(天保10年) 斎温死去、田安家から斎荘が封を継ぐ
1617年(元和3年) 二の丸殿舎作事、尾張藩政の各機関の整備	1842年(天保13年) 斎荘死去
1618年(元和4年) 深井丸(下深井御庭)完成(『事蹟録』)	1845年(弘化2年) 養子慶臧封を継ぐ
1620年(元和6年) 義直が二の丸に移徒(『敬公実録』)	1849年(嘉永2年) 慶臧江戸藩邸で死去、慶勝封を継ぐ
1650年(慶安3年) 義直が江戸藩邸で死去、光友が封を継ぐ	1858年(安政5年) 慶勝退隠、茂徳封を継ぐ
1663年(寛文3年) 二の丸の成瀬・竹腰邸を三の丸に移転	1863年(文久3年) 茂徳隠居して家督を義宜に譲る
1679年(延宝7年) この頃御下屋敷を設ける	1869年(明治2年) 版籍奉還により義勝名古屋藩知事になる
1693年(元禄6年) 光友が家督を世子綱誠に譲る	1871年(明治4年) 廃藩置県、二の丸が兵営になる。
1699年(元禄12年) 綱誠が江戸藩邸で死去、吉通が封を継ぐ	1872年(明治5年) 東京鎮台第三分営(後の名古屋鎮台) 城内に置かれる
1713年(正徳3年) 吉通死去、五郎太襲封するが3ヵ月後に死去、継友が封を継ぐ	1874年(明治7年) 三の丸全域を陸軍省に移管
1730年(享保15年) 継友急逝、弟宗春が封を継ぐ	1889年(明治22年) 名古屋市市制施行、下深井御庭を小牧山と交換し陸軍省に移管
1731年(享保16年) 宗春が入府して自由化政策を実施、名古屋城下が発展	1893年(明治26年) 本丸と西丸の一部を宮内省に移管、名古屋離宮となる
	1930年(昭和5年) 宮内省から名古屋城を名古屋市に下賜、名古屋城24棟を国宝に指定
	1945年(昭和20年) 空襲を受け、名古屋城本丸他を焼失

『日本名城集成 名古屋城』より抜粋

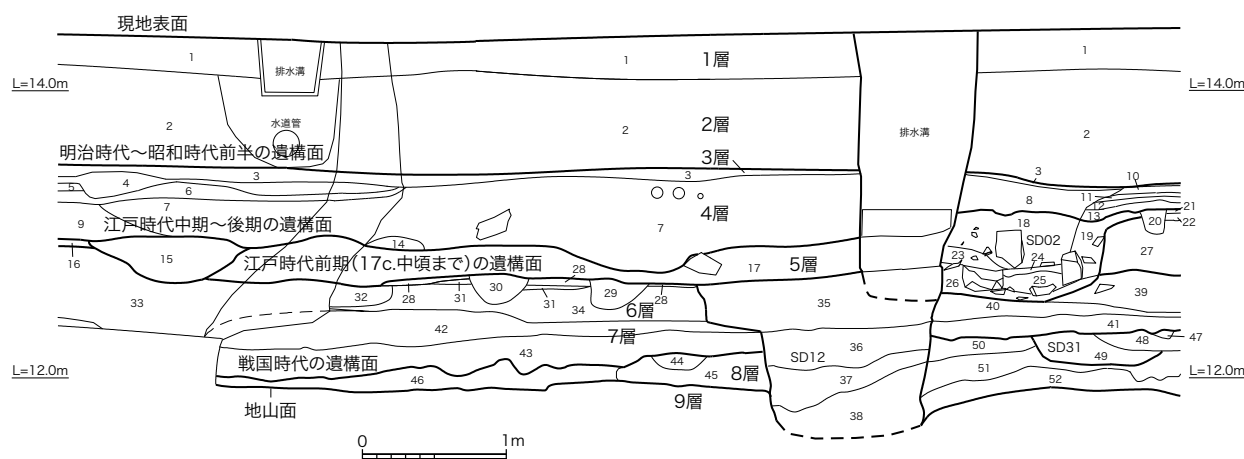
## 第2章 遺構

### 第1節 基本層序と遺構の概要

今回の調査区における土層堆積状態は地点によって異なるが、遺構との対応関係を比較的良好に把握できる南壁西部の土層断面（第8図）でみると、上位から1層灰白色礫層、2層にぶい黄褐色中粒砂層、3層褐灰色砂、4層暗褐色砂、5層灰黄褐色細粒砂、6層褐色細粒砂、7層黒褐色シルトまたは細粒砂、8層黒褐色シルト、9層にぶい黄褐色シルトの順に堆積する。

このうち1層と2層は昭和20年以降の堆積と

思われ、国立名古屋病院の建設などに伴う整地層と推測される。3層はその上層で近代の遺物が散見されることから、明治時代以降に陸軍第三師団が設置された時の面と考えられる。この3層は層厚が約2cmと非常に薄く、硬く締まった状態で検出されていることから、練兵場の硬化面と推測される。4層はシルトなどがブロック状に混在した斑土であり、近世の遺物をわずかに含む土層である。層厚は30～80cmと比較的厚いことか



第1層	N7/0 灰白色礫層 中粒砂含む 現地表面	第27層	10YR4/4 褐色細粒砂 炭化物混じる
第2層	10YR5/4 にぶい黄褐色中粒砂 礫多く混じる	第28層	10YR3/4 暗褐色砂粒
第3層	10YR6/1 褐灰色砂粒 礫多く含む	第29層	10YR4/2 灰黄褐色細粒砂 炭化物混じる
第4層	10YR3/4 暗褐色砂粒 礫混じる	第30層	10YR3/4 暗褐色細粒砂 褐灰色シルト混じる
第5層	10YR3/4 暗褐色砂粒 赤褐色土粒、炭化物混じる	第31層	10YR5/4 にぶい黄褐色細粒砂
第6層	10YR3/2 黒褐色砂粒 礫、炭化物混じる	第32層	10YR4/3 にぶい黄褐色細粒砂 粘土塊混じる
第7層	10YR3/2 黒褐色砂粒 炭化物多く混じる	第33層	10YR4/4 褐色細粒砂
第8層	10YR5/3 にぶい黄褐色細粒砂 礫多く混じる 炭化物少量混じる	第34層	10YR4/6 褐色細粒砂 粘土塊混じる
第9層	10YR3/3 暗褐色細粒砂 黒色土粒、炭化物混じる	第35層	10YR5/3 にぶい黄褐色砂粒
第10層	10YR3/4 暗褐色細粒砂 礫、焼土混じる 炭化物少量混じる	第36層	10YR3/2 黒褐色シルト
第11層	10YR6/4 にぶい黄褐色粘土 細粒砂混じる	第37層	10YR3/2 黒褐色シルト 細粒砂混じる
第12層	10YR3/2 黒褐色細粒砂	第38層	10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘土混じる
第13層	10YR3/2 黒褐色細粒砂 炭化物混じる	第39層	10YR4/3 にぶい黄褐色細粒砂 炭化物混じる
第14層	10YR4/3 にぶい黄褐色細粒砂 炭化物少量混じる	第40層	10YR5/3 にぶい黄褐色細粒砂
第15層	10YR2/2 黒褐色細粒砂 褐色土混じる	第41層	10YR4/2 灰黄褐色細粒砂 炭化物混じる
第16層	10YR3/4 暗褐色細粒砂 粘土混じる	第42層	10YR2/3 黒褐色シルト 細粒砂、炭化物混じる
第17層	10YR4/2 灰黄褐色細粒砂 礫混じる	第43層	10YR3/2 黒褐色細粒砂
第18層	7.5YR3/3 暗褐色細粒砂 黄褐色土粒、炭化物混じる	第44層	10YR2/1 黒色細粒砂 赤褐色土粒混じる
第19層	10YR2/3 黒褐色細粒砂 焼土粒、炭化物混じる	第45層	10YR3/3 暗褐色細粒砂 黄褐色シルト混じる
第20層	10YR4/5 にぶい黄褐色細粒砂 炭化物混じる	第46層	10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 黄褐色シルト、粘土混じる
第21層	10YR3/3 暗褐色細粒砂 赤茶褐色土粒混じる	第47層	10YR5/1 褐灰色細粒砂 炭化物混じる 礫少量混じる
第22層	7.5YR4/6 褐色細粒砂 炭化物混じる	第48層	10YR2/2 黒褐色細粒砂 礫、炭化物、赤褐色粒混じる
第23層	7.5YR3/3 暗褐色細粒砂 赤黄褐色焼土混じる	第49層	10YR3/4 暗褐色細粒砂 黄色粒、炭化物混じる
第24層	7.5YR4/6 褐色砂粒 暗褐色細粒砂混じる	第50層	10YR2/2 黒褐色シルト 粘土、黄褐色土粒、炭化物混じる
第25層	10YR3/3 暗褐色砂粒 炭化物少量混じる	第51層	7.5YR3/2 黒褐色シルト 細粒砂、赤褐色粒混じる
第26層	10YR4/4 褐色砂粒 礫多量に混じる	第52層	10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 細粒砂混じる 炭化物少量混じる

第8図 基本土層断面図（南壁）



## 名古屋城三の丸遺跡 VII

ら、江戸時代に行われた大規模な整地層と考えられる。5層は4層と同様シルトと砂質土の斑土であり、出土遺物からみて江戸時代前期の整地層と判断される。6層も4層と同様シルトと砂質土の斑土であり、出土遺物からみて戦国時代の整地層と推測される。7層も4層と同様シルトと砂質土の斑土となるが部分的に認められる堆積であり状況は詳らかではない。出土遺物からみて古代から中世前半にかけての堆積と思われるが、整地層と断定するには至らない。8層は黒褐色シルトで旧表土に相当する堆積物と考えられる。9層は名古屋台地の基盤層の最上層と推測される堆積で人為的な攪拌は認められない。

このようにみると、調査区南西部においては、3層上面が明治時代以降の遺構面、4層上面が江戸時代中後期の遺構面、5層上面が江戸時代前期の遺構面、6層上面が戦国時代の遺構面、7層または8層上面が室町時代以前の遺構面にそれぞれ対応すると思われ、少なくとも合計5面の遺構面が存在したと推測される。

実際の発掘調査では、1～7層までが整地層であり面の把握が困難であることや地点により堆積層が大きく異なっていることから、各5面の遺構面を平面的に認識することは難しくまた調査区全体で5面の遺構面が均一に識別できる形で展開したとは思われない。また、これに加え、遺構面の把握が難しい状況であったため、調査上の失敗を犯したことも遺構面を正しく平面的に捉えられなかった一因である。実際に調査当初の表土掘削の際に第9図に示した範囲で3層と4層の一部を重機で掘削してしまうというミスをしている。

このような諸般の理由で、発掘調査は便宜上3面で調査を実施した。このうち表土掘削で一部掘り過ぎた部分や遺構の重複が少ない部分については1面または2面で調査した範囲が存在する。当然上記のような事情から、調査時の面は正しく均質な時期の遺構が検出されたとはいえないの

で、各面の遺構は複数の時期にまたがって検出されていると認識しなければいけないものである。巻末に示した各面の遺構図はこうした発掘調査時の検出状態をそのまま表現しているので、この点を留意願いたい。

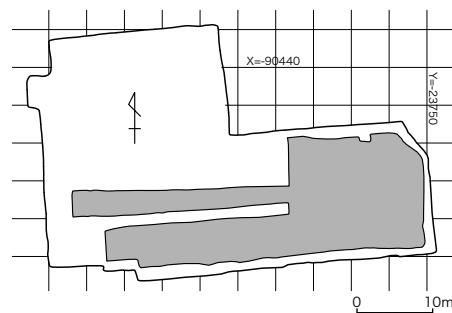
さて、このような形で検出された遺構や遺物は極少量の古い時期の遺物が存在する他は、古墳時代中期から昭和時代前半の範囲に広く展開している。報告に際してはこれらを大きく時期別に整理しておく方が、記述においてあるいは利用に際しても便利であると考え、遺構や遺物の種別が大きく変化する画期を認識して大きく4期に区分したい。

A期：古墳時代中期～平安時代(5世紀～12世紀)

この段階の遺構は竪穴建物跡と掘立柱建物跡、土坑などによって構成される。井戸や溝などは顕著な形では確認されない。また遺物は多くの須恵器、土師器、灰釉陶器などの焼き物と一部の石製品で構成される。

B期：鎌倉時代～戦国時代(13世紀～16世紀)

この段階の遺構は掘立柱建物跡、井戸、溝、土坑などによって構成される。竪穴建物跡がなくなり、井戸や溝が出現することが大きな特徴である。また遺物は多くの陶器と土師器類の他、一部の石製品・金属製品・木製品で構成される。金属製品が一定量認められるようになるのが特徴で、木製品の出現は滞水状態の環境を維持し続けた井戸などの遺構が存在することが大きく影響しているといえる。



第9図 包含層掘り下げ範囲

## C期：江戸時代（17世紀～19世紀中頃）

この段階の遺構は掘立柱建物跡と礎石建物跡、井戸、溝、池、地下室、土坑など多種の遺構によって構成される。石材を豊富に使用した遺構が展開した点に大きな特徴を見出すことができる。また遺物はこれまでの陶器や土師器に加え一定量の磁器が加わり、これに石製品・金属製品・木製品などが加わる。特に金属製品や木製品は種類と出土量ともに増加し、豊かな物質文化が展開したことがうかがい知れる。

## D期：明治時代～昭和時代前半（19世紀後半～20世紀前半）

この段階の遺構は礎石建物跡と井戸・土坑など

によって構成される。ただし、この時期は調査当初には調査の対象として視野に入れていなかったため、いくつかの遺構を見逃している可能性が高いことに注意しておきたい。また遺物は多くの陶磁器類・ガラス製品・金属製品が認められ、木製品・革製品・石製品など多様な材質の遺物で構成される。ガラス製品と金属製品の比重が非常に高まったことが特徴といえる。

以上、4期の時期区分にしたがってこれから遺構と遺物の記述を進めて行きたい。なお、各時期はさらに細分することが可能であるが、ここでは示さず各時期毎に分析していく。

## 第2節 A期の遺構

### 第1項 概要

A期は古墳時代中期から平安時代までの時期である。この段階に属する遺構には、竪穴建物跡、掘立柱建物跡、掘立柱柵列跡、土坑などが存在する。この時期の遺構はさらに次の5段階に細分が可能である。

A-1期：5世紀後半を中心とする段階。東山11号窯式期の猿投窯系須恵器などが出土する時期。

A-2期：6世紀前半の段階。東山61号窯式期の猿投窯系須恵器などが出土する時期。

A-3期：7世紀を中心とする段階。東山44号窯式期前後の猿投窯系須恵器などが出土する時期。

A-4期：8世紀を中心とする段階。岩崎17号窯式期から折戸10号窯式期の猿投窯系須恵器などが出土する時期。

A-5期：9世紀を中心とする段階。黒笹90号窯式期の灰赤陶器などが出土する時期。

以下、種別に遺構を紹介する。

### 第2項 竪穴建物跡

今回の調査で確認された竪穴建物跡は全部で8棟存在する。黒褐色砂質土の旧表土を掘削して構築されたと思われるが、旧表土と埋土との区別は難しい場合が多い。また、中世以降の攪乱などが激しいことや竪穴建物跡の重複が認められるなどの悪条件も重なり、平面プランの検出は困難を極めた。平面形はおおよそ隅丸長方形で、旧表土などの遺存状況が悪いために、遺構の深さは概して非常に浅くなっている。以下、個別に説明を加えていく。

#### SB02 (第10図)

調査区の西部で確認された隅丸長方形の竪穴建物跡で、西辺は明瞭な掘肩を確認することができ

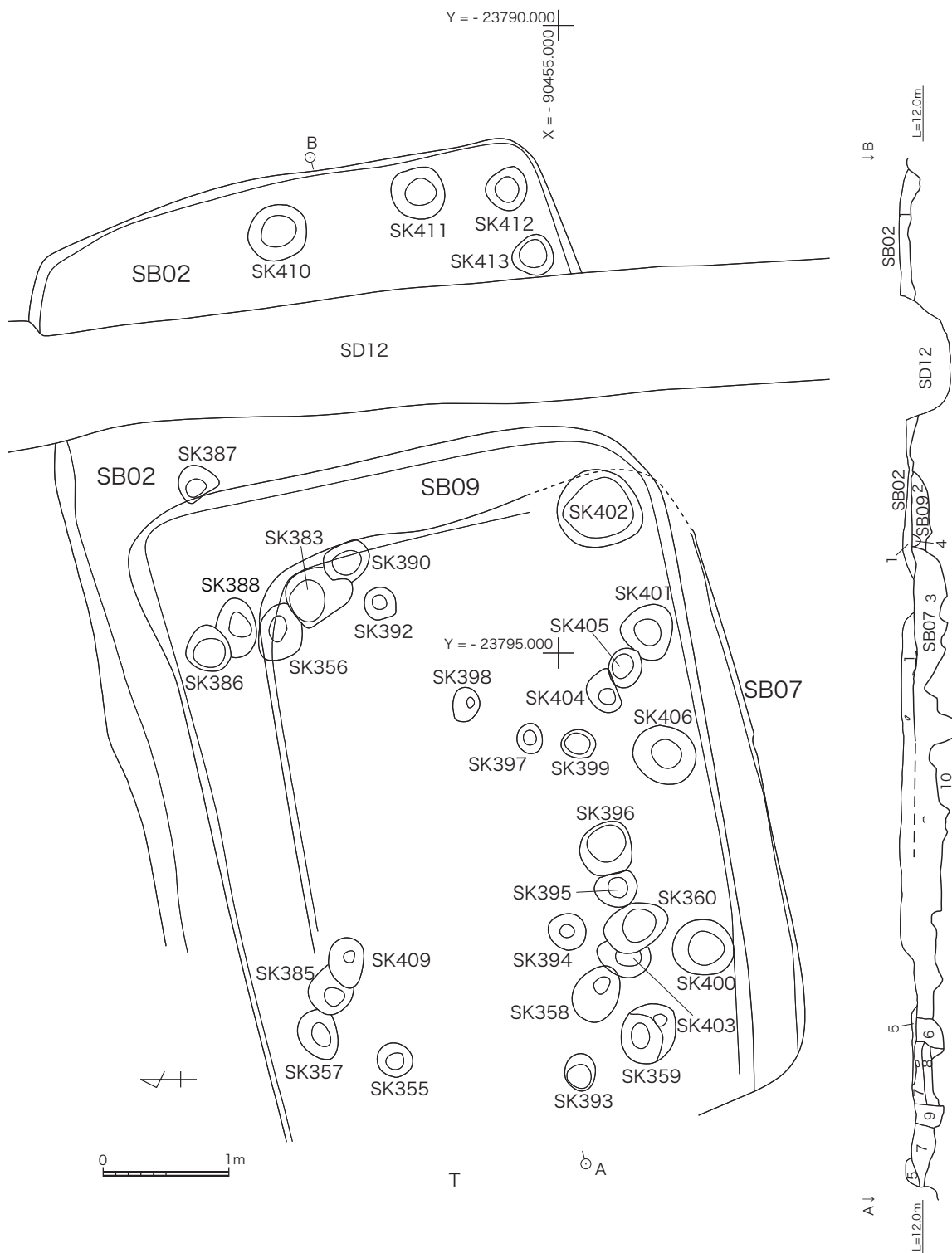
きなかった。規模は5.42m以上×4.46mで、深さは最大で12cmを測る。平面的にも断面的にもSB04、SB07、SB09を切る状態が確認された。特にSB07とSB09とはほぼ重複した形で検出されており、SB02はこれらの建て替えられた竪穴建物群の最終段階の竪穴建物跡と推測される。主柱穴はSD12などの攪乱も存在するため明確に確認できなかった。SK410～413はSB02の補助的な柱穴であった可能性が考えられる。埋土は黒褐色砂質土の斑土が主体で、最下層では白色のシルトが薄く堆積していた。この白色シルトは床面整地土(貼床)と考えられる。埋土には焼土粒が混入していたが、カマドや炉などの痕跡は認められなかった。一部にB期の遺物が混入するものの、折戸10号窯式期の猿投窯系須恵器などが出土していることから、8世紀後半に廃絶した竪穴建物跡と推定される。

#### SB07 (第10図)

調査区の西部で確認された隅丸長方形の竪穴建物跡で、北西隅を確認することができなかった。規模は5.08m以上×3.80mで、深さは最大で25cmを測る。SB02に切られ、SB09を切った状態が確認された。特にSB09とはかなり近接した状態で重複している。主柱穴はSK355・SK400・SK401が該当すると考えられるが、北東隅の柱穴を確認することはできなかった。埋土は黒褐色砂質土の斑土が主体で、焼土粒などが混入していた。カマドや炉、周溝などの内部遺構は認められなかった。岩崎1号窯式期または高蔵寺2号窯式期の猿投窯系須恵器などが出土していることから、8世紀中頃に廃絶した竪穴建物跡と推定される。

#### SB09 (第10図)

調査区の西部で確認された隅丸長方形の竪穴建物跡で、西辺は明瞭な掘肩を確認することができ



SB02,07,09東西セクション土層説明

- 第1層 10YR2/2 黒褐色細粒砂 粘土・焼土混じる 下境界面に白色シルト
- 第2層 10YR3/1 黒褐色細粒砂 粘土・焼土混じる
- 第3層 10YR2/2 黒褐色細粒砂 粘土・焼土混じる
- 第4層 10YR6/2 灰黄褐色シルト
- 第5層 2.5Y5/2 暗灰黄色細粒砂 中粒砂混じる、礫少量混じる

- 第6層 10YR3/1 黒褐色細粒砂 粘土・焼土混じる
- 第7層 2.5Y2/1 黒褐色細粒砂 粘土混じる
- 第8層 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘土 細粒砂混じる 貼板か?
- 第9層 10YR3/1 黒褐色細粒砂 粘土混じる
- 第10層 10YR6/6 明黄褐色粘土(地山)

第 10 図 竪穴建物跡 SB02・SB07・SB09 遺構図

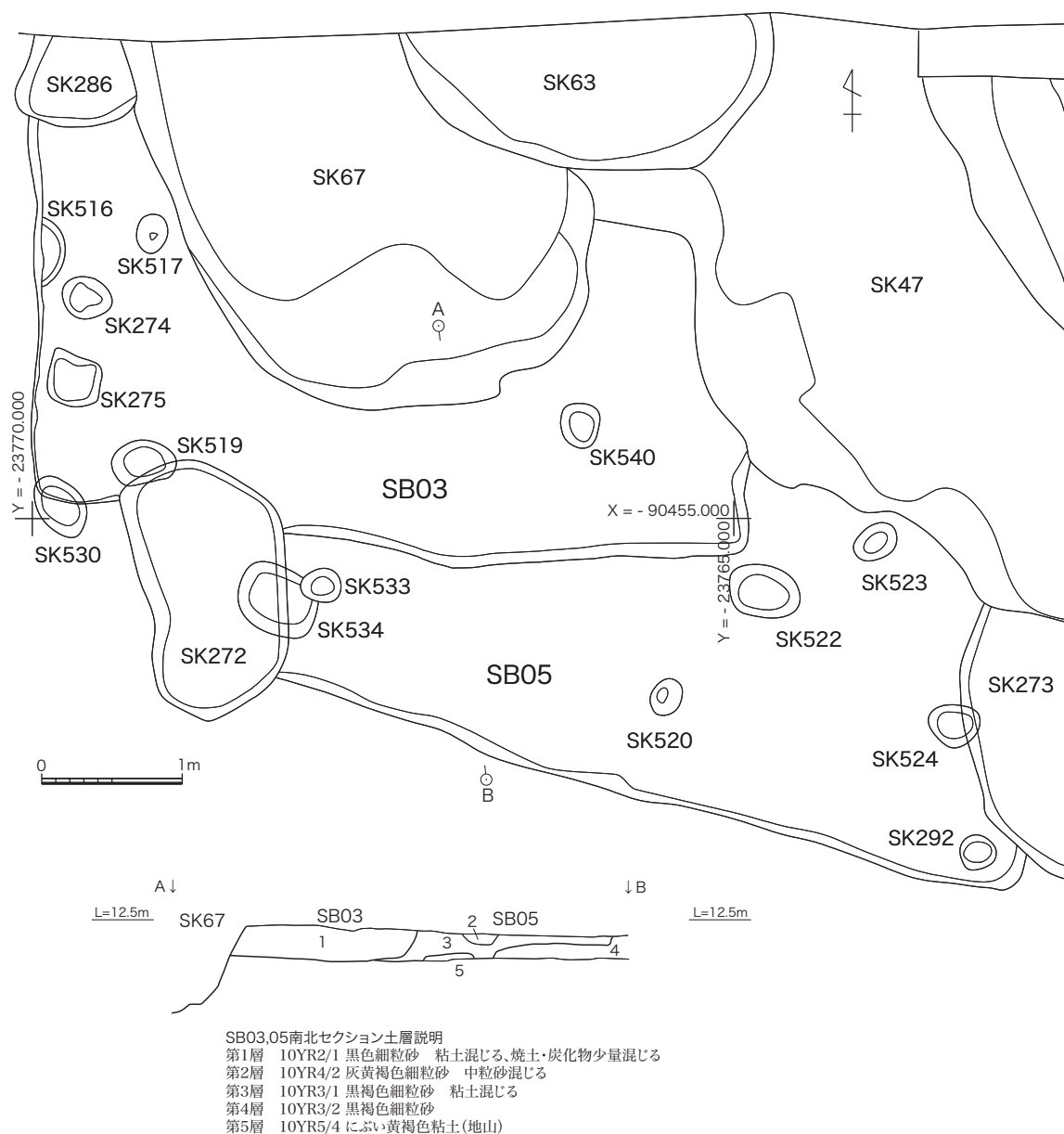
名古屋城三の丸遺跡 VII

なかった。規模は 5.38m 以上× 4.09m で、深さは最大で 14cm を測る。SB02 と SB07 に切られており、特に SB07 は SB09 よりも深く掘削されているために、埋土はほとんど遺存しない状態であった。状況から見て SB02 などの建て替えられた竪穴建物群の初期段階の竪穴建物跡と推測される。支柱穴はその配置からみて SK402・SK388・SK357・SK359 とここでは推測しておくが、確定的ではない。埋土は黒褐色細粒砂の斑土が主体で、カマドや炉などの痕跡は認められなかった。

埋土がわずかしか遺存しないため出土遺物が非常に少なく、鳴海 32 号窯式期の猿投窯系須恵器などが出土したが、切り合い関係からみて、7 世紀後半に廃絶した竪穴建物跡と推定される。

SB04 (第 12 図)

調査区の中央部のやや西寄りで確認された隅丸長方形の竪穴建物跡で、西辺の一部が SB02 によって切られている。規模は 5.48m × 3.44m で、深さは最大で 26cm を測る。SB08 を切る状態が確認された。支柱穴は SK414・SK420・SK424



第 11 図 竪穴建物跡 SB03・SB05 遺構図

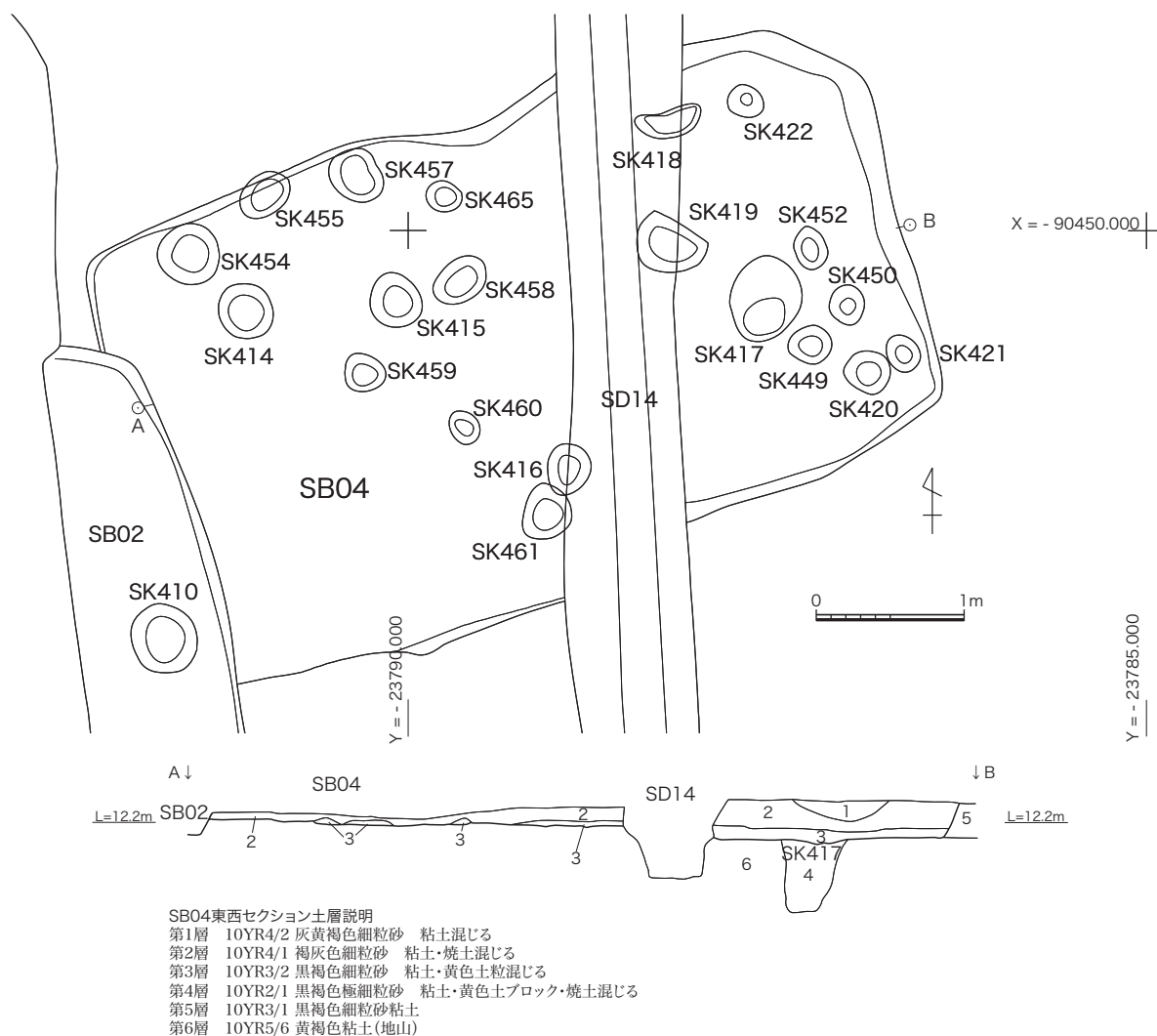


が該当すると推定され、南西隅の柱穴を特定することはできなかった。埋土は上層が褐灰色細粒砂、下層が黒褐色細粒砂となっている。このうち下層は地山の黄色土粒が混入して薄く堆積していることから、床面整地土（貼床）の可能性が考えられる。埋土上層には焼土粒が混入していたが、カマドや炉などの痕跡は認められなかった。B期以降の柱穴が相当量重複しているために一部にB期以降の遺物が混入するものの、多くの東山44号窯式期の猿投窯系須恵器などが出土していることから、8世紀中頃に廃絶した竪穴建物跡と推定される。

SB08（第13図）

調査区の中央部で確認された少し歪な隅丸長方

形の竪穴建物跡で、西辺は明瞭な掘肩を確認することができなかった。規模は4.94m×3.56mで、深さは最大で20cmを測り、SB04に切られていた。支柱穴はSK421・SK432・SK427が該当すると推定され、北西隅の柱穴を特定することはできなかった。北東および南西の支柱穴はSK421・SK427以外にも候補が考えられ、建て直しが行われた可能性が考えられる。埋土は黒褐色細粒砂の斑土が主体であったが、カマドや炉などの痕跡は認められなかった。一部にB期の遺物が混入するものの、黒笹90号窯式期の猿投窯系灰釉陶器などが出土していることから、9世紀後半に廃絶した竪穴建物跡と推定される。



第12図 竪穴建物跡 SB04 遺構図

名古屋城三の丸遺跡 VII

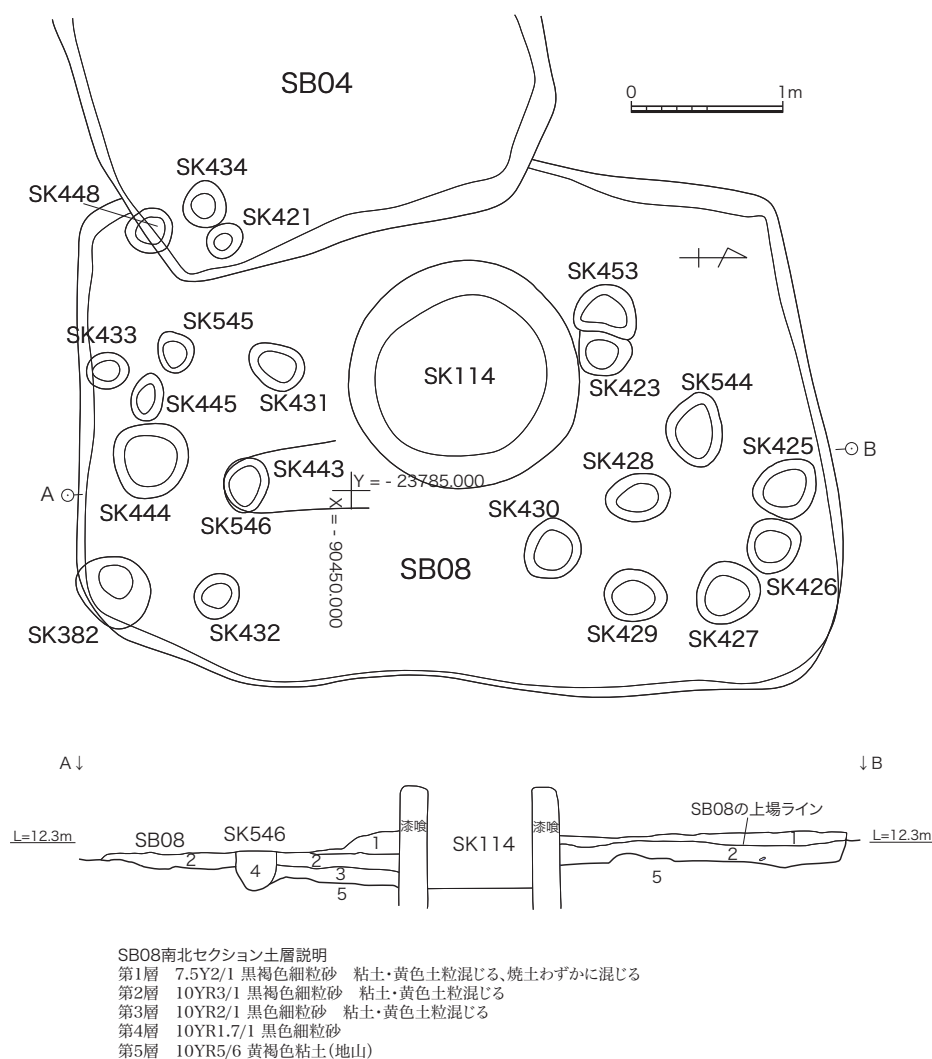
SB03 (第 11 図)

調査区の東部で確認された隅丸長方形の竪穴建物跡で、北半は近世以降の遺構に切られ、さらに調査区外にも広がると予測されるため、規模を特定することができなかった。規模は 5.12m × 2.36m 以上で、深さは最大で 23cm を測る。平面的・断面とも SB05 を切る状態が確認された。支柱穴は SK517・SK519・SK540 が該当すると推定され、北辺の柱穴は確認されなかった。SK517 は補助的な柱穴かも知れない。埋土は黒色細粒砂の斑土で炭化物や焼土粒が混入していたが、カマドや炉などの痕跡は認められなかった。高蔵寺 2 号窯式期の猿投窯系須恵器などが出土していることから、8 世紀中頃に廃絶した竪穴建

物跡と推定される。

SB05 (第 11 図)

調査区の東部に所在する隅丸長方形と推測される竪穴建物跡で、南辺のみが明瞭に確認された。規模は 5.52m 以上 × 1.80m 以上で、深さは最大で 21cm を測る。SB03 に切られ、南西隅と南東部がそれぞれ SK272 と SK273 に切られていた。支柱穴は SK533・SK524 が該当すると推定され、北辺の柱穴は確認されなかった。SK520 などは SB05 の補助的な柱穴であった可能性が考えられる。埋土は黒褐色細粒砂の斑土で、カマドや炉などの痕跡は認められなかった。東山 44 号窯式期の猿投窯系須恵器などが出土していることから、7 世紀前半に廃絶した竪穴建物跡と推定される。



第 13 図 竪穴建物跡 SB08 遺構図

## SB06 (第 14 図)

調査区の中央部南寄りで確認された隅丸方形の竪穴建物跡?である。柱穴が検出されなかったことや規模が小さいことなどの遺構の状態からみて、竪穴建物跡ではなかった可能性が高い。規模は3.10m×2.64mで、深さは最大で17cmを測る。竪穴建物跡どうしの遺構の重複は確認されなかった。南半部が段差を持って深くなっており、埋土は黒色細粒砂の斑土であった。一方、北半部は埋土が灰黄褐色細粒砂であり、これを床面整地土(貼床)と考えることができる。カマドや炉などの痕跡は認められなかった。東山61号窯式期の猿投窯系須恵器などが出土していることから、6世紀前半に廃絶した遺構と推定される。

## 第 3 項 掘立柱建物跡

今回の調査で確認された掘立柱建物跡は全部で16棟存在する。掘立柱建物跡は全てそれに伴う確実な床面を確認することができなくなったため、建物の時期を決定する重要な床面出土遺物が存在しない。また、多くは各柱穴が同一の遺構面から掘

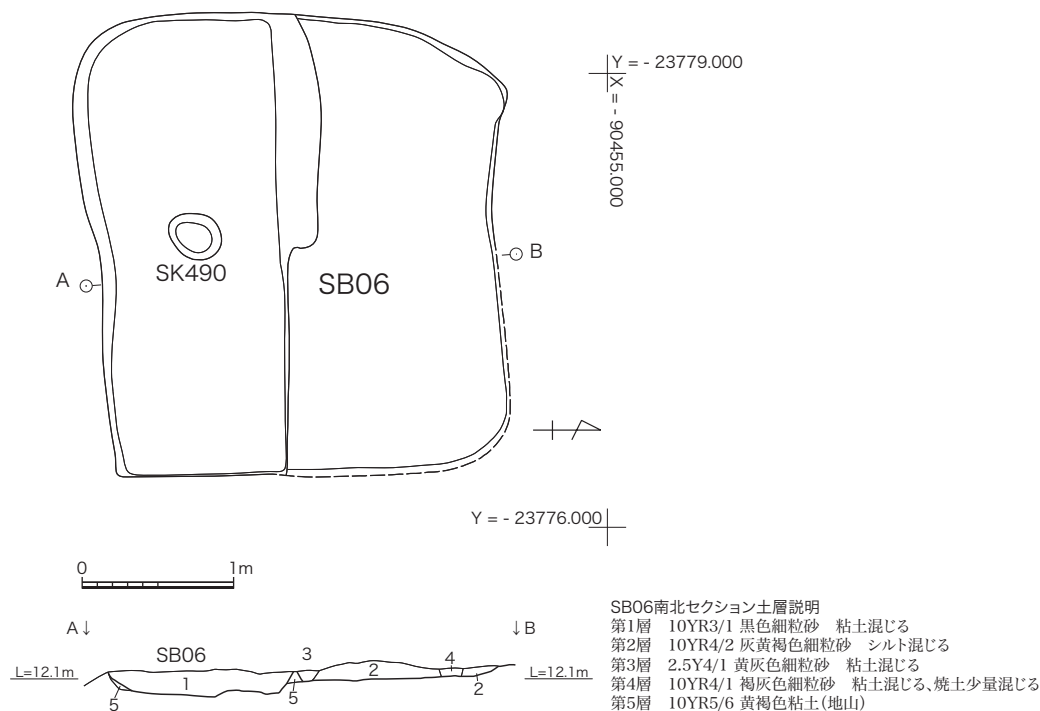
削されたものと断定することも難しい状態でもある。このため、建物跡の時期は柱穴内出土遺物と柱穴の切り合い関係など様々な情報から総合的に推測せざるを得ない。ここではA期に属すると推測された5棟の掘立柱建物跡を報告する。掘立柱建物跡の平面形は全て長方形を呈しており、庇などの付属施設を伴うものも存在する。以下、個別に説明を加えていく。

## SB10 (第 15 図)

調査区の中央部で確認された3間×2間の掘立柱建物跡である。建物規模は5.2m×3.7mを測る総柱建物で、北東隅の柱穴は調査区外に展開すると推測される。当初は埋土が灰黄褐色砂質土であるためB期の遺構と認識していたが、柱穴から出土した遺物を検討するとA期の遺構である可能性が高くなった。柱穴から岩崎17号窯式期の猿投窯系須恵器などが出土していることから、8世紀中頃に廃絶した掘立柱建物跡と推定される。

## SB11 (第 16 図)

調査区の北西部で確認された2間以上×2間の



第 14 図 竪穴建物跡SB06遺構図

名古屋城三の丸遺跡 VII

掘立柱建物跡で、西辺は調査区外に展開すると推測される。少なくとも東辺と南辺には1間分の庇が存在したと見られ、この部分も含めた建物規模は6.8m以上×6.2mである。身舎の規模は4.1m以上×4.4mである。柱穴から東山44号窯式期の猿投窯系須恵器などが出土していることから、7世紀中頃に廃絶した掘立柱建物跡と推定される。

SB12 (第16図)

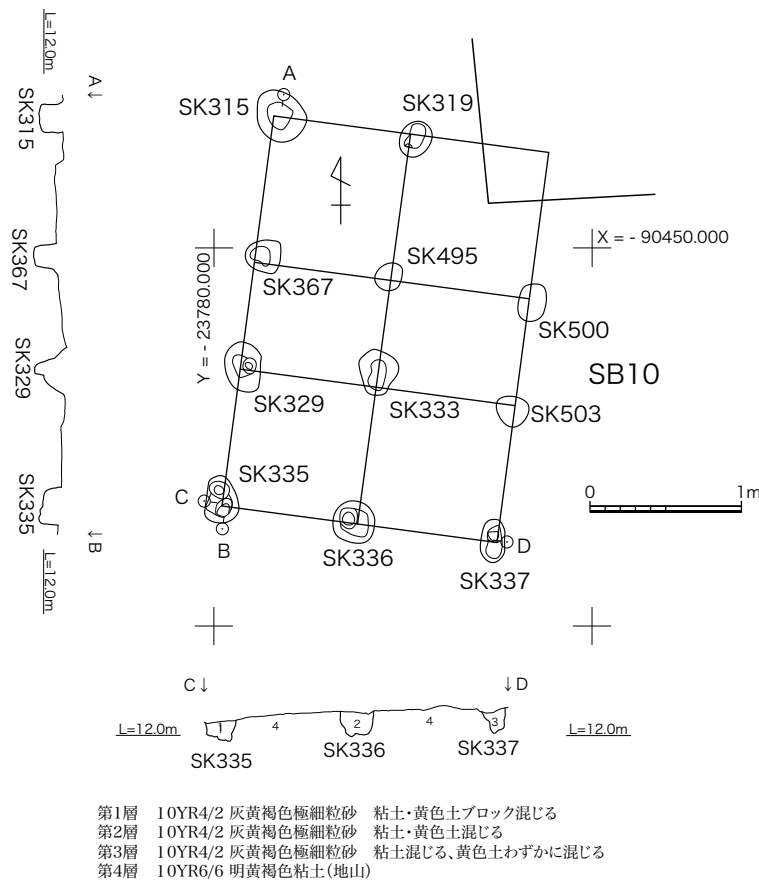
調査区の中央部で確認された2間×1間の掘立柱建物跡で、北東部が調査区外に展開する。建物規模は5.3m×2.5mで、SK322は東柱と推測される。柱穴から黒笹14号窯式期の猿投窯系灰釉陶器などが出土していることから、9世紀中頃に廃絶した掘立柱建物跡と推定される。

SB13 (第16図)

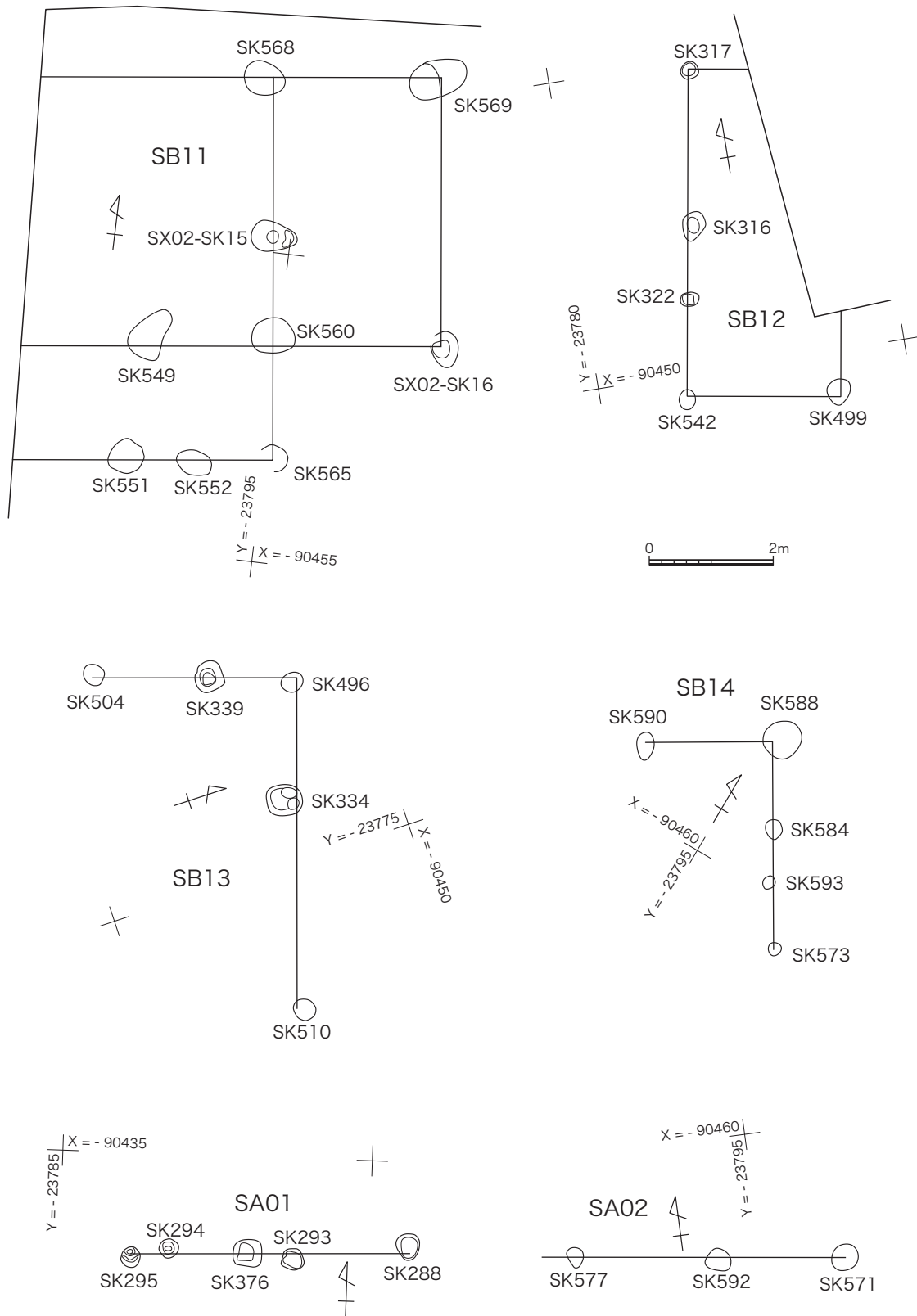
調査区の中央部で確認された2間×2間と推測される掘立柱建物跡で、西辺と南辺の柱穴は確認することができなかった。SB13が2間×2間とすれば建物規模は5.3m×3.3mである。柱穴から東山44号窯式期の猿投窯系須恵器などが出土していることから、7世紀中頃に廃絶した掘立柱建物跡と推定される。

SB14 (第16図)

調査区の南西部で確認された1間×3間と推測される掘立柱建物跡で、西辺と南辺の柱穴は発見されなかった。建物規模は3.3m×2.1mである。柱穴から高蔵寺2号窯式期の猿投窯系須恵器などが出土していることから、8世紀前半に廃絶した掘立柱建物跡と推定される。ただし状況から中世まで下る可能性も残されている。



第15図 掘立柱建物跡 SB10 遺構図



第 16 図 掘立柱建物跡 SB11 ~ 14・SA01 ~ 02 遺構図

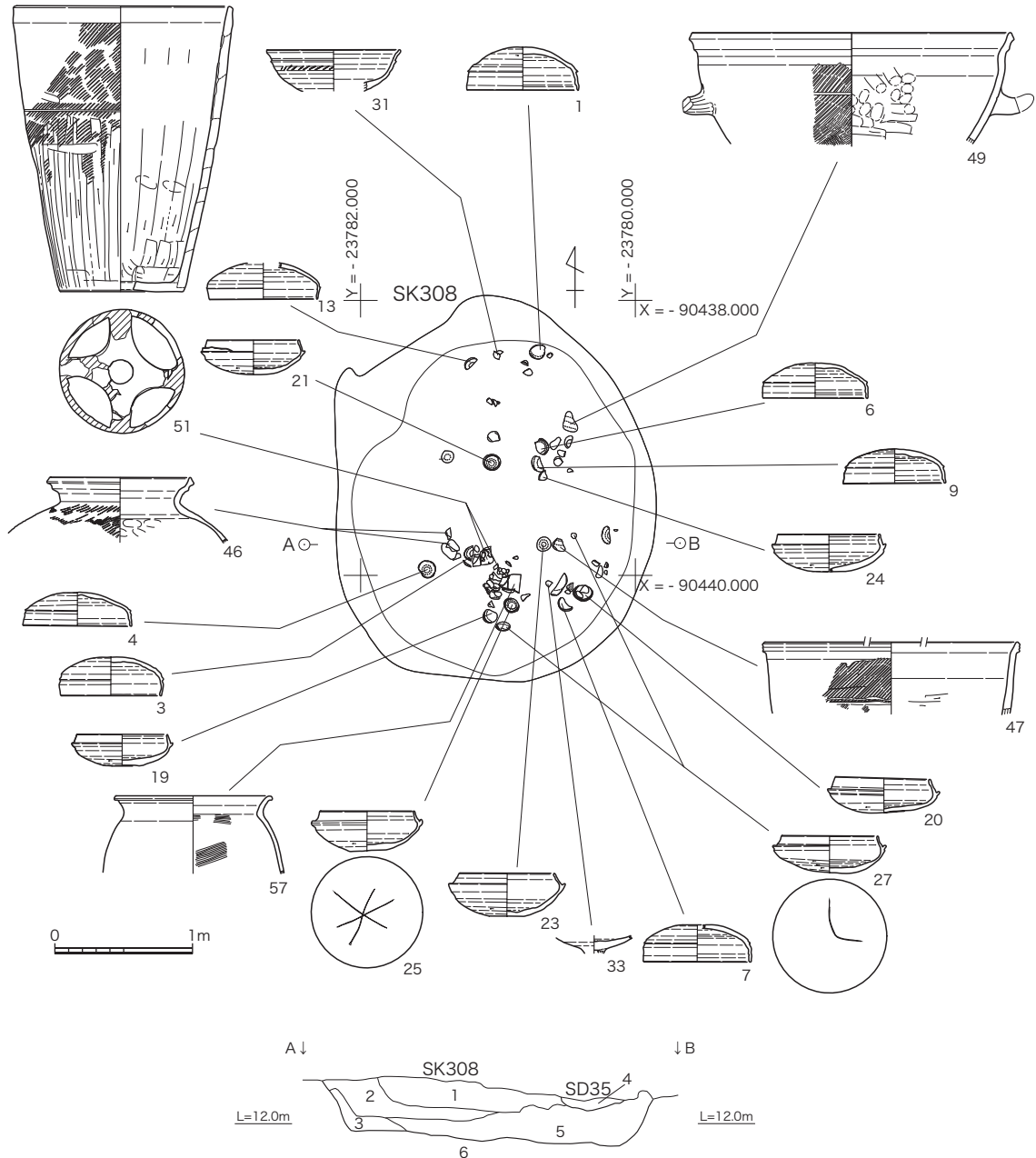
第4項 掘立柱柵列跡

今回の調査で確認された掘立柱柵列跡は全部で9棟存在する。掘立柱柵列跡は、掘立柱建物跡と同様、全てそれに伴う確実な床面を確認することができないし、多くは各柱穴が同一の遺構面から掘削されたものと断定することも難しい状態

ある。したがって、柵列跡の時期は柱穴内出土遺物と柱穴の切り合い関係など様々な情報から総合的に推測せざるを得ない。ここではA期に属すると推測された2基の掘立柱柵列跡を報告する。

SA01 (第16図)

調査区の北端部で確認された掘立柱柵列跡で、



- SB308東西セクション土層説明
- 第1層 7.5YR3/2 黒褐色細粒砂 焼土多く混じる、粘土・炭化物混じる
  - 第2層 7.5YR3/1 黒褐色細粒砂 粘土・焼土・炭化物混じる
  - 第3層 斑土(10YR5/4 にふい黄褐色+7.5YR3/1 黒褐色) 細粒砂 粘土・黒色土混じる、焼土わずかに混じる
  - 第4層 10YR3/3 暗褐色極細粒砂 粘土・黄色シルト・焼土・炭化物混じる
  - 第5層 7.5YR2/3 暗褐色極細粒砂 焼土多く混じる、炭化物・粘土・黒色土混じる
  - 第6層 10YR6/6 明黄褐色粘土(地山)

第17図 土坑 SK308 遺物出土状態図

2間分（4.6m）が確認された。SK294・SK293は東柱と推測される。柱穴から出土した遺物からは時期を詳細には特定できない。ただし位置がSD23と重複するためSD23とはあまり遡らない時期の遺構である可能性は考えられる。

#### SA02（第16図）

調査区の南西部で確認された掘立柱柵列跡で、2間分以上（4.4m以上）が確認された。柱穴から黒笹90号窯式期の猿投窯系灰釉陶器などが出土していることから、9世紀中頃に廃絶した掘立柱柵列跡と推定される。

### 第5項 土坑

今回の調査で確認されたA期に属すると推測される土坑は全部で数十基存在する。ここでは特徴的な土坑を報告する。

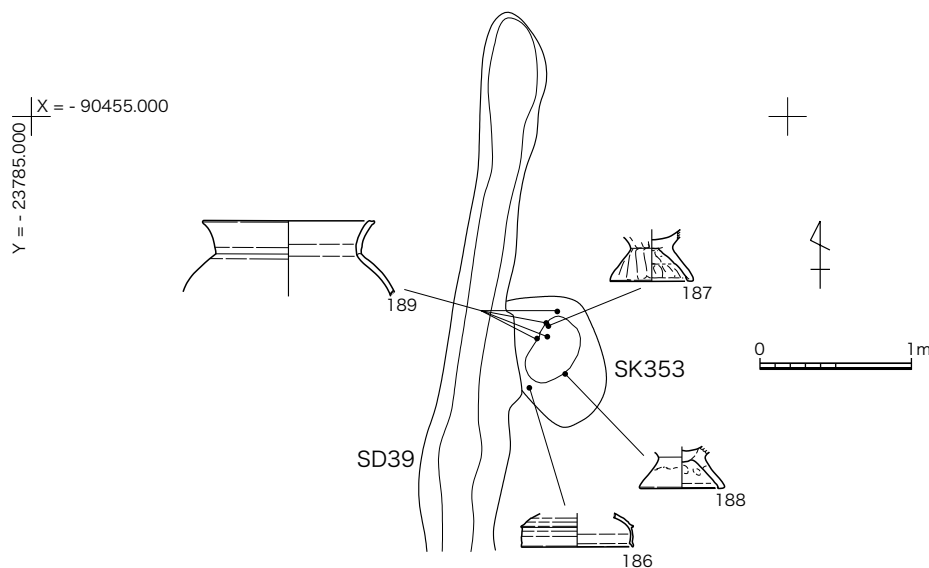
#### SK308（第17図）

調査区の北東部で確認された土坑で、規模は2.73m×2.32m、深さは最大で43cmを測る。

平面プランは少し歪な円形を呈し、断面形は楕円状となっている。SD35に切られている。土坑埋土から多量の須恵器などの遺物が出土した。これらの須恵器は東山44号窯式期から東山50号窯式期に属する資料が大半を占めていることから、7世紀中頃に多量の須恵器を投棄した土坑と推定される。発掘調査の過程で遺物の出土量が多く特殊な遺構と判断されたため、土層観察用ベルト部分についてのみ1mmメッシュの篩別作業を実施した。この結果土製白玉や石製白玉、土製勾玉などを検出することができた。本来はこのような微細な遺物がもう少し多く存在した可能性が考えられる。

#### SK353（第18図）

調査区の北東部で確認された0.88m×0.54mを測る土坑である。平面プランは歪な円形状を呈しており、SD39に切られている。土坑埋土から土師器台付瓶甕や須恵器杯蓋などの遺物が出土した。5世紀後半に比定される。



第18図 土坑SK353遺物出土状態図



## 第3節 B期の遺構

### 第1項 概要

B期は鎌倉時代から戦国時代まで（13世紀～16世紀）の時期である。この段階の遺構には掘立柱建物跡、井戸、溝、土坑などが存在する。この時期の遺構はさらに4段階に細分が可能である。

B-1期：13世紀中葉を中心とする段階。尾張型山茶碗第7～8型式などが出土する時期。

B-2期：14世紀から15世紀中頃までの段階。東濃型山茶碗大畑大洞窯式～脇之島窯式などが出土する時期。

B-3期：15世紀後半の段階。東濃型山茶碗生田窯式や古瀬戸後IV期古段階の瀬戸窯産陶器などが出土する時期。

B-4期：15世紀後葉から16世紀中頃までの段階。古瀬戸後IV期新段階から大窯第1段階までの瀬戸美濃窯産陶器などが出土する時期。

B-5期：16世紀中葉の段階。大窯第2段階の瀬戸美濃窯産陶器などが出土する時期。

以下、種別に遺構を記述する。

### 第2項 掘立柱建物跡

この段階に属すると推測される掘立柱建物跡は全部で6棟存在する。A期の遺構で記述したように、掘立柱建物跡は全て時期を特定することが難しい状態である。加えてこの段階に属すると考えられた掘立柱建物跡の柱穴は規模が小さく柱穴がきちんと並ばない傾向が見られる。建物の形状や規模はなお検討を要する状態といえる。以下、個別に説明を加えていく。

#### SB15（第19図）

調査区の南東端部で確認された2間以上×1間の掘立柱建物跡で、東部は調査区外に展開すると推測される。建物規模は4.2m以上×4.1mである。柱穴から尾張型山茶碗第6型式の碗などが出土していることから、B-1期（13世紀中頃）に廃

絶した掘立柱建物跡と推定される。

#### SB16（第19図）

調査区の中央部で確認された1間以上×1間の掘立柱建物跡で、北東部が調査区外に展開する。建物規模は4.3m以上×3.0mである。柱穴から山茶碗と思われる陶器片がわずかに出土していることから、古代末から中世に廃絶した掘立柱建物跡と推定される。

#### SB17（第19図）

調査区の中央部で確認された3間以上×1間と推測される掘立柱建物跡で、北東部が調査区外に展開する。建物規模は6.1m以上×3.0mである。柱穴から東濃型山茶碗の破片などが出土していることから、B-3～4期（15世紀から16世紀前葉）に廃絶した掘立柱建物跡と推定される。

#### SB18（第19図）

調査区の中央部東寄りで確認された1間×2間以上と推測される掘立柱建物跡で、北辺の柱穴は発見されなかった。建物規模は2.8m以上×2.2mである。柱穴から大窯前半の瀬戸美濃窯産陶器などが出土していることから、B-5期（16世紀中葉）に廃絶した掘立柱建物跡と推定される。

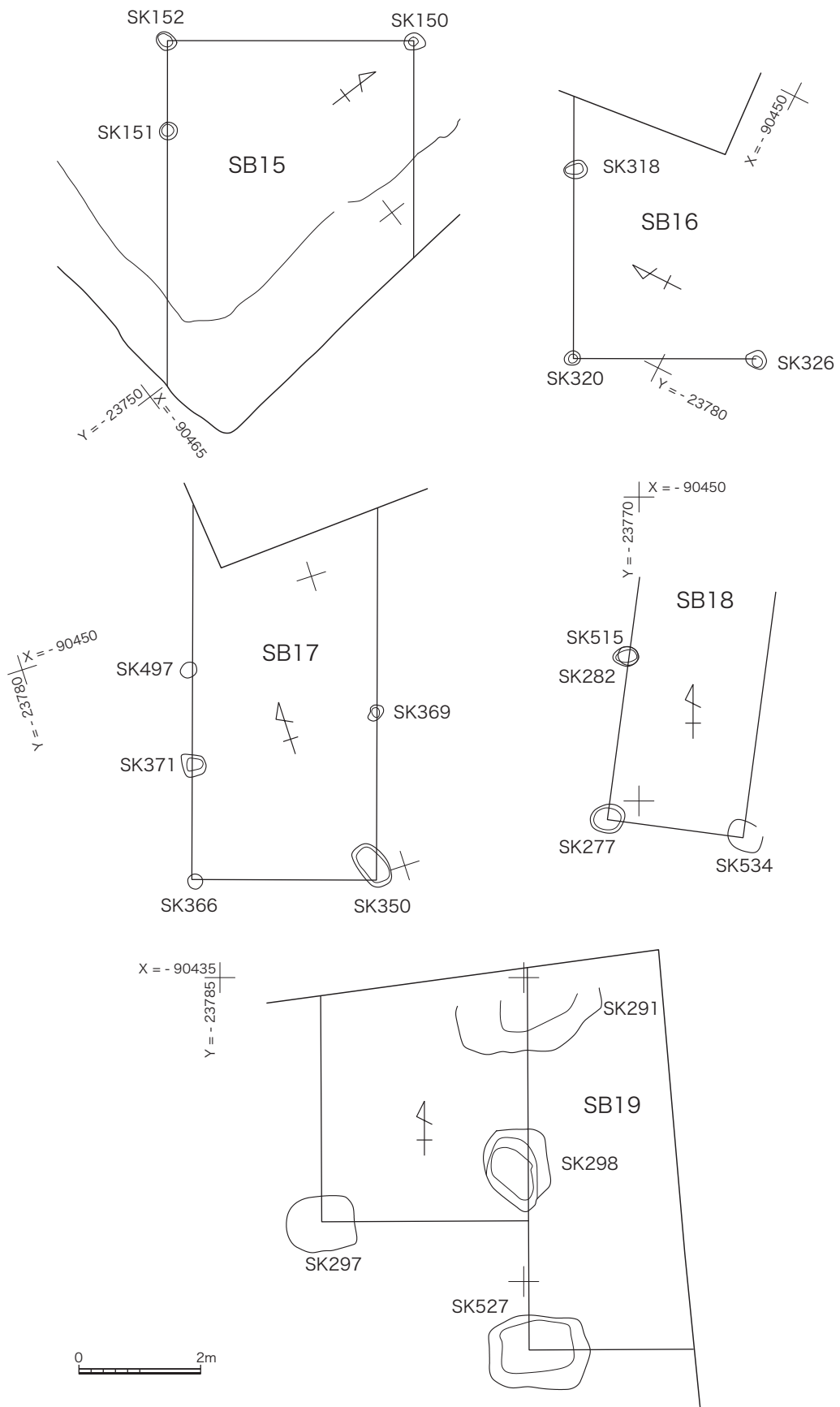
#### SB19（第19図）

調査区の北端部で確認された2間以上×1間以上と推測される掘立柱建物跡で、南西隅部のみが検出された。建物規模は6.4m以上×2.7m以上である。SB19はこの時期の他の掘立柱建物跡と比べて非常に柱穴の規模が大きい点の特徴である。SK297の存在から西側に庇が付く可能性も考えられる。柱穴から古瀬戸末段階の瀬戸美濃窯産陶器などが出土していることから、B-3期（15世紀後半）に廃絶した掘立柱建物跡と推定される。

#### SB20（第20図）

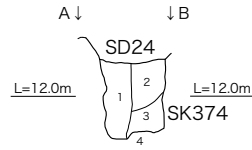
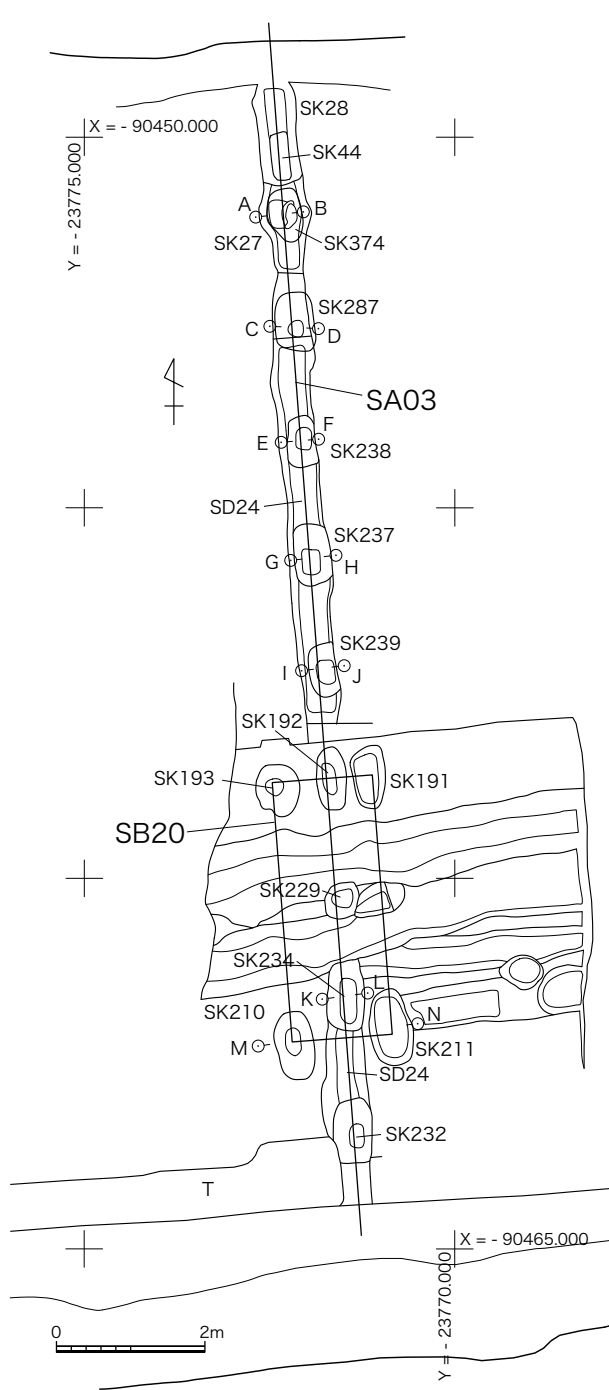
調査区の東半部で確認された1間×1間の掘立柱建物跡で、建物跡の中央部を南北にSA03およ



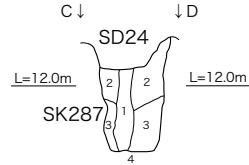


第 19 図 掘立柱建物跡 SB15 ~ 19 遺構図

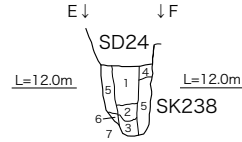
名古屋城三の丸遺跡 VII



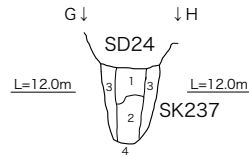
- 第1層 10YR3/1 黒褐色極細粒砂 白色シルトブロック混じる、黄色土わずかに混じる
- 第2層 10YR3/2 黒褐色細粒砂 白色シルトブロック混じる、黄色土多く混じる
- 第3層 10YR2/1 黒色極細粒砂 白色粘土混じる
- 第4層 10YR6/6 明黄褐色粘土(地山)



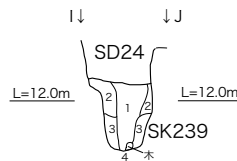
- 第1層 10YR3/2 黒褐色極細粒砂 粘土・黄色土混じる
- 第2層 10YR2/3 黒褐色細粒砂 粘土・黄色土混じる・白色土混じる
- 第3層 10YR2/2 黒褐色極細粒砂 粘土・白色土混じる
- 第4層 10YR6/6 明黄褐色粘土(地山)



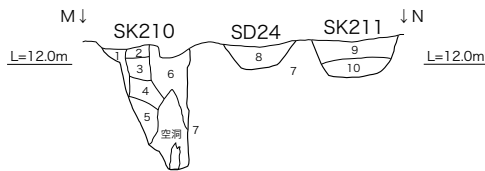
- 第1層 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂 粘土混じる
- 第2層 2.5Y5/3 黄褐色細粒砂 粘土・中粒砂混じる
- 第3層 10YR3/1 黒褐色粘土 細粒砂・シルト混じる
- 第4層 10YR3/2 黒褐色細粒砂 粘土・黄色土粒混じる
- 第5層 2.5Y3/1 黒褐色細粒砂 粘土・黄色土粒混じる
- 第6層 10YR2/1 黒色細粒砂 粘土多く混じる、シルト混じる
- 第7層 10YR6/6 明黄褐色粘土(地山)



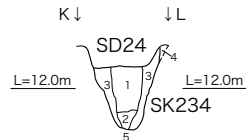
- 第1層 10YR4/1 褐灰色細粒砂 粘土・黄色土ブロック混じる
- 第2層 N3/ 暗灰色細粒砂 粘土・白色シルトブロック混じる
- 第3層 10YR3/2 黒褐色細粒砂 粘土混じる
- 第4層 10YR6/6 明黄褐色粘土(地山)



- 第1層 7.5YR4/1 褐灰色細粒砂 シルト混じる、木質わずかに残る
- 第2層 10YR3/3 暗褐色細粒砂 粘土混じる
- 第3層 N3/ 暗灰色粘土 シルト混じる
- 第4層 10YR 6/6 明黄褐色粘土(地山)



- 第1層 10YR3/1 黒褐色細粒砂 粘土混じる
- 第2層 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂 中粒砂混じる
- 第3層 10YR4/3 にぶい黄褐色細粒砂 黄色土ブロック・粘土混じる
- 第4層 10YR4/3 にぶい黄褐色細粒砂 黄色土ブロック・粘土混じる
- 第5層 10YR4/1 褐灰色細粒砂 黄色土粒混じる
- 第6層 2.5Y4/1 黄褐色細粒砂 粘土混じる
- 第7層 10YR5/6 黄褐色粘土(地山)
- 第8層 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂 シルト混じる
- 第9層 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂 粘土混じる、焼土少量混じる
- 第10層 10YR3/2 黒褐色極細粒砂 粘土混じる、焼土少量混じる



- 第1層 10YR4/2 灰黄褐色中粒砂 粘土・白色シルトブロック混じる
- 第2層 10YR3/2 黒褐色粘土 細粒砂混じる
- 第3層 10YR 3/1 黒褐色細粒砂 粘土・黄色土ブロック混じる
- 第4層 10YR 3/3 暗褐色細粒砂 粘土混じる
- 第5層 10YR6/6 明黄褐色粘土(地山)



第20図 掘立柱柵列跡 SA03 遺構図

びSD24が走っている。建物規模は3.5m×1.3mと小型である。柱穴の平面形は長楕円形を呈しその深さは約50cmと深い点の特徴である。SA03またはSD24に付随する建物跡と想定するならば柵または塀などの遮蔽施設に伴う門である可能性が高い。柱穴から古瀬戸末段階の瀬戸美濃窯産陶器などが出土したが、SA03・SD24と一連の遺構と考えるならばB-5期（16世紀中葉）に廃絶した掘立柱建物跡と推定される。

### 第3項 掘立柱柵列跡

今回の調査で確認された9棟の掘立柱柵列跡のうち、B期に属すると考えられるものは3棟である。掘立柱建物跡と同様、時期を断定することは難しいが、柱穴内出土遺物と柱穴の切り合い関係など様々な情報から推測した。ここでは個別に報告する。

#### SA03（第20図）

調査区の中央部で確認された掘立柱柵列跡で、10間分（15.2m）以上が確認された。柱穴はSD24内に平行して存在するため、いわゆる布掘り状の柵列と想定される。柱穴の平面形は隅丸長方形を呈し、埋土の断面観察から柱の痕跡を確認することができた。柱穴およびSD24から大窯第2段階に属する瀬戸美濃窯産陶器などが出土していることから、B-5期（16世紀中葉）に廃絶し

た掘立柱柵列跡と推定される。なお、柵列の南部でSB20が付随していると考えられる。

#### SA04（第21図）

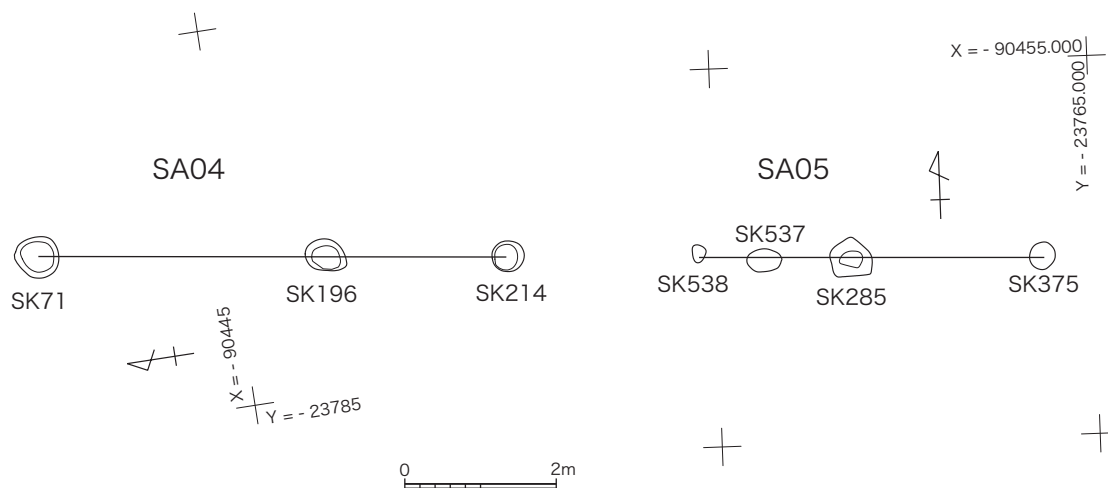
調査区の中央部北半で確認された掘立柱柵列跡で、2間分（6.2m）が確認された。柱穴から古瀬戸後期末段階に属する瀬戸美濃窯産陶器などが出土していることから、B-3期（15世紀後半）に廃絶した掘立柱柵列跡と推定される。

#### SA05（第21図）

調査区の東半部で確認された掘立柱柵列跡で、2間分（4.6m）が確認された。SK537は柄柱であった可能性が考えられる。SA04の南部には並行してSD17などが存在する。柱穴から大窯前半の瀬戸美濃窯産陶器などが出土していることから、B-5期（16世紀中葉）に廃絶した掘立柱柵列跡と推定される。

### 第4項 井戸

今回の調査で確認された地下水を汲み取るための掘り抜き井戸は全部で6基存在する。このうちB期に属する井戸は4基を数える。この時期の井戸は井戸側に石材や木材の構造物を持たないいわゆる素掘り井戸である。井戸の形状は、上位が広く下位が狭い逆円錐形で、深さは遺構検出面から2m以上を測る。井戸の完全掘削作業は危険を伴うため、遺物の大量出土を伴わない限り、あ



第21図 掘立柱柵列跡 SA04・05 遺構図

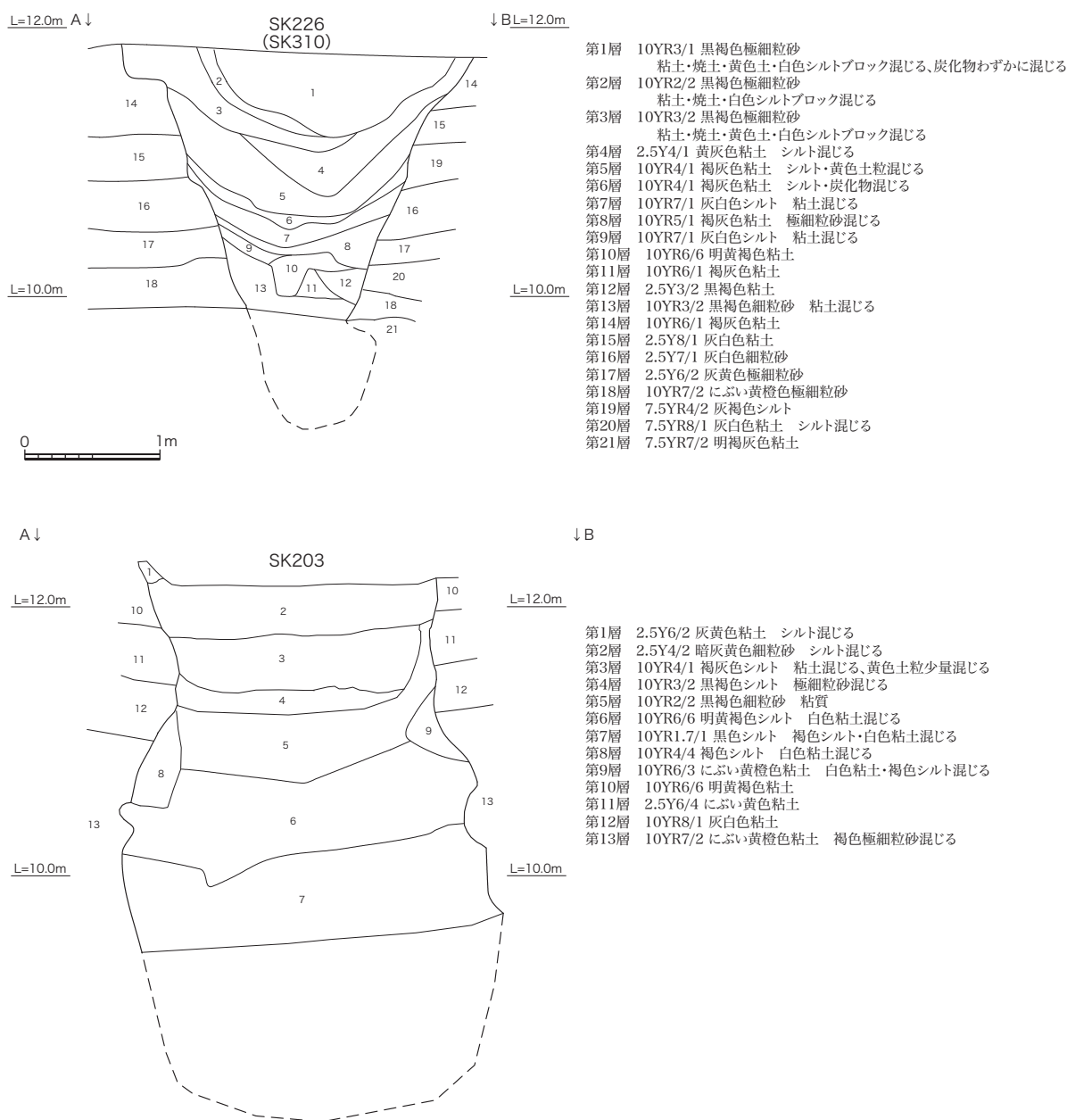
名古屋城三の丸遺跡 VII

る深度以上の調査は重機による断ち割り調査を実施した。しかしながら一部の井戸については最深部まで調査が達しなかったものもあることをあらかじめ断っておきたい。ここでは個別に事例を報告する。

SK226 (第22図)

調査区の南西部で確認された素掘り井戸である。平面形は2.98m × 2.59mの歪な楕円形で、深さは遺構検出面から最大で278cmを測る。標高9m強で湧水層に達したと推測され、断面形は

三角形状であるが、下部で一部の壁が崩落していた。埋土は黒褐色細粒砂に粘土やシルトが混入する斑土となっている。土層断面からみて、井戸廃絶に際して斑土を埋め立て、その後埋め立て土が陥没した際に再度埋め立て整地されたものと推測される。井戸埋土中位から数点の完形に近い状態の山茶碗などの遺物が出土している。これらは尾張型第7～8型式に属する山茶碗であることから、B-1期(13世紀中頃)に廃棄された井戸と推定される。なお、上層をSK226、下層を



第22図 井戸SK226・SK203土層断面図

SK310として掘削した。

#### SK203 (第22図)

調査区の中央部南寄りで確認された素掘り井戸で、平面形は2.27m×1.96mの楕円形となっている。最深部には確実に達していないが、深さは遺構検出面から264cmを測ると思われ、標高9m弱で湧水層に達したと推測される。断面形は箱形となっているが、下半部で一部の壁が崩落したために袋状に広がっていた。埋土は黒褐色細粒砂に粘土やシルトが混入する斑土となっている。土層断面からみて、井戸廃絶時に斑土を念入りに順に埋め立てて整地されたものと推測される。ただし、SK203の埋め立て土は後に陥没したと思われ、実際に江戸時代に構築された石組溝SD01がこの陥没によって一部が崩壊している。埋土から灰釉陶器や山茶碗の他に土師器内彎型羽釜などの遺物が出土していることから、B-2期(14世紀中頃)に廃棄された井戸と推定される。

#### SK147 (第23図)

調査区の東端部で検出された素掘り井戸である。平面形は3.91m×3.71mの楕円形で、深さは遺構検出面から最大で424cmを測ることから、標高8m付近で湧水層に達したと推測される。断面形は三角形状であるが、標高10m付近で土壁が崩落していた。埋土は黒褐色細粒砂に粘土やシルトが混入する斑土となっている。土層断面からみて、中位までは一気に斑土を埋積させ、上位を互層に埋め立てた状況を読み取れるが、それでも後世に陥没したと思われる。互層に堆積した埋土から多量の完形に近い状態の土師器皿などの遺物が出土しており、これらの遺物からB-4期(15世紀後葉)に廃棄された井戸と推定される。同じ器種の一括大量廃棄の状況から見て、井戸廃絶の際に行われた儀礼の痕跡であった可能性も考えられる。

#### SK146 (第24図)

調査区の北東端部で確認された素掘り井戸であ

る。平面形は3.43m×2.68mの歪な楕円形で、深さは遺構検出面から最大で470cmを測る。標高8m弱で湧水層に達したと推測され、断面形は三角形状である。埋土は黒褐色細粒砂に粘土やシルトが混入する斑土となっている。土層断面からみて、順次土砂を埋め立てて井戸を廃絶したものと推測される。井戸埋土から土師器皿や土師器内彎型羽釜などが出土していることから、B-3期(15世紀中頃)に廃棄された井戸と推定される。

### 第5項 溝

今回の調査で確認されたB期に属すると推測される溝は全部で13条確認された。ここでは主要なものについて報告する。

#### SD06

調査区の東部でほぼ南北方向に走る溝である。幅は最大で0.77m、深さは最深で0.23mを測るが、南端部は調査区外に伸び、北端部はSK01に切られて長さは特定できない。溝底はほぼ平坦となる箱堀状である。発掘調査時点では17世紀に属すると考えていたが、出土遺物の検討からみてそこまで下らないと思われる。SD17を切ることから、現状ではB-5期(16世紀中葉)に位置づけておきたい。

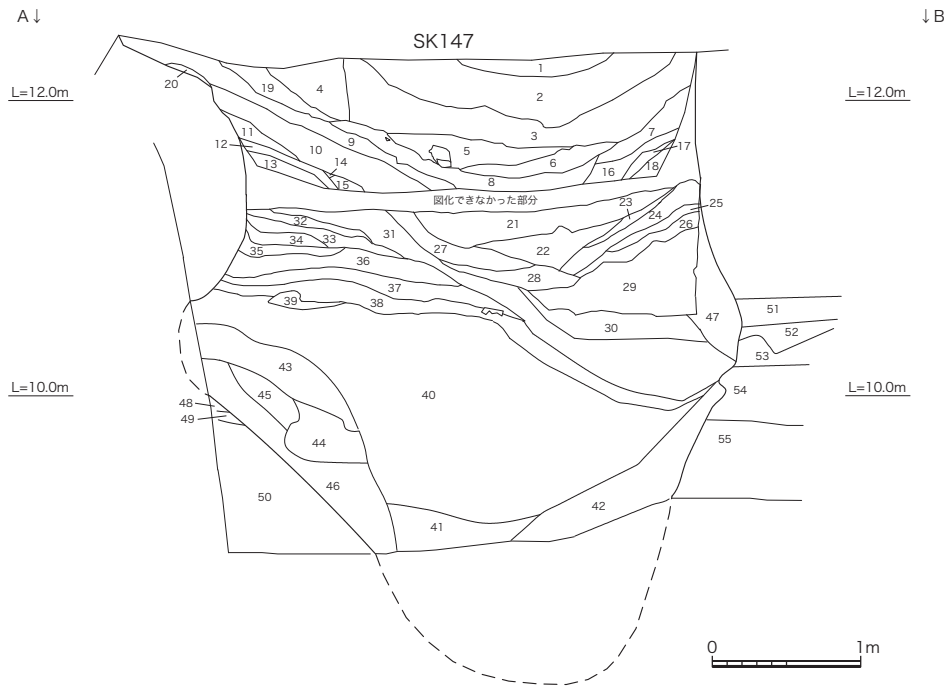
#### SD17 (第25図)

調査区の南東部でほぼ東西方向に走る溝で、幅は最大で1.72m、深さは最深で1.15mを測る。東端部は調査区外に伸びるが、西端部はSK185に大きく切られその行方は特定できない。おそらくSD25に継続していくものと思われる。断面形が上位は挿鉢状、下位は箱形状となっている。少なくとも暗褐色細粒砂層の上位から掘り込まれたことが確認され、平行して走るSD18を切っている。出土遺物からB-4期(15世紀後葉～16世紀前葉)に属するだろう。

#### SD18 (第25図)

調査区の南東部でほぼ東西方向に走る溝で、幅

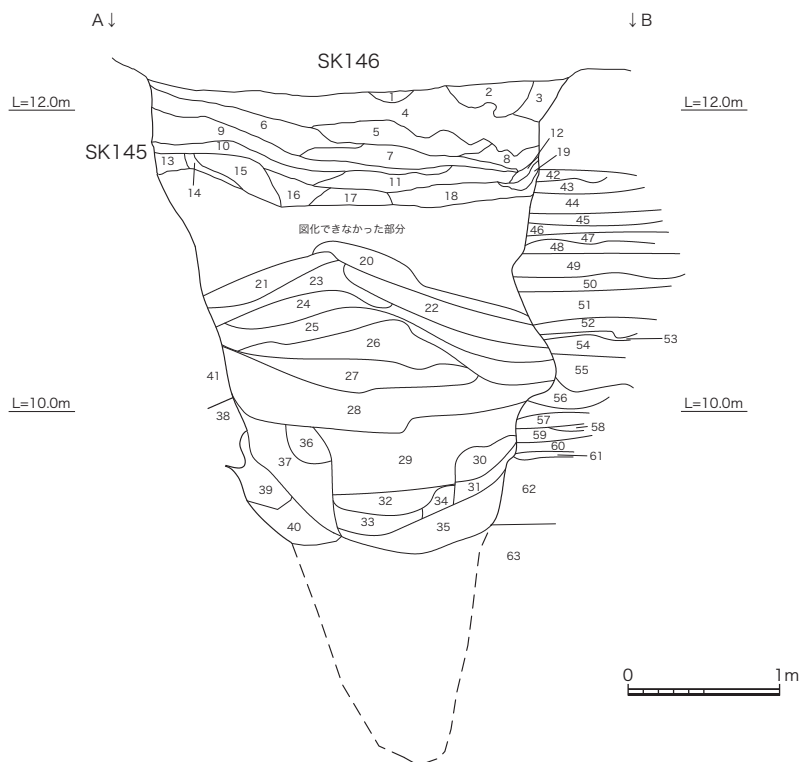
名古屋城三の丸遺跡 VII



- 第1層 7.5Y4/1 灰色細粒砂 粘土混じる
- 第2層 2.5Y3/1 黒褐色細粒砂 シルト混じる、焼土少量混じる
- 第3層 10YR2/2 黒褐色細粒砂 粘土混じる、炭化物・焼土少量混じる
- 第4層 10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂 浅黄色の土粒多く混じる、粘土・礫混じる、炭化物わずかに混じる
- 第5層 5Y3/1 オリーブ黒色極細粒砂 粘土混じる、浅黄色粘土ブロック大量に混じる
- 第6層 10YR3/1 黒褐色極細粒砂 シルト混じる、浅黄色粘土ブロック若干混じる、炭化物少量混じる
- 第7層 2.5Y4/2 暗灰黄色細粒砂 粘土混じる、浅黄色土粒若干混じる
- 第8層 7.5YR3/1 黒褐色粘土 細粒砂混じる、浅黄色粘土ブロック大量に混じる
- 第9層 7.5YR2/2 黒褐色粘土 細粒砂混じる、浅黄色土粒若干混じる、焼土少量混じる
- 第10層 10YR3/1 黒褐色粘土 細粒砂混じる、浅黄色土粒大量に混じる、焼土若干混じる
- 第11層 10YR2/1 黒色粘土 細粒砂・焼土混じる
- 第12層 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘土 細粒砂混じる、灰黄色粘土粒大量に混じる
- 第13層 2.5Y2/1 黒色粘土 細粒砂混じる、黄色粘土ブロック若干混じる
- 第14層 10YR2/1 黒色粘土 細粒砂混じる
- 第15層 10YR2/1 黒色粘土 細粒砂混じる
- 第16層 2.5Y2/1 黒色粘土 細粒砂混じる、焼土わずかに混じる
- 第17層 2.5Y5/2 暗灰黄色細粒砂 粘土混じる
- 第18層 2.5Y3/1 黒褐色粘土 細粒砂混じる
- 第19層 2.5Y4/1 黄灰色細粒砂 粘土混じる、浅黄色粘土粒若干混じる
- 第20層 10YR2/1 黒色細粒砂 粘土混じる、焼土少量混じる
- 第21層 10YR2/2 黒褐色細粒砂 粘土・白色シルトブロック混じる、酸化部分(赤褐色)有り
- 第22層 10YR5/2 灰黄褐色細粒砂 粘土・黄色土ブロック混じる、酸化部分(赤褐色)有り
- 第23層 10YR5/4 にぶい黄褐色細粒砂 粘土混じる、酸化部分(赤褐色)有り
- 第24層 10YR2/1 黒色極細粒砂 粘土混じる、黄色土ブロック多く混じる、酸化部分(赤褐色)有り
- 第25層 10YR5/4 にぶい黄褐色細粒砂 粘土混じる、黒色土混じる
- 第26層 10YR2/1 黒色極細粒砂 粘土・黄色土ブロック・焼土混じる、酸化部分(赤褐色)有り
- 第27層 10YR6/2 灰黄褐色細粒砂 白色シルトブロック多く混じる、黄色シルトブロック・粘土混じる
- 第28層 斑土(10YR7/2 にぶい黄褐色粘土 + 10YR4/1 褐灰色細粒砂) 粘土混じる
- 第29層 斑土(10YR5/2 灰黄褐色シルト + 5Y8/2 灰白色シルト) 黒色土ブロック混じる
- 第30層 N3/ 暗灰色粘土 シルトブロック混じる
- 第31層 10YR3/2 黒褐色細粒砂 黄色・白色シルトブロック・焼土・粘土混じる
- 第32層 10YR2/2 黒褐色細粒砂 白色シルトブロック多く混じる、焼土・粘土混じる
- 第33層 10YR3/2 黒褐色細粒砂 白色シルトブロック・黄色土混じる、焼土わずかに混じる
- 第34層 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂 白色シルトブロック多く混じる、黄色シルトブロック・炭化物混じる
- 第35層 10YR3/2 黒褐色細粒砂 黄色土・粘土混じる、焼土わずかに混じる
- 第36層 斑土(10YR8/1 灰白色 + 10YR2/2 黒褐色 + 10YR6/1 褐灰色)極細粒砂 黄色土わずかに混じる
- 第37層 10YR3/2 黒褐色細粒砂 白色シルトブロック多く混じる、黒色土・黄色土混じる、わずかに焼土混じる
- 第38層 5YR3/1 黒褐色粘土 細粒砂混じる
- 第39層 10YR2/1 黒色極細粒砂 粘土・黄色土ブロック・焼土混じる
- 第40層 10YR6/3 にぶい黄褐色粘土 砂粒混じる
- 第41層 10YR3/2 黒褐色粘土
- 第42層 2.5Y5/3 黄褐色粘土
- 第43層 斑土(10YR 4/1 褐灰色粘土 + 10YR7/6 明黄褐色粘土) 砂粒混じる
- 第44層 2.5Y6/4 にぶい黄色粘土
- 第45層 10YR6/1 褐灰色シルト
- 第46層 2.5Y6/2 灰黄色粘土 細粒砂混じる
- 第47層 2.5Y8/1 灰白色シルト
- 第48層 7.5Y7/1 灰白色シルト
- 第49層 7.5Y7/3 浅黄色シルト
- 第50層 10YR6/1 褐灰色シルト
- 第51層 7.5Y7/2 灰白色シルト
- 第52層 7.5Y6/1 灰色極細粒砂
- 第53層 7.5Y8/2 灰白色シルト 粘土混じる
- 第54層 10YR7/1 灰白色シルト
- 第55層 7.5Y8/1 灰白色粘土

第 23 図 井戸 SK147 土層断面図



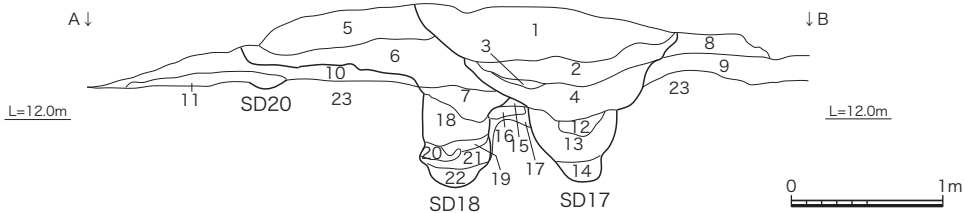
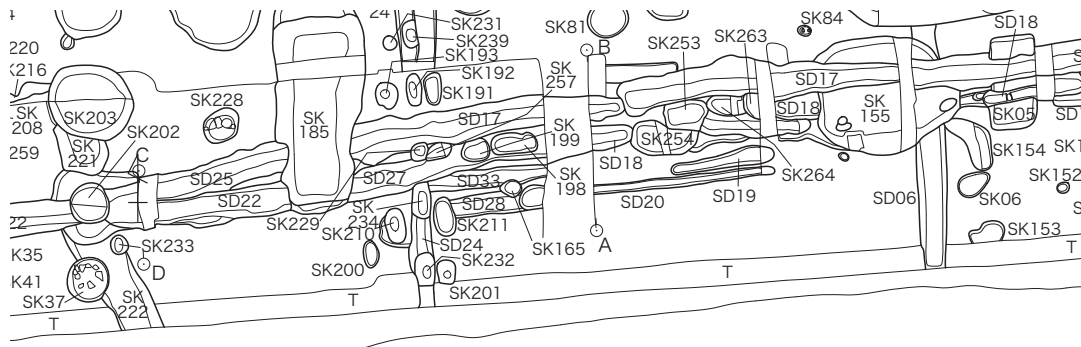


- |      |  |  |
|------|--|--|
| 第1層  | 斑土(5YR4/2 灰褐色細粒砂 + 7.5YR2/1 黒色極細粒砂)白色シルト 黄色土粒少量混じる                 |  |
| 第2層  | 斑土(10YR3/2 黒褐色極細粒砂 + 10YR2/1 黒色極細粒砂)白色シルトブロック混じる、粘土少し混じる           |  |
| 第3層  | 10YR5/6 黄褐色細粒砂 粘土混じる   |  |
| 第4層  | 斑土(2.5Y6/3 にぶい黄色 + 10YR4/3 にぶい黄褐色)シルト 粘土・炭化物少し混じる、白色シルトブロック多く混じる   |  |
| 第5層  | 斑土(10YR3/2 黒褐色極細粒砂 + 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト) 粘土・炭化物少し混じる、白色シルトブロック多く混じる |  |
| 第6層  | 7.5YR3/2 黒褐色極細粒砂 黄色土多く混じる、白色シルトブロック少量混じる                           |  |
| 第7層  | 10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂 粘土多く混じる、白色シルト・黄色土・焼土混じる                         |  |
| 第8層  | 10YR3/2 黒褐色極細粒砂 粘土・シルト混じる  |  |
| 第9層  | 7.5YR4/2 灰褐色極細粒砂 粘土混じる、茶色シルト少し混じる、炭化物多く混じる                         |  |
| 第10層 | 7.5YR3/2 黒褐色極細粒砂 灰色粘土ブロック・炭化物少し混じる、黄色土多く混じる、粘土混じる                  |  |
| 第11層 | 7.5YR3/2 黒褐色極細粒砂 シルト・粘土・炭化物多く混じる                                   |  |
| 第12層 | 7.5YR5/3 にぶい褐色シルト 粘土多く混じる  |  |
| 第13層 | 10YR3/3 暗褐色極細粒砂  |  |
| 第14層 | 5YR2/1 黒褐色極細粒砂 粘土混じる   |  |
| 第15層 | 5YR3/2 暗赤褐色極細粒砂 白色シルト多く混じる   |  |
| 第16層 | 7.5YR4/2 灰褐色極細粒砂 シルト混じる、粘土少し混じる                                    |  |
| 第17層 | 10YR4/2 灰黄褐色シルト 粘土混じる、炭化物非常に多く混じる                                  |  |
| 第18層 | 7.5YR2/3 極暗褐色極細粒砂 粘土やや多く混じる、黄色土・焼土混じる                              |  |
| 第19層 | 斑土(2.5Y6/6 明黄褐色極細粒砂 + 10YR3/2 黒褐色極細粒砂) 粘土・シルト混じる                   |  |
| 第20層 | 10YR8/1 灰白色細粒砂 シルト混じる  |  |
| 第21層 | N3/ 暗灰色細粒砂 粘土混じる   |  |
| 第22層 | N4/ 灰色細粒砂 粘土混じる  |  |
| 第23層 | 2.5Y4/1 黄灰色細粒砂 粘土・白色シルトブロック混じる                                     |  |
| 第24層 | 2.5Y6/1 黄灰色細粒砂 シルトブロック混じる  |  |
| 第25層 | 2.5Y5/4 黄褐色粘土 細粒砂混じる   |  |
| 第26層 | 7.5YR4/1 褐灰色細粒砂 粘土混じる  |  |
| 第27層 | N3/ 暗灰色細粒砂 粘土混じる   |  |
| 第28層 | 2.5Y5/3 黄褐色細粒砂 シルト混じる  |  |
| 第29層 | 10YR5/3 にぶい黄褐色細粒砂 シルト混じる   |  |
| 第30層 | 10YR4/1 褐灰色粘土  |  |
| 第31層 | 斑土(10YR4/1 褐灰色粘土 + 5Y6/2 灰オリブ色粘土)                                  |  |
| 第32層 | 斑土(10YR4/1 褐灰色粘土 + 5Y6/2 灰オリブ色粘土)                                  |  |
| 第33層 | 斑土(10YR4/1 褐灰色粘土 + 5Y6/2 灰オリブ色粘土)                                  |  |
| 第34層 | 斑土(10YR4/1 褐灰色粘土 + 5Y6/2 灰オリブ色粘土)                                  |  |
| 第35層 | 斑土(5Y7/1 灰白色シルト + 5Y6/2 灰オリブ色細粒砂)粘土混じる                             |  |
|      |  | 第36層 10YR8/1 灰白色シルト                                    |
|      |  | 第37層 10YR5/2 灰黄褐色シルト                                   |
|      |  | 第38層 7.5YR6/1 褐灰色シルト                                   |
|      |  | 第39層 10YR6/2 灰黄褐色シルト                                   |
|      |  | 第40層 5Y6/1 灰色シルト                                       |
|      |  | 第41層 斑土(2.5Y4/4 オリブ褐色 + 2.5Y3/1 黒褐色)粘土<br>細粒砂・白色シルト混じる |
|      |  | 第42層 2.5Y5/4 黄褐色極細粒砂                                   |
|      |  | 第43層 2.5Y5/2 暗灰黄色極細粒砂                                  |
|      |  | 第44層 2.5Y7/1 灰白色シルト                                    |
|      |  | 第45層 10YR5/2 灰黄褐色極細粒砂                                  |
|      |  | 第46層 10YR4/1 褐灰色シルト                                    |
|      |  | 第47層 10YR8/1 灰白色シルト                                    |
|      |  | 第48層 10YR7/1 灰白色シルト                                    |
|      |  | 第49層 10YR5/2 灰黄褐色シルト                                   |
|      |  | 第50層 10YR8/1 灰白色極細粒砂                                   |
|      |  | 第51層 10YR4/1 褐灰色極細粒砂                                   |
|      |  | 第52層 10YR6/1 褐灰色極細粒砂                                   |
|      |  | 第53層 10YR7/1 灰白色極細粒砂                                   |
|      |  | 第54層 10YR6/1 褐灰色極細粒砂                                   |
|      |  | 第55層 10YR5/1 褐灰色シルト                                    |
|      |  | 第56層 7.5YR6/1 褐灰色シルト                                   |
|      |  | 第57層 2.5Y6/1 黄灰色シルト                                    |
|      |  | 第58層 2.5Y5/2 暗灰黄色細粒砂                                   |
|      |  | 第59層 2.5Y7/1 灰白色細粒砂                                    |
|      |  | 第60層 2.5Y6/1 黄灰色細粒砂                                    |
|      |  | 第61層 2.5Y8/1 灰白色細粒砂                                    |
|      |  | 第62層 2.5Y7/1 灰白色シルト                                    |
|      |  | 第63層 10YR7/1 灰白色極細粒砂                                   |

第 24 図 井戸 SK146 土層断面図

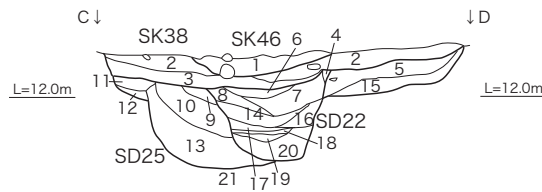


名古屋城三の丸遺跡 VII



SD17,18南北セクション土層説明

- 第1層 2.5Y5/2 暗褐色細粒砂 中粒砂・白色シルトブロック混じる、礫少量混じる
- 第2層 10YR5/3 にぶい黄褐色極細粒砂
- 第3層 10YR6/2 灰黄褐色極細粒砂
- 第4層 10YR4/3 にぶい黄褐色細粒砂 シルト・粘土混じる、焼土少量混じる
- 第5層 10YR5/1 褐灰色極細粒砂 白色砂混じる
- 第6層 7.5YR3/4 暗褐色極細粒砂 焼土若干混じる
- 第7層 7.5YR3/3 暗褐色極細粒砂 粘土混じる
- 第8層 10YR4/6 暗褐色極細粒砂 粘土・黒色土ブロック混じる
- 第9層 斑土(7.5YR4/4 褐色極細粒砂 + 7.5YR2/1 黒色極細粒砂)
- 第10層 斑土(7.5YR3/4 暗褐色極細粒砂 + 7.5YR2/3 暗褐色極細粒砂) 粘土・黄色土ブロック混じる、焼土若干混じる
- 第11層 斑土(10YR5/6 黄褐色極細粒砂 + 7.5YR2/1 黒色極細粒砂) 粘土混じる
- 第12層 7.5YR3/2 黒褐色極細粒砂 粘土混じる、焼土若干混じる
- 第13層 7.5YR3/1 黒褐色極細粒砂 焼土若干混じる
- 第14層 7.5YR2/2 黒褐色極細粒砂 黄色土ブロック多く混じる
- 第15層 10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂 粘土混じる
- 第16層 10YR2/3 黒褐色極細粒砂 黄色土ブロック多く混じる。
- 第17層 斑土(2.5Y7/8 黄色極細粒砂 + 7.5YR3/2 黒褐色極細粒砂) 粘土混じる
- 第18層 7.5YR3/2 黒褐色極細粒砂 粘土混じる
- 第19層 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色極細粒砂 粘土混じる、黄色土わずかに混じる
- 第20層 斑土(10YR3/2 黒褐色極細粒砂 + 2.5Y7/8 黄色極細粒砂) 粘土混じる
- 第21層 10YR3/2 黒褐色極細粒砂 粘土混じる、焼土若干混じる
- 第22層 10YR2/3 黒褐色極細粒砂 粘土混じる・白色土ブロック・黄色土ブロック混じる
- 第23層 10YR5/6 黄褐色粘土(地山)



SD22,25,SK38,46南北セクション土層説明

- 第1層 10YR5/2 黄褐色細粒砂 焼土多く混じる、中粒砂・粗粒砂・礫・粘土混じる。
- 第2層 2.5Y5/3 黄褐色極細粒砂 中粒砂・粗粒砂・礫・焼土・褐色土混じる、白色シルト多く混じる
- 第3層 10YR3/3 暗褐色細粒砂 焼土混じる、炭水化物・粘土少し混じる
- 第4層 10YR4/2 黒褐色細粒砂 焼土多く混じる、粘土少し混じる
- 第5層 10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂 焼土多く混じる、黄色土粒混じる、白色シルトブロック少量混じる
- 第6層 10YR5/2 灰黄褐色極細粒砂 シルト・焼土・粘土少し混じる
- 第7層 10YR3/2 黒褐色極細粒砂 シルト・粘土・炭水化物少し混じる、焼土混じる
- 第8層 10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂 焼土多く混じる
- 第9層 10YR3/3 暗褐色極細粒砂 焼土・粘土混じる
- 第10層 10YR3/3 暗褐色極細粒砂 焼土・粘土・黄色シルトブロック混じる
- 第11層 10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂
- 第12層 10YR3/2 黒褐色極細粒砂 粘土・黄色土粒混じる
- 第13層 7.5YR3/2 黒褐色極細粒砂 粘土やや多く混じる、焼土混じる
- 第14層 10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂 粘土・焼土少し混じる
- 第15層 7.5YR3/2 黒褐色極細粒砂 粘土・シルト少し混じる、焼土多く混じる
- 第16層 10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂 焼土混じる
- 第17層 10YR3/4 暗褐色極細粒砂 焼土・粘土混じる
- 第18層 10YR3/2 黒褐色シルト 焼土・粘土混じる
- 第19層 10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂 シルト・焼土・粘土混じる
- 第20層 10YR3/2 黒褐色極細粒砂 シルト・焼土・粘土混じる、白色シルトブロック少し混じる
- 第21層 10YR5/6 黄褐色粘土(地山)

第 25 図 溝 SD17・SD18・SD22・SD25 土層断面図

は最大で0.71m、深さは最深で0.89mを測る。東端部は調査区外に伸びるが、西端部は途中で収束する。SD27に継続していく可能性も考えられる。断面形が上位は楕円状、下位は箱形状となり、平行して走るSD17に切られている。出土遺物からみて、B-1期（13世紀中頃）に埋没した溝と推定される。

#### SD19・SD20（第25図）

調査区の南東部でほぼ東西方向に走る溝で、両者とも規模は小さく部分的に重複する。幅はSD19が53cm、SD20が27cm、深さはSD19が10cm、SD20が6cmを測る。出土遺物は少ないが、B-1期（13世紀？）と推定される。

#### SD24（第20図）

調査区の中央部でほぼ南北方向に走る溝である。幅は最大で0.51m、深さは最深で0.14mを測るが、両端部は調査区外に伸びて長さは特定できない。溝内に掘立柱柵列跡SA03が構築されている。SD17などを切ることから、B-5期（16世紀中葉）に位置づけられる。

#### SD25（第25図）

調査区の南部でほぼ東西方向に走る溝で、幅は最大で0.84m、深さは最深で0.52mを測る。東端部はSK185、西端部はSK202に切られその行方は特定できない。おそらく東側はSD17、西側は南に屈曲してSK222に継続していくものと思われる。この推測が正しければ、これらの溝群は東西30m以上、南北6m以上の区画を囲む溝と考えられる。断面形は丸底状となり、ほぼ平行して走っているSD22に切られている。黒褐色細粒砂層の斑土が堆積し、出土遺物からみてB-4期（16世紀前葉）に属すると推定される。

#### SD27

調査区の南部でほぼ東西方向に走る溝で、幅は最大で0.83m、深さは最深で0.37mを測る。東端部はSD18と同一と思われるが確定が難しい。また、西端部はSK185に大きく切られその行方

は特定できない。おそらくSD22に継続していくものと推測されるが、遺構の所属時期が合わない点が問題となっている。断面形は箱形で、出土遺物からみて、B-4期（15世紀後葉～16世紀中頃）に埋没した溝と推定される。

#### SD28・SD33

調査区の南部でほぼ東西方向に走る溝で、両者とも規模は小さく部分的に重複する。幅はSD28が0.53m、SD33が0.48m、深さはSD28が0.27m、SD33が0.11mを測る。出土遺物が少なく時期の特定が難しいが、B-1期（13世紀）と推定される。SD19・SD20の西側に所在することから、同一の溝であった可能性が考えられる。

#### SD29

調査区の中央部でほぼ南北方向に走る溝である。幅は最大で0.60m、深さは最深で0.20m、長さは4.68mを測る。やや蛇行しながら、SD36と平行している。出土遺物からみて、B-4期（15世紀後葉～16世紀中頃）に位置づけられる。

#### SD31

調査区の西部でほぼ南北方向に走る溝である。幅は最大で1.23m、深さは最深で0.74mを測る。北端はSX02によって切られ、南部は調査区外に伸びている。SD14などと平行している。出土遺物には若干江戸時代の遺物が含まれるが、南壁の土層断面観察などを検討した結果B期（おそらくB-5期（16世紀中葉））に位置づけられよう。

#### SD35

調査区の北部中央でほぼ南北方向に走る溝である。幅は最大で0.64m、深さは最深で0.16mを測るが、北端部はSK308に、南端部はSK94切られて長さは特定できない。SK94の南側に存在するSK327が溝の南端である可能性も残される。出土遺物からみて、B-3期（15世紀後半）と思われる。

#### SD36

調査区の北部中央ほぼ南北方向に走る溝で、幅

## 名古屋城三の丸遺跡 VII

は最大で0.40m、深さは最深で0.13mとなり、北端は調査区外に伸びる。やや蛇行しながら、SD33と平行している。出土遺物からみてB-4期(15世紀後葉～16世紀前葉)に位置づけられる。

### SD39

調査区の中央部でほぼ南北方向に走る溝である。幅は最大で0.97m、深さは最深で0.17m、長さは7.54mを測る。溝の両側には柱穴群(SK475・SK479・SK480・SK481・SK482・SK483)が伴っている。出土遺物からみて、B-4～5期(16世紀前半)に位置づけられる。

なお、SD33・SD35・SD36・SD39はその配置からみて、幅約2.5mの道路状遺構の側溝と考えることができる。この想定が正しければ、道路状遺構SF01は中央部でやや西側に湾曲してほぼ南北方向に走る道路であるといえよう。

## 第6項 土坑

今回の調査で確認されたB期に属すると推測される土坑は全部で数十基存在する。ここでは特徴的な土坑を報告する。

### SK155

調査区の東部中央で確認された土坑で、規模は3.23m×3.11m、深さは最大で58cmを測る。平面プランは楕円形を呈し、断面形は浅い皿状となっている。SD17・SD06などに切られている。土坑埋土から古瀬戸製品の他に大量の須恵器、灰釉陶器、山茶碗などの遺物が出土しており、土地改変に伴い集められた廃棄物をまとめて投棄されたものと想定される。遺構の埋没時期は、出土遺物の中における最新資料から見て、B-3期(15世紀後半)と考えられる。

### SK215

調査区の北東部で確認された土坑で、規模は1.55m×1.05m、深さは最大で35cmを測る。平面形はいびつで、断面形は皿状となっている。土坑埋土から多くの古瀬戸製品の他に須恵器、灰

釉陶器、山茶碗などの遺物が混在していた。陶器片がまとめて投棄されたものと想定される。遺構の埋没時期は、出土遺物の最新資料から見て、B-4期(15世紀後葉)と推測される。

### SK240

調査区の中央部に所在する土坑で、規模は3.07m×2.03m、深さは最大で32cmを測る。平面形は楕円形を呈し、断面形は丸底の皿状となっている。SD21に切られている。土坑埋土から古瀬戸製品の他に大量の須恵器、灰釉陶器、山茶碗などの遺物が出土しており、土地改変に伴い集められた廃棄物をまとめて投棄されたものと想定される。遺構の埋没時期は、出土遺物の最新資料から見て、B-4期(15世紀後葉)と考えられる。

### SK324

調査区の中央部で確認された土坑で、平面プランは規模が2.12m×0.82mを測る隅丸長方形を呈する。断面形は箱状で、他の土坑とは形状が異なる。土坑埋土から古瀬戸製品が含まれることから、B-3期(15世紀後半)に位置づけられる。

### SK330

調査区の中央部で検出された土坑で、規模は1.47m×0.86m、深さは最大で53cmを測る。平面プランは隅丸長方形を呈し、断面形は箱状となっている。土坑埋土から古瀬戸製品が出土していることから、B-3期(15世紀後半)に位置づけられる。SK324と同様の形状であり、両者とも墓坑である可能性も考えられる。

### SK556

調査区の北西部で確認された土坑で、規模は2.00m×1.33m、深さは最大で100cmを測る。平面プランは楕円形を呈し、断面形は挿鉢状となっている。SD12・SK557などに切られており、SK557と同一の遺構である可能性も残る。土坑埋土から尾張型山茶碗などの遺物が出土した。B-1期(13世紀)に位置づけられる。

## 第4節 C期の遺構

### 第1項 概要

C期は江戸時代を通じた段階（17世紀～19世紀中頃）であり、尾張藩徳川家の拠点である名古屋城が存続した時期である。この段階の遺構は掘立柱建物跡と礎石建物跡、井戸、溝、池、地下室、土坑などが存在する。この時期の遺構はさらに4段階に細分が可能である。

C-1期：17世紀前半。連房式登窯第1～2小期の瀬戸美濃窯産陶器などが出土する時期。名古屋城三の丸域全体で展開した武家屋敷が構築された段階である。

C-2期：17世紀後半。連房式登窯第3～4小期の瀬戸美濃窯産陶器などが出土する時期。武家屋敷が廃止され東御屋敷や御屋形が形成された段階に相当すると考えられる。この段階以降、C-4期までは屋敷割りの形状を変えつつも御屋形が継続して存在したものといえる。

C-3期：18世紀。連房式登窯第5～8小期の瀬戸美濃窯産陶器などが出土する時期。

C-4期：19世紀前半～中頃。連房式登窯第9～11小期の瀬戸美濃窯産陶器などが出土する時期。この段階の遺物出土量が少ないため、この時期に属する遺構はあまり多く確認できない。

以下、種別に遺構を記述する。

### 第2項 掘立柱建物跡

C期に属すると推測される掘立柱建物跡は全部で4棟存在する。これまで記述したように、掘立柱建物跡は全て時期を特定することが難しい。加えてこの段階では建物の平面プランが複雑に入り組む形状のものが出現すると考えられるため、建物構造を考察することも難しい。以下、個別に説明を加えていく。

#### SB21（第26図）

調査区の南部中央で確認された3間以上×1間

の掘立柱建物跡で、南部は調査区外に展開すると推測される。建物規模は9.2m以上×9.1mである。東辺の柱穴は北隅のみを確認したに過ぎず、建物と推定することには問題が多いが、ここでは柱穴をSK185の埋土中に見落とした可能性が考えられることから、このような形状で復元した。柱穴の出土遺物からC-2期（17世紀後半）に廃絶した掘立柱建物跡と推定される。

#### SB22（第27図）

調査区の東部で確認された3間以上×1間以上の掘立柱建物跡と推測される遺構である。東部と南部が調査区外に展開し、建物規模は10.5m以上×2.3m以上である。西辺南半部に庇が付いたものと想定される。柱穴から出土した陶器片などから、C-1期（17世紀前半）に廃絶した掘立柱建物跡と推定される。

#### SB23（第27図）

調査区の中央部で確認された3間×3間と推測される掘立柱建物跡で、西辺は柱穴が2間分しか残存しなかった。また南辺では両端部しか柱穴が確認できなかった。建物規模は5.7m×4.8mである。柱穴からわずかに出土した陶器破片などから、C-1期（17世紀前半）に廃絶した掘立柱建物跡と推定される。

#### SB24（第27図）

調査区の北東端部で確認された2間以上×2間以上と推測される掘立柱建物跡で、東部と北部は調査区外に展開すると推定される。柱穴の平面形は円形で、建物規模は5.9m以上×4.8m以上である。柱穴からわずかに出土した陶器破片などから、C-3期（18世紀前半）に廃絶した掘立柱建物跡と推定される。

### 第3項 掘立柱柵列跡

今回の調査で確認された9棟の掘立柱柵列跡

名古屋城三の丸遺跡 VII

のうち、C 期に属すると考えられるものは4棟である。掘立柱建物跡と同様、時期を断定することが難しいが、柱穴内出土遺物と柱穴の切り合い関係など様々な情報から推測した。ここでは個別に報告する。

SA06 (第 28 図)

調査区の北西部に所在する掘立柱柵列跡で、6間分(15.5m)以上が確認された。柱穴は南北に走る石組溝 SD03 と SK23 に平行して切られているため、石組溝 SD03 の前身の区画施設であった可能性が高い。柱穴の平面形はまちまちであるが、柱穴から出土する遺物から、C-2 期(17 世紀後半)に廃絶した掘立柱柵列跡と推定される。

SA07 (第 28 図)

調査区の南部西寄りで見出された掘立柱柵列跡で、2間分以上(3.5m)が確認された。SD12 のテラス状に掘削された西肩に設定されているこ

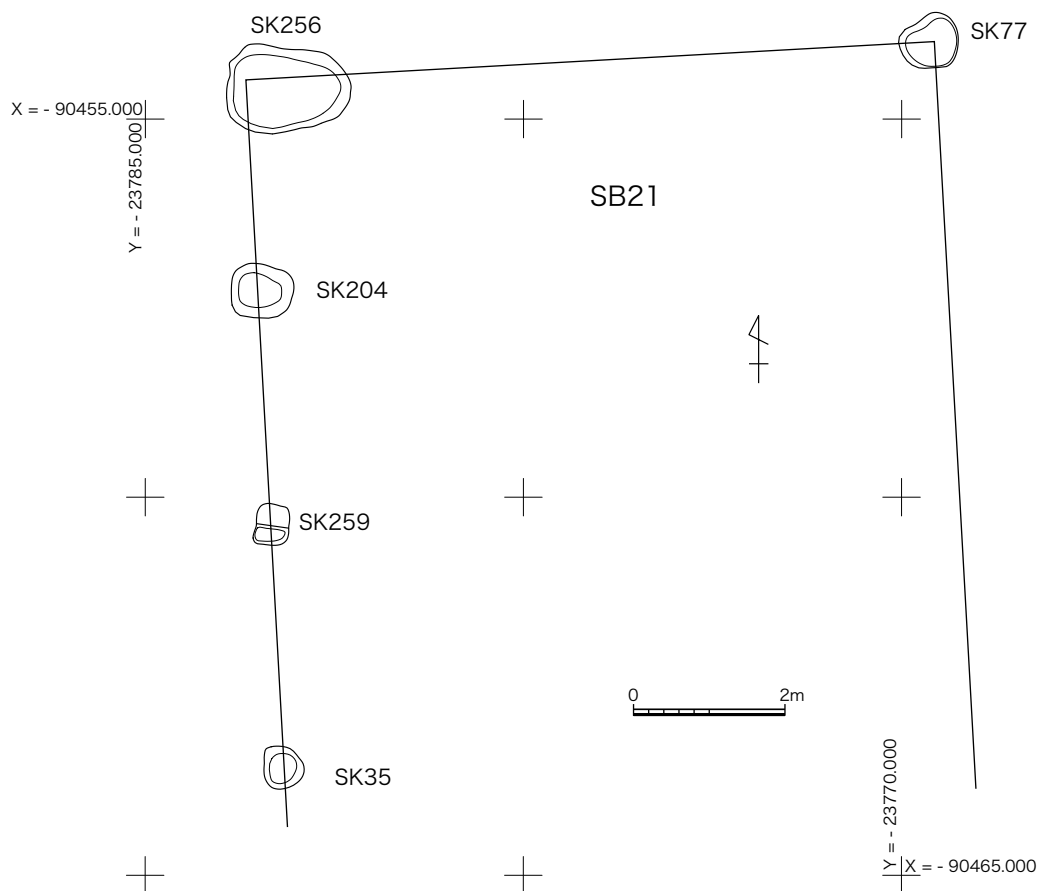
とから SD12 に付随する施設と考えることができる。柱穴および SD12 から出土した遺物から、C-1 ~ 2 期(17 世紀)に存在した掘立柱柵列跡と推定される。

SA08 (第 27 図)

調査区の北東端部に位置する掘立柱柵列跡で、ほぼ東西方向に2間分(4.2m)以上が確認された。柱穴の平面形は一辺が約1mの隅丸方形で規模が大きく、柱穴の南に補助的な土坑が付随する。北側に柱穴列が並び建物跡になる可能性も残される。柱穴から出土する遺物から、C-1 期(17 世紀前半)に属する掘立柱柵列跡と推定される。

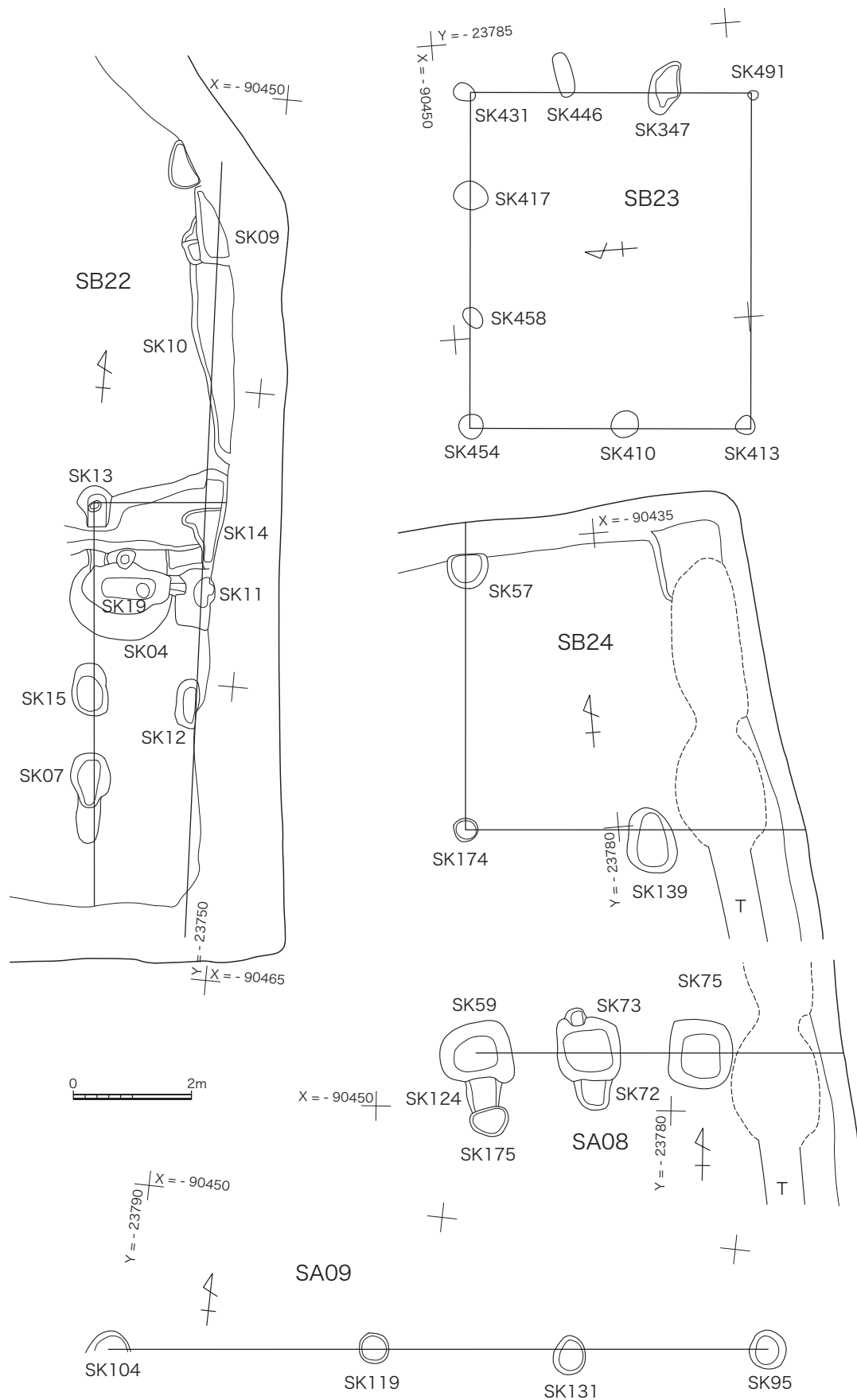
SA09 (第 27 図)

調査区の中央部で見出された東西方向に走る掘立柱柵列跡である。3間分(11.3m)が確認された。わずかに柱穴から出土した遺物から、C 期に属することは明らかであるが、詳細な時期は特定



第 26 図 掘立柱建物跡 SB21 遺構図

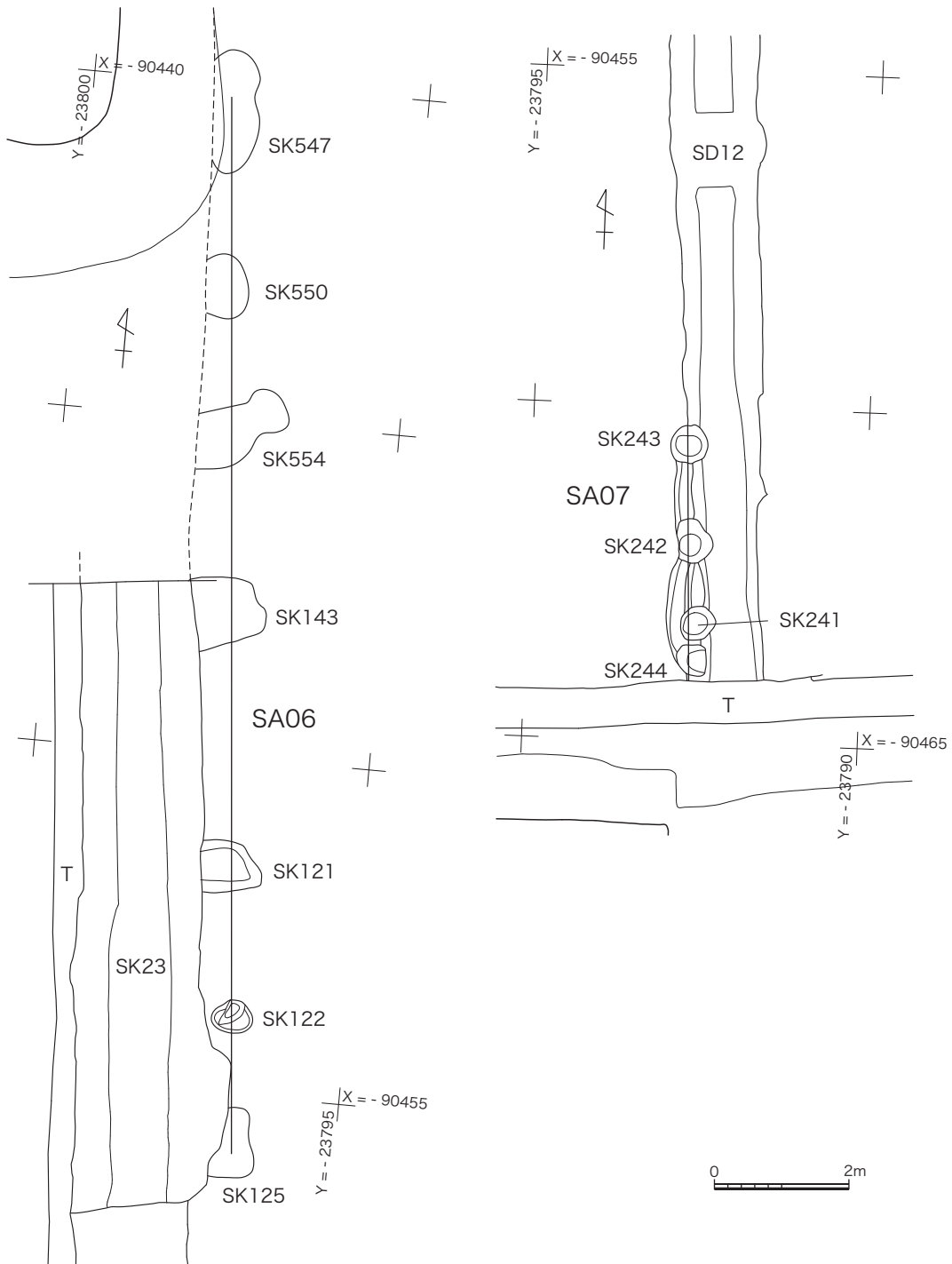




第 27 図 掘立柱建物跡 SB22 ~ 24 · SA08 ~ 09 遺構図

名古屋城三の丸遺跡 VII

できない。遺構の全体配置からみて後述する池状遺構の南部を区画する施設の可能性があることから、C-4期（19世紀前半）に存在した掘立柱柵列跡と想定しておきたい。



第 28 図 掘立柱柵列跡 SA06・07 遺構図



#### 第4項 井戸

この段階の掘り抜き井戸は全部で3基を数え、井戸側に石材や木材の構造物を持たないいわゆる素掘り井戸である。井戸の形状は垂直に掘り下げられた円筒形を呈しており、深さは遺構検出面から2m以上を測る。前述と同様、ある深度以上の調査は重機による断ち割り調査を実施した。ここでは個別に事例を報告する。

##### SK162・SK163 (第29図)

調査区の南西部で確認された素掘り井戸である。平面形は2.94m×2.92mのほぼ円形で、深さは遺構検出面から最大で411cmまで掘削したが、確実な最終底面までは達しなかった。標高8m弱で湧水層に達したと推測されよう。下部で一部の壁が崩落していた。埋土は黒褐色細粒砂に粘土やシルトが混入する斑土が主体となっている。土層断面からみて、木製井戸側の存在を予想させる堆積状況を確認できたが断定するには至らなかった。むしろ井戸廃絶に際して斑土を埋め立て、その後埋め立て土が何度か陥没したと想定される。調査では、井戸全体の埋土をSK163とし、陥没して土坑状になった窪地を最終的に埋め立て整地されたものをSK162として認識した。井戸埋土から出土した遺物から、C-2期(17世紀後半)に廃棄された井戸と推定される。

##### SK202 (第29図)

調査区の中央部南寄りで確認された素掘り井戸で、平面形は1.08m×1.03mのほぼ円形となっている。最深部には確実には達していないが、深さは遺構検出面から289cmを測ると思われ、標高9m弱で湧水層に達したと推測される。断面形は箱形となっている。埋土は黒褐色細粒砂に粘土やシルトが混入する斑土となっている。土層断面からみて、井戸廃絶時に斑土を念入りに順に埋め立てて整地されたものと推測され、後に陥没した痕跡は認められない。埋土から出土した土師器皿から見て、C-1期(17世紀前半)に廃棄された

井戸と推定される。

##### SK49 (第29図)

調査区の南西端部で検出された素掘り井戸である。平面形は1.27m×1.26mの円形で、深さは遺構検出面から最大で185mを測る。やや浅く湧水層に達したかは疑問が残ることから、井戸ではない可能性も残される。断面形は箱状で、埋土は黒褐色細粒砂に粘土やシルトが混入する斑土となっている。出土遺物からC-2期(17世紀後半)に廃棄された井戸と推定される。

#### 第5項 溝

今回の調査で確認されたC期に属すると推測される溝は全部で13条確認された。この段階の溝には従来から存在した素掘り溝の他に、両岸と床を石積みで構築された石組溝が出現している。石組溝は次項に改めて項目を設けて記述することとし、ここでは主要な素掘り溝について報告したい。

##### SD11

調査区の中央部でほぼ東西方向に走る溝で、幅は最大で1.17m、深さは最深で0.13m、長さは8.40mを測る。溝底は浅い皿状で、陶磁器類の他に多くの石材が投棄されていた。出土遺物から見てC-3期(18世紀)に位置づけられるだろう。

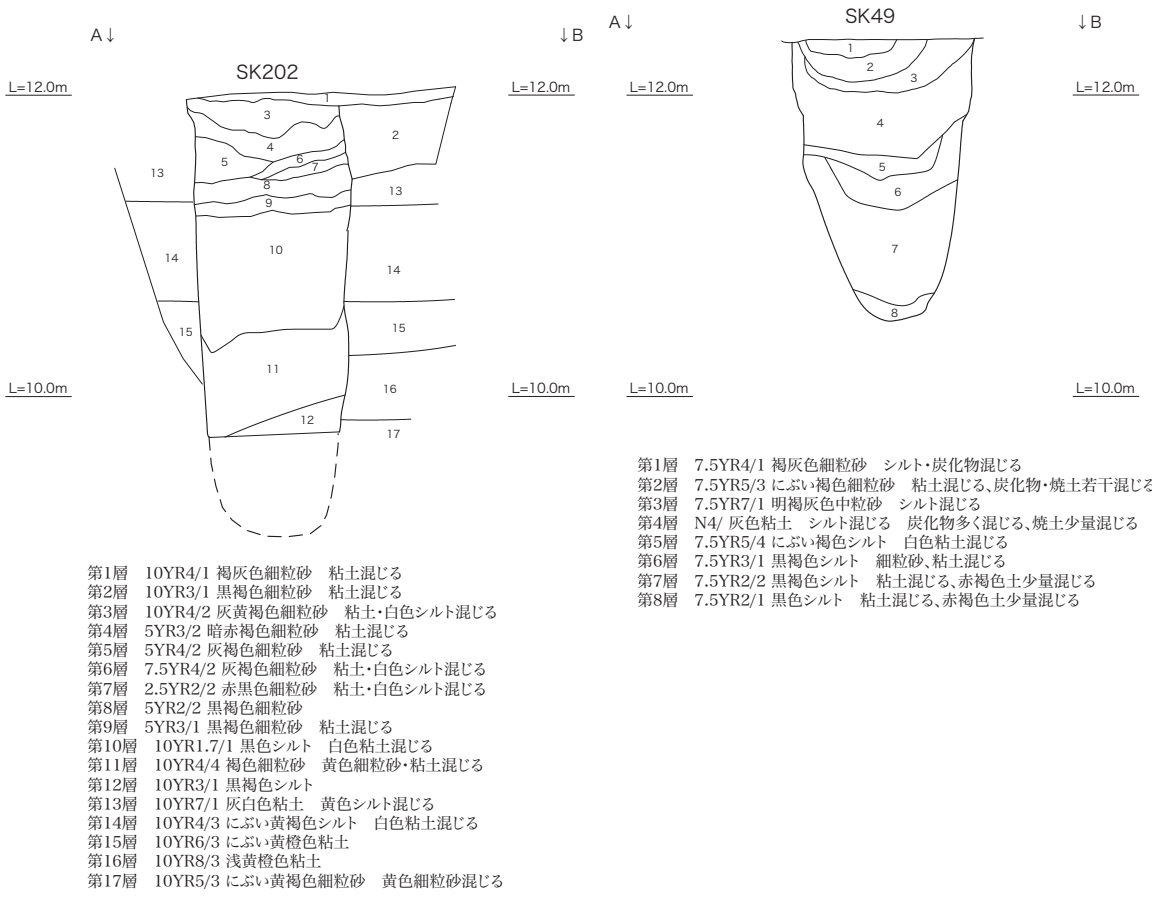
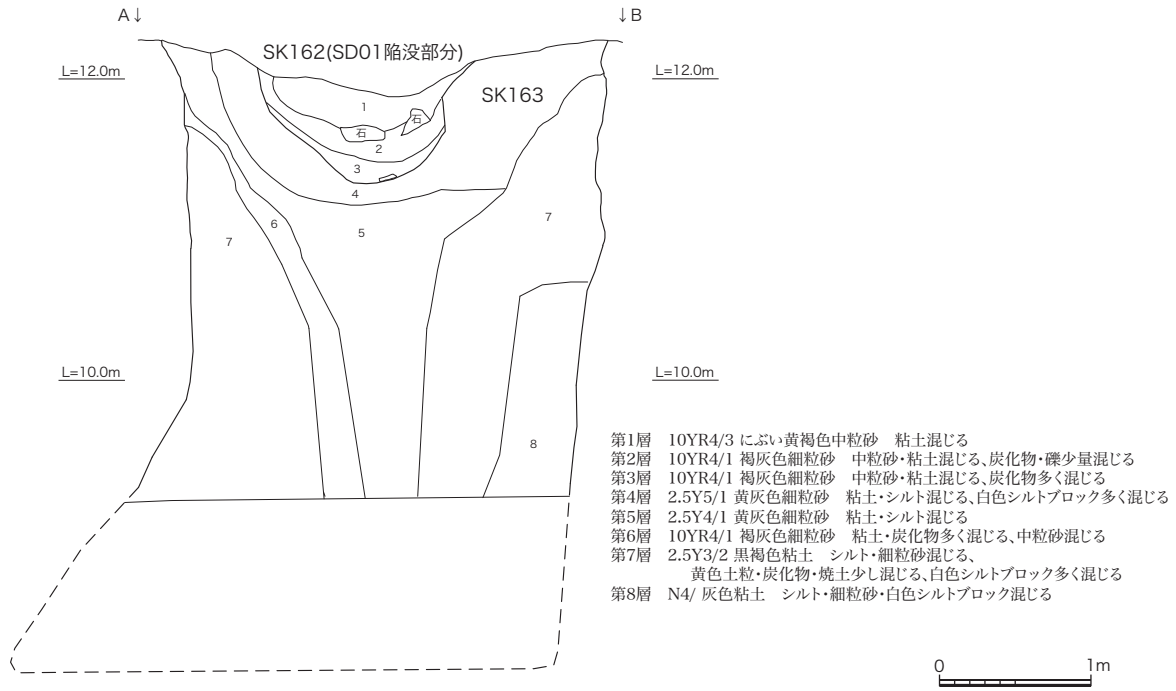
##### SD12 (第30図)

調査区の西部でほぼ南北方向に走る溝で、幅は最大で2.09m、深さは最深で0.97mを測る。溝の断面形は逆台形を呈し、底幅は50～60cmを測る。SD14と平行して走っていることから、両者で道路状遺構を形成している可能性も考えられる。出土遺物から見てC-1～2期(17世紀)に位置づけられるだろう。

##### SD13

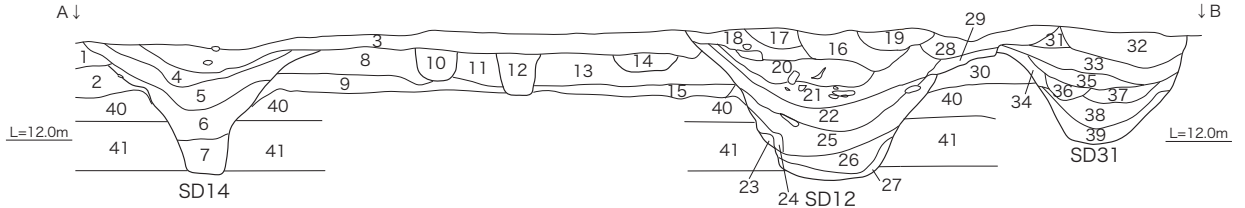
調査区の西部でほぼ東西方向に走る溝で、幅は最大で1.49m、深さは最深で0.10mと非常に浅い。SD12とSD14の間の部分を結ぶような形で

名古屋城三の丸遺跡 VII



第 29 図 井戸 SK163・SK202・SK49 土層断面図

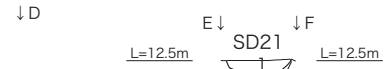
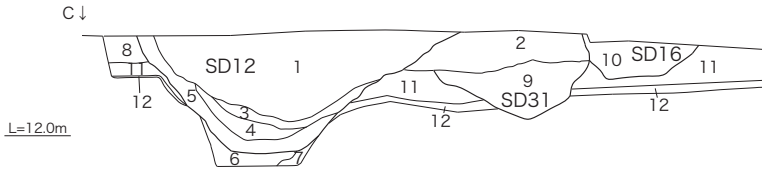
遺構



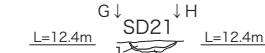
SD12,14,31東西セクション土層説明

- 第1層 10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂
- 第2層 10YR3/3 暗褐色極細粒砂
- 第3層 10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂 中粒砂・粗粒砂・黄色土粒・白色シルト・礫混じる
- 第4層 10YR3/3 暗褐色極細粒砂 黄色土ブロック混じる、粘土少し混じる
- 第5層 10YR3/3 暗褐色極細粒砂 炭化物・黄色土ブロック少し混じる、シルト・粘土混じる
- 第6層 10YR3/2 黒褐色粘土 シルト混じる、炭化物少し混じる
- 第7層 10YR3/1 黒褐色粘土 黄色土粒・炭化物・シルト少し混じる
- 第8層 7.5YR4/2 灰褐色極細粒砂 粘土・粘土少し混じる
- 第9層 10YR2/2 黒褐色極細粒砂 粘土混じる
- 第10層 10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂 シルト・焼土混じる
- 第11層 10YR3/3 暗褐色極細粒砂 シルト混じる、焼土少し混じる
- 第12層 7.5YR3/2 黒褐色極細粒砂 シルト多く混じる、白色シルトブロック多く混じる
- 第13層 7.5YR4/2 灰褐色シルト 焼土・極細粒砂混じる
- 第14層 10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂 粘土・シルト少し混じる
- 第15層 7.5YR3/2 黒褐色極細粒砂 粘土混じる、シルト多く混じる
- 第16層 10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂 中粒砂・粗粒砂・礫混じる、粘土少し混じる
- 第17層 10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂 粘土混じる、白色シルト・黄色土粒・炭化物少し混じる
- 第18層 斑土(10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂 + 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト) 中粒砂・赤色シルト混じる、炭化物少し混じる
- 第19層 10YR4/4 褐色極細粒砂 赤色・黄色土粒混じる
- 第20層 斑土(10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂 + 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト) 褐色・赤色・白色土・礫混じる、炭化物・粘土少し混じる

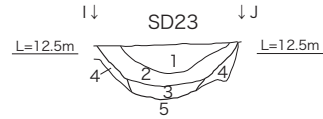
- 第21層 10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂 粘土混じる、シルト少し混じる、炭化物やや多く混じる
- 第22層 10YR4/2 灰黄褐色粘土 シルト・炭化物黄色土混じる
- 第23層 10YR5/4 にぶい黄褐色粘土 シルト・中粒砂混じる、黄色土粒多く混じる
- 第24層 10YR3/1 黒褐色粘土 シルト混じる
- 第25層 10YR4/2 灰黄褐色粘土 シルト・炭化物・焼土・黄色土粒少し混じる
- 第26層 10YR3/2 黒褐色粘土 白色シルト粘土・黒色・褐色土混じる
- 第27層 10YR2/1 黒褐色粘土 シルト混じる、焼土多く混じる、白色シルト少し混じる
- 第28層 10YR5/2 灰黄褐色極細粒砂 炭化物少し混じる、赤色土少し混じる
- 第29層 10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂 シルト少し混じる、白色シルト混じる、赤色土混じる
- 第30層 7.5YR3/2 黒褐色極細粒砂 粘土少し混じる
- 第31層 5YR4/1 褐灰色細粒砂 粘土混じる
- 第32層 斑土(10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂 + 10YR5/6 黄褐色細粒砂) 粘土・白色シルト混じる
- 第33層 10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂 白色シルト多く混じる
- 第34層 10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂 白色シルト多く混じる、焼土混じる
- 第35層 斑土(10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂 + 2.5Y5/3 黄褐色シルト) 白色シルト多く混じる、粘土少し混じる
- 第36層 10YR3/2 黒褐色極細粒砂 焼土混じる、白色シルト多く混じる、粘土少し混じる
- 第37層 10YR3/3 暗褐色極細粒砂 白色シルト混じる、粘土少し混じる
- 第38層 2.5YR5/3 黄褐色極細粒砂 シルト多く混じる、粘土・白色シルト・焼土少し混じる
- 第39層 10YR4/2 灰黄褐色シルト 粘土・焼土混じる
- 第40層 10YR3/2 黒褐色粘土 シルト混じる(地山)
- 第41層 2.5Y7/8 黄色粘土(地山)



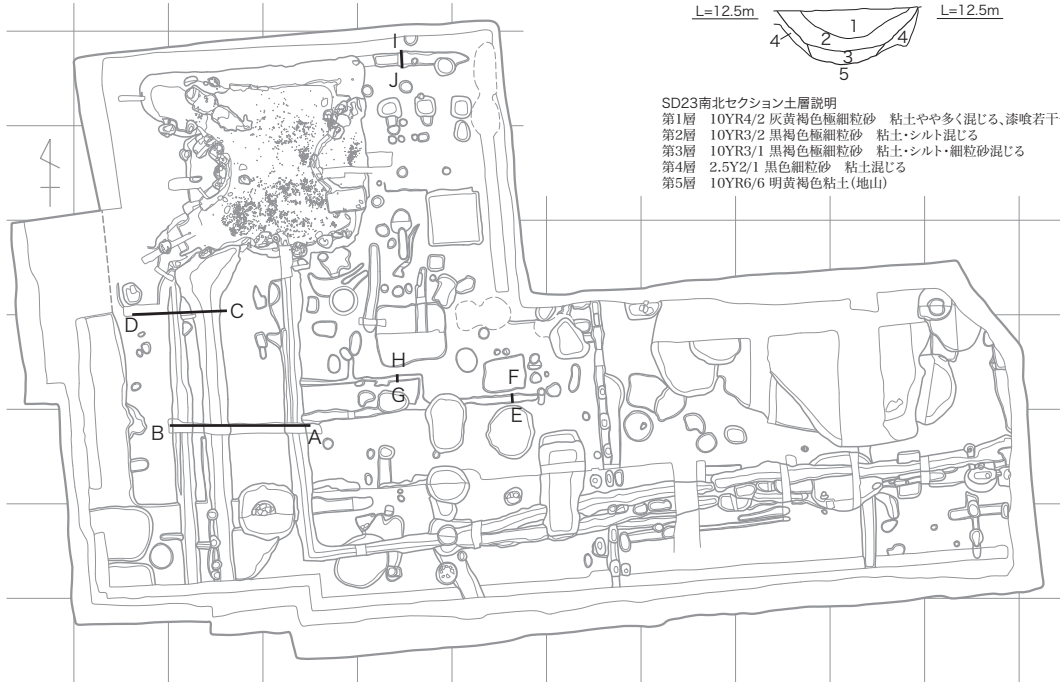
- SD21南北セクション土層説明
- 第1層 5Y2/2 オリーブ黒色極細粒砂 シルト混じる、炭化物・焼土少量混じる
  - 第2層 10YR5/6 黄褐色粘土(地山)



- SD21南北セクション土層説明
- 第1層 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色極細粒砂 シルト混じる、炭化物・焼土少量混じる
  - 第2層 10YR5/6 黄褐色粘土(地山)



- SD23南北セクション土層説明
- 第1層 10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂 粘土やや多く混じる、漆喰若干含む
  - 第2層 10YR3/2 黒褐色極細粒砂 粘土・シルト混じる
  - 第3層 10YR3/1 黒褐色極細粒砂 粘土・シルト・細粒砂混じる
  - 第4層 2.5Y2/1 黒色細粒砂 粘土混じる
  - 第5層 10YR6/6 明黄褐色粘土(地山)



第30図 溝 SD12・SD14・SD31 土層断面図

## 名古屋城三の丸遺跡 VII

検出され、調査時点ではSD12とSD14を切る形で確認された。出土遺物や前述の遺構の検出状況から見てC-3期(18世紀)に位置づけられるだろう。

### SD14 (第30図)

調査区の西部でほぼ南北方向に走る溝で、幅は最大で1.44m、深さは最深で0.81mを測る。北部はSX02に切られ、南端部は東に折れてSD22に連続する。巻末遺構図には表現されていないが、SD14の最上層部分はSD22を越えてさらに南に継続する状態が認められ、その断面が南壁土層断面に観察されたが、これは非常に浅く同一遺構とは認めがたい状態であった。溝の断面形はSD12と同様に逆台形をなしているが、底幅20～30cmと狭く「V」字状に近い形状である。陶磁器類の他に多くの石材が投棄されていた。SD12とともに道路状遺構を形成していた可能性がある。出土遺物から見てC-1～2期(17世紀)に位置づけられるだろう。

### SD15

調査区の中央部でほぼ東西方向に走る溝で、幅は最大で0.63m、深さは最深で0.43m、長さは3.85mを測る。溝底は「U」字状を呈する。埋土は黄灰色細粒砂の斑土で、上層からは近代の遺物が混入していたが、下層の出土遺物からC-3期(18世紀)に属すると考えられる。

### SD21 (第30図)

調査区の中央部で検出された溝で、溝中央部で2回直角に折れてクランク状となっている。幅は最大で0.40m、深さは最深で0.08mと規模は小さい。出土遺物から見てC期の遺構であることは知れるが、詳細は明らかではない。

### SD22 (第25図)

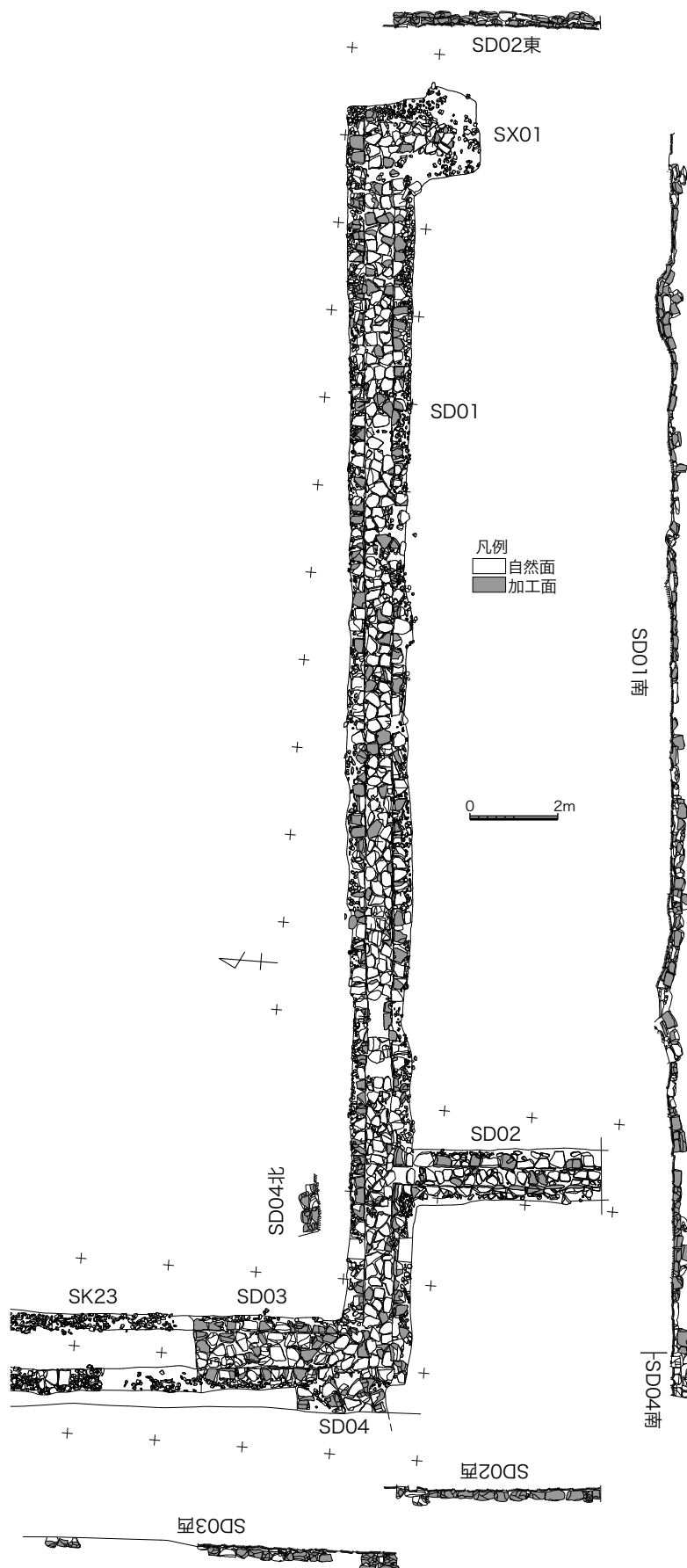
調査区の南部中央でほぼ東西方向に走る溝で、幅は最大で0.77m、深さは最深で0.47mを測る。西端部はSD14と接続し北に折れ曲がる形状となっている。一方、東端部はSK185に切られ

ており、その行方は特定できない。遺構の配置状況からSD27と連続する可能性が残されるが、遺構の時期が合致しないため、ここでは別の溝として理解しておきたい。溝の断面形は箱状であり、SD25を切っている。出土遺物や遺構の検出状況から見てC-1期(17世紀前半)に位置づけられるだろう。

## 第6項 石組溝

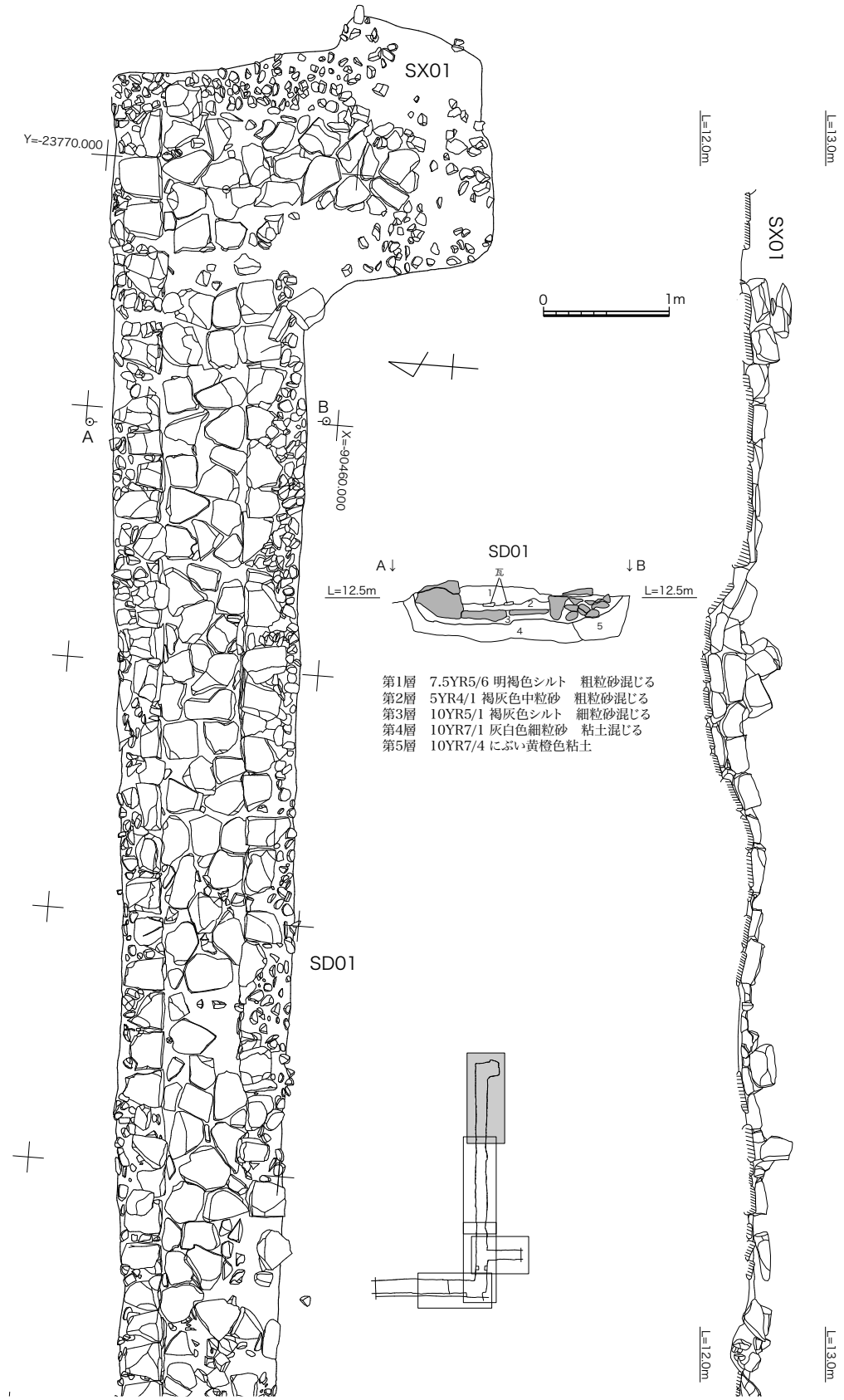
石組溝は全部で4条確認されたが、いずれも相互に連続して構築されており、総体的には一連の遺構と捉えることが妥当であろう。調査区の南西辺に平行してSD01とSD03がL字状に屈曲して存在し、SD01の屈曲部付近からSD02が、SD03の屈曲部付近からSD04が分岐していた。SD01の東端部は短く南に折れて枡状の遺構SX01が付随していた。SD03の北側の大部分は石組溝を構成する石材の抜き取り穴であるSK23により破壊されていた。溝底の高さ(レベル)は、SD01の東端が最も高く、SD02南端とSD04の西端も高い。SD01は西側に向かって低く傾斜しSD03に至って北側に低く傾斜していた。水を流す溝と想定した場合、SD01東端、SD02南端、SD04西端から、それぞれSD03に向かって流れ、SD03に集められた水は北に向かって流れていったものと考えられる。このまま北に向かって流れていけば台地の崖下に排水されたものと想定される。

石組溝の基本的な構造は、箱堀状に掘削された溝に扁平な石材を床材として敷き並べ、その両側に割石を積み上げて側石とし、側石の背後に割石を製作する際に出てきた小石材を裏込め石に使用して完成させている。蓋の存在については現状では明らかではない。石組溝内の埋土は最下層と上層に分離でき、上層は明褐色粘土による整地層であった。石組溝を廃絶した後は、同じ平面プランで明褐色を呈する道路状の堆積が存在したと想定



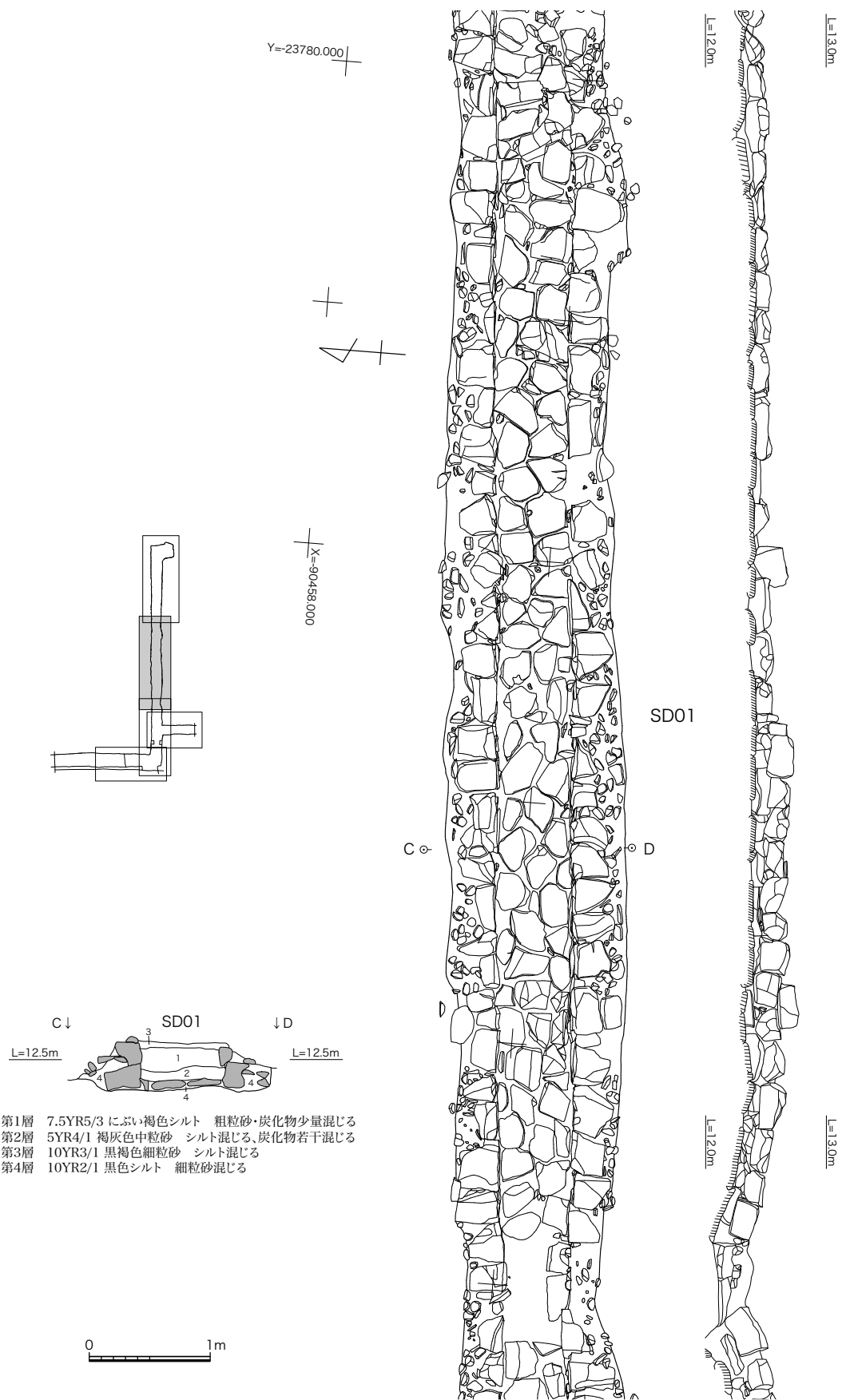
第 31 図 石組溝 SD01 ~ SD04 遺構全体図





第 32 図 石組溝 SD01・SX01 遺構図 (1)





第 33 図 石組溝 SD01 遺構図 (2)

## 名古屋城三の丸遺跡 VII

される。

以上が全体に共通する石組溝の特徴であるが、ここでは個別のパーツに分割してさらに詳細に報告したい。

### SD01 (第 32～34 図)

調査区の南部で西端部付近から中央部東寄りの付近まで伸びる東西方向に走る石組溝で、内法幅は最大で 66cm、長さは 28.11m を測る。溝を構築するために掘削された溝の掘肩の幅は最大で 155cm、深さは最深で 50cm を測る。断面形で箱堀状に掘られた溝の床面には基本的に何も施されていなかったが、東部では部分的に灰白色細粒砂が堆積していた。

床面の上には扁平な石材が 2～3 列に敷き並べられていた。石材は自然石または荒く割られて成形された石材が用いられており、どの部分でも石と石の間の隙間が大きく開いている状態である。SD01 の東部に 1ヶ所と中央部に 1ヶ所に大きく床面が窪み、敷き並べられた石材が乱れている部分があった。これらはそれぞれ SK185 および SK163 (SK162) を埋め立てた整地が十分に堅固ではなく石組溝が構築された後に陥没してしまったために発生したと考えられる。同様の陥没は SD01 中央部にもわずかに認められ、これは SK203 によるものと想定される。また東端部に近い部分で床石が 1 列分残存していなかった。状況から見て後世に抜き取られた可能性を考えておきたい。

側石は南壁と北壁両者とも高さ約 20cm の割石で構成されていた。石組の上位は既に破壊または除去されて遺存しておらず、大部分は 1 段分しか残存していなかったが、部分的に最高で 3 段積み重なった状態が残っており、本来はこの高さかそれ以上の高さの石組が残っていたことが予測される。割石は内法面を比較的平坦にした横に長い長方形状になるように配置され、上下面も比較的平坦になるように配慮されていた。一方、背

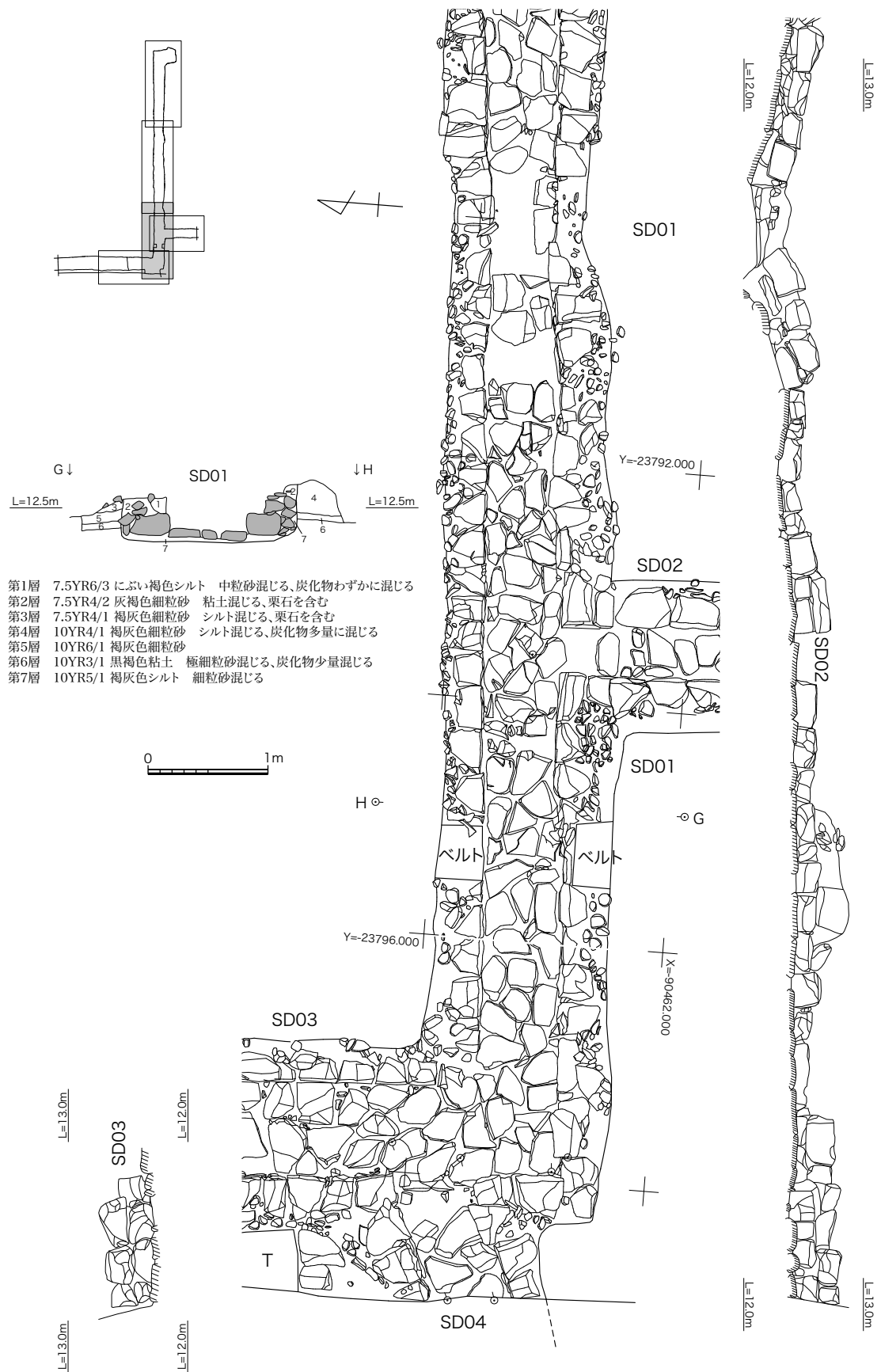
後の部分は形状がバラバラの状態であり、その間には同一石材の細かな割石の小破片などが隙間の無いように詰め込まれていた。

石組溝内の堆積は、最下層は褐灰色中粒砂が非常に薄く堆積しており、これは溝が機能していた時に自然に堆積した土層である可能性が高い。その上位には明褐色シルトが硬く締まった状態で堆積しており、人工的に埋め立てられ叩き締められたものと考えられる。確証はないが、この人工的な埋め立て土は名古屋台地を構成する表面に近い部分の褐色土が集められ用いられたのではないかと推測される。

石組溝内から陶磁器類などが出土しているが、中でも鉄釘 (1594～1628) の出土量が多い点が特徴的である。遺物の項でも説明するが、この鉄釘は基部付近で木質の存在した痕跡が認められるものが多いことから、鉄釘留めで組み立てられた木製品が廃棄された可能性が考えられる。想像を逞しくすれば木製の蓋板に使用された鉄釘である可能性も考えられよう。また、SD02 との接合部付近では、常滑窯産陶器の甕 1 個体分が潰れた状態で確認された。これらの出土遺物から見て、溝が機能し廃絶した時期は C-3 期 (18 世紀) 初頭に位置づけられるだろう。また、石組の背後の裏込め部分からは肥前窯産磁器碗 (1553) などが出土しており、構築された時期は 17 世紀末から 18 世紀初頭と位置づけられよう。

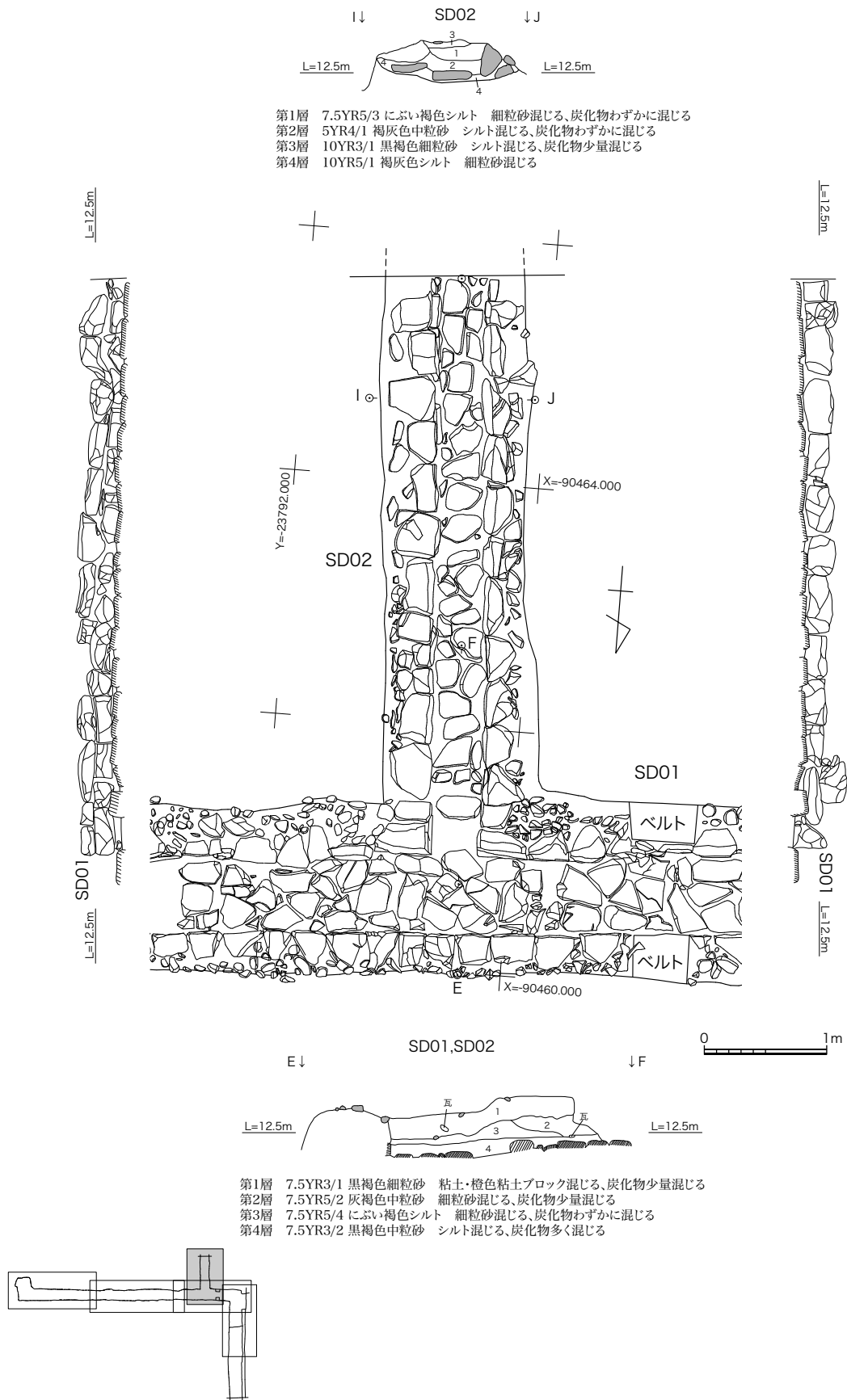
### SD02 (第 35 図)

SD01 の西端付近の南壁に接続する南北方向に走る石組溝で、内法幅は最大で 42cm、長さは 4.41m を測る。溝を構築するために掘削された溝の掘肩の幅は最大で 126cm、深さは最深で 63cm (南壁土層断面で計測) を測る。断面形で箱堀状に掘られた溝の床面に直接扁平な石材が 1～2 列に敷き並べられていた。石材は自然石または荒く割られて成形された石材が用いられており、石の隙間が大きい。



第 34 図 石組溝 SD01 ~ SD04 遺構図 (3)

名古屋城三の丸遺跡 VII



第 35 図 石組溝 SD01・SD02 遺構図 (4)

側石は東西壁両側とも高さ10～20cmの割石で構成されていた。石組の上位は既に破壊または除去されて遺存しておらず、大部分が西壁は1段分、東壁は2段分が残存していた。割石は内法面を比較的平坦にした横に長い長方形形状になるように配置され、上下面も比較的平坦になるようになっていた。背後の状態は表土はぎの段階で掘削されていた部分が多く、詳細は不明である。状況からみてSD01と同様に、隙間に細かな割石の小破片などが詰め込まれていたといえる。

SD01との接合部は床面で5cm程度の段差が存在し、SD02の方が高い。SD01に接するSD02の床石が推定1個欠落しており、これが構築当時から欠けていたものか、後に抜き取られたものかは特定できない。東西両壁の側石とSD01の南壁の側石は一連の遺構として連続した状態で構築され、石積が2段存在する東壁の隅角部は算木積み状に長辺を入れ違いの状態で見積まれている。

石組溝内の堆積は、最下層は褐灰色中粒砂が10cm程度とやや厚く堆積しており、その上位にはぶい褐色シルトがやや硬く締まった状態で堆積していた。石組溝内から陶磁器類などが出土しているが、検出された部分が少ないためその量は少ない。それでもSD01と同様に鉄釘の出土量が多い傾向は認められる。SD01と同様に、構築された時期は17世紀末から18世紀初頭、廃絶時期はC-3期(18世紀)に位置づけられるだろう。SD03(第36図)

SD01の西端部で屈曲して北方向に伸びる南北方向に走る石組溝で、内法幅は最大で76cm、深さは43cmを測る。北部は石材抜き取り穴SK23によって破壊されており、石組溝は遺存していない。残存長は3.40mを測るが、SK23の検出状態からみて、本来SD03は調査区北端まで継続していたものと考えられる。溝を構築するために掘削された溝の掘肩の幅は最大で172cm、深

さは最深で72cmを測る。断面形で箱堀状に掘られた溝の床面に直接扁平な石材が2～3列に敷き並べられていた。SD01と同様に、石材は自然石または荒く割られた石材が使用され、石の隙間が大きい。

側石は東西壁両側とも高さ約20cmの割石で構成されていた。石組の上位は既に破壊または除去されて遺存しておらず、大部分が1段分しか残存していなかった。割石は内法面を比較的平坦にした横に長い長方形形状になるように配置されていた。背後の状態は表土はぎの段階での掘削と西壁トレンチにより不明な部分が多いが、SD01と同様に、隙間に細かな割石の小破片などが詰め込まれていた。

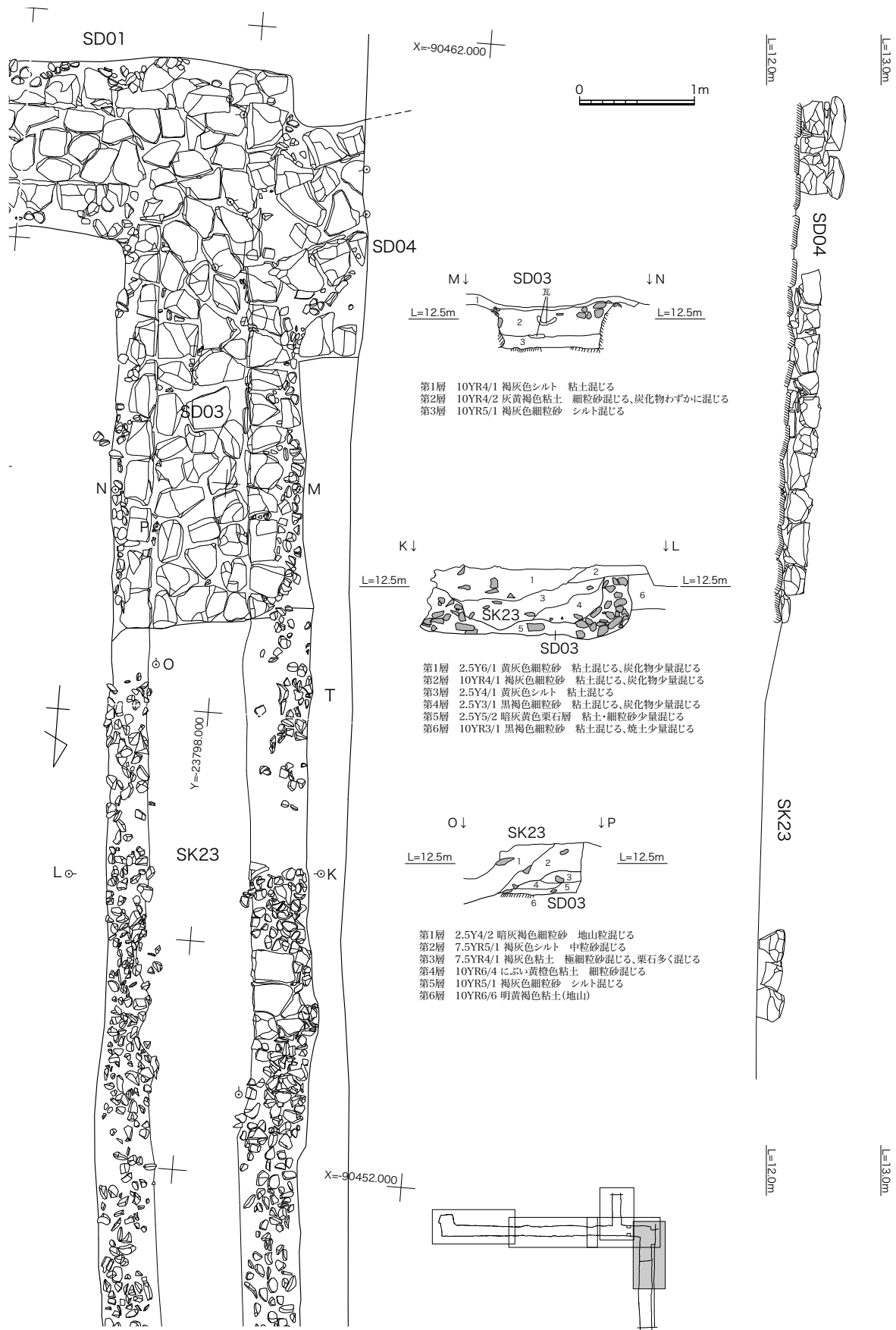
SD01との接合部分は、床石と側石ともに連続して構築されていた状態と思われる。少なくとも床石についてはSD01とSD03の境界線を認めることはできない。SD03の東壁の隅角部(出角部)の石材が遺存せず、構造は明らかにできない。SD03の西壁の隅角部(入角部)の石積みはSD01の南壁が築造された後にSD03の西壁が構築された構造が確認された。

石組溝内の堆積は、最下層は褐灰色中粒砂が10cm程度とやや厚く堆積しており、その上位は灰黄褐色粘土の斑土層、褐灰色シルト層が順に堆積し、最上面はやや硬く締まっていた。石組溝内から陶磁器類などが出土しているが、検出された部分が少ないためその量は少ない。それでもSD01と同様に鉄釘の出土量が多い傾向は認められる。SD01と同様に、構築された時期は17世紀末から18世紀初頭、廃絶時期はC-3期(18世紀)に位置づけられるだろう。

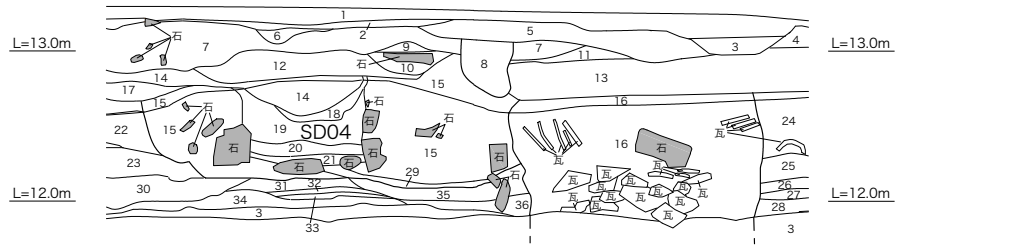
SD04(第36図)

SD03の南端付近の西壁に接続するやや方位が南に振れた東西方向に走る石組溝である。内法幅は最大で68cm、深さは最深で50cm(西壁土層断面で計測)で、検出長は0.80mを測る。大半



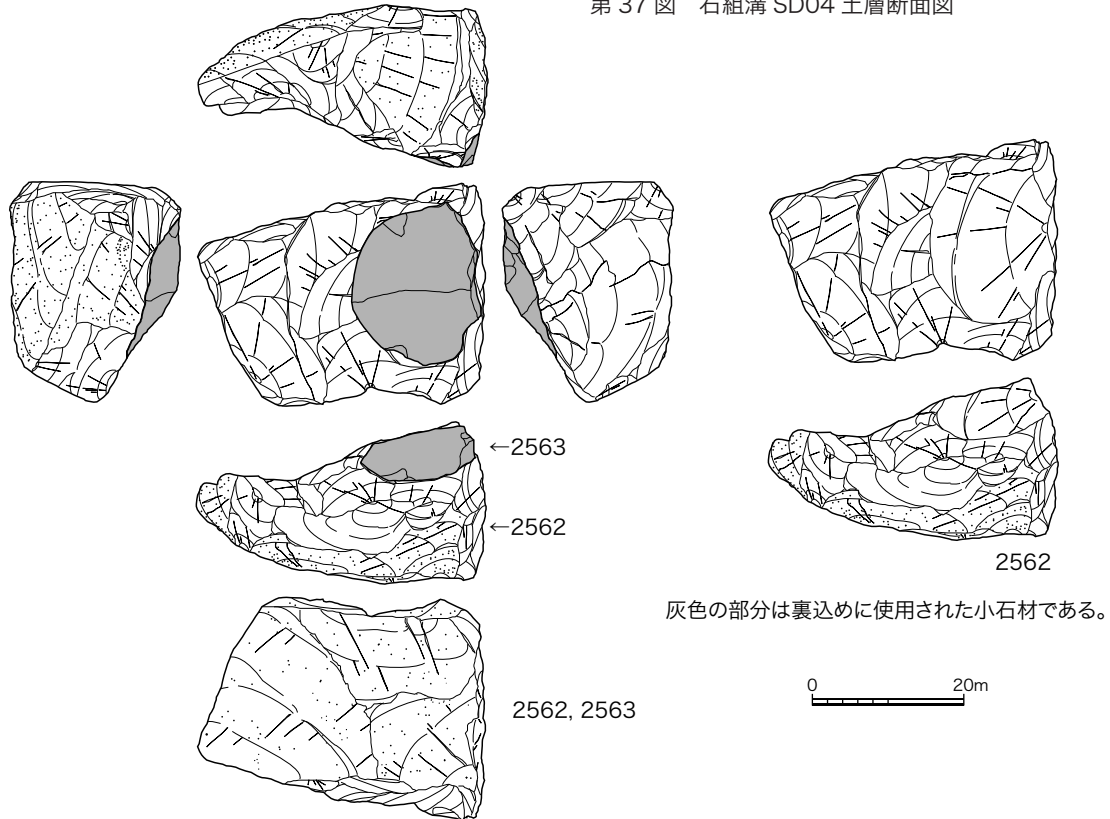


第 36 図 石組溝 SD01・SD03・SD04 遺構図 (5)



- 第1層 7.5YR7/1 灰白色粘土 礫多く含む、ガラス・煉瓦混じる
- 第2層 7.5YR4/3 褐色中粒砂 粘土・瓦混じる、礫多く混じる
- 第3層 2.5Y4/1 黄灰色粘土
- 第4層 10YR3/4 暗褐色細粒砂 礫多く混じる
- 第5層 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂 中粒砂混じる、小礫若干含む
- 第6層 10YR5/4 にぶい黄褐色細粒砂 中粒砂・焼土混じる
- 第7層 10YR5/4 にぶい黄褐色細粒砂 中粒砂混じる、小礫多く混じる
- 第8層 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂 小礫多く混じる
- 第9層 2.5Y6/1 黄灰色細粒砂 シルト混じる
- 第10層 10YR5/4 にぶい黄褐色細粒砂 炭化物少量混じる
- 第11層 10YR4/1 褐灰色細粒砂 小礫多く混じる、粘土混じる
- 第12層 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂 中粒砂混じる、炭化物・焼土多く混じる
- 第13層 10YR5/2 灰黄褐色細粒砂 小礫多く混じる
- 第14層 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂 粘土混じる
- 第15層 2.5Y4/1 黄灰色極細粒砂 粘土混じる
- 第16層 10YR4/4 褐色細粒砂 粘土・礫混じる
- 第17層 10YR5/3 にぶい黄褐色細粒砂 白色粘土ブロック混じる
- 第18層 2.5YR5/4 にぶい赤褐色細粒砂 粘土混じる
- 第19層 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂 シルト混じる、小礫多く混じる、炭化物若干混じる
- 第20層 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂 シルト混じる、炭化物若干混じる
- 第21層 2.5Y5/2 暗灰黄色極細粒砂
- 第22層 10YR5/4 にぶい黄褐色細粒砂 中粒砂混じる、礫多く混じる
- 第23層 N4/ 灰色細粒砂 粘土混じる、炭化物多く混じる
- 第24層 10YR4/4 褐色細粒砂 礫混じる
- 第25層 10YR4/3 にぶい黄褐色細粒砂 シルト・炭化物混じる
- 第26層 10YR4/4 褐色細粒砂 シルト混じる
- 第27層 10YR4/2 灰黄褐色粘土 細粒砂・炭化物混じる
- 第28層 10YR4/3 にぶい黄褐色粘土 細粒砂・炭化物混じる
- 第29層 10YR4/1 褐灰色粘土 細粒砂混じる、炭化物少量混じる
- 第30層 10YR7/1 灰白色シルト + 10YR6/2 灰黄褐色細粒砂との斑土
- 第31層 2.5Y6/2 灰黄色細粒砂 + 2.5Y4/1 黄灰色細粒砂との斑土
- 第32層 10YR6/1 褐灰色粘土 細粒砂・シルトブロック混じる
- 第33層 2.5Y6/2 灰黄色細粒砂 粘土混じる
- 第34層 10YR3/1 黒褐色粘土 細粒砂混じる
- 第35層 2.5Y4/1 黄灰色粘土 極細粒砂・炭化物混じる、礫少量混じる
- 第36層 2.5Y3/2 黒褐色粘土 極細粒砂混じる

第 37 図 石組溝 SD04 土層断面図



第 38 図 SD01 石組構成石材実測図

## 名古屋城三の丸遺跡 VII

は調査区外に伸びると想定される。溝を構築するために掘削された溝の掘肩の幅は最大で 162cm、深さは最深で 66cm（西壁土層断面で計測）を測る。断面形で箱堀状に掘られた溝の床面に直接扁平な石材が 1～2 列に敷き並べられていた。石材は自然石または荒く割られた石材が用いられ、その隙間が大きい。

側石は東西壁両側とも高さ約 20cm の割石で構成されていた。石組の上位は既に破壊または除去されて遺存しておらず、大部分が南北両壁とも 2 段分が残存していた。SD01 と同様に割石は内法面を比較的平坦にして配置され、隙間に細かな割石の小破片などが詰め込まれていたが、北壁については若干様相が異なっている。北壁を構成する石材の背後にも、側石と同様の石材で石列が 1 段構成されている。背後の石列は北方向に面して平坦面が揃った状態で配置されており、溝内法面を構成する石列と対になっている。遺構の大半は調査区外に伸びて様相は明らかではないが、この石列は溝の内法面を構成するとは考えにくく、北壁を構成する石列とともに石壁を構成していたと考えられよう。

SD03 との接合部は床面で 5cm 程度の段差が存在し、SD03 の方が高い。SD03 に接する SD04 の床石が推定 1 列分欠落しており、これが構築当時から欠けていたものか、後に抜き取られたものかは特定できない。南北両壁の側石と SD01 の南壁の側石は一連の遺構として連続した状態で構築されているが、両壁とも石積が 2 段存在するもののその積み方は特に算木積み状にしておらず 1 段目と 2 段目の石列配置はあまり変化していない。

石組溝内の堆積は、最下層は黄灰褐色細粒砂が 20 cm 強とやや厚く堆積し、その上位にはにぶい赤褐色細粒砂が薄く堆積していた。石組溝内から陶磁器類などが出土しているが、検出された部分が少ないためその量は少ない。SD01 と同様

に、構築された時期は 17 世紀末から 18 世紀初頭、廃絶時期は C-3 期（18 世紀）に位置づけられるだろう。

### SX01（第 32 図）

SD01 の東端から南に屈曲して南北方向に走る短い柵状の石組構造物である。側石はほぼ全部が遺存せず、側の裏込め石と床壁のみが残存していた。床材の状態からみて内法幅は最大で 70cm、長さは 2.15m を測る。溝を構築するために掘削された溝は、石組溝と方位がやや異なり南で東に振れていた。掘肩の幅は約 185cm を測るが、一部の東辺が広がっている。断面形で箱堀状に掘られた溝の床面に直接扁平な石材が 2～3 列に乱雑に敷き並べられていた。石材は自然石または荒く割られて成形された石材が用いられ石の隙間が大きい。SD01 との接合部分は、床石と側石ともに連続して構築されていた状態と思われる。少なくとも床石については SD01 と SX01 の境界線を明瞭に認めることはできない。

側石が遺存しなかったが、裏込めまたは下部に存在した小石材は残存しており、SD01～04 と同様な構造を持っていたと考えられる。石組溝内の堆積もほとんど残存しておらず、出土遺物もわずかである。SD01 と同様に、構築された時期は 17 世紀末から 18 世紀初頭、廃絶時期は C-3 期（18 世紀）に位置づけられるだろう。

### 石材について

石材は花崗岩が 1 点使用されたのを除き全て木曾川流域で産出されたと想定される砂岩であった。側壁に使用された石材は、多くは長さが 30～50cm、幅が 20～40cm、厚さが 10～20cm の大きさに加工されている。一方、床壁に使用された石材は、多くは長さが 20～50cm、幅が 20～40cm、厚さが 5～15cm の大きさに加工されている。ただし、加工が施されているといっても、実際には同等の規模の石材が調達され、大半は細かな形状を形成するために部分的に打ち欠いた程

度の加工であった。したがって自然面が活用できない部分は可能な限り活用されている。また、加工痕は床壁よりも側壁に使用された石材の方が多い傾向が窺える。

加工は打撃による剥離技法が使用されている。2562はSD01の北壁に使用された石材の一つである。また、2563はSD01の北壁石材背後に裏込めされていた小規模な石材の一つで、2562と2563は接合された資料である。側壁に使用された石材と裏込めに使用された小石材の接合作業は調査上の制約のため十分に行うことができなかったが、2562と2563のような事例が存在することは剥離による石材加工は現地（石組溝が存在する場所の付近）で行われて全ての材料が効率よく使用されたことを推定できる。2562は第38図の下面が石組溝側石の内法面に相当する。加工の順番は、まず内法面である下面の平坦面を形成するために数回の剥離作業が行われた後、上面に相当する正面の平坦面を形成するために大きな剥離作業が施されている。大きな剥離作業を行う際に、打点の部分にはあらかじめ直径1cm程度、深さ1cm弱の小穴が穿たれており、その部分に敲打具を当てハンマーなどによって衝撃が加えられたものと考えられる。

最後に石材の加工面と自然面の割合を検討する。全ての石材の6面全部の加工状況を確認することも調査上の制約のためできなかったが、石組溝が検出された状態で見える面についてはどの部分が加工されているかという調査を現地で行っているため、その傾向を示しておきたい。第31図は石組溝群全体の平面図に、平面図に見える部分(上面)で剥離加工が行われた部分をトーン(灰色)で示したものである。上面で剥離加工が施されたものと自然面のまま使用されたものの数量比をまとめたものが第4表である。これによると、床石は自然面のまま使用されたものが圧倒的に多く、側石は上面で剥離加工が施されたものと自然

面のまま使用されたものがほぼ同数であることが判明した。床と側である程度石材の適正が選別され、これが加工状態にも反映された結果であると考えられる。

上面の状態(個数)		加工面	自然面
SD01	北側壁	48	41
	南側壁	40	32
	床	33	149
SD02	東側壁	4	8
	西側壁	2	9
	床	3	16
SD03	東側壁	8	3
	西側壁	4	7
	床	13	27
SD04	北側壁	1	1
	南側壁	2	0
	床	1	2

第4表 石組溝の石材加工度

## 第7項 石列

C期に属すると推測される石列は1基存在する。

### SX09 (第39図)

調査区南端で検出された東西方向に伸びる石列である。発掘調査時点では、この石列は南壁土層断面に見えていた遺構で、調査終了直前に南壁を部分的に拡大してSX09の平面形態の調査を実施した。したがって石列の南側がどのように展開したかは、調査区外のため不明である。石列は大きく3つの石群に分かれており、全体の長さは6.6mを測る。直方体の形状をした切石を用いて石の北側の面を直線的に揃えて配置されていた。切石の下部と南側には若干の自然石を使用して裏込め石としていた。石列は標高13m強のレベルの地面に設置され、その周囲は黒褐色シルトの斑土で覆われていた。石列設置面の下層は暗褐色細粒砂などによる整地土層でこの堆積はC-1期の遺構を埋め立てた土層である。一方、石列設置面上層は黒褐色極細粒砂の斑土であり、詳細な時期の特定



名古屋城三の丸遺跡 VII

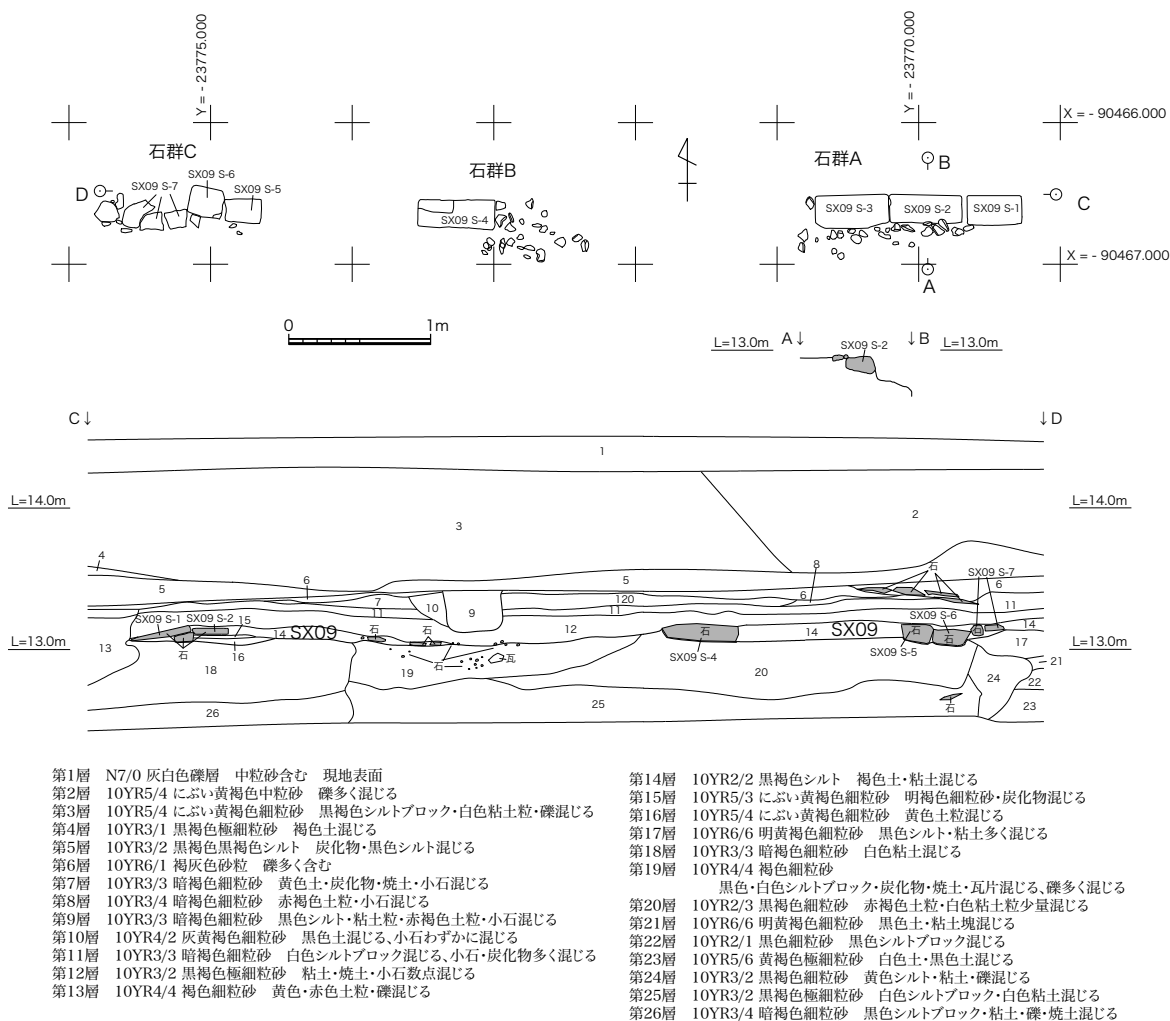
は難しい状態であった。

次に各石群の状況について説明を加える。SX09の東端に所在する石群Aは直方体の石材を3個(S-1~3)配置して1.45m分の石列を構成している。北に面する側面は表面が研磨され美しく平坦面を作っていたが、それ以外の部分では表面を打ち欠いた加工痕が残存している。SX09の中央に位置する石群Bは直方体の石材を1個(S-4)配置したものである。石材の東側には裏込めに使用される小玉石が約70cm四方の範囲で散乱しており、本来はこの東側の部分にも直方体の石材が存在していた可能性が高い。この想定が正しければ石群Bの全長は1.25mを測る。SX09の西端に展開する石群Cは直方体の石材を5個(S-5~9)配置して1.20m分の石列を構成

している。石列の配置は後世の攪乱によって乱されてしまったものと思われ、どの面も直線的にはなっていなかった。

各石群の間は、石群Bで見られたような玉石の散乱などが認められないことから、断定はできないものの、元々石列の空白が存在した可能性が高いと推定できる。このように推定すると、石群Aと石群Bとの間は約1.6m、石群Bと石群Cとの間は約1.1mを測る。

この石群に伴う遺物はわずかな陶磁器類と石群を構成する石材が存在するのみで時期を特定するにはあまり参考にはならない。石列の検出位置から考察すると、C-3期(18世紀)に構築された石列と推定される。この石列の用途を特定することはもとより困難であるが、現在まで残る近世の



第 39 図 石列 SX09 遺構図



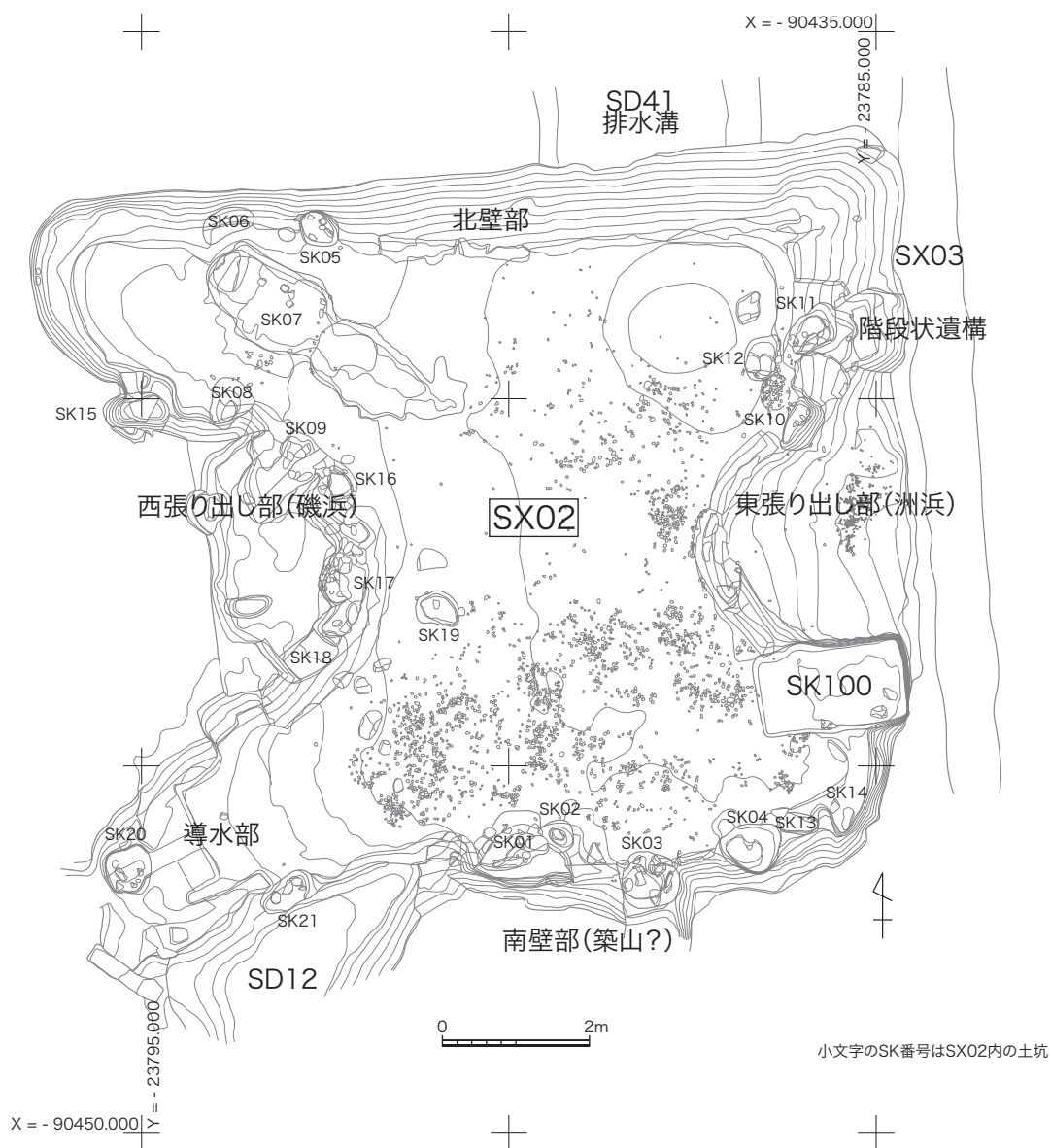
建造物などの基礎構造を観察すると、建物基礎の土盛周囲に配置された石列や、雨落ち溝の建物側に設置された石列などの類例を知ることができる。このような状態から、SX09も建物（おそらく礎石建物）に伴う縁石列であったと推測したい。

### 第8項 池状遺構 SX02 (第40～55図)

C期に属する池状遺構は1基存在する。今回の発掘調査で最も特徴的な遺構となっている以下、詳細に説明を加えていく。

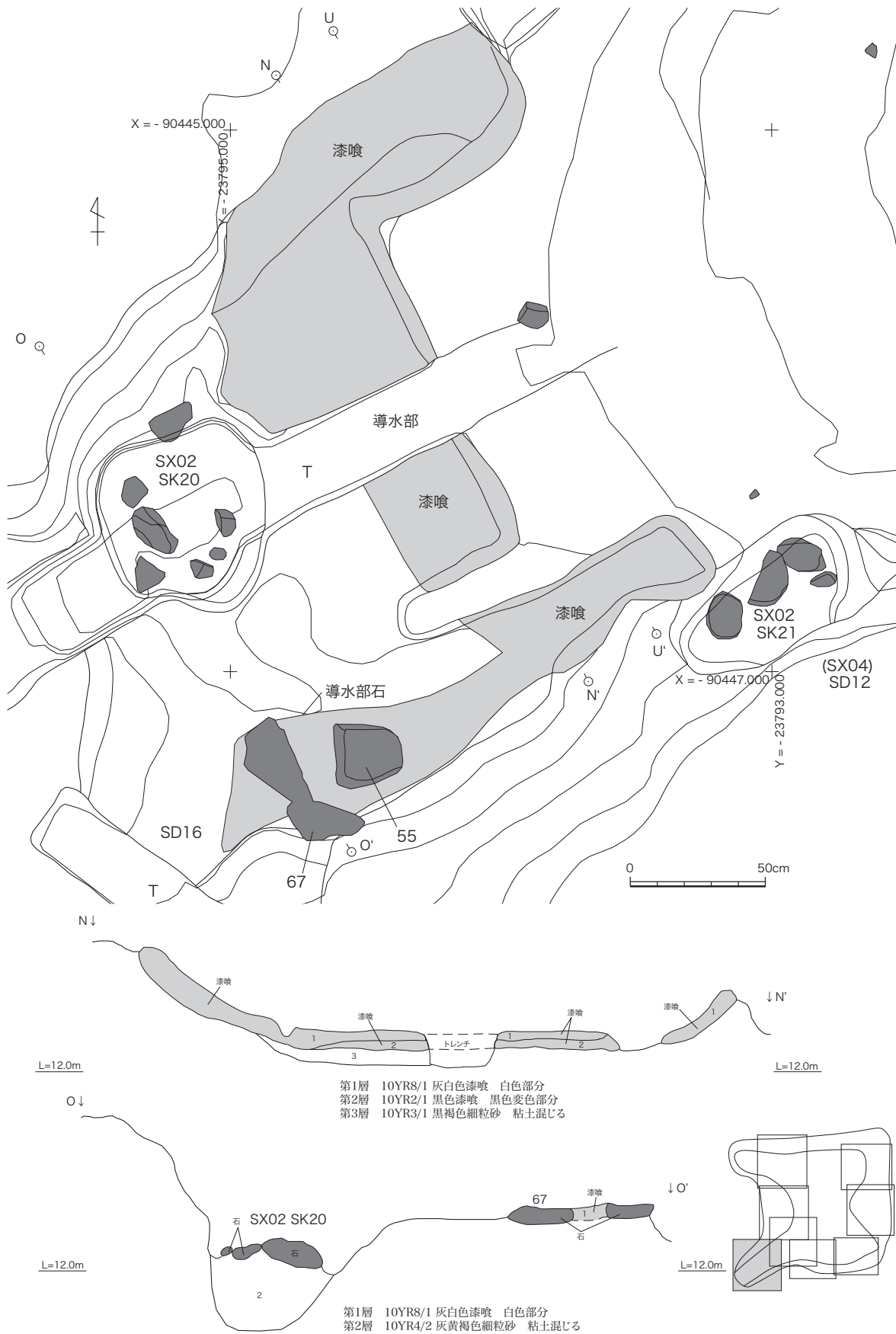
### 概要 (第40図)

SX02は調査区の北西部で確認された池状遺構で、規模は最大長12.0m×最大幅10.8m×深さ1.45mである。全体の平面形は11m×10mのほぼ正方形に近い方形のプランに、東辺と西辺の両側から半島状に伸びた張り出し部が掘り残される形状と説明できる。周囲の壁面は大小様々な形状の土坑と漆喰による壁面などが認められ、部分的には石材が埋め込まれる形で配置されていた。床面は薄く粘土が貼られ表面には大量の玉石が敷き並べられていた。南西隅がスロープ状に傾斜し、



第40図 池 SX02 遺構全体図

名古屋城三の丸遺跡 VII



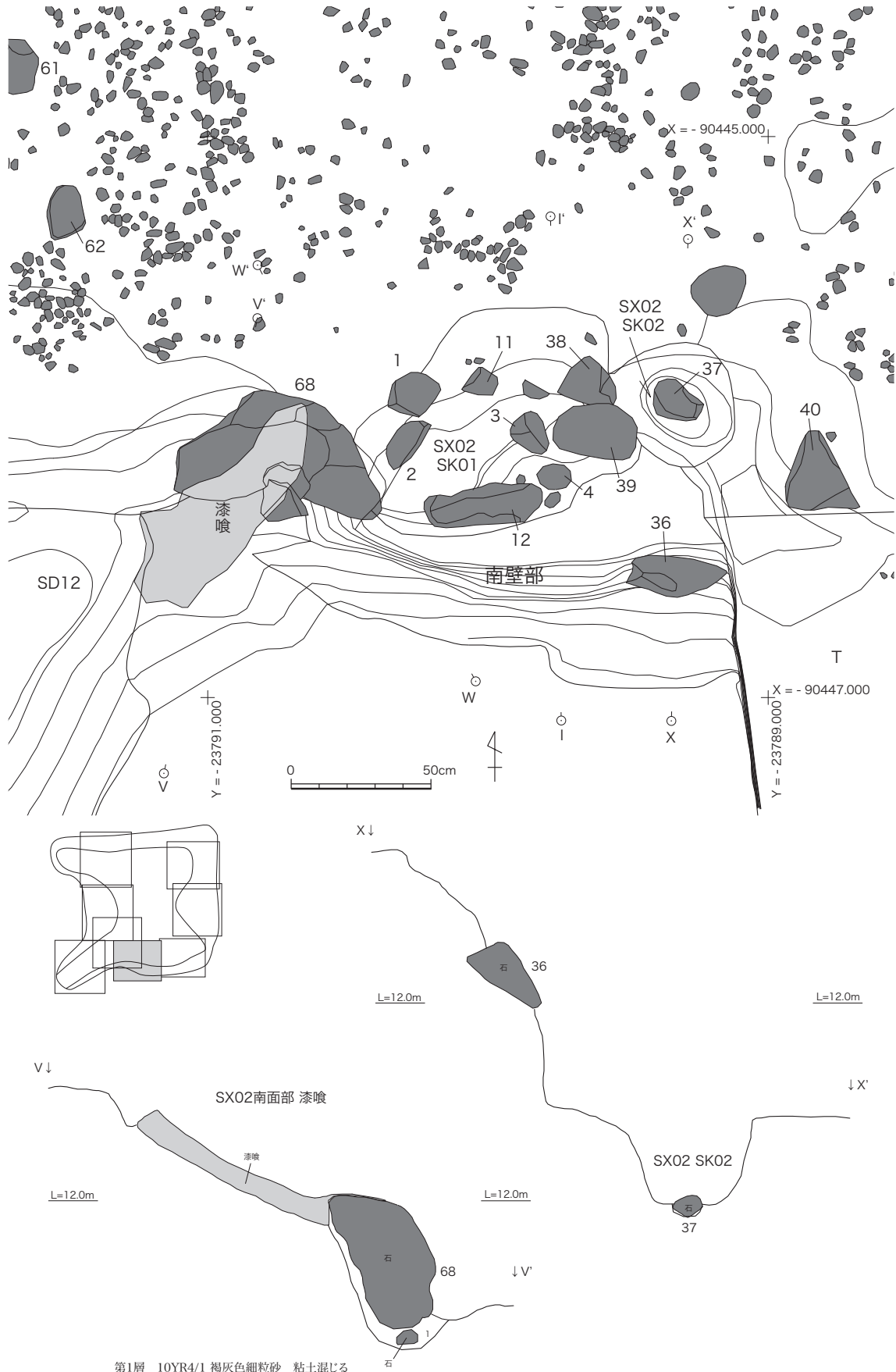
東辺北部で階段状の遺構が存在する。北壁は直線的に構築され東寄りの部分にはSD41が掘削されていた。埋土は灰色細粒砂と粘土の斑土が堆積しており、一気に埋め立てられたと考えられる。なお、池東辺に接する形で砂利敷SX03が存在し、SX02と一連の遺構の可能性が高い。

以上がSX02の形態的な概略である。次にSX02の性格や機能を検討する。まず、床に粘土

が貼られ四周の壁は漆喰で覆われていたことが予測されることから、SX02は水を貯める施設であることがわかる。しかも、南西部にスロープを持ち、その対角線上の北東部に排水溝と思われるSD41が存在することから、大局的には南西から北東に水を流したものと推定される。また、部分的に巨石や装飾的な石材が漆喰壁に埋め込まれていたことから、壁周囲に分布する土坑は埋め込ま



第42図 池SX02遺構詳細図(2)



第43図 池SX02遺構詳細図(3)

れた石の抜き取り穴であることが想定され、従って SX02 は石材で装飾された構築物であると考えられる。ただし、北壁は極めて直線的に構築され装飾を持たない構造を呈している。こうした状況を総合的に判断すると、石材を配置して漆喰壁で覆われた装飾的な庭園に伴う池と推定され、北側から観賞したものと想定されよう。なお、SX02 の時期は、出土遺物や他の遺構との関係から、C-3 期（18 世紀）に構築・廃絶されたと推定される。

さて、ここでは遺構の説明を行うために、導水部（南西部）、南壁部（築山?）、西張り出し部、東張り出し部、階段状遺構、北壁部、排水部（SD41）、床面、砂利敷（SX03）の 8 つの部分に分けて記述を進めたい。

#### 導水部（第 41・42 図）

導水部は SX02 の南西部に所在する。南西端部が高く北東方向に向かって下る傾斜となっており、傾斜角度は約 5°を測る。導水部の幅は上端部付近で約 2.0m、開口部付近で約 2.8m、長さは約 4.7m を測る。

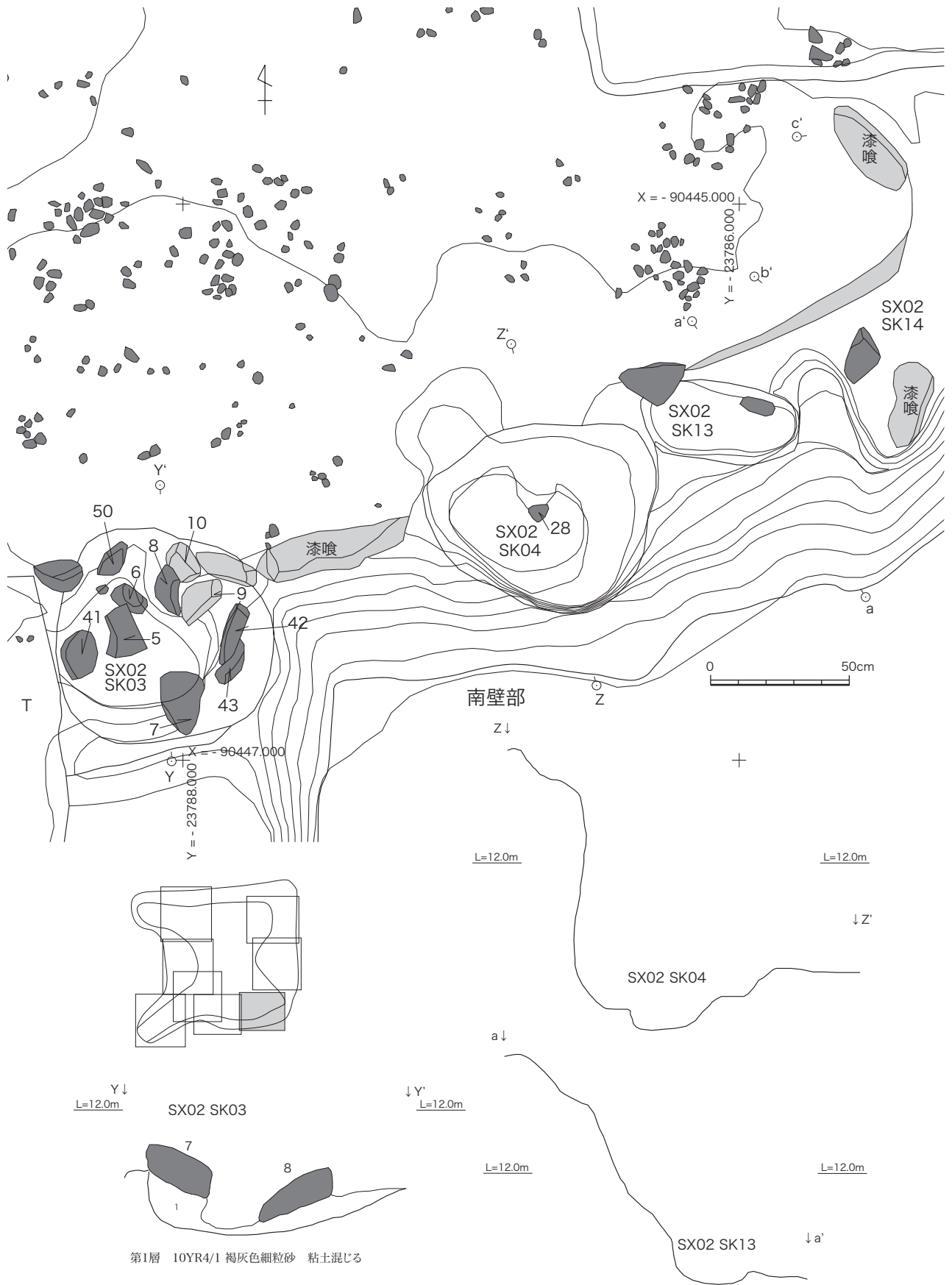
導水部上部では、北壁・床・南壁ともに厚さ 6cm の漆喰で覆われた状態が確認された。漆喰は「h」字状に残存していたが、一部の漆喰が直線的に欠落していた。欠落した部分が石の抜き取り痕か否かは特定し難いが、偶然に欠落したものは考えにくい。漆喰は中央部が幅約 1.4m の平坦面を形成し、両側は緩やかな断面 U 字状の形態となっている。漆喰の北側の平坦部と傾斜部の境界にはわずかな溝が存在する。導水部上位の漆喰には石材が 2 個埋め込まれていた。導水部上位中央部には直径が 70cm 程度の歪な円形プランの土坑（SX02SK20）が存在する。この土坑は中位まで灰黄褐色細粒砂が埋積され、その上には小石材が散乱していた。埋め込まれた巨石の抜き取り穴と想定される。漆喰下端の東側にも 70cm × 40cm の楕円形土坑が存在し、中からは中規模

の石材が 3 点ほど出土した。これも石抜き取り穴であろう。

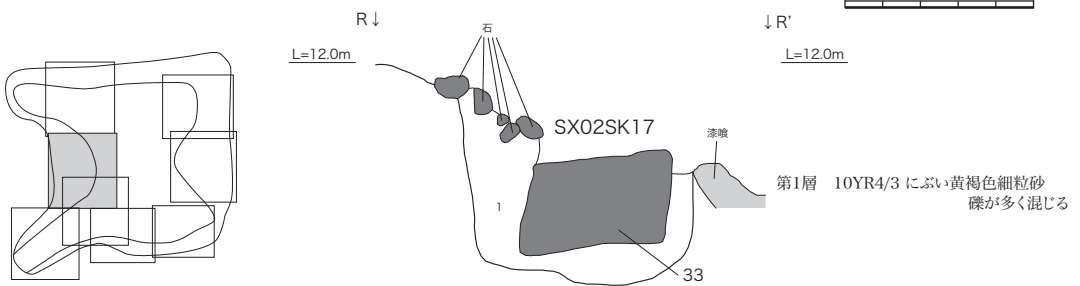
導水部下部（北東方向の大半）は傾斜を持つ地山の平坦面が広がり、他の構築物は全く存在しない。もともと地山面が露出していた可能性も考えられるが、ここでは上位に存在するような漆喰壁に覆われていたものと想定しておく。庭園の池の導水部としての景観を考えると、地山に影響を与えない程度の小規模の配石が存在したことも視野に入れておきたい。導水部最下部では地山あるいは薄い黄褐色粘土層上に玉石が敷かれた状態が展開し、導水部と池本体との境界部分には中規模な石材が 6 個確認された。これら 6 個の石材は全て据え付けられた状態では確認されず、本来の位置から移動している可能性が高い。実際 6 個の石材のうち 2 個については石材に漆喰が付着した状態が確認されもともと漆喰壁に埋め込まれていたことを窺わせている。しかしながら、6 個の石材が一部を除き直線的に検出されたこと自体が偶然の産物とは思われず、導水部と池本体の境界部に一程度の配石が存在したものと想定しておきたい。

導水部南壁中央部には SD12 が存在しているが、少なくとも漆喰壁で導水部が覆われていた段階ではこの SD12 は機能していなかったと考えられる。しかし、漆喰壁に覆われる以前（池構築段階か?）には SD12 と共存していた段階があったことが想定される。その理由は SD12 上層が SX02 に接する直前でラップ状に開き、SD12 上層の東壁が SX02 の南壁と連続するかのよう状態が確認されたためである。SD12 と SX02 の境界部は硬化した盛土によって山形に少し高くなっており、仮に SD12 を SX02 の水の供給源と想定するならば、境界部の高まりをオーバーフローした水流が池に流れたものと考えられることもできよう。一方、導水部上端南部には SD16 が存在するが、検出された長さが短くその性格は確定で





第44図 池 SX02 遺構詳細図 (4)



第45図 池 SX02 遺構詳細図 (5)

## 名古屋城三の丸遺跡 VII

きない。導水部の上端部は本来もう少し上位まで遺構が展開したと考えられ、導水部が漆喰壁に覆われていた段階の水供給源の遺構は、後世の削平により滅失したものとここでは考えておきたい。

### 南壁部（築山?）（第 43・44 図）

SX02 の南壁部は概ね直線的に東西方向に広がっている。西は導水部につながり、東は池壁が北に折れてそのまま東張り出し部に至る。西端部には巨石が埋め込まれた漆喰壁が広がり、中央部は壁が厚い斑土で整地された土壁となり、中央部から東端部にかけてはその手前に石抜き取り穴と思われる土坑が多数存在していた。

南壁部西端の SD12 東肩と接する部分には 76cm × 36cm × 46cm の規模を持つ巨石が据え付けられていた。巨石は深さ 10cm 強の土坑中に立て置かれ、巨石より上位は厚さ約 8cm の漆喰壁で覆われていた。漆喰は巨石上端部を覆うように設定されたが、巨石下部には漆喰壁は認められなかった。

南壁部中央には前時期に存在した SD14 があり、南壁から奥へ約 1.5m の範囲は灰白色粘土や褐色灰色粘土などにより突き固められていた。版築状に積み重ねられた盛土は標高 12.5m 前後まで確認されたが、これよりも高くなっていた可能性もある。このように粘土によって溝を堰き止め盛土を行った場所は南壁部中央のみであり、他の地点では確認できない。

南壁部の掘肩は凹凸があり平坦ではない。掘肩部分には池の埋土とは異なる盛土が存在し、これは石材を配置した際の裏込め土である可能性が高い。

南壁部の直下には多数の土坑が存在する。土坑の形状や規模は様々であるが、中から中小規模の石材や漆喰片などが出土し、土坑の周囲には漆喰壁や床面の粘土層が巡りやや盛り上がっていた。以上の所見から、これらの土坑は石抜き取り穴と推定され、本来据え付けられた石材は漆喰や粘土

により隙間が埋められ固定されていたと想像される。

SX02SK01 は南壁部西端にある巨石の東隣に所在する土坑で、100cm × 56cm の規模を持つ。土坑の周囲を巡るように S1、S2、S12、S42 などの石材が配置されていた。この土坑に庭石 1 石を配置したとすると相当大きな石材が使用された可能性が高い。

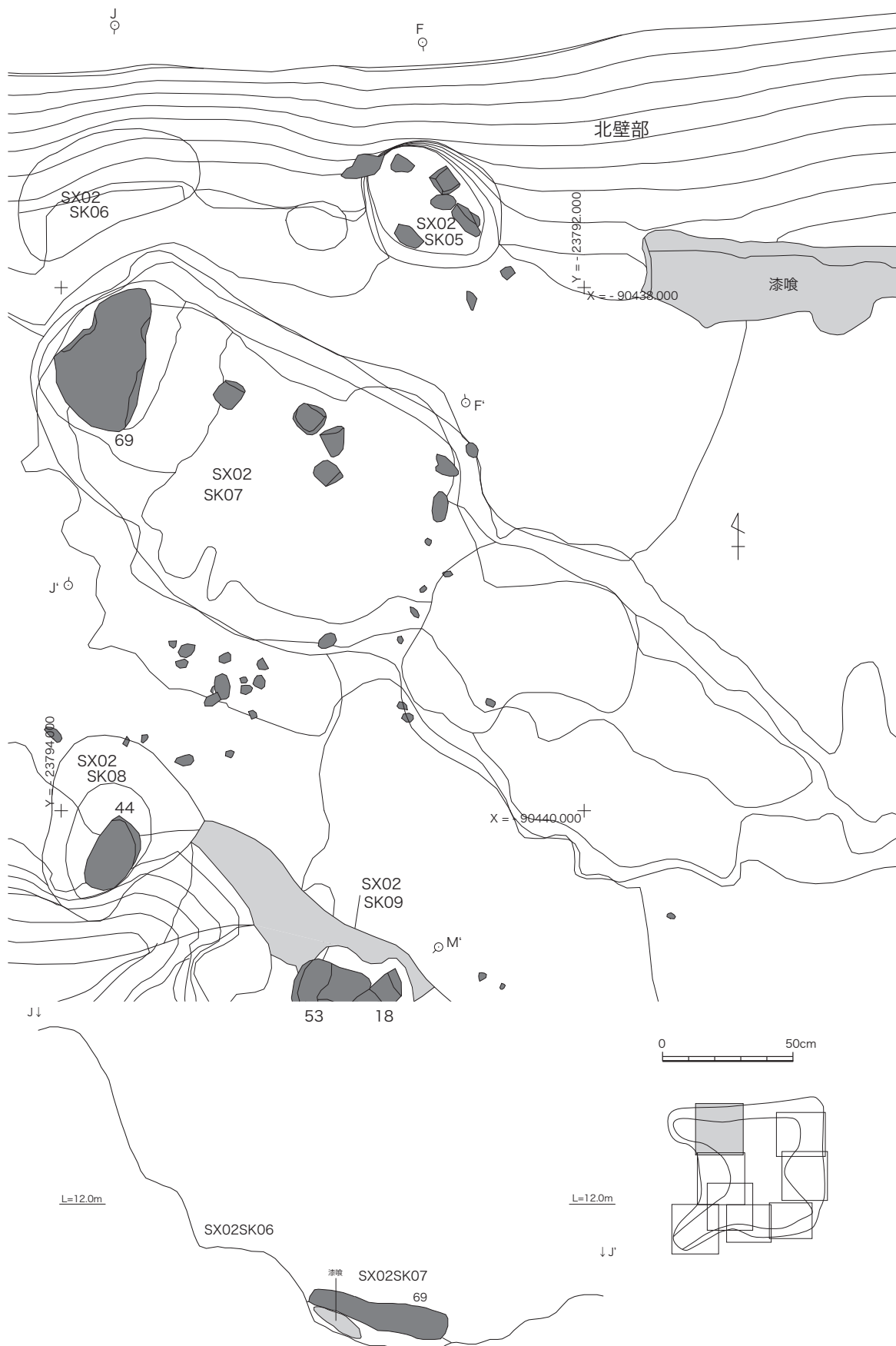
SX02SK02 は SX02SK01 の東隣に所在する土坑で、46cm × 44cm のほぼ円形プランとなっている。土坑の中央から石材 1 個 (S40) が出土した。SX02SK02 と SX02SK03 の間はトレンチ掘削のため不明な点が多いが、壁の奥側に抜き取り穴が存在した可能性がある。手前部分には S43 が存在する。

SX02SK03 は南壁部中央にある土坑で、78cm × 77cm の規模を持つ。土坑内部から S5 ~ 10、S44 ~ 46、S54 などの石材が出土した。石材の他に漆喰片も出土しており、石が抜き取られた後に部材が混入した状態が想定される。この土坑に庭石 1 石を配置したとすると相当大きな石材が使用された可能性が高い。

SX02SK04 は南壁部東部に位置する土坑で、84cm × 69cm の規模を持つ。土坑からは小石材が数個出土した程度である。SX02SK03 と SX02SK14 の間には漆喰壁が一部残存していた。

SX02SK13 は南壁部東端に所在する土坑で、57cm × 28cm の規模を持つ。土坑の周囲に数個の中小規模の石材が配置されていた。この土坑にはあまり大きくない石材が使用された可能性が高い。

SX02SK14 は南壁部東端に存在する土坑で、壁を横に掘り込んだ状態で確認された。土坑と盛土の識別は実際には難しいが、漆喰片や石材が出土したため土坑と確定した。SX02SK12 の前面には漆喰壁の立ち上がり部分が残存しており、池の平面プランはこの漆喰残存位置で特定できよ



第 46 図 池 SX02 遺構詳細図 (6)

## 名古屋城三の丸遺跡 VII

う。であるとすれば、SX02SK12 や SX02SK13 は漆喰壁のやや奥に設定されており石材は相当埋め込まれた状態であったと想像される。

上記の状態からみて、南壁部は概ね直線的に庭石が一行に配置されていたことが想定される。

### 西張り出し部 (第 45 図)

西張り出し部は SX02 の西部に所在する。西張り出し部本体は半円形に掘り残された半島状の高まりであり、その周囲には漆喰壁の護岸が施されその上位には土坑や石材が配置されている。上部は数個の石材が配置されている他は施設が遺存しない。西張り出し部の南側は導水部北壁に連続し、北側は壁が U ターンをして北壁部に至る。

西張り出し部南端では漆喰壁が高さ約 30cm、平面幅約 70cm で残存していた。漆喰の厚さは 12cm を測り、特に表面の厚さ 2cm の部分は肌理の細かい漆喰で丁寧に塗られていた。漆喰壁は東端部で最も高く遺存し、すぐ北側で約半分の高さとなっている。これはその背後が平坦面を形成していることに起因するものと思われる。漆喰壁の残存状況はさらに北に行くほど低くなり西張り出し部北側で漆喰壁は残っていない。

西張り出し部では、残存する漆喰壁の上位に石抜き取り穴と推測される土坑が 6 基存在する。残念ながら巨石が据え付けられていたままの部分は認められなかった。土坑の形状や規模は様々であるが、中から中小規模の石材や漆喰片などが出土していた。南壁部では漆喰壁下端付近で土坑が存在していたのに対して、西張り出し部では土坑が上位に存在する点が大きく異なる特徴であるといえよう。

SX02SK18 は西張り出し部南側にある段差状の土坑で、60cm 以上×40cm 以上の規模を持つ。土坑の岸側に S27、S37、S38、S52 などの中小規模の石材が配置されていた。この土坑の奥側に庭石 1 石を配置し中小規模石材を根固めとして利用したものと考えられる。

SX02SK17 は西張り出し部中央に所在する土坑で、約 70cm × 約 60cm の大きさを測る。土坑の岸側には上面が平坦で厚さが 22cm、平面形が 54cm × 34cm の平行四辺形の巨石 S36 が据え付けられ、その奥側に小規模な石材 S13 ~ S17 などが散乱していた。巨石 S36 は庭石 1 石を配置するための根石の可能性はある。

SX02SK16 は西張り出し部北側にある長方形土坑で、117cm × 80cm の規模を持つ。複数の土坑が重複してこの形状になった可能性もあり、S22 ~ S24 など多くの石材が配置されている。この土坑には複数の庭石が配置されたと思われる。

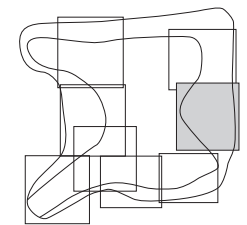
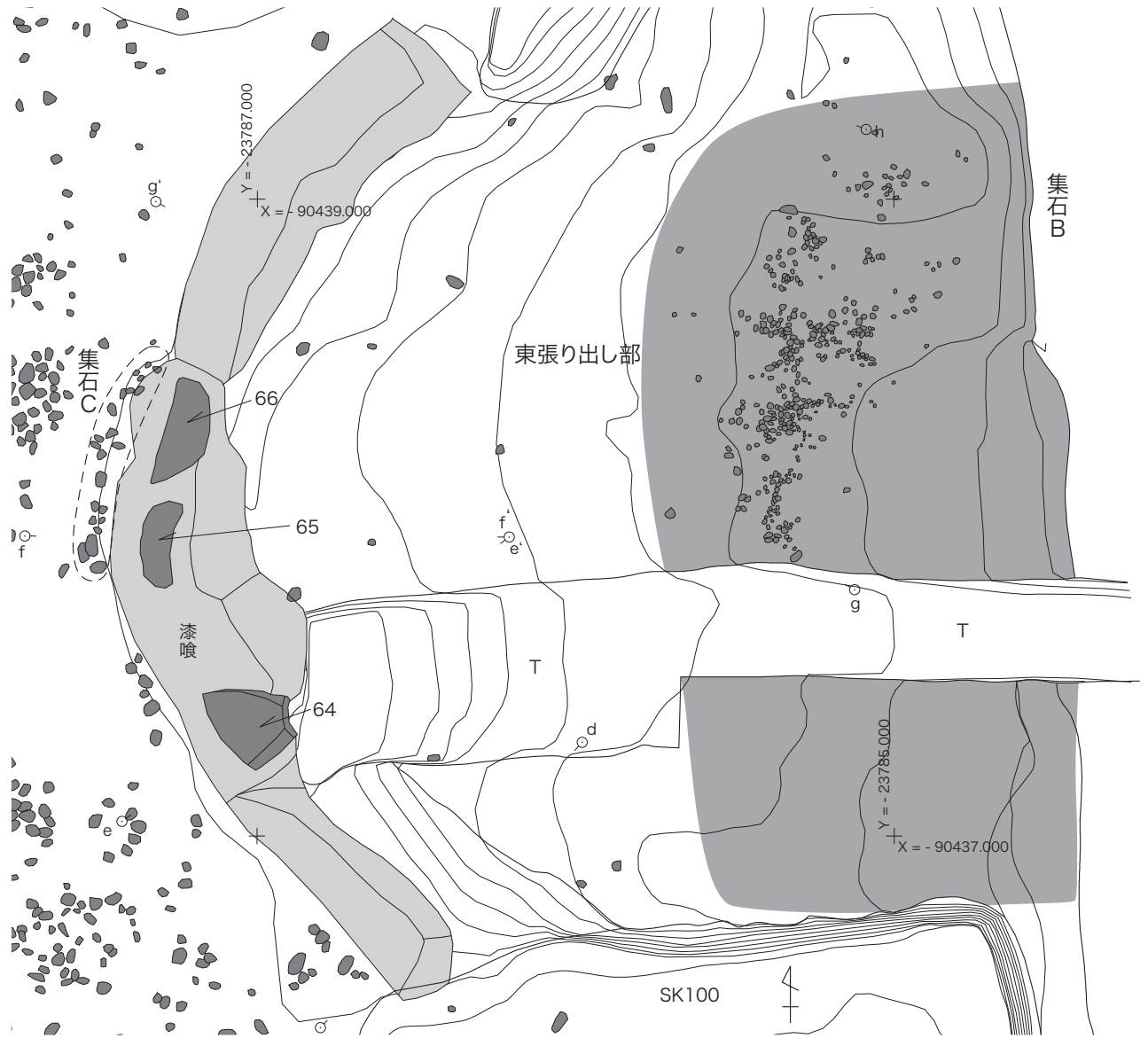
SX02SK09 は西張り出し部北側に所在する 124cm × 82cm の規模を持つ土坑である。土坑の上端部からの深さは 65cm を測る非常に深い土坑である。最下層からは鎌倉時代の山茶碗などが出土していることから、下部は B 期の遺構と推測される。一方、土坑の岸側の部分では S16、S19、S56 などの石材がおおよそ円形に配置されており、その中央に庭石 1 石が配置されたと思定できる。

SX02SK08 は西張り出し部北端にある土坑で、71cm × 62cm の規模を持つ。土坑中央には石材 S47 などが配置されていた。この石材は庭石を安置するための根石の可能性はある。漆喰壁はどの土坑まで残存し、土坑の西側には展開していない。

SX02SK15 は西張り出し部北端にある土坑で、91cm × 65cm の規模を持つ。土坑中央には石材 S30 などが配置されていた。この石材は庭石を安置するための根石の可能性はある。

上記のように西張り出し部の岸に沿った形で展開する土坑群の上位には、土坑など池の装飾などに関連する遺構は意外と少なく、石材 2 個と土坑 2 基が存在するのみである。土坑については池に伴う遺構と特定できない。





第 47 図 池 SX02 遺構詳細図 (7)

## 名古屋城三の丸遺跡 VII

### 東張り出し部 (第 47 図)

東張り出し部は SX02 の東部に所在する。東張り出し部本体は半円形に掘り残された半島状の高まりであり、その周囲には漆喰壁の護岸が施されその上位には土坑や大きな石材が配置されず、上部は小規模な白色の玉石が敷き並べられている他は施設が遺存しない。西張り出し部の南側は S K 100 によって破壊され、南壁部との接続状況は不明である。北側は土坑が 3 基と階段状遺構が存在する。階段状遺構の右手床面には巨石が据え付けられた状態が確認された。土坑と階段状遺構以外の壁は漆喰によって覆われ、そのまま北壁に連続している。

東張り出し部は西張り出し部と異なり、半分ほどが盛土されて構築されている。当初の掘肩は下端部で 1.3m ほど掘り残した状態であり、その後粘土混じりの黒褐色細粒砂で高さ約 75cm、幅 2m 強、先端に向かって約 1.5m 盛土されていた。当初の掘肩ラインで池が機能していた可能性も考えられるが、この段階での土坑や石材は確認されなかった。

盛土の先端では漆喰壁が高さ約 30～50cm、厚さ約 20～30cm で残存していた。漆喰は上位が削られた可能性があるが、それほど高くはないと思われる。先端部中央部の漆喰壁には黒色の直方体状の石材が 3 個埋め込まれており、黄白色の壁面に四角い黒色石が浮かぶ形となっている。石材の下端は床面から約 20cm 上位に揃った状態であり、構築段階で想定された池の水位は黒色石に近似した 20cm くらいであったと想定できる。北部に行くに従い漆喰壁は高く遺存している。漆喰壁は少なくとも先端部では 2 段階に塗られていたことが判明している。これが床面の新旧に対応していた。

漆喰壁の上位には、白色シルトブロックを多量に含む土層で整地され、その上に白色の径 2cm 程度の玉石が敷き並べられていた。石の抜き取り

穴や大型の石材が存在しないことから非常に平板な構造を呈していたといえる。

### 階段状遺構 (第 48 図)

階段状遺構は SX02 の東辺の北部にあり、段差が素掘りで 4 段設けられていた。周辺に土坑が 3 基存在する。巨石が据え付けられていたものはなく、土坑の設置位置も様々であった。

階段状遺構の北側は約 45 度の傾斜で池底に至り、階段状遺構は掘肩上位から設置されていた。上位から 1 段目の段差は明瞭ではなく、4 段目の段差は SX02SK11 のため正確な形状を把握できない。幅は上端部で約 1.1m、下端(段差)部で 0.7m を測る。段差部分では石材や石材が抜き取られた痕跡などを見出すことはできなかった。しかし、検出時点でも地盤が不安定な状態であったため、本来は石材が組まれていたと想定される。

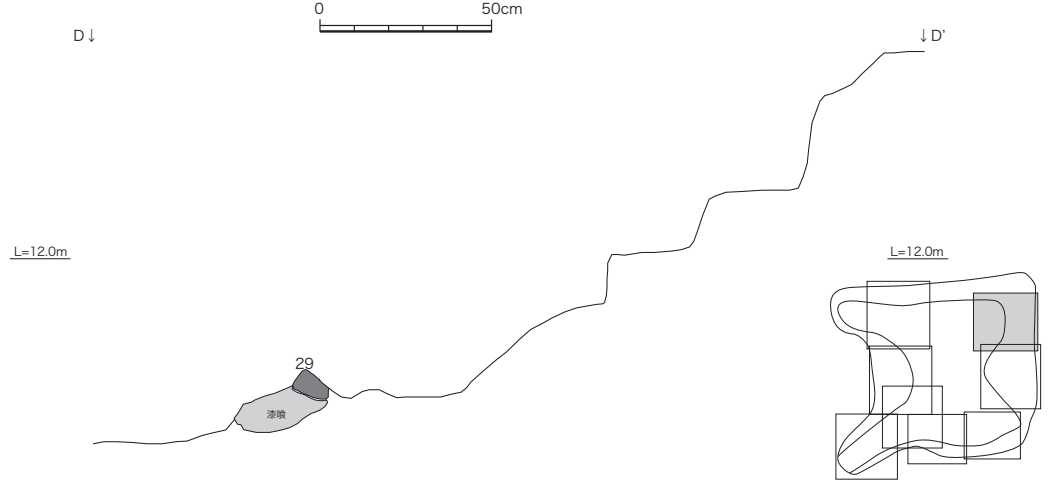
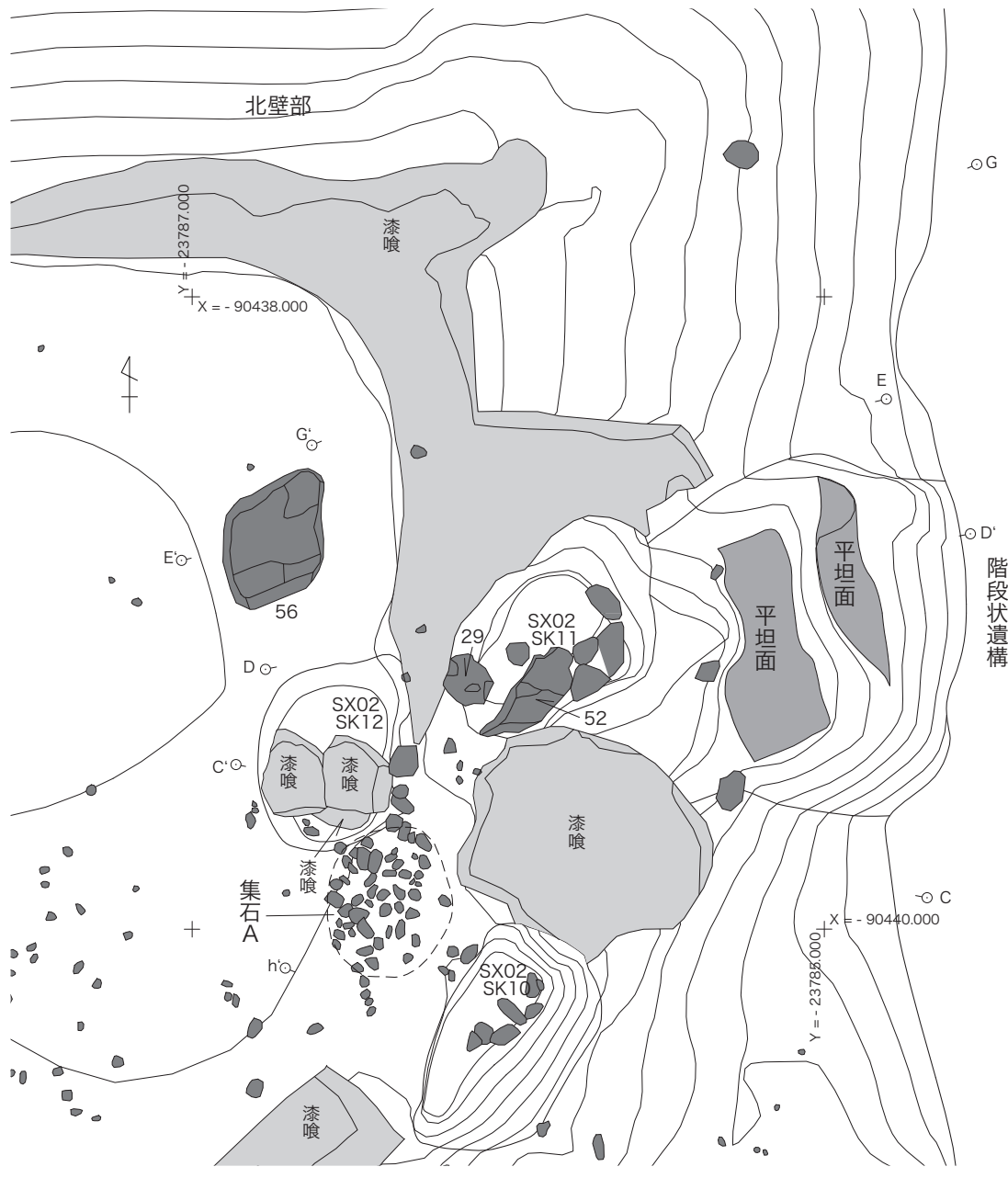
SX02SK11 は階段状遺構の下半部北寄りに所在する 82cm × 54cm の規模を持つ土坑である。土坑内で中小規模の石材が南側に偏って配置されており、庭石 1 石が配置されたと想定できる。

SX02SK12 は階段状遺構直下にある土坑で、58cm × 46cm の規模を持つ。土坑中央には漆喰片などが出土しており、石が抜き取られた後に漆喰を埋めたものと考えられる

SX02SK10 は階段状遺構の南部に位置する土坑で、76cm × 46cm の規模を持つ。階段状遺構とは漆喰壁を挟んで約 60cm 離れた場所にあり、土坑中央には小石材が出土した。この土坑の存在で漆喰壁は分断されていた。

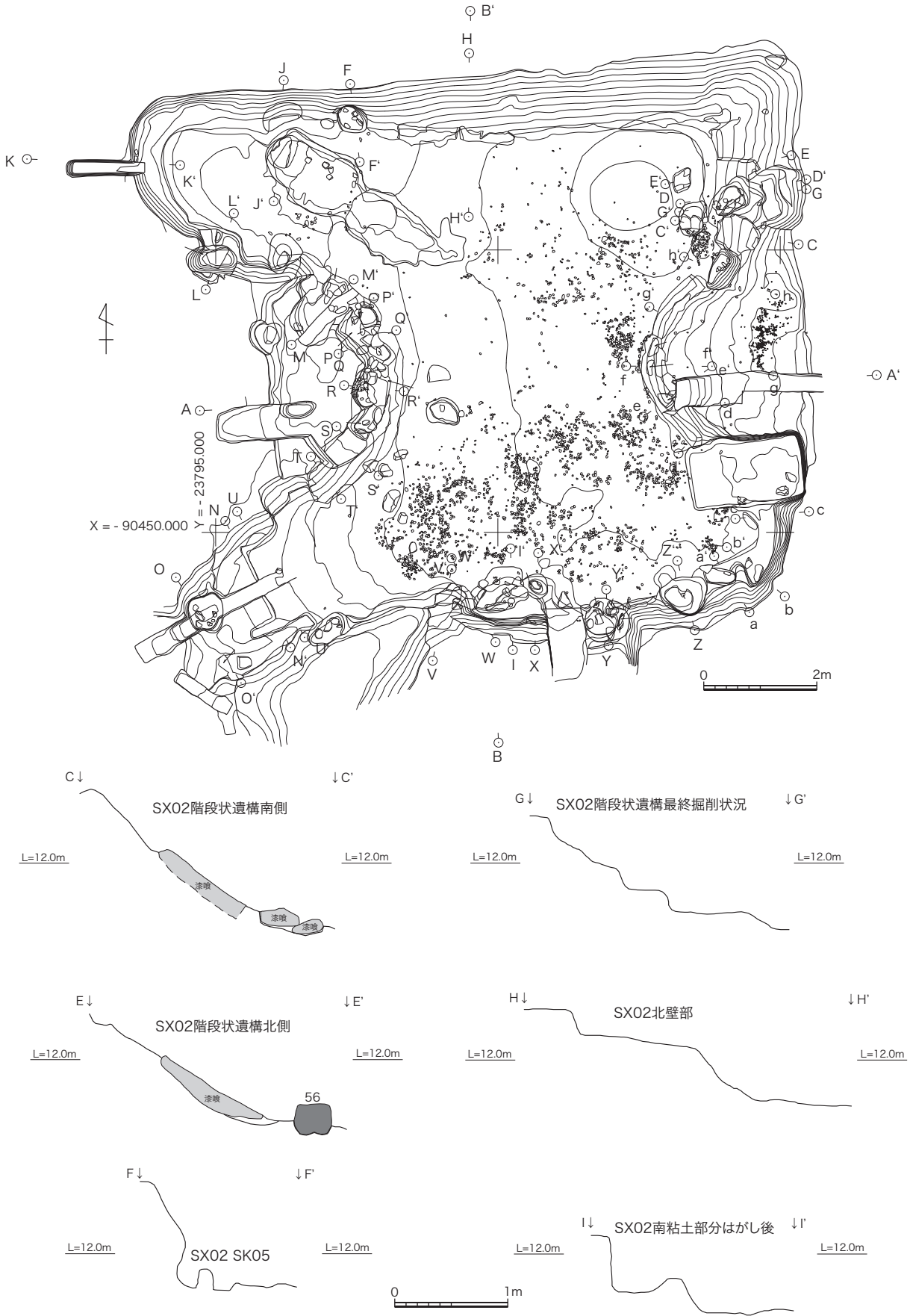
SX02SK10 と SX02SK12 との間の床面には玉石が集中して分布する部分(集石 A)が存在する。この集石も池を装飾するための施設の基礎の可能性はある。

SX02SK12 の北部には一辺が約 40cm の黄色チャートが床面に据え付けられる形で検出された。床面にわずかな窪みに石を置き周囲を床面を覆う黄褐色粘土で固められていた。階段状遺構に



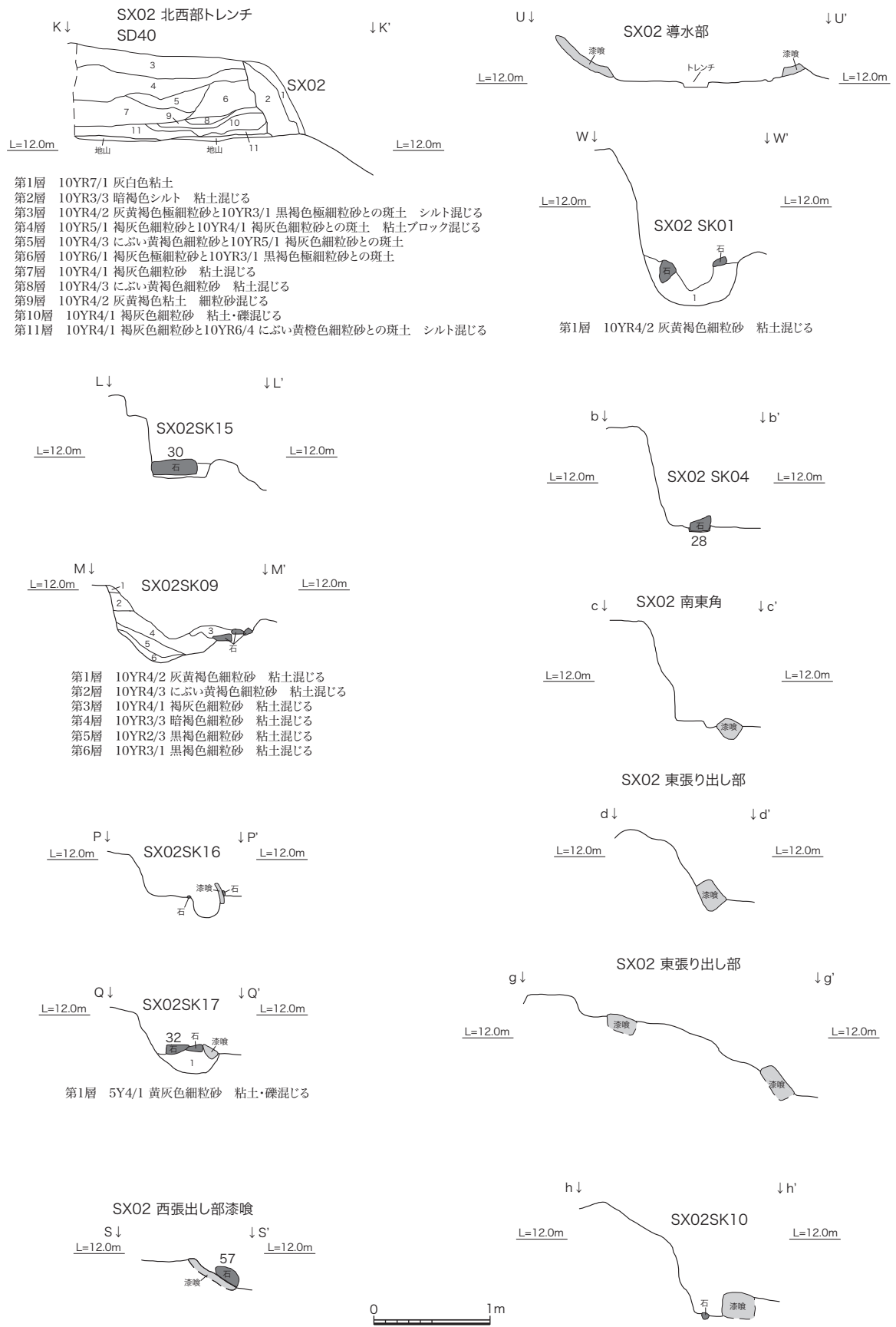
第 48 図 池 SX02 遺構詳細図 (8)

名古屋城三の丸遺跡 VII



第49図 池 SX02 エレベーション図 (1)

遺構



第 50 図 池 SX02 エレベーション図 (2)



## 名古屋城三の丸遺跡 VII

近接するため手水鉢台用の石材の可能性も考えられる。

### 北壁部（第 46 図）

北壁部は池の直線的な北面を指し、西部に土坑が 2 基、東部に SD41 の排水口が設置されていた。これ以外の部分は約 50 度の傾斜で素掘りの地山が大きな平坦面を形成して露出し、下端部で一部漆喰壁が残存していた。この状態から見て本来は土坑と排水溝を除く部分は北壁全体が漆喰壁に覆われていたと想定される。

SX02SK06 は北壁西部に所在する土坑で 72cm × 38cm の規模を持つ楕円形土坑である。石材がほとんど出土しておらず、池よりも古い遺構である可能性も想定できる。

SX02SK05 は北壁西部にある土坑で、60cm × 48cm の規模を持つ。土坑中央には小規模な石材などが出土しており、石が抜き取られた後に漆喰を埋めたものと考えられる。

### 排水部 SD41（第 52 図）

排水部 SD41 は S X02 北壁部の東部に所在する溝で、南北方向に走る。上端幅約 4.0m、下端幅約 2.5m、深さ約 1.2m の規模を持つ断面形が逆台形を呈する形状で、溝底は池の床面からは約 15cm 上位に存在した。内部は細粒砂やシルトの斑土で充填されており、廃絶の際に一気に埋め立てられたと考えられる。溝は池の状況からみて暗渠であった可能性が考えられ、おそらく石組暗渠が壊され抜き取られた後に整地されたのであろう。

なお、北壁土層断面では 29 層より上位に建物跡と思われる柱穴と根石が確認され、SD41 構築後に建物遺構が存在したことが予測される。

### 床面（第 51 図）

池の床面は南西部が最も高く北東部が最も低い。全体には西側が高く東側が低い傾斜となっている。床面は全部で 3 段階に分けることができる。

上位の床面は池廃絶時点までの最終床面に相当

し、表面が黄褐色粘土で覆われていた。黄褐色粘土層の上面には大量の黄色チャート製の自然石の玉石が敷かれていた。玉石は南部で多く認められ北西部では少ない傾向がある。この床面は東張り出し部先端の漆喰壁の表面と対応している。

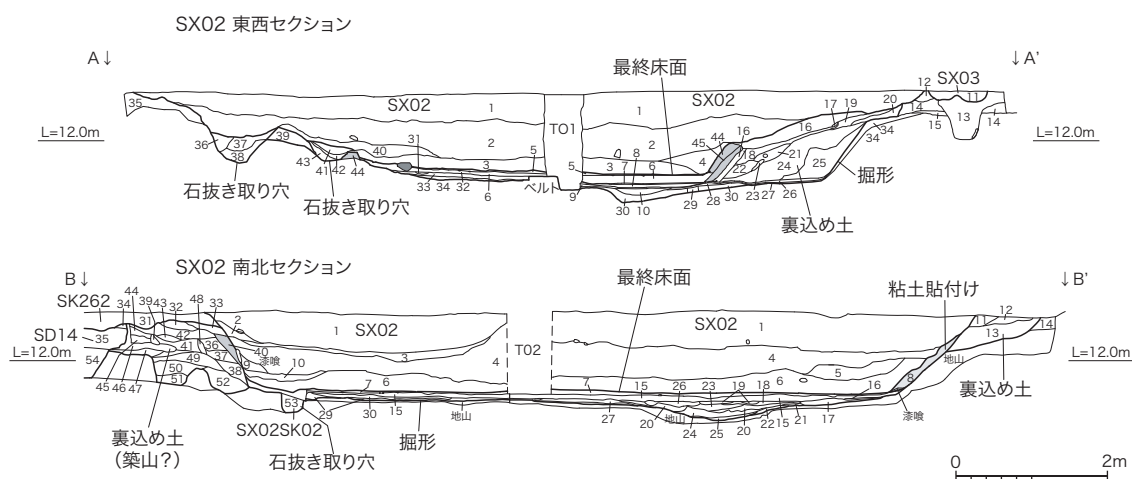
中位の床面は、厚さ約 5cm の黒褐色土が混じる細粒砂層を挟んで上位床面より下位に存在する面である。中位床面は部分的にしか確認されず、下位床面と区分できないところがある。表面は灰黄色細粒砂層で覆われているが、玉石はほとんど敷かれていなかった。初めから玉石が存在しなかったのか、上位床面構築段階で削り取られたのかは特定し得ない。この床面は東張り出し部先端の漆喰壁の塗り直し前の表面と対応している。

下位の床面は池の掘肩に相当する地山面である。この面が池として機能していたのかは明らかではない。表面は粘土や玉石などによる装飾は全く施されていない。

床面にはいくつかの浅い土坑が上位床面で 2 基、下位床面で 1 基確認された。SX02SK07 は全長 4.0m、幅 1.2m を計る溝状の土坑で、上位床面で構築されていた。SX02 の北西部に所在し斜め方向に走り、中部で括れを持ちそこに段差が生じている。土坑の北西端に大型の石材が据え付けられ、南東方向に向けて小規模な石材が散乱していた。SX02SK22 は直径約 2m の円形土坑で、上位床面から構築されていた。SX02 の北東部に所在し、緩やかな窪みを形作っていた。石材はほとんど確認できなかった。一方、SX02SK23 は下位床面から構築されていた。北西から南東方向に伸びる細長い形状で、SX02 の中央部に所在する。内部にはにぶい黄褐色シルトなどで充填され整地されていた。

### SX03（第 52 図）

SX02 東辺上端に接する形で並走する溝状の砂利敷遺構である。北端は調査区外に伸びるが、南端は池の南部付近で収束する。幅は約 1.05m、



東西セクション土層説明

- 第1層 10YR5/1 褐灰色細粒砂 シルト混じる、瓦多く混じる
- 第2層 5Y4/1 灰色細粒砂 粘土・白色シルトブロック混じる
- 第3層 N4/ 灰色細粒砂 粘土ブロック混じる
- 第4層 N5/ 灰色極細粒砂 粘土混じる、漆喰状ブロック若干混じる
- 第5層 2.5Y6/2 灰黄色中粒砂
- 第6層 2.5Y4/3 オリーブ褐色細粒砂 黒褐色土混じる
- 第7層 10YR4/1 褐灰色極細粒砂 粘土混じる
- 第8層 2.5Y6/2 灰黄色細粒砂 灰色土混じる
- 第9層 5YR3/3 暗赤褐色極細粒砂 粘土混じる
- 第10層 2.5Y5/3 黄褐色極細粒砂 黒色土ブロック混じる
- 第11層 7.5YR4/2 灰褐色細粒砂 3cmでの砂利を大量に含む
- 第12層 7.5YR4/3 褐色極細粒砂 細粒砂混じる
- 第13層 斑土(2.5Y4/1 黄灰色細粒砂 + 2.5Y5/2 暗灰黄色細粒砂)
- 第14層 5YR3/1 黒褐色細粒砂 粘土混じる
- 第15層 7.5YR2/1 黒色細粒砂 粘土混じる
- 第16層 10YR3/2 黒褐色細粒砂 白色シルトブロック多く混じる
- 第17層 2.5Y8/4 淡黄色粘土(貼り)粘土
- 第18層 2.5Y4/1 黄灰色細粒砂 粘土混じる、白色シルト粒若干混じる
- 第19層 2.5Y6/1 黄灰色細粒砂 白色シルトブロック多く混じる
- 第20層 7.5YR3/2 黒褐色細粒砂 粘土混じる
- 第21層 10YR4/1 褐灰色細粒砂 白色シルトブロック混じる
- 第22層 10YR5/1 褐灰色細粒砂 白色シルト粒混じる
- 第23層 7.5YR6/1 褐灰色粘土
- 第24層 斑土(10YR8/1 灰白色シルト + 10YR4/1 褐灰色極細粒砂) 赤褐色土・黒色土混じる
- 第25層 5Y8/1 灰白色粘土
- 第26層 2.5Y5/3 黄褐色極細粒砂 黒褐色土混じる
- 第27層 5YR4/6 赤褐色極細粒砂 粘土・灰色土混じる
- 第28層 10YR5/4 にぶい黄褐色極細粒砂
- 第29層 7.5YR4/2 灰褐色シルト 黒色土混じる
- 第30層 10YR7/3 にぶい黄褐色シルト 粘土混じる
- 第31層 7.5YR4/4 褐色細粒砂 下部に酸化部分有り
- 第32層 10YR4/4 褐色細粒砂 赤色土・黒色土混じる
- 第33層 10YR6/1 褐灰色極細粒砂 粘土・赤色土・黒色土・黄色土混じる 上部に酸化部分有り
- 第34層 10YR6/6 明黄褐色粘土(地山)
- 第35層 2.5Y8/4 淡黄色粘土(地山)
- 第36層 N3/ 暗灰色粘土
- 第37層 N5/ 灰色細粒砂 炭化物若干含む
- 第38層 N4/ 灰色粘土 細粒砂混じる、粘土・炭化物わずかに混じる
- 第39層 5Y7/2 灰白色中粒砂
- 第40層 5Y5/1 灰色細粒砂 粘土混じる
- 第41層 N5/ 灰色粘土 細粒砂混じる、白色粘土ブロック若干混じる
- 第42層 N5/ 灰色粘土 細粒砂混じる、白色粘土ブロック多く混じる
- 第43層 N4/ 灰色粘土 細粒砂混じる、炭化物わずかに混じる
- 第44層 漆喰 N8/ 灰白色 粒子細かい
- 第45層 漆喰 7.5Y8/1 灰白色 粒子粗い

南北セクション土層説明

- 第1層 10YR5/1 褐灰色細粒砂 シルト混じる、瓦多く含む
- 第2層 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂 シルト混じる
- 第3層 10YR4/1 褐灰色細粒砂 粘土混じる
- 第4層 2.5Y4/1 黄灰色細粒砂 粘土混じる、白色の粘土ブロックを若干含む
- 第5層 N5/ 灰色極細粒砂 粘土混じる、漆喰状ブロック若干混じる
- 第6層 N4/ 灰色細粒砂 粘土ブロック混じる
- 第7層 5Y7/1 灰白色中粒砂
- 第8層 7.5Y7/1 灰白色粘土
- 第9層 10YR4/3 にぶい黄褐色細粒砂 粘土混じる
- 第10層 10YR4/4 褐色細粒砂 粘土混じる
- 第11層 10YR6/2 灰黄褐色細粒砂 黒色土・黄色土・白色シルトブロック混じる
- 第12層 7.5YR6/2 灰褐色細粒砂 黄色土・白色シルトブロック混じる
- 第13層 7.5YR3/2 黒褐色細粒砂 黄色土混じる、白色シルトブロック多く混じる
- 第14層 10YR3/2 黒褐色極細粒砂 粘土混じる、焼土わずかに混じる
- 第15層 10YR4/4 褐色細粒砂 赤色土・黒色土混じる
- 第16層 10YR6/1 褐灰色極細粒砂 粘土・黒色土混じる 上部に酸化部分有り
- 第17層 2.5Y5/4 黄褐色極細粒砂 黒色土・白色シルトブロック混じる
- 第18層 10YR6/1 褐灰色極細粒砂 粘土・黒色土・白色シルトブロック混じる
- 第19層 斑土(10YR7/6 明黄褐色極細粒砂 + 10YR7/1 灰白色極細粒砂) 黒色土混じる
- 第20層 2.5Y5/3 黄褐色極細粒砂 わずかに黒色土混じる
- 第21層 10YR5/4 にぶい黄褐色極細粒砂
- 第22層 7.5YR5/8 明褐色極細粒砂 粘土混じる、下部に酸化部分有り
- 第23層 斑土(10YR6/1 褐灰色細粒砂 + 2.5Y5/3 黄褐色細粒砂 + 2.5Y2/1 黒色細粒砂) 粘土・白色シルトブロック混じる
- 第24層 斑土(10YR6/1 褐灰色細粒砂 + 2.5Y5/3 黄褐色細粒砂 + 2.5Y2/1 黒色細粒砂) 粘土・白色シルトブロック混じる、赤褐色土多く混じる
- 第25層 2.5Y5/4 黄褐色極細粒砂 灰色土混じる 下部に酸化部分有り
- 第26層 10YR4/1 褐灰色細粒砂 粘土・黒色土ブロック混じる、白色シルトブロック多く混じる
- 第27層 2.5Y5/3 黄褐色極細粒砂 黒色土ブロック混じる、黄色土わずかに混じる
- 第28層 10YR4/1 褐灰色極細粒砂 粘土・黒色土ブロック混じる
- 第29層 10YR3/4 暗褐色極細粒砂 粘土・灰色土・赤色土・黄色土・白色シルトブロック混じる
- 第30層 10YR6/1 褐灰色極細粒砂 粘土混じる 黒色土・黄色土・白色シルトブロック混じる
- 第31層 10YR5/2 灰黄褐色細粒砂 粘土混じる SK262埋土
- 第32層 5Y7/2 灰黄色細粒砂
- 第33層 7.5Y7/2 灰白色極細粒砂
- 第34層 10YR5/2 灰黄褐色細粒砂
- 第35層 10YR4/1 褐灰色細粒砂 粘土混じる 整地層
- 第36層 2.5Y7/1 灰白色細粒砂 炭化物混じる
- 第37層 2.5Y6/1 黄灰色細粒砂 粘土粒混じる
- 第38層 2.5Y6/1 黄灰色粘土 粘色土粒混じる
- 第39層 10YR7/2 にぶい黄褐色粘土
- 第40層 7.5YR7/1 明褐灰色漆喰
- 第41層 10YR7/1 灰白色粘土 細粒砂混じる
- 第42層 2.5Y7/2 灰黄色シルト 白色シルトブロック混じる
- 第43層 2.5Y7/3 浅黄色粘土
- 第44層 2.5Y7/2 灰黄色粘土
- 第45層 2.5Y6/1 黄灰色細粒砂 シルト混じる
- 第46層 10YR8/1 灰白色粘土 褐色土ブロック混じる
- 第47層 10YR3/1 黒褐色細粒砂 粘土混じる
- 第48層 2.5Y6/1 黄灰色漆喰
- 第49層 2.5Y8/1 灰白色粘土
- 第50層 10YR6/2 灰黄褐色粘土 細粒砂混じる
- 第51層 10YR5/1 褐灰色粘土 白色シルト混じる
- 第52層 7.5YR6/1 褐灰色粘土 黒褐色土ブロック混じる
- 第53層 7.5YR4/1 褐灰色粘土 細粒砂混じる
- 第54層 10YR3/1 黒褐色粘土 細粒砂・白色粘土ブロック混じる SD14埋土

第 51 図 池 SX02 土層断面図

## 名古屋城三の丸遺跡 VII

深さは北壁土層断面で 65cm を測る溝であり、内部は砂利で充填されていた。この結果、遺構検出状態では幅約 1m の砂利敷帯が南北に伸びる状態であった。SX03 は部分的に SX02 を切る地点が存在するために池とは関係が無い可能性が残されるが、ここでは遺構の配置からみて一連の遺構と考えておきたい。

### 石材

石材の同定結果については第 4 章第 4 節で詳述するが、ここでは本来据え付けられていた石材の配色と玉石の種類と規模についてまとめておきたい。

本来据え付けられていた石材の配色については、肝心の石材の大多数が抜き取られているために全容を解明することはできない。しかし限られた資料からでも一定の傾向を知ることができる。導水部や床面に埋め込まれた石材は緑色片岩、東張り出し部に埋め込まれた石材は黒色の砂岩が使用されていた。南壁の巨石は砂岩であったが、抜き取られた石材が同様であったか否かは疑問である。階段状遺構前の石材は単独で据えられていたため、黄色チャートが意図的に選択されていたと推測される。

一方、玉石の種類と規模については、採取さ

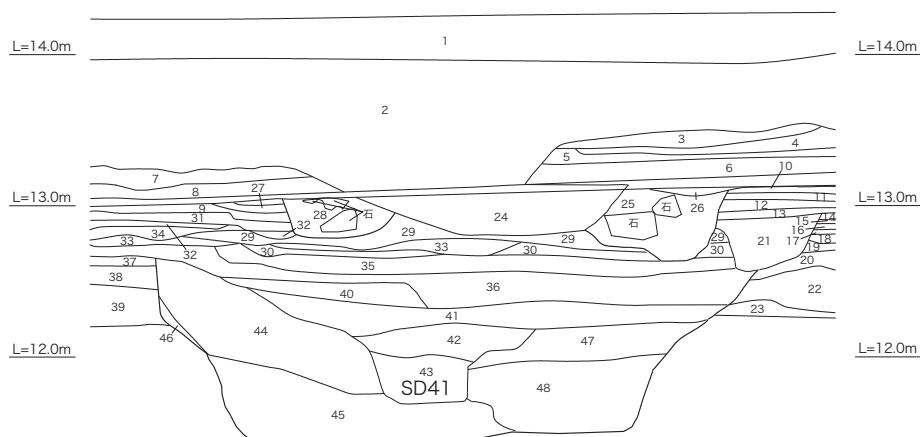
れた場所によって傾向が異なっている。床面は 4 地区に分割し、その他に東張り出し部表面、SX03、集石 5 箇所、玉石類が多く出土した池内土坑 3 箇所をサンプルとして分析した(第 54 図)。その結果が第 5 表である。

これをみると、床面では径 3～5cm 程度の垂円礫チャートが多用されている。東張り出し部表面では径 1～2cm 程度の円礫珪質岩が多用されている。SX03 では様々な大きさの様々な石種の玉石が用いられていた。角礫が多いことも特徴である。集石や池内土坑では大きさが多少ばらつく。他は床面の玉石と同様な状況であった。

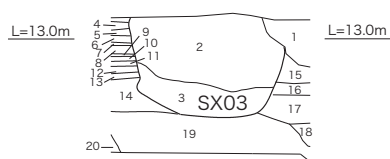
以上の結果から、石材は使用された部位によって意図的に選択されたことが判明した。

### まとめ

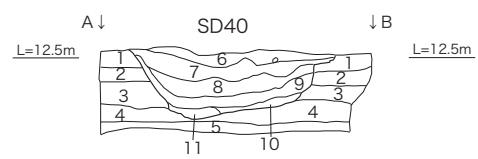
以上が池状遺構 SX02 の詳細である。全体として石の大部分が抜き取られるなど本来の形状をとどめていないが、その痕跡からは池構築が入念に行われていた雰囲気を読み取ることができた。江戸時代の庭園史を語る上で貴重な資料になることは相違ないだろう。なお、この結果から想定される本来あった池の形状(最終段階：上位床面の時期)については第 5 章第 4 節で考察するので、そちらも参照されたい。



- 第35層 10YR3/3 暗褐色細粒砂 黄色土ブロック混じる、粘土粒・赤色土粒少量混じる
- 第36層 10YR4/1 褐灰色細粒砂 黒色土混じる、黄色土ブロック・炭化物・小石少量混じる
- 第37層 10YR4/3 におい黄褐色細粒砂 暗褐色土・粘土混じる、赤焼土・炭化物少量混じる
- 第38層 10YR6/4 におい黄褐色細粒砂 粘土・赤褐色土粒混じる
- 第39層 10YR3/1 黒褐色細粒砂 褐色土ブロック混じる、小石少量混じる
- 第40層 10YR3/1 黒褐色細粒砂 粘土・赤色土粒・炭化物混じる
- 第41層 10YR5/4 におい黄褐色細粒砂 赤褐色土・黒褐色土ブロック・小石混じる
- 第42層 2.5Y4/2 暗灰黄色細粒砂 におい黄褐色土・におい黄褐色土ブロック・礫混じる
- 第43層 10YR3/1 黒褐色細粒砂 粘土・黄褐色土粒・赤褐色土・炭化物混じる
- 第44層 10YR3/3 暗褐色細粒砂 粘土ブロック・赤褐色土ブロック・におい黄褐色土混じる
- 第45層 10YR2/2 黒褐色シルト 赤褐色シルトブロック・黄褐色土・粘土粒・炭化物混じる
- 第46層 10YR2/3 黒褐色細粒砂 暗褐色土粒・粘土粒混じる
- 第47層 10YR4/4 褐色細粒砂 明褐色土ブロック・黒褐色土ブロック・粘土・焼土混じる
- 第48層 10YR5/4 におい黄褐色極細粒砂 におい黄褐色粘土・黒褐色土・黄褐色土ブロック・焼土ブロック混じる



- 第1層 2.5Y4/1 黄灰色中粒砂 炭化物・小石・白色シルトブロック多く混じる
- 第2層 10YR4/1 褐灰色細粒砂 炭化物混じる、小石多く混じる
- 第3層 10YR4/2 灰黄褐色中粒砂 炭化物混じる、小石かなり多く混じる
- 第4層 7.5YR4/6 褐色細粒砂 10YR4/4 褐色土・小石混じる
- 第5層 10YR3/3 暗褐色細粒砂 黄色土ブロック少量混じる、小石混じる
- 第6層 10YR3/1 黒褐色細粒砂 粘土粒・赤色土粒・炭化物・小石・瓦片少量混じる
- 第7層 10YR4/2 灰黄褐色中粒砂 黒褐色土混じる、褐色土粒少量混じる
- 第8層 10YR3/2 黒褐色細粒砂 赤褐色土・黄褐色土混じる
- 第9層 10YR4/4 褐色細粒砂 粘土・黄褐色土粒混じる
- 第10層 10YR8/2 灰白色シルト 粘土層 褐色土粒混じる
- 第11層 10YR3/3 暗褐色細粒砂 炭化物・小石少量混じる
- 第12層 10YR8/1 灰白色シルト 粘土層 浅黄褐色土混じる、黒色土ブロック少量混じる
- 第13層 10YR5/4 におい黄褐色細粒砂 粘土ブロック混じる、黒褐色土ブロック少量混じる
- 第14層 10YR4/3 におい黄褐色極細粒砂 黒褐色土混じる
- 第15層 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂 炭化物混じる
- 第16層 10YR3/2 黒褐色細粒砂 褐色土・黒色土ブロック・焼土・炭化物混じる
- 第17層 10YR3/2 黒褐色細粒砂 粘土・黄褐色シルトブロック・黒色土・焼土・炭化物混じる
- 第18層 10YR3/1 黒褐色極細粒砂 粘土・炭化物混じる、焼土わずかに混じる
- 第19層 10YR3/1 黒褐色細粒砂 粘土混じる
- 第20層 10YR3/4 暗褐色細粒砂 におい黄褐色土・粘土混じる、炭化物少量混じる

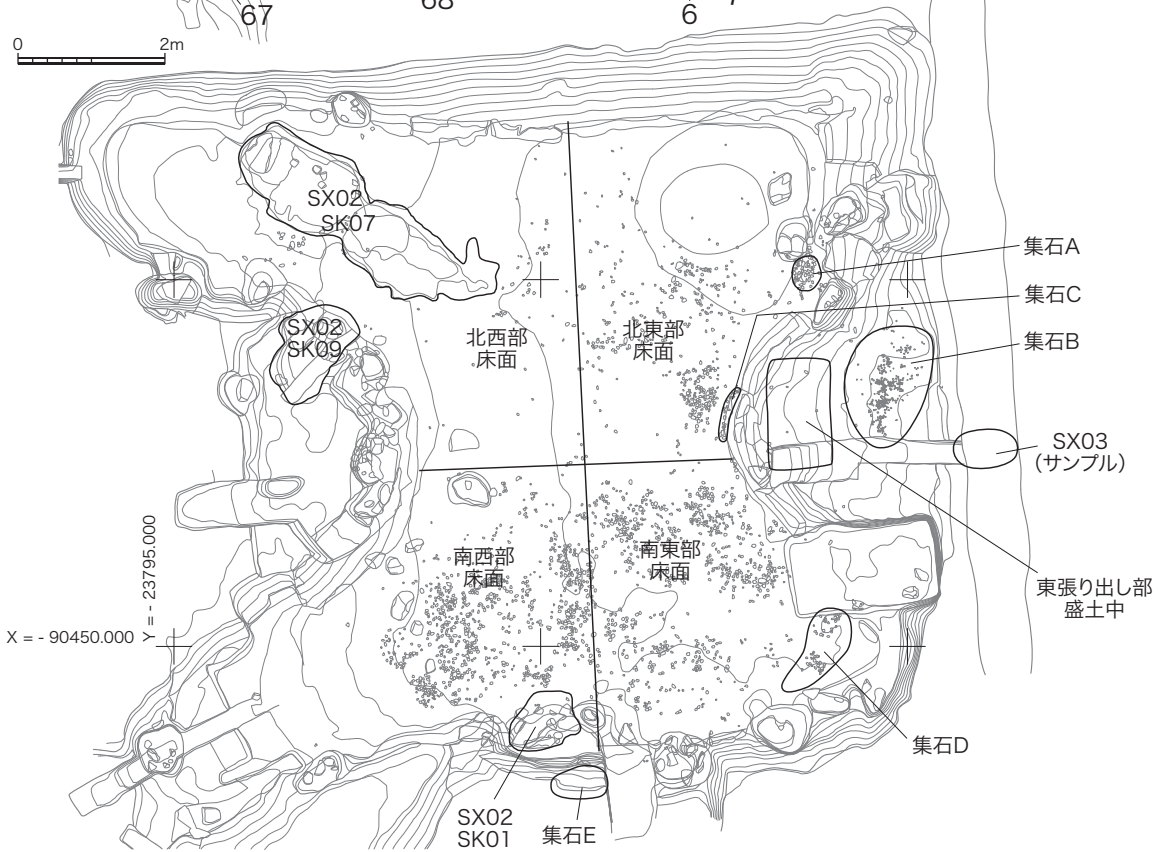
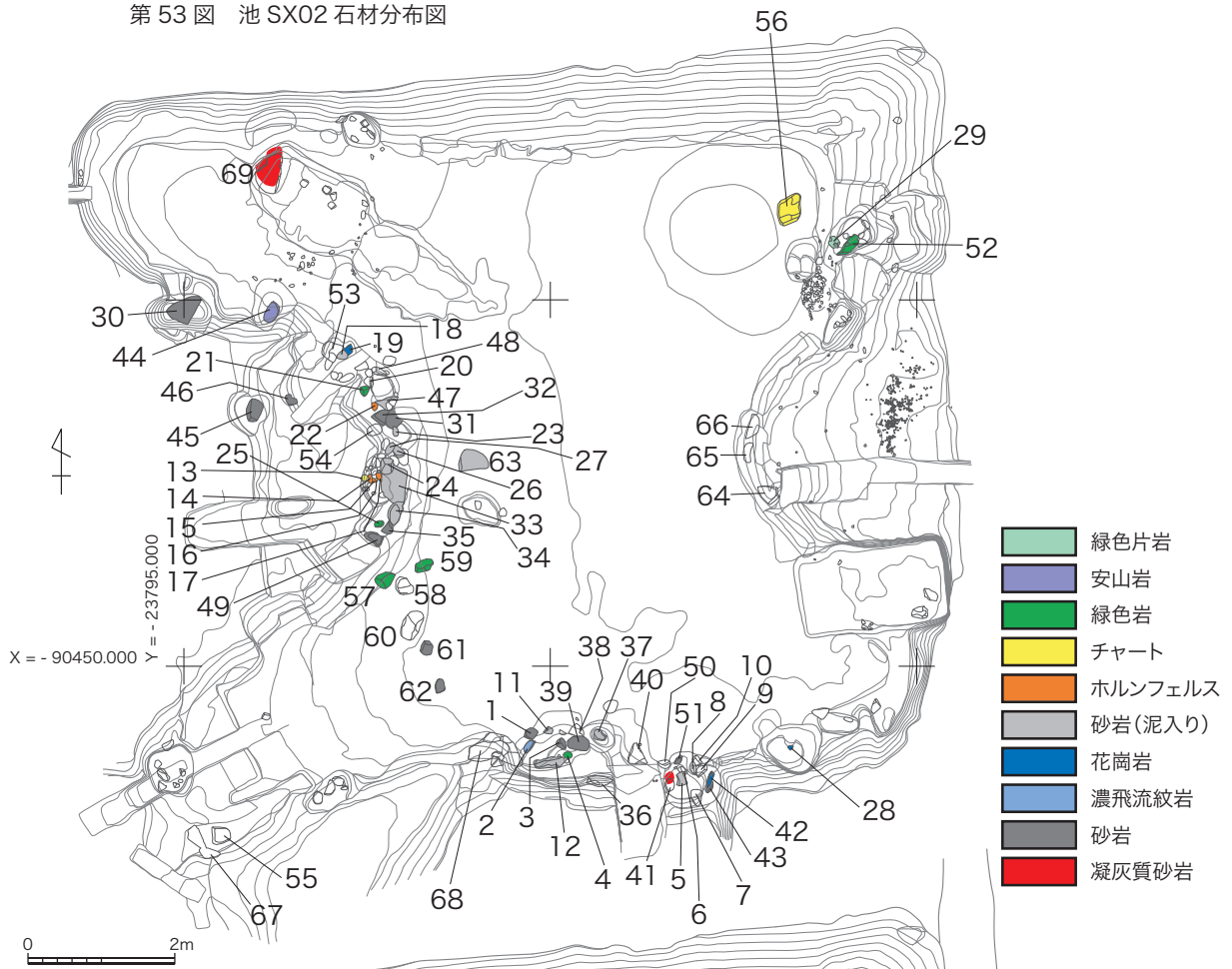


- 第1層 10YR3/1 黒褐色細粒砂 粘土混じる
- 第2層 10YR3/2 黒褐色細粒砂 粘土混じる
- 第3層 10YR4/3 におい黄褐色粘土
- 第4層 2.5Y5/4 暗灰褐色粘土
- 第5層 2.5Y6/6 明黄褐色粘土
- 第6層 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂 中粒砂混じる
- 第7層 10YR5/2 灰黄褐色細粒砂 シルト混じる
- 第8層 10YR5/2 灰黄褐色細粒砂 褐色土粒・粘土混じる
- 第9層 10YR3/2 黒褐色細粒砂 シルト混じる
- 第10層 2.5Y4/1 黄灰色細粒砂
- 第11層 2.5Y4/2 暗灰黄色細粒砂 シルト混じる

第 52 図 池関連施設 SD41・SX03・SD40 土層断面図



第 53 図 池 SX02 石材分布図



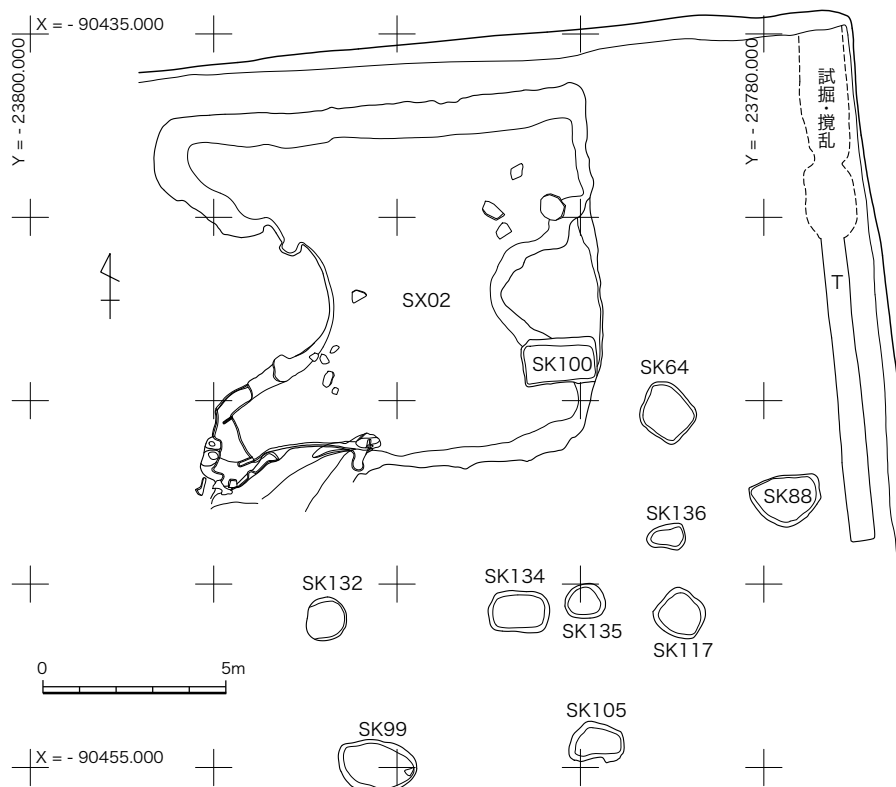
第 54 図 池 SX02 玉石区分図



地点	アプライト	チャート	ホルンフェルス	安山岩	珪質岩	砂岩	濃飛流紋岩	綠色岩	綠色片岩	その他	合計
床面(北西部)		80	6			1	2	1	1	8	99
床面(北東部)	21	450	30	2	6	11	7	6		20	553
床面(南西部)		287									287
床面(南東部)	18	361	23	2		2	3	1	5	22	437
集石A	3	65	14		16	1	1				100
集石B		17			509			2		2	530
集石C	9	124	6	4	2	4	1	1		2	153
集石D	188	15	8			12		1		4	228
集石E	1	46	26		13	2	1	4	10	12	115
東張出部盛土	7	117	34		5	15	4	6	9	14	211
SX02SK01		12			1	2		2		8	25
SX02SK07		24		4			2	6	1	6	43
SX02SK09		25	7		2	4		7	3	10	58
SX03		612				4	1	1	19		637

地点	~1g	1~2g	2~3g	3~4g	4~5g	5~10g	10~15g	15~20g	20~25g	25~30g	30~35g	35~40g	40~45g	45~50g	50g~	合計
床面(北西部)			2			11	4	19	6	19	6	11	3	9	9	99
床面(北東部)	2	2			16	36	36	85	42	86	29	56	31	39	93	553
床面(南西部)					7	36	1	79	4	54	2	47	1	31	25	287
床面(南東部)		3			9	19	49	43	37	53	30	52	34	31	77	437
集石A	4		5		6	1	1	5	2	7		3	2	10	54	100
集石B	156	110	100	49	89	24	1		1							530
集石C					9	5	7	15	11	15	12	14	4	7	54	153
集石D						2	2	2	1		1	4	2	5	209	228
集石E		1			9	17	4	14	2	6	3	8	1	2	48	115
東張出部盛土					14	12	8	13	12	14	4	13	3	13	105	211
SX02SK01					2	6	2	3	1				1	2	8	25
SX02SK07	8	8	1		9	8		2		2	3	1			1	43
SX02SK09					9	14	7	5	3	3	3	1	1	2	10	58
SX03	179	123	67	17	137	53	22	11	2	6	4	5		5	6	637

第5表 SX02 出土玉石組成表



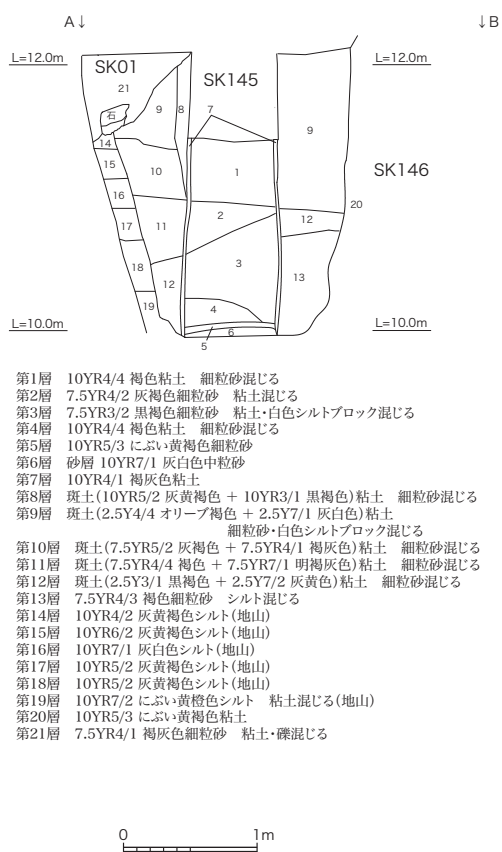
第55図 池SX02周辺土坑遺構図

第9項 埋桶遺構

C 期に属する埋桶遺構と考えられるものは3基確認された。埋桶遺構とは底板を有する結物桶を埋設した遺構を指すが、今回確認されたものは、木製結物桶は遺存しなかった。土層断面などでかろうじて痕跡を認めることができたに過ぎない。

SK145 (第56図)

調査区東北端で検出された埋桶遺構で、ほぼ円形の平面プランを持つ。結物桶は遺存しないが、平面および断面で、その形状を確認することができた。結物桶は円筒形で直径約68cm、深さ213cmを測る。結物が積み重ねられていたか否かは特定できないが、底板の痕跡は認めることができた。出土物から見てC-1期(17世紀前半)に属するものである。



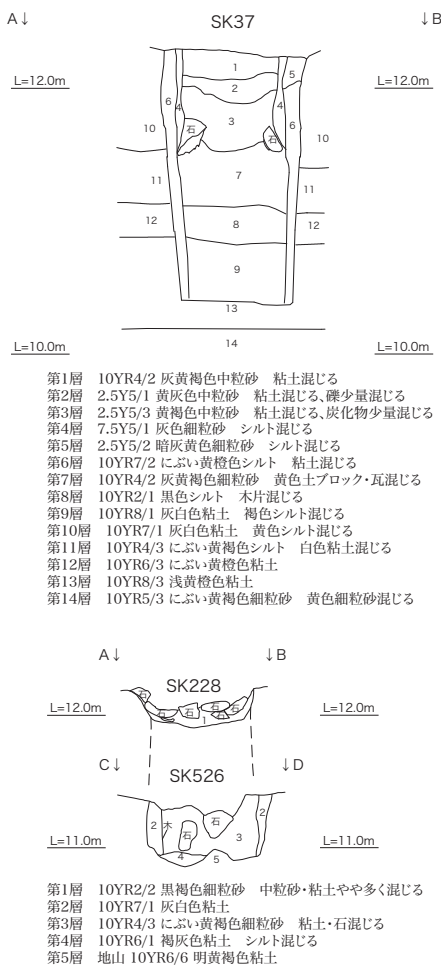
- 第1層 10YR4/4 褐色粘土 細粒砂混じる
- 第2層 7.5YR4/2 灰褐色細粒砂 粘土混じる
- 第3層 7.5YR3/2 黒褐色細粒砂 粘土・白色シルトブロック混じる
- 第4層 10YR4/4 褐色粘土 細粒砂混じる
- 第5層 10YR5/3 にぶい黄褐色細粒砂
- 第6層 砂層 10YR7/1 灰白色中粒砂
- 第7層 10YR4/1 褐色粘土
- 第8層 斑土(10YR5/2 灰黄褐色 + 10YR3/1 黒褐色)粘土 細粒砂混じる
- 第9層 斑土(2.5Y4/4 オリーブ褐色 + 2.5Y7/1 灰白色)粘土 細粒砂・白色シルトブロック混じる
- 第10層 斑土(7.5YR5/2 灰褐色 + 7.5YR4/1 褐色)粘土 細粒砂混じる
- 第11層 斑土(7.5YR4/4 褐色 + 7.5YR7/1 明褐色)粘土 細粒砂混じる
- 第12層 斑土(2.5Y3/1 黒褐色 + 2.5Y7/2 灰黄色)粘土 細粒砂混じる
- 第13層 7.5YR4/3 褐色細粒砂 シルト混じる
- 第14層 10YR4/2 灰黄褐色シルト(地山)
- 第15層 10YR6/2 灰黄褐色シルト(地山)
- 第16層 10YR7/1 灰白色シルト(地山)
- 第17層 10YR5/2 灰黄褐色シルト(地山)
- 第18層 10YR5/2 灰黄褐色シルト(地山)
- 第19層 10YR7/2 にぶい黄褐色シルト 粘土混じる(地山)
- 第20層 10YR5/3 にぶい黄褐色粘土
- 第21層 7.5YR4/1 褐色細粒砂 粘土・礫混じる

SK37 (第56図)

調査区南部で確認された埋桶遺構である。直径110cm、深さ185cmの円筒形の堀肩で、ほぼそれにぴったり重なるように結物桶が埋置されたものと考えられる。中位のレベルで石材が円形に配置されていた。内部からはヒメイエバエのサナギなどが多数認められ、埋桶内に何らかの発酵物が存在していた可能性がある。(第4章第2節参照)。出土遺物などからみてC-3期(18世紀)に位置づけられよう。

SK228 (第56図)

調査区中央部に位置する埋桶遺構で直径約75cm、深さ130cmを測る。内部には、多量の石材が投棄されていた。最下部で結物桶の痕跡を見出すことができた。C 期に属する遺構と考えられるが詳細は不明である。



- 第1層 10YR4/2 灰黄褐色中粒砂 粘土混じる
- 第2層 2.5Y5/1 黄灰色中粒砂 粘土混じる、礫少量混じる
- 第3層 2.5Y5/3 黄褐色中粒砂 粘土混じる、炭化物少量混じる
- 第4層 7.5Y5/1 灰色細粒砂 シルト混じる
- 第5層 2.5Y5/2 暗灰黄色細粒砂 シルト混じる
- 第6層 10YR7/2 にぶい黄褐色シルト 粘土混じる
- 第7層 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂 黄色土ブロック・瓦混じる
- 第8層 10YR2/1 黒色シルト 木片混じる
- 第9層 10YR8/1 灰白色粘土 褐色シルト混じる
- 第10層 10YR7/1 灰白色粘土 黄色シルト混じる
- 第11層 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 白色粘土混じる
- 第12層 10YR6/3 にぶい黄褐色粘土
- 第13層 10YR8/3 浅黄褐色粘土
- 第14層 10YR5/3 にぶい黄褐色細粒砂 黄色細粒砂混じる

- 第1層 10YR2/2 黒褐色細粒砂 中粒砂・粘土やや多く混じる
- 第2層 10YR7/1 灰白色粘土
- 第3層 10YR4/3 にぶい黄褐色細粒砂 粘土・石混じる
- 第4層 10YR6/1 褐色粘土 シルト混じる
- 第5層 地山 10YR6/6 明黄褐色粘土

第56図 埋桶遺構 SK145・SK37・SK228 遺構図

## 第10項 地下室

今回の調査で確認されたC期に属する地下室は2基存在する。

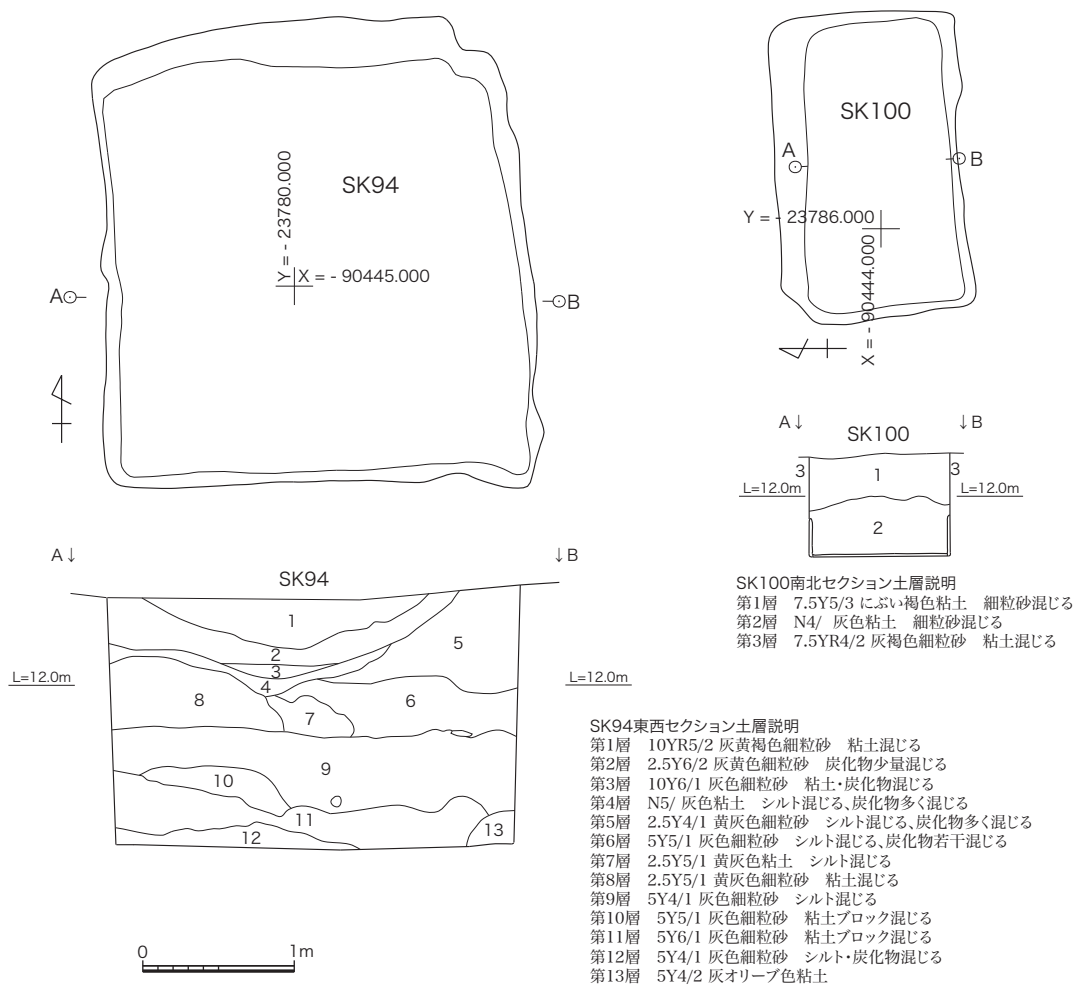
## SK94 (第57図)

調査区北半で検出された地下室である。3.05m × 2.86mのほぼ正方形の平面形を持ち、深さ1.7mを測る。北面の一部が崩落していたものの、壁面は垂直に掘り下げられており、極めて規格的に製作された遺構である。壁面や床面には土坑などの他の施設は全く確認されなかった。埋土は灰色または黄灰色細粒砂の斑土が主体で、廃絶時に一気に埋め立てられたものと思われる。中からは肥前窯産磁器碗や土師器皿などが出土していた。これ

らの遺物は大半が17世紀末から18世紀初頭に位置づけられるが、廃絶した段階は遺物の最新資料からみて18世紀後葉と推定される。C-3期に属する遺構といえる。

## SK100 (第57図)

調査区北半で検出された地下室である。2.05m × 1.20mの長方形の平面形を持ち、深さ0.93mを測る。池状遺構SX02の軟弱な埋土を掘り下げられたもので、土壁の崩落を防ぐため板目板材で護岸が施されていた。板材は遺存状態があまり良好ではなかったが、特別な組加工を持たず板を直方体に組み合わせるだけの簡単な構造であった。埋土は下層が灰色粘土、上層がにぶい褐色粘土で



第57図 地下室 SK94・SK100 遺構図

## 名古屋城三の丸遺跡 VII

充填され、一気に廃絶されたものと推測される。中からはあまり遺物が出土しなかったが、SX02との関係から C-4 期（19 世紀前半）の遺構と考えられる。

### 第 11 項 土坑

今回の調査で確認された C 期に属する土坑は多数存在するが、ここでは主要なものについて個別に記述する。

#### SK01（第 59 図）

調査区東部北半で検出された大型土坑である。複数の土坑が重複しており、SK47 と SK67 を切っている。SK01 は中央部で直線的に走る土壁状の高まりがあり、SK01A と SK01B に区分される。埋土からみると西接する SK63 と一連の遺構と思われる。

SK01A は SK01 東側部分で、規模は 5.90m 以上×2.35m、深さ 1.37m を測る。南端部で巨石が出土した。SK147 を切るために B 期の遺物が大量に出土したが、実際には C-3 期に属すると考えられる。

SK01B は SK01 の西側部分で規模は 6.92m 以上×4.87m、深さ 2.12m を測る。SK01A が埋没した後に掘削し直された土坑で、SK01A よりも深く掘り込まれていた。底部は平坦面を形成し下半は黒色粘土が堆積していた。遺物は最下層から大量の材木片が、その上層からは礫、切石、白色粘土および瓦類が大量に出土した。陶磁器類は比較的少ないことも考え合わせると、建築に伴う廃材が大量に投棄されたものと考えられる。SK01 の掘削そのものも粘土などを採掘するための可能性も考えられる。遺物から C-3 期に属すると考えられる。

SK01 に西接する SK63 も、規模が 2.81m × 1.17m 以上、深さ 2.15m と大型な土坑である。SK01B と SK63 は埋土が連動した形で堆積しており、両者が同時に存在して埋め立てられたと思

われる。C-3 期に属する。

#### SK04・SK19（第 61 図）

SK04 は調査区東部で検出された 1.70m × 1.62m、深さ 0.66m を測る土坑である。SK04 は SK19 を掘り直した遺構と推測される。出土した遺物から SK04 は C-3 期、SK19 は C-2 期に属すると考えられる。

#### SK20

調査区中央部で確認された円形土坑で、規模は 1.93m × 0.78m 以上、深さ 0.26m を測る。内部から長さ 10cm 弱の白色の石材が多数出土した。石材は規模や形状が揃っており、意図的に集められたものと思われる。遺物からみて C-3 期に属すると思われる。

#### SK26

調査区中央部に所在する土坑で、北半部は調査区外に伸びる。土坑内から砂岩の切石が 4 点出土した。C-3 期に属すると考えられる。

#### SK60

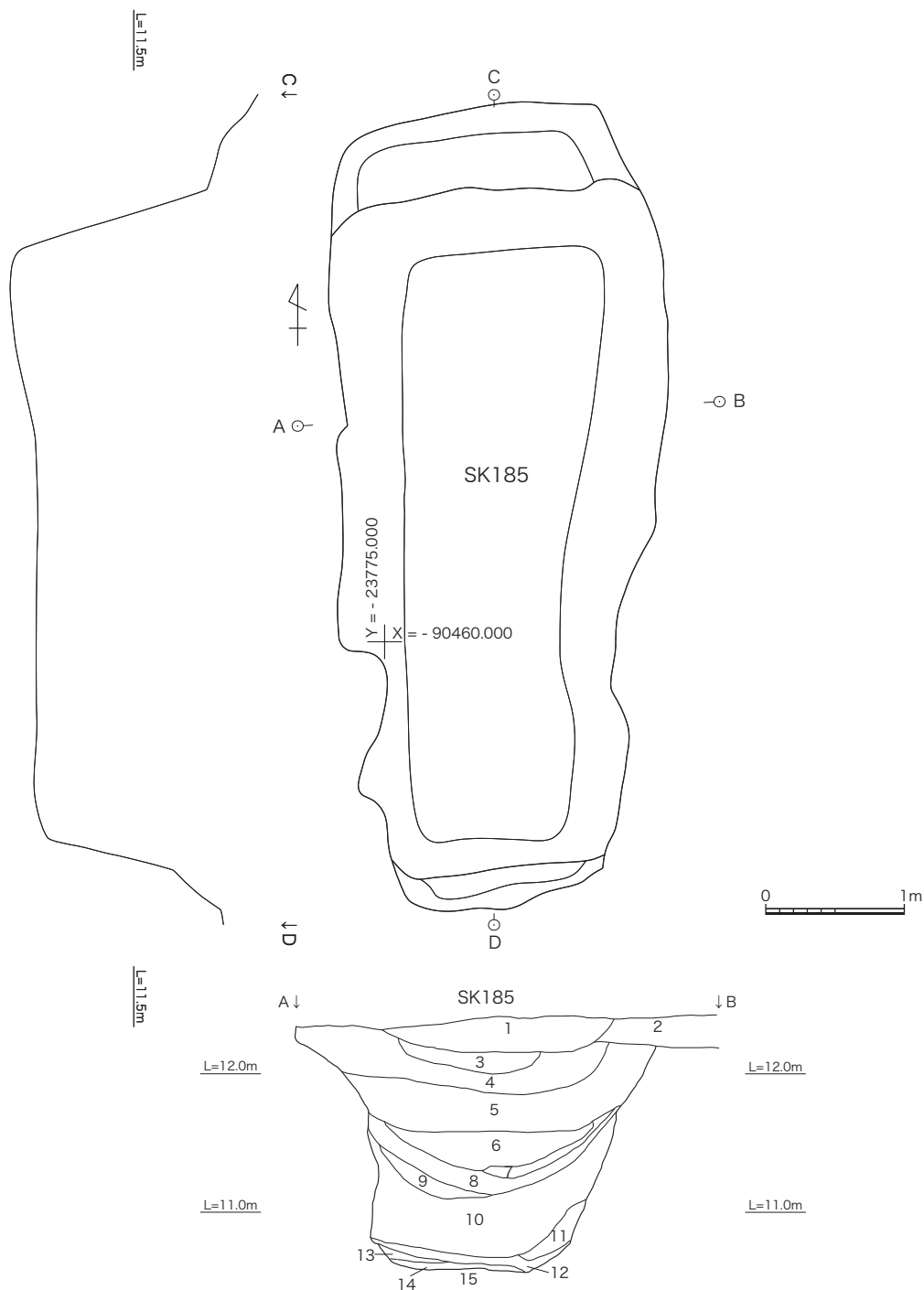
調査区中央部にある東西に長い隅丸長方形土坑である。規模は 5.14m × 2.20m、深さ 0.19m を測る。土坑からは常滑窯産陶器甕などの遺物が比較的多数出土しており、廃棄土坑の可能性が高い。その遺物からみて C-3 期と考えられる。

#### SK93

調査区中央部で検出された直径約 0.53m、深さ 0.30m の土坑である。土坑の中央には瀬戸美濃窯産陶器筒型容器（1590）が正位置に埋設された状態で出土した。容器内部には最下部に黒色石材が 2 個（1592、1593）、その上位に 1590 に伴う陶器蓋（1591）が存在した。容器 1590 の口縁部が欠損していることから、本来は黒色石材を入れた後に蓋をして埋置されていたと考えられる。C-3 期に位置づけられる。

#### SK127

調査区中央部で確認された不定形な土坑で、規模は 1.70 × 1.30m、深さ 0.16m を測る。小規模



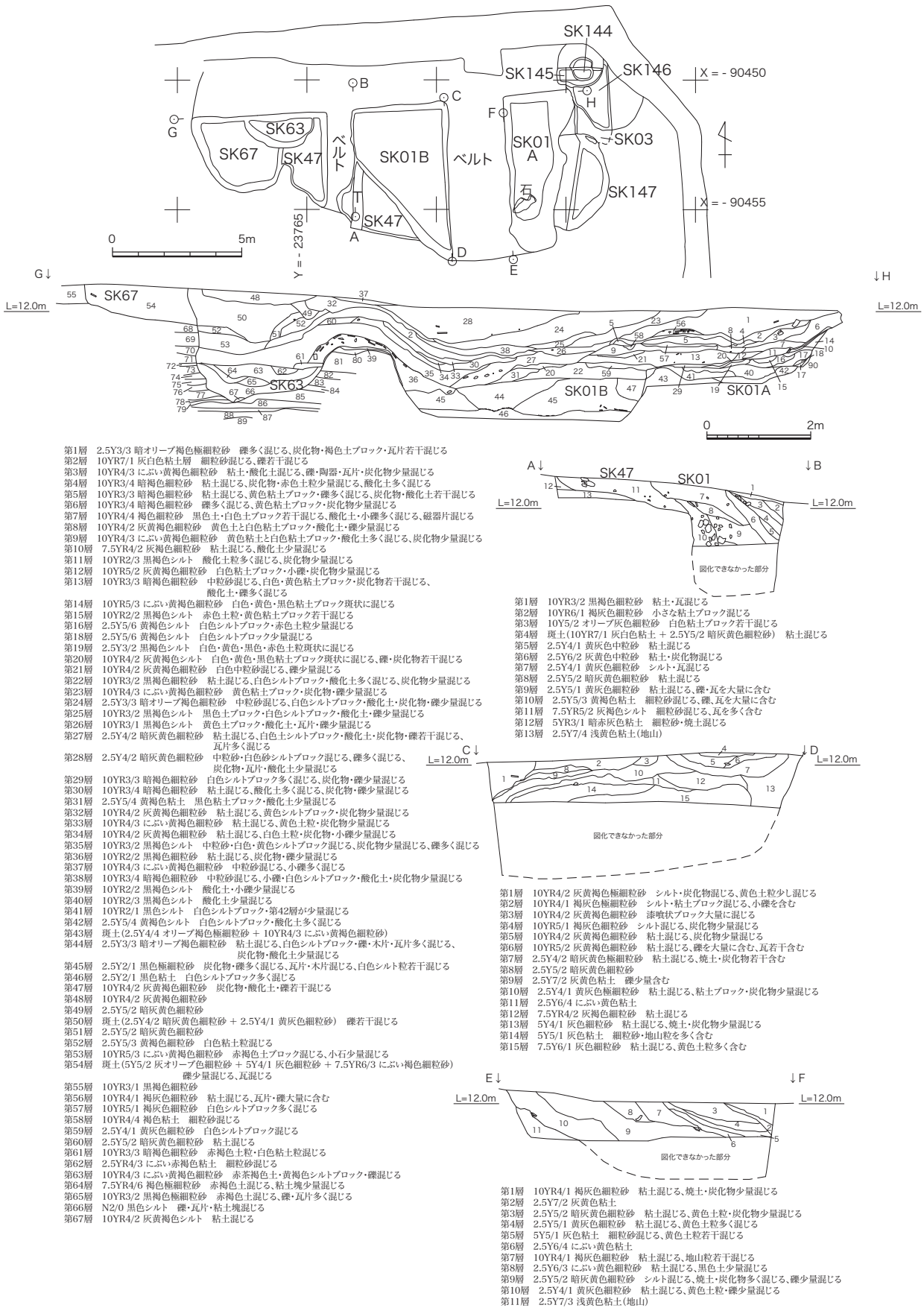
SK185東西セクション土層説明

- 第1層 10YR4/4 褐色細粒砂
- 第2層 10YR3/4 暗褐色極細粒砂
- 第3層 7.5YR3/4 暗褐色極細粒砂 粘土少し混じる
- 第4層 7.5YR2/3 極暗褐色極細粒砂 粘土混じる、炭化物少し混じる
- 第5層 10YR2/3 黒褐色極細粒砂 炭化物やや多く混じる、焼土少し混じる、粘土・白色シルトブロック混じる
- 第6層 10YR4/1 褐色極細粒砂 粘土多く混じる、シルト・炭化物・焼土混じる
- 第7層 10YR3/1 黒褐色極細粒砂 シルト・粘土多く混じる、炭化物・焼土混じる
- 第8層 2.5Y3/1 黒褐色シルト 粘土・中粒砂混じる、炭化物・焼土少し混じる
- 第9層 10YR3/2 黒褐色シルト 粘土・中粒砂混じる、炭化物多く混じる
- 第10層 10YR3/1 黒褐色粘土 シルト・中粒砂混じる、炭化物多く混じる
- 第11層 10YR3/1 黒褐色粘土 シルト・焼土・礫混じる、黄色土粒少し混じる、白色土多く混じる
- 第12層 7.5YR3/1 黒褐色粘土 炭化物少し混じる、シルト・黄色土粒・礫・白色土混じる
- 第13層 10YR3/1 黒褐色粘土 黄色土粒混じる
- 第14層 10YR4/2 灰黄褐色粘土 シルト・灰色粘土ブロック混じる
- 第15層 10YR5/6 黄褐色粘土(地山)

第 58 図 土坑 SK185 遺構図



名古屋城三の丸遺跡 VII



第59図 土坑SK01遺構図

な廃棄土坑と思われる。遺物から C-3 期に位置づけられよう。

#### SK156

調査区中央部で検出された方形の土坑である。規模は 3.15m × 2.99m で、深さは 0.12m と浅い。中から古い時期の遺物片を大量に含む陶磁器類が出土しており、時期は C-2 期に属する。

#### SK185 (第 58 図)

調査区南部中央に所在する隅丸長方形土坑で規模は 4.89m × 2.35m、深さ 1.83m と大きい。北部はテラス状の低い段差がある。埋土からみて土坑は一気に埋め立てられていた。規模が大きく深いことから地下室の可能性が考えられるが、壁面が直立する形で維持されていなかったことから、今回は土坑として報告した。出土した遺物から

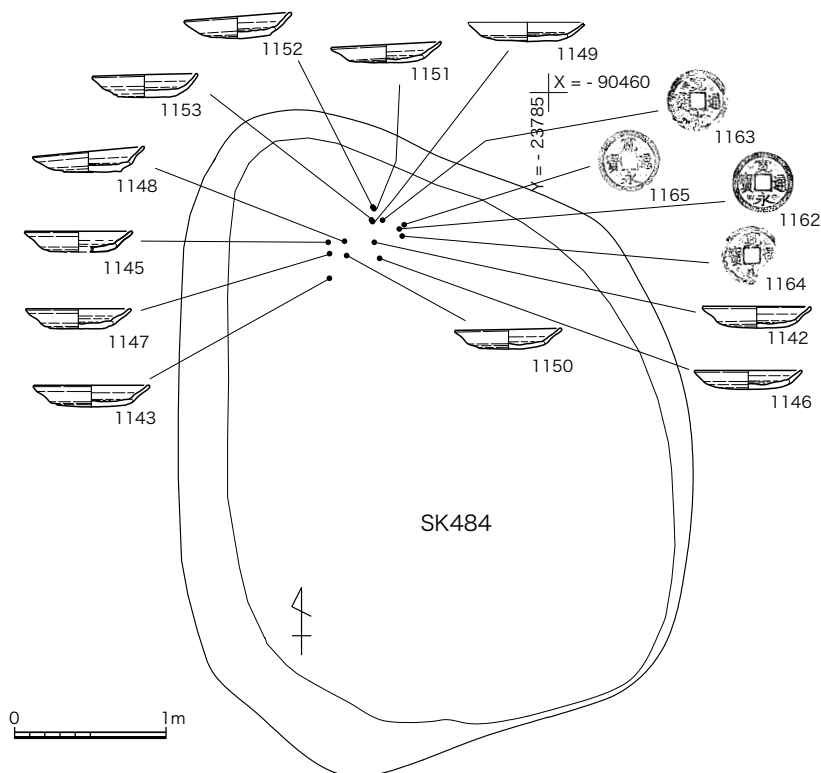
C-1 期に属すると考えられる。

#### SK223

調査区北半で検出された土坑である。規模は 2.20m × 1.05m、深さ 0.30m を測る。出土した遺物から C-1 期に属すると考えられる。

#### SK484 (第 60 図)

調査区北半で検出された土坑で第 3 面で検出された。第 1 面で検出された SK40 と同一と思われる。規模は 4.30m × 3.90m、深さ 0.25m を測り、遺構の北半部から土師器皿と銭貨 6 枚が出土した。寛永通宝が 6 枚出土したことから墓坑に伴う六道銭の可能性が考えられるが、遺構の形状はそれほど深くない。ここでは何らかの祭祀遺構との評価に留めておく。出土遺物から C-1 期に属する。



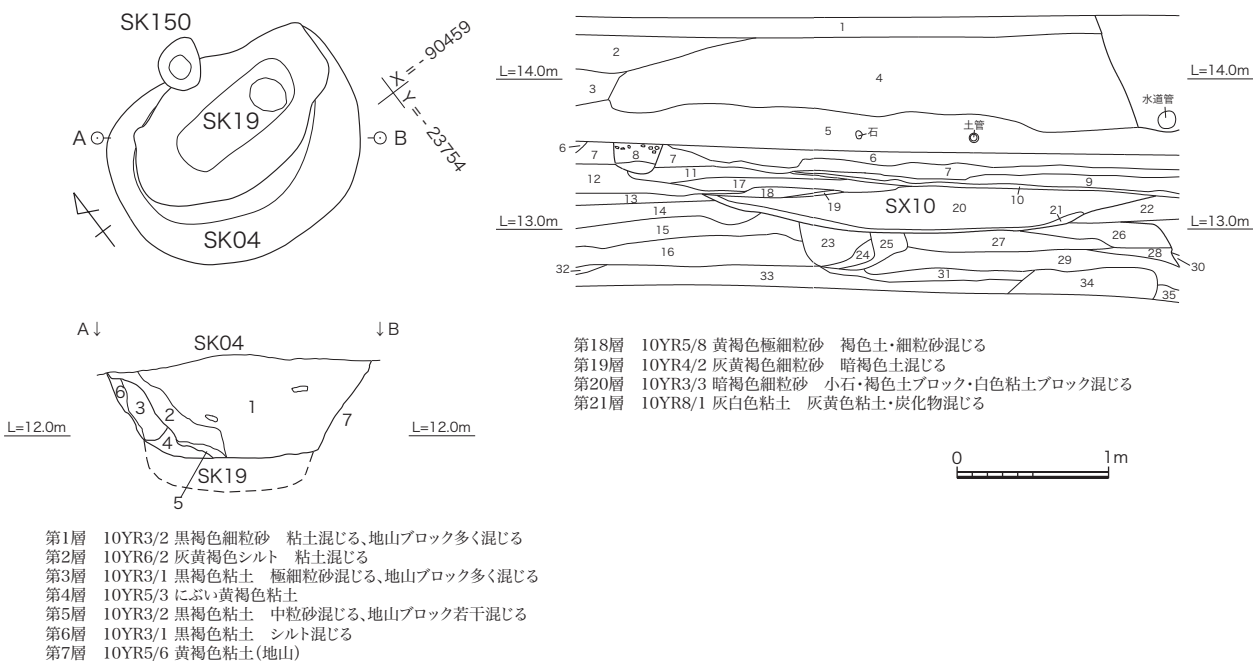
第 60 図 土坑 SK484 遺物出土状態図

第12項 その他の遺構

SX10 (第61図)

調査区南壁土層断面のみで検出された土坑で、規模は幅が2.95m、深さ0.30mを測る。浅い皿型の土坑で、最下層は灰白色粘土で覆われており

貯水施設と考えられる。池状遺構の末端部分を検出した可能性が考えられる。出土遺物がないが、C-3期の遺構面から掘削されていることからC-3～4期に位置づけられる。



第61図 土坑 SK04・SX10 遺構図

## 第5節 D期の遺構

### 第1項 概要

D期は明治時代以降の段階で、名古屋城三の丸域では武家屋敷が解体され、代わりに陸軍第三師団や官庁の諸施設が設置された。この段階の遺構は礎石建物跡と井戸・土坑などがある。現地表下約1.2mにある褐灰色砂の硬化面が陸軍東練兵場に相当する地面と推測され、D期の遺構はこの硬化面上に構築されたものと考えられる。しかし、調査当初にはD期を調査の対象としていなかったため、多くの遺構を見逃している可能性が高い。実際に、SB01以外の遺構は硬化面から約30cm下げた遺構検出面（第1面）で確認された。

この時期は、さらに3段階に細分が可能である。

D-1期：1870年代～1943年頃。遺構や遺物をほとんど確認することができなかった時期である。陸軍東練兵場が構築された段階に相当する。

D-2期：1943年頃～1945年。遺物の多くはこの段階に属すると思われる。陸軍名古屋病院第二分院が急造された段階に相当する。

D-3期：1945年以降。太平洋戦争終戦後、当地はGHQの管轄となり、その後名古屋国立病院が設立され、現在に至る。

以下、種別に遺構について記述する。

### 第2項 掘立柱建物跡

D期に属する掘立柱建物跡は1棟存在する。SB25（第62図）

調査区の北部で確認された2間以上×2間？の掘立柱建物跡で、東部は調査区外に展開すると推測される。建物規模は5.5m以上×7.5mである。柱穴には根石を持つもの（SK55、SK68、SK69）があるが、正確な構造は不明である。柱穴の出土遺物からD-2期（1943～1945年）と推定される。簡便な施設の基礎構造と思われる。

### 第3項 礎石建物跡

D期に属する礎石建物跡は1棟存在する。

SB01（第63～65図）

調査区の南西部で確認された28間以上×8間の礎石建物跡で、西部は調査区外に展開する可能性がある。建物規模は26.6m以上×7.2mである。礎石は陸軍東練兵場に相当する現地表下約1.2mにある褐灰色砂の硬化面の上に直接配置され、硬化面には柱穴部分が窪んだ圧痕が残存した。礎石は全部で85箇所残存し、礎石の痕跡を示す小規模な窪みは40箇所確認された。礎石は89.75cmの方眼上に配置されたものと考えられ、これから位置がずれる礎石または痕跡は13箇所しかない（第64図）。方眼上で欠落する礎石も多数存在しており、特に北から第2列目の礎石は攪乱が存在したことを考慮しても少ない。礎石は直径が20～30cmの円形で扁平な自然石が使用されていた。SB01南東部では硬化面上に多量の木屑が散乱しており、建物建設中に床下の廃材を十分に清掃していなかった可能性が考えられる。建物跡に伴う遺物は確認できなかったが、陸軍東練兵場と思われる硬化面上に存在することからD-2期（1943～1945年）と考察される。

「第三師団司令部周辺軍事施設配置図」（第66図）によれば、D-2期（1943～1945年）の調査地点は第二名古屋陸軍病院の北部に立ち並ぶ病室に相当しており、検出されたSB01はこの病室の一つと推測される。第二名古屋陸軍病院の病室そのものの図面ではないが、名古屋衛戍病院の病棟平面図（第67図）を参考にすると、SB01の26.6m×7.2mという規模はちょうどその病室部分の規模に相当している。SB01の周囲に廊下が巡っていたと仮定すればSB01は同様の規模の病棟と言えよう。ただし、注意しておきたい点は、礎石建物跡とはいえ非常に脆弱な構造を呈してお

名古屋城三の丸遺跡 VII

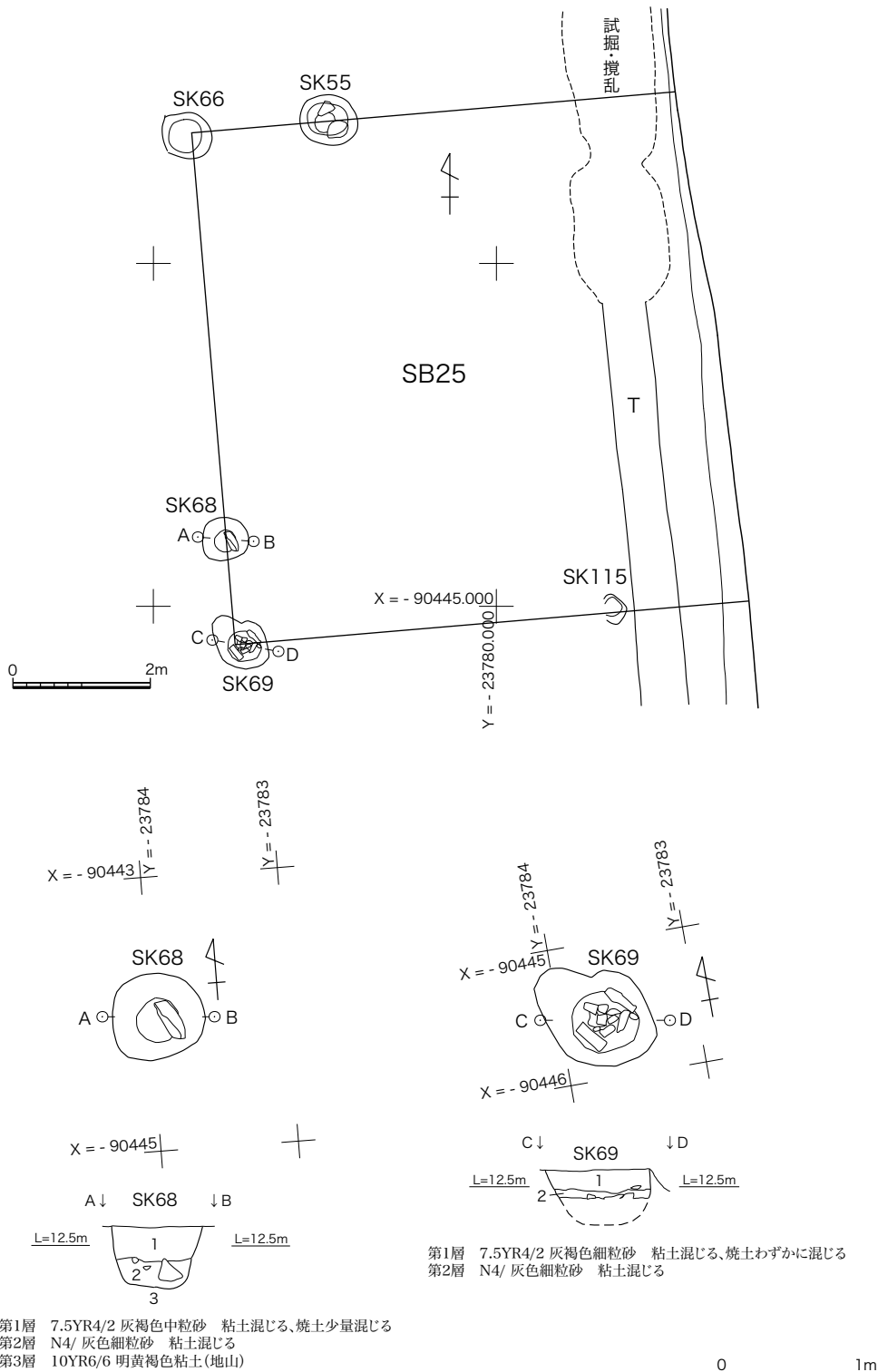
り、十分な資材が用いられず急造された様相が窺い知れる。放置しておくとも虫が湧きかねない床下の廃材をそのままにしていたのも、慌しく建造された状況を示すものとして興味深い。

第4項 井戸

D 期に属する井戸は 1 基存在する。

SK114

調査区中央部で確認された円形漆喰側式井戸で



第 62 図 掘立柱建物跡 SB25 遺構図



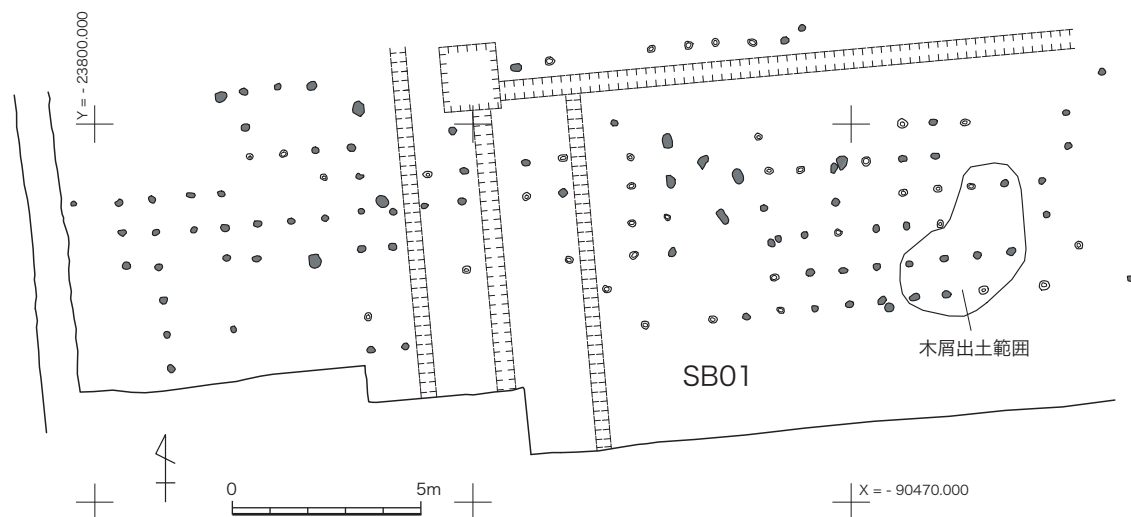
あるが、下部の構造までは確認できなかった。直径約 1.6 m の円筒形に作られた厚さ約 15cm の漆喰壁を井戸側としたものである。掘肩は漆喰側とほぼ同様の規模であり、裏込め土はほとんど確認されなかった。葉瓶などの出土遺物から D-2 期 (1943 ~ 1945 年) に位置づけられる。

### 第 5 項 土坑

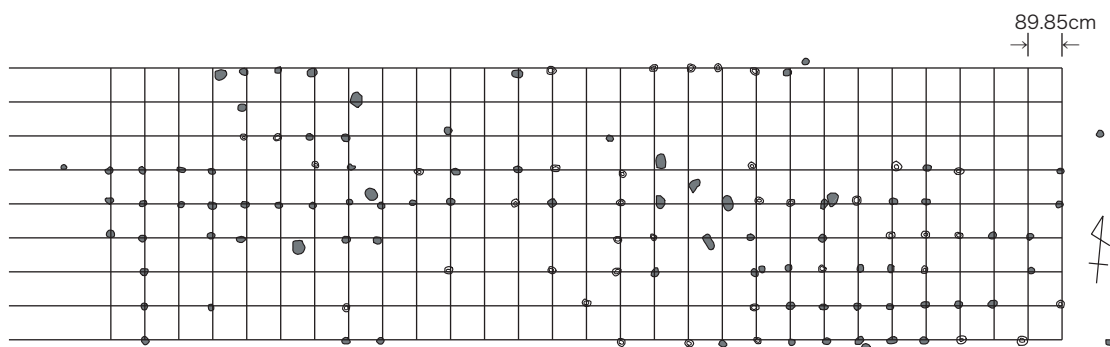
D 期に属すると推測される土坑は数基存在する。ここでは主要な遺構を紹介することとした。

#### SK24

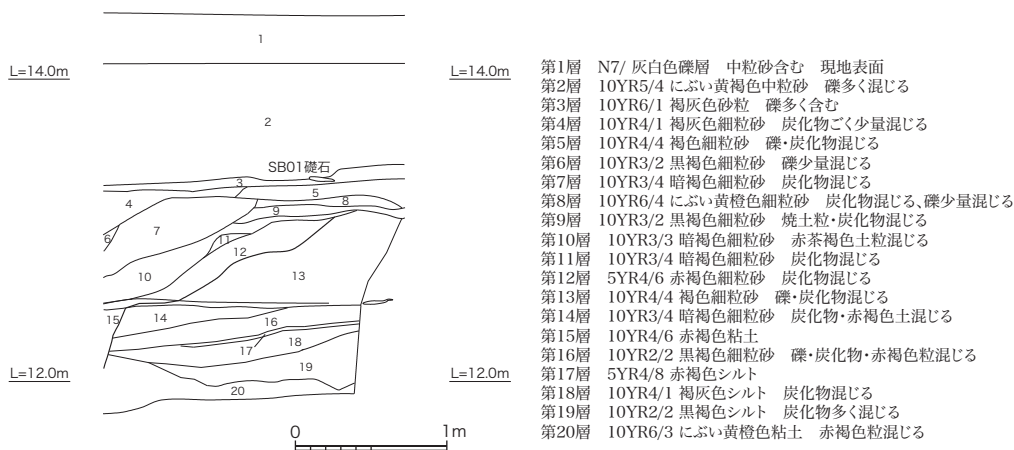
調査区の中央部にある不定形な土坑で、深さは 0.20 m を測る。眼鏡レンズなどの出土遺物がある。



第 63 図 礎石建物跡 SB01 遺構図

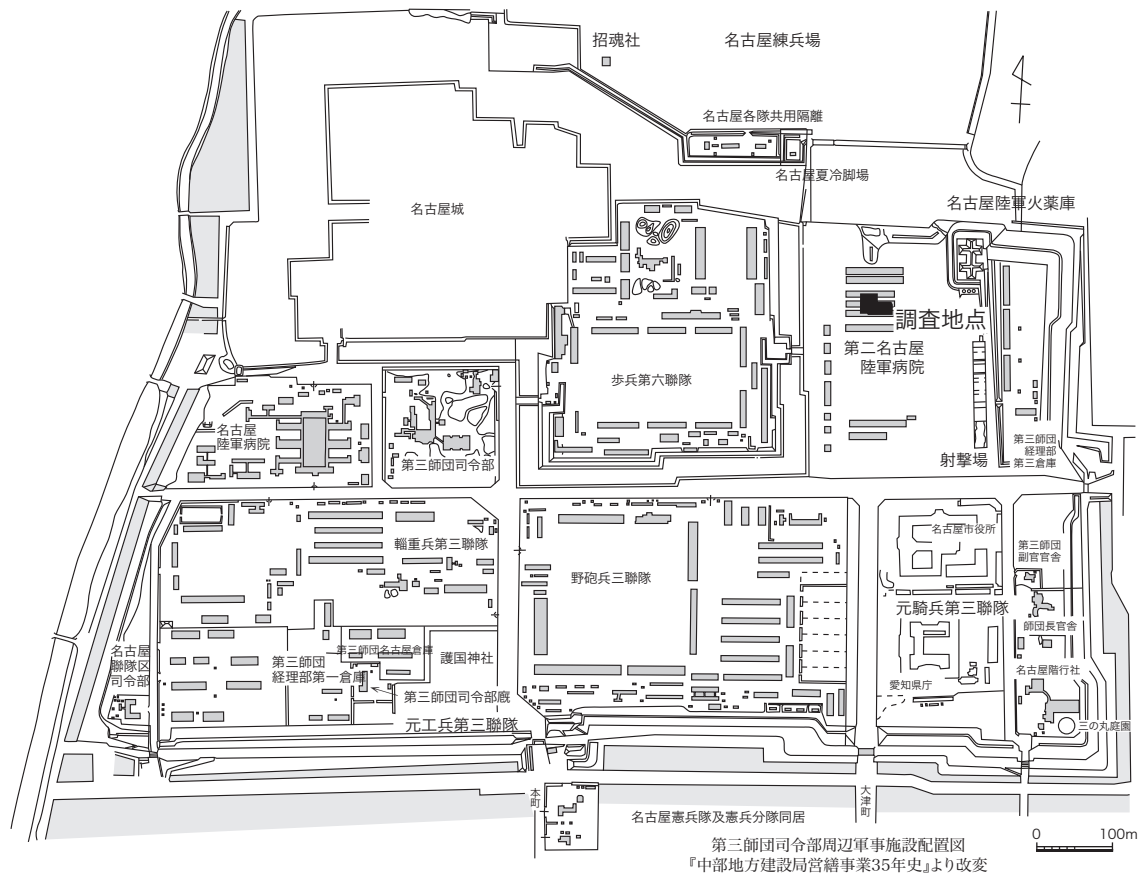


第 64 図 礎石建物跡 SB01 平面復元図

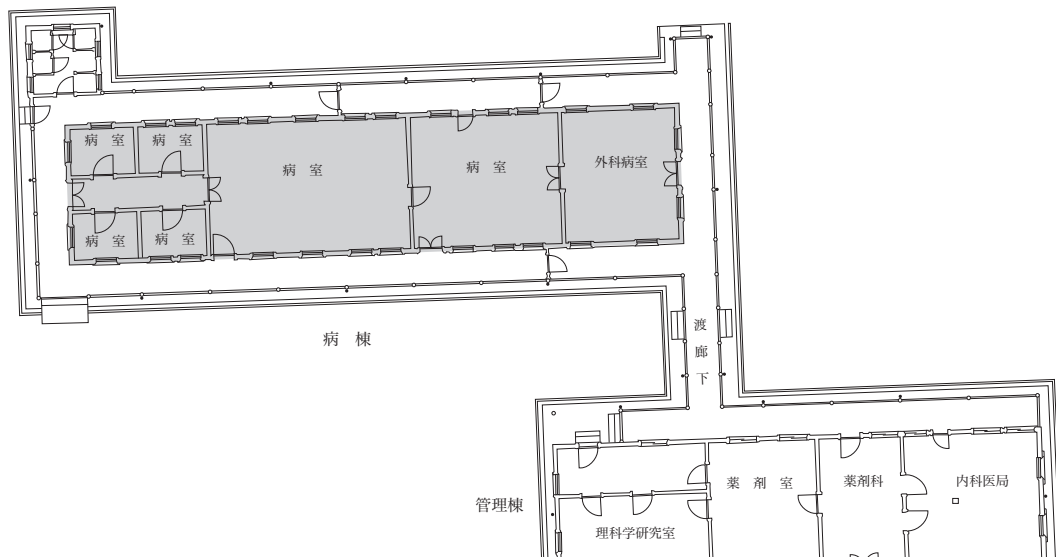


第 65 図 礎石建物跡 SB01 土層断面図

名古屋城三の丸遺跡 VII



第 66 図 第三師団司令部周辺軍事施設配置図と調査区



第 67 図 名古屋衛戍病院病棟平面図

り、D-2期と推測される。

## SK25

調査区中央部で検出された不定形な土坑で、内部から鉄製品や視力調整用レンズなどが出土した。D-2期に位置づけられる。

## SK56

調査区北東部で確認された円形土坑で、規模は1.13m×0.96m、深さは0.45mを測る。内部から、形状は特定できないが木製容器の痕跡が確認され、遺物として蝶番などが存在する。また革靴や碇子、ボタンなどが出土した。遺物からD-2期（1943～1945年）に位置づけられ、革靴などを容器に入れて埋納したものと推測される。

## SK96

調査区西部で検出された長方形土坑で、規模は1.46m×0.78m、深さ0.70mを測る。遺構内はほとんど土砂が無く、大量の陶磁器やガラス瓶が出土した。これらは土圧で破損したもの以外は大半が完全な形状を保っていた。土坑壁を護岸する構造などは確認されなかったが、遺構の形状から

みて木製箱などに物品を収納し再利用することを前提に埋置されたものと推測される。出土遺物からD-2期（1943～1945年）に位置づけられる。

## SK107（第68図）

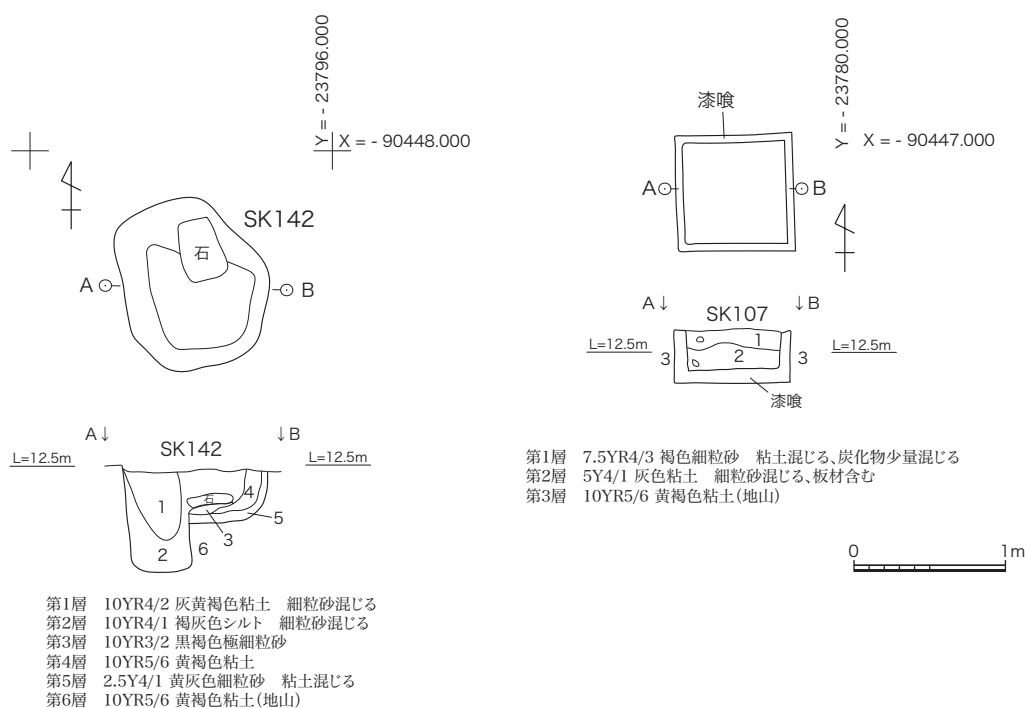
調査区の中央部で確認された一辺0.84m方形土坑で、深さは0.36mを測る。土坑は箱型に厚さ約10cmの漆喰壁に覆われており、枙状遺構と考えられる。下層埋土は灰色粘土であった。内部には口字状に組まれた木材が埋置されていた。状況から見てD-2期と考えられる。

## SK142（第68図）

調査区西部に所在する円形土坑で、規模は1.11m×0.99mを測る。内部は段差が設けられ、高い部分に根石が存在する。深い部分に本来は柱が建っていた可能性が考えられる。出土遺物からD-1期と推測される。

## SK362

調査区の西部中央で確認された直径0.59m円形土坑で、内部に根石が配置される。木製品などが出土した。D-1期に位置づけられよう。



第68図 土坑 SK142・SK107 遺構図

## 第3章 遺物

### 第1節 遺物の概要

今回の調査で名古屋城三の丸遺跡から出土した遺物は全部で、27ℓ入りコンテナで約350箱を数える。接合作業を実施する前の総破片数は74,489点となっている。その内訳は、陶磁器・土器類、石製品、木製品、金属製品、ガラス製品、革製品など多岐多様である。所属する時期も古墳時代から現代に至るまで幅広く存在している。

遺物の採取方法は、SK308 東西ベルトの土壌について1mmメッシュの篩別作業を実施した他は、全て掘削作業時に注意して遺物を採取する方法によった。遺物は厚く堆積する表土や包含層からも多くの資料が出土したが、大部分は遺構内埋土から出土したものであり、中には人為的に一括して埋納あるいは廃棄されたと推測できるものが存在する。一方で比較的新しい時期の遺構内からは遺構の埋没時期よりも古い時期の遺物が多量に混在する事例も多く、また遺構の重複が激しく掘り間違いや掘り残しなどによる新しい時期の遺物が混入する事例もあったと考えられる。こうした事情があることから、出土遺物が少ない遺構出土資料においてはその時期を特定することが難しい場合が少なくない。一部を除き、遺構出土資料が必ずしも良好な一括資料とは言い切れないことをあらかじめ断っておきたい。

さて、遺物が材質と時期において多様性が存在していることから、ここでは時期を遺構の項で区分した4期ごとにまとめ、遺構出土資料を基準にして記述を進めていきたい。時期区分は繰り返し記述すると下記のとおりである。

A期：古墳時代中期～平安時代（5世紀～12世紀）

B期：鎌倉時代～戦国時代（13世紀～16世紀）

C期：江戸時代（17世紀～19世紀中頃）

D期：明治時代～昭和時代前半（19世紀後半～20世紀前半）

なお、遺物については城ヶ谷和広、藤澤良祐、中野晴久、仲野泰裕に鑑定いただいている。遺物の編年については次の文献を参考にしている。

斉藤孝正他編 1995『須恵器集成図録 第3巻 東日本I』雄山閣出版

藤澤良祐 1994「山茶碗研究の現状と課題」『研究紀要 第3号』三重県埋蔵文化財センター

赤羽一郎・中野晴久 1994「生産地における編年」『中世常滑窯をおって』資料集 日本福祉大学知多半島総合研究所

藤澤良祐 1991「瀬戸古窯址群II - 古瀬戸後期様式の編年」『研究紀要』X 瀬戸市歴史民俗資料館

北村和宏 1996「尾張平野における鎌倉・室町時代の煮沸具の編年」『年報 平成7年度』（財）愛知県埋蔵文化財センター

鈴木正貴 1996「東海地方の内耳鍋・羽付鍋・釜」『鍋と甕 そのデザイン』東海考古学フォーラム

藤澤良祐 2002「瀬戸・美濃大窯の再検討」『研究紀要 第10輯』（財）瀬戸市埋蔵文化財センター

藤澤良祐編 1998『瀬戸市史陶磁史篇六』

九州近世陶磁学会 2000『九州近世陶磁学会10周年記念 九州陶磁の編年』

金子健一 1996「尾張・三河のホウロウ」『鍋と甕 そのデザイン』東海考古学フォーラム

## 遺物

種 別	内 訳				その他	合計
須恵器	杯身 840	杯蓋 747	高杯 286	袋物 1567	8494	11934
古式土師器	甕 1899	高杯 31			7200	9130
灰釉陶器	碗 1852	皿 476			528	2856
山茶碗	尾張型碗 1700	尾張型皿 358	尾張型鉢 75		1291	3424
常滑	中世 351	近世真焼 500	近世赤物 842		0	1693
戦国陶器	瀬戸美濃 1534				0	1534
中世土師器	皿 6059	鍋釜 1764			74	7897
輸入陶磁器	青磁 37	白磁 17	青花 49		0	103
近世陶器	瀬戸美濃 2013	肥前 184	京、信楽 127		54	2378
近世磁器	肥前 553	関西系 48	瀬戸 3		35	639
近世土師器	416				0	416
瓦器	34				0	34
近代	陶器 223	磁器 416	ガラス器 420		0	1059
瓦	平瓦 16847	丸瓦 2327	軒瓦 225	古代 3	531	19933
石材	自然石 6001	玉石 1875	割石 326	製品 172	0	8374
金属	製品 1875	関連資料 34			0	1909
木材	製品 62	加工材 670			0	732
その他不明					444	444
総合計						74489

第6表 出土遺物組成表（接合前破片数）



名古屋城三の丸遺跡 VII

猿投窯		名古屋城三の丸遺跡 (御屋形地点)の時期区分		土師器皿	土師器鍋類		
第Ⅰ期	第1小期 (+)	A-1期			1期1段階	400年	
	第2小期 (H-111)				1期2段階		
	第3小期 (H-48)				1期3段階		
	第4小期 (H-2)						
	第5小期 (H-11)						
第Ⅱ期	第1小期 (H-61)	A-2期			1期4段階	500年	
	第2小期 (+)						
	第3小期 (H-44)						
第Ⅲ期	第1小期 (H-50)	A-3期			1期5段階	600年	
	第2小期 (I-17)						
	第3小期 (I-41)						
	第4小期 (C-2)						
第Ⅳ期	第1小期 (I-25)	A-4期			1期6段階	700年	
	第2小期 (NN-32)						
	第3小期 (O-10)						
	第4小期 (IG-78)						
第Ⅴ期	第1小期 (K-14)	A-5期			1期7段階	800年	
	第2小期 (K-90)						
第Ⅵ期	第1小期 (O-53)	A-6期 (B-0期)			1期8段階	900年	
	第2小期 (H-72)						
	第3小期 (百代寺)						
第Ⅶ期	第1型式	瀬戸窯	瀬戸美濃窯 古瀬戸前Ⅰ期 前Ⅱ期 前Ⅲ期 前Ⅳ期 中Ⅰ期 中Ⅱ期 中Ⅲ期 中Ⅳ期 後Ⅰ期 後Ⅱ期 後Ⅲ期 後Ⅳ期古 後Ⅳ期新	B-1期	1期1段階	2期1段階	1000年
	第2型式	第3型式			2期2段階	2期2段階	
		第4型式					
		第5型式					
		第6型式					
		第7型式					
		第8型式					
		第9型式					
		第10型式					
		第11型式					
		第12型式			大窯	1期1段階	
			2期1段階	3期3段階			
			2期2段階				
			B-5期				
		登窯	C-1期	2期3段階	4期1段階	1600年	
			C-2期	2期4段階	4期2段階	1700年	
				2期5段階			
				3期1段階			
			C-3期	3期2段階	4期3段階		
				3期3段階			
			C-4期	3期4段階		1800年	
			D-1期			1900年	
			D-2期				

第7表 時期区分対照表

## 第2節 A期の遺物

A期は古墳時代中期～平安時代（5世紀～12世紀）の段階である。遺物には須恵器・灰釉陶器・土師器などの焼物類の他、石製品なども存在する。須恵器はほとんど全て猿投窯系須恵器である。

### 第1項 SK308 出土遺物

#### (第69～71 図1～70)

SK308からは土師器小片734点、須恵器1211点など1952点の遺物が出土した。この中には中世の遺物が混入していた。須恵器には杯蓋(1～17)、杯身(18～29)、はそう(広口有孔壺30)、高杯(31～38)、広口壺(39・46)、甗または鉢(47～51)など多様な器種が存在する。全て猿投窯系須恵器で大半は東山44号窯式期(H-44)に属し、一部に東山50号窯式期(H-50)に属するものがある。須恵器杯身外面に焼成前刻書が施されたもの(25～27・29・45)がある。土師器には杯類(52)、小型壺(53)、甗(54～64)などがあり、土製品として勾玉(65)、小玉(66～69)がある。土製勾玉や小玉は土壌篩別作業によって発見された遺物であり、本来はさらに多く存在した可能性がある。52は口縁端部が丸められたもので表面は橙色を呈する。甗は口縁端部を摘み上げるもの(54・55)と外反するもの(56・57・60)などがある。底部は平底のもの(61・62)と台付のもの(63・64)の両者がある。A-3期に属する資料で7世紀中葉に位置づけられる。

### 第2項 SB02 出土遺物(第72 図71～98)

SB02からは土師器325点、須恵器206点など580点の遺物が出土した。この中には中世の遺物など49点が混入していた。須恵器には杯蓋(71～74)、杯身(75～79・81・83・84)、碗(80・82)、壺(87)、甗(96)などがある。多くは高

蔵寺2号窯式期(C-2)または折戸10号窯式期(O-10)に属するものである。土師器には甗(88～95・97・98)がある。甗は折り返された口縁部が肥厚し荒いハケ調整が施されるもの(89など)と屈曲した口縁部が直線的に伸びるもの(88・90)などがある。底部は平底のもの(97・98)ばかりである。A-4期後半に属する資料で8世紀後半に位置づけられる。

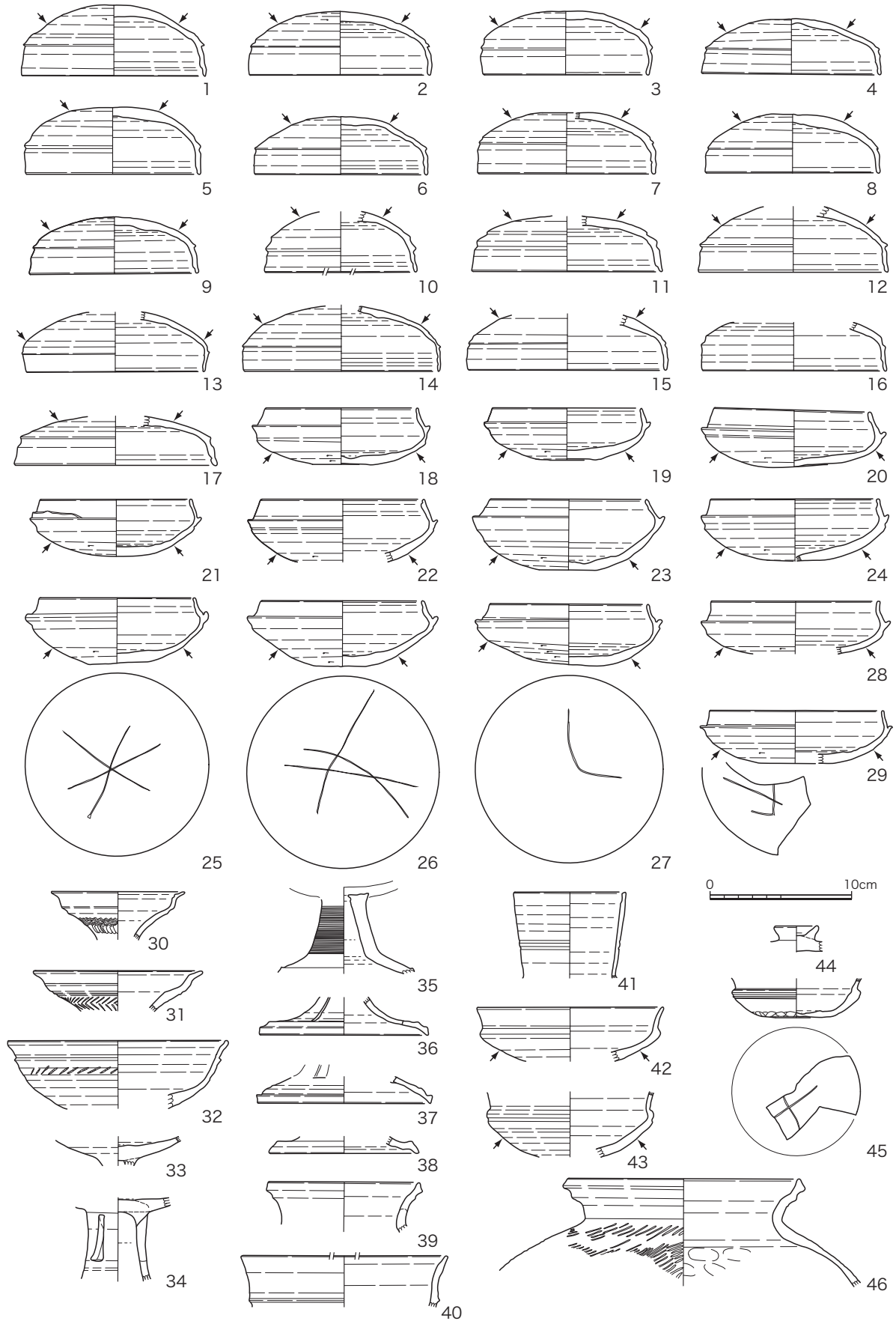
### 第3項 SB07 出土遺物(第72 図99～118)

SB07からは土師器280点、須恵器167点など482点の遺物が出土した。この中には中世の遺物など9点が混入していた。須恵器には杯蓋(99～101)、杯身(102～110)、鉢(111)、甗(112)などがある。多くは岩崎17号窯式期(I-17)または高蔵寺2号窯式期(C-2)に属するものである。土師器には甗(113～115・117・118)と製塩土器(116)がある。甗は折り返された口縁端部がやや摘み上げられたもの(114など)と屈曲した口縁部が直線的に伸びるもの(117・118)などがある。A-4期前半に属する資料で8世紀前葉に位置づけられる。

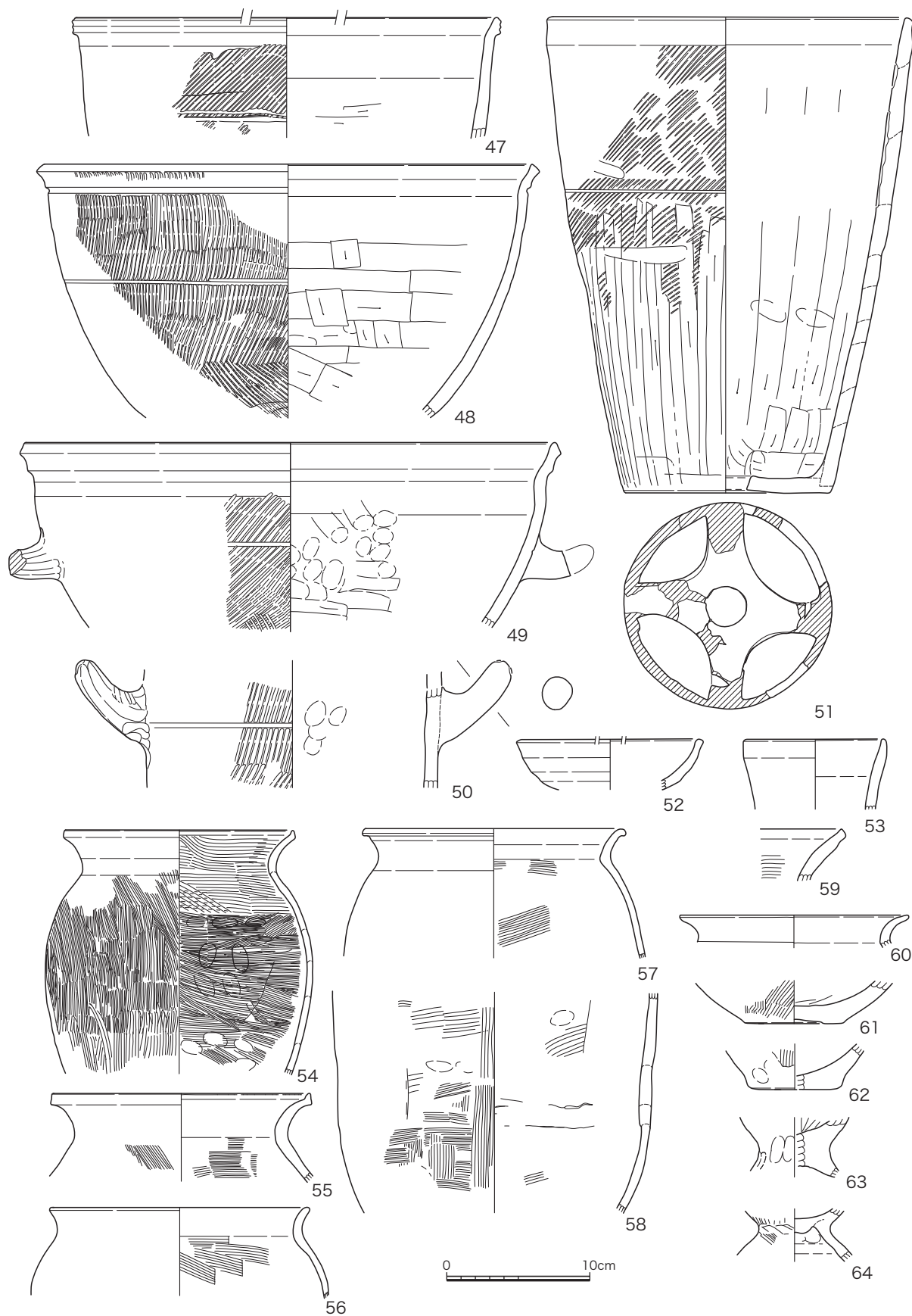
### 第4項 SB09 出土遺物(第72 図119・120)

SB09からは土師器11点、須恵器10点など22点の遺物が出土した。須恵器には壺蓋(119)、杯身(120)がある。前者は鳴海32号窯式期(NN-32)に属するもので、これを信用すればA-4期中頃(8世紀中葉)に位置づけられてしまう。遺構の重複が激しく遺物が少ないことから切り合い関係を重視して、遺構の時期はA-3期に属すると考えたい。

名古屋城三の丸遺跡 VII



第 69 図 A 期の遺物実測図 (1) SK308 (1)



第 70 図 A 期の遺物実測図 (2) SK308 (2)

**第5項 SB03 出土遺物**

**(第73図 121～135)**

SB03からは土師器346点、須恵器261点など611点の遺物が出土した。須恵器には杯蓋(121)、杯身(122)、碗(123・124)、はそう(広口有孔壺125)、鉄鉢形鉢(126)、高杯(127～130)、壺(131・132)、甗(133・134)などがある。遺物の時期は多様であるが概ね高蔵寺2号窯式期(C-2)までに収まっている。土師器には甗(135)がある。A-4期前半に属する資料で8世紀前葉に位置づけられる。

**第6項 SB05 出土遺物**

**(第73図 136～145)**

SB05からは土師器128点、須恵器151点など280点の遺物が出土した。須恵器には杯蓋(136)、杯身(137・138)、高杯(139・140・143・144)、壺(141)、甗または鉢(142)、甗(145)などがある。多くは東山44号窯式期(H-44)に属していることから、A-3期(7世紀前半)に位置づけられる。土師器には図化に耐える資料は存在しなかった。

**第7項 SB04 出土遺物**

**(第73図 146～158)**

SB04からは土師器48点、須恵器90点など171点の遺物が出土した。この中には灰釉陶器皿(149)、東濃型山茶碗(157)、尾張型小皿(158)など新しい遺物が33点混入していた。柱穴など新しい時期の遺構が多数重複した影響かもしれない

い。須恵器には杯蓋(146)、杯身(147・148)、高杯(150～153)、甗(156)などがある。時期は多様であるが、最も多く存在するのは東山44号窯式期(H-44)に属するものであることから、A-3期(7世紀前半)に位置づけたい。土師器には甗(154)と高杯(155)がある。

**第8項 SB08 出土遺物**

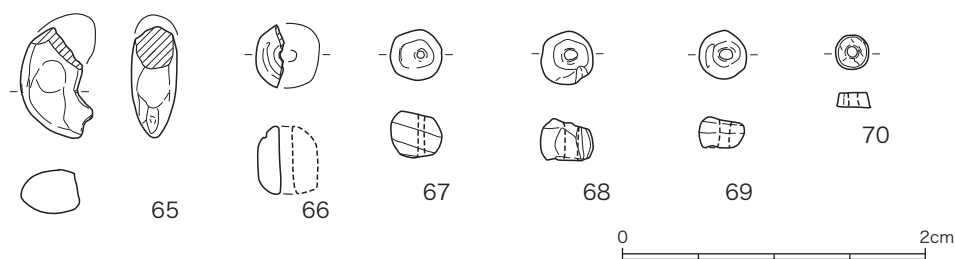
**(第73図 159～175)**

SB08からは土師器275点、須恵器215点など499点の遺物が出土した。須恵器には杯蓋(159～162)、杯身(165)、高杯(166・168・169)、壺(167)、甗(171)などがある。159は摘み付近で放射状に伸びるミガキによる施紋が存在する。灰釉陶器には碗(163・164)があり、これは黒笹90号窯式期(K-90)属するものである。土師器には甗(172～175)と土錘(170)がある。甗は折り返された口縁部の屈曲が急なもの(173)と丸みを持って屈曲するもの(174)などがある。前者は三河型、後者は尾張型に属し、両者とも8世紀から9世紀に属する資料である。古い時期のものが含まれるが、A-5期に属する資料(9世紀)に位置づけられる。

**第9項 SB06 出土遺物**

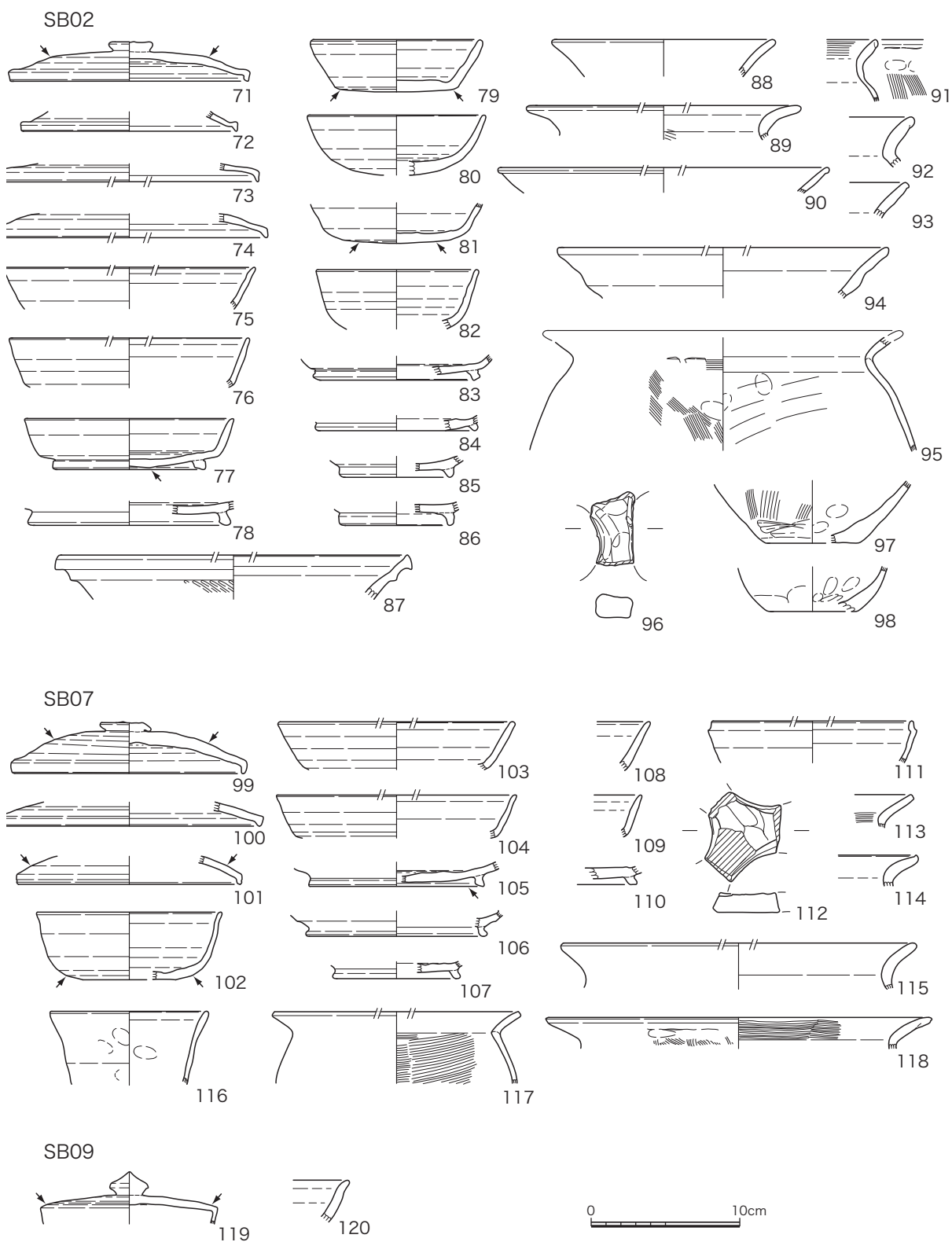
**(第73図 176～179)**

SB06からは土師器48点、須恵器28点など77点の遺物が出土した。須恵器には杯蓋(176)、杯身(177)、壺(178)などがある。杯類は東山61号窯式期(H-61)に属するものである。土師



第71図 A期の遺物実測図(3) SK308(3)

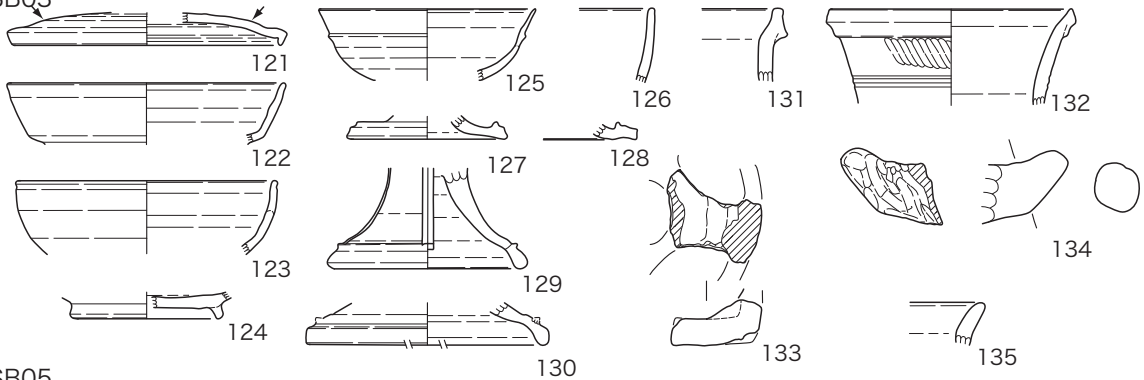




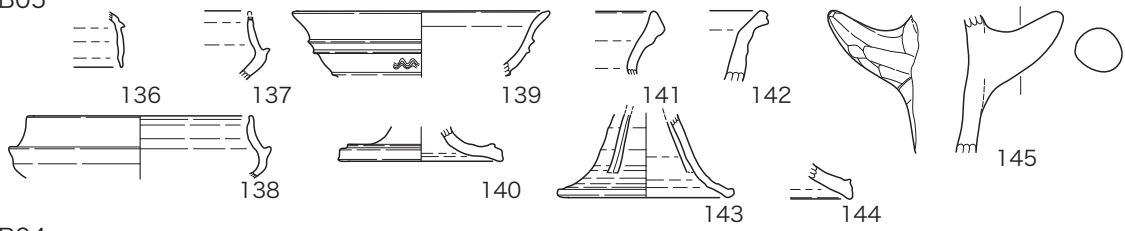
第 72 図 A 期の遺物実測図 (4) SB02・SB07・SB09

名古屋城三の丸遺跡 VII

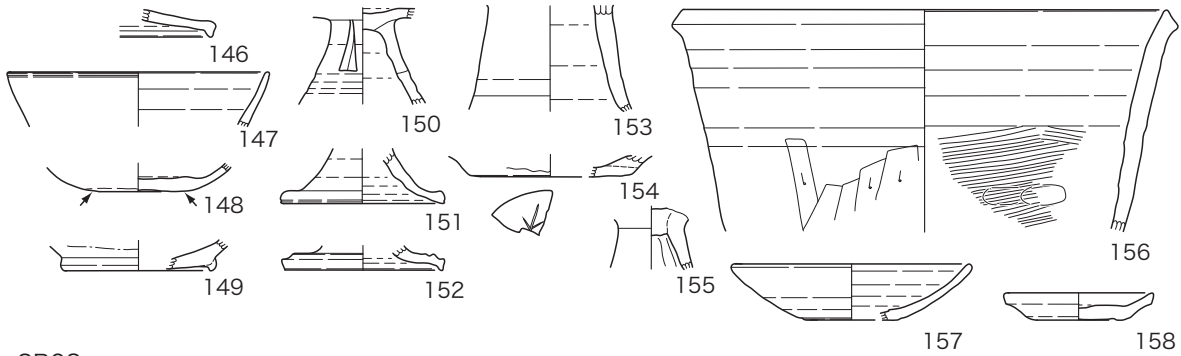
SBQ3



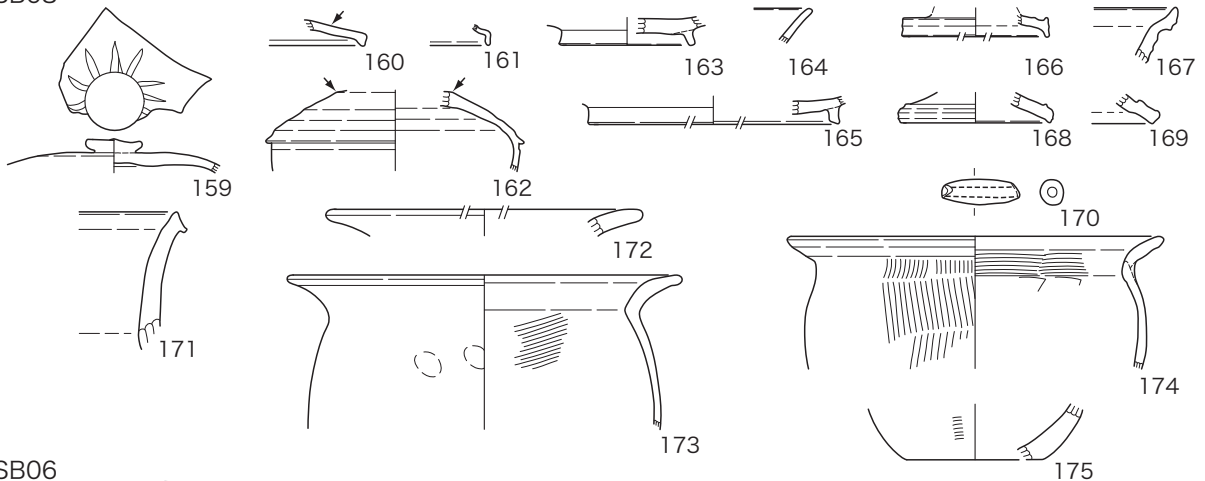
SB05



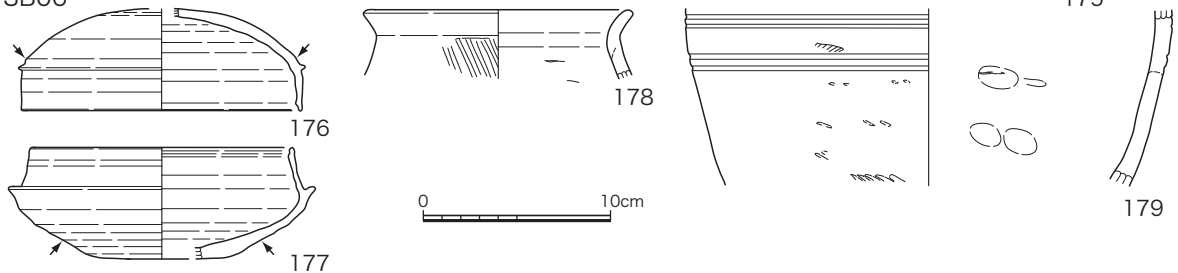
SB04



SB08



SB06



第 73 図 A 期の遺物実測図 (5) SB03・SB05・SB04 他

器には甕(178)があり、緩やかに口縁部が屈曲し体部外面に荒いハケ調整が施されている。A-2期に属する資料で6世紀前半に位置づけられる。

## 第10項 土坑出土遺物

### (第74図180～202)

180はSK331から出土した土師器小型壺で古墳時代中期に属する。181～183はSK339から出土した資料で、杯蓋は東山11号窯式期(H-11)に属するもの(181)と城山2号窯式期に属するものである。A-1期に属する資料で5世紀後半に位置づけられる。184はSK359から出土した杯蓋で東山50号窯式期(H-50)に、185はSX08から出土した高杯で東山11号窯式期(H-11)に属する。186～189はSK353から出土した資料で、土師器台付甕は松河戸Ⅱ式に属する。190は器台の一部と思われる。191はSK425出土杯身で高蔵寺2号窯式期(C-2)に位置づけられる(A-4期)。192はSK412から出土した土師器甕で口縁部が横に伸びる三河型に属するものである。193～195はSK589から出土した土師器甕で概ね8世紀代に属する。196と197はSK188から出土した灰釉陶器と白色軟質陶器で10世紀に属する。灰釉陶器段階の遺物は、他にSK582出土資料(198)、SD32出土資料(199)、SK235出土資料(200～202)などがあるが、SK235はB期の遺構である。

## 第11項 包含層など出土遺物

### (第75～78図203～413)

今回の調査でA期に属する遺物の大部分は、B期以降の遺構や包含層から出土した資料である。これらは本来同時期の遺構や包含層に含有されていたものと推察されるが、B期以降の度重なる開発や攪乱により移動してしまったものと思われる。A期の遺構出土資料に比べると一括性においてその資料的価値が低くなるが、豊富な出土量を

誇るこれらの遺物を紹介しないのは遺跡全体の様相を考える上で適切ではない。ここでは種別に紹介していきたい。なお、埴輪と古代～中世の瓦については別に項目を設けて報告したい。

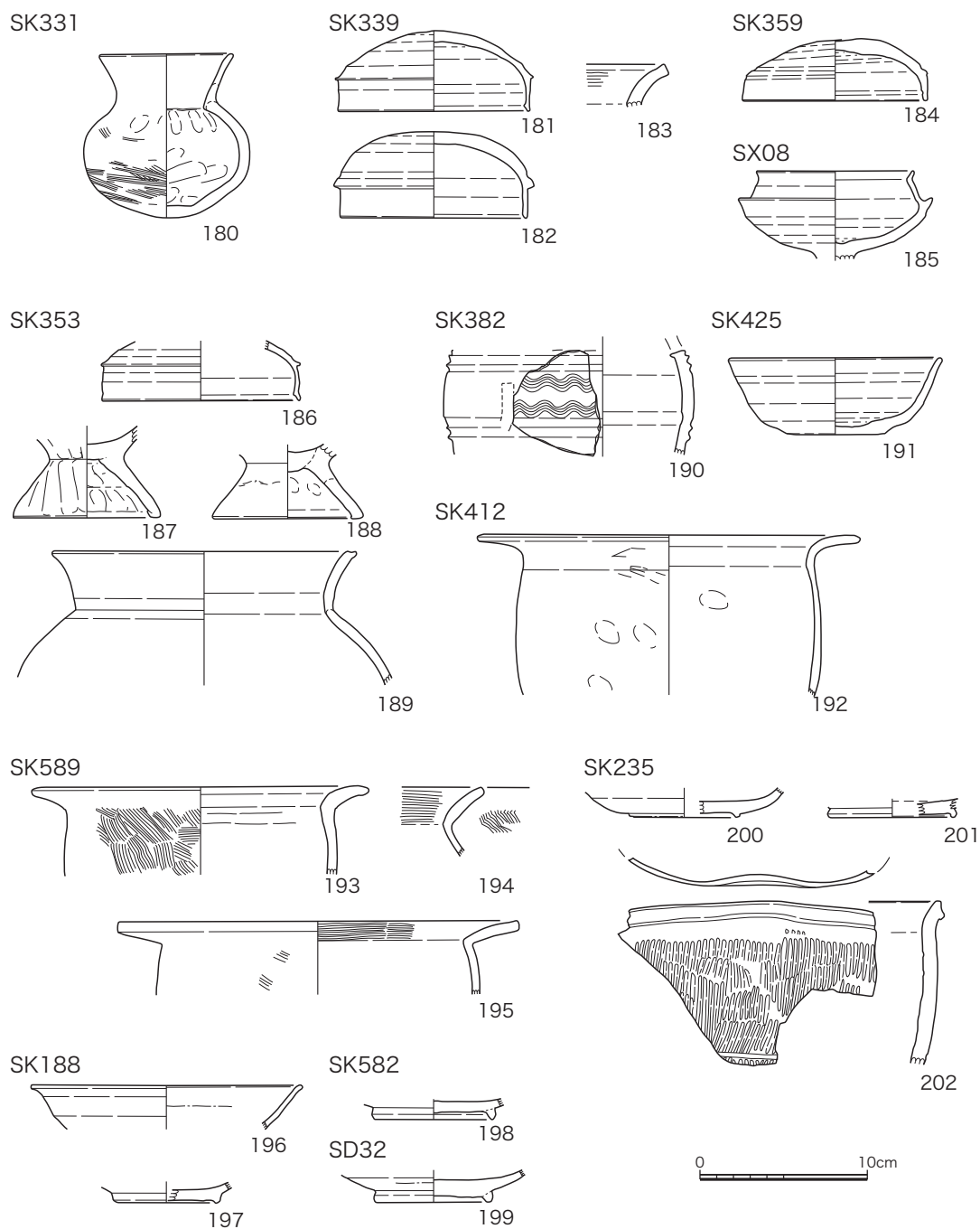
203～242はA期に属する土師器類である。この中で最も古い資料は高杯(217)、甕(220)、筒型製品(221)であり、弥生時代後期山中式期の新段階から廻間Ⅰ式期に属する。203～206はいわゆるS字状口縁台付甕D類、207は宇田型甕、213～216は台付甕脚部、210～212は高杯で、いずれも松河戸Ⅱ式期に属する。これら松河戸Ⅱ式期の資料が、SK353以外にも一定量あることから、当地点ではこの段階から遺跡が本格的に機能していたことが考えられる。古墳時代後期以降の土師器は甕が主体となっている。6～7世紀代は口縁端部を摘み上げた伊勢型の甕(226等)、8世紀代は口縁部が肥厚し荒いハケ調整が残る尾張型(228等)と口縁部が直線的に横に開く三河型(231)が存在する。この他に支脚の一部と推測される粘土塊(239)、穿孔された摘みを持つ鐸状土製品(240)、製塩土器の脚部(241)、土錘(242)などがある。240は下半が欠損し破断面が磨耗しており、摘み部に線刻が施されている。

243～366は一部を除き須恵器類である。243～246と249は有蓋高杯蓋、247・248・250～255・269～291は杯蓋、256～268・292～309は杯身、310・311は碗、312～330は高杯、331は合子、332ははそう(広口有孔壺)、333は短頸壺、343は横瓶、348・349は播鉢、354は甕、355～366は鉢または甑である。336と子持器台などの杯部、353は装飾須恵器の造形部分の一部と想定される。351は外面に縄蓆紋が施された甕である。345～347・352は焼成が甘い白色軟質陶器に分類される陶器群である。時期は東山11号窯式期(H-11)から折戸10号窯式期(O-10)に概ね位置づけられ、特に時期的な偏りは認められない。

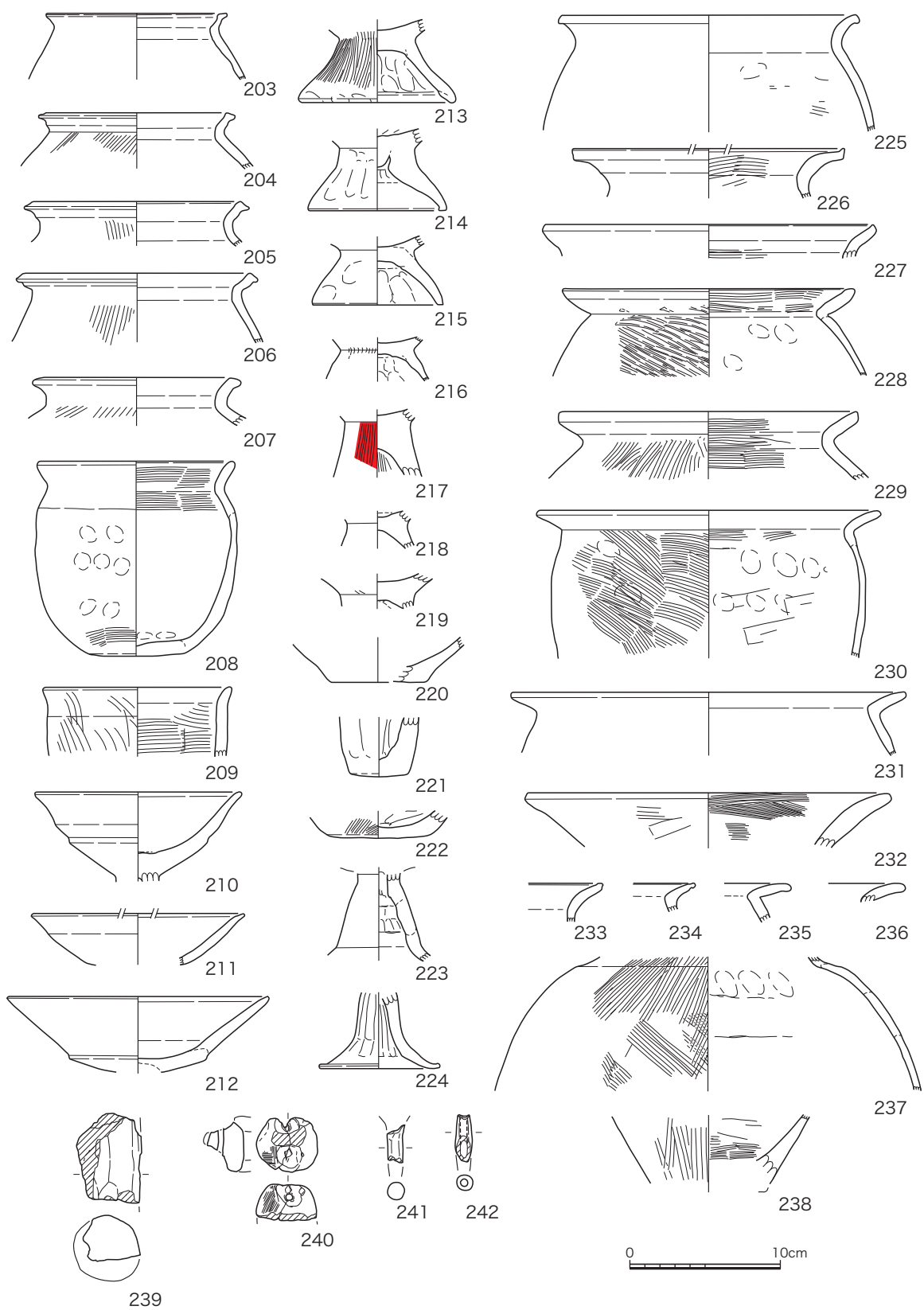
名古屋城三の丸遺跡 VII

367～413は一部を除き灰釉陶器類である。大部分は碗と皿であり、373は小碗、388は耳皿、368は長頸瓶、367は壺類である。370は白色軟質陶器の皿で、口縁端部内面に沈線が、底部外面に刻線が施されている。413は緑釉陶器皿で黒笹90号窯式期(K-90)に属する。緑釉陶器は全部で10点が出土している。灰釉陶器を含む遺構出土資料は、良好な竪穴建物跡や土坑に恵まれな

かったために、他に比べ非常に少ないのが実情である。しかし、黒笹90号窯式期(K-90)から広久手72号窯式期(H-72)の資料が一定量存在することから、この時期でも一定度遺跡が継続したことが推測される。一方、百代寺窯式期や山茶碗第3型式期の資料も存在するが少ない傾向が読み取れる。



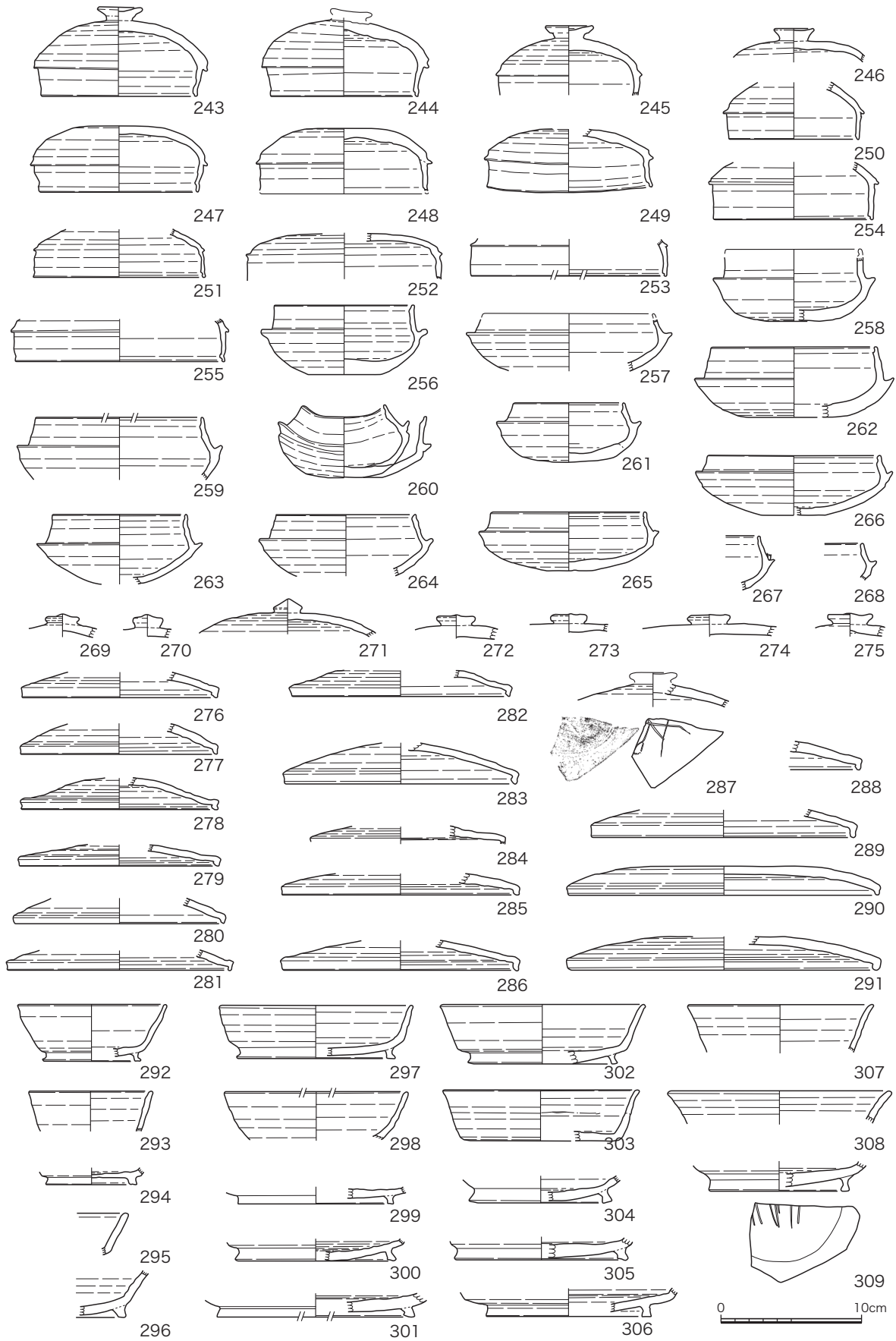
第74図 A期の遺物実測図(6) 土坑出土遺物



第 75 図 A 期の遺物実測図 (7) 包含層他出土遺物 (1)

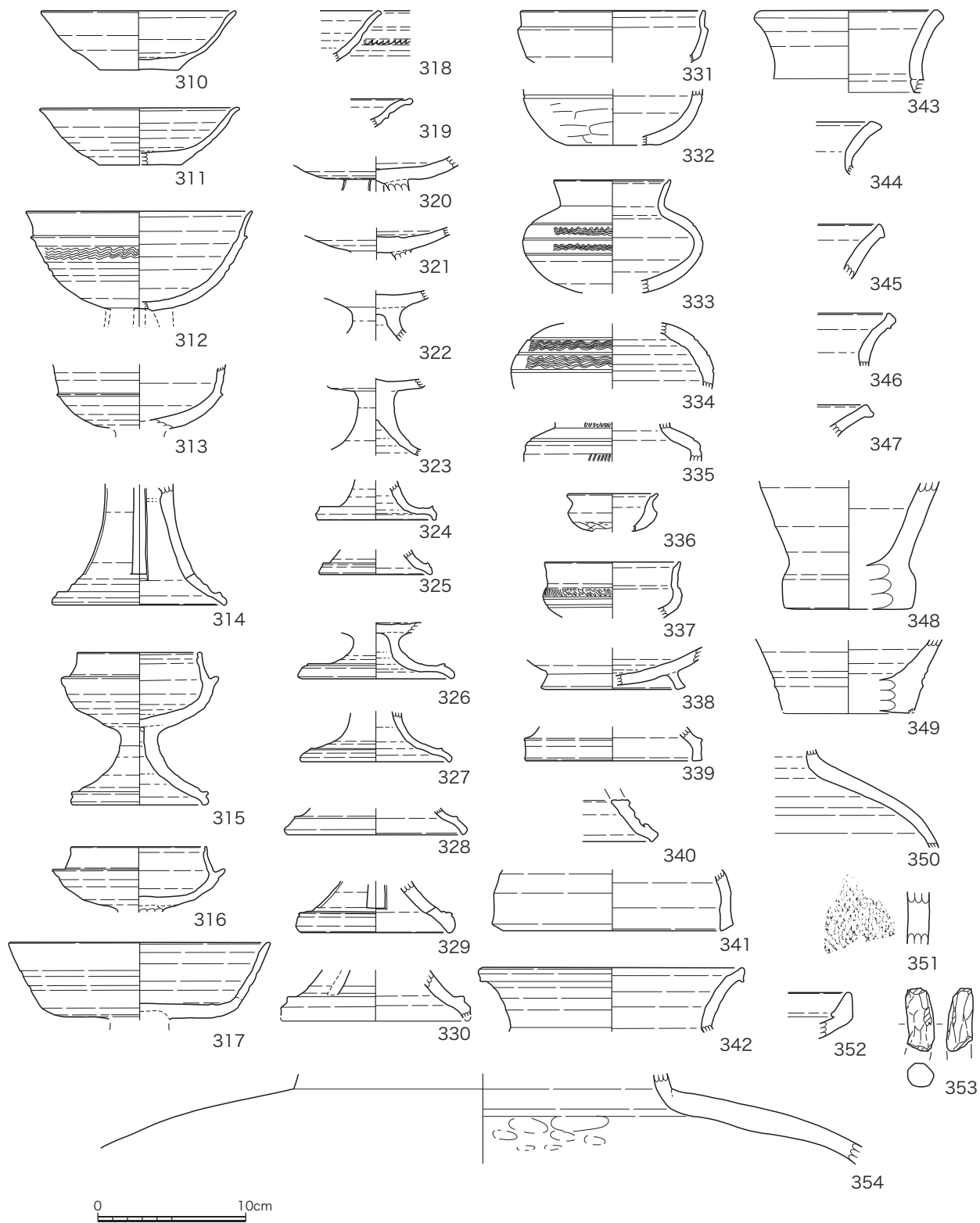


名古屋城三の丸遺跡 VII



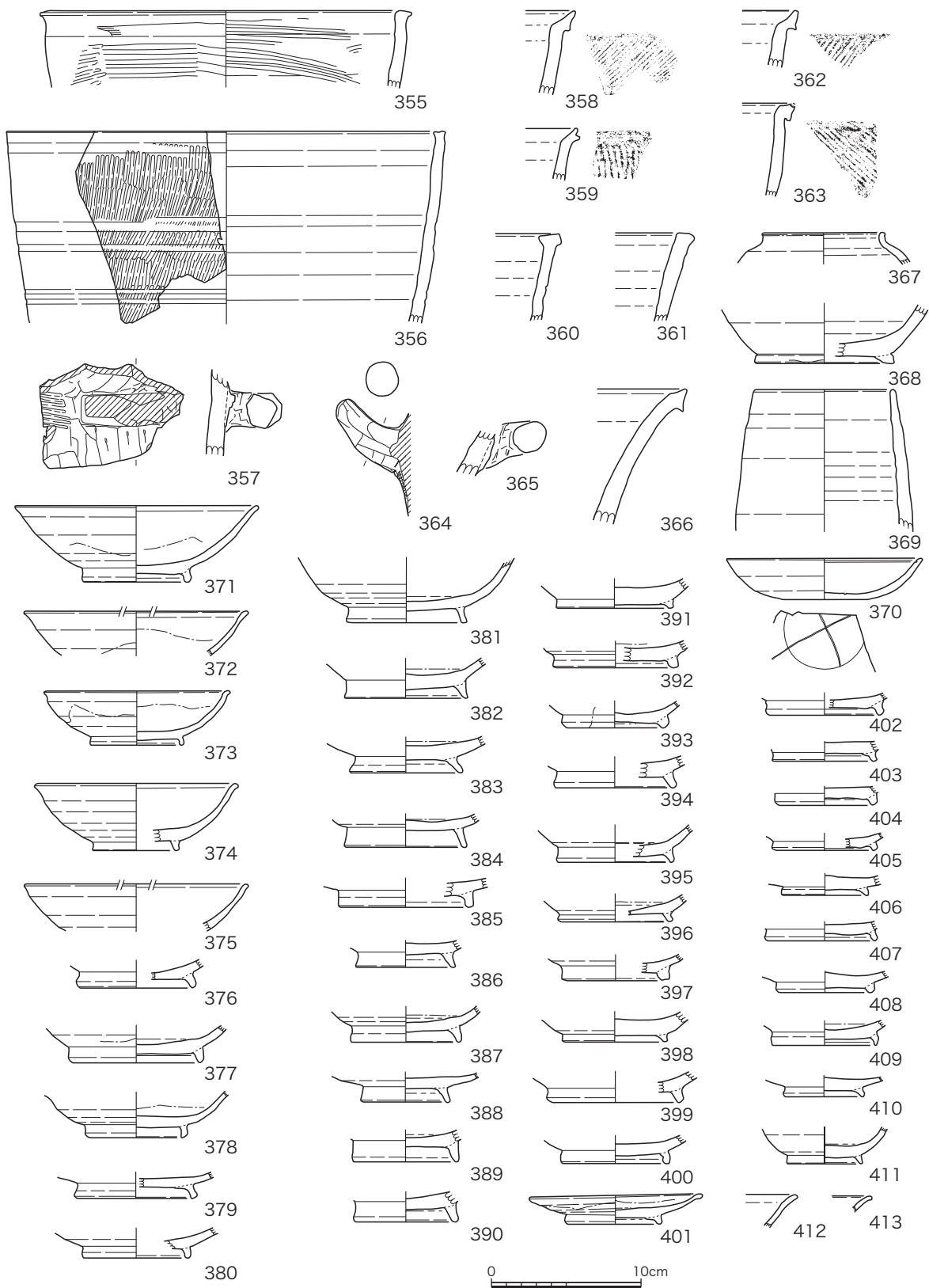
第 76 図 A 期の遺物実測図 (8) 包含層他出土遺物 (2)

遺物



第 77 図 A 期の遺物実測図 (9) 包含層他出土遺物 (3)

名古屋城三の丸遺跡 VII



第 78 図 A 期の遺物実測図 (10) 包含層他出土遺物 (4)

## 第12項 埴輪 (第79・80図414～452)

### 1 概要

埴輪はすべて無黒斑である。円筒埴輪が大部分で、器種を特定しえない形象埴輪がわずかに認められる。円筒埴輪は92点(接合前破片数)、4,588.3gが出土したが、2段以上遺存する個体がなく、基部、口縁部、突帯が確認できる個体を中心として39点を抽出、図化した。

### 2 資料

#### (1) 円筒埴輪の分類

各個体に説明を加えるに際して、円筒埴輪を須恵器系、タテハケ系、ナデ系、ヨコハケ系の4系統に分類し、さらに須恵器系は須恵器系1～4類、ナデ系はナデ系1～2類、ヨコハケ系はヨコハケ系1～2類に細別した。分類においては、主として製作技法、突帯形状、器壁の厚さ、胎土を考慮した。以下、各分類に則して資料を提示する。

#### (2) 須恵器系埴輪

須恵器系埴輪は、原則として外面に1次調整としてのタテハケ後、2次調整として回転ヨコハケを施すもので、出土した埴輪の多数を占める。ここでは、24点(414～437)を図示した。

須恵器系1類は2点(414・415)である。淡橙色系の色調を示し、胎土中に砂粒をほとんど含まない。器壁は薄手で、やや低平ながらも鋭利な突帯を付す。3は基部で、底径が14cm前後と小さく、外面の回転ヨコハケは部分的に施されるのみ。底部調整としてのヨコケズリは、回転動作によらない曖昧なものである。

須恵器系2類は、基部2点(416・417)を抽出した。灰白～淡黄色系の色調で、砂粒をやや多く含む胎土である。重厚な器壁で、やや粗雑な印象を与える。外面には回転ヨコハケが施されるも、底部調整としてのヨコケズリは顕著でない。

須恵器系3類は19点(418～436)で、個体

数が最も多いと思われる。同一個体が少なからず含まれると思われるが、接合しなかったため、それぞれの破片を図化した。硬質に焼成され、赤～紫褐色を基調とする。色調からは、さらに418～425(赤褐色)と426～436(紫褐色)に分類される。胎土中には砂粒を多く含む。器壁はやや厚く、鋭利で高く突出する断面M字形の突帯を付す。ほぼ例外なく外面に回転ヨコハケ、内面に直線的なヨコハケを全面に施す。418～420は基部で、底部調整としてヨコケズリを内外面に施す。418は底径18.8cmで、筒形の器形。421、431は口縁部で、421は内面が段状に肥厚する。

須恵器系4類としたものは1点(437)で、内面には細かいヨコハケを断続的に施す。須恵質に焼成され、色調は灰色を呈する。

#### タテハケ系埴輪

タテハケ系埴輪としたものは1点(438)で、外面2次調整としての回転ヨコハケを省略する。内面は断続的なナナメハケ調整を施す。須恵質に焼成され、色調は灰色を呈する。突帯は扁平で鋭利さを欠く。須恵器系埴輪の退化した型式と考えられる。

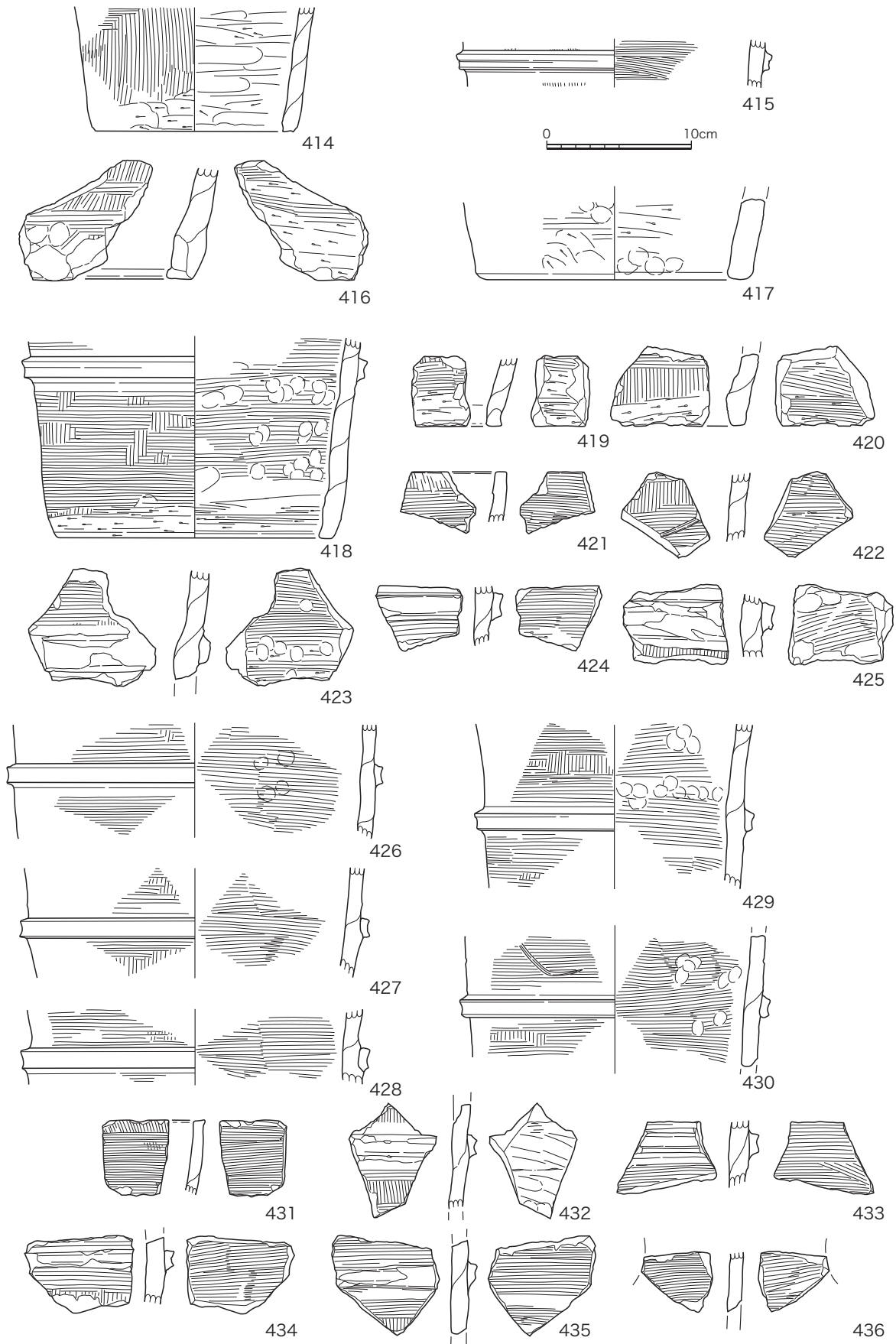
#### (3) ナデ系埴輪

ナデ系埴輪は、内外面の調整をナデ基調とするもので、6点(439～444)を図示した。

ナデ系1類は3点(439～441)で、灰白～淡黄色系の色調を基調とし、胎土中には砂粒をほとんど含まない。器壁は薄手で、低平な突帯を付す。26には径0.8cmの焼成前の小孔がある。ナデ系2類は3点(442～444)で、灰白～淡橙色系の色調を基調とし、胎土中に砂粒をやや多く含む。器壁はやや厚手で、高く突出する突帯を付すもの(442)と、低平な突帯を付すもの(443)がある。444は基部で、底部調整は認められない。

#### (4) ヨコハケ系埴輪

ヨコハケ系埴輪は、5点の破片(445～449)



第 79 図 A 期の遺物実測図 (11) 埴輪 (1)



を図化したのみで、ヨコハケの静止痕が確認できる個体はない。

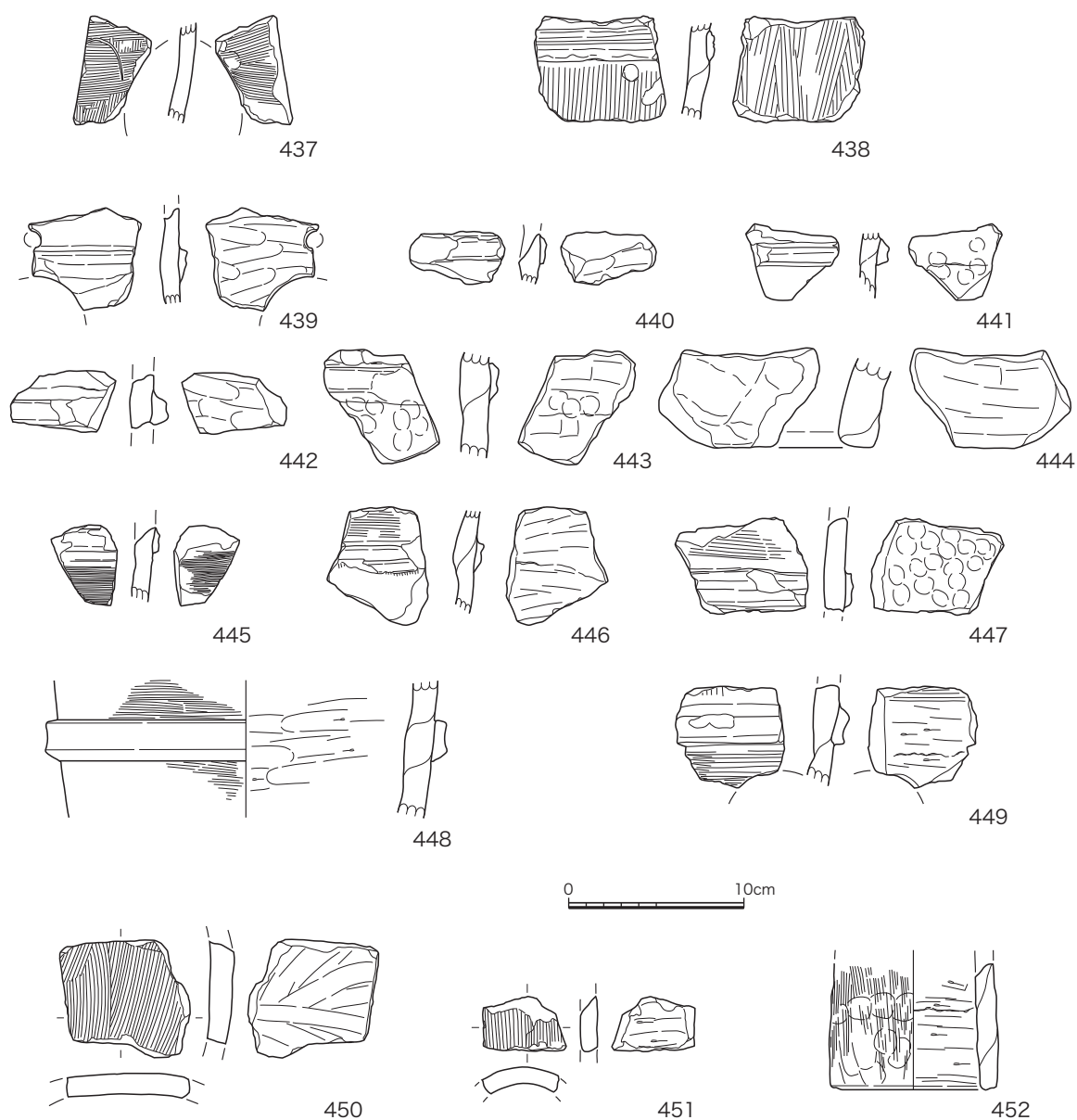
ヨコハケ系1類は3点(445~447)で、外面に細かなヨコハケを施す。淡黄~淡橙色系の色調で、断面の中間に黒色層を形成するものがある。胎土中には砂粒をほとんど含まない。器壁は薄手で、低平な突帯を付す。446の外面にはベンガラを塗布した痕跡を残す。

ヨコハケ系2類は2点(448・449)で、外面

にやや粗いヨコハケを施す。色調は淡黄~橙色系で、1類と類似する。1類と比較して、器壁が厚く、突帯が突出する傾向にある。

(5) 器種を特定しえない形象埴輪

形象埴輪の可能性のある個体として3点(450~452)を図示した。いずれも器種、部位の特定には及んでいない。450は円弧を有さない破片で、外面をハケ、内面を丁寧なナデによって調整する。胎土や色調は須恵器系3類に共通する。451



第80図 A期の遺物実測図(12)埴輪(2)

## 名古屋城三の丸遺跡 VII

は径が著しく小さい筒状の形状で、外面をハケ、内面をナデによって調整する。胎土や色調は450に共通する。452は筒状を呈する基部で、外面は細かいタテハケとナデによって調整する。灰白色の精良な胎土が特徴的である。

### 3 小結

#### (1) 各系統の関係

須恵器系1類は、ナデ系1類、ヨコハケ系1類と、須恵器系2類はナデ系2類とそれぞれに共通する属性も少なくない。この理解は、それぞれの系統の円筒埴輪が製作環境において相互に排他的ではなかったことを示す。この理解は、円筒埴輪の帰属時期を推測するうえでも重要な要素となりえよう。

#### (2) 帰属時期

ナデ系、ヨコハケ系、須恵器系1・2類と須恵器系3類は、前三者が古相、後者が新相の要素をそれぞれ内包する傾向にあるが、これらは総体として単一時期の製作と理解しても差し支えないと考えられる。推測される帰属時期は、須恵器系埴輪（なかでも須恵器系3類）を主体として、他系統の埴輪が混在する点、須恵器系埴輪の技法にやや不安定さが看取される点などから、赤塚次郎による円筒埴輪編年のIV期2段階、須恵器型式

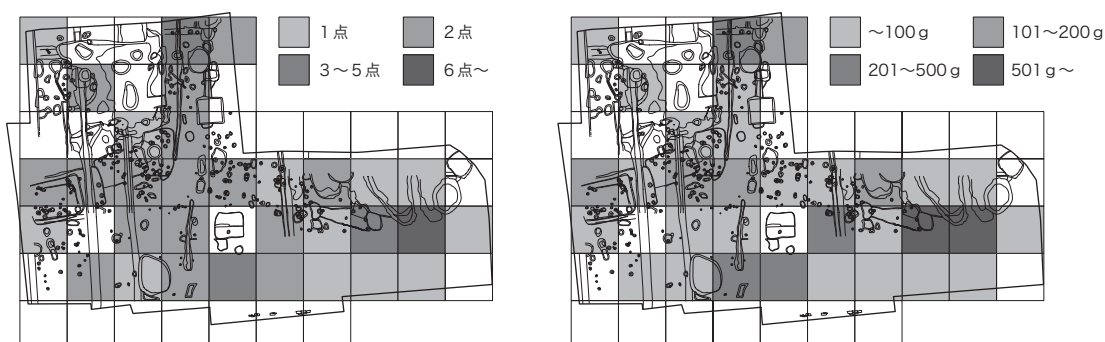
では城山2号窯期に相当する。底部設定技法が積極的には認められないこと、整形段階のタタキ調整が認められないことも、帰属時期を推測するうえで参考となる。また、この推測は、本報告が対象とする調査区から、城山2号窯期、東山11号窯期の須恵器が出土している事実、周辺調査区で検出された古墳の築造時期が、東山111号窯期～城山2号窯期に求められる点とも調和する。一方、須恵器系4類、タテハケ系の各1点は時期が下降する可能性が高く、円筒埴輪編年のV期、須恵器型式では東山11号窯期以降に位置づけておきたい。

#### (3) 出土分布

第81図に、グリッド別の出土点数と重量の分布を示した。埴輪は、二次的な移動の結果、調査区のほぼ全域に散漫に分布してはいるものの、相対的には調査区の東半から多く出土する傾向にある。すなわち、古墳群の痕跡は調査区の東半からより東に残されている可能性が指摘できる。

#### 参考文献

齊藤孝正 1983 「猿投窯成立期の様相」『名古屋大学文学部研究論集』LXXXVI（史学29）名古屋大学文学部  
赤塚次郎 1991 「尾張型埴輪について」『池下古墳』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第24集



第81図 埴輪出土分布図

### 第13項 古代～中世の瓦

SK155からは古代～中世の瓦が若干数であるが出土した。内訳は古代の平瓦1点、中世の軒平瓦1点、平瓦1点、時期不明の丸瓦2点である。各破片で全く色調が異なる。

軒平瓦(453)は、瓦当面の状態が不良であるが、紋様は唐草紋と判断される。もともと瓦当範の押し当てが充分でなかったようである。比較的単純化の進んだ唐草紋と考えられ、尾張地域で類例を探すと名古屋市・八事萱野古窯跡出土の軒平瓦と、同範とは言い切れないがほぼ同じ紋様であることが判明した(註)。素材は糸で切り出された粘土板で、凸型成形台で成形し、瓦当部を折り曲げる。顎部には粘土を付加し指ナデ調整をおこなう。凸面タタキ痕はみえない。瓦当範は面に対しややずれて押し当てられる。焼成は硬質で色調は赤褐色である。以上の製作技法上の特徴は八事萱野古窯跡出土の唐草紋軒平瓦と共通しており、当該瓦がこの窯の製品である可能性はきわめて高いといえる。

なお、八事萱野古窯の製品は、軒丸瓦に三巴紋2種と二巴紋1種の計3種類、軒平瓦に連続三巴紋1種と均整唐草紋2種の計3種類がある。灰釉の掛かる三巴紋軒丸瓦と連続三巴紋軒平瓦で組み合わせが想定でき、それ以外の無釉のものと区分される。唐草紋は仮にA・B類とするが同じ製作技法である。そのうち453に近似する紋様はA類(図83-3)である。

唐草紋軒平瓦の年代であるが、抽象化された唐草紋と瓦当部の折り曲げ技法から、12世紀末～13世紀初頭の時期を考えることができよう。なお京都(平安京)での出土は確認されていない。

平瓦(454)は凸面縄タタキの後に指ナデをおこない、凹面に桶状模骨の痕跡がある。焼成がやや軟質で厚み(2.3cm)もあるため古代のものと考えられる。455は凸面縄タタキ。離れ砂はないが灰釉系陶器に近い焼成であるため、中世のもの

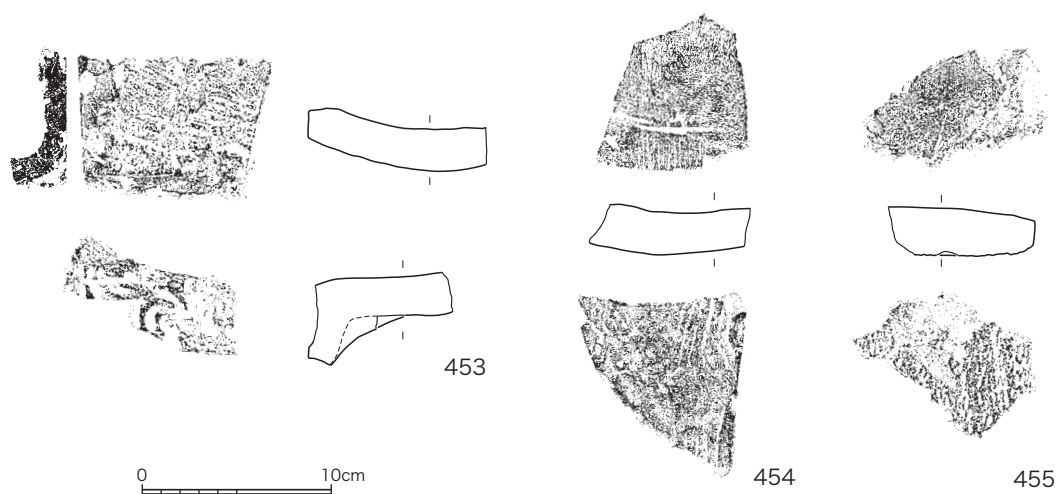
と考えられる。なお図示していない丸瓦は、古代とも中世とも判じがたい。

以上の瓦はSK155以外の遺構や整地層・表土層からは出土していない。この状況は円筒埴輪のそれとは対称的で、後者が調査区近辺に古墳の存在を想定せしめるのに対し、古代～中世の瓦葺き建物の存在については否定的である。SK155出土遺物は古瀬戸末期を下限とする雑多な時期を示し、それ以前から存在した瓦礫を片付けた土坑とみられるが、瓦に関していえば、ここから離れた地点からもたらされたものと考えられる。なお、これまでの名古屋城三の丸遺跡の調査では、台地西縁に近い古代集落が確認された地点で古代～中世の瓦が出土しているが、台地の奥まった地点ではみられない。つまり分布に偏向がうかがえ、台地西縁に古代～中世の瓦葺き建物を想定することも可能であろう。これに関して、名古屋城三の丸には天王社があったが、その前身は中世の「安養寺」になる可能性があり、『尾張国風土記逸文』に記される古代の「福興寺」との関わりも指摘されている(三渡1986)。名古屋城前史のひとつとして今後探索を続ける必要がある。

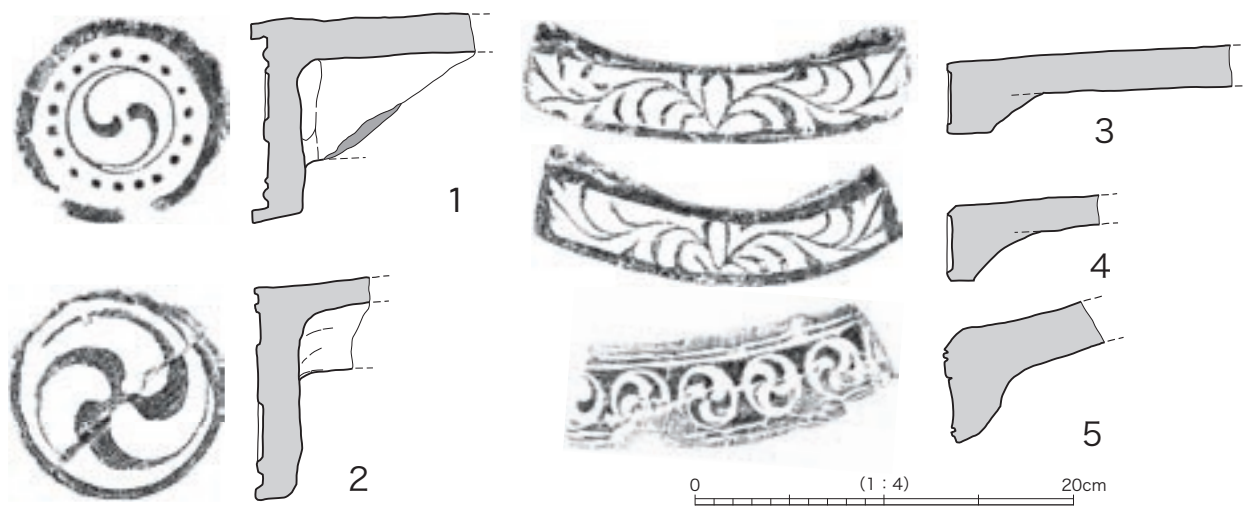
(註) 八事萱野古窯跡出土資料の調査にあたっては名古屋市博物館梶山勝氏・瀬川貴文氏の御協力と御教示をいただいた。

参考文献

三渡俊一郎 1986 『千種・東・中区の遺跡』名古屋市文化財叢書第88集



第 82 図 A 期の遺物実測図 (12) 古代～中世の瓦



第 83 図 八事萱野古窯出土瓦実測図

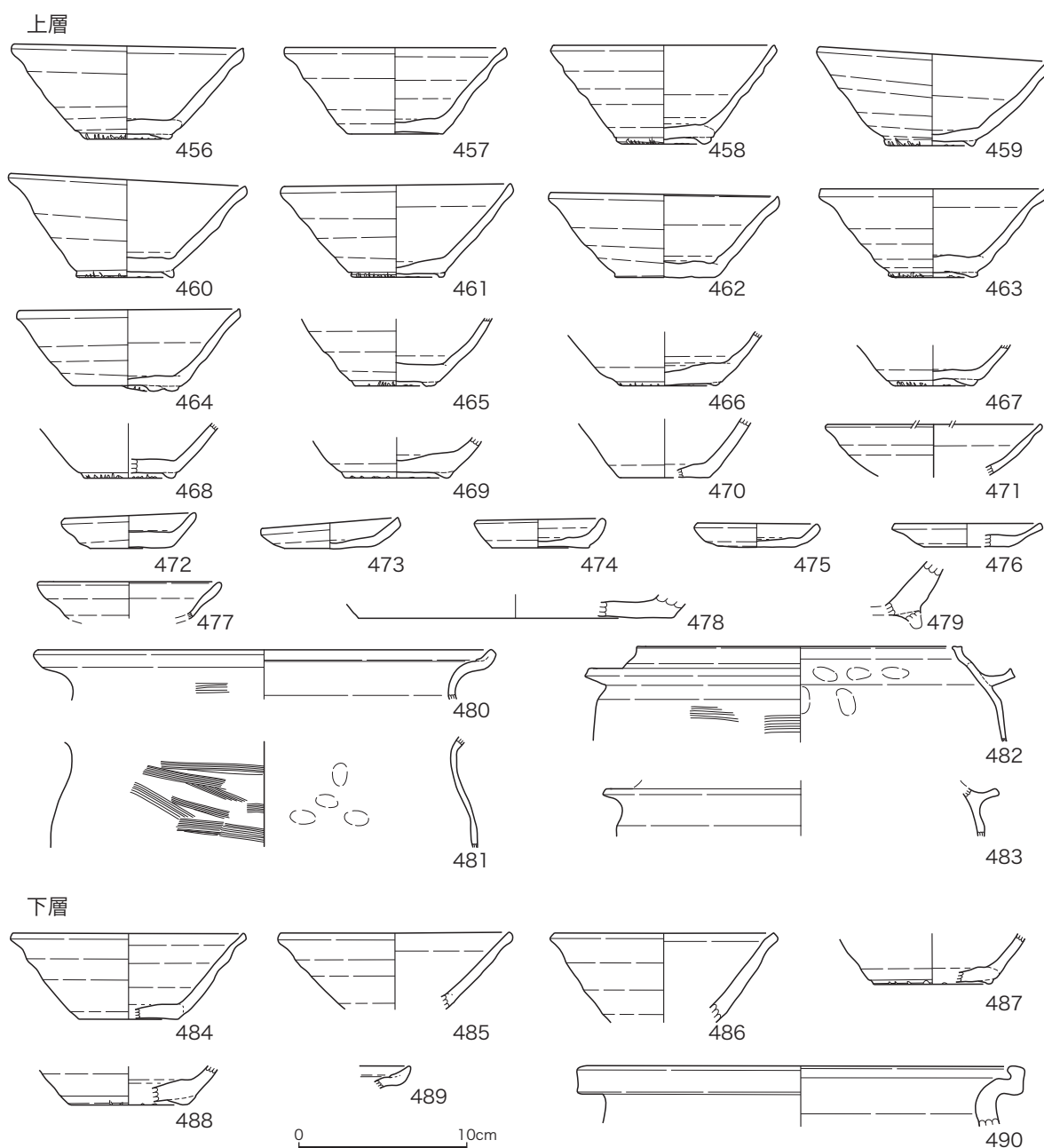
### 第3節 B期の遺物

B期は鎌倉時代中頃～戦国時代（13世紀～16世紀）の段階である。遺物には山茶碗類・瀬戸美濃窯産陶器・土師器などの焼物類の他、石製品や金属製品などがある。ここでは主要な遺構出土資料を中心に記述する。

#### 第1項 SK226 出土遺物

##### (第84図456～490)

井戸SK226は上層をSK226、下層をSK310として掘削しており、ここでは両者を併記して報告する。SK226からは山茶碗類と土師器などが398点出土した。この中には一部近世に属する瓦類が混入していたが、大半は山茶碗類（134点）



第84図 B期の遺物実測図(1) SK226



である。須恵器や灰釉陶器など古い遺物も多数含まれていたが、古瀬戸製品は全く認められない。

上層出土の山茶碗類には尾張型 118 点と東濃型 16 点があり、尾張型は瀬戸窯産と推測される製品が多い。尾張型山茶碗 (456～470) と小皿 (472～475) は 466 を除き藤澤良祐編年の第 7～8 型式に属する。東濃型小皿 (476) は明和 2 号窯式期に属する。この他に、尾張型鉢 (478・479)、土師器非ロクロ調整皿 (477)、土師器南伊勢系鍋 (480・481)、土師器内彎型羽釜 (鏝付鍋: 482・483) などが存在する。482 は口縁部が内傾するがその長さは長く、北村編年 A3 類に属する。

下層出土の山茶碗類は尾張型が多く (484～488)、486～488 は上層よりも古い第 6 型式に属する資料である。490 は常滑窯産陶器甕で中野編年の 6a 期に属する。下層の方がやや古い段階

の山茶碗を含むものの、埋没時期がそれ程異ならないと思われる。B-1 期に属する資料で 13 世紀中葉に位置づけられる。

### 第 2 項 SD18 出土遺物

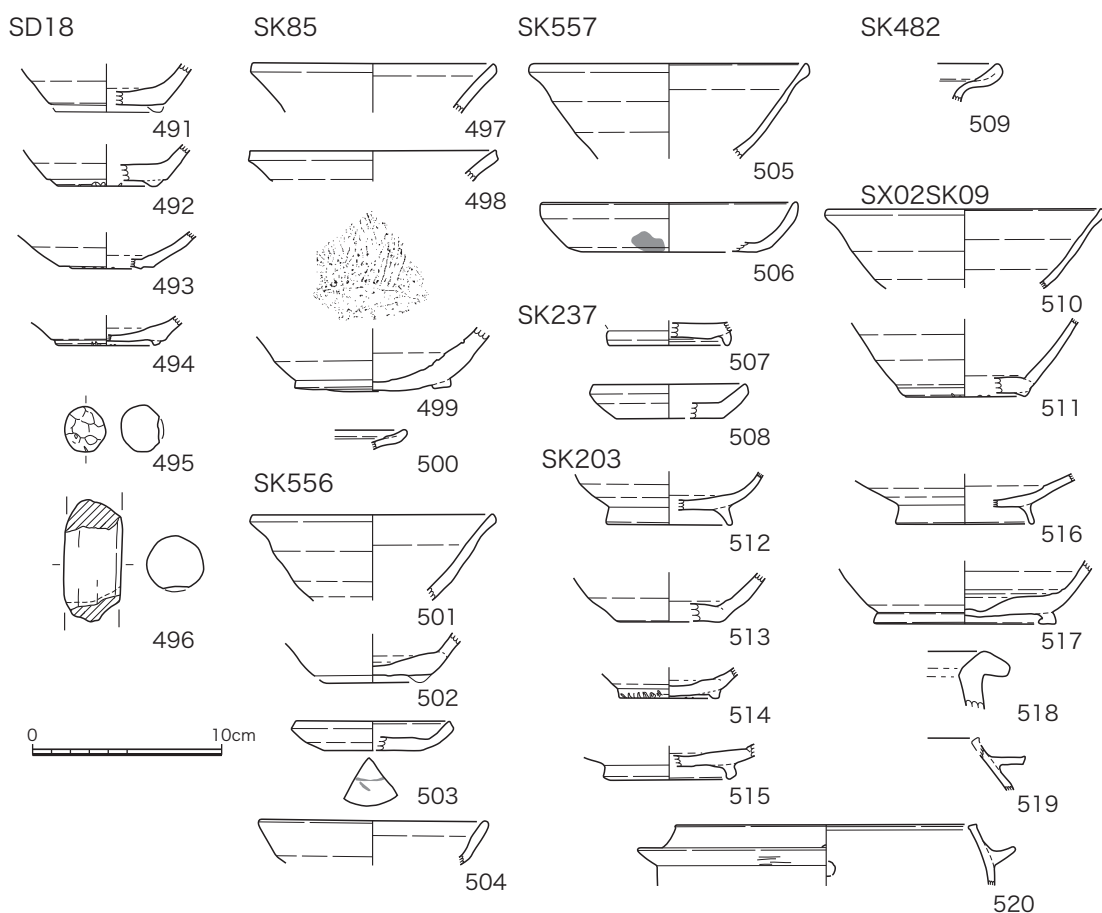
#### (第 85 図 491～496)

SD18 は SD17 に切られる東西方向に走る小規模な溝で山茶碗類などが出土した。山茶碗類は尾張型 (491・492) と東濃型 (493・494) があり、後者には大洞東窯式期に属する (493)。496 は棒状の土製品で支脚の一部かも知れない。B-2 期 (14 世紀末から 15 世紀初頭) に位置づけられる。

### 第 3 項 B-1,2 期の土坑出土遺物

#### (第 85 図 497～520)

497～500 は SK85 から出土した資料で、尾張型山茶碗 (497・498) は第 7～8 型式に属する。



第 85 図 B 期の遺物実測図 (2) 溝・土坑出土遺物

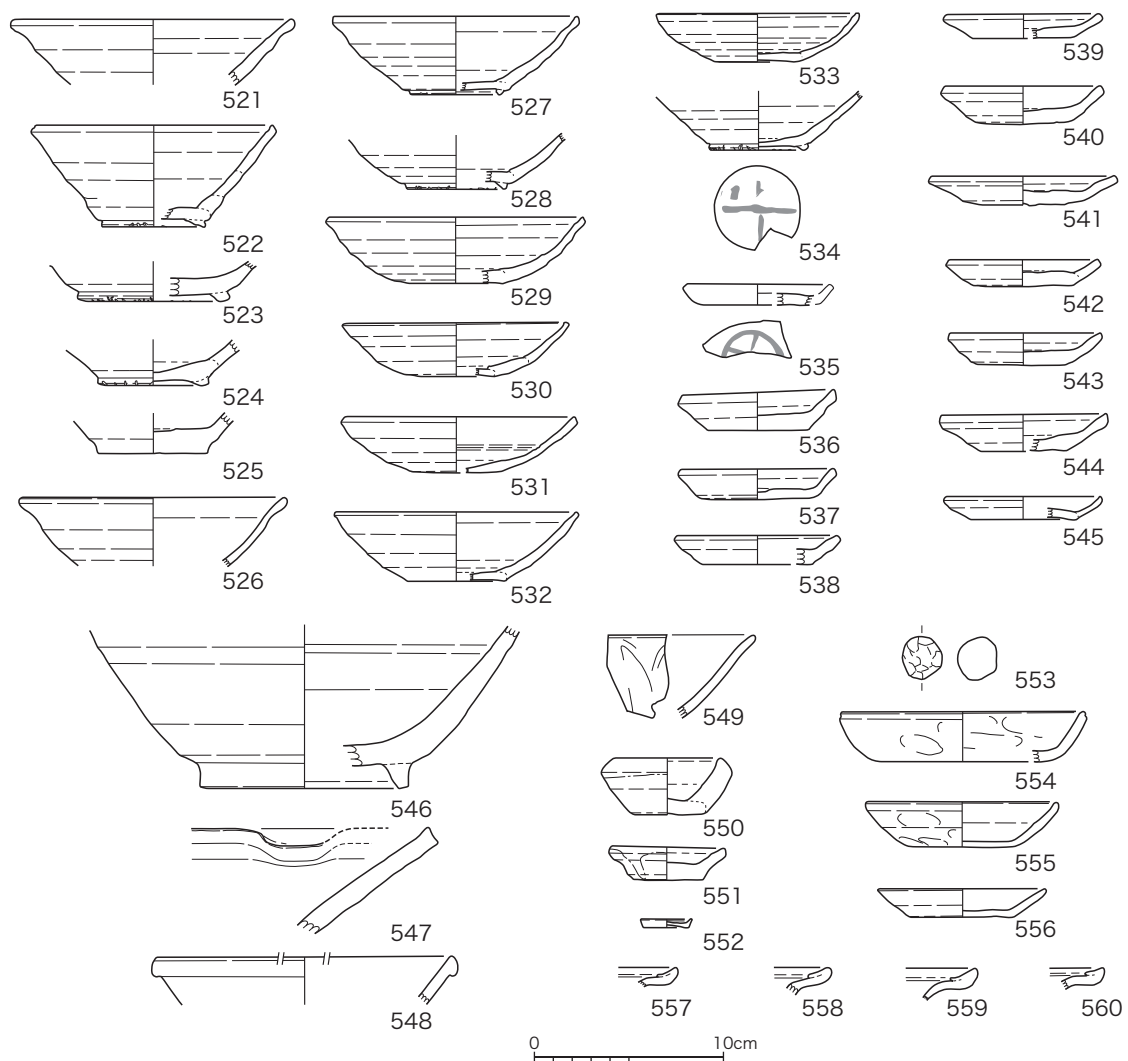
499 は東濃型山茶碗の卸碗で、内面に刻線が施され自然釉がかかる。白土原窯式期に属する。501～504 は SK556 出土資料で、503 の底部外面には墨書が記されている。505・506 は SK557 出土遺物で 505 は明和 2 号窯式期に属する東濃型山茶碗、506 は白色で均質な胎土の土師器皿である。506 は口縁部がやや肥厚しながら内彎し底部に黒色のしみが存在する。507・508 は SK237 出土資料、512～520 は SK203 出土資料で、両者とも灰釉陶器類などの古い時期の遺物を含有する。518 は灰釉陶器類の時期に属する土師器清郷型甕である。519 と 520 は土師器内彎型羽釜（鍔付鍋）で鍔の状態から両者は別系統の製品と考えられる。

#### 第 4 項 SK155 出土遺物

##### (第 87～89 図 561～645)

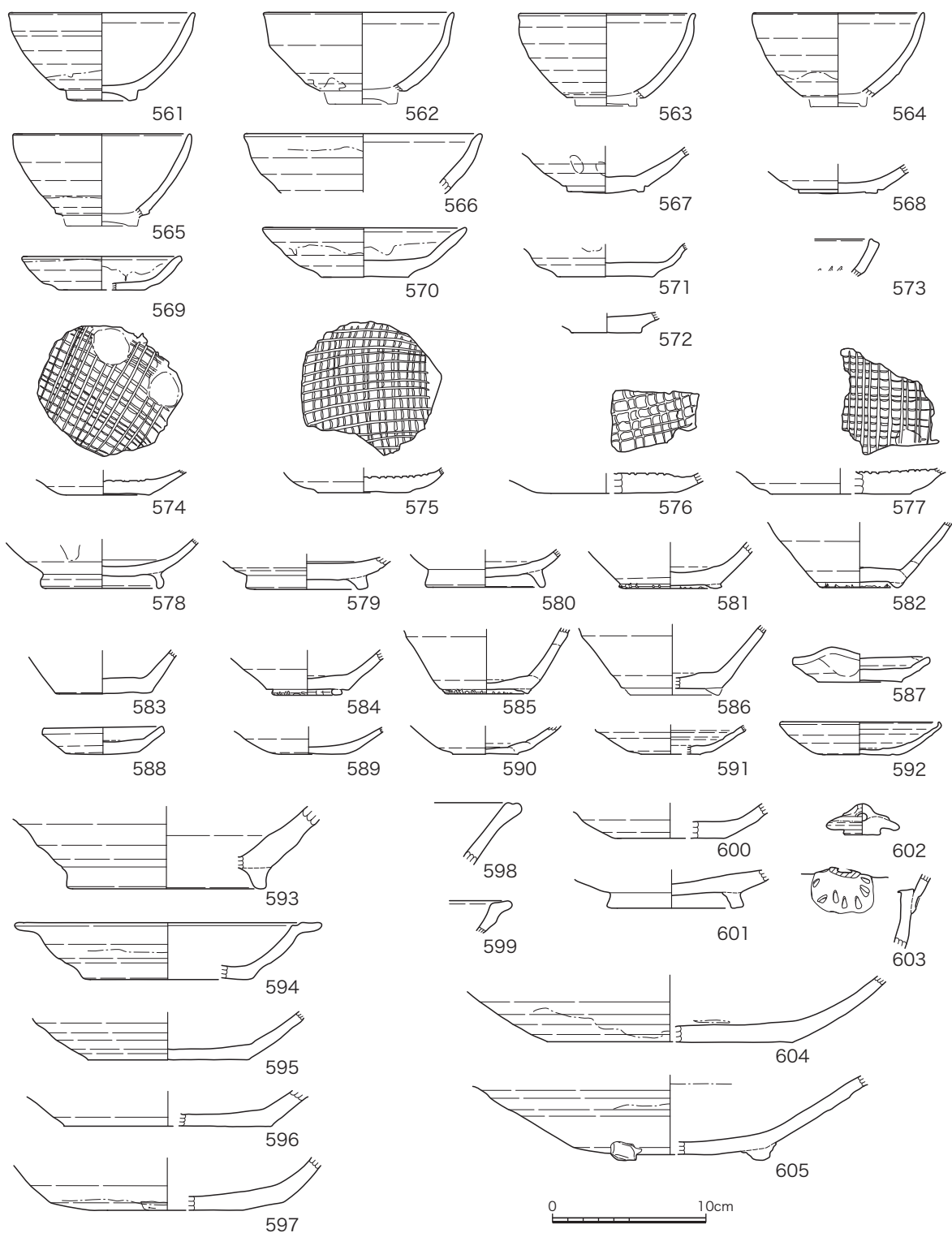
SK155 からは瀬戸美濃窯産陶器や常滑窯産陶器、土師器などの遺物が 761 点出土した。遺構の時期は B 期に属するが、須恵器 230 点、古代までの土師器 59 点など約半数が A 期に属する資料であった。ここでは遺構の時期に近い資料を中心に報告する。

瀬戸美濃窯産陶器には天目茶碗 (561～565)、平碗 (566・567)、縁釉小皿 (568～572)、卸皿 (573～577)、折縁中皿 (594)、折縁深皿 (599・606) 合子蓋 (602)、水注 (603・627)、播鉢 (607～611・616～618)、直縁大皿 (612)、緒桶 (613・614)、根来型広口瓶子 (622)、祖母懷壺 (623)、



第 86 図 B 期の遺物実測図 (3) 包含層他出土遺物

名古屋城三の丸遺跡 VII



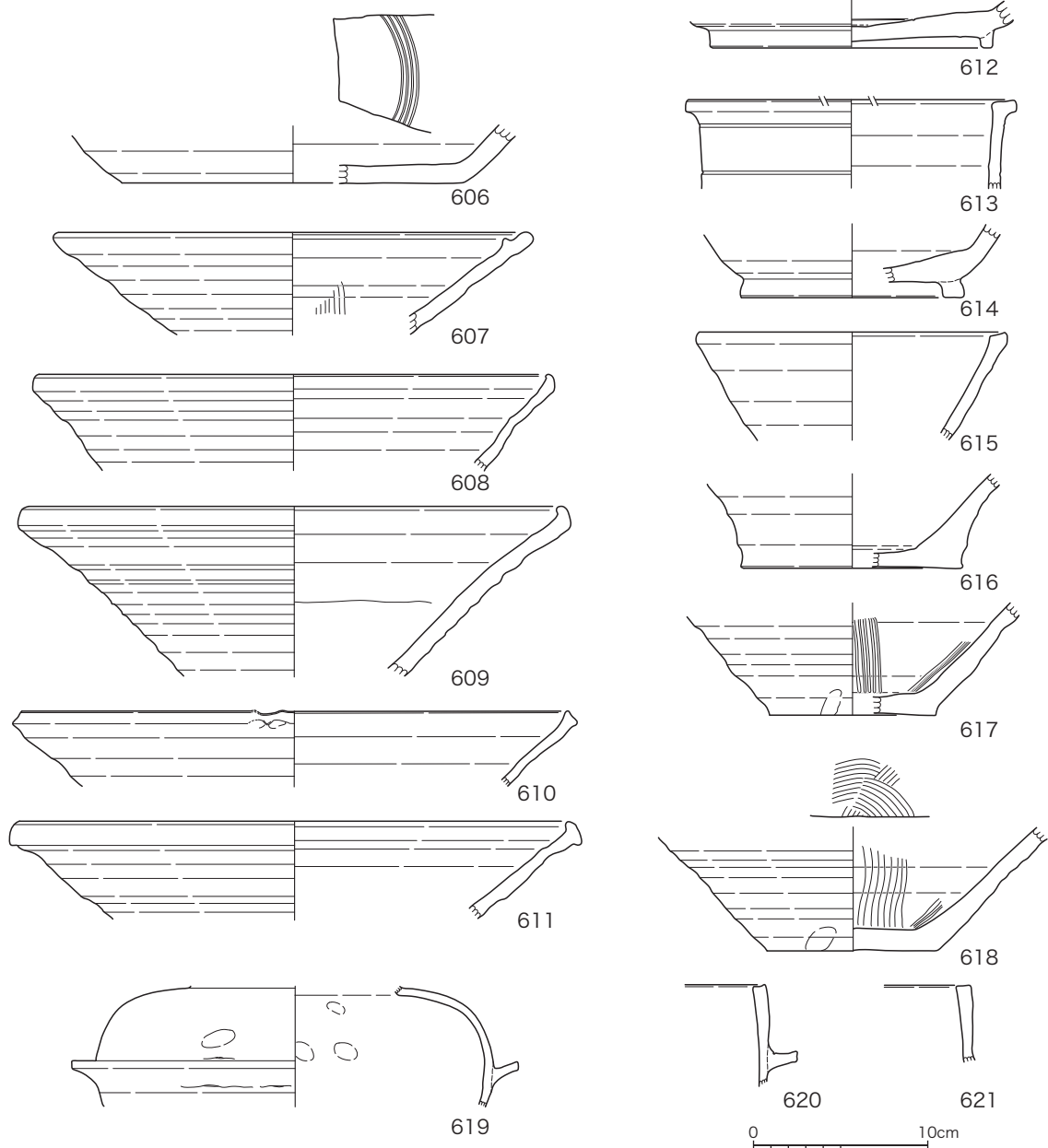
第 87 図 B 期の遺物実測図 (4) SK155 (1)

四 (三) 耳壺 (624～626)、花瓶 (628)、瓶子 (629～632・634～636)、燭台 (637) など多様な器種が存在する。出土量は接合前破片数で碗・小皿類は25点、中皿・鉢類は25点、挿鉢は22点、壺・瓶類は55点、その他は24点であり、壺・瓶類の出土量が多い傾向が認められる。時期別に検討すると、古瀬戸前I b期の資料 (603) が最も古く、古瀬戸後IV期新段階の資料が最も多くかつ最新資料である。

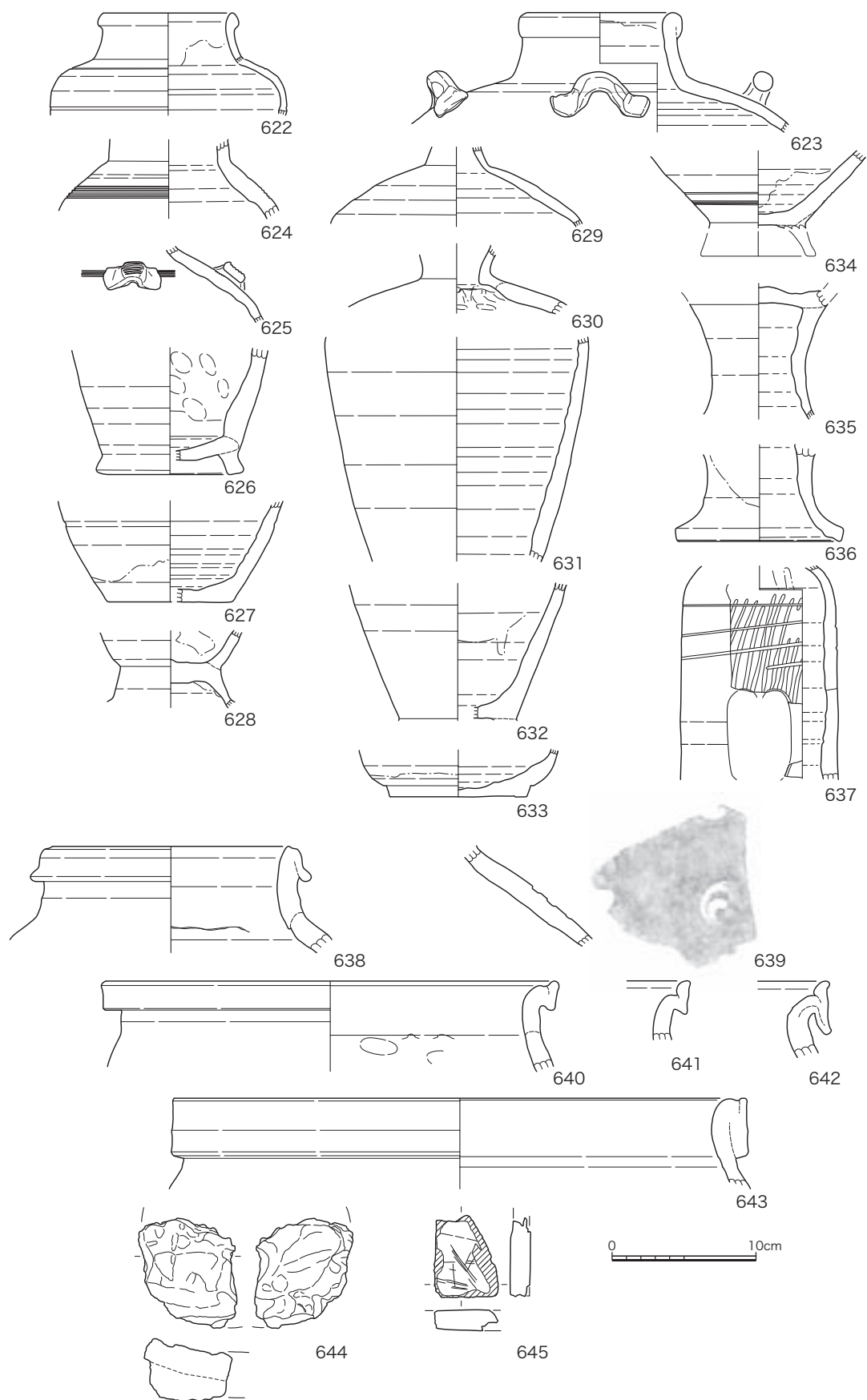
常滑窯産陶器は接合前破片数で81点出土し

ており、大半が甕または壺の破片と考えられる。638は10型式新段階の壺口縁部、640・641は5型式新段階の甕口縁部、642は7型式新段階の甕口縁部、643は9型式新段階の甕口縁部である。639は甕の肩部付近の破片で三つ巴紋の印が施されている。この他に陶器類では山茶碗類も72点が確認されている。尾張型山茶碗は第3～8型式が、東濃型山茶碗では浅間窯下窯式期から生田窯式期までが出土した。

土師器には皿と鍋・釜類が存在し、後者には羽



第88図 B期の遺物実測図 (5) SK155 (2)



第 89 図 B 期の遺物実測図 (6) SK155 (3)



付鍋 (620・621) と羽付釜 (619) が認められる。羽付鍋は口縁部が高く直立することからこの種では最も古い資料と考えられる。この他に重複碗型鉄滓 (644) や砥石 (645) など出土した。

古瀬戸後IV期新段階の資料と直立する羽付鍋の存在から、B-3期 (15世紀後半) に位置づけられる。

## 第5項 SK147 出土遺物

### (第90～92図 646～764)

SK147からは瀬戸美濃窯産陶器や土師器などの遺物が2671点出土した。このうち半数以上は土師器皿で全体の約73% (1940点) を占める。古い包含層などを壊したため混入したと思われる須恵器230点、古代以前の土師器187点、灰釉陶器57点、山茶碗類83点を除くと、土師器皿の占める割合は更に高く約91%と計算される。ここでは遺構の時期に近い資料を中心に記述を進めたい。

瀬戸美濃窯産陶器には天目茶碗 (646～649)、仏餉具 (650)、縁緑小皿 (651・652)、重圈皿 (東濃型山茶碗 653)、水注 (744)、四 (三) 耳壺 (745)、搦鉢 (746・750)、釜 (748・749) などがある。接合前破片数では天目茶碗が25点、皿類が13点、搦鉢が16点、甕が21点、その他が14点である。甕は全ての破片が同一個体と思われるので、天目茶碗の占める割合が高いことがいえよう。時期は古瀬戸前期から大窯第4段階まで分布するが、大窯第4段階の志野丸皿と大窯第2段階の搦鉢などを除くと、古瀬戸後IV期から大窯第1段階までに集中する傾向がある。

土師器には大量の皿類と内耳鍋がある。土師器皿は大きくロクロ調整皿と非ロクロ調整皿に分けられ、形状でさらに細分される。

ロクロ調整皿1類 (661～686) は口径が11～14cmで体部を2段にナデて口縁端部を大きく外反させたものである。ロクロ調整皿2類

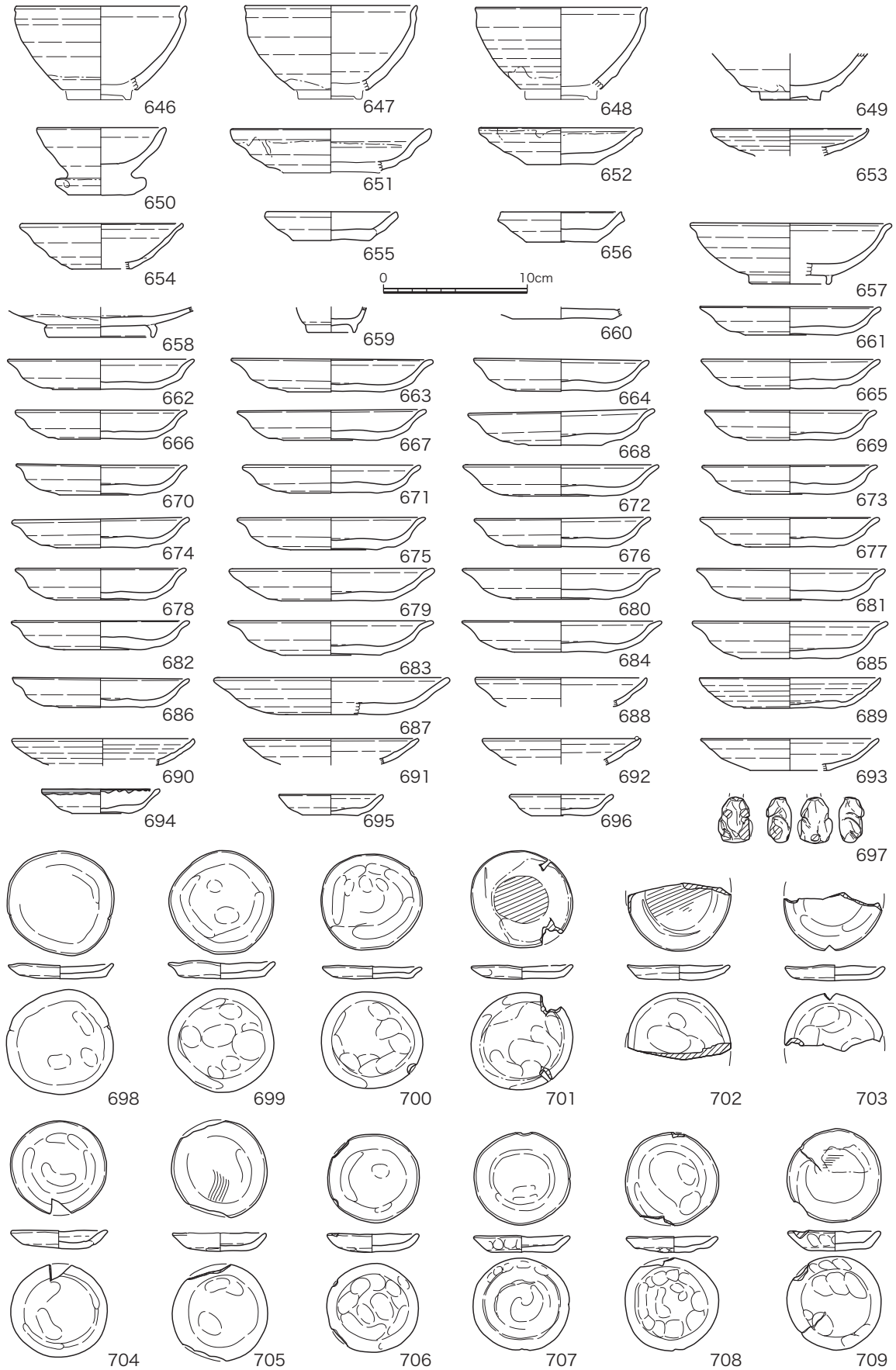
(687) は口径が約16cmで体部が逆八字状に開き口縁端部までおおよそ直線的になるものである。ロクロ調整皿3類 (688～693) は口径が11～13cmで体部が逆八字状に開き口縁端部までおおよそ直線的になるものである。比較的器壁が薄く作られている。ロクロ調整皿4類 (694～696) は口径が7～8cmで体部を2段にナデて口縁端部を外反させるものである。外反が弱いもの (695) も存在する。

非ロクロ調整皿1類 (698～713) は口径が6.0～7.3cmで内外面ともに口縁端部に横ナデを施して体部を立ち上げさせたものである。底部内面には一方向にナデた痕跡や指頭圧痕が残り、底部外面には指頭圧痕または手掌痕が残存する。非ロクロ調整皿2類 (714～743) は口径が6.8～7.6cmで口縁端部に全く横ナデ調整を施さないものである。内面全体に一方向にナデた痕跡が残るものが多く、底部外面には多数の指頭圧痕または手掌痕が残存する。円盤状の粘土板に碗形に加工するための切れ目を入れて繋ぎ合わせた痕跡が残るもの (727など) も認められ、指押さえが口縁端部に沿って円周上に巡る形で施されたものが多い。

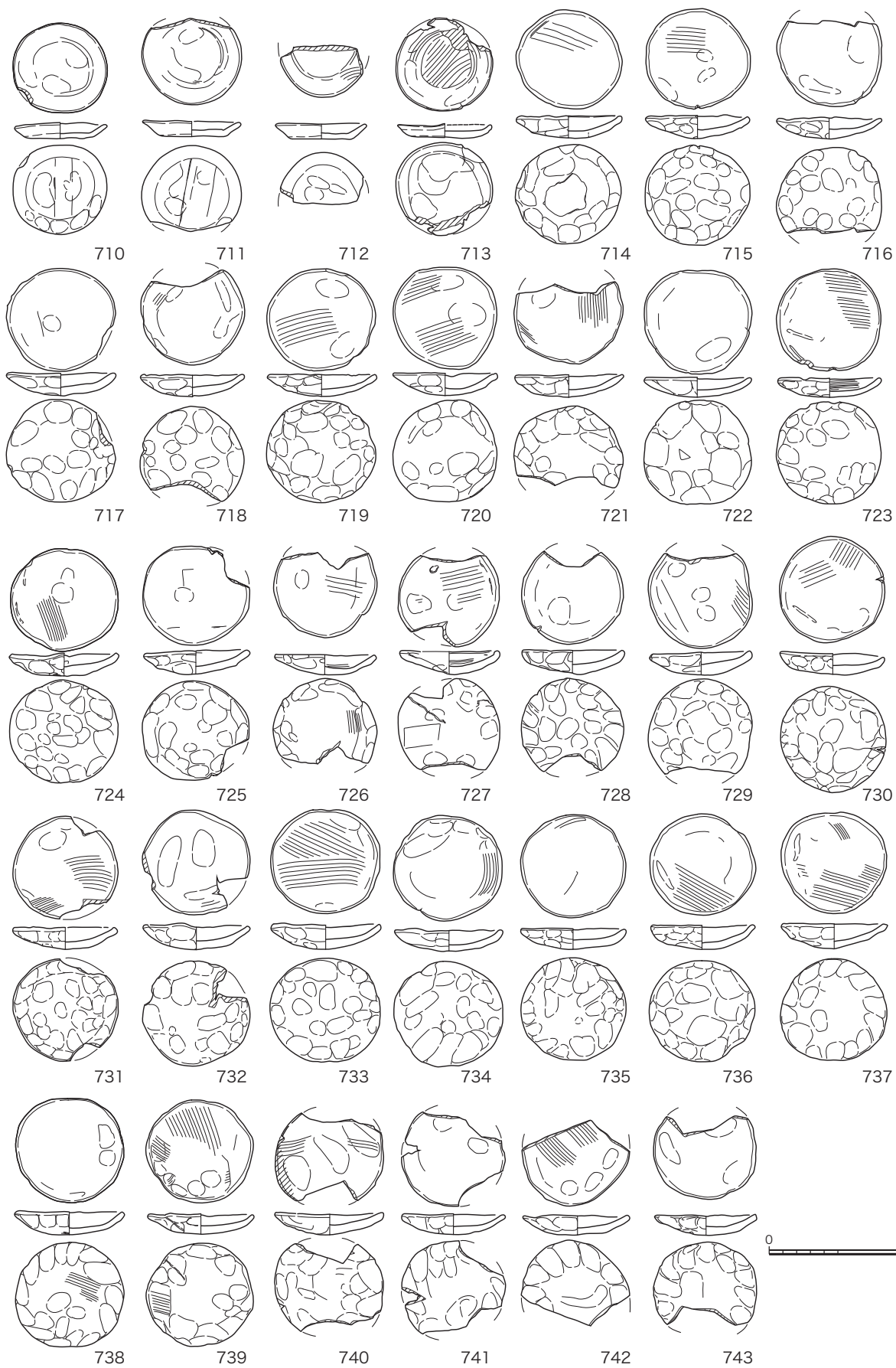
土師器内耳鍋 (752～758) は全て半球形内耳鍋であり、体部はやや直立気味に直線的に立ち上がるものである。口縁端部は方形に作られ、体部外面に1条の沈線が巡っている。この他に土製形代 (697)、板材 (759)、鉄鏟 (760)、砥石 (761～764) などがある。697は頭部が欠損する土製形代で座った姿勢が表現されている。尾を持つことなどから動物 (猿) を模ったものと思われる。砥石は肌理が細かい石材が使用され薄いものが多いことから仕上げ砥と思われる。

この資料は、古瀬戸後IV期新段階と大窯第1段階の資料が多く存在し、土師器皿の形状などからみて、B-4期 (15世紀末～16世紀前葉) に位置づけられる。

名古屋城三の丸遺跡 VII

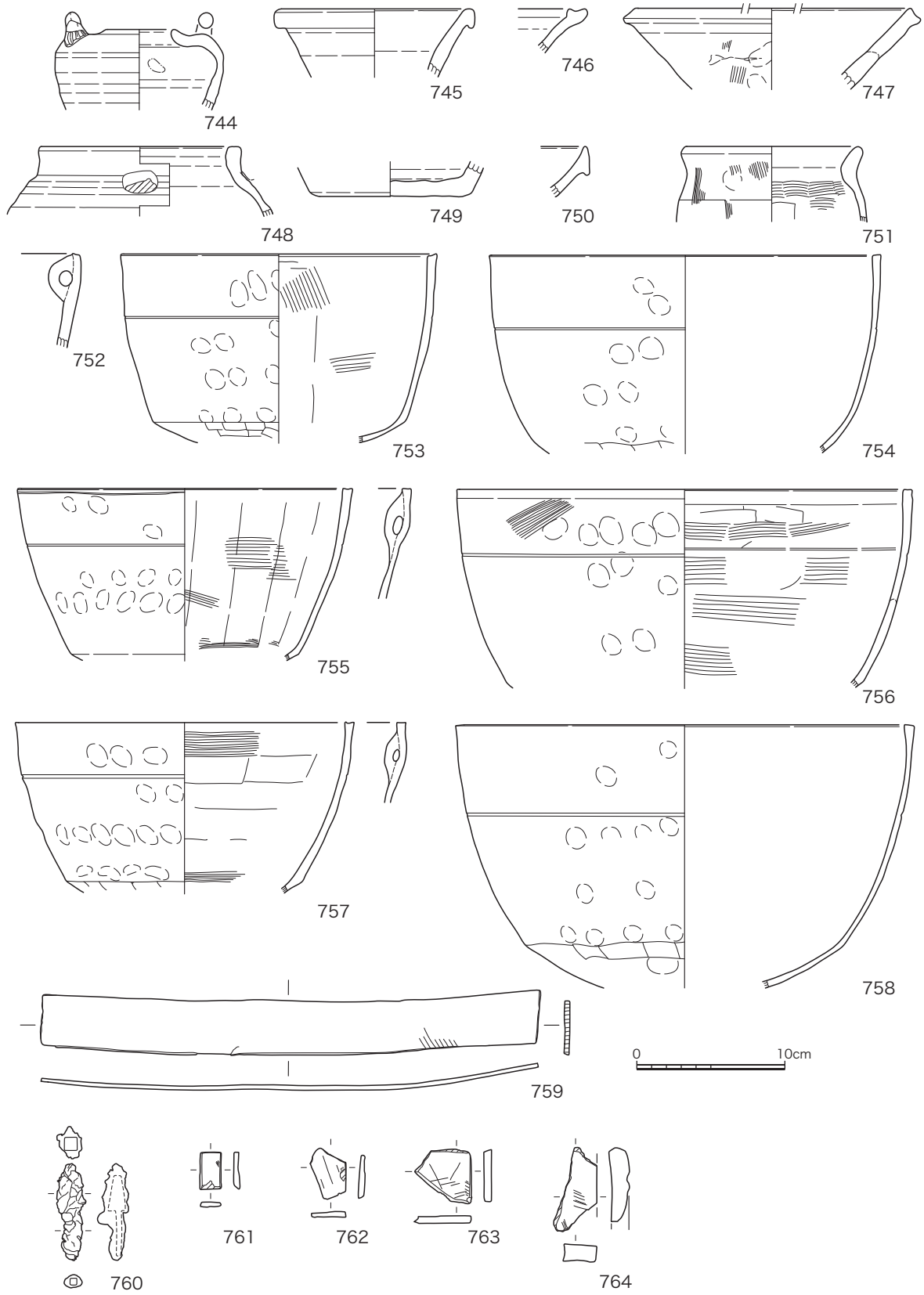


第 90 図 B 期の遺物実測図 (7) SK147 (1)



第91図 B期の遺物実測図 (8) SK147 (2)

名古屋城三の丸遺跡 VII



第 92 図 B 期の遺物実測図 (9) SK147 (3)

## 第6項 SD39 出土遺物

## (第93・94図 765～802)

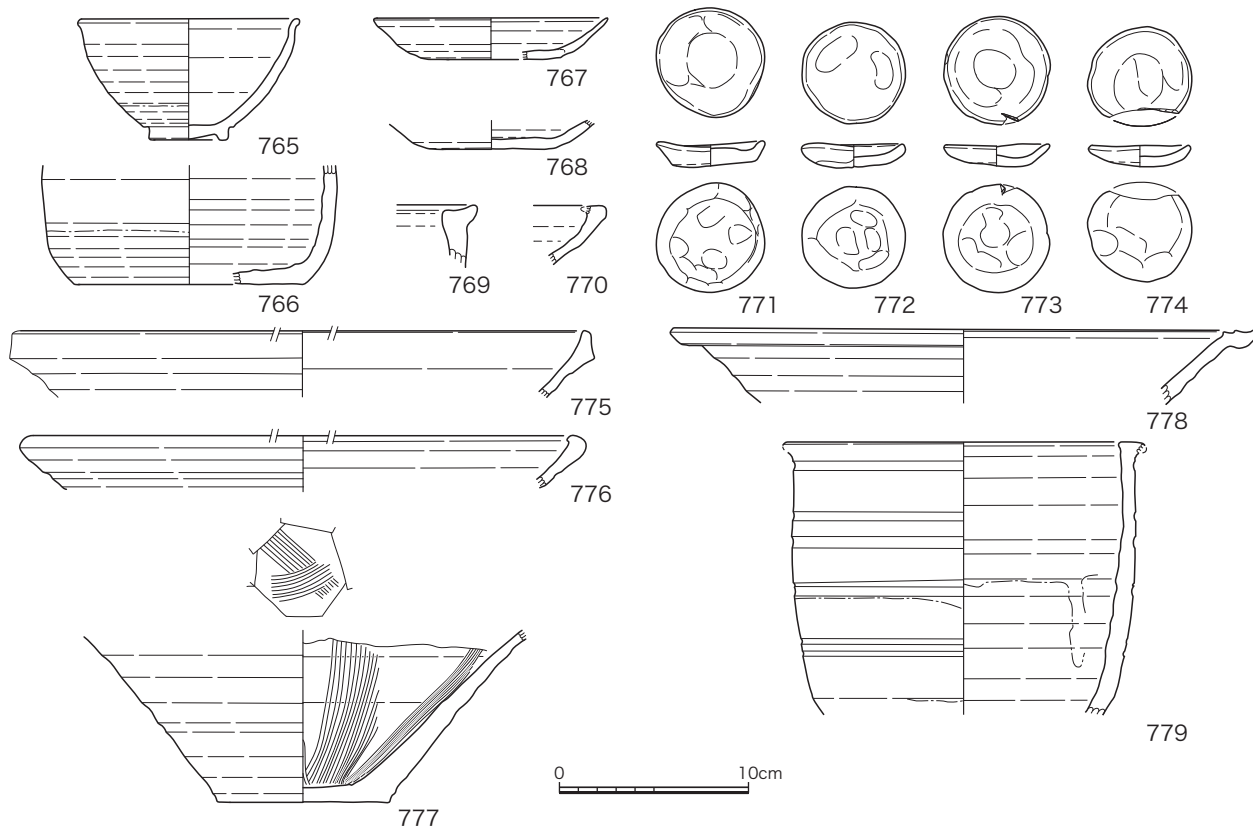
SD39からは瀬戸美濃窯産陶器や土師器などの遺物が807点出土した。このうち半数以上は土師器鍋で全体の約72% (583点) を占める。

瀬戸美濃窯産陶器には天目茶碗(765)、瓶(766)、緒桶(769・779)、播鉢(770・775～777)、折縁深皿(778)などがある。図示しなかったが灰釉丸皿が最新資料で大窯第2段階に位置づけられ、この他は古瀬戸後IV期から大窯第1段階までに集中する傾向がある。

土師器には皿類と内耳鍋などがある。土師器皿は体部が直線的に逆ハ字状に開くロクロ調整皿(767・768)と、内外面とも横ナデ調整が施された非ロクロ調整皿(771～774)がある。後者は口径が5.2～5.5cmに分布しSK147出土資料よりも小さい。土師器内耳鍋は全て半球形内耳鍋に属し、その形状から3類に分類できる。内耳鍋1

類(789～799)は体部が緩やかに湾曲し口縁部がやや内傾するもので、器高が高いものである。体部上位(体部と口縁部の境界)外面に浅い沈線が巡るもの(798・799)がある。また、特殊なものとして体部に2ヶ所穿孔されたもの(798)も存在する。内耳鍋2類(788)は体部が緩やかに湾曲し口縁部がやや急に折れ曲がり内傾するものである。内耳鍋3類(801)は体部が緩やかに湾曲し口縁部がやや内傾するもののうち、器高が比較的低いものである。これらの内耳鍋は口縁部外面は横ナデ調整、体部外面は指オサエ調整、底部周縁外面はヘラケズリ調整、内面上半はハケ調整が施される。この他に土師器釜(787)が存在し、口縁部がやや内傾するものである。

この資料は、土師器鍋・釜類は鈴木1996によればI-3期に属すること、大窯第2段階の資料をわずかでも含むことなどから、B-4期(16世紀前半～中頃)の資料と位置づけられる。



第93図 B期の遺物実測図(10) SD39(1)



第7項 SD06 出土遺物

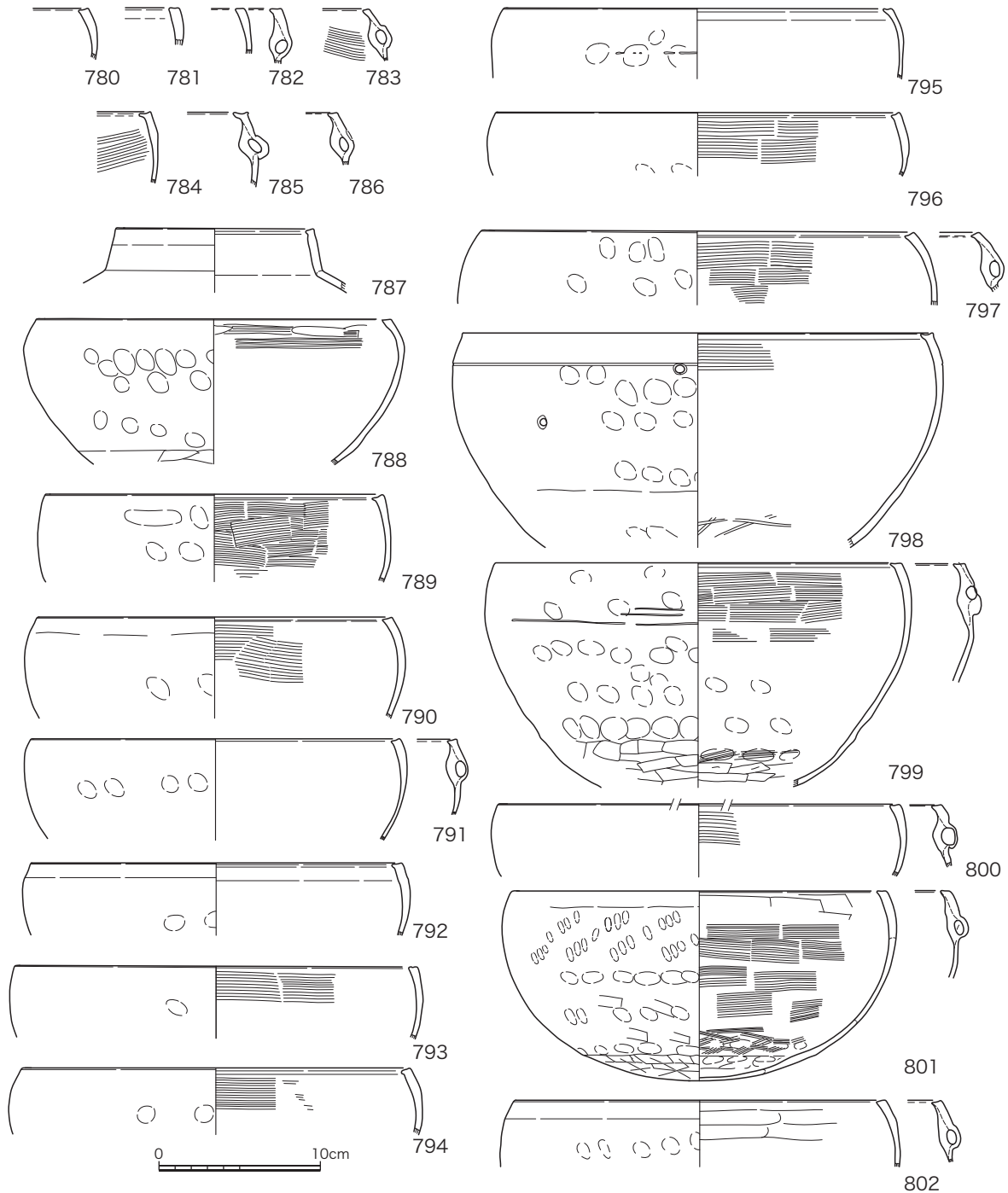
(第95図803～806)

SD06からは大窯第1段階までの瀬戸美濃窯産陶器や常滑窯産陶器、土師器などが出土した。804は中国龍泉窯系青磁蓮弁紋碗である。

第8項 SD17 出土遺物

(第95図807～815)

SD17からは大窯第2段階までの瀬戸美濃窯産陶器や土師器などが出土した。807は中国景德鎮窯系青花碗、808は大窯第2段階に位置づけられる鉄釉稜皿である。814は常滑窯産陶器鉢で焼



第94図 B期の遺物実測図(11)SD39(2)

成が甘い赤物製品で赤羽・中野編年の9型式に属する。

するタイプである。

第9項 SD29 出土遺物

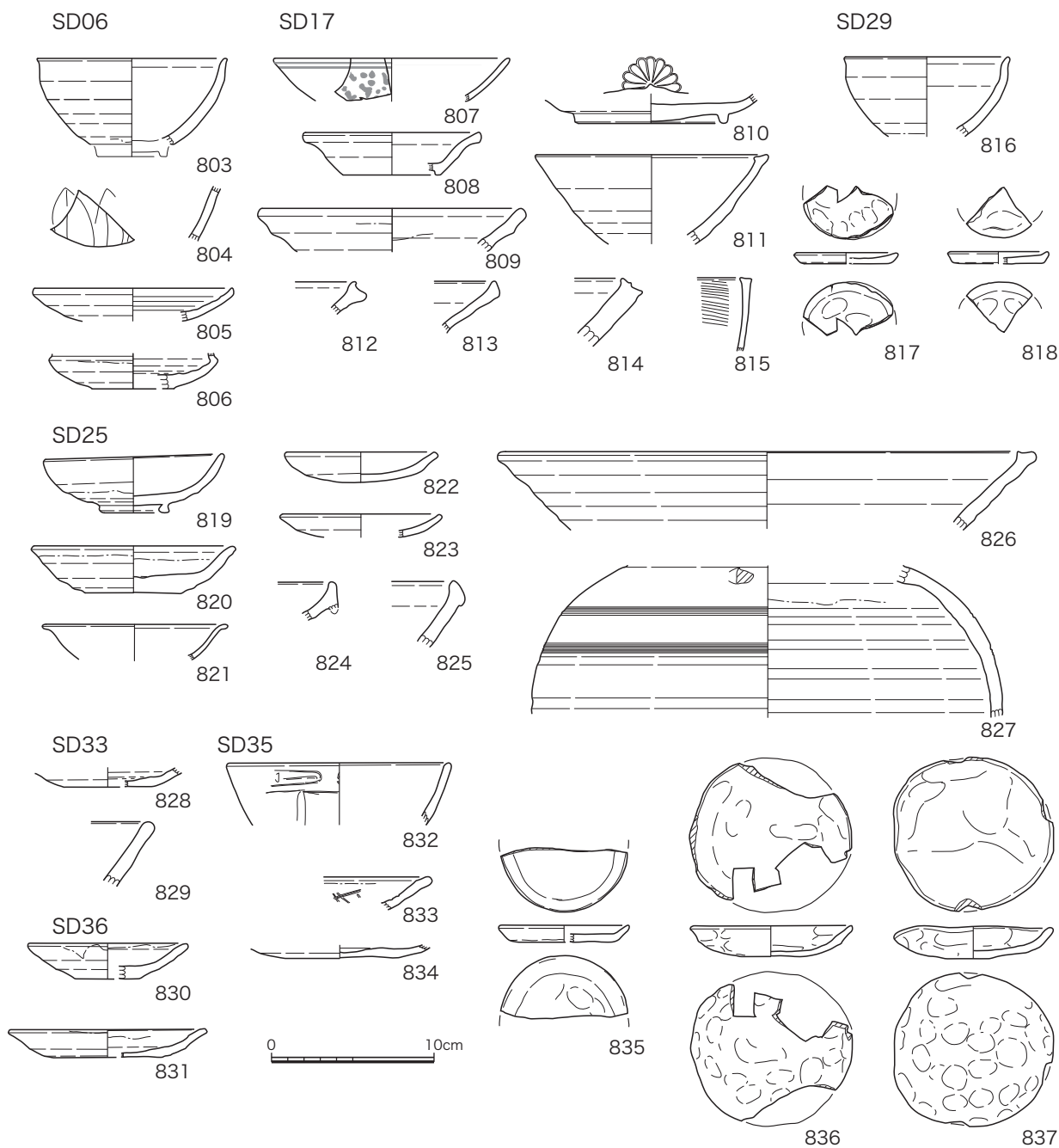
(第95図816～818)

SD29からは瀬戸美濃窯産陶器天目茶碗(816)や土師器皿などが出土した。817・818は非口調整土師器皿で、口縁部外面のみを横ナデ調整

第10項 SD25 出土遺物

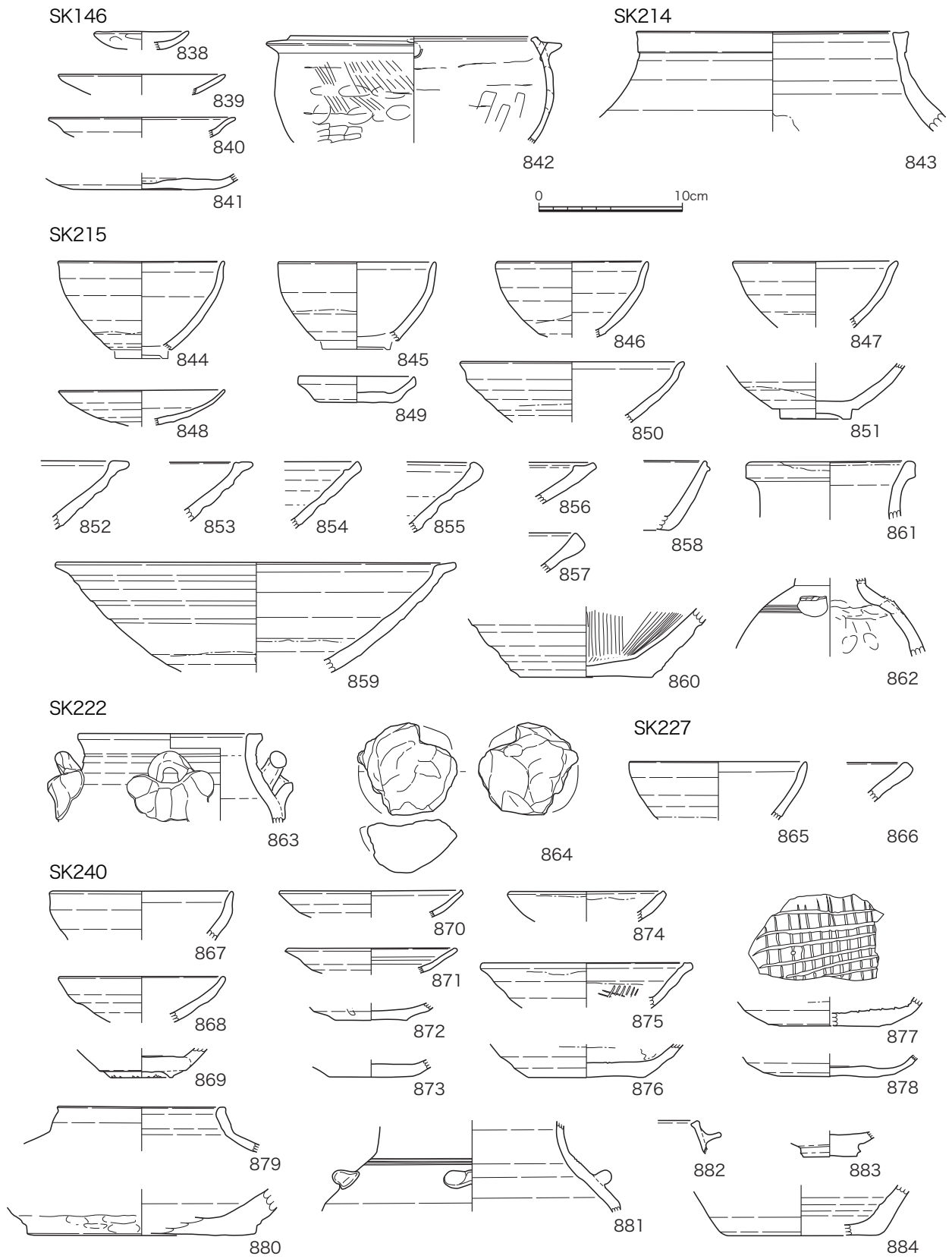
(第95図819～827)

SD25からは瀬戸美濃窯産陶器や土師器などの遺物が出土した。819はほぼ完形の丸皿で高台は付高台で古瀬戸後IV期新段階に位置づけられる。この遺構における最新資料は大窯第2段階に位

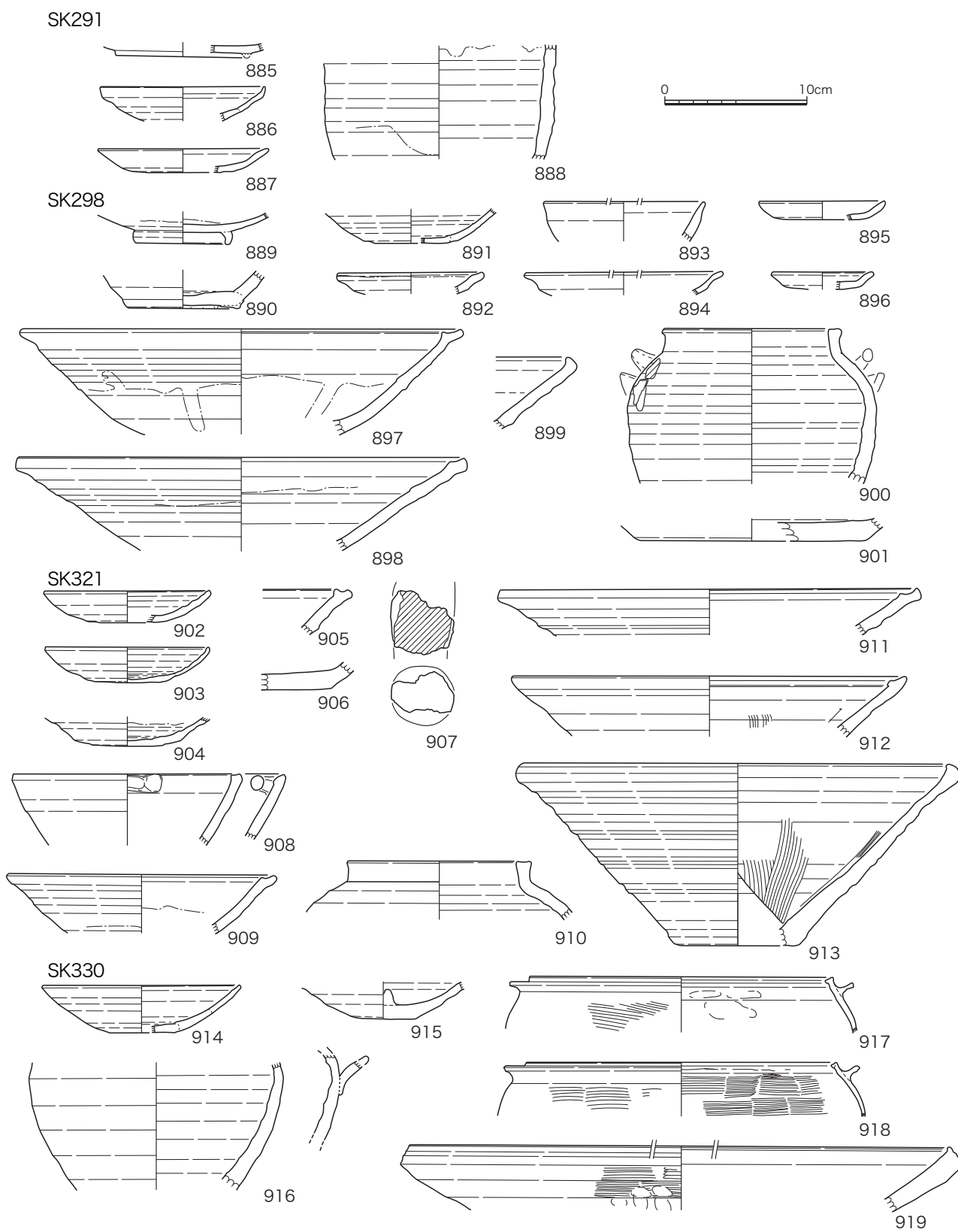


第95図 B期の遺物実測図(12) 溝出土遺物

名古屋城三の丸遺跡 VII



第96図 B期の遺物実測図(13) 土坑出土遺物(1)



第 97 図 B 期の遺物実測図 (14) 土坑出土遺物 (2)

置づけられる挿鉢（824）である。821 は中国産白磁端反皿、822・823 は口縁部内外面に横ナデ調整が施された土師器非ロクロ調整皿である。挿鉢と土師器皿の時期は合わないかもしれない。

**第 11 項 SD35 出土遺物**

**(第 95 図 832 ～ 837)**

SD35 からは瀬戸美濃窯産陶器 9 点や土師器 60 点などの遺物が合計 176 点出土した。瀬戸美濃窯産陶器には古瀬戸後IV期古段階の緑釉卸皿（833）が存在する。土師器皿はロクロ調整皿（834）と非ロクロ調整皿があり、後者は口縁部内外面に横ナデ調整が施されたもの（835）と横ナデ調整が施されないもの（836・837）がある。836・837 は口径が 9 ～ 10cm を測る大きなものである。この他に中国龍泉窯系青磁碗も出土した。瀬戸美濃窯産陶器と土師器皿の特徴が SK147 より古いことから、B-3 期（15 世紀中頃）と位置づけられよう。

**第 12 項 SK146 出土遺物**

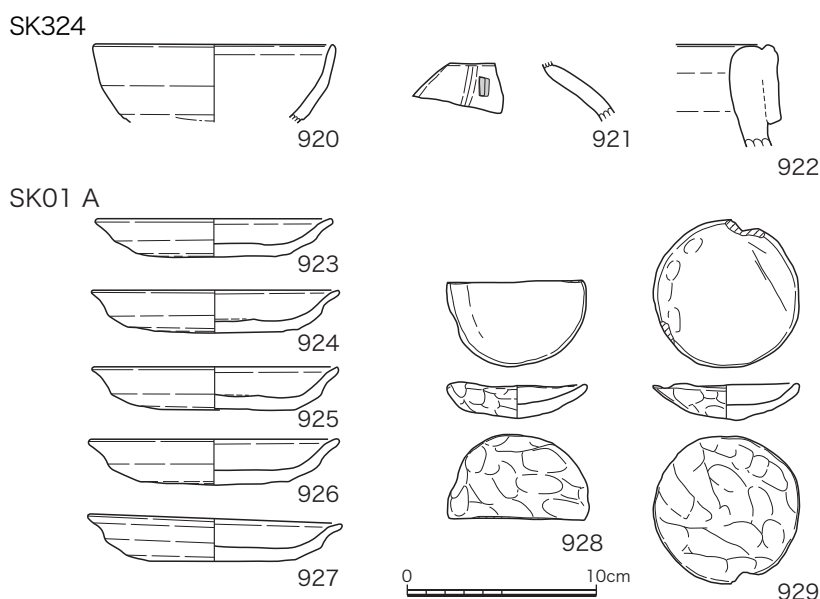
**(第 96 図 838 ～ 842)**

土師器ロクロ調整皿や土師器内彎型羽釜などの遺物が出土した。842 は焼成前に穿たれた孔が存在する。B-3 期（15 世紀中頃）と位置づけられよう。

**第 13 項 SK215 出土遺物**

**(第 96 図 844 ～ 862)**

SK215 からは瀬戸美濃窯産陶器や土師器などの遺物が 122 点出土した。瀬戸美濃窯産陶器には天目茶碗（844 ～ 847）、平碗（850・851）、折縁深皿（852・853・856・859）、挿鉢（854・855・857・860）、洗（858）、四耳壺（861）、水注（862）などがある。858 が古瀬戸前III期、862 が古瀬戸中期前半、844 が大窯第 1 段階に位置づけられる他は古瀬戸後III期～後IV期に属する資料である。B-3 期から B-4 期（15 世紀中頃～16 世紀中頃）の資料と位置づけられる。



第 98 図 B 期の遺物実測図 (15) 土坑出土遺物 (3)

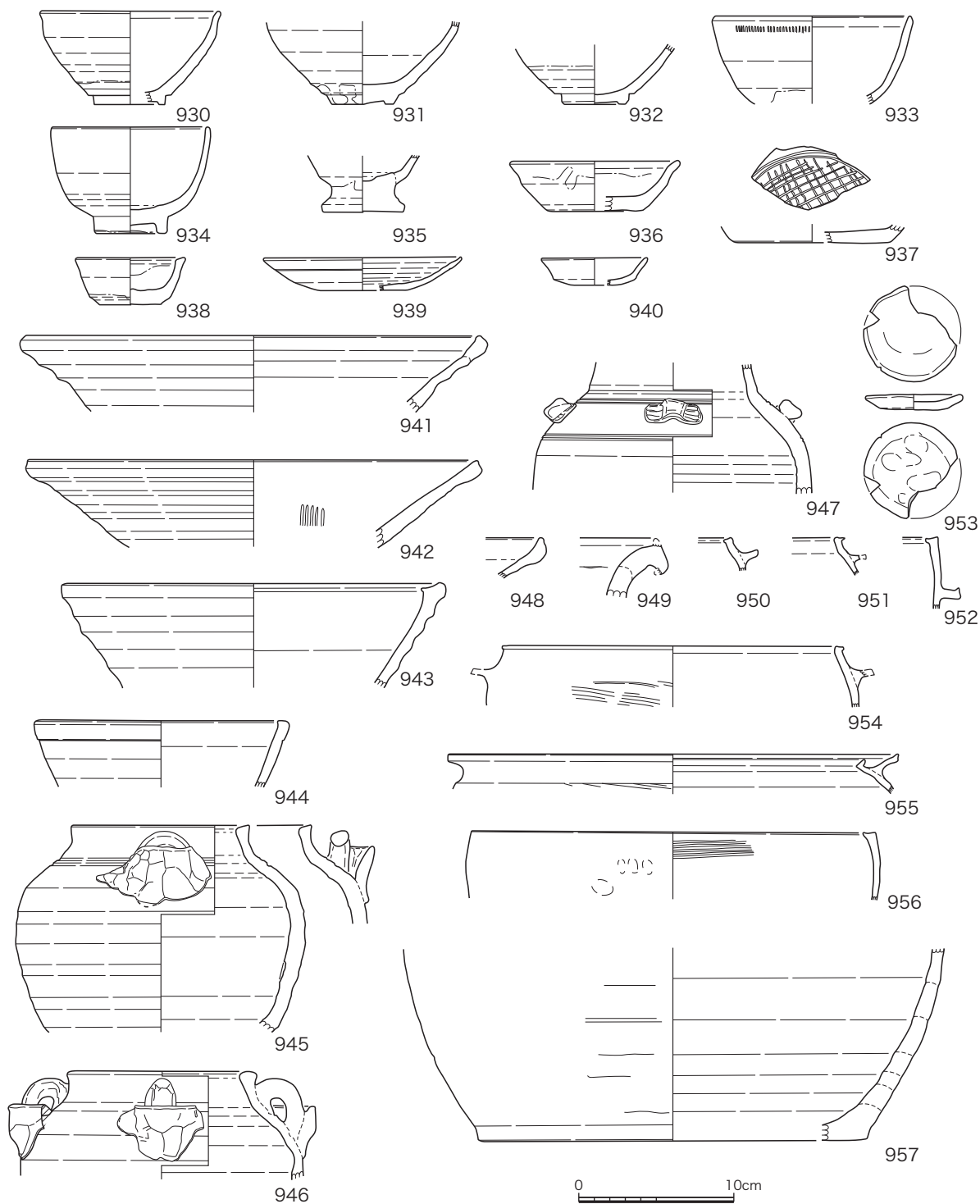


第 14 項 SK240 出土遺物

(第 96 図 867 ~ 884)

SK240 からは瀬戸美濃窯産陶器や土師器などの遺物が 138 点出土した。山茶碗類や灰釉陶器類を多数含んでいる。瀬戸美濃窯産陶器には浅碗(867)、縁釉皿(872・873)、はさみ皿(874)、

卸皿(875・877)、折縁中皿(876)など多数の器種がある。図示しなかったが灰釉丸皿が最新資料で大窯第 2 段階に位置づけられ、この他は古瀬戸後 IV 期から大窯第 1 段階までに集中する傾向がある。874 が大窯製品である他は、多くは古瀬戸後期に属する。



第 99 図 B 期の遺物実測図 (16) 包含層他出土遺物

**第 15 項 SK291 出土遺物**

(第 97 図 885 ~ 888)

瀬戸美濃窯産陶器有耳壺 (888) や土師器ロクロ調整皿 (887) などの遺物が出土した。887 は口縁部がわずかに外反するもので、比較的新しいものと思われる。B-5 期 (16 世紀中頃以降) の資料と位置づけられる。

**第 16 項 SK298 出土遺物**

(第 97 図 889 ~ 901)

瀬戸美濃窯産陶器や土師器などの遺物が 179 点出土したが、最も出土量が多いのは須恵器であった。瀬戸美濃窯産陶器には天目茶碗 (893)、縁釉皿 (892)、卸目付大皿 (897・898)、播鉢 (899)、釜 (888) などが出土した。時期は古瀬戸後IV期新段階までの遺物が包含されることから B-3 期 (15 世紀中頃) と位置づけられよう。

**第 17 項 SK321 出土遺物**

(第 97 図 902 ~ 913)

瀬戸美濃窯産陶器などの遺物が 69 点出土した。902 ~ 904 は東濃型山茶碗、908 は瀬戸美濃窯産陶器内耳鍋、909 は卸目付大皿、910 は釜である。陶器類は大窯段階に下るものは存在せず、B-3 期 (15 世紀中頃) と位置づけられよう。

**第 18 項 SK330 出土遺物**

(第 97 図 914 ~ 919)

瀬戸美濃窯産陶器や土師器などの遺物が 140 点出土したが、最も出土量が多い種別は須恵器である。瀬戸美濃窯産陶器には蓋 (915)、釜 (916) があり、古瀬戸後IV期に属する。土師器には内彎型羽釜 (917・918) があり、北村分類 A4 類に相当する。以上の所見から B-3 期 (15 世紀中頃) と位置づけられよう。

**第 19 項 SK01 A 出土遺物**

(第 98 図 923 ~ 929)

SK01 A からは近世に属する遺物の他に多くの土師器皿などの遺物が出土した。土師器皿には口縁部が外反するロクロ調整皿 (923 ~ 927) と口縁部に横ナデ調整が施されない非ロクロ調整皿 (928・929) が存在する。土師器の様相は SK147 と類似していることから、本来は SK147 に属する遺物が SK01 の開削により多量に混入したものと考えられる。

**第 20 項 包含層出土遺物 (第 86・99 図 521 ~ 560・930 ~ 957)**

今回の調査で B 期に属する遺物の多くは遺構に伴うものであるが、C 期以降の遺構や包含層から出土した資料も多数存在する。これらは本来同時期の遺構や包含層にされていたものと推察されるが、C 期以降の度重なる開発や攪乱により移動してしまったものと思われる。このうちの一部を紹介しておきたい

933 は大窯第 1 段階に属する灰釉丸碗、937 は内面に灰釉がかかる卸皿で古瀬戸前II期に属する。瀬戸美濃窯産陶器の煮炊具には内耳鍋 (943) と釜 (945・946) がある。950 ~ 956 は土師器で 955 は口縁部が鏝部より下位に位置する内彎型羽釜で 15 世紀後半から 16 世紀に属するものである。957 は産地不明陶器の壺底部である。灰釉陶器類の可能性も考えられる。

## 第4節 C期の遺物

C期はおおよそ江戸時代（17世紀～19世紀中頃）を通じた段階である。遺物には瀬戸美濃窯産陶磁器・肥前窯産陶磁器・土師器などの焼物類の他、木製品や石製品や金属製品など多様な種類の製品がある。ここでは主要な遺構出土資料を中心に記述するが、瓦類については記述の都合上別途項目を設けて報告したい。

### 第1項 SK185 出土遺物

#### (第100～101図 958～1010)

SK185からは瀬戸美濃窯産陶器を中心に219点が出土した。この中には一部古い時期に属する遺物が混入しており、瓦類は10点が出土した。

瀬戸美濃窯産陶器には天目茶碗（958・959）、丸碗（960～967・969～971・973）、端反碗（968・972）、小杯（976・977）、志野丸皿（978～986）、蓋（990）、黄瀬戸鉢（996・998）、志野折縁鉢（997）、搦鉢（999）、茶入（1000）などがある。丸碗は口縁部に灰釉を流し掛けた鉄釉丸碗（961～966）が非常に多い。灰釉丸皿（987）と有耳壺（1005）は大窯段階に属する他は、大半が連房式登窯第1小期～第2小期に属する。961のみが登窯第3小期に属しこの資料群の最新資料と位置づけられる。この他には常滑窯産陶器の赤物製品（1001・1002・1006・1007）や土師器皿・焙烙・焼塩壺、中国産青花小杯・大皿などがある。土師器皿（988・989）は口縁部が内彎する器壁が比較的厚いものである。土師器焙烙（991～993）は体部が緩やかに彎曲しながら口縁部が逆ハ字状に開く古いタイプのものである。土師器焼塩壺は蓋と身ともに手づくね成形である。青花は974が景徳鎮窯系の他は漳州窯系の製品（975・1003・1004）である。これらはC-1期に属する資料で17世紀第2四半期に位置づけられる。

### 第2項 SK156 出土遺物

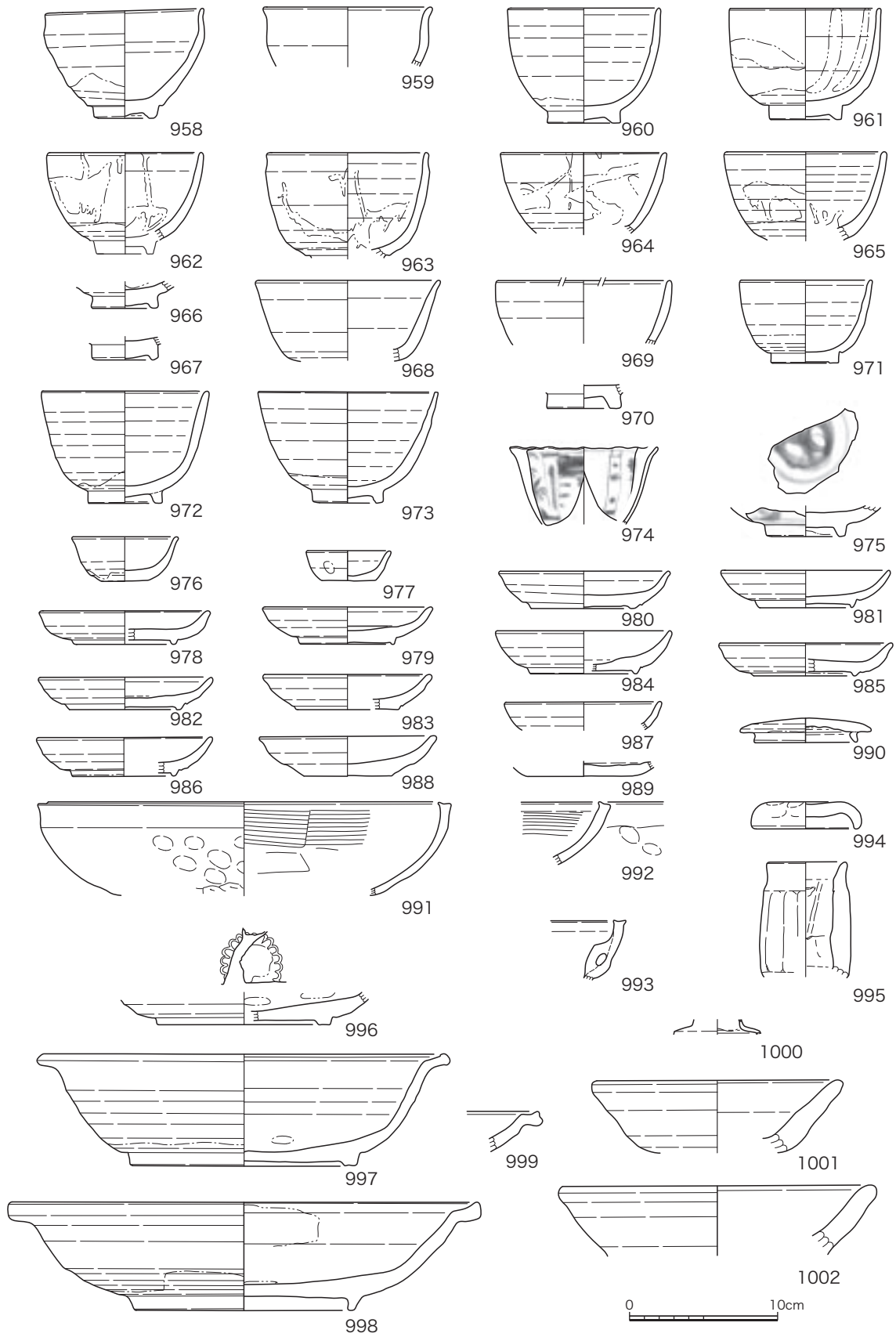
#### (第102図 1011～1044)

SK156からは瀬戸美濃窯産陶器75点を中心に235点が出土した。近世に属する土師器は確認されなかった。瀬戸美濃窯産陶器には天目茶碗（1011・1012）、丸碗（1013）、小碗（1014）、志野丸皿（1018～1023）、反り皿（1024・1026）、折縁皿（1029）、志野大皿（1031）、搦鉢（1032・1033）、香炉（1039）、笠原鉢（1040・1041）などがある。大半が連房式登窯第1小期～第4小期に属する。1032のみが登窯第5小期に属しこの資料群の最新資料と位置づけられる。1030は白濁した灰釉が施された陶器蓋で、摘みは手づくね成形であるが、底部には回転糸切り痕が残存する。褐灰色の胎土を持つもので瀬戸窯または美濃窯の製品とはいえない。おそらく尾張国あるいはその周辺で生産された特産品である可能性が考えられる資料である。1015・1016・1037・1038・1042・1043など古瀬戸後期の製品も含まれているが、全体としてはC-2期に属する資料で17世紀第4四半期に位置づけられる。

### 第3項 SD12 出土遺物

#### (第103図 1052～1086)

SD12からは瀬戸美濃窯産陶器や肥前窯産磁器、土師器など791点が出土した。このうち瓦類が557点を占めている（後述）。瀬戸美濃窯産陶器には筒形碗（1052）、丸碗（1053）、志野丸皿（1059～1061）、反り皿（1057・1062）、瓶類（1070・1071）、釜（1072）、土瓶（1073）、火鉢（1075）、志野鉄絵鉢（1076・1077）笠原鉢（1078）などがある。これらは連房式登窯第1小期～第4小期に属するものが多いが、1072・1073・1075などは江戸時代後期に属する資料と考えられる。肥前窯産磁器には染付丸碗（1054・



第 100 図 C 期の遺物実測図 (1) SK185 (1)

1055) などがある。土師器には皿、焙烙、釜、焼塩壺が存在する。土師器皿は口縁部が内彎するロクロ調整皿 (1068・1069) と口径が約 3.5～4.2cm を測る横ナデ調整を施さない非ロクロ調整皿 (1063～1067) がある。土師器釜 (1079) は体部と口縁部の境界部の屈曲が緩くなったもので、やや内傾気味に直立する口縁部は比較的長い。17 世紀か。土師器焙烙は口縁部が内傾するタイプで 18 世紀のものかもしれない。土師器焼塩壺はロクロ調整による蓋 (1082) と手づくね成形による身 (1083) があり、前者の上面には「イツミ 花 ツタ」の刻印が残存する。

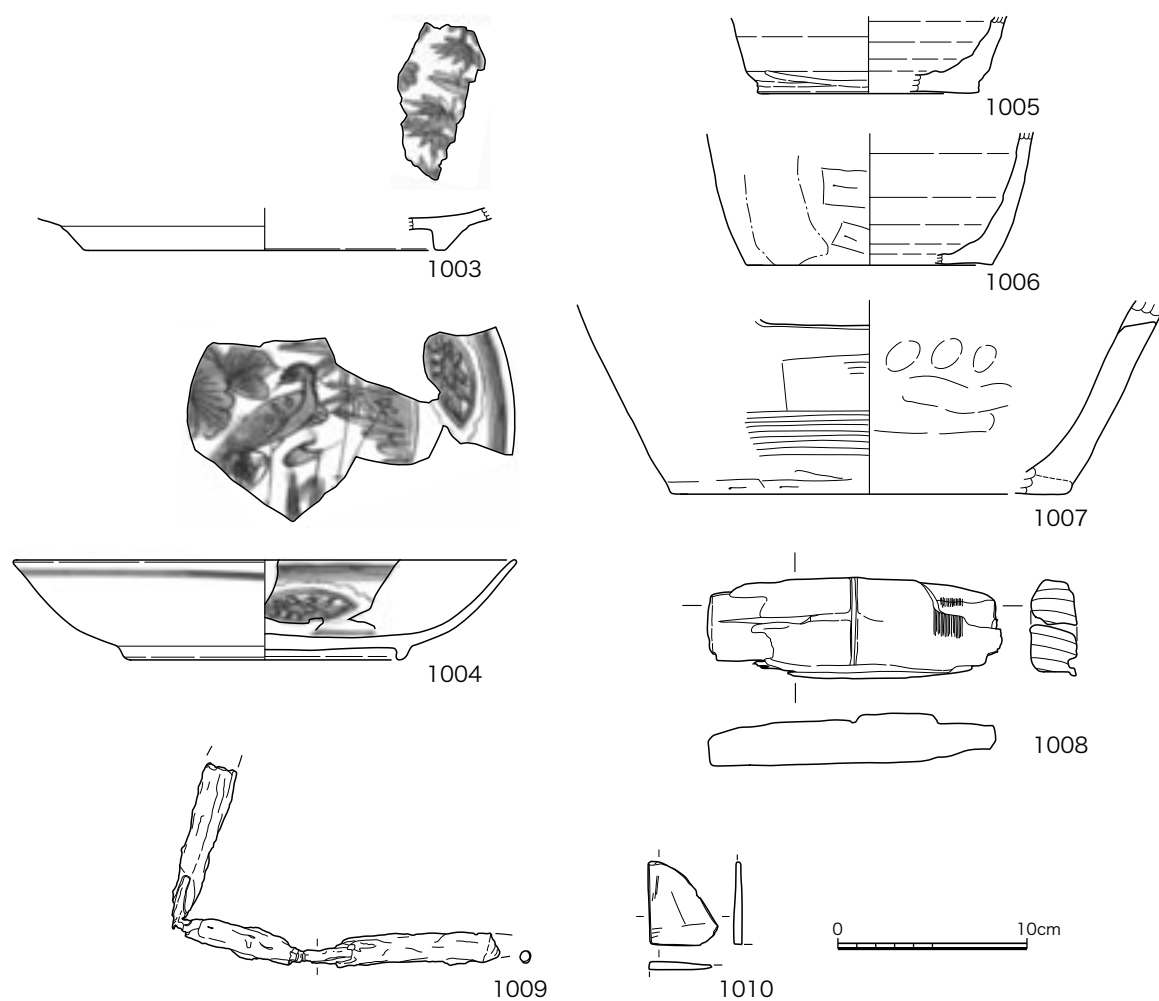
資料の多くは C-2 期に属する資料で 17 世紀第 4 四半期に位置づけられるが、最終的に遺構が埋没した年代を示す資料としては C-4 期 (19 世紀

初頭) に属する一群が存在する。

#### 第 4 項 SD14 出土遺物

##### (第 104 図 1087～1106)

SD14 からは瀬戸美濃窯産陶器 74 点や瓦類 121 点を中心に 370 点が出土した。瀬戸美濃窯産陶器には天目茶碗 (1088)、丸碗 (1087・1089)、小碗 (1090)、志野丸皿 (1092)、輪禿げ皿 (1093・1094・1097)、反り皿 (1096)、志野鉄絵皿 (1098)、志野鉄絵鉢 (1099)、笠原鉢 (1100)、播鉢 (1103・1104) などがある。大半が連房式登窯第 1 小期～第 3 小期に属し、一部に登窯第 4 小期に属する可能性があるものがある。肥前窯産磁器には染付香炉 (1091) などが、土師器には皿と焼塩壺身などがある。土師器皿に

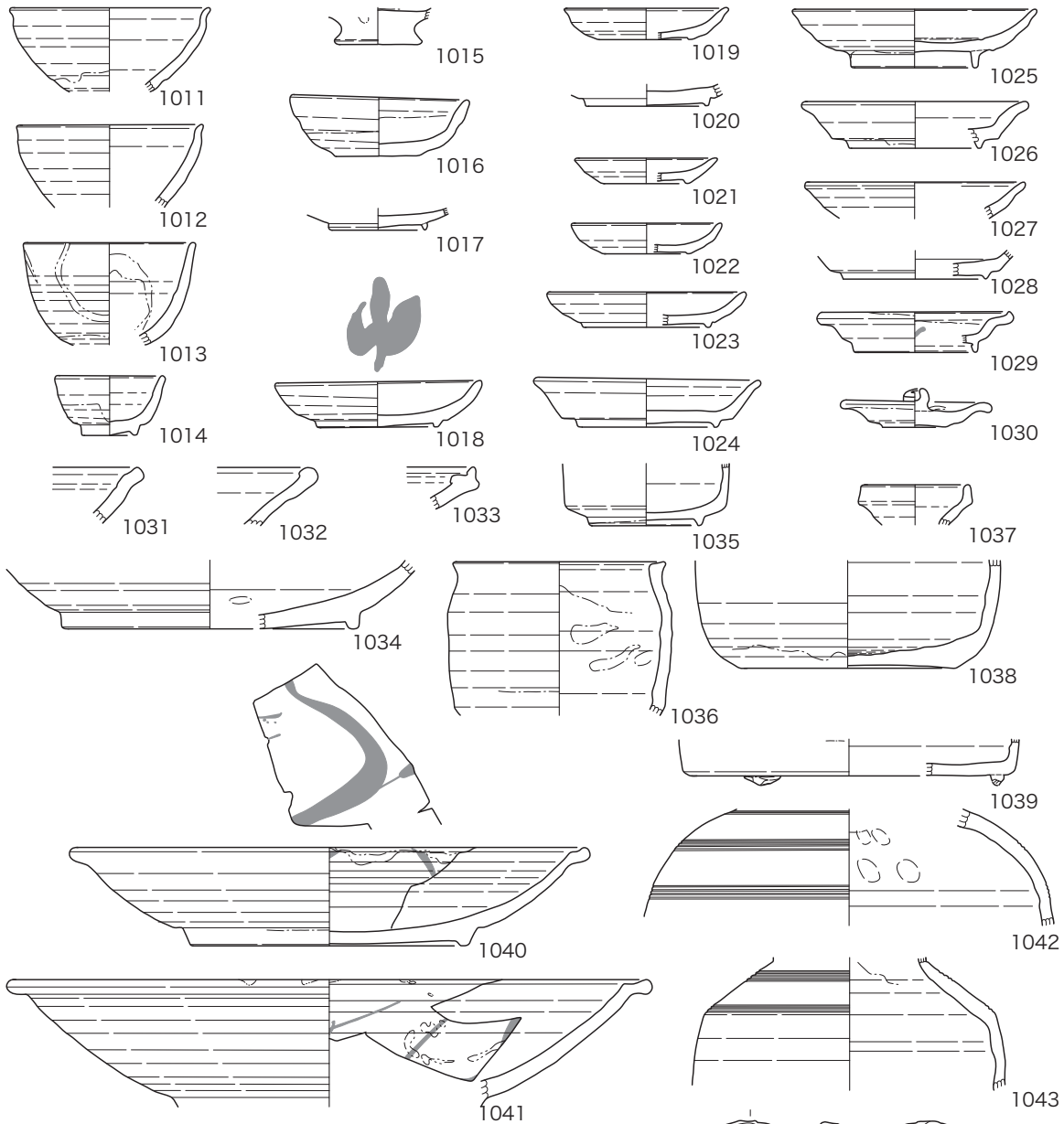


第 101 図 C 期の遺物実測図 (2) SK185 (2)



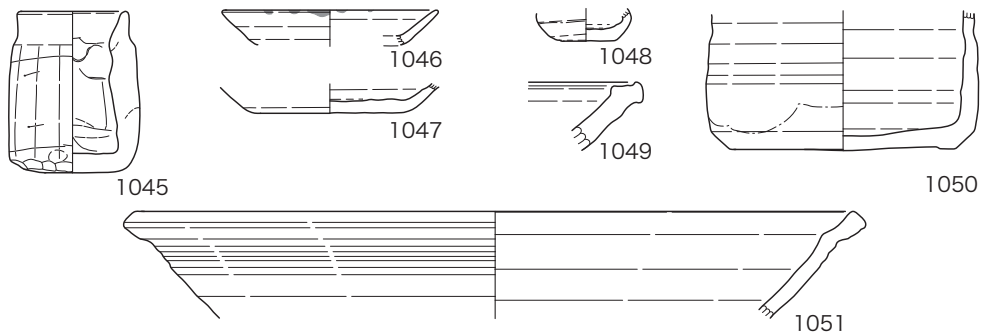
名古屋城三の丸遺跡 VII

SK156



0 10cm

SK223



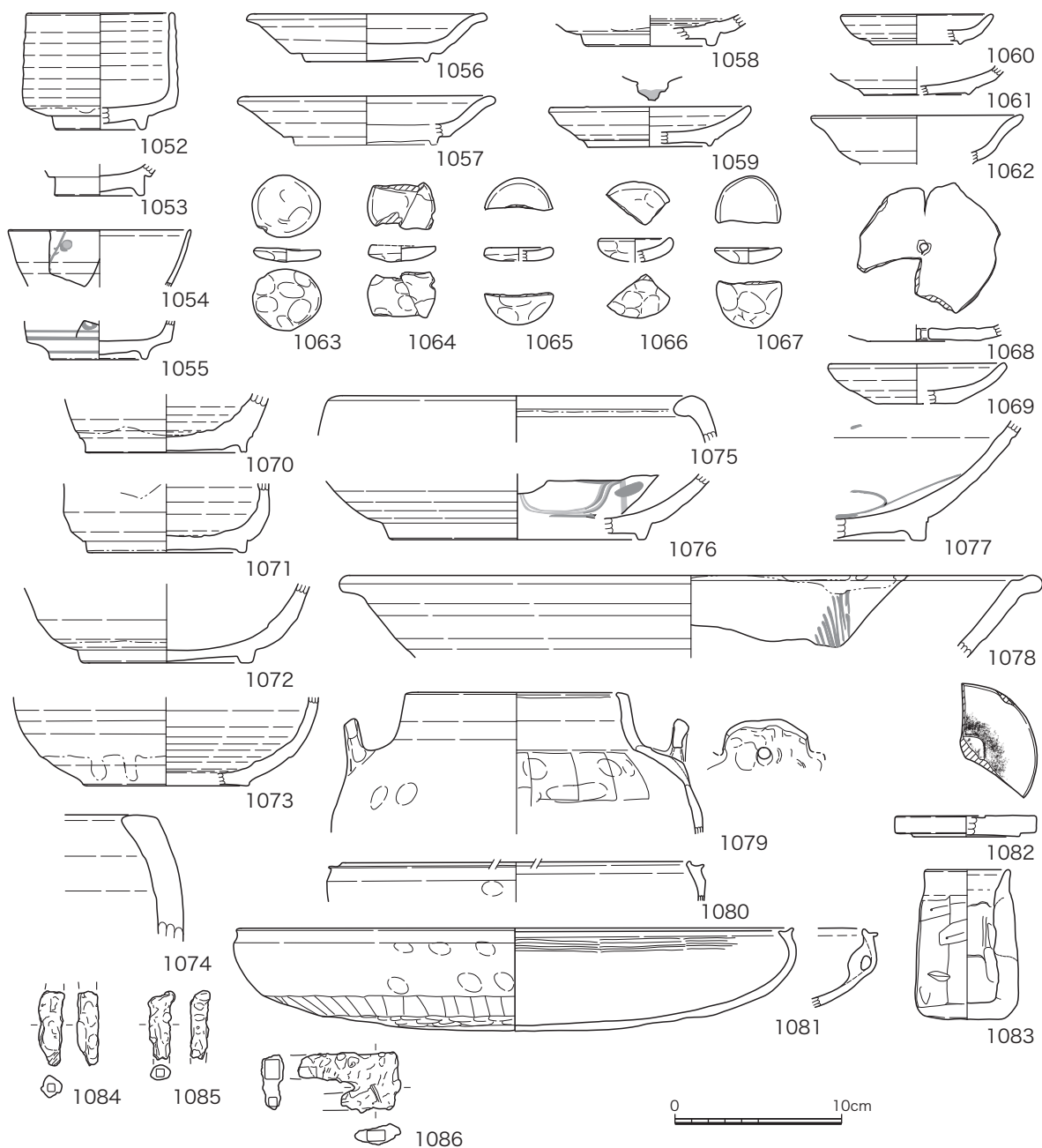
第 102 図 C 期の遺物実測図 (3) SK156・SK223

は、横ナデ調整を施さない非ロクロ調整皿(1101)の他に、瀬戸美濃窯産陶器反り皿の形状に類似したロクロ調整皿(1095)がある。1095は素焼き(無釉)で口縁部が玉縁状に作られており、形状から見て連房式登窯第3または4小期のものを模倣したものと考えられる。1105は椀型鉄滓、1106は用途不明の板状鉄製品である。これらの資料群はC-2期に属する資料で17世紀第3または4四半期に位置づけられる。

第5項 SK163 出土遺物

(第105図 1107～1143)

SK162はSK163の陥没部分の堆積であったが、ここではSK162とSK163を合わせてその出土遺物をSK163出土遺物として報告する。SK163からは616点の遺物が出土した。瀬戸美濃窯産陶器には天目茶碗(1107・1108)、丸碗(1109～1111)、志野丸皿(1118)、反り皿(1117)、蓋(1134)、鉢類(1135～1137)、黄瀬戸鉢(1138)、



第103図 C期の遺物実測図(4) SD12

名古屋城三の丸遺跡 VII

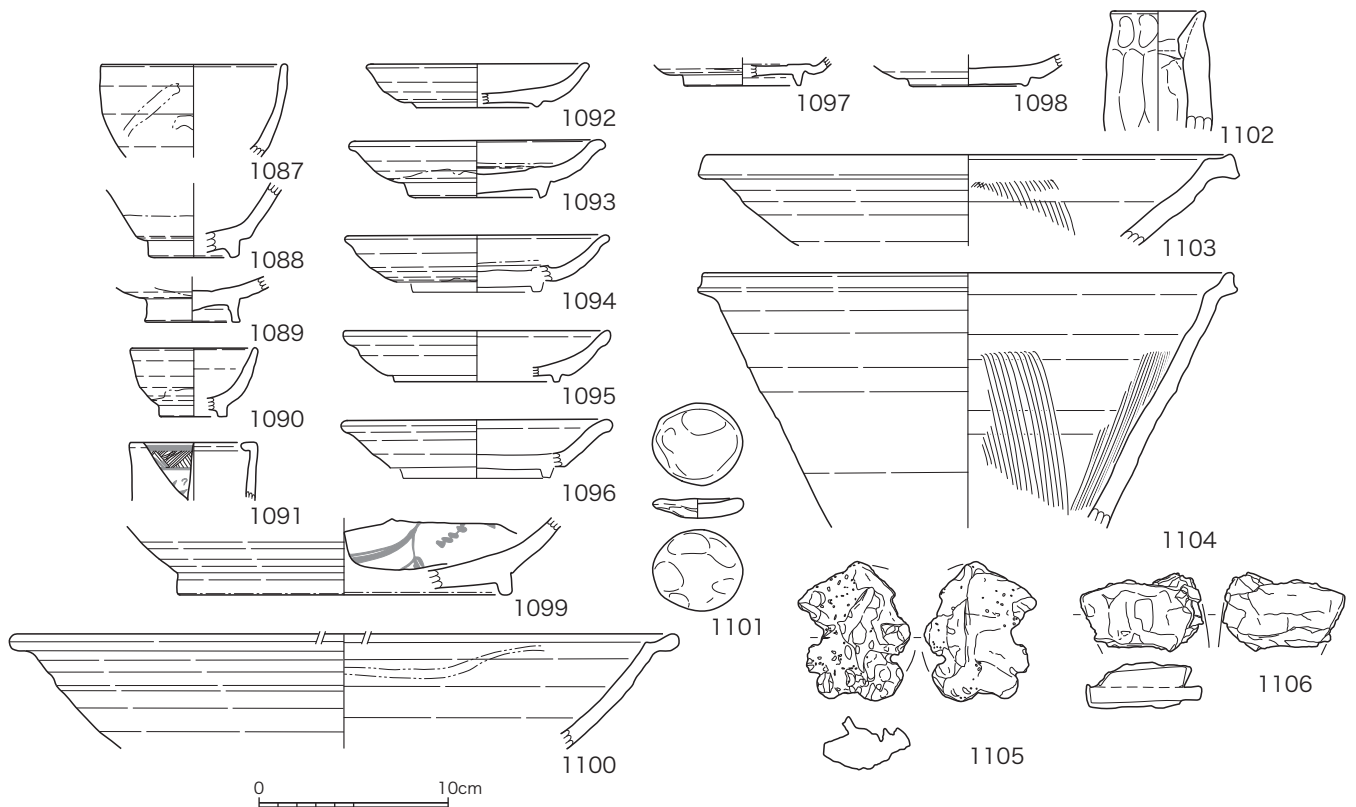
笠原鉢 (1139)、播鉢 (1140・1141) などがある。多くが連房式登窯第 1 小期～第 4 小期に属する。肥前窯産陶磁器には染付丸碗 (1115～1116)、陶器鉄絵丸碗 (1112) が、中国産磁器には白磁小杯 (1113・1114) などがある。土師器には皿や焼塩壺、鍋類などがある。土師器皿は破片数で 284 点が出土しており、次の 5 類に分類できる。1 類は口径が 10.5cm 前後で体部から口縁部にかけて丸みを持つもの (1119・1120)、2 類は口径が 10.5cm 前後で体部が直線的に開き口縁部がわずかに外折するもの (1121)、3 類は口径が 8cm 前後で体部から口縁部にかけて丸みを持つもの (1122～1124)、4 類は口径が 13cm 前後で体部がやや急に立ち上がり深いもの (1125)、5 類は口径が 13cm 前後で体部が直線的に開き口縁部がわずかに外折するもの (1126・1127) である。焼塩壺は手づくね調整の製品ばかりである。内耳鍋は口縁部が内彎する半球形内耳鍋であるが、詳細な時期は特定できない。1142 は高台

が低いタイプの木胎漆器碗で外面に草花紋が描かれている。

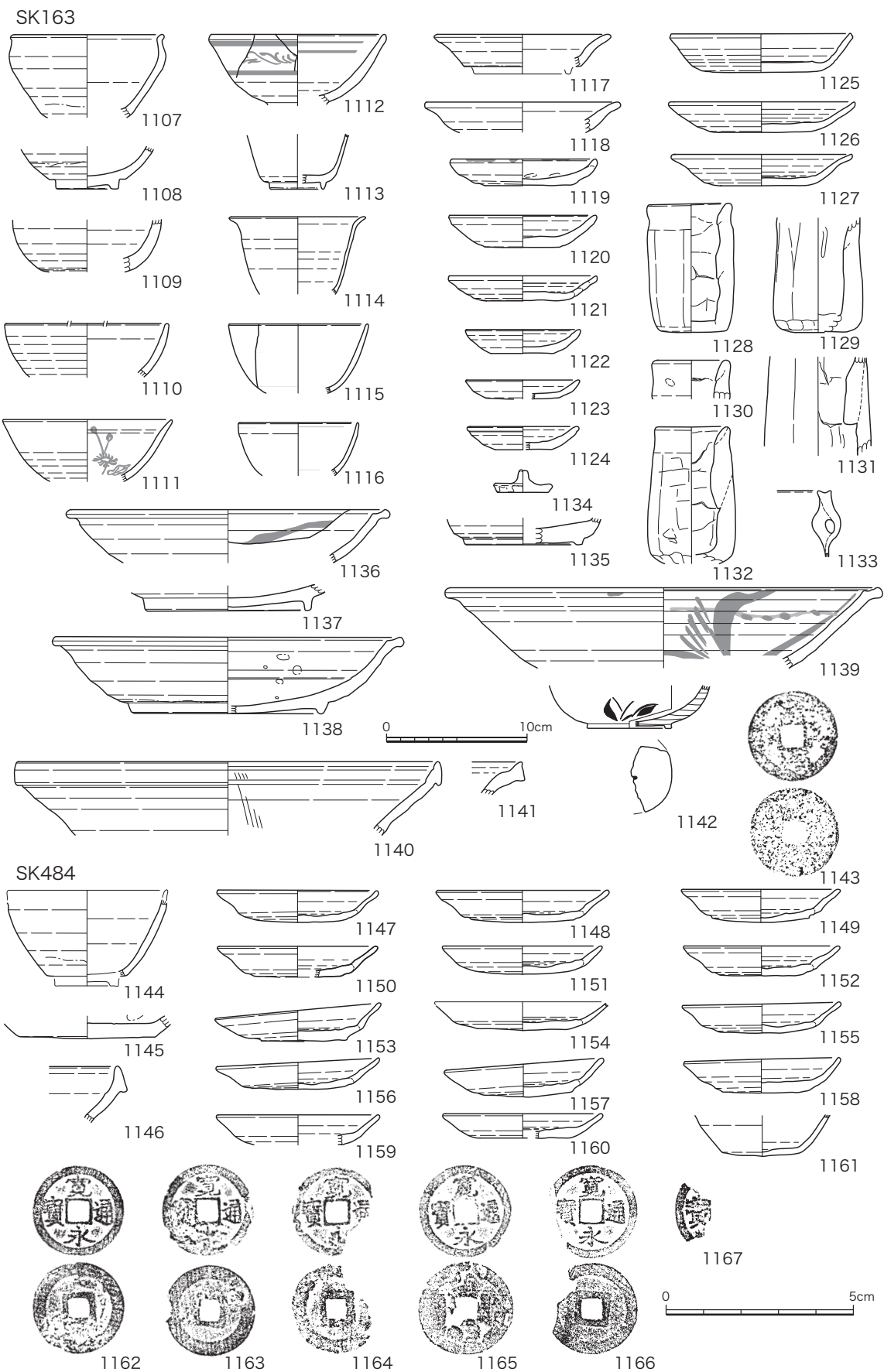
第 6 項 SK484 出土遺物

(第 105 図 1144～1167)

SK484 からは土師器皿 768 点を中心に 885 点が出土した。江戸時代に属する陶磁器類はわずかに存在しなかった。瀬戸美濃窯産陶器には天目茶碗 (1144)、折縁中皿 (1145)、播鉢 (1146) などがあり、1144 が連房式登窯第 1 小期～第 2 小期に属するものである。土師器皿は形状を確認できるものは全てロクロ調整であり、4 類に区分できる。1 類は口径が 11～12cm で体部が直線的に開き口縁部がわずかに外折するもの (1147～1157・1159) であり、大半の土師器皿はこのタイプであった。2 類は口径が 11～12cm で口縁部がやや内彎するもの (1158)、3 類は口径が 11～12cm で体部が直線的に開き器高が低いもの (1160)、4 類は口縁部が残存しないが器高



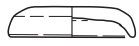
第 104 図 C 期の遺物実測図 (5) SD14



第105図 C期の遺物実測図(6) SK163・SK484

名古屋城三の丸遺跡 VII

SK40



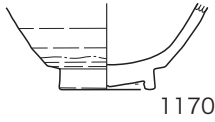
1168



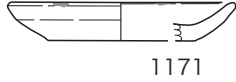
1169



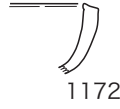
SK49



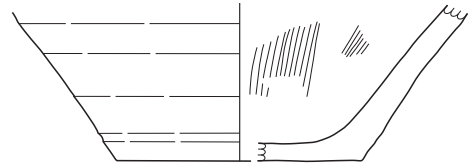
1170



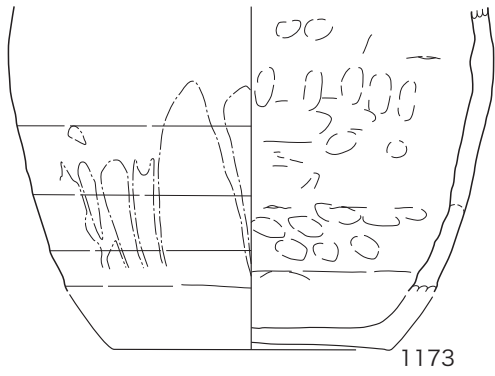
1171



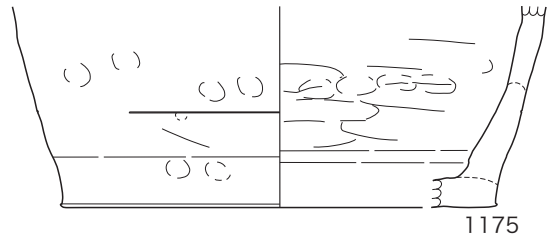
1172



1174

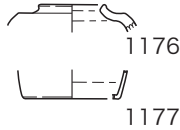


1173



1175

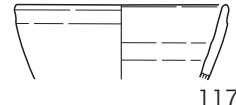
SK90



1176

1177

SK132



1178



1179

SK127



1180



1181



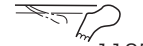
1182



1183



1184



1185



1186

SK202



1187



1188

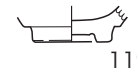


1189

SK224

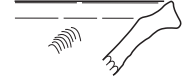


SK454



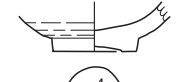
1191

SK270

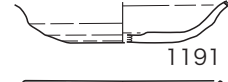


1192

SK296



1193

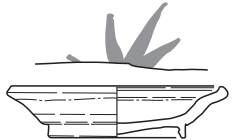


1194



1195

SD21

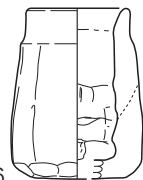


1196

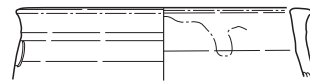
SD22



1197



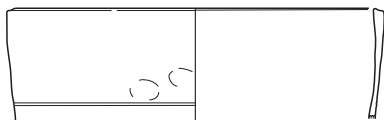
1198



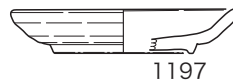
1199



1200



1194



1197



1201

第 106 図 C 期の遺物実測図 (7) 土坑・溝出土遺物 (1)



が高いもの(1161)である。土師器皿は破片数では多いが、多くは小破片であり実際には30～40個体が存在したに過ぎないと思われる。錢貨は古寛永通宝で全部で6点が確認された。二次的に被熱されたためか脆く小破片に割れている。SK484は遺構としては墓坑としての形状を呈していなかったが、6枚の錢貨と土師器皿の組み合わせからみて、墓またはその他の宗教的な施設の可能性も考慮される。土師器皿の形状と寛永通宝の存在からみて、C-2期に属する資料で17世紀第3四半期に位置づけられる。

## 第7項 SK94 出土遺物

### (第107～109図 1202～1295)

SK94からは瀬戸美濃窯産陶器92点、肥前窯産磁器94点、瓦251点などを中心に873点が出土した。多様な産地の製品が含まれている点が特徴となっている。

瀬戸美濃窯産陶器には御室茶碗(1223)、型打菊皿(1240)、蓋(1249・1250)、汁次(1277)、鍋(1280)、双耳小壺(1281・1282)、御深井大皿(1283)、美濃伊賀水指(1284)、黄瀬戸大皿(1286)、こね鉢(1287)、土瓶(1288)、搦鉢(1289～1293)などがある。碗や皿などの供膳具が非常に少なくやや大型の製品が占める割合が高い点が特色である。連房式登窯第8小期に属するもの(1280・1288・1291・1293など)まで存在する。

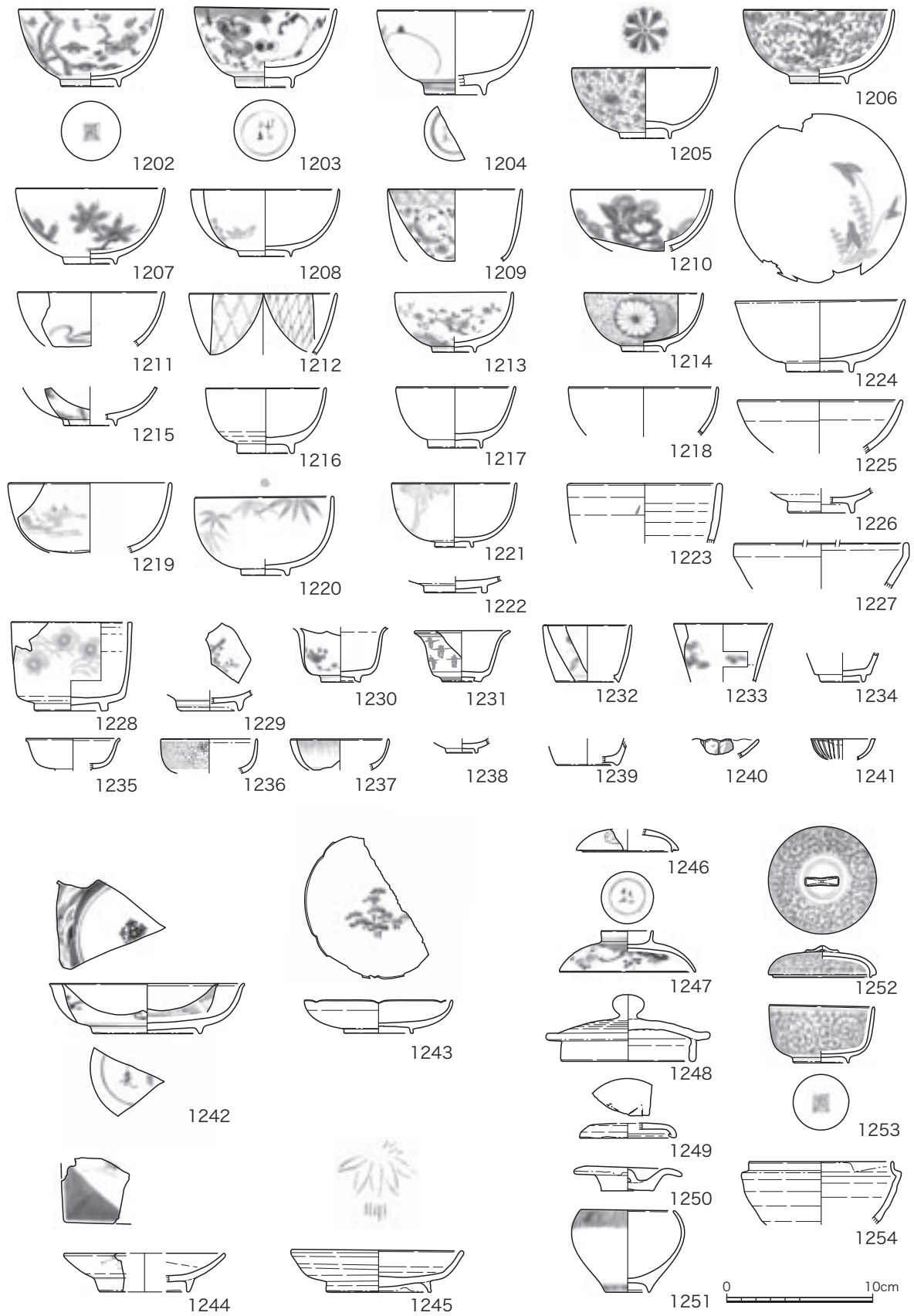
一方、肥前窯産磁器には染付丸碗(1202～1215)、白磁小碗(1216・1217)、染付小杯(1230～1233)、白磁小杯(1234・1238・1239)、染付仏飯具(1236・1237)、白磁紅皿(1241)、染付皿(1242・1244)、染付蓋(1246・1247)、染付無頸壺(1251)、染付合子(1252・1253)などがある。大半は肥前磁器編年のⅢ期からⅣ期に位置づけられ、概ね17世紀末から18世紀前半に属する。全体に法量が小さく薄手の有田窯の

製品であり、波佐見窯の製品(1203・1204)もわずかに認められる。

陶磁器類にはこの他に、肥前陶器京焼風丸碗(1219)・刷毛目丸碗(1224)・京焼風蓋物(1228)、京焼陶器丸碗(1221)、信楽窯産陶器丸碗(1220)、京・信楽系陶器丸碗(1222)・輪花皿(1243)、中国産天目茶碗(1227)・青花碗(1229)などがある。いずれも繊細な作風の製品が多い点が特色となっている。

土師器には皿と焙烙が存在する。土師器皿は大きく、ロクロ調整で胎土が橙色を呈するAタイプと非ロクロ調整で胎土が灰白色になるBタイプの2種に分けられる。大多数の皿はAタイプに属しており、これらは法量によって1類(口径が17cm前後:1255・1256)、2類(口径が12.5cm前後:1257～1259)、3類(口径が11cm前後:1260～1264)、4類(口径が10cm前後:1265～1267)、5類(口径が8.5cm前後:1268～1271)、6類(口径が6.2cm前後:1272～1274)の6類に細分される。いずれも体部が逆ハ字状に直線的に開くものである。一方、Bタイプは非常に少なく2点のみが確認された。1275は内面に「寿」字が陽刻状に型打ちされた皿で、口縁部はやや内彎する。1276は口縁部のみ残存する大皿状の製品で口縁部は強く内彎している。

全体としては、肥前窯産陶磁器や京焼製品などの資料はC-2期からC-3期前半に属する年代が与えられ、一方瀬戸美濃窯産陶器ではC-3期後半に位置づけられる資料が多い。前者は破損の度合いが低いことなどから見て、17世紀末から18世紀前半に属する供膳具を中心とした遺物がC-3期後半(18世紀第4四半期)頃に廃棄されたものと考えられる。



第 107 図 C 期の遺物実測図 (8) SK94 (1)

### 第8項 SK01 出土遺物 (第110～120図 1296～1512)

SK01は巨大な廃棄土坑で、下位でSK01AとSK01Bに区分された。遺物の取り上げは上位ではSK01一括で行い、途中からAとBに区分した。しかし、状況からみてSK01とした遺物の大半はSK01Bに属するものと考えられ、ここではSK01とSK01Bで出土した資料をSK01として一括して報告することとした。

SK01から出土した遺物は13173点と遺構一括出土資料としては最も多い。このうち瓦類(5213点)木製品・木材片(7048点)などが含まれている。

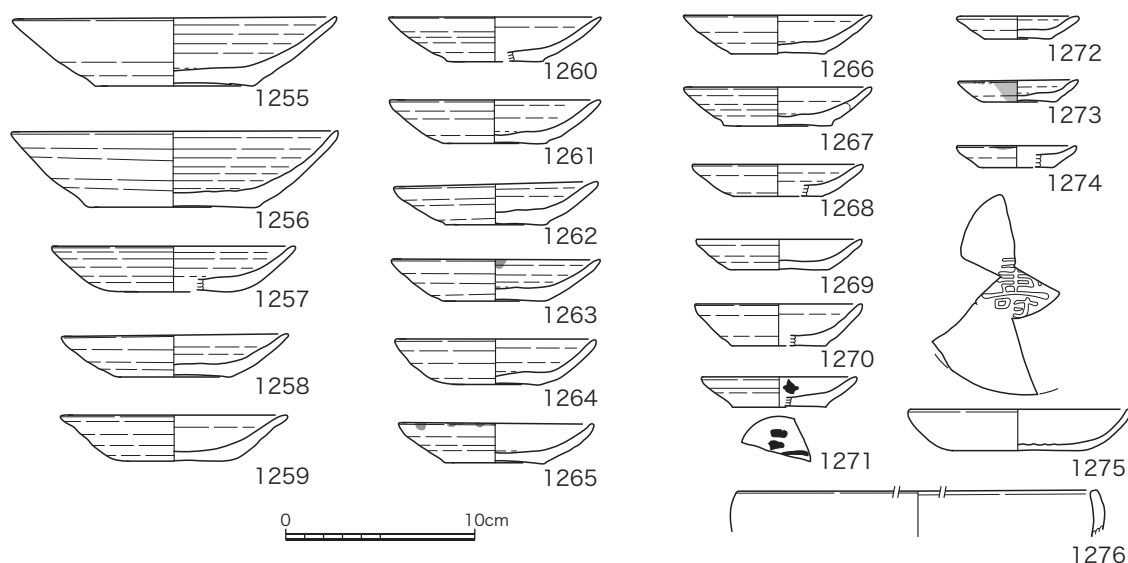
瀬戸美濃窯産陶器には天目茶碗(1296～1298)、尾呂茶碗(1299・1300)、端反碗(1301)、腰鏝茶碗(1302～1304)、御室茶碗(1305・1400)、丸碗(1306～1309)、染付丸碗(1315)、志野丸皿(1337～1340)、型打皿(1345)、御深井鉢(1349)、織部向付(1351・1352)、笠原鉢(1353～1355)、壺(1358)、香炉(1359)、搦鉢(1361～1363)、練り鉢(1364)、などがある。これらは連房式登窯第1小期から第8小期に至る各段階の遺物が存在している。

一方、肥前窯産陶磁器には灰釉丸碗(1311～1314・1316～1320・1322・1323)、染付丸碗(1324)、白磁丸碗(1325・1326)、染付小杯(1329～1332・1334・1335)、白磁小杯(1333)、染付皿(1347・1348)、青磁大皿(1365・1378)、三島手大皿(1373)、白磁鉢(1377)などがある。大半は肥前磁器編年のⅢ期からⅣ期に位置づけられ、概ね17世紀末から18世紀前半に属する。

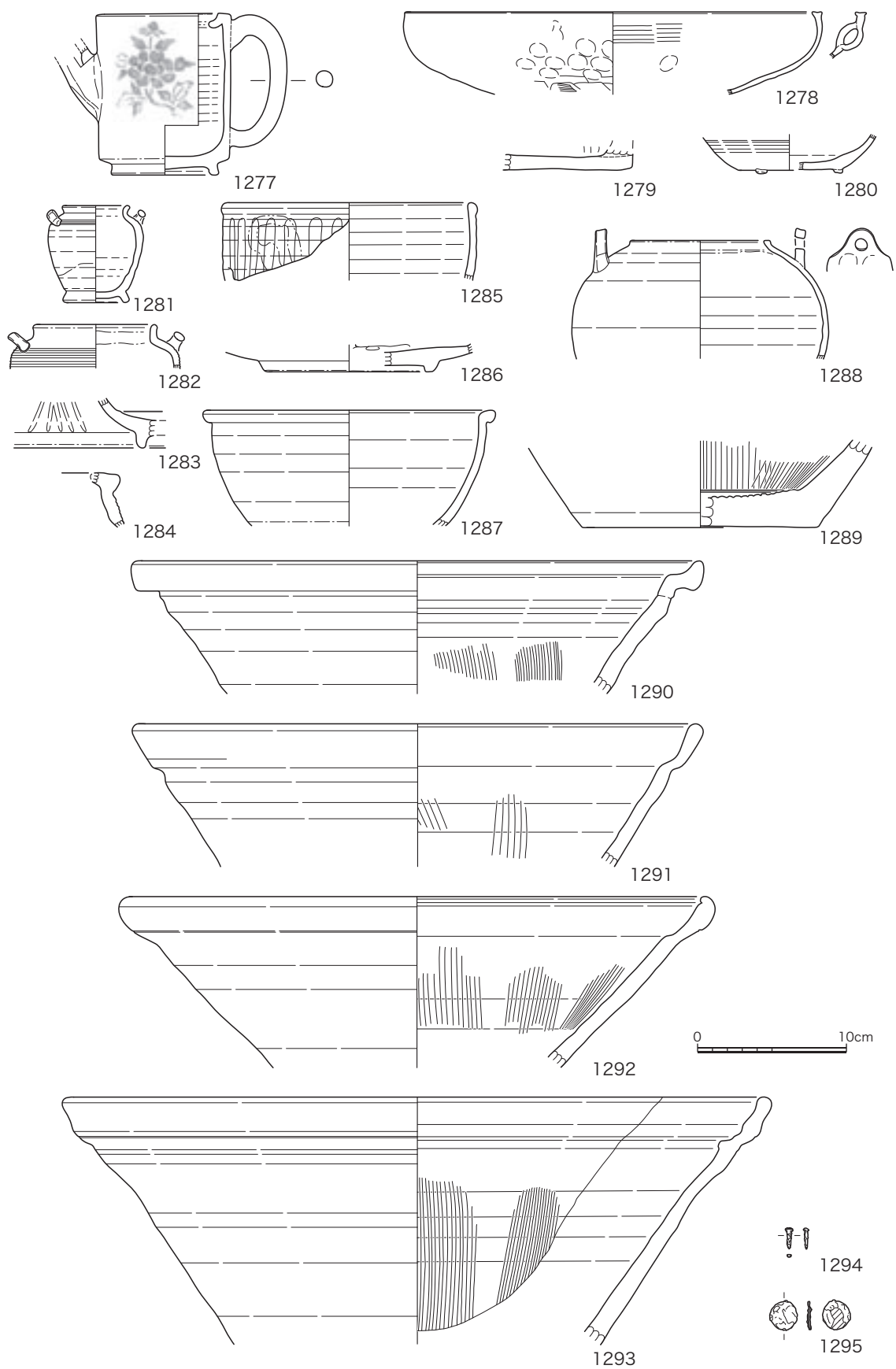
この他の陶磁器類には京焼系の軟質施釉陶器碗(1321)や中国漳州窯系青花大皿(1372)、備前窯産陶器小瓶(1375)、常滑窯産陶器赤物甕(1392～1395)・赤物火鉢(1396・1397)などがある。一方、土師器にはロクロ調整皿、半球形内耳鍋(1385・1386)、焼塩壺蓋(1387)と身(1388～1390)などがある。ロクロ調整皿は橙色の胎土を持つものでSK94出土資料と類似する。法量は口径が16cm前後のもの(1381～1384)と11cm前後のもの(1379・1380)に区分できようである。

金属製品には銅製品の銭貨(1401)、鉄製品釘(1402～1405)などの他に、弧状に彎曲した棒状鉛製品(1407)も存在する。

SK01からは木製品および木片が大量に出土し



第108図 C期の遺物実測図(9) SK94(2)



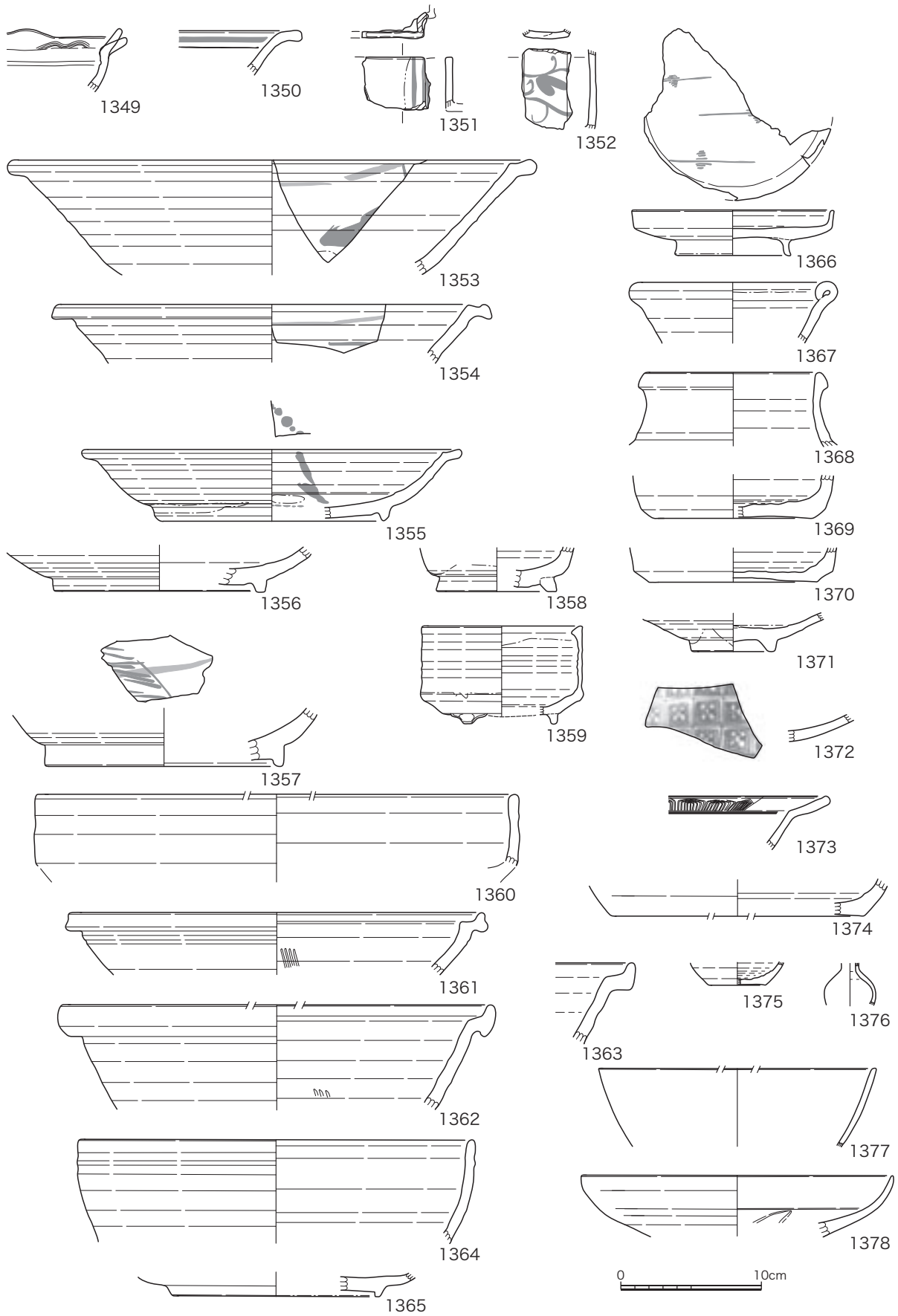
第 109 図 C 期の遺物実測図 (10) SK94 (3)



第110図 C期の遺物実測図(11) SK01(1)



名古屋城三の丸遺跡 VII



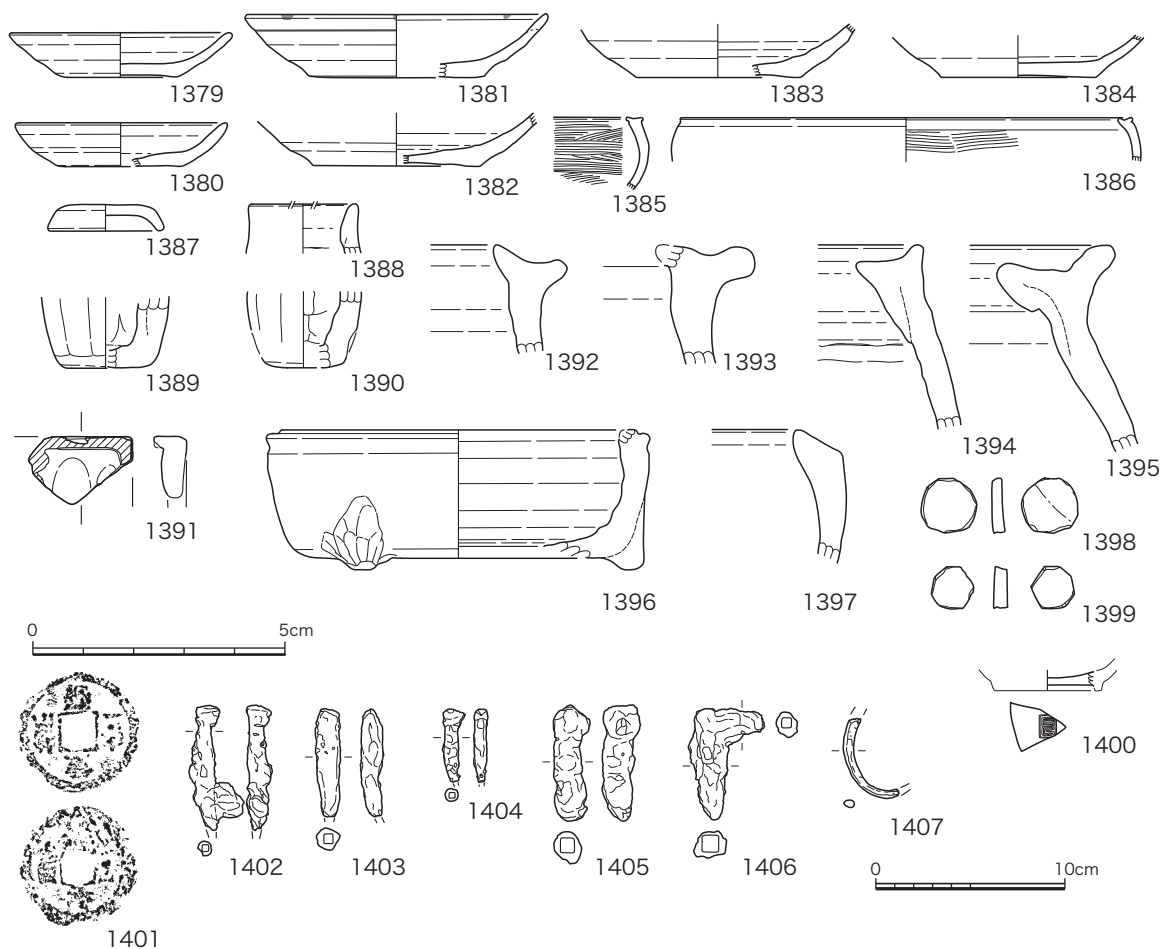
第 111 図 C 期の遺物実測図 (12) SK01 (2)

ている。木製品およびその部材としては楔(1408～1421)、結桶底板(1422・1423)、結桶側板(1424)が存在する。楔は横断面形が正方形に近い角材の一端を斜めに削り取ったもの(1408～1417・1419・1420)と横断面形が長方形の板材の一端を斜めに削り取ったもの(1418, 1421)に区分できる。この他には用途を特定できない加工された板材や角材(建築部材片)と、木材加工の過程で産出された端切れ材などが大量に認められる。後者の端切れ材にはチョウナやノミなどで削り取られた木片(1425～1427)と台カンナ屑(1428・1429)がある。また、特別なものとして植物質の繊維を編んだ紐状のもの(1501・1502)も認められる。

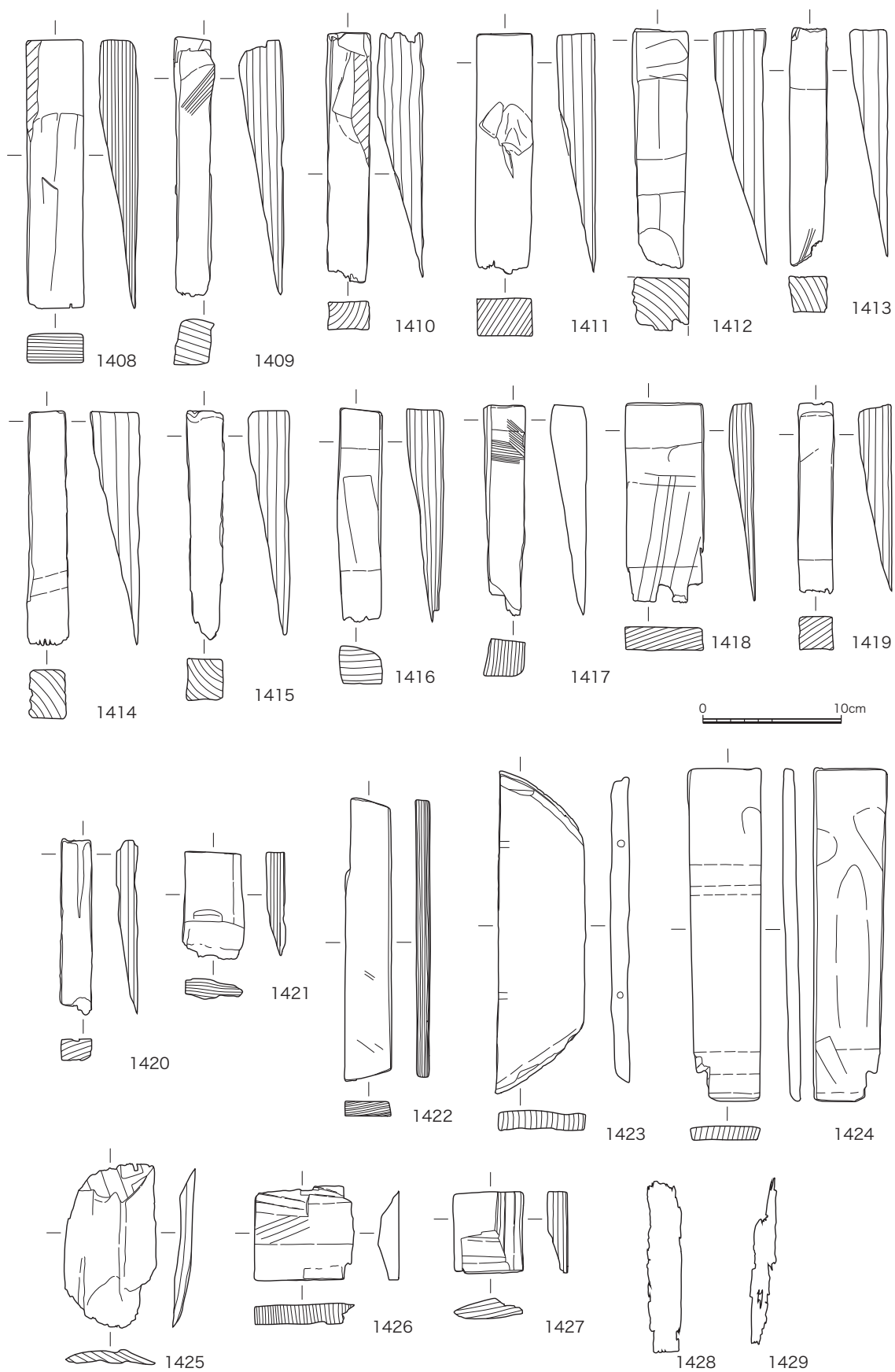
建築部材片は大きく角材系と板材系に大別で

き、形状から細分できる。角材系1類は1～数ヶ所に穿孔が認められるもの(1436・1442・1444・1447・1453)である。多くは平面形が長方形の孔が設けられている。角材系2類は一方の先端を尖らせた杭状のもの(1439)、角材系3類は一方の先端を斜めに削り取った楔状のもの(1441・1453)、角材系4類は両端の先端にほぞ加工が施されたもの(1431)、角材系5類は鉄釘が打ち込まれたもの(1455)である。この他の特別な特色がない角材を角材系6類として一括しておく。これらの角材系建築部材片の多くは表面にノコギリ痕が残存している。また、例外としてL字状の角材に孔が設けられたもの(1499)も存在する。

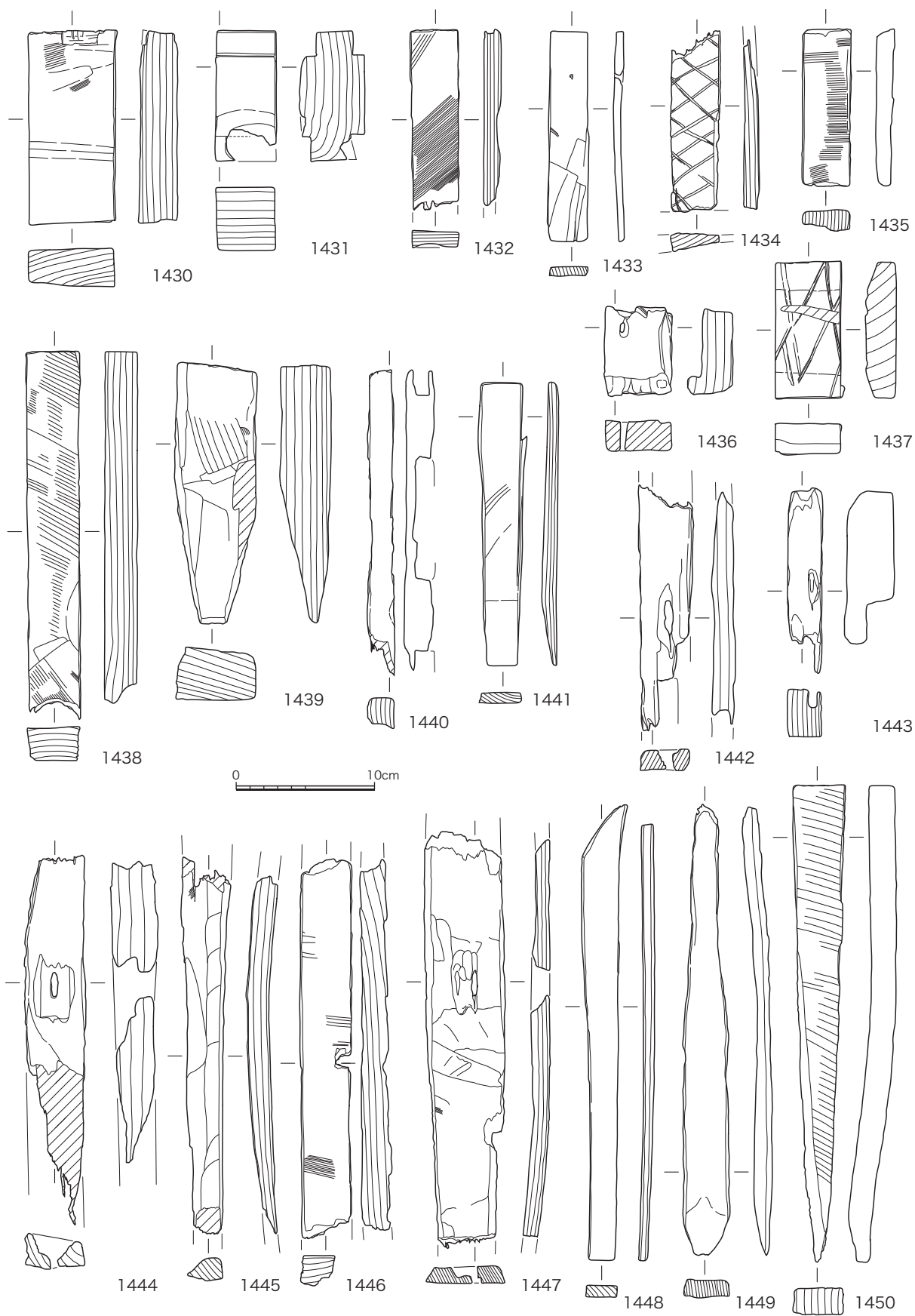
一方、板材系建築部材片は4類に分類できる。



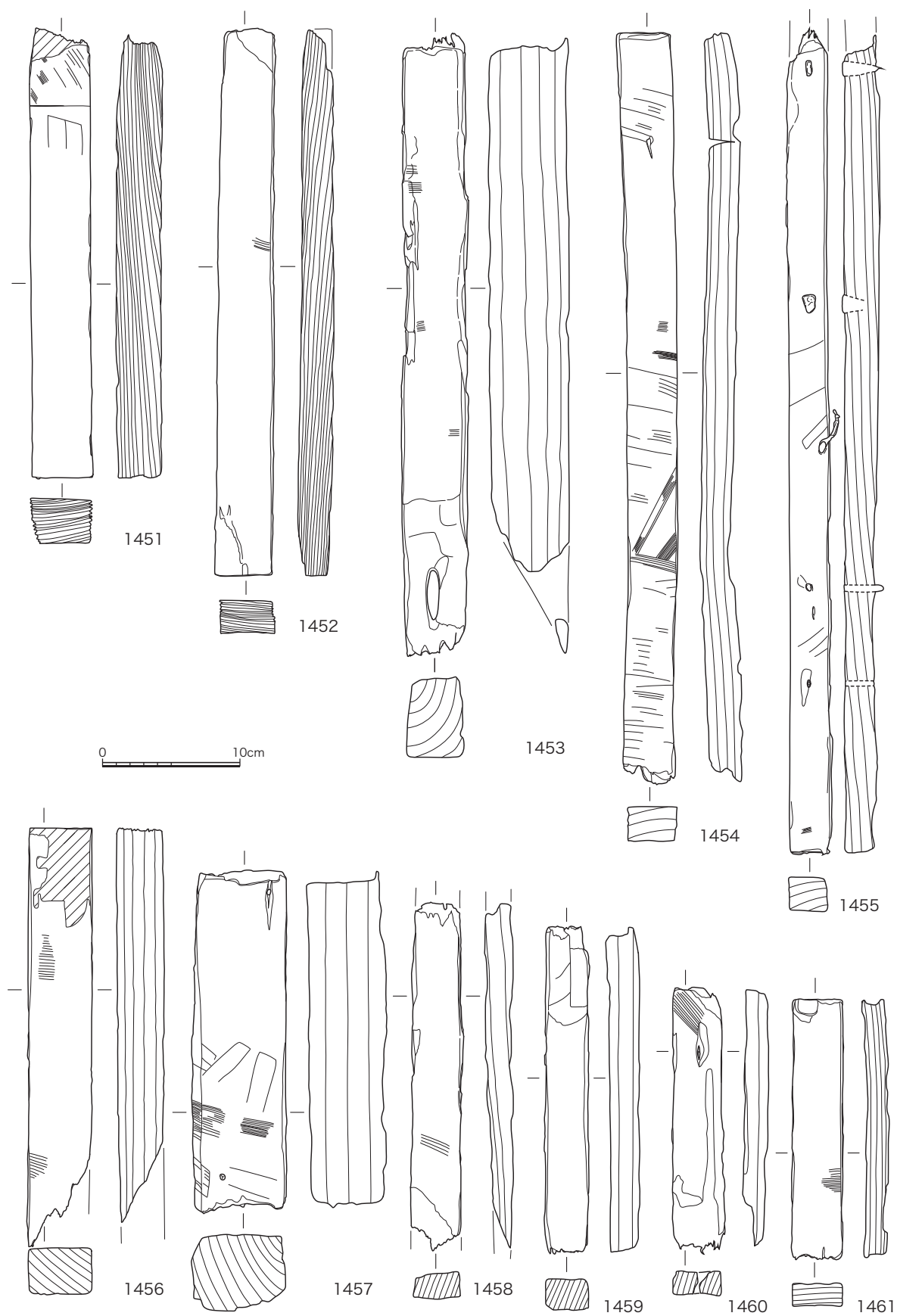
第112図 C期の遺物実測図(13)SK01(3)



第 113 図 C 期の遺物実測図 (14) SK01 (4)

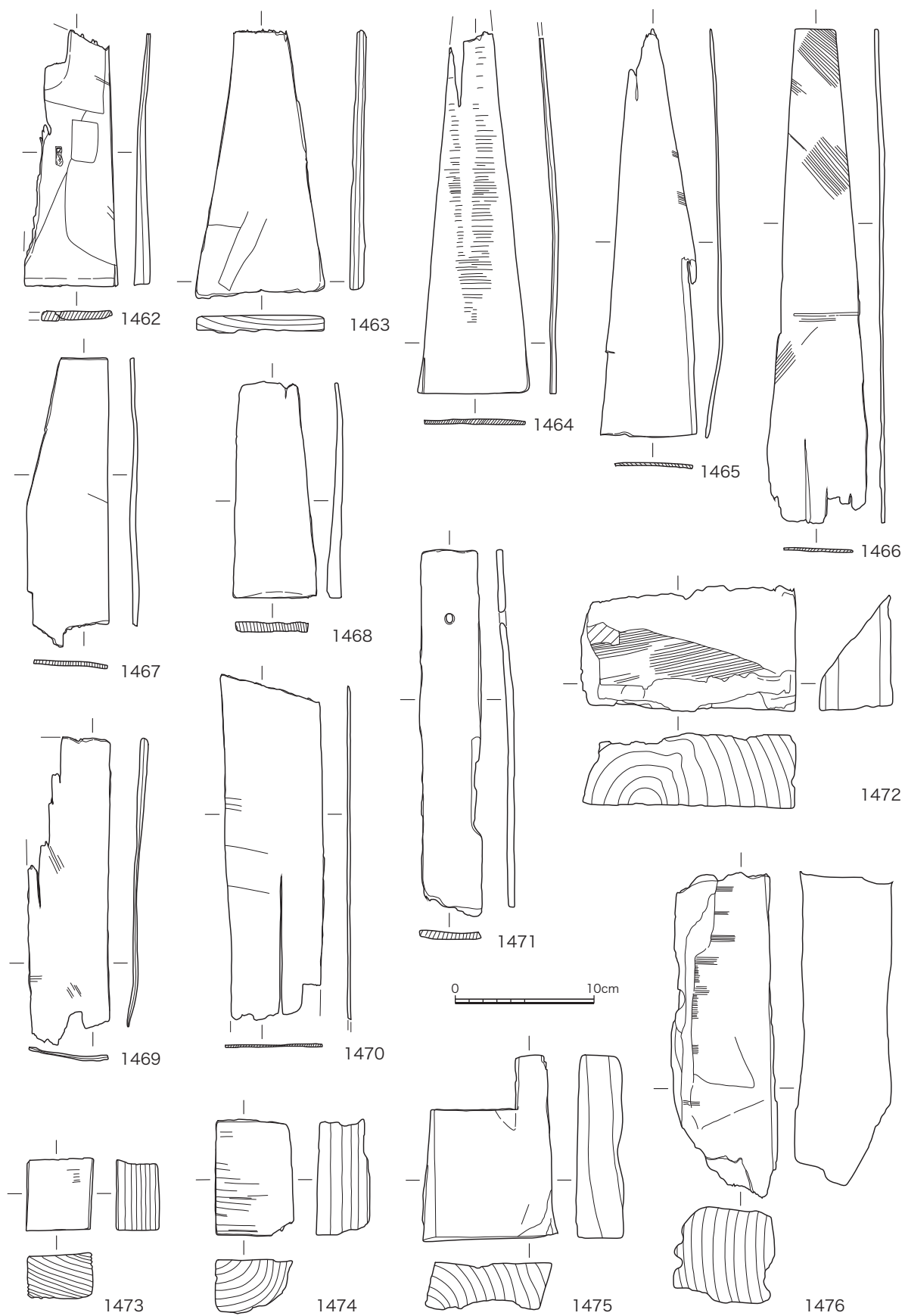


第114図 C期の遺物実測図 (15) SK01 (5)

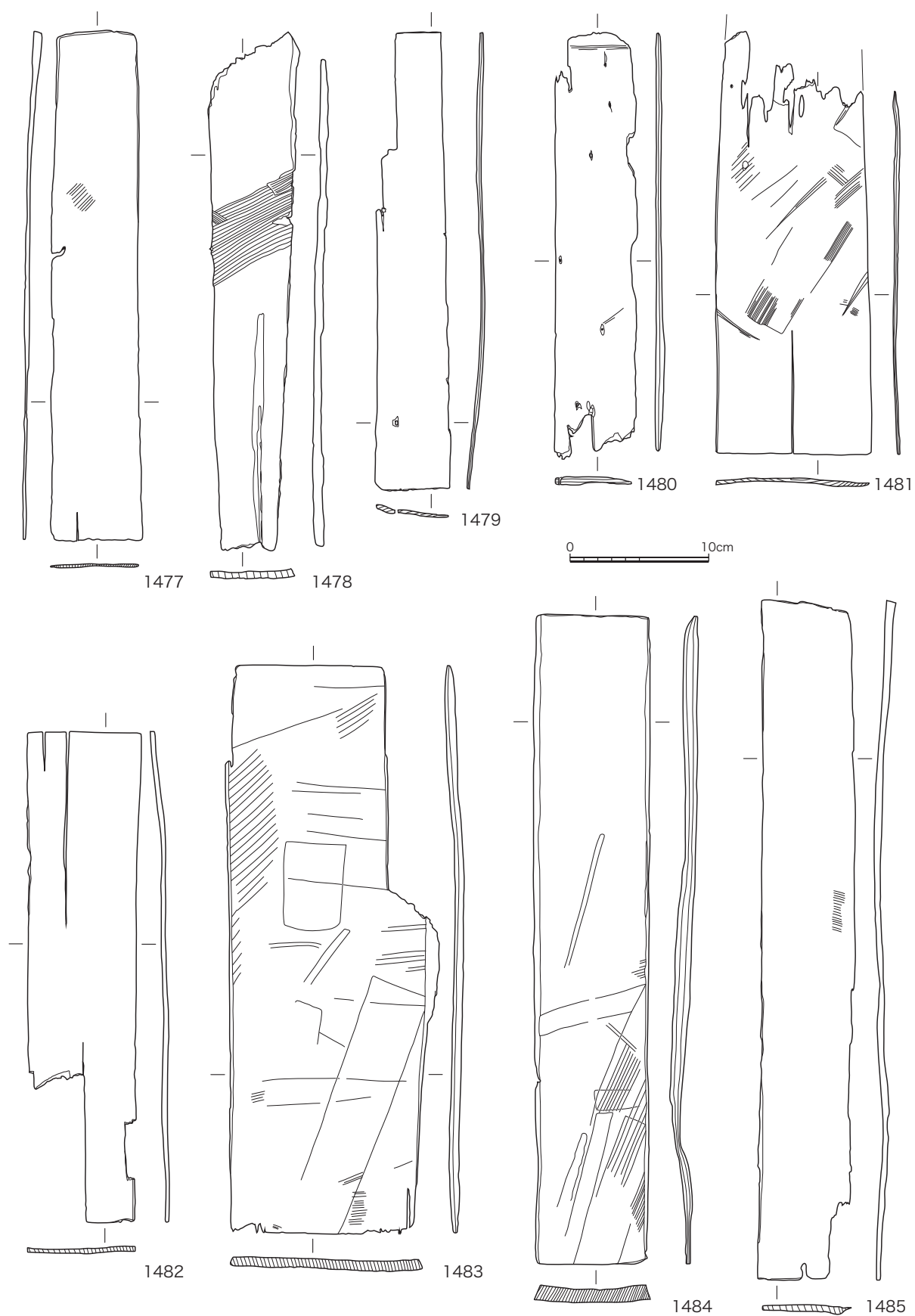


第 115 図 C 期の遺物実測図 (16) SK01 (6)

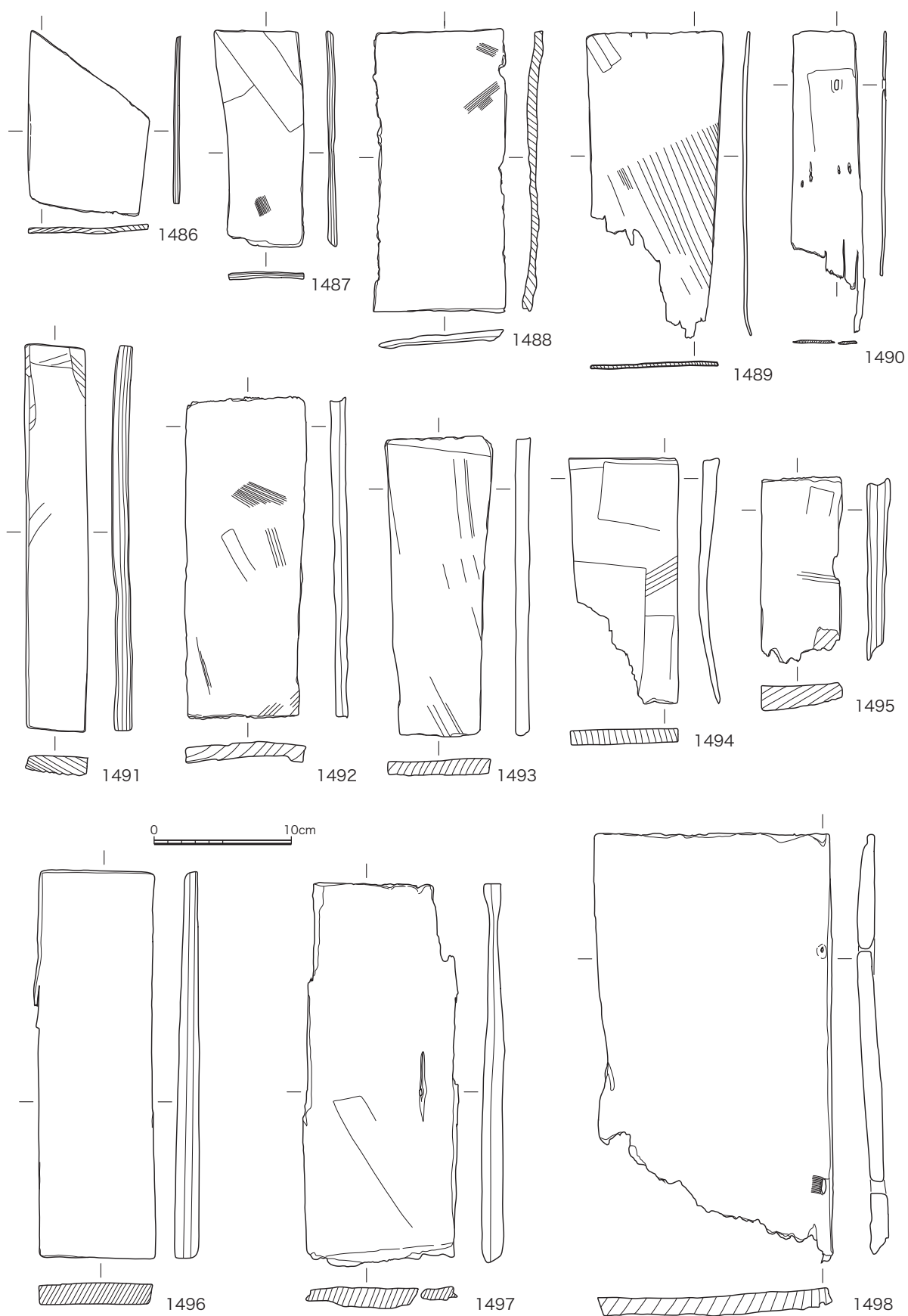




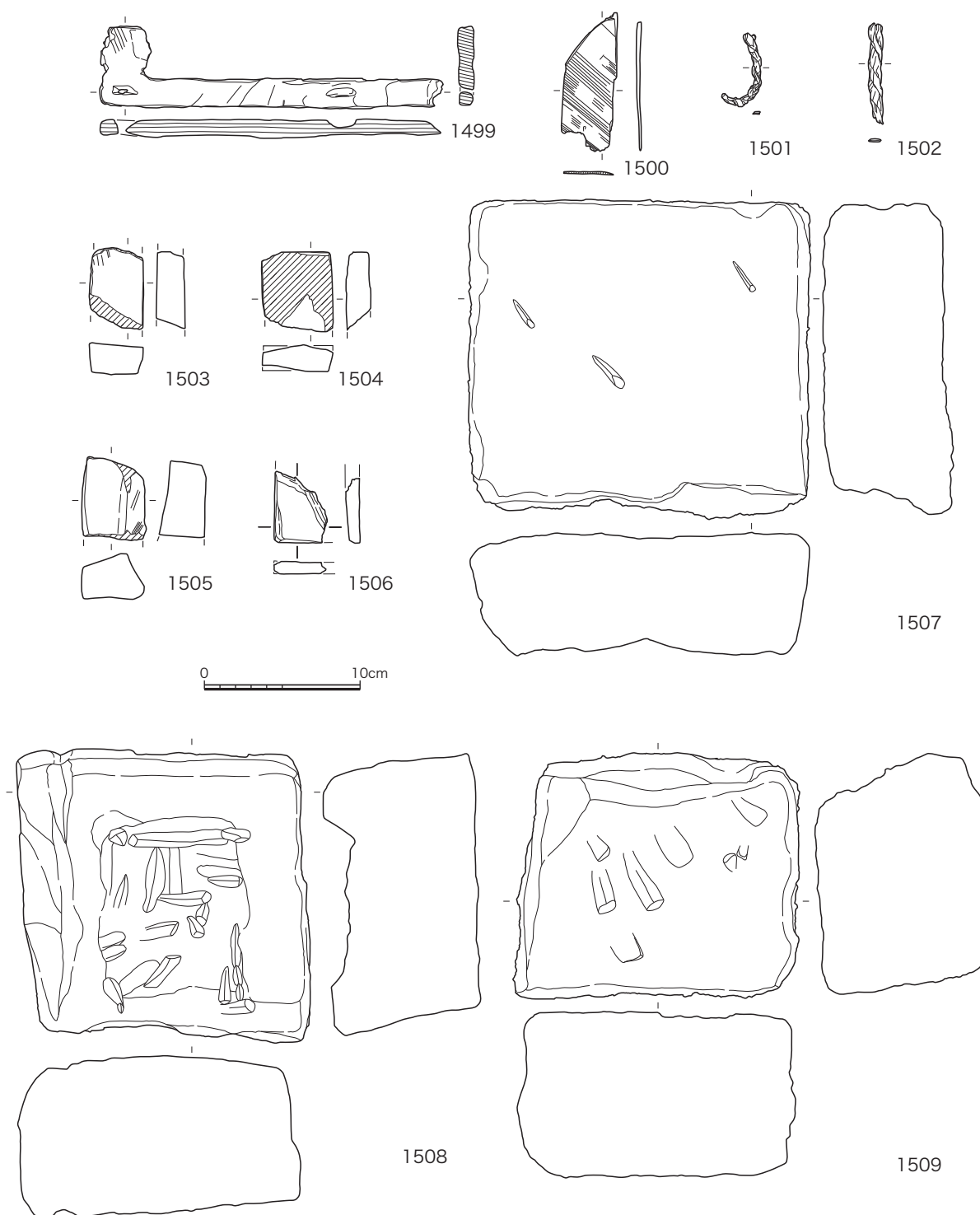
第 116 図 C 期の遺物実測図 (17) SK01 (7)



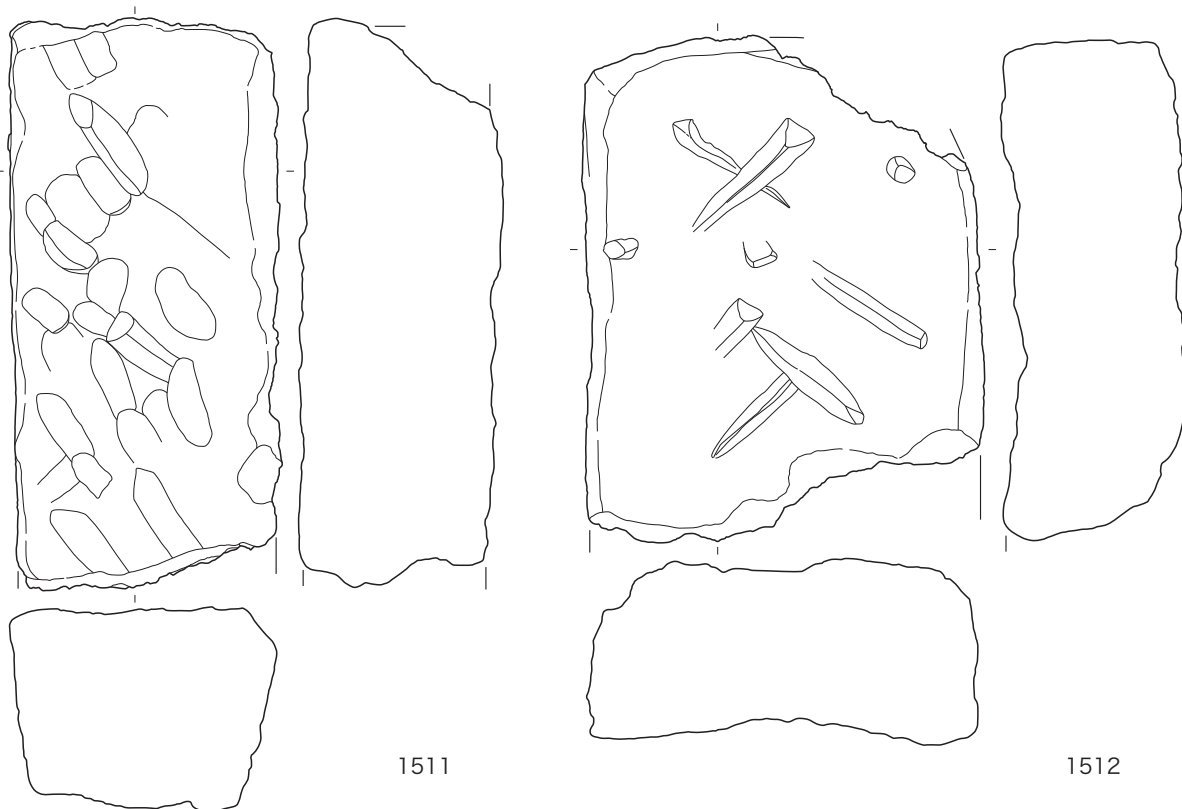
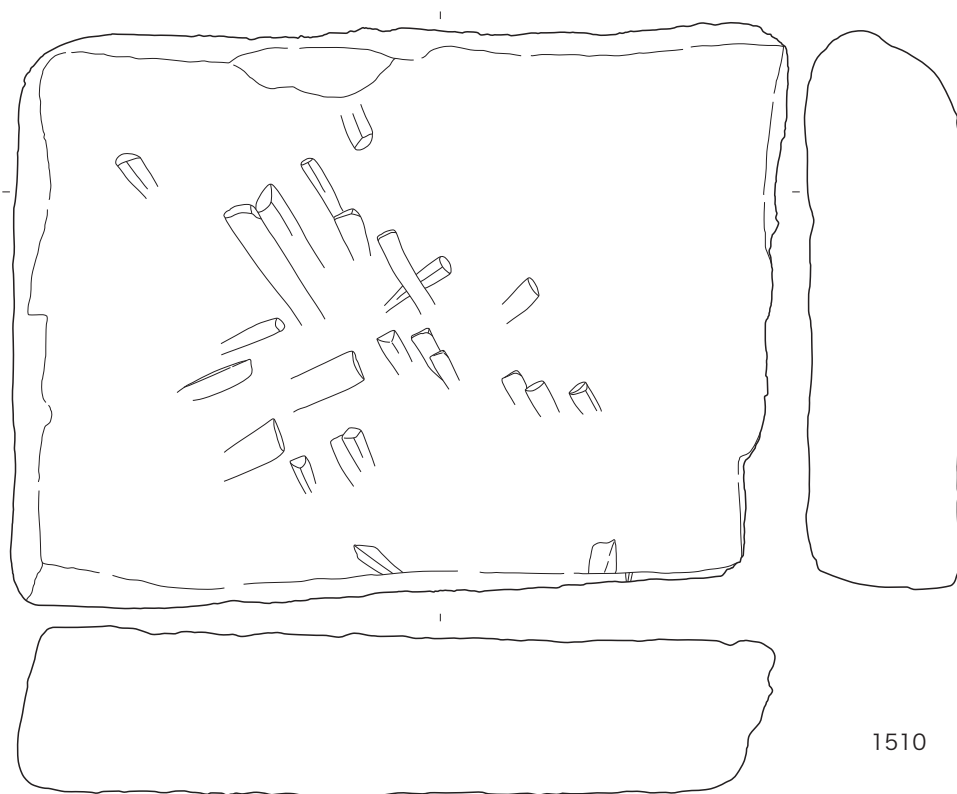
第 117 図 C 期の遺物実測図 (18) SK01 (8)



第 118 図 C 期の遺物実測図 (19) SK01 (9)

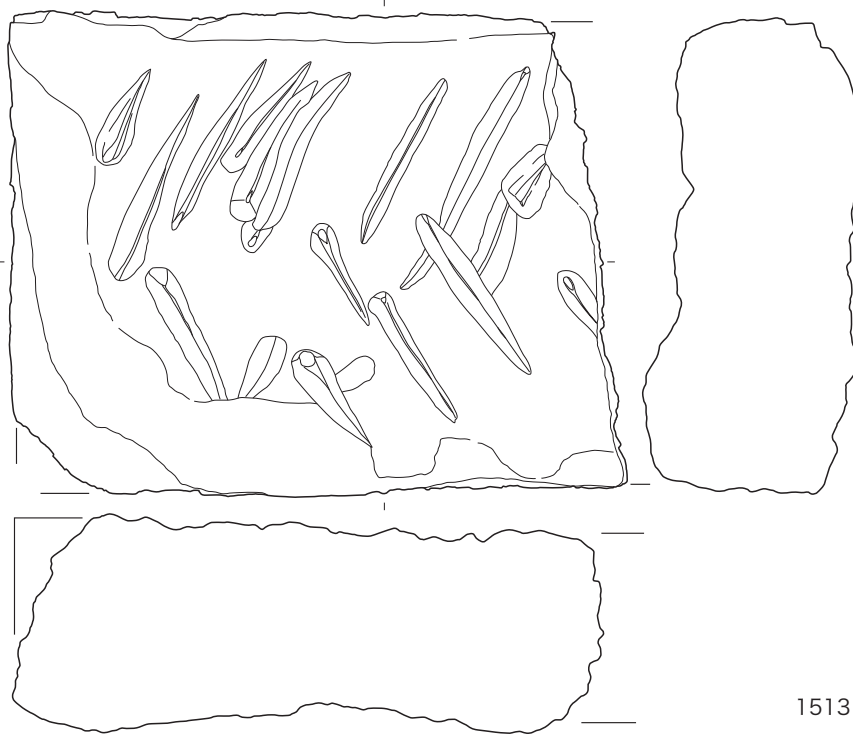


第 119 図 C 期の遺物実測図 (20) SK01 (10)

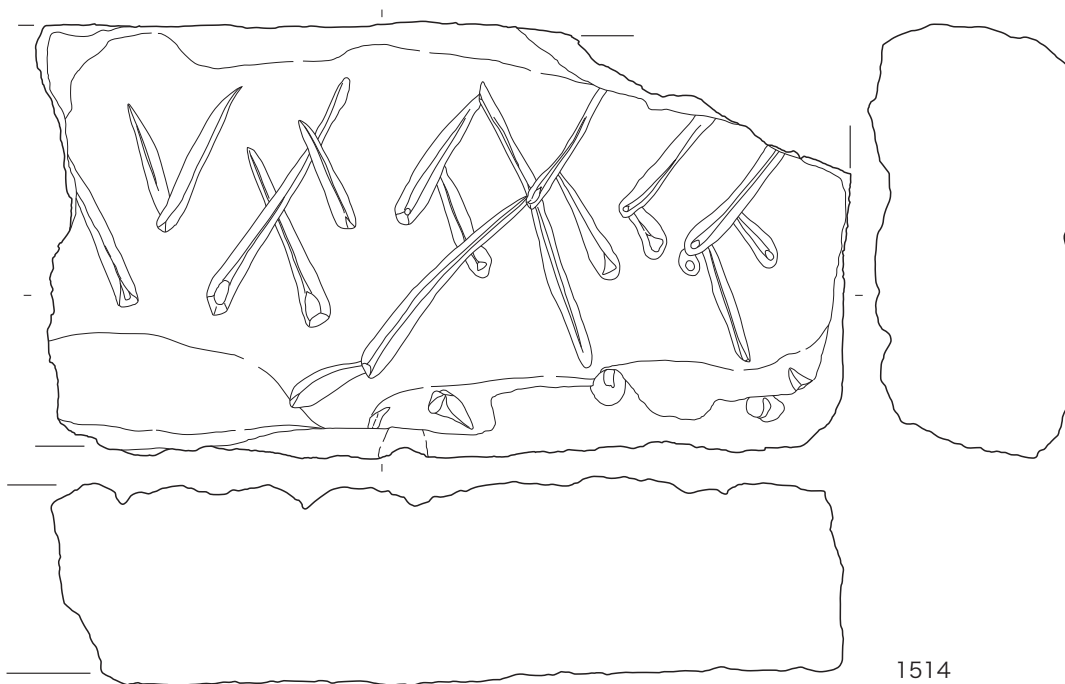


第 120 図 C 期の遺物実測図 (21) SK01 (11)





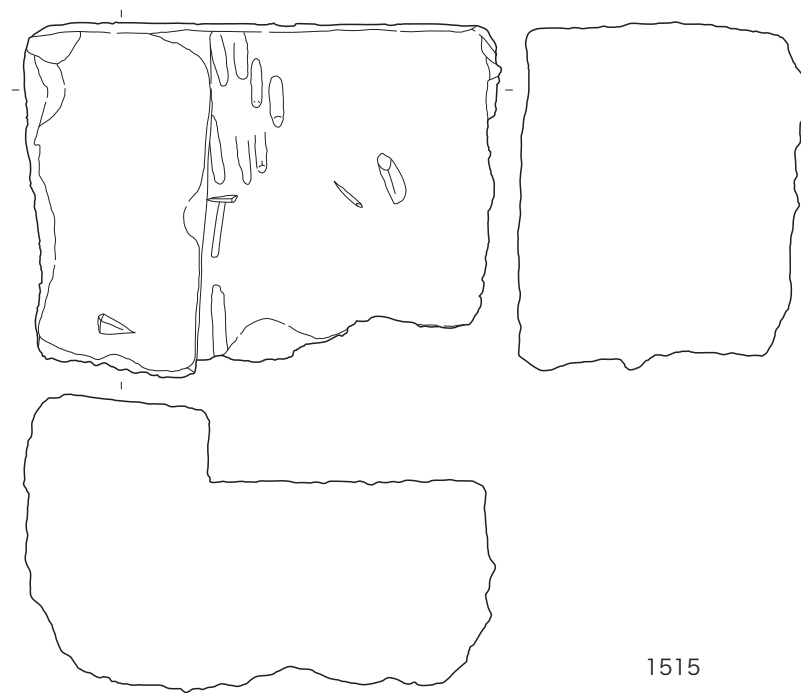
1513



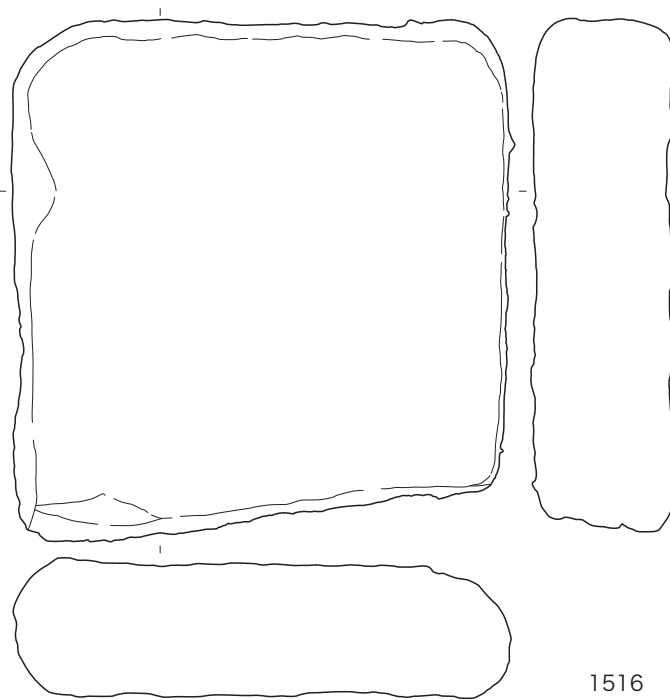
1514



第 121 図 C 期の遺物実測図 (22) SX09



1515



1516



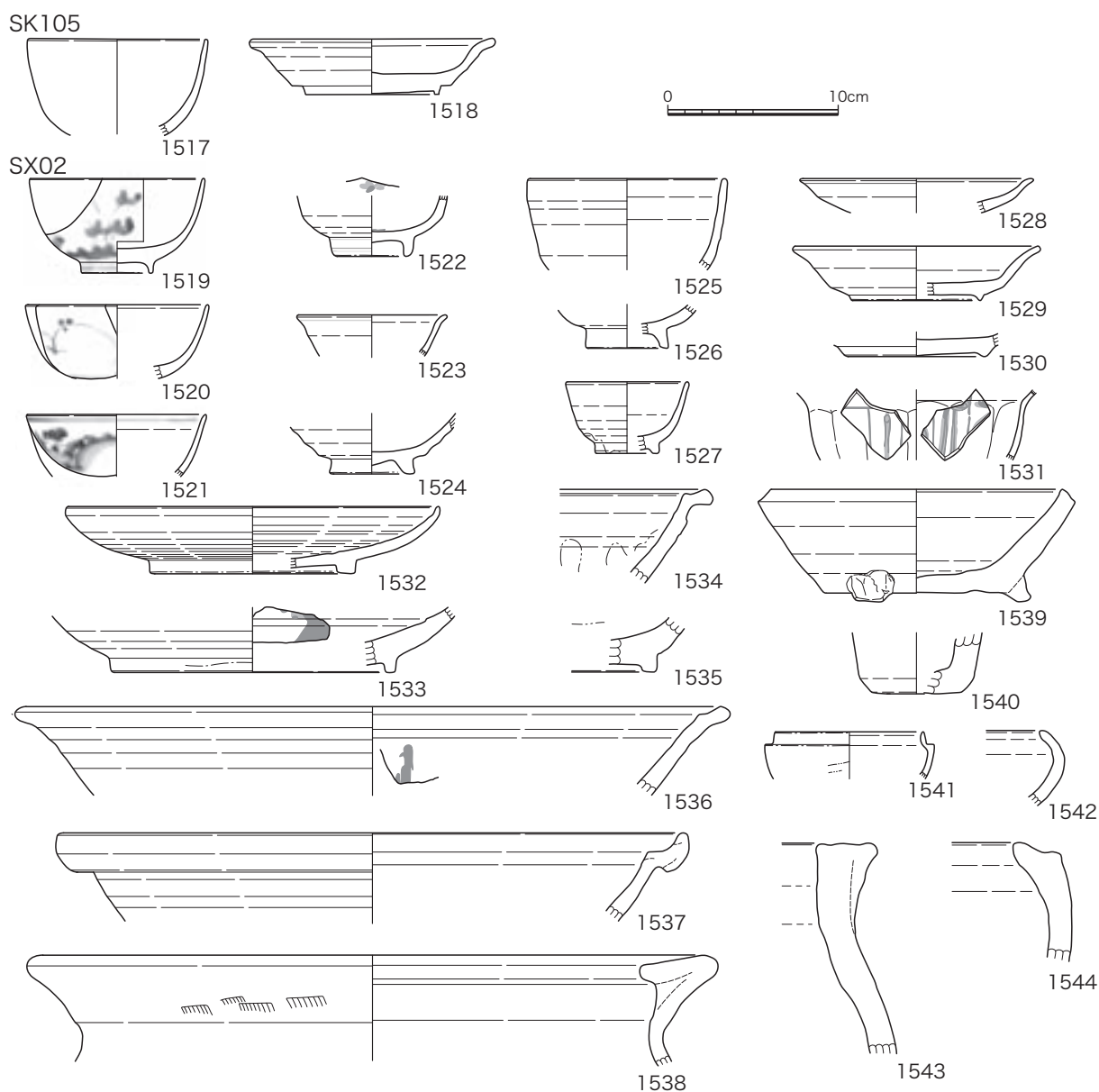
第 122 図 C 期の遺物実測図 (23) SK47・SK63

名古屋城三の丸遺跡 VII

板材系 1 類は平面形が高さの高い台形状の板材 (1462～1468) である。これらは本来二等辺三角形を形成していた可能性も考えられる。板材系 2 類は多数の小さな孔が穿たれたもの (1479～1481・1490) である。孔は木釘や竹釘の痕跡と思われ屋根板などの部材の可能性はある。板材系 3 類は材の長辺に沿う形で穿孔されたもの (1497・1498) である。この他の特別な特色がない板材を板材系 4 類として一括しておく。これらの板材は長さが 50cm を超える大型のもの

は少なく、製材の方法はノコギリ法と割裂法の両者がある。

石製品には砥石と切り石がある。砥石は凝灰質泥岩などで作られた中砥または仕上げ砥と見られるもの (1503～1506) である。切り石は凝灰岩または凝灰質砂岩を直方体に切り出して建築用資材として利用されたものと想定される。表面にノミ痕が残存するものが多い。平面形が正方形に近い厚手のもの (1507～1509) と平面形が長方形で大きく厚さはやや薄いもの (1510～



第 123 図 C 期の遺物実測図 (24) SK105・SX02 (1)

1512) に区分できる。

この資料群は陶磁器や土器類からみてC-3期に属する資料で18世紀に位置づけられる。陶磁器類は相対的に少なく、瓦や建築部材片が多く、建築用資材と思われる切り石などの存在からみて、この資料群は何らかの普請に付随する廃材を処理したものと考えられる。

### 第9項 SX02 出土遺物

#### (第123～124図 1519～1550)

SX02からは瀬戸美濃窯産陶器などを中心に2837点が出土した。最も多い資料は近世に属する瓦で2382点で全体の約84%を占めている。

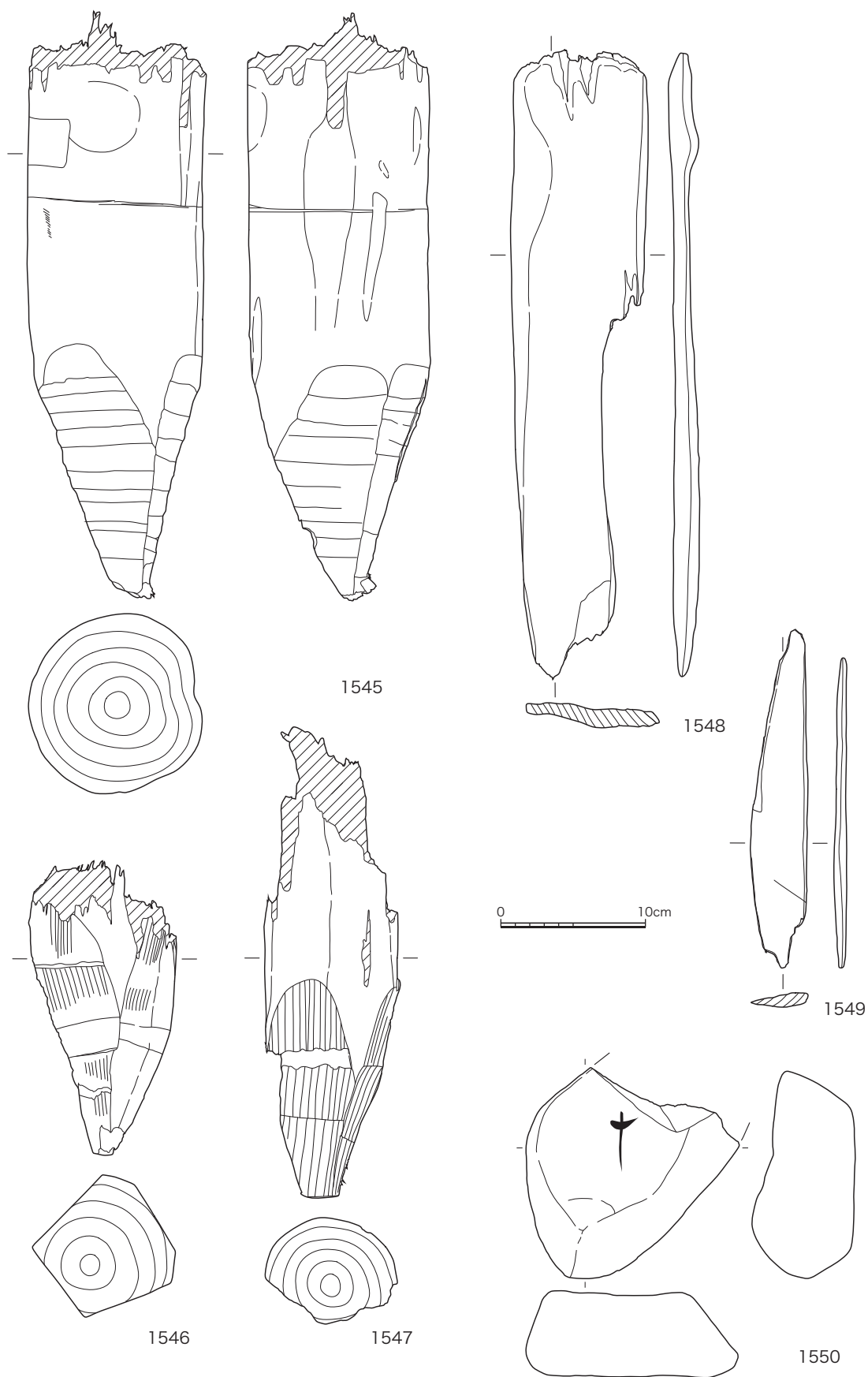
瀬戸美濃窯産陶器には丸碗(1524)、小碗(1526)、志野皿(1529・1530)、中皿(1532)、鉢(1533・1535)、笠原鉢(1534・1536)、播鉢(1537)、棗茶入(1541)、火鉢(1542)などがある。最新資料は1532で連房式登窯第7小期～第8小期に属する。一方、肥前窯産磁器には染付丸碗(1519～1522)、灰釉丸碗(1525・1527)、染付小杯(1523)、染付皿(1528)などがある。大半は肥前磁器編年のⅢ期からⅣ期に位置づけられ、概ね17世紀末から18世紀前半に属する。この他の陶磁器類には中国景德鎮窯系青花輪花鉢(1531)、常滑窯産陶器真焼甕(1538)・真焼火鉢(1539)、赤物甕(1543)・赤物火鉢(1544)などがある。一方、土師器は皿や鍋類は比較的少なく、他に焼塩壺身(1540)がある。この他に木製品杭や用途不明の板材などがある。このうち少なくとも杭についてはSX02が埋積した後に打ち込まれたものと考えられ、本来のSX02の埋積段階に伴う資料ではない。この資料群全体としては以前の段階の資料を多く含むもののC-3期に属する資料で18世紀に位置づけられる。

### 第10項 SD01 出土遺物

#### (第125～127図 1551～1630)

SD01からは瀬戸美濃窯産陶器108点や瓦類1053点を中心に2226点が出土した。中でも鉄製品釘の出土量(239点)が非常に多い点がこの資料の特色となっている。瀬戸美濃窯産陶器には平碗(1564)、碗(1557・1560・1563・1565・1566)、志野丸皿(1569・1570)、播鉢(1586・1587)、煙硝播(1572)、匣鉢(1582)、笠原鉢(1583)、内耳鍋(1581)などがある。大半が連房式登窯第1小期～第6小期に属するが、1581は第8小期に属する。一方、肥前窯産陶磁器には染付丸碗(1551・1552・1554)、上絵付丸碗(1553)、鉄釉丸碗(1556)、灰釉丸碗(1562)、染付皿(1567)、染付蓋(1568)、青磁皿(1573)、灰釉水指(1585)などがある。大半は肥前磁器編年のⅣ期に位置づけられ、概ね18世紀代に属する。この他の陶磁器類には中国景德鎮窯系青花碗(1555)・青花小杯(1558)、常滑窯産陶器真焼甕(1593)・真焼火鉢(1580)、赤物甕(1592)、産地不明陶器碗(1559・1561)などがある。1593はほぼ完形のもので破損して出土した。土師器はロクロ調整皿や焙烙、焼塩壺などがある。ロクロ調整皿は橙色の胎土を持つ体部が直線的に開くものである。口径は約16cmのもの(1574)、約13cmのもの(1575)、約12cmのもの(1576)などに分けられる。1590と1591は瓦器の大型筒状製品である。内面は非常に摩滅して白色の胎土が露出しており、外面には格子紋状の刻線が施されている。用途は特定できないが、おそらく井戸側の部材であった可能性がある。

SD01から出土した資料にはこの他に大量の鉄製品釘がある。長さは10cmを超えるものはなく小型の製品ばかりである。頭部は平たく伸ばした後折り曲げた形状である。軸部上位の錆膨れした部分に繊維状の痕跡が付着したものが多く、木材に打ち込まれた状態で錆びたものと考えられ



第 124 図 C 期の遺物実測図 (25) SX02 (2)

る。繊維痕の方向は釘の主軸と約30度斜めとなっていることから、釘は材に対して斜めに打ち込まれたことが想定される。

全体的に見ると、C-3期に属する資料で18世紀第3四半期頃に位置づけられる。

#### 第11項 SD03 出土遺物

##### (第127図 1631～1647)

SD03はSD01と連続する溝であり、SD01と遺物の様相はそれほど相違しない。ロクロ調整皿は橙色の胎土を持つ体部が直線的に開くものである。口径は約12cmのもの(1634)、約11cmのもの(1635)、約8cmのもの(1636)などに分けられる。美濃窯産陶器灯明皿(1633)が連房式登窯第8小期に属することから、C-3期に属する資料で18世紀第4四半期に位置づけられる。

#### 第12項 SK23 出土遺物

##### (第128図 1648～1692)

SK23からは瀬戸美濃窯産陶器75点を中心に235点が出土した。近世に属する土師器は確認されなかった。瀬戸美濃窯産陶器には碗(1662)、丸碗(1663)、箱型湯呑(1664)、蓋(1682・1683)、徳利(1685)、搦鉢(1686～1688)、火鉢(1690)、箸置(1684)などがある。大半が連房式登窯第5小期～第8小期に属する。1683は再興織部の製品で19世紀初頭に位置づけられる。肥前窯産陶磁器には染付丸碗(1649～1660)、染付蓋物(1661)、京焼風丸碗(1668)、染付猪口(1670)、染付皿(1671～1676)、染付蓋(1681)などがある。大半は18世紀代に属する。この他の陶磁器類には関西系?磁器染付丸碗(1648)、信楽窯産陶器丸碗(1665)、常滑窯産陶器真焼甕(1689)などがあり、産地不明陶器も一定量存在する。土師器は皿や焼塩壺などがある。土師器ロクロ調整皿は橙色の胎土を持

ち、口径は10～12cmを測る(1677・1678・1680)。非ロクロ調整皿も橙色の胎土を持つもの(1679)である。C-4期に属する資料で19世紀第1四半期に位置づけられる。

#### 第13項 SK93 出土遺物

##### (第129図 1702～1705)

SK93からは正位置に設置された瀬戸美濃窯産陶器水指(1703)が出土した。水指内部から水指に伴う蓋(1702)と石材(1703・1704)が出土した。水指と蓋は連房式登窯第8小期に属し、C-3期(18世紀第4四半期)に位置づけられる。

#### 第14項 SK60 出土遺物

##### (第130図 1718～1735)

SK60からは常滑窯産陶器233点や瓦529点を中心に1023点が出土した。瀬戸美濃窯産陶器には丸碗(1720)、皿(1721)、搦鉢(1722)、匣鉢(1731)、肥前窯産陶磁器には染付丸碗(1719)、京焼風丸碗(1718)などがあるが、他の遺構に比べ出土割合は少ない。連房式登窯第6小期までに属する資料群である。常滑窯産陶器には真焼甕(1733～1735)や赤物甕(1732)がある。土師器ロクロ調整皿は胎土が橙色を呈する体部が逆ハ字状に開くもので、口径は17.5cm前後のもの(1724・1725)、14cm前後のもの(1726)、12cm前後のもの(1727)の3種に区分できる。C-3期に属する資料で18世紀中頃に位置づけられる。

#### 第15項 C期の遺構出土遺物

1170～1175はSK49から出土した遺物であり、このうち1173は体部に自然釉がかかる信楽窯産陶器甕である。1513と1514はSX09を構成する石材である。直方体を形成する切り石で表面に多数のノミ痕が残存する。1515はSK47、1516はSK64から出土した切り石である。1755



名古屋城三の丸遺跡 VII

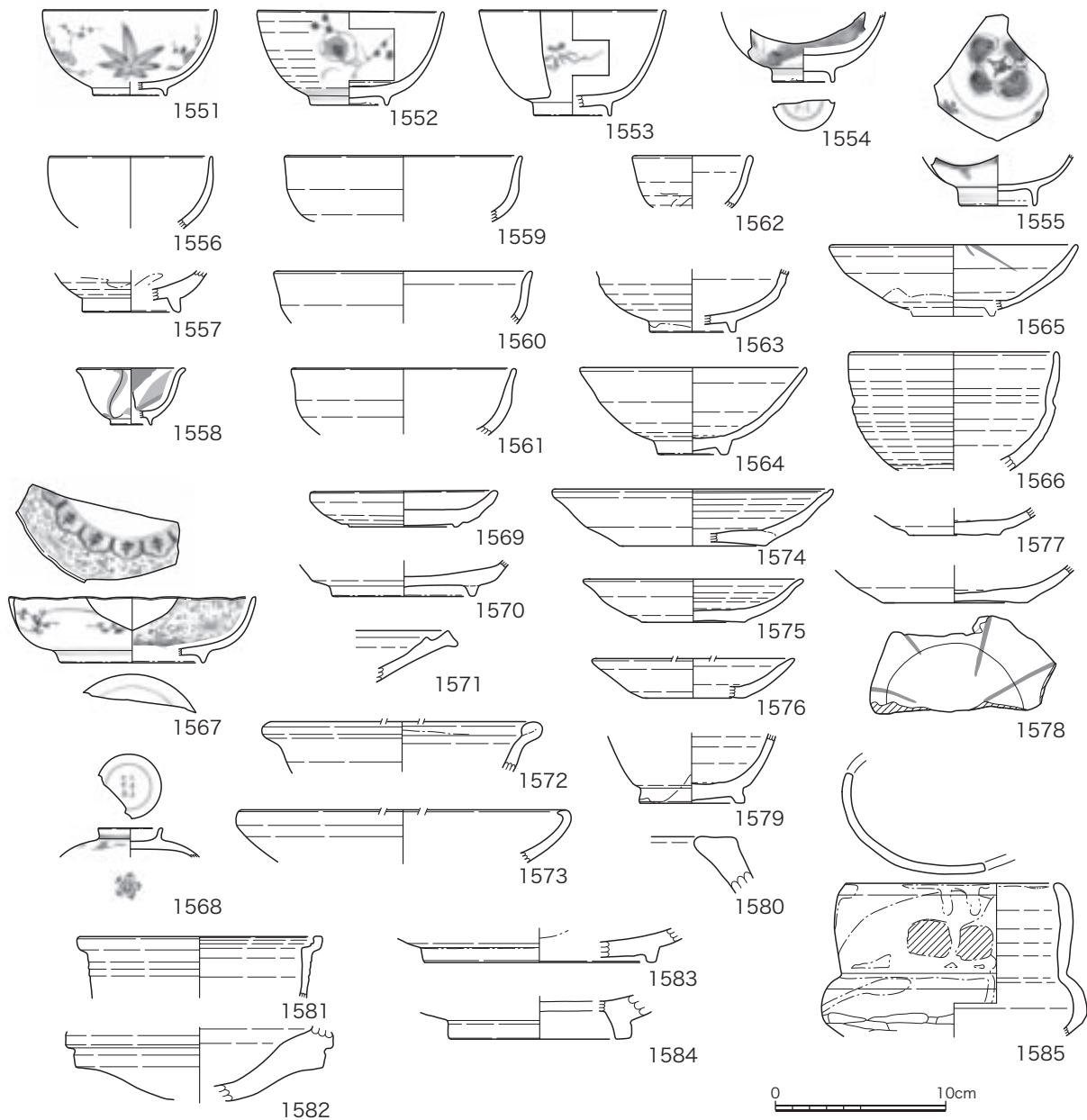
～1765はSD13出土資料である。1758は美濃窯産陶器の破片で葉状の装飾の一部であるが器種は特定できない。1759は瓦器の灯火具と推測される。1762は常滑窯産陶器赤物製品で、内面に「井」字状に線刻が施されており鉢状の製品と推測される。

第16項 包含層出土遺物

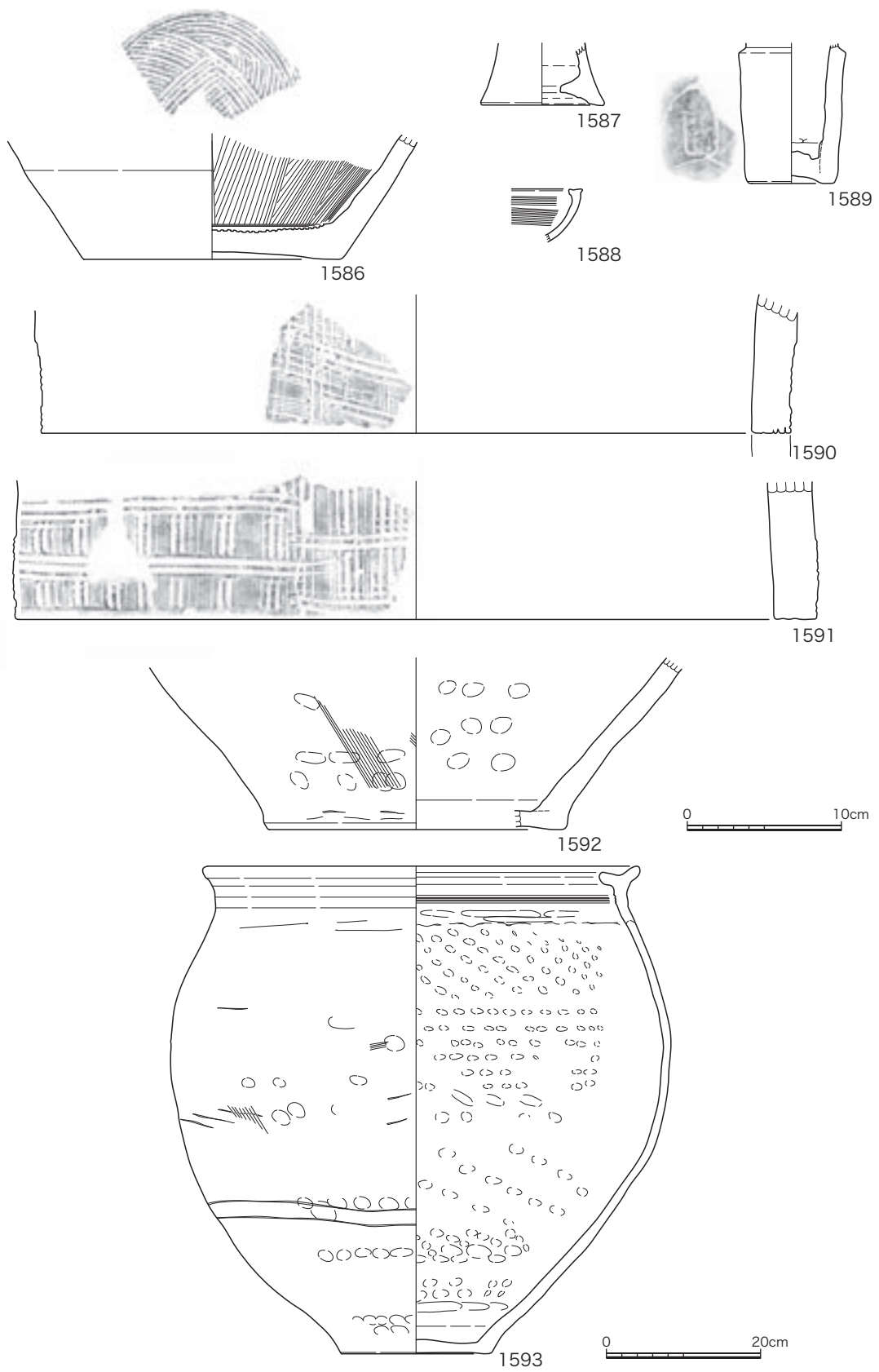
(第132図1766～1814)

上記で説明した以外にも、C期の遺構に伴わないC期の資料も多数存在する。このうち主要なものの一部を紹介しておきたい

1766は瀬戸美濃窯産陶器白天目茶碗で登窯第2小期に、1767は同じく黒織部杳茶碗で登窯第1小期に、1769は同じく京焼写しの碗で登窯第



第125図 C期の遺物実測図 (26) SD01 (1)



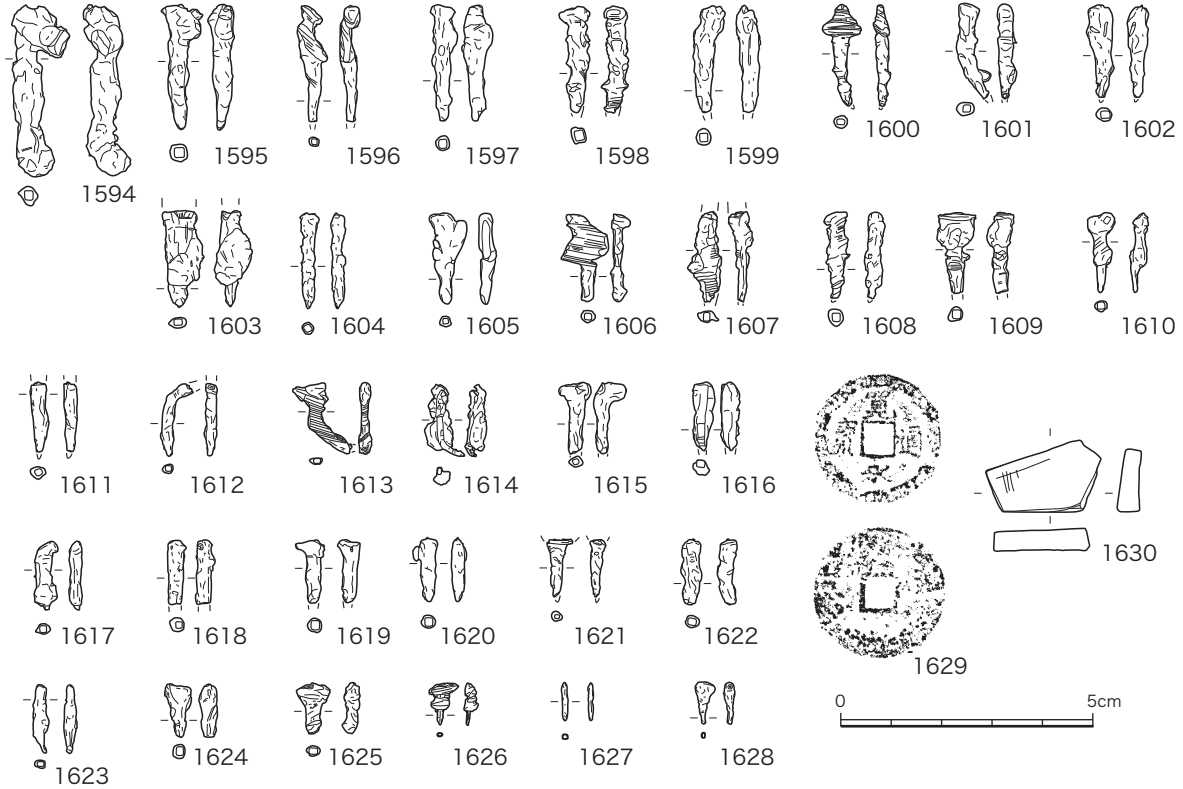
第 126 図 C 期の遺物実測図 (27) SD02 (2)

名古屋城三の丸遺跡 VII

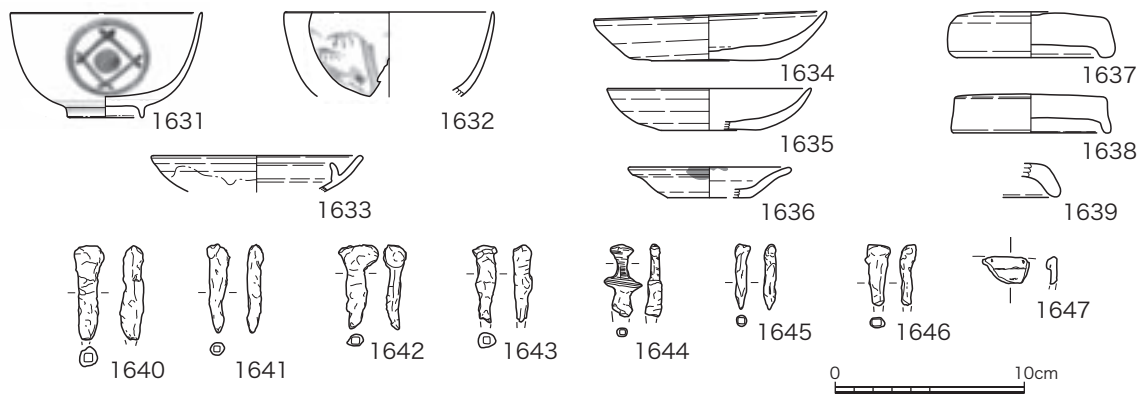
5小期に属する。1781は瓦器（瓦質土器）の腰折皿で瀬戸美濃窯産陶器の製品を模倣したものと考えられる。1786は土師器ロクロ調整皿で口縁部が内彎するタイプである。焼成後に穿孔され口

縁部付近が煤けている。1789は肥前窯産磁器染付皿で17世紀中頃に位置づけられる古い資料である。1809は土人形で鳥形である。

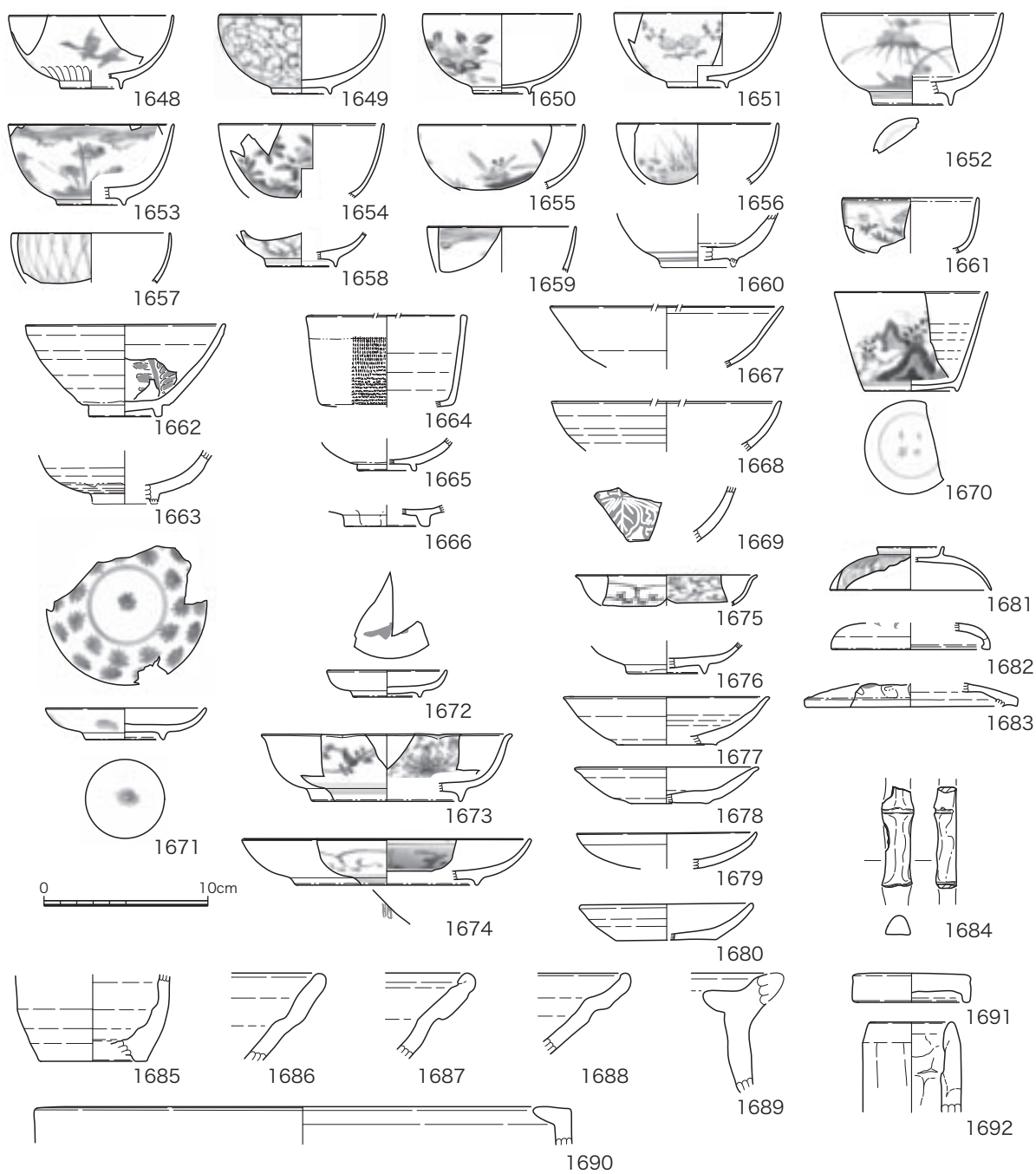
SD01



SD03

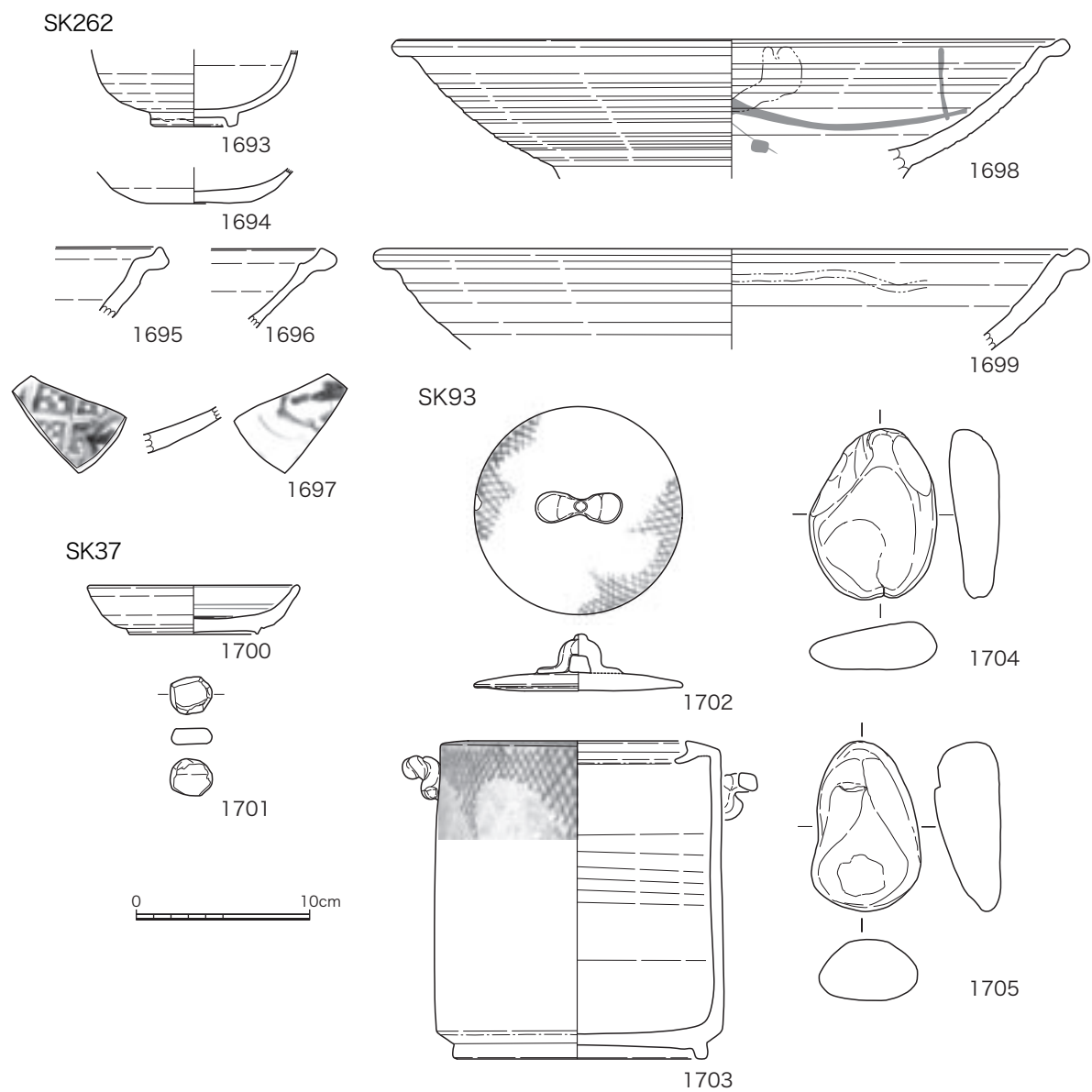


第127図 C期の遺物実測図(28) SD01(3)・SD03

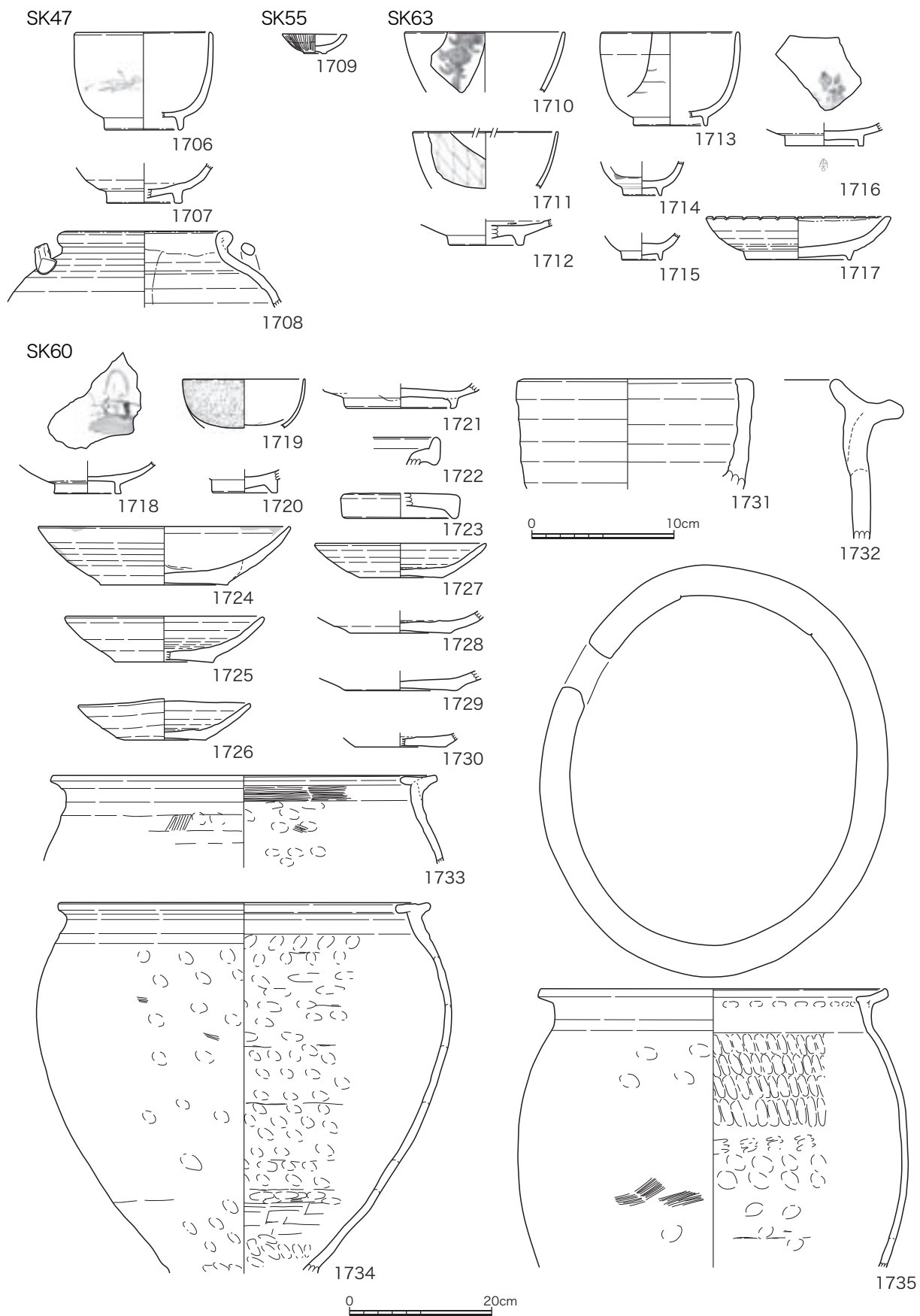


第 128 図 C 期の遺物実測図 (29) SK23

名古屋城三の丸遺跡 VII

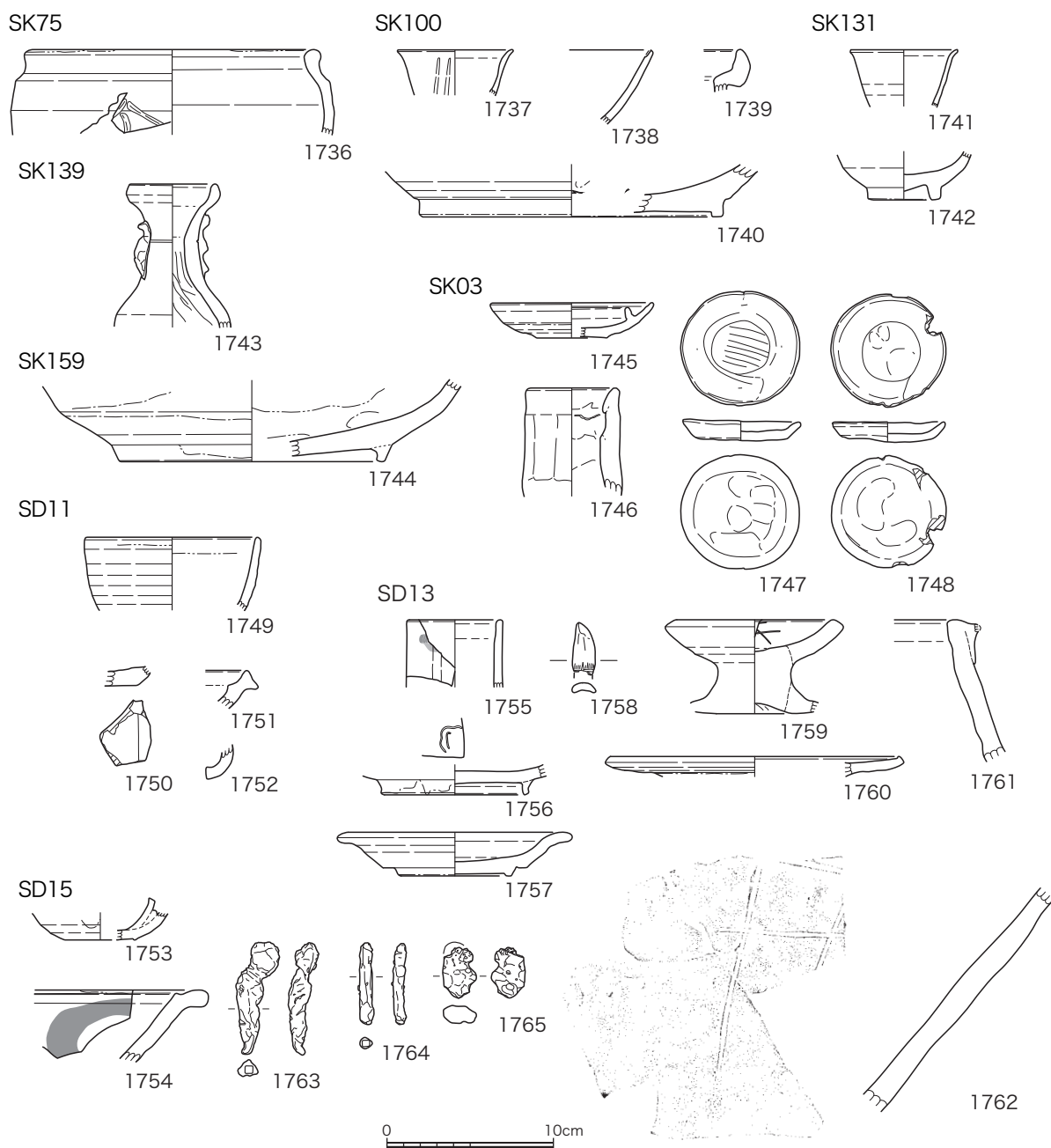


第 129 図 C 期の遺物実測図 (30) SK262・SK37・SK93

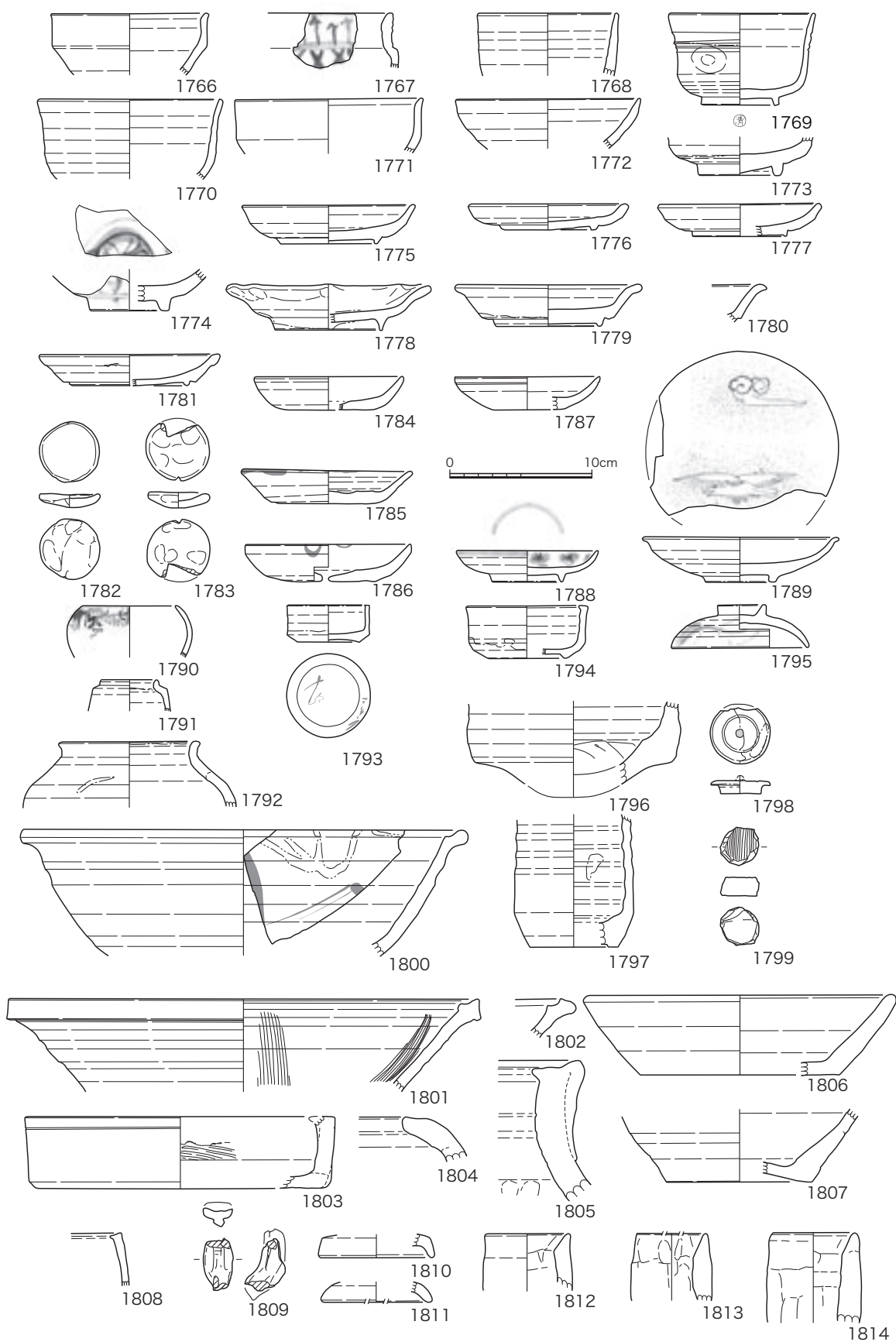


第 130 図 C 期の遺物実測図 (31) SK47・SK55・SK63・SK60





第 131 図 C 期の遺物実測図 (32) 土坑・溝出土遺物 (2)



第 132 図 C 期の遺物実測図 (33) 包含層他出土遺物

## 第 17 項 軒丸瓦

### (第 133 ~ 136 図 1815 ~ 1858)

この項目から C 期に属する瓦類を種類ごとに紹介する。瓦類は 27 リットル入りコンテナで約 176 箱、19930 点、約 2500kg 出土し、軒丸瓦、軒平瓦、軒棧瓦、丸瓦、平瓦、棧瓦、鬼瓦、飾瓦、輪違い瓦、面戸瓦、道具瓦などが存在する。軒丸瓦、軒平瓦、丸瓦、平瓦などの本瓦葺きの瓦類が圧倒的多数を占め、棧瓦葺きの瓦類が少ないことが江戸時代の瓦としてはやや異質な出土状況を呈している。分析や計量の方法は『清洲城下町遺跡 VIII』に準拠した。

軒丸瓦と分類されたものは全部で 103 点が出土した。この中で瓦当面が残存しある程度瓦当面の紋様が特定できるものが 66 点存在する。瓦当面に金箔押などの装飾が施されたものは 1 点も存在しなかった。ここでは瓦当面の紋様構成により分類を行い、その類別ごとに特徴を記述する。これまで名古屋城関連遺跡出土瓦の分類はいくつかの報告書ごとに行われているが、今回は独自に分類を設定した。分類の方法は瓦当面径により大分類を行い、紋様構成により細分類を実施した。瓦当面径はおおよそ、直径 17.5 ~ 19cm 前後、直径 14.5cm 前後、直径 11cm 前後の 3 類に区分できる。この瓦当面径による分類は瓦当面周縁幅が異なる場合があるため範の規模と必ずしも一致しないが、おおよそ丸瓦部の規模と連動すると考えられる。ここでは瓦当面径の規模の大きいものから順にそれぞれ 00 番台、10 番台、20 番台と名づけ、特定できないものを 90 番台とした。また、瓦当面径が特定できない資料の中で紋様構成が巴紋と珠紋の組み合わせでないものが若干量存在し、これらを特別に 30 番台の一群として一括しておきたい。紋様構成による分類は統一的な分類方式は用いず大別ごとに個別に実施することとした。このレベルの分類では下 1 桁の番号を付けて表記した。なお、同紋および同範関係によ

る細分類は出土量がそれほど多くないため今回は実施することを見合わせた。

MO1 型式 (左巻三巴紋に 12 珠紋軒丸瓦 :

#### 第 133・134 図 1815 ~ 1824)

瓦当面径が約 18cm で、紋様構成は中心に左巻三巴紋、外区に珠紋を 12 個配置するものである。巴の形状が円形の体部に尾部が取り付くような形となっており、巴の内側外郭線が鋭角に屈曲している。圏線を持たず、珠紋はそれほど大きくはない。今回の調査では 9 点が出土した。丸瓦部裏面の調整痕にはコビキ B 手法の痕跡が確認される (1815・1816・1821)。丸瓦部には釘孔の存在が確認できるものもある (1815・1821)。

MO2 型式 (左巻三巴紋に 12 珠紋軒丸瓦 :

#### 第 135 図 1828 ~ 1835)

瓦当面径が約 19cm で、紋様構成は中心に左巻三巴紋、外区に珠紋を 12 個配置するものと推定される。巴の形状が全体としてなだらかであり、特に巴の内側外郭線が弧状になっている。圏線を持たず、珠紋はそれほど大きくはない。今回の調査では 8 点が出土した。丸瓦部裏面の調整痕にはコビキ B 手法の痕跡が確認されるものがある (1829)。

MO3 型式 (右巻三巴紋に 12 珠紋軒丸瓦 :

#### 第 135 図 1836 ~ 1841)

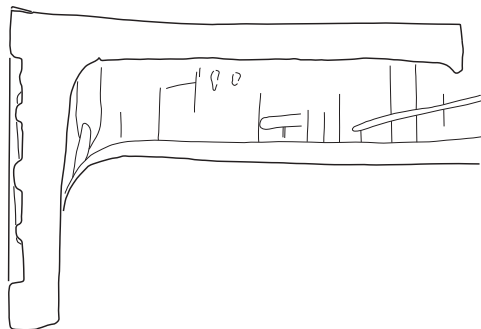
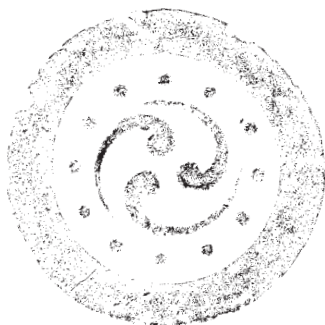
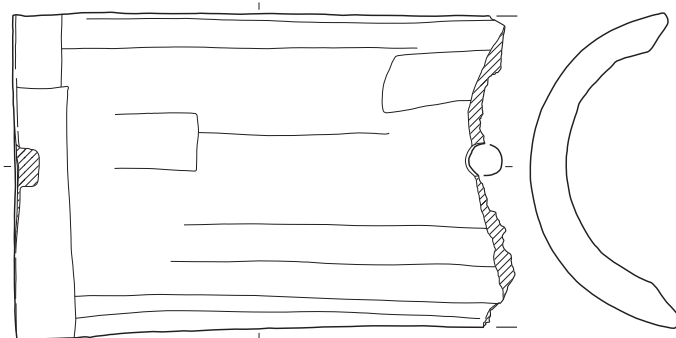
瓦当面径が約 18cm で、紋様構成は中心に右巻三巴紋、外区に珠紋を 12 個配置するものである。巴の形状が円形の体部に尾部が取り付くような形となっており、巴の内側外郭線が鋭角に屈曲している。圏線を持たないが、尾部先端が別の巴紋と近接している。珠紋はあまり大きくはない。今回の調査では 6 点が出土した。

MO4 型式 (左巻三巴紋に 12 珠紋軒丸瓦 :

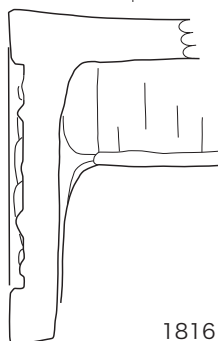
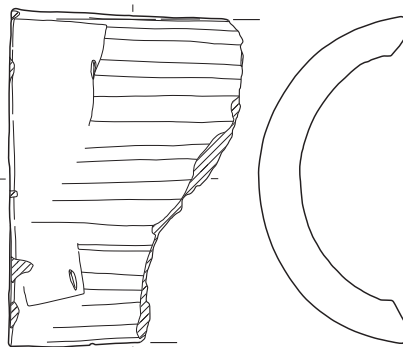
#### 第 134 図 1825・1826)

瓦当面径が約 18cm で、紋様構成は中心に左巻三巴紋、外区に珠紋を 12 個配置するものである。巴の形状が円形の体部に尾部が取り付くよう

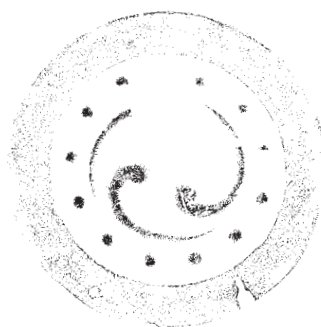
M01型式



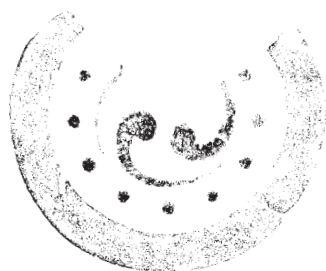
1815



1816



1817



1818



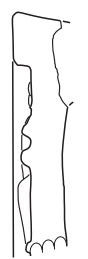
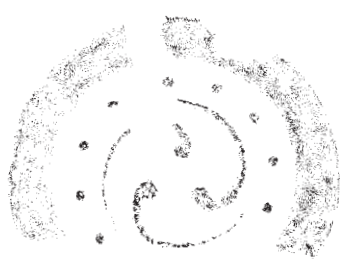
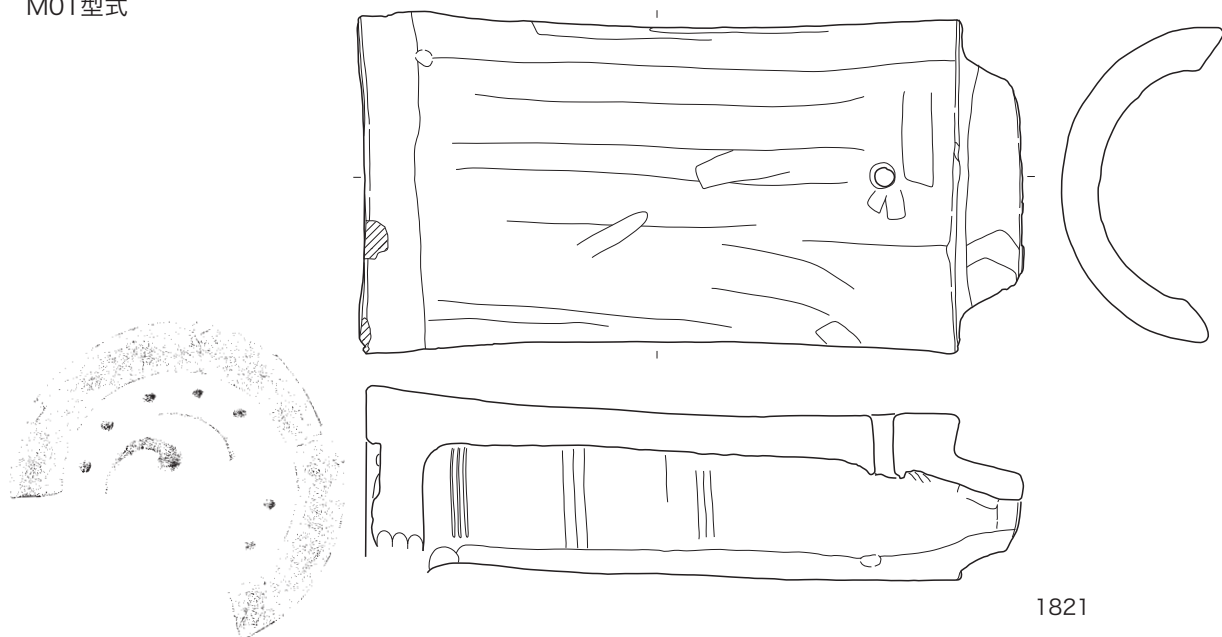
1819



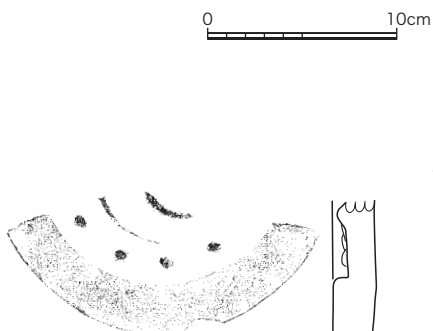
1820

第133図 C期の遺物実測図(34) 軒丸瓦(1)

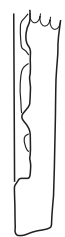
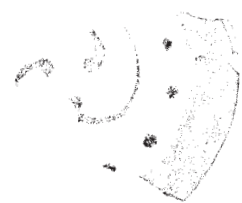
M01型式



1822

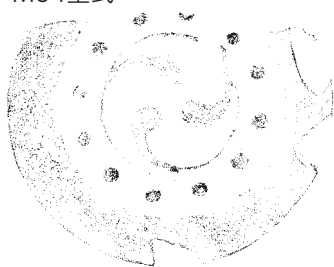


1823



1824

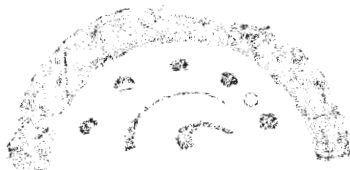
M04型式



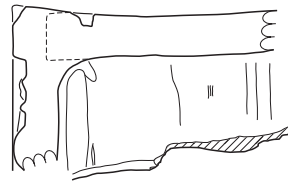
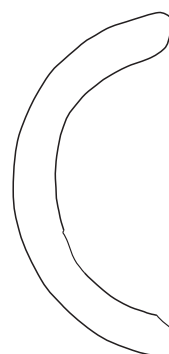
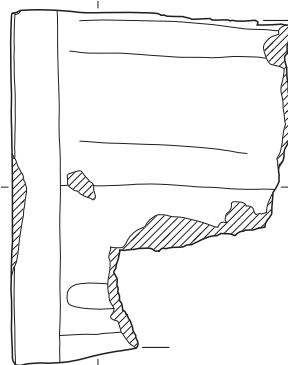
1825



1826



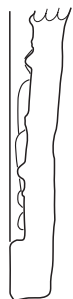
M05型式



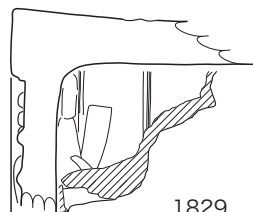
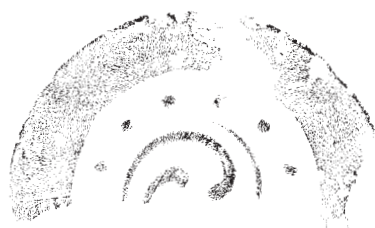
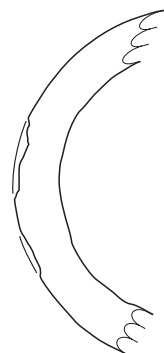
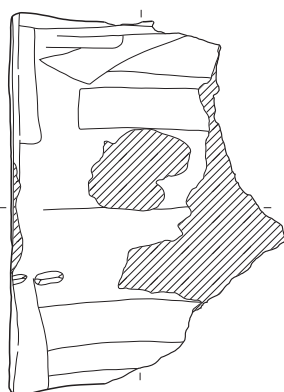
1827

第134図 C期の遺物実測図(35) 軒丸瓦(2)

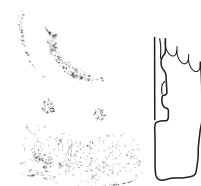
M02型式



1828



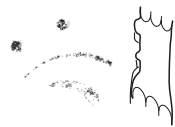
1829



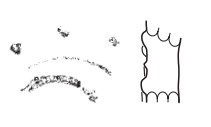
1830



1831



1832



1833

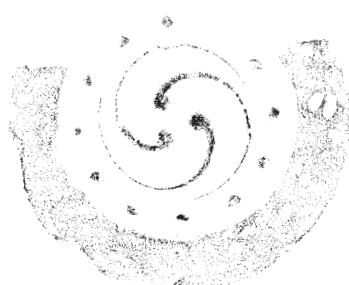


1834

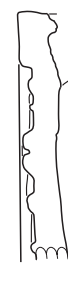
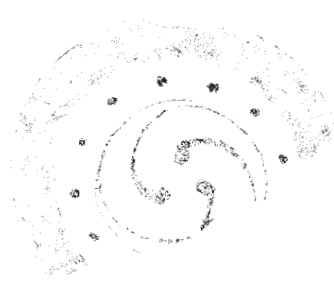


1835

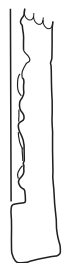
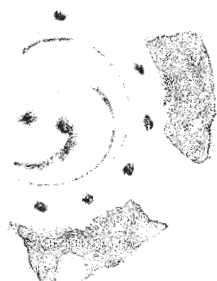
M03型式



1836



1837



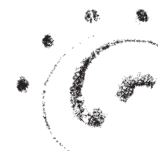
1838



1839



1840



1841



第 135 図 C 期の遺物実測図 (36) 軒丸瓦 (3)



名古屋城三の丸遺跡 VII

な形で、巴の内側外郭線がほぼ直角に屈曲している。尾部の先端が別の巴に接続し圏線を形作っている。珠紋は直径が大きく高い。今回の調査では2点が出土した。

M05 型式 (右巻三巴紋に 12 珠紋軒丸瓦 :

第 134 図 1827)

瓦当面径が約 18cm で、紋様構成は中心に右巻三巴紋、外区に珠紋を 12 個配置するものと思われる。巴の形状は特定が難しいが全体としてなだらかであり、特に巴の内側外郭線が弧状になっ

ている。圏線を持たず、珠紋は直径が 14mm と大きめである。今回の調査では 2 点が出土した。

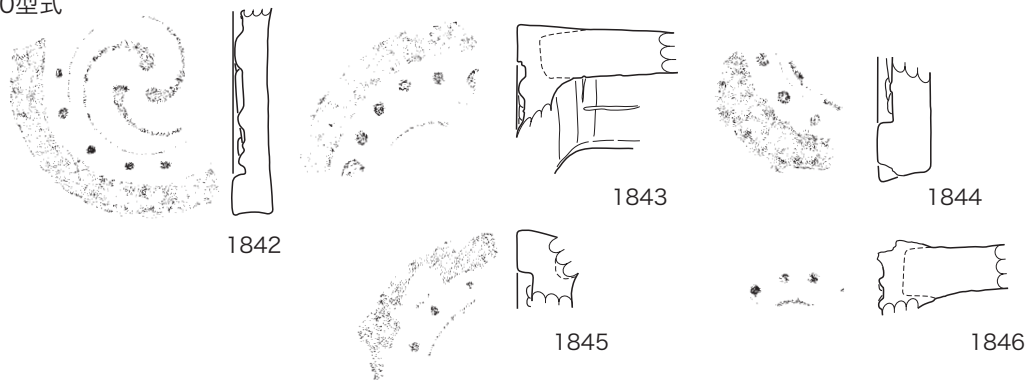
M09 型式

瓦当面径が約 17 ~ 19cm で紋様構成が特定しがたいものを 09 型式として一括した。図示はしなかった。今回の調査では 30 点が出土している。

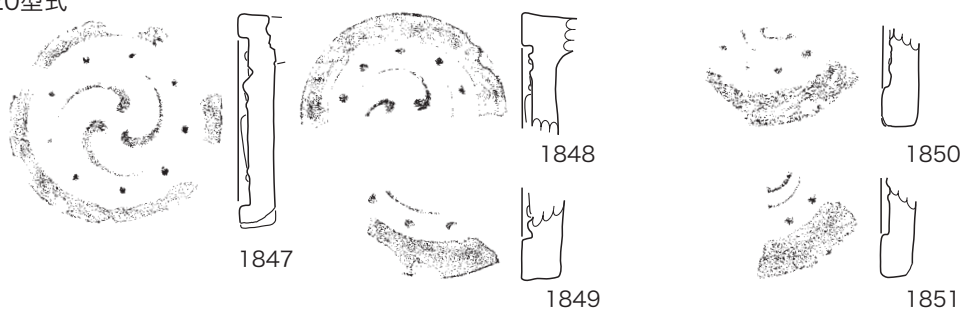
M10 型式 (第 136 図 1842 ~ 1846)

瓦当面径が 14cm 前後のものをここでは一括して M10 型式群として報告する。1842 (M11 型式) の紋様構成は中心に左巻三巴紋、外区に珠

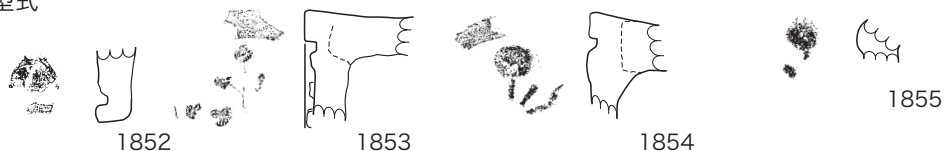
M10型式



M20型式



M30型式



その他



第 136 図 C 期の遺物実測図 (37) 軒丸瓦 (4)

紋を12個配置するものと思われる。巴の形状は全体としてなだらかである。1843 (M12 型式) の紋様構成は中心に左巻三巴紋、外区に珠紋を16個配置するものと思われる。珠紋が大振りな点が特徴である。1844 (M13 型式) の紋様構成は中心に左巻三巴紋、外区に珠紋を12個配置するものと思われる。巴紋の先端が別の巴に極めて近接し、珠紋が大振りである。1845と1846は残存状況が不良で紋様構成を推測することが難しいものである。M10 型式群は今回の調査では9点が出土した。

#### M20 型式 (第136 図 1847～1851)

瓦当面径が11cm前後のものをここでは一括してM20 型式群として報告する。1847 (M21 型式) の紋様構成は中心に左巻三巴紋、外区に珠紋を9個配置するものである。巴の形状は全体としてなだらかである。1848 (M22 型式) の紋様構成は中心に左巻三巴紋、外区に珠紋を9個配置するものと思われる。1849～1851は残存状況が不良で紋様構成を推測することが難しいものである。M20 型式群は今回の調査では5点が出土した。

#### M30 型式 (第136 図 1852～1855)

中心に三巴紋、外区に珠紋を配置するもの以外のものをここでは一括してM30 型式群として報告する。1852 (M31 型式) は花卉状の紋様が残存しており、紋様構成は外区を持たないものと思われる。1853 (M32 型式) の瓦当面径は比較的大きく、紋様構成は全体に桐紋を配置したものと思われる。五五桐紋あるいは五三桐紋と推定される。1854と1855 (M33 型式) は円形紋に直線が接続する花紋状の紋様構成を持っている。M30 型式群は今回の調査では4点が出土した。

#### M99 型式 (第136 図 1856～1858)

瓦当面径が特定できず紋様構成も推測しがたいものを一括して99 型式とする。99 型式の丸瓦部裏面の調整痕にはコビキ B 手法の痕跡が確認

される。

## 第18 項 軒平瓦

### (第137～140 図 1859～1909)

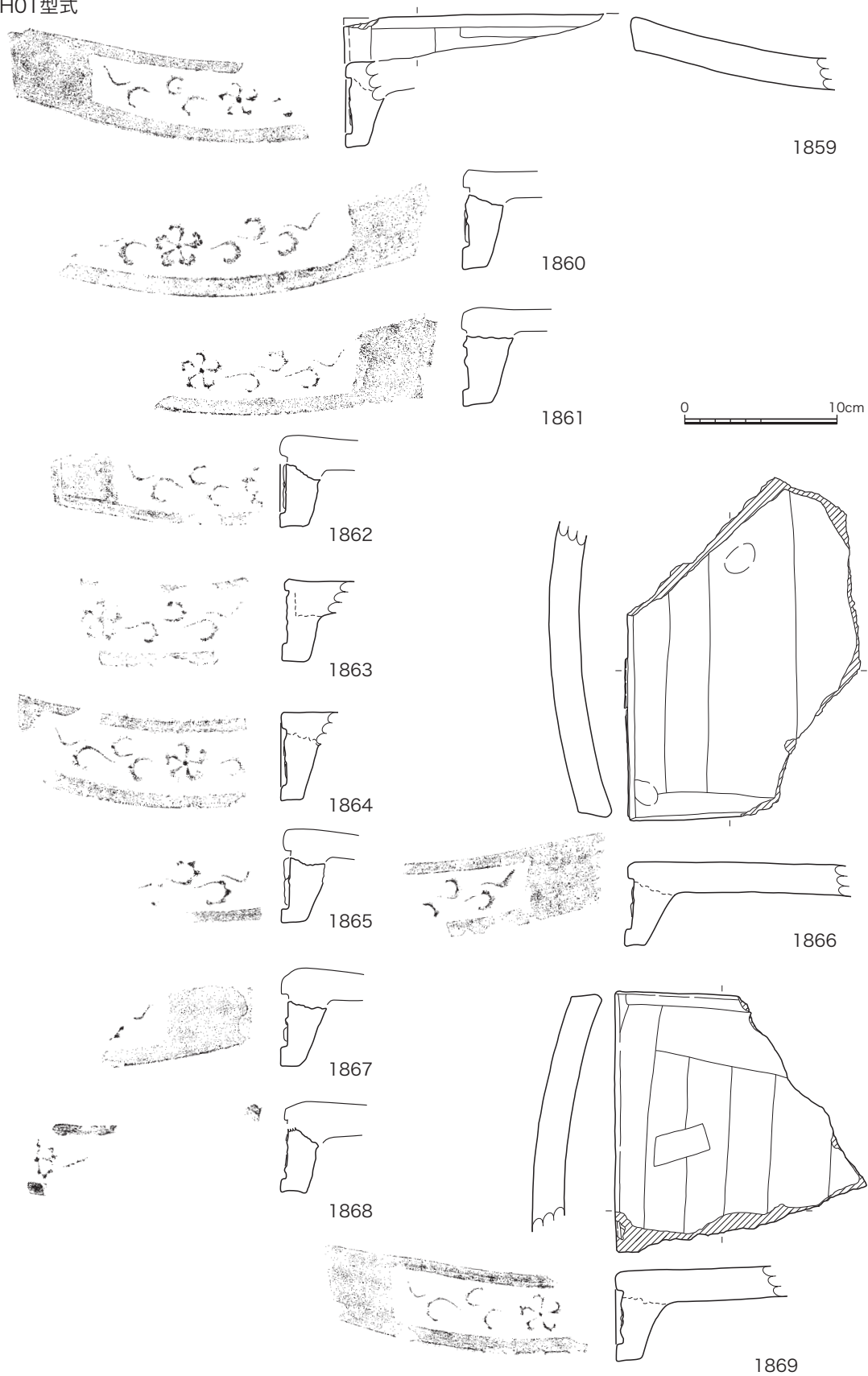
軒平瓦と分類されたものは全部で82点が出土した。この中で瓦当面が残存しある程度瓦当面の紋様が特定できるものが47点存在する。瓦当面に金箔押などの装飾が施されたものは1点も存在しなかった。ここでは瓦当面の紋様構成により分類を行い、その類別ごとに特徴を記述する。分類の方法は瓦当面幅により大分類を行い、紋様構成により細分類を実施した。瓦当面幅はおおよそ、28cm前後と、21cm前後の2類に区分できる。この瓦当面幅による分類は瓦当面脇区の幅が異なる場合があるため範の規模と必ずしも一致しないが、おおよそ平瓦部の規模と連動すると考えられる。ここでは瓦当面径の規模の大きいものから順にそれぞれ00番台、10番台と名づけ、特定できないものを90番台とした。紋様構成による分類は統一的な分類方式は用いず大別ごとに実施することとした。このレベルの分類では下1桁の番号を付けて表記した。なお、同紋および同範関係による細分類は出土量がそれほど多くないため今回は実施することを見合わせた。なお、今回の資料の中には鱗や棧がつく製品は確認されなかった。

#### H01 型式 (花紋に4反転均整唐草紋軒平瓦：

##### 第137 図 1859～1869)

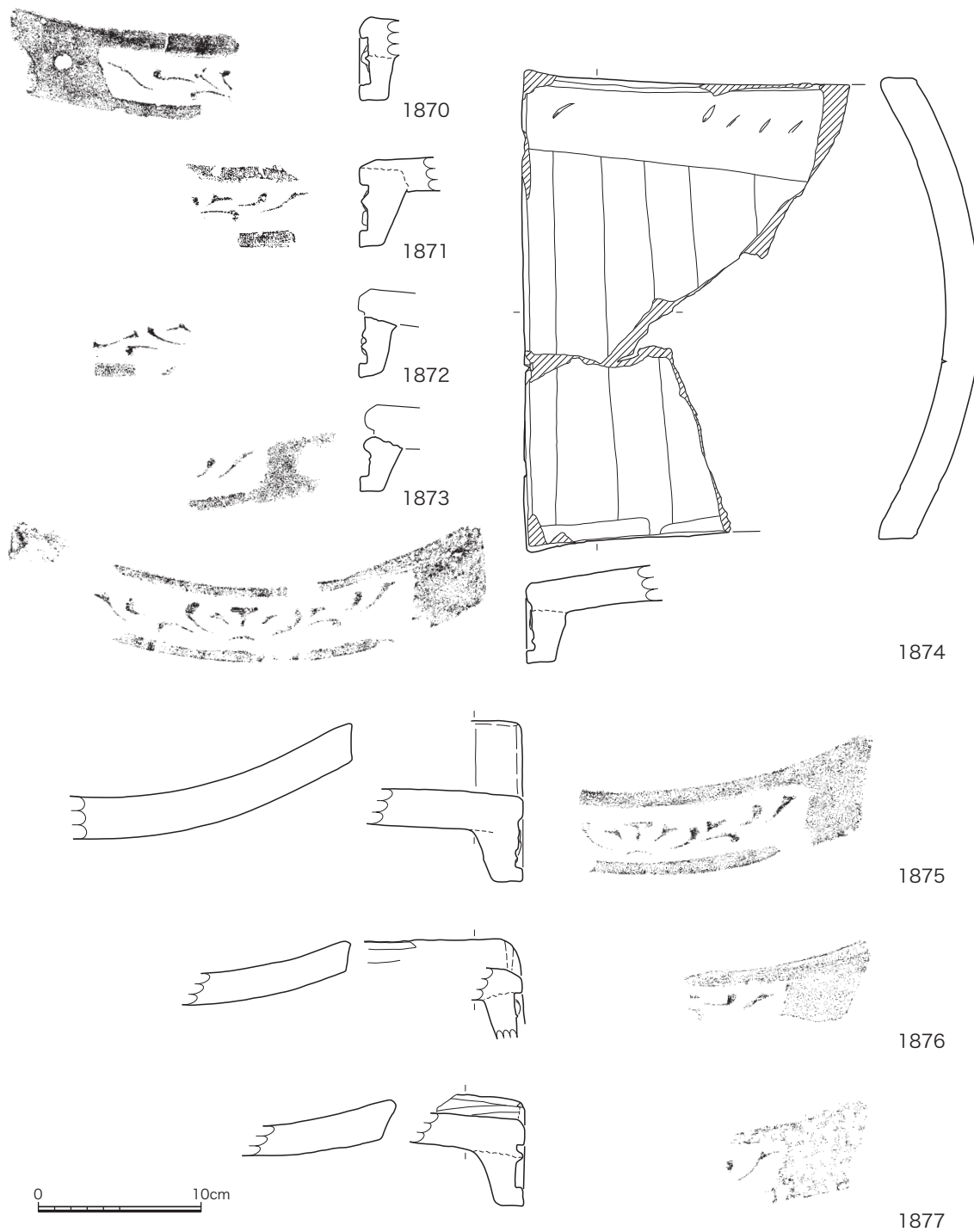
瓦当面幅が約28cmと思われ、紋様構成は花紋の中心飾りに4反転の均整唐草紋を配置するものである。花紋は中心の珠紋に5枚の唐草紋状の花弁が放射状に取り付く構成で左巻きとなっている。均整唐草紋は上下2段に交互に配置され、内側3つの唐草紋は内側に大きく巻き込み、4番目の唐草は先端が外反する。今回の調査では11点が出土した。このうち瓦当面に木目痕が残存するものが5点存在する。11点は細部にわたり類

H01型式



第 137 図 C 期の遺物実測図 (38) 軒平瓦 (1)

H02型式



第 138 図 C 期の遺物実測図 (39) 軒平瓦 (2)

## 名古屋城三の丸遺跡 VII

似することから同紋あるいは同範である可能性が高い。

H02 型式（三子葉紋に 4 反転均整唐草紋軒平瓦：  
第 138 図 1870～1877）

瓦当面幅が約 28cm と思われ、紋様構成は三子葉紋の中心飾りに 4 反転の均整唐草紋を配置するものである。三子葉紋の中心の葉は T 字状を呈し、唐草紋は短く折れる形状となっている。1 番目と 2 番目の唐草紋の間には上方に伸びる葉紋が存在する。今回の調査では 8 点が出土した。このうち瓦当面に木目痕が残存するものが全く存在しない。8 点は細部にわたり類似することから同紋あるいは同範である可能性が高い。

H03 型式（三子葉紋に均整唐草紋軒平瓦：  
第 139 図 1878～1880）

瓦当面幅は特定できないが 28cm 前後と推測されるもので、紋様構成は三子葉紋の中心飾りに均整唐草紋を配置するものである。唐草紋が順転するのか反転するのか、あるいは唐草紋の数は特定できない。三子葉紋は下位に配置された珠紋から子葉が伸び、外側の子葉は外折する。唐草紋は内側に大きく巻き込む。今回の調査では 3 点が出土した。

H04 型式（3 反転均整唐草紋？軒平瓦：  
第 139 図 1881～1884）

瓦当面幅は特定できないが 28cm 前後と推測されるもので、中心飾りは遺存しなかった。均整唐草紋は 3 反転以上を有し、最も外側の唐草紋の下位には小規模の唐草紋が付随する。中心に近いほど唐草紋は内側に大きく巻き込む傾向がある。今回の調査では 4 点が出土した。

H05 型式（3 反転均整唐草紋軒平瓦：  
第 139 図 1885～1887）

瓦当面幅は特定できないが 28cm 前後と推測されるもので、中心飾りは遺存しなかった。横一列に配置された均整唐草紋は 3 反転以上を持ち、内側に大きく巻き込んでいる。今回の調査では 3

点が出土した。このうち瓦当面に木目痕が残存するものが 1 点存在する。

H06 型式（反転均整唐草紋軒平瓦：  
第 139 図 1888・1889）

瓦当面幅は特定できないが 28cm 前後と推測されるもので、中心飾りは遺存しなかった。均整唐草紋は 2 反転以上を持ち、内側に大きく 1 回転以上巻き込んでいる。今回の調査では 2 点が出土した。このうち瓦当面に木目痕が残存するものが 1 点存在する。

H07 型式（唐草紋軒平瓦：第 139 図 1890）

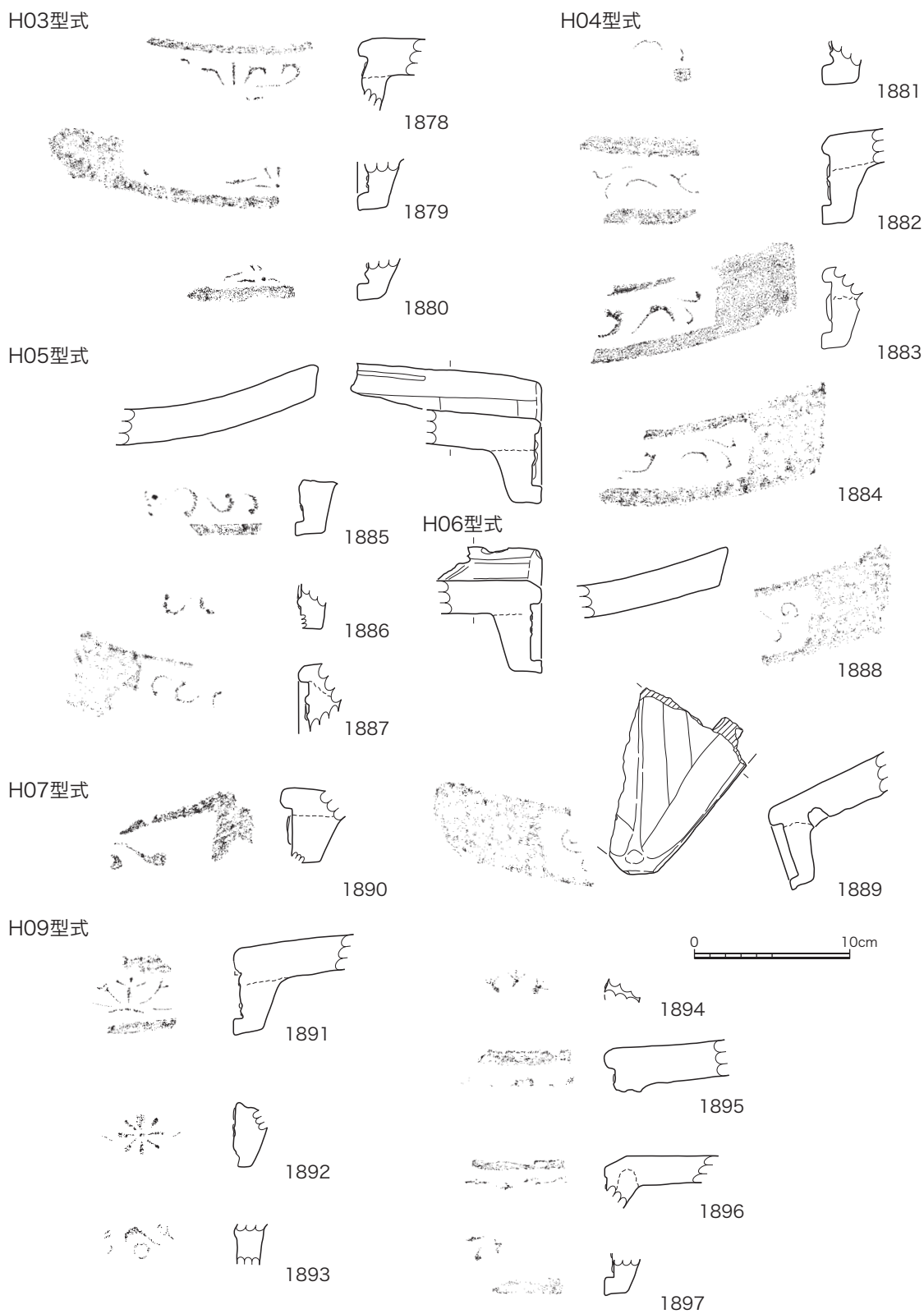
瓦当面幅は特定できないが 28cm 前後と推測されるもので、中心飾りは遺存しなかった。唐草紋は太くて短く折れ曲がるものである。今回の調査では 1 点が出土した。

H09 型式（第 139 図 1891～1897）

瓦当面幅が 28cm 前後と推測されるもののうち型式を特定できないものを一括して報告する。H04～07 型式は両脇の唐草紋を中心に区分をしたが、ここでは中心飾り部の資料が主体となる。おそらく H04～07 型式には H09 型式のいずれかが組み合わさるものと思われる。1891 と 1894 は三子葉紋の中心飾りをもつもので、各子葉は先端が明瞭に三又に分岐している。ただし両者の子葉先端の形状は異なっており、別型式である。1892 は 8 枚の花弁が直線的に伸びる花紋を中心飾りに持つものである。

H11 型式（三子葉紋に 3 反転均整唐草紋軒平瓦：  
第 140 図 1898～1900）

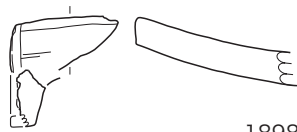
瓦当面幅が約 20cm を測り、紋様構成は三子葉紋の中心飾りに 3 反転の均整唐草紋を配置するものである。子葉紋は珠紋状となり、唐草紋は上下に交互に配置され先端はやや弱く巻き込んでいる。今回の調査では 4 点が出土した。このうち瓦当面に木目痕が残存するものが 1 点存在する。



第139図 C期の遺物実測図(40) 軒平瓦(3)



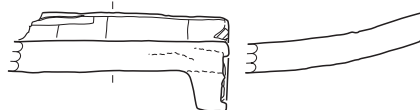
H11型式



1898



1899



1900

H12型式



1901



1902

H13型式



1903



1904

H19型式



1905



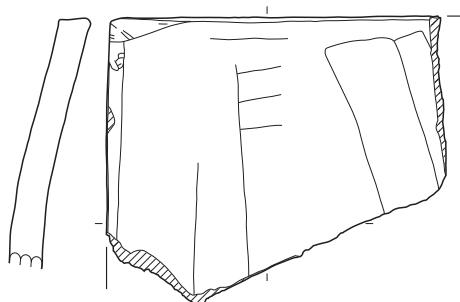
1908



1906



1907



1909

0 10cm



第 140 図 C 期の遺物実測図 (41) 軒平瓦 (4)

H12 型式 (三子葉紋に 3 反転均整唐草紋軒平瓦:

第 140 図 1901・1902)

瓦当面幅が約 21cm と思われ、紋様構成は三子葉紋の中心飾りに 3 反転の均整唐草紋を配置するものである。三子葉紋は H11 型式と同様の形状であるが規模が小さい。今回の調査では 2 点が出土した。このうち瓦当面に木目痕が残存するものが 1 点存在する。

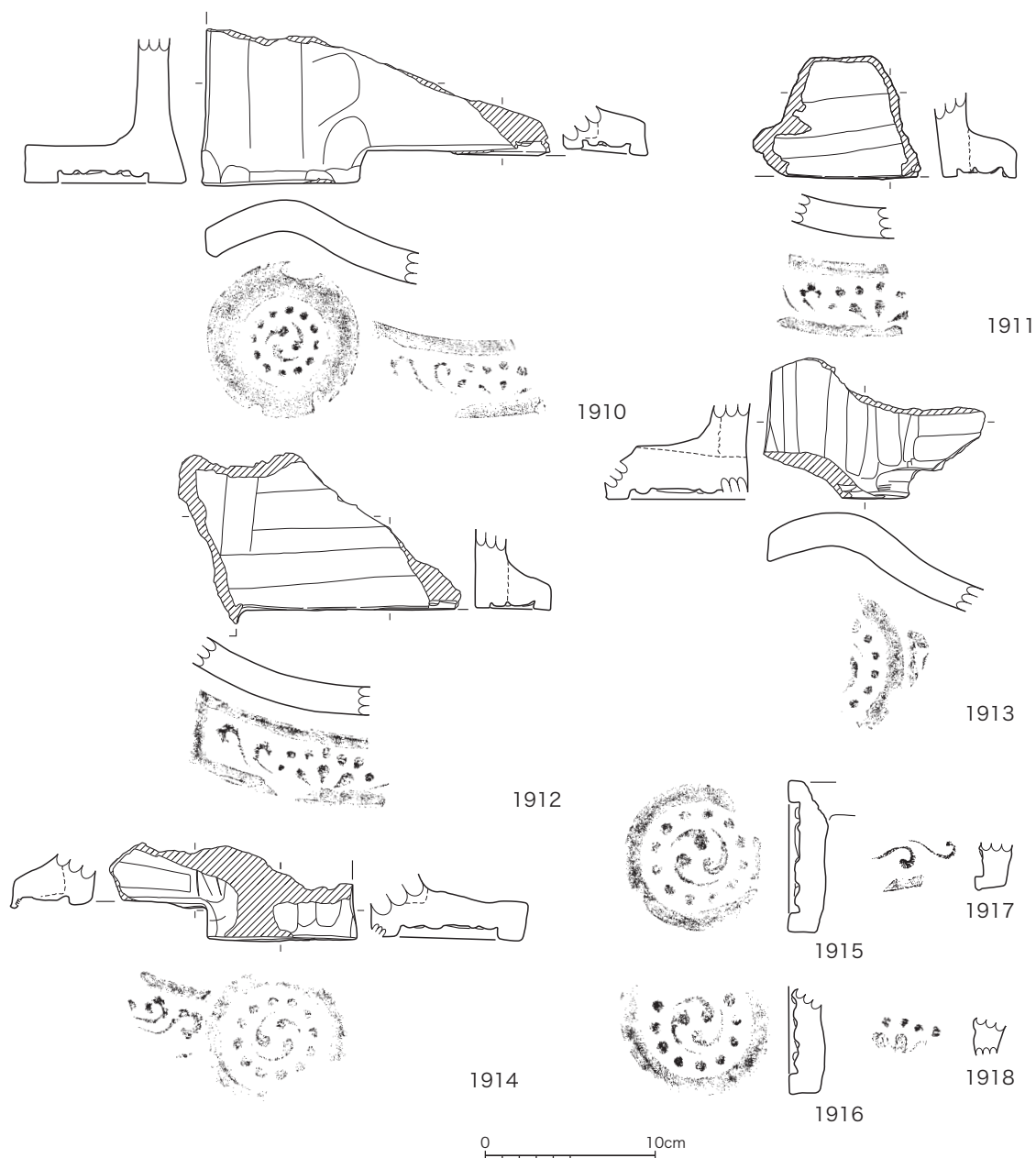
H13 型式 (3 反転唐草紋? 軒平瓦:

第 140 図 1903・1904)

瓦当面幅が約 21cm と推測されるもので、中心飾りは残存していない。唐草紋は上下 2 段に配置され大きく巻き込むものである。今回の調査では 2 点が出土し、全て瓦当面に木目痕が残存する。

H19 型式 (第 140 図 1905～1909)

瓦当面幅が約 21cm と思われるが、上記の紋様構成に属さない一群を一括して報告する。1909 は中心飾りが不明であるが 3 反転の唐草紋を配置するもので、唐草は大きく巻き込み一列に配置



第 141 図 C 期の遺物実測図 (42) 軒棧瓦

される。これは軒棧瓦に属するものかもしれない。

#### 第 19 項 軒棧瓦 (第 141 図 1910～1918)

軒棧瓦と分類されたものは全部で 9 点が出土した。これらは瓦当面 (特に丸瓦部) の紋様構成により分類を行い、その類別ごとに特徴を記述する。

##### S01 型式 (第 141 図 1910～1912)

丸瓦部は左巻三巴紋に 12 珠紋が配置され、平瓦部は三子葉紋に 2 反転唐草紋が組み合わされたものである。丸瓦部の紋様部分が直径約 5cm と小さい点が特徴である。今回の調査では 3 点が確認された。

##### S02 型式 (第 141 図 1913)

丸瓦部は左巻三巴紋に 16 珠紋が配置されると推定されるもので、平瓦部の紋様構成は不明である。今回の調査では 1 点が確認された。

##### S03 型式 (第 141 図 1914)

丸瓦部は右巻三巴紋に 12 珠紋が配置され、平瓦部は中心飾りは不明だが 2 反転唐草紋が施されたものである。今回の調査では 1 点が確認された。

##### S04 型式 (第 141 図 1915・1916)

丸瓦部は左巻三巴紋に 12 珠紋が配置され、平瓦部の紋様構成は不明である。丸瓦部の紋様部分が直径約 7cm と大きい点が特徴である。今回の調査では 2 点が確認された。

#### 第 20 項 丸瓦

##### (第 142～145 図 1919～1927)

丸瓦と分類できたものは、接合前破片数で 1484 点、総重量で約 253kg が出土した。この中には軒丸瓦の丸瓦部や丸瓦に類似した形態の道具瓦などが含まれている可能性が高い。大多数の丸瓦は玉縁を有する丸瓦であり形態的なバリエーションは少ない。ここでは代表的な事例を数点取り上げて報告とする。

丸瓦は内面 (裏面) に残存する調整痕で分類が可能である。まず、粘土塊から粘土板を成形する際の切断方法には、糸を張った弓状工具で切断し弧状の糸切り痕が残存するコビキ A 手法と鉄線を張った張力の強い工具で切断し平行する直線状の痕跡が残るコビキ B 手法の二者がある。コビキ A 手法はわずかに 2 点存在するのみで、コビキ B 手法は 460 点存在し圧倒的多数を占めている。これは江戸時代の瓦として通有の状況を呈している。次に、粘土板を丸瓦の形状にするために用いる成形台と粘土板との脱着を容易にするために成形台に布を被せるが、その被せ方によって分類が可能である。丸瓦の玉縁側の布には吊り紐を刺し込ませるためにその痕跡が丸瓦内面に残存するもの (1921・1924) と、残存しないもの (1919・1920・1922・1923・1925～1927) がある。両者の比率は今回算定しなかったが、残存しないものの方が多いと思われる。また、布を補強するために糸を刺したもの (1919・1923) や、太い糸で縦方向に比較的緊密に刺して莫塵状の痕跡が残存するもの (1920・1926) もある。成形台から粘土板を外した後はほとんど手を加えられていないものと考えられ、一部のわずかな資料に棒状工具によるタタキ痕が残存するものがある。

一方、外面は最終的に縦方向に丁寧に磨くようなヘラケズリ調整が施されており、それ以前の作業工程の痕跡を見出すことは困難である。側端部は 2 段にヘラケズリ調整が施されて側端面と胴部裏側面が形成される。側端面は瓦を葺く際に平瓦と接触する部分で、その内側にある胴部裏側面よりも幅は狭い。尻小口面裏面は幅広く面取りされ下位に葺かれる丸瓦玉縁部とうまく重なるようになっている。この面取りの幅は約 40mm であり、清須城下町から出土する織豊期の資料よりも狭い傾向がある。

丸瓦の規模は、筒部の長さは 23～33cm に分布し、平均約 28cm を測る。筒部径について

## 遺物

合計：破片

筒部径

遺構	11	13	15	17	19	不明	総計
SD01		2	30	45	10	32	119
SD02			1	2		2	5
SD03	1	5	22	24	3	34	89
SD12		3	18	22	3	22	68
SD13			2	14	4	10	30
SK01,SK47	1	27	164	334	34	149	709
SK127			2			28	30
SK163		2	2	12		11	27
SK23	1	8	43	36	1	51	140
SK262			5	7	2	2	16
SK60		3	15	33	3	18	72
SK63	1	2	11	26	1	16	57
SK94			10	9	1	5	25
SX02	5	30	83	116	22	95	351
SX04		1	5	25	3	19	53
他の遺構		13	66	88	8	131	306
検出等	1	18	53	83	13	85	253
総計	10	114	532	876	108	710	2350

合計：重量 (g)

筒部径

遺構	11	13	15	17	19	不明	総計
SD01		335	5095	11025	3625	1530	21610
SD02			205	400		60	665
SD03	40	560	5155	7615	920	1175	15465
SD12		305	3095	7880	800	970	13050
SD13			215	3615	3100	375	7305
SK01,SK47	85	3200	29805	105180	21180	7980	167430
SK127			310			1880	2190
SK163		170	155	2270		525	3120
SK23	215	1250	6840	5775	145	2170	16395
SK262			505	1340	385	110	2340
SK60		140	2765	11300	2055	785	17045
SK63	40	105	1155	7610	115	1095	10120
SK94			1155	1600	270	280	3305
SX02	670	3095	12335	15995	10555	3985	46635
SX04		60	800	8345	1240	1315	11760
他の遺構		1095	7930	13070	1260	4600	27955
検出等	35	1895	9620	17935	5805	3460	38750
総計	1085	12210	87140	220955	51455	32295	405140

第8-1表 丸瓦出土量一覧表(1)

名古屋城三の丸遺跡 VII

合計：破片 筒部厚

遺 構	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	不明	総 計
SD01			4	1	6	8	6	16	11	15	10	6	4	5		1		26	119
SD02				1			1		1									2	5
SD03				3	3	5	4	11	15	8	11	4	2	1				22	89
SD12				2	1	3	4	7	9	8	8	5	3	2			1	15	68
SD13							4	2	5	3	2	4	1	1				8	30
SK01, SK47	1	3	4	7	13	34	68	97	117	96	79	39	27	8	5	2		109	709
SK127						1	1	2	2	1		1	1					21	30
SK163				1		3	2	2	6	1	1	1	2		1			7	27
SK23		1	1	1	2	14	22	25	14	9	5	9	5				1	31	140
SK262						2	5	2	1		3	1	1					1	16
SK60				2	1	4	5	12	13	3	5	10	1	2	1	1		12	72
SK63				2	3	3	5	6	7	5	9	4	1	1				11	57
SK94							5	6	2	3	2		1	1	1			4	25
SX02	1		7	8	13	18	15	41	50	32	46	13	9	1	3	1		93	351
SX04						3	2	2	5	12	3	1	2	1	1			21	53
他の遺構		1	2	4	4	19	19	40	26	29	22	12	7	6		1		114	306
検出等			1	3	6	16	23	18	42	23	21	15	9	3	2	1		70	253
総 計	2	5	19	35	52	133	191	289	326	248	227	125	76	32	14	7	2	567	2350

合計：重量 (g) 筒部厚

遺 構	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	不明	総 計
SD01			365	35	1280	1420	1405	6345	2635	1840	1475	1090	1530	895		195		1100	21610
SD02				205			105		295									60	665
SD03				215	200	285	530	2640	3690	840	4240	875	1080	315				555	15465
SD12				100	120	195	320	1985	2065	1025	1370	2410	2020	305			410	725	13050
SD13							1505	340	2320	1045	545	835	70	405				240	7305
SK01, SK47	55	145	185	505	1455	5495	12255	27340	36540	23080	25970	15455	10010	1680	1415	565		5280	167430
SK127						40	200	200	160	40		700	60					790	2190
SK163				70		150	225	295	730	110	60	70	950		200			260	3120
SK23		80	15	80	210	1085	2745	5410	1475	1430	745	1230	485				120	1285	16395
SK262						175	625	245	120		570	355	190					60	2340
SK60				90	50	605	385	2165	4580	1395	2160	4485	175	365	70	140		380	17045
SK63				85	430	370	565	1230	2120	515	3545	470	140	160				490	10120
SK94							395	1395	175	455	150		300	150	70			215	3305
SX02	15		495	895	1180	2155	2610	5625	8155	4450	12805	2565	865	115	595	130		3980	46635
SX04						325	310	750	995	4395	360	2160	780	385	245			1055	11760
他の遺構		35	85	435	505	1330	1660	4925	2895	4235	3680	2420	1060	935		50		3705	27955
検出等			100	215	475	4065	2975	2010	9550	5865	4890	2760	1165	1745	390	130		2415	38750
総 計	70	260	1245	2930	5905	17695	28815	62900	78500	50720	62565	37880	20880	7455	2985	1210	530	22595	405140

第 8-2 表 丸瓦出土量一覧表 (2)

## 遺物

合計：破片 厚さ

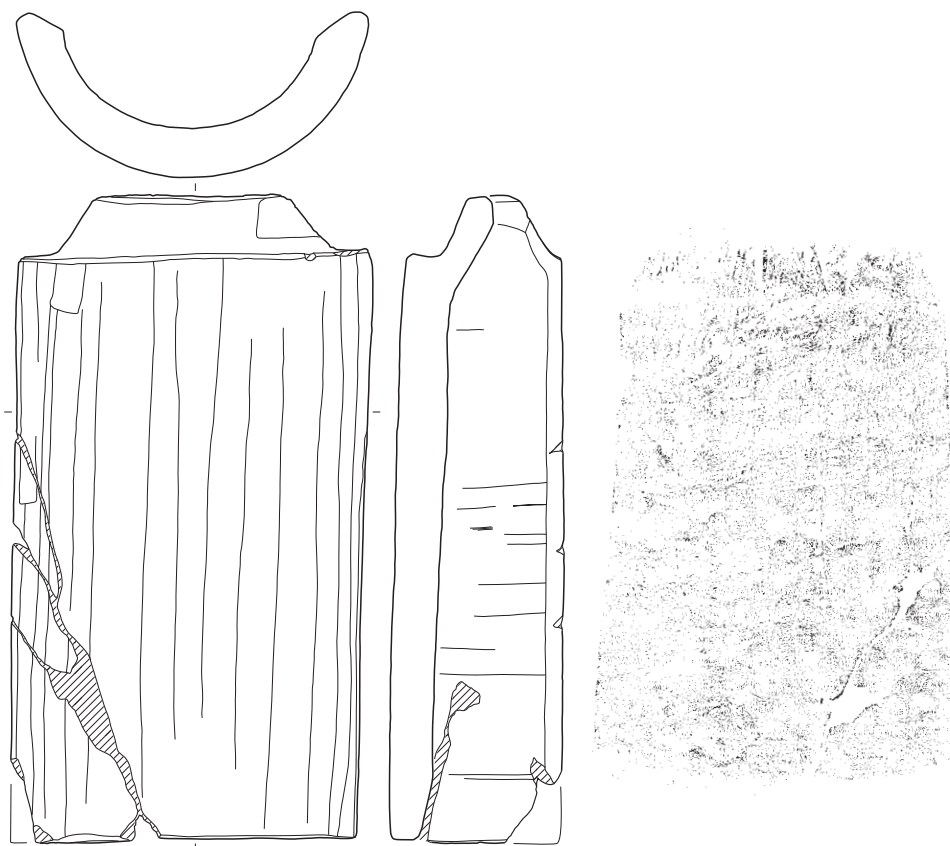
遺構	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	37	40	不明	総計	
SD01				2	9	26	30	71	110	179	152	77	38	16	4	4				1					225	944
SD02					1	4	1	6	6	11	15	4	1			1									22	72
SD03				2	7	6	12	18	21	35	37	16	12	2	1	1	1								46	217
SD12					3	9	18	30	58	78	63	31	19	8	3	2									113	435
SD13							3	8	18	30	32	12	6	6	3	1									107	226
SK01, SK47		2		3	24	47	95	252	529	1141	1061	552	246	63	21	11	1	1							562	4611
SK127						1		3	5	24	17	11	6	4											155	226
SK163				3	3	5	18	17	21	15	11	4	2	1											10	110
SK23	1		1	3	16	17	19	50	62	112	103	41	18	3	4										208	658
SK262	1					9	24	47	34	34	26	11	4	1		2									103	296
SK60				1		11	17	23	42	83	65	53	24	9	2	1	1								113	445
SK63				1	4	6	2	22	56	75	74	31	11	5	1										86	374
SK94				3	5	4	15	23	36	31	20	5	2	2											77	223
SX02			3	8	23	66	106	162	239	326	320	188	84	30	17	9	1	1				1	1		484	2069
SX04				1	2	8	20	37	109	108	62	22	10	2	2										210	593
他の遺構			1	18	34	77	126	148	204	276	295	170	96	38	20	7	2	1		1					919	2433
検出等			1	4	29	67	119	138	176	264	241	118	52	26	9	8	2							1	535	1790
総計	2	2	6	42	157	356	589	1031	1637	2834	2655	1408	648	225	90	49	8	3	1	1	1	1	1	1	3975	15722

合計：重量 (g) 厚さ

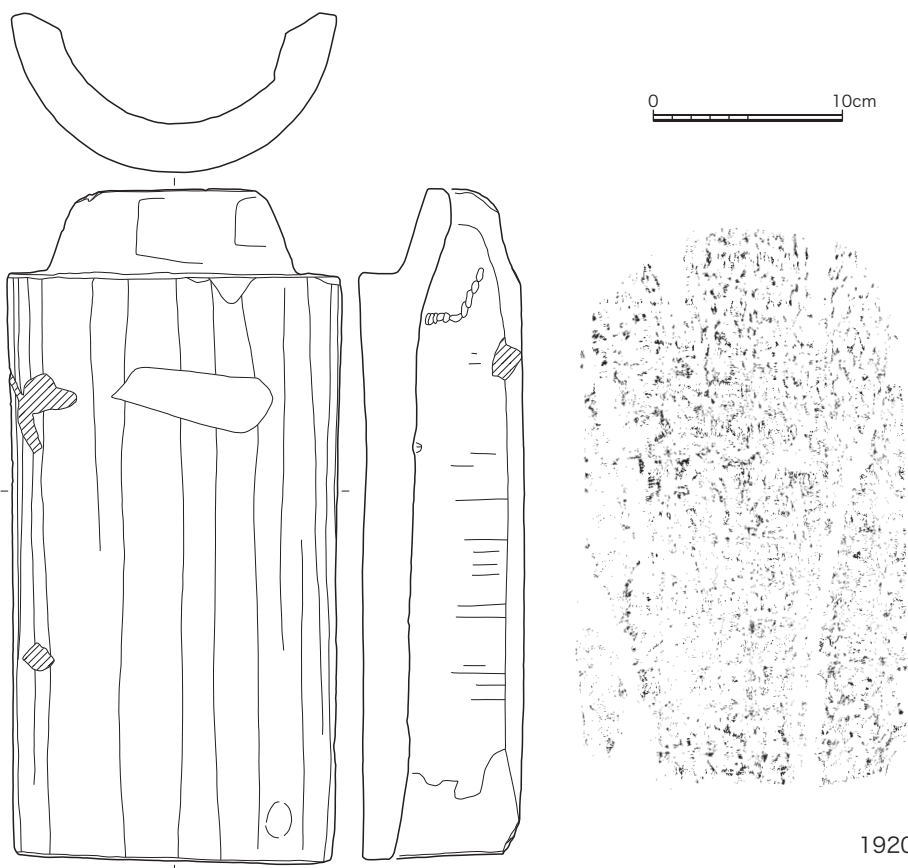
遺構	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	37	40	不明	総計	
SD01				175	1295	3200	4465	9070	18905	33730	32800	16065	8620	3550	1230	640			65						4698	138508
SD02					110	285	60	1175	385	1370	2115	565	100			370									380	6915
SD03				40	905	1000	1850	2135	2205	5105	6290	3290	2880	220	215	215	150								1170	27670
SD12					515	780	2360	5215	11605	16445	15580	9330	5485	2735	810	255									1545	72660
SD13							545	495	3120	3700	6420	2010	540	1025	450	120									1605	20030
SK01, SK47		125		130	2495	6625	12085	43170	104205	240061	246855	118775	52465	14300	4630	4645	330	545							10778	862219
SK127						30		270	1650	2680	1910	1665	2070	900											2735	13910
SK163					565	155	265	2010	1820	3260	1970	1500	525	345	145										275	12835
SK23	40		45	280	1605	1580	1395	5365	8665	13550	11175	5540	3560	375	1025										3410	57610
SK262	125					940	3240	6785	6170	4925	5365	2650	950	460		1295									2525	35430
SK60				260		1505	5355	3630	10200	20830	21600	12790	7295	1620	120	215	195								1860	87475
SK63				25	260	630	270	3225	6810	15815	12610	5445	4825	725	245										1495	52380
SK94				160	190	740	2600	3155	4630	5550	4260	1220	765	250											1610	25130
SX02			60	740	1480	6785	10105	19135	31335	38345	45165	30850	13860	4900	3940	1780	125	140				415	325		9317	218802
SX04				65	155	830	3180	4920	18695	20300	13360	4290	1915	330	700										4820	73560
他の遺構			40	1215	2185	5765	10740	12285	19410	29595	35615	18820	11215	4915	2460	2030	600	190		15					10853	167948
検出等			40	725	3140	9445	15815	15880	21845	34885	32775	18340	7500	4285	1560	765	280							22	6471	173773
総計	165	125	185	3590	14780	39070	70120	135625	256405	487621	504095	265255	127400	43035	17410	13030	1680	875	65	15	415	325	22	65547	2046855	

第9表 平瓦厚さ別出土量一覧表



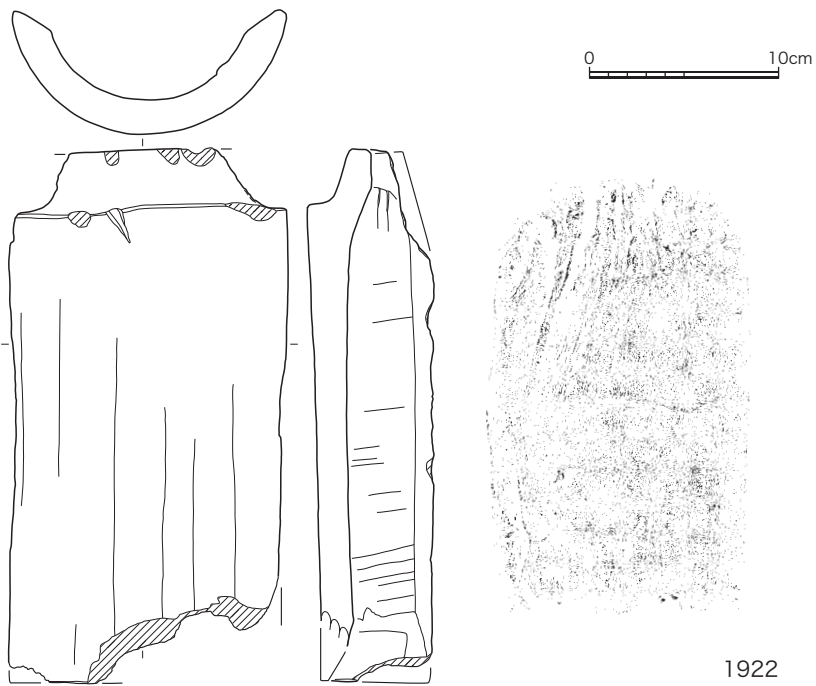
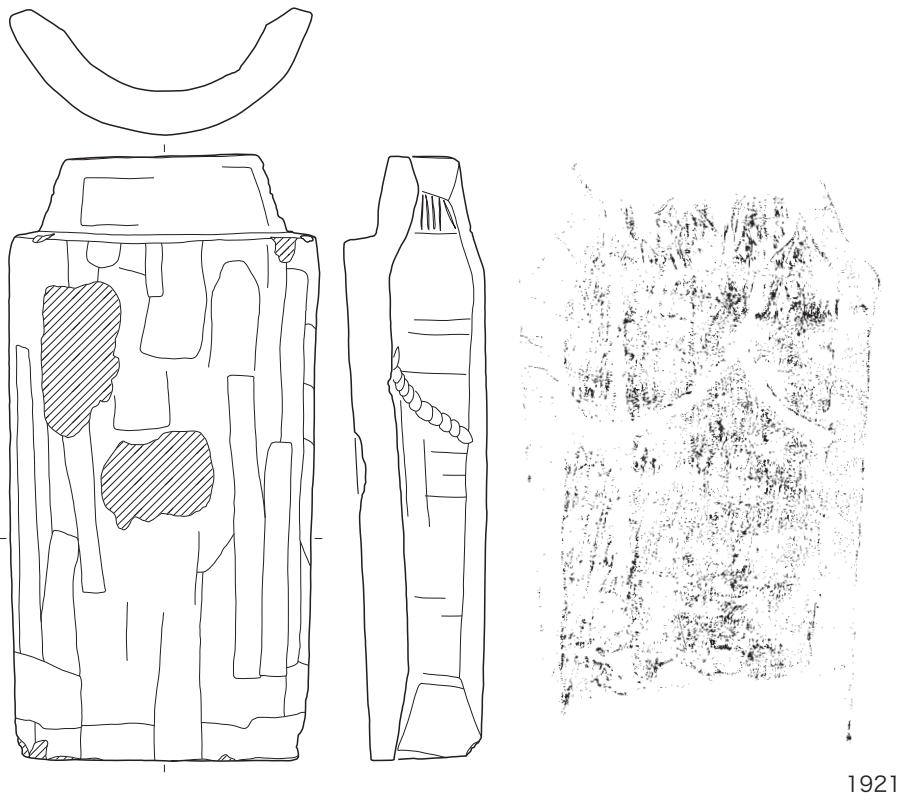


1919

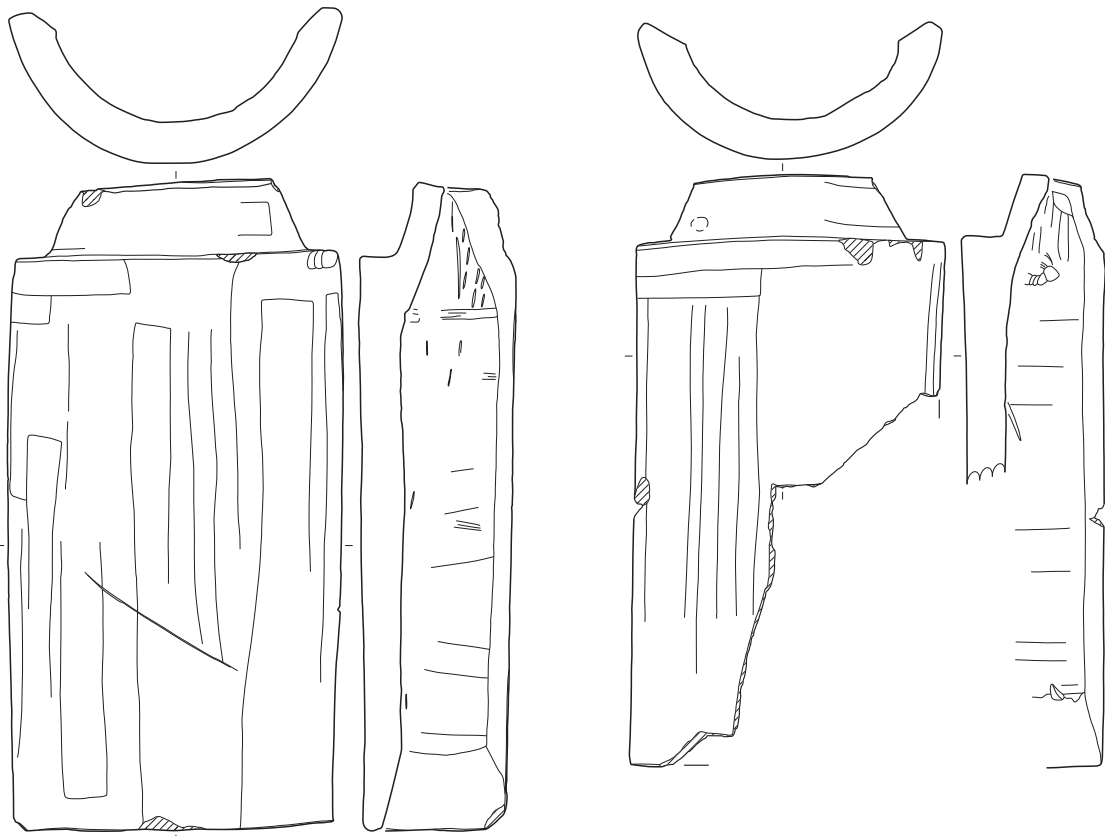


1920

第 142 図 C 期の遺物実測図 (43) 丸瓦 (1)



第 143 図 C 期の遺物実測図 (44) 丸瓦 (2)



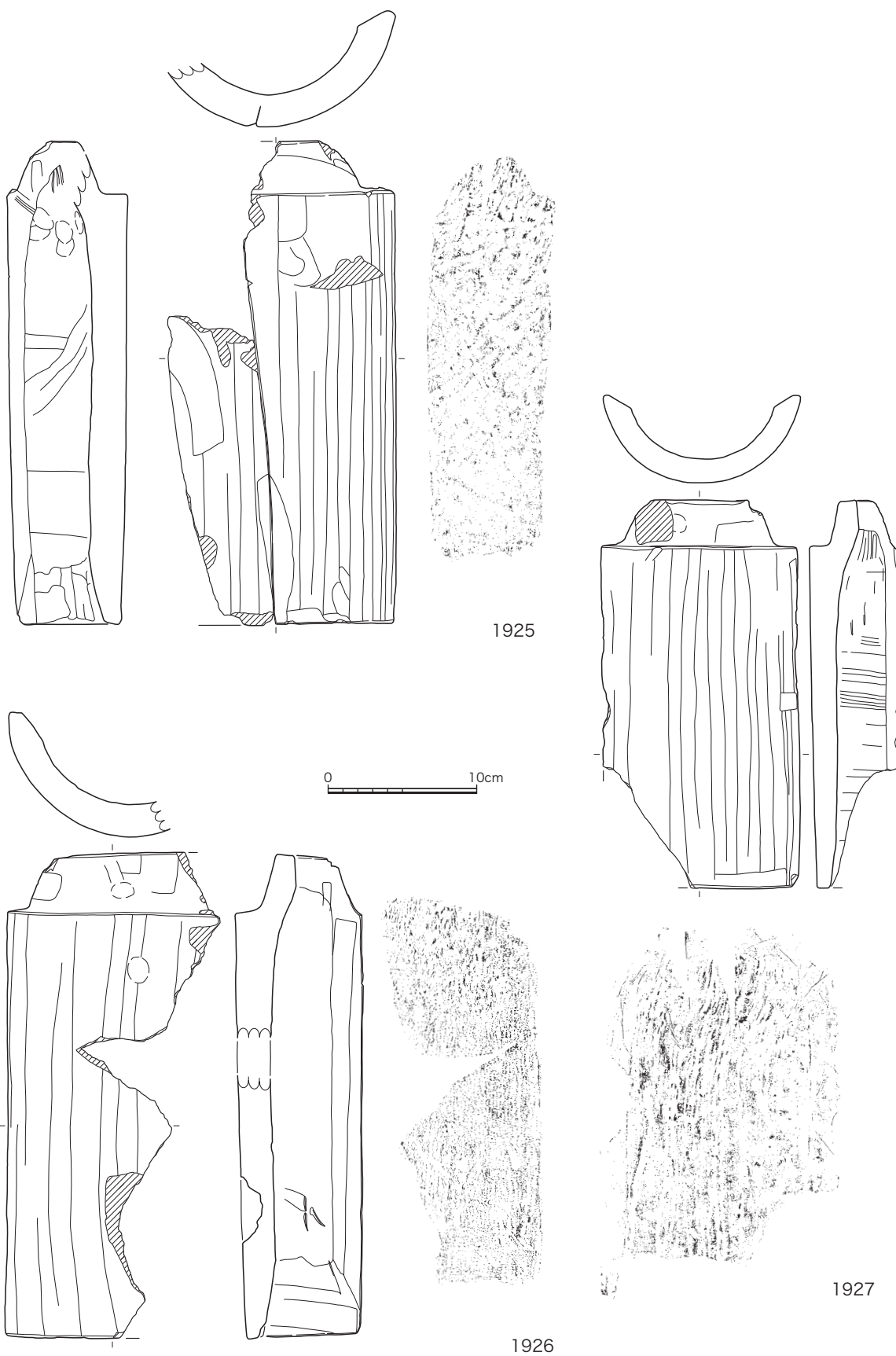
1923



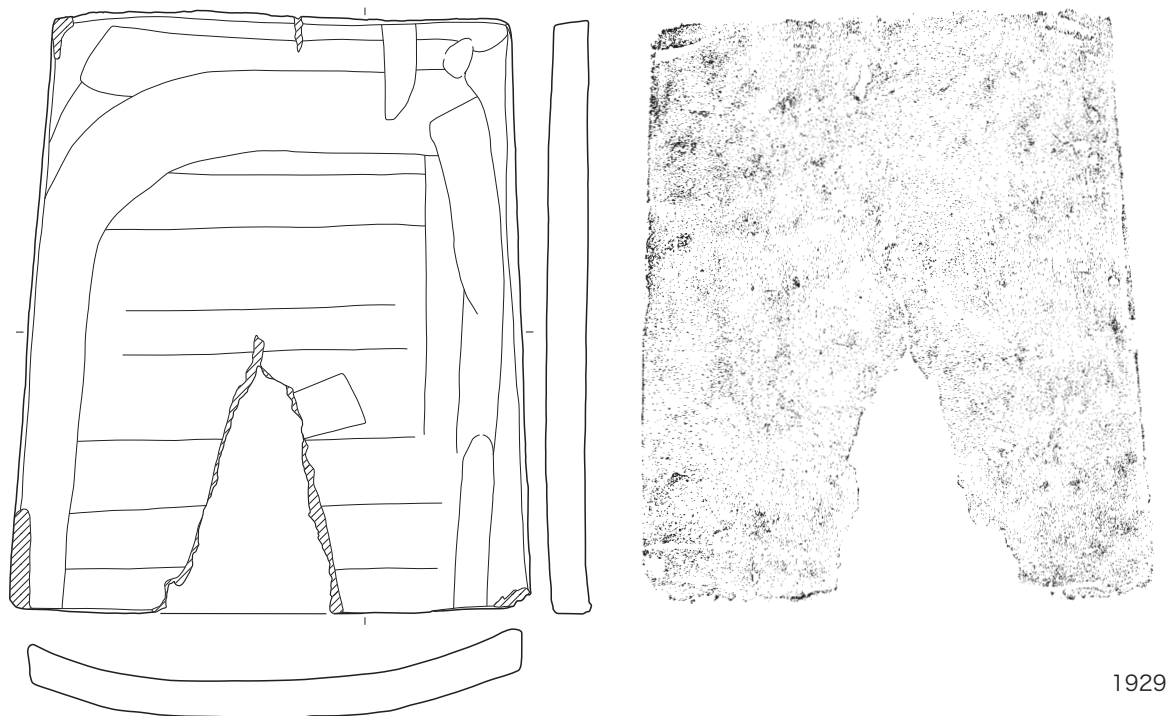
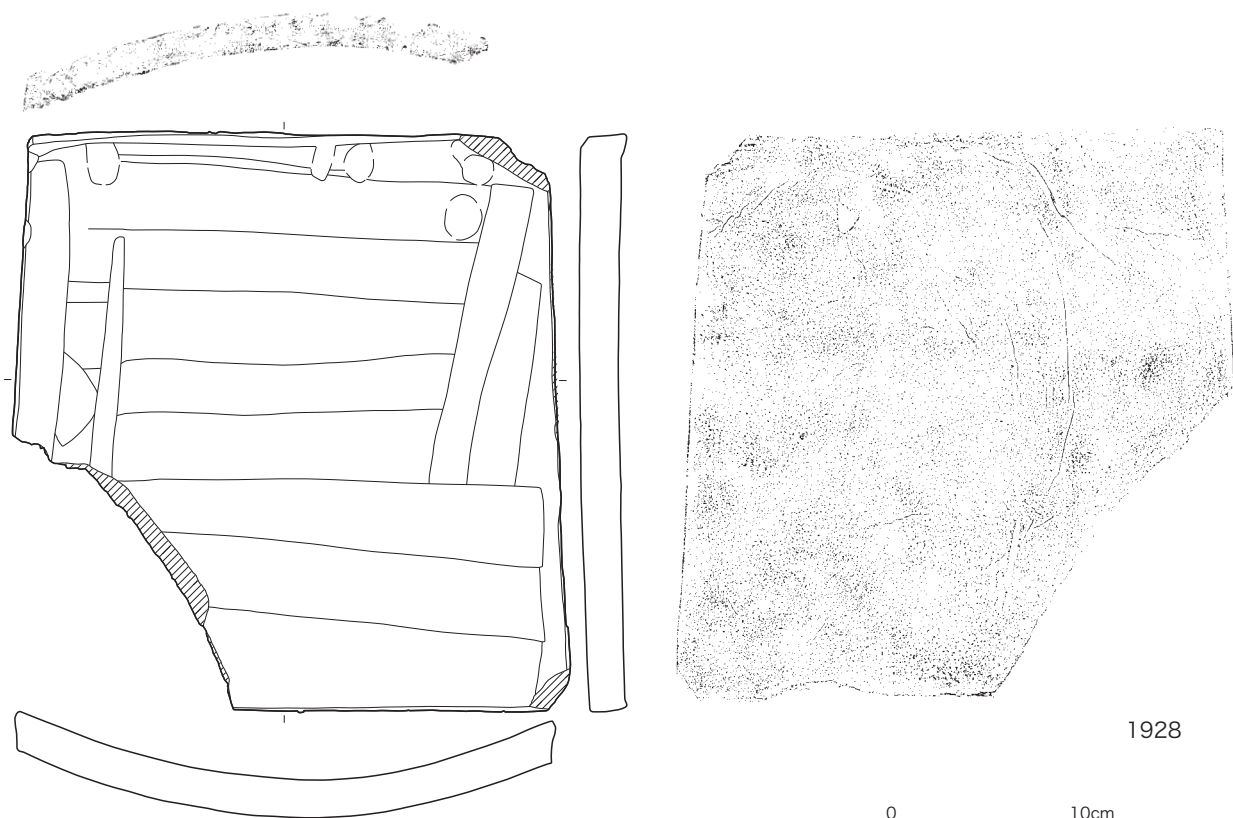
1924

0 10cm

第 144 図 C 期の遺物実測図 (45) 丸瓦 (3)

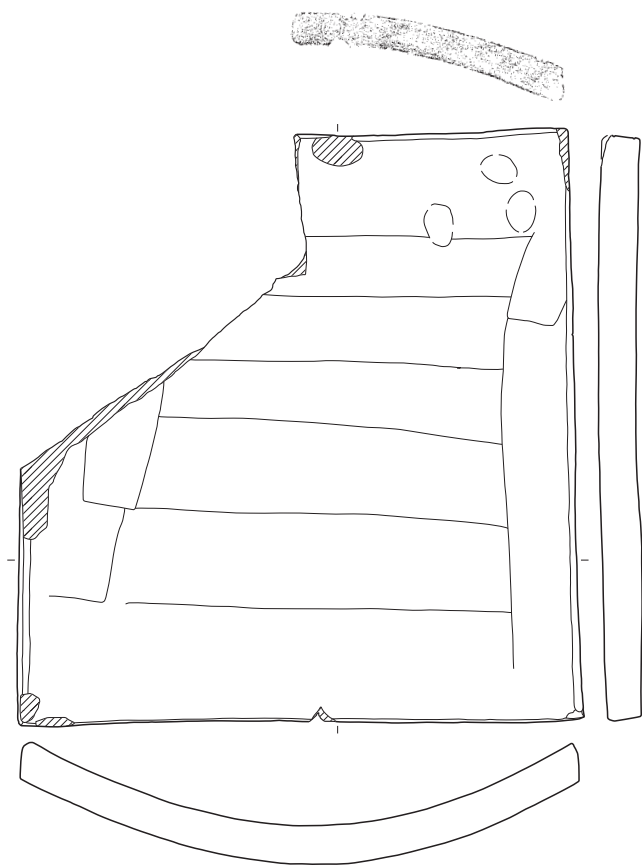


第 145 図 C 期の遺物実測図 (46) 丸瓦 (4)

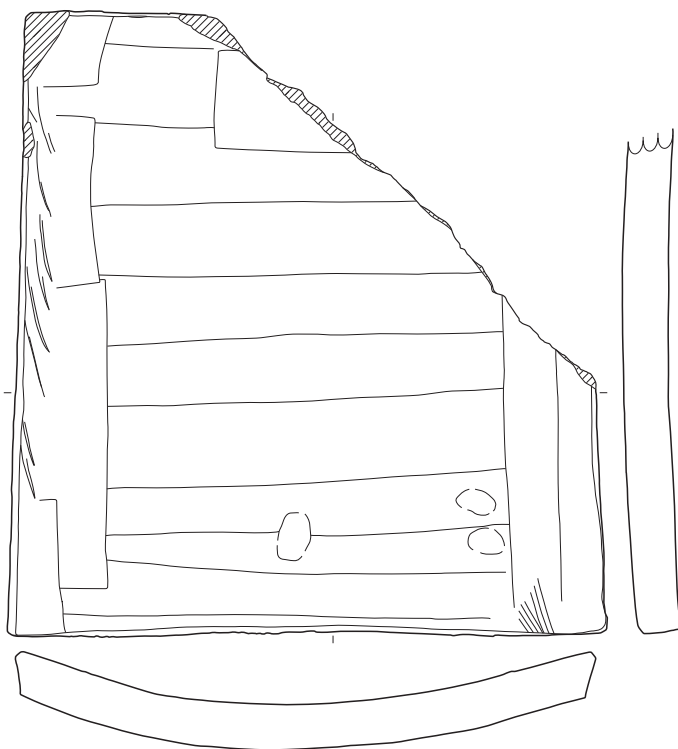


第 146 図 C 期の遺物実測図 (47) 平瓦 (1)





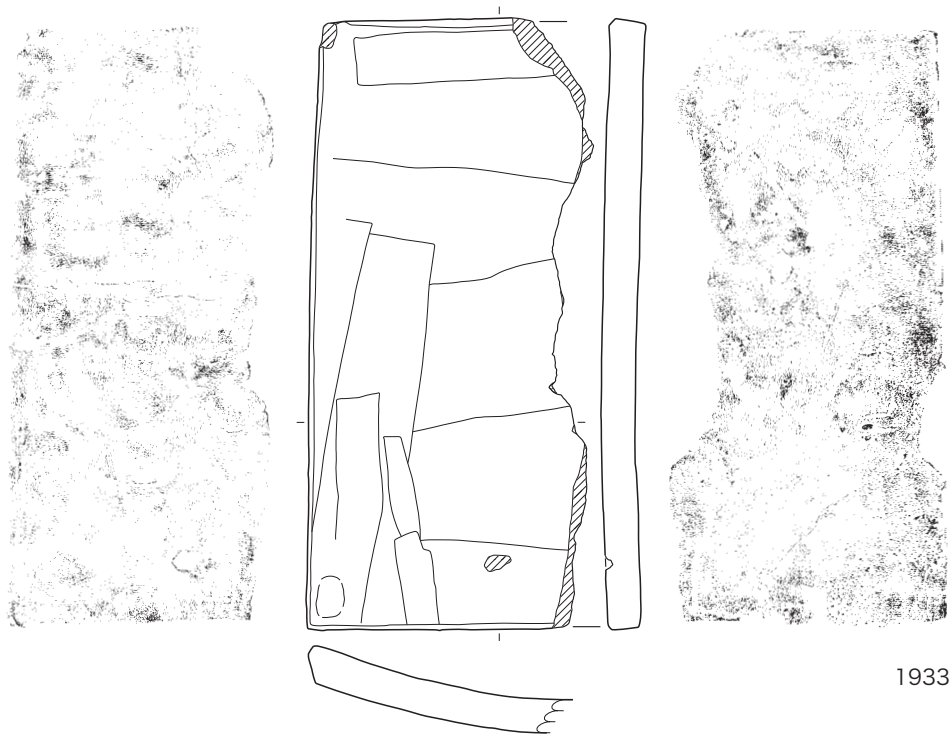
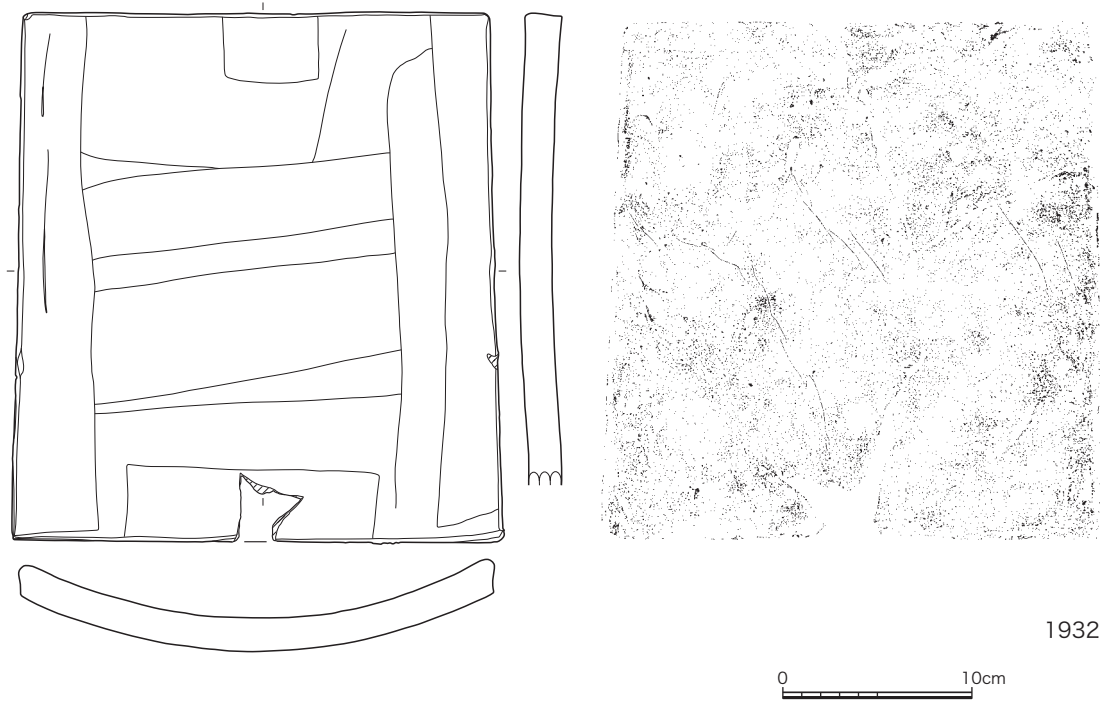
1930



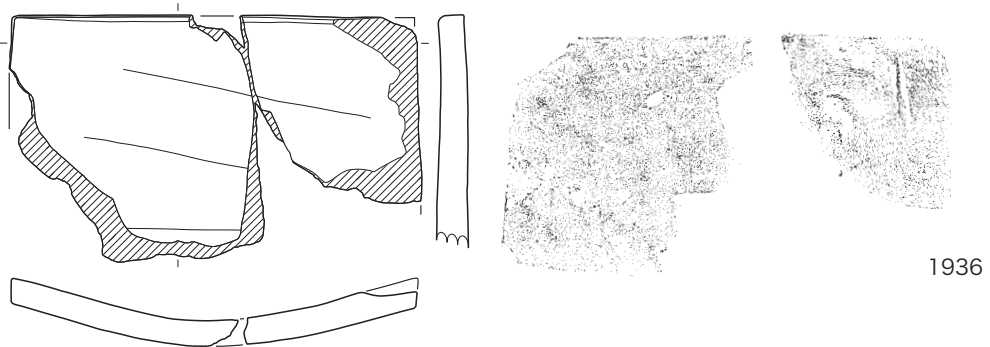
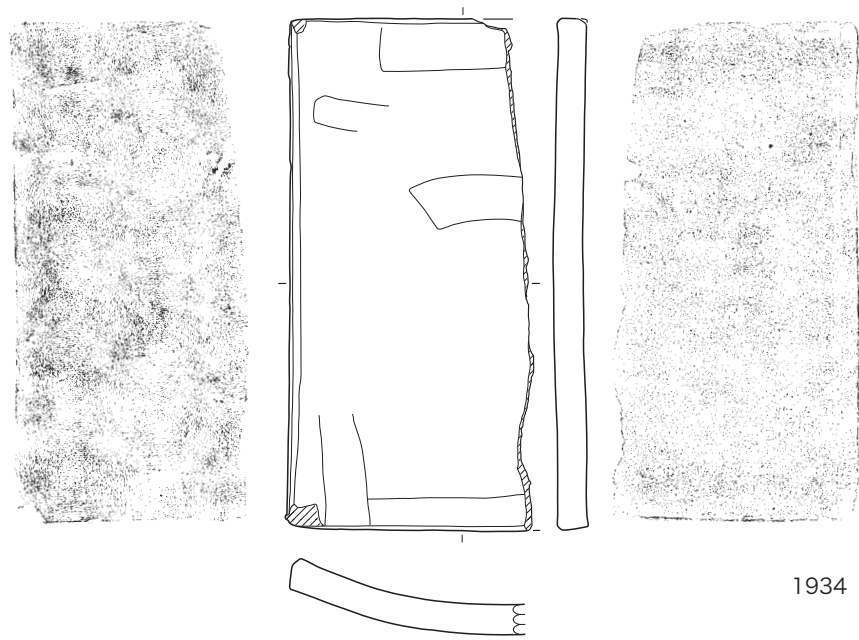
1931

第 147 図 C 期の遺物実測図 (48) 平瓦 (2)

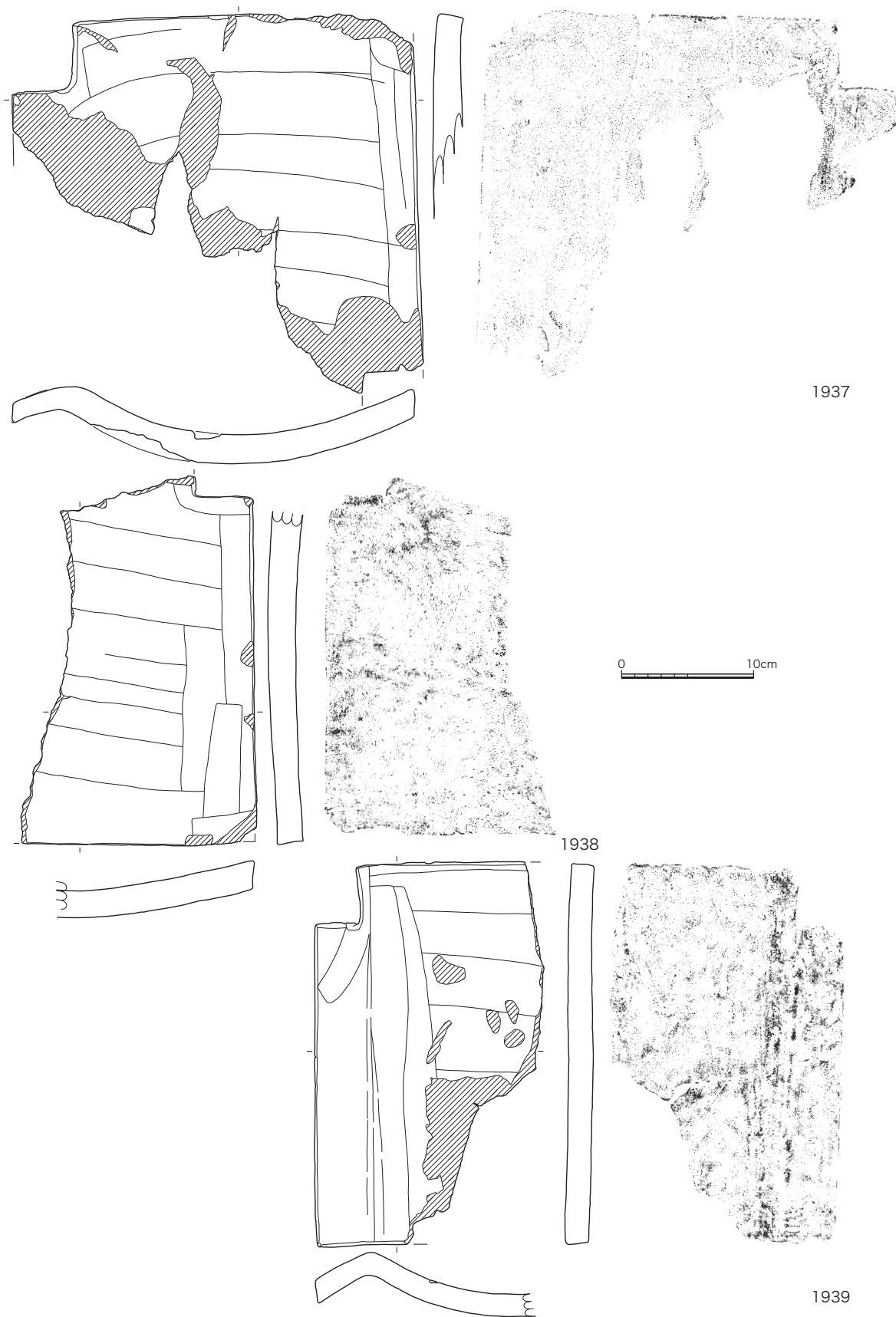




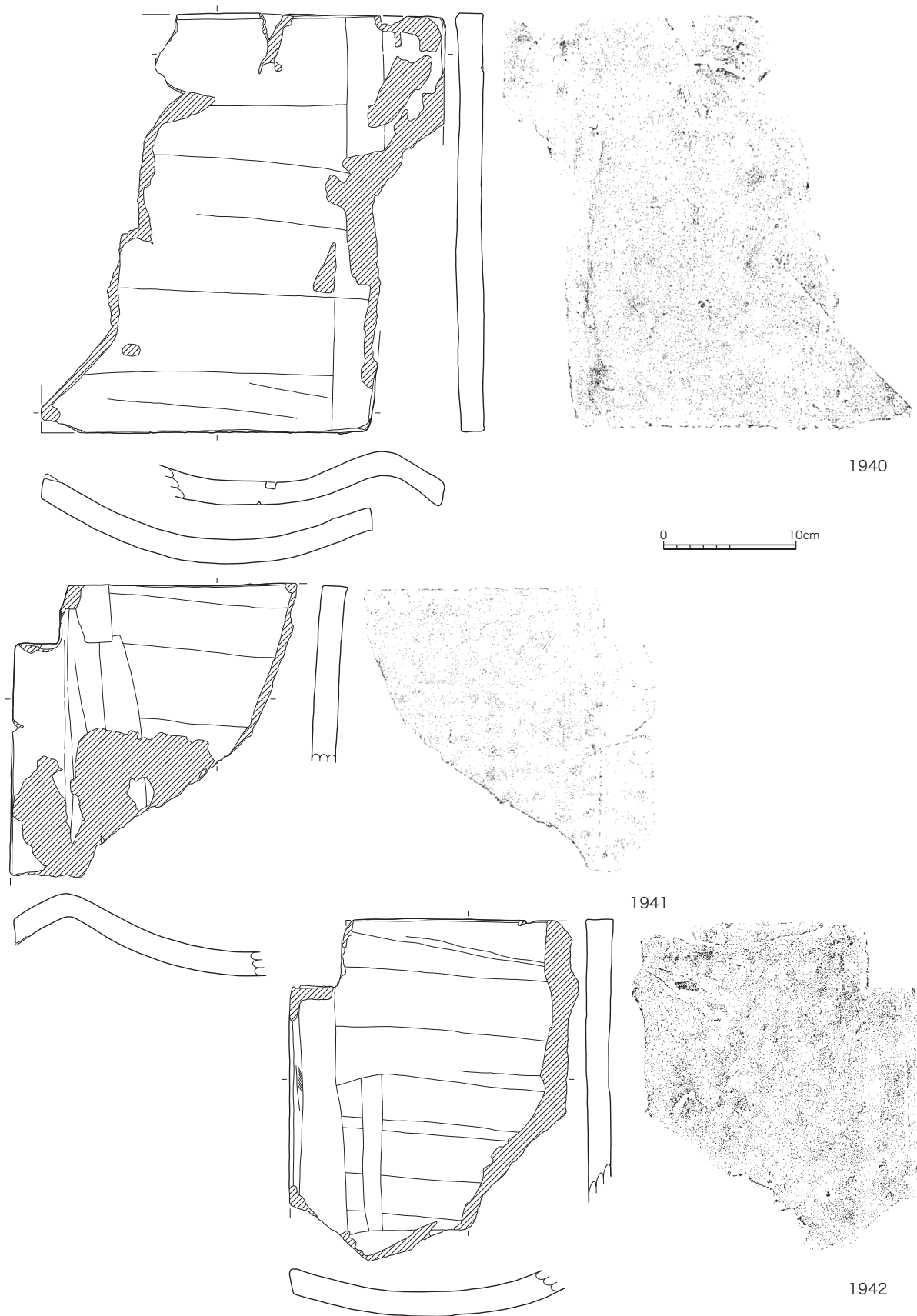
第 148 図 C 期の遺物実測図 (49) 平瓦 (3)



第 149 図 C 期の遺物実測図 (50) 平瓦 (4)



第 150 図 C 期の遺物実測図 (51) 棧瓦 (1)



第 151 図 C 期の遺物実測図 (52) 棧瓦 (2)



## 名古屋城三の丸遺跡 VII

は『清洲城下町遺跡Ⅷ』と同様に型枠による測定で11cm以下、13cm、15cm、17cm、19cm以上の5種に区分してその出土量を算定した。結果、11cm以下は6点(0.67kg)、13cmは68点(7.65kg)、15cmは338点(55.27kg)、17cmは529点(141.36kg)、19cm以上は56点(26.69kg)となっている。筒部径と厚さの関係は一定度の相関関係が認められ、厚いものほど筒部径が大きくなる傾向を読み取ることができる。

### 第21項 平瓦

#### (第146～149図 1928～1936)

平瓦と分類できたものは、接合前破片数で15722点、総重量で約2047kgが出土した。この中には軒平瓦の平瓦部や平瓦に類似した形態の道具瓦、場合によっては飾瓦や棧瓦などが含まれている可能性が高い。大多数の平瓦は彎曲した方形板状の形態を持ち、バリエーションは少ない。ここでは代表的な事例を数点取り上げて報告とする。

平瓦は、表面に磨くようにヘラケズリ調整が施され、裏面には離れ砂が付着しているものが多い。表面のヘラケズリ調整は、まず全体を横方向に削った後に側端部を削る手法がとられている。表面上端部には平瓦を重ね置くために面取りするといった織豊期の資料によく見られる加工は施されていない。また、裏面には上端部または下端部に弧状沈線が残存するものがある。側面および上下端面はヘラケズリ調整痕が残り、一部の資料で「○」の刻印が存在するもの(1930)も認められる。

丸瓦の規模は、長さは26～33cmに分布し平均約30cmを測る。また頭幅は平均約26cm、厚さは平均約21cmを測る。厚さ別に出土量を検討すると、20～21cmの厚さで分布のピークを持つほぼ正規分布となっていることがわかる。

### 第22項 棧瓦

#### (第150・151図 1937～1942)

棧瓦と分類できた資料は、接合前破片数で165点、総重量で約30.8kgが出土した。実際には平瓦に誤って分類されたものも少なからずあると考えられ、実際にはもっと多く出土した可能性がある。ただし、丸瓦や平瓦などの本瓦葺きの瓦に比べると、胎土が緻密で灰色が濃い傾向が認められ、分類が可能な場合も存在する。

棧瓦は四隅のうち対角線の位置にある二隅に切り込みがある。表面は磨くように丁寧なヘラケズリ調整が施され、裏面は離れ砂が付着している。規模は長さで幅が両者とも31cm前後を測るもの(1937・1940)と29cm前後を測るもの(1939)がある。

### 第23項 飾瓦

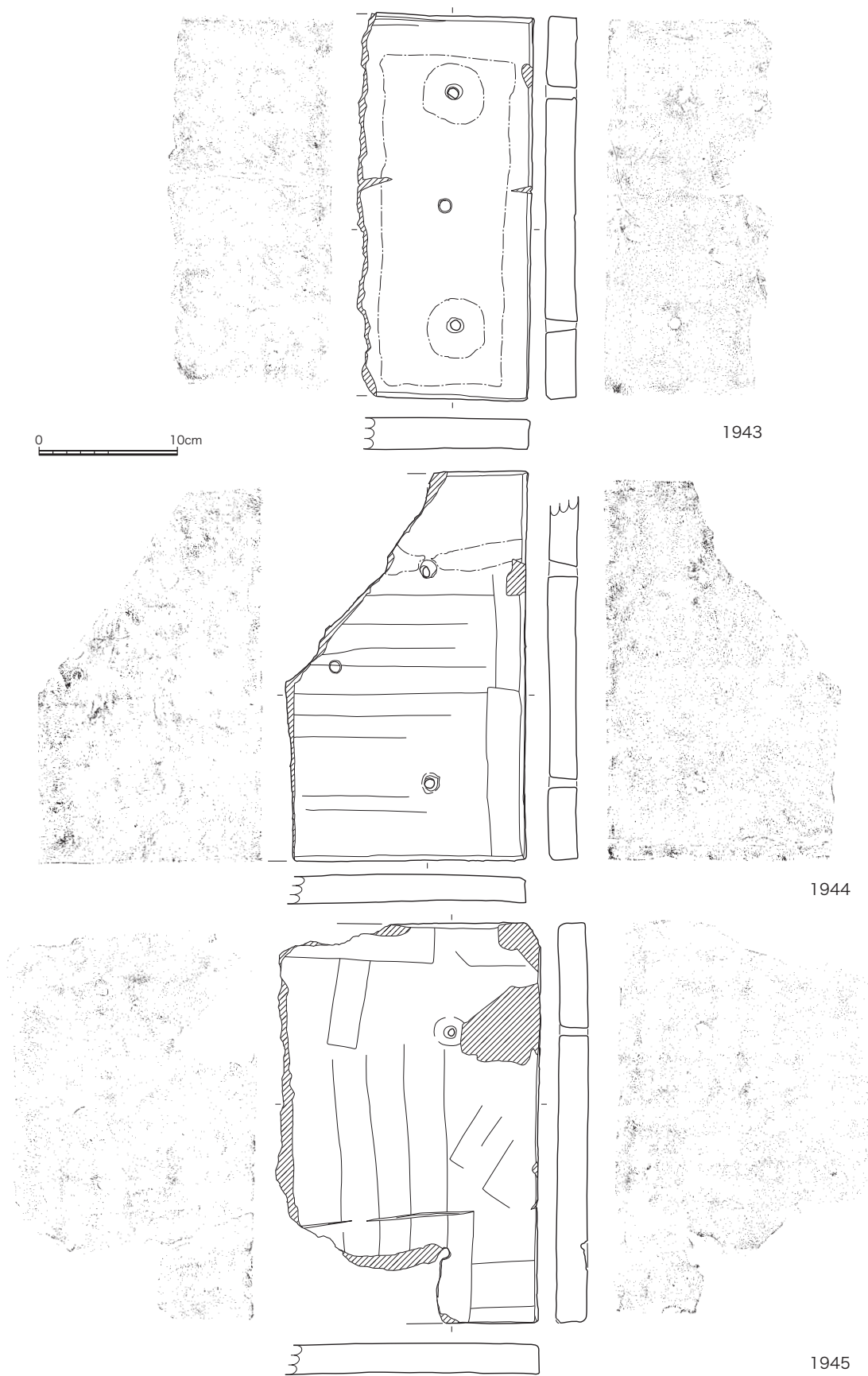
#### (第152～161図 1943～1980)

飾瓦と分類できたものは、接合前破片数で150点、総重量で約57.0kgが出土した。紋様が施されたものは少なく、大部分は瓦埴やタイルのような使用方法が想定されるものである。表面に金箔などが施されたものは認められなかった。飾瓦はその形状から4型式に大別できる。

#### K01型式(第152～155図 1943～1955)

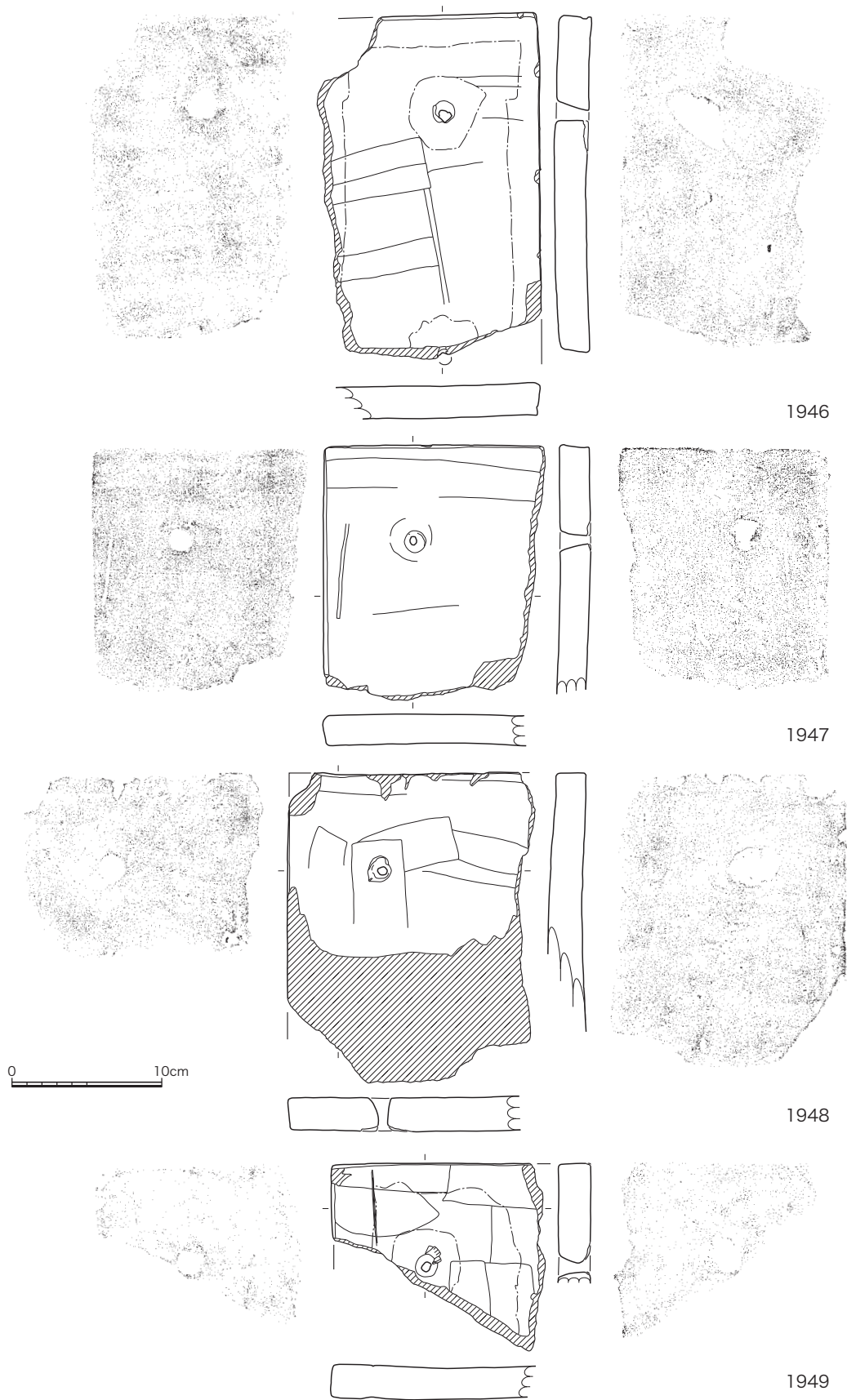
平面形が方形または長方形の板状瓦で厚さが20mm前後のものである。残存状況が良好な資料で見ると長さは約28cmを測る。幅は全部が遺存する資料が無く不明であるが、多くの資料は一辺が焼成後直線的に破断された状態となっており、その状態での幅は12～19cmを測る。表面の状態からみて破断された状態で使用されたものと推測される。今回の調査では93点が確認された。1953は破断面からみて屈曲した粘土板が折損したものと考えられる資料である。

このK01型式には上下一対の位置に孔が穿られている。表面には黒灰色に燻された部分と燻さ

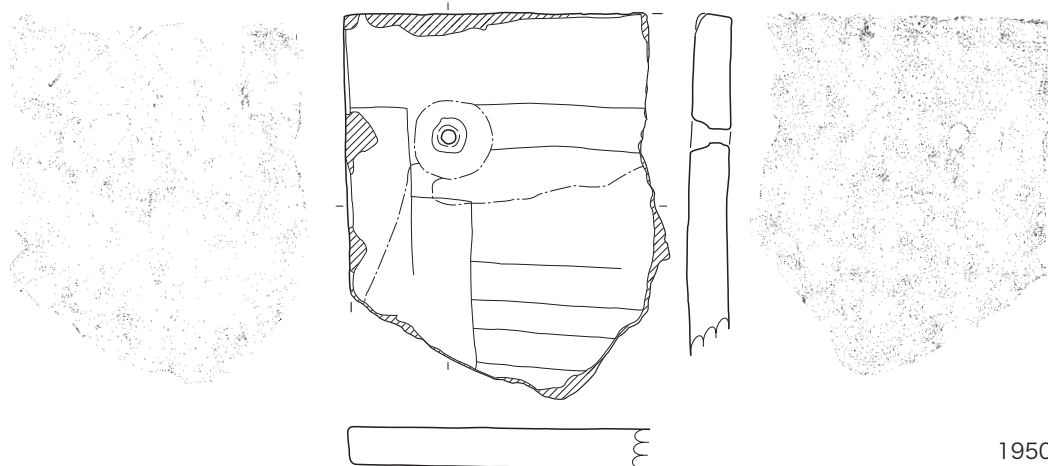


第 152 図 C 期の遺物実測図 (53) 飾瓦 (1)

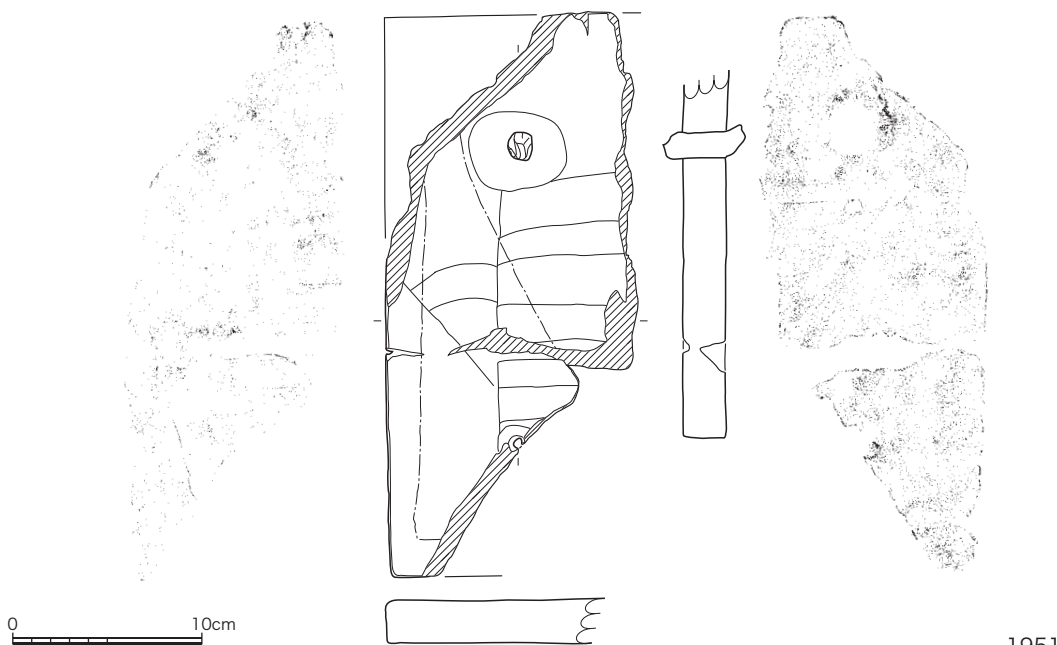




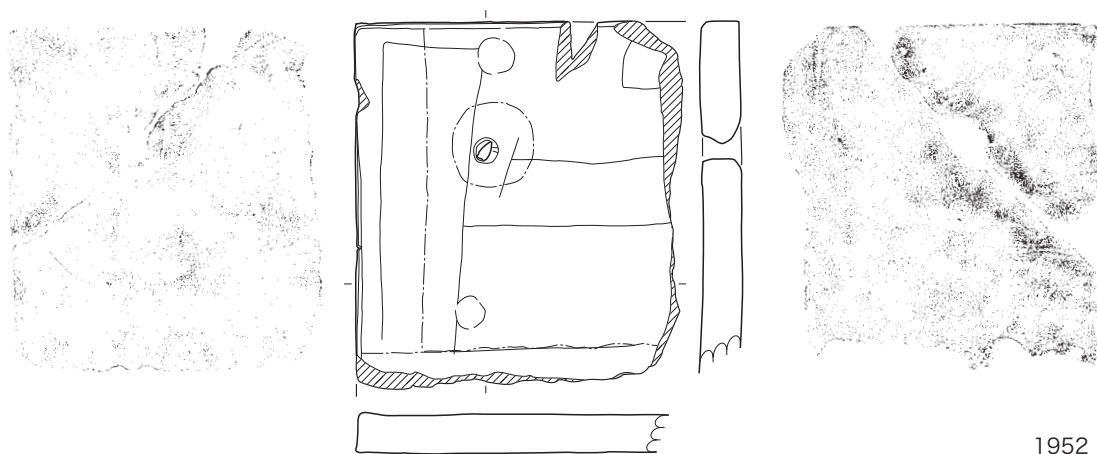
第 153 図 C 期の遺物実測図 (54) 飾瓦 (2)



1950



1951



1952

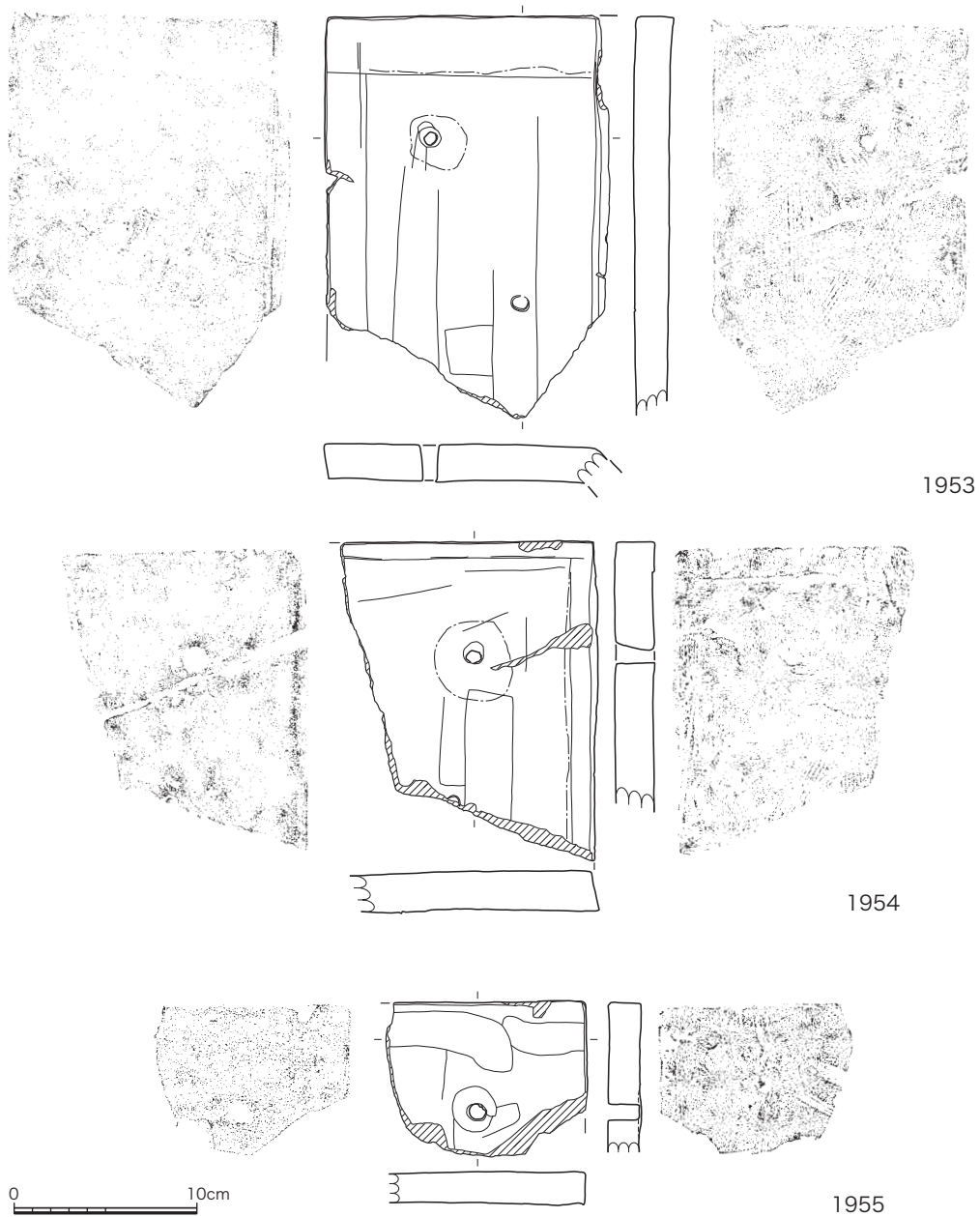
第 154 図 C 期の遺物実測図 (55) 飾瓦 (3)

名古屋城三の丸遺跡 VII

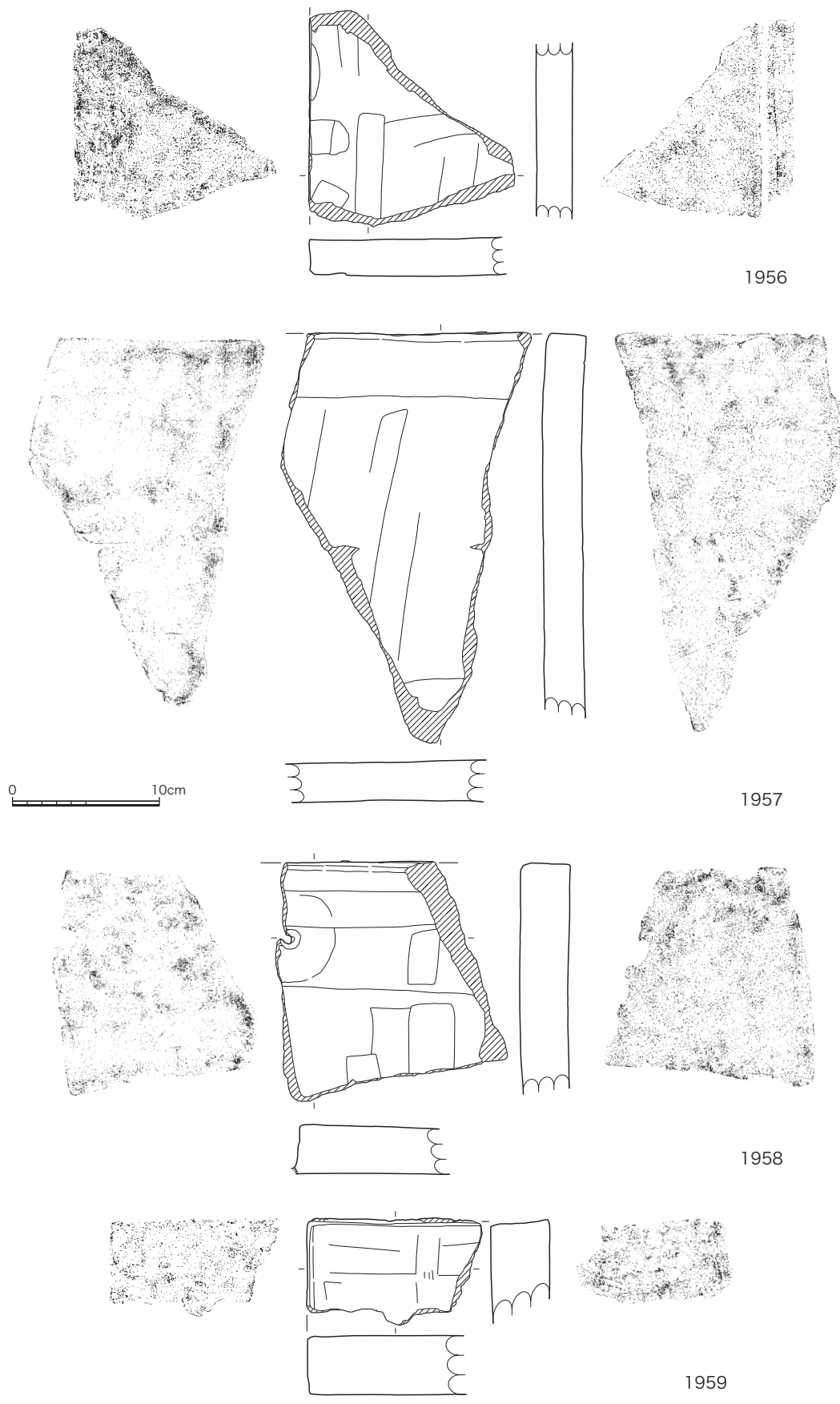
れていない灰色に発色した部分が意図的に明瞭に区分されているものが多い（図では一点破線でその境界を表記した）。1943 は表面の外周部と孔の周囲のみが黒灰色に燻されている資料で、「○」の刻印が残存する。1953 も表面の外周部と孔の周囲のみが黒灰色に燻されている資料であるが、外周部の色分けされた部分に刻線が認められるのである。1955 は孔が貫通せず途中で止まっているものである。

K02 型式（第 156・157 図 1956～1965）

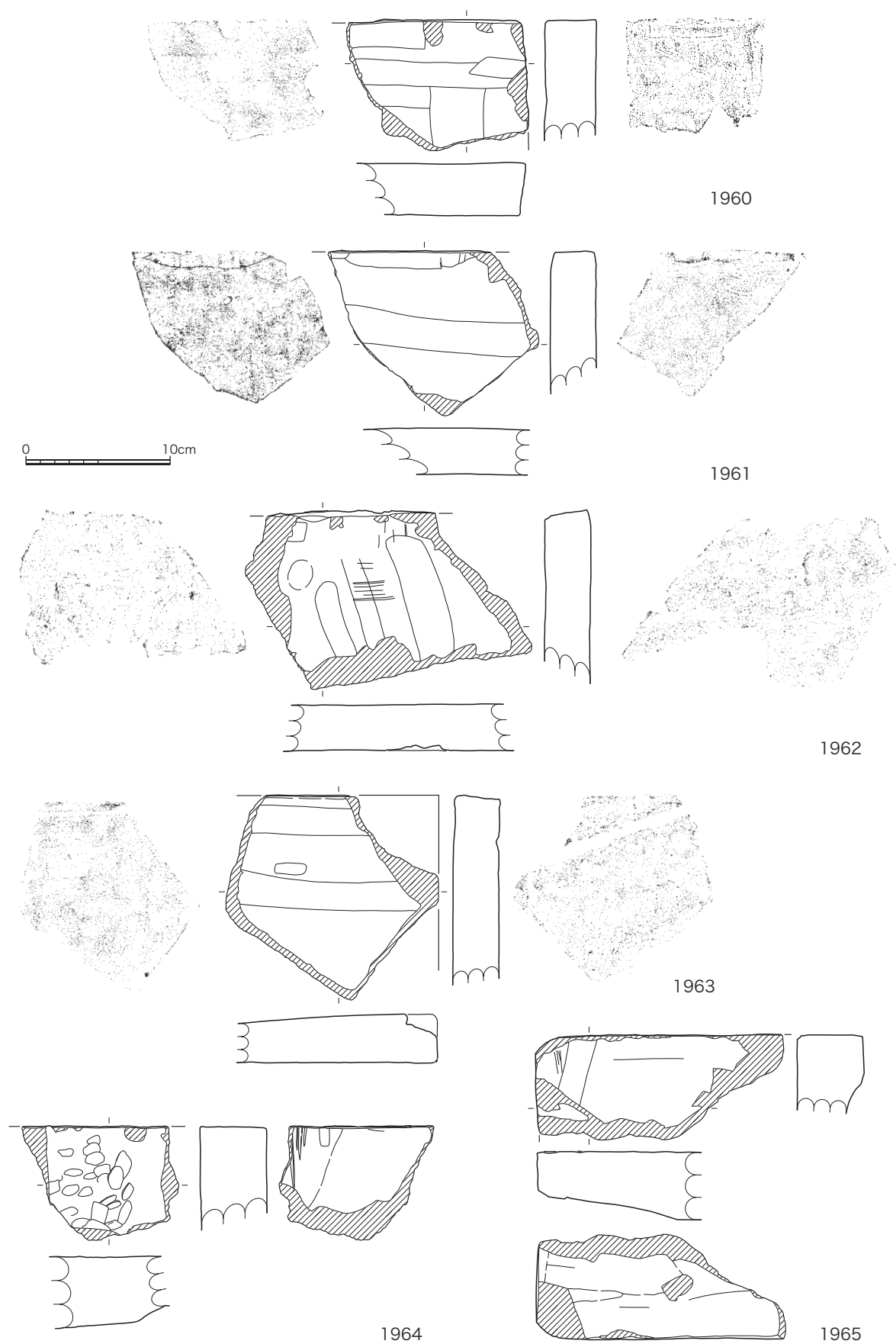
平面形が方形または長方形の板状瓦で厚さが 24mm 以上のものである。残存状況が不良なものばかりで全体の形状は不明である。この型式に分類したものは厚さが様々で本来はさらに細分が必要と思われる。K01 型式のような燻し範囲を分けたものは存在せず、紋様も全く存在しない。1964 と 1965 は厚さが 4cm を超えるもので裏面が斜めに削られた形状を呈している。今回の調査



第 155 図 C 期の遺物実測図 (56) 飾瓦 (4)



第 156 図 C 期の遺物実測図 (57) 飾瓦 (5)



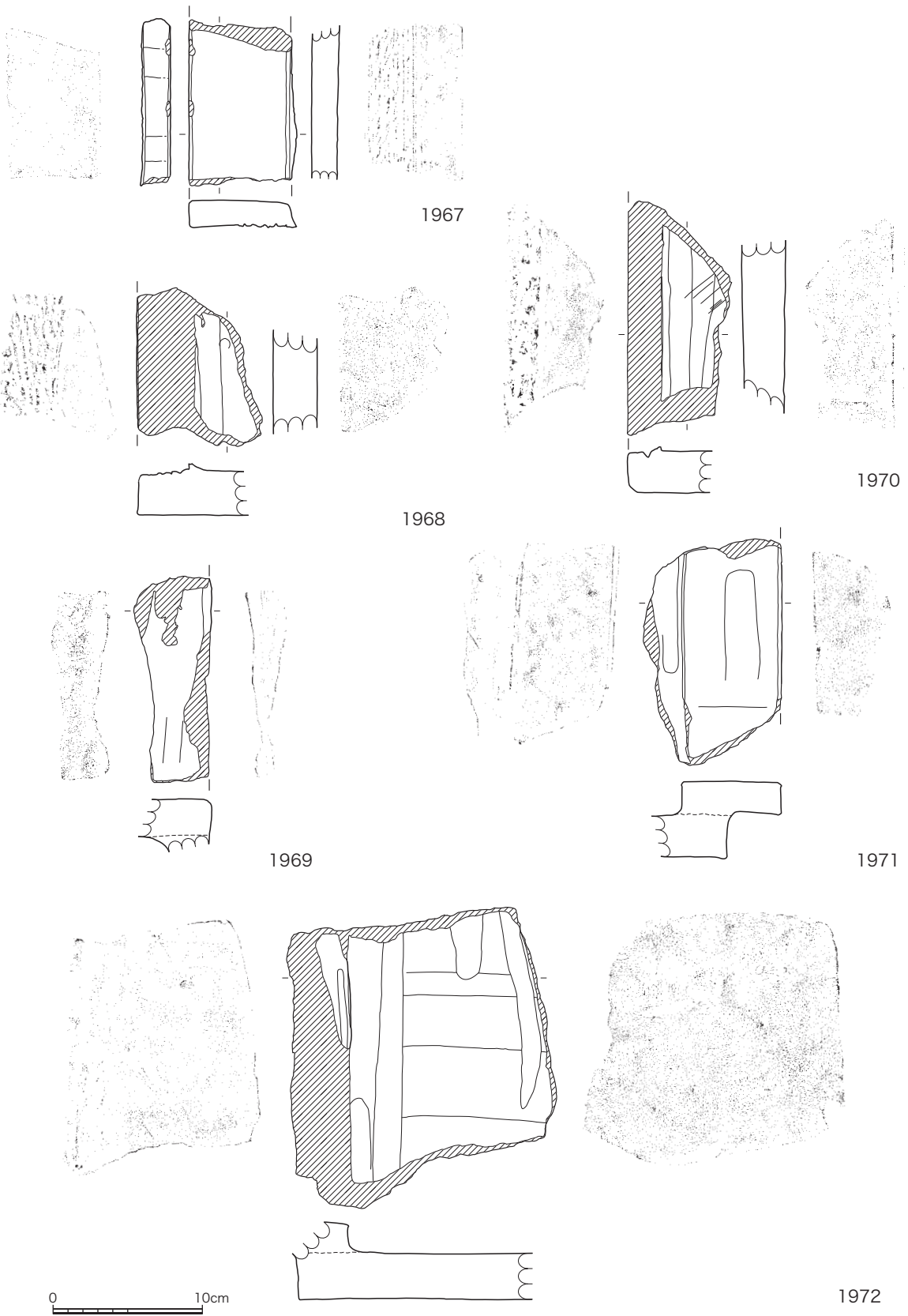
第 157 図 C 期の遺物実測図 (58) 飾瓦 (6)





第 158 図 C 期の遺物実測図 (59) 飾瓦 (7)





第 159 図 C 期の遺物実測図 (60) 飾瓦 (8)

では 32 点が確認された。

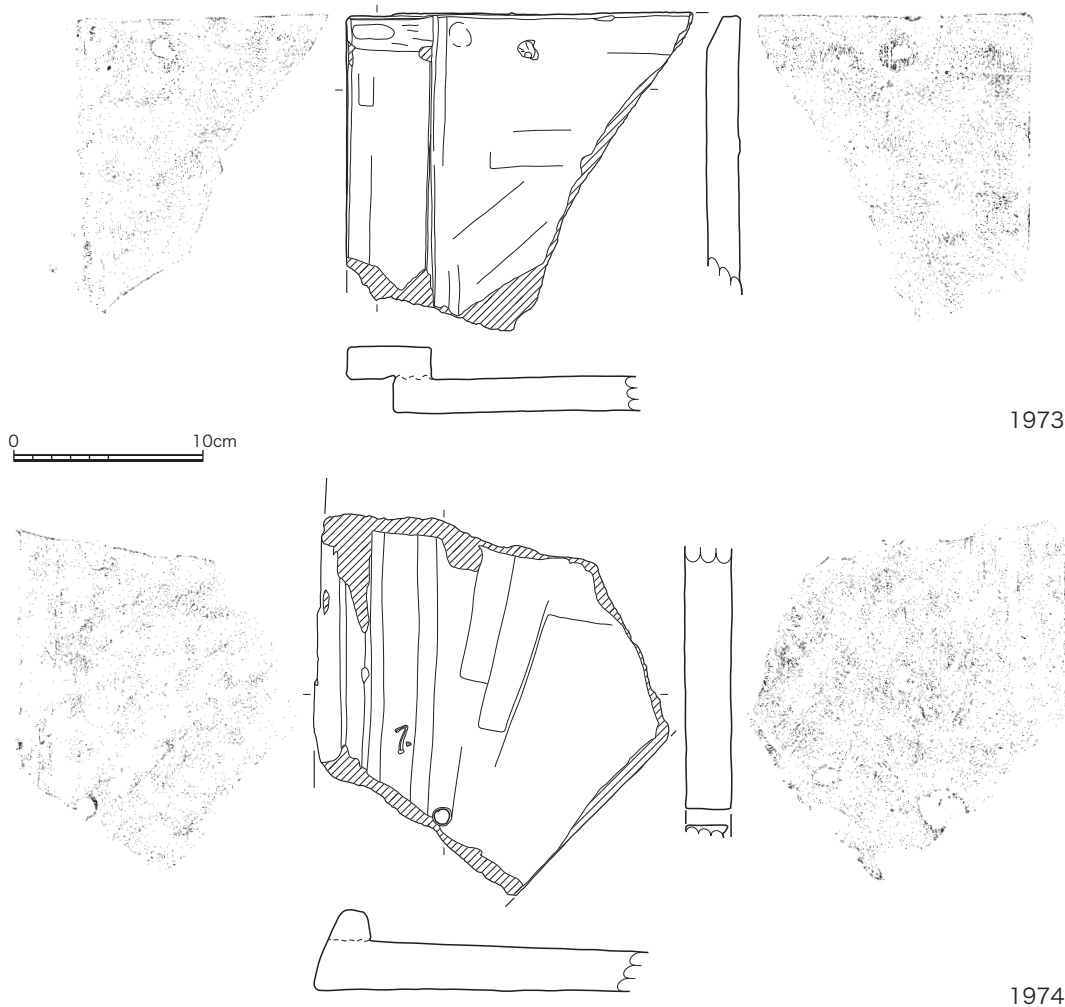
K03 型式 (第 158 ~ 160 図 1966 ~ 1974)

横断面形がクランクする形状のもので、平面形は方形または長方形と推測される。板状粘土の一边上面に細長い長方形板状粘土を継ぎ合わせたもので、接合面に接合を容易にするための傷(刻線)が施されている(1967・1968・1970)。K01 型式のような燻し範囲を分けたものは存在せず、紋様も全く存在しない。今回の調査では 16 点が確認された。1966 は K03 型式の中で最も残存状況が良好なもので、2 箇所穿孔が認められる。側端面には弧状に燻し範囲が分かれた部分が存在しており、平瓦系統の瓦と重ね焼かれたものと推測される。1974 は K03 型式とは異なり端辺に突帯が取り付けられている。穿孔が認められ、「下」と記

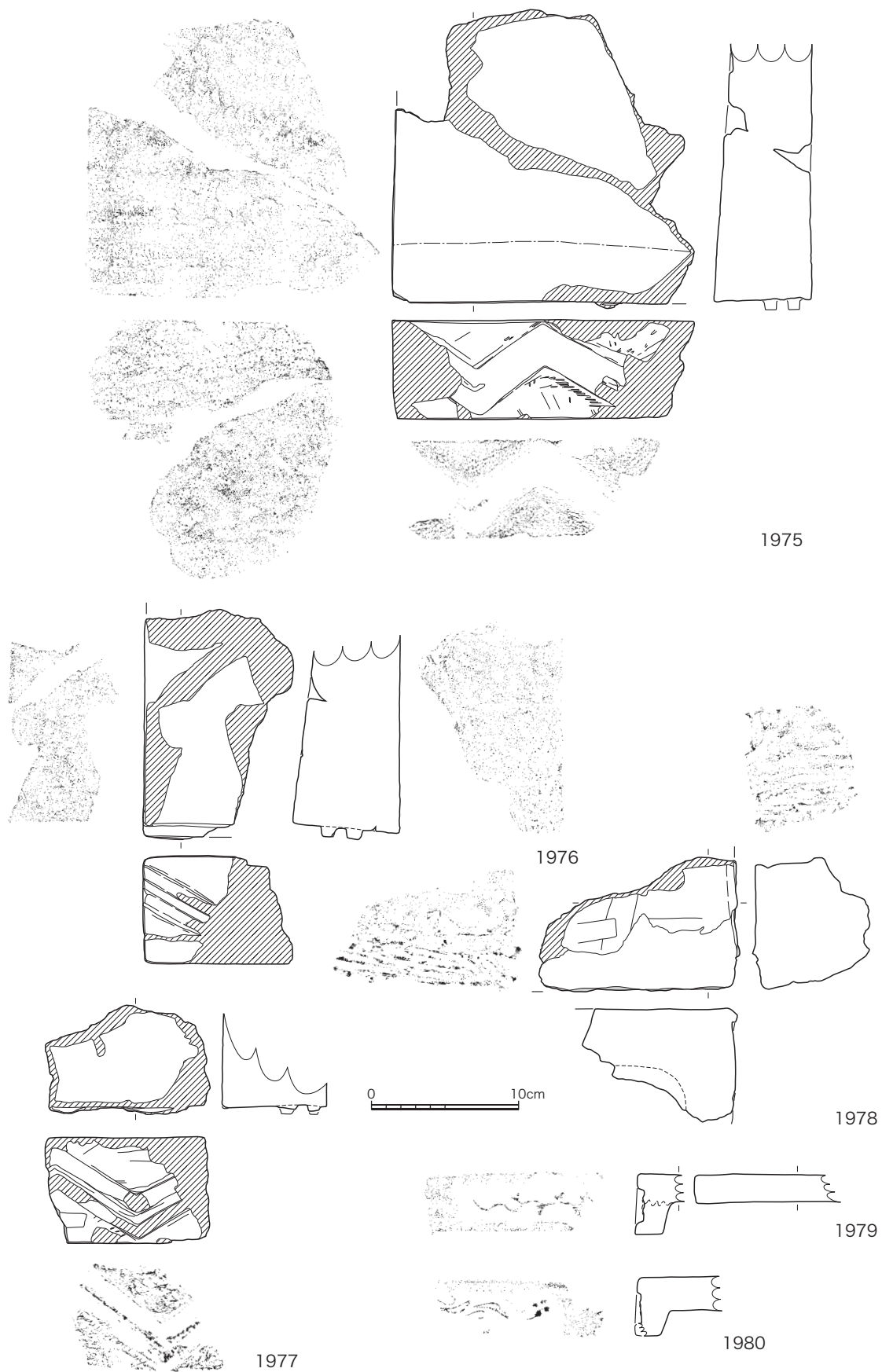
された刻書が存在する。

K04 型式 (第 161 図 1975 ~ 1980)

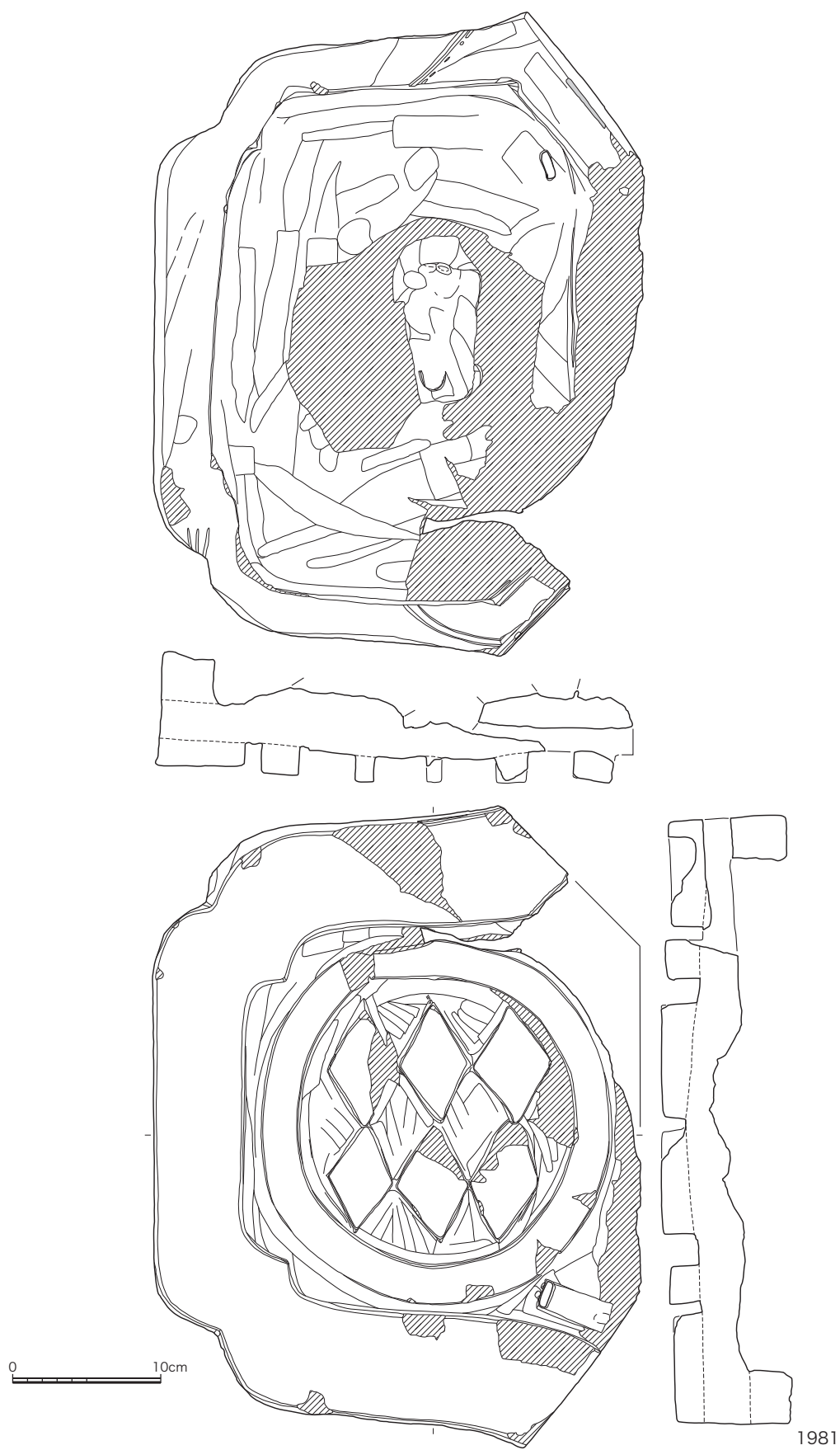
側面に紋様が施されたタイプの飾瓦を K04 型式と分類する。このタイプは 2 種類が存在し、厚さが 6cm 前後の粘土板の側面に二重線の鋸歯紋が施されたもの(1975 ~ 1977)と、板状粘土の一边に軒平瓦状の顎を付けて側面を内区と外区に分け内区に紋様が施されたもの(1979・1980)がある。前者は粘土を貼り付けて二重突帯を形作っている。一方、1979 は中心飾りが不明であるが 4 反転の唐草紋が施されている。1980 も中心飾りが不明であるが、唐草紋が上下に多数存在するものである。



第 160 図 C 期の遺物実測図 (61) 飾瓦 (9)



第 161 図 C 期の遺物実測図 (62) 飾瓦 (10)



第 162 図 C 期の遺物実測図 (63) 鬼瓦 (1)

第 24 項 鬼瓦

(第 162 ~ 164 図 1981 ~ 1993)

鬼瓦と分類できたものは総数で 14 点を数える。紋様の全体が判明するものは少なく、大部分は小破片となっている。これらはほとんどが、粘土板の表面に紋様を貼り付け裏側には外周部に厚い突帯を付けたものと考えられる。結果として、外周部端部の断面形は L 字状に屈曲する形となっている。

1981 は SD12 から出土したほぼ完形の鬼瓦である。粘土板の表面に粘土を貼り付けて外区と内区の紋様を形成し、裏面外周部に厚い突帯を付けている。表面の中心に丸に六菱紋を形作り、下部に釘孔が設けられている。丸に六菱紋は調査区付近に屋敷が存在したといわれる寺西藤左衛門の家紋である。1982 は鬼瓦右袖端部の破片、

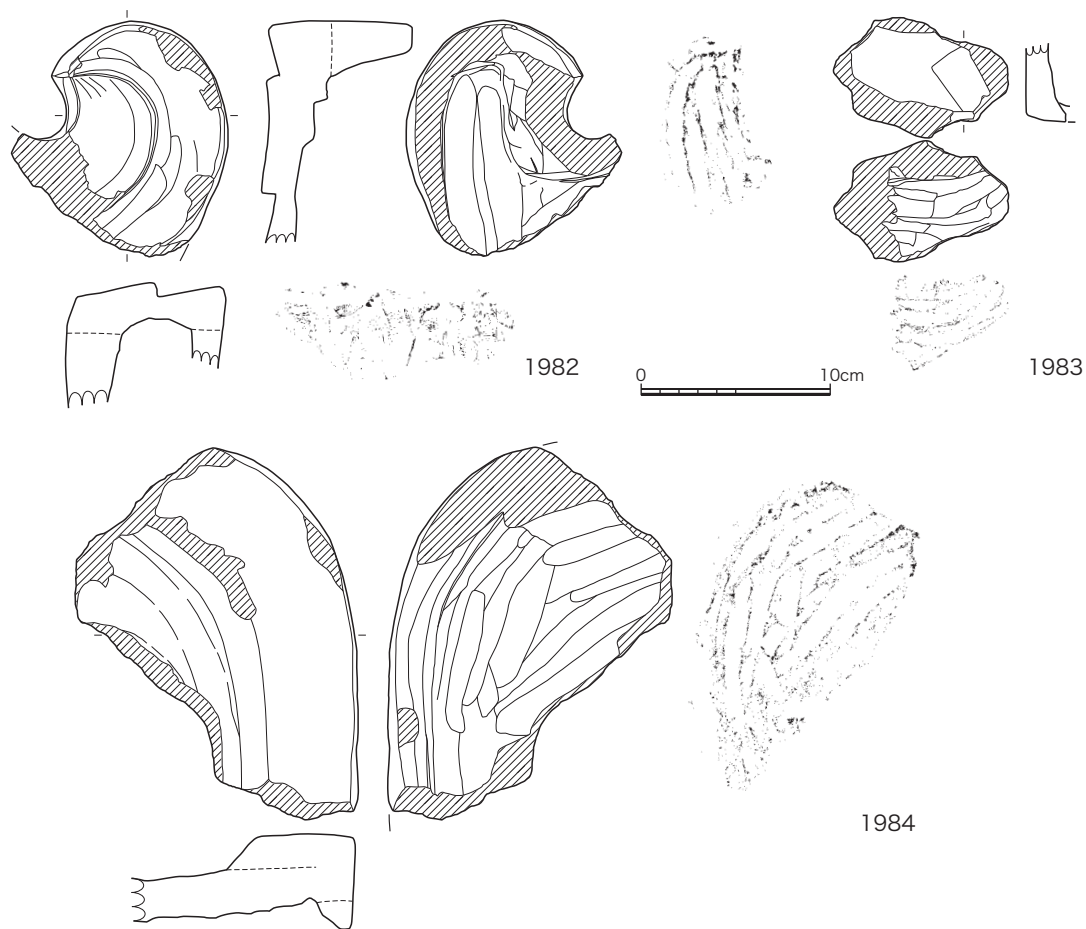
1989 は鬼瓦左袖端部の破片と推測されるもので、それぞれ雲紋（渦巻き状紋）が形成されている。1984 と 1988 は鬼瓦右上部の破片、1993 は鬼瓦左上部の破片で、裏面はノミ状工具で削られている。1985 は表面に大きな珠紋が、1987 は表面に葉紋が施されている。1990 は突起を有する粘土板で表面に波状の刻線が施されている。

第 25 項 菊丸瓦 (第 165 図 1994 ~ 2002)

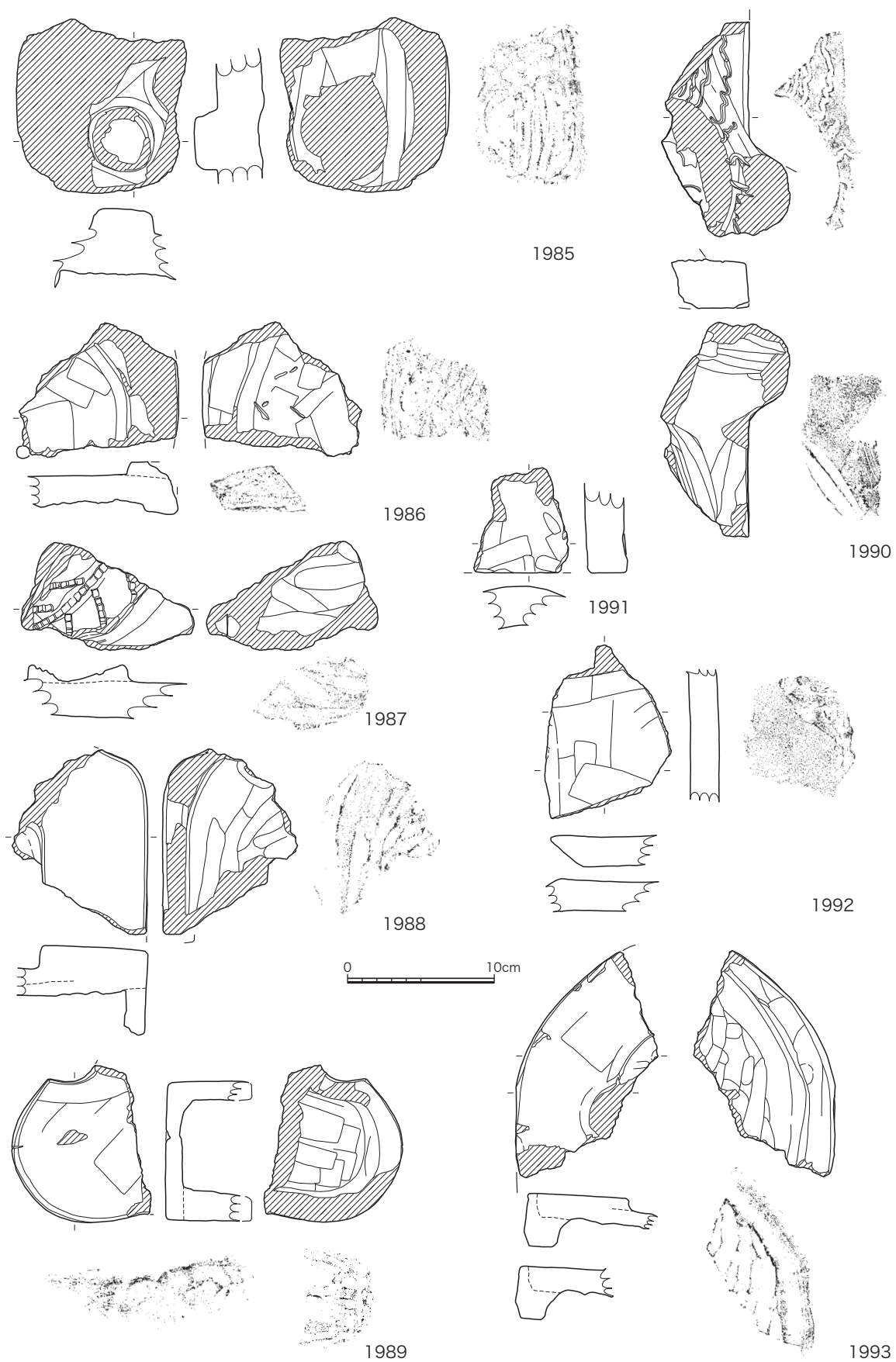
菊丸瓦は棟込瓦の一種で、紋様の存在する瓦当面と棟に差し込まれる筒部によって構成される。全て瓦当面の直径は約 9cm を測り、16 花卉の菊花紋が施されている。この瓦当面の菊花紋の中心部の円紋の形状から 3 類に分類が可能である。

Z01 型式 (第 165 図 1994 ~ 1998)

16 花卉の菊花紋の中心にある円紋に 9 個の凹



第 163 図 C 期の遺物実測図 (64) 鬼瓦 (2)



第164図 C期の遺物実測図 (65) 鬼瓦 (3)



## 名古屋城三の丸遺跡 VII

部を持つものである。円紋の直径は約 2cm を測る。今回の調査では 5 点が出土した。

### Z02 型式 (第 165 図 1999 ~ 2001)

16 花卉の菊花紋の中心にある円紋に 4 個の方形凹部を持つものである。円紋の直径は約 1.5cm を測る。今回の調査では 3 点が出土した。

### Z03 型式 (第 165 図 2002)

16 花卉の菊花紋の中心にある円紋に 1 個の凹部を持つものである。円紋の直径は約 1cm を測る。今回の調査では 1 点が出土した。

## 第 26 項 面戸瓦 (第 165 図 2003・2004)

面戸瓦は瓦を葺いた場合に地葺瓦(平瓦)と棟瓦の間にできる隙間を埋める瓦の総称である。今回の調査では、横長の蟹面戸瓦が 1 点出土した(2003)。この他に、表面に櫛目紋を持つ板状瓦(2004)があり、これも面戸瓦の可能性がある。

## 第 27 項 輪違い瓦

### (第 166・167 図 2005 ~ 2018)

輪違い瓦は棟込瓦の一種で、丸瓦の形態を短く小型にしたものである。今回の調査では 44 点が出土した。これらは大きく 4 類に分類できる。

### 輪違い瓦 A 類 (第 166・167 図 2005 ~ 2007・2012 ~ 2015)

平面形が台形状になるものである。上部の高さが低く下部が高くなっており、23 点が存在する。裏面にはほとんどがコビキ B 手法の調整痕が残存する。最大幅が約 14cm を測るもの(2005 など)と約 10cm を測るもの(2015)がある。2014 は中央部に細長い孔が穿たれたものである。

### 輪違い瓦 B 類 (第 166・167 図 2011・2016 ~ 2018)

丸瓦胴部のみを切断したような形状のものである。斜めにヘラケズリ調整された頭部を持たず、小口裏面のみに面取りが施されている。12 点が存在する。裏面にはコビキ B 手法の調整痕が残

存する。

### 輪違い瓦 C 類 (第 166 図 2009)

平面形が六角形状になるものである。裏側面のヘラケズリ調整の範囲が広がっている。4 点が存在する。

### 輪違い瓦 D 類 (第 166 図 2008・2010)

平面形が平行四辺形状になるものである。丸瓦胴部のみを斜めに平行な形で切断したような形状となる。5 点が存在する。裏面にはコビキ B 手法の調整痕が残存する。

## 第 28 項 丸瓦系道具瓦

### (第 168 図 2019 ~ 2026)

輪違い瓦などを除く、丸瓦の形状をベースにした様々な形態の瓦を丸瓦系道具瓦として一括し報告する。

### 丸瓦系道具瓦 1 類 (第 168 図 2019・2020・2025)

丸瓦を斜めに切断した形状のものである。裏面に残された調整痕は丸瓦とほぼ同様なものが残存しており、基本的には丸瓦を焼成前に切断して製作されたものと考えられる。

### 丸瓦系道具瓦 2 類 (第 168 図 2023)

丸瓦の裏面に粘土板で仕切りを設けたものである。いわゆる谷丸瓦と呼ばれるものである。

### 丸瓦系道具瓦 3 類 (第 168 図 2021)

通常の丸瓦よりも器壁が著しく薄いものである。

### 丸瓦系道具瓦 4 類 (第 168 図 2024・2026)

丸瓦の形状に穿孔が施された形状のものである。2024 は行基葺丸瓦の頭部を持つと思われる丸瓦の形状に細長い孔が穿たれているものである。2026 は比較的大きな円形の孔が存在するものと考えられる。

## 第 29 項 平瓦系道具瓦

### (第 169・170 図 2027 ~ 2038)

平瓦の形状をベースにした様々な形態の瓦を平瓦系道具瓦として一括し報告する。全体の形状を明らかにできる資料は少なく、実際には分類は難しい。

平瓦系道具瓦 1 類 (第 169・170 図 2027～2029・2034)

平瓦を斜めに切断したもののなかで、切断された辺に粘土板で仕切りを設けたものである。仕切り部の下端は直線的に作られている。

平瓦系道具瓦 2 類 (第 170 図 2035・2038)

平瓦を斜めに切断したままの形状のものである。基本的には平瓦を焼成前に切断して製作され

たものと考えられる。

平瓦系道具瓦 3 類 (第 169 図 2030・2033)

平瓦の一边が緩やかに彎曲し上面に突帯を取り付けた形状のものである。2033 には穿孔が認められる。

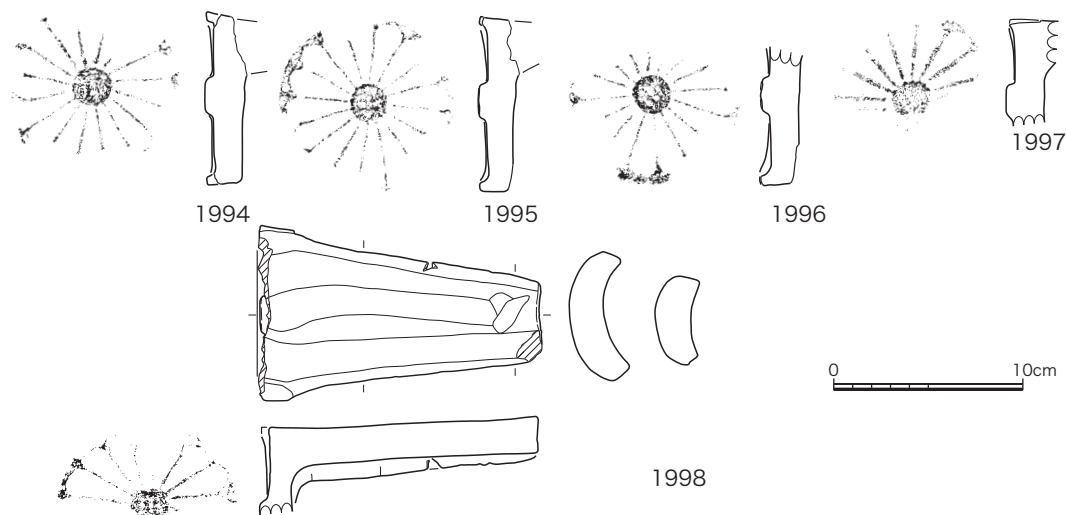
平瓦系道具瓦 4 類 (第 170 図 2037)

平瓦の上面に粘土を貼り付けて突帯を設けて水返しにしたものである。軒平瓦の一部である可能性も考えられる。

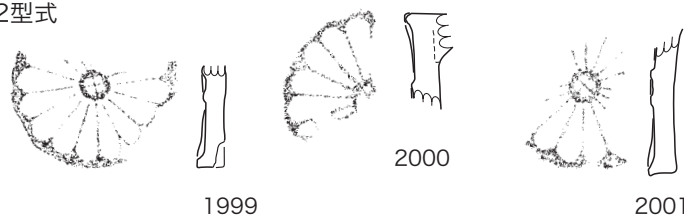
平瓦系道具瓦 5 類 (第 170 図 2036)

通常の平瓦に比べ器壁が非常に薄いものである。

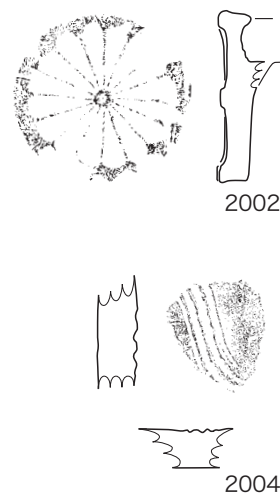
Z01型式



Z02型式



Z03型式



第 165 図 C 期の遺物実測図 (66) 菊丸瓦

## 名古屋城三の丸遺跡 VII

### 平瓦系道具瓦 6 類 (第 169 図 2031・2032)

全体の形状は不明であるが、横断面形が八角形の筒状になるものである。穿孔が施されている。

### 第 30 項 陶器瓦 (第 171 ~ 172 図 2039 ~ 2059)

今回の調査では、大量の燻し瓦の他に瀬戸窯産と推定される陶器瓦が 29 点出土している。ここではこれら陶器瓦を一括して報告したい。

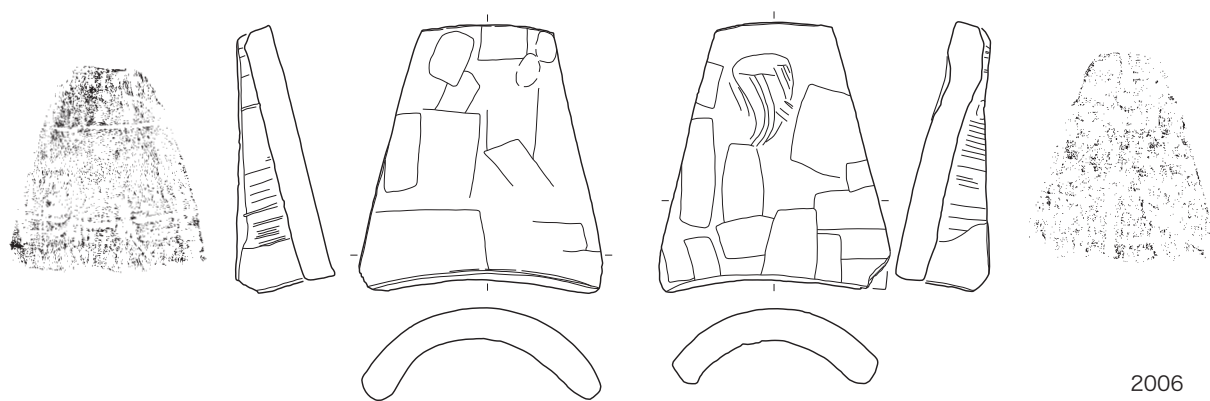
陶器瓦は 1 点のみ白色の長石釉が施された (2056) 他は全て緑釉が施された緑釉陶器瓦である。器種は丸瓦、平瓦、飾瓦 (瓦塼) などがある。2039 ~ 2048 は緑釉陶器丸瓦である。頭部は玉縁を有するもの (2039・2040) であり、尻部の縦断面形は方形となっている (2046 ~ 2049)。瓦を葺いた時に表に見える部分のみが施釉され、側面や裏面は露胎となっている。裏面の露胎部には墨書が存在するものがあり、2041 は「中」、2042 は「西カ」と読める。2050 ~ 2054 は緑釉陶器平瓦である。2055 と 2056 は部位が特定できない資料であるが、2055 は軒平瓦の棧である可能性が考えられる。2057 ~ 2059 は飾瓦 (瓦塼) である。2057 はわずかに曲面となっており熨斗瓦の可能性も捨てきれない。2058 は平面形が長方形の板状瓦で表面は緑釉が約半分塗布されている。2059 は平面形が直角二等辺三角形の厚手の飾瓦で、床面に敷き並べられた敷瓦と考えられる。表面に緑釉が施され、裏面は露胎で「水野

久之丞 (花押)」と記された墨書が存在する。

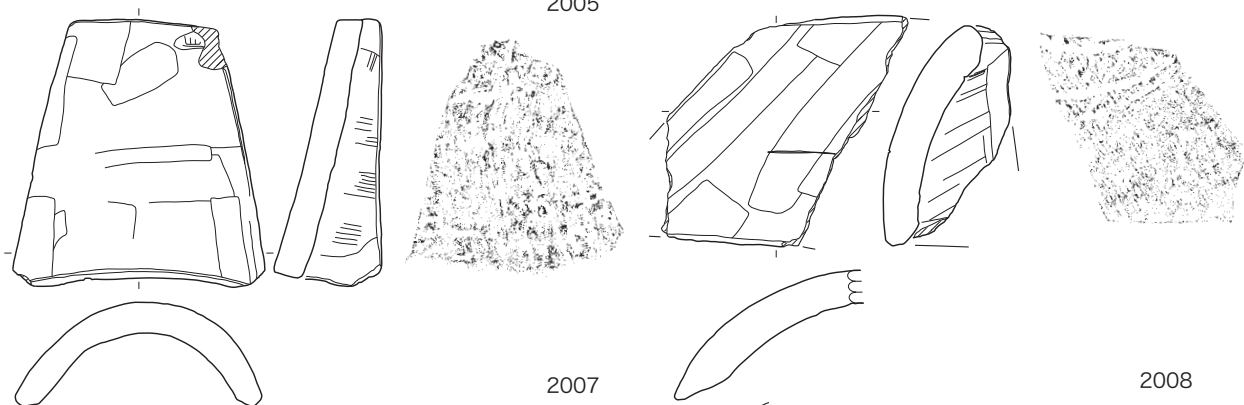
水野久之丞正勝は寛永 19 (1642) 年から寛文 12 (1672) 年まで御林奉行に任じられた人物である。瀬戸上水野村にある穴田窯では様々な陶器瓦が生産されていることが判明しており、穴田 1 号窯跡から出土した灰釉無紋の飾瓦 (敷瓦 II 類) にも「水野久之丞」と記されたものがある。このことから敷瓦 II 類は水野久之丞の注文によって穴田窯の陶工が焼成したと考えられ、瓦類の生産に水野久之丞が大きく関与した可能性は否定できないだろう。藤澤良祐はさらに検討を進め、水野久之丞が上水野村の窯業生産の直接の管掌者であった可能性が極めて高いと論じている (藤澤 1998)。したがって、今回出土した墨書瓦は水野久之丞の注文により穴田窯で生産されたものである可能性が高く、逆に穴田窯で生産された瓦類の一部が御屋形などにも利用されていたことが推測される。既に、穴田窯で生産された瓦類は尾張藩関係の建造物に使用されたことが判明しており、穴田窯の御用窯的な性格が推定されてきたが、今回の事例はそのことを追認する形となったといえる。

#### 引用文献

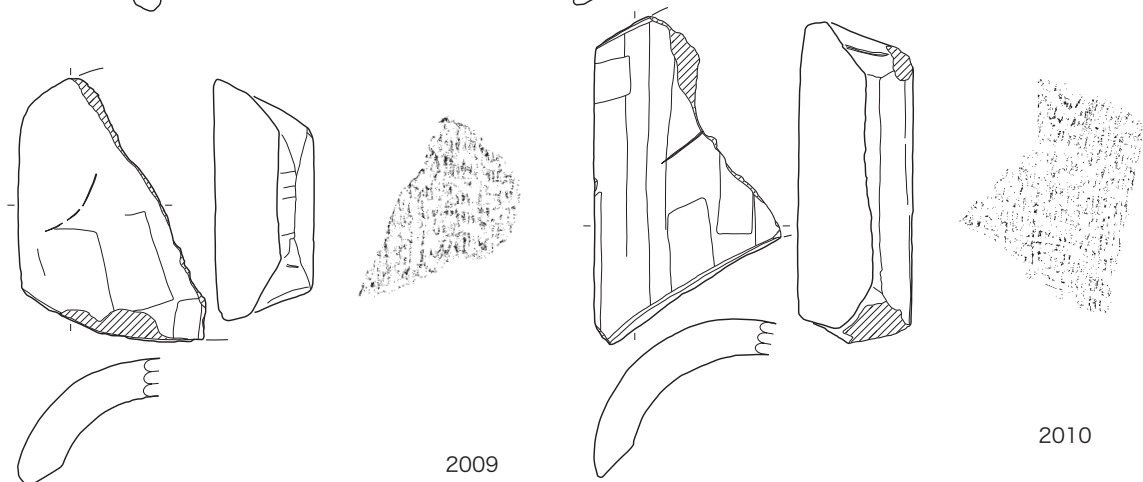
- 鈴木正貴編 2002 『清洲城下町遺跡Ⅷ』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第 99 集  
藤澤良祐編 1998 『瀬戸市史 陶磁史篇六』



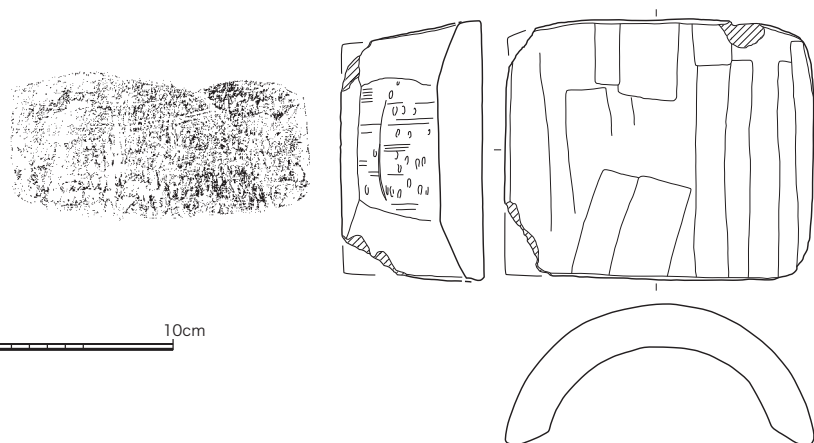
2006



2008

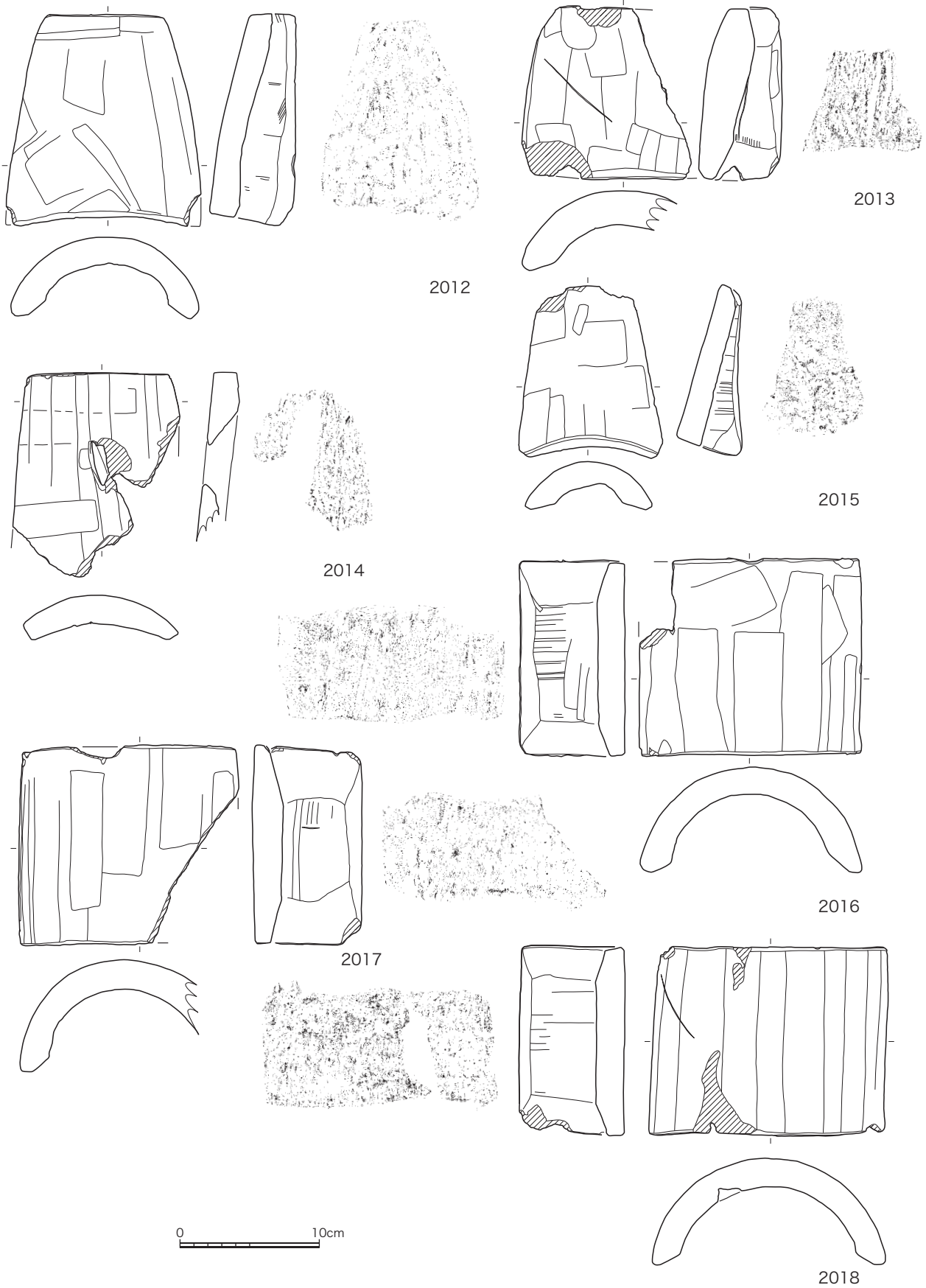


2010

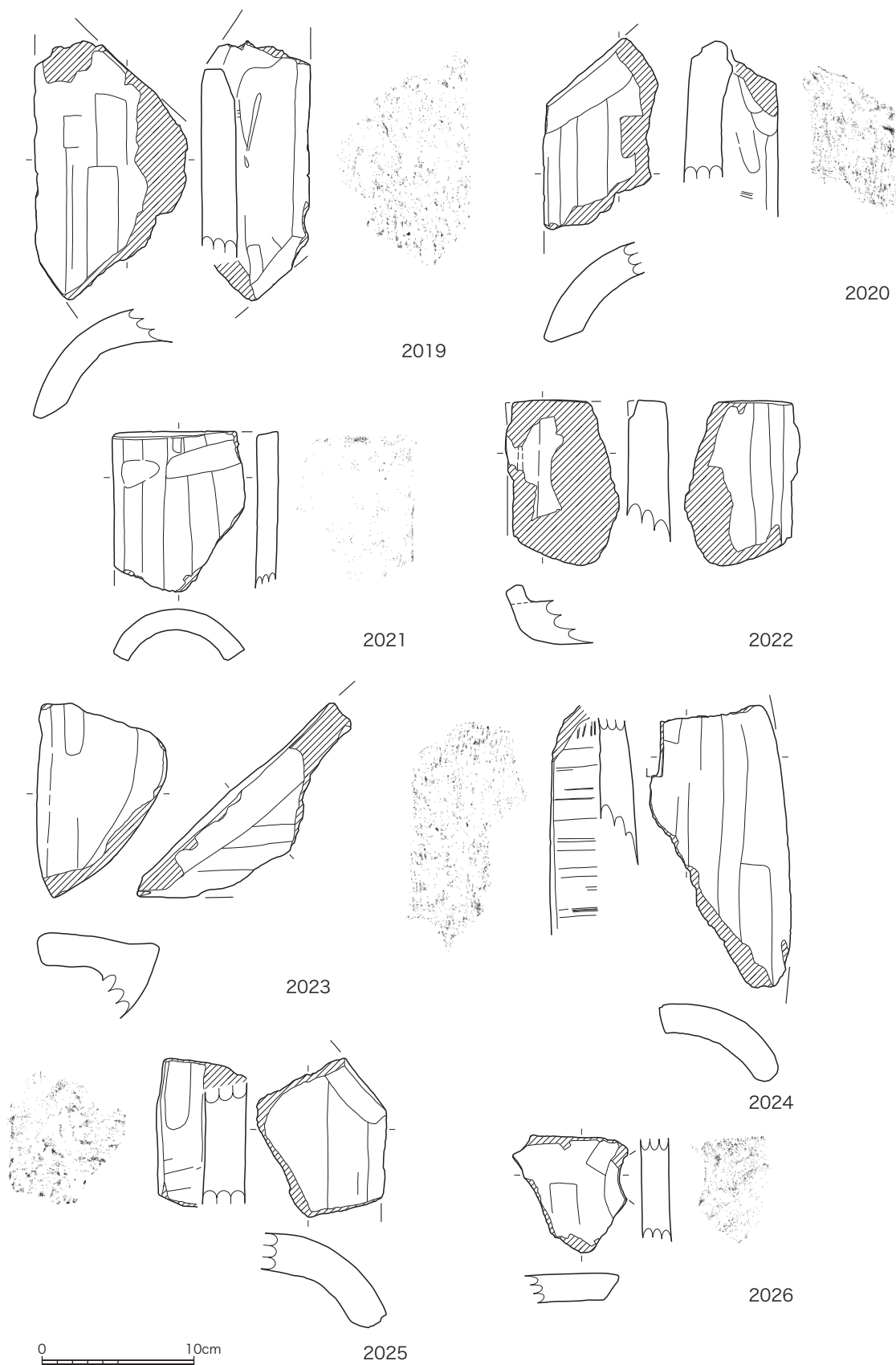


0 10cm

第 166 図 C 期の遺物実測図 (67) 輪違い瓦 (1)

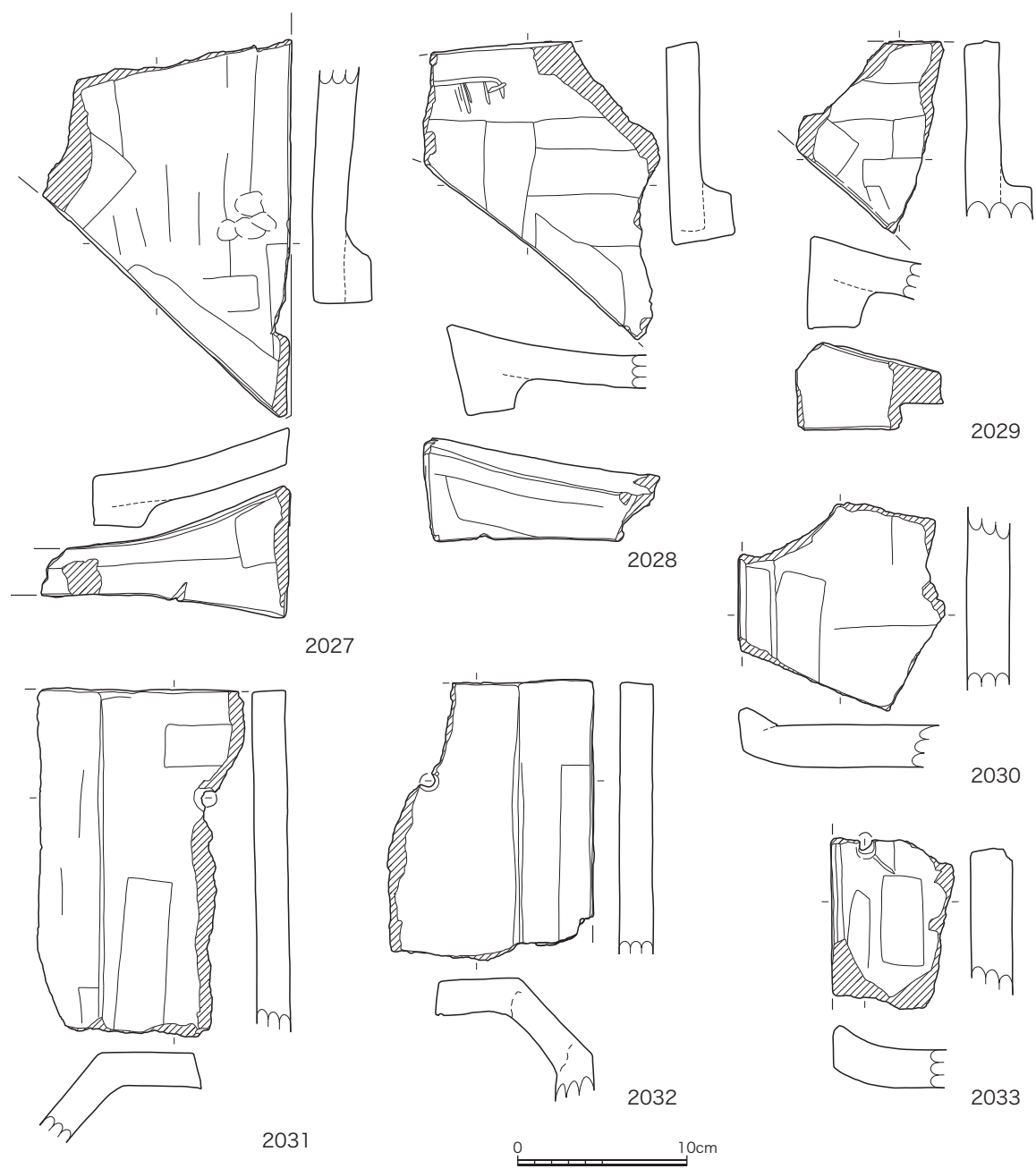


第 167 図 C 期の遺物実測図 (68) 輪違い瓦 (2)

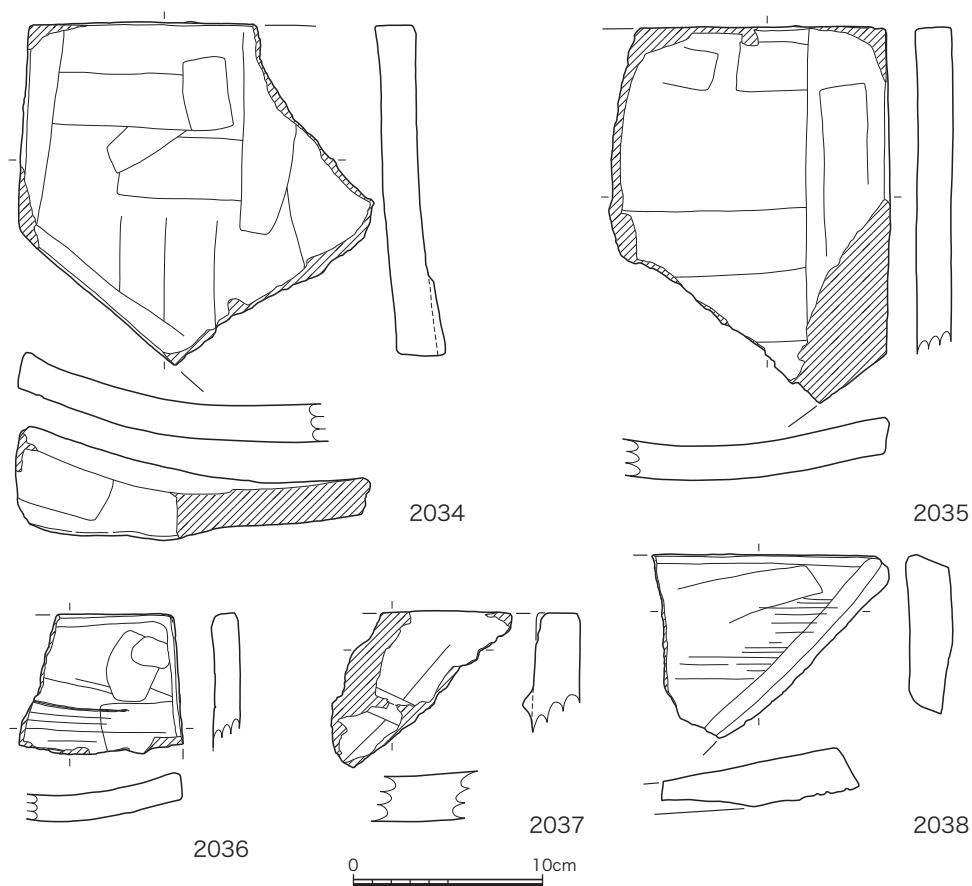


第 168 図 C 期の遺物実測図 (69) 丸瓦系道具瓦

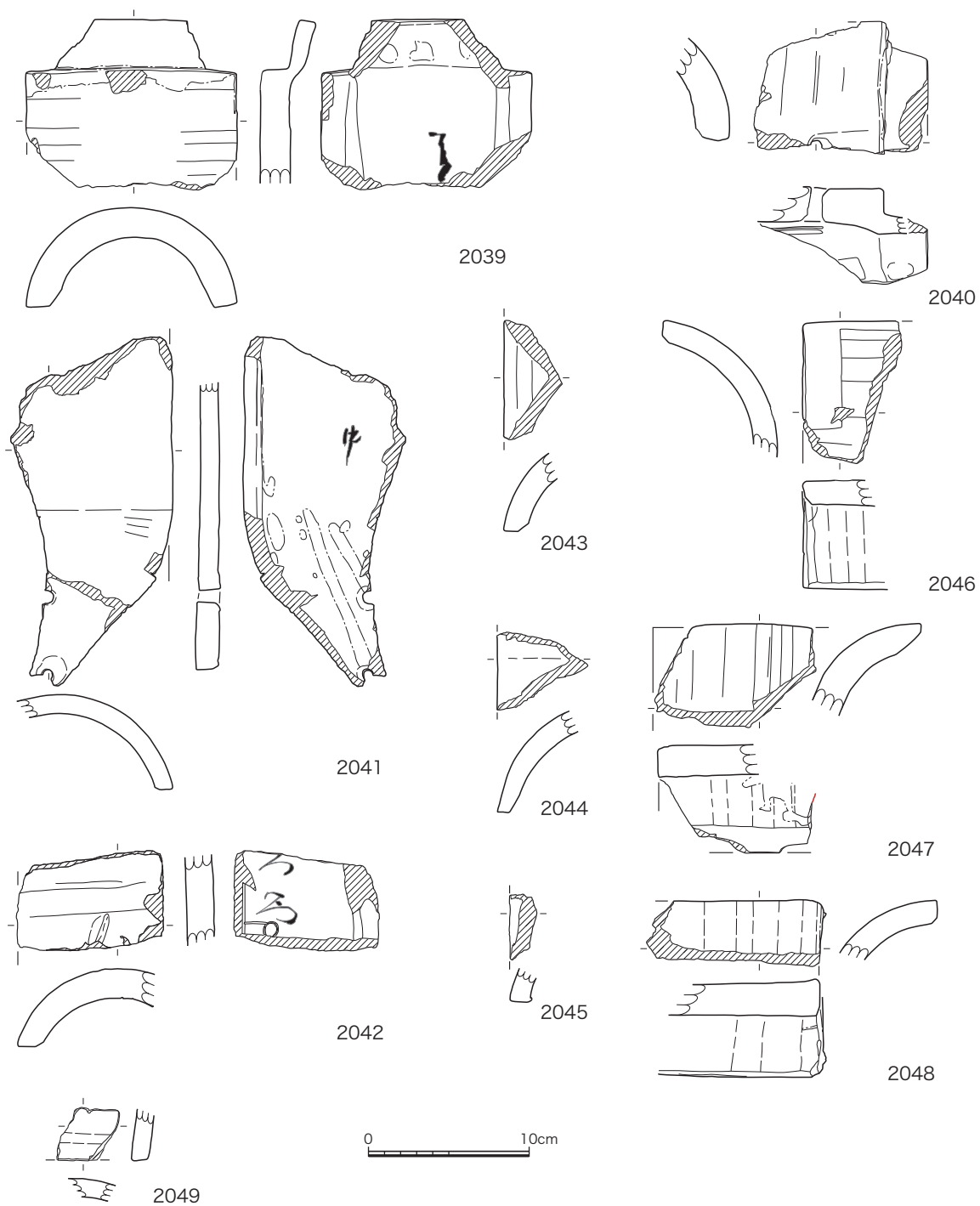




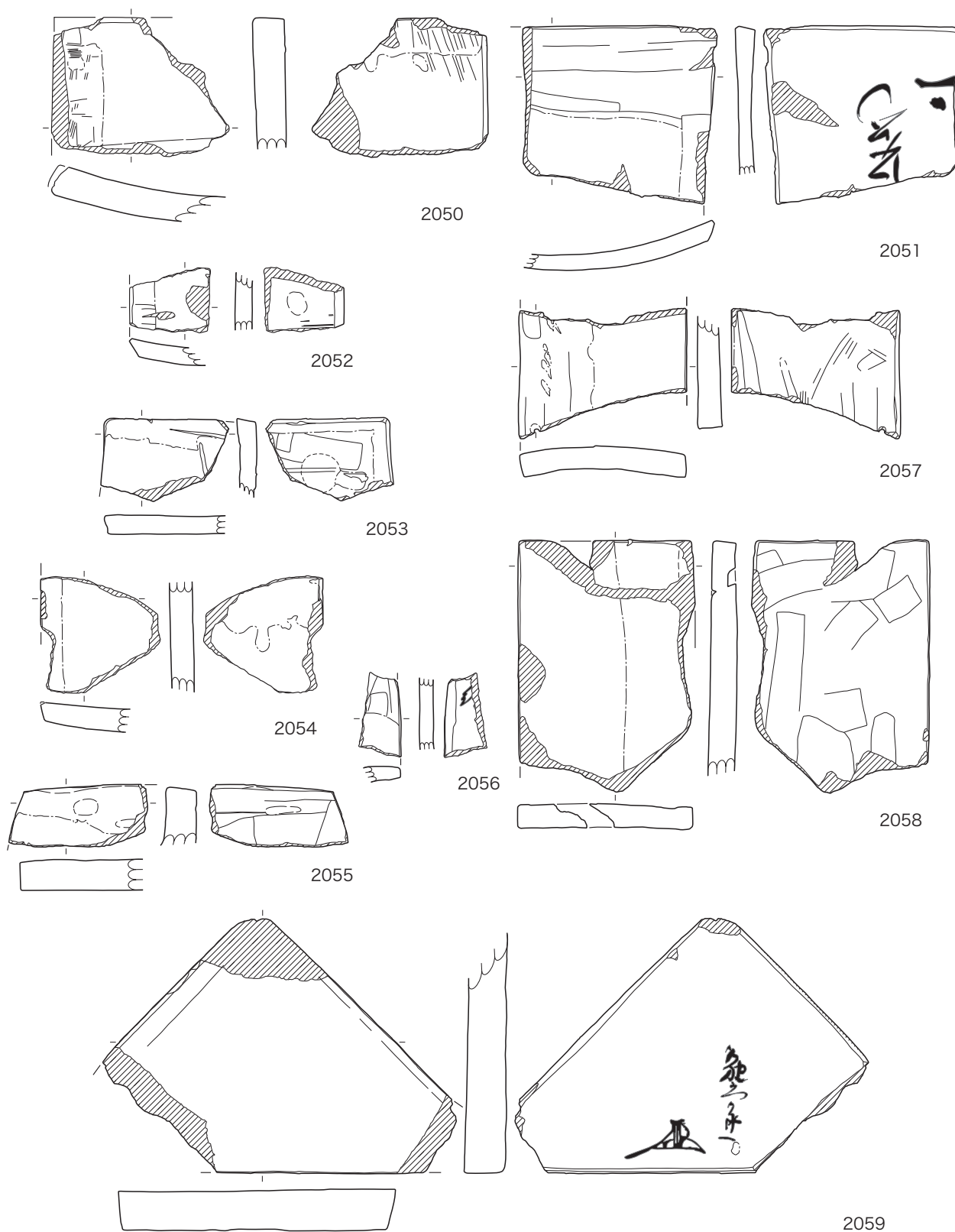
第 169 図 C 期の遺物実測図 (70) 平瓦系道具瓦 (1)



第 170 図 C 期の遺物実測図 (71) 平瓦系道具瓦 (2)



第 171 図 C 期の遺物実測図 (72) 緑釉陶器瓦 (1)



第 172 図 C 期の遺物実測図 (73) 緑釉陶器瓦 (2)

## 第5節 D期の遺物

D期は明治時代から昭和時代中頃まで（1874年頃～1945年頃）の段階である。遺物には瀬戸美濃窯産陶磁器・常滑系窯産陶器などの焼物類の他に、ガラス製品や石製品や金属製品など多様な種類の製品がある。ここでは主要な遺構出土資料を中心に記述するが、包含層中出土遺物に注目すべき一括資料が存在するので、これについても項目を設けて報告したい。

### 第1項 SK96 出土遺物

#### （第173～176図 2060～2182）

SK96からは瀬戸美濃窯産磁器やガラス製品を中心に433点が出土した。金属製品や板ガラスなどを除く大部分の製品が完形品であることが、この資料群の最大の特徴となっている。状況からみて、埋納時点では遺物は全く破損していなかったと思われる。

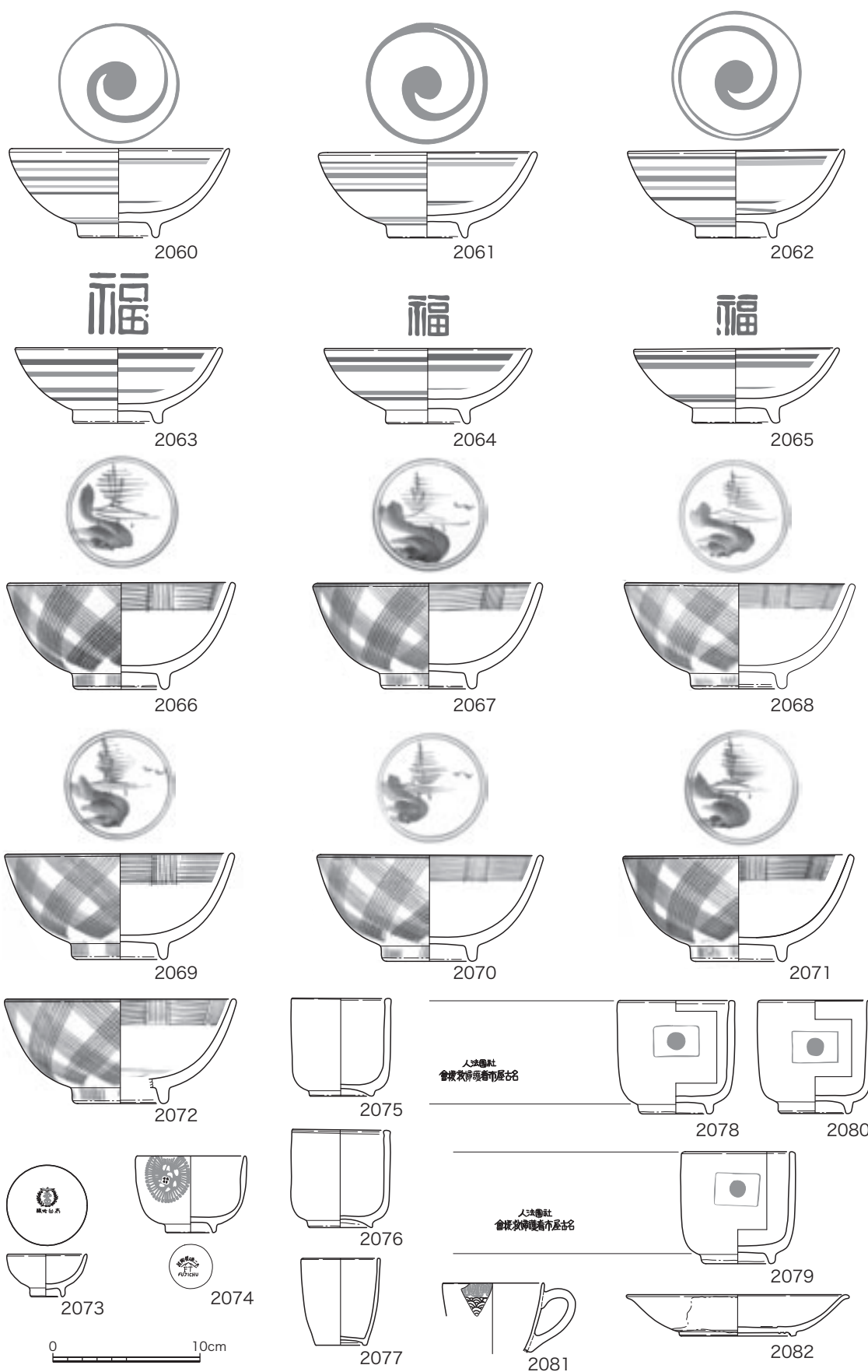
磁器には大碗（丼碗：2060～2072）、湯呑碗（2075・2076・2078～2080）、小碗（2073・2074）、小杯（2077）、ティーカップ（2081）、白磁受皿（2082）、色絵徳利（2086）、青磁灰皿（2093）、白磁汚物入れとその蓋（2094・2095）などがある。大碗は口径が15cm前後を測るもので3種存在する。大碗1類（2060～2062）は体部内外面にコバルト・鉄・酸化クロムで圏線が描かれ、見込み（底部内面）に酸化クロムで巴紋が施されているものである。大碗2類（2063～2065）は体部内外面にコバルトと酸化クロムで圏線が描かれ、見込みにコバルトで福字紋が施されているものである。大碗3類（2066～2072）はコバルトで体部内外面が施紋され、見込み（底部内面）もコバルトで山水紋が施されているものである。湯呑碗は白磁のもの（2075・2076）と上絵付けのもの（2078～2080）がある。後者は赤色上絵で日の丸紋を、青色上絵で「社

團法人名古屋市看護婦救済会」と記されている。2073は内面に上絵で「正宗 高田吟醸」と記され、2074は体部外面に上絵で印刷された施紋があり、高台裏には「不二硬質陶器 FT. FUJICHU」と書かれている。

罎子製品にはノップ罎子（2083）と栓（2084・2085）があり、後者は螺子が切られている。陶器には植木鉢が存在する。2087は瀬戸美濃窯産の製品でなまこ釉が施されている。2088～2092は常滑窯系の植木鉢で機械ロクロにより成型されている。規模から口径が10.4cmのもの、12.0cmのもの、15.4cmのもの、26.6cmのものに区分できる。2088の口縁部外面に墨書で「西七番病室」と記されており、陸軍名古屋病院の病室で使用された植木鉢と特定できる。現在は入院病室での植木鉢は「根付く」というイメージから忌避される傾向があるが、この資料では植木鉢が一定量使用されていたことを窺い知れる。

ガラス製品は陶磁器類よりも多種多様で量も多く、瓶類、コップ（2126・2127）、試験管、スライドガラス、板ガラスなどがある。これらは無色透明なガラスから青色や緑色に発色した半透明なガラスで作られたものがある。これらはガラスに含有された金属元素によって異なる。

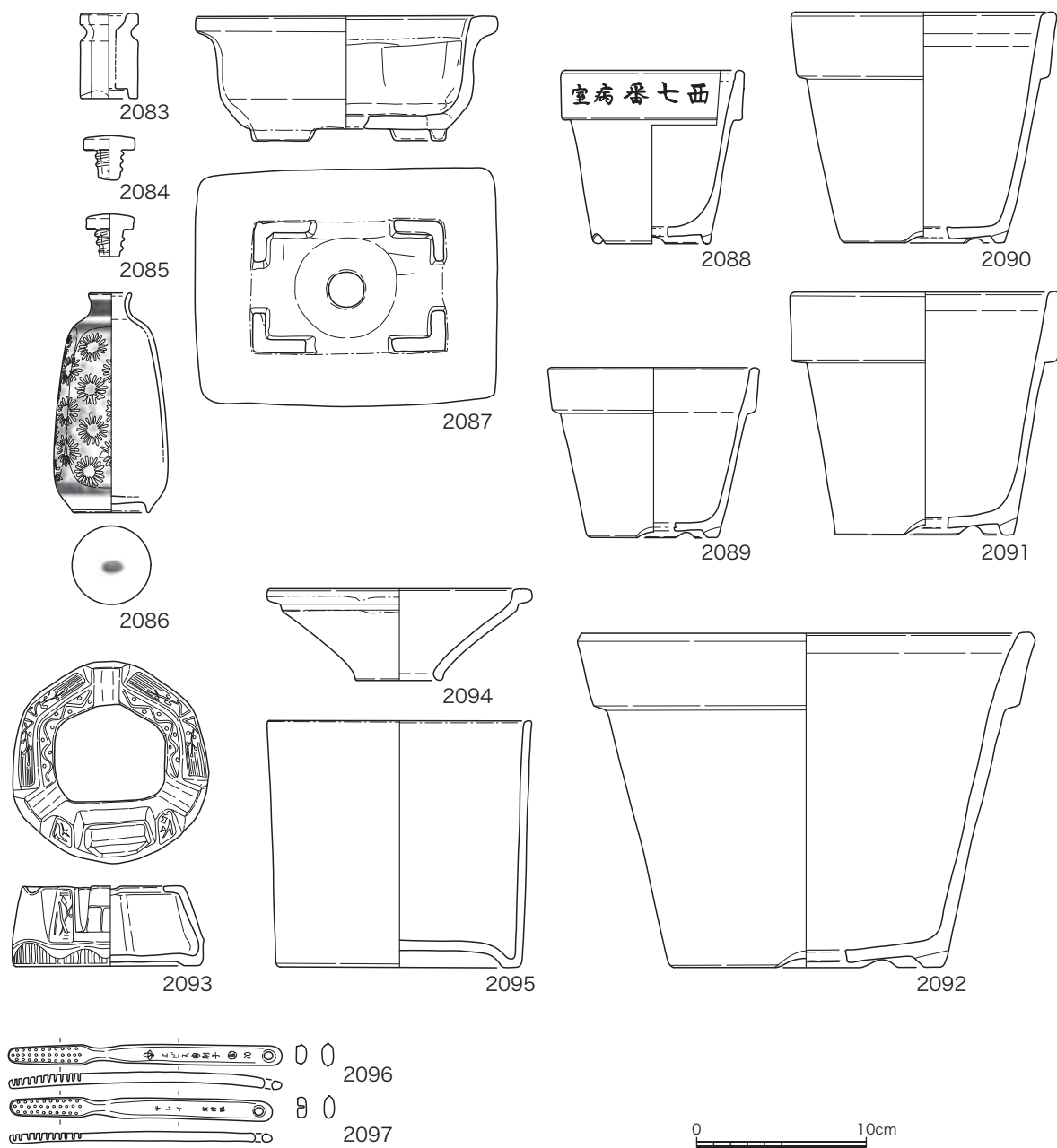
ビン類にはビール瓶（2098～2100）、ウィスキー瓶（2101）、牛乳瓶（2102～2104）、みかん水瓶（2105）、ラムネ瓶（2107）、インク壺（2109・2113）、食卓塩瓶（2114）、糸瓜コロソバ瓶（2116）、薬瓶（2106・2110～2112）、軟膏壺（2117～2124）などがある。ガラス瓶類は型作りで製作されたと考えられ、体部の上端から下端まで対の位置に2本の型の合わせ目の突線が残存するものが大半を占める。この特徴からこれらの瓶はその外形を縦に半分に分けた状態の型で成形されたと思われる。例えば2128～2142



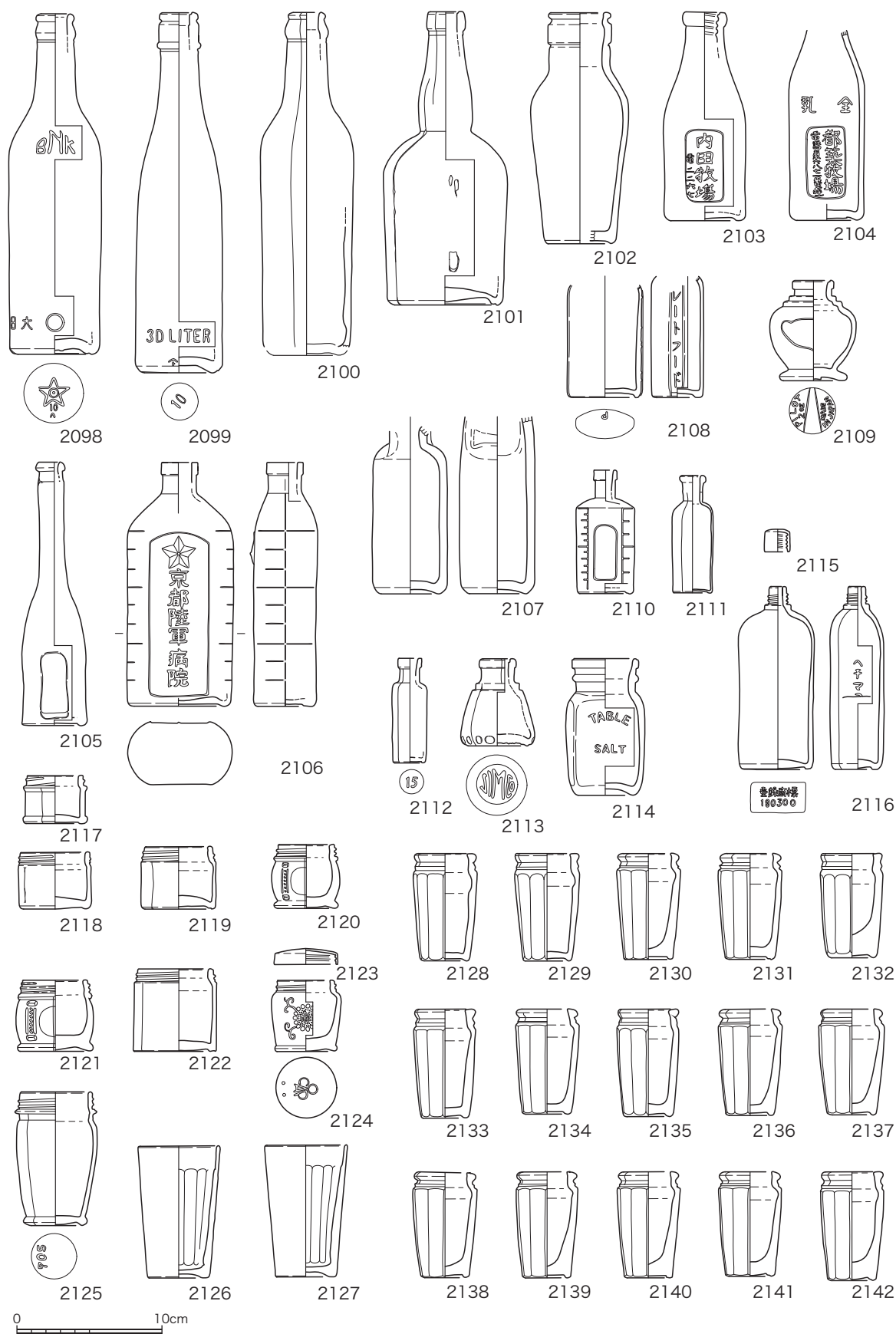
第 173 図 D 期の遺物実測図 (1) SK96 (1)



名古屋城三の丸遺跡 VII



第 174 図 D 期の遺物実測図 (2) SK96 (2)



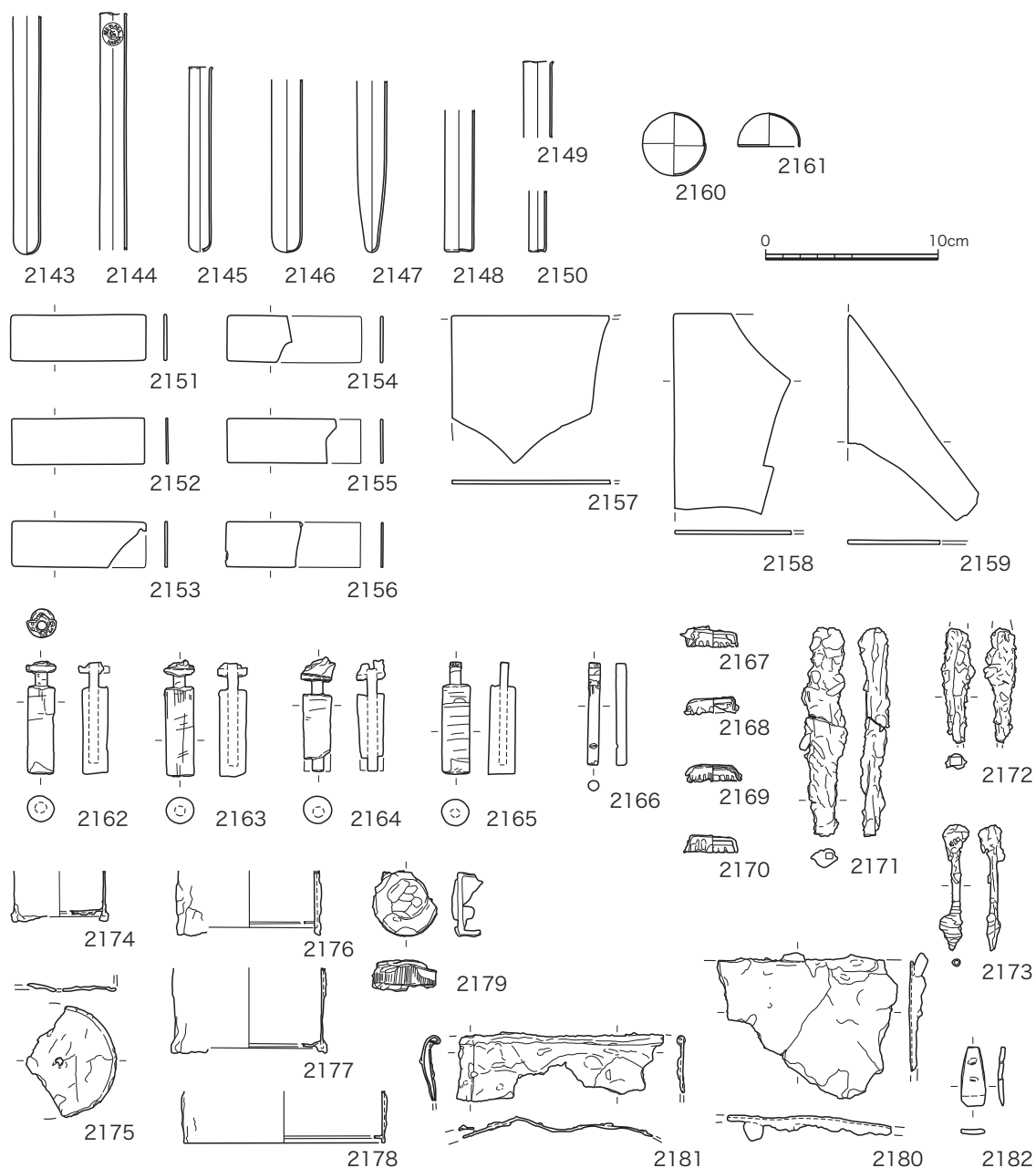
第 175 図 D 期の遺物実測図 (3) SK96 (3)

名古屋城三の丸遺跡 VII

は用途を特定できない小壺で、体部が多角柱状に面取りされておりほぼ同じ形状の合わせ型で成形されているが、器壁の厚さは各々異なっている。2132などは図の右側にガラスが著しく偏っていて底部の厚さは均一ではない。また、口縁部と底部が体部とは別の型もしくは別の製法で製作されたものがあり、これに着目して分類することが可能である。1つは底部が別型で製作されたもの

(2098など)、もう1つは口縁部と底部が別型で製作されたもの(2117など)である。

2098は「大日本麦酒株式会社」と陽刻されている。この会社は1943年～1945年まで操業されていた企業で製造年が特定される。2103は「内田牧場」、2104は「都築牧場」と記されるが、この報告では牧場を特定するまで至ることができなかった。2106は「京都陸軍病院」と陽刻された



第176図 D期の遺物実測図(4) SK96(4)

薬瓶である。陸軍病院間での物資の流れを窺い知ることができる資料である。2109は陽刻からパイロット製インク壺と思われる。2116は側面に「ヘチマコ」、底部に「登録商標」と記されている。試験管は底部が球形の丸底となるもの(2143・2145・2146)、先端が緩やかに尖り丸底となるもの(2147)、平底のもの(2148・2150)に分類できる。2144の口縁部付近には白色インクによるプリントが存在する。2151～2156は縁が透明な無色の板ガラスで作られたスライドガラスである。

プラスチック製品には、ガラス瓶の蓋(2115・2123)、蓋(2179)、歯ブラシの柄(2096・2097)、ピンポン球(2160・2161)がある。2096には「エビス歯刷子」と記されている。金属製品には、鉄製王冠(2167～2170)、鉄製釘(2171～2173)、鉄製円筒容器(2174～2178)、鉄製箱(2181・2182)がある。王冠は2098などのビール瓶に伴うものと推測される。鉄製円筒容器は電池の外周部である可能性が考えられる。この他の素材の製品としては、2162～2166は黒色の心棒に黒色の物質が円柱状に取り巻くもので、物質の素材同定を行っていないが乾電池の中身と想定される。2182は革製品で鞆の留め具と考えられる。

これらSK96出土遺物は多様な種類の遺物がほぼ完全な形で一定量存在していることから、再利用を前提とした埋納遺構に保管された一括資料とみることができる。資料の内容は大碗やコップや歯ブラシなど日常生活用品、薬瓶や試験管やスライドガラスなど病院に直接関連する物品、汚物入れや墨書植木鉢など病室の生活を窺わせる資料など、1943年頃に急造された名古屋陸軍病院第二分院の病室に関連する一括資料として位置づけられる。

問題はこうした物品が埋納された経緯と再利用されなかった事情である。当時、軍の諸施設での

物品は戦況が逼迫する中相当に厳しく管理統制されていたと思われ、上官による抜き打ちの持ち物検査が頻繁に行われていたといわれる。品物が欠落すると厳しい処分が下されるため品物の不足が生じた時のために員数外の備品や持ち物をなんとか確保しておき、検査の際にその余分に確保した品物を一時的に隠匿したことが様々な証言によって明らかになっている。SK96は検査の時に地下に穴を穿ち物資を隠匿した土坑で、物資を隠匿した隊が急遽移動などしたためその存在が忘れ去られたものと推測される。こうした事情を鑑みると、1943～1945年の一括資料と推測される。

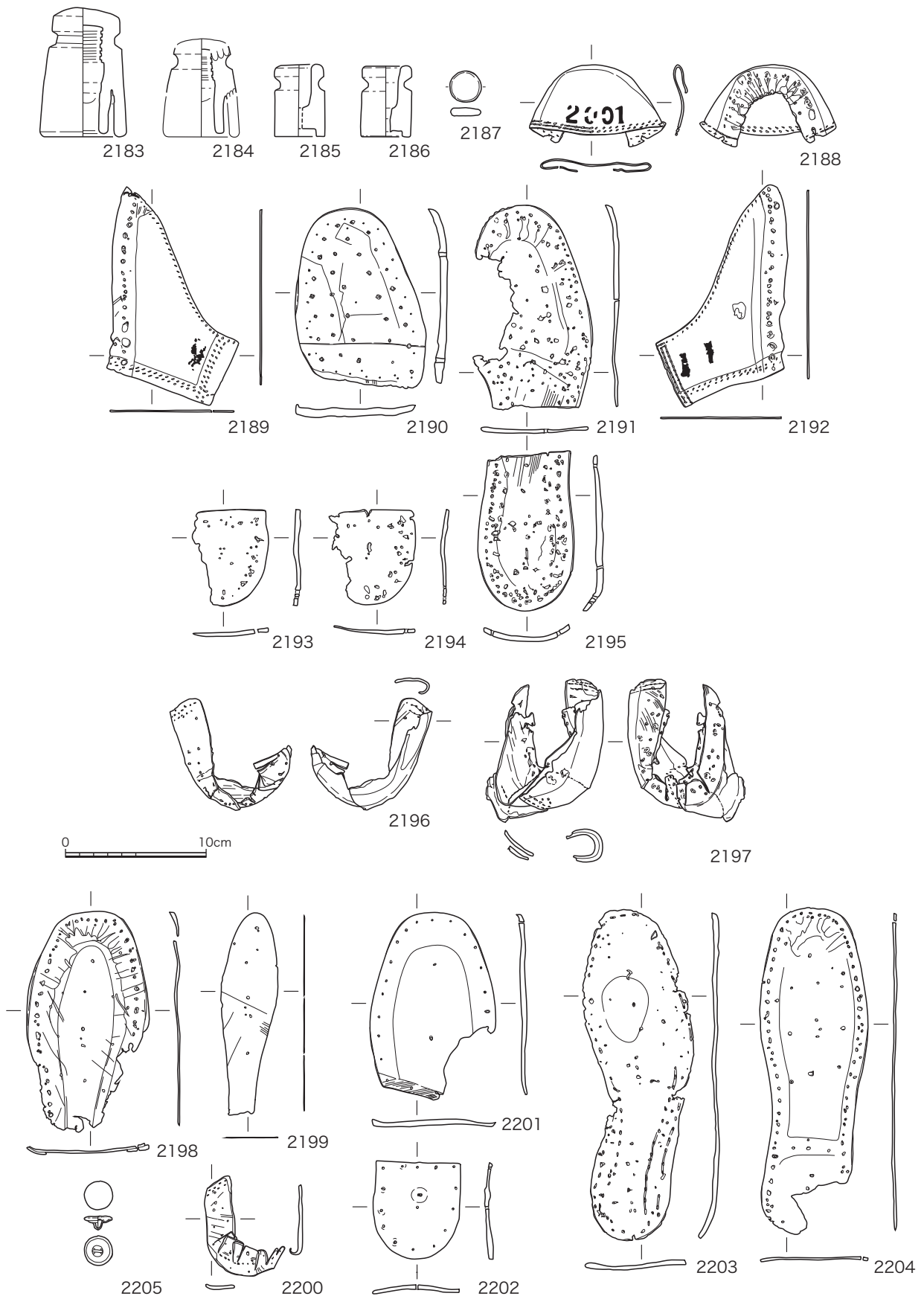
## 第2項 SK56 出土遺物

### (第177～178図 2183～2210)

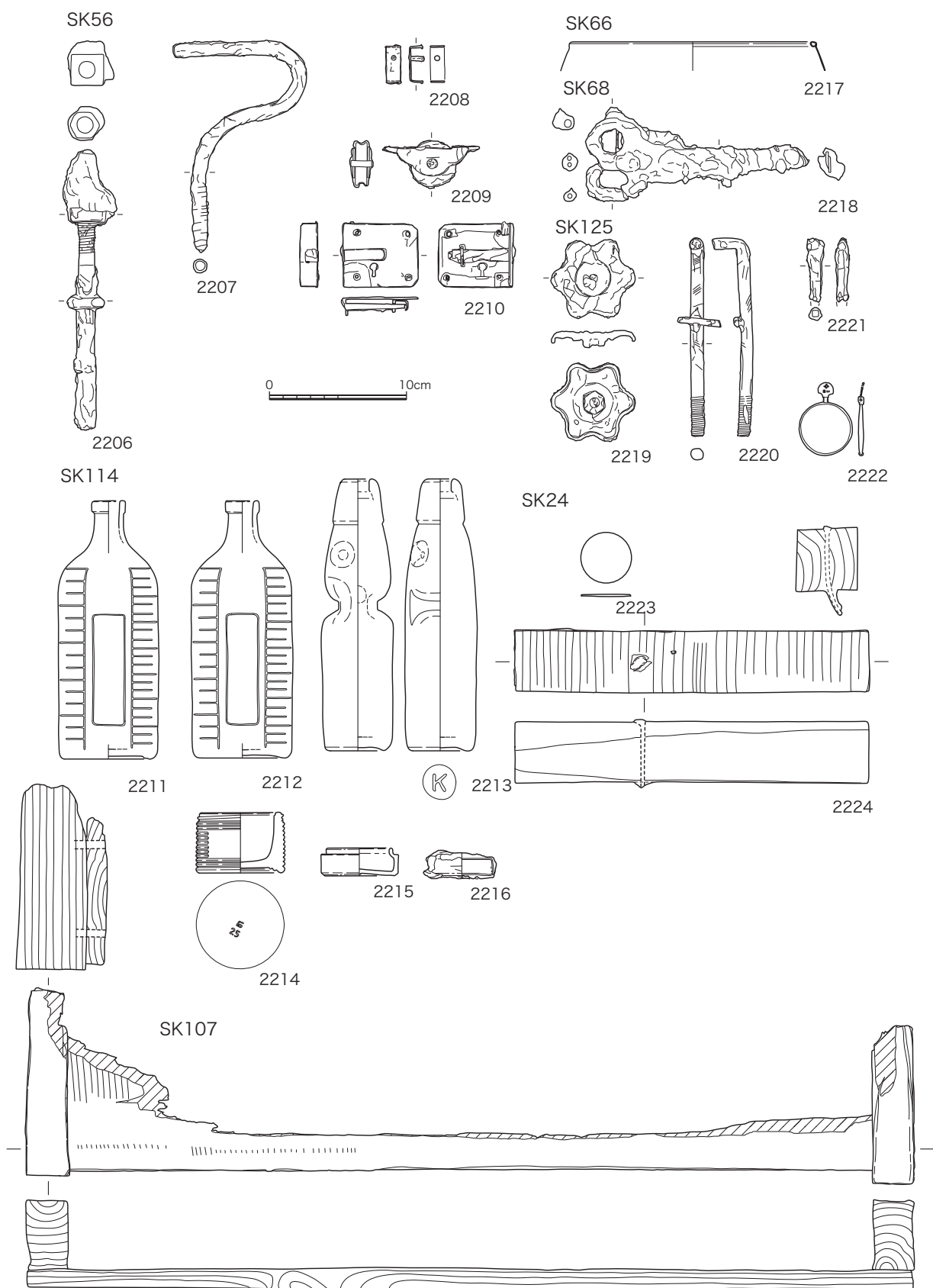
SK56からは革製品を中心に175点が出土した。

革製品は全て革靴であり、外履きである編上靴と上履きである営内靴が存在する。2188は豚革製の営内靴であり墨書で「2001」と記されている。この数字は病室番号や医師などの部屋番号の可能性が高い。2190・2191は昭五式編上靴で鉾の痕跡が認められる。革は厚く毛穴が見られないことから牛革と推測される。2189・2192は豚革製編上靴の側面部分で、革1枚の面積が小さい粗製品である。裏面(内面)に赤色塗料が認められるが、これは縫製工場で部分を示すために記入された記号と思われる。2193・2194・2197は牛革製編上靴の踵部分で、2193・2194は5～6枚を重ねて踵部分を作ったものである。2197は革の裏を使用するバックスキンのものである。2195・2196は牛革製営内靴で、2195は踵部の一番内側の部分で編上靴の可能性も捨てきれない。2196はつま先部分で牛の裏革を利用している。2198は営内靴の一種で足幅が狭いことから、女性(看護婦)用の上履きの可能性が考えられる。2199は牛革製の靴中敷が縮んだもの、2200は

名古屋城三の丸遺跡 VII



第 177 図 D 期の遺物実測図 (5) SK56 (1)



第 178 図 D 期の遺物実測図 (6) SK56 (2) 他



## 名古屋城三の丸遺跡 VII

牛革製つま先、2201 は牛革製営内靴の前半分でスリッパ状のものである。2202 は豚革製編上靴の踵部分であるが、この種の豚革製の製品は珍しい。2203・2204 は牛革製営内靴の底全体で直接足が触れる部分と考えられる。今回出土した革靴はパーツが小さく細かく継いで製作されたものが多く、豚革が使用された事例も多い。これらのことから、大半は物資が乏しい昭和 19～20 年に製作された可能性が高い。

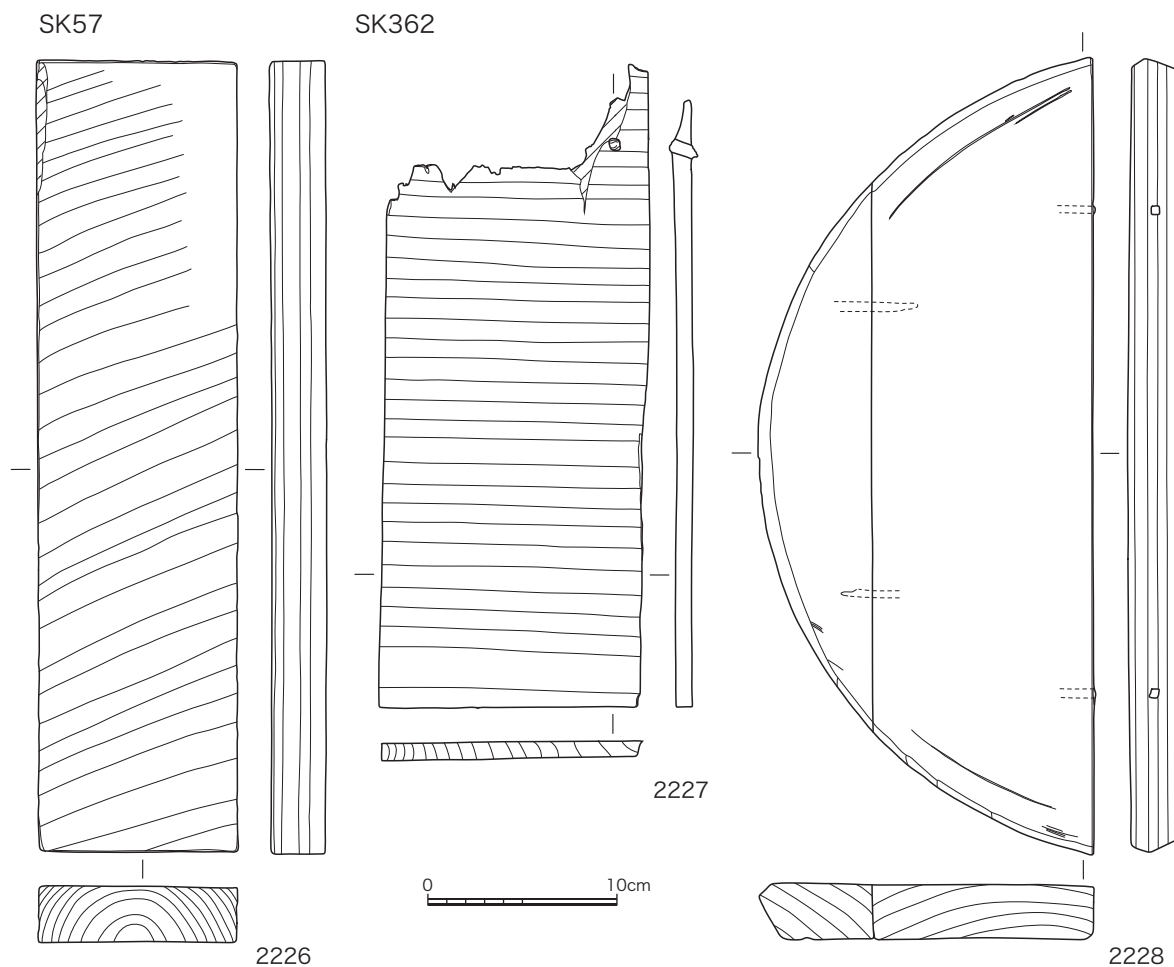
この他には碇子製品 (2183～2186)、石製品 (2187)、金属製品などがある。2205 は真鍮製と思われる兵用軍服のボタンである。2208 は留金具、2209 は戸車、2210 は銅製鍵の一部と思われ、木製箱物に付随する部品と考えられる。箱物そのものは遺存状態が不良で形状を復元できない。

SK56 出土資料は靴やボタンなど身に付ける品物が多い特徴がある。遺物として取り上げることはできなかったが、土坑内には繊維状炭化物の存在が視認されていたことや、金属製金具から木製箱物が存在した可能性が考えられることなどから、想像を逞しくすれば木製箱に衣類などの装身具を納めて埋納したことも推測できる。時期は革靴の特徴から太平洋戦争末期の資料と位置づけられ、SK96 の事例と同様、持ち物検査の際に一時的に隠匿された物品と推測される。

### 第 3 項 SK114 出土遺物

#### (第 178 図 2211～2216)

SK114 からはガラス瓶や鉄製品などが出土した。ガラス瓶には目盛り入り薬瓶 (2211・2212)



第 179 図 D 期の遺物実測図 (7) SK57・SK362

とラムネ瓶 (2213) と筒型容器 (2214) がある。瀬戸窯産磁器には白試合子身 (2215)、鉄製品には鉄製の小型筒型容器がある。時期は詳細には特定できないが、SK96 とあまり変わらないものと思われる。

#### 第 4 項 SK25 出土遺物

##### (第 178 図 2219 ~ 2222)

SK25 からは鉄製品やガラス製品などが出土した。2219 は鉄製蛇口摘み部、2222 はガラス製レンズで外周は銀色金属で縁取られ一端に突起を持っている。突起部に「+8.50」と陰刻されており眼鏡視力検査用レンズと思われる。

#### 第 5 項 活字関連出土遺物

##### (第 180 ~ 187 図 2229 ~ 2515)

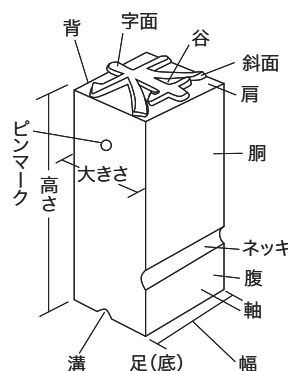
調査区西部中央の包含層中から鉄製箱形容器 (2252) が出土した。出土状況について詳細な記録が無いが、近代に属する堆積層から出土したものであると思われる。鉄製容器は長さ 14.6cm × 幅 9.2cm × 高さ 11.1cm の規模を持ち、蓋が錆び付いて固着してしまっている。側面の一部が破損しており、内部から活字 312 本などの遺物を採取することができた。しかし、まだ容器内に固着したまま取り出せない資料も相当量存在しており、ここでは取り出せた資料のみを分析した。

金属性活字は鉛とアンチモンと錫の合金で作されたものである。活版印刷に使用された活字で、大きさや形状など様々な要素から分類が可能である。まず、字面はおおよそ正方形となっているが、その規模は一辺が約 2.8mm、3.7 ~ 4.0mm、4.2 ~ 4.7mm、4.9 ~ 5.0mm、約 6.0mm、約 7.4mm の 6 類に区分できる。このうち一辺が 3.7 ~ 4.0mm のものが大多数を占めており、この規模は五号活字 (鯨尺 1 分角大で約 3.79mm 四方) に対応し、ディドー式ポイント活字で 10P に相当する。高さ (活字の最大長) は 23.3 ~

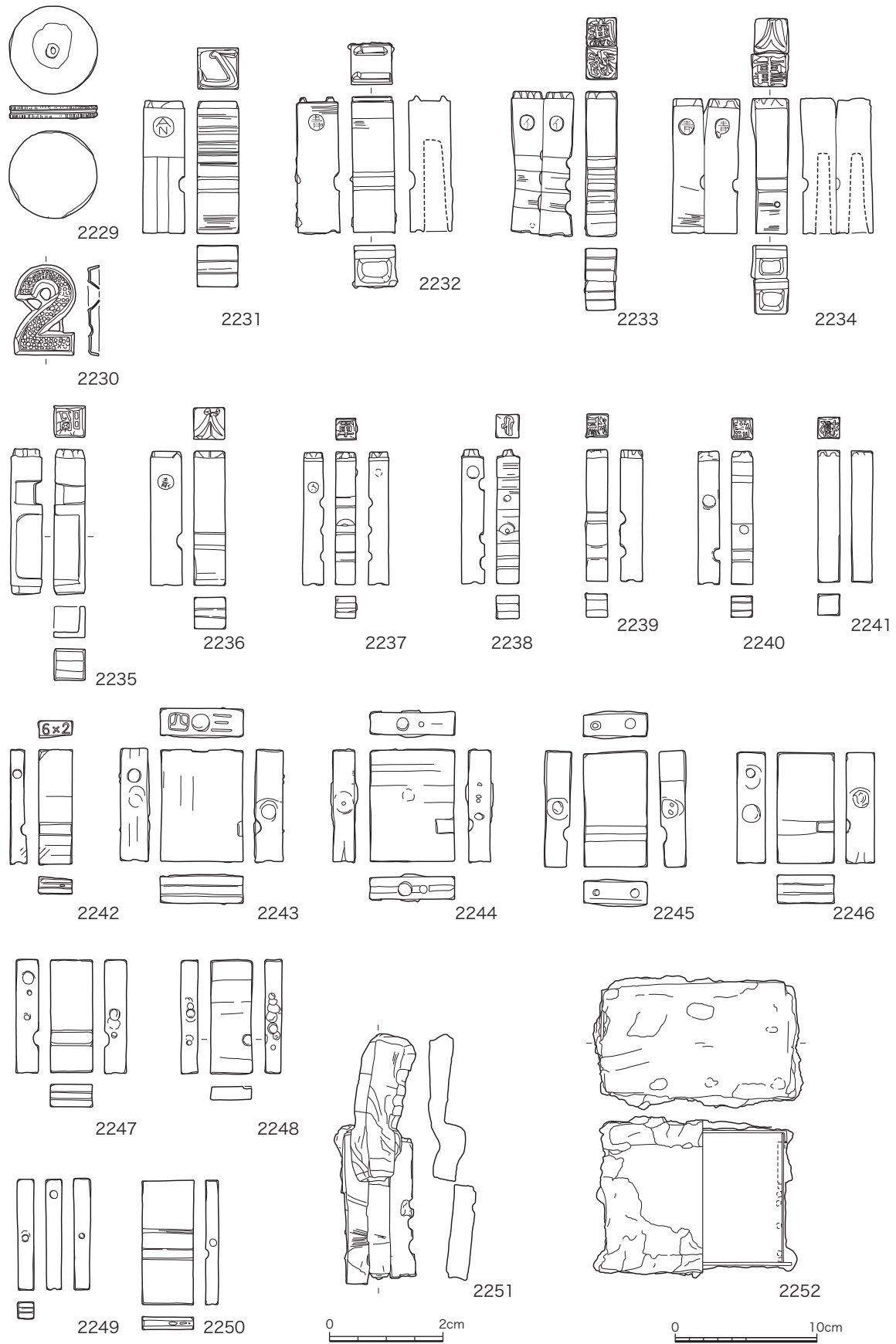
24.0mm に分布するものが多く、これは JIS 規格 23.45mm に近似する。

また、活字の腹 (一側面) に設けられた溝「ネッキ」の状態から 4 類に分類ができる。1 類は一つの側面に 3 本の溝がほぼ等間隔に配置されるもの (2237 など) である。2 類は一つの側面に 3 本の溝が間隔を違えて配置されるもの (2238 など) である。3 類は一つの側面に 2 本の溝が配置されるもの (2239 など) である。4 類は一つの側面に 1 本の溝がほぼ等間隔に配置されるもの (2240 など) である。ネッキのある側面に隣接する側面に円形の穴 (ピンマーク) を有するものがあり、その中に「AN」(2231 など)、「青」(2232 など)、「イ」(2233 など) などの文字が入るものがある。字面の反対の面である足には溝が存在するものが多いが、内部が空洞の状態になったもの (2232 など) もいくつか存在する

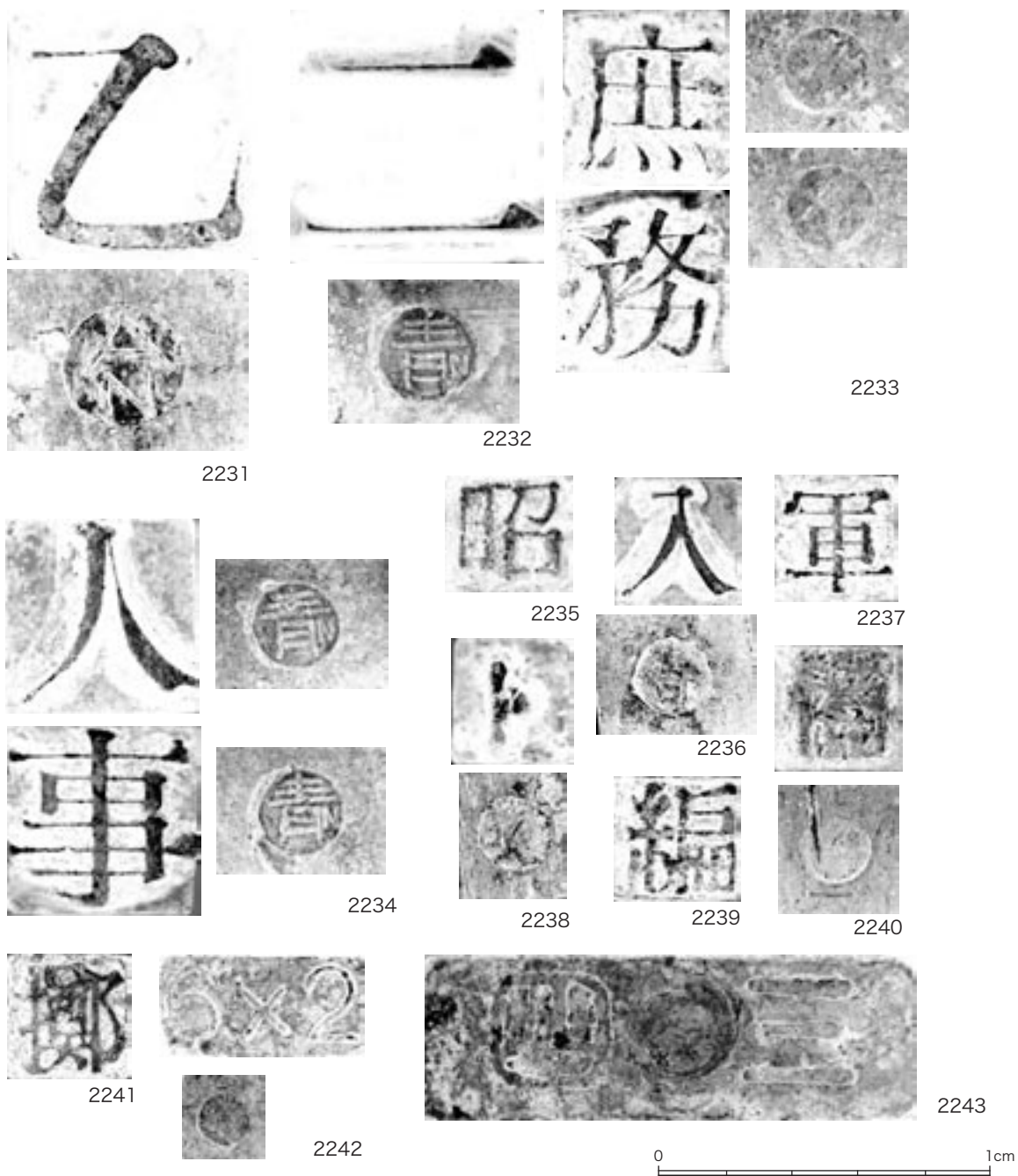
字面の字体は全部が明朝体であり、その書体は築地 5 号の字体に類似する。このうち「年」や「第」など同じ文字の活字が複数本出土した文字が存在し、明瞭に書体が異なるものがある。第 182 ~ 186 図は字面を顕微鏡写真で撮影し、この画像をモノクロ二階調にし、左右反転および白黒反転処理した後に大きさを画面上で合わせたものである。これをみると、例えば「年」の場合、2416 は一面目の「ノ」の角度が 2449 よりも急であり、2404 は 3 本の横棒の間隔が広がっていて、3



第 180 図 活字模式図



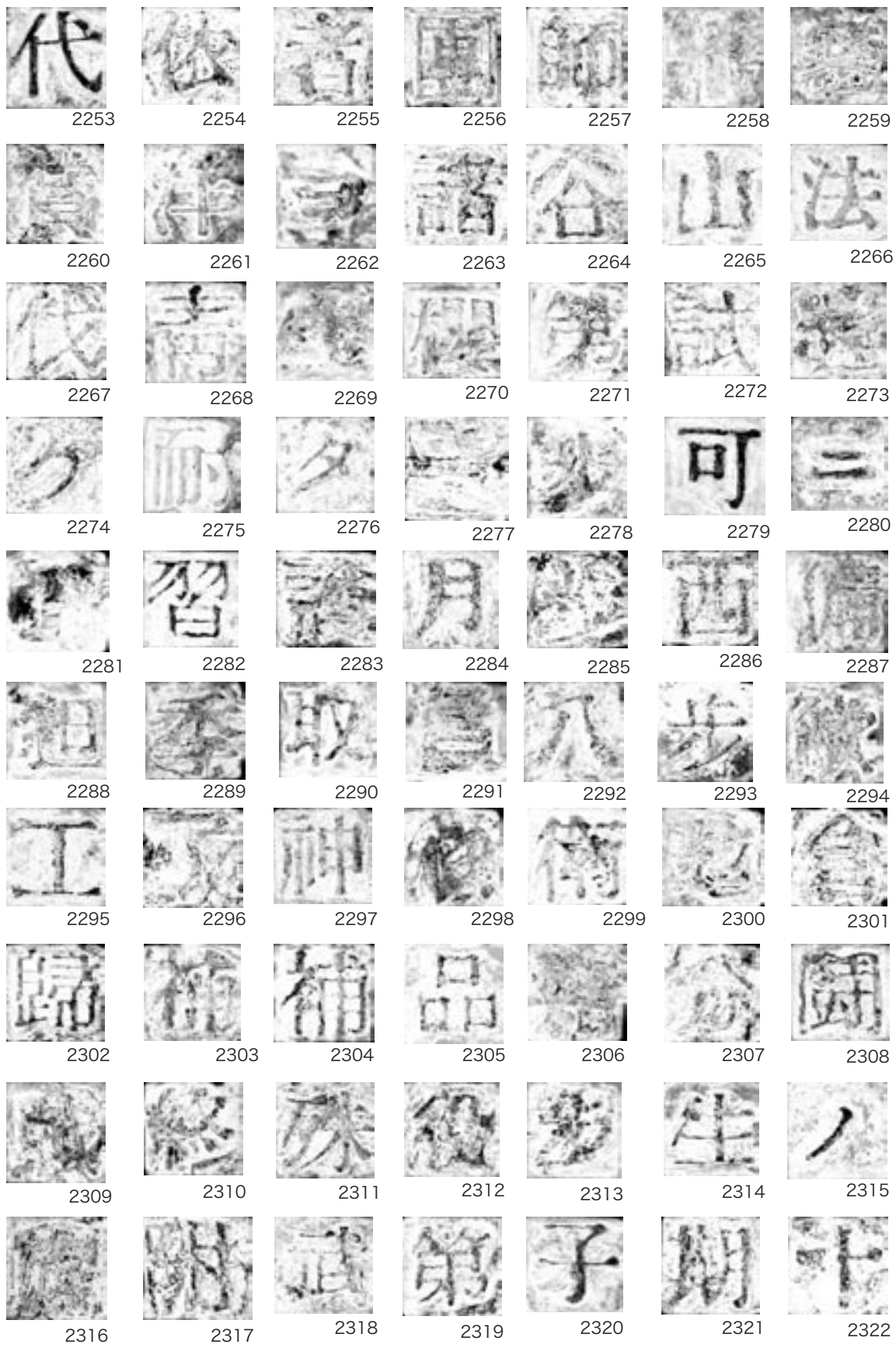
第181図 D期の遺物実測図(8)活字(1)他



第 182 図 D 期の遺物実測図 (9) 活字 (2)



名古屋城三の丸遺跡 VII



第 183 図 D 期の遺物実測図 (10) 活字 (3)



第 184 図 D 期の遺物実測図 (11) 活字 (4)

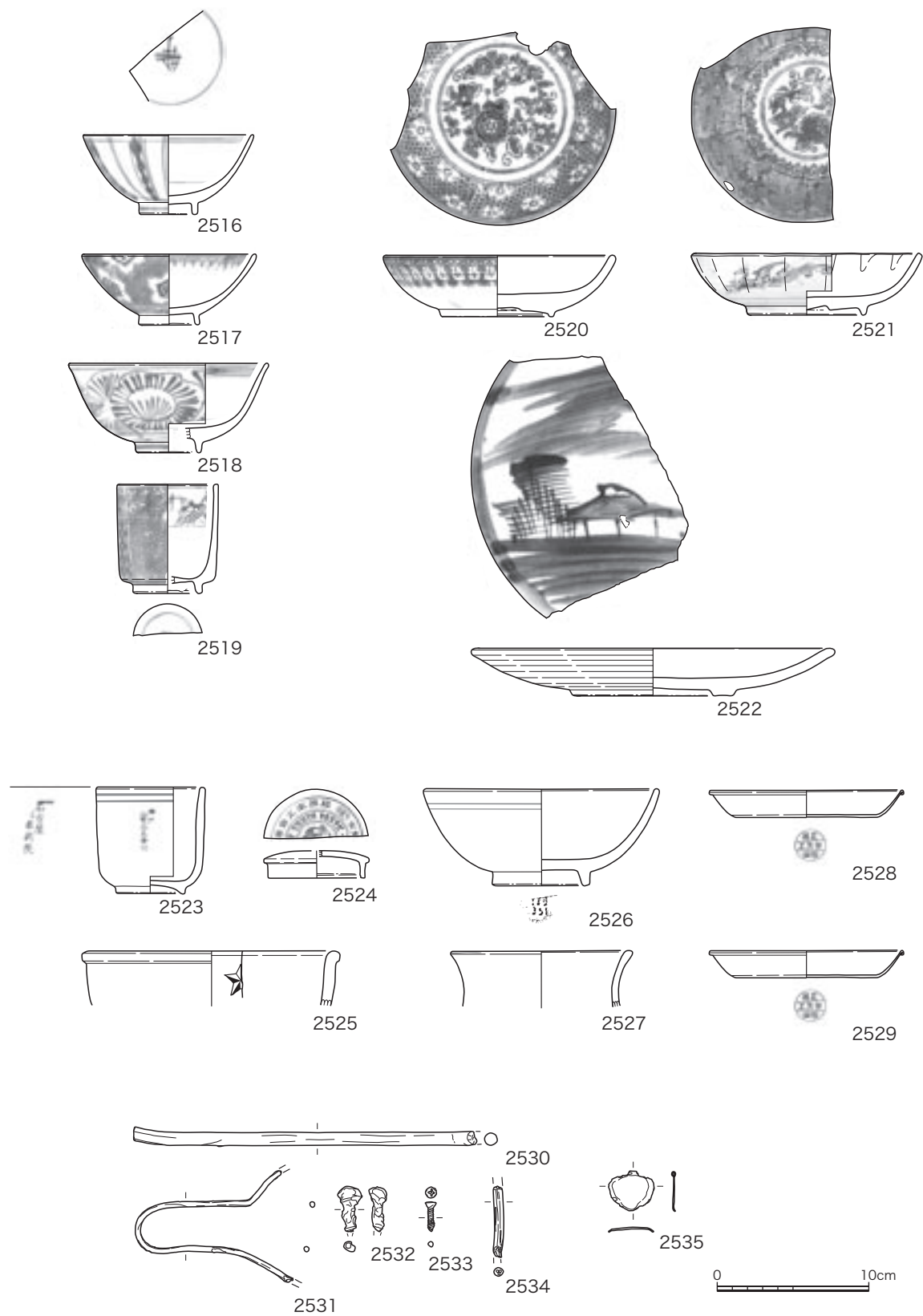




第 185 図 D 期の遺物実測図 (12) 活字 (5)



第 186 図 D 期の遺物実測図 (13) 活字 (6)



第 187 図 D 期の遺物実測図 (14) 包含層他出土遺物

点の書体は明瞭に異なる。これら書体の相違は、上述のネッキによる分類におおよそ対応すると思われるが、必ずしも全てが該当するわけではない。

2251 は4本の活字は溶着して重複したものである。高温に晒され活字は変形していた。

2508～2513 は記述記号や数学記号などの文字を字面とする約物と呼ばれるものである。「()」(2509 など) や句読点 (2513 など) が見られる。一方、2242～2250 は「込めもの」で空白を埋めるためのものである。通常の場合には高さが活字より低く、今回の事例も高さは20mm前後を測り活字よりも3mmくらい低い。平面形の大きさは様々であり、溝やピンマークも多様な位置に設けられていた。大半は字間調節のための「スペース」と思われる。2242には「6×2」、2243には「四三」の文字が認められる。

活字以外には銅製円板(2229)や徽章(2230)などがあるが、他の製品はごく少量である。2230は軍服の襟などに着用した人物の所属(連隊番号)を示すための徽章と考えられ、「2」と造形されている。孔を利用して衣服に縫い込まれた縫い付け式のものと考えられ、全部で2点出土した。

これらの鉄製箱物に収納された活字は300点以上を数えるが、まとまった文章を作成するに

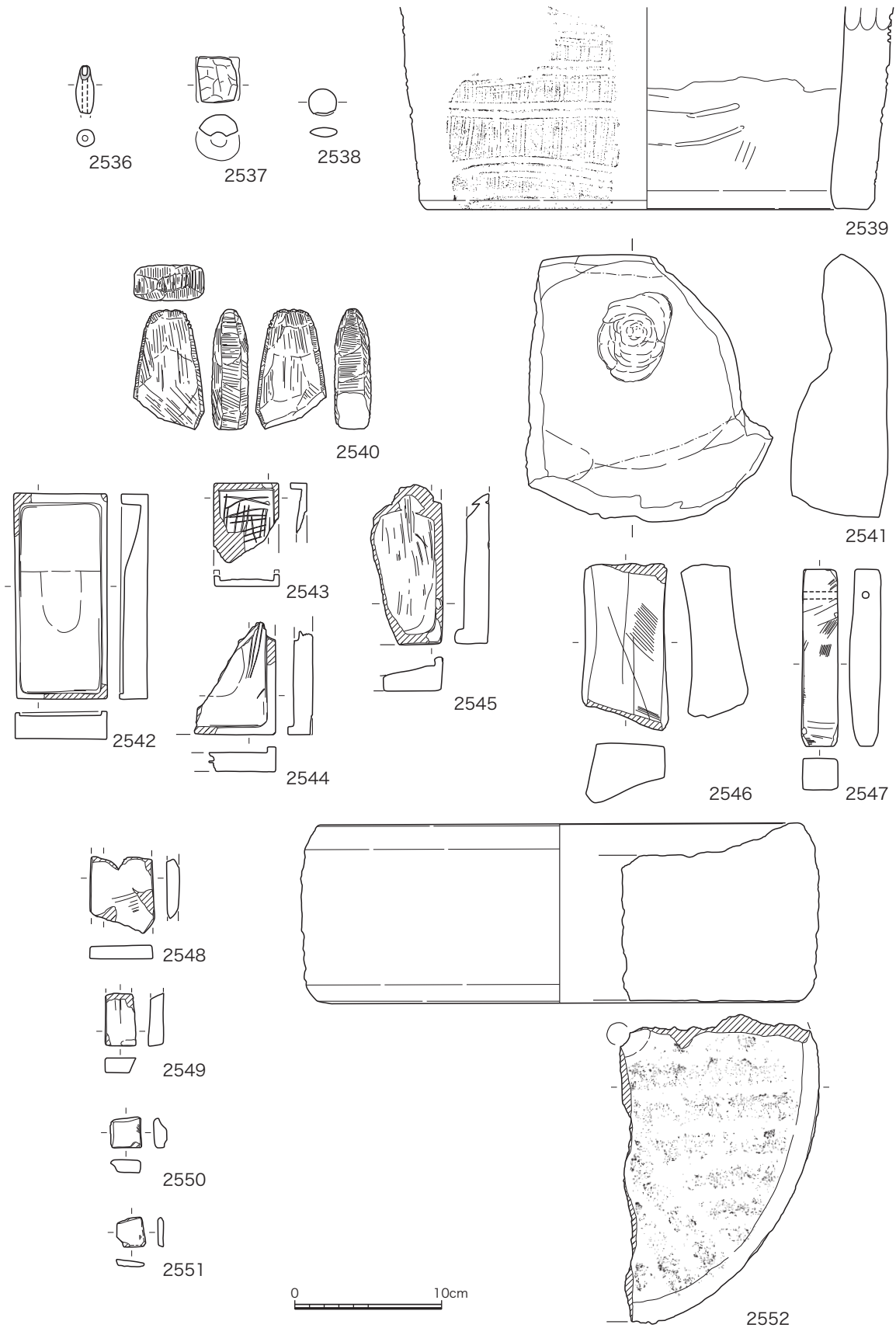
ては字数が少なすぎる。文字の内容は、「衛」「醫」「藥」「骨」などの病院関連文字、「軍」「陸」「兵」「歩」「佐」などの軍隊関連文字、「區」「亞」「哈」「週」「昭」「和」などの地名や時間を示す文字、「庶務」「人事」「部」「特」「官」「勤」「號」「免」「乙」などの職制や文書に使用される文字などがあり、総体的に考慮すると陸軍病院に関連する内部印刷物に使用されたものと推察される。文字数が少なすぎる点とかな文字や約物が少ない点を考慮すると、名刺や軍用備品ラベルなど小型印刷に用いられた活字の可能性が考えられよう。

## 第6項 包含層出土遺物

### (第188図 2516～2535)

表土掘削や遺構検出の際に出土した近代遺物のうち代表的なものを取り上げ報告する。2516～2522は瀬戸窯産磁器染付碗皿類で、コバルトで紋様が施されている。2516～2518は明治10年～20年くらいまでの時期に属し、2519～2521は型紙刷りで施紋された製品である。2523・2524はクロム緑釉で施紋されたもので、2524は型紙刷りで明治20年代～大正くらいに位置づけられよう。2528・2529はアルミ製食器皿で裏面に「名古屋国立病院」と隠刻されている。太平洋戦争後の資料である。





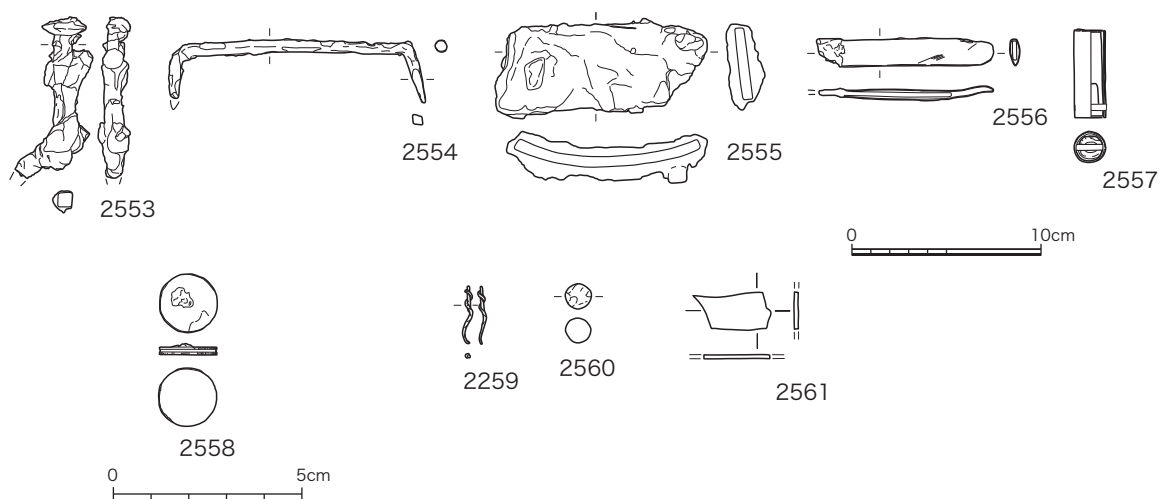
第 188 図 時期不明の遺物実測図 (1)

## 第6節 時期不明の遺物 (第189図 2536～2552)

良好な遺構一括資料として認識できなかった資料のうち時期を特定できないもの、その他の時期のものをここで報告する。

2536・2537は土錘、2538は基石状土製品で時期は特定できない。2539は瓦質製品で内面は著しく磨耗し外面は刻線が施された円筒状遺物である。井戸側の可能性が高くC期以降のもの

と推測される。2540は石斧の可能性も考えられたが、細かな擦痕が全面に存在することから砥石と推定しておきたい。2541は中央付近が窪む平坦な石であるが、原始時代のものではないと推測される。2542～2545は硯、2546～2551は砥石、2552は石臼で、中世以降と思われる。



第189図 時期不明の遺物実測図(2)



## 第4章 自然科学的分析

### 第1節 名古屋城三の丸遺跡地下の層序, 堆積環境と地形解析

鬼頭 剛 (愛知県埋蔵文化財センター)・古澤 明 (古澤地質調査事務所)

#### はじめに

名古屋城三の丸遺跡では, その地下層序について2001年に行なった調査結果が既に報告されている(鬼頭ほか, 2003)。今回, 2002年に実施された調査区において地下層序を観察する機会を得た。その層序解析と放射性炭素年代測定から新たな知見が得られたので報告する。

#### 試料および分析方法

調査地周辺における現在の詳細な等高線図作成のため, 財団法人名古屋都市整備公社発行の1/5,000「用途地域指定図」にプロットされた標高値を用い, 等高線図を作成した(第190図)。等高線図上には伊藤・川合(1993), 安達(1997), 川添(2000), 伊藤(2003)を参考にして, 調査地周辺の主要な縄文時代遺跡をプロットした。図の作成は鬼頭が行なった。

名古屋城三の丸遺跡の地下層序解析のため, 調査区の南端において遺構検出面からバックホーにより掘削し, 層序断面を露出させ, 柱状図の作成と放射性炭素年代測定の試料を採取した。柱状図の作成にあたり, 層相・粒度・色調・堆積構造・化石の有無などの特徴を詳細に記載した。層序断面からはテフラ分析として16試料, 放射性炭素年代測定に有効な植物片や土壌を7試料採取した(第10表)。また, 庄内川沖積低地の地下層序解析のため, 都市基盤整備公団と愛知県建設技術研究所から調査地周辺のボーリング・データを得た。柱状図の作成と分析試料の採取は鬼頭が行なった。

テフラ分析の試料は洗浄・篩別し, 極細粒砂サイズ(1/8~1/16)に粒度調整し, この粒度調整試料中の火山ガラスおよび自形で新鮮な角閃石や斜方輝石の含有率を測定した。粒子組成の把握には通常の200粒子の観察とともに, 微量含まれる特徴的なテフラ起源鉱物を識別するため, 2000粒子中のテフラ起源鉱物含有量も把握した。屈折率の測定には液浸の温度を直接測定して屈折率を求める温度変化型測定装置MAIOT(古澤, 1995)を使用した。測定精度は火山ガラスで $\pm 0.0001$ , 斜方輝石および角閃石で $\pm 0.0002$ 程度である。分析は古澤が行なった。

放射性炭素年代測定は加速器質量分析(AMS)法により測定を行なった。分析方法は125 $\mu\text{m}$ の篩により湿式篩別を行ない, 篩を通過したものを酸洗浄し不純物を除去した。石墨(グラファイト)に調整後, 加速器質量分析計にて測定した。測定された $^{14}\text{C}$ 濃度について同位体分別効果の補正を行なった後, 補正した $^{14}\text{C}$ 濃度を用いて $^{14}\text{C}$ 年代を算出した。 $^{14}\text{C}$ 年代値の算出には, $^{14}\text{C}$ の半減期としてLibbyの半減期5,568年を使用した。 $^{14}\text{C}$ 年代の暦年代への較正にはCALIB4.3を使用した。測定は株式会社パレオ・ラボ(Code No.; PLD)に依頼した。

#### 分析結果

##### 調査地周辺の等高線図

作成した現在の等高線図を第190図に示す。等高線間隔は標高8mまでが0.5m(一部では1.0m), 標高8~14mまでは1m, 標高14m以

上では 0.5m である。標高 8m 以上で等高線間隔が狭い部分は急傾斜であり、急崖を形成する。この標高 8m 以上を示す範囲には第四紀更新統の熱田層が分布し、熱田台地（あるいは名古屋台地）とよばれる。台地の北西端頂部は標高約 10m で、東へ向かい標高 16m ないしは 17m まで徐々に標高をあげる。現在、名古屋城の南には東西方向に出来町通（主要地方道白壁・三の丸線）が、名古屋城の東には南北方向の天津通がある。これらの道路が交差する北側に調査地点は位置し、調査地点周辺（名古屋市中区丸の内 4 丁目）では標高 8m から 13m に谷地形が認められる。周囲よりも低いこの谷地形部分に天津通がのびている。また、先の出来町通と国道 41 号線とが交差する名古屋市東区白壁 4 丁目では、標高 10m から 15m に谷地形が認められる。さらに東側、名古屋市東区芳野 2 丁目には標高 16m から 17m の小丘状を呈する地形の間に標高 10m から 15m で谷地形が認められる。標高 16～17m の小丘状の上には長久寺貝塚や片山神社遺跡といった縄文時代遺跡が知られている。熱田台地の北縁に沿って北区大杉一丁目（標高 6.0m）から西区城西三丁目（標高 3.5m）にいたる明瞭な谷部が認められる。

名古屋城三の丸遺跡の深掘層序

名古屋城三の丸遺跡 02 区においてバックホーにより遺構検出面（標高 11.96m）から深度約 3.5m までの地下層序断面を得た（第 191 図）。下位層より、標高 8.50～8.85m までは粗粒砂層からなる。風化の程度が進行し、含まれる鉱物粒子は指や手刈り等により容易に破碎される。標高 8.85～9.58m までは全体に粘土層からなり、標高 8.85～8.94m は紫灰色を呈する塊状かつ均質な粘土層である。標高 8.94～9.22m はともに層厚約 1cm の黒褐色と紫灰色を呈する粘土層の互層からなる。標高 9.22～9.58m は灰褐色を呈する塊状・均質な粘土層である。植物片が混じる。

標高 9.58～9.76m は粗粒砂層からなり、標高 9.58～9.63m は黒褐色の粘土ブロックが混じる粗粒砂である。本層下底面には下位層を削剥した浸食面がみられる場合もある。標高 9.63～9.76m は淘汰良好な粗粒砂層からなる。全体に黄褐色を帯びており、含まれる鉱物の風化の程度も著しい。

標高 9.76～10.20m は塊状・均質な灰褐色を呈する粘土層からなり、植物片を含む。標高 10.00～10.20m も塊状・均質な灰褐色を呈する粘土層であるが、植物の根跡が認められる。標高 10.20～10.35m とともに層厚約 1cm の黒褐色と灰褐色を呈する粘土層の互層である。標高 10.35～10.60m は黒褐色粘土層とシルト層との互層からなり、平行層理を基本とするが、一部シルト層にレンズ状の部分もみられる。

標高 10.60～10.78m は黒褐色粘土層、標高 10.78～10.98m は粘土ブロックの混在層である。粘土ブロックは黒褐色あるいは黄褐色を呈するものがみられる。基質は粘土からなる。

標高 10.98～11.96m は全体に粘土層からなり、標高 10.98～11.37m は塊状・均質な灰色粘土層、標高 11.37～11.77m は褐色粘土層であり、土壌化の程度が著しい。標高 11.77～11.96m は黒褐色粘土層で、土壌化の程度が著しく、近世の遺物・遺構が確認される。

#### テフラ分析

深掘層序断面から計 16 試料を採取した。分析結果を第 192 図に示す。試料 1（標高 8.52m）～14（標高 11.08m）には光沢を帯びた緑褐色普通角閃石が微量含まれる。この角閃石の屈折率は 1.682-1.697 である。また、試料 1～14 にはさまざまな形態の火山ガラス・斜方輝石・単斜輝石および角閃石が含まれる。火山ガラスの屈折率は 1.500-1.5090 とブロードで明瞭なモードはみられない。斜方輝石の屈折率も 1.701-1.721 とブロードで明瞭なモードが識別できない。試料番号 16（標高 11.89m）にはバブルウォールタイ

## 名古屋城三の丸遺跡 VII

プの火山ガラスが1%程度含まれる。このガラスの屈折率は1.495-1.500である。

### 放射性炭素年代測定

深掘層序断面から計7試料の放射性炭素年代値を得た(第10表)。下位層では標高8.94~9.23mの黒褐色粘土と紫灰色粘土の互層で採取した土壌(標高9.00m)で5725 cal yrs BP(PLD-2147)、上位層では標高11.77~11.96mの黒褐色粘土層から採取した木片(標高11.95m)で650, 575 cal yrs BP(PLD-2153)であった。

## 考察

### 2001年調査区地下の熱田層

深掘層序断面の粒度組成をみると、層序全体では粘土粒子が卓越し細粒堆積物により構成され、標高8.50~8.85mと標高9.58~9.76mに粗粒砂層が認められるのみである。対して、今回の調査地点から南西方向へおよそ900m隔たった2001年の調査区(第190図)において、深掘層序(標高7.97~11.20m)には粗粒砂層が卓越していたことと比べると、あきらかに層相を異にしている。

ところで、名古屋市および周辺地域の地下地質は全体として砂礫・泥互層からなり、下位より東海層群(第三紀)、海部・弥富累層(中部更新統)、熱田層下部(上部更新統)、熱田層上部(上部更新統)、第一礫層(上部更新統)、濃尾層(最上部更新統)、南陽層(完新統)などの第四系の累層から構成される。それらの自然地理学的分布は、丘陵~高位段丘が中部更新統、中・低位段丘は上部更新統、沖積低地は上部更新統最上部~完新統より構成される。名古屋城三の丸遺跡は熱田台地上に立地し、熱田台地は上部更新統の熱田層により構成されている。この熱田層および周辺地域の地形・地質に関しては松澤・嘉藤(1954)による詳しい記載以来、多くの研究・報告が行われてきた(総理府資源調査会, 1956; 桑原, 1968,

1975; 名古屋地盤調査会, 1969; 濃尾平野第四系研究グループ, 1977; 桑原ほか, 1982; 坂本ほか, 1984)。桑原(1975)は熱田層を最下部層・下部層・上部層に区分した。熱田層最下部層は濃尾平野の中央部の地下にのみみられる砂層である。下部層は濃尾平野の地下全域に分布し、地表では熱田台地にのみ露出する海成粘土層である。熱田海進(濃尾平野地下第四系研究グループ, 1977)とよばれる最終間氷期の海進堆積物と考えられる。本層上限面の深度は濃尾平野西縁部では-140mにおよぶが、熱田台地では10m以下である。上部層も濃尾平野の地下全域に分布する。地表では熱田台地と守山台地に露出する。主に砂層からなり、シルト・粘土層やレンズ状の礫層も挟まれる。層厚は濃尾平野西縁部で60m以上、熱田台地で30~40mであるという特徴をもつ。

さて、名古屋城三の丸遺跡の2001年の調査では標高7.97~11.20mまでに、粗粒砂層と粘土層からなる深掘層序が得られ、堆積相解析から河川流路(チャンネル)と後背湿地とをくり返す河川卓越環境が推定された(鬼頭ほか, 2003)。また、堆積年代の推定のためテフラ分析を行ない、標高7.97~8.30mにみられる粗粒砂層中の標高8.01mの層準からは阿蘇4テフラ(Aso-4)が、その直上の標高8.18mの層準からは大山生竹テフラ(DNP)が識別できた。それらの降灰年代について、阿蘇4テフラは86~90 ka (kaは $10^3$ 年前を表す地質年代単位)、大山生竹テフラは木村ほか(1999)により $80 \pm 40$  kaとされた。このことから砂層は9~8万年前以降に堆積したと思われる。とくに大山生竹テフラの識別できる層準からは斜方輝石および単斜輝石を主体として角閃石を含む御岳火山起源の御岳-奈川(On-Ng)も含まれる。標高8.18m付近の(中村ほか, 1992)砂層上部は5万年前以降に堆積したのと思われる。

標高8.47~9.63mにも粗粒砂層が認められ、

標高 8.70m と標高 9.18m の層準からは御岳火山起源のテフラ（御岳 - 奈川 (On-Ng), 御岳辰野 (On-Tt), 御岳三岳 (On-Mt)）の岩石記載（町田・新井, 1992）に類似することから, 5 万年前以降のテフラを混在した木曾川泥流堆積物と考えられた。

標高 11.11 ~ 11.20m は黒褐色シルト質粘土層で, 標高 11.14m の層準からは屈折率 1.495-1.500 のバブルウォールタイプの火山ガラスが含まれた。この火山ガラスの屈折率と木曾川泥流堆積物の層準よりも上位にあるというその層位関係から, 始良 Tn テフラ (AT) 起源と考えられた。その年代は村山ほか (1993) により 24,330 yrs BP とされ, 約 2 万 4 千年前以降に堆積したことがわかった。本層では放射性炭素年代測定も実施し, 標高 11.19m で 10890-10755 cal yrs BP(PLD-1594) であった。

熱田層で確認される広域テフラについて, 熱田層上部には鬼界 - 葛原テフラ (K-Tz) が挟まれており (諏訪ほか, 1995), 木曾川御岳起源の On-Pm1 (Pm-I), On-Tt (Pm-III) などを含む (小林ほか, 1967; 水野, 1996) という報告がある。また, その堆積環境について森 (1980) や Mori (1986) は珪藻分析に基づいて, 熱田層の最下部砂泥互層は泥炭湿地の発達した河川下流域での堆積が考えられ, 海進の証拠は得られていない。下部層では, その下部で海成種が急激に増加し, 下部から中部にピークがあり, 上部へ漸減していて, 盆地の縁辺部よりの甚目寺・稲沢では上部層準で小海退・小海進がみられた。上部層では淡水性群集がみられ, 泥炭湿地の発達した河川下流域での堆積環境が推定された。また, 砂礫層の

発達が少ない, 縁辺部に限られることから, このときの海水準低下はそれほど大きくなかったと推定した。さらに名古屋地盤調査研究会 (1969) は, 熱田層下部の第 5、第 4 粘土層には貝化石が含まれるものの, 第 4 粘土層の中・北部の地域では海成層の証拠に乏しいこと, 熱田層上部では砂層と泥層が交互に堆積しており, 海水準の変化が反映していると考えられること, また, 最上部の砂層は浅海~海浜または三角州ないし河床性の砂層であると考えられることを述べている。

2001 年実施の調査では, 標高約 8 ~ 11m までに約 8 ~ 9 万年前から約 2 万年前までの河川卓越環境が推定できた。その結果は上で述べたような既に報告されている熱田層上部の特徴と一致しており, 2001 年の調査区地下には典型的な熱田層上部層が分布することがわかった。

2002 年調査区の地下層序に記録される堆積環境

2001 年の調査区では堆積相解析とテフラ分析, 放射性炭素年代測定から, 調査区の地下は熱田層上部層の分布域であることがわかった。

2002 年の調査でも, いわゆる熱田台地として区分される台地上に調査区が立地することから, その地下には熱田層上部層の分布が予想された。ところが, 7 試料から得られた結果は, 標高 9.00m の土壌が 5725 cal yrs BP(PLD-2147), 標高 9.60m の土壌が 5705, 5695, 5675, 5660 cal yrs BP(PLD-2149) を示した。また, 標高 9.10m の土壌で 6445, 6420, 6410 cal yrs BP(PLD-2148), 標高 9.60m の土壌で 5705, 5695, 5675, 5660 cal yrs BP(PLD-2149), 標高 11.90m で 6170, 6140, 6110, 6065, 6060,

標高 (m)	堆積物	試料の種類	<sup>14</sup> C年代 (yrs BP)	δ <sup>13</sup> CPDB (‰)	暦年代較正值 (1σ, cal yrs BP)	1σ 暦年代範囲 (cal yrs BP)	Lab Code No.(method)
9.00	黒褐色粘土と紫灰色粘土の互層	土壌	4995±30	-23.0	5725	5745-5660(99.0%)	PLD-2147(AMS)
9.10	黒褐色粘土と紫灰色粘土の互層	土壌	5665±35	-23.5	6445,6420,6410	6475-6410(93.0%)	PLD-2148(AMS)
9.60	黒褐色粘土混じり粗粒砂	土壌	4970±30	-22.8	5705,5695,5675,5660	5725-5655(100%)	PLD-2149(AMS)
10.25	黒褐色粘土と灰褐色粘土の互層	土壌	5165±30	-23.2	5920	5935-5905(85.3%)	PLD-2150(AMS)
10.69	黒褐色粘土	土壌	5200±30	-23.1	5930	5950-5920(58.2%)	PLD-2151(AMS)
11.90	黒褐色粘土	土壌	5330±30	-22.8	6170,6140,6110,6065,6060,6005	6075-6000(64.7%)	PLD-2152(AMS)
11.95	黒褐色粘土	木片(サワラ)	655±30	-22.2	650,575	595-565(67.2%)	PLD-2153(AMS)

第 10 表 名古屋城三の丸遺跡 O2 区深堀地点のテフラ分析結果



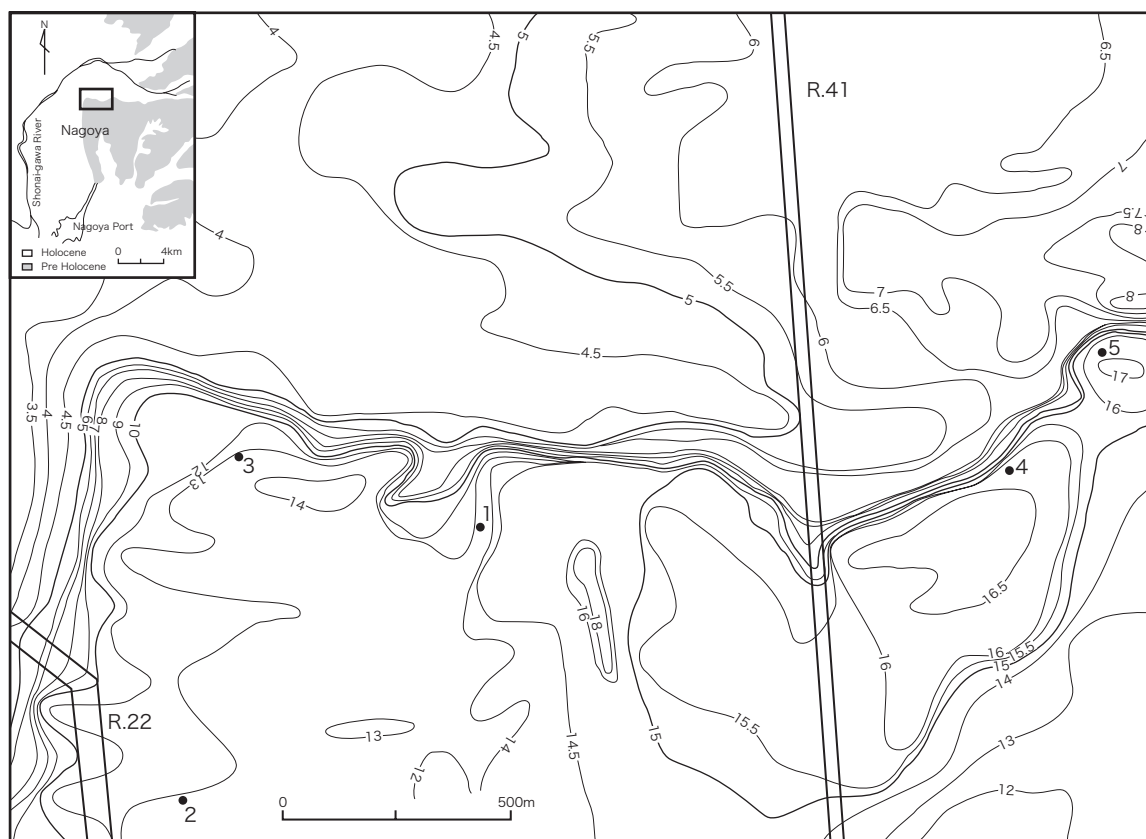
## 名古屋城三の丸遺跡 VII

6005 cal yrs BP(PLD-2152) と、一部では年代値の逆転が生じている。

ところで、現在の地形解析のため等高線図を作成したが、先にも述べたように今回の調査地点付近には標高 8m から 13m に谷地形が認められた。いっぽう、テフラ分析からは標高 8.52m (試料 1) から標高 11.08m (試料 14) までにはさまざまな形態の火山ガラス、斜方輝石、単斜輝石および角閃石といった多量のテフラ起源粒子を混在した。また、火山ガラスの形態から木曾川泥流堆積物のそれと一致した。最上部の標高 11.89m (試料 16)からは屈折率 1.495-1.500 のバブルウォールタイプの火山ガラスが検出された。この火山ガラスは屈折率から始良 Tn テフラ (AT) 起源と考えられる。

さて、テフラ分析からは御岳火山起源のテフ

ラと始良 Tn テフラが検出された。御岳火山起源のテフラは約 5 万年前 (中村ほか, 1992), 始良 Tn テフラから約 2 万 4 千年前 (村山ほか, 1993) の噴出年代が報告されている。いっぽう、放射性炭素年代測定では約 5000 ~ 6000 年前の値が得られ、テフラ分析と放射性炭素年代測定との分析結果には相違がみられる。違いの生じた原因について、作成した等高線図の調査地点にみられる標高 8 ~ 13m の谷地形に注目したい。谷地形の推定される場所には現在、南北方向にのびる大津通があり、道路は現在でも低角度で北へ傾斜する様子が観察できる。この傾斜は、大津通を建設する際に、台地面を開削してできたものとも考えられる。しかし、もし熱田層上部層が露出する台地を削って道路建設が行なわれたとすれば、その地下には 2001 年に調査したときと同様な層序



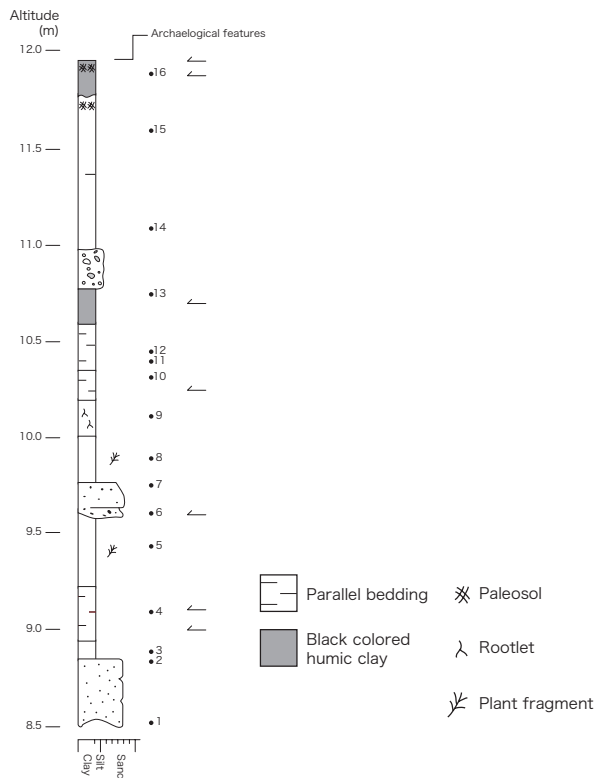
第 190 図 調査地点位置図

黒丸は調査地点と周辺の主な遺跡を示す

1. 名古屋城三の丸遺跡VII
2. 名古屋城三の丸遺跡VI
3. 名古屋城天守閣貝塚
4. 長久寺遺跡
5. 片山神社遺跡

等高線 (m) は財団法人名古屋都市整備公社発行の「用途地域指定図 (1/5000)」の標高値を基に作成。等高線間隔は標高 8m までが 0.5m (一部では 1.0m), 標高 8 ~ 14m までは 1m, 標高 14m 以上は 0.5m

断面の露出が期待されよう。ところが、実際にはそれとは異なる層序を示した。また、数値年代も 5000～6000 年前を示し、あきらかに熱田層上部層とは年代を異にする堆積物であるといえる。以上のことから、2002 年の調査地区付近にみられる標高 8～13m の谷地形は、現在の道路建設といった人工的な要因で形成されたものではなく、もともと本地点に生じていた原地形であった可能性が指摘できる。深堀層序の最下位層で 5725cal yrs BP(PLD-2147) を示したことから、少なくとも約 5700 年前以前に当地には谷が存在しており、その谷を細粒堆積物が埋積していったものと推定できる(第 193 図)。また、今回の調査区で標高 8.52m(試料 1) から標高 11.08m(試料 14) までの層準で木曽川泥流堆積物に同定できる火山ガラスが混在した事実は、周囲と比較して地形的に低い場所に、台地上や谷壁に露出していた木曽川泥流堆積物が削剥され二次的に堆積したものと考えれば、上位層から下位層までの各層



第 191 図 名古屋城三の丸遺跡 O2 区における深堀柱状図  
黒丸はテフラ分析、矢印は放射性炭素年代測定を試料採取層準を示す。

準で検出された理由として矛盾なく説明できる。

#### 熱田台地北西端部の人工改変地

今回、等高線間隔 0.5m ないし 1m で標高 3.5～17m までの等高線図を作成し、標高 8m 以上を示す熱田層の台地縁辺部には小規模な谷地形が存在することがわかった。

ところで、熱田台地の北西端に突きでた形の尾根部分が、名古屋城築城の際に盛り土された人工改変地の可能性があるとの指摘があった(鈴木正貴氏私信)。このことについて、名古屋城に関する史料のひとつである絵図「御城取大体之図」をみると、直線の組み合わせのみで境される城の範囲と、それを囲む道路の様子がみてとれる。それらの直線や道路と交点をもちながら、絵図の南西側から北側を通って東側にいたる曲線がみられる。この曲線が描く形状は、本論の等高線図で示した標高 8m 以上で示される熱田台地と沖積低地との境界線に類似しており、沖積低地と台地との境界を描いたものと推定できる。いっぽう、現在の等高線図(第 190 図)には名城公園の南西側にあたる名古屋市西区堀場町と同市西区樋の口町に、標高 8～10m で北西方向へ張り出した熱田台地の尾根部分がみられる。ところが、絵図ではこの尾根の存在が予想される範囲に「ふけ」という文字の記載とともに、直線で境された城の範囲と思われる境界線が描かれるのみである。絵図において熱田台地と沖積低地との境界線と推定した曲線は、今回作成した等高線図と比較すると、台地の北西端部分でのみ大きな相違が認められる。その理由について、熱田台地の縁辺を掘削した堀川や名古屋城築城の際に掘りだされた堆積物を、熱田台地の北西側に人工的に盛り土したため、現在の等高線図に表現されるような尾根状の張り出し部分となったと推定できるようである(鈴木正



名古屋城三の丸遺跡 VII

貴氏私信)。この推定について、地質学側からは提示できるデータがまったくなく、今のところ肯定も否定もできない。台地北西端部付近のボーリングコア資料の検討や、人工改変地との解釈が妥当であれば熱田層との境界面の発見が必要であると思われる。いずれにせよ、自然科学的には予想されなかったたいへん興味深い問題であり、今後の課題としたい。

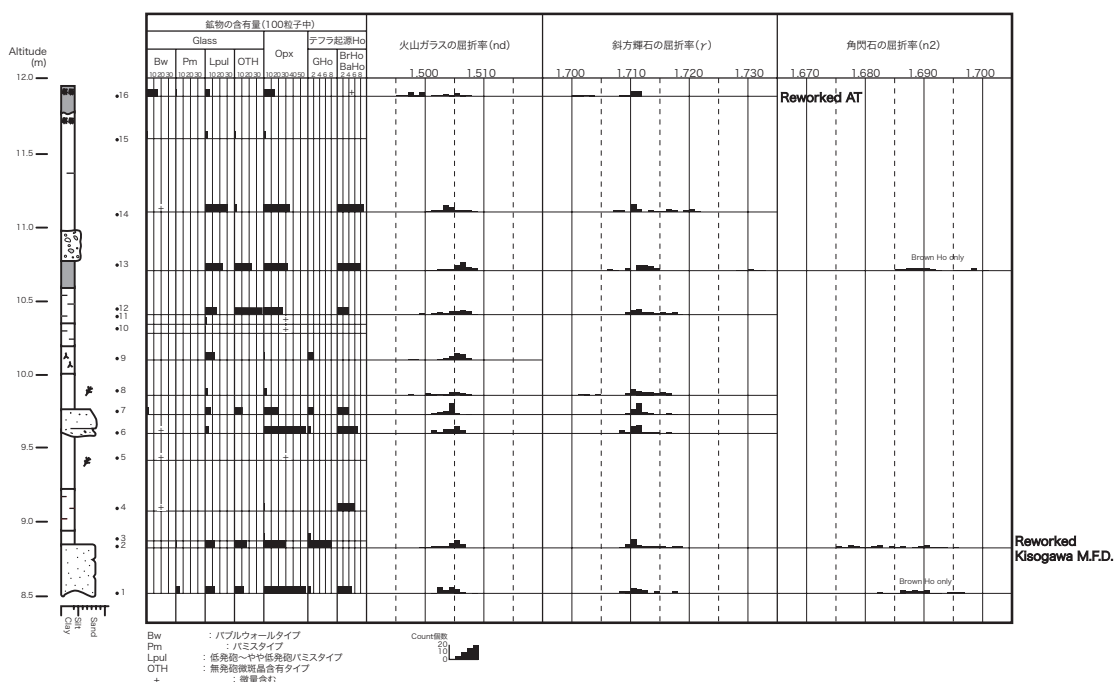
謝辞

本論を作成するにあたり、放射性炭素年代測定では株式会社パレオ・ラボ東海支店の山形秀樹氏にお世話になった。愛知県建設技術研究所の滝本守氏、都市基盤整備公団の由見慎一氏には名古屋市北区地域のボーリング・データを供与していただいた。愛知県埋蔵文化財センター調査研究員の鈴木正貴氏には名古屋城の築城に関わる問題提議と参考文献をご紹介いただいた。図面の整理では愛知県埋蔵文化財センター研究補助員の尾崎和美氏・上田恭子氏、トレース作業では研究補助員の阿部佐保子氏、試料の整理・保管では元整理補助員の服部恵子氏・宇佐美美幸氏・山口きみ代氏、

整理補助員の服部久美子氏・村上志穂子氏にお手伝いいただいた。記して厚くお礼申し上げます。

文献

安達厚三, 1997, 縄文時代, 新修「名古屋市史 1」, 名古屋市, 45-165.  
 古澤 明, 1995, 火山ガラスの屈折率測定・形態分類とその統計的な解析, 地質学雑誌, 101, 123-133.  
 伊藤正人・川合 剛, 1993, 特別展名古屋の縄文時代資料集, 名古屋市見晴台考古資料館, 147p.  
 伊藤正人, 2003, 縄文時代の名古屋 - 地形変遷と遺跡立地 -, 名古屋市見晴台考古資料館研究紀要, 5, 1-16.  
 川添和暁, 2000, 愛知県の縄文遺跡 (1)- 尾張北部地域について -, 研究紀要 第 1 号, 愛知県埋蔵文化財センター, 1-8.  
 木村純一・岡田昭明・中山勝博・梅田浩司・草野高志・麻原慶憲・館野満美子・檀原 徹, 1999, 大山および三瓶火山起源テフラのフィッシュントラック年代とその火山活動史における



第 192 図 名古屋城三の丸遺跡 02 区深堀地点のテフラ分析結果

意義, 第四紀研究, 38, 145-155.

鬼頭 剛・森 勇一・上田恭子, 2003, 第VI章 自然科学分析 名古屋城三の丸遺跡地下で確認された熱田層最上部層の層序と古環, 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第115集「名古屋城三の丸遺跡(VI)」, 愛知県埋蔵文化財センター, 46-56.

小林国夫・清水英樹・北沢和男・小林武彦, 1967, 御岳火山第一浮石層-御岳火山第一浮石層の研究その1-, 地質雑, 73, 291-308.

桑原 徹, 1968, 濃尾盆地と傾動地塊運動, 第四紀研究, 7, 235-247.

桑原 徹, 1975, 濃尾傾動盆地の発生と地下の第四系, 愛知県地盤沈下研究会報告書, 愛知県, 109-182.

桑原 徹・松井和夫・吉野道彦・牧野内 猛, 1982, 熱田層の層序と海水準変動. 第四紀, 第四紀総研連絡紙, 22, 111-124.

町田 洋・新井房夫, 1992, 火山灰アトラス [日本列島とその周辺], 東大出版会, 276p.

松沢勲・嘉藤良次郎, 1954, 名古屋及び付近の地質. 同地質図, 愛知県建築部.

中村俊夫・藤井登美夫・鹿野勘次・木曾谷第四紀巡検会, 1992, 岐阜県八百津町の木曾川泥流堆積物から採取された埋没樹木の加速器 14C 年代, 第四紀研究, 31, 1.

水野清秀, 1996, 6 TB-1 コア中の火山灰・軽石分析, 名古屋港西地区ボーリングコア分析調査報告, 名古屋市総務局, 35-37.

森 忍, 1980, 濃尾平野下の熱田層のケイソウ群集, 瑞浪市化石博物館研究報告, 7, 73-83.

Mori, S, 1986, Diatom Assemblages and Late Quaternary Environmental Changes in the Nobi Plain, Central Japan, The Journal of Earth Sciences, 34, 109-138.

村山雅史・松本英二・中村俊夫・岡村 真・安田尚登・平 朝彦, 1993, 四国沖ピストンコア試料を用いた AT 火山灰噴出年代の再検討 - タンデトロン加速器質量分析計による浮遊性有孔虫の  $^{14}\text{C}$  年代 -, 地質雑, 99, 787-798.

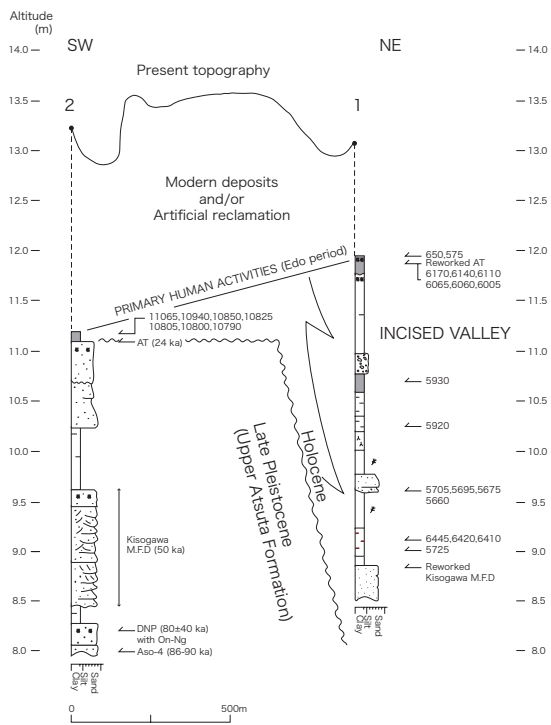
名古屋地盤調査研究会, 1969, 「名古屋地盤図」, コロナ社, 東京, 279p.

濃尾平野第四系研究グループ, 1977, 濃尾平野第四系の層序と微化石分析, 地質学論集, 14, 161-183.

坂本 享・桑原 徹・糸魚川淳二・高田康秀・脇田浩二・尾上 享, 1984, 名古屋北部地域の地質, 地域地質研究報告 (5 万分の 1 図幅), 地質調査所, 64p.

総理府資源調査会事務局, 1956, 水害地域に関する調査研究 第 1 部, 資源調査会資料, 46, 97p.

諏訪 齊・森 忍・中村俊夫・木曾谷第四紀研究会, 1995, 名古屋市瑞穂区新瑞橋地下鉄工事現場の熱田層, 名大加速器質量分析計業績報告, VI, 196-200.



第 193 図 名古屋城三の丸遺跡における地下層序横式断面図  
1 は 02 区, 2 は 01 区 (鬼頭ほか, 2003) の深堀柱状図と分析結果を示す。

## 第2節 名古屋城三の丸遺跡の埋桶の埋土より産出した双翅目のサナギについて

森 勇一（愛知県立明和高等学校）・上田恭子（同）

### 1. はじめに

昆虫は、発生の過程で変態をする節足動物として知られる。キチン質で構成された昆虫（とくに成虫）の外骨格は化学的にきわめて安定であり、酸に侵されることが少ない。このため、日本のように雨が多く湿潤で、酸性に傾いた土壌中には昆虫化石は鞘翅目 Coleoptera を中心によく保存されている。昆虫の体サイズが適度に小さく、外骨格が多く関節で連結しており、そして、これが死後もバラバラに分離することも昆虫の体節が土圧による破壊を免れる要因となっている。

双翅目 Diptera に属するハエ類では、羽化の際、サナギ Pupa の殻が環状に割れて成虫を生ずる。サナギは3齢幼虫の外皮が硬化したものであり、外見的には米俵状で通常黒褐色である。サナギの皮殻はキチン質に似た化合物によって造られており、困蛹 Coarctate pupa と呼ばれる。双翅目の困蛹も鞘翅目の体節片と並んで、遺跡中より検出される可能性が高い昆虫化石の一群である。

### 2. 分析試料

本報告に述べる名古屋城三の丸遺跡（II NS02区）の試料は、2002（平成14）年4月より9月にかけて実施された国立名古屋病院看護婦養成所大型化整備のための事前調査に際し、採取されたものである。本遺跡は、名古屋台地の北西端に位置し、弥生時代・古代・中世から近世に至る複合遺跡である。調査地点の現地表面の標高は約13mであり、遺跡の基盤層は第四紀更新世末に堆積した熱田層上部に由来する非海成の砂層である。調査面積は1,100 m<sup>2</sup>である。

分析試料は、調査地点の南端に掘削された江戸時代前期から後期にかけての埋桶（SK37）を埋積する堆積物中より採取されたものである。埋桶は直径1.1m、深さ約3mにわたって基盤層を掘り窪め、内部に板材を配置して桶状にしたものであり、従来の見解ではこの種の構造物は「井戸」と解釈されてきた。

本分析試料は、埋桶の下底にたまった黒褐色礫まじり砂質シルト層を水洗浮遊選別したもの（試料A）と、これに先だつてブロック割り法にて検出したもの（試料B）の2試料に分類される。なお、分析に供した試料の湿潤重量は、27リットル入りコンテナ2箱、計21.2kgであった。

### 3. 分析結果

#### 試料A

（標本の状況）

分析試料のうち試料Aは、2003年5月より7月の約3ヶ月間にわたり、この当時愛知県埋蔵文化財センター研究補助員であった上田恭子氏（現在明和高校非常勤講師）により、水洗浮遊選別法にて抽出されたものである。抽出後の昆虫化石は、40×50mmの小型シャーレに並べられ、エチルアルコールと蒸留水を等量混ぜた液体に浸して冷暗所にて保存されている。これらのシャーレには、同一種と考えてよい中型のサナギが多数含有され、これ以外にサイズを異にする小型のサナギ、および大型のサナギのほか、甲虫目に分類される複数種の体節片が検出されている。

試料A中のサナギの総個体数は、ほぼ完形のものについてのみ顕微鏡下で計数した結果、計1,092点であり、うち暗褐色の中型のサナギ（サ

ナギ1)が729点,黄褐色の小型のサナギ(サナギ2)が234点,黒褐色の大型のサナギ(サナギ3)が95点,これ以外に微小なサナギ(サナギ4)が34点確認された。甲虫目の検出点数は,計246点であった。

#### (標本の記載)

以下に,試料A中より検出された双翅目の囲蛹(サナギ1~3)について,その形態的特徴などについて述べる。

#### (1) 双翅目の囲蛹

##### 標本1(Ⅱ NS02K-01;サナギ1)

長さ6.2mm,最大幅2.8mmの暗~黄褐色の標本である。体は紡錘形であり,背および腹方向に扁平につぶれた形状を呈する。体表に多数の長い突起を有する。第2節には前端に1対,第3節には背面に長短各1対,側面に長短各1対,腹面に微小な1対,第4節から第11節までは背面に1対,側面に2対,腹面に微小な1対,第12節(末節)には3対の突起を有し,腹面には微小な1対の突起を備える。各突起の基部にはさらに小棘を有し,突起は全体として針状を呈する。環節には腹側の環節後部に疣状の匍匐隆(素木,1958)を生じている。匍匐隆は,各節とも一列に計6個ずつ配されており,これらは幼虫が匍匐運動する際利用される(河田,1959)。

前方気門は第2節に1対認められ,5~8個の分岐を有する。後方気門は末節背面基部に1対認められ,これらは長く突出し先端が3つに分岐している。咽頭骨格は不明瞭で小さい。

##### 標本2(Ⅱ NS02K-02;サナギ2)

長さ6.8mm,最大幅3.1mmで,標本は黄褐色ないし褐色である。後方にやや膨らんだ長卵形を呈する。標本は,9ないし10枚の環節と,頭部および尾節により構成される。頭部後方の2~3節は,本来胸部に相当するものと考えられるが,

鏡下では胸部と腹部との区別が困難であり,本論では腹部環節として一括して扱った。高倍率で観察すると,環節に背側および腹側ともに直線的に平行して配列する短刺状の微刺列が認められる。微刺列は,標本1に述べた匍匐隆同様,幼虫の運動器官として重要である。

尾端には,斜め後方に向かって強く突出する1対の後気門が認められる。他の標本には,頭部付近に前気門が認められるものも存在する。頭部付近より第2環節ないし第3環節にかけての部分には,咽頭骨格が皮殻を通して透けて観察される。咽頭骨格は黒化しており,後方で4裂し湾曲して鋭い針状となる。うち2本は細く長大であり,残る2本は太くて短い。

##### 標本3(Ⅱ NS02K-03;サナギ3)

長さ12.5mm,最大幅5.8mm,黒褐色の大型のサナギである。著しく圧密が進み,中央部が膨らんだ俵形を呈する。12節からなり,1節が頭部,2~4節が胸部,5節以下が腹部とみなすことができる。腹部の環節には,多数の微刺列が配され,これらが集合し鮫肌状を呈する。この鮫肌状の環節を地面に押し当てることにより,匍匐運動することを可能にしている。

前気門に相当する部分には,痕跡的な小突起が認められる。また,末端節後面に6対の輪状突起を有し,これらに囲まれた中央部付近には2個の後気門が配される。後気門は円形であり,この内部に3条の平行する裂孔と1個の明瞭なボタンを有している。

#### (標本の同定)

平嶋ほか(1989)によれば,双翅目は長角(カ)亜目 Nematocera と短角(ハエ)亜目 Brachycera に分類され,うち短角亜目は囲蛹を形成し羽化に際して囲蛹殻の先端が環状に裂ける環縫群 Cyclorrhapha と,囲蛹を作らず

## 名古屋城三の丸遺跡 VII

裸蛹のまま背面中央部が縦裂して羽化する直縫群 Orthorrhapha とに区分される。環縫群は、世界で計 93 科を含む大群であり、これらは 73 科からなる無弁翅類 Acalyprata, 16 科からなる有弁翅類 Calyprata, 4 科からなる蛹生類 Pupiparia に 3 分されている (平嶋ほか, 1989)。なお、短角亜目環縫群の終令幼虫の形態的分類については、Okada(1968), Smith(1989) などの研究がある。

試料 A から得られたサナギ 1 は、各環節に 6 個の疣状の匍匐隆が認められ、体表上に多数の長い突起を配するという特徴的な形状より、ハナバエ科 Anthomyiidae のヒメイエバエ *Fannia caniculari* に同定される。

また、サナギ 2 は、環節上に短刺状の明瞭な微刺列を有し、尾端に斜め後方に向かって強く突出する 1 対の後気門と気門周囲の環節上に一列の乳頭状突起が認められること、頭部付近に短い指状突起を有する 1 対の前気門が存在する特徴から、ショウジョウバエ科 Drosophilidae のキロショウジョウバエ *Drosophila melanogaster* かこの近縁種に分類される可能性が高い。

サナギ 3 については、長さ 12.5mm, 最大幅 5.8mm と大型であり、かつ末端節後面に 6 対の輪状突起に囲まれた 2 個の後気門が認められ、後気門に 3 条の平行する裂孔と 1 個の明瞭なボタンが配されることから、クロバエ科 Calliphogidae のオオクロバエ *Calliphora lata* ないしはケブカクロバエ *Aldrichina grahami* に同定される。なお、微小なサナギ 34 点 (サナギ 4) については、詳細な同定作業を行っていないが、ショウジョウバエ科 Drosophilidae に属するものである可能性が高い。

### (2) 甲虫類など

試料 A より検出された双翅目の囲蛹以外の昆虫片は、以下のとおりであった。

マグソガムシ *Pachysternum haemorrhoum* 計 125 点

ハネカクシ科 Staphylinidae 計 45 点

オサムシ科 Carabidae 計 3 点

エンマコガネ属 *Onthophagus sp.* 計 1 点

アリ科 Formicidae 計 1 点

ゾウムシ科 Curculionidae 計 8 点

コクゾウ Sitophilus zeamais 計 32 点

ハムシ科 Chrysomelidae 計 4 点

コガネムシ科 Scarabaeidae 計 3 点

オトシブミ科 Attelabidae 計 2 点

不明甲虫 Non identified beetles 計 22 点

### 試料 B (ブロック割り法で得られた昆虫化石)

次に、試料 B より産出した昆虫化石について述べる。ブロック割り法により得られた昆虫化石は、以下のようなものであった。

サナギ 1 と同一種 → ヒメイエバエ *Fannia caniculari* 24 点

サナギ 3 と同一種 → オオクロバエ *Calliphora lata* かケブカクロバエ *Aldrichina grahami* 19 点

コアオハナムグリ *Oxycetonia jucunda* 2 点

ヒメコガネ *Anomala rufocuprea* 1 点

コガネムシ科 Scarabaeidae 2 点

オサムシ科 Carabidae 4 点

ハネカクシ科 Staphylinidae 3 点

ゾウムシ科 Curculionidae 1 点

## 4. 考 察

名古屋城三の丸遺跡の埋桶 (江戸時代前期～後期) の埋土中より発見された昆虫片には、ヒメイエバエ (サナギ 1), ショウジョウバエ科のキロショウジョウバエ (サナギ 2), およびクロバエ科のオオクロバエかケブカクロバエ (サナギ 3) の 3 タイプのサナギが多数含有されることが明らかになった。中でも、サナギ 1 のヒメイエバエが試料 A の 66.8% を占め圧倒的に多かった。この



ほか、水洗浮遊選別法およびブロック割り法を通じて、マグソガムシやハネカクシ科・オサムシ科・ゾウムシ科・コクゾウ・ハムシ科。コガネムシ科などの昆虫片が検出された。

最も多く認められたヒメイエバエは、近似種のイエバエとともに主に人家内に生息し、イエバエが食卓上や畳の上で日中活動するのに対し、ヒメイエバエは部屋内の空間をたえず輪舞する習性が観察されている（鈴木・緒方，1968）。日本国内では北日本に多く、また市街地や住宅地にとくに多い。季節的には春秋に多く認められるという（鈴木・緒方，1968）。

ハエ類は人間生活に深く関わる生活をしているため、比較的自然環境の影響を受けることが少なく、また交通機関の発達によりハエ類の普通種は世界共通種が多い。日本でも大部分のハエは全土に分布する。しかし、密度は必ずしも均一ではなく、ヒメイエバエが北海道に多いのに対し、イエバエは九州に多いなど、分布には偏りが見られる（鈴木・緒方，1968）。また、市街地と農村部を比較してみると、市街地ではヒメイエバエが90.8%、イエバエが5.8%、その他のハエが3.7%、半農半住宅地ではヒメイエバエが78.3%、イエバエが16.8%、その他のハエが4.9%、農村部ではヒメイエバエが22.5%、イエバエが76.1%、その他のハエが1.4%（鈴木・緒方，1968）と、ヒメイエバエは市街地に多く、市街地に適応したハエであるということが出来る。

発生源についての嗜好性をみると、他のハエ類が生ゴミや糞尿・動物の死体などに誘引されるのにくらべ、ヒメイエバエ・オオイエバエの2種はこれらに集まるのが少なく、たくあん漬けのぬかに特徴的に発生することが知られる（鈴木・緒方，1968；林・篠永，1979）。なお、ヒメイエバエは少し黒く腐りかかった表層のぬかの部分に多く、オオイエバエは表面よりややもぐった水っぽいぬかのところに発生する傾向があるとい

う（鈴木・緒方，1968）。一般家庭や商業利用などの場面において、漬物桶や漬物樽などの減少に伴って、近年ではヒメイエバエの発生は鶏舎や鶏舎付近の施設に移ってきているという（日本家屋害虫学会編，1995；田中，2003）。

また、2番目に多く産出したキイロショウジョウバエについては、ショウジョウバエ科に属する双翅目幼虫の祖先種が主として樹液に適応していたとされ（西治，1978）、その後ショウジョウバエ類の仲間は腐敗したり発酵したりした食物中のイーストやバクテリアなどを食べるべく進化したと考えられている（素木，1958；Okada,1968；安富・梅谷，1983；平嶋ほか，1989；Smith,1989；松崎・武衛，1993）。昆虫分析試料内より各種発酵物に集まるキイロショウジョウバエを多産したことから、本遺跡の埋桶内には何らかの事情で発酵食品が存在した可能性がきわめて高いと考えられる。

その他の昆虫のうち、獣糞に多いマグソガムシ（試料Aで計125点）や同じく人糞や獣糞に誘引されるエンマコガネ属（同じく試料Aより1点）などは、昆虫分析試料を産出した周辺環境の人為的汚染について、またハエ類のウジやサナギを捕食することが多いハネカクシ科（試料Aで45点、試料Bで3点）やオサムシ科（試料Aで3点、試料Bで4点）などの食肉ないし食屍性甲虫は、発酵物にたかったヒメイエバエやキイロショウジョウバエ、あるいはこれより大型のオオクロバエ・ケブカクロバエなどの幼虫を求めて集まってきたものと考えればよく理解される。

また、穀類に特徴的なコクゾウ（試料Aで32点）は、この埋桶内に穀物や米ぬかなどが認められたことを示唆している。

本分析試料に、ヒメコガネ（試料Bで1点）やコアオハナムグリ（試料Aで2点）、ハムシ科（試料Aで4点）、コガネムシ科（試料Aで3点、試料Bで2点）、オトシブミ科（試料Aで2点）な



## 名古屋城三の丸遺跡 VII

ど、人為度の高い畑作地に生息する食植性昆虫が認められたことは、名古屋城三の丸遺跡を取り巻くバックグラウンドの植生環境を考察するうえで興味深い。

### 5. まとめ

名古屋城三の丸遺跡の埋桶の埋土より発見された双翅目のサナギの中に、たくあん漬けをはじめ発酵した漬け物に特有のヒメイエバエが多数認められたことより、本遺跡の埋桶内に何らかの発酵物が存在した可能性が考えられる。こうした推定は同じ試料中に発酵食品に集まるショウジョウバエ属のサナギが相当数検出されたことから支持される。

### 謝 辞

昆虫分析にあたり、愛知県埋蔵文化財センターの鈴木正貴および鬼頭 剛の両氏に大変お世話になった。記してお礼申しあげる。

### 文 献

河田 薫 (1959) 日本幼虫図鑑. 北隆館, 712p.  
林 晃史・篠永 哲 (1979) ハエ-生態と防除-. 文永堂, 228p.

平嶋義宏・森本 桂・多田内修 (1989) 昆虫分類学. 川島書店, 597p.

松崎沙和子・武衛和雄 (1993) 都市害虫百科. 朝倉書店, 236p.

素木得一 (1958) 衛生昆虫. 北隆館, 1966p.

日本家屋害虫学会編 (1995) 家屋害虫事典. 井上書院, 468p.

西治 敏 (1978) ショウジョウバエの食性と進化. 遺伝, 32(10), 12-20.

Okada Toyohi (1968) Systematic study of the early stages of Drosophilidae. Bunka Zugsisya, 188p.

Smith K.G.V. (1989) An introduction to the immature stages of British flies. Royal entomological society of London, Handbooks for the identification of British insects, 10, 280p.

鈴木 猛・緒方一喜 (1968) 日本の衛生害虫-その生態と防除-. 新思想社, 245p.

田中和夫 (2003) 屋内害虫の同定法 (3) 双翅目の主な屋内害虫. 家屋害虫-日本家屋害虫学会誌, 67-111.

安富和男・梅谷献二 (1983) 衛生害虫と衣食住の害虫. 全国農村教育協会, 310p.

## 第3節 名古屋城三の丸遺跡出土の漆喰等の科学分析

堀木真美子・小村美代子(パレオ・ラボ)

### 1. はじめに

名古屋城三の丸遺跡の2002年度調査区は、17世紀中頃から幕末まで尾張徳川家の親族らが居住したといわれる「御屋形」と考えられている(鈴木2003)。この発掘調査において「御屋形」の庭園に伴うと思われる池状遺構(SX02)が検出された。この池状遺構SX02は周囲に石を配置し、その隙間には漆喰が充填されていた。

ここでは、池状遺構SX02で検出された漆喰を中心に、蛍光X線分析およびX線回折分析を行った。比較試料として、名古屋城三の丸遺跡と同じ尾張の清洲城下町遺跡の本丸の渡櫓等の建物に付随したと推測される建物壁、三河の西尾城下級武家屋敷または町屋と推定される和泉町遺跡(西尾

市)の漆喰について分析した。

### 2. 試料と方法

試料は名古屋城三の丸遺跡池状遺構出土の漆喰とその床壁18点(No.1~18)、SK114より出土した井戸(近代)の円筒形側材の漆喰1点(No.19)、大型廃棄土坑(SK01)より出土した漆喰塊1点(No.20)、清洲城下町遺跡本丸東側の瓦溜まり(SX01)より出土した建物壁2点(No.21・22)、和泉町遺跡(西尾市)より出土した漆喰や廃材4点(No.23~26)の計26点である。名古屋城三の丸遺跡は江戸時代中期頃(1点のみ江戸時代後期以降)、清洲城下町遺跡は戦国時代末期~江戸時代初期、和泉町遺跡は江戸時代末期(1点のみ

No	遺跡名	遺構番号	内容	時期
1	名古屋城三の丸	02区SX02	北西入江部壁の粘土、漆喰裏の粘土壁材か?	江戸時代中期頃
2	名古屋城三の丸	02区SX02	北西入江部壁の裏込め粘土塊	江戸時代中期頃
3	名古屋城三の丸	02区SX02	西張り出し部壁の漆喰本体	江戸時代中期頃
4	名古屋城三の丸	02区SX02	南西導水部北壁の漆喰のうち表層部分	江戸時代中期頃
5	名古屋城三の丸	02区SX02	南西導水部北壁の漆喰のうち奥層部分	江戸時代中期頃
6	名古屋城三の丸	02区SX02	南西導水部床壁の漆喰本体	江戸時代中期頃
7	名古屋城三の丸	02区SX02	南西導水部南壁の漆喰本体	江戸時代中期頃
8	名古屋城三の丸	02区SX02	南壁西部巨石直上の漆喰本体	江戸時代中期頃
9	名古屋城三の丸	02区SX02	東張り出し部壁の新段階漆喰壁本体	江戸時代中期頃
10	名古屋城三の丸	02区SX02	東張り出し部壁の中段階漆喰壁本体	江戸時代中期頃
11	名古屋城三の丸	02区SX02	東張り出し部壁の新段階床壁本体	江戸時代中期頃
12	名古屋城三の丸	02区SX02	東張り出し部壁の古段階床壁本体	江戸時代中期頃
13	名古屋城三の丸	02区SX02	北東入江部壁の漆喰本体、階段脇部分	江戸時代中期頃
14	名古屋城三の丸	02区SX02	北壁直下の新段階床壁本体	江戸時代中期頃
15	名古屋城三の丸	02区SX02	北壁漆喰壁本体、中段階か?	江戸時代中期頃
16	名古屋城三の丸	02区SX02	中央部床壁最上位、新段階か?	江戸時代中期頃
17	名古屋城三の丸	02区SX02	中央部床壁中位、中段階か?	江戸時代中期頃
18	名古屋城三の丸	02区SX02	中央部床壁下位、古段階か?	江戸時代中期頃
19	名古屋城三の丸	02区SK114	近代井戸の円筒形側材の漆喰	江戸時代後期以降
20	名古屋城三の丸	02区SK01	大型廃棄土坑中出土の漆喰塊?	江戸時代中期頃
21	清洲城下町	96区SX01-1層	本丸東側の瓦溜り中、建物壁か?	戦国時代末期~江戸初期
22	清洲城下町	96区SX01-1層	本丸東側の瓦溜り中、建物壁か?	戦国時代末期~江戸初期
23	和泉町(西尾市)	SK30	廃棄土坑中から出土、廃材投棄?	江戸時代末期
24	和泉町(西尾市)	SE06	井戸の円筒形側材の漆喰	江戸時代末期
25	和泉町(西尾市)	SX05	漆喰で作成された甕状容器が埋設される	江戸時代末期
26	和泉町(西尾市)	井戸	近代井戸円筒形側材の漆喰、エンピの息抜	明治以降

\*「内容」中の「古段階・中段階・新段階」の表記は、塗り重ねと推測したもの。

\*「表層・奥層」は同時に作られたものの漆喰の使い分けが想定されることを示す。

第11表 漆喰の分析試料一覧

名古屋城三の丸遺跡 VII

明治以降)に属する試料である。試料の詳細については第 11 表に示す。

a. 成分分布

各試料をおおむね 2 × 3cm の小片に切り出し、エポキシ樹脂で硬化させた後、#3000 のカーボラダムを用いて表面を研磨した。分析装置は光学および偏光顕微鏡、蛍光 X 線分析装置 (エネルギー分散型、堀場製作所 (株) 製 XGT-5000) である。測定条件は管電圧 30kV、管電流 1.00mA。分析は著者の一人堀木が行った。

b. X 線回折分析

試料は分析する前に、スサ・石灰粒子と思われる白色粒子の量・砂粒の量等について肉眼観察による記載を行った (第 12 表)。その後、各試料の平均的な箇所を約 1g 採取し乳鉢で粉末化した。この粉末をプレパラート上にアルコールで溶きな

から乾燥させ測定用試料を作成した。分析装置は、リガク (株) 製の X 線回折装置 MiniFlex である。測定条件は、X 線発生部の管球は銅 (Cu)、電流 15mA、電圧 30kV、走査モードは連続、スキャンスピード 5.000°/min、サンプリング幅 0.020°。分析は同じく著者の一人である小村が行った。

また、X 線回折分析で方解石の検出限界を把握する為に実験を行うことにした。試料は石灰岩と砂質土の 2 点である。この 2 点を適量粉末化し、先述と同様の X 線回折分析測定用試料を作成して石灰岩からは方解石のピークを確認する。その後、砂質土粉末に石灰岩粉末を 3%・5%・10% の割合で混ぜたものを用いて X 線回折分析測定用試料を作成し、どの程度の石灰岩の割合で方解石と同定することが可能かを検討した (第 13 表)。

c. 成分分析

試料は X 線回折分析に用いたものと同じ粉末

No.	遺跡名	スサ(痕跡も含む)	石灰粒子	砂粒	備考
1	名古屋城三の丸	—	—	—	シルト質土の塊
2	名古屋城三の丸	—	—	—	粘土塊
3	名古屋城三の丸	+	++	++	
4	名古屋城三の丸	—	+++	++	
5	名古屋城三の丸	—	+++	++	
6	名古屋城三の丸	—	++++	++	
7	名古屋城三の丸	—	++++	++	
8	名古屋城三の丸	—	++++	++	
9	名古屋城三の丸	—	++++	+	
10	名古屋城三の丸	—	+++	+	
11	名古屋城三の丸	—	+	+	
12	名古屋城三の丸	—	+	+	
13	名古屋城三の丸	—	++++	+	
14	名古屋城三の丸	—	+	+	
15	名古屋城三の丸	—	++++	+	
16	名古屋城三の丸	—	—	+	
17	名古屋城三の丸	—	—	+	
18	名古屋城三の丸	—	—	+	粘質土
19	名古屋城三の丸	+	++++	+++	硬質
20	名古屋城三の丸	—	—	—	硬質、岩石か
21	清洲城下町	—	—	—	白色粘土塊
22	清洲城下町	+++	—	—	白色粘土塊
23	和泉町(西尾市)	—	++	+++	
24	和泉町(西尾市)	—	++	+++	硬質
25	和泉町(西尾市)	—	—	+++	
26	和泉町(西尾市)	—	+++	+++	硬質

\* 「石灰粒子」とは肉眼観察で石灰と思われる白色の粒子を指す。

\* 「石灰粒子」と「砂粒」の割合は肉眼観察による相対評価で+の数が多いほど、その割合が多いことを示す。

第 12 表 肉眼観察結果

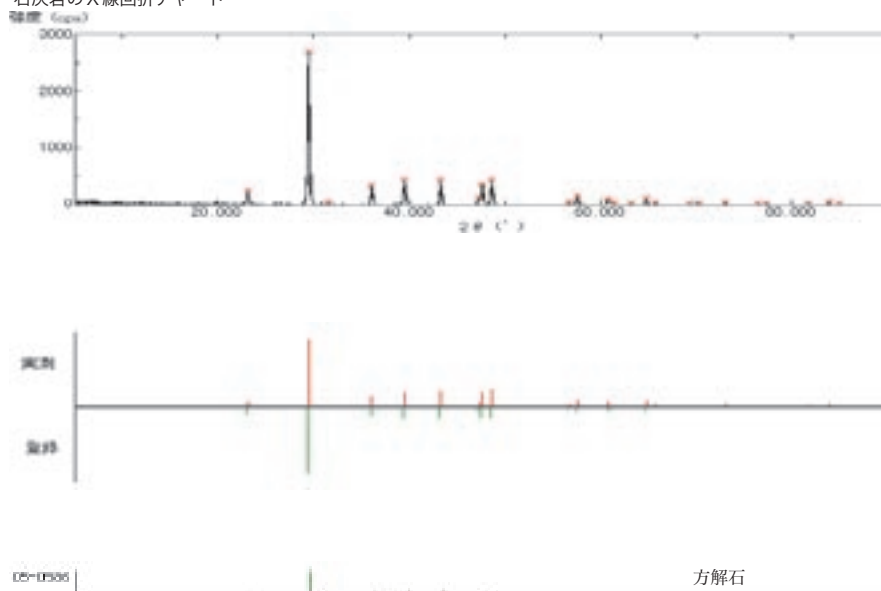
である。これら粉末を、直径 2cm の塩化ビニール製のリングに無水四ホウ酸リチウム (Li<sub>2</sub>B<sub>4</sub>O<sub>7</sub>) を詰めて 10t の圧力をかけたものの上に約 0.2g の試料を薄く展開して、更に 20t の圧力をかけてブリケットを作成した。蛍光 X 線分析装置 (エネルギー分散型、堀場製作所 (株) 製

XGT-5000) である。測定条件は管電圧 30kV、管電流 1.00mA、測定時間 100 秒。またこの装置は大気中で測定することから、測定値の平均値および分散を把握するために、1 サンプルにつき 50 点の測定点を設定した。分析者は堀木である。

石灰岩と砂質土の化学組成(単位: %)

試料	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	SiO <sub>2</sub>	K <sub>2</sub> O	CaO	TiO <sub>2</sub>	MnO	Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>
石灰岩	0.00	1.31	0.00	98.61	0.00	0.00	0.09
砂質土	14.55	79.17	2.50	0.63	0.44	0.04	2.67

石灰岩の X 線回折チャート



方解石の X 線回折強度(一部)

相対強度	100	18	18	17	17	14	12	8	5
2θ	29.404	39.399	43.143	47.487	48.510	35.964	23.021	57.398	47.121

石灰岩と砂質土の混合試料による方解石の検出強度及び同定の不可

試料	相対強度	100	他のピーク	同定
	2θ	29.404		
石灰岩3%	強度(cps)	172	確認不可	不可
石灰岩5%		198	確認不可	不可
石灰岩10%		364	確認可	可

方解石の同定基準の設定

相対強度17以上を同定基準に設定したのは、相対強度100のピークが360cps付近の場合、相対強度14以下のピークはバックグラウンドと同程度で識別が困難なためである。

相対強度	100	18	18	17	17
2θ	29.404	39.399	43.143	47.487	48.510
強度(cps)	360以上	3つ以上が約100cps以上			

第 13 表 X 線回折結果

### 3. 分析結果

#### a. 成分分布

第198～200図に測定試料およびCaの分布図を示す。No.3, 11, 12, 14においては、Caが粒状をなしている。No.1, 4, 5, 6, 7, 8, 13, 15は、部分的に濃縮した状態で分布している。またNo.9, 19, 26では鉍物等以外の部分を占めるように分布している。No.20, 21, 22は、ほぼ全体に均一に分布している。なおNo.2, 25ではCaの分布を把握することができなかった。また、No.16, 17, 18は試料の調整ができなかった。

#### b. X線回折分析

第12表には肉眼観察による試料の状態を示す。肉眼観察では貝片は全ての試料で確認されなかった。石灰粒子と思われる白色粒子は、No.1, 2, 16～18, 20～22, 25では確認されず、No.4～7の漆喰は石灰粒子の割合が相対的に高い。また、スサと思われる草本植物の痕跡はNo.3, 19, 22で確認され、No.19では稲藁と思われる草本植

物が付着していた。砂粒は、No.23～26が全体の中で相対的に高く含まれる。次いでNo.4～7が砂粒の割合が多い。また、No.19, 24, 26は砂粒の割合が多く硬質であった。No.20は非常に硬質で一般的な漆喰や石灰の塊のような外観を示さないものであった。

第13表にはX線回折分析における方解石の検出限界実験結果を示す。この実験において石灰岩10%中の方解石の相対強度100( $2\theta = 29.404$ )のピークは364cpsで、ほかに相対強度18( $2\theta = 39.399$ )や相対強度17( $2\theta = 47.487, 48.510$ )のピークも確認できた。X線回折分析の鉍物同定は1本のピークのみで判断すると別の鉍物ピークと御認識する恐れがあるため、複数のピークと照合する必要がある。このため、方解石の相対強度100( $2\theta = 29.404$ )のピークが360cps以上で、この他に相対強度18( $2\theta = 39.399, 43.413$ )や相対強度17( $2\theta = 47.487, 48.510$ )のピークのうち3つ以上のピークが約100cps

No	石英強度	方解石強度
1	1543	0
2	2407	0
3	2632	482
4	2733	421
5	2935	735
6	3099	0
7	2185	375
8	2123	1520
9	1913	973
10	1518	1286
11	1652	348
12	3817	108
13	2068	1102
14	2959	110
15	2175	1166
16	2465	0
17	2778	0
18	2890	0
19	3356	509
20	249	0
21	90	44
22	97	0
23	2733	343
24	4487	548
25	3654	0
26	2046	882

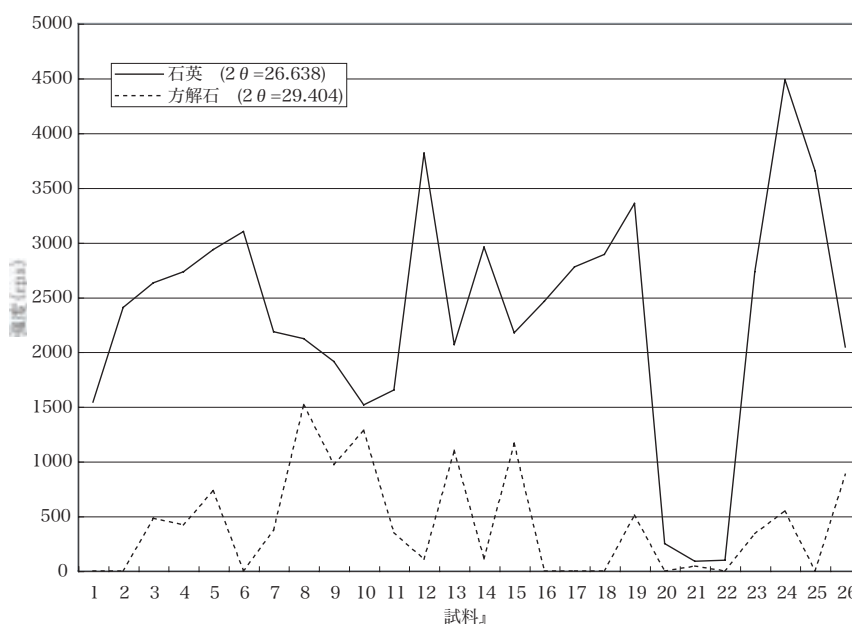


図1 X線回折分析による石英と方解石の最高強度(相対強度100)

第14表 石英と方解石の最高強度

以上確認されれば方解石と同定することにした。また、石灰岩3%・5%中の方解石の相対強度100(2θ=29.404)は172cps・198cps確認されたが、これ以外のピークはバックグラウンドと同程度のため確認できなかった。このことは10%未満しか石灰が含まれない漆喰は、今回のX線回折分析では検出限界をこえ同定不能であることを示している。

以上の同定基準に基づき試料から方解石が同定されたのはNo.3～5・7～10・13・15・19・24・26である。これら以外の試料では方解石は同定されなかった。石英は土壌や砂粒の主要鉱物であるため全ての試料から同定された。方解石と同じ化学組成の霰石(化学式:CaCO<sub>3</sub>、英名:aragonite)や石灰(化学式CaO、英名:lime)や石

膏(化学式:CaSO<sub>4</sub>・2H<sub>2</sub>O、英名:gypsum)等は全ての試料で確認されなかった。この他にクリストバライト・灰長石・曹長石・正長石等が確認された。特定の鉱物を同定したものは「○」、同定されなかったものは「—」と記載した(第15表)。

また、試料に含まれる方解石の割合を大まかに把握する為に、石英の相対強度100(2θ=26.638)と方解石の相対強度100(2θ=29.404)の強度(cps)を比較した。この結果、No.8～10,13,15が方解石の検出強度が高いことが確認された。

c. 成分分析

第195～197図に各試料の代表的なスペクトル図を示す。また第16表にはNa, Mg, Al, Si, S, K, Ca, Ti, Mn, Feについて、それぞれのピーク

記号 ○: 同定、—: 未検出または同定不可

』	遺跡名	方解石	石英	クリストバライト	灰長石	曹長石	正長石
1	名古屋城三の丸	—	○	○	○	○	○
2	名古屋城三の丸	—	○	○	—	—	—
3	名古屋城三の丸	○	○	○	—	○	—
4	名古屋城三の丸	○	○	—	—	○	○
5	名古屋城三の丸	○	○	○	—	○	—
6	名古屋城三の丸	—	○	○	—	○	○
7	名古屋城三の丸	○	○	—	—	○	○
8	名古屋城三の丸	○	○	○	—	○	○
9	名古屋城三の丸	○	○	—	—	○	○
10	名古屋城三の丸	○	○	—	—	○	○
11	名古屋城三の丸	—	○	○	—	○	○
12	名古屋城三の丸	—	○	○	—	—	—
13	名古屋城三の丸	○	○	—	—	○	○
14	名古屋城三の丸	—	○	○	—	○	—
15	名古屋城三の丸	○	○	—	—	○	○
16	名古屋城三の丸	—	○	○	—	—	○
17	名古屋城三の丸	—	○	○	—	○	○
18	名古屋城三の丸	—	○	○	—	—	—
19	名古屋城三の丸	○	○	—	—	—	○
20	名古屋城三の丸	—	○	○	○	○	—
21	清洲城下町	—	○	—	—	—	—
22	清洲城下町	—	○	—	—	—	—
23	和泉町(西尾市)	—	○	—	—	—	○
24	和泉町(西尾市)	○	○	—	—	—	○
25	和泉町(西尾市)	—	○	—	—	—	○
26	和泉町(西尾市)	○	○	—	—	—	○

和名	英名	化学式
方解石	calcite	CaCO <sub>3</sub>
石英	quartz	SiO <sub>2</sub>
クリストバライト	cristobalite	α-SiO <sub>2</sub>
灰長石	anorthite	mCaAl <sub>2</sub> Si <sub>2</sub> O <sub>8</sub> ・nNaAlSi <sub>3</sub> O <sub>8</sub>
曹長石	albite	mNaAlSi <sub>3</sub> O <sub>8</sub> ・nCaAl <sub>2</sub> Si <sub>2</sub> O <sub>8</sub>
正長石	orthoclase	Ca <sub>3</sub> Mg(Si <sub>4</sub> ) <sub>2</sub>

第15表 方解石の検出限界実験結果



名古屋城三の丸遺跡 VII

の大きさを示したものである。Tr. はかろうじてピークをとらえることができたものである。「+」および「++」などはピークの大きさを表している。

これらの結果より、いずれの試料においても Si, Al, K, Ca, Ti, Fe のピークが確認することができた。特に、No.8,9,10,13,15,21,22,26 では Ca のピークが、No.11,12,14,20,16,17,18,21,22 では Fe が、No.26,24,25,26 では K がそれぞれ特徴的に大きなピークとしてとらえられている。

4. 考察

a. 各試料の分析結果

No.1,2：成分分布による Ca の分布も明瞭ではなく、X 線回折においても方解石が確認できず、Al が多いことから漆喰ではなく、土壌であると判断。

No.3, 4, 5, 7, 8, 9, 10, 13, 14, 15, 19, 24,

25, 26：粒状もしくは濃縮した Ca と方解石が確認されたことから、漆喰試料と判断。No.10 は成分分布が測定できなかった。

No.6：粒状もしくはレンズ状に濃縮した Ca が確認された。X 線回折による方解石は確認されなかったが、Ca の分布状態から漆喰を含むと判断。X 線回折において方解石が確認されなかったのは、Ca が分布が著しく偏っているため、X 線回折用の試料に方解石が含まれなかったと考えられる。

No.11, 12：レンズ状に濃縮した Ca が確認されているため漆喰試料と判断。X 線回折においては方解石は確認されない。

No.16, 17, 18：成分分布の試料が作成できなかったもの。肉眼観察により、土壌と判断された。

No.20, 21, 22:Ca がほぼ均一に分布する試料。方解石は確認されていない。21,22 では他の鉱物

名古屋城三の丸遺跡		Na <sub>2</sub> O	MgO	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	SiO <sub>2</sub>	SO <sub>3</sub>	K <sub>2</sub> O	CaO	TiO <sub>2</sub>	MnO	Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>
3	池状遺構 西張出し部壁	TR.	TR.	+	+++	Tr.	+	++	+	+	++
4	池状遺構 南西導水部北壁 (表層)	TR.	TR.	+	+++	Tr.	+	++	+	Tr.	++
5	池状遺構 南西導水部北壁 (奥層)	TR.	TR.	+	+++	Tr.	+	+++	+	Tr.	++
7	池状遺構 南西導水部南壁	TR.	TR.	+	+++	Tr.	+	++	+	Tr.	++
8	池状遺構 西部南壁	TR.	TR.	+	+++	Tr.	+	++++	+	Tr.	++
9	池状遺構 東張出し部壁 (新段階)	TR.	TR.	+	+++	Tr.	+	++++	+	Tr.	++
10	池状遺構 東張出し部壁 (中段階)	TR.	TR.	+	+++	Tr.	+	++++	+	Tr.	++
13	池状遺構 北東入江部壁	TR.	TR.	+	+++	Tr.	+	++++	+	Tr.	++
15	池状遺構 北壁 (中段階)	TR.	TR.	+	+++	Tr.	+	++++	+	Tr.	++
19	近代井戸 円筒形側材	TR.	TR.	+	+++	Tr.	+	+++	+	Tr.	++
6	池状遺構 南西導水部床	TR.	TR.	+	+++	Tr.	+	+	+	Tr.	++
11	池状遺構 東張出し部床 (中段階)	TR.	TR.	++	+++	Tr.	+	++	+	+	+++
12	池状遺構 東張出し部床 (古段階)	TR.	TR.	++	+++	Tr.	+	+	+	Tr.	+++
14	池状遺構 北壁直下床 (新段階)	TR.	TR.	++	+++	Tr.	+	+	+	Tr.	+++
20	大型廃棄土坑	+	+	+	+++	Tr.	Tr.	++	+	+	+++
1	池状遺構 北西入江部 壁粘土	TR.	TR.	++	+++	Tr.	+	+	+	Tr.	++
2	池状遺構 北西入江部 裏込粘土	TR.	TR.	++	+++	Tr.	+	Tr.	+	Tr.	++
16	池状遺構 中央部 (新段階)	TR.	TR.	++	+++	Tr.	+	Tr.	+	+	+++
17	池状遺構 中央部 (中段階)	TR.	TR.	++	+++	Tr.	+	Tr.	+	Tr.	+++
18	池状遺構 中央部 (古段階)	TR.	TR.	++	+++	Tr.	+	Tr.	+	Tr.	+++
清洲城下町遺跡											
21	本丸東 瓦溜まり出土壁材	TR.	+	+	+++	Tr.	Tr.	+++	+	+	+++
22	本丸東 瓦溜まり出土壁材	TR.	+	+	+++	Tr.	Tr.	+++	+	Tr.	+++
和泉町遺跡											
23	廃棄土坑出土漆喰片	TR.	TR.	+	+++	Tr.	++	++	+	Tr.	++
24	近世井戸 円筒形側材	TR.	TR.	+	+++	Tr.	++	+++	+	Tr.	++
25	近世 甕状容器	TR.	TR.	+	+++	Tr.	++	Tr.	+	Tr.	++
26	近世井戸 円筒形側材	TR.	TR.	+	+++	Tr.	++	++++	+	Tr.	++

第 16 表 蛍光 X 線分析結果

類も観察することができなかった。

No.23：成分分布の試料が作成できなかった。  
方解石は確認されなかった。

b. 名古屋城三の丸遺跡 池状遺構 側壁と床壁  
の相違について

側壁 (No.3, 4, 5, 7, 8, 9, 10, 13, 15) と床壁 (No.6, 11, 12, 14, 16, 17, 18) の比較を行うと、側壁の試料にはいずれも粒状もしくは濃縮した Ca と方解石が確認されるが、床壁については多様である。

No.6 は池の導水部の床壁の試料であり、X線回折で方解石が確認されなかったが、表面の特徴や Ca の分布状況が同じ導水部の南側壁試料の No.7 とよく似ていることから、ともに同一素材で作成された可能性が考えられる。ただし、試料中に Ca が全く含まれない部分もあることから、側壁と床壁の差がなかったとは断言できない。No.11, 12 は東張出し部の段階の異なる床壁試料、No.14 は北壁直下の床壁である。No.12 の方が古い段階の床壁と判断されるが、分析の結果においては No.11 と 12 に大きな違いは認められなかった。No.11, 12, 14 のいずれも Ca がレンズ状の分布を示す。これら床壁 (No.6, 11, 12, 14) の試料について、側壁試料に比べて Ca が少なく方解石の強度が低いという共通した特徴が挙げられる。このことは側壁と床壁の材料を違えていた可能性を示していると考えられる。

No.16, 17, 18 はいずれも漆喰ではなかった。

c. 名古屋城三の丸遺跡 池状遺構  
側壁の相違について

側壁 (No.3, 4, 5, 7, 8, 9, 10, 13, 15) の試料について、No.5, 9 以外のものでは、共通して以下の特徴が認められる。成分分布をみると Ca が粒状に分布し、肉眼においても白色角礫状のものを観察することができる。No.5, 9 については、

肉眼において白色角礫状のものを観察することができず、Ca の分布も他と異なっている。

No.5 はレンズ状の粘土部分が存在している。No.5 は南西導水部北壁の漆喰で No.4 の奥に存在したものである。No.4 と比較すると、表層部の No.4 にはレンズ状の粘土部分は含まれない。粘土以外の部分は No.4, 5 ともによく似た組織を呈する。また No.5 とよく似た組織を持つ試料は、今回の試料中には含まれていない。No.9 は東張出し部の新段階の漆喰側壁。他の側壁と異なり Ca が粒状ではなく全面に均等に分布している。

また、X線回折において方解石の強度の違いを見てみると、No.3, 4, 5, 7 は No.8, 9, 10, 13, 15 よりも強い。No.3 は西張出し部側壁の試料、No.4, 5, 7 は南西導水部の側壁試料。No.8 は南側壁試料。No.9, 10 は東張出し部側壁試料。No.13 は北東入り江部の側壁。No.15 は北側壁試料。つまり南西導水部および西張出し部の試料について、方解石の強度がやや弱い傾向が認められた。

d. 名古屋城三の丸遺跡 池状遺構 塗り重ねと  
推測される各段階による相違について

塗り重ねと推測される試料は、No.4, 5(南西導水部の表層と奥層) および No.9, 10(東張出し部側壁の新段階と中段階)、No.11, 12(東張出し部床壁の新段階と古段階)、No.16, 17, 18(中央部床壁の新段階、中段階、古段階) である。

これらのうち、No.4, 5 については、先述のとおり No.5 にはレンズ状の粘土が認められた以外に、大きな相違は認められなかった。また No.9, 10 や No.11, 12 についても先述の通り大きな相違は認められなかった。No.16, 17, 18 については土壌であることから、相違を確認することはできなかった。

名古屋城三の丸遺跡 VII

e. 名古屋城三の丸遺跡 池状遺構とその他の遺構について

No.19 は近代井戸の円筒形側材の漆喰試料。No.20 は大型廃棄土坑内から出土した試料。このうち No.19 は含まれる元素の割合では他の試料と違いが認められないが、Ca が小岩片を取り囲むように分布している様子はこれまでの試料と大きく異なっている。この試料は近代井戸の円筒形側材の漆喰で江戸時代後期以降のものとされ、No.1 ～ 18(SX02) の漆喰とは用途も時期も異なる。No.20 では Ca が少なく、Mn, Fe が多い。

f. 名古屋城三の丸遺跡の池状遺構と清洲城下町遺跡の試料について

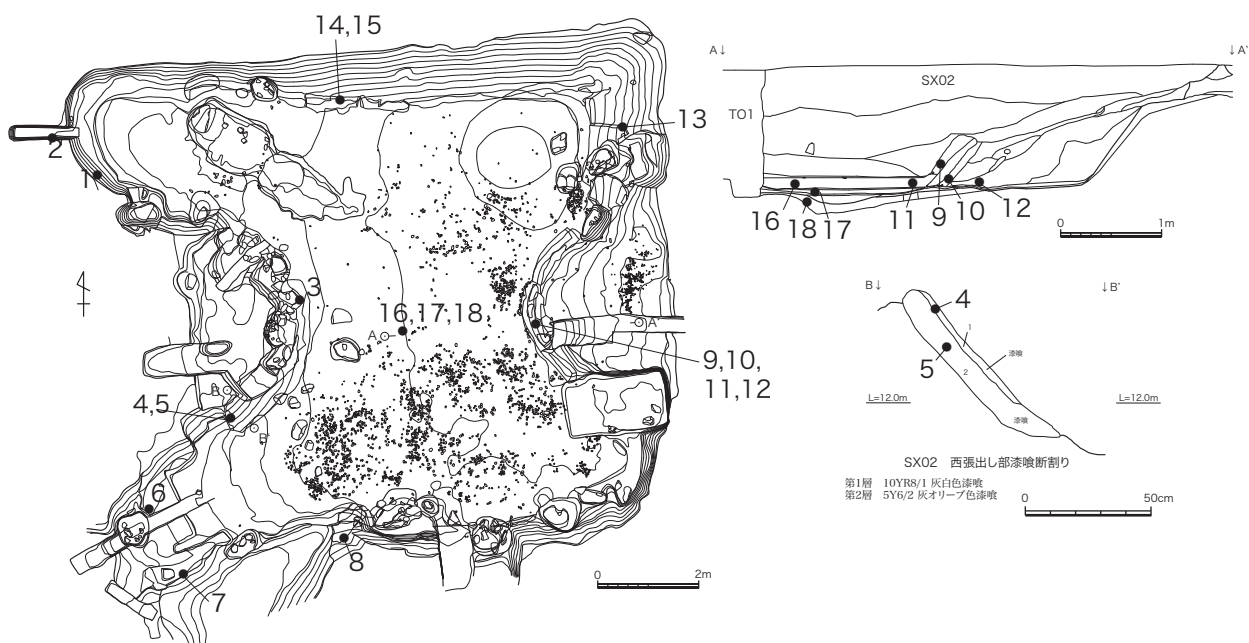
No.21, 22 は清洲城本丸東側の調査区において、大量の瓦とともに出土した建物の壁と推測される試料である。製作時期は戦国時代末期から江戸時代初期と考えられる。まず Ca などの成分分布をみると均一に分布しており、名古屋城三の

丸遺跡の試料ではみられなかった分布を示す。また、X線回折では共に方解石は同定されず、全体的な検出強度そのものが低かった。これは試料中の鉱物の殆どが風化等の影響で結晶構造を持たなくなったものと考えられる。成分分析のスペクトルをみると2試料とも Ca と Fe のピークが大きくなっている。なお No.22 からは多数の草本植物の痕跡が確認された。

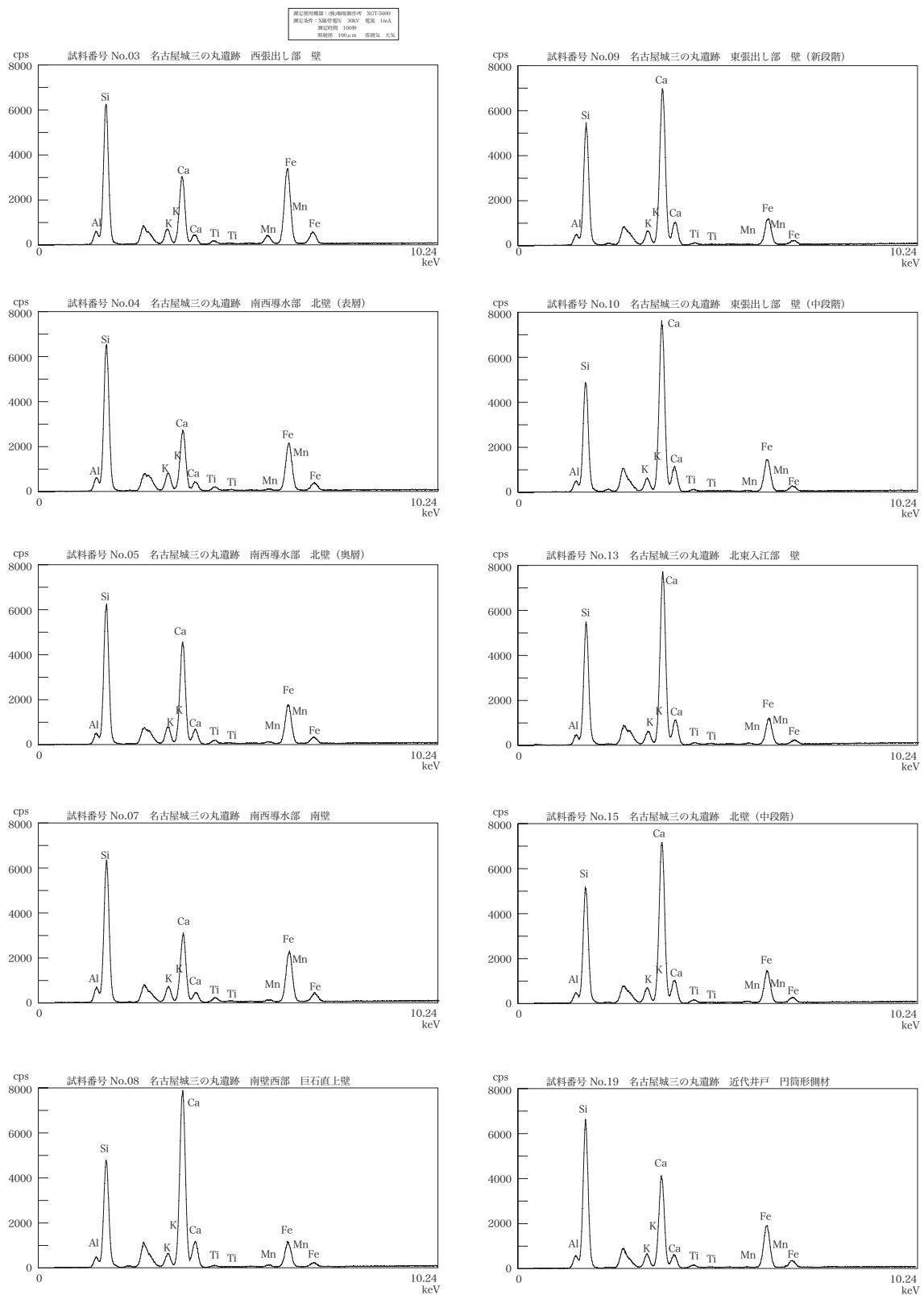
g. 名古屋城三の丸遺跡の池状遺構と和泉町遺跡の試料について

No.23 ～ 26 は和泉町遺跡の試料である。和泉町遺跡は下級武家屋敷または町屋が存在したと考えられる江戸時代末期の遺跡である。No.23 は廃棄土坑より出土した廃材と考えられる。No.24 は井戸の円筒形側材の漆喰。No.25 は漆喰製の甕状容器の試料。No.26 は近代の円筒形側材の井戸の壁。

これらの試料のうち、No.23 については、成分

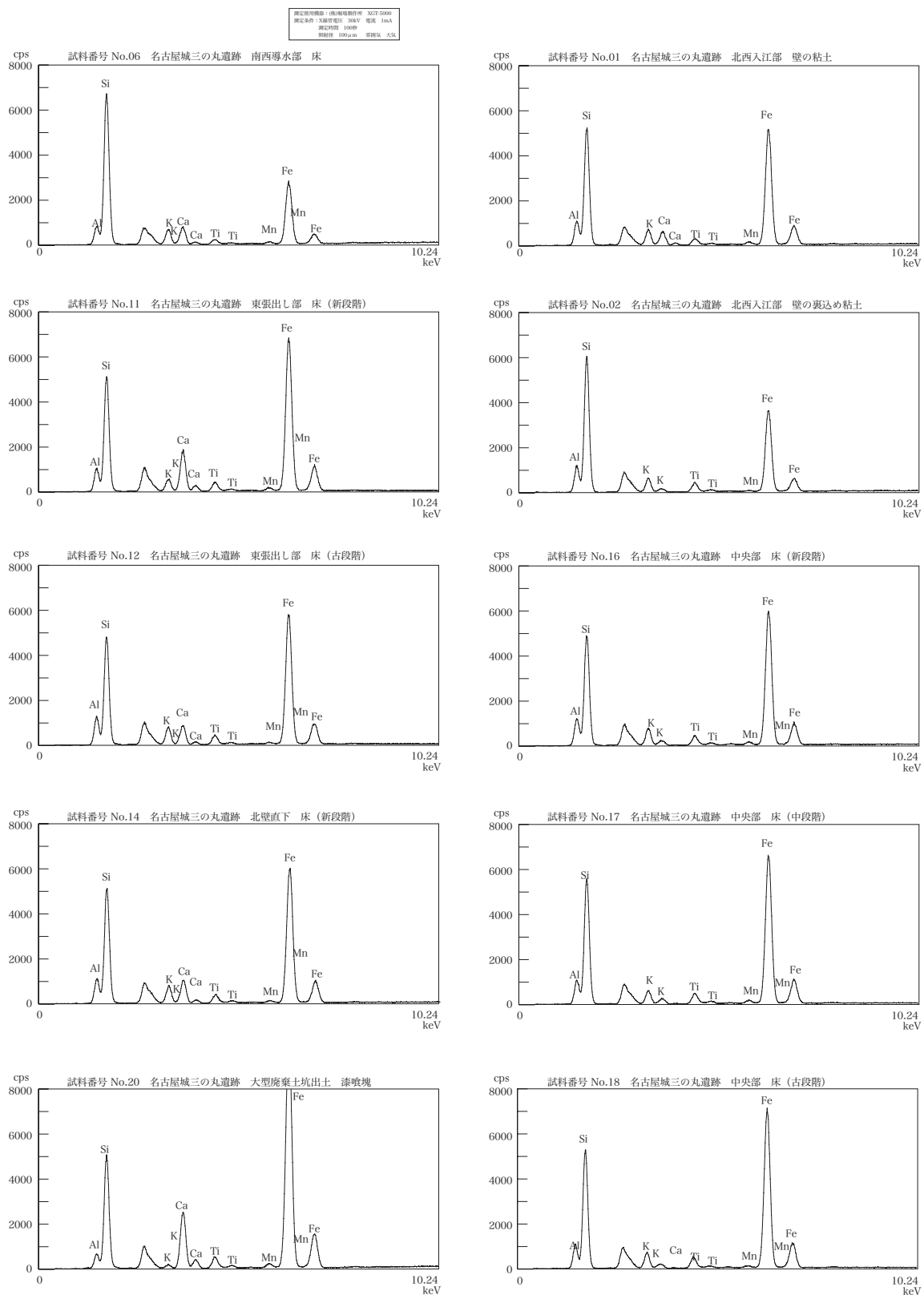


第 194 図 試料採取位置



第 195 図 蛍光 X 線スペクトル (1)

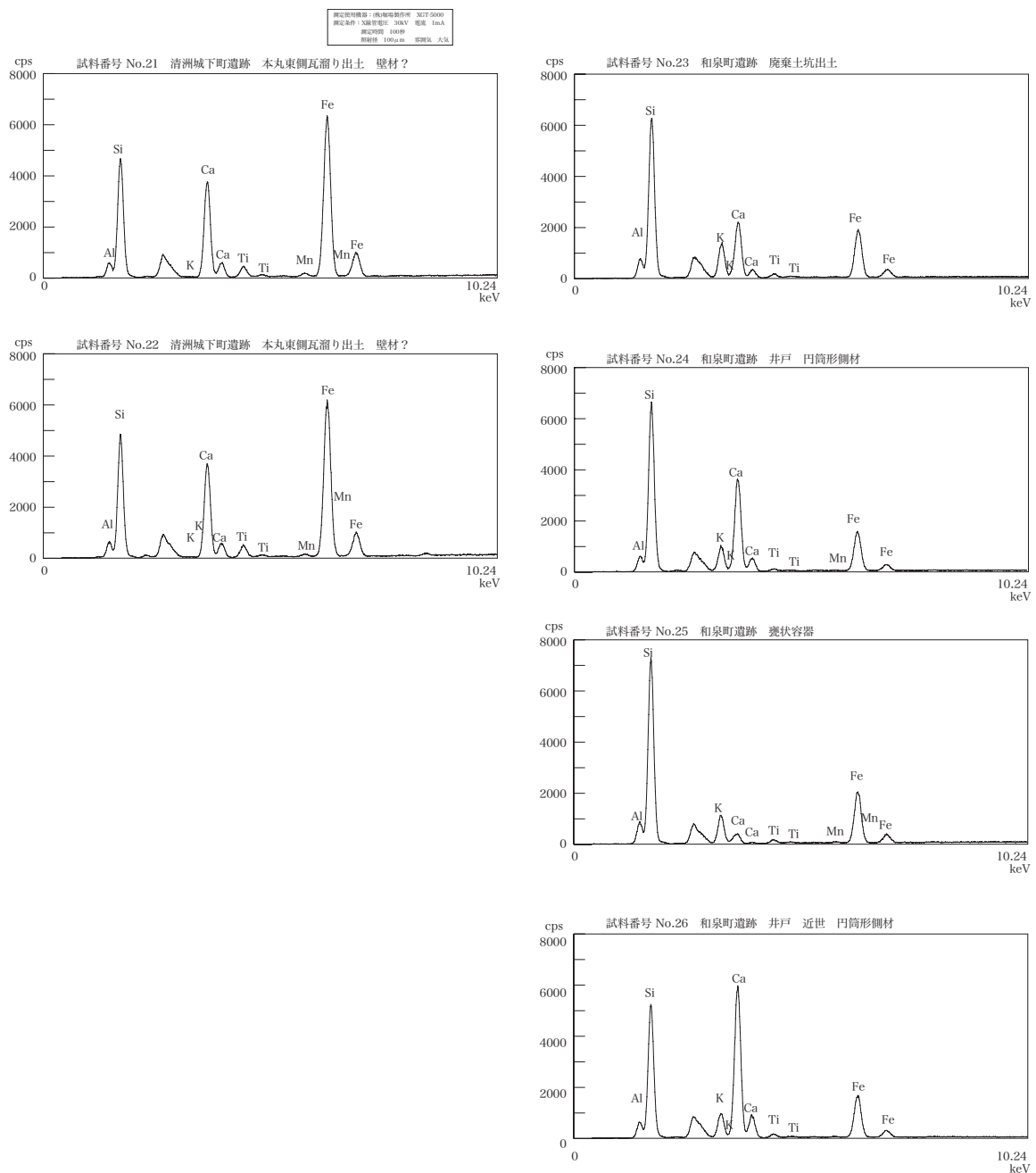
名古屋城三の丸遺跡 VII



第 196 図 蛍光 X 線スペクトル (2)

分布が実施できなかった。他の試料における成分分布の結果を見ると、いずれの試料も Ca は砂礫を取り囲むように分布している。また X 線回折では、No.24, 26 で方解石が同定され、No.23・25 では同定されなかった。ただし、No.23 からは方解石の相対強度 100 のピークが 343cps 確認されている (第 14 表)。これ以外の方解石のピークは確認されず同定には至らなかったが、わずか

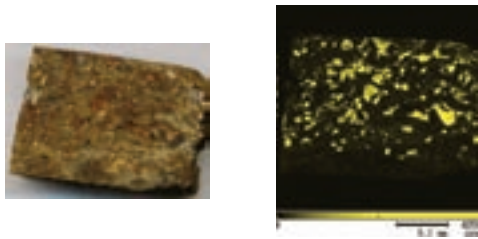
に石灰が含まれている可能性はある。肉眼観察では、和泉町遺跡の試料は名古屋城三の丸遺跡の試料に比べ砂粒の割合が多い (第 12 表)。No.25 は漆喰で作成された甕状容器とされるが、肉眼観察では石灰粒子は確認されず X 線回折分析でも方解石は同定されず漆喰と判断することはできなかった。定性分析のスペクトルをみると、Ca と K、Fe のピークが他の試料と異なっている。



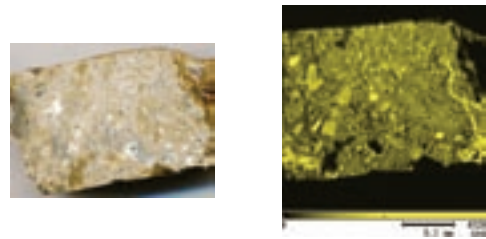
第 197 図 蛍光 X 線スペクトル (3)



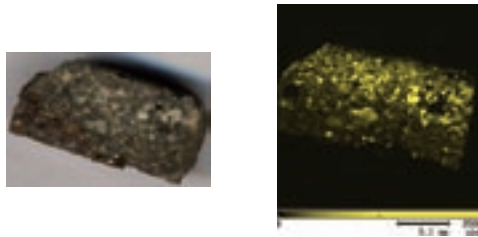
名古屋城三の丸遺跡 VII



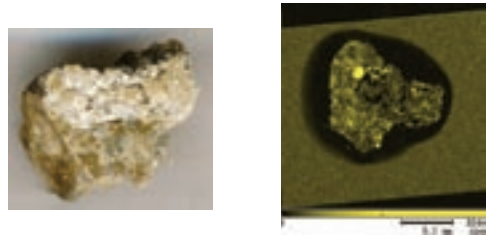
3 池状遺構 西張り出し部壁



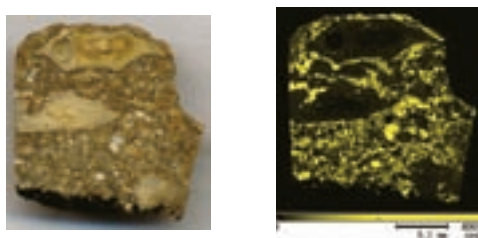
9 池状遺構 東張り出し部壁 (新段階)



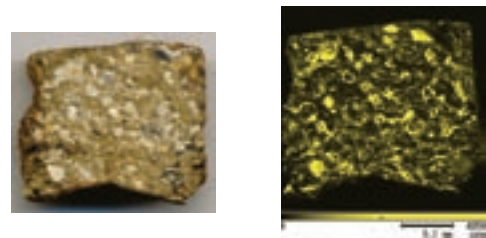
4 池状遺構 南西導水部北壁 (表層)



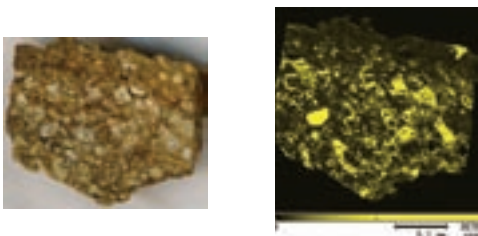
10 池状遺構 東張り出し部壁 (中段階)



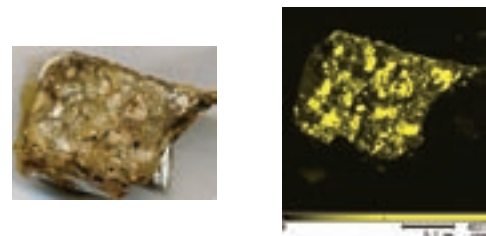
5 池状遺構 南西導水部北壁 (奥層)



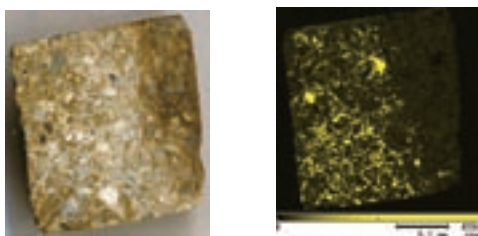
13 池状遺構 北東入江部壁



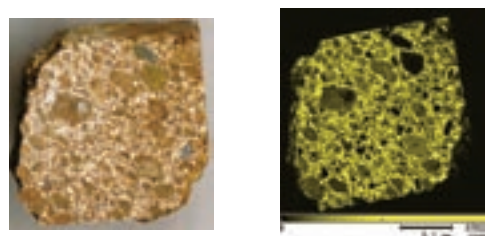
7 池状遺構 南西導水部南壁



15 池状遺構 北壁 (中段階)

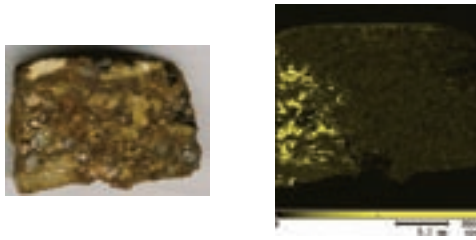


8 池状遺構 西部南壁

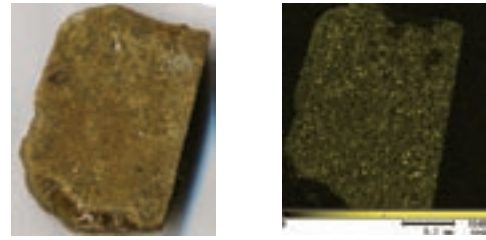


19 近代井戸 円筒形側材

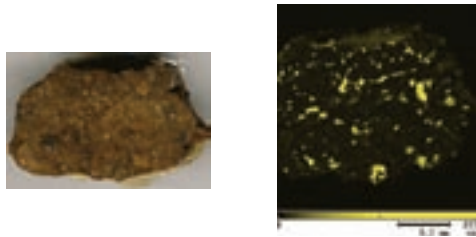
第 198 図 Ca の分布状況 (1)



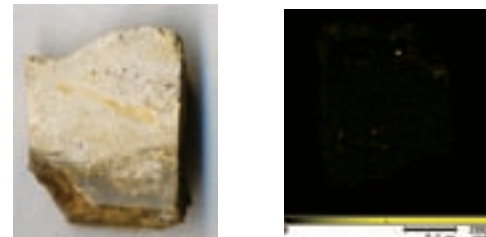
6 池状遺構 南西導水部床



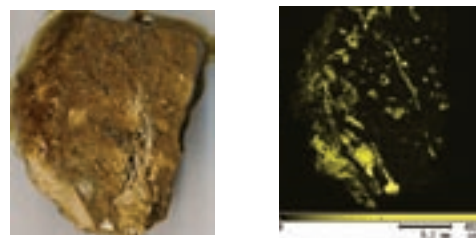
1 池状遺構 北西入江部 壁粘土



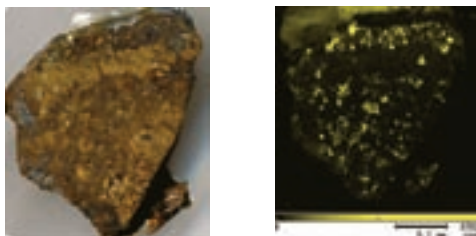
11 池状遺構 東張出し部床 (中段階)



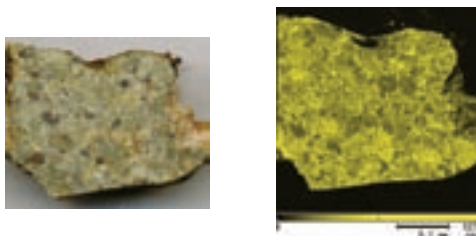
2 池状遺構 北西入江部 裏込粘土



12 池状遺構 東張出し部床 (古段階)



14 池状遺構 北壁直下床 (新段階)



20 大型廃棄土坑

第 199 図 Ca の分布状況 (2)

5. まとめ

今回の分析では、名古屋城三の丸遺跡の池状遺構から出土した漆喰試料を中心に清洲城下町遺跡、和泉町遺跡の試料を取り扱った。名古屋城三の丸遺跡における池状遺構の漆喰試料の相違について、漆喰と認識されたものに成分やCaの分布状況に大きな違いは認められなかった。また、時期による差も認められなかった。しかし、清洲城下町遺跡や和泉町遺跡などとの比較のように時期や地域が異なると、漆喰試料にCaの分布の様子やMn, Feなどの成分の違い、砂礫の入り方など明確な違いがあることが確認された。

今後、漆喰の分析試料数を増やすことにより、漆喰の利用法の歴史が解明されると期待される。

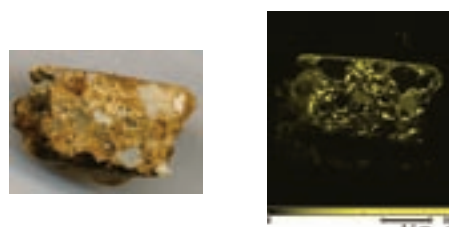
なお、今回の分析を行うにあたり、和泉町遺跡

出土漆喰については、西尾市教育委員会から試料の提供を受けた。記して感謝します。

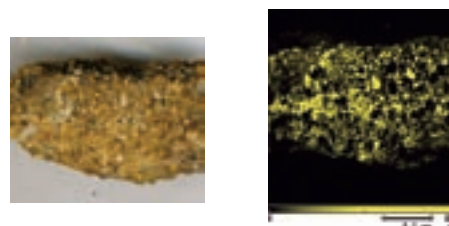
引用文献

馬淵久夫・杉下龍一郎・三輪嘉六・沢田正昭・三浦定俊編(2003)、文化財科学の事典、朝倉書店、522p.

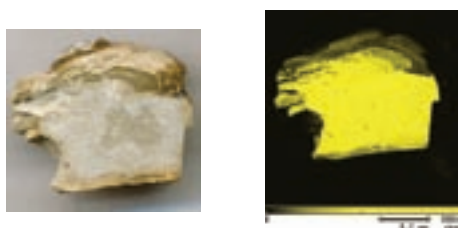
鈴木正貴(2003)名古屋城三の丸遺跡・愛知県埋蔵文化財センター 年報 平成14年度., 8-15.



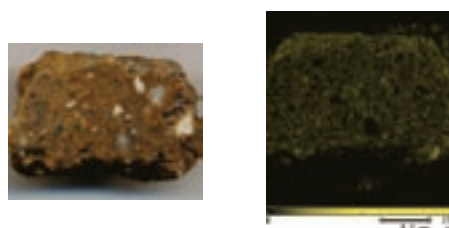
23 廃棄土坑出土漆喰片



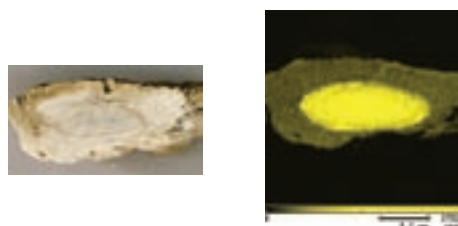
24 近世井戸 円筒形側材



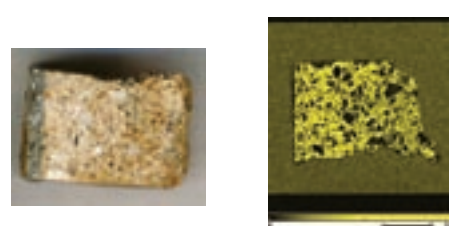
21 本丸東 瓦溜まり出土壁材



25 近世 壺状容器



22 本丸東 瓦溜まり出土壁材



26 近世井戸 円筒形側材

第200図 Caの分布状況(3)

## 第4節 名古屋城三の丸遺跡出土の石材について

堀木真美子

名古屋城三の丸遺跡の2002年度の調査区は尾張徳川家の親族らが居住した「御屋形」と考えられている(鈴木2003)。今回の分析は「御屋形」の庭園に伴うと考えられる池状遺構および他の遺構から出土した岩石類について、岩石学的な観察を行い、その入手先を推測することを目的とした。

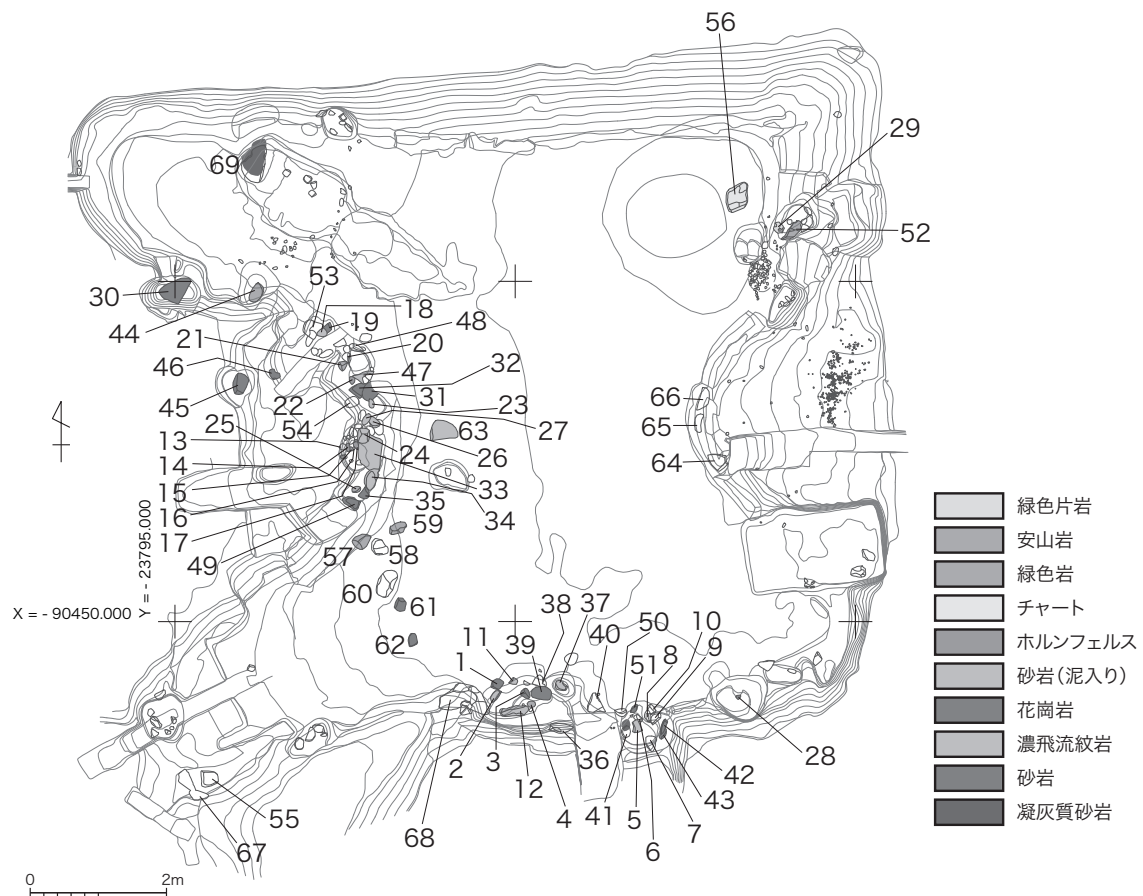
### 1. SD01～04出土の岩石

SD01～04は、調査区の南部にほぼ東西に走る石組溝(SD01)とそれにつながる石組溝(SD02～04)である。SD01は内法幅が約65cmで、内法面が平面をなすように岩石を割って成形された溝である。江戸時代前期～後期にかけての建物

に伴う遺構と考えられている。

SD01～04遺構を形成していた岩石は、内法面より観察できるものとしては2点をのぞき、すべて同一の岩石であった。その岩石は、5～10mmの長柱状～レンズ状の泥のチップ1%程度含んでいる硬砂岩である。残る2点は、黒雲母と角閃石を含む粗粒の花崗閃緑岩であった。

石組溝の内法面および裏込めの岩石を観察したところ、内法面は人工的に砕石された面であり、裏側には自然面が残されていた。また裏込めには同一の硬砂岩の破片や、拳大の垂角～亜円礫状のチャートがつめられていた。裏込めの硬砂岩の破片の一つが内法面の一つに接合できたことや、内



第201図 池状遺構の巨礫の配置



## 名古屋城三の丸遺跡 VII

法面が比較的新鮮な碎石された面であることから、溝を形成している硬砂岩は、長径 50cm 程度の亜角礫として現地に搬入され、溝の形成時に碎石されたものと考えられる。花崗閃緑岩については碎石された形跡は認められなかった。

この溝を形成した岩石類を遺跡近隣で入手されたものと仮定すれば、硬砂岩およびチャートはいずれも美濃帯に産するものであり、濃尾平野の西部～北東部にかけて広く分布していることから、木曾川などの河川を利用して搬入された可能性が考えられる。花崗岩の供給岩体は不明である。

硬砂岩の産地について、今回は近隣の産地として考察を行ったが、他地域からの搬入である可能性を否定しきれない。硬砂岩という岩石が堆積岩である上、火成岩のように特徴的な鉱物や組織を持つことは考えにくいいため、産地を特定するのは困難である。

## 2. 池状遺構 (SX02) にみられたおもな巨礫

調査区の北部において約 10m 四方で深さ 1.2m を測る池状の遺構が検出された。この池は、底部および側面を漆喰で塗り固め、所々に異なる岩石を意図的に配した様子がうかがえるものであった。池状遺構より出土した巨礫を第 17 表に示し、主な岩石について記載とその産地の推定を試みる。

### a. 緑色岩

導水部と考えられる南西部分の底部には緑色岩および緑色片岩が使用されている。これらの岩石は全体が灰緑色を呈し、部分的に石英もしくは方解石の白色脈が入る。肉眼で観察できる鉱物類はない。亜角～角礫。平均径約 25cm。出土個数 10 個。現在でも庭石としてよく利用されているものと同様の岩石と思われる。この岩石は三波川帯に産するものと考えられ、現在においては山梨県や三重県で採取されたものが造園資材として流

通している。

### b. ホルンフェルス

池状遺構の南の側壁には直径 60cm ほどの亜角礫がはめ込まれていた。長径 5mm 程度の董青石がみられる泥岩を原岩とする黒色のホルンフェルスである。ホルンフェルスは、名古屋城三の丸遺跡の北部を流れる庄内川の上流部に分布していることから、比較的近隣よりもたらされたと推測できる。他に長径 15cm 程度の角礫が 4 点出土している。

遺構番号	石材名	長径	礫の形状	個数	整理番号
SX02 S-01	砂岩	18	亜角	1	S-01
SX02 S-02	濃飛流紋岩	20	亜円	1	S-02
SX02 S-03	砂岩	30	亜角	1	S-03
SX02 S-04	緑色岩	20	角	1	S-04
SX02 S-05	砂岩(泥入り)	18	亜角	1	S-05
SX02 S-11	砂岩(泥入り)	20	角	1	S-11
SX02 S-12	砂岩(泥入り)	50	亜角	1	S-12
SX02 S-13	チャート	13	亜円	1	S-13
SX02 S-14	ホルンフェルス	15	亜角	1	S-14
SX02 S-15	ホルンフェルス	10	亜角	1	S-15
SX02 S-16	チャート	12	亜円	1	S-16
SX02 S-17	ホルンフェルス	12	亜角	1	S-17
SX02 S-17	ホルンフェルス	30	亜角	1	S-17
SX02 S-18	砂岩(泥入り)	20	角	1	S-18
SX02 S-19	花崗閃緑岩	17	角	1	S-19
SX02 S-20	凝灰質砂岩	30	角	1	S-20
SX02 S-21	凝灰質砂岩	30	角	1	S-21
SX02 S-23	緑色岩	25	角	1	S-23
SX02 S-23	緑色岩	12	角	2	S-23
SX02 S-24	ホルンフェルス	15	亜角	1	S-24
SX02 S-25	砂岩(泥入り)	18	角	1	S-25
SX02 S-26	砂岩(泥入り)	30	亜角	1	S-26
SX02 S-27	緑色岩	17	亜角	1	S-27
SX02 S-28	砂岩(泥入り)	20	角	1	S-28
SX02 S-29	砂岩(泥入り)	18	角	1	S-29
SX02 S-30	花崗岩	30	角	1	S-30
SX02 S-32	緑色片岩	25	亜角	1	S-32
SX02 S-33	砂岩	50	亜角	1	S-33
SX02 S-34	砂岩	30	亜角	1	S-34
SX02 S-35	砂岩	40	亜角	1	S-35
SX02 S-36	砂岩(泥入り)	12	角	1	S-36
SX02 S-37	砂岩(泥入り)	40	角	1	S-37
SX02 S-38	砂岩	28	亜角	1	S-38
SX02 S-40	砂岩(泥入り)	20	亜角	1	S-40
SX02 S-41	砂岩	30	亜角	1	S-41
SX02 S-42	砂岩	35	亜角	1	S-42
SX02 S-44	凝灰質砂岩	20	亜角	1	S-44
SX02 S-45	花崗岩	40	角	1	S-45
SX02 S-46	砂岩	25	亜角	1	S-46
SX02 S-47	安山岩	30	亜円	1	S-47
SX02 S-48	砂岩	30	亜角	1	S-48
SX02 S-49	砂岩	20	亜角	1	S-49
SX02 S-50	砂岩(泥入り)	30	亜角	1	S-50
SX02 S-51	砂岩(泥入り)	30	亜角	1	S-51
SX02 S-52	砂岩	25	亜角	1	S-52
SX02 S-53	砂岩	25	角	1	S-53
SX02 S-54	砂岩	30	亜角	1	S-54
SX02 S-55	緑色岩	40	角	1	S-55
SX02 SS-1	緑色岩	20	亜角	1	SS-1
SX02 SS-3	緑色岩	30	角	1	SS-3
SX02 SS-5	砂岩	20	亜角	1	SS-5
SX02 SS-6	砂岩	30	亜角	1	SS-6
SX02 SS-7	砂岩(泥入り)	40	亜角	1	SS-7
SX02 SS-8	砂岩	30	亜円	1	SS-8
SX02 裏込石	緑色岩	30	亜円	1	
SX02 C裏込石	砂岩	20~30	亜角	5	
SX02 A巨石サンプル	凝灰質砂岩	30	角	1	

第 17 表 SX01 より出土した巨礫

c. 硬砂岩

池状遺構の南部および西部に、亜角～角礫が砕石された状態の硬砂岩が多数出土した。これらの硬砂岩は、溝状遺構を形成していたものと同様に泥のチップを含むもので、美濃帯に属する硬砂岩と推測される。平均粒径 30cm 程度の角～亜角礫が 14 個出土。

d. 砂岩

前述の硬砂岩と同様に平均粒径 30cm 程度の角～亜角礫の砂岩が 18 個出土した。これらの砂岩には泥のチップは含有されておらず、前述の硬砂岩とは異なるものと考えられる。供給地を近隣

に求めるならば、美濃帯の古生層に含まれるものと思われる。

e. 凝灰質砂岩

池状遺構の各所に、平均粒径 30cm 程度の凝灰質砂岩が 4 点出土している。亜角～角礫。この凝灰質砂岩は先の硬砂岩および砂岩よりも形成時期の新しい第三紀堆積層中の凝灰質砂岩と考えられる。その供給地は瑞浪層群に求められると考える。

f. 凝灰岩？

池状遺構の東張り出し部の壁面に漆喰に塗り込

遺構	石材	長径	礫形	個数
SX02 床1層	チャート	3~5	亜角	多数
SX02 南東床1層	チャート	5	亜角	多数
SX02 床	チャート	4	亜角	多数
SX02 床1層	ホルンフェルス	3~7	亜角	39
SX02 南東床1層	ホルンフェルス	5	亜角	多数
SX02 床	ホルンフェルス	5	亜角	多数
SX02 床1層	緑色片岩	1~4	亜角~角	多数
SX02 南東床1層	緑色片岩	5	亜角	5
SX02 床	緑色片岩	5	亜角	1
SX02 床1層	緑色岩	1~3	亜円~亜角	9
SX02 南東床1層	緑色岩	3	亜角	5
SX02 床	緑色岩	3	亜円	多数
SX02 床1層	濃飛流紋岩	3~5	亜円~亜角	32
SX02 南東床1層	濃飛流紋岩	4	亜円	4
SX02 床	濃飛流紋岩	4	亜角	5
SX02 床1層	アブライト	3~5	亜円~亜角	28
SX02 南東床1層	アブライト	5	亜円	10
SX02 床	アブライト	5	亜円	2
SX02 床1層	砂岩	3~5	亜円~亜角	12
SX02 南東床1層	砂岩	4	亜円	4
SX02 床1層	凝灰質砂岩	3~5	亜角~角	11
SX02 南東床1層	凝灰質砂岩	4	亜角	4
SX02 床	凝灰質砂岩	3~5	亜角	5
SX02 床1層	泥質凝灰岩	1~3	亜角	8
SX02 床1層	珪質岩	3	亜円~亜角	7
SX02 南東床1層	珪質岩	3	亜円	2
SX02 床	珪質岩	3	亜円	1
SX02 床1層	泥岩	1~3	亜円	7
SX02 南東床1層	泥岩	3	亜円	1
SX02 床	泥岩	3	亜円	多数
SX02 床1層	花崗岩	3	亜角~角	6
SX02 南東床1層	花崗岩	3	角	2
SX02 床	花崗岩	5	角	1
SX02 床1層	安山岩	3	亜円~亜角	4
SX02 床	安山岩	3	亜円	1
SX02 床1層	凝灰質泥岩	3	亜角	1
SX02 南東床1層	凝灰質泥岩	6	亜円	1
SX02 床	凝灰質泥岩	4	亜角	1
SX02 床1層	砂質凝灰岩	7	亜角	1
SX02 床1層	長石	3	亜円	1
SX02 南東床1層	長石	4	角	1
SX02 床	長石	3	亜円	3
SX02 床1層	礫岩	3	亜角	1
SX02 南東床1層	石灰岩	2	角	2
SX02 南東床1層	結晶片岩	5	亜角	1

第 18 表 池状遺構の床面より出土した礫

遺構	石材	長径	礫形	個数
SX02 東張り出し 漆喰中D	凝灰岩	30	亜角	1
SX02 東張り出し 漆喰中C	凝灰岩	30	亜角	1
SX02 東張り出し 漆喰中B S-5	凝灰岩	20	亜角	1
SX02 東張り出し	チャート	20	亜角	多数
SX02 東張り出し	ホルンフェルス	20	亜角	多数
SX02 東張り出し	砂岩	10	亜角	1
SX02 東張り出し	緑色片岩	15	亜角	1
SX02 東張り出し	濃飛流紋岩	17	亜角	1
SX02 東張り出し	砂岩	20	亜角	1
SX02 東張り出し	硬砂岩	20	角	1
SX02 東張り出し	チャート	3~12	亜角	多数
SX02 東張り出し	珪質岩	1~3	亜円~亜角	多数
SX02 東張り出し	ホルンフェルス	3~12	亜角~角	35
SX02 東張り出し	アブライト	3~7	亜円~亜角	21
SX02 東張り出し	泥岩	1	亜円~亜角	11
SX02 東張り出し	砂岩	3~12	亜角~角	9
SX02 東張り出し	緑色岩	0.5~3	亜円~亜角	7
SX02 東張り出し	凝灰質砂岩	2~5	亜円~亜角	4
SX02 東張り出し	濃飛流紋岩	3~7	亜角	4
SX02 東張り出し	花崗岩	5	亜角~角	2
SX02 東張り出し	安山岩	3	亜角	1

第 19 表 池状遺構東張り出し部より出土した礫

遺構	石材	長径	礫形	個数
SK20	アブライト	5~10	亜円	多数
SK20	チャート	5	亜円~亜角	5
SK20	珪質岩	3	亜角	3
SK20	濃飛流紋岩	3	亜角	2
SK20	ホルンフェルス	5	亜角	2
SK20	凝灰質泥岩	3	亜角	1
SK20	砂岩	12	亜角	1
SK20	泥岩	3	亜円	1
SK20	緑色岩	3	亜円	1

第 20 表 SK20 より出土した礫



## 名古屋城三の丸遺跡 VII

まれた状態の垂角礫3点が出土した。この岩石は保存状態が不良で岩石薄片などの作成もできなかったため、造岩鉱物などは不明である。しかし、石基部分が凝灰質であることや灰色の異質岩（泥岩？）片を含んでいることから凝灰岩と判断した。産地は不明である。

### g. その他の岩石

上記以外に池状遺構でみられた巨礫には、濃飛流紋岩（長径約20cm、垂円礫,1個）および花崗岩（長径20～40cm、角礫,3個）、安山岩（長径30cm、垂円礫、1個）が挙げられる。

## 3. 玉石

池状遺構およびSK20からは、垂円～円礫（いわゆる玉石）がまとまった状態で出土した。

### a. 池状遺構(SX02)の東張出し部

この地区では、拳大程度の垂角礫と長径3cm

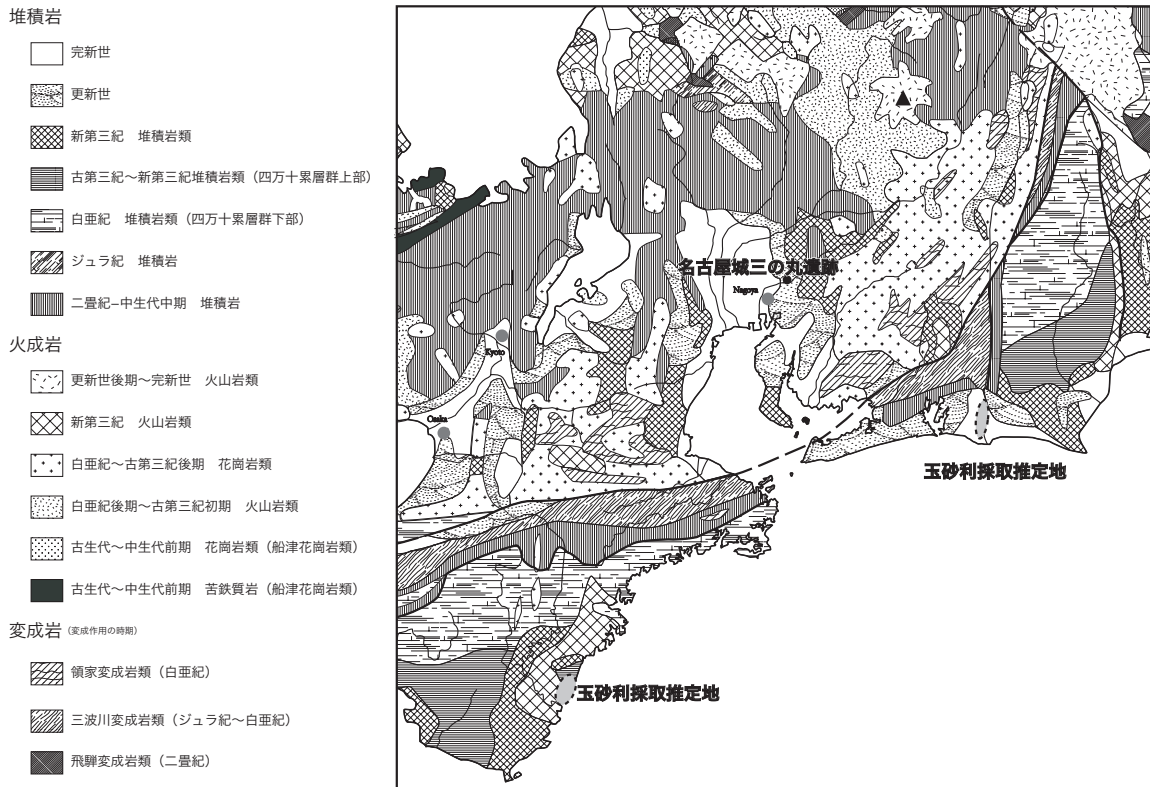
程度の垂角礫が多数出土した。また池の側面には漆喰で張り込められた巨礫が3点認められた。

拳大の垂角礫の石材はチャートが大半を占め、次いで珩質岩および泥岩起源のホルンフェルスが多く、砂岩や濃飛流紋岩、緑色岩、硬砂岩などが含まれていた。

大半を占めているチャートは長径3cm程度の垂角礫である。珩質岩は白色で直径3cm程度の垂円～垂円礫である。黒色のホルンフェルスは垂角～角礫、泥岩、砂岩、緑色岩、濃飛流紋岩などは垂円～垂角礫である。またチャートの色調は、赤褐色、黄褐色、灰色など多様である。

### b. 池状遺構(SX02)の床面

池状遺構の床面からは長径3～5cm程度の垂角～垂円礫が大量に出土した。石材はチャート、ホルンフェルスが多く、次いで緑色岩、緑色片岩、濃飛流紋岩、アプライト、砂岩などである。長径が大きいものほど垂角礫が多くなっている。層ご



第 202 図 愛知県周辺の地形図と礫採取推定地

との石材を比べてみると、SX02 床 1 層・南東床 1 層ではチャートや緑色片岩、アプライトが多いのに対し、SX02 床では緑色岩およびホルンフェルス、泥岩が多数出土している。

#### c. SX03

長径 5～7cm 程度の角～亜角礫が多数出土した。石材はチャートが大半を占め、緑色岩、砂岩、凝灰質砂岩、凝灰質泥岩などが数点確認された。

#### d. SK20

この遺構からは鶏卵大のアプライトが大量に出土した。長径 10cm 程度の亜円礫で円磨度は良い。石英や長石に縞状の配列が確認できるものもある。黒雲母やざくろ石を含有しているものもある。アプライトの他には、長径 5cm 程度の亜円～亜角礫のチャートや長径 3cm 程度の珪質岩、ホルンフェルス、濃飛流紋岩などが数点づつ確認された。

#### e. 玉石類の入手先について

池状遺構からは、3cm 程度の亜円礫で、茶褐色、緑色、黒色など色彩豊かな小さな玉石類、同様に 3cm 程度の亜円礫で白色の珪質岩ばかりの玉石類、鶏卵大のアプライトの亜円礫からなる大きめの玉石、長径 5cm 程度の亜角礫と大きく分けて 4 種類の玉石類が出土した。それぞれの玉石の産地について、若干の考察を試みた。

まず色彩豊かな小さな玉石類について考察する。これらの玉石類は池状遺構の SX02 の床面よりまとまって出土している。これら色彩豊かな小さな玉石の石材をみるとチャートやホルンフェルスに混じり、白色の珪質岩、泥岩および緑色岩、緑色片岩が含まれている。全体の淘汰度は良好で円磨度も高いことから、河川の下流域もしくは海岸付近の砂利であると推測させれる。また緑色片

岩および緑色岩の礫を含むことから、外帯と呼ばれる地域に深く関わる地域より産出したものと考えられる。

そこで、これらの岩石が含まれる河川もしくは海岸を推測した場合、東海地域での採取地を推定するならば、三重県熊野市の七里御浜が候補地として挙げられる。熊野市周辺の地質をみると、中・古生界では四万十累層が、中新統では熊野層群および尾鷲層群、熊野酸性岩類が分布している。このうち四万十累層中には緑色片岩および緑色岩が、熊野層群には那智黒と呼ばれる泥岩や、礫岩砂岩などが含まれる。尾鷲層群にはチャートや砂岩を礫とする大曾根層や砂岩やシルト岩からなる行野浦層が含まれている。また熊野酸性岩類と呼ばれるものには、神ノ木流紋岩および凝灰岩類、花こう斑岩が含まれている。これらの地質の情報から、色彩豊かな亜円～円礫類が入手できる地域と推測される。また、熊野市の七里御浜海岸は玉砂利の海岸でよく知られている。現地において採取した小礫の礫種および礫形、石材などの観察を行うと、発掘調査で得られた小礫とよく似ていることが確認された。

次に白色の珪質岩の長径 3cm ほどの亜円～亜角礫の供給地の推定を試みる。ここでいう珪質岩とは大理石やアプライト、石英、長石などいわゆる珪質な岩石の総称として用いているが、現在の地質図より珪質岩のみの亜円礫を産する地域は存在しない。つまり、出土した礫類は自然状態では存在せず、人為的な行為により白色のものだけを取り集めた状態であると考えられる。

鶏卵大のアプライトの採取地について述べる。これらは SK20 より、多数がまとまって出土したものである。大きさは鶏卵大のものから長径 10cm 程度であり、円磨度は高い。このような礫の形状より、採取地点は大きな河川の下流域もしくは海岸と推測される。そこで近隣の河川より観察を行ってゆくと、静岡県天竜川においてよく

## 名古屋城三の丸遺跡 VII

似た礫を採取することができた。採取地は静岡県浜松市新貝町の河川敷である。この河川敷ではアプライトや花崗岩、緑色片岩、凝灰岩、安山岩など多様な岩石を採取することができる。礫形は円～亜角礫で、様々な大きさのものが得られるが、20cm 程度の亜円礫が最も多くみられる。この地で採取できるアプライトは石英や長石に配列がみられ、まれに黒雲母やざくろ石が含まれているなど、遺跡で出土したアプライトによく似ている。天竜川は長野県駒ヶ根市付近に源流を持ち、駒ヶ根花崗岩や太田切花崗岩、天竜峡花崗岩など、複数の花崗岩体を削りながら、太平洋へ注ぎ込んでいる。この地においてアプライトだけを採取したと仮定することは可能であろう。ただし、天竜川の礫を造園に利用したとの資料を発見するには至っていないため、今回は採取候補地の一つとして提示するにとどめたい。

最後に池状遺構の床面より出土した 5cm 程度の亜角礫について、入手地域を推測する。これら

の亜角礫の石材はチャートおよびホルンフェルス、緑色岩、緑色片岩、濃飛流紋岩、泥岩、砂岩である。これらの礫は淘汰があまり良くなく、円磨度もばらつきが大きいことから、遺跡周辺の礫層中より採取された可能性が高いと推測される。

以上遺跡より出土した玉石類について、それぞれの採取地の推定を行った。しかしここで挙げた採取地が必ずしも、最有力な候補地であるとは限らない。今回は遺跡に近い地域に限り採取できる箇所を地質背景から推測したにすぎない。今後は江戸時代の造園技術および造園材料についての文献資料などとの比較検討が必要となるであろう。

### 参考文献

原色玉石図鑑(2001)建築資料研究社 .CONFORT No.50, 49-63.

日本の地質 5 中部地方 II (1988) 共立出版社 .310pp.



1 池状遺構 SX01 底部出土礫

\*長径3～5cmの亜角～亜円礫。石材はチャート、ホルンフェルス、泥岩など



2 緑色岩  
(長径 21.7mm)



3 緑色岩  
(長径 22.8mm)



4 緑色岩  
(長径 33mm)



5 砂岩  
(長径 29.5mm)



6 砂岩  
(長径 23mm)



7 砂岩  
(長径 23mm)



8 泥岩  
(長径 28.4mm)



9 泥岩  
(長径 21.7mm)



10 泥岩  
(長径 24.7mm)



11 アブライト (長径 28.8mm)



12 アブライト (長径 71.2mm)



13 アブライト (長径 72mm)



14 アブライト (長径 52.7mm)



15 アブライト (長径 61mm)



16 アブライト (長径 73.1mm)

第 203 図 池状遺構より出土した礫



## 第5節 名古屋城三の丸遺跡出土木製品の樹種同定

植田弥生 (パレオ・ラボ)

### 1. はじめに

ここでは、調査区東側の大形廃棄土抗群 (SK01 ほか) から出土した木製品 (主に廃材) 78 点の樹種同定結果を報告する。出土した木製品は、板材・薄い板材 (屋根)・角材などの建築廃材が多く、そのほかに箱物・折敷・曲物・結桶など容器類も検出された。

大形廃棄土抗群は、有力家臣たちが居住した武家屋敷時代 (江戸時代初期:1610 年～1650 年頃) の後に、藩主一族や側室の屋敷などが存在した御屋形時代 (1650 年頃～幕末) の遺構である。御屋形時代の遺構には、庭園に伴う池・石組溝・地下室・掘立柱建物・井戸・礎石などが検出されている。調査区東側に位置する大形廃棄土抗群からは、大量の瓦・石材・大工仕事に伴う廃材などが出土し、建物の増改築時の廃棄土抗と推測されている。今までの調査では、木製品などが検出される機会はほとんどなかったもので、今回の廃棄土抗群の検出により名古屋城内の藩主一族や側室などの居住区で、使用された木材利用に関する資料を得る目的で、この調査は実施された。

### 2. 試料と同定方法

木製品から材の 3 方向 (横断面・接線断面・放射断面) を見定めて、剃刀を用い各方向の薄い切片を剥ぎ取り、スライドガラスに並べ、ガムクロールで封入し、永久プレパラート (材組織標本) を作成した。この材組織標本を、光学顕微鏡で 40～400 倍に拡大し観察した。

なお試料は針葉樹材がほとんどであった。針葉樹材の樹種同定には、放射断面の分野壁孔の観察が重要である。従って特に放射断面については、異なる部分から、また安定した形質が発現されて

いる年輪幅の広い部分を選び、複数の破片を採取するように心掛けた。また、観察時には早材部の分野壁孔の特徴や、多数の分野壁孔を観察するように心掛けた。

材組織標本は、愛知県埋蔵文化財センターに保管されている。

### 3. 結果

同定結果の一覧を第 21 表に示し、第 22 表では検出樹種と器種ごとに集計した。検討試料数は 81 点であるが、実測番号 97 結桶底板と実測番号 99 大型箱物? に木釘があり、合計数が 2 点多く、83 点となっている (第 22 表)。

主に板材・薄い板材 (屋根)・角材などの建築廃材と、箱物・折敷・曲物・結桶など容器類などから検出された樹種は、ヒノキ (29 点)・サワラ (16 点)・ヒノキ属 (1 点)・アスナロ (8 点)・ネズコ (5 点)・ヒノキ科 (4 点)・モミ属 (9 点)・ツガ属 (4 点)・スギ (3 点) の針葉樹材と、単子葉類のタケ亜科 (1 点) であった。材はすべて針葉樹材であった。ヒノキ (30 点) が最も多く全体の約 30% を占め、ヒノキとサワラを含めヒノキ属 (48 点) としてみると全体の約 60% を占め、特にヒノキ科 (ヒノキ・サワラ・ヒノキ属・アスナロ・ネズコ・ヒノキ科) に属する材は 66 点と全体の約 80% 弱を占めていた。ヒノキ属と同定したものは、ヒノキまたはサワラであるが、保存が悪く特定できなかったものであり、ヒノキ科も保存が悪いため科の同定レベルに留めた。タケ亜科の木釘は、いわゆる竹類の稈 (茎) から作られたものであり、桶底の板を繋ぐ木釘によく使用されているものである。

以下に同定根拠とした材組織の特徴を記載し、

3方向の材組織写真を提示した。なお、針葉樹材の同定には、分野壁孔の特徴が重要であるが、判断に迷うことが多いと難しい。従って、横断面や接線断面は同定根拠の決定にあまり重点がないと思われる分類群については写真掲載を省略し、その代わりにより多くの試料の放射断面を掲載した。

### 樹種記載

#### (1) モミ属 *Abies* マツ科 第204図 1a-1c (図版番号 1446)

仮道管・放射柔細胞からなり、樹脂細胞はない針葉樹材。概して早材から晩材への移行はゆるやかである。放射柔細胞の壁は厚く、放射断面において接線壁に数珠状肥厚が見られ、上下端の細胞はときに山形になる。分野壁孔は小型のスギ型やヒノキ型が雑然と配置し、1分野に1～6個ある。放射組織の細胞高は比較的高い。

モミ属は常緑高木で、暖帯から温帯下部の山地に普通に見られるモミ、温帯上部の高山に生育するウラジロモミ・シラベ・アオモリトドマツ、北海道の山地に生育するトドマツの5種がある。いずれの材も組織は類似しており区別はできない。材質はやや軽軟で加工は容易であるが保存性は低い。

#### (2) ツガ属 *Tsuga sieboldii* Carr. マツ科 第204図 2a-2c (図版番号 1495)

仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞・放射仮道管からなる針葉樹材。放射柔細胞の壁は厚く、放射断面において接線壁に数珠状肥厚がみられる。放射断面において、放射柔組織の上下端に、有縁壁孔を持つ放射仮道管がある。分野壁孔は小型で2～4個ある。

モミ属の材と類似するが、ツガ属には樹脂細胞と放射仮道管がある点が異なる。

ツガ属には本州の福島県以南の暖帯から温帯下部の山地に普通のツガと、本州・四国・九州の温帯上部の深山に生育するコメツガがあるが、材組

織からは2種を区別することはできない。材は重硬で割裂性も大きく耐久性もよい。

#### (3) スギ *Cryptomeria japonica* D. Don

スギ科 第204図 3a-3c (図版番号 2228)  
仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材。晩材の量はやや多く、晩材の仮道管壁も肥厚している。樹脂細胞は年輪の後半に散在する。分野壁孔は大型、孔口は大きく開いたスギ型、開口の幅は壁孔縁の幅より広く、1分野に2～3個が水平に並ぶ。

スギは本州以南の暖帯から温帯下部の湿気のある谷間に生育する常緑高木である。材はやや軽軟で加工は容易である。

#### (4) ネズコ *Thuja standishii* Carr. ヒノキ科 第205図 4a-4b (図版番号 1458) 5 (図版番号 1427) 6 (図版番号 1437)

仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材。晩材の量は比較的少ない。分野壁孔はヒノキ型、1分野に2～6個あり、ヒノキ属(ヒノキやサワラ)に比べ分野壁孔数が多い。

ネズコ(別名クロベ)は本州・四国の温帯上部の山中に生育する常緑高木であり、特に中部地方以北に多く分布する。材は耐朽性・切削性・割裂性にすぐれる。

#### (5) アスナロ *Thujopsis dolabrata* sieb. et Zucc. ヒノキ科 第205図 7a-7b (図版番号 1421) 8a-8b (図版番号 1432) 9 (図版番号 1457)

仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材。晩材の量は概して少ない。分野壁孔は小型のヒノキ型やスギ型、1分野に2～5個、やや雑然と配置している。実測番号26では、数箇所では放射仮道管の出現が観察された。

アスナロは日本特産で1属1種である。本州・四国・九州の温帯の山中に生育する常緑高木である。材質は良く建築材として有用であるがヒノキよりやや劣る。



(6) ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* Endl.

ヒノキ科 第206図 10a-10b (図版番号 1459)

仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材。晩材の量は少ないが、早材から晩材への移行は緩やかな材と急な材がある。分野壁孔は孔口がやや斜めに細く開いた典型的なヒノキ型、1分野に主に2個が水平に配列する。

ヒノキは本州の福島県以南・四国・九州のやや乾燥した尾根や岩上に生育し、材は耐久性・切削性・割裂性にすぐれ、建築材・曲物などによく使われる。

(7) サワラ *Chamaecyparis pisifera* (Sieb.

et Zucc.) ヒノキ科 第206図 11 (図版番号 1464) 12a-12c (図版番号 1477) 13a-13b (図版番号 1461) 14 (図版番号 759)

仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材。晩材の量は概して少ないが、早材から晩材への移行は緩やかな材と急な材がある。分野壁孔はヒノキよりやや大きく、ヒノキより孔口は大きく開いたヒノキ型(開口の幅は、壁孔縁の幅より少ない)、1分野に主に2個、時に3個が水平に配列する。実測番号58では、数箇所放射仮道管の出現が観察された(写真13b)。

サワラはヒノキより分布域は狭くおもな分布域は東北南部から中部地方の沢沿いの岩上に生育する。材はヒノキよりやや軽軟で劣るといわれる。

#### 4. まとめ

名古屋城三の丸遺跡の御屋形時代の大型廃棄土抗群から出土した建築廃材などの樹種は、ヒノキ・サワラ・アスナロ・ネズコ・モミ属・ツガ属・スギの針葉樹材であった。ヒノキ科に属する材が全体の80%を占め、次にマツ科(モミ属・ツガ属)が多く、スギは意外と少なく、マツ属複雑管束亜属(アカマツとクロマツ)は検出されなかった。

特にヒノキが多く、板材・角材・楔・削り屑?・端切れ材?・容器類(箱?・折敷・曲物など)・遺構建築材(地下室?)など、様々な用途に使用されており、ヒノキ材が強く選択使用されていた傾向が認められた。ヒノキの次に多いサワラも、ヒノキと同様に様々な木製品から検出された。しかし屋根材にはヒノキよりサワラの方が多く、サワラの方が選択使用されていた傾向が見られた。現在でも屋根材の樽板は、木曾産のサワラが主に使われるそうである。名古屋城三の丸遺跡の屋根板材は、板より厚い板材であるが、やはりサワラが選択使用されていたようである。東京江戸では地下室の構築材は、文献ではアスナロが主に使われていた記録があり、近世江戸の遺跡でも地下室の構築材にはアスナロが多い。地下室と推定されるSX100の側板と底板は、当遺跡ではヒノキであった。

県内では、街道筋の集落遺跡である荊安賀遺跡(一宮市)において江戸時代の漆椀や箸などの樹種調査結果がある。漆椀はトチノキ・ブナ属・カエデ属などの広葉樹材がほとんどである。それ以外の多くは箸であるが、ヒノキとサワラがほとんどである(愛知県埋蔵文化財センター、2001)。また大雑把な比較ではあるが、近世江戸城周辺の遺跡においても、ヒノキ科の材が多く、特にヒノキは様々な製品で多く使われ、サワラは桶・木樋などから多く検出されている(松葉、1999など)。権威ある特別な区域の城内遺跡であっても、時代的な樹種利用の傾向はおおよそ同じようであったことが判った。

#### 引用文献

- 小沢詠美子 1998『災害都市江戸と地下室』吉川弘文館  
松葉礼子 2001『飯田町遺跡』千代田区飯田町遺跡調査会  
愛知県埋蔵文化財センター 2001『荊安賀遺跡』。

樹種分析番号	図版番号	グリット	遺構	種別	樹種	木取り	備考
1	2226	8d	SK57	厚い板材	サワラ	板目	年輪緻密
2	1451	11h	SK01B 下層	角材	ツガ属	板目	実測 3 と同一?
3	1452	11h	SK01B 下層	角材	モミ属	板目	実測 2 と同一?
4	1422	11h	SK01B 下層	曲物桶底板?	ヒノキ	板目	
5	1475	11h	SK01B 下層	加工板材 (部分)	ヒノキ	斜め板目	年輪緻密
6	1426	11h	SK01B 下層	端切れ材?	ヒノキ	板目	
7	1421	11h	SK01B 下層	楔	アスナロ	板目	年輪緻密
8	1464	11h	SK01B 下層	薄い板材 (屋根)	サワラ	斜め	平面三角形
9	1448	11h	SK01B 下層	加工板材	ヒノキ	斜め	
10	1447	11h	SK01B 下層	加工板材 (部分)	サワラ	板目	
11	1449	11h	SK01B	加工板材	ヒノキ	板目	
12	1483	11h	SK01B 下層	薄い板材 (屋根)	ネズコ	板目	
13	1484	11h	SK01B 下層	薄い板材 (屋根)	ヒノキ	斜め	
14	1477	11h	SK01B 下層	薄い板材 (屋根)	サワラ	板目	
15	1496		SK01B 下層	厚い板材	アスナロ	斜め	
16	1430		SK01B 下層	厚い板材	ヒノキ	板目	
17	1411		SK01B 下層	楔	ヒノキ	斜め	年輪緻密
18	1408		SK01B 下層	楔	ヒノキ	板目	年輪緻密
19	1434		SK01B 下層	加工板材 (部分)	モミ属	斜め	
20	1467		SK01B 下層	薄い板材 (屋根)	ヒノキ	板目	
21	1441		SK01B 下層	折敷側板?	ヒノキ	板目	
22	1412	11h	SK01B 下層	楔	ヒノキ	斜め	年輪緻密
23	1482	11h	SK01B 下層	薄い板材 (屋根)	サワラ	板目	
24	1466	11h	SK01B 下層	薄い板材 (屋根)	サワラ	斜め	平面三角形
25	1481	11h	SK01B 下層	薄い板材 (屋根)	サワラ	斜め	
26	1432	11h	SK01B 下層	厚い板材	アスナロ	板目	年輪緻密
27	1410		SK01B 下層	楔	アスナロ	斜め	
28	1472		SK01B 下層	厚い板材	ヒノキ	板目	年輪緻密
29	1493		SK01B 下層	薄い板材	ヒノキ	斜め	
30	1473	11h	SK01B 下層	角材片	ツガ属	斜め	
31	1450	11h	SK01B 下層	角材	モミ属	板目	
32	1459	11h	SK01B 下層	角材	ヒノキ	斜め	
33	1443	11h	SK01B 下層	加工角材 (部分)	モミ属	板目	
34	1491	11h	SK01B 下層	加工板材	ヒノキ	斜め	
35	1433	11h	SK01B 下層	加工板材	ヒノキ	板目	
36	1474	11h	SK01B 下層	角材片	ヒノキ	1/4 分割	
37	1446	11h	SK01B 下層	角材	モミ属	板目	
38	1457	11h	SK01B 下層	角材	アスナロ	斜め	
39	1458	11h	SK01B 下層	厚い板材	モミ属	斜め	
40	1435	11h	SK01B 下層	厚い板材	ヒノキ	板目	
41	1425		SK01B	削り屑?	ヒノキ	斜め	
42	1498		SK01B	箱物?	ヒノキ	板目	
43	1438	11h	SK01B 下層	加工角材 (部分)	モミ属	板目	
44	1476	11h	SK01B 下層	角材片	ヒノキ科	板目	
45	1461	11h	SK01B 下層	角材	サワラ	板目	
46	1453	11h	SK01B 下層	加工角材	ヒノキ	斜め	
47	1444	11h	SK01B 下層	加工角材	ヒノキ属	斜め	
48	1423	11h	SK01B 下層	曲物桶底板?	サワラ	板目	
49	1465	11h	SK01B 下層	薄い板材 (屋根)	サワラ	板目	平面三角形
50	1439	11h	SK01B 下層	加工角材	ヒノキ	斜め	杭状
51	1431	11h	SK01B 下層	加工角材	ヒノキ	板目	臍加工
52	1424	11h	SK01B 下層	結桶側板	アスナロ	板目	
53	1440	11h	SK01B 下層	加工角材 (建具)	ヒノキ	板目	
54	1463	11h	SK01B 下層	板材	サワラ	板目	平面三角形
55	1436	11h	SK01B 下層	角材片	ヒノキ	斜め	
56	1454		SK01B	角材	ヒノキ	板目	
57	1455	11h	SK01B 下層	角材 (釘)	ヒノキ	板目	
58	2224	11e	SK24 (ベルト)	角材 (釘)	スギ	板目	
59	759	11i	SK147	薄い板材	サワラ	板目	
60	1008	12f	SK185	角材片	モミ属	板目	
61		10d	SK212	礎板?	ヒノキ科	板目	
62	2228	10b	SK362	結桶底板	スギ	板目	
	2228	10b	SK362	結桶底板の木釘	タケ亜科		
63	2227	10b	SK362	大型箱物底板?	スギ	板目	
64	2225	10d	SK107	大型箱物?	ネズコ	板目	
	2225	10d	SK107	大型箱物? の木釘	ヒノキ科	板目	
65	1548	8c	SX02 北東	不明材	アスナロ?	板目	
66	1549	8c	SX02 北東	不明材	アスナロ	斜め	
67	1547		SX02 北西	杭	ヒノキ科	芯持ち 面取り	
68	1546		SX02 北西	杭	サワラ	芯持ち丸木	
69	1545		SX02 北西	杭	サワラ	芯持ち丸木 樹皮付	
70			SB01	削り屑?	サワラ		
71	1442	11h	SK01B 下層	加工角材	モミ属	斜め	
72	1460	11h	SK01B 下層	加工角材	サワラ	板目	
73	1497	11h	SK01B 下層	薄い板材 (屋根)	アスナロ	板目	
74	1427	11h	SK01B 下層	加工角材	ネズコ	板目	少し厚い
75	1445	11h	SK01B 下層	加工角材	ネズコ	斜め	
76	1437	11h	SK01B 下層	角材片	ネズコ	板目	
77	1456	11h	SK01B 下層	角材	ツガ属	斜め	
78	1495	11h	SK01B 下層	部材	ツガ属	斜め	
年代測定		13c	SK39	側板 (井戸か?)	サワラ		PLD-2153
		9c	SX100	箱物側板 (地下室?)	ヒノキ		
		9c	SX100 床板	箱物床板 (地下室?)	ヒノキ		

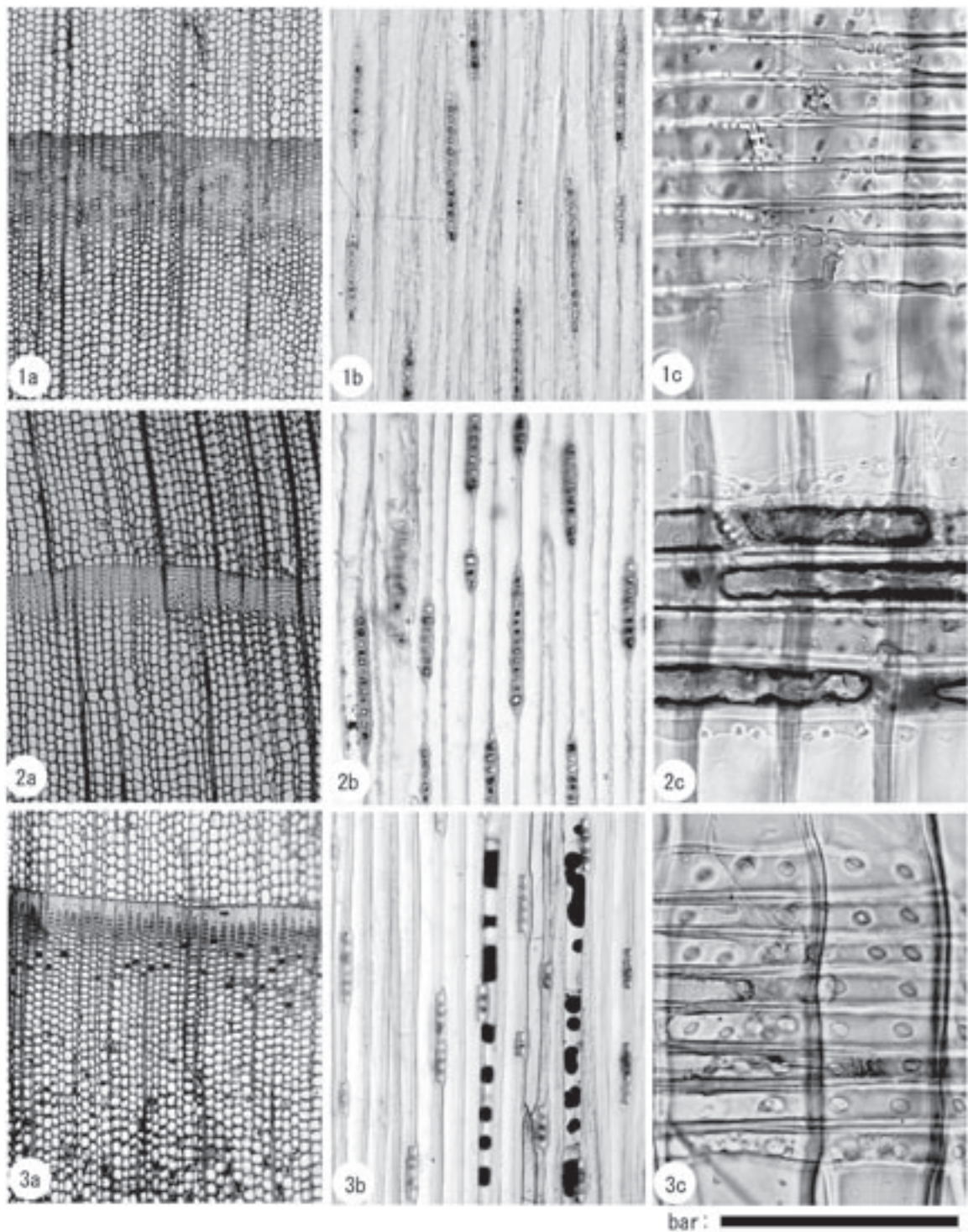
第 21 表 名古屋城三の丸遺跡出土木製品の樹種同定結果一覧

名古屋城三の丸遺跡 VII

松葉礼子 1999 「溜池遺跡・汐留遺跡・墨田区三遺跡から出土した木製品の樹種から類推される近世江戸城周辺の木材消費」 59-70 『植生史研究 第7巻第2号』日本植生史学会。

種別	樹種	ヒノキ科					マツ科		スギ科		合計	
		ヒノキ	サワラ	ヒノキ属	アスナロ	ネズコ	ヒノキ科	モミ属	ツガ属	スギ		タケ亜科
厚い板材		3	1		2			1			7	
板材			1								1	
薄い板材		1	1								2	
薄い板材 (屋根)		2	6		1	1					10	
加工板材		5	1					1			7	
加工角材		4	1	1		2		3			11	
角材		3	1		1			3	2	1	11	
角材片		2				1	1	1	1		6	
楔		3			2						5	
杭			2				1				3	
削り屑?		1	1								2	
端切れ材?		1									1	
部材									1		1	
礎板?							1				1	
不明材					2						2	
箱物?		1									1	
大型箱物?	本体					1					1	
	木釘						1				1	
大型箱物底板?									1		1	
折敷底板		1									1	
曲物桶底板?		1	1								2	
結桶	側板				1						1	
	底板								1		1	
	底板の木釘									1	1	
遺構構築材	側板 (井戸枠か?)		1								1	
	箱物側板 (地下室?)	1									1	
	箱物床板 (地下室?)	1									1	
合計		30	17	1	9	5	4	9	4	3	1	83

第 22 表 名古屋城三ノ丸遺跡出土木製品の種別の樹種集計



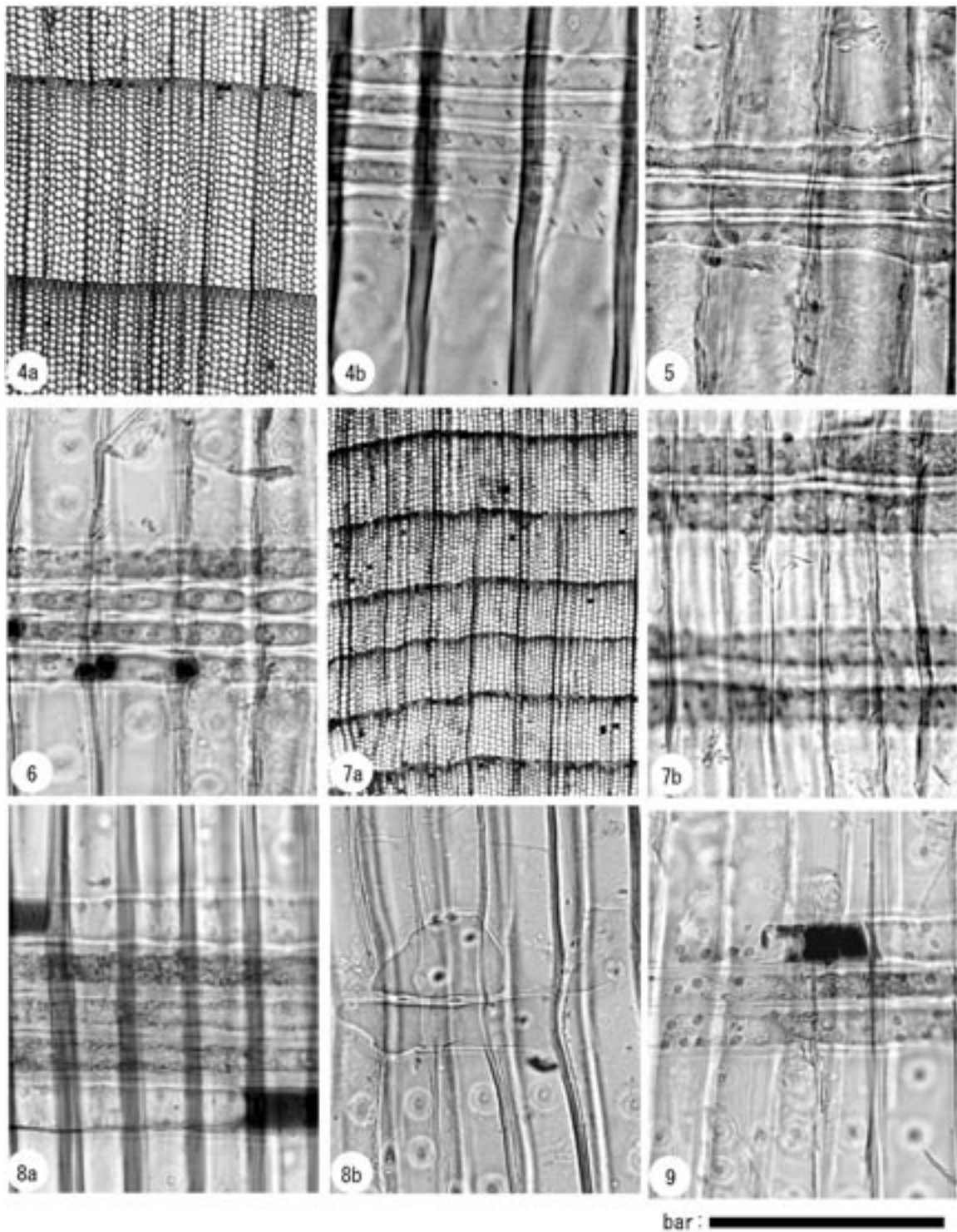
第 204 図 名古屋城三の丸遺跡出土木製品材組織の光学顕微鏡写真 (1)

1a-1c: モミ属 (図版番号 1446) 2a-2c: ツガ属 (図版番号 1495) 3a-3c: スギ (図版番号 2228)

1a・2a・3a: 横断面 1b・2b・3b: 接線断面 1a・2b・3c: 放射断面

bar: 横断面 = 1mm, 接線断面 = 0.4mm, 放射断面 = 0.1mm





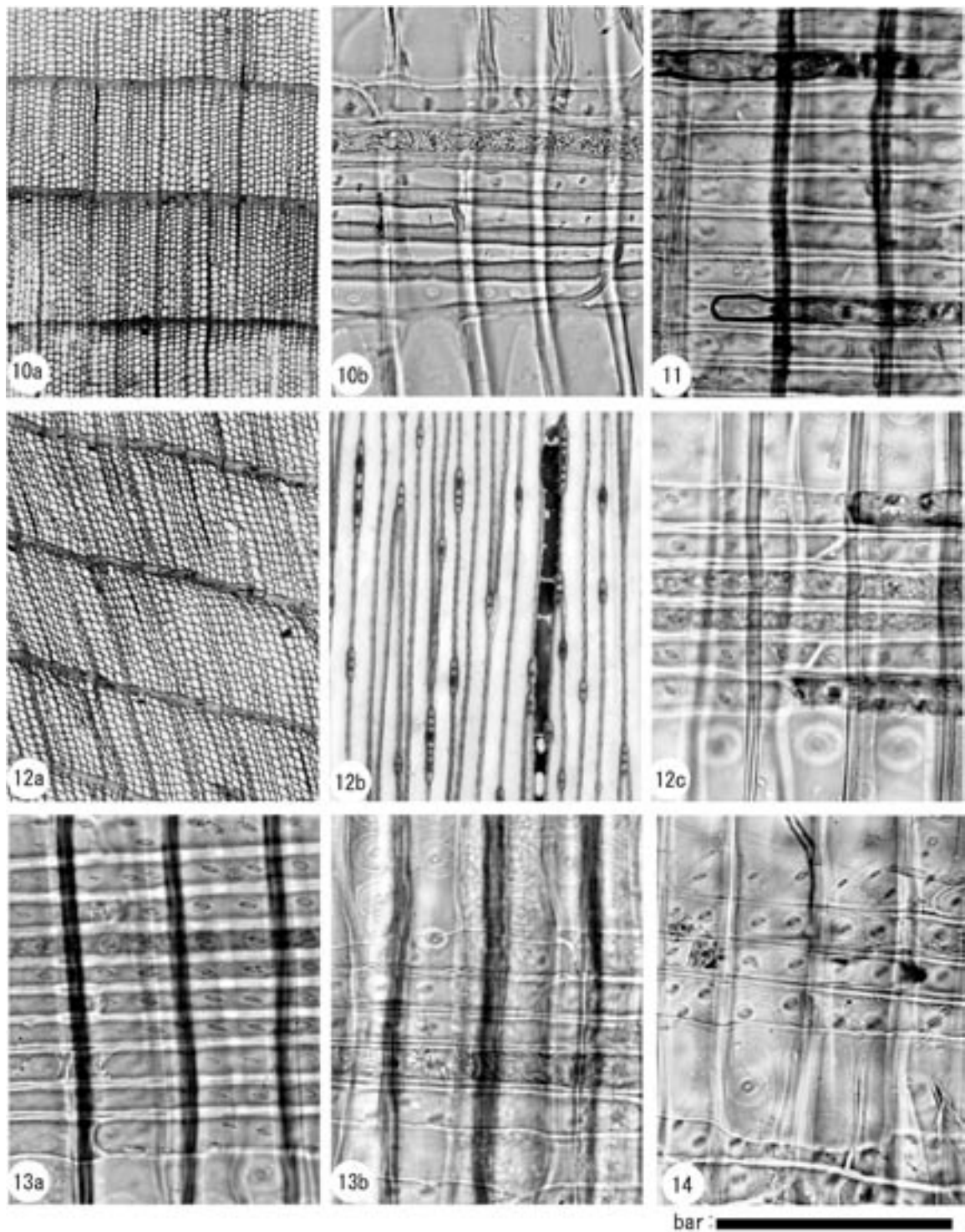
第 205 図 名古屋城三の丸遺跡出土木製品材組織の光学顕微鏡写真 (2)

4a-4b: ネズコ (図版番号 1458) 5: ネズコ (図版番号 1427) 6: ネズコ (図版番号 1437)

7a-7b: アスナロ (図版番号 1421) 8a-8b: アスナロ (図版番号 1432) 9: アスナロ (図版番号 1457)

4a・7a: 横断面 4b・5・6・7b・8a・9: 放射断面 bar: 横断面=1mm, 放射断面=0.1mm





第 206 図 名古屋城三の丸遺跡出土木製品材組織の光学顕微鏡写真 (3)

10a-10b: ヒノキ (図版番号 1459) 11: サワラ (図版番号 1464) 12a-12b: サワラ (図版番号 1477)

13a-13b: サワラ (図版番号 1461) 14: サワラ (図版番号 759)

10a・12a: 横断面 12b: 接線断面 10b・11・12c・13a・13b・14: 放射断面

bar: 横断面 = 1mm, 接線断面 = 0.4mm, 放射断面 = 0.1mm

## 第5章 考察とまとめ

### 第1節 文献から見た御屋形の歴史

#### はじめに

今回の調査区は名古屋城三の丸の北東隅、「御屋形」と呼ばれた屋敷地の一部である。御屋形は慶安4(1651)年名古屋に迎えられた廣幡忠幸の屋敷を嚆矢とし、藩主の一族・側室らが居住したことで古くから知られている。御屋形およびその周辺については、江戸末期奥村得義により編纂された『金城温古録』に区画および居住者の変遷に関する記事があり、詳細な検討が行われている。その後大正5(1916)年に編纂された『名古屋市史』地理編などに御屋形の記述があるものの、具体的に検討されてきたとは言いがたい。また近年三の丸の居住者の変遷(伊藤、1995)や名古屋城下絵図に関する検討(山本、1993)が試みられており、それらの成果を採り入れた御屋形の新しい研究が求められている。

そこで小稿では、御屋形及びその周辺の区画の形成過程について、蓬左文庫が所蔵する御屋形絵図、および名古屋城下絵図を題材に検討する。また御屋形の居住者の変遷を整理し、御屋形がどのように利用されてきたかを検討する。

#### 1 御屋形成立以前

名古屋城は慶長15(1610)年に築城が始まり、初代藩主徳川義直が本丸御殿で居住を始める元和2(1616)年までには城下の整備が進んだ。「清須越」により家臣団・町人等の移住が行われ、大身の家臣は三之丸、それ以外の家臣には曲輪の周辺に屋敷地が与えられた。また『金城温古録』所載「三之丸内邸宅古図」(以下、「邸宅古図」と略す)によると、御付家老である成瀬隼人正と竹腰山城

守は二之丸、志水甲斐守は二之丸のうち西之丸に屋敷地を与えられたが、志水家は寛永3(1626)年に、成瀬・竹腰両家は寛文3(1663)年にそれぞれ三之丸に移った。

さて「邸宅古図」によると、御屋形が位置した東<sup>くろがね</sup>鉄門の東には武家屋敷が展開しており、南北に1筋、東西に1筋小路が通じていたとされる。東鉄門に面して寺西藤左衛門、石川市正、津田太郎左衛門が屋敷を構え、その裏手には一色竜雲、粟生将監の名を見出すことができる。南北の小路をはさんで東側には普請奉行の小屋場と御蔵があったが、その後武家屋敷となっている。

#### 2 御屋形空間の形成

慶安2(1649)年義直の娘京姫と八条宮智仁親王の第二王子幸丸との婚礼が決まり、「石川伊賀屋敷替被仰付 御厩之内差添御作事」(『編年大略』)が行われた。この記事により、石川伊賀守正光らを屋敷替えの上、御屋形の区画の原型が成立したことがわかる。義直の逝去をはさんで慶安4(1651)年正月、京都より幸丸が迎えられ、翌2月に京姫との婚礼が執り行われた。幸丸の屋敷は東鉄門向屋敷と呼ばれ、『金城温古録』によると、門は幸丸・京姫別々に設けられていたが、内部は一続きになっていたといわれている。また万治3(1660)年には東北隅の区画で屋敷替えが行われ、新たな屋敷の作事が行われた。義直の側室貞松院が二之丸から移り住んだため、貞松院屋敷あるいは東御屋敷と呼ばれるようになった。

寛文3(1663)年、幸丸は清華に列せられた上廣幡忠幸を名乗り京都に戻るようになったが、

京姫と4人の娘は上京せず、向屋敷にそのまま留まった。忠幸の明屋敷には寛文4(1664)年松平出雲守義昌が「御城内ニ而火之元等如何敷」(「御国御領分御殿・御屋敷等当時存亡吟味之留」、旧蓬左文庫所蔵資料一三九一三〇)ため、二之丸より移り住んだ。義昌は向屋敷に寛文6(1666)年まで住み、城の西南に新たに設けられた廣井屋敷に移り住んだ。また京姫はのちに普峯院と呼ばれ、寛文13(1673)年に廣井下屋敷へ移った。このため向屋敷はしばらく空館となった。

延宝3(1675)年、2代藩主光友の嫡子綱誠が部屋住の身分で入国することになり、これに伴い向屋敷が東隣の武家屋敷を取り込んで拡張・整備された。綱誠は同年5月向屋敷に入り、諸文献によるとこの時点で御屋形の称が始まったとされる。また『金城温古録』によると、御屋形の区画は貞享2(1685)年に「御春屋」ほかの武家屋敷を組み込む形で拡張されている。一方東御屋敷は貞松院が貞享元(1684)年に逝去し、翌2年に光友の末子六郎友重が二之丸から移り住んだ。六郎は貞享4(1687)年春日井郡水野村へ蟄居となり、翌元禄元(1688)年には松平撰津守義行の仮の館として、同5(1692)年まで利用された。

元禄6(1693)年4月、光友は幕府に自らの隠居と綱誠への家督相続を願い出、許しを得た。この間御屋形に東御屋敷を組み込む作事が行われ、8月に完成した。御屋形・東御屋敷は一続きの区画となった。光友は翌9月に名古屋に入国して御屋形へ入り、夫人の松壽院も二之丸から移り住んだ。こうして御屋形は元禄8(1695)年、大曾根下屋敷が完成するまでの間、隠居所として利用された。

### 3 御屋形区画の変遷

前節では御屋形の区画が形成される過程を文献から確認したが、ここでは御屋形及び周辺の区画

の変遷を、名古屋城下絵図と蓬左文庫が所蔵する御屋形絵図の検討を中心に、『金城温古録』の記述と照らしあわせて試みる。

名古屋城下絵図のうち慶安2年以前における三之丸の区画を示す絵図としては、正保4(1647)年作成とされる徳川美術館所蔵「名古屋城絵図」(以下、「正保4年絵図」と称す)がある。「正保4年絵図」は尾張藩が幕府に提出した城絵図の控とされ、現存最古のものである(『新修名古屋市史』第3巻付図解題)。絵図の性格上堀の深さ・幅や石垣の高さを記し、隅櫓・枳形なども立体的に描かれている。しかし三之丸やその周辺の武家地は重臣の屋敷を除いて「侍町」「鷹師町」とのみ記され、1軒ごとの区画も省略されている。

慶安2年の東鉄門向屋敷の時代の城下絵図としては、名古屋城管理事務所蔵「万治年間名古屋城下絵図」(以下、「万治年間絵図」と略す)がある。同図は記入内容から寛文8(1668)年から延宝3年の間に描かれたと考えられ、向屋敷には「普峯院様」・「出雲守様」の名が、東隅には「貞松院様」の名も見られる。また「厩」は清水門の北いわゆる土居下に描かれており、『金城温古録』の記述を裏付ける。

前節でも述べたように、東鉄門向屋敷は延宝3年綱誠の入国により御屋形と呼ばれ、区画は周辺の武家屋敷を囲い込むように拡張する。この時期における区画の変化を、蓬左文庫所蔵の絵図のうち、次の3点について検討を進めることにする。

#### 「三之丸絵図」(蓬左文庫 図444)

御屋形・武家屋敷の区画を描写し、土居・道筋を貼紙で表現している。土居・道筋は黄色の貼紙で表しているが、「貞松院様」と「御春屋」の間に新たに設ける道筋は青色の貼紙で表している。区画の大きさを1軒ごとに間数で表し、「御屋形」・「御馬屋」・「御春屋」の名称や、武家屋敷の居住者が記されている。



「御屋形并東御殿御絵図」（蓬左文庫 図417）

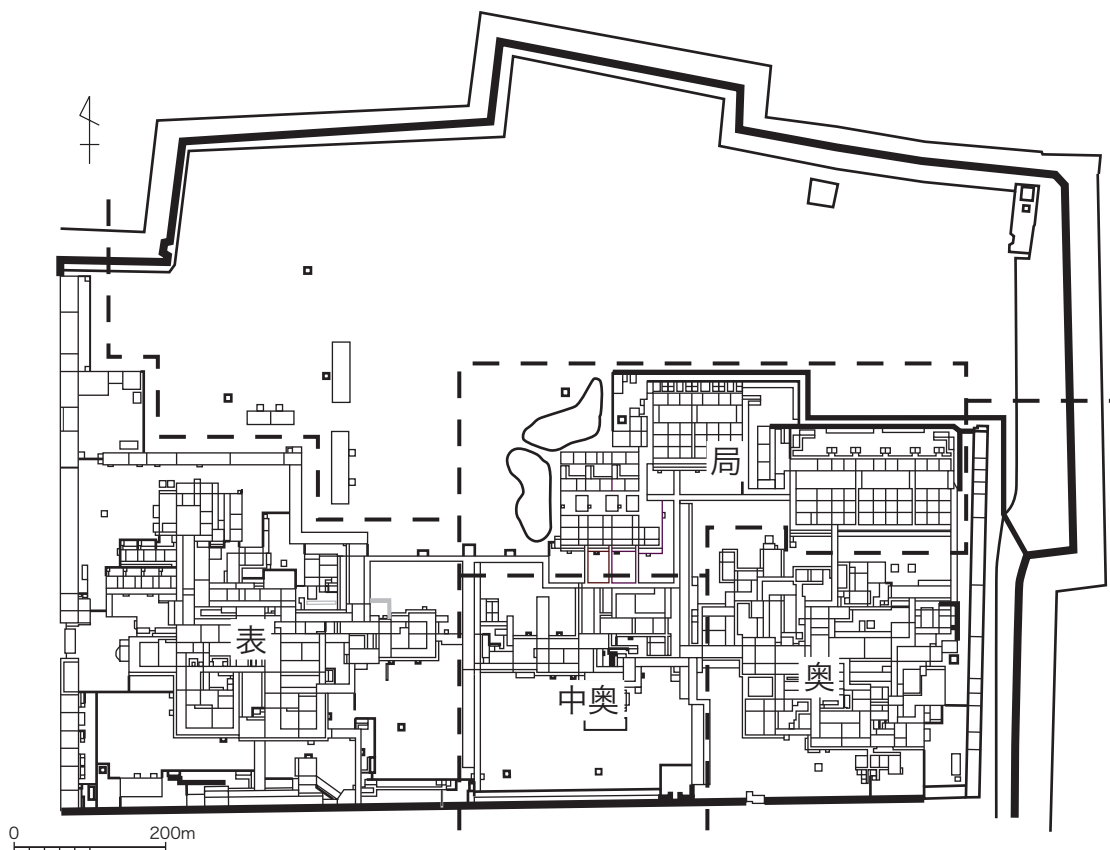
指図であり、1間を3分（約0.9cm）で描く三分計の図である。御屋形・東御殿と長屋を黄色の貼紙、厩を青色の貼紙で表す。間取りの表現は詳細であるが、外堀は簡略化されている。御屋形の北に「御厩」および「別当屋敷」があり、武家屋敷の区画を1軒ごとに表現し、「南御屋敷」・「御春屋」や居住者が記されている。

「御屋形御絵図」（蓬左文庫 図416）

御屋形の区画を描く2枚の絵図からなり、袋には「御屋形御差図」と表記する。1間を8分（約2.4cm）で描く八分計の図である。部屋は黄色・青色の貼紙で色分けして表し、部屋の名称を付箋で表している。また板張・畳敷の区別が描かれている。3点の中ではもっとも詳細な情報を持つ。

まず「御屋形御絵図」は「御屋形」を1区画

で描いていること、御土居東北隅に描かれた社殿が「荒神社」であることから、同図が元禄6年に完成した光友隠居所の指図である可能性が高い。残る2点の前後関係は、「御春屋」とその周辺の区画に注目して検討することができる。「三之丸絵図」では、「御春屋」は「貞松院様」の西に隣接している。これに対し「御屋形并東御殿御絵図」では、「御春屋」は「御屋形」の南「南御屋敷」に隣接している。また『金城温古録』の記述によると、「御春屋」は貞享2年2月に取毀された後評定所へ一時的に寓居し、5月に松平図書の屋敷南に移転したとある。さらに同書「御屋形御曲輪 其三 延宝三卯年以後変化」では、松平図書の屋敷が延宝6（1678）年に移転し、跡地は「南御屋敷」となっている。これらのことから、「三之丸絵図」は貞享2年以前に、「御屋形并東御殿御絵図」は貞享2年以降、元禄6年までに作成されたと考えるのが自然となる。したがって



第207図 御屋形の機能（『御屋形御絵図』をトレースして編集・改変を加えたものである）

御屋形の区画は「万治年間絵図」の段階、「三之丸絵図」の段階、「御屋形并東御殿御絵図」の段階、「御屋形御絵図」の段階の順で拡張されたと考えられる。

次に、御屋形の内部空間について概略する。本丸御殿・二之丸御殿は先行研究でも明らかにされている通り、公的機能を持つ「表」と住居に相当する「中奥」「奥」「奥」に隣接し女中の居住空間である「局」の大きく3種類の空間から成り立つ(『新修名古屋市史』第3巻)。第208図は「御屋形御絵図」をトレースしたものである。御屋形は東西2棟の建物を中核に、間に1棟の建物をはさんで構成される。先に述べたように同絵図は部屋を2色の貼紙で表しているが、部屋の名称を検討すると次のようなことがわかる。まず西側の建物には「表御門」「御広間」「御書院」「御墨絵之間」のほか、家老・用人・書院番・小姓の「休所」があり、西側の建物が「表」の機能を有していたことがわかる。一方東側の建物には「御口部屋」「片岡部屋」など、「奥」を表す名称が目立つ。間にある建物は「御座之間」「御湯殿」「御侍伝堂」など「中奥」の機能を有すると言え、したがって西から「表」「中奥」「奥」と並ぶことになる(第207図)。また、「奥」の北隣には「長御局」「中御局」「奥御局」が位置する。したがって2色の貼紙は「表」・「奥」を黄色で、その他の部屋を青色で表したことがわかる。

#### 4 その後の御屋形

2節でも述べたように、光友は元禄8(1695)年3月御屋形を離れ、新たに完成した大曾根下屋敷に移り住んだ。しかし松壽院は御屋形に留まり、宝永2(1705)年に逝去するまで東側の建物で暮らした。西側の建物はしばらく居住者がなく空館となるが、「表」としての機能を有していたため、しばしば利用されていることが文献からわかる。一例を挙げると、元禄12(1699)年3代藩

主綱誠逝去の際、光友と出雲守義昌は幕府の弔喪使黒田甲斐守を御屋形で迎えた(『尾藩世記』五)。またこの時期に内寄合の場として利用されていたことが特筆される。内寄合とは、評定所のメンバーが評議以外におこなった内輪の会合である(林、1956)が、元禄14(1701)年「年寄役、月番宅寄合を廃止し、向後屋形に於て会合候様」申し達した(『尾藩世記』六)とあり、文中の「月番宅寄合」が内寄合を指すと考えられる。その後内寄合は正徳3(1713)年に瑞祥院が御屋形に居住することになったため、以後は評定所で行われるようになったとされる(林、同上書)。

元禄15(1702)年、4代藩主吉通との婚礼のため九条輔実の娘輔子が江戸に下向するが、途中3月18日から25日にかけて名古屋を訪れ、御屋形に滞在した。正徳3(1713)年吉通が逝去し、落飾して瑞祥院と呼ばれた輔子は翌4(1714)年9月娘千姫とともに御屋形に入り、少なくとも享保8(1723)年まではここで暮らした可能性がある。また東の建物には宝永6(1709)年吉通の側室梅昌院が二之丸から移り、享保15(1730)年の逝去まで暮らしている。梅昌院の後には7代藩主宗春の生母宣揚院が享保16(1731)年に移り住んだが、元文5(1740)年4月には宗春の娘傳姫(頼姫)が8代藩主宗勝の養女となり、同年10月に「尾州へ御登、宣揚院様御殿に御同居」したとある。宣揚院は寛保3(1743)年に逝去するが、傳姫は近衛内前との婚礼のため上京する延享3(1746)年ごろまで、ここで過ごしたと考えられる(『尾張徳川家系譜』所収「御系譜」)。

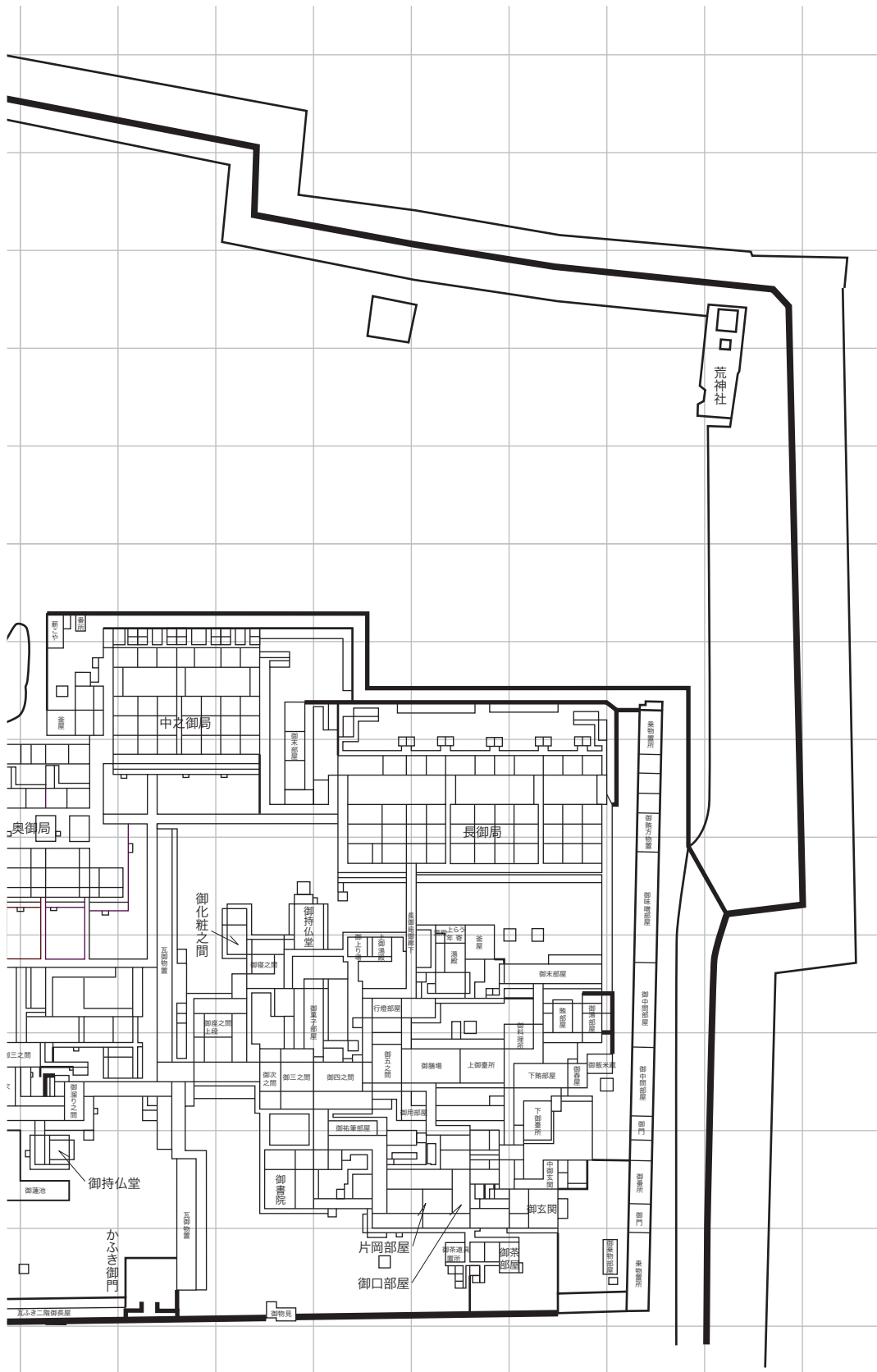
#### 5 御屋形の終焉

延享3年以降の御屋形がどのように利用されたか、文献から確認できることは少なくなる。『金城温古録』によると、東の建物は藩主が江戸へ参勤中、御城女中の仮居の局になったとされ、この





第 208 図 御屋形の内部空間（『御屋形御絵図』をトレースして編集・改変したものである）



## 名古屋城三の丸遺跡 VII

ことは名古屋市鶴舞中央図書館蔵「寛政前後 名古屋城三の丸図」で確認できる。なお建物は嘉永年中に「毀取」られた(『金城温古録』)。一方西側の建物では、享和2(1802)年松平治行の夫人聖聡院が「源明様、源白様御廟江御参詣被成度旨」(「御系譜」)として、文化元(1804)年に逝去するまで御屋形で過ごした。また文化5(1808)年、高須松平家松平勝富の娘維姫が近衛基前との婚礼のため京都に向かう途中、宿館として利用した。天保7(1836)年、近衛忠恕の妹福君が11代藩主齊温の夫人となるため江戸に向かう途中、御屋形を宿館として利用している。福君は天保10(1839)年齊温が逝去すると落飾して俊恭院と号し、翌11(1840)年に逝去するまで御屋形で過ごした。

天保14(1843)年12代藩主齊荘は御屋形をお供の江戸定府衆および御広敷付役人の詰所として利用した(『金城温古録』)。この時点で御屋形は藩主一族の居館、および宿館としての機能を失ったとみなすことができるが、同書の「御屋形曲輪 後」によると、御屋形を隠居所として使用した人物が居る。15代藩主茂徳である。彼は14代藩主慶勝の弟にあたり、慶勝が安政の大獄に連座して隠居した安政5(1858)年、藩主の座に就いた。しかし文久3(1863)年隠居して玄同を名乗り、御屋形へ移ったと考えられる。玄同は幕末の混乱した政局の中慶応2(1866)年一橋家を相続して御屋形を離れ、御屋形は空館となった。

明治4(1871)年廃藩置県により、16代藩主義宜をはじめ尾張徳川家の人々は名古屋を離れ、東京へ移り住んだ。翌5(1872)年東京鎮台第3分営が名古屋城に置かれ、御屋形をはじめ三の丸の武家屋敷は取り壊された(『新修名古屋市史』第5巻)。

## 6 まとめ

前節まで文献・絵図から御屋形の変遷をたどってきたが、御屋形の区画は両者の検討をまとめると、次のように変遷する(第209図)。

### 武家屋敷期(空間A) 1610年～1651年

東鉄門向屋敷成立以前の状況。名古屋府当初は武家屋敷のほかに普請奉行の小屋場・御蔵が並んだ。その後小屋場・御蔵も武家屋敷として利用される。

### 東鉄門向屋敷期(空間B) 1651年～1675年

廣幡忠幸・京姫の屋敷(東向屋敷)および貞松院屋敷の普請に伴い、武家屋敷の移転が始まる。

### 御屋形Ⅰ期(空間C) 1675年～1684年

徳川綱誠の入国に伴って御屋形の称が始まり、区画も東側に拡張される。向屋敷の北側は既として利用される。残った武家屋敷も御春屋を除いて移転が進む。

### 御屋形Ⅱ期(空間D) 1684年～1693年

御春屋が御屋形南に移転し、御屋形の拡張が進む。

### 御屋形Ⅲ期(空間E) 1693年～1695年

御屋形・貞松院屋敷が一続きの区画となり、一体化。光友の隠居所として利用される。

### 御屋形Ⅳa期(空間F) 1695年～18世紀半ば

御屋形の機能が分化。瑞祥院が居住した時期を除き、御屋形の公的施設の性格が強まる。一方もと貞松院屋敷の部分は藩主の側室らが居住する。

### 御屋形Ⅳb期(空間F) 18世紀半ば～1872年

御屋形の機能が衰退する過程。貞松院屋敷の部分は嘉永年中(1850年前後)に取り壊され、御屋形も福君の逝去とともに事実上役割を終える。

ただし、時期区分については残された課題も多い。江戸中・後期（御屋形IV a 期、IV b 期）の御屋形については、『金城温古録』その他の文献でも記述が少ないため、特に18世紀後半の状況が明らかにできなかつた。また今回の検討は御屋形の区画に重点を置いたため、御屋形Ⅲ期に成立した東御殿や御用地について十分検討を進めなかつた点などが挙げられる。さらに城下絵図にはいくつかのバリエーションがあり、絵図が作成された目的を含め、検討の対象を三之丸全体に広げる必要があるといえる。今後さらに検討を進めたいと思う。

最後になったが、蓬左文庫職員の下村信博氏には絵図の閲覧を含め、数多くの助言をいただいた。厚く感謝の意を表する次第である。（鶴飼雅弘）

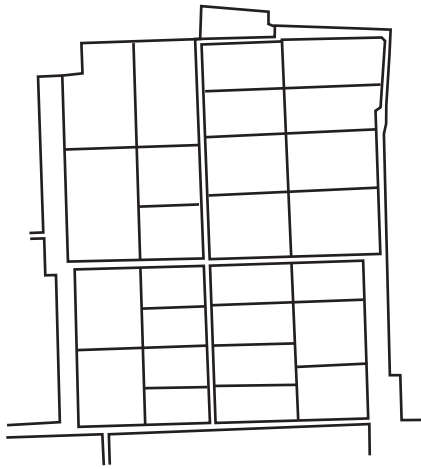
#### 参考文献

伊藤秀紀 1995 「三の丸に居住した人々」『名古屋城三の丸遺跡（Ⅴ）』愛知県埋蔵文化財センター  
山本祐子 1993 「名古屋城下図の年代比定と編年について」『名古屋市博物館研究紀要』第17

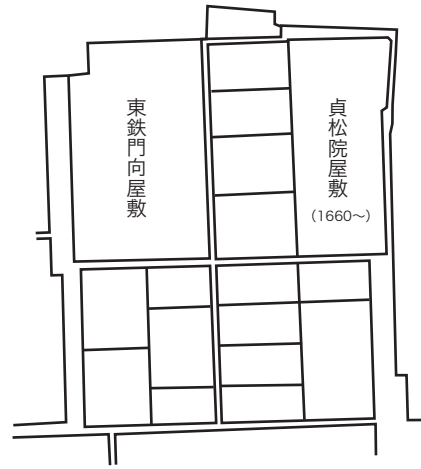
#### 巻

太田尚宏 2003 「尾張藩邸・御殿の概略・変遷に関する史料」『金鯢叢書 史学美術論集』第三十輯 徳川黎明会  
林董一 1962 『尾張藩公法史の研究』日本学術振興会  
濱島正士 1992 『設計図が語る古建築の世界 もうひとつの「建築史」』彰国社  
『新修名古屋市史』第三巻 名古屋市 1999  
『新修名古屋市史』第五巻 名古屋市 2000  
『日本名城集成 名古屋城』小学館 1985  
『蓬左文庫名古屋市移管五十周年 尾張徳川家の絵図 - 大名がいだいた世界観 - 』名古屋市博物館 2000  
『太陽コレクション 城下町古地図散歩2 名古屋・東海の城下町』平凡社 1995  
『名古屋叢書続編 十六 金城温古録 四』名古屋市教育委員会  
『名古屋叢書三編 一 尾張徳川家系譜』名古屋市教育委員会  
『名古屋叢書三編 四 尾藩世記 上』名古屋市教育委員会

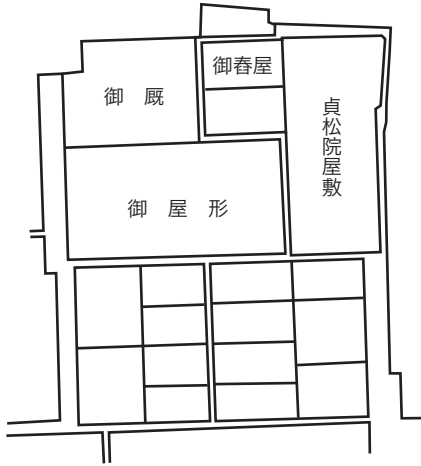
空間 A (1610~1651)



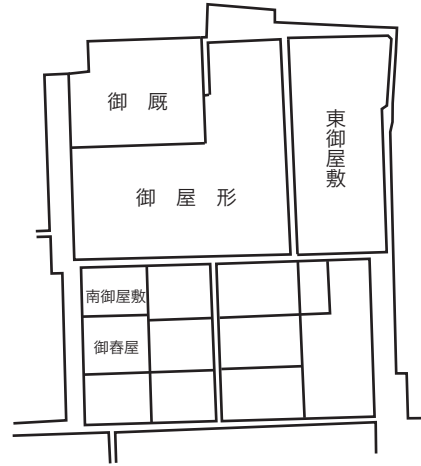
空間 B (1651~1675)



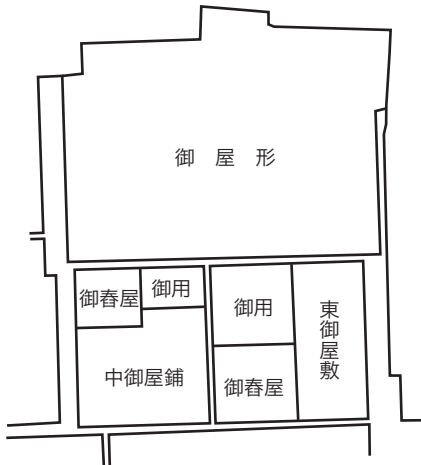
空間 C (1675~1684)



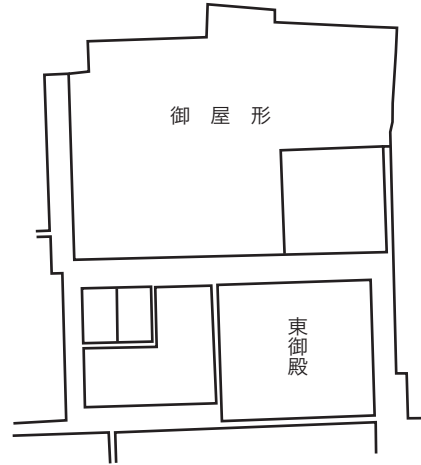
空間 D (1684~1693)



空間 E (1693~1695)



空間 F (1695~1872)



※文化14年以降は御屋形南の区画が再び武家屋敷となる

第 209 図 御屋形の変遷



時期区分	空間	居住者		絵図	藩主	
		御屋形	東御屋敷			
1651	武家屋敷期	A		『金城温古録』所収「邸宅古図」 「御屋形曲輪 慶安以前」 正保四年 名古屋城下図 徳	義直	
1675	東鉄門 向屋敷期	B	広幡幸丸 (忠幸) (1651~63)	京姫 (普峯院) (1651~73)	貞松院 (1660~84)	光友
			出雲守義昌 (1664~66)			
1675	御屋形Ⅰ期	C	徳川綱誠 (1675~93)	厩	三之丸絵図 蓬	綱誠
1684	御屋形Ⅱ期	D		六郎 (1684~86) 摂津守義行 (1688~92)	御屋形并東御殿御絵図 蓬 延宝名古屋絵図 岩	
1693	御屋形Ⅲ期	E	光友隠居所 (1693~95)		御屋形御絵図 蓬 名古屋城下図 鶴 名古屋城下図 徳	
1700年代 半ば	御屋形Ⅳa期	F	九条輔子宿館 (1702) 瑞祥院 (輔子、1714~23?)	松寿院 (1693~1705) 梅昌院 (1707~30) 宣揚院 (1731~43) 傳姫 (頼姫、1740~46)	尾府名古屋図 蓬 名古屋城三之丸図 鶴 享保十四年名護屋絵図 図	吉通 五郎太 継友 宗春 宗勝 宗陸
1800	御屋形Ⅳb期		空白期	二之丸女中在居 毀取 (嘉永年中)	名古屋并熱田図 徳 名古屋図 岩 名古屋城三之丸図 鶴 名古屋三之丸諸役所持場分図 鶴 名古屋図 岩 尾府全図 鶴	
			聖聡院 (1802~04) 維姫宿館 (1808) 福君宿館 (1836) 俊恭院 (福君、1839~40) 江戸定府衆御広敷役人詰所 徳川玄同 (茂栄、1863~66)			

※御屋形Ⅳa、Ⅳb期は機能の違いにより分けた

参照絵図一覧 (所蔵機関別)

徳川美術館 (徳)	正保4年 元禄13年頃 寛延元年~宝暦13年	名古屋市鶴舞中央図書館 (鶴)	元禄7年 享保元年~6年 寛政7年~9年 文政6年 明治元年~2年
正保四年 名古屋城下図		名古屋城三之丸図	
名古屋城下図		名古屋城三之丸図 寛政前後	
名古屋并熱田図		名古屋三之丸諸役所持場分図	
名古屋城管理事務所 (城)		尾府全図	
万治年間名古屋城下絵図	寛文7年~延宝元年	西尾市岩瀬文庫 (岩)	延宝9年~元禄2年 天明6年~寛政6年 弘化2年
蓬左文庫 (蓬)		延宝名古屋絵図	
三之丸絵図		名古屋図	
御屋形并東御殿御絵図		名古屋図	
御屋形御絵図		愛知県図書館 (図)	享保14年
尾府名古屋図	正徳4年	享保十四年名護屋絵図	

※絵図の年代は山本祐子「名古屋城下図の年代比定と編年について」  
内藤昌ほか『日本名城集成 名古屋城』を参照した

第23表 三の丸御屋形居住者の変遷

## 第2節 名古屋城三の丸遺跡の土師器皿の変遷 (御屋形地点出土資料を中心に)

### 1 はじめに

今回の発掘調査では古墳時代から現代に至るまで連綿と遺跡が継続していたことが判明している。ここでは、数多くある遺物のうち土師器製品について概観しその変遷を明らかにしたい。ここでは、まず土師器皿類の変遷を検討する。

### 2 ロクロ調整土師器皿の分類

土師器皿類は大きくロクロ調整土師器皿と非ロクロ調整皿に区分できる。

このうち、ロクロ調整皿は底部外面に回転糸切り痕が残存するもので、形状と規模から9類に大別され、それぞれについてさらに細区分が可能である。

ロクロ調整皿A類：口径が11～14cmで口縁端部を外反させたものである。体部外面を2段にナデ調整を施し口縁端部が大きく外反するもので、今回の資料では細分できなかった。SK147ロクロ調整皿1類などが該当する。

ロクロ調整皿B類：口径が10～16cm前後で体部が逆ハ字状に開き口縁端部までおおそ直線的になるものである。底部と体部との境界部の形状から3型式に細分できる。

ロクロ調整皿B類第1型式：底部と体部との境界部内面がやや凹むものである。SK147ロクロ調整皿2類などが該当する。

ロクロ調整皿B類第2型式：底部と体部との境界部がやや緩やかに屈曲するものである。SD39ロクロ調整皿などが該当する。

ロクロ調整皿B類第3型式：底部と体部との境界部が屈曲し体部がやや短いものである。SK223ロクロ調整皿などが該当する。

ロクロ調整皿C類：口径が10～13cm前後で体部が逆ハ字状に開いて内彎するものである。細部の形状から3型式に細分できる。

ロクロ調整皿C類第1型式：底部がやや突出し器壁が厚く、体部から口縁部にかけて緩やかに内彎するものである。SK185ロクロ調整皿などが該当する。

ロクロ調整皿C類第2型式：底部は突出せず器壁がやや薄く、体部から口縁部にかけて緩やかに内彎するものである。SK484ロクロ調整皿2類などが該当する。

ロクロ調整皿C類第3型式：底部と体部との境界部が屈曲し、体部から口縁部にかけてわずかに内彎するものである。SK163ロクロ調整皿1類などが該当する。

ロクロ調整皿D類：口径が7～8cm前後の小型皿を一括してD類とする。体部から口縁部の形状から2型式に細分できる。しかし、本来はもう少し多くの型式が存在したと推測されるが、実際には資料的な制約のため確認できなかった。

ロクロ調整皿D類第1型式：口縁部が外反するものである。SK147ロクロ調整皿4類などが該当する。

ロクロ調整皿D類第2型式：口縁部がやや内彎するものである。SK163ロクロ調整皿3類などが該当する。

ロクロ調整皿E類：口径が11～13cm前後で体部が逆ハ字状に直線的に開き口縁部が外折するものである。細部の形状から2型式に細分できる。

ロクロ調整皿E類第1型式：外折した口縁部がやや長くわずかに受け口状になるものである。SK484ロクロ調整皿1類などが該当する。

ロクロ調整皿E類第2型式：外折した口縁部

が短いものである。SK163 ロクロ調整皿 5 類などが該当する。

ロクロ調整皿 F 類：ロクロ調整皿 F 類から I 類までは体部が逆ハ字状に直線的に開き口縁部に向けて緩やかに内彎するもので、橙色を呈する胎土を持つものである。このうち口径が 15～18cm の規模を持つ大型サイズのをロクロ調整皿 F 類とする。この F 類は G 類から I 類までと比べて器高が高い傾向がある。口径と口縁端部などの細部の形状から 4 型式に細分できる。

ロクロ調整皿 F 類第 1 型式：口径が 17.5cm 前後の規模を持つもので、口縁端部はやや内彎ぎみに尖るものである。SK60 ロクロ調整皿の大型タイプなどが該当する。

ロクロ調整皿 F 類第 2 型式：口径が 17.2cm 前後の規模を持つもので、口縁端部は直線的に尖るものである。SK94 ロクロ調整皿 1 類などが該当する。

ロクロ調整皿 F 類第 3 型式：口径が 15.8cm 前後の規模を持つもので、口縁端部が尖らず面を持つものである。SK01 ロクロ調整皿の大型タイプなどが該当する。前二者に比べると横ナゲ調整が雑で粘土紐積み上げ痕跡も認められるほどである。

ロクロ調整皿 F 類第 4 型式：口径が 12.2cm 前後となるもので、ロクロ調整皿 F 類の定義には該当しないが、型式学的な変遷を考慮してこの類に含めて分類しておきたい。口縁端部は尖り器高がやや高いものである。SK23 ロクロ調整皿などが該当する。

ロクロ調整皿 G 類：体部が逆ハ字状に直線的に開き口縁部に向けて緩やかに内彎する橙色を呈する胎土を持つもののうち、口径が 11～14cm 前後の規模を持つ中型サイズのものである。細部の形状から 4 型式に細分できる。

ロクロ調整皿 G 類第 1 型式：口径が 13.8cm 前後の規模を持つもので、口縁端部がやや尖るも

のである。SK60 ロクロ調整皿の中型タイプなどが該当する。

ロクロ調整皿 G 類第 2 型式：口径が 12.6cm 前後の規模を持つもので、口縁端部はやや尖り器高がやや低いものである。SK94 ロクロ調整皿 2 類などが該当する。

ロクロ調整皿 G 類第 3 型式：口径が 11.5cm 前後の規模を持つもので、口縁端部が尖らないものである。SK01 ロクロ調整皿の小型タイプなどが該当する。

ロクロ調整皿 G 類第 4 型式：口径が 11.0cm 前後の規模を持つもので、口縁端部が尖らないものである。SK23 ロクロ調整皿などが該当する。

ロクロ調整皿 H 類：体部が逆ハ字状に直線的に開き口縁部に向けて緩やかに内彎する橙色を呈する胎土を持つもののうち、口径が 10～12cm 前後の規模を持つ小型サイズのものである。細部の形状から 2 型式に細分できる。

ロクロ調整皿 H 類第 1 型式：口径が 12.0cm 前後の規模を持つもので、口縁端部がやや尖るものである。SK60 ロクロ調整皿の小型タイプなどが該当する。

ロクロ調整皿 H 類第 2 型式：口径が 10.8cm 前後の規模を持つもので、口縁端部はやや尖るものである。SK94 ロクロ調整皿 3 類などが該当する。

ロクロ調整皿 I 類：体部が逆ハ字状に直線的に開き口縁部に向けて緩やかに内彎する橙色を呈する胎土を持つもののうち、口径が 6～10cm 前後の規模を持つ小型サイズのを一括する。今回の調査では SK94 出土資料のみが確認された。

ロクロ調整皿は上記の 9 類に大別されたが、このうち A 類から E 類までは胎土がにぶい黄橙色を呈するもの、F 類から I 類までは橙色を呈するものである。

### 3 非ロクロ調整皿の分類

## 名古屋城三の丸遺跡 VII

次に、非ロクロ調整皿を分類する。非ロクロ調整皿は底部外面に回転糸切り痕が残存しない手づくね成形のもので、形状と規模から6類に大別され、それぞれについてさらに細区分が可能である。

非ロクロ調整皿A類：口径が12～14cmを測り、体部が直立ぎみに立ち上がり、口縁端部がやや内彎するものである。底部が残存する良好な資料は存在しないが、白色の均質な胎土が特色となっている。口径と細部の形状から2型式に細分できる。

非ロクロ調整皿A類第1型式：口径が13.4cm前後を測り、口縁端部がやや尖るものである。SK557非ロクロ調整皿などが該当する。

非ロクロ調整皿A類第2型式：口径が12.8cm前後を測り、口縁端部に面を持つものである。遺構から良好な状態で出土した資料は存在しない。

非ロクロ調整皿B類：口径が10～11cm前後で体部から口縁部にかけて2段にナデ調整が施されたものである。口縁部の形状から2型式に細分できる。

非ロクロ調整皿B類第1型式：口径が10.8cm前後を測り、口縁端部がやや肥厚し外折するものである。SK226非ロクロ調整皿が該当する。

非ロクロ調整皿B類第2型式：口径が10.0cm前後を測り、口縁端部があまり外折しないものである。遺構から良好な状態で出土した資料は存在しない。

非ロクロ調整皿C類：口径が5～9cm前後を測り、体部から口縁部にかけて1段にナデ調整が施されたものである。細部の形状から4型式に細分できる。

非ロクロ調整皿C類第1型式：口径が8.8cm前後を測り、口縁部が逆ハ字状にやや長く開くものである。遺構から良好な状態で出土した資料は存在しない。

非ロクロ調整皿C類第2型式：口径が7.8cm

前後を測り、口縁部は逆ハ字状に開くがその長さが短いものである。SD35非ロクロ調整皿の一部などが該当する。

非ロクロ調整皿C類第3型式：口径が6.0～7.3cm前後を測り、口縁部は横ナデ調整により短く直立ぎみに立ち上がるものである。SK147非ロクロ調整皿1類が該当する。

非ロクロ調整皿C類第4型式：口径が5.4cm前後を測り、口縁部が横ナデ調整により短く直立ぎみに立ち上がるが、横ナデ調整は弱く底部と体部の境界部は不明瞭なものである。SD35非ロクロ調整皿などが該当する。

非ロクロ調整皿D類：口径が3.5～10cm前後を測り、体部から口縁部にかけてナデ調整が全く施されないものである。外面には指頭圧痕や掌圧痕などが残存するのみで、底部と口縁部の境界は不明瞭となっている。細部の形状から4型式に細分できる。

非ロクロ調整皿D類第1型式：口径が9～10cmを測る大きなもので、口縁部が逆ハ字状にやや長く開くものである。底部と体部の境界を認識することができるものである。SD35非ロクロ調整皿の一部(836・837)などが該当する。

非ロクロ調整皿D類第2型式：口径が6.8～7.6cmを測り、口縁部は逆ハ字状に開くものである。底部は丸底となっている。SK147非ロクロ調整皿2類が該当する。

非ロクロ調整皿D類第3型式：口径が4.0cm前後を測り、体部をほとんど形成しないものである。中央部がわずかに窪み皿の形状を作り出している。SD14非ロクロ調整皿などが該当する。

非ロクロ調整皿D類第4型式：口径が3.8cm前後を測り、体部をほとんど形成せず、中央部もほとんど窪まない平坦な円盤状のものである。SD12非ロクロ調整皿などが該当する。

非ロクロ調整皿E類：口径が11.6cmを測り、内型成形で丁寧に製作されたものである。内面に



「寿」が陽刻されており、SK94 出土資料でのみ確認された。

非ロクロ調整皿は上記の5類に大別されたが、このうちA類とE類は胎土が灰白色を呈するもの、B類からD類までは胎土がにぶい黄橙色を呈するものである。

#### 4 土師器皿の変遷

上記のように、ロクロ調整皿と非ロクロ調整皿を14類に大別し、それぞれに型式区分を試みた。各々の型式区分は、法量の小規模化や形状のシャープさが無くなるなどの傾向を考慮すると、概ね第1型式から第2型式、第3型式へと順に変化していくものと想定される。これを遺構からそれぞれの型式が共伴して出土する事例を集めて順に配列し、同じく共伴して出土するその他の陶磁器類を参考にして検討した結果、以下の3期12段階に変遷をまとめることができた(第210図)。

その概要を記すと、1期は非ロクロ調整皿のみで構成される段階、2期はロクロ調整皿と非ロクロ調整皿の両方で構成される段階、3期は非ロクロ調整皿がわずかに存在するが基本的にはロクロ調整皿のみで構成される段階とまとめることができる。特に2期から3期への変遷においては、土師器皿の胎土がにぶい黄橙色を呈するものから橙色を呈するものへ変化するという、見た目の大きな相違を見出すことができる。以下、各段階の詳細を説明していく。

1期1段階：非ロクロ調整皿A類第1型式と非ロクロ調整皿B類第1型式が伴う段階。ただし、実際に共伴して出土した事例は無いので時期は相前後する可能性は捨てきれない。SK226・SK557出土資料などを基準とする。山茶碗第7・8型式が共伴する。

1期2段階：非ロクロ調整皿A類第2型式・非ロクロ調整皿B類第2型式・非ロクロ調整皿

C類第1型式が伴う段階。これらは遺構に伴う良好な資料は存在しないので、詳細な様相は不明である。1期1段階と1期3段階の間を埋める時期として設定しておきたい。このため、山茶碗第9～11型式が共伴する段階と推測しておく。

1期3段階：非ロクロ調整皿A類とB類は認められず、非ロクロ調整皿C類第2型式と非ロクロ調整皿D類第1型式が伴う段階。SD35出土資料などを基準とする。瀬戸窯産陶器古瀬戸後IV期古段階が共伴する。

2期1段階：ロクロ調整皿A類第1型式・ロクロ調整皿B類第1型式・ロクロ調整皿D類第1型式、非ロクロ調整皿C類第3型式・非ロクロ調整皿D類第2型式が伴う段階。数量的にはロクロ調整皿A類と非ロクロ調整皿C類と非ロクロ調整皿D類が多い。SK147出土資料などを基準とする。瀬戸美濃窯産陶器古瀬戸後IV期新段階と大窯第1段階が共伴する。

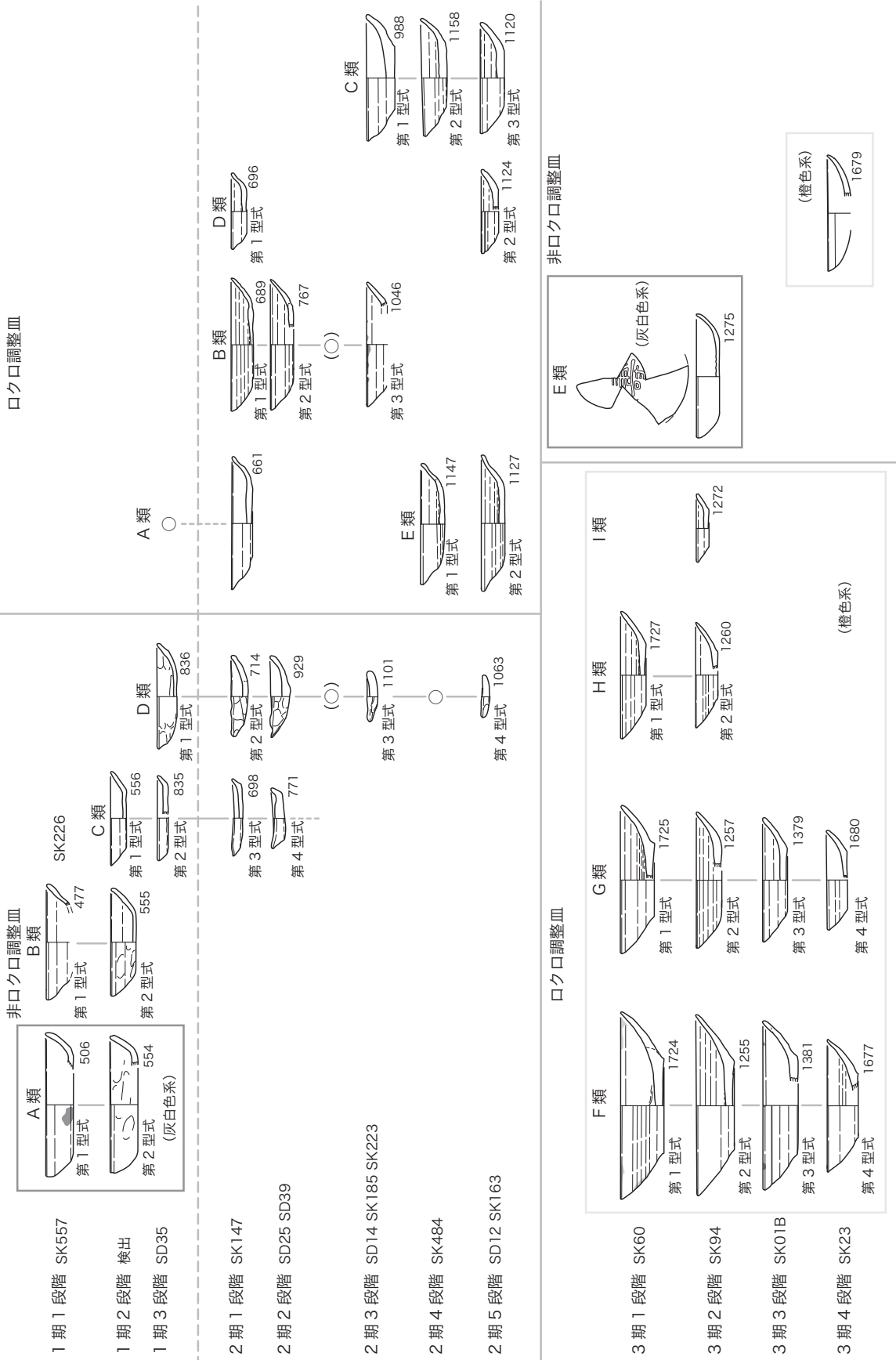
2期2段階：(ロクロ調整皿A類第1型式・)ロクロ調整皿B類第2型式、非ロクロ調整皿C類第4型式(・非ロクロ調整皿D類第2型式)が伴う段階。SD25やSD39出土資料などを基準とする。瀬戸美濃窯産陶器大窯第2段階が共伴する。

2期3段階：非ロクロ調整皿D類第3型式とロクロ調整皿B類第3型式・ロクロ調整皿C類第1型式が伴う段階。SK223・SK185・SD14出土資料などを基準とする。瀬戸美濃窯産陶器登窯第1・2小期が共伴する。

2期4段階：(非ロクロ調整皿D類第3型式・)ロクロ調整皿C類第2型式・(ロクロ調整皿B類第3型式・)ロクロ調整皿E類第1型式が伴う段階。SK484出土資料などを基準とする。古寛永通宝が共伴する。

2期5段階：非ロクロ調整皿D類第4型式とロクロ調整皿C類第3型式・ロクロ調整皿D類第2型式が伴う段階。SK163・SD12出土資料な





第 210 図 名古屋城三の丸遺跡 (御屋形地点) の土師器皿の変遷

どを基準とする。瀬戸美濃窯産陶器登窯第4小期が共伴する。

3期1段階：ロクロ調整皿F類～H類の各第1型式が伴う段階。SK60出土資料などを基準とする。瀬戸美濃窯産陶器登窯第6小期が共伴する。

3期2段階：ロクロ調整皿F類～H類の各第2型式・ロクロ調整皿I類と非ロクロ調整皿E類が伴う段階。SK94出土資料などを基準とする。瀬戸美濃窯産陶器登窯第8小期が共伴するが、土師器皿はもう少し前の段階に属する可能性もある。

3期3段階：ロクロ調整皿F類・G類の各第3型式が伴う段階。SK01B出土資料などを基準とする。瀬戸美濃窯産陶器登窯第8小期が共伴する。

3期4段階：ロクロ調整皿F類・G類の各第4型式が伴う段階。SK23出土資料などを基準とする。瀬戸美濃窯産陶器登窯第9小期が共伴する。

以上3期12段階に区分したが、これらは必ず連続的に変遷が追えるものではないことを念頭に置く必要があるだろう。前述したように1期2段階の様相は資料的な制約のため詳らかにできない。また2期2段階と2期3段階の間には、土師器皿の形状の変遷から見ても共伴資料の編年の検討からみても、資料的な空白が存在する可能性がある。

これらを勘案した上で、その他の共伴する陶磁器の年代観を用いて年代を比定すると、以下のように想定できる。また、遺構の時期区分との対応関係は以下のとおりである。

土師器皿	：遺構	：年代
1期1段階	：B-1期	：13世紀後葉
1期2段階	：B-2期	：14世紀～15世紀中葉
1期3段階	：B-3期	：15世紀後葉
2期1段階	：B-4期前	：16世紀第1四半期
2期2段階	：B-4期後	：16世紀第2四半期
2期3段階	：C-1期	：17世紀前半
2期4段階	：C-2期前	：17世紀第3四半期

2期5段階：C-2期後：17世紀第4四半期

3期1段階：C-3期前：18世紀前葉

3期2段階：C-3期中：18世紀中葉

3期3段階：C-3期後：18世紀後葉

3期4段階：C-4期：19世紀前葉

## 5 土師器皿にみる画期の意義

以上の分析の結果、土師器皿の変遷には15世紀末と17世紀末の2つの大きな画期が存在することが明らかとなった。これらの画期の意義について次に考察したい。

まず、前者の15世紀末の画期について検討したい。この画期は非ロクロ調整皿のみで構成される1期からロクロ調整皿が加わる2期への変化といえる。今回の調査資料の中ではSD35出土資料を基準とする段階までがロクロ調整皿が認められないことから、この時期を1期とした。しかし、SD35出土資料を基準とする段階を1期に含めて1期3段階に位置づけることについては若干の問題が存在していることも指摘しておかなくてはならないだろう。

問題点は2点に要約される。まず、第一はSD35出土資料の土師器皿出土量が少ないことから、正しく1期3段階の様相を示した一括資料と認定できるかという問題である。偶然にロクロ調整皿の存在が欠落した可能性が捨てきれないことである。第二は非ロクロ調整皿の組成と形状が1期2段階よりも2期1段階に近似していることである。1期3段階と2期1段階はともに非ロクロ調整皿はC類とD類で構成されており、型式学的な形状の変化は認められるものの組成は近似する。加えて尾張平野の土師器皿編年（佐藤1986）やこれまでの名古屋城三の丸遺跡における土師器皿の変遷の分析結果（尾野1997）から見ると、ロクロ調整皿の出現は15世紀後半に位置づけられているという成果が得られている。これらのことから、名古屋城三の丸遺跡全体で見た

## 名古屋城三の丸遺跡 VII

場合、ロクロ調整皿が出現する1期から2期への画期は15世紀中頃に位置づけられ、今回の調査における1期2段階と1期3段階の間に設定すべきであろう。ただし、ここではこうした事情を承知した上で、出土資料に忠実に検討した結果を提示しておくこととしたい。

さて、土師器皿における15世紀末（全体としては15世紀中頃）の画期は、既に多くの研究者によって検討が進められ、京都系土師器の影響を受けた第二波であると位置づけられている。この説を覆す新たな資料や情報はなく、この見解を今回も引き継いで行きたい。

次に、後者の17世紀末の画期について検討したい。これは、ロクロ調整皿と非ロクロ調整皿の両方で構成される2期から、非ロクロ調整皿が激減し基本的にはロクロ調整皿のみで構成される3期へと変化する画期である。この画期は15世紀末の画期よりも大きな断絶が認められる画期であった。15世紀末の画期と17世紀末の画期との間で異なる点は次の2点である。

その第一は、3期の土師器皿に2期から継続する形式が存在しないことである。ロクロ調整皿のみならず、わずかに存在する非ロクロ調整皿も2期の皿とは全く異なる形状のものが存在するのである。第二は、胎土が2期と3期の両方で大きく異なる点である。大部分の土師器皿の胎土がにぶい黄橙色を呈する2期から、大部分の土師器皿が橙色を呈する3期への変化は、使用者の見た目において大きな相違として認識されたに相違ないと思われる。

この画期の意義を考えるためには、新たに出現した土師器皿の出自を検討することが重要であると思われる。3期に突然出現したロクロ調整皿F類～I類は旧来存在した土師器皿とは大きく相違し、体部から口縁部にかけて直線的に比較的長くかつ高く伸び、胎土が橙色を呈するものである。この種の土師器皿に類似したものを近隣の地域

で17世紀以前に認められるのは、西三河の中世段階のロクロ調整皿がある。体部から口縁部にかけて直線的に比較的長くかつ高く伸びる形状は比較的近似するが、胎土は橙色となっていない点が異なる。むしろ、江戸遺跡群で出土するロクロ調整皿が形状と胎土の色調とも近似しているといえる。（江戸陶磁土器研究グループ1992、1996など）江戸時代の土師器皿を通観して検討していない現在において即断をするのは非常に危険ではあると考えられるが、ここでは江戸遺跡群で出土する土師器皿の影響を受けて、名古屋城三の丸遺跡（御屋形地域）でロクロ調整皿F類～I類が出現したものと理解しておきたい。

もしこの想定が正鵠を射ているのであれば、3期の画期は江戸系土師器皿を受容した結果成立した土器様相と評価することができる。これは2つの意味で重要な意義を持つと考えられる。一つは、尾張地域において中世前期と後期の2回にわたり大きく影響を受けたといわれる京都系土師器皿の系譜を絶ち、新たに江戸系土師器皿を受容したという、モデルの源泉の大きな変換を認めることである。土師器皿という文化の中でのわずかな一局面で、その規範が京都から江戸へ転換していることであり、この中において京都的な文化を脱して新たな武家文化の一樣相を確立したものと評価することもできるのである。そしてもう一つは、そのような大きな変革が名古屋（名古屋城三の丸遺跡）においては17世紀初頭に成立するのではなく、17世紀末にならないと成立しないことである。江戸幕府が開府して約100年を経ないと京都の影響を脱し得ないことは注目に値することであろう。

以上、名古屋の土師器皿の理解について、極めて重要な問題を提起したが、他の調査地点の成果を未だ十分に咀嚼していない段階での仮説にしか過ぎないことを最後に断っておきたい。

## 6 土師器皿にみる地域性

先に今回出土した土師器皿をロクロ調整皿と非ロクロ調整皿を14類に大別し、それぞれに型式区分を試み変遷を3期12段階に整理した。ここでは、このうち2期の土師器について、同時期の尾張地域の遺跡と比較し、その分布状況を検討する。その結果、尾張地域において土師器皿の様相が異なるいくつかのエリアを設定することができ、土師器皿の研究はこうした細かい地域ごとに検討していくことが必要であることを検証していきたい。

まず、今回の調査で出土した土師器皿の分類を用いて、これと近似する土師器皿が他の遺跡でどのように出土しているかを検討する。

ロクロ調整皿A類は体部外面を2段にナデ調整を施し口縁端部が大きく外反するものである。このタイプは清須城下町で出土事例がある他に、名古屋台地に分布する遺跡で認められるケースが多い。主に15世紀後半から16世紀前半までに属する遺構や遺跡から大量出土する事例が多い。

ロクロ調整皿B類は体部が逆ハ字状に開き口縁端部までおおよそ直線的になるものである。このタイプは清須城下町や岩倉城など尾張平野部でまとめて出土する事例が多い。一方、このタイプの土師器皿は今回の調査でも少数しか出土しておらず、名古屋台地に分布する遺跡ではあまり認められないものである。

ロクロ調整皿C類は体部から口縁部にかけて内彎するものである。このタイプは清須城下町で出土事例がある他に、名古屋台地に分布する遺跡で認められるケースが多い。主に16世紀後半から17世紀前半までに属する遺構や遺跡から大量出土する事例が多い。

ロクロ調整皿D類は小型皿を一括しており、本来的には体部や口縁部の形状から細分して検討する必要がある。資料的な制約もあるため、ここでは分析の対象としないこととした。

ロクロ調整皿E類は体部が逆ハ字状に直線的に開き口縁部が外折するものである。このタイプは清須城下町など尾張平野部でまとめて出土する事例が多い。一方、名古屋台地に分布する遺跡でもそれなりに認められるものである。主に16世紀後半から17世紀前半までに属する遺構や遺跡から大量出土する事例が多い。

非ロクロ調整皿C類は体部から口縁部にかけて1段にナデ調整が施されたものである。このタイプは清須城下町など尾張平野部でまとめて出土する事例が多い。一方、名古屋台地に分布する遺跡でもそれなりに認められるものである。主に15世紀後半から16世紀中葉までに属する遺構や遺跡から出土する事例が多い。

非ロクロ調整皿D類は体部から口縁部にかけてナデ調整が全く施されないものである。このタイプは15世紀後半から16世紀中葉までは清須城下町など尾張平野部で出土する事例が存在しない。むしろ、名古屋台地や知多半島に所在する遺跡で主体的に認められる土師器皿である。その後、16世紀後葉になると清須城下町など尾張平野部を含めた尾張の広い範囲で出土する事例が多くなる。

以上の結果を、次は地域ごとに整理すると次のようになる。なお、ここで提示する土師器皿はそれぞれの地域で主体となる形状を抽出したものであり、少量しか出土しないものは除外していることを断っておく(第211図)。

知多：非ロクロ調整皿D類が主体となる。

名古屋台地：ロクロ調整皿A類と非ロクロ調整皿D類が主体となる。非ロクロ調整皿C類も認められ、16世紀後半からはロクロ調整皿A類が減少しロクロ調整皿C類が出現する。

尾張平野北部：ロクロ調整皿B類・非ロクロ調整皿C類などが主体となる。16世紀後半からはロクロ調整皿B類が減少しロクロ調整皿E類が出現する。

## 名古屋城三の丸遺跡 VII

清須：ロクロ調整皿 A 類・ロクロ調整皿 B 類・非ロクロ調整皿 C 類が主体となる。16 世紀後半からはロクロ調整皿 A 類・ロクロ調整皿 B 類が減少しロクロ調整皿 C 類・ロクロ調整皿 E 類非ロクロ調整皿 D 類が出現する。ただし、ロクロ調整皿 A 類とロクロ調整皿 B 類は共伴する事例もあるが、遺構によってはいずれかのみが偏在して出土するケースが多い。

このように、尾張地域において土師器皿の様相が異なるいくつかのエリアを設定し得る可能性を指摘することができた。今回は各地域の範囲の特定と、各地域ごとの編年作成を行うことができず、非常に中途半端な状態となってしまったが、土師器皿の研究はこうした細かい地域ごとに検討していく必要があることを強調しておきたい。

## 7 まとめ

今回出土した土師器皿を素材に 14 類に分類し 3 期 12 段階に変遷を把握して、そこから派生する諸問題を若干考察した。しかし、分析の素材はあくまで今回の調査地点のデータを基準にしたものであり、周辺の資料やデータを十分に見渡した検討ではない点が最大の問題となっている。ここで導かれた論点を批判的に検討した上で大方のご叱正とご教示を賜りたく思う。

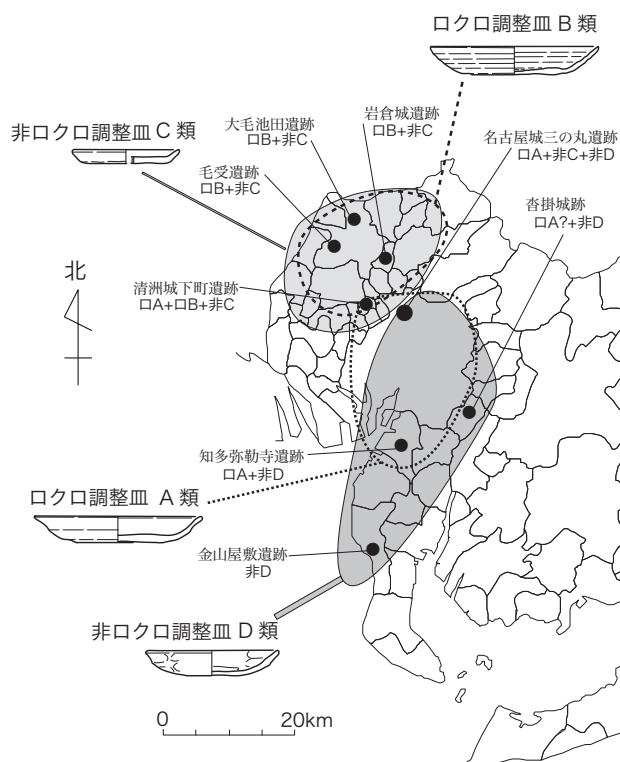
江戸陶磁土器研究グループ 1992・1996 『シンポジウム江戸出土陶磁器・土器の諸問題 I・II』

尾野善裕 1997 「中世食器の地域性—4 東海・濃飛—」『中世食文化の基礎的研究』国立歴史民俗博物館研究報告書 第 71 集

佐藤公保 1986、1987 「中世土師器研究ノート (1)・(2)」

『年報昭和 60・61 年度』(財)愛知県埋蔵文化財センター

名古屋市教育委員会 1995 『名古屋城三の丸遺跡 第 4・5 次発掘調査—遺物編—』



第 211 図 尾張における戦国時代の土師器皿の地域性

15 世紀後葉から 16 世紀前葉の主要な土師器皿の分布範囲をイメージとしてまとめた。



## 第3節 名古屋城三の丸遺跡の土師器鍋類の変遷 (御屋形地点出土資料を中心に)

### 1 はじめに

今回の発掘調査では古墳時代から現代に至るまで連綿と遺跡が継続していたことが判明している。先の考察で土師器皿を検討したので、次は土師器鍋類（ここでは甕や釜などを含む煮炊具全般を指す）の変遷を検討する。

本来は土師器皿と同様に初めに分類を行いそれから段階区分などの検討を実施するのが順当な分析方法であるが、ここでは、説明の煩雑さを避けるためにあえて結果のみを提示していくこととしたい。

### 2 土師器鍋類の変遷

今回の調査で出土した土師器の鍋類は、以下の4期17段階に変遷をまとめることができる。

その概要を記すと、1期は口縁部が屈曲する土師器甕のみで構成される段階、2期は鏝を持つ羽釜などで構成される段階、3期は鉢形の内耳鍋などで構成される段階、4期は浅鉢の焙烙が主体となって構成される段階とまとめることができる。以下、各段階の詳細を説明していく（第212図）。

1期1段階：S字状口縁台付甕D類（204）が伴う段階。遺構に伴う良好な資料は存在しない。

1期2段階：宇田型甕（207）が伴う段階。遺構に伴う良好な資料は存在しない。

1期3段階：口縁部に跳ね上げ口縁を持つ甕（183）が伴う段階。SK339出土資料などを基準とする。東山11号窯式期前後の須恵器が共伴する。

1期4段階：口縁部が緩やかに屈曲し体部外面に荒いハケ調整が施される甕（178）が伴う段階。SB06出土資料などを基準とする。東山61号窯式期の須恵器が共伴する。

1期5段階：口縁部が緩やかに屈曲する甕（56）の他に、口縁端部が断面三角形状に摘み上げる伊勢系甕（54）などが伴う段階。SK308出土資料などを基準とする。東山44号窯式期前後の須恵器が共伴する。

1期6段階：伊勢系甕（114）の他に、口縁部が肥厚する濃尾系甕（115）や口縁部が屈曲して外折する甕（117）などが伴う段階。SB07出土資料などを基準とする。岩崎17号窯式期前後の須恵器が共伴する。

1期7段階：体部外面に荒いハケ調整が施された濃尾系甕（193）の他に、口縁部が鋭角に折れる三河系甕（195）などが伴う段階。SK589・SB02出土資料などを基準とする。折戸10号窯式期前後の須恵器が共伴する。

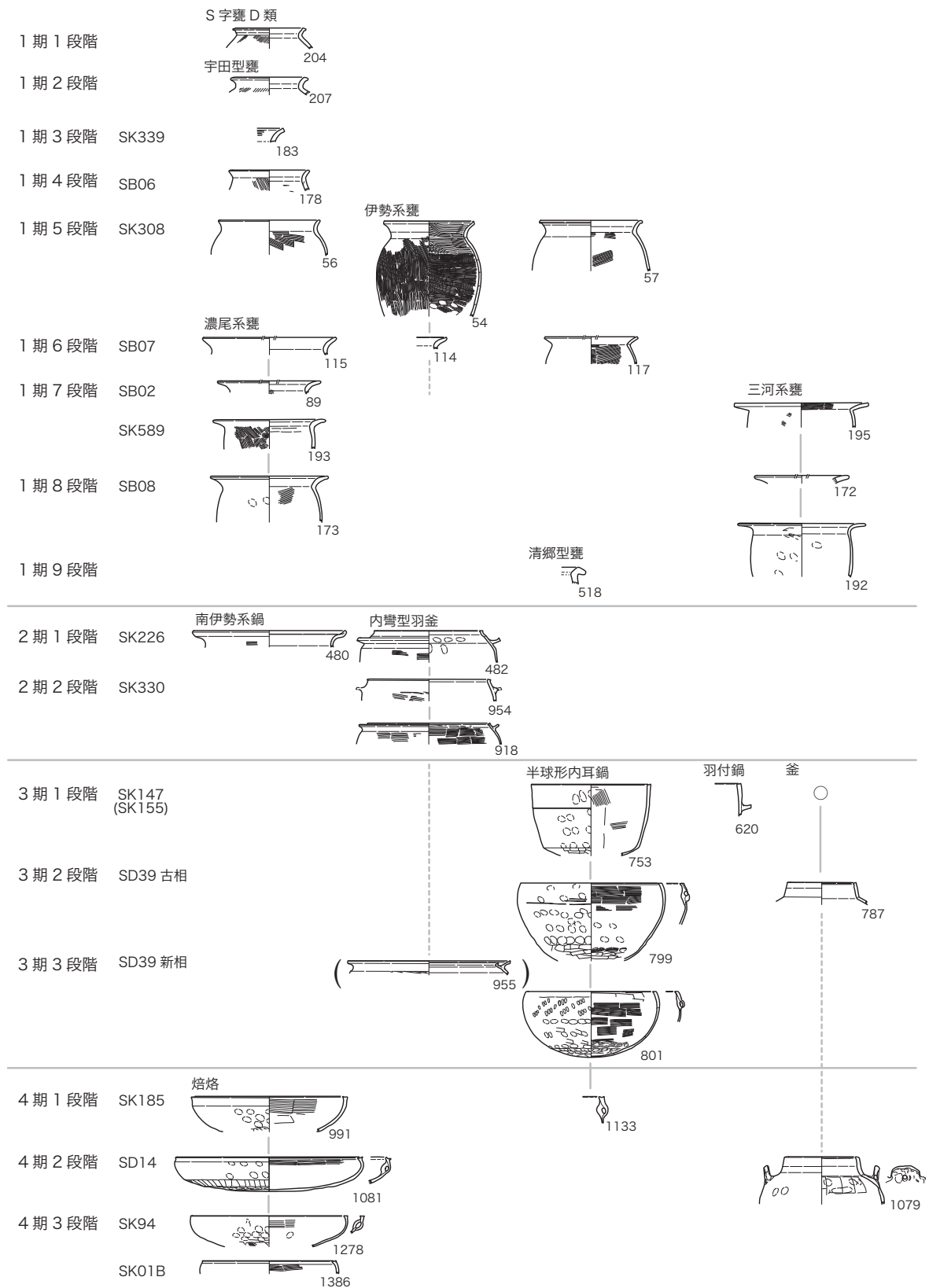
1期8段階：口縁部が屈曲し緩やかに外反する甕（173）などが伴う段階。前代の濃尾系甕の変化したものと推測したい。SB08出土資料などを基準とする。黒笹90号窯式期前後の灰釉陶器などが共伴する。

1期9段階：口縁部が厚くて短く屈曲する清郷型甕（518）が伴う段階。遺構に伴う良好な資料は存在しない。

2期1段階：口縁端部を内側に折り返した南伊勢系鍋（480）と口縁部が内傾する内彎型羽釜（482）が伴う段階。内彎型羽釜は鏝の端部径と胴部最大径がほぼ同じとなるものである（北村羽釜A2類）。SK226出土資料などを基準とする。山茶碗第7・8型式が共伴する。

2期2段階：内彎型羽釜が伴う段階。内彎型羽釜は短く上方に突出した鏝が付くものである（918：北村羽釜A4類）。SK330出土資料などを基準とする。瀬戸美濃窯産陶器古瀬戸後IV期が共

名古屋城三の丸遺跡 VII



第212図 名古屋城三の丸遺跡（御屋形地点）の土師器鍋類の変遷

伴する。

3期1段階：半球形内耳鍋（753）と戦国型羽付鍋（620）と釜（787）が伴う段階。半球形内耳鍋は体部から口縁部が直立気味に直線的に立ち上がるものである（鈴木尾張内耳鍋A類）。SK147出土資料などを基準とする。瀬戸美濃窯産陶器大窯第1段階が共伴する。

3期2段階：前代と同様、半球形内耳鍋と戦国型羽付鍋と釜が伴う段階。半球形内耳鍋は体部から口縁部が内彎して丸みを帯びるもので、口縁部直下に沈線を持つものである（799：鈴木尾張内耳鍋B1類）。SD39出土資料古段階などを基準とする。瀬戸美濃窯産陶器大窯第2段階が共伴する。

3期3段階：前代と同様、半球形内耳鍋と戦国型羽付鍋と釜が伴う段階。半球形内耳鍋は体部から口縁部がさらに内彎して浅くなり、口縁部直下に沈線を持たないものである（801：鈴木尾張内耳鍋B2類）。SD39出土資料新段階などを基準とする。瀬戸美濃窯産陶器大窯第2段階が共伴する。

4期1段階：焙烙と釜が伴う段階。半球形内耳鍋（1133）も残存している。焙烙は口縁部が逆ハ字状に開くもの（991：金子分類B類）である。SK185出土資料などを基準とする。瀬戸美濃窯産陶器登窯第2小期が共伴する。

4期2段階：前代と同様、焙烙と釜が伴う段階。焙烙は口縁部が緩やかに屈曲し内傾するもの（1081：金子分類J類?）である。SD14出土資料などを基準とする。瀬戸美濃窯産陶器登窯第4小期が共伴する。

4期3段階：焙烙が伴う段階。おそらく釜は著しく減少するか消滅するものと推測される。焙烙は口縁部が緩やかに屈曲するタイプ（1278・1386）であるが、形態的な変化はこの資料では不明な点が多い。SK94・SK01出土資料などを基準とする。瀬戸美濃窯産陶器登窯第8小期が

共伴する。

### 3 各段階の年代と遺構時期区分との対応関係

以上4期17段階に区分したが、これらは土師器皿と同様に、必ずしも連続的に変遷が追えるものではないことを念頭に置く必要があるだろう。1期8段階から2期1段階にはかなり時間的な空白が存在しており、その他の段階でも連続的な土器様相の変化を辿ることができない部分は随所で認められる。もとより資料的な制約のため完全な形で構成できないことを承知していただきたい。その上で、その他の共伴する陶磁器の年代観を用いて年代を比定すると、以下のように想定できる。また、遺構の時期区分との対応関係は以下のとおりである。

土師器鍋類　：遺構　　：年代

1期1段階：A期以前：4世紀後葉?

1期2段階：A期以前：5世紀前半?

1期3段階：A-1期　：5世紀後半?

1期4段階：A-2期　：6世紀前半

1期5段階：A-3期　：7世紀

1期6段階：A-4期前：8世紀前葉

1期7段階：A-4期後：8世紀後半

1期8段階：A-5期　：9世紀

1期9段階：　　　：10世紀

2期1段階：B-1期　：13世紀中葉

2期2段階：B-2期　：15世紀前半

3期1段階：B-3期前：15世紀後葉

3期2段階：B-3期後：16世紀前葉

3期3段階：B-4期　：16世紀中葉

4期1段階：C-1期　：17世紀前半

4期2段階：C-2期　：17世紀後半

4期3段階：C-3期　：18世紀

### 4 まとめ

以上のように、土師器鍋類の変遷を概観した。この結果、13世紀代が一部判明するものの10

## 名古屋城三の丸遺跡 VII

世紀から 15 世紀の間、および 19 世紀以降で土師器鍋類の様相が今ひとつ判然としない状況が読み取れる。

19 世紀以降については、陶器鍋の存在が大きくなることや鉄鍋との関係などから土師器鍋類が減少する理由を提示することは可能である。一方、10 世紀から 15 世紀の間の空白は、特に 10 世紀から 13 世紀の間においては他の種類の遺物もほとんど認めることができないことからみて、遺跡の空白期が存在したものとしてみてよいと思われる。これに対し、良好な資料が認められる 13 世紀中頃から 15 世紀前半までの空白については、なお検討を要する。空白期に該当する内彎型羽釜が良好な状態ではないとは言え少なからず存在するからである。これまで名古屋台地では、東濃

型山茶碗が流通しない地域であることが災いして 13 世紀中頃から 15 世紀前半までの集落遺跡の存在が認められにくい状態が続いていた。今回の調査でも同様の結果が得られることとなったが、認められにくいからといって集落が存在しなかったと即断することは危険であると考えたい。おそらくわずかに出土する内彎型羽釜や東濃型山茶碗や瀬戸窯産陶器古瀬戸段階などの資料からみて、13 世紀中頃から 15 世紀前半に集落としての断絶が存在したと決めつけるわけにはいかないと思われる。

### 主要参考文献

東海考古学フォーラム 1996 『鍋と甕—そのデザイン—』

## 第4節 御屋形庭園の意義

### 1 はじめに

今回の調査で18世紀に位置づけられる庭園に伴う池SX02が発見された。名古屋城三の丸遺跡ではこれまでに20箇所前後の発掘調査が行われてきたが、今回の事例が初めての資料となった。ここでは、名古屋城およびその城下や関連する地域における庭園も合わせて検討し、今回発見された御屋形庭園の位置づけと発見の意義を明らかにしていきたい。

### 2 御屋形庭園の復元

庭園に伴う池SX02は、少なくとも19世紀には廃絶・埋没したものであり、発見された時点では遺構は主要な石材や構築物および植生は全く遺存しない状態であった。また、この庭園に関連する文献や絵図は全く残存しておらず（つまり今回存在が初めて明らかになった庭園遺構である）、庭園の全貌を明らかにすることは難しい。しかし、全く手がかりが無いわけではなく、少ない資料を基に大胆に景観の復元を試みたい。

#### (1) 池SX02の復元

まず、池SX02そのものの復元について検討を加える。池SX02の検出状態は、主要な石材が抜き取られており、その痕跡が抜き取り穴という土坑の状態に残存するに過ぎないものである。しかし、一部で石材や漆喰壁と玉石などが良好な状態で残存する部分もあり、また石材の抜き取り穴についてもその分布や規模などからある程度本来配置されていた石材の様子を想定することが可能である。庭園制作における作法や流儀を加味して行けば、実際に近い形で池の構造を復元することができる可能性が高いといえる。

そこで仲隆裕氏のご指導を受け、筆者が想定した池復元案を提示する。復元案の具体的なグラ

フィック表現は朝日航洋株式会社の協力を得た。(第213図)

池は南西に所在する導水部から水を引き入れ、北壁東側のSD41に排水する構造である。導水部は漆喰壁に覆われ、所々に緑色石などの石材を配置して装飾されていた。SK20・21はその抜き取り穴と考えられる。導水部の末端（池本体と接する部分）漆喰壁が直線的に壊されている部分があり、ここにわずかな段差を有しており石材が配置されたものと想像される。池本体の床は漆喰ではなく粘土で覆われチャートを中心とした玉石が敷かれていた。池正面に相当する南壁部では、中央部に規模の大きな抜き取り穴が数個存在し背後が粘土の盛土で充填されていたことから、築山が構築されその前面に三尊石が配置されていた可能性が高い。おそらくSK03は裏込めの石材も充実していることからそこに主石が配置されていたのだろう。三尊石の両脇にある抜き取り穴に配置された石材は、南西部に残存する巨石と同様に、漆喰壁に埋め込まれその天場は高く設定されていなかっただろう。東西両張り出し部の南面部分は北側に書院を設定すると裏側に相当して見えない部分であるため、西張り出し部では漆喰壁のみが残存していた。東張り出し部はSK100で破壊され不明であるが、西張り出し部と同様特別な構造を持たずに漆喰壁で覆われていたものと思われる。

導水部に近接する西張り出し部はその先端に多くの抜き取り穴が残存しており、池岸部分には石材が隙間無く配置されていたと考えられる。西張り出し部中央にも土坑があり高い部分にも数個の石材が配置されていたのだろう。石材が配置されていない部分は芝生または苔などが生えていたのではなかろうか。このように規模の大きな石材を配置した西張り出し部（岬）はその先端を中心に



## 名古屋城三の丸遺跡 VII

は磯浜が表現されていると考えられる。

対する東張り出し部では、その先端に黒色の切石を整然と配置して漆喰壁に埋め込まれていた状態が確認され、抜き取り穴となる土坑は階段状遺構の付近以外では確認されていない。東張り出し部の上位でも抜き取り穴となる土坑は発見されず、白色の玉石が敷かれていた状態が確認された。このことから、東張り出し部では規模の大きな石材は一切使用されず、上面に玉石が敷き並べられ先端が整然とした石材が埋め込まれた漆喰壁で覆われていた状態と復元される。従って、東張り出し部では州浜（洲浜）が表現されているものと理解でき、東西の岬で相対する浜の表現が施されたことが判明する。

池 SX02 の東側に接する部分で石敷遺構 SX03 が存在しており、これは池に伴う装飾かあるいは通路などと想定される。東張り出し部北部には階段（階段状遺構）が設置されており、周囲には石材が数個配置されていたと思われる。階段の先にはチャートの巨石が底面に組み込まれて配置されており、その上に手水鉢などが置かれていた可能性も考えられる。これらの想定を勘案すると、石敷遺構 SX03 は通路と考えられよう。

池底の大部分は玉石が敷かれている状態であったが、部分的に浅い土坑が存在する。これらの土坑は鯉などの魚を休ませる施設や池底に蓮などの植物を生育させる施設などの可能性がある。

総体的に見て、池 SX02 は南西の導水部から磯浜と州浜を経由して手前の排水溝に水を流す池と復元され、北側から鑑賞するために構築され、東北部で手水鉢を利用し得る構造となっている。座観式池泉庭園と位置づけられ、書院庭園の一部を構成すると評価される。

### 2 (2) 池周囲の復元

次に池 SX02 に関連する周辺遺構を検討し、池 SX02 を中心とした庭園全体の構造を復元する。まず、庭園に関連する遺構の分布範囲について検

討する。

池 SX02 の西側と南側は同時期の遺構である石組溝 SD01 ～ 04 によって囲まれたエリアが庭園に関わる空間であったと思われる。また、池 SX02 の北側は未調査区域が広がるが、池 SX02 の北壁の状態からみて書院などの建造物が存在し、北側から庭園を眺める形態であったことが想定される。東側については様相を明らかにし得ない部分があり、検討を要する。ここでは次の理由により、地下室 SK94 などの遺構を含んでしまうものの石組溝 SD01 が終焉する部分までと想定したい。その理由の第一は池 SX02 の周辺に分布する土坑群の範囲と一致することである。第二はその外側では大型の廃棄土坑 SK01 など明白に庭園とは関わらない遺構が展開することである。この結果、池 SX02 の北肩および石組溝で囲まれた約 25m × 30m の空間が庭園に関連する遺構が分布するエリアであり、すなわち庭園の範囲そのものである可能性が高いといえよう。

このように設定された区域に池 SX02 と同時期と考えられる遺構は多数存在するが、前述したように不定形の土坑群の存在が特徴的である。第 55 図で示したように、SK64、SK88、SK99、SK105、SK117、SK132、SK134、SK135、SK136 は平面形が楕円形などが崩れた不定形な形状となり、深さはそれほど深くなく斑土が充填されている。確証は全く存在しないが植生痕である可能性もあり、注目される。これらの土坑は池 SX02 の東側や導水部付近に展開しない点も注意したい。

また、今回の池 SX02 の最大の問題点は水の供給源である。直接の導水施設は、導水部との接合部分の状況が残存していないため明確にはし得ないが、最終的にはおそらく SK23 によって破壊された石組溝 SD03 の延長部分であったと思われる。石組溝 SD03 に流れる水については、現状のところではその供給源は明らかにできないが、地

形的に見て安定した水源は存在しなかったと思われる。御屋形が存在する名古屋台地北縁部が近隣では比較的高くなっており、そこへ水を供給できるほどの背後の高い地形が存在しないのである。また、御屋形近辺では上水道施設の遺構は全く確認されていない。こうした状況からみて、池 SX02 は雨水を上手に利用したか、あるいは必要な場合のみ人力で水を汲み入れたかのいずれかではないかと思われる。このことは、同様の地形的条件に所在する名古屋城二の丸庭園が本来は池泉庭園として構築されていたながらも現在は枯山水庭園となっている点からも背首できよう。そして、池 SX02 を含めた御屋形庭園が短期間に存在した後、すぐに消滅してしまうのも、こうした水利問題が影響したのかもしれない。

さて、先に設定した区域は石組溝で囲まれた範囲を根拠としたが、実際の庭園遺構が機能した段階で視覚的に境界を示した施設は石組溝ではなく、おそらくそれに平行して構築された塀や柵あるいは建物であったと考えられる。石組溝の外側に御屋形に関連する建物群が展開したと仮定してみると、池 SX02 の北側に所在した書院からみえる風景は次のようになるだろう。御屋形御殿などの建物群を背景にして約 25m 四方程度の範囲に木々が植えられ、手前には約 10m 四方の方形の池が設置され、右手奥の上流から下流へ水が流れる景色の変化を愉しんだといえよう。



### 3 尾張藩徳川家の庭園における御屋形庭園の位置づけ

御屋形庭園は近世大名尾張藩徳川家の一族が居住した御屋形に所在する庭園であり、大名庭園の一種と位置づけられる。しかし、一口で大名庭園といってもその機能や形態・規模は様々なものがある。ここでは、御屋形庭園の尾張藩徳川家の庭園における位置づけを明らかにするために、他の伝来する庭園遺構を検討し、御屋形庭園の性格と意義を考察したい。

現在まで存在が確認される尾張藩徳川家における庭園のうち主要なものを紹介する。

#### 1) 名古屋城二の丸庭園

(国指定特別名勝 第 215 図)

名古屋城二の丸庭園は文字通り名古屋城二の丸に所在し、元和 3 (1617) 年に徳川義直が完成させた二の丸御殿に付随するものである。当主の居所「中奥」の中心的な座敷である「御座之間」を挟んで南庭と北庭があり、二の丸庭園はこの両者を指す。義直在世時の二の丸御庭を描いた『中御座之間北御庭惣絵図』や十代斉朝により改変された様子を描いた『御城御庭絵図』などの絵図が残されている。明治初頭の版籍奉還の際に二の丸御殿取り払いの結果、南庭と北庭の東一部が撤去となり、現在は北庭の一部が往時の姿を偲ばせる形で残され特別名勝に指定されている。南庭の一部は陸軍将校集会所(後の名古屋偕行社)の



第 213 図 池 X02 の復元想定イメージ

## 名古屋城三の丸遺跡 VII

庭として移築したと伝えられ、現在は名古屋城三の丸庭園として残されている。この二の丸庭園は1977年から1978年にかけて名古屋市教育委員会によって発掘調査が行われ、多くの成果が発見されている。残念ながらその成果は概要報告書(名古屋市教育委員会1976)に一部が報告されているに過ぎず、その全貌を知ることは難しい。

二の丸庭園のうち北庭の規模は1554坪に及び、北庭の池の全長は約40m、南庭の池の直径は約35mの規模を持つ。現在残る北池の石組は勇壮で高さが高く、猛々しい印象を受けるものである。残存する北池の側壁を観察すると石組の隙間を埋める形で漆喰状の壁面を観察することができる。名古屋市教育委員会の発掘調査の結果でも、

北池と南池ともに池側面は厚い漆喰壁で覆われていたことが判明している(第214図)。このような特徴は今回発見された御屋形庭園に伴う池でも確認することができ、共通点が高いといえよう。両者とも水を供給することが難しい立地であることから、汲み入れた水をできるだけ漏らさないように維持するための工夫ではないかと想定しておきたい。

### 2) 名古屋城三の丸庭園

名古屋城三の丸庭園は現在名古屋市公館の南側に残存する庭園遺構である。三の丸庭園そのものは陸軍時代に名古屋偕行社の庭園として構築されたもので、尾張藩徳川家とは全く関係がない。ただし、構築に際しては名古屋城二の丸庭園の石材



1



2



3



4



5

- 1: 南池全景 (北東からみる)
- 2: 南池護岸の巨石と漆喰
- 3: 北池東端部 (東から見る)
- 4: 北池東端部の漆喰壁
- 5: 南池中島の漆喰壁

第214図 名古屋城二の丸庭園の発掘調査状況  
写真は所蔵者である名古屋市見晴台考古資料館から提供を受けた。



が使用されたと伝えられており、この一点において関係があるといえる。石材が二の丸庭園のものを使用したため江戸初期まで三の丸庭園を遡らせる見解が散見されるが、誤解であるといえる。念のため確認しておきたい。

### 3) 名古屋城下御深井庭園 (第 216 図)

名古屋城に北接して所在する庭園で、初代義直が造営され十代齊朝により改造されたといわれる。現在は名城公園となっており、往時の光景を偲ばせるものは少ない。十代齊朝の改修後の様子が『源順様御代下御庭図面』に描かれている。広大な蓮池に伴い茶屋や杜、門前町「達磨町」や宿場町「杉股町」なども設けられていた。

名古屋台地が崖を形成して終わり沖積低地になる部分でこの下御深井庭園は構築されており、水を豊富に蓄えた池泉を構築しやすい立地である。加えて御用水の水も導入されており、常時池泉回遊式庭園として楽しめたものと思われる。池泉の規模は非常に大きく東西長は 100m 近くに及ぶ。

### 4) 名古屋城下御下屋敷庭園 (第 217 図)

名古屋市東区の名古屋城下に二代光友が休息と饗応の場として、延宝 7 (1679) 年に御下屋敷を設けた。そこには池を中心とする池泉回遊式庭園が存在したという。現在はその往時の姿を思わせる遺構は全く残存していない。宝暦元 (1751) 年に描かれた『御下屋敷図』が大いに参考になる。

64000 坪の広大な敷地に設けられた庭園は、数奇屋風の御殿をはじめとする町屋があり、御葉園や御人参畑なども存在した。江戸にある尾張藩下屋敷の戸山屋敷にある庭園と趣向は共通するものがあるという。庭園に伴う池の水源については明らかではないが、十分に水を供給する水源が存在したと思われる。

### 5) 名古屋城下大曾根御屋敷庭園 (第 218 図)

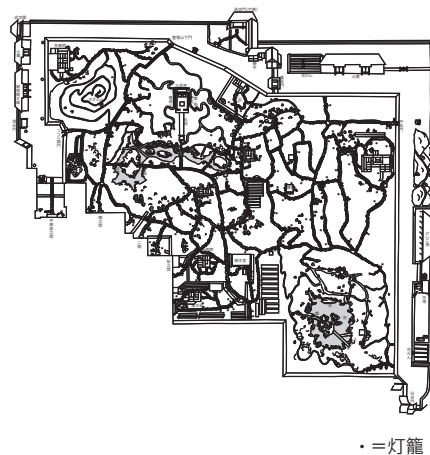
名古屋市東区に所在する大曾根御屋敷庭園は、現在「徳川園」として新規に庭園が築造されている。往時の正確な庭園の様相は現地ではうかがい

知ることは非常に難しいが、『大曾根屋敷之図』などの絵画資料である程度復元できる。二代藩主徳川光友が元禄 6 (1693) 年に家督を譲ると隠居所として大曾根御屋敷を構えた。当初は総面積 13 万坪という広大な敷地を持ち、庭園は大池を中心とした郊外の風情あるものであったという。現在の徳川美術館や蓬左文庫や徳川園は大曾根御屋敷の極一部にあたる。

広大な敷地に設けられた庭園は名古屋台地の縁辺部の崖を利用した起伏に富んだ趣向を凝らしたものと想定される。庭園に伴う池は崖下の低地に存在していたと思われ、水は安定して供給されたものと推察される。平成 11 年に徳川園の整備に伴い、トレンチ調査が行われ、滝口部分の石組や土管などが確認された。他の地点では大正時代から戦前にかけての宅地整備工事等のために往時の状況があまり残っていなかったという (水野 2001)。

### 6) 江戸市ヶ谷屋敷

東京都新宿区にある市ヶ谷屋敷は江戸における尾張徳川家当主が居住する上屋敷として機能していた。総面積は 78000 坪を持ち、「楽々園」と呼ばれる御庭が存在した。楽々園は東御殿と西御殿の間に所在し御泉水と呼ばれる大池を中心とした庭園である。



第 215 図 名古屋城二の丸庭園  
『御城御庭絵図』(蓬左文庫蔵)をトレースして  
改変した。

## 名古屋城三の丸遺跡 VII

現在は防衛庁の諸施設が設置されたこの屋敷は、東京都埋蔵文化財センターにより発掘調査が行われており、屋敷の様相が明らかになっている。注目すべき点は、楽々園以外にも小規模な池状遺構が数基確認されており、石組みで護岸されたものや漆喰壁で覆われたものなどがある。これらの小規模な庭園に伴う池が、今回確認された御屋形庭園と類似するものかもしれない。

## 7) 江戸戸山屋敷

尾張徳川家の江戸屋敷の中で最も規模が大きい屋敷が戸山屋敷である。総面積は136000坪余りを誇り、当主の休息と饗応の場として機能していた。中央に大規模な池を配置し、江戸で一番高い築山「玉円峰」や宿場町などが構築された。

この他に尾張徳川家が所持する御屋敷には、領国内に「熱田御殿」「小牧御殿」「横須賀御殿」な

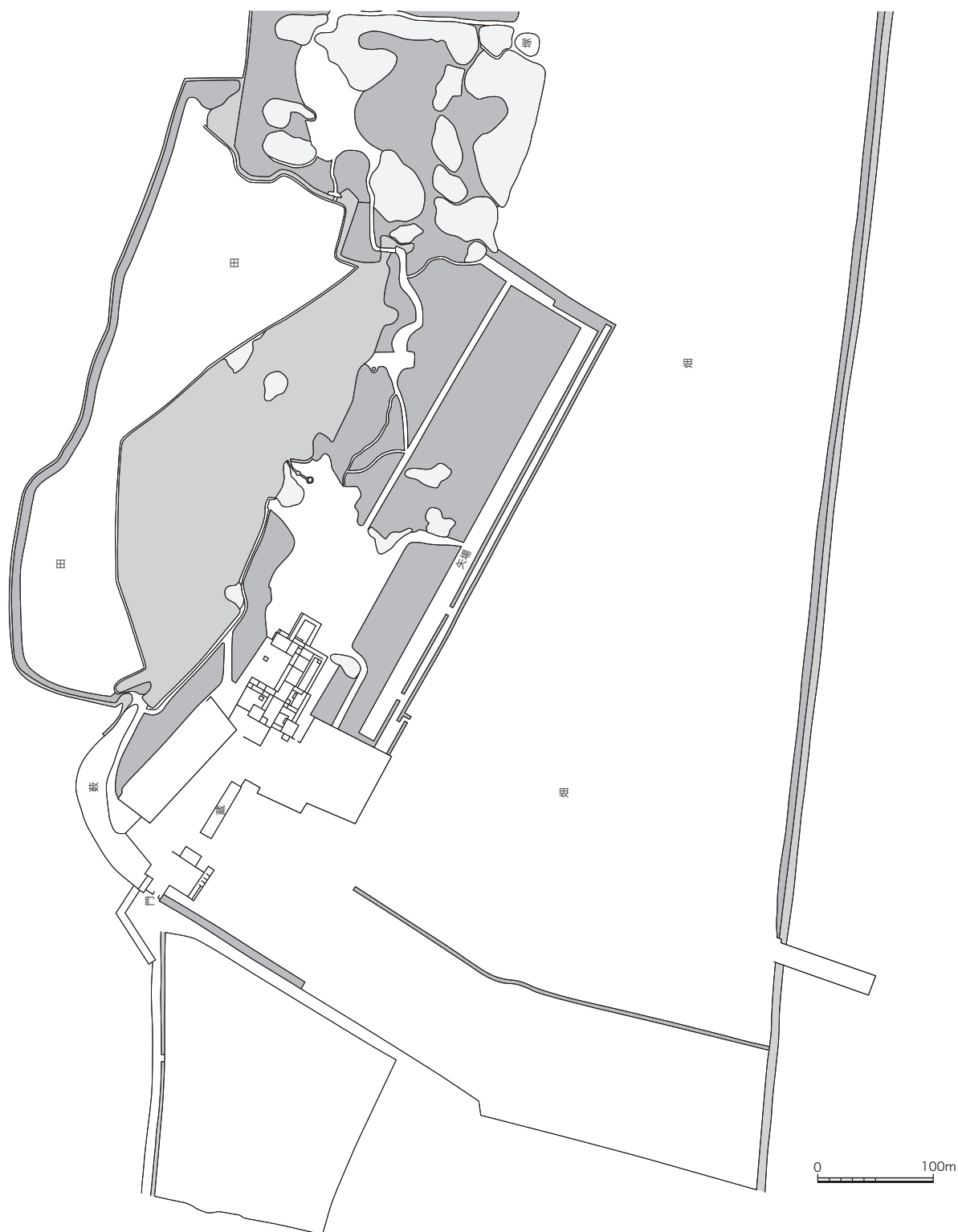


第 216 図 名古屋城御深井庭園

『源順様御代下御庭図面』（徳川林政史研究所蔵）をトレースして改変した。







第 218 図 名古屋城下大曾根屋敷庭園

『成瀬隼人正上ヶ屋敷絵図』および『石河大和守・渡辺半蔵上ヶ屋敷絵図』（ともに蓬左文庫蔵）をトレースして改変した。

ど、江戸に「築地御殿」「麴町御殿」などがあり、京都や大阪にも御屋敷が存在したという。これらの御屋敷にも庭園があったと考えられる。

さて、このように検討していくと、尾張藩の大名屋敷には庭園遺構が付随し規模や用途も様々であることがうかがい知れる。大きな池を伴い町屋の再現など大掛かりな趣向を凝らした大規模な庭園が一般的には著名であるが、それ以外にも中庭的なもので小規模な庭園遺構も一部では発見されている。ここで庭園の機能と規模などから次のように分類して整理してみたい。

A 類) 表御殿に伴う庭園：尾張徳川家当主が居住し政治や外交の場として機能した御殿に付随する庭園遺構をこの種に含める。名古屋城二の丸庭園や江戸市ヶ谷屋敷楽々園がこれに相当する。規模は中規模であったと考えられ、名古屋城二の丸庭園でみるように勇壮な石組を持つ庭園が多いのではないかと想像される。

B 類) 郊外にある屋敷に伴う大規模庭園：尾張徳川家当主が休息や饗応の居住の場として活用した屋敷に付随する庭園遺構をこの種に含める。名古屋城御深井庭園、名古屋城御下屋敷庭園、名古屋城大曾根屋敷庭園や江戸戸山屋敷庭園がこれに相当する。規模は大規模であったと考えられ、規模が大きい故に変化に富み趣向を凝らした庭園が多いと思われる。

C 類) 屋敷の一角に伴う中庭的庭園：尾張徳川家当主およびそれに近い方の屋敷のみに付随する小規模な庭園遺構をこの種に含める。今回確認された名古屋城御屋形庭園はこれに該当すると考えられる。庭園遺構が現在も残存するケースが少な

く、絵図などの記録にも残されないケースが多いため、不明な点が多い。発掘調査によりその遺構の痕跡が発見される場合が多いだろう。

#### 4 まとめ

以上の考察により、今回確認された池状遺構を主体とした御屋形庭園は、中庭的な池泉鑑賞式書院庭園と位置づけられよう。最後に確認しておきたい点は、こうした庭園遺構は名古屋城三の丸遺跡では初めて発見された点である。つまり、徳川家に従属する武家屋敷の中ではこれまで庭園遺構が発見されていないのである。未発見の遺構が本当に存在しなかったことを証明することはできないが、せいぜい大身の家臣が有することができた程度ではないかと思われる。庭園遺構の有無においても武家の身分的格差が如実に反映していることがうかがい知れる。

最後に、庭園遺構の解釈については仲隆裕氏に多大なご教示を得た。また、名古屋城二の丸庭園の状況については小島一夫氏と野口泰子氏のご教示とご協力を得た。記して感謝したい

白幡洋三郎 1997 『大名庭園 江戸の饗宴』

徳川美術館 2004 『江戸のワンダーランド 大名庭園』

名古屋市教育委員会 1976 『名古屋城二ノ丸庭園発掘調査 概要報告書』

名古屋市博物館 2000 『尾張徳川家の絵図—大名がいだいた世界観』

名古屋城振興協会 1967 『名古屋城叢書 3. 増補新版 名勝史蹟 名古屋城の庭園』

水野裕之 2001 「徳川園」『愛知県埋蔵文化財情報 16』

## 第5節 遺構の変遷

本節では、今回確認された遺構の変遷を、出土遺物の変遷と遺構の検出状況などから推測し、今回の調査地点の歴史的な変遷を考察したい。

既に第2章遺構で詳述したように、今回の調査で確認された遺構と遺物は大きくA期からD期の4期に大別されている。さらに、既存の研究で明らかになっている須恵器・灰釉陶器・山茶碗・瀬戸美濃窯産陶磁器などの編年と、本章第2節や第3節で検討した土師器皿・鍋類の変遷を考慮した結果、これらは16小期に細別できた。この時期区分を用いて、各時期に同時に存在したと推測された遺構の主要なものを集め編集したものが、第219～222図である。

### A-1期 (5世紀代)

東山11号窯式期前後の須恵器を伴う段階である。これ以前の宇田型甕などを伴う段階も含めて、確認された遺構は少なく、SK339やSK353などの小型の土坑が数基存在する程度である。遺物には城山2号窯式期から東山11号窯式期の須恵器杯類などの他に、この段階に属する円筒埴輪が約90点出土している。埴輪の出土分布の検討から、調査区東側に円筒埴輪を伴う古墳の存在が予測される。こうした状況から、わずかに認められた小型の土坑の存在は集落に伴うものではないと評価しておきたい。

### A-2期 (6世紀前半)

東山61号窯式期前後の須恵器を伴う段階で、土師器鍋類1期4段階に相当する。確認された遺構は少なく、SB06が確認される程度である。このSB06は柱穴を持たない小型の竪穴状遺構であり、建物跡と認定できない可能性もある。従って、この段階では何らかの人々の存在した痕跡を認めることができるものの、居住域であったとは評価できない状況である。

### A-3期 (7世紀前半)

東山44号窯式期前後の須恵器を伴う段階で、土師器鍋類1期5段階に相当する。この段階では確認された遺構が増加し、竪穴建物跡SB04・SB05・SB09、掘立柱建物跡SB11・SB13および土坑SK308などが存在する。建物の方位は、東半部に存在するものはおよそN-70°-Wを、西半部に存在するものはおよそN-80°-Eを測る。土坑SK308の性格の特定は難しいが、玉類や比較的完形に近い須恵器を大量に伴うことから、ごみ処理の廃棄土坑とは考えにくい。竪穴建物と掘立柱建物の登場からみて、居住域として機能し始めた段階といえる。

### A-4期 (8世紀代)

岩崎17号窯式期から折戸10号窯式期までの須恵器を伴う段階を一括する。岩崎17号窯式期前後(土師器鍋類1期6段階)の前半と、折戸10号窯式期前後(土師器鍋類1期7段階)の後半に分離することも可能であるが、ここでは合わせて表記する。この段階では、前段階に比べ遺構の数は減少し、竪穴建物跡SB02・SB03、掘立柱建物跡SB10・SB14などが存在する。小型の土坑類は建物跡に付随する遺構の可能性もある。居住域として機能は依然として継続していたと考えられる。

### A-5期 (9～10世紀)

黒笹14号窯式期から折戸53号窯式期までの須恵器や灰釉陶器を伴う段階を一括する。本来は時期をさらに細区分すべきと思われるが、遺構出土遺物は小破片が多いため区分できなかった。この段階では、前段階に比べ遺構の数は減少し、竪穴建物跡SB08、掘立柱建物跡SB12・SA02や小規模な土坑などが存在する。小型の土坑は建物跡の柱穴である可能性も考えられる。居住域として

機能はかろうじて継続していたと考えられる。

#### B-1 期（13 世紀後半）

山茶碗第 7・8 型式に属する陶器を伴う段階である。土師器皿 1 期 1 段階、土師器鍋類 2 期 1 段階に相当する。この時期では掘立柱建物跡 SB15・SB16、井戸 SK226、溝 SD18 など多くの遺構が存在する。調査区東部では、東西方向に SD18 などの溝が存在し空間を区画しているが、これ以外に区画施設は見当たらない。溝と掘立柱建物跡 SB15 が重なることと掘立柱建物の方位がバラバラであることなどから、これらが同時期に存在しなかった可能性もある。これらの状況から見て、建物跡や井戸が明瞭な区画施設で区切られない形で展開するものと見られる。溝などで囲まれない屋敷が散在していたものと思われる。

なお、A-5 期と B-1 期の間、すなわち広久手 72 号窯式期から山茶碗第 6 型式期までに属する遺構はほとんど存在せず、該当する遺物も僅少である。12 世紀末から 13 世紀初頭の唐草紋軒平瓦がわずかに出土したことから、その時期の瓦葺き建物が付近に存在した可能性を考えることもできるが、基本的には居住域の機能はいったん途絶えたものと理解しておきたい。

#### B-2 期（14 世紀～15 世紀中頃）

山茶碗第 9～11 型式に属する陶器を伴う段階で、土師器皿 1 期 2 段階に相当する。この時期に属する遺構は希薄で、掘立柱建物跡、井戸、溝などの遺構は全く存在しない。土坑類が調査区中央部に散在する程度である。これらの土坑の一部は掘立柱建物跡の柱穴と考えることができ、B-2 期の遺構や遺物を識別しにくい状況を考慮すればこの段階も少なからず居住域であった可能性がある。ただし、現状の検出状況からみると、やはり B-1 期よりも遺構密度が低かったと言わざるを得ないだろう。少なくとも溝などの明瞭な区画施設で屋敷が囲まれていたとは考えにくい。

#### B-3 期（15 世紀後半）

古瀬戸後 IV 期古段階に属する瀬戸窯産陶器を伴う段階で、土師器皿 1 期 3 段階に相当する。この時期では掘立柱建物跡は確認されなかったが、井戸 SK146、溝 SD34・SD35・SD38 など多くの遺構が存在する。調査区中央部では、方形地割を形成するようにほぼ東西方向と南北方向に走る溝群（方位はおおよそ N-6°-E）が展開し、一定度の区画割が行われていたことを予感させる。建物遺構を確認することができないものの、井戸や廃棄土坑と思われる土坑群（SK155 など）の存在から居住域であった可能性が高く、溝によって区画された屋敷が展開したものと想定できる。これらの状況から見て、建物跡や井戸が明瞭な区画施設で区切られない形で展開するものと見られる。溝などで囲まれない屋敷が散在していたものと思われる。

#### B-4 期（16 世紀前葉）

古瀬戸後 IV 期新段階から大窯第 2 段階に属する瀬戸美濃窯産陶器を伴う段階である。土師器皿 2 期 1・2 段階、土師器鍋類 3 期 1・2 段階に相当する。土師器などにより時期を細分することも可能と考えられるが、具体的な遺構の展開を説明しにくいためここでは合わせて検討したい。この段階では、掘立柱建物跡 SB17、井戸 SK147、溝 SD17・SD25・SD27・SD29・SD36・SD39 などの遺構が存在する。溝群はおおよそ N-10°-E の方位で方形地割を形成するように走り、区画 01～04 を作る。特に SD17・SD25・SK222 は規模がやや大きく、これらで囲まれた区画 04 は他の区画に比べ区画施設が強固であると評価できる。区画内部の構造は不明である。区画 02 では井戸 SK147 や建物跡 SB17 が展開したことが判明する。建物跡 SB17 はその配置と規模からみて主屋とは考えにくい。こうした状況からみて、B-4 期は B-3 期と同様に、溝による方形地割によって区画された屋敷群が展開したと復元される。B-3 期と異なる点は、やや規模の大きな区画



## 名古屋城三の丸遺跡 VII

施設で囲まれた屋敷が登場し、そこに見られる格差が生じた可能性があることである。ただし、今回の調査区域では屋敷の規模そのものの比較はできなかった。

### B-5 期（16 世紀中葉）

大窯第 2 段階以降に属する瀬戸美濃窯産陶器を伴う段階で、土師器鍋類 3 期 3 段階に相当する。この段階の遺物は意外と少なく遺構の時期は他の遺構との重複関係などを参考にしているケースも多い。B-5 期では、掘立柱建物跡 SB18・SB19、溝 SD06・SD24・SD31、掘立柱柵列跡 SA03・SA05 などの遺構が存在する。溝群はおおよそ N-6°-E の方位で平行して走り、区画 05～08 を形成する。東西方向に走る溝を検出することはできなかった。SD31 と SD24 の間は約 22m、SD24 と SD06 の間は約 13m を測る。SD24 には門 SB20 が付随することから、SD24 の西側が道路であった可能性も存在する。ただし、道路を想定すると SB19 の存在が矛盾しており、SB19 の時期あるいは SB20 の性格を検討し直す必要があるだろう。区画 07 は SA05 により区画 07a と区画 07b に細分できる。

上述のように、区画 05～08 は平行する溝により計画的に構築されたもので、基本的には屋敷地であったと推定される。ただし、それぞれの区画には必ずしも井戸や建物跡が確認されておらず、遺物の出土量も少ない印象があることからみて、生活感や常住性を感じさせない様相を呈していると思われる。

### C-1 期（17 世紀前半）

登窯第 1・2 小期に属する瀬戸美濃窯産陶器を伴う段階である。土師器皿 2 期 3 段階と土師器鍋類 4 期 1 段階に相当する。この時期は、SD22 と SK185 が重複することや SD12 と SD14 の間に井戸 SK163 などが存在することなどから、遺構変遷を細分する必要があると思われるが、実際に遺構の時期細分を全体に行うことが困難であ

るために便宜上一括して様相を説明することとしたい。この段階では、掘立柱建物跡 SB22、溝 SD12・SD14・SD22、掘立柱柵列跡 SA08 など多くの遺構が存在する。溝群はおおよそ N-3°-W の方位またはこれに直交する方位に展開し、大きく区画 09～11 を形成する。SD12 と SD14 の間は約 4m を測り、道路状の遺構であったと推測される。SD27 の東側は区画施設の延長を確認することができず、その様相は不明である。溝群は遺構の重複関係からみると、C-1 期の初頭から存在したもの（特に SD22）が途中で消えている可能性も考えられる。SD14 と SD22 で囲まれた区画 10 の内部には多くの土坑類が分布している。明瞭な建物跡の存在は SA08 がある程度で、それより南側では建物遺構は展開せずに廃棄土坑群が掘削された場所であったと想定しておきたい。

区画溝が屋敷を囲む施設かあるいは屋敷内部を区分する施設かを識別することは難しいが、ここでは南北方向の区画施設については屋敷を囲む溝と考えておきたい。C-1 期の遺構全体としてみると、B-5 期の方向と同様の方向を持つ方形地割の中に屋敷地が展開していたと評価できよう。

### C-2 期（17 世紀後半）

登窯第 3・4 小期に属する瀬戸美濃窯産陶器を伴う段階である。土師器皿 2 期 4・5 段階と土師器鍋類 4 期 2 段階に相当する。この時期も、SD12・SD14・SA06 などの区画施設が近接して平行する形で存在していることなどから、遺構変遷を細分する必要があると思われるが、実際に遺構の時期細分を全体に行うことが困難であるために便宜上一括して様相を説明することとしたい。この段階では、掘立柱建物跡 SB21、溝 SD12・SD14、掘立柱柵列跡 SA06、井戸 SK163・SK49 など多くの遺構が存在する。溝は C-1 期に存在したものを引き継いで存在したものと推測され、SD14 は南方向に伸びる形に変更された可能性がある。SA06 を含めてこれらの区画施設はおおよ

そ N-3°-W の方位を持つ。区画施設群の東部には掘立柱建物跡や廃棄土坑群が展開し、屋敷を形成していたと考えられる。SD12 は C-2 期末期(あるいは C-3 期初頭)には池 SX02 に接続し導水部として利用された可能性も存在する。

区画溝や柵列跡の性格にはわかには判別し難いが、これらの区画施設に近接して井戸が展開することを考慮すると屋敷を囲む施設とは考えてにくい。従って、調査区は大きく広がる屋敷の一部分である可能性が高い。広大な屋敷のどのような位置に相当するかについては今回の調査成果のみでは読み解くことは難しい。

#### C-3 期 (18 世紀)

登窯第 5～8 小期に属する瀬戸美濃窯産陶器を伴う段階である。土師器皿 3 期 1～3 段階と土師器鍋類 4 期 3 段階に相当する。この時期は一部の遺構について着目すると遺構変遷を細分することができるが、説明の煩雑さを避けるためあえて一括して様相を説明することとした。この段階では、池 SX02、石組溝 SD01～04、地下室 SK94、巨大廃棄土坑 SK01、石列 SX09 など多くの遺構が存在する。石組溝群で囲まれた空間は池 SX02 を中心としていくつかの不定形土坑とセットになって庭園遺構を形成していたと考えられる。庭園遺構と地下室との関係は今ひとつ明らかではない。調査区東部には非常に巨大な廃棄土坑 SK01 が存在しており、他の遺構はほとんど認められない。SK01 からは瓦や石材や木材などの廃材が大量に投棄されていたことから普請や作事に伴うものと推測され、屋敷内では建造物などは存在しない空白地を利用した作業場的な用途を想定しておきたい。石組溝群の外側の様相は調査区外に当たり不明な点が多いが、建物遺構の周囲に並べられたものと想定される石列 SX09 の存在から恒久的な建造物があったことが想定される。SK01 などから大量に本瓦葺きの瓦類が出土したことからみて、建造物は瓦葺きの礎石建物であっ

たものと思われる。

調査区は大きく広がる屋敷の一部分と考えられ、本格的な建造物すなわち御殿などの北端部に隣接する石組溝と庭園などが展開した地点であると評価できる。庭園の規模は非常に小さくこじんまりとしたもので、表の庭園遺構とは考えにくく建物群の空隙にできた中庭的な書院庭園であった可能性が高い。さらに付け加えるべき点は、これらの遺構は部分的には約 80cm の盛土を行った上で全く新たに構築された点であり、今回の調査地点の遺構変遷の中では最も大きく変貌を遂げた段階の一つと評価できよう。

#### C-4 期 (19 世紀前半)

登窯第 9～11 小期に属する瀬戸美濃窯産陶器を伴う段階で、土師器皿 3 期 4 段階に相当する。該当する時期の遺物が少ないことからこの時期の遺構は少ない。掘立柱柵列跡 SA09 や石組溝の石材を抜き取った廃棄土坑 SK23 などの遺構が存在する程度である。池 SX02 は埋め立てられ、地下室 SK100 が構築された。この他の遺構は調査上のミスもあって不明な点が多いと言わざるを得ない。石列 SX09 は C-4 期まで存在したものと推測され、引き続き南側に御殿状の建造物が存在したのだろう。大きくは C-3 期の遺構展開と変わらないが、今回の調査地点で見ると遺構と遺物は希薄で低調な段階と評価される。

#### D-1 期 (19 世紀後葉～20 世紀前葉)

この段階は遺構や遺物は非常に少ない。遺構は土坑が数基存在する程度である。この時期の遺構面は人工的に展圧された硬化面を形成しており、固い地盤が広大に広がる広場であったと推測される。陸軍第三師団が入部した際に調査地点は東練兵場に相当することが判明しており、その地面が検出されたといえる。

#### D-2 期 (1945 年直前)

この段階は遺構や遺物は D-1 期に比べると増加している。遺構は礎石建物跡 SB01、掘立柱建

## 名古屋城三の丸遺跡 VII

物跡 SB25、井戸 SK114、土坑 SK96 などが存在する。建物の方位は、C 期の遺構と同様の方位を持つ。建物跡は近代以降のものとしては脆弱な基礎構造であり、急遽建造された感が否めない。建物の構造などからみて陸軍名古屋病院第二分院の病棟と推測される。また、土坑の一部には完形の遺物が埋蔵されたものがあり、物資を隠匿するための土坑と思われる。遺物ではガラス瓶や磁器類や活字などに陸軍名古屋病院に関連する製品を認めることができることから、調査地点が陸軍名古屋病院第二分院に相当することを証明できよう。

以上の遺構変遷を考察した結果、今回の調査地点の歴史的な変化を復元すると、次のようにまとめることができる。

- 1、4 世紀の遺物が散見されることから、4 世紀には付近に人々の活動が行われるようになったといえる。それ以前における人間の活動の痕跡は確認することができなかった。
- 2、5 世紀には小規模の土坑が散見され、埴輪の存在から付近に古墳があったと推測される。
- 3、6 世紀には確実な居住域とは評価できないが、遺構や遺物が散見されることから、少なくとも付近に人々の活動が存在したといえる。
- 4、7 世紀前半から 10 世紀までは竪穴建物と掘立柱建物の両者が混在する集落が展開した。特に 7 世紀から 8 世紀にかけて遺構は多いが、建物遺構の密集度はそれほど高くないと考えられる。
- 5、11 世紀から 13 世紀前半までは遺構や遺物はほとんど見られず、集落は存在しない。人々の活動もあまり感じられない。
- 6、再び調査地点に人々が居住し始めるのは、13 世紀後半からである。掘立柱建物と井戸がセットになって認められる集落が展開した。
- 7、14 世紀から 15 世紀中頃までは遺構や遺物が散見される状態であるが、おそらくは掘立柱建物を中心とした集落が継続していたと想像される。
- 8、15 世紀後半になると、溝で区画された空間が設定され井戸などが存在するようになる。建物は確認できなかったが、おそらく掘立柱建物を中心とした屋敷が散在する集落が展開し始めたものと思われる。溝はほぼ東西南北の方位で展開する。今川那古野荘の段階に当たると思われ、荘園に関連する村落の一部を確認したものであろうか。
- 9、上記のような遺構のあり方は 16 世紀前葉でも継続するが、部分的に区画溝の規模がやや大きくなるものが登場する。なお、15 世紀後半の地割と 16 世紀前葉の地割は異なっていることから、地割の変更という画期が認められる。今川氏が那古野城を築城した段階に相当しており、地割の変更はその影響を受けたものであろうか。
- 10、16 世紀中葉には、再度地割の変更が行われて長方形の屋敷が展開したものと思われる。織田氏が那古野城に入城した際に城下の構成を変更した可能性も考えられよう。
- 11、16 世紀後葉では遺構や遺物が激減し様相は不明であり、人々の活動がほとんど感じられない状態と評価される。1582 年頃には那古野城は廃城になったと推測されており、その状況を示したものと評価できる。
- 12、17 世紀前半には、方位は共通するものの新たに溝による区画が設定され、屋敷が展開したものと推定される。調査地点は『金城温古録』によると石川光忠、粟生将監、一色竜雲が居住した名古屋城三の丸の武家屋敷が展開したと思われる。
- 13、17 世紀後半では地割が変更され、区画施設が存在するものの、調査区全体が広大な屋敷の一部であった可能性が高いと評価された。調査

地点は、慶安2（1649）年に御屋形区画の原型が成立して以来、徳川義直娘婿広幡忠幸、松平義昌、徳川綱誠らが居住した屋敷が展開したことが判明しており、その一部が確認されたものと考えられる。

14、18世紀になると、17世紀に存在した区画溝が廃絶され、厚い盛土による整地が行われ石組溝や庭園が構築された。調査地点は広大な屋敷の一角に相当すると思われ、中庭的な場所が想定された。文献などの検討から、この段階は御屋形の機能が分化して御屋形の公的施設の性格が強まった時期と考えられている。

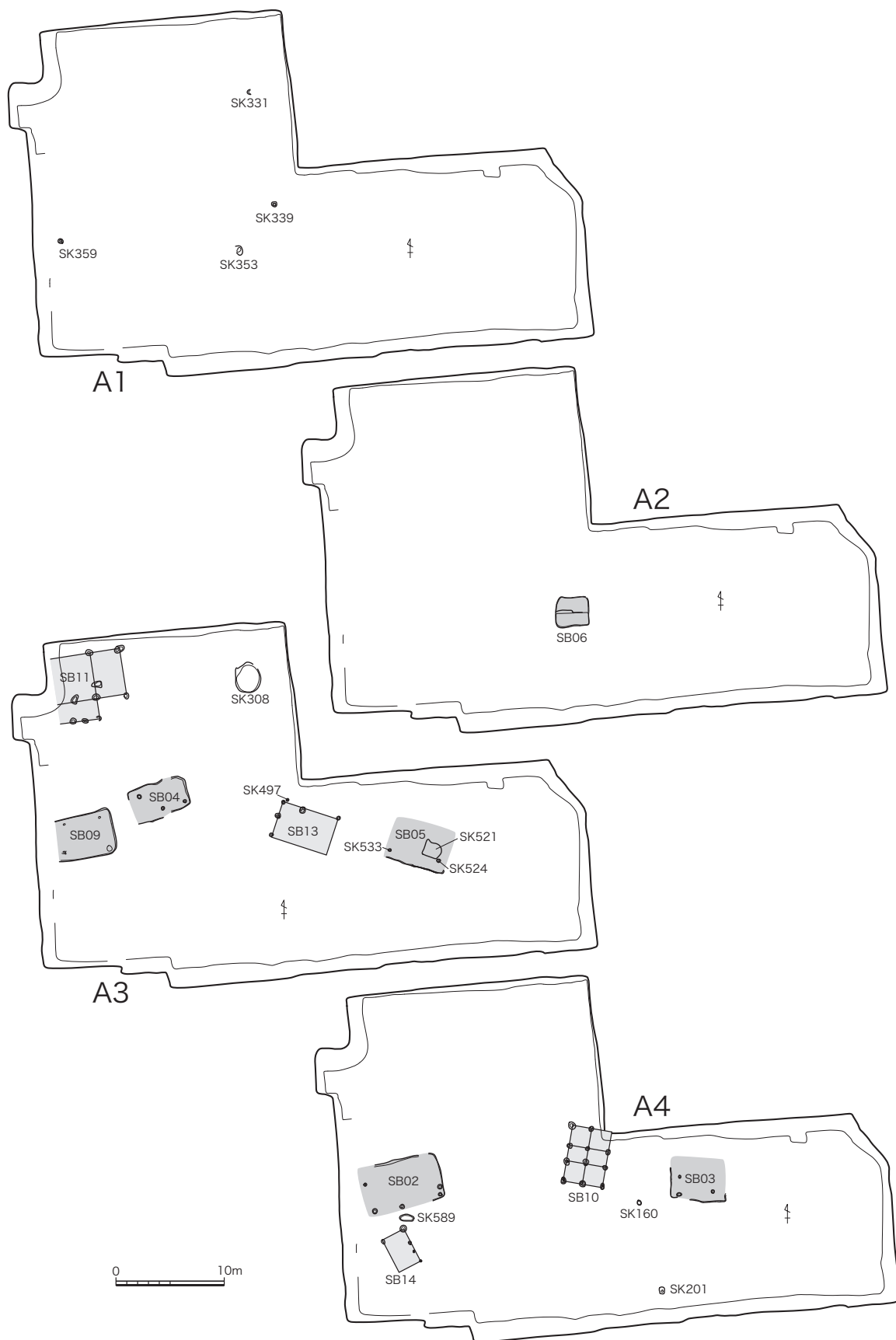
15、19世紀には入ると、広大な屋敷の一角である様相は変わらないと思われるが、遺構や遺物が減少している。このことは、文献などの検討から18世紀半ば以降は御屋形の機能が衰退する過程と位置づけられていることと符合するといえる。

16、19世紀後葉から20世紀前葉では、遺構や遺物は激減し硬化した地盤のみが確認された。1872年に入部した陸軍第三師団の東錬兵場として機能していたといえる。

17、太平洋戦争終戦の1945年直前では、当時としては脆弱な建物が建造され、部分的に物資を隠匿した土坑なども確認された。建物の規模や形状から病室に相当するものと考えられ、陸軍名古屋病院に関連する遺物も豊富に出土していることなどから、陸軍名古屋病院第二分院の病棟とそれに関連する遺構が展開したと推定される。

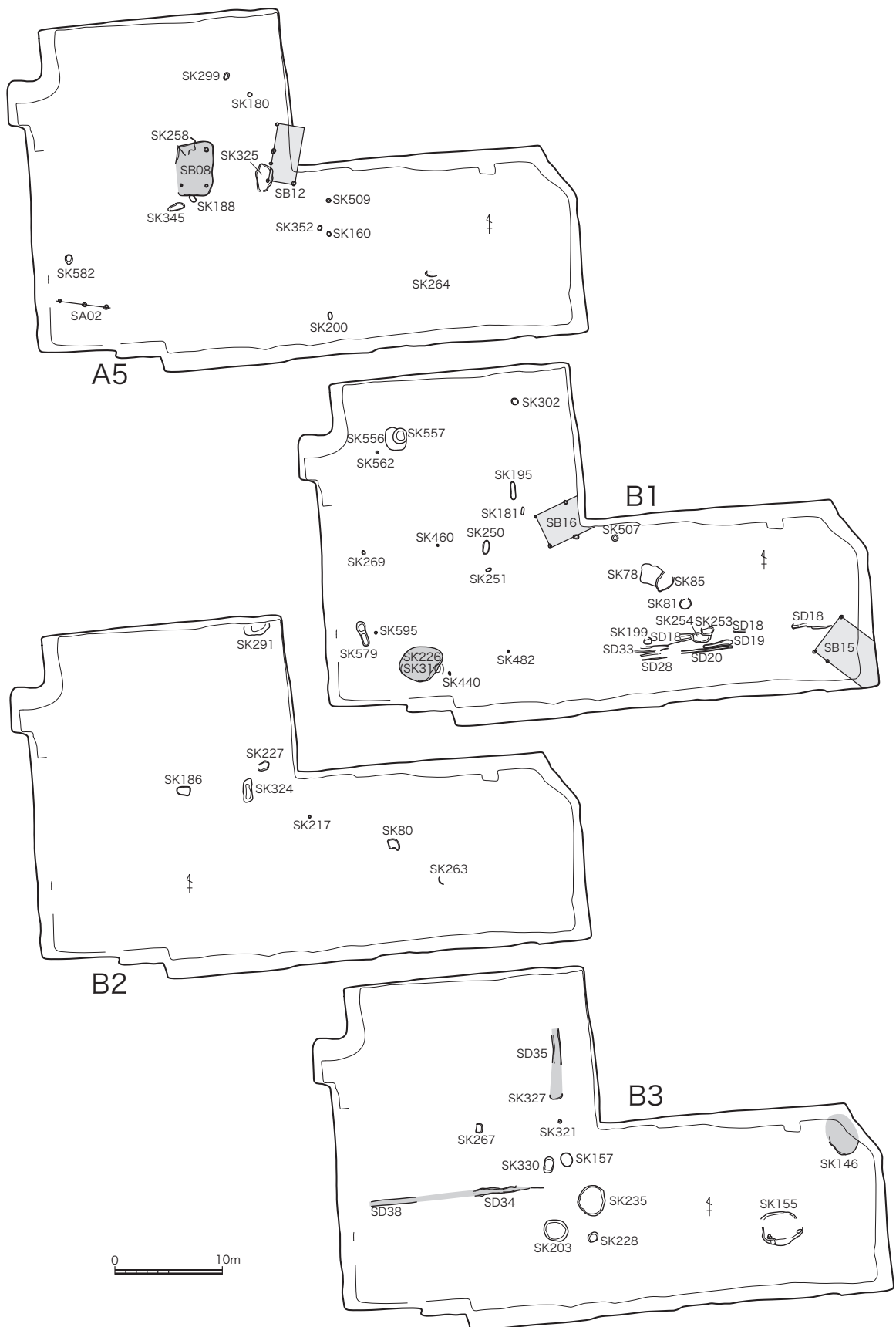
18、その後の状況については、考古学的なデータを採取していないが、1m以上の厚い盛土整地を経た上で国立名古屋病院（現独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター）が建造され、2004年には調査地点に看護婦養成所が新規建設されて今日に至る。

名古屋城三の丸遺跡 VII



第 219 図 遺構変遷図 (1)





第 220 図 遺構変遷図 (2)



























SK01	古瀬戸前期				古瀬戸中期				古瀬戸後期				大窯				登窯										?	総計						
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	1	2	3	4	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10								
接合前破片数																																		
天目茶碗																						4												
平碗									2			1																						
丸碗									1												3	3		1										
小碗																																		
端反碗																					1													
尾呂茶碗																																		
腰緒茶碗																																		
御室茶碗																																		
その他の碗																																		
折縁深皿												1																						
中皿									1																									
反り皿																					1		3											
丸皿																																		
志野皿																					8	8	2		1									
その他の皿																																		
黄瀬戸鉢																					3													
笠原鉢																																		
その他の鉢																					1	2											1	
揃鉢												1				1					1	1		3	4									
煙硝揃																																		
盤類									1												3		1											
向付																					1	4	1	3										
香炉																																		
徳利																					1													
四耳壺	1											1																						
祖母懷壺												1																						
その他の壺																					1			1										
土瓶																																		
蓋																																		
火入れ																																		
びんだらい																																		
エンゴロ																																		
不明																					3									4				
総計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	1	14	15	6	1	15	8				4	0	0	1	0	
	1	0	0	0	0	0	0	2	2	4			0	0	1	1				72	40			71					5			1		
	1				0				13				0				2				137				83				5				1	336
					14								8								313													

第 33 表 SK01 出土瀬戸美濃窯産陶器類組成表

名古屋城三の丸遺跡 VII

SD01	古瀬戸前期				古瀬戸中期				古瀬戸後期				大窯				登窯										総計			
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	1	2	3	4	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10				
接合前破片数									古 新				前 後 前 後																	
天目															1		1			4							6			
天目茶碗か丸碗																				1							1			
平碗																			4								4			
灰釉大碗																					1						1			
灰釉碗																		2			4						6			
長石端反碗																	3										3			
鉄釉丸碗																				1							1			
鉄釉碗																					1						1			
御室茶碗																					1						1			
碗																			1		10						11			
灰釉反り皿																				2							2			
丸皿																				1							1			
志野丸皿																			4	1							5			
志野皿?																				1							1			
黄瀬戸鉢																			3								3			
笠原鉢																				1							1			
鉄絵鉢																			5								5			
(こね) 鉢																					1						1			
搦鉢											1								2		2	1					19			
											1									1										
											1										10									
搦鉢?																			2								2			
搦鉢? 不明											1																1			
煙硝搦鉢																					1						1			
蓋物身																								4			4			
志野向付																1											1			
志野織部向付																			1								1			
徳利																					2						2			
四耳壺	1																										1			
有耳壺																					2						2			
御深井花生																			1								1			
緒桶												1															1			
内耳鍋																							1				1			
匣鉢																					2						2			
灰釉不明																					13						13			
鉄釉不明																					17						17			
不明											1																1			
総計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	8	3	1	0	3	1	0	0	0	124
	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	2	0	0	24	12	18	1	0	0	0	0	0	0				
	1	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	2	0	0	0	42	0	0	0	31	0	0	0	0	0				
	9												115																	

第 34 表 SD01 出土瀬戸美濃窯産陶器類組成表

SK23	古瀬戸前期				古瀬戸中期				古瀬戸後期				大窯				登窯										総計									
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	1	2	3	4	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10										
接合前破片数													古	新			前	後	前	後																
天目														1							1															
灰釉丸碗																					1		1		1											
鉄釉碗																								1												
丸碗																												1								
腰銘																													1							
碗																														7						
灰釉湯呑																														1						
箱型湯呑																														3						
輪花皿																												1								
黄瀬戸鉢																								4				1								
緑釉鉢																													1							
播鉢																					1							1		4						
											10																									
火鉢?																													1							
盤類									1																											
鉄釉徳利																												3		3						
徳利																					1															
飴釉香炉																												1								
びんだらい																												1								
灰釉火入れ																													2							
蓋物の蓋																													1							
再興織部蓋																															1					
箸置? 不明																									1											
エンゴロ																									1											
御深井不明																									1											
錆釉不明																									2											
不明																									51											
総計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	1	1	16	1	0		
	0				0				1				1				4		1		12				21											
	1								1				10				36																			
	2												111																							

第 35 表 SK23 出土瀬戸美濃窯産陶器類組成表



名古屋城三の丸遺跡 VII

SD01								
接合前破片数	I期	II期	III期	IV期	V期～	近代	不明	総計
碗			6	15	1		19	42
			1					
小碗			1				4	5
小杯			2				1	3
皿				1		1	1	3
鉢							1	1
仏飯具							1	1
不明						2		2
総計	0	0	9	16	1	3	27	57
	0		26					

SK94								
接合前破片数	I期	II期	III期	IV期	V期～	不明	総計	
碗			4	2		7	16	
			3					
小碗				1			1	
小杯				1			1	
皿				1			1	
総計	0	0	4	5	0	7	19	
	0		12					

SK01								
接合前破片数	I期	II期	III期	IV期	V期～	不明	総計	
碗			11	3		22	45	
			9					
小杯		2	4				9	
			2					
		1						
大皿			5	1			6	
中皿			2	1			8	
			5					
型打皿						1	1	
皿			1			2	3	
皿?						1	1	
鉢			3			2	5	
蓋						1	1	
壺?						2	2	
人形?						1	1	
不明						3	3	
総計	0	2	26	5	0	35	85	
			47					
			50					

SK23								
接合前破片数	I期	II期	III期	IV期	V期	近代	不明	総計
碗			3	24			15	42
端反碗					2			2
筒碗				1				1
箱湯呑				1				1
猪口				1				1
中皿				1			2	3
紅皿				1				1
皿				1			4	5
蓋					1			1
鉢							1	1
瓶?							3	3
不明						2	2	4
総計	0	0	3	30	3	2	27	65
	0		36					

第 36 表 主要遺構出土肥前窯産磁器類組成表

## 付 表

## 遺構一覧表

遺構番号	グリッド	1面	2面	3面	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	プラン	断面形	埋土	備考	時期
SK01	11h, 11i, 12h, 12i	×	○	○	A=590 B=692	A=235 B=487	A=137 B=212	不整形三角形	碗形	図面に記入	東西にSK 0 1 AとSK01Bに分かれる。両方とも調査区外北に伸びている。	C3
SK02	11g	×	×	×	249	168	22	楕円形	碗形	7.5YR3/2 粘土、中粒砂混。炭化物、粘土、礫少量混。	SK01B を切っている。	C4?
SK03	11j	×	○	×	311	125	55	長方形	箱形	5YR3/1 粘土 2.5Y7/4 粘土ブロック混。炭化物わずかに混。焼土わずかに混。	トレンチ。擾乱の可能性が高い。	D3
SK04	12j	×	○	×	170	162	66	楕円形	碗形	10YR4/2 中粒砂、シルト混。地山ブロック若干混。		C3?
SK05	12i	×	○	×	230	119	34	長方形	箱形	10YR4/2 中粒砂、シルト混。地山ブロック若干混。		D
SK06	13i	×	○	×	97	60	4	不整形楕円形	底部が凹凸	2.5Y3/2 細粒砂。粘土混。礫少量混。		D3
SK07	13j	×	○	×	73	50	45	不整形楕円形	台形	10YR3/3 粘土。細粒砂混。	柱穴の可能性高い。SB22 柱穴。	C1
SK08	13j	×	×	×	150	70	6	不整形楕円形	皿形	10YR4/3 細粒砂。粘土混。	明治のプリント出土。調査区外へ東にのびる。SD05 を切っている。	D1
SK09	11j	×	○	×	328	45	9	楕円形	皿形	10YR3/1 粘土。地山ブロック多く混。	調査区外へ東へ伸びる。SB22 柱穴。	C1
SK10	11j, 12j	×	○	×	130	50	51	楕円形	碗形	2.5Y3/1 粘土。地山ブロック多く混。	調査区外へ東へ伸びる。	C2
SK11	12j	×	○	×	105	(60)	77	方形	碗形	図面に記入	瓦。近世土師。調査区外へ東に伸びる。SB22 柱穴。	C1
SK12	12j, 13j	×	○	×	70	33	56	方形	箱形	10YR3/2 粘土。細粒砂。	瓦(小片)多い。調査区外へ東にのびる。SB22 柱穴。	C1
SK13	12j	×	○	×	99	60	55	楕円形	碗形	10YR3/1 粘土。極細粒砂混。地山ブロック多く混。	SD17 を切っている。SB22 柱穴。SK04 に切られている。	C1
SK14	12j	×	○	×	91	41	70	方形	碗形	10YR4/1 土 細粒砂 中粒砂混	調査区外へ東にのびる。SB22 柱穴。	C1
SK15	13j	×	○	×	80	45	32	楕円形	碗形	10YR3/1 粘土。極細粒砂混。地山ブロック多く混。	SD05 との前後関係は不明。SB22 柱穴。	C1
SK16	10e, 10f, 11e, 11f	○	○	×	89	75	14	不整形	碗形	10YR4/1 中粒砂。粘土混。	調査区外へ北にのびる。	D2
SK17	11f	○	×	×	180	14	8	隅丸方形	皿形	10YR5/2 シルト。細粒砂混。	SK27, 28 を切っている。	D
SK18	11e	○	○	×	62	52	22	円形	碗形	10YR5/2 中粒砂。シルト混。		D
SK19	12j	×	○	×	—	—	—	円形	—	—		C2
SK20	11f	○	○	×	193	78	26	楕円形	皿形	10YR4/1 細粒砂。シルト、地山ブロック混。	SK16, 17, 30 に切られる。白色玉石集石。	C3
SK21	11e	×	×	×	28	28	1	円形	皿形	10YR5/1 土 細粒砂		?
SK22	11f	×	×	×	—	—	—	不整形	—	—	SK20 北西	D
SK23	10a, 11a, 12a	○	○	○	1800	118	43	長方形	箱形	図面に記入	SD03 の石材を抜き取った後の遺構	C4
SK24	11e	○	×	×	(206)	106	20	楕円形	逆台形	10YR3/1 中粒砂。粘土、炭化物少量混。	SK25 に切られている。	D2
SK25	10e, 11e	○	×	×	162	122	20	楕円形	—	—	ガラス、コンクリート含む。	D3
SK26	10f, 10g, 11f, 11g	○	○	×	130	90	30	方形?	皿形	10YR4/3 中粒砂。粘土混。地山粒、炭化物少量混。	切石埋納。	C3
SK27	11f	○	○	×	80	43	16	長方形	箱形	10YR4/1 シルト。細粒砂混。	SK17 に切られている。SA03 柱穴。	C
SK28	11f	○	○	×	224	43	25	長方形	碗形	斑土。7.5Y3/1 細粒砂。2.5Y7/3 粘土。	SD24 を部分的に掘ったもの。調査区外へ北へ伸びる。瓦、須臾、山茶碗。SA03 柱穴。	B3
SK29	11f	×	×	×	72	66	6	隅丸方形	皿形	10YR4/2 粘土。細粒砂混。粘土わずかに混。		B?
SK30	11f	○	×	×	21	13	—	楕円形	—	—	柱痕を遺構としていた。一面では掘削しなかった。後にSK374の柱痕として掘削した。	B3
SK31	11e	○	×	×	30	(21)	2	楕円形	皿形		北をSK43に切られる。	?
SK32	11e	×	×	×	25	25	2	円形	皿形	10YR5/1 土 細粒砂	SK33 を切っている。	?
SK33	11e	×	×	×	30	28	1	円形	皿形	10YR5/1 土 細粒砂	SK33 に切られている。	?
SK34	11e	○	×	×	26	23	1	楕円形	皿形	10YR5/1 土 細粒砂		?
SK35	13d	×	○	×	80	76	4	円形	皿形	2.5Y4/1 シルト、炭化物わずかに混。	SK41 を切る。SB21 柱穴。	C3
SK36	13d	×	×	×	143	96	6	楕円形	皿形	2.5Y4/1 シルト。極細粒砂混。	鼠志野・瓦 SK38 を切っている。	C3, 4
SK37	13d	×	○	×	112	109	186	円形	図面に記入	図面に記入	円形に石を配置。埋納遺構。	C3
SK38	13d, 13e	×	○	×	650	285	20	長方形	皿形	上層: 7/1 中粒砂。鉄分を含む。	整地土層。	C3
SK39	13c	×	×	×	87	85	13	不正円形	逆台形	10YR3/2 中粒砂。炭化物混。	柱痕有り。	C3
SK40	13c, 13d	×	○	×	285	263	20	円形	皿形	2.5Y3/1 シルト。粘土混。	SK40 の時点では掘りきれず残った部分が最終掘削でSK484と確認され掘削された。	C1
SK41	13d	×	○	×	80	70	20	隅丸方形	箱形	右層: 2.5Y3/2 シルト。中粒砂混。地山ブロック混。左層: 10YR5/4 細粒砂。	SK35 に切られる。SA03 柱穴。	B4?
SK42	13f	×	×	×	100	41	10	隅丸長方形	碗形	2.5Y6/3 細粒砂。粘土混。炭化物混。		?
SK43	11e	○	×	×	242	142	20	不整形長方形	皿形	10YR3/1 細粒砂。粘土混。炭化物若干混。	SK24, SK16 に切られている。	C1
SK44	10f, 11f	○	○	×	125	42	30	長方形	箱形	10YR4/2 粘土。細粒砂含む。	SK28 の下から出現。SA03 柱穴。	B3
SK45	13e	×	×	×	62	58	4	円形	皿形	7.5YR5/4 粘土。細粒砂混。	根石のあつまり。SK38 を切っている。	C4?
SK46	13e	×	×	×	61	58	12	円形	皿形	7.5YR5/4	SK38 を切っている。礫石の集まり。	C4?
SK47	11g, 11h, 12h	×	○	○	(613)	(179)	52	—	皿形	図面に記入	SK01 を切る遺構。	C3
SK48	11f	○	○	×	81	61	23	隅丸方形	皿形	7.5Y4/1 細粒砂。粘土混。	SA03 柱穴。	C1
SK49	13a, 13b	×	○	×	127	126	185	円形	碗形	図面に記入	素掘り井戸。	C2
SK50	13f	×	×	×	298	171	18	方形	箱形	10YR3/3 シルト。粘土混。	SK38 に切られている。	C2
SK51	13d	×	○	×	181	(22)	15	—	碗形	5Y6/1 粘土。	SK40 を切っている。	C2?

名古屋城三の丸遺跡 VII

遺構番号	グリッド	1面	2面	3面	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	プラン	断面形	埋土	備考	時期
SK52	13e	×	×	×	—	—	—	—	—	斑土 5YR3/1 細粒砂。粘土混。粘土ブロック 2.5Y7/4 粘土。	SD22 を部分的に掘ったもの。	?
SK53	8d	○	×	×	65	50	9	楕円形	碗形	10YR6/1 細粒砂。		C
SK54	8d	○	×	×	104	100	11	円形	皿形	7.5YR4/2 細粒砂。粘土	SK58 を切っている。	C
SK55	8d	○	○	×	80	71	45	円形	碗形	上層：10YR5/2 細粒砂。 下層：N3/ 粘土。	根石有り。SB25 柱穴。	D2
SK56	8d, 8e	○	○	×	113	96	56	楕円形	逆台形	10YR3/2 中粒砂。粘土混。		D2
SK57	8d	○	○	×	96	90	39	変形四角形	逆台形	2.5Y4/2 細粒砂。地山ブロック混。	SB24 柱穴。	C3
SK58	11b, 11c	○	×	×	134	66	—	不整形	—	—		?
SK59	8d	○	○	×	121	101	70	方形	逆台形	2.5Y4/2 細粒砂。地山ブロック混。	SA08 柱穴。	C1
SK60	10c, 10d	○	×	×	514	220	19	長方形	皿形	10YR5/1 細粒砂。粘土混。鉄分混。焼土少量混。	瓦留り	C3
SK61	8d	×	×	×	25	24	5	円形	碗形	2.5Y5/2 粘土。細粒砂混。		A5
SK62	8d	×	×	×	38	37	10	円形	碗形	10YR4/1 細粒砂。粘土混。		C3
SK63	11g, 11h	×	○	○	281	(117)	215	楕円形	図面に記入	図面に記入	調査区外へ北へ伸びる。	C3, 4
SK64	9d, 10d	○	×	×	147	130	21	方形	碗形	5Y5/1 細粒砂。粘土混。		C3
SK65	10c	○	×	×	56	55	22	円形	逆台形	10YR4/3 中粒砂。	SK60 に切られている。礎石らしき石有り。	C2?
SK66	8d	○	○	×	72	63	31	円形	碗形	2.5Y6/2 細粒砂。	SX03 を切っている	D2
SK67	11g	×	○	○	241	225	64	台形	図面に記入	図面に記入	調査区外へ北へ伸びる。	C3
SK68	9d	○	○	×	66	58	45	楕円形	碗形	図面に記入	SX03 を切っている	D2
SK69	10d	○	○	×	76	67	40	楕円形	図面に記入	図面に記入	SX03 を切っている	D2
SK70	8d, 9d, 8e, 9e	×	×	×	—	—	—	—	—	—		D3
SK71	9d	○	○	×	59	60	41	円形	碗形	図面に記入	SA04 柱穴。	B3
SK72	8d	○	○	×	50	(44)	24	楕円形	碗形	5YR6/1 シルト。細粒砂混。	SK73 の補助土坑。	C1
SK73	8d	○	○	×	125	113	7	不整形	箱形	10YR4/1 細粒砂。シルト混。	SA08 柱穴。	C1
SK74	9d, 9e	○	×	×	107	74	7	楕円形	皿形	10YR4/2 シルト。粘土混。		C1
SK75	8e	○	○	×	124	114	23	楕円形	碗形	10YR3/1 粘土。細粒砂混。地山ブロック混。	SA08 柱穴。	C1
SK76	9d	○	×	×	97	75	2	楕円形	皿形	10Y4/1 シルト。		B3
SK77	11f	○	○	×	75	74	16	楕円形	碗形	10YR4/2 細粒砂。粘土混。焼土若干混。	SD11 を切る。SB21 柱穴。	C3
SK78	11f, 11g, 12g	○	○	×	150	182	9	楕円形	皿形	10YR4/2 細粒砂。粘土混。	SK85 が切る。	B1
SK79	12f, 12g	○	○	×	168	160	25	円形	碗形	10YR4/2 細粒砂。粘土混。		B3
SK80	12g	×	○	×	90	80	15	不整形	V字形	10YR5/2 細粒砂。粘土混。		B2
SK81	12g	×	○	×	102	101	9	円形	皿形	7.5YR3/2 細粒砂。炭化物少量混。		B1
SK82	12g, 12h	×	○	×	107	89	20	楕円形	碗形	2.5Y4/1 細粒砂。粘土混。黒色土ブロック若干入る。		C3
SK83	12h	×	×	×	20	20	12	円形	箱形	10YR5/2 細粒砂。粘土混。		?
SK84	12h	×	×	×	30	27	12	楕円形	箱形	10YR3/1 粘土。細粒砂。		?
SK85	11g, 12g	×	○	×	150	140	14	楕円形	碗形	10YR3/1 粘土。細粒砂混。炭化物混。	SK67 に切られる。SK78 を切る。	B1
SK86	10e	×	×	×	56	42	4	方形	皿形	2.5Y4/1 細粒砂。粘土混。炭化物若干混。	SK94 を切る。	C4
SK87	10e	×	×	×	68	39	7	楕円形	皿形		SK94 を切る。	C4
SK88	10d, 10e	○	×	×	184	144	26	隅丸方形	碗形	2.5Y5/1 細粒砂。粘土混。炭化物少量混。		C3
SK89	11d	×	×	×	71	56	5	隅丸三角形	皿形	10YR6/2 細粒砂。		?
SK90	11d, 11e	○	×	×	45	43	13	円形	碗形	10YR3/2 細粒砂。粘土混。		C1
SK91	11e	○	×	×	30	25	13	楕円形	碗形	10YR2/2 細粒砂。粘土混。		C
SK92	11e	○	×	×	39	36	12	円形	碗形	2.5Y4/1 中粒砂。粘土混。	SD11 を切っている。	C3, 4
SK93	12e	○	×	×	54	51	17	円形	箱形	2.5Y3/1 極細粒砂。粘土混。	陶器埋納。	C3
SK94	9d, 9e, 10d, 10e	○	○	×	287	279	165	正方形	箱形	図面に記入	地下室。	C3
SK95	11e	○	×	×	66	63	47	円形	碗形	2.5Y6/2 細粒砂。粘土混。	近代遺物出土。SA09 柱穴。	C4
SK96	11b, 11c	○	×	×	146	78	70	方形	箱形	5YR3/1 粘土。細粒砂含む。	埋納遺構。	D2
SK97	11b	○	×	×	68	60	21	楕円形	箱形	10YR4/1 細粒砂。粘土混。	SK123 を切る。	C1, 2
SK98	11b	○	×	×	70	65	23	円形	碗形	10YR6/6 粘土。		?
SK99	11b, 11c, 12b, 12c	○	×	×	206	149	15	楕円形	皿形	10YR3/1 粘土。細粒砂混。地山ブロック混。炭化物わずかに混。		C3
SK100	9c, 9d	○	○	○	190	94	25	長方形	箱形	上層：2.5Y5/3 粘土。下層：N4/ 粘土。	SX0 2 を切っている。地下室。	C4
SK101	11d, 11e	○	×	×	95	62	31	楕円形	碗形	2.5Y5/2 細粒砂。粘土混。		D2
SK102	11c	○	×	×	70	68	5	円形	皿形	10YR5/2 細粒砂。シルト混。	集石遺構。	C3
SK103	11b	×	×	×	72	65	17	楕円形	碗形	10YR6/4		?
SK104	11b	○	×	×	65	(39)	25	楕円形	碗形	2.5Y4/2 細粒砂。粘土混。	南を SK96 に切られる。SA09 柱穴。	C4
SK105	11c, 11d	○	×	×	147	98	16	楕円形	皿形	5Y6/2 細粒砂。シルト・粘土混。		C1
SK106	12c	○	×	×	114	70	33	長方形	箱形	10YR5/3 細粒砂。粘土混。長径 5cm 程の礫が少量混。炭化物若干混。	SD15 の一部	C3
SK107	10d	○	○	×	84	84	36	正方形	図面に記入	図面に記入	漆喰で囲われている。	D2
SK108	11d	○	×	×	40	33	3	楕円形	皿形	2.5Y4/1 細粒砂。粘土混。		?
SK109	11d, 12d	○	×	×	30	25	2	楕円形	皿形	2.5Y4/1		?
SK110	11d	○	×	×	65	53	3	隅丸方形	皿形	10YR3/2 細粒砂。炭化物わずかに混。焼土わずかに混。シルト混。		?
SK111	10e	×	×	×	69	53	18	長方形	箱形	2.5Y4/2 細粒砂。粘土混。炭化物若干混。		B3
SK112	11c	○	×	×	32	31	3	円形	皿形	10YR5/3 細粒砂。シルト混。炭化物少量混。		C1
SK113	11c	○	×	×	56	45	25	楕円形	箱形	10YR4/1 細粒砂。粘土混。	溝を切っている。	C2
SK114	10c	○	○	○	160	150	80	円形	箱形	2.5Y4/1 細粒砂。粘土混。炭化物若干含む。	漆喰状円形遺構、井戸。	D2
SK115	9e, 10e	○	×	×	38	34	8	長方形	箱形	10YR5/2 細粒砂。	木枠が残る。	D
SK116	11d	×	×	×	62	53	16	楕円形	碗形	7.5YR3/1 粘土。細粒砂含む。	SK117 を切っている。	C3
SK117	11d	○	×	×	140	130	9	隅丸方形	皿形	10YR7/2 シルト。	SK116 に切られる。	C3
SK118	11c	○	×	×	34	33	9	円形	碗形	10YR5/4 細粒砂。シルト混。		?
SK119	11c	○	×	×	51	49	3	円形	皿形	10YR7/1 シルト。	SA09 柱穴。	C4
SK120	11b	○	×	×	33	32	28	円形	碗形	10YR6/3 細粒砂。シルト混。	砂岩の栗石含む。	?
SK121	11a	○	×	×	98	80	28	楕円形	碗形	5Y5/1 細粒砂。炭化物を少量含む。	SA06 柱穴。	C1

遺構一覧表

遺構番号	グリッド	1面	2面	3面	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	プラン	断面形	埋土	備考	時期
SK122	11a	○	×	×	59	49	9	楕円形	箱形	2.5Y4/1 細粒砂。粘土混。漆喰わずかに混。	SA06 柱穴。	C1
SK123	11a	○	×	×	82	77	9	扇形	皿形	2.5Y6/3 粘土。		B4
SK124	8d, 9d	○	○	×	61	(55)	53	楕円形	碗形	2.5Y7/1 シルト。鉄分若干含む。	SK59 に切られる。SK59 補助。	B3
SK125	11a, 12a	○	○	×	94	72	24	楕円形	碗形	2.5Y6/2 細粒砂。地山ブロック若干含む。	SK23 に切られる。SA06 柱穴。	C1
SK126	8e	○	×	×	(59)	50	12	楕円形	箱形	10YR4/2 細粒砂。粘土混。	北側調査区外に伸びる。	B2
SK127	10d, 11d	○	×	×	170	130	16	不整形	皿形	2.5Y5/1 細粒砂。粘土混。炭化物少量混。鉄分少量混。		C2
SK128	10e	○	×	×	172	(53)	11	不整形	皿形	2.5Y4/2 粘土。細粒砂混。	東トレンチに切られる。	C1, 2
SK129	11d	○	×	×	293	280	17	不整形	皿形	2.5Y6/1 細粒砂。シルト混。		C1, 2
SK130	10d	○	×	×	24	22	5	円形	皿形	10YR5/2 細粒砂。シルト混。		?
SK131	11d	○	×	×	60	52	12	楕円形	碗形	2.5Y6/2 シルト。	SK129 を切っている。SA09 柱穴。	C4
SK132	11b	○	×	×	114	(104)	15	円形	碗形	上層：5YR3/2 粘土。下層：2.5Y6/1 細粒砂。粘土混。	SD13、SD12 に切られている。	C3
SK133	11c	○	×	×	110	80	4	不整形	碗形	2.5Y6/2 細粒砂。	SD14 に切られている。	C
SK134	11c	○	×	×	161	109	13	楕円形	皿形	上層：5YR3/2 粘土。下層：10YR5/1 細粒砂。粘土混。炭化物少量混。		C3
SK135	11c, 11d	○	×	×	107	104	9	円形	皿形	左層：7.5Y5/4 粘土。右層：5YR3/1 細粒砂。粘土混。炭化物少量混。		C3
SK136	11d	○	×	×	93	53	7	楕円形	皿形	2.5Y6/1 粘土。細粒砂混。	SK127 に切られている。	C3
SK137	11c	○	×	×	32	25	5	円形	皿形	2.5Y 4/1 粘土。細粒砂混。		C
SK138	10e	○	×	×	48	37	11	円形	皿形	2.5Y5/2 細粒砂。粘土混。炭化物多く含む。	SK128 に切られている。	C1
SK139	8e, 9e	○	○	×	113	73	41	菱形	箱形	10YR4/1 細粒砂。粘土混。	SB24 柱穴。	C3
SK140	10c	○	○	×	52	48	13	円形	碗形	2.5Y4/1 細粒砂。シルト混。	SK141、SK140、SK65 と同類の可能性。	C2
SK141	10c	○	×	×	49	47	14	円形	碗形	2.5Y4/1 細粒砂。シルト混。	根石有り。	C2
SK142	10a	○	○	×	111	99	66	円形	図面に記入	2.5Y4/2 粘土。細粒砂含む。地山ブロック含む。	根石有り。	D1
SK143	10a	○	×	×	105	98	4	方形	皿形	未注記	西側が SK23 によって切られる。SA06 柱穴。	C1
SK144	10j	×	○	×	88	86	—	円形	図面に記入	図面に記入	SK145 の桶内。	C1
SK145	10i, 10j, 11i, 11j	×	○	×	(187)	(93)	214	円形	図面に記入	図面に記入	SK01A に切られる。埋桶。	C1
SK146	10j, 11j	×	○	○	343	268	470	楕円形	碗形	図面に記入	井戸。	B3
SK147	11i, 11j, 12i, 12j	×	×	○	391	371	(424)	円形	図面に記入	図面に記入	井戸。	B3
SK148	12h	×	×	×	81	62	4	楕円形	皿形	2.5Y5/2 細粒砂。シルト混。黄色土粒混。		C3
SK149	12j	×	○	×	(36)	(25)	38	楕円形	碗形	既完掘のため未注記		?
SK150	12j	×	○	×	(32)	(29)	16	円形	碗形	既完掘のため未注記	SB15 柱穴。	B1
SK151	13j	×	○	×	22	19	10	円形	碗形	7.5Y2/1 細粒砂。粘土混。	SB15 柱穴。	B1
SK152	13j	×	○	×	28	25	5	円形	碗形	7.5Y4/1 細粒砂。粘土混。焼土若干混。	SB15 柱穴。	B1
SK153	13i	×	○	×	69	(49)	9	不整形	皿形	10YR3/2 細粒砂。粘土混。		?
SK154	12i, 13i	×	○	×	119	69	13	不整形	皿形	5YR4/1 細粒砂。粘土混。		?
SK155	12h, 12i, 13h, 13i	×	○	×	323	311	58	楕円形	皿形	10YR3/2 細粒砂。粘土混。		B3
SK156	10d, 11d	×	○	×	315	299	12	正方形	皿形	図面に記入		C2
SK157	11e	×	○	×	133	105	7	楕円形	皿形	10YR4/2 シルト。極細粒砂混。		B3, 4
SK158	11e	×	×	×	150	63	4	楕円形	皿形	10YR3/2 細粒砂。シルト混。	SK166 を切る。	C1
SK159	11f	×	○	×	153	49	8	楕円形	皿形	10YR5/2 中粒砂。粘土混。		C4
SK160	12f	×	○	×	46	33	9	楕円形	碗形	10YR4/2 中粒砂。粘土混。炭化物少量混。		A4, 5
SK161	11e	×	○	×	58	57	16	円形	碗形			C1
SK162	12b, 12c, 13b, 13c	×	○	×	124	124	67	円形	碗形	図面に記入	SK163 の影響による。SD01 の落ち込み。	C1, 2
SK163	12b, 12c, 13b, 13c	×	○	×	294	292	(41)	楕円形	不正箱形	図面に記入	井戸。	C1, 2
SK164	12g	×	×	×	84	50	16	隅丸方形	箱形	2.5Y4/1 細粒砂。粘土混。		B4
SK165	13g	×	○	×	63	59	19	円形	碗形	2.5Y4/2 中粒砂。粘土混。鉄分混。		C
SK166	11e	×	○	×	229	177	3	方形	箱形	2.5Y4/2 粘土。中粒砂混。		C1, 2
SK167	13g	×	×	×	30	29	8	楕円形	箱形	10YR3/2 細粒砂。粘土混。		A5
SK168	13g	×	×	×	31	31	9	円形	碗形	7.5YR3/2 粘土。中粒砂混。		?
SK169	13g	×	×	×	31	25	13	円形	箱形	10YR4/2 中粒砂。シルト混。白色粘土混。		B1
SK170	13e	×	×	×	—	—	—	—	—	—	欠番	—
SK171	11e	×	○	×	59	57	13	円形	皿形	2.5Y4/2 シルト。細粒砂混。		C1
SK172	11e	×	○	×	86	23	11	楕円形	皿形	2.5Y4/4 極細粒砂。黒色土ブロック混。		?
SK173	11e	×	○	×	31	27	8	円形	碗形	10YR2/2 細粒砂。粘土混。		A
SK174	8d	×	○	×	38	38	7	円形	碗形	10YR3/3 極細粒砂。シルト混。焼土混。	SB24 柱穴。	C3
SK175	9d	×	○	×	63	53	8	不整形	皿形	10YR4/1 細粒砂。シルト混。		B
SK176	9d	×	○	×	46	42	5	隅丸方形	皿形	2.5Y4/1 細粒砂。シルト混。		?
SK177	9d	×	○	×	36	35	12	円形	碗形	2.5Y4/2 細粒砂。粘土混。黄色粘土粒混。炭化物少量混。		B3
SK178	9d	×	○	×	38	35	10	円形	碗形	10YR4/2 細粒砂。粘土混。焼土少量混。		?
SK179	9d	×	○	×	58	23	42	楕円形	碗形	10YR5/1 細粒砂。シルト混。焼土混。		C3
SK180	9d	×	○	×	46	39	9	楕円形	皿形	10YR2/3 細粒砂。粘土混。焼土わずかに混。		A5
SK181	10d	×	○	×	109	29	2	楕円形	皿形	10YR3/2 細粒砂。粘土混。炭化物わずかに混。		B1
SK182	10d	×	○	×	50	32	25	楕円形	碗形	10YR3/2 細粒砂。粘土やや多く混。		A
SK183	10d	×	○	×	32	30	13	円形	碗形	10YR3/3 細粒砂。粘土少し混。		A
SK184	10d	×	×	×	46	43	4	円形	皿形	10YR4/2 細粒砂。粘土少し混。		C
SK185	12f, 13f	×	○	×	489	235	183	隅丸長方形	碗形	図面に記入	地下室状遺構。	C1
SK186	11c	×	○	×	123	78	8	隅丸方形	皿形	7.5YR3/2 細粒砂。粘土やや多く混。		B2

名古屋城三の丸遺跡 VII

遺構番号	グリッド	1面	2面	3面	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	プラン	断面形	埋土	備考	時期
SK187	11c	×	○	×	95	65	3	楕円形	皿形	10YR4/3 細粒砂。粘土少し混。		A
SK188	11c	×	○	×	68	45	40	楕円形	皿形	7.5YR3/2 細粒砂。粘土やや多く混。		A5
SK189	11d	×	○	×	90	86	11	不整形	皿形	10YR3/2 細粒砂。粘土多く混。		C
SK190	10d	×	×	×	—	—	—	—	—	—	極浅く痕跡のみ。遺構とせず。欠番	—
SK191	12f	×	○	×	82	41	10	楕円形	碗形	10YR3/2 細粒砂。粘土混。	SB20 柱穴。	B3
SK192	12f	×	○	×	85	41	52	楕円形	箱形	図面に記入	SA03 柱穴。	B3
SK193	12f	×	○	×	70	58	73	円形	V字形	図面に記入	SB20 柱穴。	B3
SK194	13f	×	×	×	70	39	19	楕円形	碗形	10YR3/1 粘土。シルト混。焼土、漆喰少し混。		B1
SK195	10d	×	○	×	170	42	11	楕円形	皿形	7.5YR3/2 細粒砂。粘土、漆喰少し混。焼土微量混。		B1
SK196	10d	×	○	×	70	65	14	円形	皿形	10YR4/2 細粒砂。粘土少量混。	SA04 柱穴。	B3
SK197	—	×	×	×	—	—	—	—	—	—	欠番。	—
SK198	13f, 13g	×	○	×	98	56	7	隅丸長方形	皿形	既完掘のため未注記	布堀りか?	B4
SK199	12g, 13f, 13g	×	○	×	73	59	4	楕円形	皿形	既完掘のため未注記		B1
SK200	13f	×	○	×	70	41	7	楕円形	皿形	10YR4/2 極細粒砂。粘土混。		A5
SK201	13f	×	○	×	62	43	54	楕円形	碗形	10YR2/2 細粒砂。粘土混。中粒砂少し混。		A4, 5
SK202	13d, 13e	×	○	×	108	103	(289)	円形	図面に記入	図面に記入	井戸。	C1, 2
SK203	12d, 12e	×	○	×	227	196	(264)	楕円形	図面に記入	図面に記入	井戸。	B3
SK204	12d	×	○	×	67	25	50	楕円形	碗形	2.5Y3/2 中粒砂。シルト、粘土混。黄色土粒混。	SB21 柱穴。	C3
SK205	12d	×	○	×	52	40	2	楕円形	皿形	10YR4/2 細粒砂。粘土やや多く混。		A
SK206	12d	×	○	×	58	34	16	楕円形	碗形	10YR3/3 細粒砂。粘土少し混。		C1, 2
SK207	12c	×	○	×	52	56	8	円形	皿形	2.5Y3/2 極細粒砂。粘土やや多く混。		—
SK208	12d	×	○	×	22	21	1	不整形	皿形	10YR4/3 細粒砂。粘土若干混。		—
SK209	12d	×	○	×	34	32	5	不整形	皿形	10YR3/2 極細粒砂。		—
SK210	13f	×	○	×	89	49	90	楕円形	V字形	図面に記入	SB20 柱穴。	B3
SK211	13f	×	○	×	103	58	25	楕円形	碗形	図面に記入	SB20 柱穴。	B3
SK212	9d, 10d	×	○	×	130	103	20	不整形	皿形	10YR4/2 細粒砂。粘土混。黄色土粒。焼土少し混。		B3
SK213	10d	×	○	×	58	55	15	円形	皿形	10YR3/2 細粒砂。粘土多く混。焼土少し混。		B3
SK214	10d	×	○	×	48	45	7	円形	碗形	10YR3/3 細粒砂。粘土混。	SA04 柱穴。	B3
SK215	10d, 10e	×	○	×	155	105	35	不整形長方形	皿形	10YR3/2 細粒砂。粘土、黄色土粒混。		B3
SK216	12c, 12d	×	○	×	262	10	6	細長い円形	皿形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、炭化物少し混。	途切れている	C1
SK217	11e, 11f	×	○	×	25	22	11	円形	碗形	既完掘のため未注記		B2
SK218	10d	×	○	×	145	45	25	楕円形	皿形	10YR4/2 極細粒砂。粘土、焼土と黄色土粒少し混。		—
SK219	10d	×	○	×	210	23	10	不整形	皿形	10YR3/2 細粒砂。		B4
SK220	12d	×	○	×	120	67	19	長方形	皿形	2.5Y4/2 極細粒砂。粘土少し混。		—
SK221	12d, 12e, 13d, 13e	×	○	×	110	(91)	50	円形	碗形	10YR4/1 細粒砂。シルト混。		B4
SK222	13d, 13e	×	○	×	289	112	110	楕円形	碗形	10YR2/3 細粒砂。粘土混。	SK202 に切られている。SD17 (SD25) が L 字型に屈曲した部分を SK222 としていた。	B3
SK223	13a	×	○	×	220	105	30	長方形	皿形	2.5Y5/2 中粒砂。粘土、細粒砂混。		C1
SK224	13a	×	○	×	290	290	23	長方形	皿形	10Y4/2 中粒砂。粘土少し混。炭化物、焼土、黄色土粒少し混。		C2
SK225	13d	×	○	×	108	47	14	長方形	箱形	10Y4/2 既完掘 細粒砂。中粒砂。細粒砂混。	SD01 の石と同石材質。SD01 の落ち込み部分か?	C3
SK226	13b, 13c	×	○	×	382	355	43	円形	碗形	2.5Y4/1 細粒砂 粘土混。	SD12、SK103、SK163 に切られる。井戸。下層は SK310	B1
SK227	10e	×	○	×	95	72	16	楕円形	碗形	既完掘のため未注記	西を SK215 と切り合う。	B2
SK228	12e, 13e	×	○	×	88	85	27	円形	碗形	7.5YR4/3 細粒砂。粘土混。中粒砂混。炭化物少し混。	木桶に石が大量に入る。SD01 とは石材が異なる河原石などが存在。下位を SK526 とした。	B3
SK229	13f	×	○	×	(48)	(44)	46	楕円形	碗形	既完掘のため未注記	SD17 及び SD27 と切り合う。SA03 柱穴。	B3
SK230	12a	×	○	×	95	70	21	台形	皿形	10YR4/2 細粒砂。白色シルトブロック、炭化物多く混。	SD03 に切られている。	—
SK231	12f	×	○	×	46	39	10	楕円形	碗形	10YR3/1 粘土。シルト混。焼土少し混。		B3
SK232	13f	×	○	×	88	54	41	楕円形	皿形	10YR3/2 細粒砂。粘土、シルト混。焼土若干混。	SA03 柱穴。	B3
SK233	13e	×	○	×	48	46	22	円形	碗形	既完掘のため未注記		—
SK234	13f	×	○	×	89	49	54	楕円形	V字形	図面に記入	SA03 柱穴。	B3
SK235	11e, 12e	×	○	×	303	263	41	円形	皿形	10YR3/2 細粒砂。粘土、シルト混。焼土若干混。	西に漆喰状のかたまり有り。	B3?
SK236	12d	×	×	×	40	50	11	円形	皿形	10YR4/2 細粒砂。粘土少し混。白色シルトブロック混。		B
SK237	12f	×	○	×	71	49	48	楕円形	碗形	図面に記入	SA03 柱穴。	B3
SK238	11f	×	○	×	68	38	48	楕円形	碗形	図面に記入	SA03 柱穴。	B3
SK239	12f	×	○	×	70	36	38	楕円形	碗形	図面に記入	SA03 柱穴。	B3
SK240	11d, 11e, 12d, 12e	×	○	×	307	203	32	隅丸長方形	皿形	7.5YR3/2 極細粒砂。黄色土粒多く混。		B3
SK241	13b	×	○	×	50	49	58	円形	碗形	5Y4/1 粘土。細粒砂、白色シルトブロック混。	SA07 柱穴。	C2
SK242	13b	×	○	×	62	52	62	楕円形	碗形	5Y4/1 粘土。細粒砂、白色シルトブロック混。	SA07 柱穴。	C2
SK243	13b	×	○	×	58	55	78	円形	碗形	5Y4/1 粘土。細粒砂、白色シルトブロック混。	SA07 柱穴。	C2
SK244	13b	×	○	×	48	46	31	円形	碗形	7.5YR4/1 焼土。細粒砂混。酸化鉄分多く混。	SA07 柱穴。	C2
SK245	11b, 11c	×	○	×	80	50	14	方形	箱形	10YR4/2 中粒砂。粘土混。		A
SK246	11b, 11c	×	○	×	59	34	9	楕円形	碗形	10YR3/3 細粒砂。粘土混。	SK245 に切られる。	B
SK247	10b, 10c	×	○	×	58	30	5	不整形	皿形	10YR4/2 細粒砂。黄色シルト、粘土混。		C1
SK248	11c	×	×	×	54	45	4	円形	皿形	10YR4/2 細粒砂。粘土、焼土少し混。		A5



遺構一覧表

遺構番号	グリッド	1面	2面	3面	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	プラン	断面形	埋土	備考	時期
SK249	10c	×	○	×	299	97	8	不整形	皿形	10YR4/2 細粒砂。粘土、焼土少し混。黄色シルトブロック混。		D
SK250	11c, 11d	×	○	×	115	67	20	楕円形	碗形	10YR3/3 極細粒砂。粘土、黄色土粒混。		B1
SK251	11c, 11d	×	○	×	50	250	14	楕円形	皿形	10YR5/3 細粒砂。		B1
SK252	13f	×	×	×	30	20	3	楕円形	—	既完掘のため未注記	SD24・SD27 が交差する場所に存在。	B1
SK253	12h	×	○	×	111	80	24	長方形	皿形	7.5YR3/2 細粒砂。粘土混。		B1
SK254	12g, 12h, 13g, 13h	×	○	×	168	100	20	不整形楕円形	皿形	10YR3/3 細粒砂。粘土、黄色土粒混。		B1
SK255	11d	×	○	×	69	25	11	楕円形	皿形	10YR4/3 細粒砂。		B3
SK256	11d	×	○	×	162	112	20	隅丸長方形	皿形	10YR4/2 極細粒砂。シルト少し混。	SB21 柱穴。	C3
SK257	13f	×	○	×	73	29	10	楕円形	皿形	10YR2/1 シルト。粘土、細粒砂、黄色土粒混。		B3
SK258	10c	×	○	×	162	109	12	不整形	皿形	10YR5/3 細粒砂。粘土混。	SX02 に切られる。	A5
SK259	13d	×	○	×	55	38	13	隅丸長方形	皿形	10YR4/2 細粒砂。焼土混。白色シルトブロック少し混。	SB21 柱穴。	C3
SK260	11b	×	○	×	115	100	19	楕円形	皿形	10YR5/2 シルト。粘土混。		C4
SK261	11b	×	×	×	28	21	6	楕円形	碗形	10YR6/1 中粒砂。細粒砂混。	SD31 を切っている。	C
SK262	10c, 11c	×	○	×	260	179	22	不整形	箱形	図面に記入	SD14 上の瓦溜を SK262 とした。	C4
SK263	12h	×	○	×	67	42	14	楕円形	碗形	10YR3/1 シルト。粘土混。		B2
SK264	12h	×	○	×	75	53	18	楕円形	皿形	10YR4/2 細粒砂。粘土少し混。黄色シルト混。		A5
SK265	11a	×	○	×	40	20	4	楕円形	皿形	7.5YR3/2 細粒砂。黄色土粒、白色シルト混。		—
SK266	11a	×	○	×	63	48	11	楕円形	皿形	10YR4/2 細粒砂。		A1
SK267	10c	×	○	×	87	60	26	長方形	皿形	10YR4/2 細粒砂。粘土、焼土、黄色土混。炭化物少し混。		B3
SK268	11a	×	○	×	49	43	6	楕円形	皿形	10YR3/2 中粒砂。粘土、細粒砂混。		—
SK269	11a	×	○	×	69	38	2	楕円形	皿形	10YR4/1 細粒砂。シルト混。		B1
SK270	10c	×	○	×	43	30	11	楕円形	皿形	10YR2/1 極細粒砂。粘土混。	SX02 内のピット。SX02 最終段階で掘削。	C3
SK271	10c	×	○	×	125	57	14	不整形	皿形	10YR3/1 細粒砂。粘土混。		C1, 2
SK272	11g, 12g	×	×	○	185	98	8	楕円形	皿形	10YR3/1 極細粒砂。粘土混。焼土多く混。		A3
SK273	12h	×	×	○	178	157	2	不整形楕円形	箱形	10YR2/1 極細粒砂。粘土混。焼土、炭化物若干混。	SK47 に切られる。	C1, 2
SK274	11g	×	×	○	31	25	6	楕円形	皿形	10YR5/2 細粒砂。炭化物を少量含む。		—
SK275	11g	×	×	○	38	36	10	楕円形	碗形	斑土 (10YR3/1 + 10YR6/6) 細粒砂。粘土。		B3
SK276	11g	×	×	×	20	20	2	楕円形	皿形	10YR3/2 細粒砂。粘土混。		B1
SK277	12f	×	×	○	50	42	6	楕円形	皿形	10YR3/1 粘土質シルト。	SB18 柱穴。	B4
SK278	12g	×	×	○	76	62	9	方形	皿形	10YR3/1 粘質シルト。地山の斑土、細粒砂含む。		A
SK279	12f	×	×	○	44	37	7	楕円形	皿形	10YR2/1 粘質シルト。炭化物、焼土若干含む。		A
SK280	12f	×	×	○	40	35	3	楕円形	皿形	10YR3/2 粘土質シルト。炭化物、焼土若干含む。		—
SK281	12f	×	×	○	34	28	5	楕円形	皿形	10YR3/2 粘土質シルト。焼土若干含む。		A
SK282	11f	×	×	○	43	33	4	楕円形	皿形	10YR3/3 粘土質シルト。	SB18 柱穴、SK515 と同一か？	B4
SK283	11f	×	×	○	18	16	12	楕円形	碗形	10YR3/2 粘土質シルト。炭化物、焼土若干含む。		B
SK284	11f	×	×	○	18	16	5	楕円形	皿形	10YR2/2 粘土質シルト		A
SK285	12g	×	×	×	50	50	9	方形	皿形	10YR4/2 細粒砂。粘土。	南に伸びる可能性有り。SA05 柱穴。	B4
SK286	11g	×	×	○	68	67	13	楕円形	皿形	10YR2/1 細粒砂。粘土混。黄色土粒若干混。	北は調査区外へ。東は SK67 に切られている。	A
SK287	11f	×	×	○	75	52	49	楕円形	碗形	図面に記入	SA03 柱穴。	B3
SK288	8e	×	×	○	40	35	6	円形	皿形	2.5Y4/1 細粒砂。粘土混。		—
SK289	8d	×	×	×	41	20	21	円形	V字形	N51 細粒砂。炭化物を若干含む。	SK73 に切られる。	B3
SK290	8d	×	×	○	(34)	24	28	楕円形	図面に記入	図面に記入	調査区外へ北に伸びる。SB19 柱穴。	B3
SK291	8d, 8e	×	×	○	121	40	44	不整形	碗形	図面に記入	調査区外へ北に伸びる。	B2
SK292	12h	×	×	○	24	23	23	円形	碗形	10YR4/3 極細粒砂。粘土混。若干焼土を含む。		A
SK293	8d	×	×	○	31	30	36	円形	碗形	10YR2/1 細粒砂。黄色ブロック混。		A
SK294	8d	×	×	○	28	23	10	円形	碗形	2.5Y3/1 細粒砂。粘土混。		—
SK295	8d	×	×	○	28	27	13	円形	碗形	2.5Y4/1 極細粒砂。粘土混。		A
SK296	8d, 8e	×	×	○	130	130	47	隅丸方形	箱形	7.5Y3/2 細粒砂。粘土混。焼土少量混。	SK291 と切り合っている。	B3
SK297	8d	×	×	○	120	53	11	長方形	箱形	2.5Y4/2 極細粒砂。粘土混。	SB19 柱穴、SK59 と同一か？	B3
SK298	8d, 8e	×	×	○	205	95	93	正方形	箱形	10YR3/2 細粒砂。粘土混。炭化物、焼土少量混。	SB19 柱穴。	B3
SK299	9d	×	×	○	70	46	6	楕円形	皿形	7.5Y2/2 極細粒砂。粘土混。		A5
SK300	9d	×	×	○	60	45	7	楕円形	皿形	10YR3/2 細粒砂。粘土、焼土混。		B3
SK301	9d	×	×	○	62	50	1	不整形	皿形	—	欠番。	—
SK302	8d	×	×	○	61	57	16	円形	皿形	既完掘のため未注記		B1
SK303	8e, 9e	×	×	○	295	(80)	37	不整形	図面に記入	図面に記入	SK139 の残部の可能性あり。SK527 に切られる	B3
SK304	9d	×	×	○	118	68	—	不整形	—	斑土 (N51 + 5Y3/1) 細粒砂。粘土。	池関連の遺構か？ SD570 と埋土は類似。	C3
SK305	9d	×	×	○	41	40	7	円形	碗形	10YR4/2 中粒砂。粘土混。		—
SK306	9d	×	×	○	36	34	3	円形	皿形	2.5Y4/1 極細粒砂。粘土混。		A
SK307	9d	×	×	○	26	25	9	円形	碗形	2.5Y5/2 極細粒砂。粘土混。		B3
SK308	8d, 9d	×	×	○	—	273	40	楕円形	皿形	図面に記入		A3
SK309	9d	×	×	○	46	40	22	不整形	V字形	10YR6/2 シルト。粗粒砂まじる。白色シルトブロック混。		C3
SK310	13b, 13c, 13d	×	○	○	298	259	278	不整形	図面に記入	図面に記入	SK226 が上層である。井戸。	B1
SK311	9d	×	×	○	60	31	5	長方形	皿形	10YR4/1 細粒砂。粘土混。		—
SK312	9d	×	×	×	29	27	8	円形	碗形	10YR4/1 細粒砂。粘土混。2cm 程の礫わずかに混。	SD36 を切っている。	B3

名古屋城三の丸遺跡 VII

遺構番号	グリッド	1面	2面	3面	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	プラン	断面形	埋土	備考	時期
SK313	10e	×	×	○	28	28	9	円形	碗形	10YR2/2 細粒砂。焼土わずかに混。黄色土粒混。		A
SK314	10e	×	×	○	52	40	7	楕円形	皿形	5Y2/2 細粒砂。粘土、焼土混。		A
SK315	10e	×	×	○	42	37	30	楕円形	碗形	10YR2/1 細粒砂。粘土、黄色土粒、焼土混。	SB10 柱穴。	A5
SK316	10e	×	×	○	43	34	12	楕円形	碗形	7.5YR3/1 極細粒砂。粘土、焼土混。炭化物わずかに混。	SB12 柱穴。	A5
SK317	10e	×	×	○	31	29	15	円形	碗形	10YR2/3 極細粒砂。粘土混。	SB12 柱穴。	A5
SK318	10e	×	×	○	35	21	12	楕円形	皿形	10YR2/3 極細粒砂。粘土混。黄色土粒わずかに混。	SB16 柱穴。	B1?
SK319	10e	×	×	○	29	23	33	楕円形	碗形	10YR2/3 極細粒砂。粘土混。黄色土粒わずかに混。	SB10 柱穴。	A5
SK320	10d	×	×	○	23	21	12	円形	碗形	10YR2/2 極細粒砂。粘土混。	SB16 柱穴。	B1?
SK321	10e	×	×	○	29	24	19	楕円形	碗形	10YR2/2 極細粒砂。粘土、黄色土粒混。		B3
SK322	10e	×	×	○	32	21	18	楕円形	碗形	10YR2/2 極細粒砂。粘土、黄色土粒混。	SB12 柱穴。	A5
SK323	10e	×	×	○	55	12	2	楕円形	皿形	10YR2/2 極細粒砂。粘土、黄色土粒、白色土粒混。		A
SK324	10d, 11d	×	×	○	212	82	—	長方形	—	7.5YR3/2 極細粒砂。粘土混。黄色土粒多く混。		B2
SK325	10e, 11e	×	×	○	259	60	—	楕円形	—	7.5YR3/2 極細粒砂。粘土混。黄色土粒多く混。		A5
SK326	11e	×	×	○	30	30	26	円形	碗形	10YR2/2 極細粒砂。粘土混。黄色土粒わずかに混。	SB16 柱穴。	B1?
SK327	10e	×	×	○	115	42	15	楕円形	皿形	10YR2/2 極細粒砂。粘土混。黄色土粒わずかに混。	SK94 にかかり半分は消えている	A3
SK328	10d	×	×	○	96	81	4	隅丸方形	皿形	10YR3/1 細粒砂。粘土混。		—
SK329	11e	×	×	○	61	61	42	円形	V字形	10YR3/1 細粒砂。粘土混。焼土、炭化物少量混。	SB10 柱穴。	A5
SK330	11d	×	×	○	147	86	53	長方形	図面に記入	図面に記入		B2
SK331	9d	×	×	○	—	—	—	—	—	—	SD35 に切られている。	A1
SK332	10d	×	×	○	99	36	17	長方形	不整形	10YR4/2 細粒砂。中粒砂、黄色土粒、白色シルト混。		B3
SK333	11e	×	×	○	57	45	9	楕円形	皿形	10YR4/2 細粒砂。粘土混。	SB10 柱穴。	A5
SK334	11e	×	×	○	48	46	6	円形	皿形	10YR4/2 極細粒砂。粘土混。黄色土粒わずかに混。	SB13 柱穴。	A3
SK335	11e	×	×	○	50	49	27	円形	碗形	10YR4/2 極細粒砂。粘土、黄色土ブロック混。	SB10 柱穴。	A5
SK336	11e	×	×	○	44	44	32	円形	碗形	10YR4/2 極細粒砂。粘土、黄色土ブロック混。	SB10 柱穴。	A5
SK337	11e	×	×	○	56	32	26	楕円形	碗形	10YR4/2 極細粒砂。粘土混。黄色土粒わずかに混。	SB10 柱穴。	A5
SK338	10e	×	×	×	120	101	14	楕円形	皿形	10YR4/2 極細粒砂。粘土、黄色土粒混。焼土わずかに混。		A3
SK339	11e	×	×	○	51	41	68	楕円形	碗形	10YR2/2 極細粒砂。粘土混。わずかに焼土混。	SB13 柱穴。	A2
SK340	10c	×	×	×	31	28	5	方形	皿形	10YR4/2 細粒砂。粘土、黄色土粒混。		—
SK341	9d, 10d	×	×	○	161	45	—	不整形	—	10YR4/1 細粒砂。炭化物、礫若干混。中粒砂混。	西側を SX 0 2 に切られている。	C1
SK342	11d	×	×	×	85	63	3	楕円形	皿形	10YR4/2 細粒砂。粘土、焼土混。		—
SK343	11c	×	×	○	42	36	19	楕円形	碗形	10YR4/2 極細粒砂。粘土混。焼土多く混。		A
SK344	9d	×	×	○	22	21	9	円形	碗形	10YR2/2 細粒砂。中粒砂、焼土混。		A
SK345	11c	×	×	○	160	65	11	楕円形	皿形	10YR4/2 極細粒砂。粘土、黄色土粒混。焼土わずかに混。		A5
SK346	11c	×	×	○	41	32	5	楕円形	皿形	10YR4/2 細粒砂。わずかに焼土混。		—
SK347	11c	×	×	○	97	59	10	楕円形	皿形	10YR4/2 極細粒砂。黄色シルトブロック混。	SB23 柱穴。	C1
SK348	11c	×	×	×	—	—	—	—	—	—	極浅く遺構とせず。欠番。	A
SK349	11e	×	×	○	61	34	13	楕円形	碗形	10YR4/2 細粒砂。黄色土粒わずかに混。		A
SK350	11e	×	×	○	76	44	21	楕円形	碗形	10YR4/2 細粒砂。黄色土粒わずかに混。	SB17 柱穴。	B3
SK351	11f	×	×	○	76	54	10	楕円形	皿形	10YR4/2 細粒砂。粘土、黄色土粒混。焼土多く混。		A
SK352	11f	×	×	○	53	41	9	楕円形	皿形	10YR4/3 細粒砂。粘土、焼土混。		A5
SK353	12d	×	×	○	88	54	—	不整形	—	—	掘り込みは確認できず。遺物集中範囲を遺構とした。	A2
SK354	9d	×	×	○	26	21	6	楕円形	皿形	10YR4/2 細粒砂。黄色土粒わずかに混。		—
SK355	11a	×	×	○	24	23	16	円形	V字形	10YR2/3 細粒砂。	SB07 主柱穴。	A4
SK356	11a, 11b	×	×	○	39	30	27	楕円形	V字形	10YR2/1 細粒砂。粘土混。		—
SK357	11a	×	×	○	29	27	6	不整形	碗形	10YR2/3 細粒砂。粘土、黄色土粒、黒色土粒混。焼土わずかに混。	SK385 と重なっている。SB09 主柱穴。	A3
SK358	12a	×	×	○	45	34	19	楕円形	碗形	10YR2/1 細粒砂。粘土、焼土混。		—
SK359	12a	×	×	○	37	16	19	楕円形	碗形	10YR2/1 細粒砂。粘土混。	SB09 主柱穴。	A3
SK360	12a	×	×	○	51	34	52	楕円形	碗形	10YR2/3 細粒砂。粘土、黄色土ブロック、白色シルトブロック混。焼土わずかに混。	SK403 と重なっている。	A
SK361	11a	×	×	×	—	—	—	—	—	—	SK404 と同一か？	A
SK362	10b	×	×	○	59	59	—	円形	碗形	図面に記入	礎石有り。セクション図面あり。	D1
SK363	10b, 10c	×	×	○	95	76	16	方形	皿形	10YR3/1 細粒砂。粘土混。	板片・礎石有り。	C3
SK364	11d	×	×	×	19	14	—	楕円形	—	—	未掘	—
SK365	11e	×	×	○	25	23	—	円形	—	—		—
SK366	11e	×	×	×	24	24	—	円形	—	—	SB17 柱穴。	B3
SK367	11e	×	×	×	41	29	12	楕円形	碗形	10YR2/2 細粒砂。粘土、黄色土粒混。	SB10 柱穴。	A5
SK368	11e	×	×	○	68	46	13	楕円形	皿形	10YR2/2 細粒砂。焼土わずかに混。中粒砂、黄色土、黒色土、白色シルト混。		C
SK369	11f	×	×	○	24	23	13	円形	碗形	10YR4/2 極細粒砂。黄色土わずかに混。	SB17 柱穴。	B3
SK370	11f	×	×	○	22	21	6	円形	皿形	10YR2/2 極細粒砂。黄色土多く混。		A
SK371	11e	×	×	○	36	35	17	隅丸方形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。黄色土ブロック混。焼土わずかに混。	SB17 柱穴。	B3
SK372	9d	×	×	○	31	30	—	円形	—	—		—
SK373	9e	×	×	×	—	—	—	円形	—	—		—

## 遺構一覧表

遺構番号	グリッド	1面	2面	3面	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	プラン	断面形	埋土	備考	時期
SK374	11f	×	×	○	44	—	51	円形	碗形	図面に記入	セクション図面有り。SA03柱穴。	B3
SK375	12g	×	×	○	35	33	—	円形	—	—	SA05柱穴。	B4
SK376	8d	×	×	○	46	43	—	隅丸正方形	—	—	—	—
SK377	12d	×	×	○	76	(65)	—	不整三角形	—	—	焼土範囲。東側をSD39に切られる。	—
SK378	11d	×	×	×	43	41	—	隅丸方形	—	—	貼床残存部分。ビットでない。	A
SK379	10d	×	×	×	—	—	—	—	—	—	貼床残存部分。ビットでない。	—
SK380	10d	×	×	×	—	—	—	—	—	—	貼床残存部分。ビットでない。	—
SK381	10d	×	×	×	—	—	—	—	—	—	ビットの重なりを遺構と認識。	—
SK382	11d	×	×	×	41	36	26	楕円形	碗形	10YR3/1 細粒砂。粘土、地山粒混。	—	A
SK383	11b	×	×	○	40	29	26	楕円形	碗形	10YR2/1 細粒砂。粘土、炭化物混。	—	A
SK384	10c	×	×	○	37	31	29	楕円形	碗形	10YR3/1 極細粒砂。黄色土ブロック混。	SK363内	A
SK385	11a	×	×	○	36	32	14	楕円形	碗形	10YR2/3 細粒砂。粘土、白色シルトブロック混。	SK357、SK409と重なっている。	—
SK386	11a, 11b	×	×	○	36	32	33	不整三角形	V字形	10YR2/3 細粒砂。粘土、黄色土ブロック多く混。	SK388と重なっている。	A
SK387	11b	×	×	○	32	29	3	円形	碗形	10YR2/3 細粒砂。粘土混。	—	—
SK388	11a, 11b	×	×	○	29	45	16	楕円形	碗形	10YR2/3 細粒砂。粘土、焼土、黒色土混。	SK386にかかっている。SB09主柱穴。	A3
SK389	11a	×	×	×	—	—	—	—	—	—	SB07内に当初記入されていたが遺構と認められなかったため欠番	A
SK390	11b	×	×	○	34	29	17	楕円形	碗形	10YR2/3 細粒砂。粘土、黒色土、黄色土ブロック、白色シルトブロック混。焼土わずかに混。	—	A
SK391	11a	×	×	×	25	24	19	円形	碗形	10YR2/3 細粒砂。粘土、黒色土、黄色土、白色シルトブロック混。焼土わずかに混。	—	A
SK392	11b	×	×	○	25	23	5	円形	箱形	図面に記入	—	—
SK393	12a	×	×	○	30	24	13	楕円形	碗形	10YR2/3 細粒砂。粘土、焼土混。黄色土ブロック多く混。	—	A
SK394	11a, 12a	×	×	○	27	26	15	円形	V字形	10YR2/3 細粒砂。粘土、焼土混。	—	—
SK395	12a	×	×	○	27	23	10	楕円形	碗形	10YR2/3 細粒砂。粘土混。焼土多く混。	—	A
SK396	12a	×	×	○	45	37	44	楕円形	碗形	10YR2/3 細粒砂。粘土、黄色土ブロック、黒色土、焼土混。	—	A
SK397	11a	×	×	○	22	18	27	楕円形	碗形	10YR2/3 細粒砂。粘土、黒色土、焼土混。	—	A
SK398	11a	×	×	○	22	20	13	円形	碗形	10YR2/3 細粒砂。粘土、黒色土、焼土混。	—	—
SK399	12a	×	×	○	21	19	13	円形	碗形	10YR2/3	—	A
SK400	12a	×	×	○	44	41	5	円形	碗形	10YR2/3 細粒砂。粘土混。焼土わずかに混。	SB07主柱穴。	A4
SK401	12a	×	×	○	53	30	39	楕円形	碗形	10YR2/3 細粒砂。粘土、黄色土、白色シルトブロック、焼土混。	SK405にかかっている。SB07主柱穴。	A4
SK402	12b	×	×	○	61	59	2	円形	皿形	10YR2/3 細粒砂。粘土、黒色土混。焼土わずかに混。	SB09主柱穴。	A3
SK403	12a	×	×	○	41	24	5	楕円形	碗形	10YR2/3 細粒砂。粘土混。焼土わずかに混。	SK360と重なっている。	—
SK404	11a	×	×	○	28	24	23	楕円形	碗形	10YR2/3 細粒砂。粘土、黄色土、白色シルトブロック混。	—	—
SK405	12a, 12b	×	×	○	30	26	23	楕円形	碗形	10YR2/3 細粒砂。粘土、黄色土、白色シルト混。	SK401と重なっている。	—
SK406	12a	×	×	○	48	41	23	楕円形	碗形	10YR2/3 細粒砂。粘土、黄色土ブロック、黒色土混。焼土わずかに混。	—	A
SK407	11a	×	×	×	40	35	32	楕円形	碗形	10YR2/3 細粒砂。粘土、黄色土ブロック混。焼土わずかに混。	SK408と重なっている。	—
SK408	11a	×	×	×	32	31	19	楕円形	碗形	10YR2/2 極細粒砂。粘土、黄色土ブロック、焼土混。	SK407と重なっている。	—
SK409	11e	×	×	×	34	24	13	楕円形	碗形	10YR2/3 細粒砂。粘土、黄色土ブロック混。焼土わずかに混。	SK385と重なっている。	—
SK410	11b	×	×	○	39	37	16	円形	碗形	10YR2/3 細粒砂。粘土、白色シルトブロック、黄色土混。	SB23柱穴。	C1
SK411	11b	×	×	○	37	36	5	円形	皿形	10YR2/3 細粒砂。粘土、黄色土混。	—	A4
SK412	11b	×	×	○	29	27	7	円形	皿形	10YR2/3 細粒砂。粘土、黄色土混。酸化部分有り。	—	A4
SK413	11b	×	×	○	29	28	48	円形	碗形	10YR2/2 極細粒砂。粘土混。焼土多く混。	SB23柱穴。	C1
SK414	11b	×	×	○	41	39	19	円形	碗形	10YR3/2 細粒砂。粘土、黄色土ブロック混。焼土わずかに混。	SB04主柱穴。	A3
SK415	11b, 11c	×	×	○	35	34	23	円形	碗形	10YR3/2 細粒砂。粘土、黄色土ブロック混。	—	—
SK416	11c	×	×	○	33	27	27	楕円形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色シルトブロック、黒色土混。	SK461と重なる。	A3
SK417	11c	×	×	○	51	43	54	不整楕円形	碗形	10YR2/2 極細粒砂。粘土、黄色土ブロック、焼土混。	SB23柱穴。	C1
SK418	10c	×	×	○	43	35	6	楕円形	皿形	10YR2/2 細粒砂。粘土、黄色土ブロック多く混。	—	A
SK419	10c, 11c	×	×	○	40	(22)	22	楕円形	V字形	10YR2/2 極細粒砂。粘土、炭化物混。黄色土ブロック多く混。焼土わずかに混。	SD14にかかり切れている。	A
SK420	11c	×	×	×	30	29	31	円形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色土混。焼土わずかに混。	SB04主柱穴。	A3
SK421	11c	×	×	○	22	21	13	円形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色シルトブロック、白色シルトブロック混。黄色土混。	SB08主柱穴。	A2
SK422	10c	×	×	○	24	19	18	楕円形	V字形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色土混。焼土わずかに混。	SK451の中	—
SK423	10c	×	×	○	28	27	53	円形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色シルトブロック、白色シルトブロック、焼土、炭化物混。	SK453と重なる。	A
SK424	10c	×	×	×	27	24	36	楕円形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色土混。	SB04主柱穴。	A3
SK425	10c, 10d	×	×	○	43	38	40	楕円形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色土混。	—	A
SK426	10d	×	×	○	40	38	49	円形	V字形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、白色シルトブロック、焼土混。	—	A
SK427	10d	×	×	○	42	38	45	不整円形	V字形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色土ブロック、焼土混。	SB08主柱穴。	A2
SK428	10c, 10d	×	×	○	43	28	13	楕円形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色土、焼土混。	—	A

名古屋城三の丸遺跡 VII

遺構番号	グリッド	1面	2面	3面	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	プラン	断面形	埋土	備考	時期
SK429	10d	×	×	○	40	34	48	楕円形	V字形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黒色土、焼土混。		A
SK430	10d	×	×	○	36	35	32	円形	V字形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色シルトブロック、白色シルトブロック混。焼土わずかに混。		A
SK431	11c, 11d	×	×	○	36	33	32	楕円形	V字形	10YR3/2 細粒砂。粘土、黄色土、焼土混。	SB23 柱穴。	C1
SK432	11d	×	×	○	31	29	12	円形	碗形	10YR4/2 細粒砂。粘土混。黄色ブロック多量混。	SB08 主柱穴。	A2
SK433	11c	×	×	○	33	33	32	円形	V字形	10YR3/2 細粒砂。粘土、黄色土、白色シルトブロック混。		—
SK434	11c	×	×	○	38	31	9	楕円形	皿形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色土、黒色土、焼土混。		—
SK435	12b	×	×	○	29	22	14	楕円形	碗形	10YR2/1 細粒砂。粘土、黄色シルトブロック、白色シルトブロック混。		—
SK436	12b, 12c	×	×	○	105	100	23	円形	碗形	10YR2/1 細粒砂。粘土、黄色シルトブロック混。	底面に SK439 有り。	A
SK437	12c	×	×	○	14	14	14	円形	V字形	10YR3/2 細粒砂。粘土、黄色シルトブロック混。		—
SK438	13c	×	×	○	18	18	7	円形	皿形	10YR3/2 細粒砂。粘土、黄色シルトブロック混。酸化部分有り。	SD14 にかかり切れている。	—
SK439	12c	×	×	○	33	28	32	楕円形	碗形	10YR3/2 細粒砂。粘土、黄色土混。		—
SK440	12c	×	×	○	36	21	14	楕円形	碗形	10YR3/2 細粒砂。粘土、黄色土、焼土混。		B1
SK441	13c	×	×	○	62	40	8	楕円形	皿形	10YR3/2 細粒砂。粘土、黄色シルトブロック混。	底面に SK442 有り。	—
SK442	13c	×	×	○	22	20	5	円形	碗形	10YR3/2 細粒砂。粘土、黄色土混。		—
SK443	11c, 11d	×	×	○	(110)	38	9	不整形	皿形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、白色、黄色シルトブロック混。		—
SK444	11d	×	×	×	50	43	22	楕円形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色シルトブロック混。		A
SK445	11c	×	×	○	32	25	28	楕円形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、焼土混。		—
SK446	11c	×	×	○	73	31	19	楕円形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、白色、黄色シルトブロック混。焼土わずかに混。	SB23 柱穴。	C1
SK447	11c	×	×	○	51	46	68	楕円形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色シルトブロック混。焼土わずかに混。		—
SK448	11c	×	×	○	35	25	4	楕円形	皿形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色シルトブロック、黄色土混。		—
SK449	11c	×	×	○	28	24	7	楕円形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色シルトブロック、黄色土、焼土混。		—
SK450	11c	×	×	○	25	20	6	楕円形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色土、焼土混。	SK451 と重なる。	—
SK451	10c, 11c	×	×	○	220	165	7	不整形円形	皿形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色シルトブロック、焼土混。	SK422 を中に含む。SK450、SK452、SK453 と重なる。	A3
SK452	11c	×	×	○	29	19	3	楕円形	皿形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色シルトブロック混。	SK451 と重なる。	—
SK453	10c	×	×	○	42	39	20	円形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土混。	SK423、SK451 と重なる。	—
SK454	10b, 11b	×	×	○	43	43	29	不整形円形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色ブロック、黒色土混。	SB23 柱穴。	C1
SK455	10b	×	×	○	40	30	38	楕円形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色土、白色シルト混。焼土わずかに混。		A
SK456	10b	×	×	○	95	62	5	不整形方形	皿形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色土混。	SK457 と重なる。	—
SK457	10b	×	×	○	41	33	49	楕円形	V字形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色土ブロック混。	SK456 と重なる。	A
SK458	11c	×	×	○	37	28	3	楕円形	皿形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色土ブロック混。	SB23 柱穴。	C1
SK459	11b	×	×	○	24	23	28	円形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色土、黒色土混。焼土わずかに混。		—
SK460	11c	×	×	○	24	19	28	楕円形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色土ブロック混。		B1
SK461	11c	×	×	○	39	37	42	円形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色シルトブロック、黒色土混。焼土わずかに混。	SK416 と重なる。	A
SK462	11c	×	×	○	33	30	48	円形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土混。		—
SK463	11c	×	×	○	19	16	5	楕円形	皿形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色土混。焼土わずかに混。		—
SK464	11c	×	×	○	50	39	27	楕円形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色土、黄色シルト混。		A
SK465	11c	×	×	○	23	21	7	円形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色土混。		—
SK466	11c	×	×	○	24	24	4	円形	皿形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、白色シルトブロック混。		—
SK467	11c	×	×	○	26	28	6	不整形円形	皿形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色シルトブロック、焼土混。		—
SK468	11c	×	×	○	21	18	10	楕円形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黒色土混。		A
SK469	12d	×	×	×	26	25	15	円形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色土混。		—
SK470	12c	×	×	○	114	82	8	楕円形	皿形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色シルトブロック、黄色土混。		—
SK471	12d	×	×	○	11	10	6	円形	箱形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、焼土、炭化物混。		—
SK472	12d	×	×	○	33	33	6	円形	皿形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色土混。		—
SK473	11d, 12d	×	×	○	34	24	12	楕円形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色シルトブロック混。		—
SK474	11d, 12d	×	×	○	21	21	18	円形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色シルトブロック混。		—
SK475	12d	×	×	○	21	21	11	円形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土混。焼土わずかに混。		—
SK476	12d	×	×	×	12	11	2	円形	皿形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色シルトブロック混。		—
SK477	12d	×	×	×	11	11	2	円形	皿形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、焼土、炭化物混。		—
SK478	12d	×	×	×	12	10	2	円形	皿形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、焼土、炭化物混。		—
SK479	12d	×	×	○	20	18	20	円形	V字形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、白色、黄色シルトブロック混。焼土わずかに混。		A
SK480	12d	×	×	○	25	23	27	円形	V字形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、焼土、黄色シルト、炭化物混。		—

遺構一覧表

遺構番号	グリッド	1面	2面	3面	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	プラン	断面形	埋土	備考	時期
SK481	13d	×	×	○	20	18	12	楕円形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、焼土、黄色シルトブロック、炭化物混。		—
SK482	13d	×	×	○	21	21	2	円形	皿形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、焼土、炭化物混。		B1
SK483	12d, 13d	×	×	○	13	10	5	方形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、焼土、炭化物混。		—
SK484	13c, 13d	×	×	×	430	390	25	不整形	皿形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、焼土、黄色シルトブロック、炭化物混。	底面に SK485 有り。真中に SD22 がはしっている。SK40 と同一。	C1
SK485	13d	×	×	×	60	47	9	楕円形	皿形	斑土 (10YR6/1 + 7.5YR4/3 細粒砂。)		—
SK486	13d	×	×	○	160	62	12	平行四辺形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、焼土、黄色シルトブロック、炭化物混。		B4
SK487	13d	×	×	○	22	29	7	楕円形	碗形	10YR2/1 極細粒砂。粘土、黄色シルトブロック混。酸化部分有。		—
SK488	13c	×	×	○	170	52	10	三角形	不整形	10YR2/1 極細粒砂。粘土、黄色シルトブロック混。		—
SK489	12c	×	×	○	128	92	20	楕円形	皿形	10YR2/1 極細粒砂。粘土、白色、黄色シルトブロック混。酸化部分有。		A
SK490	12e	×	×	○	38	29	—	楕円形	—	—		—
SK491	11d	×	×	○	18	15	10	円形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、炭化物混。焼土わずかに混。	SB23 柱穴。	C1
SK492	11d	×	×	○	16	13	8	楕円形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、焼土混。		—
SK493	12c	×	×	×	33	31	9	円形	碗形	10YR2/1 細粒砂。粘土、黄色シルト、炭化物混。焼土わずかに混。		—
SK494	11e	×	×	×	21	19	17	円形	碗形	10YR2/2 極細粒砂。粘土、黄色シルトブロック混。焼土多く混。		—
SK495	11e	×	×	○	38	36	11	円形	碗形	10YR2/2 細粒砂。粘土、黄色シルトブロック混。	SB10 柱穴。	A5
SK496	11e	×	×	○	30	30	22	円形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色土、焼土混。	SB17 柱穴。	B3
SK497	11e	×	×	○	25	23	8	円形	碗形	10YR2/1 極細粒砂。粘土、黄色土、焼土混。	SB13 柱穴。	A3
SK498	11e	×	×	○	52	40	24	楕円形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、白色、黄色シルト、黄色土混。焼土わずかに混。		B1
SK499	11e	×	×	○	41	39	16	楕円形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色シルトブロック、黒色土、焼土混。	SB12 柱穴。	A5
SK500	11e	×	×	○	40	38	26	円形	碗形	10YR2/2 極細粒砂。粘土、黄色シルトブロック、黄色土、黒色土、焼土混。	SB10 柱穴。	A5
SK501	11e	×	×	○	36	30	17	楕円形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色シルト、焼土混。		A
SK502	11e	×	×	○	27	27	9	円形	碗形	10YR2/3 極細粒砂。粘土、黄色シルト混。焼土わずかに混。		A
SK503	11e	×	×	○	38	38	14	不整形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色シルト、黄色土、焼土混。	SB10 柱穴。	A5
SK504	11e	×	×	○	35	31	6	楕円形	皿形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色シルトブロック混。		—
SK505	11e	×	×	○	23	19	5	楕円形	碗形	7.5YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色シルトブロック、焼土混。		A
SK506	11f	×	×	○	36	28	5	楕円形	皿形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、焼土混。		—
SK507	11f	×	×	○	58	58	28	円形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、白色、黄色シルトブロック、黒色土混。		B1
SK508	11f	×	×	○	52	38	5	楕円形	皿形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、白色、黄色シルトブロック混。焼土わずかに混。		A
SK509	11f	×	×	○	39	37	14	円形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、白色、黄色シルトブロック混。		A5
SK510	11f	×	×	○	33	32	5	円形	皿形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色シルトブロック、焼土混。	SB13 柱穴。	A3
SK511	11f	×	×	○	26	25	11	円形	碗形	10YR2/2 極細粒砂。粘土、黄色シルトブロック混。焼土わずかに混。		—
SK512	11f, 12f	×	×	○	26	25	17	円形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色シルト混。		—
SK513	12f	×	×	○	90	60	50	楕円形	箱形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、焼土混。	SK514 と重なる。柱痕有り。柱痕部分が深い。	—
SK514	12f	×	×	○	55	32	26	楕円形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色シルト混。	SK513 と重なる。	A
SK515	11f	×	×	○	31	29	16	円形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色シルト混。	SB18 柱穴。SK282 と同一か？	B4
SK516	11g	×	×	○	48	42	10	円形	皿形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、焼土混。		—
SK517	11g	×	×	○	26	22	12	楕円形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、焼土混。	SB03 主柱穴。	A4
SK518	11g	×	×	○	—	—	—	—	—	未注記	極浅く遺構ではない。	—
SK519	11g	×	×	○	33	30	33	円形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土混。焼土わずかに混。	柱痕有り。SB03 主柱穴。	A4
SK520	12g	×	×	○	28	21	7	楕円形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色土混。焼土多く混。		A
SK521	11h, 12h	×	×	○	161	131	17	方形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、白色シルトブロック混。焼土多く混。		A3
SK522	12h	×	×	○	39	34	3	楕円形	皿形	10YR3/2 極細粒砂。粘土混。焼土わずかに混。		—
SK523	12h	×	×	○	29	24	46	楕円形	V字形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色土混。焼土わずかに混。		A
SK524	12h	×	×	○	28	26	28	円形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土混。焼土わずかに混。	SB05 主柱穴。	A3
SK525	12e	×	×	○	120	100	15	長方形	皿形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、焼土混。		—
SK526	12e, 13e	×	×	○	95	88	54	円形	碗形	図面有り	結核埋設。SK228 と同一遺構。	A
SK527	9d, 9e	×	×	○	170	119	40	長方形	皿形	図面有り	SD35 に切られている。SB19 柱穴。	B3
SK528	11f	×	×	○	32	32	41	円形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色シルト混。焼土わずかに混。		—
SK529	11f, 12f	×	×	○	35	27	19	円形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色シルト混。		—
SK530	11g, 12g	×	×	○	48	29	21	楕円形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土混。		—
SK531	12f	×	×	○	21	18	6	楕円形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土混。		—
SK532	12f	×	×	○	116	107	8	楕円形	皿形	10YR3/2 極細粒砂。粘土混。わずかに焼土混。		A
SK533	12g	×	×	○	24	24	24	円形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土混。	SK534 と重なる。SB05 主柱穴。	A3



名古屋城三の丸遺跡 VII

遺構番号	グリッド	1面	2面	3面	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	プラン	断面形	埋土	備考	時期
SK534	12g	×	×	○	62	46	8	楕円形	皿形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色シルトブロック、焼土混。	SK533 と重なる。SB18 柱穴。	B4
SK535	12g	×	×	○	58	53	23	不整形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土混。焼土多く混。		A
SK536	12g	×	×	○	103	102	5	不整形	皿形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色シルト、焼土混。		A
SK537	12g	×	×	○	43	28	21	楕円形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色土混。	SA05 柱穴。	B4
SK538	12f	×	×	○	22	18	16	楕円形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色土ブロック混。	SA05 柱穴。	B4
SK539	11f	×	×	○	(283)	74	12	不整形	皿形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色シルト混。焼土わずかに混。		A
SK540	11g	×	×	○	34	33	16	円形	碗形	10YR2/2 極細粒砂。粘土、黄色土混。焼土わずかに混。	SB03 主柱穴。	A4
SK541	11d	×	×	×	32	30	39	円形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色シルトブロック混。		—
SK542	11e	×	×	○	32	30	18	円形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色、白色シルト、黒色土混。	SB12 柱穴。	A5
SK543	10c	×	×	×	53	28	37	楕円形	V字形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色シルト、黒色土、焼土混。		A
SK544	10c	×	×	×	48	34	55	楕円形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色シルト、黄色土、焼土混。		—
SK545	11c	×	×	○	24	23	5	円形	皿形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色シルトブロック、黒色土混。		—
SK546	11c, 11d	×	×	○	34	29	19	楕円形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色土、焼土混。		—
SK547	9a	×	×	○	180	65	40	楕円形	皿形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、白色シルトブロック、小石混。	SK23 にかかり切れている。SA06 柱穴。	C1
SK548	8a, 9a	×	×	○	140	130	50	楕円形	碗形	10YR3/2 細粒砂。粘土、白色、黄色シルトブロック、灰色粘土、炭化物混。	SK567 と重なる。	C3
SK549	9a	×	×	○	77	49	14	不整形	皿形	10YR3/2 + 10YR7/1 極細粒砂。細粒砂、焼土、炭化物混。	SB11 柱穴。	A3
SK550	9a	×	×	○	95	(62)	6	円形	皿形	斑土 (10YR3/2 + 10YR7/1 極細粒砂。) 細粒砂混。焼土わずかに混。	SK23 にかかり切れている。SA06 柱穴。	C1
SK551	9a	×	×	○	53	30	41	円形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、白色、黄色シルトブロック、黒色土混。	SB11 柱穴。	A3
SK552	9a	×	×	○	55	35	28	楕円形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄褐色土混。	SB11 柱穴。	A3
SK553	9a	×	×	×	—	—	—	—	—	—	—	—
SK554	9a, 10a	×	×	○	120	55	48	瓢箪形	碗形	左層：10YR4/1 細粒砂。粘土、赤褐色土混。右層：10YR4/4 極細粒砂。粘土、黄色土ブロック、黒色土混。	SA06 柱穴。	C1
SK555	9a, 10a	×	×	○	110	80	11	楕円形	皿形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色シルト、小石混。		B4
SK556	9b	×	×	○	200	133	100	楕円形	碗形	7.5YR3/2 極細粒砂。粘土混。	SD12、SK557、SK566 と重なっている。	B1
SK557	9b	×	×	○	70	40	30	楕円形	碗形	10YR3/1 極細粒砂。黄色シルト、黒色土混。	SD12、SK556 と重なる。	B1
SK558	8a	×	×	○	25	21	12	楕円形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、白色シルトブロック、黒色土混。		—
SK559	8a	×	×	○	26	24	6	円形	皿形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色土、炭化物混。		—
SK560	9a, 9b	×	×	○	67	53	32	楕円形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色シルトブロック、赤褐色土、黒色土混。	SB11 柱穴。	A3
SK561	9a	×	×	○	31	31	—	円形	—	10YR3/2 極細粒砂。粘土、焼土混。		—
SK562	9a	×	×	○	25	23	21	円形	V字形	10YR3/2 極細粒砂。粘土混。		B1
SK563	9b	×	×	○	33	30	25	楕円形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色土混。	SK565 と重なる。	—
SK564	9a, 9b	×	×	○	63	50	22	楕円形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、赤褐色土、焼土混。	SK565 と重なる。	A
SK565	9a, 9b	×	×	○	69	40	31	楕円形	碗形?	10YR3/1 極細粒砂。粘土、黒色土、焼土混。	SK563、SK564 と重なる。SB11 柱穴。	A3
SK566	9b	×	×	○	49	40	22	楕円形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色シルトブロック、黒色土混。		—
SK567	9a	×	×	○	90	50	41	不整形楕円形	箱形	10YR4/1 細粒砂。粘土、黄色シルトブロック、赤褐色土混。	SK548 と重なる。	—
SK568	8a	×	×	○	65	55	40	楕円形	碗形	10YR2/2 細粒砂。粘土、白色シルト、黄色シルト、赤褐色土混。	SB11 柱穴。	A3
SK569	8b	×	×	○	60	55	43	楕円形	碗形	10YR2/2 細粒砂。粘土、白色シルト、黄色シルト混。	SB11 柱穴。	A3
SK570	9c, 9d	×	×	○	123	53	—	—	—	未注記	SX02 東階段南のビット。	—
SK571	13b	×	×	○	46	44	28	円形	碗形	10YR3/2 細粒砂。粘土、黄色、白色シルトブロック、黒色土混。	SA02 柱穴。	A5
SK572	13b	×	×	○	24	22	23	円形	V字形	10YR2/2 細粒砂。粘土、黄色土混。焼土わずかに混。		A
SK573	13b	×	×	○	28	25	60	楕円形	碗形	10YR2/2 細粒砂。粘土、黄色土、白色土、焼土混。	SB14 柱穴。	A4
SK574	13a	×	×	○	28	26	25	円形	碗形	10YR2/1 極細粒砂。粘土、白色シルトブロック、焼土混。		—
SK575	13a	×	×	○	18	18	9	円形	碗形	10YR3/1 極細粒砂。粘土、黄色土、黄色シルト混。酸化部分有。		—
SK576	13a	×	×	○	20	18	15	円形	碗形	10YR3/1 極細粒砂。粘土、焼土混。		—
SK577	13a	×	×	○	30	23	51	楕円形	碗形	10YR3/2 細粒砂。粘土、白色シルトブロック、黄色土混。	SA02 柱穴。	A5
SK578	13a	×	×	○	36	35	34	円形	碗形	10YR2/1 極細粒砂。粘土、白色シルトブロック混。酸化部分有。		A
SK579	12a, 13a	×	×	○	241	55	35	長方形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、白色シルト、焼土混。		B1
SK580	12a, 13a	×	×	○	136	90	23	円形?	皿形	10YR2/1 極細粒砂。粘土混。酸化部分有。		—
SK581	12a	×	×	×	35	30	19	楕円形	碗形	10YR2/1 極細粒砂。粘土、黄色シルト、焼土混。		—
SK582	12a	×	×	○	100	65	32	楕円形	碗形	10YR2/1 極細粒砂。粘土、焼土混。		A5
SK583	13b	×	×	○	30	24	23	楕円形	碗形	10YR2/1 極細粒砂。粘土、黄色シルトブロック混。		—
SK584	12b	×	×	○	32	26	34	楕円形	V字形	10YR3/2 極細粒砂。粘土混。	SB14 柱穴。	A4
SK585	12b	×	×	○	28	27	19	円形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄色土ブロック混。		—

遺構一覧表

遺構番号	グリッド	1面	2面	3面	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	プラン	断面形	埋土	備考	時期
SK586	12b	×	×	○	30	18	30	楕円形	V字形	10YR3/2 極細粒砂。粘土混。酸化部分有り。		—
SK587	12b	×	×	○	36	32	22	楕円形	碗形	10YR2/1 極細粒砂。粘土、黄色シルトブロック混。酸化部分有り。		A
SK588	12b	×	×	○	63	58	4	円形	皿形	10YR2/1 極細粒砂。粘土混。黄色土ブロック多く混。酸化部分有り。	SB14 柱穴。	A4
SK589	12b	×	×	○	41	40	20	円形	碗形	10YR3/2 細粒砂。粘土、白色シルトブロック混。焼土多く混。		A4
SK590	12a	×	×	○	43	28	4	楕円形	皿形	10YR2/1 極細粒砂。粘土、白色シルトブロック、黄色土混。	SB14 柱穴。	A4
SK591	13a	×	×	○	52	37	22	楕円形	碗形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、白色シルトブロック混。酸化部分有り。		—
SK592	13a	×	×	○	40	35	—	楕円形	—	未注記	SA02 柱穴。	A5
SK593	12b	×	×	○	22	20	—	円形	—	未注記	SB14 柱穴。	A4
SK594	12a	×	×	○	40	38	—	楕円形	—	未注記		—
SK595	12a	×	×	○	25	16	—	楕円形	—	未注記		B1
SK596	12a	×	×	○	31	22	—	楕円形	—	未注記		—
SK597	12a	×	×	○	14	12	—	円形	—	未注記		—
SK598	12b	×	×	○	22	21	—	円形	—	未注記		—
SK599	12b	×	×	○	20	14	—	円形	—	未注記		—
SK600	12b	×	×	×	31	30	—	円形	—	未注記		—
SK601	13c	×	×	○	19	16	—	方形	—	未注記		—
SK602	10b	×	×	○	39	37	—	円形	—	未注記		—
SK603	9b	×	×	○	39	37	—	円形	—	未注記		—
SK604	10b	×	×	○	33	(22)	—	楕円形	—	未注記		—
SD01	12b ~ 12g, 13a ~ 13g	○	×	×	2811	162	48	溝状	箱形	図面に記入	東西に走る溝の直線部分。石組溝。図面有り。	C3
SD02	13b	×	×	×	441	116	21	溝状	箱形	図面に記入	石組溝 SD01 に接続し、南北に走る。調査区外南に伸びる。図面有り。	C3
SD03	12a, 13a	○	×	×	340	59	17	長方形	箱形	図面に記入	石組溝 SD01 に接続し、SD01 より北に伸びる。	C3
SD04	13a	×	×	×	80	162	48	溝状	箱形	図面に記入	石組溝 SD01 に接続し調査区外西へ伸びる部分。	C3
SD05	13j	×	○	×	320	52	11	溝状	皿形	上層：7.5Y4/1 シルト。極細粒砂含む。ガラス含む。下層：10YR3/3 シルト。極細粒砂混。ガラス含む。	調査区外に伸びる。SD17 を切っている。	D
SD06	12i, 13i	×	○	×	690	77	23	溝状	箱形	10YR3/2 粘土。細粒砂混。10YR6/6 粘土。		B4
SD07	12j, 13j	×	○	×	356	26	19	溝状	碗形	10YR3/1 極細粒砂。シルト、地山ブロック混。		—
SD08	9d	○	×	×	212	41	15	溝状	碗形	7.5Y4/1 細粒砂。粘土、ベースの黒色土ブロック混。		—
SD09	8d, 9d, 10d	×	×	×	1481	40	13	溝状	皿形	10YR4/2 細粒砂。粘土混。	SD36 に対応する可能性有り。	B3
SD10	11f, 12f	○	○	×	512	112	14	溝状	皿形	7.5Y3/1 シルト。粘土わずかに混。		C1
SD11	11d, 11e, 11f	○	×	×	840	117	13	長方形	皿形	10YR5/4 シルト。細粒砂混。炭化物若干混。	径 10cm 以上の石を多く含む。SD21 と同一か。	C3
SD12	10b, 11b, 12b	○	○	○	209	97	溝状	碗形	図面に記入	SX02 に切られる。	C1	
SD13	11b, 11c	○	○	×	149	10	長方形	皿形	10YR4/2 細粒砂。粘土混。炭化物わずかに混。		C3	
SD14	11c ~ 13c	○	○	○	1550	144	81	長方形	V字形	図面に記入	SD22 と繋がる区画溝の南北部分。	C1
SD15	11c, 11d, 12c, 12d	○	×	×	385	63	43	溝状	碗形	上層：2.5Y4/2 細粒砂。シルト混。下層：2.5Y5/2 細粒砂。		C3
SD16	10a, 10b	○	○	×	190	75	24	溝状	皿形	図面に記入	SX02 に注ぐ導水溝の可能性高い	C3
SD17	12e ~ 12j, 13d ~ 13f	×	○	×	3321	172	115	溝状	V字形		SD25, SK222 とは同一遺構となる。	B3
SD18	12g ~ 12j	×	○	×	1673	71	89	溝状	碗形		SD17 の南に並行して東西に走る溝。	B1
SD19	13b	×	○	×	277	53	10	溝状	皿形	7.5Y3/1 細粒砂。シルト混。		B1
SD20	13g, 13h, 13i	×	○	×	478	27	6	溝状	皿形	7.5Y3/2 細粒砂。シルト混。		B1
SD21	11c ~ 11f	×	○	×	142	40	8	溝状	皿形	図面に記入	SD11 と同一遺構の可能性高い。	C
SD22	13c ~ 13f	×	○	×	1295	77	47	溝状	碗形	図面に記入	SD14 と同一遺構。	C1
SD23	8d, 8e	×	○	○	573	97	36	長方形	皿形	図面に記入		C1
SD24	11f ~ 13f	×	○	○	1521	51	14	溝状	皿形	10YR4/2 細粒砂。粘土混。焼土少し混。	ピット列に伴う溝。	B3
SD25	13e	×	○	×	5571	84	52	溝状		図面に記入	SD17, SK222 と同一遺構。	B3
SD26	12c, 13c	×	○	×	—	90	—	溝状	—	—	SD01 の掘り残しを掘り SD26 とした。	C3
SD27	13f	×	○	×	195	83	37	溝状	碗形	10YR4/2 細粒砂。粘土混。	SD22 と同一、SK185 を挟んで東側を SD27 とした。	B3
SD28	13f, 13g	×	○	×	194	53	27	長方形	碗形	7.5Y3/1 細粒砂。粘土混。		B1
SD29	10d, 11d	×	○	×	468	60	20	溝状	碗形	10YR4/2 細粒砂。		B3
SD30	13a, 13b	×	○	×	259	29	12	溝状	皿形	10YR3/2 細粒砂。粘土混。		C
SD31	10b, 11b, 12b, 13b	○	○	○	1832	123	74	長方形	碗形	図面に記入	図面有り。	B3
SD32	11c	×	○	×	108	17	8	溝状	箱形	10YR3/2 細粒砂。粘土混。		B3
SD33	12f, 13f	×	○	×	305	48	11	溝状	碗形	10YR4/2 細粒砂。粘土混。中粒砂混。		B1
SD34	12c, 12d	×	○	×	412	19	8	溝状	碗形	10YR3/2 細粒砂。粘土混。	SD21 または SD15 と同一の可能性あり。	B3
SD35	8d, 9d	×	×	○	990	64	16	長方形	箱形	10YR4/1 細粒砂。		B3
SD36	8d, 9d, 10d	×	×	○	1481	40	13	溝状	皿形	10YR4/2 細粒砂。粘土混。		B3
SD37	—	×	×	×	—	—	—	—	—	—	欠番とした	B3
SD38	12a, 12b	×	×	○	429	21	10	溝状	箱形	2.5YR4/2 細粒砂。		B3
SD39	11d ~ 13d	×	×	○	754	97	17	溝状	碗形	10YR3/3 細粒砂。小石と焼土わずかに含む。		B3
SD40	8a	×	×	○	255	180	49	長方形	皿形	図面に記入	図面有り。SX02 北西部につながる溝。	C2
SD41	8b, 8c	×	×	○	310	192	119	長方形	図面に記入	図面有り。SX02 から北に出る排水溝。		C3
SD42	9a	×	×	○	170	20	12	溝状	箱形	10YR3/2 極細粒砂。粘土、黄褐色土混。		—
SX01	12g, 13g	×	×	×	760	534	18	長方形	—	図面に記入	SD01 に関連する石組遺構	C3

名古屋城三の丸遺跡 VII

遺構番号	グリッド	1面	2面	3面	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	プラン	断面形	埋土	備考	時期
SX02	8a, 8b, 8c, 8d, 9b, 9c, 9d, 10b, 10c, 10d	○	○	○	998	477	137	不整形	箱形	図面に記入	池状遺構	C3
SX03	8d, 9d	○	×	×	903	102	13	溝状	碗形	図面に記入	SX02 東にある砂利の浅い溝状遺構	C3, 4
SX04	10b	×	×	×	148	91	—	楕円形	—	未注記	SX02 と SD12 の接点にあった瓦溜りの範囲を SX04 とした。	C4
SX05	10a	○	×	×	112	102	—	円形	—	未注記	瓦が集中して出土した範囲を SX05 とした。	C4
SX06	10a	×	×	×	—	—	—	円形	—	未注記	瓦が集中して出土した範囲を SX06 とした。	C3
SX07	11f, 12f	×	×	○	—	61	5	溝状	皿形	10YR4/2	SD24 と並行し東にある浅い溝を SX07 とした。	—
SX08	12d	×	×	○	—	—	—	—	—	—	SD39 から東に出る南北ライン南の黒褐色土を SX08 とした。ラインの行き先を追えなかった。	—
SX09	14e, 14f, 14g	×	×	○	—	—	—	—	—	—	調査区外周南壁で出土した石列を SX09 とした。	C3
SB01		×	×	×	2642	780	—	長方形	—	—	礎石建物跡	D2
SB02	11a, 11b	×	×	○	(542)	446	12	隅丸長方形	皿形	図面に記入	竪穴建物跡。SB04 と SB07 と SB09 を切る。	A4
SB03	11g, 11h, 12g, 12h	×	×	○	512	(236)	23	隅丸長方形	皿形	図面に記入	竪穴建物跡。SB05 を切る。	A4
SB04	10b, 10c, 11b, 11c	×	×	○	548	344	26	隅丸長方形	皿形	図面に記入	竪穴建物跡。SB08 を切り SB02 に切られる。	A3
SB05	12g, 12h	×	×	○	(552)	(180)	21	隅丸長方形	皿形	図面に記入	竪穴建物跡。SB03 に切られる。	A3
SB06	12e	×	×	○	310	264	17	隅丸長方形	皿形	図面に記入	竪穴建物跡としたが、竪穴建物跡ではない可能性が高い。	A2
SB07	11a, 11b, 12a, 12b	×	×	○	(508)	380	25	隅丸長方形	皿形	図面に記入	竪穴建物跡。SB09 を切り、SB02 に切られる。	A4
SB08	10c, 10d, 11c, 11d	×	×	○	494	356	20	隅丸長方形	皿形	図面に記入	竪穴建物跡。SB04 に切られる。	A5
SB09	11a, 11b, 12a, 12b	×	×	○	538	406	14	隅丸長方形	皿形	図面に記入	竪穴建物跡。SB02 と SB07 に切られる。	A3
SB10		-	-	-	520	370	—	長方形	—	—	3間×2間の掘立柱建物跡。	A4
SB11		-	-	-	(680)	620	—	長方形	—	—	2間以上×2間の掘立柱建物跡。	A3
SB12		-	-	-	530	250	—	長方形	—	—	2間×1間の掘立柱建物跡。	A5
SB13		-	-	-	530	330	—	長方形	—	—	2間×2間の掘立柱建物跡。	A3
SB14		-	-	-	330	210	—	長方形	—	—	1間×3間の掘立柱建物跡。	A4
SB15		-	-	-	(420)	410	—	長方形	—	—	2間以上×1間の掘立柱建物跡。	B1
SB16		-	-	-	430	300	—	長方形	—	—	1間以上×1間の掘立柱建物跡。	B1
SB17		-	-	-	(610)	300	—	長方形	—	—	3間以上×1間の掘立柱建物跡。	B4
SB18		-	-	-	(280)	220	—	長方形	—	—	1間×2間以上の掘立柱建物跡。	B5
SB19		-	-	-	(640)	(270)	—	長方形	—	—	2間以上×1間以上の掘立柱建物跡。	B5
SB20		-	-	-	350	130	—	長方形	—	—	1間×1間の掘立柱建物跡。	B5
SB21		-	-	-	(920)	910	—	長方形	—	—	3間以上×1間の掘立柱建物跡。	C2
SB22		-	-	-	(1050)	(230)	—	長方形	—	—	3間以上×1間以上の掘立柱建物跡。	C1
SB23		-	-	-	570	480	—	長方形	—	—	3間×3間の掘立柱建物跡。	C1
SB24		-	-	-	(590)	(480)	—	長方形	—	—	2間以上×2間以上の掘立柱建物跡。	C4
SB25		-	-	-	(550)	750	—	長方形	—	—	2間以上×2間?の掘立柱建物跡。	D2
SA01		-	-	-	460	—	—	—	—	—	2間の掘立柱柵列跡。	A3
SA02		-	-	-	(440)	—	—	—	—	—	2間以上の掘立柱柵列跡。	A5
SA03		-	-	-	(1520)	—	—	—	—	—	10間以上の掘立柱柵列跡。	B5
SA04		-	-	-	620	—	—	—	—	—	2間の掘立柱柵列跡。	B3
SA05		-	-	-	460	—	—	—	—	—	2間の掘立柱柵列跡。	B4
SA06		-	-	-	(1550)	—	—	—	—	—	6間以上の掘立柱柵列跡。	C2
SA07		-	-	-	(350)	—	—	—	—	—	2間以上の掘立柱柵列跡。	C1
SA08		-	-	-	(420)	—	—	—	—	—	2間以上の掘立柱柵列跡。	C1
SA09		-	-	-	1130	—	—	—	—	—	3間の掘立柱柵列跡。	C4

## 遺物一覧表

図版番号	グッド	遺構番号	日付	産地・材質	器種	時期	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	内面	外面	胎土(外部)	釉1	備考
0001	8d	SK308	020911	須恵器	杯蓋	H-44	13.0	5.0		13.0	ヨコナデ	回転ヘラケズリ、わずかに自然釉、ヨコナデ	10YR7/3に ぶい黄橙		
0002	9d	SK308	020911	須恵器	杯蓋	H-44	12.9	4.5		13.0	ヨコナデ	回転ヘラケズリ、ヨコナデ、自然釉	5Y6/1 灰		
0003	8d	SK308	020911	須恵器	杯蓋	H-50	11.8	4.5		12.1	ヨコナデ	回転ヘラケズリ、自然釉、ヨコナデ	5Y6/1 灰		
0004	8d	SK308	020911	須恵器	杯蓋	H-44	12.5	4.0		12.7	ヨコナデ	回転ヘラケズリ、ヨコナデ	5Y7/1 灰白		
0005	9d	SK308	020911	須恵器	杯蓋	H-44	12.2	4.8		12.4	ヨコナデ	回転ヘラケズリ、ヨコナデ	2.5Y6/1 黄灰		
0006	8d	SK308	020911	須恵器	杯蓋	H-44	推 12.2	4.0		推 12.4	ヨコナデ	回転ヘラケズリ、自然釉、ヨコナデ	5Y5/1 灰	10Y5/2 オリーブ灰	
0007	9d	SK308	020911	須恵器	杯蓋	H-44	推 12.4	4.3		推 12.6	ヨコナデ	回転ヘラケズリ、自然釉、ヨコナデ	5Y6/1 灰	2.5GY6/1 オリーブ灰	
0008	8d	SK308 5層	020912	須恵器	杯蓋	H-50	推 12.2	4.2		推 12.4	ヨコナデ	回転糸切痕、ヨコナデ	2.5Y7/3 浅黄		
0009	8d	SK308	020911	須恵器	杯蓋	H-44	推 11.7	4.0		推 12.0	ヨコナデ、ややス ス付着	回転ヘラケズリ、ヨコナデ	2.5Y6/1 黄灰		
0010	8d	SK308 1層	020912	須恵器	杯蓋	H-44	推 10.6	残 4.3		推 10.8	ヨコナデ	自然釉、ヘラケズリ 範囲不明、歪む	2.5Y6/1 黄灰	10Y4/2 オリーブ灰	
0011	9d	SK308	020828	須恵器	杯蓋	H-44	推 13.5	残 3.9		推 13.6	ヨコナデ	回転ヘラケズリ、ヨコナデ	7.5YR6/6 橙		
0012	9d	SK308	020911	須恵器	杯蓋	H-44	推 13.3	残 4.6		推 13.5	ヨコナデ	回転糸切痕、ヨコナデ	10YR7/1 灰白		
0013	8d	SK308	020911	須恵器	杯蓋	H-50	推 12.5	残 4.3		推 13.2	ヨコナデ	回転ヘラケズリ、ヨコナデ	2.5Y6/1 黄灰		
0014	8d	SK308	020827	須恵器	杯蓋	H-50	推 13.8	残 4.6		推 14.0	ヨコナデ	回転ヘラケズリ、ヨコナデ、自然釉	5Y6/1 灰	7.5Y4/2 灰オリーブ	
0015	9d	SK308	020911	須恵器	杯蓋	H-50	推 14.0	残 4.0		推 14.2	ヨコナデ	回転ヘラケズリ、ヨコナデ	10YR6/1 褐灰		
0016	8d	SK308	020827	須恵器	杯蓋	H-44	推 13.0	残 3.4		推 13.2	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y6/1 黄灰		
0017	8d	SK308 5層	020912	須恵器	杯蓋	H-44	推 14.0	残 3.5		推 14.2	ヨコナデ	回転ヘラケズリ、ヨコナデ	2.5Y5/1 黄灰		
0018	8d	SK308 5層	020912	須恵器	杯身	H-44	10.6	4.0		12.7	ヨコナデ	ヨコナデ、回転ヘラケズリ	N6/ 灰		
0019	9d	SK308	020911	須恵器	杯身	H-44	推 10.5	4.7		11.8	ヨコナデ	ヨコナデ、回転ヘラケズリ	7.5Y5/1 灰		
0020	9d	SK308	020911	須恵器	杯身	H-44	推 10.8	推 3.9		13.1	ヨコナデ	口縁部が折れ曲がり 波状、ヨコナデ、 回転ヘラケズリ	7.5Y5/1 灰		
0021	8d	SK308	020911	須恵器	杯身	H-50	10.6	4.1		12.1	ヨコナデ	ヨコナデ、自然釉、 回転ヘラケズリ	2.5Y6/1 黄灰		
0022	8d	SK308	020826	須恵器	杯身	H-44	推 11.4	残 4.4		推 13.0	ヨコナデ	ヨコナデ、ヘラケズリ	5Y5/1 灰		
0023	8d	SK308	020911	須恵器	杯身	H-44	推 11.0	5.0		推 13.6	ヨコナデ、見込み部 分を一方指すナデ?	ヨコナデ、回転ヘラケズリ	2.5Y7/2 灰黄		
0024	8d	SK308	020911	須恵器	杯身	H-44	推 11.8	4.4		推 13.2	ヨコナデ	ヨコナデ、回転ヘラケズリ	2.5Y6/1 黄灰		
0025	9d	SK308	020911	須恵器	杯身	H-44	10.9	4.7		12.9	ヨコナデ	ヨコナデ、回転ヘラケズリ、 刻線あり	7.5Y6/1 灰		
0026	8d	SK308 5層	020912	須恵器	杯身	H-44	推 11.4	4.7		推 13.5	ヨコナデ	ヨコナデ、回転ヘラケズリ、 刻線あり	7.5Y5/1 灰		
0027	9d	SK308	020911	須恵器	杯身	H-44	11.1	4.4		13.2	ヨコナデ、指頭 痕	ヨコナデ、回転ヘラケズリ、 刻線あり	10YR7/1 灰 白		
0028	8d	SK308	020827	須恵器	杯身	H-44	推 12.0	残 3.7		推 13.4	ヨコナデ	ヨコナデ、ヘラケズリ	10YR5/2 黄 灰褐		
0029	8d	SK308 5層	020912	須恵器	杯身	H-44	推 12.2	3.7		推 13.6	ヨコナデ	ヨコナデ、回転ヘラケズリ、 刻線あり	10YR6/1 褐 灰		
0030	9d	SK308	020827	須恵器	ハソウ	H-44	推 9.2	残 3.4		推 9.4	ヨコナデ	ヨコナデ、波状文	2.5Y6/1 黄灰		
0031	9d	SK308	020911	須恵器	高杯	H-44	推 11.6	残 2.9		推 12.0	ヨコナデ、自然釉	ヨコナデ、沈線、 刺突文	2.5Y6/1 黄灰		
0032	8d	SK308	020827	須恵器	高杯	H-44	推 15.4	残 4.8		推 15.6	ヨコナデ	ヨコナデ、刺突文	2.5Y6/1 黄灰		
0033	9d	SK308	020911	須恵器	高杯	7c代		残 2.1			ヨコナデ	ヨコナデ	5Y5/1 灰		
0034	8d	SK308 5層	020912	須恵器	高杯	H-44	残 5.9				ヨコナデ	自然釉、透かし三 方向にあり	2.5Y6/1 黄灰	7.5Y3/1 オリーブ黒	
0035	9d	SK308	020911	須恵器	高杯	H-11 前後		残 5.7			ヨコナデ	わずかに自然釉、 ヨコナデ	5Y6/1 灰		
0036	8d	SK308	020827	須恵器	高杯	H-44		残 2.7	推 11.8		自然釉	自然釉、透かし一 方向のみ残存	5Y7/1 灰		
0037	8d	SK308	020827	須恵器	高杯	H-44		残 1.9	推 12.2		ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR7/1 明褐灰		
0038	8d	SK308	020827	須恵器	高杯	H-44		残 1.2	推 10.4		ヨコナデ	ヨコナデ、自然釉	7.5YR7/1 明褐灰		
0039	9d	SK308	020827	須恵器	広口壺?	H-44	推 10.6	残 3.5			ヨコナデ	ヨコナデ、自然釉	2.5Y6/1 黄灰		
0040	8d	SK308 2層	020912	須恵器	高杯		推 14.4	残 3.6			ヨコナデ、自然釉	ヨコナデ	10YR6/1 灰黄褐		
0041	9d	SK308	020911	須恵器	瓶類	H-44	推 7.8	残 6.1			ヨコナデ	ヨコナデ、自然釉	2.5Y6/1 黄灰	5Y3/1 オリーブ黒	
0042	8d	SK308	020827	須恵器	鉢	H-44	推 13.1	残 3.9		推 13.7	ヨコナデ	ヨコナデ、回転ヘラケズリ	2.5Y7/2 灰黄		
0043	9d	SK308	020827	須恵器	鉢	H-44		残 4.6			ヨコナデ	ヨコナデ、回転ヘラケズリ	2.5Y6/1 黄灰		
0044	8d	SK308 1層	020912	須恵器	有蓋高杯蓋	6c代		残 1.8			自然釉	ヨコナデ、自然釉	5Y6/1 灰	10Y4/2 オリーブ灰	
0045	8d	SK308	020827	須恵器	鉢	H-44		残 2.8			ヨコナデ	ヨコナデ、静止ヘラケズリ、 刻線あり	2.5Y8/1 灰白		
0046	9d, 8d	SK308	020911	須恵器	広口壺	H-44	16.2	残 7.6			ヨコナデ、指オサ エ	ヨコナデ、タタキ、 スス付着	5Y6/1 灰		
0047	8d	SK308	020911	須恵器	甗	H-11?	推 29.6	残 8.4		推 30.0	ヨコナデ、ヨコ方 向にヘラケズリ	ヨコナデ、タタキ	5Y6/1 灰		
0048	9d, 8d	SK308 5層	020911	須恵器	鉢	H-44?	推 34.0	残 17.6			ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ、タタキ	2.5Y7/2 灰黄		

名古屋城三の丸遺跡 VII

図版番号	グッド	遺構番号	日付	産地・材質	器種	時期	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	内面	外面	胎土(外部)	軸1	備考
0049	8d	SK308	020911	須恵器	甗?	H-44	推 27.0	残 12.9		推 27.8	ヨコナデ、指オサエ、ヘラケズリ	ヨコナデ、タタキ	5Y7/1 灰白		
0050	8d	SK308 5層	020912	須恵器	甗	H-44?		残 8.9			指オサエ	ナデ、タタキ	5Y5/1 灰		
0051	8d, 9d	SK308	020806	須恵器	甗		推 24.6	33.2	推 14.4	推 25.6	ヨコナデ、タテ方向ヘラケズリ	ヨコナデ、タタキ、タテ方向ヘラケズリ	2.5Y8/2 灰白		
0052	8d	SK308 5層	020912	土師器	碗か高杯		推 12.4	残 3.5			ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR6/6 橙		
0053	9d	SK308	020828	土師器	小型壺		推 9.6	残 4.9			ヨコナデ	ヨコナデ	10YR8/3 浅黄橙		
0054	8d	SK308 5層	020912	土師器	甗		推 16.0	残 17.0		推 18.8	ハケ、全体にコゲ付着	ハケ、スス付着	7.5YR8/3 浅黄橙		
0055	9d	SK308	020827	土師器	甗		推 18.0	残 6.2			ヨコナデ?、ヨコメハケ	ヨコナデ?、ナメハケ	7.5YR8/3 浅黄橙		
0056	9d	SK308	020827	土師器	甗		推 18.0	残 6.3			ヨコナデ、スス付着、ハケ	ヨコナデ、風化し調整不明	5YR6/4 にぶい橙		
0057	9d	SK308	020911	土師器	甗		推 18.0	残 9.0			ヨコナデ、ハケ、コゲ付着	ヨコナデ、調整不明、スス付着	7.5YR7/3 にぶい橙		
0058	9d	SK308	020911	土師器	甗			残 15.4			ハケ、指オサエ	指オサエ後ハケ、スス付着	7.5YR6/2 灰褐		
0059	9d	SK308	020828	土師器	甗			残 3.6			ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、ハケ	10YR8/3 浅黄橙		
0060	9d	SK308	020827	土師器	甗		推 16.0	残 2.3			ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR8/4 浅黄橙		
0061	9d	SK308	020911	土師器	甗			残 3.0	推 7.0		調整不明(ヘラケズリか?)	ハケ、スス付着、底部調整不明	7.5YR5/3 にぶい褐		
0062	8d	SK308	020903	土師器	甗			残 3.2	推 6.1		調整不明、被熱のため紫赤色化する	ハケ、表面剥離?、スス付着	10YR3/1 黒褐		
0063	9d	SK308	020911	土師器	台付甗?			残 4.7			調整不明(ヘラケズリ?)	指オサエ	7.5YR8/4 浅黄橙		
0064	9d	SK308	020911	土師器	台付甗			残 3.6			調整不明、脚内部ヨコナデ	ハケ、スス付着、部分的にケズリ	7.5YR8/4 浅黄橙		
0065	8d	SK308 2層	020912	土製品	勾玉		残長1.45	残幅0.8	厚0.6		あて具痕	やや黒ずむ	7.5YR4/1 褐灰		
0066	8d	SK308 5層	020912	土製品	白玉			残 0.9		推 0.9	孔あり	側面に横方向の圧痕	10YR2/2 黒褐		
0067	8d	SK308 5層	020912	土製品	白玉			高 0.6		0.7	孔あり		2.5Y3/2 黒褐		
0068	8d	SK308 5層	020912	土製品	白玉			高 0.55		0.68	孔あり	縦方向圧痕	2.5Y2/1 黒		
0069	8d	SK308 1層	020912	土製品	白玉			残 0.4		0.71	孔あり		10YR2/2 黒褐		
0070	8d	SK308 5層	020912	石製品	白玉		上径0.41	高0.2	下径0.45		断面台形、孔あり	上面と裏面に欠損あり	C0-M0-Y10- BL60		
0071	11b	SB02	020821	須恵器	杯蓋	O-10 前後	推 16.0	2.6		推 16.2	ヨコナデ	回転ヘラケズリ、ヨコナデ、わずかに自然軸	5Y5/1 灰		
0072	11a	SB02 III	020826	須恵器	杯蓋	O-10 前後	推 14.4	残 1.3		推 14.6	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR6/3 にぶい黄橙		
0073	11a	SB02 III	020826	須恵器	杯蓋	C-2	推 17.3	残 1.2		推 17.5	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5GY6/1 オリブ灰		
0074	11b	SB02 下層	020821	須恵器	杯蓋	C-2	推 18.4	残 1.6		推 18.6	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y4/1 黄灰		
0075	11b	SB02 II	020909	須恵器	杯身	8c 代	推 16.8	残 2.8		推 17.0	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y5/1 黄灰		
0076	11b	SB02 IV	020826	須恵器	杯身	8c 代	推 16.0	残 3.3		推 16.2	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y5/1 黄灰		
0077	11b	SB02 下層	020821	須恵器	杯身	O-10 前後	推 14.0	3.4	推 10.0	推 14.0	ヨコナデ	ヨコナデ、回転ヘラケズリ、回転糸切痕	5Y5/1 灰		
0078	11a	SB02 III	020826	須恵器	杯身	O-10 前後		残 1.6	推 13.0		ヨコナデ	ヨコナデ、回転ヘラケズリ	2.5Y4/1 黄灰		
0079	11a	SB02 I	020826	須恵器	杯身	C-2	推 11.4	3.5	推 7.4	推 11.4	ヨコナデ	ヨコナデ、回転ヘラケズリ	7.5YR5/4 にぶい褐		
0080	11b	SB02	020821	須恵器	碗	C-2	推 11.8	4.1		推 12.0	ヨコナデ	ヨコナデ、ヘラケズリか?	2.5Y4/2 明灰黄		
0081	11a	SB02 I	020826	須恵器	杯身	C-2		残 2.7	推 7.2		ヨコナデ	ヨコナデ、回転ヘラケズリ	5YR5/4 にぶい赤褐		
0082	11b	SB0 下層	020821	須恵器	碗	C-2	推 10.6	残 3.9		推 10.8	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR7/3 にぶい黄橙		
0083	11a	SB02 I	020827	須恵器	杯身	O-10 前後		残 1.6	推 10.4		ヨコナデ	ヨコナデ、回転ヘラケズリ	5Y6/1 灰		
0084	11a	SB02 III	020826	須恵器	杯身	C-2		残 1.5	推 10.6		ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	2.5Y4/1 黄灰		
0085	11a	SB02 I	020826	灰釉陶器	皿	H-72		残 1.4	推 7.3		ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	10YR5/3 にぶい黄褐		
0086	11a	SB02 I	020826	灰釉陶器	碗	H-72		残 1.6	推 7.4		ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	10YR6/2 灰黄褐		
0087	11b	SB02 下層	020821	須恵器	壺	C-2	推 23.4	残 3.0			ヨコナデ	ヨコナデ、タタキ、わずかに自然軸	2.5Y5/1 黄灰		
0088	11a	SB02 I	020826	土師器	甗		推 14.6	残 2.5		推 15.0	調整不明、被熱	調整不明、被熱	7.5YR6/3 にぶい褐		
0089	11a	SB02 I	020826	土師器	甗		推 18.2	残 2.3			ヨコナデ、ハケ?	ヨコナデ	10YR7/3 にぶい黄橙		
0090	11a	SB02 I	020826	土師器	甗	8c 代	推 22.0	残 2.1			ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR7/4 にぶい橙		
0091	11b	SB02-07 境界	020910	土師器	甗	8c 代		残 4.1			ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、指オサエ、ハケ	7.5YR5/4 にぶい褐		
0092	11a	SB02 I	020827	土師器	甗			残 3.4			ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR5/6 明褐		
0093	11a	SB02 I	020826	土師器	甗	8c 代		残 2.4			ヨコナデ	ヨコナデ	10YR7/3 にぶい黄橙		
0094	11a	SB02 I	020826	土師器	甗		推 22.0	残 3.4			調整不明(ヨコナデ?)	調整不明(ヨコナデ?)	7.5YR7/6 橙		
0095	11b	SB02 IV	020826	土師器	甗	8c 代		残 7.7			ヨコナデ、指オサエのちハケ	ヨコナデ、ハケ	7.5YR7/4 にぶい橙		
0096	11b	SB02 下層	020821	須恵器	甗	7c ?		残 1.6			ヘラケズリ	ヘラケズリ	2.5Y8/2 灰白		
0097	11b	SB02 II	020826	土師器	甗			残 4.2	推 6.0		指オサエ、表面剥離	ハケ、木葉痕?	5YR6/4 にぶい橙		
0098	11b	SB02 II	020826	土師器	甗			残 3.0	推 6.0		指オサエ	調整不明、被熱	5YR6/6 橙		



遺物一覧表

図版番号	グッド	遺物番号	日付	産地・材質	器種	時期	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	内面	外面	胎土(外部)	軸1	備考
0099	12b	SB07 IV	020828	須恵器	杯蓋	C-2 or I-41	15.4	3.5		16.0	ヨコナデ、スス付着	回転ヘラケズリ、ヨコナデ	2.5Y6/1 黄灰		
0100	12a	SB07 III	020902	須恵器	杯蓋	C-2	推 17.6	残 1.8		推 18.0	ヨコナデ	ヨコナデ、自然軸	2.5Y6/1 黄灰		
0101	12b	SB07 IV	020903	須恵器	杯蓋	C-2	推 15.0	残 1.9		推 15.2	ヨコナデ	回転ヘラケズリ、自然軸、ヨコナデ	2.5Y3/2 黒褐		
0102	12a	SB07 III	020903	須恵器	杯身	I-41	推 12.4	4.5	推 6.2	推 12.6	ヨコナデ、底部自然軸	ヨコナデ、自然軸、回転ヘラケズリ	2.5Y5/1 黄灰		
0103	11b	SB07 IV	020902	須恵器	杯身	不明	推 15.6	残 3.2		推 16.0	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y6/1 黄灰		
0104	12a	SB07	020906	須恵器	杯身	不明	推 15.8	残 2.0		推 16.1	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR6/3 にぶい黄橙		
0105	12a	SB07 III	020903	須恵器	杯身	C-2		残 1.7	推 11.8		ヨコナデ	ヨコナデ、回転ヘラケズリ	10YR5/3 にぶい黄褐		
0106	12-	SB07	020905	須恵器	杯身	I-17 or C-2		残 1.7	推 12.0		ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR4/1 褐灰		
0107	11a	SB07 I, II	020827	須恵器	杯身	I-17 or C-2		残 1.2	推 8.8		ヨコナデ	ヨコナデ、回転ヘラケズリ	10YR5/2 灰黄褐		
0108	12b	SB07 IV	020903	須恵器	杯身	不明		残 3.3			ヨコナデ	ヨコナデ、自然軸	10YR4/1 褐灰		
0109	12a	SB07 III	020903	須恵器	杯身	不明		残 2.8			ヨコナデ	ヨコナデ、自然軸	2.5Y5/1 黄灰		
0110	12b	SB07 IV	020903	須恵器	杯身	I-17 or C-2		残 1.2			ヨコナデ	ヨコナデ、回転ヘラケズリ	10YR6/1 褐灰		
0111	12b	SB07 IV	020903	須恵器	鉢	I-25	推 13.4	残 2.8		推 14.0	ヨコナデ、ヘラケズリ?	ヨコナデ	2.5Y6/1 黄灰		
0112	11b	SB07 I, II	020904	須恵器	甗	7c		残 1.3			ヘラケズリ	ヘラケズリ	5Y8/1 灰白		
0113	12a	SB07 III	020903	土師器	甗	8c 代		残 2.2			ヨコナデ、ハケ	調整不明	7.5YR7/6 橙		
0114	11a	SB07 I	020905	土師器	甗			残 2.0			調整不明	調整不明	10YR7/3 にぶい黄橙		
0115	12b	SB07 IV	020905	土師器	甗	8c 代	推 23.4	残 3.2			調整不明	調整不明	7.5YR7/4 にぶい橙		
0116	12a	SB07 III	020903	土師器	製塩土器?		推 10.4	残 5.0		推 10.6	ヨコナデ、指オサエ	ヨコナデ、指オサエ	10YR7/3 にぶい黄橙		
0117	12b	SB07 IV	020808	土師器	甗		推 16.4	残 4.8		推 16.6	ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、調整不明	7.5YR7/6 橙		
0118	12b	SB07 IV	020808	土師器	甗		推 25.6	残 2.1			ヨコナデ、ヨコハケ	ヨコナデ、タテハケ	10YR7/3 にぶい黄橙		
0119	11b	SB09	020905	須恵器	壺蓋	NN32		残 3.5	推 12.0		ヨコナデ	回転ヘラケズリ、ヨコナデ、自然軸	5Y5/1 灰		
0120	11b	SB09	020905	須恵器	杯身?	8c 代		残 2.8			ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR5/3 にぶい褐		
0121	11g	SB03 III	020821	須恵器	杯蓋	C-2	推 14.3	残 1.7			ヨコナデ	回転ヘラケズリ、重ね焼き痕、ヨコナデ	10Y6/1 灰		
0122	11g	SB03 IV	020821	須恵器	杯身	7~8c 代	推 14.6	残 3.2		推 14.8	ヨコナデ	ヨコナデ	5YR4/2 灰褐		
0123	11g	SB03 IV	020822	須恵器	碗 A	I-41 前後	推 13.8	残 4.0		推 14.0	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR5/3 にぶい褐		
0124	11g	SB03 IV	020822	灰軸陶器	碗	O-53		残 1.4	推 7.6		ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	7.5YR6/2 灰褐		
0125	11g	SB03 III	020912	須恵器	ハソウ	I-17	推 11.6	残 3.8		推 11.6	ヨコナデ	ヨコナデ	5Y6/1 灰		
0126	11g	SB03 I	020821	須恵器	鉄鉢	C-2		残 4.0			ヨコナデ	ヨコナデ、自然軸	2.5Y4/1 黄灰		
0127	11g	SB03 IV	020822	須恵器	有蓋高杯	H-11		残 1.2	推 8.4		ヨコナデ	ヨコナデ	10Y4/1 灰		
0128	11g	SB03 IV	020822	須恵器	高杯	6c 代		残 0.9			ヨコナデ	ヨコナデ	7.5Y4/1 灰		
0129	11g	SB03 IV	020911	須恵器	高杯	H-44		残 5.4	推 10.0		ヘラケズリ?、ヨコナデ	ヨコナデ、自然軸? 表面剥離	5Y7/1 灰白		
0130	11g	SB03 IV	020911	須恵器	高杯	H-44		残 2.2	推 12.6		ヨコナデ	ヨコナデ	5Y4/1 灰		
0131	11g	SB03 IV	020822	須恵器	壺?	不明		残 3.8			ヨコナデ	ヨコナデ、自然軸	2.5Y5/1 黄灰		
0132	11g	SB03 IV	020822	須恵器	壺	H-44	推 12.8	残 5.1			ヨコナデ	ヨコナデ、ミカキ?	10YR5/1 褐灰		
0133	11g	SB03 III	020821	須恵器	甗	7c 代?	長軸 4.9	短軸 4.2	厚 2.1		ヘラケズリ	ヘラケズリ	2.5Y7/1 灰白		
0134	11g	SB03 I	020821	須恵器	甗	7c 後		残 3.9				指オサエ?	2.5Y7/1 灰白		
0135	11g	SB03 III	020822	土師器	甗			残 2.3			調整不明	調整不明	7.5YR7/4 にぶい橙		
0136	12f	SB05 III	020823	須恵器	杯蓋	H-44		残 2.9			ヨコナデ	ヨコナデ、一部自然軸	N5/ 灰		
0137	12f	SB05 III	020823	須恵器	杯身	H-44		残 3.2			ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y6/1 黄灰		
0138	12f	SB05 III	020823	須恵器	杯身	H-44	推 12.0	残 3.3		推 13.9	ヨコナデ、自然軸	ヨコナデ、自然軸	2.5Y5/1 黄灰		
0139	12f	SB05 IV	020823	須恵器	高杯	H-44	推 13.6	残 3.5			ヨコナデ	ヨコナデ、一部自然軸、波状文	C30-M40-Y60-BL60		
0140	12f	SB05 IV	020823	須恵器	高杯	H-44		残 1.8	推 8.2		ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y5/1 黄灰		
0141	12h	SB05 IV	020912	須恵器	壺類	H-44		残 3.3			ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y6/2 灰黄		
0142	12f	SB05 III	020823	須恵器	甗または鉢	不明		残 3.8			ヨコナデ	ヨコナデ	5Y6/1 灰		
0143	12g	SB05	020912	須恵器	高杯	6c 代		残 4.4	推 8.6		ヨコナデ	ヨコナデ、透かし三方向にあり	2.5Y6/1 黄灰		
0144	12h	SB05 IV	020912	須恵器	高杯	H-11		残 1.8			ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y6/1 黄灰		
0145	12h	SB05 IV	020912	須恵器	甗	7c 代		残 7.5			ナデ、指オサエ	ヘラケズリ	10YR6/2 灰黄褐		
0146	11b	SB04 III	020822	須恵器	杯蓋	C-2		残 1.4			ヨコナデ、一部スス付着	ヨコナデ	10YR5/1 褐灰		
0147	11b	SB04 III	020822	須恵器	杯身	不明	推 13.8	残 2.9		推 14.0	ヨコナデ	ヨコナデ、自然軸	7.5YR4/1 褐灰		
0148	10c	SB04 II	020823	須恵器	杯身	I-41		残 1.5	3.9		ヨコナデ	ヨコナデ、ヘラケズリ、静止糸切痕?	7.5YR7/6 橙、10YR5/2 灰黄褐		
0149	11c	SB04 IV	020823	灰軸陶器	皿	H-72		残 1.6	推 7.7		ヨコナデ	ヨコナデ、灰軸、回転糸切痕	10YR7/2 にぶい黄橙		
0150	11c	SB04 II	020822	須恵器	高杯	H-44		残 5.1			ヨコナデ	ヨコナデ、一部自然軸、三方向透かしあり	2.5Y6/1 黄灰		
0151	10c	SB04 II	020823	須恵器	高杯	不明		残 2.9	推 8.6		ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y6/1 黄灰		
0152	11c	SB04 ベルト	020903	須恵器	高杯	H-50		残 1.3	推 8.4		ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y5/1 黄灰		
0153	10d	SB04 II	020822	須恵器	高杯?	H-44		残 5.6			ヨコナデ、自然軸	ヨコナデ、自然軸、透かしあり	2.5Y6/1 黄灰		
0154	10d	SB04 II	020822	土師器	甗			残 1.1	推 5.6		調整不明	調整不明、木葉痕あり	5YR6/6 橙		
0155	10c	SB04 II	020823	土師器	高杯			残 3.3			調整不明	調整不明	10YR7/4 にぶい黄橙		

名古屋城三の丸遺跡 VII

図版番号	グッド	遺構番号	日付	産地・材質	器種	時期	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	内面	外面	胎土(外部)	釉1	備考
0156	11c	SB04 IV	020823	須恵器	甗?	H-44	推 25.8	残 11.8		推 27.0	ヨコナデ、ハケ?	ヨコナデ、タテ方向ヘラケズリ	10YR8/3 浅黄橙		
0157	10c	SB04 II	020823	東濃型山茶碗類	山茶碗	脇之島	推 12.9	残 3.0	推 4.9	推 13.4	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y7/2 灰黄		
0158	10c	SB04 II	020823	尾張型山茶碗類	小皿	7型式	推 7.9	1.5		推 8.0	ヨコナデ、自然釉あり、一方向ナデ	ヨコナデ、自然釉あり、回転糸切痕	5Y7/1 灰白		
0159	10c	SB08 I	020829	須恵器	有蓋高杯蓋?	6c 代		残 1.8			ヨコナデ	回転ヘラケズリの放射状ミガキ	5Y5/1 灰		
0160	10d	SB08 II	020910	須恵器	杯蓋	C-2		残 1.4			ヨコナデ	回転ヘラケズリ、ヨコナデ	10YR7/3 にふい黄橙		
0161	10c	SB08 I	020829	須恵器	杯蓋	O-10		残 1.1			ヨコナデ、自然釉	ヨコナデ、自然釉	7.5YR3/4 暗褐		
0162	11c	SB08 III	020910	須恵器	杯蓋	H-44以前		残 4.3		推 13.8	ヨコナデ	回転ヘラケズリ、ヨコナデ	2.5Y5/1 黄灰		
0163	10c	SB08 I	020829	灰釉陶器	碗	K-90		残 1.5	推 6.8		ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕、黒色付着物あり	5Y7/1 灰白		
0164	10d	SB08 II	020827	灰釉陶器	碗	K-90		残 1.9			灰釉	灰釉	2.5Y6/1 黄灰		
0165	10d	SB08 II	020827	須恵器	杯身	O-10前後		残 1.5	推 13.2		ヨコナデ	ヨコナデ、回転ヘラケズリ	2.5YR5/6 明赤褐		
0166	10d	SB08 II	020827	須恵器	高杯	H-11前後		残 1.6	推 7.6		ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y5/1 黄灰		
0167	10c	SB08 I	020909	須恵器	壺	H-11前後		残 2.9			自然釉剥離、ヨコナデ	自然釉剥離、ヨコナデ	7.5Y4/1 灰		
0168	11d	SB08 IV	020904	須恵器	高杯	H-11前後		残 1.7	推 8.0		ヨコナデ	ヨコナデ	10YR5/1 褐灰		
0169	10c	SB08 I	020917	須恵器	高杯	H-11前後		残 1.6			ヨコナデ	ヨコナデ	10Y6/1 灰		
0170	10c	SB08 I	020829	土製品	土鍾			長 4.1		1.3	調整不明	指オサエ	2.5Y6/2 灰黄		
0171	10d	SB08 II	020827	須恵器	甗	O-10以降		残 7.3			ヨコナデ、自然釉	ヨコナデ、自然釉	C40-M30- Y40-BL10		
0172	10c	SB08 I	020829	土師器	甗	三河型	推 16.0	残 1.4			調整不明	調整不明	10YR8/2 灰白		
0173	10c	SB08 I	020829	土師器	甗		推 20.0	残 8.2		推 20.8	ヨコナデ、ハケ、コゲ付着	ヨコナデ、調整不明(ハケ?)、被熱	2.5Y7/2 灰黄		
0174	10c	SB08 I	020917	土師器	甗	9c 代?	推 19.8	残 7.1		推 20.1	ヨコナデ、ハケ、ケズリ?、スス付着	ヨコナデ、ハケ、よく被熱	2.5YR6/6 橙		
0175	10d	SB08 II	020829	土師器	甗	8c 代		残 3.0	推 7.2		調整不明	調整不明(ハケ?)	5YR6/4 にふい橙		
0176	12e	SB06 III	020826	須恵器	杯蓋	H-61	推 14.8	残 5.4		推 15.4	ヨコナデ	回転ヘラケズリ?、ヨコナデ、若干自然釉	2.5Y5/1 黄灰		
0177	12e	SB06 III	020823	須恵器	杯身	H-61	推 13.8	残 6.0		推 16.4	ヨコナデ	ヨコナデ、回転ヘラケズリ	2.5Y6/1 黄灰		
0178	12e	SB06	020904	土師器	甗		推 13.8	残 3.7			調整不明(ヨコナデ?)	調整不明(ヨコナデ?)	10YR7/2 灰白		
0179	—	SB06 ベルト	020911	須恵器	壺	7~8c		残 9.4			指オサエのちヨコナデ	タタキ、沈線	2.5Y6/1 黄灰		
0180	—	SK331	020910	土師器	小型壺		推 7.7	9.8		10.0	ヨコナデ、指オサエ、ナデ	ヨコナデ、指オサエ、ハケ	7.5YR7/6 橙		
0181	11e	SK339	020903	須恵器	杯蓋	H-11	11.2	4.8		11.8	ヨコナデ	回転ヘラケズリ	2.5Y6/1 黄灰		
0182	11e	SK339	020902	須恵器	杯蓋	城山2	推 11.0	5.2		推 12.0	ヨコナデ	回転ヘラケズリ	2.5Y8/1 灰白		
0183	11e	SK339	020903	土師器	甗			残 2.5			ヨコナデ、ヨコハケ	ヨコナデ	7.5YR6/6 橙		
0184	12a	SK359	020909	須恵器	杯蓋	H-50	10.8	3.7		11.1	ヨコナデ	回転ヘラケズリ、ヨコナデ	2.5Y6/1 黄灰		
0185	—	SX08	020910	須恵器	高杯	H-11	推 9.2	残 5.2			ヨコナデ	ヨコナデ、回転ヘラケズリ	5Y5/1 灰		
0186	—	SK353	020910	須恵器	杯蓋	6c 後	推 11.8	残 3.6			ヨコナデ	ヘラケズリ、ヨコナデ	C40-M30- Y30-BL30		
0187	—	SK353	020910	土師器	台付甗	松河戸II式		残 5.5	8.6		調整不明、指オサエ	指オサエナデ	7.5YR6/4 にふい橙		
0188	—	SK353	020910	土師器	台付甗			残 4.4	8.2~8.6		指オサエ	ヨコナデ?	7.5YR6/3 にふい褐		
0189	—	SK353	020910	土師器	甗	松河戸I or II	推 18.0	残 7.9			ヨコナデ、調整不明	ヨコナデ、調整不明	10YR8/3 浅黄橙		
0190	11d	SK382	020903	須恵器	器台	6c		残 6.2			透かしあり、ヨコナデ	透かしあり、ヨコナデ、波状文	10YR6/1 褐灰	7.5Y3/2 オリーブ黒	
0191	10d	SK425	020911	須恵器	杯身	C-2	推 12.6	4.6	5.9	12.8	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕のちヘラケズリ	2.5Y5/1 黄灰		
0192	11b	SK412	020909	土師器	甗		推 22.0	残 9.5		推 22.8	ヨコナデ、指オサエ?	ヨコナデ、部分的にハケ残存、指オサエ?	10YR7/4 にふい黄橙		
0193	12b	SK589	020917	土師器	甗	~8c前半	推 19.0	残 5.3		推 20.2	ヨコナデ、ケズリ?	ヨコナデ、ハケ	10YR6/3 にふい黄橙		
0194	12b	SK589	020917	土師器	甗	8c 代		残 4.2			ヨコハケ、不明	ヨコナデ、ハケ	10YR7/2 にふい黄橙		
0195	12b	SK589	020917	土師器	甗	8c 代	推 23.8	残 4.4		推 24.0	ハケ、不明	ナデ、ハケ	10YR7/3 にふい黄橙		
0196	11c	SK188	020725	灰釉陶器	碗	O-53以降	推 16.0	残 2.6		推 16.2	ヨコナデ、灰釉	ヨコナデ、灰釉	10YR6/2 灰黄褐		
0197	11c	SK188	020725	白色軟質陶器	皿			残 1.2	推 5.8		ヨコナデ	ヨコナデ、底部調整不明	5Y8/1 灰白		
0198	13a	SK582	020910	灰釉陶器	皿	K-90		残 1.3	推 7.0		ヨコナデ	ヨコナデ、回転ヘラケズリ	2.5Y7/1 灰白		
0199	11c	SD32	020730	灰釉陶器	皿	H-72		残 1.9	推 6.6		ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕のちヘラケズリ	10YR7/2 にふい黄橙		
0200	12e	SK235	020729	緑釉陶器	皿	篠岡K-90前後		残 1.8	推 6.0		ヨコナデ、緑釉(鉛)	ヨコナデ、回転ヘラケズリ、緑釉、磨滅する	2.5Y5/1 黄灰	10Y4/2 オリーブ灰	
0201	12e	SK235	020730	灰釉陶器	皿	K-90		残 1.1	推 7.4		ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	5Y7/1 灰白		
0202	12e	SK235	020730	須恵器	甗か鍋	7c 代		残 9.7			ヨコナデ、浅い沈線	ヨコナデ、タタキ	5Y5/1 灰		
0203	—	表採	020920	土師器	S字甗D類新	松河戸II式	推 11.8	残 4.4			ヨコナデ、下半調整不明、スス付着	ヨコナデ、表面が全体的に剥離する	7.5YR7/3 にふい橙		
0204	10e	東トレンチ	020514	土師器	S字甗D類新	松河戸II式	推 12.0	残 3.7			ヨコナデ、下半調整不明	ヨコナデ、あらいハケ	10YR7/2 にふい黄橙		
0205	10d	検出皿	020806	土師器	S字甗D類	松河戸II式	推 13.8	残 2.9			ヨコナデ	ヨコナデ、あらいハケ	10YR7/4 にふい黄橙		

遺物一覧表

図版番号	グッド	遺構番号	日付	産地・材質	器種	時期	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	内面	外面	胎土(外部)	軸I	備考
0206	10e	SK215	020720	土師器	S字甕D類新	松河戸II式	推 15.0	残 4.6			ヨコナデ、下半調整不明	ヨコナデ、あらいハケ	10YR7/3にぶい黄橙		
0207	12h	検出III	020813	土師器	宇田型甕	松河戸II式	推 12.2	残 3.2			ヨコナデ	ヨコナデ、あらいハケ	7.5YR7/6 橙		
0208	11b	検出III	020808	土師器	甕		12.7	12.9	6.0	13.4	ハケ、下半調整不明、指オサエ	ヨコナデ、指オサエ、ハケ、木葉痕あり?	7.5YR8/4 浅黄橙		
0209	11e	検出III	020808	土師器	鉢?	7c代	推 12.4	残 4.6			ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、ハケ	7.5YR6/4にぶい橙		
0210	9d	検出III	020806	土師器	高杯	松河戸II式	推 13.6	残 5.9			ヨコナデ	ヨコナデ	10YR6/3にぶい黄橙		
0211	13f	SK50	020613	土師器	高杯	松河戸II式	推 14.0	残 3.4			ヨコナデ	ヨコナデ	5YR7/6 橙		
0212	9d	検出III	020806	土師器	高杯	松河戸II式	推 17.2	残 5.0			ヨコナデ	ヨコナデ	10YR5/3にぶい黄褐		
0213	12e	検出III	020808	土師器	甕	松河戸II式		残 5.5	推 10.0		上部調整不明、指オサエ、ヨコナデ	ハケ、指オサエ	10YR6/3にぶい黄橙		
0214	13h	検出II	020911	土師器	甕	松河戸II式		残 5.5	推 9.0		上部調整不明、指オサエ?	指ナデ?	10YR6/2 灰黄褐		
0215	—	SX02 南西	020624	土師器	甕	松河戸II式		残 4.5	8.8		上部調整不明、指オサエ	指オサエ	10YR6/3にぶい黄橙		
0216	10e	SK215	020720	土師器	甕	松河戸II式		残 3.0			上部調整不明、指オサエ	ハケ	10YR7/3にぶい黄橙		
0217	13e	SK38 ベルト	020712	土師器	高杯?	山中式新段階		残 4.5			上部調整不明、ハケ	赤彩、ハケ	10YR7/3にぶい黄橙		
0218	11e	検出III	020827	土師器	甕	松河戸II式		残 2.5			上部調整不明	上部調整不明	10YR6/4にぶい黄橙		
0219	10c	検出III	020807	土師器	甕	松河戸II式		残 2.3			上部調整不明、指オサエ	上部調整不明、ハケ?、スス付着	7.5YR6/6 橙		
0220	11e	検出III	020808	土師器	甕	山中へ廻間		残 3.0	推 6.4		調整不明	調整不明	10YR8/3 浅黄橙		
0221	11e	検出III	020808	土師器	筒形土製品	山中へ廻間		残 3.9	3.8		しぼり	ナデ?	5YR6/6 橙		
0222	12b	検出III	020805	土師器	甕			残 1.8	推 7.0		指オサエ	ハケ、木葉痕あり	10YR6/2 灰黄褐		
0223	9d	検出III	020806	土師器	高杯	松河戸II式		残 5.8			しぼり、ヘラケズリ、ヨコナデ	タテ方向ケズリ?、ヨコナデ	7.5YR6/6 橙		
0224	10d	検出III	020806	土師器	高杯	松河戸II式		残 5.0	推 7.4		ヘラケズリ、ヨコナデ	タテ方向ヘラケズリ、ヨコナデ	10YR6/3にぶい黄橙		
0225	8d	SK73	020624	土師器	甕	8c代	推 19.4	残 7.7			調整不明	調整不明	10YR7/1 灰白		
0226	11f	検出III	020812	土師器	甕 伊勢型	6c代	推 18.0	残 3.3			ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ	10YR7/4にぶい黄橙		
0227	11g	検出III	020812	土師器	甕 伊勢型?	6~7c代	推 21.8	残 2.4			ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ	10YR6/3にぶい黄橙		
0228	11j	SK147	020705	土師器	甕 尾張型	8c代	推 19.0	残 5.8			ハケ、指オサエ	ヨコナデ、ハケ	5YR6/6 橙		
0229	12g	検出III	020813	土師器	甕 尾張型	8c前半	推 19.4	残 4.5			ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、ハケ	7.5YR6/4にぶい橙		
0230	11f	検出III	020812	土師器	甕 尾張型	8c代	推 22.6	残 9.8		推 23.0	ヨコナデ、ハケ、指オサエ、ヘラケズリ	ヨコナデ、ハケ	10YR6/6 明黄褐		
0231	8d	検出III	020806	土師器	甕 三河型	8c代	推 26.0	残 4.2			調整不明	調整不明	2.5Y4/2 暗灰黄		
0232	12b	検出III	020822	土師器	甕	不明	推 24.0	残 3.6			細かいハケ	指オサエの後ハケまたはヘラケズリ	10YR7/2にぶい黄橙		
0233	11f	検出III	020809	土師器	甕 伊勢型	6~7c		残 2.6			調整不明	調整不明	10YR7/3にぶい黄橙		
0234	11g	検出III	020812	土師器	甕	8c代		残 1.9			ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR7/6 橙		
0235	11e	検出III	020809	土師器	甕 三河型	8c代		残 2.6			調整不明	調整不明	2.5Y8/1 灰白		
0236	10c	検出III	020814	土師器	甕 三河型	8c代		残 1.3			調整不明	調整不明	2.5Y7/1 灰白		
0237	10c, 10e, 11e	東トレンチ	020514	土師器	甕			残 8.9			ヨコナデ、指オサエ	ハケの後ヨコナデ	10YR5/3にぶい黄褐		
0238	13f	南トレンチ	020507	土師器	甕			残 4.6			ケズリ?、ハケ	タテハケ	5YR6/6 橙		
0239	—	表探	—	土製品	支脚?			残 5.9			—	ヘラケズリ?	2.5YR5/8 明赤褐		
0240	9d	検出III	020813	土製品	土鈴または鏝状製品			残 2.4			—	線刻・穿孔あり	2.5Y6/3にぶい黄		
0241	9d	検出II	020720	土製品	製塩土器			残 2.5			—	指オサエ	2.5Y5/2 暗灰黄		
0242	12a	検出III	020822	土製品	土錘			残 3.1			—	指オサエ	7.5YR6/2 灰褐		
0243	11e	検出III	020808	須恵器	有蓋高杯蓋	H-11	11.1	6.3		12.3	ヨコナデ	回転ヘラケズリ、ヨコナデ	N6/ 灰		
0244	13b	検出III	020827	須恵器	有蓋高杯蓋	H-11	10.5	残 5.5		11.9	ヨコナデ	回転ヘラケズリ、ヨコナデ	2.5Y6/1 黄灰		
0245	11e	検出III	020808	須恵器	有蓋高杯蓋	6c代		残 4.9		推 10.4	ヨコナデ	自然釉、ヨコナデ	2.5Y6/1 黄灰		
0246	11e	検出III	020808	須恵器	有蓋高杯蓋	H-11		残 2.4			ヨコナデ	ヨコナデ、回転ヘラケズリ	7.5Y3/1 オリーブ黒		
0247	11e	検出III	020809	須恵器	杯蓋	H-11	推 11.2	4.7		推 12.6	ヨコナデ	回転ヘラケズリ、ヨコナデ、自然釉、融着	2.5Y4/1 黄灰	7.5Y4/3 暗オリーブ	
0248	11e	検出III	020808	須恵器	杯蓋	H-11		残 4.4		推 12.6	ヨコナデ	回転ヘラケズリ、ヨコナデ	5Y6/1 灰		
0249	11e	検出III	020808	須恵器	有蓋高杯蓋	H-61	11.6	残 4.5		12.0	ヨコナデ、歪む	回転ヘラケズリ、ヨコナデ、自然釉	2.5Y5/1 黄灰		
0250	11e	検出III	020808	須恵器	杯蓋	H-44	推 9.2	残 4.0		推 10.0	ヨコナデ	回転ヘラケズリ、ヨコナデ	2.5Y4/1 黄灰		
0251	13f	南トレンチ	020507	須恵器	杯蓋	H-44	推 12.2	残 3.4		推 12.2	ヨコナデ	回転ヘラケズリ、ヨコナデ	5Y4/1 灰		
0252	13f	南トレンチ	020507	須恵器	杯蓋	H-44		残 3.3		推 13.9	ヨコナデ	回転ヘラケズリ、ヨコナデ	5Y4/1 灰		
0253	11h	検出III	020813	須恵器	杯蓋	H-11	推 13.9	残 2.6		推 14.0	ヨコナデ	ヨコナデ	5YR5/4にぶい赤褐		
0254	11e	検出III	020809	須恵器	杯蓋	H-11	推 11.2	残 4.1		推 12.0	ヨコナデ	ヨコナデ	5Y4/1 灰		
0255	13f	南トレンチ	020507	須恵器	杯蓋	H-11	推 14.8	残 3.0		推 15.4	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y8/1 灰白		
0256	10e	東トレンチ	020514	須恵器	杯身	H-11	4.6~5.0	4.9	推 5.2	11.8	ヨコナデ	ヨコナデ、回転ヘラケズリ	2.5Y5/4にぶい赤褐		
0257	13f	南トレンチ	020507	須恵器	杯身	H-11		残 3.6		推 14.6	ヨコナデ	ヨコナデ、回転ヘラケズリ	2.5Y6/1 黄灰		

名古屋城三の丸遺跡 VII

図版番号	グッド	遺構番号	日付	産地・材質	器種	時期	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	内面	外面	胎土(外部)	釉1	備考
0258	11e	検出皿	020827	須恵器	杯身	H-11		残 4.5	推 3.6	推 11.4	ヨコナデ	ヨコナデ、一部自然釉、回転ヘラケズリ	10YR6/1 灰		
0259	8e	SK291	020823	須恵器	杯身	H-11	推 11.8	残 4.4		推 14.6	ヨコナデ	ヨコナデ、回転ヘラケズリ	2.5YR6/8 橙		
0260	10d	検出皿	020806	須恵器	杯身	H-11	推 5.8~11.8	5.1	5.4	推 9.2~12.4	ヨコナデ、歪む	ヨコナデ、回転ヘラケズリ	5Y4/1 灰		
0261	10d	SK240	020730	須恵器	杯身	H-11	推 7.8	4.2	推 6.4	推 10.2	ヨコナデ	ヨコナデ、わずかに自然釉、回転ヘラケズリ	7.5Y4/1 灰		
0262	10e	検出皿	020808	須恵器	杯身	城山2	推 11.8	4.0		推 14.2	ヨコナデ	ヨコナデ、ヘラケズリ	5Y6/1 灰		
0263	13f	南トレンチ	020507	須恵器	杯身	H-61	推 9.6	残 4.9		推 11.8	ヨコナデ	ヨコナデ、回転ヘラケズリ	7.5YR6/4 にぶい橙		
0264	9d	検出皿	020806	須恵器	杯身	H-61	推 9.9	残 4.3		推 12.4	ヨコナデ	ヨコナデ、回転ヘラケズリ	N5/ 灰		
0265	9d	検出皿	020806	須恵器	杯身	H-44	推 10.9	4.2	3.4	推 12.8	ヨコナデ	ヨコナデ、回転ヘラケズリ	N6/ 灰		
0266	8d	SK73	020624	須恵器	杯身	H-44	推 12.2	4.2	推 4.6	推 14.0	ヨコナデ	ヨコナデ、回転ヘラケズリ	10YR6/1 褐灰		
0267	10d	検出皿	020806	須恵器	杯身	H-44		残 3.8			ヨコナデ	ヨコナデ、蓋融着、自然釉、ヘラケズリ	10YR6/1 褐灰		
0268	13f	南トレンチ	020507	須恵器	杯身	H-44		残 2.6			ヨコナデ	ヨコナデ、自然釉、ヘラケズリ	10YR5/2 灰黄褐		
0269	—	検出皿	020830	須恵器	杯蓋	C-2		残 1.7			ヨコナデ	ヨコナデ、回転ヘラケズリ	2.5Y4/2 暗灰黄		
0270	9d	検出皿	020806	須恵器	杯蓋	不明		残 1.6			ヨコナデ	ヨコナデ	5YR6/6 橙		
0271	11e	検出皿	020802	須恵器	杯蓋	C-2		残 2.7			ヨコナデ	ヨコナデ、ヘラケズリ、ヨコナデ	2.5Y5/1 黄灰		
0272	11e	検出皿	020809	須恵器	杯蓋	C-2		残 1.7			ヨコナデ	ヨコナデ、回転ヘラケズリ	10YR5/6 黄褐		
0273	12c	検出皿	020807	須恵器	杯蓋	C-2		残 1.3			ヨコナデ	ヨコナデ、回転ヘラケズリ	2.5Y6/1 黄灰		
0274	11c	検出皿	020808	須恵器	杯蓋	C-2		残 1.6			ヨコナデ	ヨコナデ、回転ヘラケズリ	5Y6/1 灰		
0275	11c	検出皿	020816	須恵器	杯蓋	不明		残 1.6			ヨコナデ	ヨコナデ	10YR6/1 褐灰		
0276	11e	検出皿	020809	須恵器	杯蓋	C-2	推 13.8	残 1.8		推 14.0	ヨコナデ	回転ヘラケズリ、ヨコナデ	7.5YR6/6 橙		
0277	11e	検出皿	020808	須恵器	杯蓋	O-10	推 13.8	残 2.2		推 14.1	ヨコナデ	回転ヘラケズリ、ヨコナデ	2.5YR5/6 明赤褐		
0278	11e	検出皿	020809	須恵器	杯蓋	O-10	推 13.8	残 2.3		推 14.2	ヨコナデ	回転ヘラケズリ、ヨコナデ	10YR6/3 にぶい黄橙		
0279	11f	検出皿	020812	須恵器	杯蓋	O-10	推 14.2	残 1.5		推 14.4	ヨコナデ	回転ヘラケズリ、ヨコナデ	7.5YR5/2 灰褐		
0280	11c	検出皿	020807	須恵器	杯蓋	O-10	推 14.8	残 1.8		推 15.2	ヨコナデ	ヨコナデ	5YR6/4 にぶい橙		
0281	12b	検出皿	020828	須恵器	杯蓋	O-10	推 15.6	残 1.4		推 16.2	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR6/3 にぶい黄橙		
0282	12c	検出皿	020807	須恵器	杯蓋	O-10	推 15.4	残 1.8		推 15.9	ヨコナデ、自然釉	回転ヘラケズリ、ヨコナデ	5Y5/1 灰		
0283	11b	検出皿	020808	須恵器	杯蓋	C-2	推 16.3	残 2.9		推 16.8	ヨコナデ、若干スズ付着	回転ヘラケズリ、ヨコナデ	5Y6/1 灰		
0284	12b	SD38	020827	須恵器	杯蓋	C-2		残 1.3			ヨコナデ	ヘラケズリのちナデ、自然釉、ヨコナデ	7.5YR3/2 黒褐		
0285	11g	検出皿	020812	須恵器	杯蓋	C-2	推 16.8	残 1.5		推 17.0	ヨコナデ	ヘラケズリ、自然釉、ヨコナデ	2.5Y6/1 黄灰		
0286	10c	検出皿	020807	須恵器	杯蓋	C-2	推 16.6	残 2.1		推 17.0	ヨコナデ	ヘラケズリ、重ね焼き痕、ヨコナデ	10YR6/1 褐灰		
0287	13d	SK36	020610	須恵器	杯蓋	O-10		残 1.6			ヨコナデ、刻書あり	ヘラケズリ、ヨコナデ	7.5YR5/3 にぶい褐		
0288	12f	SK237	020731	須恵器	杯蓋	8c 後半		残 2.0				回転ヘラケズリ	10YR6/1 褐灰		
0289	11b	検出皿	020808	須恵器	杯蓋	C-2	推 18.4	残 2.0		推 19.0	ヨコナデ	回転ヘラケズリ、ヨコナデ	10YR5/2 灰黄褐		
0290	11b	検出皿	020808	須恵器	杯蓋	C-2	推 22.0	2.1		推 22.2	ヨコナデ	回転ヘラケズリ、ヨコナデ	10YR5/3 にぶい黄褐		つまみなしは珍しい
0291	11b	検出皿	020808	須恵器	杯蓋	C-2	推 21.7	残 2.4		推 22.4	ヨコナデ	回転ヘラケズリ、ヨコナデ	10YR5/3 にぶい黄褐		
0292	10c	検出皿	020807	須恵器	杯身	I-17	推 10.4	4.0	推 6.8	推 10.6	ヨコナデ	ヨコナデ、ヘラケズリ、ヨコナデ、回転糸切痕?	5Y5/1 灰		
0293	12b	検出皿	020828	須恵器	杯身	不明	推 8.6	残 2.8		推 8.8	ヨコナデ	ヨコナデ、自然釉	5Y3/1 オリーブ黒		
0294	11b	検出皿	020820	須恵器	杯身	不明		残 1.2	推 6.4		ヨコナデ	ヨコナデ、静止糸切痕?	10YR6/3 にぶい黄橙		
0295	11f	検出皿	020812	須恵器	杯身	不明		残 3.0			ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR5/2 灰褐		
0296	11b	検出皿	020808	須恵器	杯身	O-10		残 3.3			ヨコナデ	ヨコナデ、底部調整不明	2.5Y6/1 黄灰		
0297	11d	SK156	020723	須恵器	杯身	O-10	推 13.4	3.8	推 11.2	推 13.8	ヨコナデ	ヨコナデ、回転ヘラケズリ	10YR6/3 にぶい黄橙		
0298	12a	検出皿	020822	須恵器	杯身	不明	推 13.0	残 3.4		推 13.1	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR7/4 にぶい黄橙		
0299	12b	検出皿	020809	須恵器	杯身	O-10		残 1.2	推 11.0		ヨコナデ	ヨコナデ、回転ヘラケズリ	2.5YR5/3 にぶい赤褐		
0300	12h	検出皿	020813	須恵器	杯身	C-2		残 1.6	推 11.0		ヨコナデ	ヨコナデ、回転ヘラケズリ	10R5/4 赤褐		
0301	11h	検出皿	020813	須恵器	杯身	O-10		残 1.7	推 14.0		ヨコナデ	ヨコナデ、回転ヘラケズリ	5YR5/2 灰褐		
0302	11c	検出皿	020807	須恵器	杯身	O-10	推 14.4	4.2	推 9.7	推 14.6	ヨコナデ	ヨコナデ、回転ヘラケズリ	2.5Y6/1 黄灰		
0303	11f	検出皿	020812	須恵器	杯身	C-2	推 13.6	3.6	推 10.0	推 14.0	ヨコナデ	ヨコナデ、回転ヘラケズリ	5YR4/3 にぶい赤褐		
0304	10c	検出皿	020807	須恵器	杯身	O-10		残 2.0	推 9.0		ヨコナデ	ヨコナデ、回転ヘラケズリ	7.5YR4/2 灰褐		
0305	—	検出皿	020830	須恵器	杯身	O-10		残 1.6	推 12.0		ヨコナデ	ヨコナデ、回転ヘラケズリ	10YR6/1 褐灰		
0306	11e	検出皿	020808	須恵器	杯身	O-10		残 2.0	推 11.8		ヨコナデ	ヨコナデ、回転ヘラケズリ	2.5Y6/1 黄灰		

遺物一覧表

図版番号	グッド	遺構番号	日付	産地・材質	器種	時期	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	内面	外面	胎土(外部)	釉1	備考
0307	11e	検出Ⅲ	020808	須恵器	杯身	不明	推 13.0	残 3.4		推 13.2	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR5/2 灰黄褐		
0308	11b	検出Ⅲ	020808	須恵器	杯身	不明	推 15.6	残 2.3		推 16.0	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR6/1 褐 灰		
0309	11e	検出Ⅲ	020802	須恵器	杯身	O-10		残 2.1	推 9.8		ヨコナデ	ヨコナデ、回転ヘ ラケズリのち刻線	5YR5/3 にぶ い赤褐	10YR4/1 褐灰	
0310	11i	SK01	020806	須恵器	碗	K-14	推 13.0	4.0	5.4	推 13.2	ヨコナデ	ヨコナデ、静止糸 切痕	7.5Y6/1 灰		
0311	10e	東トレ ンチ	020514	須恵器	碗	IG-78	推 13.2	3.9	推 5.6	推 13.6	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸 切痕?	10YR5/1 褐 灰		
0312	11e	検出Ⅲ	020808	須恵器	高杯	6c 代後 半	推 15.2	残 6.7			ヨコナデ	ヨコナデ、自然釉、 透かし四方向にあ り	N3/ 暗灰	7.5Y2/2 オリーブ黒	314 と同一か もしれない
0313	10d	検出Ⅲ	020806	須恵器	高杯	H-11 前後		残 4.3			ヨコナデ	ヨコナデ、回転ヘ ラケズリ	10YR7/1 灰 白		
0314	13f	南トレ ンチ	020507	須恵器	高杯	6c 代後 半		残 8.2	推 11.6		ヨコナデ、自然釉	ヨコナデ、自然釉、 透かし四方向と推定	2.5Y5/1 黄灰	5Y3/2 オリーブ黒	312 と同一か もしれない
0315	10e	検出Ⅱ、 検出Ⅲ	020718、 020808	須恵器	有蓋高杯	H-11	推 8.2	10.3	推 9.0	推 10.8	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5YR4/3 にぶい赤褐		
0316	10d	SK240	020730	須恵器	有蓋高杯	6C 後	推 9.0	残 4.4		推 11.7	ヨコナデ	ヨコナデ、自然釉、 ヘラケズリ	2.5Y6/1 黄灰	10Y4/2 オリーブ灰	
0317	12b	検出Ⅲ	020828	須恵器	高杯	H-50	推 17.6	残 5.2		推 17.8	ヨコナデ、ヘラケ ズリ	ヨコナデ、回転ヘ ラケズリ	2.5Y6/1 黄灰		
0318	11b	検出Ⅲ	020807	須恵器	高杯	H-50		残 3.4			ヨコナデ	ヨコナデ、波状文	5Y6/1 灰		
0319	11f	検出Ⅲ	020812	須恵器	高杯	H-44		残 1.9			ヨコナデ	ヨコナデ	10Y5/1 灰		
0320	13f	南トレ ンチ	020507	須恵器	高杯	H-44 前後		残 2.3			ヨコナデ	回転ヘラケズリ、 自然釉、透かし四 方向か?	5Y5/1 灰	10Y4/2 オリーブ灰	
0321	9d	検出Ⅲ	020806	須恵器	高杯	不明		残 2.2			ヨコナデ	回転ヘラケズリ、 ヨコナデ	2.5Y7/3 浅黄		
0322	12c	検出Ⅲ	020803	須恵器	高杯	不明		残 3.4			ヨコナデ	ヨコナデ、自然釉	10YR6/1 褐灰		
0323	11e	検出Ⅲ	020809	須恵器	高杯	不明		残 5.1			ヨコナデ	回転ヘラケズリ、 ヨコナデ	2.5Y5/1 黄灰		
0324	11e	検出Ⅲ	020808	須恵器	高杯	H-111 末		残 2.7	推 8.0		ヨコナデ	ヨコナデ、自然釉	2.5Y5/1 黄灰		
0325	10d	検出Ⅲ	020821	須恵器	高杯	H-44		残 1.7	推 7.6		ヨコナデ、自然釉	ヨコナデ	5Y5/1 灰		
0326	12e	検出Ⅲ	020808	須恵器	高杯	H-44		残 3.8	推 10.0		ヨコナデ	ヨコナデ	10YR5/1 褐灰		
0327	13f	南トレ ンチ	020507	須恵器	高杯	H-44		残 3.5	推 10.0		ヨコナデ	ヨコナデ	N5/ 灰		
0328	10c	検出Ⅲ	020814	須恵器	高杯	H-44		残 1.8	推 11.8		ヨコナデ	ヨコナデ、わずか に自然釉	10Y5/1 灰		
0329	11c	検出Ⅲ	020826	須恵器	高杯	H-11		残 3.5	推 10.0		ヨコナデ、自然釉	ヨコナデ、透かし 四方向か?	2.5Y6/1 黄灰		
0330	11b	検出Ⅲ	020821	須恵器	高杯	H-44 以前		残 3.1			ヨコナデ	ヨコナデ、透かし あり	2.5Y7/1 灰白		
0331	11c	検出Ⅲ	020809	須恵器	合子	I-25	推 12.4	残 3.5		推 12.8	ヨコナデ	ヨコナデ、一部自 然釉	2.5Y4/1 黄灰		
0332	13f	南トレ ンチ	020507	須恵器	ハソウ	6c 代		残 3.8	推 6.4		ヨコナデ	ヨコナデ、静止ヘ ラケズリ?	5Y4/1 灰	5Y3/1 オリーブ黒	
0333	12i	SK155	020711	須恵器	短頸壺	6c 前	推 7.8	残 7.6		推 12.2	ヨコナデ	ヨコナデ、沈線 波 状文、底部自然釉	N6/ 灰	10Y4/2 オリーブ灰	
0334	11f	検出Ⅲ	020809	須恵器	壺類	5~6c 代		残 4.5			ヨコナデ	ヨコナデ、沈線、 波状文、自然釉	5Y6/1 灰		
0335	10e	検出Ⅲ	020808	須恵器	長頸瓶?	7c 代		残 2.7			ヨコナデ	ヨコナデ、刺突文、 自然釉	2.5Y6/1 黄灰		
0336	10c	検出Ⅲ	020807	須恵器	不明	6c 代		残 2.6			ヨコナデ	ヨコナデ、自然釉、 ヘラケズリ	7.5Y4/1 灰		子持または○ 連壺
0337	9d	検出Ⅲ	020820	須恵器	鉢	H-44	推 9.0	残 3.8		推 9.4	ヨコナデ、一部自 然釉	ヨコナデ、一部自 然釉、タタキ、沈 線	5Y5/1 灰	10Y4/1 灰	
0338	11d	検出Ⅲ	020805	須恵器	盤	O-10		残 2.8	推 8.8		ヨコナデ	ヨコナデ、回転ヘ ラケズリ	2.5Y5/2 暗灰黄		
0339	11e	検出Ⅲ	020809	須恵器	高杯脚部?	5~6c 代		残 2.3	推 11.0		ヨコナデ	ヨコナデ	5Y6/1 灰		
0340	11d	検出Ⅲ	020814	須恵器	瓶類脚部	6c 代		残 2.8			ヨコナデ	ヨコナデ、透かし あり	2.5Y6/1 黄灰		
0341	11b	検出Ⅲ	020808	須恵器	不明	不明		残 4.1	推 14.6		ヨコナデ	ヨコナデ	5Y5/1 灰		
0342	11e	検出Ⅲ	020827	須恵器	壺	5~6c 代	推 17.6	残 4.3			ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y6/1 黄灰		
0343	12i	SK155	020712	須恵器	横瓶	8c ?	推 12.8	残 5.5			ヨコナデ、自然釉	ヨコナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10Y4/2 オリーブ灰	
0344	11f	検出Ⅲ	020812	須恵器	壺類	7c 代		残 3.6			ヨコナデ	ヨコナデ	10YR7/4 にぶい黄橙		
0345	11b	検出Ⅲ	020820	須恵器	不明	不明		残 3.7			ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y8/2 灰白		白色軟質陶器
0346	11e	検出Ⅲ	020809	須恵器	壺類	H-44		残 3.6			ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y8/2 灰白		白色軟質陶器
0347	12a	検出Ⅲ	020827	須恵器	壺類	7c 代		残 2.1			ヨコナデ	ヨコナデ	10YR8/2 灰白		白色軟質陶器
0348	10d	SK215	020721	須恵器	鉢	NN-32		残 8.7	推 8.6		ヨコナデ	ヨコナデ、ヘラケ ズリ?、黄土	5Y4/1 灰		
0349	11e	検出Ⅲ	020808	須恵器	播鉢	O-10		残 4.9	推 8.8		ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸 切痕	10YR4/2 灰黄褐		
0350	11b	検出Ⅲ	020808	須恵器	甕	不明		残 6.6			ヨコナデ	ヨコナデ、黄土、 タタキ	5Y4/1 灰		
0351	10d	SK240	020730	須恵器	壺か瓶類	不明		残 3.5			ヨコナデ	縄唐文	5Y5/1 灰		韓式系
0352	8e	検出Ⅲ	020820	須恵器	不明	不明		残 3.1			ヨコナデ	ヨコナデ	5Y8/1 灰白		白色軟質陶器
0353	11d	検出Ⅲ	020805	須恵器	不明	不明		残 4.2			—	指オサエ	5Y7/1 灰白		裝飾須恵器の 一部か?
0354	12c	検出Ⅲ	020823	須恵器	甕	不明		残 6.0			ヨコナデ、指オサ エ	ヨコナデ、タタキ、 自然釉	2.5Y6/1 黄灰	7.5Y4/3 暗オリーブ	
0355	11b	検出Ⅲ	020808	須恵器	鉢	I-17	推 23.4	残 5.1		推 24.8	ヨコナデ、ヨコハ ケ、黄土	ヨコナデ、ヨコハ ケ、黄土	5Y5/1 灰		
0356	11e	検出Ⅲ	020809	須恵器	甕	I-17 前 後	推 29.2	残 12.7		推 29.4	ヨコナデ	ヨコナデ、タタキ	2.5Y5/1 黄灰		
0357	12i	SK155	020712	須恵器	甕	7c 代		残 6.9			指オサエ、ヘラケ ズリ	ヘラケズリ、タタ キ	2.5Y7/3 浅黄 キ		
0358	11g	検出Ⅲ	020812	須恵器	甕か鍋	6c 代		残 5.6			ヨコナデ	ヨコナデ、タタキ	5Y5/1 灰		
0359	11g	検出Ⅲ	020812	須恵器	甕	H-111?		残 3.5			ヨコナデ	ヨコナデ、タタキ	7.5YR5/3 にぶい褐		



名古屋城三の丸遺跡 VII

図版番号	グッド	遺構番号	日付	産地・材質	器種	時期	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	内面	外面	胎土(外部)	釉1	備考
0360	8d	検出Ⅲ	020806	須恵器	甗	O-10		残5.8			ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y5/1 黄灰		
0361	11c	検出Ⅲ	020807	須恵器	鉢	7~8c		残5.9			ヨコナデ	ヨコナデ、ヘラケズリ	5Y4/1 灰		
0362	11d	検出Ⅲ	020829	須恵器	甗	6c代		残3.8			ヨコナデ	ヨコナデ、タタキ	7.5YR6/3 にふい褐		
0363	9d	検出Ⅲ	020806	須恵器	甗	6c代		残6.1			ヨコナデ	ヨコナデ、タタキ	2.5Y5/1 黄灰		
0364	11e	検出Ⅲ	020808	須恵器	鉢	7c代		残8.3			ヨコナデ、ヨコハケ	ヘラケズリ、タタキ	5Y6/1 灰		
0365	10d	SK240	020730	須恵器	甗 or 大型浅鉢	7~8c代		残3.8			—	指オサエ	5Y6/1 灰		
0366	10d	SK196	020726	須恵器	甗	7~8c代		残9.0			ヨコナデ	ヨコナデ、自然釉	2.5Y6/1 黄灰	5Y4/2 灰 オリープ	
0367	12a	SK22	020606	灰釉陶器	壺類	K-90	推8.0	残2.1			灰釉、ヨコナデ	灰釉、ヨコナデ	2.5Y6/1 黄灰	10Y5/2 オリープ灰	
0368	8d	検出Ⅲ	020806	灰釉陶器	長頸瓶	K-90		残3.9	推9.2		ヨコナデ、灰釉	ヨコナデ、灰釉、 回転糸切痕	5Y7/1 灰白	5Y6/4 オリープ黄	
0369	11e	検出Ⅱ	020718	灰釉陶器	不明	不明	推9.2	残9.5			ヨコナデ	ヨコナデ、灰釉	5Y7/1 灰白		
0370	12f	SK166	020724	白色軟質陶器	皿	不明	推12.8	2.8	推5.6	推13.0	ヨコナデ、沈線	ヨコナデ、回転ヘラケズリ、 刻書あり	10YR7/2 にふい黄橙		
0371	11c	検出Ⅲ	020807	灰釉陶器	碗	H-72	推16.0	5.1	7.0	推16.2	灰釉つけかけ、 ヨコナデ	灰釉つけかけ、 ヨコナデ、回転糸切痕	2.5Y7/2 灰黄		
0372	11d	検出Ⅲ	020805	灰釉陶器	碗	K-90	推14.8	残3.0		推15.0	灰釉ハケ塗り、 ヨコナデ	灰釉ハケ塗り、 ヨコナデ	10YR7/2 にふい黄橙		
0373	11d	検出Ⅲ	020805	灰釉陶器	小碗	O-53	推12.2	3.6	6.0	推12.4	灰釉、ヨコナデ	灰釉、ヨコナデ、 回転ヘラケズリ	10YR6/2 灰黄褐	2.5Y7/1 灰白	
0374	11j	SK147	020708	灰釉陶器	碗	O-53	推13.2	4.4	推5.2	推13.8	ヨコナデ、自然釉	ヨコナデ、回転ヘラケズリ	2.5Y7/1 灰白		
0375	11c	検出Ⅲ	020807	灰釉陶器	碗	K-90	推14.6	残3.1		推15.0	灰釉ハケ塗り、 ヨコナデ	灰釉ハケ塗り、 ヨコナデ	2.5Y7/1 灰白		
0376	11b	検出Ⅲ	020820	灰釉陶器	碗	O-53		残1.9	推7.4		灰釉、ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	10YR6/1 褐 灰		
0377	8c, 8d	検出Ⅲ	020820	灰釉陶器	碗	K-90		残2.5	推8.4		灰釉、ヨコナデ	灰釉、ヨコナデ、 回転ヘラケズリ	10YR8/2 灰 白		
0378	11e	検出Ⅲ	020808	灰釉陶器	碗	K-90		残3.1	6.0		ヨコナデ、灰釉ハケ塗り	ヨコナデ、回転ヘラケズリ	7.5YR6/2 灰褐		
0379	10d	SK240	020730	灰釉陶器	碗	K-90		残1.8	推7.4		ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	2.5Y6/2 灰黄		
0380	12b	検出Ⅲ	020805	灰釉陶器	皿	O-53		残2.0	推7.2		ヨコナデ	ヨコナデ	5Y7/1 灰白		
0381	11e	検出Ⅱ	020718	深碗	深碗	O-53		残4.3	推8.0		灰釉、ヨコナデ	ヨコナデ、回転ヘラケズリ	2.5Y6/2 灰黄		
0382	10d	SK240	020730	尾張型山茶碗類	山茶碗	3型式		残2.7	8.0		ヨコナデ、灰釉、 重ね焼き痕	ヨコナデ、回転糸切痕	2.5Y5/2 暗灰黄		
0383	10d	SK240	020730	灰釉陶器	碗	O-53		残2.4	推7.5		ヨコナデ、灰釉	ヨコナデ、回転ヘラケズリ?	2.5Y6/2 灰黄		
0384	11c	検出Ⅲ	020807	灰釉陶器	碗	O-53		残2.2	推7.9		灰釉、ヨコナデ、 重ね焼き痕	ヨコナデ、回転ヘラケズリ	2.5Y6/1 黄灰		
0385	11c	検出Ⅲ	020806	灰釉陶器	碗	K-14		残2.0	推8.4		灰釉、ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y6/2 灰黄		
0386	11b	検出Ⅲ	020808	灰釉陶器	碗	百代寺		残1.8	推6.6		ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	10YR7/1 灰白		
0387	11c	検出Ⅲ	020807	灰釉陶器	碗	O-53		残2.4	7.2		灰釉、重ね焼き痕、 一方ナデあり	ヨコナデ、重ね焼き痕、 回転ヘラケズリ	2.5Y6/2 灰黄		
0388	10d	SK240	020730	灰釉陶器	耳皿?	O-53?		残2.0	推5.7		ヨコナデ、灰釉	ヨコナデ、回転糸切痕	2.5Y7/1 灰白		
0389	11g	検出Ⅲ	020812	灰釉陶器	碗	百代寺		残2.1	推7.0		ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	2.5Y7/1 灰白		
0390	11c	検出Ⅲ	020807	灰釉陶器	碗	H-72		残2.0	推6.8		ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	2.5Y6/2 灰黄		
0391	10d	SK240	020730	尾張型山茶碗類	山茶碗	3型式		残2.0	推7.2		ヨコナデ、重ね焼き痕	ヨコナデ、回転糸切痕	2.5Y6/1 黄灰		
0392	10d	SK240	020730	灰釉陶器	碗	H-72		残1.8	推7.6		ヨコナデ、灰釉	ヨコナデ、回転ヘラケズリ、 回転糸切痕	2.5Y7/1 灰白		
0393	11c	検出Ⅲ	020807	灰釉陶器	皿	H-72		残1.8	6.3		灰釉、ヨコナデ	灰釉、ヨコナデ、 回転糸切痕	2.5Y6/2 灰黄		
0394	11g	検出Ⅲ	020812	灰釉陶器	碗	H-72		残2.1	推8.0		ヨコナデ	ヨコナデ	5Y6/1 灰		
0395	8d	検出Ⅲ	020806	灰釉陶器	碗	H-72		残2.5	推7.8		ヨコナデ、重ね焼き痕	ヨコナデ、回転糸切痕	2.5Y7/1 灰白		
0396	11c	検出Ⅲ	020807	灰釉陶器	碗	K-90		残1.8	推7.4		ヨコナデ、灰釉ハケ塗り?	ヨコナデ、回転糸切痕	10YR6/1 褐 灰		
0397	11a	検出Ⅲ	020821	尾張型山茶碗類	山茶碗	2型式		残1.7	推6.2		ヨコナデ、自然釉	ヨコナデ	2.5Y7/1 灰白		
0398	10d	SK240	020730	尾張型山茶碗類	山茶碗	3型式		残2.0	推6.6		ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	2.5Y6/1 黄灰		
0399	10d	検出Ⅲ	020806	灰釉陶器	碗	O-53		残2.0	推8.4		ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR7/1 明褐灰		
0400	11i	SK01	020806	灰釉陶器	碗	K-90		残1.9	7.0		ヨコナデ、重ね焼き痕	ヨコナデ、回転ヘラケズリ、 わずかにスス付着	2.5Y7/1 灰白		
0401	11c	検出Ⅲ	020807	灰釉陶器	皿	H-72	11.3	2.1	6.2	11.6	灰釉、ヨコナデ	灰釉、ヨコナデ、 回転糸切痕	2.5Y6/2 灰黄		
0402	11a	検出Ⅲ	020821	灰釉陶器	皿	H-72		残1.5	推7.4		ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	2.5Y7/1 灰白		
0403	11c	検出Ⅲ	020807	灰釉陶器	皿	O-53		残1.3	6.4		ヨコナデ、表面が 黒色化する	ヨコナデ、回転糸切痕の ちへラケズリ	2.5Y8/1 灰白		白色軟質陶器
0404	11c	検出Ⅲ	020807	灰釉陶器	皿	H-72		残1.2	6.2		ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	10YR6/2 灰黄褐		
0405	9d	検出Ⅲ	020813	灰釉陶器	皿	H-72		残1.2	推6.4		ヨコナデ、灰釉	ヨコナデ、回転糸切痕	10YR7/2 にふい黄橙		
0406	10d	SK240	020730	灰釉陶器	皿	O-53		残1.3	推5.5		ヨコナデ、重ね焼き痕	ヨコナデ、回転糸切痕	2.5Y7/1 灰白		
0407	11c	検出Ⅲ	020807	灰釉陶器	皿	O-53		残1.3	6.6		ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	10YR7/2 にふい黄橙		
0408	12b	検出Ⅲ	020805	灰釉陶器	碗	H-72		残1.4	6.0		ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	10YR7/3 にふい黄橙		
0409	9d	検出Ⅲ	020813	灰釉陶器	皿	K-90		残1.7	推6.8		ヨコナデ、灰釉	ヨコナデ、回転糸切痕	2.5Y7/1 灰白		
0410	13e	SK38	020727	灰釉陶器	皿	H-72		残1.4	5.2		ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	2.5Y7/1 灰白		

遺物一覧表

図版番号	グランド	遺構番号	日付	産地・材質	器種	時期	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	最大径 (cm)	内面	外面	胎土 (外部)	軸 I	備考
0411	11e	SK156	020725	灰釉陶器	小碗	H-72		残 2.4	4.8		ヨコナデ、自然釉	ヨコナデ、刷痕、 回転糸切痕	2.5Y6/3 にぶい黄		
0412	12a	検出III	020827	灰釉陶器	碗	K-90		残 2.3			灰釉ハケ塗り、ヨ コナデ	灰釉ハケ塗り、ヨ コナデ	2.5Y7/1 灰白		
0413	13d	SD39	020829	緑釉陶器	皿	K-90 前 後		残 1.0			緑釉、ヨコナデ	緑釉、ヨコナデ	10Y8/1 灰	C30-M0- Y60-BL30	猿投
0414	12i	SK155	020711	埴輪	円筒埴輪	IV期 2 段階									
0415	12i	SD17	020708	埴輪	円筒埴輪	IV期 2 段階									
0416	13d	SK486	020912	埴輪	円筒埴輪	IV期 2 段階									
0417	13e	SK38	020612	埴輪	円筒埴輪	IV期 2 段階									
0418	12i	SK155	020711	埴輪	円筒埴輪	IV期 2 段階									
0419	12i	SK155	020712	埴輪	円筒埴輪	IV期 2 段階									
0420	12f	SD10	020619	埴輪	円筒埴輪	IV期 2 段階									
0421	11g	SK67	020617	埴輪	円筒埴輪	IV期 2 段階									
0422	13e	SD25	020729	埴輪	円筒埴輪	IV期 2 段階									
0423	12i	SK155	020718	埴輪	円筒埴輪	IV期 2 段階									
0424	13e	SK38	020612	埴輪	円筒埴輪	IV期 2 段階									
0425	13c	SD22	020729	埴輪	円筒埴輪	IV期 2 段階									
0426	12h	SK155	020711	埴輪	円筒埴輪	IV期 2 段階									
0427	12h	SK155	020711	埴輪	円筒埴輪	IV期 2 段階									
0428	8e	SK56	020621	埴輪	円筒埴輪	IV期 2 段階									
0429	12i	SK155	020712	埴輪	円筒埴輪	IV期 2 段階									
0430	12h	SK155	020711	埴輪	円筒埴輪	IV期 2 段階									
0431	12j	SK04	020605	埴輪	円筒埴輪	IV期 2 段階									
0432	12i	SK155	020712	埴輪	円筒埴輪	IV期 2 段階									
0433	13c	南トレ ンチ	020509	埴輪	円筒埴輪	IV期 2 段階									
0434	9b	SD12	020919	埴輪	円筒埴輪	IV期 2 段階									
0435	13e	SK38	020612	埴輪	円筒埴輪	IV期 2 段階									
0436	11b	SD12	020731	埴輪	円筒埴輪	IV期 2 段階									
0437	8e	SK291	020823	埴輪	円筒埴輪	V期									
0438	8a	SK23	020909	埴輪	円筒埴輪	V期									
0439	12i	SK155	020711	埴輪	円筒埴輪	IV期 2 段階									
0440	11d	検出III	020805	埴輪	円筒埴輪	IV期 2 段階									
0441	12h	SD17	020711	埴輪	円筒埴輪	IV期 2 段階									
0442	10c	SB04 II	020823	埴輪	円筒埴輪	IV期 2 段階									
0443	12i	SK155	020715	埴輪	円筒埴輪	IV期 2 段階									
0444	8d	検出II	020711	埴輪	円筒埴輪	IV期 2 段階									
0445	11i	SK01	020530	埴輪	円筒埴輪	IV期 2 段階									
0446	12h	SK155	020711	埴輪	円筒埴輪	IV期 2 段階									
0447	11d	T05	020802	埴輪	円筒埴輪	IV期 2 段階									
0448	12f	検出II	020723	埴輪	円筒埴輪	IV期 2 段階									
0449	11a	検出III	020820	埴輪	円筒埴輪	IV期 2 段階									
0450	11a	検出III	020820	埴輪	形象埴輪?	IV期 2 段階									
0451	12i	SK155	020711	埴輪	形象埴輪?	IV期 2 段階									
0452	12h	SK273	020823	埴輪	形象埴輪?	IV期 2 段階									
0453	12i	SK155	020712	瓦	軒平瓦										
0454	12i	SK155	020711	瓦	平瓦										
0455	12i	SK155	020711	瓦	平瓦										
0456	13b	SK226	020910	尾張型山茶 碗類	山茶碗	7 型式	13.7	5.7	5.0	13.9	自然釉、ヨコナデ、 一方向ナデ	ヨコナデ、刷痕、 回転糸切痕、高台 一部欠落	2.5Y7/1 灰白		瀬戸
0457	13b	SK226	020910	尾張型山茶 碗類	山茶碗	8 型式	13.1	5.1	5.8	13.3	ヨコナデ、一方向 ナデ	ヨコナデ、回転糸 切痕のち板状圧痕	10YR7/2 にぶい黄橙		瀬戸
0458	13b	SK226	020910	尾張型山茶 碗類	山茶碗	7 型式	推 13.2	5.9	5.0	推 13.5	ヨコナデ、一方向 ナデ	ヨコナデ、刷痕、 回転糸切痕	2.5Y7/1 灰白		瀬戸
0459	13b	SK226	020910	尾張型山茶 碗類	山茶碗	7 型式	13.8	5.9	5.2	14.0	ヨコナデ、内面ス ス付首、自然釉、 一方向ナデ	ヨコナデ、刷痕、 回転糸切痕、高台 一部欠落	7.5YR7/2 明褐色		瀬戸
0460	13b	SK226		尾張型山茶 碗類	山茶碗	7 型式	14.0	6.2	推 5.7	14.2	ヨコナデ、一方向 ナデ	ヨコナデ、刷痕、回 転糸切痕、高台部 欠落、スス付首	7.5YR 7/1 明 褐色		瀬戸

名古屋城三の丸遺跡 VII

図版番号	グッド	遺構番号	日付	産地・材質	器種	時期	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	内面	外面	胎土(外部)	釉1	備考
0461	13b	SK226	020911	尾張型山茶碗類	山茶碗	7型式	13.6	5.6	5.6	13.9	ヨコナデ、一方向ナデ	ヨコナデ、靨痕、回転糸切痕、高台一部欠落	10YR7/1 灰白		瀬戸
0462	13b	SK226	020911	尾張型山茶碗類	山茶碗	8型式	13.6	5.0	6.0	13.9	ヨコナデ、一方向ナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	2.5Y7/1 灰白		
0463	13b	SK226	020911	尾張型山茶碗類	山茶碗	7型式	推13.3	5.3	推4.6	13.6	ヨコナデ、一方向ナデ	ヨコナデ、靨痕、回転糸切痕、高台一部欠落	2.5Y7/1 灰白		
0464	13b	SK226	020910	尾張型山茶碗類	山茶碗	7型式	13.2	4.9	6.3?	13.4	ヨコナデ	ヨコナデ、靨痕、回転糸切痕、高台が二重に付着	10YR7/1 灰白		瀬戸
0465	13b	SK226	020730	尾張型山茶碗類	山茶碗	7型式		残4.0	4.8		ヨコナデ、全体がスヌけて黒色化する	ヨコナデ、靨痕、回転糸切痕	10YR6/2 灰黄褐		
0466	13b	SK226	020826	尾張型山茶碗類	山茶碗	6型式		残3.2	5.7		ヨコナデ、一方向ナデ	ヨコナデ、靨痕、回転糸切痕	10YR8/1 灰白		
0467	13b	SK226	020826	尾張型山茶碗類	山茶碗	7型式		残2.4	推5.2		ヨコナデ、一方向ナデ	ヨコナデ、靨痕、回転ヘラケズリのち板状圧痕、高台一部欠落	7.5YR7/1 明褐灰		
0468	13b	SK226	020727	尾張型山茶碗類	山茶碗	7型式		残3.3	推5.3		ヨコナデ、わずかにスヌケ着、一方向ナデ	ヨコナデ、靨痕、回転糸切痕	10YR6/2 灰黄褐		
0469	13b	SK226	020826	尾張型山茶碗類	山茶碗	6型式		残2.4	推6.0		ヨコナデ、一方向ナデ	ヨコナデ、靨痕、回転糸切痕	10YR6/1 褐灰		
0470	13b	SK226	020823	尾張型山茶碗類	山茶碗	7型式		残3.5	推5.4		ヨコナデ、わずかに自然釉、一方向ナデ	ヨコナデ、靨痕、回転糸切痕	2.5Y7/1 灰白		
0471	13b	SK226	020727	東濃型山茶碗類	山茶碗	7or8型式	推12.8	残3.0		推13.0	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y8/2 灰白		
0472	13b	SK226	020727	尾張型山茶碗類	小皿	7型式	7.8	2.1	5.0	8.0	ヨコナデ、一方向ナデ	ヨコナデ、回転糸切痕のち板状圧痕	2.5Y7/1 灰白		
0473	13b	SK226	020727	尾張型山茶碗類	小皿	8型式	8.0	1.8	5.6	8.3	ヨコナデ、自然釉、一方向ナデ	ヨコナデ、回転糸切痕のち板状圧痕	2.5Y7/2 灰黄		
0474	13b	SK226	020727	尾張型山茶碗類	小皿	8型式	7.5	1.8	5.8	7.8	ヨコナデ、一方向ナデ	ヨコナデ、回転糸切痕のち板状圧痕	2.5Y7/1 灰白		
0475	13b	SK226	020823	尾張型山茶碗類	小皿	8型式	推7.2	1.4	推4.8	推7.6	ヨコナデ、一方向ナデ	ナデ、回転糸切痕のち板状圧痕	10YR7/1 灰白		
0476	13b	SK226	020727	東濃型山茶碗類	小皿	明和	推8.8	1.4	推5.2	推9.0	ヨコナデ、一方向ナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	2.5Y7/1 灰白		
0477	13b	SK226	020826	土師器	非ロクロ調整皿		推10.8	残2.2		推11.0	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR7/3 にふい黄橙		
0478	13b	SK226	020823	常滑陶器	甕	不明		残1.4	推18.8		ヨコナデ	ヨコナデ、砂目、自然釉	2.5Y7/1 灰白		
0479	13b	SK226	020727	尾張型山茶碗類	鉢	7or8型式		残3.5			よく磨滅	ヘラケズリ、ヨコナデ	10YR7/1 灰白		
0480	13b	SK226	020826	土師器	南伊勢系鍋		推27.0	残2.9			ヨコナデ	ヨコナデ、ハケ	10YR7/2 にふい黄橙		
0481	13b	SK226	020727	土師器	南伊勢系鍋			残6.6			指オサエ	ハケ	7.5YR7/3 にふい橙		
0482	13b	SK226	020823	土師器	内彎型羽釜		推19.4	残5.6			ヨコナデ、指オサエ、スス付着	ヨコナデ、ハケ、スス付着	7.5YR5/1 褐灰		
0483	13b	SK226	020823	土師器	内彎型羽釜			残2.8			ヨコナデ	ヨコナデ、スス付着	10YR7/3 にふい黄橙		
0484	13b	SK310	020827	尾張型山茶碗類	山茶碗	7型式	推13.7	5.1	推5.8	推14.0	ヨコナデ、一方向ナデ	ヨコナデ、回転糸切痕のち板状圧痕	10YR7/1 灰白		瀬戸
0485	13b	SK310	020827	尾張型山茶碗類(瀬戸)	山茶碗	7or8型式	推13.6	残4.6		推14.0	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y7/1 灰白		瀬戸
0486	13b	SK310	020827	尾張型山茶碗類	山茶碗	6型式	推13.2	残5.3		推13.6	ヨコナデ、スス付着	ヨコナデ	10YR7/1 灰白		
0487	13b	SK310	020826	尾張型山茶碗類	山茶碗	6型式		残3.0	推6.8		ヨコナデ、一方向ナデ	ヨコナデ、靨痕、回転糸切痕	10YR7/1 灰白		
0488	13b	SK310	020827	尾張型山茶碗類(知多)	山茶碗	6型式		残2.3	推6.8		ヨコナデ、一方向ナデ	ヨコナデ、靨痕、回転糸切痕	2.5Y7/1 灰白		瀬戸
0489	13b	SK310	020826	土師器	南伊勢系鍋			残1.3			ヨコナデ	ヨコナデ、スス付着	10YR7/3 にふい黄橙		
0490	13b	SK310	020826	常滑陶器	甕	中野6a型式	推25.4	残3.5			自然釉、ヨコナデ	自然釉、ヨコナデ	2.5Y6/1 黄灰	7.5Y4/3 暗オリーブ	瀬戸
0491	12h	SD18	020712	尾張型山茶碗類(瀬戸)	山茶碗	7型式		残2.2			ヨコナデ、一方向ナデ	ヨコナデ、高台剥落、回転糸切痕	10YR6/2 灰黄褐		瀬戸
0492	12h	SD18	020712	尾張型山茶碗類(瀬戸)	山茶碗	7型式		残2.2	推5.2		ヨコナデ、自然釉、磁着あり	ヨコナデ、靨痕、回転糸切痕、高台一部欠落	10YR6/2 灰黄褐		
0493	12g	SD18	020712	東濃型山茶碗類	山茶碗	大洞東		残1.9	推3.6		ヨコナデ	ヨコナデ、靨痕	2.5Y7/1 灰白		
0494	12h	SD18	020712	東濃型山茶碗類	山茶碗	大畑大洞古		残1.5	推5.0		ヨコナデ、一方向ナデ	ヨコナデ、靨痕、回転糸切痕	2.5Y7/2 灰黄		
0495	12h	SD18	020718	尾張型山茶碗類	陶丸		最大長2.4	最大幅2.2	残存厚2.0			指オサエ	10YR8/2 灰白		
0496	12h	SD17, 18	020711	土製品	支柱?			残6.4		3.0		ヘラケズリ?、被熱痕	10YR7/4 にふい黄橙		
0497	11g	SK85	020618	尾張型山茶碗類	山茶碗	7or8型式	推12.8	残2.6		推13.0	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y7/2 灰黄		瀬戸
0498	12g	SK85	020621	尾張型山茶碗類	山茶碗	7or8型式	推13.0	残1.6		推13.2	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y6/2 灰黄		
0499	12g	SK85	020621	東濃型山茶碗類	山茶碗 卸	白土原		残3.3	推6.4		灰釉、線刻文あり	ヨコナデ、砂付着、回転糸切痕	5Y7/1 灰白		
0500	12g	SK85	020621	土師器	南伊勢系鍋			残1.0			ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y7/3 浅黄		
0501	8b	SK556	020919	尾張型山茶碗類	山茶碗	7or8型式	推12.7	残4.5		推13.0	ヨコナデ、自然釉	ヨコナデ、自然釉	10YR8/1 灰白	C10-M4-Y16-BL6	瀬戸
0502	8b	SK556	020919	尾張型山茶碗類	山茶碗	7型式		残2.2			ヨコナデ、一方向ナデ	ヨコナデ、回転糸切痕、高台欠落	5Y7/1 灰白		瀬戸
0503	8b	SK556	020919	尾張型山茶碗類	小皿	7or8型式	推8.2	1.6	推5.2	推8.6	ヨコナデ、一方向ナデ	ヨコナデ、回転糸切痕、墨書	2.5Y7/1 灰白		瀬戸
0504	8b	SK556	020919	土師器	非ロクロ調整皿		推11.8	残2.3		推12.2	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y8/1 灰白		
0505	9a	SK557	020919	東濃型山茶碗類	山茶碗	明和	推14.4	残5.0		推14.8	自然釉、ヨコナデ	ヨコナデ	5Y7/1 灰白		
0506	9a	SK557	020919	土師器?	非ロクロ調整皿		推13.4	2.6	推9.2	推13.6	ヨコナデ	ヨコナデ、ヘラケズリ?、墨痕?あり	10YR8/2 灰白		

遺物一覧表

図版番号	グッド	遺構番号	日付	産地・材質	器種	時期	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	内面	外面	胎土(外部)	軸1	備考
0507	12f	SK237	020729	灰釉陶器	皿	O-53		残 1.2	推 6.2		ヨコナデ	ヨコナデ、回転系切痕	10YR7/3 にぶい黄橙		
0508	12f	SK237	020729	尾張型山茶碗類	小皿	7or8 型式	推 8.0	1.8	推 5.6	推 8.4	ヨコナデ、自然釉	ヨコナデ、回転系切痕	10YR8/1 灰白		瀬戸
0509	11f	SK374	020902	土師器	南伊勢系鍋			残 2.0			ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y8/2 灰白		
0510	9b	SX02 SK09	020813	東濃型山茶碗類	山茶碗	大畑大割古	推 14.4	残 4.2		推 14.8	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y7/1 灰白		
0511	8b	SX02 SK09	020812	尾張型山茶碗類	山茶碗	7 型式		残 4.1	推 6.4		ヨコナデ、一方向ナデ	ヨコナデ、刷痕、回転系切痕	10YR7/1 灰白		瀬戸
0512	12e	SK203	020726	灰釉陶器	碗	H-72		残 2.8	推 6.6		ヨコナデ	ヨコナデ	7.5Y7/1 灰白		小碗 百代寺(もう1つの付せん)
0513	12e	SK203	020726	尾張型山茶碗類	山茶碗	8 型式		残 2.6	推 5.6		ヨコナデ	ヨコナデ、回転系切痕	2.5Y6/1 黄灰		瀬戸
0514	12e	SK203	020726	東濃型山茶碗類	山茶碗	明和		残 1.6	推 5.2		ヨコナデ、一方向ナデ	ヨコナデ、板状圧痕	2.5Y7/2 灰黄		
0515	12e	SK203	020726	灰釉陶器	段皿	O-53		残 1.8	推 6.3		ヨコナデ、一方向ナデ	ヨコナデ、回転系切痕	2.5Y6/2 灰黄		
0516	12e	SK203	020726	灰釉陶器	段皿	O-53		残 2.7	推 7.0		ヨコナデ	ヨコナデ、ヘラケズリ、ヨコナデ、?	2.5Y7/1 灰白		
0517	12e	SK203	020726	灰釉陶器	長頸瓶	K-90 前後		残 3.3	9.4		灰釉、ヨコナデ	灰釉、ヘラケズリ、ヨコナデ、回転系切痕	2.5Y7/1 灰白	5Y4/4 暗オリーブ	
0518	12e	SK203	020726	土師器	清郷型甕			残 3.0			ヨコナデ、スス付着	ヨコナデ	7.5YR4/6 褐		
0519	12d	SK203	020729	土師器	内彎型羽釜			残 2.4			ヨコナデ?、スス付着	ヨコナデ、ヨコハケ、スス付着	10YR7/3 にぶい黄橙		
0520	12e	SK203	020726	土師器	内彎型羽釜		推 15.8	残 3.2		推 20.0	ヨコナデ、焼成前穿孔1ヶ残	ヨコナデ、ハケ	10YR8/3 浅黄橙		
0521	11a	検出III	020820	尾張型山茶碗類	山茶碗	6 型式	推 14.6	残 3.4		推 15.0	ヨコナデ、自然釉	ヨコナデ	7.5YR7/1 明褐灰		知多?
0522	11a	検出III	020820	尾張型山茶碗類	山茶碗	7 型式	推 12.4	5.3	推 5.4	推 13.0	ヨコナデ、一方向ナデ	ヨコナデ、刷痕	2.5Y7/1 灰白		瀬戸
0523	10d	検出III	020814	瀬美湖西型山茶碗類?	山茶碗	5 型式併行		残 2.1	推 7.0		ヨコナデ、自然釉	ヨコナデ、刷痕、回転系切痕	2.5Y7/1 灰白		
0524	11a	SB02 1	020827	尾張型山茶碗類	山茶碗	7 型式		残 2.4	5.0		ヨコナデ、わずかにスス付着	ヨコナデ、刷痕、回転系切痕	7.5YR7/1 明褐灰		瀬戸
0525	10d	検出III	020814	尾張型山茶碗類	山茶碗	8 型式		残 2.1	推 5.8		ヨコナデ、一方向ナデ	ヨコナデ、回転系切痕	10YR7/2 にぶい黄橙		
0526	11b	SD31	020731	東濃型山茶碗類	山茶碗	明和	推 13.8	残 3.6		推 14.2	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y7/1 灰白		
0527	12c	検出III	020911	東濃型山茶碗類	山茶碗	大洞東	推 12.9	4.1	推 4.6	推 13.0	ヨコナデ、重ね焼き痕	ヨコナデ、刷痕、回転系切痕	10YR7/3 にぶい黄橙		
0528	10c	検出III	020814	東濃型山茶碗類	山茶碗	明和		残 2.9	推 5.2		ヨコナデ	ヨコナデ、刷痕、回転系切痕	10YR8/3 浅黄橙		
0529	12a	検出III	020822	東濃型山茶碗類	山茶碗	脇之島	推 13.4	3.5	推 5.0	推 13.7	ヨコナデ	ヨコナデ、回転系切痕のち板状圧痕	10YR7/2 にぶい黄橙		
0530	10d	検出III	020806	東濃型山茶碗類	山茶碗	脇之島	推 11.6	2.8	推 4.0	推 12.0	ヨコナデ	ヨコナデ、回転系切痕	2.5Y7/1 灰白		
0531	9d	検出III	020816	東濃型山茶碗類	山茶碗	脇之島	推 12.4	2.9	推 4.8	推 12.8	ヨコナデ	ヨコナデ、回転系切痕のち板状圧痕	2.5Y7/1 灰白		
0532	11e	検出	020725	東濃型山茶碗類	山茶碗	脇之島	推 12.7	3.6	推 5.2	推 13.0	ヨコナデ、一方向ナデ	ヨコナデ、回転系切痕	2.5Y7/1 灰白		
0533	10e	SK324	020827	東濃型山茶碗類	山茶碗	生田	推 10.4	2.5	4.0	推 10.8	ヨコナデ	ヨコナデ、回転系切痕	2.5Y6/2 灰黄		
0534	11a	検出III	020820	東濃型山茶碗類	山茶碗	大畑大割古		残 3.1	4.8		ヨコナデ、自然釉、一方向ナデ	ヨコナデ、刷痕、回転系切痕、墨書	2.5Y7/2 灰黄		
0535	11b	SK123		尾張型山茶碗類	小皿	6~8 型式		残 0.6			ヨコナデ、一方向ナデ	回転系切痕、墨書	2.5Y7/1 灰白		
0536	13b	SD12	020727	尾張型山茶碗類	小皿	6 型式	8.0	2.1	5.4	8.4	ヨコナデ、自然釉、一方向ナデ	ヨコナデ、回転系切痕	2.5Y7/1 灰白		
0537	11a	SB02 1	020827	尾張型山茶碗類	小皿	7 型式	推 8.0	1.6	6.0	推 8.3	ヨコナデ、一方向ナデ	ヨコナデ、回転系切痕のち板状圧痕	10YR7/1 灰白		知多?
0538	11a	検出III	020820	尾張型山茶碗類	小皿	7or8 型式	推 8.4	1.5	推 5.8	推 8.8	ヨコナデ	ヨコナデ、回転系切痕	10YR6/1 褐灰		
0539	11a	検出III	020820	尾張型山茶碗類	小皿	8 型式	推 8.0	1.3	推 5.4	推 8.4	ヨコナデ、一方向ナデ	ヨコナデ、回転系切痕のち板状圧痕	10YR8/2 灰白		瀬戸
0540	11a	検出III	020820	尾張型山茶碗類	小皿	6 型式	推 8.2	2.0	推 5.0	推 8.6	ヨコナデ、一方向ナデ	ヨコナデ、回転系切痕のち板状圧痕	10YR7/1 灰白		
0541	11b	SK260	020730	尾張型山茶碗類	小皿	6 型式	推 9.6	1.5	4.4	推 10.0	ヨコナデ、一方向ナデ	ヨコナデ、回転系切痕のち板状圧痕	10YR7/1 灰白		瀬戸
0542	13c	南トレンチ	020509	尾張型山茶碗類	小皿	7 型式	推 7.9	1.4	推 5.2	推 8.2	ヨコナデ、一方向ナデ	ヨコナデ、回転系切痕のち板状圧痕	10YR7/2 にぶい黄橙		瀬戸
0543	13c	南トレンチ	020509	尾張型山茶碗類	小皿	6 型式	8.0	1.7	4.7	8.1	ヨコナデ、一方向ナデ	ヨコナデ、回転系切痕のち板状圧痕	10YR7/1 灰白		知多?
0544	11a	検出III	020821	尾張型山茶碗類	小皿	7 型式	推 8.6	2.0	推 4.5	推 8.9	ヨコナデ、一方向ナデ	ヨコナデ、回転系切痕のち板状圧痕	10YR7/1 灰白		瀬戸
0545	11a	検出III	020821	東濃型山茶碗類	小皿	明和	推 8.2	1.2	推 5.6	推 8.4	ヨコナデ	ヨコナデ、回転系切痕	2.5Y7/1 灰白		
0546	11h	T04	020708	東濃型山茶碗類	鉢	4or5 型式		残 8.6	推 10.0		ヨコナデ	ヨコナデ、ヘラケズリ、回転系切痕	2.5Y7/1 灰白		猿投
0547	10a	SD13	020621	常滑	片口鉢	中野7 型式		残 5.9			ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ、指オサエ	2.5Y4/2 暗灰黄		
0548	9e	SK527	020913	中国	白磁玉縁碗		推 15.6	残 2.5		推 16.2	白磁釉	白磁釉	2.5Y8/1 灰白	2.5GY7/1 明オリーブ灰	
0549	10c	検出III	020814	中国龍泉窯系	青磁碗			残 4.4			青磁釉	青磁釉、片切彫蓮弁文	5Y7/1 灰白	7.5Y5/2 灰オリーブ	
0550	10a	西トレンチ	020513	尾張型山茶碗類	無類小壺		推 5.6	3.0	推 4.0	推 6.9	ヨコナデ、自然釉	ヨコナデ、自然釉、板状圧痕	2.5Y8/1 灰白		猿投か知多
0551	10d	SB04 II	020822	瀬戸美濃陶器	灰釉小皿	古中III or IV	5.9	1.8	3.7	6.2	灰釉	灰釉、下半露胎、回転系切痕のち板状圧痕、重ね焼き痕	10YR7/1 灰白	10Y7/2 灰白	
0552	12b	ベルト	020823	古瀬戸陶器	入子	古前III~中II	推 2.6	0.5	推 2.4	推 2.7	ヨコナデ、灰釉	ヨコナデ、下半露胎、回転系切痕	5Y6/1 灰		
0553	8a~9a	SK548	020919	東濃型山茶碗類?	陶丸		最大長 2.3	最大幅 2.1	最大厚 2.0			指オサエ、部分的に自然釉	2.5Y8/1 灰白		
0554	10a	T03	020624	土師器	非ロクロ調整皿		推 12.8	2.6		推 13.0	指オサエ	ヨコナデ、指オサエ	10YR8/2 灰白		
0555	11a	検出III	020820	土師器	非ロクロ調整皿		推 10.0	2.3		推 10.2	ヨコナデ	ヨコナデ、指オサエ	2.5Y8/1 灰白		

名古屋城三の丸遺跡 VII

図版番号	グッド	遺構番号	日付	産地・材質	器種	時期	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	内面	外面	胎土(外部)	軸1	備考
0556	11b	検出皿	020820	土師器	非ロクロ調整皿		推 8.8	1.5	推 5.6	推 9.0	ヨコナデ、?	ヨコナデ、?	10YR8/2 灰白		
0557	11b	検出皿	020820	土師器	南伊勢系鍋			残 1.0			ヨコナデ	ヨコナデ	10YR6/2 灰黄褐		
0558	11b	検出皿	020820	土師器	南伊勢系鍋			残 1.5			ヨコナデ	ヨコナデ	10YR7/3 にふい黄橙		
0559	11a	検出皿	020820	土師器	南伊勢系鍋			残 1.7			ヨコナデ	ヨコナデ、わずかにス付着	10YR7/3 にふい黄橙		
0560	13f	SD17	020724	土師器	南伊勢系鍋			残 1.1			ヨコナデ	ヨコナデ	10YR8/2 灰白		
0561	12i	SK155	020711	瀬戸美濃陶器	天目茶碗	古後IV新古	推 11.8	5.7	推 4.5	推 12.0	鉄軸	鉄軸、下半露胎	2.5Y6/2 灰黄	7.5YR2/1 黒	
0562	12i	SK155	020711	瀬戸美濃陶器	天目茶碗	古後IV新古	推 10.8	残 5.1		推 11.0	鉄軸	鉄軸、錆軸	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y2/1 黒	
0563	12h	SK155	020711	瀬戸美濃陶器	天目茶碗	古後IV新	推 11.4	残 5.5		推 11.6	鉄軸	鉄軸、濃い錆軸	10YR7/2 にふい黄橙	5Y2/1 黒	
0564	12h	SK155	020711	瀬戸美濃陶器	天目茶碗	古後IV新	推 11.0	残 5.5		推 11.2	鉄軸	鉄軸、下半露胎	10YR8/4 浅黄橙	10YR1.7/1 黒	
0565	12i	SK155	020711	瀬戸美濃陶器	天目茶碗	古後IV新	推 11.4	残 5.4		推 11.7	鉄軸	鉄軸、下半露胎	7.5YR6/3 にふい褐	2.5Y7/3 浅黄	
0566	12i	SK155	020711	瀬戸美濃陶器	平碗	古後IV新	推 15.2	残 3.9		推 15.6	灰軸、口縁端部一部欠けス付着	灰軸、下半露胎	7.5YR7/6 橙、10YR8/2 灰白	7.5Y7/3 浅黄	
0567	12i	SK155	020711	瀬戸美濃陶器	平碗	古後III or IV古		残 3.0	5.0		灰軸	露胎、ヘラケズリ	2.5Y7/1 灰白		
0568	12i	SK155	020711	瀬戸美濃陶器	緑釉小皿	古後IV古		残 1.9	推 5.1		露胎	露胎、ヘラケズリ	2.5Y7/3 浅黄		
0569	12i	SK155	020711	瀬戸美濃陶器	緑釉小皿	古後IV新	推 10.2	2.2	推 5.8	推 10.4	灰軸、下半露胎、褐色付着物	灰軸、下半露胎、回転系切痕	2.5Y7/1 灰白	7.5Y5/3 灰オリーブ	
0570	12h	SK155	020711	瀬戸美濃陶器	緑釉小皿	古後IV新	推 13.2	3.2	5.8	推 13.4	鉄軸、下半露胎	鉄軸、下半露胎、回転系切痕、墨書のような黒色のシミあり	2.5Y7/2 灰黄	7.5YR3/3 暗褐	
0571	12i	SK155	020712	瀬戸美濃陶器	緑釉小皿	古後IV		残 2.1	6.4		灰軸	灰軸、下半露胎、回転系切痕	2.5Y7/2 灰黄	10Y6/2 オリーブ灰	
0572	12h	SK155	020711	瀬戸美濃陶器	緑釉小皿	古後IV		残 1.3	4.7		露胎(部分的に鉄軸)	露胎(部分的に鉄軸)、回転系切痕	2.5Y7/1 灰白		
0573	12i	SK155	020711	瀬戸美濃陶器	卸皿	古中I		残 2.4			灰軸、卸目	灰軸	5Y7/1 灰白	7.5Y6/2 灰オリーブ	
0574	12h	SK155	020711	瀬戸美濃陶器	卸皿	古後III or IV		残 1.6	5.0		ヨコナデ、卸目、鉄軸	ヨコナデ、回転系切痕	2.5Y7/3 浅黄		
0575	12i	SK155	020711	瀬戸美濃陶器	卸皿	古後IV		残 1.6	6.0		露胎(部分的に灰軸)、卸目	露胎(部分的に鉄軸)、回転系切痕	2.5Y7/3 浅黄		
0576	12i	SK155	020718	瀬戸美濃陶器	卸皿	古前IV		残 1.3	推 9.0		灰軸、卸目	露胎、回転系切痕	10YR7/2 にふい黄橙		
0577	12i	SK155	020712	瀬戸美濃陶器	卸皿	古前III or IV		残 1.7	推 9.2		灰軸、卸目	灰軸	10YR7/2 にふい黄橙		
0578	12i	SK155	020711	灰軸陶器	碗	K-90		残 3.2	7.4		重ね焼き痕、静止ヘラケズリ?	灰軸、ナデ、回転系切痕のちナデ	2.5Y7/2 灰黄		
0579	12i	SK155	020711	渥美湖西型山茶碗類	山茶碗	3型式		残 2.3	推 6.6		重ね焼き痕、ヨコナデ	ヨコナデ、回転系切痕	5Y6/1 灰		
0580	12i	SK155	020712	灰軸陶器	碗	H-72後半		残 2.4	7.6		ヨコナデ	ヨコナデ	10YR7/3 にふい黄橙		
0581	12i	SK155	020712	東濃型山茶碗類	山茶碗	窯洞		残 3.0	6.2		ヨコナデ、見込み中央に指頭圧痕	ヨコナデ、糊痕、回転系切痕	10YR7/2 にふい黄橙		
0582	12i	SK155	020711	尾張型山茶碗類(瀬戸)	山茶碗	7型式		残 4.2	推 5.0		ヨコナデ、一方向ナデ、内面磨減せず	ヨコナデ、糊痕、回転系切痕のちナデ、高台2/3欠落	10YR7/2 にふい黄橙		
0583	12i	SK155	020711	尾張型山茶碗類	山茶碗	8型式		残 2.8	6.2~6.5		ヨコナデ、一方向ナデ	ヨコナデ、回転系切痕	10YR6/3 にふい黄橙		
0584	12i	SK155	020711	尾張型山茶碗類(瀬戸)	山茶碗	8型式		残 2.9	推 4.3		ヨコナデ、一方向ナデ	ヨコナデ、糊痕、回転系切痕、高台1/2欠落	10YR7/2 にふい黄橙		
0585	12i	SK155	020711	尾張型山茶碗類(瀬戸)	山茶碗	7型式		残 4.2	推 5.4		ヨコナデ、一方向ナデ	ヨコナデ、糊痕、回転系切痕	10YR7/2 にふい黄橙		
0586	12i	SK155	020711	尾張型山茶碗類(瀬戸)	山茶碗	7型式		残 4.2			ヨコナデ、一方向ナデ	ヨコナデ、回転系切痕、高台欠落	10YR6/2 灰黄褐		
0587	12i	SK155	020711	尾張型山茶碗類	小皿	7or8型式	8.8	1.5~2.3	5.3~5.8	9.0	ヨコナデ、口縁端部自然軸、一方向ナデ	ヨコナデ、口縁端部自然軸、回転系切痕	2.5Y7/1 灰白		
0588	12i	SK155	020712	尾張型山茶碗類(瀬戸)	小皿	7or8型式	推 8.8	1.8	4.8	推 9.0	ヨコナデ、一方向ナデ	ヨコナデ、回転系切痕	2.5Y6/1 黄灰		
0589	12i	SK155	020711	東濃型山茶碗類	山茶碗	脇之島		残 1.8	5.2		ヨコナデ	ヨコナデ、回転系切痕	2.5Y8/2 灰白		
0590	12i	SK155	020711	東濃型山茶碗類	山茶碗	脇之島		残 1.9	4.2		ヨコナデ	ヨコナデ、回転系切痕	2.5Y8/1 灰白		
0591	12i	SK155	020711	東濃型山茶碗類	山茶碗	脇之島		残 1.9	推 4.0		ヨコナデ	ヨコナデ、回転系切痕	2.5Y8/2 灰白		
0592	12h	SK155	020711	東濃型山茶碗類	山茶碗	生田	推 10.3	2.2	推 4.0	推 10.5	ヨコナデ	ヨコナデ、回転系切痕	2.5Y5/2 暗黄、2.5Y8/2 灰白		
0593	12i	SK155	020711	尾張型山茶碗類	鉢	7型式		残 5.4	推 12.6		ヨコナデ、重ね焼き痕、自然軸、磨減	ヨコナデ、高台端面磨減	2.5Y7/1 灰白		
0594	12i	SK155	020712	瀬戸美濃陶器	折縁中皿	古後I	推 19.4	3.7	推 10.4	推 20.0	灰軸	灰軸、下半露胎、ヨコナデ	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/2 灰黄	
0595	12i	SK155	020711	瀬戸美濃陶器	中皿	古後III or IV		残 3.2	推 10.4		露胎	露胎、ヘラケズリ	5Y6/2 灰オリーブ		
0596	12i	SK155	020711	瀬戸美濃陶器	盤類	古後III		残 2.3	推 13.6		露胎(部分的に鉄軸)	露胎(部分的に鉄軸)、回転系切痕のちヘラケズリ	2.5Y7/3 浅黄		
0597	12h	SK155	020711	瀬戸美濃陶器	盤類	古後I		残 3.4	推 10.0		ナデ、灰軸	灰軸、ヘラケズリ、回転系切痕	10YR7/3 にふい黄橙	7.5Y6/3 オリーブ黄	
0598	12h	SK155	020711	尾張型山茶碗類	鉢	7or8型式		残 4.0			口縁端面自然軸、ヨコナデ	口縁端面自然軸、ヨコナデ	10YR5/2 灰黄褐		
0599	12h	SK155	020711	瀬戸美濃陶器	折縁深皿	古後IV古		残 2.1			灰軸	灰軸	7.5Y6/1 灰	5Y5/3 灰オリーブ	
0600	12i	SK155	020711	瀬戸美濃陶器	中皿	古後期後半		残 2.3	推 7.2		ヨコナデ、露胎	ヨコナデ、露胎、ヘラケズリ	2.5YR7/4 浅黄		
0601	12i	SK155	020711	瀬戸美濃陶器	中皿	古中I or II		残 2.5	推 8.0		灰軸	灰軸、ヨコナデ、回転系切痕、下半露胎	10YR7/2 にふい黄橙	7.5Y4/3 暗オリーブ	
0602	12h	SK155	020711	瀬戸美濃陶器	合子蓋	古後IV		2.0	2.3	4.8	露胎、回転系切痕、ナデ	鉄軸、下半露胎	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y2/1 黒	



遺物一覧表

図版番号	グランド	遺構番号	日付	産地・材質	器種	時期	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	内面	外面	胎土(外部)	釉1	備考
0603	12i	SK155	020711	瀬戸美濃陶器	水注	古前I b		残4.8			露胎、タテ方向ヘラケズリ	灰軸	2.5Y7/1 灰白	5Y6/3 オリーブ黄	
0604	12i	SK155	020711	瀬戸美濃陶器	盤類	古後I ~III		残4.3	推16.0		灰軸、トチン痕	灰軸、下半露胎、ヘラケズリ	10YR7/3 にぶい黄橙		
0605	12h	SK155	020711	瀬戸美濃陶器	盤類	古後IV		残5.5	推6.0		灰軸、下半露胎、よく磨滅	灰軸、下半露胎、ヘラケズリ、スス付着	2.5Y7/3 浅黄	5Y6/6 オリーブ	
0606	12i	SK155	020711	瀬戸美濃陶器	折縁深皿	古中I or II		残3.3	推19.4		灰軸、沈線	灰軸、ヘラケズリ、底部露胎	2.5Y7/3 浅黄	7.5Y7/2 灰白	
0607	12i	SK155	020711	瀬戸美濃陶器	描鉢	古後IV 新	推27.0	残5.8		推27.6	錆軸、わずかに磨滅、罎目1単位7本1.7cm?1単位残	錆軸	2.5Y7/2 灰黄	2.5YR3/3 暗赤褐	
0608	12h	SK155	020711	瀬戸美濃陶器	描鉢	古後IV 新	推29.2	残5.5		推30.0	錆軸	錆軸	10YR8/4 浅黄橙	2.5YR3/3 暗赤褐	
0609	12i	SK155	020711	瀬戸美濃陶器	描鉢	古後IV 新	推30.6	残8.7		推31.8	錆軸、磨滅激しい、スス付着	錆軸、スス付着	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR3/3 暗褐	
0610	12h	SK155	020711	瀬戸美濃陶器	描鉢	古後IV 新	推31.4	残4.4		推32.6	錆軸	錆軸	2.5Y7/3 浅黄	7.5R3/2 暗赤褐	
0611	12i	SK155	020711	瀬戸美濃陶器	描鉢	古後IV 新	推31.4	残5.6		推33.0	鉄軸(錆軸?)	鉄軸(錆軸?)	2.5Y8/3 淡黄	10YR3/2 黒褐	
0612	12i	SK155	020711	瀬戸美濃陶器	直縁大皿	古後I ~III		残2.7	推16.0		灰軸ハケ塗り、沈線	露胎、ヨコナデ、回転糸切痕、付高台	2.5Y7/3 浅黄	5Y6/2 灰オリーブ	
0613	12i	SK155	020711	瀬戸美濃陶器	緒桶	古後IV	推18.8	残5.1		推19.0	鉄軸	鉄軸、沈線	2.5Y7/2 灰黄	7.5YR4/3 褐	
0614	12i	SK155	020711	瀬戸美濃陶器	緒桶	古後IV		残4.2	推12.6		露胎、部分的に鉄軸	露胎、回転糸切痕	2.5Y8/2 灰白		
0615	12i	SK155	020520	瀬戸美濃陶器	鉢	古後IV	推17.6	残6.2		推17.8	錆軸	錆軸、スス付着	7.5Y8/1 灰白	10YR4/2 灰黄褐	
0616	12i	SK155	020711	瀬戸美濃陶器	描鉢	古後期後半		残5.4	推12.4		錆軸、著しく磨滅	錆軸、底面露胎、回転糸切痕	10YR5/2 灰黄褐	10YR3/2 黒褐	
0617	12i	SK155	020711	瀬戸美濃陶器	描鉢	古後IV 新~大1古		残6.4	9.6		錆軸、罎目1単位5本1.4cm	錆軸、回転糸切痕のち重ね焼き痕	2.5Y8/3 淡黄	7.5YR3/1 黒褐	
0618	12i	SK155	020711	瀬戸美濃陶器	描鉢	古後IV 新~大1古		残7.1	推9.6		錆軸、罎目1単位8本2.7cm4単位残存	錆軸、トチン痕あり、回転糸切痕、破損後スス付着	2.5Y8/2 灰白	5YR4/2 灰褐	
0619	12i	SK155	020711	土師器	羽付釜			残6.9		推25.7	調整不明(指オサエ?)、スス付着	ヨコナデ?、スス付着、ヘラケズリ	10YR5/2 灰黄褐		
0620	12i	SK155	020711	土師器	羽付鍋			残5.8			ヨコナデ、スス付着	ヨコナデ、スス付着	7.5YR4/3 褐		
0621	12i	SK155	020711	土師器	羽付鍋			残4.4			ヨコナデ	ヨコナデ、口縁部スス付着	10YR7/4 にぶい黄橙		
0622	12h, 12i	SK155	020711	瀬戸美濃陶器	根来型広口瓶子	古後III or IV	推9.0	残7.1		推16.5	灰軸、下半露胎	灰軸	10YR6/3 にぶい黄橙	5Y5/4 オリーブ	
0623	13e, 12i	SK155	020711	瀬戸美濃陶器	祖母横壺	古後	10.2	残8.3			錆軸、下半露胎	錆軸(部分的に自然軸)	2.5Y6/1 黄灰	10YR3/4 暗褐	
0624	12i	SK155	020711	瀬戸美濃陶器	四(三)耳壺	古後期後半		残5.5			灰軸	灰軸	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y6/6 明黄褐	
0625	12i	SK155	020711	瀬戸美濃陶器	四(三)耳壺	古後期前半		残5.2			うすい灰軸	灰軸	2.5Y7/3 浅黄	7.5Y6/3 オリーブ黄	
0626	12i	SK155	020711	瀬戸美濃陶器	四(三)耳壺	古前III or IV		残7.8	推8.4		露胎	ヘラケズリ、ヨコナデ、灰軸、錆軸?	10YR7/4 にぶい黄橙	2.5Y7/1 灰白	
0627	12i	SK155	020711	瀬戸美濃陶器	水注	古後期前半		残7.0	推8.8		露胎	灰軸、下半露胎、回転糸切痕、破損後スス付着	2.5Y7/3 浅黄	5Y5/3 灰オリーブ	
0628	12i	SK155	020712	瀬戸美濃陶器	花瓶	古後IV 新		残5.4			鉄軸、露胎	鉄軸	10YR7/2 にぶい黄橙	2.5Y2/1 黒	
0629	12h	SK155	020711	瀬戸美濃陶器	瓶子	古後IV		残5.5			鉄軸	鉄軸	5Y8/1 灰白	5Y5/3 灰オリーブ	
0630	12i	SK155	020711	瀬戸美濃陶器	瓶子	古前II		残4.7			灰軸、下半露胎	灰軸(部分的に鉄軸)	2.5Y7/1 灰白	10Y5/2 オリーブ灰、10YR6/6 明黄褐	
0631	12i	SK155	020711	瀬戸美濃陶器	瓶子	古後		残15.6			ヨコナデ、灰軸?	灰軸?、表面風化する、ヘラケズリ	10YR7/3 にぶい黄橙		
0632	12i	SK155	020712	瀬戸美濃陶器	根来型瓶子	古後IV		残9.5			鉄軸、下半露胎	鉄軸、ヘラケズリ、高台内露胎、ナデ	2.5Y8/3 淡黄	7.5YR4/4 褐	たぶん629と同一個体
0633	12i	SK155	020711	瀬戸美濃陶器	壺?	古後IV 新		残3.3	推9.6		露胎	鉄軸、下半露胎、ヘラケズリ	10YR7/6 明黄褐	10YR2/1 黒	
0634	12i	SK155	020711	瀬戸美濃陶器	根来型瓶子	古後		残5.2			灰軸、下半露胎	灰軸、回転糸切痕、高台貼付のためのキズあり、高台内露胎	2.5Y7/3 浅黄	7.5Y6/3 オリーブ黄	
0635	12i	SK155	020711	瀬戸美濃陶器	根来型瓶子	古後IV		残9.2			露胎	鉄軸	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR1.7/1 黒	
0636	12h, 12i	SK155	020711	瀬戸美濃陶器	根来型瓶子	古後III or IV		残6.7	推11.4		露胎	鉄軸、下半露胎	10YR8/3 浅黄橙	10YR2/1 黒	
0637	12i	SK155	020711	瀬戸美濃陶器	燭台	古後IV 新		残14.8			鉄軸、露胎	鉄軸、窓あり	10YR8/3 浅黄橙	10YR1.7/1 黒	
0638	12i	SK155	020711	常滑陶器	壺	中野10新形式	推16.4	残7.3			ヨコナデ、自然軸	ヨコナデ、自然軸	2.5Y3/3 暗赤褐	7.5Y4/2 灰オリーブ	
0639	12i	SK155	020711	常滑陶器	甕	中野6a, b型式		残6.9?			露胎、ヨコナデ	自然軸、印花文(三巴文)2ヶ残	2.5Y5/1 黄灰	10Y4/2 オリーブ灰	640と同一個体か、阿久比~知多市
0640	12i	SK155	020711	常滑陶器	甕	中野5新形式	推31.4	残6.3			自然軸、指オサエ、ヨコナデ	ヨコナデ、自然軸	5YR3/4 暗赤褐	5Y4/4 暗オリーブ	
0641	12i	SK155	020712	常滑陶器	甕	中野5新形式		残4.1			ヨコナデ、自然軸	ヨコナデ、自然軸	5YR3/3 暗赤褐	5Y4/3 暗オリーブ	
0642	12i	SK155	020711	常滑陶器	甕	中野7型式		残5.3			自然軸、ヨコナデ	自然軸、ヨコナデ	2.5YR4/4 にぶい赤褐	7.5Y4/3 暗オリーブ	
0643	12i	SK155	020711	常滑陶器	甕	中野9型式	推40.0	残6.3			自然軸、ヨコナデ	自然軸、ヨコナデ	5YR3/3 暗赤褐	5Y5/4 オリーブ	
0644	12i	SK155	020711	鉄滓	椀型鉄滓		残長7.6	残幅6.7	厚3.8						
0645	12i	SK155	020711	凝灰質泥岩	砥石		残長5.7	残幅4.4	厚1.4						
0646	11j	SK147	020705	瀬戸美濃陶器	天目茶碗	古後IV 新	推11.8	残5.8		推12.0	鉄軸	鉄軸、錆軸	10YR8/3 浅黄橙	10YR5/3 にぶい黄褐	
0647	11j	SK147	020708	瀬戸美濃陶器	天目茶碗	古後IV 新	推11.8	残5.9		推12.0	鉄軸	鉄軸、錆軸	2.5Y6/2 灰黄	10YR3/3 暗褐	

名古屋城三の丸遺跡 VII

図版番号	グッド	遺構番号	日付	産地・材質	器種	時期	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	内面	外面	胎土(外部)	釉1	備考
0648	11j	SK147 上層	020806	瀬戸美濃陶器	天目茶碗	大1	推 11.8	残 5.7		推 12.0	鉄釉	鉄釉、錆釉	10YR6/3 にふい黄橙	5Y3/2 オリーブ黒	
0649	11i	SK147	020820	瀬戸美濃陶器	天目茶碗	古後IV 新		残 3.2	4.2		鉄釉	鉄釉、錆釉、回転糸切痕?、削出高台	10YR6/4 にふい黄橙	5YR2/1 黒褐	
0650	11i	SK147	020820	瀬戸美濃陶器	仏師具		8.8	4.7	4.6	9.0	鉄釉	鉄釉、下半露胎、回転糸切痕	2.5Y8/2 灰白	10YR2/1 黒	
0651	11j	SK147	020708	瀬戸美濃陶器	緑釉皿	古後IV 古	推 13.6	残 2.9		推 14.0	鉄釉、下半露胎	鉄釉、下半露胎	10YR7/4 にふい黄橙	10YR3/4 暗褐	
0652	11i	SK147	020820	瀬戸美濃陶器	緑釉皿	古後IV 新	推 11.1	2.6	4.7	推 11.4	灰釉、下半露胎	灰釉、下半露胎、回転糸切痕	2.5Y8/2 灰白	7.5Y5/3 灰オリーブ	
0653	11i	SK147	020820	瀬戸美濃陶器	重圓皿	生田	推 10.8	残 1.8		推 11.0	露胎	露胎	2.5Y8/3 淡黄		
0654	11i	SK147	020820	東濃型山茶碗類	山茶碗	脇之島	推 11.2	3.1	推 4.4	推 11.4	ヨコナデ、わずかに自然釉	ヨコナデ、わずかに自然釉、回転糸切痕	5Y7/1 灰白		
0655	12j	SK147	020709	尾張型山茶碗類	小皿	6型式	推 9.0	2.0	5.4	推 9.4	ヨコナデ、一方向ナデ	ヨコナデ、回転糸切痕のち板状圧痕	2.5Y7/1 灰白		瀬戸?
0656	11j	SK147	020705	尾張型山茶碗類	小皿	7型式	推 8.2	2.1	5.0	推 8.8	ヨコナデ、自然釉、一方向ナデ	ヨコナデ、回転糸切痕のち板状圧痕	10YR7/1 灰白		瀬戸?
0657	11j	SK147	020705	灰釉陶器	碗	O-53 併行	14.0	4.2	5.4	14.1	ヨコナデ、自然釉	ヨコナデ、回転糸切痕	2.5Y7/1 灰白		
0658	11i	SK147	020705	灰釉陶器	皿	K-90		残 2.1	推 7.4		灰釉、重ね焼き痕	灰釉、回転糸切痕	2.5Y7/2 灰黄	5Y8/1 灰白	
0659	11j	SK147 上層	020806	中国	白磁小杯			残 1.7	3.4		白磁釉	白磁釉、高台端部露胎	5Y8/1 灰白	C4-M0-Y6- BL4	
0660	11j	SK147	020705	中国	白磁皿			残 0.7	推 7.0		白磁釉	白磁釉	C6-M4-Y4- BL0	C10-M4- Y10-BL0	口禿げ
0661	11i	SK147	020820	土師器	ロクロ調整皿		12.4	2.0	6.6	12.6	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	10YR7/4 にふい黄橙		
0662	11i	SK147	020820	土師器	ロクロ調整皿		12.8	2.1	7.2	13.2	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	10YR7/4 にふい黄橙		
0663	11j	SK147	020709	土師器	ロクロ調整皿		13.9	2.3	6.7	14.1	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	10YR7/4 にふい黄橙		
0664	11i	SK147	020820	土師器	ロクロ調整皿		12.0	2.3	6.5	12.2	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	10YR7/3 にふい黄橙		
0665	11i	SK147	020820	土師器	ロクロ調整皿		12.4	2.1	6.3	12.6	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	10YR7/3 にふい黄橙		
0666	11i	SK147	020820	土師器	ロクロ調整皿		11.7	2.0	6.0	11.9	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	10YR7/4 にふい黄橙		
0667	11i	SK147	020820	土師器	ロクロ調整皿		13.0	2.1	6.6	13.2	ヨコナデ、被熱痕	ヨコナデ、回転糸切痕	10YR7/4 にふい黄橙		
0668	11i	SK147	020819	土師器	ロクロ調整皿		12.8	2.6	5.8	13.0	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	10YR7/4 にふい黄橙		
0669	11i	SK147	020820	土師器	ロクロ調整皿		11.8	2.0	6.2	12.0	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	7.5YR7/4 にふい橙		
0670	11i	SK147	020820	土師器	ロクロ調整皿		11.7	2.1	6.0	11.9	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	10YR7/3 にふい黄橙		
0671	11i	SK147	020820	土師器	ロクロ調整皿		12.1	2.0	6.4	12.3	ヨコナデ、被熱痕	ヨコナデ、回転糸切痕	10YR7/3 にふい黄橙		
0672	11j	SK147	020705	土師器	ロクロ調整皿		13.4	2.2	6.3	13.6	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	10YR7/3 にふい黄橙		
0673	11i	SK147	020820	土師器	ロクロ調整皿		11.9	2.0	6.4	12.2	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	10YR7/4 にふい黄橙		
0674	11i	SK147	020820	土師器	ロクロ調整皿		12.0	2.1	6.4	12.3	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	10YR7/4 にふい黄橙		
0675	11j	SK147 中層	020806	土師器	ロクロ調整皿		13.0	2.3	6.4	13.2	ヨコナデ、被熱痕	ヨコナデ、回転糸切痕	10YR7/4 にふい黄橙		
0676	11i	SK147	020820	土師器	ロクロ調整皿		12.1	2.1	6.5	12.3	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	10YR7/4 にふい黄橙		
0677	11i	SK147	020820	土師器	ロクロ調整皿		12.2	2.0	6.2	12.5	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	10YR7/4 にふい黄橙		
0678	11i	SK147	020820	土師器	ロクロ調整皿		推 11.6	2.2	6.2	推 11.9	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	10YR7/3 にふい黄橙		
0679	11j	SK147	020708	土師器	ロクロ調整皿		推 14.0	2.2	7.2	推 14.4	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	10YR7/3 にふい黄橙		
0680	11i	SK147	020819	土師器	ロクロ調整皿		13.6	2.1	6.8	13.8	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	10YR7/3 にふい黄橙		
0681	11i	SK147	020820	土師器	ロクロ調整皿		13.0	2.2	7.0	13.2	ヨコナデ、被熱痕	ヨコナデ、回転糸切痕	7.5YR7/6 橙		
0682	11i	SK147	020820	土師器	ロクロ調整皿		推 12.0	2.0	6.0	推 12.3	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	10YR7/3 にふい黄橙		
0683	11i	SK147	020819	土師器	ロクロ調整皿		14.0	2.4	7.0	14.2	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	10YR7/4 にふい黄橙		
0684	11j	SK147	020705、 020708	土師器	ロクロ調整皿		13.7	2.2	6.7	13.9	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	10YR7/4 にふい黄橙		
0685	11j	SK147	020806	土師器	ロクロ調整皿		推 13.4	2.5	7.0	推 13.6	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	10YR7/3 にふい黄橙		
0686	11i	SK147	020820	土師器	ロクロ調整皿		12.1	2.0	5.9	12.3	ヨコナデ、被熱痕	ヨコナデ、回転糸切痕	10YR7/3 にふい黄橙		
0687	11i	SK147	020819	土師器	ロクロ調整皿		推 16.0	2.6	推 7.8	推 16.4	ヨコナデ、スス付着	ヨコナデ、回転糸切痕	10YR7/4 にふい黄橙		
0688	11i	SK147	020820	土師器	ロクロ調整皿		推 11.8	残 2.0		推 12.0	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR7/3 にふい黄橙		
0689	11j	SK147	020705	土師器	ロクロ調整皿		推 12.6	2.1	6.4	12.6	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕のち板状圧痕	10YR7/3 にふい黄橙		
0690	11j	SK147	020705	土師器	ロクロ調整皿		推 12.6	残 1.8		推 12.7	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR7/3 にふい黄橙		
0691	11j	SK147	020705	土師器	ロクロ調整皿		推 12.0	残 1.7		推 12.2	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR7/3 にふい黄橙		
0692	11j	SK147	020705	土師器	ロクロ調整皿		推 11.0	残 1.8		推 11.1	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR8/3 浅黄橙		
0693	11j	SK147	020705	土師器	ロクロ調整皿		推 12.2	2.2		推 12.4	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR7/2 にふい黄橙		
0694	11i	SK147	020822	土師器	ロクロ調整皿		推 8.0	1.7	4.0	推 8.2	タール付着、ヨコナデ	タール付着、ヨコナデ、回転糸切痕のち板状圧痕	10YR7/4 にふい黄橙		
0695	11i	SK147	020820	土師器	ロクロ調整皿		推 7.0	1.4	4.0	推 7.3	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	10YR7/4 にふい黄橙		
0696	11i	SK147	020820	土師器	ロクロ調整皿		7.0	1.5	4.0	7.2	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	10YR7/4 にふい黄橙		

## 遺物一覧表

図版番号	グランド	遺構番号	日付	産地・材質	器種	時期	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	内面	外面	胎土(外部)	軸1	備考
0697	11j	SK147	020705	土師器	形代(銀?)			3.2				指オサエ	5YR6/6 橙		
0698	11j	SK147	020705	土師器	非ロクロ調整皿		7.0~7.3	1.0	5.8~6.1	7.2~7.5	ヨコナデ	ヨコナデ、指オサエ	10YR7/3 にぶい黄橙		
0699	11j	SK147	020705	土師器	非ロクロ調整皿		6.8~7.2	1.2	5.4~5.6	7.0~7.5	ヨコナデ	ヨコナデ、指オサエ	10YR8/3 浅黄橙		
0700	11j	SK147	020708	土師器	非ロクロ調整皿		6.6~6.9	0.9	5.3~5.7	6.8~7.1	ヨコナデ	ヨコナデ、指オサエ	10YR8/3 浅黄橙		
0701	11j	SK147	020705	土師器	非ロクロ調整皿		6.6~7.1	1.0	5.3~5.7	6.8~7.3	ヨコナデ	ヨコナデ、指オサエ	10YR8/3 浅黄橙		
0702	11i	SK147	020820	土師器	非ロクロ調整皿		7.0	1.0	6.3	7.2	ヨコナデ	ヨコナデ、指オサエ	10YR8/3 浅黄橙		
0703	11i	SK147	020819	土師器	非ロクロ調整皿		推 6.8	1.1	推 5.8	推 7.0	ヨコナデ	ヨコナデ、指オサエ	10YR7/3 にぶい黄橙		
0704	11i	SK147	020819	土師器	非ロクロ調整皿		6.3~6.5	1.3	4.7~5.0	6.5~6.7	ヨコナデ	ヨコナデ、指オサエ	10YR 8/2 灰白		
0705	11j	SK147	020705	土師器	非ロクロ調整皿		6.4~6.6	1.3	4.7~5.0	6.6~6.8	ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、指オサエ	10YR7/3 にぶい黄橙		
0706	11j	SK147	020708	土師器	非ロクロ調整皿		6.0~6.2	1.3	4.7~5.0	6.2~6.4	ヨコナデ	ヨコナデ、指オサエ	10YR7/3 にぶい黄橙		
0707	11j	SK147	020705	土師器	非ロクロ調整皿		6.2~6.4	1.2	4.9~5.2	6.6~6.7	ヨコナデ	ヨコナデ、指オサエ	10YR7/3 にぶい黄橙		
0708	11i	SK147	020820	土師器	非ロクロ調整皿		6.2~6.3	1.1	5.0~5.1	6.4~6.5	ヨコナデ	ヨコナデ、指オサエ	10YR7/3 にぶい黄橙		
0709	11j	SK147	020708	土師器	非ロクロ調整皿		6.2	1.4	4.7~5.0	6.4~6.5	ヨコナデ	ヨコナデ、指オサエ	10YR7/3 にぶい黄橙		
0710	11j	SK147	020705	土師器	非ロクロ調整皿		6.3~6.7	1.2	4.5~5.0	6.5~6.9	ヨコナデ	ヨコナデ、板状圧痕、指オサエ	10YR7/3 にぶい黄橙		
0711	11j	SK147	020705	土師器	非ロクロ調整皿		6.8~7.1	1.2	5.1~5.4	7.0~7.3	ヨコナデ	ヨコナデ、板状圧痕、指オサエ	10YR7/3 にぶい黄橙		
0712	11i	SK147	020819	土師器	非ロクロ調整皿		推 6.3	1.1	4.8	推 6.6	ヨコナデ	ヨコナデ、指オサエ	10YR7/3 にぶい黄橙		
0713	11j	SK147	020705	土師器	非ロクロ調整皿		6.7~6.9	1.0	5.3~5.5	6.9~7.1	ヨコナデ	ヨコナデ、指オサエ	10YR8/3 浅黄橙		
0714	11i	SK147	020819	土師器	非ロクロ調整皿		7.0~7.5	1.6		7.2~7.7	ハケ、ナデ	指オサエ	10YR7/3 にぶい黄橙		
0715	11i	SK147	020820	土師器	非ロクロ調整皿		7.0~7.2	1.7		7.3~7.7	ハケ、ナデ	指オサエ	10YR7/4 にぶい黄橙		
0716	11i	SK147	020820	土師器	非ロクロ調整皿		7.2~7.5	1.6		7.2~7.5	ナデ?	指オサエ	10YR7/4 にぶい黄橙		
0717	11i	SK147	020820	土師器	非ロクロ調整皿		7.1~7.6	1.7		7.5~8.0	ナデ?	指オサエ	10YR7/4 にぶい黄橙		
0718	11j	SK147	020705	土師器	非ロクロ調整皿		7.0~7.2	1.5		7.0~7.2	ハケ、ナデ?	指オサエ	10YR7/3 にぶい黄橙		
0719	11j	SK147	020705	土師器	非ロクロ調整皿		7.2~7.6	1.6		7.4~8.0	ハケ、ナデ?	指オサエ	10YR7/4 にぶい黄橙		
0720	11j	SK147	020705	土師器	非ロクロ調整皿		7.0~7.3	1.7		7.4~7.6	ハケ	指オサエ	10YR7/3 にぶい黄橙		
0721	11j	SK147	020705	土師器	非ロクロ調整皿		7.4~7.8	1.7		7.7~8.0	ハケ、ナデ	指オサエ	10YR7/3 にぶい黄橙		
0722	11i	SK147	020820	土師器	非ロクロ調整皿		7.2~7.6	1.4		7.5~7.9	ヨコナデ?	指オサエ	10YR7/4 にぶい黄橙		
0723	11j	SK147	020705	土師器	非ロクロ調整皿		7.0~7.2	1.4		7.4~7.6	ハケ	指オサエ	10YR7/4 にぶい黄橙		
0724	11i	SK147	020820	土師器	非ロクロ調整皿		7.2~7.6	1.6		7.5~8.0	ハケ	指オサエ	10YR7/4 にぶい黄橙		
0725	11i	SK147	020820	土師器	非ロクロ調整皿		7.2~7.6	1.6		7.3~7.8	ヨコナデ?	指オサエ	10YR7/4 にぶい黄橙		
0726	11i	SK147	020819	土師器	非ロクロ調整皿		7.0~7.3	1.5		7.3~7.6	ハケとヨコナデ?	指オサエ	10YR7/4 にぶい黄橙		
0727	11i	SK147	020820	土師器	非ロクロ調整皿		7.0	1.7		7.4	ハケ、スス付着	指オサエ	10YR7/3 にぶい黄橙		
0728	11i	SK147	020820	土師器	非ロクロ調整皿		6.8~7.0	1.8		7.2~7.5	ヨコナデ?	指オサエ	10YR7/3 にぶい黄橙		
0729	11i	SK147	020820	土師器	非ロクロ調整皿		7.2~7.4	1.7		7.6~7.8	ハケ、ヨコナデ?	指オサエ	10YR7/4 にぶい黄橙		
0730	11j	SK147	020705	土師器	非ロクロ調整皿		7.3~7.5	1.6		7.6~7.8	ハケ、ヨコナデ?	指オサエ	10YR7/3 にぶい黄橙		
0731	11i	SK147	020820	土師器	非ロクロ調整皿		7.2~7.4	1.6		7.5~7.7	ハケ、ヨコナデ?	指オサエ	10YR7/4 にぶい黄橙		
0732	11i	SK147	020820	土師器	非ロクロ調整皿		7.4~7.6	1.9		7.6~7.8	ヨコナデ?	指オサエ	10YR7/4 にぶい黄橙		
0733	11i	SK147	020820	土師器	非ロクロ調整皿		7.2~7.6	1.8		7.2~7.6	ハケ	指オサエ	10YR7/4 にぶい黄橙		
0734	11i	SK147	020820	土師器	非ロクロ調整皿		7.2~7.6	1.6		7.6~8.0	ハケ、ヨコナデ	指オサエ	10YR7/3 にぶい黄橙		
0735	11j	SK147	020708	土師器	非ロクロ調整皿		7.2~7.4	1.5		7.5~7.7	不明	指オサエ	10YR7/4 にぶい黄橙		
0736	11j	SK147	020708	土師器	非ロクロ調整皿		7.2~7.4	1.7		7.4~7.7	ハケ、ヨコナデ?	指オサエ	10YR7/4 にぶい黄橙		
0737	11i	SK147	020820	土師器	非ロクロ調整皿		7.2~7.4	1.8		7.4~7.8	ハケ	指オサエ	7.5YR7/4 にぶい橙		
0738	11i	SK147	020820	土師器	非ロクロ調整皿		7.2~7.6	1.7		7.2~7.6	調整不明	指オサエ、ハケ?	10YR7/4 にぶい黄橙		
0739	11j	SK147	020708	土師器	非ロクロ調整皿		7.2~7.4	1.5		7.4~7.7	ハケ、指オサエ	指オサエ、ハケ?	7.5YR7/3 にぶい橙		
0740	11i	SK147	020820	土師器	非ロクロ調整皿		7.6	1.6		7.9	ハケ、指オサエ	指オサエ	7.5YR7/3 にぶい橙		
0741	11i	SK147	020820	土師器	非ロクロ調整皿		7.2	1.5		7.5	調整不明	指オサエ	7.5YR7/4 にぶい橙		
0742	11i	SK147	020820	土師器	非ロクロ調整皿		推 7.6	1.5		推 7.8	ハケ、指オサエ	指オサエ	10YR7/4 にぶい黄橙		
0743	11i	SK147	020819	土師器	非ロクロ調整皿		7.1	1.4		7.4	ヨコナデ?	指オサエ	10YR7/4 にぶい黄橙		
0744	11j	SK147	020708	瀬戸美濃陶器	水注?	古後IV古	推 4.6	残 5.7		推 11.4	鉄軸	鉄軸	2.5Y6/1 黄灰	5Y2/2 オリブ黒	
0745	11j	SK147	020708	瀬戸美濃陶器	四(三)耳壺	古前II or III	推 13.0	残 4.9			灰軸	灰軸	2.5Y6/2 灰黄	7.5Y5/3 灰オリブ	
0746	11i	SK147	020820	瀬戸美濃陶器	描鉢	古後IV新		残 2.6			錆軸	錆軸	10YR7/6 明黄褐	5YR3/3 暗赤褐	

名古屋城三の丸遺跡 VII

図版番号	グッド	遺構番号	日付	産地・材質	器種	時期	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	内面	外面	胎土(外部)	釉1	備考
0747	11i	SK147	020820	常滑陶器	こね鉢	中野6b型式	推 18.6	残 4.8		推 20.2	自然釉	ヨコナデ、指オサエ、タテハケ?	2.5Y4/1 灰黄	10R4/2 灰赤	
0748	11j	SK147 上層	020806	瀬戸美濃陶器	釜	古後IV	推 13.6	残 4.1			錆釉	錆釉	2.5Y6/3 にふい黄	10R3/2 暗赤褐	
0749	11i	SK147	020820	瀬戸美濃陶器	釜	古後IV		残 2.1	推 9.8		錆釉	錆釉、回転糸切痕	2.5Y7/2 灰黄	5YR4/2 灰褐	
0750	11i	SK147	020820	瀬戸美濃陶器	挿鉢	大2		残 3.0			錆釉	錆釉	10YR8/2 灰白	10R3/1 暗赤灰	
0751	11i	SK147	020820	土師器	甕		推 11.6	残 4.5			ヨコナデ、ヨコハケ、スス付着	ヨコナデ、タテハケ、指オサエ	7.5YR6/4 にふい橙		
0752	11j	SK147 上層	020806	土師器	半球形内耳鍋			残 5.6			ヨコナデ、指オサエ、スス付着	ヨコナデ、スス付着	5YR3/1 黒褐		
0753	11i	SK147	020822	土師器	半球形内耳鍋		推 21.4	残 11.2		推 21.6	ヨコナデ、ハケ、スス付着、コゲ付着	ヨコナデ、指オサエ、ヘラケズリ、スス付着	10YR4/2 灰黄褐		
0754	11j	SK147	020705	土師器	半球形内耳鍋		推 26.6	残 11.7		推 26.6	ヨコナデ、調整不明、スス付着	ヨコナデ、指オサエ、ヘラケズリ、スス付着	10YR3/1 黒褐		
0755	11i	SK147	020917	土師器	半球形内耳鍋		推 22.8	残 10.2		推 22.8	ヨコナデ、ハケ、ヘラケズリ、コゲ付着	ヨコナデ、指オサエ、ヘラケズリ、スス付着	7.5YR3/2 黒褐		
0756	11i	SK147	020820	土師器	半球形内耳鍋		推 31.0	残 11.7		推 31.1	ヨコナデ、ハケ、コゲ付着	ヨコナデ、指オサエ、ハケ、スス付着	7.5YR4/2 灰褐		
0757	11i	SK147	020820	土師器	半球形内耳鍋		推 23.0	残 10.1		推 23.0	ヨコナデ、ハケまたはヘラケズリ、コゲ付着	ヨコナデ、指オサエ、ヘラケズリ、スス付着	10YR4/3 にふい黄褐		
0758	11i	SK147	020819	土師器	半球形内耳鍋		推 30.0	残 15.7		推 31.2	ヨコナデ、調整不明、コゲあり	ヨコナデ、指オサエ、ヘラケズリ、下半調整不明、スス付着	10YR5/2 灰黄褐		
0759	11i	SK147	020820	木製品	板材		最大長 33.5	最大幅 3.5	最大厚 0.3						
0760	11j	SK147	020705	鉄製品	釘?		長 6.5	幅 2.0	厚 2.0						
0761	11j	SK147	020705	凝灰質泥岩	砥石		長 2.5	幅 1.4	厚 0.4						
0762	11j	SK147	020705	凝灰質泥岩	砥石		長 3.5	幅 2.3	厚 0.4						
0763	11j	SK147	020705	凝灰質泥岩	砥石		残長 3.6	残幅 3.9	厚 0.5						
0764	11j	SK147	020705	凝灰質泥岩	砥石		残長 5.7	幅 2.9	厚 1.3						
0765	13d	SD39	020829	瀬戸美濃陶器	天目茶碗	古後IV新	推 11.4	6.4	4.0	推 11.8	鉄釉	鉄釉、錆釉、回転ヘラケズリ	10YR8/2 灰白	10YR2/3 黒褐	
0766	12d	SD39	020829	瀬戸美濃陶器	瓶	古後IV新		残 6.3	推 12.2		露胎	鉄釉、うすい錆釉、回転ヘラケズリ	2.5Y7/2 灰黄	5YR2/1 黒褐	
0767	13d	SD39	020829	土師器	ロクロ調整皿		推 12.2	2.2	推 6.0	推 12.4	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	10YR7/4 にふい黄橙		
0768	13d	SD39	020829	土師器	ロクロ調整皿			残 1.5	6.0		ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕の板状圧痕	10YR7/4 にふい黄橙		
0769	12d	SD39	020829	瀬戸美濃陶器	桶	古後IV		残 3.3			鉄釉	鉄釉	7.5YR7/4 にふい橙	5Y6/3 オリーブ黄	
0770	12d	SD39	020829	瀬戸美濃陶器	挿鉢	古後IV新		残 3.1			錆釉	錆釉	10YR7/4 にふい黄褐	2.5YR3/1 暗赤灰	
0771	13d	SD39	020829	土師器	非ロクロ調整皿		5.5	1.4		5.8	ヨコナデ	ヨコナデ、指オサエ	10YR7/2 にふい黄橙		
0772	13d	SD39	020829	土師器	非ロクロ調整皿		5.2	1.3		5.5	ヨコナデ?	ヨコナデ、指オサエ	10YR7/3 にふい黄橙		
0773	13d	SD39	020829	土師器	非ロクロ調整皿		5.4	1.2		5.6	ヨコナデ	ヨコナデ、指オサエ	10YR7/3 にふい黄橙		
0774	13d	SD39	020829	土師器	非ロクロ調整皿		5.2	1.2		5.5	ヨコナデ	ヨコナデ、指オサエ?	10YR7/3 にふい黄橙		
0775	12d	SD39	020829	瀬戸美濃陶器	挿鉢	古後IV新	推 30.0	残 3.5		推 31.0	錆釉	錆釉	7.5YR6/4 にふい橙	10R3/2 暗赤褐	
0776	12d	SD39	020829	瀬戸美濃陶器	挿鉢	古後IV新	推 28.4	残 2.7		推 30.0	錆釉	錆釉	10YR7/4 にふい黄橙	10R3/2 暗赤褐	
0777	12d	SD39	020829	瀬戸美濃陶器	挿鉢	古後IV新~大1		残 9.2	9.2		錆釉、内面わずかに磨滅、跡目1単位17本3.3cm、7方向あり	錆釉、回転糸切痕	10YR7/3 にふい黄橙	7.5R3/1 暗赤灰	
0778	13c	SD39	020919	瀬戸美濃陶器	折縁深皿	古後II	推 30.6	残 3.9		推 31.0	灰釉	灰釉	2.5Y7/2 灰黄	5Y6/3 オリーブ黄	
0779	13c	SD39	020919	瀬戸美濃陶器	緒桶	古後IV	推 18.0	残 14.3			鉄釉、露胎、一部鉄釉ハケ塗り	鉄釉、うすい鉄釉、ヘラケズリ	7.5YR6/6 橙、10YR8/2 灰白	7.5YR4/4 褐	
0780	13d	SD39	020829	土師器	半球形内耳鍋			残 3.1			ヨコナデ、調整不明	ヨコナデ、指オサエ、スス付着	10YR5/3 にふい黄褐		
0781	13d	SD39	020829	土師器	半球形内耳鍋			残 2.3			ヨコナデ	ヨコナデ	10YR7/3 にふい黄橙		
0782	13d	SD39	020829	土師器	半球形内耳鍋			残 3.4			ヨコナデ	ヨコナデ、スス付着	5YR6/6 橙		
0783	13d	SD39	020829	土師器	半球形内耳鍋			残 4.1			ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、指オサエ、スス付着	10YR6/2 灰黄褐		
0784	13d	SD39	020829	土師器	半球形内耳鍋			残 4.4			ヨコナデ、ハケ、コゲ付着	ヨコナデ、指オサエ、スス付着	10YR5/2 灰黄褐		
0785	13d	SD39	020829	土師器	半球形内耳鍋			残 4.6			ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、指オサエ、スス付着	7.5YR6/3 にふい黄		
0786	12d	SD39	020829	土師器	半球形内耳鍋			残 3.2			ヨコナデ	ヨコナデ、スス付着	10YR7/3 にふい黄橙		
0787	13d	SD39	020829	土師器	(羽付) 釜		推 12.2	残 3.9			ヨコナデ	ヨコナデ	10YR7/4 にふい黄橙		
0788	13d	SD39	020829	土師器	半球形内耳鍋		推 21.0	残 9.0		推 23.6	ヨコナデ、ヨコハケ、下半調整不明	ヨコナデ、指オサエ、スス付着、一部表面剥離	7.5YR4/2 灰褐		
0789	13d	SD39	020829	土師器	半球形内耳鍋		推 21.0	残 5.4		推 22.0	ヨコナデ、ヨコハケ	ヨコナデ、指オサエ、スス付着	10YR7/3 にふい黄橙		
0790	13d	SD39	020829	土師器	半球形内耳鍋		推 22.0	残 6.3		推 23.6	ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、指オサエ、スス付着	10YR6/3 にふい黄橙		
0791	12d	SD39	020829	土師器	半球形内耳鍋		推 22.8	残 6.2		推 23.8	ヨコナデ、下半調整不明	ヨコナデ、指オサエ、スス付着	10YR8/3 浅黄橙		
0792	13d	SD39	020829	土師器	半球形内耳鍋		推 23.0	残 4.5		推 24.0	ヨコナデ、下半調整不明	ヨコナデ、指オサエ、スス付着	10YR6/3 にふい黄橙		
0793	13d	SD39	020829	土師器	半球形内耳鍋		推 25.0	残 4.5		推 25.7	ヨコナデ、下半調整不明(ハケ?)	ヨコナデ、指オサエ、スス付着	10YR7/3 にふい黄橙		800と同一か?
0794	12d	SD39	020828	土師器	半球形内耳鍋		推 24.0	残 4.1		推 25.6	ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、指オサエ、スス付着	7.5YR5/3 にふい黄		

遺物一覧表

図版番号	グッド	遺構番号	日付	産地・材質	器種	時期	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	内面	外面	胎土(外部)	軸1	備考
0795	13d	SD39	020829	土師器	半球形内耳鍋		推 24.0	残 4.3			ヨコナデ、下半調整不明	ヨコナデ、沈線の痕跡、スス付着	10YR6/2 灰黄褐		
0796	12d	SD39	020829	土師器	半球形内耳鍋		推 25.0	残 3.8		推 26.2	ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、指オサエ?、スス付着	10YR8/3 浅黄橙		
0797	13d	SD39	020829	土師器	半球形内耳鍋		推 26.8	残 4.5			ヨコナデ、ヨコハケ	ヨコナデ、指オサエ、スス付着	5YR7/6 橙		
0798	13d	SD39	020829	土師器	半球形内耳鍋		推 29.0	残 13.3		推 30.4	ヨコナデ、ハケ、下半調整不明	ヨコナデ、指オサエ、沈線、ヘラケズリ?	10YR3/2 黒褐		
0799	13d	SD39	020829	土師器	半球形内耳鍋		25.2	残 13.8		26.5	ヨコナデ、ハケ、指オサエ、ヘラケズリ	ヨコナデ、指オサエ、スス付着、ヘラケズリ	10YR8/3 浅黄橙		
0800	13d	SD39	020829	土師器	半球形内耳鍋		推 25.0	残 3.4		推 25.8	ナデ?、下半調整不明(ハケ?)	ナデ?、わずかにスス付着	10YR7/3 にぶい黄橙		793 と同一か?
0801	13d	SD39	020829	土師器	半球形内耳鍋		推 23.2	推 11.7		推 24.5	ヨコナデ、ハケ、指オサエ	ヨコナデ、指オサエ、ヘラケズリ	7.5YR6/3 にぶい褐		
0802	13d	SD39	020829	土師器	半球形内耳鍋		推 23.2	残 4.1			ヨコナデ	ヨコナデ、指オサエ、スス付着	5YR7/6 橙		
0803	12i	SD06	020708	瀬戸美濃陶器	天目茶碗	古後IV新	推 11.5	残 5.3		推 11.7	鉄軸	鉄軸、濃い錆軸	10YR8/2 灰白	10YR2/1 黒灰白	
0804	13i	SD06	020603	中国龍泉窯系	青磁碗			残 3.3			青磁軸	青磁軸、片切彫蓮弁文	10YR7/1 灰白	10Y5/2 オリーブ灰	
0805	12i	SD06	020604	瀬戸美濃陶器	重圓皿	大1	推 12.2	残 2.0		推 12.4	露胎	露胎	7.5YR5/1 褐灰		
0806	12i	SD06	020708	瀬戸美濃陶器	香炉	古後IV新		残 2.1	推 5.0		露胎	鉄軸、下半露胎、回転糸切痕	10YR7/3 にぶい黄橙		
0807	12h	SD17, 18	020711	中国景德鎮窯系	青花碗		推 14.4	残 2.7		推 14.6	青花	青花	N8/ 灰白	C10-M0-Y4-BL6	
0808	12f	SD17	020728	瀬戸美濃陶器	椀皿	大室2段階	推 10.8	2.6	推 6.0	推 11.0	鉄軸	鉄軸	10YR6/1 褐灰	7.5YR2/1 黒	
0809	12i	SD17	020708	瀬戸美濃陶器	直縁中皿	古後IV古	推 16.0	残 2.7		推 16.5	鉄軸、下半露胎	鉄軸、下半露胎	10YR7/4 にぶい黄橙	5Y6/4 オリーブ黄	
0810	12i	SD17	020709	瀬戸美濃陶器	皿	大1or2		残 1.8			灰軸、トチン痕、印花文	灰軸、輪トチン痕	10YR7/3 にぶい黄橙	7.5Y6/3 オリーブ黄	
0811	12f	SD17	020728	瀬戸美濃陶器	鉢	古後IV古	推 14.2	残 6.5		推 14.4	錆軸	錆軸	7.5YR6/6 橙		
0812	12h	SD17, 18	020711	瀬戸美濃陶器	楕鉢	大1		残 2.0			錆軸	錆軸	10YR6/4 にぶい黄橙	10R3/1 暗赤灰	
0813	12j	SD17	020709	瀬戸美濃陶器	直縁大皿	古後IV新		残 3.2			鉄軸	鉄軸	2.5Y7/3 浅黄	2.5YR3/1 暗赤灰	
0814	12i	SD17	020709	常滑陶器赤物	鉢	中野9型式		残 4.2			ヨコナデ	ヨコナデ、指オサエ	5YR6/6 橙		
0815	12j	SD17	020709	土師器	半球形内耳鍋			残 4.5			ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、指オサエ、スス付着	7.5YR4/2 褐褐		
0816	10d	SD29	020727	瀬戸美濃陶器	天目茶碗	古後IV新	推 10.0	残 4.9		推 10.2	鉄軸	鉄軸、錆軸	10YR7/6 明黄褐	7.5Y4/3 褐	
0817	10d	SD29	020727	土師器	非ロクロ調整皿C類		推 6.2	残 0.7		推 6.4	指オサエ	ヨコナデ、指オサエ	10YR7/3 にぶい黄橙		
0818	10d	SD29	020727	土師器	非ロクロ調整皿C類		推 6.0	残 0.8		推 6.2	指オサエ	ヨコナデ、指オサエ	10YR7/4 にぶい黄橙		
0819	13e	SD25	020729	瀬戸美濃陶器	丸皿	古後IV新	11.0	3.6	3.6	11.4	灰軸	灰軸、下半露胎、回転ヘラケズリの後に付高台、ヨコナデ	2.5Y8/2 灰白	5Y7/3 浅黄	
0820	12d	SD25	020726	瀬戸美濃陶器	緑釉はさみ皿	古後IV新	推 12.2	2.9	推 6.0	推 12.6	鉄軸、下半露胎	鉄軸、下半露胎、回転糸切痕	10YR8/3 浅黄橙	7.5YR2/2 黒褐	
0821	12f	SD25	020727	中国	白磁端反皿		推 11.0	残 2.2		推 11.4	白磁軸	白磁軸	CO-M0-Y0-BL4	CO-M0-Y4-BL4	
0822	12d	SD25	020726	土師器	非ロクロ調整皿		9.1	1.8		9.4	調整不明	ヨコナデ、調整不明	10YR7/3 にぶい黄橙		
0823	12d	SD25	020726	土師器	非ロクロ調整皿		推 9.6	残 1.4		推 10.0	調整不明	ヨコナデ、調整不明	10YR7/3 にぶい黄橙		
0824	12f	SD25	020727	瀬戸美濃陶器	楕鉢	大2		残 2.4			錆軸	錆軸	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR3/3 暗赤褐	
0825	12f	SD25	020727	瀬戸美濃陶器	楕鉢	古後IV新		残 4.0			錆軸	錆軸	10YR7/4 にぶい黄橙	7.5YR3/3 暗赤褐	
0826	13e	SD25	020729	瀬戸美濃陶器	鉦目付大皿	古後IV古	推 32.8	残 4.8		推 33.2	灰軸	灰軸	2.5Y8/1 灰白	7.5Y6/3 オリーブ黄	
0827	12f	SD25	020727	瀬戸美濃陶器	四(三)耳壺	古後I or II		残 9.3			露胎、灰軸	灰軸、沈線	10YR7/1 灰白	5Y5/3 灰オリーブ	
0828	13f	SD33	020730	東濃型山茶碗類	山茶碗	脇之鳥		残 1.2	5.4		ヨコナデ、軸着あり	ヨコナデ、回転糸切痕	2.5Y7/1 灰白		
0829	13f	SD33	020730	尾張型山茶碗類	鉢	5型式		残 3.9			ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y6/1 黄灰		
0830	8d	SD36	020826	瀬戸美濃陶器	緑釉小皿	大1	推 9.8	2.2	推 4.0	推 9.9	灰軸、下半露胎	灰軸、下半露胎、回転糸切痕	2.5Y7/2 灰黄	7.5Y6/3 オリーブ黄	
0831	8d	SD36	020826	瀬戸美濃陶器	緑釉小皿	古後IV古	推 12.0	1.7	推 6.8	推 12.2	灰軸、下半露胎	灰軸、下半露胎、回転糸切痕	2.5Y7/2 灰黄	7.5Y6/3 オリーブ黄	
0832	8d	SD35	020823	中国龍泉窯系	青磁蓮弁文丸碗		推 13.6	残 3.8		推 13.8	青磁軸	青磁軸、調花文	CO-M0-Y0-BL4	C40-M20-Y40-BL10	
0833	8d	SD35	020823	瀬戸美濃陶器	鉦皿	古後IV古		残 2.0			灰軸、下半露胎、鉦目	灰軸、下半露胎	10YR7/2 にぶい黄橙	5Y5/4 オリーブ	
0834	9d	SD35	020823	土師器	ロクロ調整皿			残 0.8	7.0		ヨコナデ、灰黒色のシミあり	ヨコナデ、回転糸切痕?	7.5YR7/3 にぶい橙		
0835	9d	SD35	020823	土師器	非ロクロ調整皿		推 7.8	1.0		推 8.0	ヨコナデ	ヨコナデ、指オサエ	7.5YR8/3 浅黄橙		
0836	9d	SD35	020827	土師器	非ロクロ調整皿		9.8	1.9		10.0	指オサエ	指オサエ	7.5YR7/4 にぶい橙		
0837	9d	SD35	020827	土師器	非ロクロ調整皿		9.1~9.6	2.0		9.4~9.9	指オサエ	指オサエ	7.5YR7/4 にぶい橙		
0838	11j	SK146	020705	土師器	ロクロ調整皿		推 6.4	残 1.2		推 6.6	一方向ナデ	指オサエ	7.5YR7/4 にぶい橙		
0839	11j	SK146	020705	土師器	ロクロ調整皿		推 11.4	残 1.4		推 11.6	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR7/3 にぶい黄橙		
0840	11j	SK146	020705	土師器	ロクロ調整皿		推 12.8	残 1.4		推 13.0	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR8/4 浅黄橙		
0841	11j	SK146	020705	土師器	ロクロ調整皿			残 1.1	10.0		ヨコナデ、ター?付着	ヨコナデ、回転糸切痕	7.5YR7/6 橙		
0842	11j	SK146	020705	土師器	内彎型羽釜		推 17.2	残 7.4		推 20.6	ヨコナデ、タテヘラケズリ、焼成前穿孔あり	ヨコナデ、ヘラケズリ、指オサエ、スス付着	10YR7/3 にぶい黄橙		



名古屋城三の丸遺跡 VII

図版番号	グッド	遺構番号	日付	産地・材質	器種	時期	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	内面	外面	胎土(外部)	釉1	備考
0843	10d	SK214	020727	瀬戸美濃陶器	甕	古後	推 18.8	残 6.9			灰釉	灰釉、釉一部剥離	2.5Y7/1 灰白	7.5Y6/3 オリーブ黄	
0844	10e	SK215	020720	瀬戸美濃陶器	天目茶碗	大 1	推 11.4	残 6.1		推 11.6	鉄釉	鉄釉、うすい錆釉	10YR7/3 に ぶい黄橙	7.5YR5/3 にぶい褐	
0845	10d	SK215	020721	瀬戸美濃陶器	天目茶碗	古後IV 新 or 古	推 10.8	残 5.4		推 11.0	鉄釉	鉄釉、下半露胎、 ヘラケズリ	7.5YR6/4 にぶい橙、 2.5Y6/1 黄灰	10YR3/2 黒褐	
0846	10e	SK215	020720	瀬戸美濃陶器	天目茶碗	古後IV 新 or 古	推 10.4	残 5.2		推 10.7	鉄釉	鉄釉、下半露胎、 ヘラケズリ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR3/2 黒褐	
0847	10e	SK215	020720	瀬戸美濃陶器	天目茶碗	古後IV 古	推 11.4	残 4.6		推 11.6	鉄釉	鉄釉、下半露胎	5Y6/1 灰	7.5YR3/1 黒褐	
0848	10d	SK215	020721	東濃型山茶碗類	山茶碗	生田	推 11.5	残 2.4	推 4.2	推 11.6	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	10YR6/2 灰黄褐		
0849	10e	SK215	020720	尾張型山茶碗	小皿	7 型式	推 8.0	1.8	5.2	推 8.2	ヨコナデ、自然釉	ヨコナデ、回転糸切痕	7.5YR7/1 明褐灰		瀬戸
0850	10e	SK215	020720	瀬戸美濃陶器	平碗	古後III	推 15.4	残 4.2		推 15.6	灰釉、釉一部剥離する	灰釉、下半露胎	5YR 7/1 明褐灰	5Y5/3 灰オリーブ	
0851	10d	SK215	020721	瀬戸美濃陶器	灰釉平碗	古後IV 古		残 3.9	5.0		灰釉	灰釉、下半露胎、 ヘラケズリ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR8/1 灰白	
0852	10e	SK215	020720	瀬戸美濃陶器	折縁深皿	古後IV 古		残 4.8			灰釉	灰釉	2.5Y6/1 黄灰	5Y6/2 灰オリーブ	
0853	10e	SK215	020720	瀬戸美濃陶器	折縁深皿	古後IV 古		残 4.1			灰釉	灰釉	10YR7/3 にぶい黄橙	2.5Y8/2 灰白	
0854	10e	SK215	020720	瀬戸美濃陶器	揃鉢	古後IV 新		残 4.6			錆釉	錆釉	10YR6/3 にぶい黄橙	7.5YR4/2 灰褐	
0855	10e	SK215	020720	瀬戸美濃陶器	揃鉢	古後IV 新		残 4.9			錆釉	錆釉	10YR7/4 にぶい黄褐	2.5YR3/3 暗赤褐	
0856	10e	SK215	020720	瀬戸美濃陶器	折縁深皿	古後IV 古		残 2.9			灰釉	灰釉	10YR6/3 にぶい黄橙	5Y6/4 オリーブ黄	
0857	10e	SK215	020720	瀬戸美濃陶器	揃鉢	古後IV 新		残 2.7			錆釉	錆釉	2.5YR3/2 暗赤褐		
0858	10e	SK215	020720	瀬戸美濃陶器	洗	古前III		残 4.8			灰釉ハケ塗り	灰釉ハケ塗り、ヘラケズリ	2.5Y6/1 黄灰	5Y6/2 オリーブ	
0859	10e	SK215	020720	瀬戸美濃陶器	折縁深皿	古後IV 古	推 27.6	残 7.6		推 28.0	灰釉、下半露胎	灰釉、下半露胎	N7/ 灰白、 10YR7/4 にぶい黄橙	5Y6/4 オリーブ黄	
0860	10e	SK215	020720	瀬戸美濃陶器	揃鉢	古後IV		残 4.8	推 9.2		錆釉、櫛目1単位 10本 2.8cm、 増減	錆釉、回転糸切痕	2.5YR4/2 灰赤		
0861	10d	SK215	020721	瀬戸美濃陶器	四耳壺	古後	推 11.0	残 4.0			口縁端部露胎、灰釉	口縁端部露胎、灰釉	2.5Y7/1 灰白	7.5Y6/3 オリーブ黄	
0862	10e	SK215	020720	瀬戸美濃陶器	水注	古中 I ~ II		残 5.4			露胎、指オサエ	灰釉	2.5Y7/1 灰白	C12-M0- Y4-BL0	
0863	13d	SK222	020729	瀬戸美濃陶器	土瓶	古後	推 12.8	残 6.2			錆釉	錆釉	2.5Y8/2 灰白	7.5YR4/2 灰褐	
0864	13d	SK222	020729	鉄滓	椀型鉄滓		長 7.0	幅 6.9	厚 3.3						
0865	10e	SK227	020727	瀬戸美濃陶器	天目茶碗	古後IV 新 or 古	推 12.2	残 4.0		推 12.4	鉄釉	鉄釉、下半露胎	5Y8/1 灰白	7.5YR3/2 黒褐	
0866	10e	SK227	020727	瀬戸美濃陶器	揃鉢	古後IV 古		残 2.7			錆釉	錆釉	7.5YR4/2 灰褐		
0867	10d	SK240	020730	瀬戸美濃陶器	浅碗	古後 I or II	推 12.6	残 3.4		推 12.8	灰釉	灰釉	10YR6/1 褐灰	7.5Y6/3 オリーブ黄	
0868	10d	SK240	020730	東濃型山茶碗類	碗	脇之島	推 11.4	残 3.2		推 11.6	ヨコナデ、露胎	ヨコナデ、露胎	2.5Y8/1 灰白		白色軟質陶器
0869	10d	SK240	020730	尾張型山茶碗類	山茶碗	7 型式		残 2.0	4.0		ヨコナデ、一方向 ナデ	ヨコナデ、初痕、 回転糸切痕	2.5Y7/1 灰白		
0870	10d	SK240	020730	東濃型山茶碗類	山茶碗	生田	推 12.6	残 1.8		推 12.8	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y8/1 灰白		
0871	10d	SK240	020730	東濃型山茶碗類	山茶碗	脇之島	推 11.6	残 1.7		推 12.0	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y7/1 灰白		
0872	10d	SK240	020730	瀬戸美濃陶器	鉄釉緑軸皿	古後III or IV		残 1.2	推 5.0		露胎	鉄釉、下半露胎、 回転糸切痕	2.5Y8/2 灰白		
0873	10d	SK240	020730	瀬戸美濃陶器	鉄釉緑軸皿	古後III or IV		残 1.2	6.0		露胎、自然釉	露胎、回転糸切痕	7.5YR7/1 明褐灰		
0874	10d	SK240	020730	瀬戸美濃陶器	はきみ皿	大 1	推 10.7	残 2.1		推 11.0	灰釉、下半露胎	灰釉、下半露胎	2.5Y8/1 灰白	7.5Y6/3 オリーブ黄	
0875	10d	SK240	020730	瀬戸美濃陶器	灰釉卸皿	古後III	推 14.6	残 3.1		推 14.8	灰釉、卸目、下半露胎	片口あり、灰釉、 下半露胎	10YR6/3 にぶい黄橙	7.5Y5/3 灰オリーブ	
0876	10d	SK240	020730	瀬戸美濃陶器	折縁中皿	古後III or IV		残 2.3	8.0		灰釉、下半露胎	灰釉、下半露胎、 回転糸切痕	2.5Y7/1 灰白		
0877	10d	SK240	020730	瀬戸美濃陶器	灰釉卸皿	古中 I or II		残 2.0	推 7.0		卸目、灰釉	灰釉、下半露胎、 回転糸切痕	2.5Y7/2 灰黄		
0878	10d	SK240	020730	土師器	ロクロ調整皿			残 1.5	6.6		ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	7.5YR7/6 橙		
0879	10d	SK240	020730	瀬戸美濃陶器	釜	古後IV	推 11.6	残 3.0			錆釉	錆釉	7.5YR5/4 にぶい褐		
0880	10d	SK240	020730	常滑陶器	鉢?			残 3.2	推 16.0		よく磨減	指オサエ、砂目痕	10YR5/2 灰黄褐		
0881	10d	SK240	020730	瀬戸美濃陶器	四(三)耳壺	古後IV		残 6.3			鉄釉	鉄釉	10YR6/1 褐灰 7.5YR6/6 橙	7.5YR5/2 灰褐	
0882	10d	SK240	020730	土師器	内彎型羽釜			残 2.3			ヨコナデ	ヨコナデ	10YR8/3 浅黄橙		
0883	10d	SK240	020730	瀬戸美濃陶器	仏餉具	古後III ~IV古		残 1.7	3.8		露胎、一部鉄釉	露胎、回転糸切痕	10YR7/2 にぶい黄橙		
0884	10d	SK240	020730	瀬戸美濃陶器	土瓶?	古後		残 3.5	推 10.6		錆釉	錆釉、回転糸切痕	5YR5/4 にぶい赤褐		
0885	8e	SK291	020826	緑釉陶器	皿	O-53		残 0.8			ヨコナデ、緑釉	ヨコナデ、回転ヘラケズリ、 緑釉	7.5Y6/1 灰	10Y5/2 オリーブ灰	猿投産
0886	8e	SK291	020823	東濃型山茶碗類	山茶碗	脇之島	推 11.4	残 2.4		推 11.6	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y8/2 灰白、 2.5Y6/2 灰黄		
0887	8e	SK291	020826	土師器	ロクロ調整皿		推 11.8	1.7	推 5.2	推 12.0	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕?	10YR7/3 にぶい黄橙		
0888	8e	SK291	020826	瀬戸陶器	有耳壺	古後IV		残 8.0			鉄釉、下半露胎	鉄釉、下半露胎、 ヘラケズリ	10YR 8/6 黄橙	7.5YR3/1 黒褐	
0889	8d	SK298	020828	灰釉陶器	碗	K-90		残 2.2	6.6		灰釉つけかけ	灰釉つけかけ、ヨコナデ、 回転ヘラケズリ	2.5Y7/2 灰黄		

遺物一覧表

図版番号	グッド	遺構番号	日付	産地・材質	器種	時期	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	内面	外面	胎土(外部)	釉1	備考
0890	8d	SK298	020828	尾張型山茶碗類	山茶碗	7型式		残 2.7	推 7.8		ヨコナデ、一方向ナデ	ヨコナデ、回転系切痕のち板状圧痕	2.5Y7/1 灰白		瀬戸
0891	8d	SK298	020826	東濃型山茶碗類	山茶碗	脇之島		残 2.4	推 5.2		ヨコナデ	ヨコナデ、回転系切痕	2.5Y7/1 灰白		
0892	8d	SK298	020828	瀬戸美濃陶器	緑釉小皿	古後IV新	推 10.2	残 1.5		推 10.4	灰釉、下半露胎	灰釉、下半露胎	2.5Y8/2 灰白	5Y6/4 オリーブ黄	
0893	8d	SK298	020828	瀬戸美濃陶器	天目茶碗	古後 I	推 11.2	残 2.8		推 11.4	鉄釉	鉄釉	10YR7/2 灰白		
0894	8d	SK298	020828	土師器	ロクロ調整皿		推 13.8	残 1.6		推 14.0	ヨコナデ、スス付着	ヨコナデ	7.5YR7/6 橙		
0895	8d	SK298	020828	土師器	非ロクロ調整皿		推 8.8	残 1.3		推 8.9	ヨコナデ	ヨコナデ、指オサエ?	10YR8/3 浅黄橙		
0896	8d	SK298	020828	土師器	非ロクロ調整皿		推 7.0	残 1.3		推 7.2	ヨコナデ	ヨコナデ、指オサエ?	10YR8/2 灰白		
0897	8d	SK298	020826	瀬戸美濃陶器	鉦目付大皿	古後IV新	推 30.8	残 7.4		推 31.2	ヨコナデ、灰釉、下半露胎	ヨコナデ、灰釉、下半露胎、ヘラケズリ	10YR8/3 浅黄橙	5Y6/4 オリーブ黄	
0898	8d	SK298	020828	瀬戸美濃陶器	鉦目付大皿	古後IV新	推 31.4	残 6.5		推 31.8	灰釉、下半露胎	灰釉、下半露胎、ヘラケズリ	10YR7/2 にぶい黄橙	7.5Y5/3 灰オリーブ	
0899	8d	SK298	020826	瀬戸美濃陶器	播鉢	古後IV新		残 5.0			錆釉	錆釉	2.5Y8/2 灰白	5YR 4/1 褐灰	
0900	8d	SK298	020826	瀬戸美濃陶器	釜	古後IV	推 12.2	残 10.8		推 17.6	錆釉	錆釉、スス付着	10YR7/3 にぶい黄橙	7.5YR4/6 褐	
0901	8d	SK298	020826	瀬戸美濃陶器	折縁深皿	古中 I or II		残 1.6	推 16.0		灰釉ハケ塗り	灰釉ハケ塗り、糸切痕のち砂目?	10YR7/1 灰白	2.5Y6/3 にぶい黄	
0902	11d	SK321	020829	東濃型山茶碗類	山茶碗	生田	推 11.6	2.2	推 3.8	推 11.8	ヨコナデ	ヨコナデ、回転系切痕	2.5Y7/2 灰黄		
0903	11d	SK321	020829	東濃型山茶碗類	山茶碗	生田	推 11.5	2.5	4.7	推 11.6	ヨコナデ	ヨコナデ、回転系切痕のち板状圧痕	10YR7/1 灰白、 10YR8/2 灰白		
0904	11d	SK321	020829	東濃型山茶碗類	山茶碗	脇之島		残 2.1	推 5.0		ヨコナデ、自然釉	ヨコナデ、回転系切痕	2.5Y7/2 灰黄		
0905	11d	SK321	020829	瀬戸美濃陶器	折縁深皿	古後IV古		残 3.1			灰釉	灰釉	5YR 6/4 橙		
0906	11d	SK321	020829	瀬戸美濃陶器	盤類	古後 I or II		残 1.9			灰釉	灰釉、下半露胎、回転ヘラケズリ	2.5Y7/2 灰黄		
0907	11d	SK321	020829	粘土塊	支脚?			残存長 4.5	残存幅 4.4	残存厚 2.9		表面褐色化	7.5YR7/4 にぶい橙		本来の形状不明
0908	11d	SK321	020829	瀬戸美濃陶器	内耳鍋	古後IV古	推 16.0	残 5.0		推 16.2	錆釉、内耳あり	錆釉	10YR8/3 浅黄橙	7.5YR4/3 褐	
0909	11d	SK321	020829	瀬戸美濃陶器	鉦目付大皿	古後IV古	推 18.6	残 4.1		推 19.0	灰釉、下半露胎	灰釉、ヘラケズリ、下半露胎	10YR6/2 灰黄褐	5Y5/4 オリーブ	
0910	11d	SK321	020829	瀬戸美濃陶器	釜	古後IV	推 12.7	残 4.1			錆釉	錆釉	10YR7/2 にぶい黄橙	5YR5/3 にぶい赤褐	
0911	11d	SK321	020829	瀬戸美濃陶器	播鉢	古後IV新	推 29.2	残 3.2		推 29.8	錆釉	錆釉	5YR4/3 にぶい赤褐		
0912	11d	SK321	020829	瀬戸美濃陶器	播鉢	古後IV古	推 27.6	残 4.3		推 27.8	錆釉、髷目	錆釉	10YR6/2 灰黄褐	10YR4/3 にぶい黄褐	
0913	11d	SK321	020829	瀬戸美濃陶器	播鉢	古後IV新	推 29.8	12.7	推 8.6	推 31.2	錆釉、一部磨減	錆釉、回転系切痕	10YR8/3 浅黄橙	2.5YR3/1 暗赤灰	
0914	11d	SK330	020828	東濃型山茶碗類	山茶碗	脇之島	推 13.8	3.3	推 4.6	推 14.0	ヨコナデ	ヨコナデ、回転系切痕のち板状圧痕	2.5Y8/2 灰白、 10YR7/1 灰白		
0915	11d	SK330	020828	瀬戸美濃陶器	蓋	古後IV		残 2.6	4.7		錆釉、回転系切痕	錆釉	10YR7/4 にぶい黄橙	5YR5/4 にぶい赤褐	
0916	11d	SK330	020828	瀬戸美濃陶器	釜	古後IV		残 9.6		推 17.8	錆釉	錆釉、全面スス付着	2.5Y8/2 灰白	7.5YR4/2 灰褐	
0917	11d	SK330	020828	土師器	内鬘型羽釜		推 21.2	残 3.9			ヨコナデ、指オサエ	ヨコナデ、ハケ、わずかにスス付着	10YR7/3 にぶい黄橙		
0918	11d	SK330	020828	土師器	内鬘型羽釜		推 21.8	残 3.8			ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、ハケ、わずかにスス付着	10YR8/3 浅黄橙		
0919	11d	SK330	020828	常滑陶器	鉢	中野9or10型式	推 37.6	残 4.5		推 39.4	ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、ハケ、指オサエ、重ね焼き痕	2.5YR5/8 明赤褐		
0920	11d	SK324	020827	瀬戸美濃陶器	天目茶碗	古後IV新 or 古	推 12.5	残 4.1		推 12.8	鉄釉	鉄釉、下半露胎	7.5YR7/6 橙、 2.5Y7/1 灰白	10YR3/2 黒褐	
0921	11d	SK324	020827	瀬戸美濃陶器	四耳壺	古前 I		残 3.0			露胎、ヨコナデ、指オサエ	灰釉、刻線文あり	10YR7/1 灰白	7.5Y6/2 オリーブ	
0922	11d	SK324	020827	常滑陶器	真焼甕			残 5.4			自然釉、ヨコナデ	自然釉、ヨコナデ	2.5Y6/1 黄灰	10YR3/1 黒褐	
0923	11i	SK01 A	020807	土師器	ロクロ調整皿		12.4	2.0	6.5	12.6	ヨコナデ	ヨコナデ、回転系切痕	10YR7/3 にぶい黄橙		
0924	11i	SK01 A	020807	土師器	ロクロ調整皿		12.9	2.3	6.7	13.1	ヨコナデ	ヨコナデ、回転系切痕	10YR7/4 にぶい黄橙		
0925	11i	SK01 A	020807	土師器	ロクロ調整皿		12.8	2.3	7.3	13.0	ヨコナデ、中央赤色化	ヨコナデ、回転系切痕	10YR7/4 にぶい黄橙		
0926	11i	SK01 A	020807	土師器	ロクロ調整皿		推 13.0	2.5	5.4	推 13.2	ヨコナデ	ヨコナデ、回転系切痕	10YR7/4 にぶい黄橙		
0927	11i	SK01 A	020807	土師器	ロクロ調整皿		13.2	2.5	6.8	13.4	ヨコナデ	ヨコナデ、回転系切痕	10YR7/4 にぶい黄橙		
0928	11i	SK01 A	020807	土師器	非ロクロ調整皿		7.2	1.9		7.5	一方向ナデ	指オサエ	10YR7/4 にぶい黄橙		
0929	11i	SK01 A	020807	土師器	非ロクロ調整皿		7.5	1.9		7.8	一方向ナデ	指オサエ	7.5YR7/4 にぶい橙		
0930	12b	検出皿	020805	瀬戸美濃陶器	天目茶碗	古後IV新	推 11.4	6.0	推 4.5	推 11.6	鉄釉	鉄釉、錆釉	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR5/2 灰褐	
0931	8d	検出皿	020806	瀬戸美濃陶器	天目茶碗	古後IV新		残 5.3	4.0		鉄釉、底部灰釉溜	鉄釉、錆釉、トチン痕3ヶ残	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR1.7/1 黒	
0932	a8c, 8d	検出皿	020820	瀬戸美濃陶器	天目茶碗	古後IV新		残 3.8	4.0		鉄釉	鉄釉、錆釉	10YR8/3 浅黄橙	5YR2/1 黒褐	
0933	8c, 8d	検出皿	020820	瀬戸美濃陶器	丸碗	大 1	推 12.6	残 5.6		推 13.0	灰釉	灰釉、うすい灰釉	5Y8/1 灰白	7.5Y7/2 灰白	
0934		表土掘削中	020419	中国龍泉窯系	青磁丸碗		推 10.0	6.8	4.5	推 10.3	青磁釉	青磁釉、高台端部露胎	5Y8/1 灰白、 2.5YR6/6 橙	5GY7/1 明 オリーブ灰	
0935	9b	T02	020607	瀬戸美濃陶器	仏供	古中 I or II		残 3.6	5.1		灰釉	灰釉、下半露胎、回転系切痕	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/3 浅黄	
0936	9d	検出皿	020813	瀬戸美濃陶器	緑釉小皿	古後III	推 10.8	3.2	推 6.4	推 11.0	灰釉、下半露胎	灰釉、下半露胎、回転系切痕	7.5Y8/1 灰白	7.5Y6/3 オリーブ黄	
0937	10d	検出皿	020806	瀬戸美濃陶器	鉦皿	古前II		残 1.2	推 10.0		鉦目、灰釉	うすく灰釉、ヘラケズリ?	2.5Y7/2 灰黄		

名古屋城三の丸遺跡 VII

図版番号	グランド	遺構番号	日付	産地・材質	器種	時期	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	内面	外面	胎土(外部)	釉1	備考
0938	8d	検出II	020711	瀬戸美濃陶器	筒形香炉	古後IV	推 7.0	3.0	4.0	推 7.1	鉄軸、下半露胎(部分的に灰軸)	鉄軸、下半露胎、回転糸切痕、スス付着	10YR 8/3 にふい黄橙	7.5YR3/2 黒褐	
0939	9d	検出III	020806	土師器	ロクロ調整皿		推 12.6	2.1	推 5.6	推 12.8	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	10YR7/3 にふい黄橙		
0940	11b	検出III	020820	土師器	非ロクロ調整皿		推 6.6	1.8		推 6.8	調整不明、わずかにタール付着	ヨコナデ、調整不明、わずかにタール付着	10YR8/3 浅黄橙		
0941	10d	検出III	020806	瀬戸美濃陶器	插鉢	古後IV新	推 29.4	残 4.9		推 30.2	錆軸	錆軸	10YR7/4 にふい黄橙	2.5YR3/3 暗赤褐	
0942	10d	検出III	020806	瀬戸美濃陶器	插鉢	古後IV古	推 29.0	残 5.6		推 29.4	錆軸、胎目1単位5本1.8cm	錆軸	2.5YR8/2 灰白	5YR4/3 にふい赤褐	
0943	9d	検出III	020813	瀬戸美濃陶器	内耳鍋	古後IV古	推 24.0	残 6.7		推 24.8	うすい錆軸	うすい錆軸、焼成甘い、スス付着	10YR8/2 灰白	7.5YR4/3 褐	
0944	11d	SK236	020729	瀬戸美濃陶器	鉢	古後IV	推 15.6	残 4.3		推 16.4	錆軸	錆軸	10YR6/4 にふい黄橙	5YR4/4 にふい赤褐	
0945	10d	検出III	020806	瀬戸美濃陶器	釜	古後IV	推 11.4	残 13.2		推 18.6	うすい錆軸	うすい錆軸、一部スス付着	10YR8/1 灰白	5YR4/4 にふい赤褐	
0946	11d	T05	020802	瀬戸美濃陶器	釜	古後IV	推 11.4	残 6.9			錆軸	錆軸	5YR8/1 灰白	5YR4/4 にふい赤褐	
0947	12f	検出II	020723	瀬戸美濃陶器	四耳壺	古後IV		残 8.3			灰軸	灰軸	10YR7/4 にふい黄褐	5Y7/3 浅黄	
0948	9d	検出III	020806	瀬戸美濃陶器	插鉢	古後IV新		残 2.6			錆軸	錆軸	10YR7/4 にふい黄褐	7.5R4/2 灰赤	
0949	12d	SK236	020729	常滑陶器	甕			残 3.5			ヨコナデ、自然釉	ヨコナデ、自然釉	2.5YR3/1 明赤灰		
0950	10c	検出III	020814	土師器	内彎型羽釜			残 2.1			ヨコナデ	ヨコナデ、スス付着	10YR7/3 にふい黄橙		
0951	10d	SD36	020828	土師器	内彎型羽釜			残 2.5			ヨコナデ	ヨコナデ、ハケ、わずかにスス付着	10YR7/3 にふい黄橙		
0952	10d	検出III	020806	土師器	羽付鍋			残 4.6			ヨコナデ、調整不明	ヨコナデ、ハケ	7.5YR8/6 浅黄橙		
0953	10d	検出III	020806	土師器	非ロクロ調整皿		6.2	1.0		6.4	調整不明(ナデ?)	ヨコナデ、指オサエ	10YR8/3 浅黄橙		
0954	11a	検出III	020821	土師器	内彎型羽釜		推 21.0	残 3.9			調整不明	ヨコナデ、ハケ	10YR7/3 にふい黄橙		
0955	11e	検出III	020802	土師器	内彎型羽釜		推 29.0	残 2.5			ヨコナデ	ヨコナデ、ハケ、スス付着	10YR6/3 にふい黄橙		
0956	10d	検出III	020806	土師器	半球形内耳鍋		推 26.0	残 4.3			ヨコナデ、磨滅	ヨコナデ、指オサエ、スス付着	10YR4/2 灰黄褐		
0957	11e	検出II	020718	灰軸陶器?	不明			残 12.4	推 24.8		ヨコナデ	ヨコナデ	5Y6/1 灰		
0958	12f	SK185	020726	瀬戸美濃陶器	天目茶碗	登1小期	10.6	7.4	4.0	11.0	鉄軸、白濁物付着	鉄軸、下半露胎、ヘラケズリ	5YR8/1 灰白	7.5YR3/2 黒褐	
0959	12f	SK185	020823	瀬戸美濃陶器	天目茶碗	登2小期	推 11.4	残 4.0		推 11.6	鉄軸	鉄軸	2.5Y7/2 灰黄	7.5YR3/4 暗褐	
0960	13f	SK185	020726	美濃陶器	丸碗	登2小期	推 10.0	7.8	4.8	推 10.4	鉄軸	鉄軸、下半露胎、ヘラケズリ	10YR7/2 にふい黄橙	5YR3/1 黒褐	
0961	12f	SK185	020823	美濃陶器	丸碗	登3小期	推 10.0	7.5	4.8	推 10.3	鉄軸に灰軸流し	鉄軸に灰軸流し、下半露胎、ヘラケズリ	2.5YR3/3 淡黄	7.5Y 2/2 黒褐	
0962	12f	SK185	020823	瀬戸美濃陶器	丸碗	登1小期	推 10.4	残 5.9		推 10.6	鉄軸に灰軸流し	鉄軸に灰軸流し、下半露胎	10YR7/2 にふい黄橙	10YR4/2 灰黄褐	
0963	13f	SK185	020726	美濃陶器	丸碗	登2小期?	推 10.6	残 7.1		推 11.2	鉄軸に灰軸流し	鉄軸に灰軸流し、下半露胎	10YR6/1 褐灰	5YR4/4 にふい赤褐	
0964	12f	SK185	020823	美濃陶器	丸碗	登1or2小期	推 11.0	残 5.5		推 11.3	鉄軸に灰軸流し	鉄軸に灰軸流し、下半露胎	10YR8/2 灰白	7.5YR4/3 褐	
0965	12f	SK185	020725	瀬戸美濃陶器	丸碗	登1or2小期	推 10.6	残 6.0		推 11.0	鉄軸に灰軸流し	鉄軸に灰軸流し、下半露胎	2.5YR8/1 灰白	5Y3/1 オリーブ黒	
0966	12f	SK185	020725	美濃陶器	丸碗	登2小期		残 1.8	4.2		鉄軸に灰軸流し	下半露胎、ヘラケズリ	2.5Y7/2 灰黄		
0967	12f	SK185	020726	美濃陶器	丸碗	登3or4小期		残 1.5	4.0		鉄軸	露胎、ヘラケズリ	2.5YR8/1 灰白		
0968	13f	SK185	020726	瀬戸美濃陶器	端反碗	登1or2小期	推 12.4	残 5.4		推 12.6	灰軸	灰軸	10YR7/1 灰白	2.5Y6/4 オリーブ黄	
0969	12f	SK185	—	瀬戸美濃陶器	丸碗	登1or2小期	不明	残 4.3			灰軸	灰軸	2.5YR8/2 灰白	2.5Y7/3 浅黄	
0970	12f	SK185	020726	不明陶器	丸碗	(登1or2小期)		残 1.5	5.0		長石軸	長石軸、高台端部露胎	10YR8/2 灰白	C0-M0-Y4-BL4	瀬戸、肥前、中国南方 etc. 諸説あり
0971	12f	SK185	020725	美濃陶器	志野丸碗	登1小期	推 8.8	5.6	4.5	推 9.0	長石軸	長石軸、下半露胎、ヘラケズリ、スス付着	5Y6/1 灰	5Y6/2 灰オリーブ	
0972	12f	SK185	020726	美濃陶器	端反碗	登2小期	11.2	7.6	4.9	11.4	灰軸	灰軸、下半露胎、重ね焼ぎ痕	10YR8/3 浅黄橙	5Y6/3 オリーブ黄	
0973	12f	SK185	020726	美濃陶器	丸碗	登1or2小期	12	7.5	3.8	12.2	銅緑軸	銅緑軸、下半露胎、ヘラケズリ	2.5Y7/3 浅黄	7.5Y 5/3 オリーブ黄	
0974	12f	SK185	020725	中国景德镇窯系	青花小杯		推 9.7	残 5.2		推 10.0	青花	青花	C4-M4-Y4-BL0	C8-M0-Y4-BL6	
0975	12f	SK185	020726	中国漳州窯系	青花碗			残 2.1	5.2		青花	青花、高台端部露胎	N8/ 灰白	C6-M0-Y4-BL8	
0976	12f	SK185	020823	瀬戸美濃陶器	志野小杯	登1小期	7.0	3.0	3.1	7.3	長石軸	長石軸、底部露胎、ヘラケズリ	2.5YR8/2 灰白	2.5Y7/1 灰白	
0977	12f	SK185	020726	瀬戸美濃陶器	小杯	登1小期	5.6	2.0	3.7	5.8	灰軸	灰軸、回転糸切痕、側面にトチン痕3ヶ残	2.5Y7/2 灰黄	5Y7/3 浅黄	
0978	12f	SK185	—	瀬戸美濃陶器	志野丸皿	登2小期	推 11.4	2.3~2.4	推 6.8	推 11.6	長石軸、黒色付着物、ビン痕1ヶ残	長石軸、高台内露胎、ヘラケズリ、トチン痕1ヶ残	2.5YR8/2 灰白	5Y7/1 灰白	
0979	12f	SK185	020823	瀬戸美濃陶器	志野丸皿	登1or2小期	推 11.4	2.5	6.4	推 11.6	長石軸、ビン痕3ヶ残	長石軸、高台内露胎、ヘラケズリ、トチン痕3ヶ残	2.5Y7/1 灰白	5Y6/1 灰	
0980	12f	SK185	020726	瀬戸美濃陶器	志野丸皿	登1or2小期	11.5	2.5	7.2	11.7	長石軸、ビン痕3ヶ残	長石軸、高台内露胎、ヘラケズリ、トチン痕3ヶ残	5YR8/1 灰白	C0-M4-Y8-BL8	
0981	12f	SK185	—	美濃陶器	志野丸皿	登1小期	推 11.3	2.4~2.6	6.3	推 11.6	長石軸、ビン痕2ヶ残、スス付着	長石軸、ヘラケズリ、トチン痕2ヶ残	2.5YR8/1 灰白	5YR8/1 灰白	
0982	12f	SK185	020726	瀬戸美濃陶器	志野丸皿	登1or2小期	推 11.6	2.2	推 7.6	推 11.8	長石軸、ビン痕2ヶ残、スス付着	長石軸、高台内露胎、ヘラケズリ、トチン痕1ヶ残	2.5Y5/1 黄灰	2.5Y5/1 黄灰	
0983	12f	SK185	020725	瀬戸美濃陶器	志野丸皿	登1or2小期	推 11.4	2.4	推 7.0	推 11.6	長石軸、ビン痕1ヶ残	長石軸、高台内露胎、ヘラケズリ	5YR8/1 灰白	5YR8/1 灰白	

遺物一覧表

図版番号	グランド	遺構番号	日付	産地・材質	器種	時期	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	内面	外面	胎土(外部)	釉1	備考
0984	12f	SK185	020823	瀬戸美濃陶器	志野丸皿	登1or2 小期	推 11.7	2.9	推 7.2	推 12.0	長石軸、ビン痕 1ヶ残、スス付着	長石軸、ヘラケズリ、 トチン痕1ヶ残	2.5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	
0985	13f	SK185	020726	瀬戸美濃陶器	志野皿	登2小期	推 11.6	2.2	推 7.0	推 11.8	長石軸、ビン痕 1ヶ残、スス付着	長石軸、高台内露胎、 ヘラケズリ、トチン痕2ヶ残	2.5Y 3/1 黒褐	5Y5/1 灰	
0986	12f	SK185	020726	瀬戸美濃陶器	志野丸皿	登1or2 小期	推 11.8	2.6	推 7.0	推 12.0	長石軸	長石軸、下半露胎、 ヘラケズリ	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/2 灰白	
0987	12f	SK185	020725	瀬戸美濃陶器	灰軸丸皿	大2段階	推 10.4	残 1.9		推 10.6	灰軸		2.5Y7/1 灰白	7.5Y6/2 灰オリーブ	
0988	12f	SK185	020823	土師器	ロクロ調整皿		推 11.8	2.7	6.0	推 12.0	全面回転ナデ、スス付着	ヨコナデ、回転糸切痕	2.5Y7/2 灰黄		
0989	12f	SK185	020823	土師器	ロクロ調整皿			残 1.0	6.8		ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	10YR7/2 にぶい黄橙		
0990	12f	SK185	020726	瀬戸美濃陶器	蓋	大窯 or 登窯	推 6.8	1.7		推 8.9	露胎	鉄軸	2.5Y8/2 灰白	10YR4/2 灰黄褐	19c 土瓶の蓋 説あり
0991	13f	SK185	020726	土師器	焙烙		推 26.4	残 6.3		推 28.0	ハケ、調整不明(ヘラケズリ?)	ヨコナデ、指オサエ、 ヘラケズリ、スス付着	10YR2/1 黒		
0992	13f	SK185	020706	土師器	焙烙			残 4.2			ヨコナデ、ハケ、 未調整	ヨコナデ、指オサエ、 スス付着	7.5YR3/1 黒褐		
0993	12f	SK185	020823	土師器	焙烙			残 3.9			ナデ、ハケ	ナデ、指オサエ、 スス付着	10YR4/2 灰黄褐		
0994	12f	SK185	020823	土師器	焼壺蓋A類		7.0	1.8		7.5	布目痕、ヨコナデ	指オサエ	2.5YR6/4 にぶい橙		
0995	13f	SK185	020726	土師器	焼壺身A類		推 5.0	残 7.8		推 6.2	ヨコナデ、布目痕	ヨコナデ、タテ方向 ヘラケズリ	10YR7/3 にぶい黄橙		
0996	12f	SK185	020726	瀬戸美濃陶器	黄瀬戸鉢	登1or2 小期		残 2.2	推 11.7		黄瀬戸軸に銅緑軸 散らし、トチン痕 2ヶ残、印花	黄瀬戸軸、底部軸 拭き取り	10YR7/3 にぶい黄橙、 10YR8/2 灰白	5Y6/3 オリーブ黄	
0997	12f	SK185	020726	瀬戸美濃陶器	志野折縁鉢	登1or2 小期	推 27.2	7.6	15.3	推 28.0	長石軸	長石軸、下半露胎、 高台内軸拭き取り、 ヘラケズリ	5Y8/1 灰白	2.5Y7/2 灰黄	
0998	12f	SK185	020822	瀬戸美濃陶器	黄瀬戸鉢	登2小期	推 31.6	7.3	推 14.2	推 32.0	黄瀬戸軸に銅緑軸 散らし	黄瀬戸軸、露胎、 重ね焼き痕、ヘラケズリ	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/3 浅黄	
0999	13f	SK185	020726	瀬戸陶器	播鉢	登2小期		残 2.7			錆軸	錆軸	10YR7/2 にぶい黄橙	2.5YR3/2 暗赤褐	
1000	13f	SK185	020726	美濃陶器	茶入	登		残 1.0			鉄軸、下半露胎	鉄軸	2.5Y8/2 灰白	7.5YR1.7/1 黒	
1001	13f	SK185	020726	常滑陶器	赤物火鉢	17c	推 16.4	残 4.9		推 17.0	ヨコナデ、露胎、 スス付着	口縁部磨減、ヨコナデ、 露胎	2.5YR5/6 明赤褐		
1002	13f	SK185	020726	常滑陶器	赤物火鉢	17c	推 20.8	残 4.7		推 21.6	ヨコナデ、自然軸、 スス付着	ヨコナデ	5YR4/4 にぶい赤褐		
1003	12f	SK185	020726	中国漳州窯系	青花大皿			残 2.2	推 19.1		青花	青花	5YR7/4 にぶい 橙	10Y7/1 灰 白	
1004	—	SK185	020822	中国漳州窯系	青花大皿		推 26.6	5.3	推 14.3	推 26.8	青花	青花、高台内露胎	5Y7/1 灰白、 5YR5/6 明赤褐	5GY7/1 明 オリーブ灰	
1005	13f	SK185	020726	瀬戸美濃陶器	有耳壺	古瀬戸 後IV期 新〜大1		残 4.0	推 11.8		露胎	錆軸、底面露胎、 回転糸切痕	10YR7/3 にぶい黄橙	2.5YR3/1 暗赤灰	
1006	12f	SK185	020725	常滑陶器	深鉢か壺	17c 未?		残 7.0	推 13.0		ヨコナデ、露胎	露胎、ナデ、ヘラケズリ、 未調整	5YR3/3 暗赤褐	5Y4/4 暗オリーブ	
1007	13f	SK185	020726	常滑陶器	くど or 風 炉?	17c?		残 10.3	推 20.8		スス付着、指オサエ、 ナデ、下半表面剥離	ヘラケズリ、砂敷、 表面赤茶色化	7.5YR5/3 にぶい褐		
1008	12f	SK185	020823	木製品	不明(角材)		長 15.5	幅 5.3	厚 2.6						
1009	12f	SK185	020725	鉄製品	不明(棒状)		残長 17.3	残幅 10.8	厚 0.6						
1010	12f	SK185	020726	凝灰質砂岩	砥石		残長 4.5	残幅 3.6	残厚 0.4						
1011	11e, 11d	SK156	020723	瀬戸美濃陶器	天目茶碗	古後IV 新	推 11.8	残 5.0		推 12.0	鉄軸	鉄軸、錆軸	10YR8/4 浅黄橙	7.5YR2/1 黒	
1012	11d	SK156	020723	瀬戸美濃陶器	天目茶碗	大1	推 11.0	残 4.9		推 11.2	鉄軸	鉄軸	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR2/2 黒褐	
1013	11d	SK156	020723	瀬戸陶器	丸碗	登1or2 小期	推 10.0	残 6.1		推 10.3	鉄軸に灰軸流し	鉄軸に灰軸流し、 下半露胎	10YR7/4 にぶい黄橙	5YR5/3 にぶい赤褐	
1014	11d	SK156	020723	瀬戸美濃陶器	小碗	登1小期	6.4	3.6	4.4	6.7	長石軸	長石軸、下半露胎、 回転ヘラケズリ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/3 淡黄	
1015	11d	SK156	020726	瀬戸美濃陶器	仏供	古後III or IV古		残 2.2	推 4.8		鉄軸、内面見込み 露胎	ナデ、鉄軸、下半露胎、 回転糸切痕	10YR7/3 にぶい黄橙		
1016	11d	SK156	020723	瀬戸美濃陶器	緑軸皿	古後IV 新	10.6	3.7	5.1	10.8	灰軸、下半露胎	灰軸、下半露胎、 回転糸切痕	10YR7/2 にぶい黄橙	7.5Y6/3 オリーブ黄	
1017	11d	SK156	020726	瀬戸美濃陶器	皿	大2or3		残 1.3	5.8		鉄軸	鉄軸、輪トチン痕	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR2/1 黒	
1018	11d	SK156	020726	美濃陶器	志野丸皿	登2小期	12.3	2.8	7.2	12.6	長石軸鉄絵、ビン 痕3ヶ残	長石軸、回転ヘラケズリ、 トチン痕3ヶ残	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/2 灰白	
1019	11d	SK156	020726	美濃陶器	志野丸皿	登1小期	推 9.6	1.9	5.6	9.8	長石軸	長石軸、回転ヘラケズリ、 トチン痕1ヶ残	2.5Y8/1 灰白	2.5Y7/3 浅黄	
1020	11d	SK156	020723	美濃陶器	志野皿	登1or2 小期		残 1.3	推 7.4		長石軸、ビン痕 1ヶ残	長石軸、回転ヘラケズリ、 トチン痕1ヶ残	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/2 灰白	
1021	11d	SK156	020723	美濃陶器	志野丸皿	登2小期	推 8.2	1.5	推 5.2	推 8.6	長石軸	長石軸、回転ヘラケズリ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y7/2 灰黄	
1022	11d	SK156	020723	美濃陶器	志野丸皿	登1小期	推 8.8	1.8	推 5.2	推 9.0	長石軸、口縁部ス ス付着	長石軸、口縁部スス付着、 回転ヘラケズリ、トチン痕 2ヶ残	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/1 灰白	
1023	11d	SK156	020726	美濃陶器	志野丸皿	登2小期	推 11.7	2.1	推 7.6	推 12.0	長石軸	長石軸、トチン痕 1ヶ残、高台裏一部露胎、 回転ヘラケズリ	10YR6/3 にぶい黄橙	5Y7/1 灰白	
1024	11d	SK156	020723	瀬戸美濃陶器	反り皿	登3or4 小期	13.4	3.0	8.4	13.6	全面灰軸	全面灰軸、ヘラケズリ、 トチン痕5ヶ残	2.5Y8/3 淡黄	2.5Y7/3 浅黄	
1025	11d	SK156	020726	美濃陶器	丸皿	登3or4 小期	推 14.4	3.5	7.3	推 14.6	灰軸、重ね焼き痕	灰軸、下半露胎、 高台端面に重ね焼き痕、 回転ヘラケズリ	2.5Y7/2 灰黄	5Y7/3 浅黄	



名古屋城三の丸遺跡 VII

図版番号	グッド	遺構番号	日付	産地・材質	器種	時期	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	内面	外面	胎土(外部)	軸1	備考
1026	11d	SK156	020723	瀬戸美濃陶器	反り皿	登3小期	推13.2	2.8	推7.8	推13.6	灰軸	灰軸、下半露胎、回転ヘラケズリ	2.5Y8/2 灰白	7.5Y7/2 灰白	
1027	11d	SK156	020723	美濃陶器	丸皿	登4小期	推13.0	残2.2		推13.2	灰軸	灰軸	2.5Y6/1 黄灰	7.5Y6/2 灰オリーブ	
1028	11d	SK156	020726	美濃陶器	反り皿	登4小期		残1.7	推8.6		灰軸、ビン痕1ヶ残	灰軸、トチン痕2ヶ残	2.5Y6/1 黄灰	7.5Y6/2 灰オリーブ	
1029	11d	SK156	020723	美濃陶器	折縁皿	登3小期	推11.4	2.4	推7.2	推11.8	灰軸、下半露胎、鉄絵	灰軸、下半露胎、回転ヘラケズリ	2.5Y7/3 浅黄	5Y7/3 浅黄	
1030	11d	SK156	020723	尾張国内特産陶器	蓋	—	8.9	2.3	3.9	9.1	白濁した灰軸?、下半露胎、回転糸切痕	つまみは手づくり、白濁した灰軸?	10YR5/1 褐灰	5Y6/2 灰オリーブ	
1031	11d	SK156	020723	瀬戸美濃陶器	志野大皿	登1or2小期		残3.3			長石軸	長石軸	10YR7/2 にふい黄橙	2.5Y8/2 灰白	
1032	11d	SK156	020723	瀬戸陶器	鉢鉢	登5小期		残3.5			鉄軸	鉄軸	2.5Y7/2 灰黄	7.5YR4/3 褐	
1033	11d	SK156	020723	瀬戸陶器	鉢鉢	登1or2小期		残2.5			錆軸	錆軸	10YR6/4 にふい黄橙	5YR3/3 暗赤褐	
1034	11d	SK156	020723	瀬戸陶器	鉢	登3or4小期		残4.1	推17.4		灰軸、トチン痕1ヶ残	灰軸、トチン痕1ヶ残、高台内うすい灰軸	2.5Y7/2 灰黄	C12-M4-Y20-BL8	
1035	11d	SK156	020723	美濃陶器	鉢	登3or4小期		残3.7	推6.6		灰軸	灰軸、下半露胎、ヨコナデ、回転ヘラケズリ	10YR7/1 灰白	5Y6/2 灰オリーブ	
1036	11d	SK156	020723	瀬戸美濃陶器	水指	大2or3	推12.6	残9.2		推13.6	うすい鉄軸、下半露胎	鉄軸、一部融着、下半露胎	10YR6/2 灰黄褐	10Y3/3 暗褐	
1037	11d	SK156	020723	瀬戸美濃陶器	徳利	古後IV新	推6.2	残2.4			鉄軸	鉄軸	10YR8/2 灰白	7.5YR3/1 黒褐	
1038	11d	SK156	020723	瀬戸美濃陶器	徳利	古後IV新		残6.5	推13.0		鉄軸	鉄軸、下半露胎、回転糸切痕	2.5Y7/3 浅黄	7.5YR4/2 灰褐	
1039	11d	SK156	020726	瀬戸美濃陶器	香炉	登1~4小期		残2.7	推19.0		露胎	鉄軸、下半露胎、回転ヘラケズリ	2.5Y7/3 浅黄		
1040	11d	SK156	020723	美濃陶器	弥七田織部笠原鉢	登1小期	推30.4	5.9	推16.6	推31.2	灰軸鉄絵に銅緑軸散らし	灰軸、下半露胎軸抜き取り、回転ヘラケズリ	2.5Y7/2 灰黄	7.5Y7/2 灰白	
1041	11d	SK156	020723	美濃陶器	笠原鉢		推38.0	残7.6		推38.6	長石軸鉄絵に銅緑軸散らし	長石軸	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y8/3 淡黄	
1042	11d	SK156	020723	瀬戸陶器	根来型瓶子	古後I or II		残6.9			灰軸	灰軸	2.5Y7/1 灰白	5Y5/3 灰オリーブ	
1043	11d	SK156	020723	瀬戸陶器	根来型瓶子	古後III or IV		残7.9			灰軸、露胎	灰軸(大部分剥離)	10YR7/1 灰白		
1044	11d	SK156	020723	凝灰質泥岩	砥石		残長5.9	幅5.2	厚2.3						
1045	13a	SK223	020727	土師器	焼壺壺身A類	17c前~中	5.8	8.8	4.0	7.2	ヨコナデ、布目痕	ヨコナデ、ヘラケズリ、布目痕のち指頭圧痕	7.5YR7/4 にふい橙		
1046	13a	SK223	020727	土師器	ロクロ調整皿		推11.6	残1.9		推11.8	ヨコナデ、タール付着	ヨコナデ	10YR7/3 にふい黄橙		
1047	13a	SK223	020727	土師器	ロクロ調整皿			残1.6	8.2		ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕の板状圧痕	10YR8/3 浅黄橙		
1048	13a	SK223	020727	瀬戸美濃陶器?	茶入?			残1.8	3.2	5.2	露胎	鉄軸、下半露胎、回転糸切痕	2.5Y8/1 灰白	10YR3/3 暗褐	
1049	13a	SK223	020727	瀬戸陶器	鉢鉢	登3小期		残3.7			錆軸	錆軸	2.5Y8/2 灰白	2.5YR3/1 暗赤灰	
1050	13a	SK223	020727	瀬戸陶器	片口	登1or2小期		残7.6	推12.4		露胎、わずかにスス付着	鉄軸、下半露胎、高台端面回転糸切痕、回転ヘラケズリ	10YR8/2 灰白	7.5YR3/4 暗褐	
1051	13a	SK223	020727	瀬戸陶器	鉢鉢	登3小期	推39.2	残5.8		推40.6	錆軸	錆軸	10YR7/2 にふい黄橙	5YR3/1 黒褐	
1052	11b	SD12	020625	美濃陶器	筒形碗	登4小期	推8.8	7.0	推5.6	推9.4	鉄軸	鉄軸、下半露胎、回転ヘラケズリ	2.5Y7/2 灰黄	7.5YR2/2 黒褐	
1053	12c	SD12	020724	瀬戸美濃陶器	丸碗	登3or4小期		残1.9	5.4		鉄軸	露胎、回転ヘラケズリ	2.5Y7/3 浅黄	7.5YR3/4 暗褐	
1054	9b	SD12	020919	肥前磁器	染付丸碗		推10.9	残3.4		推11.0	白磁軸	染付	9/ 白	C4-M0-Y4-BLO	関西系19c 初か?
1055	12b	SD12.14	020912	肥前磁器	染付碗			残2.3	5.8		染付	染付、高台端面露胎、砂付	5Y8/1 灰白	C12-M0-Y10-BL4	
1056	11b	SD12	020625	美濃陶器	皿	登4小期	14.2	2.9	推7.6	14.5	灰軸	灰軸、ヘラケズリ、高台内露胎軸抜き取り	10YR7/2 にふい黄橙	5Y6/2 灰オリーブ	
1057	11b	SD12	020621	美濃陶器	反り皿	登4小期	推14.8	残2.8		推15.6	灰軸	灰軸、ヘラケズリ	2.5Y7/2 灰黄	5Y6/2 灰オリーブ	
1058	11b	SD12	020621	瀬戸美濃陶器	皿	登3or4小期		残1.8	推7.8		灰軸、輪剥げ	灰軸、下半露胎、ヘラケズリ	2.5Y7/2 灰黄	5Y7/2 灰白	
1059	12b	SD12	020727	美濃陶器	志野鉄絵丸皿	登3小期	推12.0	2.9	推7.5	推12.2	長石軸鉄絵、ビン痕1ヶ残	長石軸、回転ヘラケズリ、トチン痕1ヶ残	10YR7/2 にふい黄橙	5Y7/2 灰白	
1060	11b	SD12	020625	美濃陶器	志野丸皿	登2小期	推9.0	1.8	推5.9	推9.2	長石軸	長石軸、回転ヘラケズリ	10YR4/1 褐灰	2.5Y5/1 黄灰	
1061	11b	SD12	020621	瀬戸陶器	志野丸皿	登2or3小期		残1.7	推6.4		長石軸、ビン痕2ヶ残	長石軸、回転ヘラケズリ、トチン痕2ヶ残	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y8/2 灰白	
1062	13b	SD12	020727	瀬戸陶器	反り皿	登1小期	推12.6	残2.9		推12.8	長石軸	長石軸	10YR6/1 褐灰	2.5Y6/1 黄灰	
1063	11b	SD12	020626	土師器	非ロクロ調整皿			3.8	0.9	4.1	指オサエ?	指オサエ	10YR7/3 にふい黄橙		
1064	11b	SD12	020625	土師器	非ロクロ調整皿			3.8	1.0	4.0	調整不明、被熱痕	指オサエ	5YR7/6 橙		
1065	11b	SD12	020625	土師器	非ロクロ調整皿		推3.5	残0.8		推4.2	調整不明	指オサエ	5YR7/6 橙		
1066	13b	SD12	020726	土師器	非ロクロ調整皿		推4.2	残1.4		推4.5	指オサエ	指オサエ	10YR7/3 にふい黄橙		
1067	11b	SD12	020625	土師器	非ロクロ調整皿			3.8	0.9	4.0	調整不明	指オサエ	7.5YR7/4 にふい橙		
1068	11b	SD12	020621	土師器	ロクロ調整皿			残0.9	6.8		ヨコナデ、中央穿孔	ヨコナデ、回転糸切痕の板状圧痕	10YR7/3 にふい黄橙		
1069	11b	SD12	020625	土師器	ロクロ調整皿		推10.6	2.4	推5.0	推10.8	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	10YR7/3 にふい黄橙		
1070	11b	SD12	020621	瀬戸陶器	瓶類	江戸		残3.5	推9.5		露胎、部分的にうすい灰軸	灰軸、下半露胎、回転ヘラケズリ	2.5Y7/3 浅黄	10YR8/4 浅黄橙	



遺物一覧表

図版番号	グッド	遺構番号	日付	産地・材質	器種	時期	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	内面	外面	胎土(外部)	釉1	備考
1071	12c	SD12	020724	美濃陶器	瓶類			残4.1	9.6		錆軸	鉄軸、錆軸、高台端面重ね焼き痕、回転ヘラケズリ、高台内露胎軸拭き取り	10YR6/1 褐灰	5YR3/3 暗赤褐	
1072	12b	SD12	020727	瀬戸陶器	釜	江戸後期		残4.7	推10.2		鉄軸	鉄軸、下半露胎、回転ヘラケズリ	10YR8/2 灰白	7.5YR3/2 黒褐	
1073	11b	SD12, SD14	020730	瀬戸陶器	土瓶	登8or9 小期		残5.3	推10.0		灰軸	うのふ軸、鉄軸、下半露胎、回転ヘラケズリ	2.5Y8/3 淡黄	C0-M0-Y4-BL0	
1074	12b	SD12	020727	常滑陶器赤物	火鉢			残7.7			ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR6/4 にぶい橙		
1075	11b	SD12	020730	瀬戸陶器	火鉢	登8or9 小期	推21.0	残2.8			口縁端面重ね焼き痕、うすい錆軸	鉄軸	10YR8/2 灰白	10YR2/3 黒褐	
1076	13?	SD12	020724	美濃陶器	志野鉄絵鉢	登1or2 小期		残3.9	推15.4		長石軸鉄絵	長石軸、高台端面軸拭き取り	2.5Y8/2 灰白	5Y7/2 灰白	
1077	11b	SD12	020626	美濃陶器	志野鉄絵鉢	登1or2 小期		残7.2			長石軸鉄絵	長石軸、高台脇のみ露胎	2.5Y7/2 灰黄	5Y7/1 灰白	
1078	11b	SD12	020621	美濃陶器	弥七田織部笠原鉢	登1 小期	推41.4	残4.9		推42.4	長石軸鉄絵に銅緑軸散らし	長石軸	2.5Y8/3 淡黄	2.5Y8/4 淡黄	
1079	13b	SD12	020727	土師器	羽無釜		推12.2	残8.5			ヨコナデ、ヘラケズリ、指オサエ、黒色化、スス付着	スス付着、ヨコナデ、指オサエ	2.5Y4/1 黄灰	2.5Y6/2 灰黄	
1080	13b	SD12	020726	土師器	半球形内耳鍋		推21.0	残2.3			ヨコナデ	ヨコナデ、指オサエ、わずかにスス付着	5YR6/6 橙		
1081	12b	SD12	020727	土師器	焙烙		推33.2	6.1		推33.8	ヨコナデ、ハケ、スス付着、下半調整不明	ヨコナデ、指オサエ、ヘラケズリ、指オサエ、調整不明、スス付着	5YR6/6 橙	7.5YR4/2 灰褐	
1082	11b	SD12	020625	土師器	焼塩壺蓋D 類	18c		1.3		8.5	無調整?	ミガキ、刻印ありイヅミ 花 ッタ	5YR6/6 橙		
1083	13b	SD12	020724	土師器	焼塩壺身A 類		推5.0	9.0	3.6	6.2	ヨコナデ	ヨコナデ、ヘラケズリ	7.5YR6/4 にぶい橙		
1084	11b	SD12	020625	鉄製品	釘		残長4.4	幅1.5	厚1.3						
1085	11b	SD12	020625	鉄製品	釘		残長4.0	幅1.6	厚1.1						
1086	11b	SD12	020625	鉄製品	釘		残長6.1	幅3.6	厚1.2						
1087	12c	SD14	020730	美濃陶器	丸碗	登1~3 小期	推9.6	残4.9		推10.0	鉄軸	鉄軸に灰軸流し	10YR8/4 浅黄橙	7.5YR2/2 黒褐	
1088	12c	SD14	020730	瀬戸美濃陶器	天目茶碗	登3 小期		残3.9	推4.0		鉄軸	鉄軸、下半露胎、回転ヘラケズリ	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR2/2 黒褐	
1089	11b	SD14	020731	美濃陶器	丸碗	登2 小期		残2.4	5.0		灰軸	灰軸、下半露胎、回転ヘラケズリ	10YR6/1 褐灰	7.5Y6/2 オリーブ黄	
1090	12c	SD14	020730	瀬戸陶器	小碗	登1~4 小期	推6.6	3.7	推3.6	推6.8	灰軸	灰軸、下半露胎、回転ヘラケズリ	10YR6/1 褐灰	7.5Y6/3 オリーブ黄	
1091	11c	SD14	020624	肥前磁器	染付香炉		推6.7	残3.1			白磁軸	染付	C0-M0-Y0-BL4	C10-M0-Y6-BL0	
1092	11c	SD14	020625	瀬戸美濃陶器	志野丸皿	登2 小期	推11.5	2.3	推6.4	推11.8	長石軸、ビン痕1ヶ残	長石軸、トチン痕2ヶ残	10YR5/1 褐灰	2.5Y6/1 黄灰	
1093	11b, 11c	SD14	020731, 020726	瀬戸陶器	輪壳皿	登3 小期	推13.0	3.0	6.6	推13.6	長石軸、輪壳げ	長石軸、下半露胎、回転ヘラケズリ、墨書らしき黒灰色痕	5Y8/1 灰白	5Y7/2 灰白	
1094	11c	SD14	020726	瀬戸美濃陶器	輪壳皿	登2 小期	推13.8	残2.4		推14.2	鉄軸、輪壳げ	鉄軸、下半露胎	5Y8/1 灰白	7.5YR2/2 黒褐	
1095	13c	SD14	020725	土師器	端反皿	登3or4 小期	推14.0	2.7	推8.8	推14.2	全面露胎、スス付着	全面露胎	10YR7/2 にぶい黄橙		瀬戸美濃陶器生焼?
1096	13c	SD14	020725	瀬戸美濃陶器	反り皿	登3or4 小期	推13.8	残2.5		推14.4	灰軸	灰軸	10YR6/1 褐灰	5Y6/3 オリーブ黄	
1097	11c	SD14	020726	美濃陶器	輪壳皿	登2 小期		残1.5	推6.2		長石軸、輪壳げ	長石軸、下半露胎、回転ヘラケズリ	2.5Y7/2 灰黄	7.5Y6/1 灰	
1098	11b	SD14	020731	瀬戸美濃陶器	志野鉄絵皿	登1or2 小期		残1.7	6.0		長石軸、ビン痕3ヶ残	長石軸、回転ヘラケズリ、トチン痕3ヶ残	2.5Y8/1 灰白	2.5Y7/1 灰白	
1099	11c	SD14	020624	美濃陶器	志野鉄絵鉢	登1or2 小期		残4.0	推17.6		長石軸鉄絵	長石軸、高台端面露胎、ヘラケズリ、トチン痕1ヶ残	2.5Y8/3 淡黄	5Y8/2 灰白	
1100	11e	SD14	020726	美濃陶器	笠原鉢	登3or4 小期	推34.8	残6.1		推35.4	長石軸に銅緑軸散らし	長石軸、ヘラケズリ	2.5Y7/2 灰黄	5Y7/2 灰白	
1101	11b	SD14	020731	土師器	非ロクロ調整皿		3.7~4.2	1.1		4.3~4.8	指オサエ	指オサエ	2.5Y7/2 灰黄		
1102	11c	SD14	020726	土師器	焼塩壺身A 類		推5.0	残6.3			ヨコナデ	ヨコナデ、指オサエ、ヘラケズリ	5YR7/6 橙		
1103	11c	SD14	020624	瀬戸陶器	播鉢	登3 小期	推27.8	残4.8		推28.7	錆軸、櫛目1単位20本4cm、1方向残	錆軸	10YR8/4 浅黄橙	2.5YR3/1 暗赤灰	
1104	12c	SD14	020730	瀬戸陶器	播鉢	登3 小期	推28.0	残13.5		推28.6	錆軸、一部磨減	錆軸、回転ヘラケズリ	10YR7/3 にぶい黄橙	2.5YR3/3 暗赤褐	
1105	11c	SD14	020727	鉄滓	椀型滓		長7.4	残幅5.9	厚2.8						
1106	11c	SD14	020625	鉄塊系遺物	不明(板状)		長6.4	残幅4.1	厚2.3						
1107	13c	SK163	020725	瀬戸美濃陶器	天目茶碗	登5 小期	推10.6	残5.9		推11.2	鉄軸	鉄軸、下半露胎	10YR7/2 にぶい黄橙	7.5YR3/3 暗褐	
1108	12c	SK163	020723	瀬戸美濃陶器	天目茶碗	登1 小期		残3.0	4.4		鉄軸	鉄軸、下半露胎、ヘラケズリ	7.5YR6/4 にぶい橙	2.5YR2/2 極暗赤褐	
1109	13c	SK163	020725	瀬戸美濃陶器	丸碗	登3or4 小期		残3.7			灰軸	灰軸、下半露胎	5Y8/2 灰白	7.5Y7/2 灰白	
1110	13c	SK163	020725	瀬戸美濃陶器	志野丸碗	登1or2 小期	推11.4	残3.8		推11.8	長石軸	長石軸	5Y8/1 灰白	5Y7/1 灰白	
1111	13c	SK163	020725	瀬戸美濃陶器	織部	登1 小期	推12.0	残4.4		推12.2	長石軸鉄絵	長石軸	10YR7/3 にぶい黄橙	7.5YR6/3 にぶい褐	
1112	13c	SK163	020729	肥前陶器	丸碗		推12.4	残5.0		推12.7	長石軸鉄絵	長石軸鉄絵	10YR6/1 褐灰	7.5Y6/1 灰褐	
1113	13c	SK163	020725	中国	白磁小杯			残3.9	推3.8		白磁軸	白磁軸、高台端面露胎	5Y8/1 灰白	9/ 白	
1114	13c	SK163	020725	肥前磁器	白磁小杯		推9.4	残3.5		推9.8	白磁軸	白磁軸	5Y8/1 灰白	9/ 白	
1115	13c	SK163	020725	肥前磁器	染付丸碗		推9.8	残4.8		推10.0	白磁軸	染付	5Y8/1 灰白	C6-M0-Y4-BL0	
1116	13c	SK163	020725	肥前磁器	染付丸碗		推9.5		残3.8	推9.7	染付	染付	5Y8/1 灰白	C6-M0-Y6-BL0	
1117	13c	SK163	020729	瀬戸美濃陶器	反り皿	登3or4 小期	推12.2	残2.3		推12.6	灰軸	灰軸、下半露胎	10YR7/3 にぶい黄橙	5Y7/2 灰白	

名古屋城三の丸遺跡 VII

図版番号	カド	遺構番号	日付	産地・材質	器種	時期	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	内面	外面	胎土(外部)	釉1	備考
1118	13c	SK163	020729	瀬戸美濃陶器	志野皿	登 1or2 小期	推 13.8	残 2.1		推 14.0	長石釉	長石釉	10YR5/1 褐灰 10YR7/2 にふい黄橙	10YR6/1 褐灰	
1119	13c	SK163	020725	土師器	ロクロ調整皿		10.4	1.9	6.3	10.6	指オサエのちヨコナデ?	タール付着、ヨコナデ、回転糸切痕	7.5YR6/3 にふい褐		
1120	13c	SK163	020725	土師器	ロクロ調整皿		推 10.4	2.3	推 5.4	推 10.6	ヨコナデ、タール付着	ヨコナデ、回転糸切痕、スス付着	10YR5/2 灰黄褐		
1121	13c	SK163	020725	土師器	ロクロ調整皿		推 10.5	1.8	推 6.2	推 10.6	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕のち板状圧痕	7.5YR7/4 にふい橙		
1122	13c	SK163	020725	土師器	ロクロ調整皿		推 8.0	1.7	4.4	推 8.2	ヨコナデ	ヨコナデ、沈線、回転糸切痕	7.5YR7/3 にふい橙		
1123	13c	SK163	020725	土師器	ロクロ調整皿		推 8.0	1.4	推 5.4	推 8.2	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕のち板状圧痕か?	7.5YR8/3 浅黄橙		
1124	13c	SK163	020725	土師器	ロクロ調整皿		推 7.4	1.7	推 4.0	推 8.0	ヨコナデ	ヨコナデ、沈線、回転糸切痕	5YR7/4 にふい橙		
1125	13c	SK162	020724	土師器	ロクロ調整皿		推 12.6	2.7	8.4	推 13.0	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕のち板状圧痕	7.5YR8/3 浅黄橙		
1126	13c	SK162	020724	土師器	ロクロ調整皿		推 13.2	2.2	推 7.6	推 13.3	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕のち板状圧痕	10YR7/3 にふい黄橙		
1127	13c	SK162	020724	土師器	ロクロ調整皿		推 12.8	2.2	6.2	推 13.0	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕のち板状圧痕	10YR7/3 にふい黄橙		
1128	13c	SK163	020725	土師器	焼壺身 A 類	17c 後半	5.8	9.2	4.7	6.2	ヨコナデ、布目痕	ヨコナデ、ヘラケズリ	5YR6/6 橙		
1129	13c	SK163	020729	土師器	焼壺身 A 類			残 8.2	4.0	6.4	布目痕	ヘラケズリ、指オサエ?	7.5YR6/4 にふい橙		
1130	13c	SK163	020729	土師器	焼壺身 A 類		推 5.2	残 2.7			ヨコナデ、布目痕	ヨコナデ	2.5YR6/6 橙		
1131	13c	SK162	020724	土師器	焼壺身 A 類			残 7.0			布目痕	調整不明、ヘラケズリ	5YR6/6 橙		
1132	13c	SK162	020724	土師器	焼壺身 A 類		推 5.2	残 9.7		推 6.2	ヨコナデ、布目痕	ヨコナデ、ヘラケズリ	7.5YR7/4 にふい橙		
1133	13c	SK163	020725	土師器	半球形内耳鍋			残 4.7			ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、指オサエ、スス付着	10YR8/2 浅黄橙		
1134	13c	SK163	020725	瀬戸美濃陶器	蓋	登、17c		1.6	3.6	4.2	回転糸切痕	鉄軸、下半露胎	10YR8/4 浅黄橙	2.5YR3/2 暗赤褐	
1135	12c	SK163	020723	瀬戸美濃陶器	鉢類	登 3 小期		残 1.9	推 8.4		灰釉	灰釉、ヘラケズリ、トチン痕 2ヶ残	2.5YR8/2 灰白	7.5Y7/2 灰白	
1136	13c	SK163	020725	美濃陶器	鉄絵中皿	登 1or2 小期	推 22.4	残 3.8		推 23.2	灰釉鉄絵	灰釉	2.5Y7/2 灰黄	5Y6/3 オリーブ黄	
1137	13c	SK162	020724	美濃陶器	皿	登 1or2 小期		残 1.8	推 11.6		灰釉	灰釉、回転ヘラケズリ、輪トチン痕	5Y7/1 灰白	7.5Y7/2 灰白	
1138	13c	SK162	020724	美濃陶器	黄瀬戸鉢	登 1or2 小期	推 24.6	5.4	推 13.2	推 25.0	灰釉に銅緑軸散らし、トチン痕 2ヶ残	灰釉、下半露胎軸抜き取り、回転ヘラケズリ、トチン痕 2ヶ残	5YR8/2 灰白	5Y7/3 浅黄	
1139	13c	SK163	020725	美濃陶器	笠原鉢	登 1or2 小期	推 30.4	残 5.8		推 31.2	長石釉鉄絵	長石釉	7.5Y7/1 灰白	7.5Y7/1 灰白	
1140	13c	SK163	020725	瀬戸美濃陶器	插鉢	大 2	推 30.0	残 5.2		推 30.5	錆釉、櫛目あり	錆釉	2.5Y8/1 灰白	7.5R3/1 暗赤灰	
1141	12c	SK163	020723	瀬戸美濃陶器	插鉢	登 2 小期		残 2.3			錆釉	錆釉	2.5Y6/2 灰黄	10R3/2 暗赤褐	
1142	12c	SK163	020723	木製品	木胎漆器碗			残 3.0	推 5.8		赤色漆	黒色漆に赤色漆で施紋	—		
1143	13c	SK163	020725	銅製品	銭貨(元豊通宝)					2.5					
1144	13c	SK484	020912	美濃陶器	天目茶碗	登 1or2 小期		残 5.5			鉄釉	鉄釉、下半露胎	2.5YR8/2 灰白	7.5YR3/3 暗褐	
1145	13c	SK484	020912	瀬戸美濃陶器	折縁中皿	古後 III		残 1.6	推 9.8		灰釉、下半露胎、沈線	露胎、ヘラケズリ	10YR8/3 浅黄橙		
1146	12c	SK484	020912	瀬戸美濃陶器	插鉢	大 2		残 4.0			錆釉	錆釉	10YR7/4 にふい黄橙	5YR3/3 暗赤褐	
1147	—	SK484	020913	土師器	ロクロ調整皿		11.3	2.3	6.6	11.5	ヨコナデ	ヨコナデ、下半調整不明	10YR8/3 浅黄橙		
1148	—	SK484	020913	土師器	ロクロ調整皿		推 12.0	2.3	6.7	推 12.3	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕のち板状圧痕	10YR8/3 浅黄橙		
1149	13c	SK484	020912	土師器	ロクロ調整皿		推 11.0	2.3	6.9	推 11.3	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	10YR7/3 にふい黄橙		
1150	—	SK484	020913	土師器	ロクロ調整皿		推 11.2	残 2.2	推 6.2	推 11.4	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕のち板状圧痕	10YR7/2 にふい黄橙		
1151	—	SK484	020913	土師器	ロクロ調整皿		推 11.2	2.0	6.6	推 11.4	ヨコナデ	ヨコナデ、調整不明	10YR8/3 浅黄橙		
1152	—	SK484	020913	土師器	ロクロ調整皿		推 11.0	2.1	推 6.0?	推 11.2	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕のち板状圧痕	2.5YR7/3 浅黄		
1153	—	SK484	020913	土師器	ロクロ調整皿		11.8	2.7(1.6)	6.1	11.9	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕のち板状圧痕	10YR8/3 浅黄橙		
1154	—	SK484	020913	土師器	ロクロ調整皿			残 1.9	6.6		ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	10YR8/3 浅黄橙		
1155	—	SK484	020913	土師器	ロクロ調整皿		推 11.0	2.2	6.5	推 11.3	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	10YR8/3 浅黄橙		
1156	—	SK484	020913	土師器	ロクロ調整皿		11.4	2.2	6.5	11.6	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕のち板状圧痕	10YR7/3 にふい黄橙		
1157	—	SK484	020913	土師器	ロクロ調整皿		11.1	2.7	6.2	11.4	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	10YR7/3 にふい黄橙		
1158	—	SK484	020913	土師器	ロクロ調整皿		11.0	2.6	6.2	11.2	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕のち板状圧痕	10YR8/3 浅黄橙		
1159	13c	SK484	020912	土師器	ロクロ調整皿		推 11.4	残 2.1		推 11.6	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR8/3 浅黄橙		
1160	13c	SK484	020912	土師器	ロクロ調整皿		推 11.2	1.7	推 6.8	推 11.4	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕のち板状圧痕	10YR7/3 にふい黄橙		
1161	13c	SK484	020912	土師器	ロクロ調整皿			残 2.9	5.8		ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕のち板状圧痕	7.5YR7/6 橙		
1162	—	SK484	020913	銅製品	銭貨(寛永通宝)					2.5					
1163	—	SK484	020913	銅製品	銭貨(寛永通宝)					2.5					
1164	—	SK484	020913	銅製品	銭貨(寛永通宝)					2.5					
1165	—	SK484	020913	銅製品	銭貨(寛永通宝)					2.5					

遺物一覧表

図版番号	クワッド	遺構番号	日付	産地・材質	器種	時期	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	内面	外面	胎土(外部)	軸1	備考
1166	13c	SK484	020912	銅製品	銭貨(寛永通宝)					2.5					
1167	13c	SK484	020912	銅製品	銭貨(寛永通宝)					2.5					
1168	13d	SK40上層	020612	土師器	焼塩壺蓋A類		推6.4	1.6		推6.8	ヨコナデ	不明、ヨコナデ	7.5YR6/6 橙		
1169	13d	SK40上層	020612	京焼陶器(染)	碗			残1.9	推4.8		透明鉛釉(貫入あり)	透明鉛釉(貫入あり)	2.5Y8/1 灰白	2.5Y7/3 浅黄	
1170	13a	SK49	020612	瀬戸美濃陶器	天目茶碗	登3小期		残4.5	5.0		鉄軸	鉄軸、下半露胎、ヘラケズリ	10YR8/2 灰白	10YR2/1 黒	
1171	13a	SK49	020612	土師器	ロクロ調整皿		推11.8	2.0	推7.8	推12.0	ヨコナデ、タール付着	ヨコナデ、回転糸切痕、タール付着、口縁部欠損	10YR5/2 灰黄褐		
1172	13a	SK49	020612	土師器	焙烙			残3.6			ヨコナデ	ヨコナデ、ヘラケズリ、スス付着	7.5YR5/3 にぶい褐		
1173	13a	SK49 4層	020613	信楽陶器	壺			残14.9		推25.6	長石のふきだしあり、露胎、指オサエ	灰軸	10YR7/1 灰白	5Y6/4 オリーブ黄	
1174	13a	SK49 2層	020613	瀬戸美濃陶器	揃鉢	登		残8.2	推13.0		錆軸、著しく磨減	錆軸、ヘラケズリ、回転糸切痕	2.5Y8/2 灰白	7.5YR3/1 黒褐	
1175	13a	SK49	020612	常滑陶器	赤物壺類?			残10.6	推22.8		指オサエ、ナデ	指オサエ、押印、ヨコナデ、砂目付着	7.5YR7/4 にぶい橙		
1176	11d	SK90	020621	瀬戸美濃陶器	小壺	古後III or IV	推3.2	残1.4			鉄軸	鉄軸	2.5Y6/1 黄灰	10YR2/2 黒褐	
1177	12e	SD26	020726	京焼	茶入			残1.5	推5.0		露胎	鉄軸	2.5Y7/3 浅黄	5YR2/3 極暗赤褐	
1178	12f	SK132	020814	瀬戸美濃陶器	丸碗	登1~4小期	推11.0	残3.9		推11.4	鉄軸	鉄軸	5Y8/1 灰白	5YR4/3 にぶい赤褐	
1179	11b	SK132	020625	美濃陶器	御深井皿	登4小期	推13.8	残1.8		推14.0	長石軸	長石軸	2.5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	
1180	10d	SK127	020626	瀬戸美濃陶器	志野丸皿	登1小期	推8.4	1.8	推4.8	推8.8	長石軸	長石軸、回転ヘラケズリ、トチン痕1ヶ残、スス付着	5Y6/1 灰	7.5Y7/1 灰白	
1181	10d	SK127	020626	美濃陶器	折縁皿	登3小期	推11.4	残2.0		推12.0	灰軸、下半露胎	灰軸、下半露胎	2.5Y5/1 黄灰	5Y6/3 オリーブ黄	
1182	10d	SK127	020626	土師器	ロクロ調整皿		推9.0	残2.0		推9.2	ヨコナデ	ヨコナデ、スス付着	10YR6/3 にぶい黄橙		
1183	10d	SK127	020626	土師器	ロクロ調整皿		推10.6	1.8	推5.0	推10.8	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	7.5YR8/4 浅黄橙		
1184	10d	SK127	020626	美濃陶器	香炉	17c		残3.3	推6.0		露胎	長石軸、重ね焼き痕	2.5Y6/1 黄灰	2.5Y7/1 灰白	
1185	10d	SK127	020626	瀬戸美濃陶器	笠原鉢	登1小期		残1.8			長石軸に緑釉散らし	長石軸	2.5Y8/2 灰白	2.5Y7/1 灰白	
1186	10d	SK127	020626	瀬戸陶器	揃鉢	登4小期		残3.6			鉄軸	鉄軸	10YR3/3 暗褐		
1187	13d	SK202	020727	土師器	非ロクロ調整皿			3.7	0.9	3.9	指オサエ	指オサエ	10YR7/3 にぶい黄橙		
1188	13a	SK224	020727	美濃陶器	志野小碗	登1~4小期	6.5	3.3	3.2	6.8	長石軸	長石軸、下半露胎、回転ヘラケズリ	10YR8/4 浅黄橙	2.5Y7/2 灰黄	
1189	10c	SK270	020731	瀬戸陶器	揃鉢	登3小期		残3.8			錆軸、脚目あり	錆軸	2.5YR4/2 灰赤		
1190	8d	SK296	020826	瀬戸美濃陶器	天目茶碗	古後IV古		残2.6	4.4		鉄軸	露胎、回転ヘラケズリ、焼成前刻書「十」	10YR7/3 にぶい黄橙	2.5GY3/1 暗オリーブ灰	
1191	8d	SK296	020826	土師器	ロクロ調整皿			残2.2	推6.4		ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	10YR8/3 浅黄橙		
1192	8d	SK296	020826	東濃型山茶碗類	山茶碗	生田	10.2	2.7	3.4	10.6	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	10YR8/4 浅黄橙		
1193	11b	SK454	020918	瀬戸美濃陶器	天目茶碗	古後IV新		残1.9	4.0		鉄軸	錆軸	7.5YR4/3 褐		
1194	12f	SD21	020724	美濃陶器	折縁皿	登3小期	推11.0	2.7~2.8	推7.2	推11.6	灰軸、うすい灰軸、鉄絵、重ね焼き痕	灰軸、下半露胎、回転ヘラケズリ	2.5Y8/3 淡黄	5Y7/4 浅黄	
1195	11d	SD21	020724	土師器	半球形内耳鍋		推19.0	残4.9		推20.0	ヨコナデ、調整不明	ヨコナデ、スス付着	10YR7/3 にぶい黄橙		
1196	13d	SD22	020726	美濃陶器	志野丸碗	登1小期		残1.8	5.3		長石軸鉄絵	長石軸、高台端部露胎軸拭き取り	10YR6/1 褐灰	2.5Y7/1 灰白	
1197	13e	SD22	020729	瀬戸美濃陶器	志野丸皿	登2小期	推11.6	2.3	推7.4	推12.0	長石軸、ビン痕1ヶ残	長石軸、高台端部露胎、重ね焼き痕	5Y8/1 灰白	2.5Y7/2 灰黄	
1198	13d	SD22	020726	土師器	焼塩壺身A類		推5.2	9.0	推5.0	推7.0	ヨコナデ、布目痕	ヨコナデ、ヘラケズリ、底部調整不明	7.5YR7/6 橙		
1199	13d	SD22	020726	瀬戸美濃陶器	広口有耳壺	大1	推15.0	残3.7			口縁部露胎軸拭き取り、鉄軸、下半露胎	鉄軸	10YR8/4 浅黄橙	7.5YR3/2 黒褐	
1200	13d	SD22	020726	瀬戸陶器	揃鉢	古後IV新		残3.9			錆軸	錆軸	10YR6/3 にぶい黄橙	10R3/2 暗赤褐	
1201	13e	SD22	020729	瀬戸陶器	折縁深皿	古中I or II		残2.9	推17.0		うすい灰軸	うすい灰軸	2.5Y8/2 灰白	5Y7/3 浅黄	
1202	9d	SK94	020625	肥前磁器	染付丸碗	18c前半	9.9	5.3	3.9	10.0	白磁軸	染付、高台端部露胎	9/ 白	C4-M0-Y4-BL0	有田
1203	10e	SK94	020624	肥前磁器	染付丸碗	18c前半	9.7	5.4	3.8	9.9	白磁軸	染付、高台端部露胎	5Y8/1 灰白	C6-M0-Y4-BL0	波佐見
1204	9d	SK94	020625	肥前磁器	染付丸碗	18c前半	推10.6	5.7	推4.1	推10.8	白磁軸	染付、高台端部露胎	5Y8/1 灰白	C4-M0-Y4-BL0	波佐見
1205	9d、9e	SK94 ベルト	020708、020709	肥前磁器	染付丸碗	18c前半	9.8	4.9	3.4	9.9	染付	染付、高台端部露胎	9/ 白	C4-M0-Y4-BL0	有田
1206	10e	SK94	020624	肥前磁器	染付丸碗	18c前半	10.1	5.1	3.9	10.2	白磁軸	染付、高台端部露胎	9/ 白	C4-M0-Y4-BL0	有田
1207	9d	SK94	020625	肥前磁器	染付丸碗		推10.4	5.2	3.5	推10.6	白磁軸	染付、高台端部露胎	5Y8/1 灰白	C4-M0-Y6-BL0	
1208	9e	SK94 北下層	020702	肥前磁器	染付丸碗		推10.3	4.7	推3.6	推10.4	白磁軸	染付、高台端部露胎	7.5Y8/1 灰白	C8-M0-Y4-BL0	
1209	9e	SK94 北下層	020702	肥前磁器	染付丸碗		推9.0	残4.8		推9.1	白磁軸	染付	N8/1 灰白	C10-M0-Y4-BL0	
1210	10e	SK94	020621	肥前磁器	染付丸碗	18c前半	9.9	残4.3		10.0	白磁軸	染付	5Y8/1 灰白	C4-M0-Y6-BL0	有田
1211	9e	SK94	020626	肥前磁器	染付丸碗		推10.2	残3.9		推10.3	白磁軸	染付	7.5Y8/1 灰白	10Y8/1 灰白	
1212	9d	SK94	020625	肥前磁器	染付丸碗		推9.9	残4.0		推10.0	白磁軸	染付	7.5Y8/1 灰白	C6-M0-Y6-BL0	

名古屋城三の丸遺跡 VII

図版番号	グッド	遺構番号	日付	産地・材質	器種	時期	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	内面	外面	胎土(外部)	釉1	備考
1213	9d, 9e	SK94 ベルト	020708	肥前磁器	染付丸碗		8.0	4.0	2.9	8.1	白磁釉	染付、高台端部露胎	5Y8/1 灰白	C4-M0-Y4-BL0	
1214	9d, 9e	SK94 ベルト	020709	肥前磁器	染付丸碗	18c 前半	8.1	4.0	2.9	8.2	白磁釉	染付、高台端部露胎	—	C4-M0-Y4-BL0	有田
1215	9e	SK94	020621	肥前磁器	染付丸碗			残 2.6	推 3.6		白磁釉	染付、高台端部露胎	7.5Y8/1 灰白	C6-M0-Y4-BL0	
1216	9d	SK94	020625	肥前磁器	白磁小碗	18c 前半	8.2	4.5	4.8	8.3	白磁釉	白磁釉、高台端部露胎		C0-M0-Y4-BL4	有田
1217	10e	SK94 南下層	020702	肥前磁器	白磁小碗	18c 前半	8.1	4.2	3.8	8.2	白磁釉、内面に付着物あり?	白磁釉、高台端部露胎		C0-M0-Y0-BL4	有田
1218	一、10e	SK94	020625	肥前磁器	白磁丸碗		推 10.1	残 3.3			白磁釉	白磁釉	5Y8/1 灰白	C4-M0-Y4-BL0	
1219	9e	SK94 北下層	020702	肥前磁器	京焼風丸碗		推 11.2	残 4.7		推 11.4	透明釉	染付、下半露胎	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙	
1220	9d	SK94	020625	信楽陶器	京焼風丸碗	18c 初頭	9.4	5.4	3.2	9.6	灰釉、上絵付	灰釉、上絵付	10YR6/2 灰黄褐	2.5GY7/1 明オリーフ灰	京焼という説あり
1221	10e	SK94	020624	京焼陶器	丸碗	18c 初頭	推 8.5	4.3	2.6	推 8.6	灰釉	灰釉、下半露胎	2.5Y8/1 灰白	5Y6/2 灰オリーフ	
1222	10e	SK94	020624	京・信楽陶器	丸碗			残 1.1			灰釉	灰釉、下半露胎	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/4 淡黄	
1223	9e	SK94 北、下層	020702	瀬戸陶器	御室茶碗	登 5or6 小期	推 11.4	残 4.1		推 11.7	灰釉	灰釉、呉須絵	5Y8/3 淡黄		
1224	10e	SK94	020624	肥前陶器	刷毛目丸碗	18c	11.5	4.9	4.4	11.7	白化粧、透明釉鉄絵	白化粧、透明釉、高台端部露胎	5B4/1 暗青灰	7.5Y8/2 灰白	現川
1225	—	SK94 南	020702	瀬戸陶器	丸碗	登 7or8 小期	推 11.2	残 3.6		推 11.5	灰釉	灰釉	5Y7/2 灰白		
1226	9e	SK94	020625	肥前系陶器	丸碗			残 1.7	推 4.2		灰釉	灰釉、錆釉、高台端部露胎	2.5Y8/2 灰白	10YR3/3 暗褐	
1227	9d	SK94	020624	中国陶器	天目茶碗		推 11.6	残 3.1		推 12.0	鉄釉	鉄釉	2.5Y6/1 黄灰	7.5YR3/3 暗褐	
1228	10e	SK94	020624	肥前陶器	京焼風蓋物		8.3	6.1	5.0	8.3	透明釉、口縁部露胎	透明釉鉄絵、上絵付、下半露胎	2.5Y8/3 淡黄	2.5Y8/3 淡黄	京焼という説あり
1229	9d, 9e	SK94 ベルト	020708	中国景德鎮窯系	青花碗			残 1.4	推 4.1		青花	青花、高台端部露胎		C10-M0-Y4-BL4	
1230		SK94 南	020702	肥前磁器	染付小杯			残 3.7	推 2.5		白磁釉	染付、下半露胎	9/ 白	C8-M0-Y4-BL0	
1231	一、12f	SK94 南, SD21	020702	肥前磁器	染付小杯		推 6.4	3.5	2.8	推 6.6	白磁釉	染付、下半露胎	2.5Y8/1 灰白	C8-M0-Y4-BL0	
1232	9d	SK94	020625	肥前磁器	染付小杯		推 6.0	4.1	推 4.2	推 6.1	白磁釉	染付、高台端部露胎		C10-M0-Y6-BL0	
1233	9d	SK94	020625	肥前磁器	染付小杯		推 6.6	残 4.0		推 6.7	白磁釉	染付	7.5Y8/1 灰白	C6-M0-Y4-BL0	
1234	—	SK94 ベルト	020709	肥前磁器	白磁小杯			残 2.0	2.9		白磁釉	白磁釉、高台端部露胎、砂付着	5Y8/1 灰白	C0-M0-Y0-BL4	
1235	9d	SK94	020625	肥前磁器	白磁仏飯具?	18c 前半	推 6.4	残 2.1			白磁釉	白磁釉	5Y8/1 灰白	C4-M0-Y0-BL0	有田
1236	9d	SK94	020625	肥前磁器	染付仏飯具		推 6.6	残 2.4		推 6.7	白磁釉	染付	C0-M0-Y0-BL4	C6-M0-Y8-BL0	
1237	10e	SK94	020621	肥前磁器	染付仏飯具		推 6.6	残 2.0		推 6.7	白磁釉	染付	9/ 白	C8-M4-Y6-BL0	
1238	10e	SK94	020621	肥前磁器	白磁小杯?			残 1.0	2.1		白磁釉	白磁釉、高台端部露胎	5Y8/1 灰白	C4-M0-Y0-BL0	
1239	9d	SK94	020625	肥前磁器	白磁小杯			残 1.8	推 4.2		白磁釉	白磁釉、高台端部露胎	5Y8/1 灰白	C4-M0-Y4-BL0	
1240	9e	SK94 北下層	020702	美濃陶器	型打菊皿			残 1.3			灰釉、鉄絵	灰釉	10YR8/1 灰白	2.5GY7/1 明オリーフ灰	
1241	9e	SK94 北下層	020702	肥前磁器	白磁紅皿		推 4.4	残 1.4		推 4.4	白磁釉	白磁釉、下半露胎	9/ 白	C0-M0-Y0-BL4	
1242	9d, 9e	SK94 ベルト	020708	肥前磁器	皿		推 13.4	3.6	推 7.6	推 13.5	染付	染付、高台端部露胎	7.5Y8/1 灰白	10Y8/1 灰白	C100-M80-Y30-BL0
1243	10e	SK94	020624	京・信楽陶器	輪花皿		推 10.1	2.3	4.8	推 10.2	灰釉、鉄絵、呉須絵	灰釉、下半露胎	2.5Y8/2 灰白	C20-M10-Y20-BL6	7.5Y2/2 オリーフ黒
1244	9d	SK94	020625	肥前磁器	型打皿	17c 後半～18c 前半		2.7			染付	染付、高台端部露胎	9/ 白	C6-M0-Y4-BL0	
1245		SK94 南	020702	美濃陶器	摺絵皿	登 7 小期	11.7	3.0	7.2	11.8	灰釉、呉須絵	灰釉、高台端部露胎	5Y8/1 灰白	7.5Y7/1 灰白	
1246	9d	SK94	020621	肥前磁器	染付蓋		推 6.0	残 1.6		推 7.1	白磁釉	染付	9/ 白	C6-M0-Y4-BL0	
1247	10e	SK94 北下層	020702	肥前磁器	染付蓋	18c 前半	9.3	2.8		9.4	白磁釉	染付	—	C6-M0-Y4-BL0	有田
1248	10e	SK94	020621	京・信楽陶器	蓋	18c 後半	9.0	4.6		11.2	露胎	灰釉	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/3 淡黄	
1249	9d	SK94	020624	美濃陶器	蓋	登 5～7 小期	6.4	残 1.0			露胎	灰釉	2.5Y8/2 灰白	2.5Y7/2 灰黄	
1250	9e	SK94	020626	美濃陶器	蓋	登 5 小期	3.6	1.7			露胎	鉄釉	2.5Y8/1 灰白	7.5YR3/4 暗褐	
1251	9d, 10e	SK94	020624, 020625	肥前磁器	染付無頸壺	1690	6.3	5.6	3.0	7.7	白磁釉	染付、高台端部露胎		C4-M0-Y4-BL0	有田
1252	9d	SK94	020625	肥前磁器	染付蓋	18c 前半	6.7	2.3		7.4	白磁釉、合わせ部露胎	染付	2.5Y8/2 灰白	C4-M0-Y4-BL0	
1253	9d	SK94	020625	肥前磁器	染付合子身	18c 前半					白磁釉	染付、高台端部露胎	2.5Y8/2 灰白	C4-M0-Y4-BL0	有田
1254	9e	SK94	020621	美濃陶器	蓋物の身	登 7 小期	推 10.0	残 4.2		推 11.0	口縁部露胎、灰釉	口縁部露胎、灰釉	2.5Y8/2 灰白	5Y7/2 灰白	
1255	—	SK94 ベルト	020709	土師器	ロクロ調整皿		17.2	3.6	8.4	17.3	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	5YR6/6 橙		
1256	—	SK94 ベルト	020709	土師器	ロクロ調整皿		17.2	4.1	9.0	17.4	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	5YR6/8 橙		
1257	—	SK94 南	020702	土師器	ロクロ調整皿		推 12.6	2.4	6.0	推 12.8	ヨコナデ、被熱痕?	ヨコナデ、回転糸切痕	7.5YR6/6 橙		
1258	9e	SK94 北下層	020702	土師器	ロクロ調整皿		11.9	2.3	6.1	12.1	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	5YR6/8 橙		
1259	9d	SK94	020625	土師器	ロクロ調整皿		推 11.8	2.4	5.0	推 12.0	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	7.5YR6/6 橙		
1260	9d, 9e	SK94 ベルト	020708	土師器	ロクロ調整皿		推 11.0	2.4	推 5.0	推 11.2	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	7.5YR7/6 橙		

遺物一覧表

図版番号	グランド	遺構番号	日付	産地・材質	器種	時期	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	内面	外面	胎土(外部)	軸1	備考
1261	—	SK94 ベルト	020709	土師器	ロクロ調整皿		推 11.0	2.3	5.3	推 11.2	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	5YR6/8 橙		
1262	9d, 9e	SK94 ベルト	020709	土師器	ロクロ調整皿		10.6	2.3	5.5	10.8	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	5YR7/8 橙		
1263	9d	SK94	020625	土師器	ロクロ調整皿		10.8	2.2	5.4	11.0	ヨコナデ、タール付着	ヨコナデ、回転糸切痕	5YR6/6 橙		
1264	—	SK94 ベルト	020709	土師器	ロクロ調整皿		推 10.6	2.4	5.0	推 10.8	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	5YR6/6 橙		
1265	9e	SK94	020625	土師器	ロクロ調整皿		10.2	2.1	5.4	10.4	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	5YR6/8 橙		
1266	9d	SK94	020625	土師器	ロクロ調整皿		推 9.8	2.0	5.2	推 10.0	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	5YR6/8 橙		
1267	9d	SK94	020625	土師器	ロクロ調整皿		推 9.8	2.1	5.7	推 10.0	ヨコナデ、タール付着	ヨコナデ、回転糸切痕	5YR6/8 橙		
1268	9d	SK94	020625	土師器	ロクロ調整皿		推 8.8	1.7	推 4.8	推 9.0	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	5YR5/6 明赤褐		
1269	9e	SK94	020626	土師器	ロクロ調整皿		推 8.5	1.6	5.2	推 8.8	調整不明	ヨコナデ、回転糸切痕	7.5YR6/6 橙		
1270	9e	SK94 北下層	020702	土師器	ロクロ調整皿		推 8.6	2.2	推 5.0	推 8.8	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	7.5YR7/6 橙		
1271	9e	SK94	020621	土師器	ロクロ調整皿		推 8.0	1.6	推 5.0	推 8.2	ヨコナデ、墨書「十」	ヨコナデ、回転糸切痕のち墨書「三」	7.5YR6/6 橙		
1272	9e	SK94	020626	土師器	ロクロ調整皿		6.2	1.2	3.6	6.4	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	7.5YR6/6 橙		
1273	9d	SK94	020625	土師器	ロクロ調整皿		6.2	1.2	3.8	6.4	ヨコナデ、被熱痕	ヨコナデ、回転糸切痕、タール付着	5YR6/8 橙		
1274	10d	SK94	020621	土師器	ロクロ調整皿		推 6.2	1.2	4.0	推 6.4	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕、タール付着	5YR6/8 橙		
1275	10e, 9d	SK94 020624, 020621		土師器	非ロクロ調整皿		推 11.6	2.2	推 7.0	推 11.8	内型成形	調整不明	5Y8/1 灰白		
1276	9e	SK94 北下層	020702	土師器	不明(皿?)		推 19.0	残 2.4			調整不明	調整不明	10YR8/2 灰白		
1277	9d	SK94	020626	美濃陶器	汁次	18c 初	7.4	10.8	7.2	9.2	露胎	灰軸摺絵、下半露胎	2.5Y8/2 灰白	7.5Y8/2 灰白	可見罫
1278	10d	SK94	020621	土師器	焙烙		推 28.0	残 5.5		推 28.2	荒いハケ、わずかに指オサエ、他は調整不明	ヨコナデ、指オサエ、ヘラケズリ、スス付着	7.5YR5/4 にぶい褐		
1279	9d	SK94	020625	瓦器	火鉢			残 1.3			ナデ	ヨコナデ、未調整	2.5Y7/1 灰白	5Y5/1 灰	
1280	9d, 9e	SK94	020702	美濃陶器	鍋	登 8 小期		残 2.6	6.9		錆軸	錆軸、スス付着、三足トナシ痕	5Y6/2 灰オリーブ	5YR3/4 暗赤褐	
1281	9e	SK94	020626	美濃陶器	双耳小壺	登 6or7 小期	4.2	6.5	3.8	6.4	鉄軸、うのふ軸	鉄軸、うのふ軸、下半露胎	5Y8/1 灰白	2.5Y4/4 オリーブ褐	
1282	9d	SK94	020625	美濃陶器	双耳小壺	登 5or6 小期	推 8.0	残 2.9			口縁端部露胎、鉄軸、下半露胎	口縁端部露胎、鉄軸	10YR7/2 にぶい黄橙	7.5YR2/3 極暗褐	
1283	10e	SK94	020624	美濃陶器	御深井大皿	登 2 小期		残 3.3			灰軸にうのふ軸流し	灰軸にうのふ軸流し、高台端部露胎	2.5Y7/1 灰白	7.5Y6/2 灰オリーブ	
1284	—	SK94 南	020702	美濃陶器	美濃伊賀水指	登 1 小期		残 3.6			灰軸	灰軸	2.5Y8/2 灰白	5Y7/3 浅黄	
1285	9d, 9e	SK94	020702	瀬戸陶器	鉢	登 5 小期?	推 16.4	残 5.2		推 17.2	灰軸	灰軸	2.5Y8/2 灰白	7.5Y7/2 灰白	
1286	9d	SK94	020626	瀬戸美濃陶器	黄瀬戸大皿	大 4		残 1.8	推 11.0		黄瀬戸軸、刻文あり	黄瀬戸軸、高台端部露胎	2.5Y8/2 灰白	5Y8/2 灰白	
1287	10e, 9e	SK94	020624	瀬戸陶器?	こね鉢	登 7or8 小期	推 19.2	残 7.7		推 19.6	灰軸	灰軸、下半露胎	2.5Y8/1 灰白	5Y6/3 オリーブ黄	
1288	—	SK94 ベルト	020709	美濃陶器	土瓶	登 8 小期~	推 9.2	残 8.7		推 17.2	口縁端部露胎、鉄軸、下半露胎	鉄軸	2.5Y8/2 灰白	7.5YR4/6 褐	
1289	9e	SK94 北下層	020702	瀬戸陶器	搦鉢	登 5 小期		残 5.8	推 9.8		錆軸、櫛目あり、磨減	うすい錆軸、ヘラケズリ、回転糸切痕	2.5Y8/2 灰白	10YR3/2 黒褐	
1290	9e	SK94 北下層	020702	瀬戸陶器	搦鉢	登 5 小期	推 37.8	残 8.9		推 38.4	錆軸、櫛目あり、わずかに磨減	口縁端部磨減、錆軸、ヘラケズリ	2.5Y8/2 灰白	5YR4/4 にぶい赤褐	
1291	—	SK94 南	020702	瀬戸陶器	搦鉢	登 8 小期	推 37.2	残 9.5		推 38.8	錆軸、櫛目あり	錆軸、ヘラケズリ、重ね焼き痕?	2.5Y8/2 灰白	7.5YR4/3 褐	
1292	10e, 9d	SK94	020524	瀬戸陶器	搦鉢	登 7 小期	推 38.6	残 11.4		推 40.0	錆軸、櫛目単位 14 本 3.8cm4 単位残、磨減	錆軸、ヘラケズリ	2.5Y7/3 淡黄	5YR4/4 にぶい赤褐	
1293	9d, 9e	SK94 ベルト	020709	瀬戸陶器	搦鉢	登 8 小期	推 46.6	残 16.6		推 47.6	錆軸、櫛目あり、磨減	口縁端部磨減、錆軸、ヘラケズリ	2.5Y8/2 灰白	5YR4/4 にぶい赤褐	
1294	9e	SK94	020625	銅	鉾		長 1.4	幅 0.5	厚 0.4						
1295	9e	SK94	020625	鉄+銅	鉾留?		長 2.0	幅 1.8	厚 0.3						
1296	11h, 11i	SK01 B	020803	瀬戸陶器	天目茶碗	登 6 小期	推 11.8	残 5.6		推 12.0	鉄軸	鉄軸、下半露胎、ヘラケズリ	2.5Y8/1 灰白	N2/ 黒	
1297	11h	SK01 B	020808	美濃陶器	天目茶碗	登 3or4 小期	推 9.8	残 5.2		推 10.0	鉄軸	鉄軸、下半露胎、ヘラケズリ	10YR7/1 灰白	10YR3/4 暗褐	
1298	11i	SK01	020530	瀬戸陶器	天目茶碗	登 6or7 小期		残 2.4	3.0		鉄軸	鉄軸、下半露胎	10YR7/3 にぶい黄橙	2.5Y2/1 黒	
1299	11h	SK01 B	020809	美濃陶器	尾呂茶碗	登 5 小期	推 10.8	8.9	推 5.8	推 11.2	鉄軸に灰軸流し	鉄軸に灰軸流し(軸は風化)、錆軸、ヘラケズリ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y4/4 オリーブ褐	
1300	11i	SK01	020530	美濃陶器	尾呂茶碗	登 3or4 小期		残 3.8	5.4		鉄軸に灰軸流し	鉄軸、うすい錆軸	2.5Y8/3 淡黄	7.5YR2/3 極暗褐	
1301	11h	SK01 B	020807	美濃陶器	端反碗	登 1or2 小期	推 12.4	残 6.3		推 12.6	鉄軸に灰軸流し	鉄軸に灰軸流し	10YR8/1 灰白	5YR3/4 暗赤褐	
1302	11h	SK01 B	020808 (瀬戸) 陶器	腰錆茶碗	登 5 小期		残 5.8	推 6.0			灰軸	錆軸、高台端部露胎	2.5Y8/2 灰白	2.5YR3/3 暗赤褐	
1303	11h	SK01 B	020807	美濃陶器	腰錆茶碗	登 5 小期	推 10.4	残 5.2		推 10.6	灰軸	灰軸、錆軸	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/3 浅黄	
1304	11h, 11i	SK01	020528	瀬戸美濃陶器	腰錆茶碗	登 5 小期	推 10.2	残 5.1		推 10.4	灰軸、釉葉剥離	灰軸、錆軸	2.5Y8/3 淡黄	2.5Y7/3 浅黄	
1305	11h	SK01 B	020809	美濃陶器	御室茶碗	登 5or6 小期	推 10.1	6.4	5.3	推 10.4	灰軸	灰軸、下半露胎	7.5YR8/1 灰白	7.5Y7/1 明オリーブ灰	
1306	11h	SK01 B	020809	美濃陶器	丸碗	登 3or4 小期		残 3.9	5.2		灰軸	灰軸、下半露胎	2.5Y8/2 灰白	5Y7/3 浅黄	
1307	11h	SK01 B	020809	瀬戸陶器	丸碗	登 2 小期		残 3.7	5.2		灰軸に緑釉の絵	灰軸に緑釉の絵、下半露胎	2.5Y8/2 灰白	5Y8/2 灰白	
1308	12h	SK01	020613	瀬戸美濃陶器	丸碗	登 3 小期		残 2.5	4.4		灰軸	灰軸、下半露胎	7.5YR6/6 橙	7.5Y7/2 灰白	
1309	11h	SK01	020531	瀬戸陶器	丸碗	登 3 小期		残 2.0	5.0		長石軸	露胎、墨書「山」	5Y8/1 灰白	2.5Y8/2 灰白	
1310	11h	SK01・SK47	020806	美濃陶器	碗? 不明	17c		残 1.1	4.2		灰軸	灰軸、下半露胎	5Y7/1 灰白	5Y7/2 灰白	



名古屋城三の丸遺跡 VII

図版番号	グッド	遺構番号	日付	産地・材質	器種	時期	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	内面	外面	胎土(外部)	釉1	備考
1311	11h	SK01 B	020807	肥前陶器	丸碗			残 3.1	4.2		銅緑釉、灰釉	銅緑釉、灰釉、ヘラケズリ、下半露胎	2.5Y8/1 灰白	C80-M40-Y40-BL0	
1312	11h	SK01	020807	肥前陶器	御室茶碗		推 10.2	残 5.6		推 10.6	灰釉	灰釉呉須絵	2.5Y8/2 灰白	7.5YR5/4 にぶい褐	
1313	11h	SK01	020531	肥前陶器	御室茶碗		推 9.8	残 4.5		推 10.0	灰釉	灰釉呉須絵	10YR8/2 灰白	2.5Y7/4 浅黄	
1314	11h	SK01 B	020807	肥前陶器	丸碗		推 9.6	残 5.8		推 10.0	灰釉	灰釉呉須絵?	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/4 浅黄	
1315	11i	SK01	020531	瀬戸美濃陶器	染付丸碗	登 5 小期	推 10.8	6.7	5.8	推 11.2	灰釉	灰釉呉須絵、高台端部露胎、重ね焼き痕、回転ヘラケズリ	10YR7/1 灰白	7.5Y7/2 灰白	
1316	11h	SK01	020531	肥前陶器	丸碗		推 12.8	残 5.3		推 15.8	灰釉	灰釉	2.5Y8/1 灰白	5Y7/3 浅黄	
1317	11g	SK01	020814	肥前陶器	丸碗		推 9.6	残 4.8		推 10.0	灰釉	灰釉呉須絵?	2.5Y8/2 灰白	2.5Y6/3 にぶい黄	
1318	11h, 11i	SK01 B	020806	肥前陶器	丸碗?		推 9.6	6.8	5.1	推 10.0	灰釉	灰釉、高台端部露胎、重ね焼き痕	2.5Y8/2 灰白	2.5Y7/4 浅黄	
1319	11h	SK01 B	020807	肥前?陶器	京焼写丸碗	17c 末 ~ 18c 初		残 2.6	推 4.8		灰釉	灰釉、重ね焼き痕	10YR8/2 灰白	10YR7/4 にぶい黄橙	肥前(ピ) 京焼写 肥(白)
1320	11i	SK01	020806	肥前陶器	丸碗			残 2.3	推 5.4		灰釉	灰釉、下半露胎、印刻	10YR8/2 灰白	2.5Y7/3 浅黄	
1321	11i	SK01 ベルト	020802	軟質施釉陶器	碗か?			残 2.4	推 6.4		透明鉛釉、貫入あり	透明鉛釉、貫入あり、高台端部露胎	2.5Y8/1 灰白	5Y8/2 灰白	
1322	11i	SK01 ベルト	020803	肥前陶器	丸碗			残 3.1	6.2		灰釉	灰釉呉須絵、下半露胎、印刻	2.5Y8/2 灰白	2.5Y6/3 にぶい黄	
1323	11i	SK01 B	020807	肥前陶器	丸碗			残 2.3	5.6		透明釉、白化粧、魚紋と草葉紋は鉄絵	透明釉、白化粧、高台端部露胎	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	
1324	11h	SK01	020531	肥前磁器	丸碗		推 13.4	残 4.9		推 13.5	染付	染付	2.5Y8/1 灰白	C12-M4-Y6-BL0	
1325	11h	SK01	020603	肥前磁器	丸碗			残 2.2	推 4.8		白磁釉	染付、高台端部露胎	5Y8/1 灰白	C6-M0-Y4-BL0	
1326	11h	SK01 B	020807	肥前磁器	白磁丸碗			残 2.2	4.4		白磁釉	白磁釉、高台端部露胎	9/ 白	C4-M0-Y4-BL0	
1327	11h	SK01	020603	中国龍泉窯系?	青磁碗			残 2.5	推 5.2		青磁釉、輪禿げ	青磁釉、下半露胎	5Y7/1 灰白	7.5YR6/2 灰オリーブ	
1328	11i	SK01	020528	中国景德鎮	青花碗	17c 後半		残 2.6	4.8		青花	青花、高台端部露胎	9/ 白	C10-M0-Y4-BL0	
1329	11i	SK01 ベルト	020802	肥前磁器	染付小杯		推 5.4	残 3.1		推 5.5	白磁釉	染付	9/ 白	C4-M0-Y4-BL0	
1330	11i	SK01 ベルト	020803	肥前磁器	染付小杯		推 7.4	残 3.7		推 7.5	白磁釉	染付	9/ 白	C6-M0-Y4-BL0	
1331	11h	SK01	020613	肥前磁器	染付小杯		2.9	1.6	1.6	3.1	白磁釉	染付、高台端部露胎		C4-M0-Y0-BL0	
1332	11h	SK01 B	020808	肥前磁器	染付小杯		5.0	3.0	2.2	5.2	白磁釉	染付、高台端部露胎、高台内に圈線1条	9/ 白	C4-M0-Y0-BL0	
1333	11i	SK01	020803	肥前磁器	小杯			残 2.9	2.4		白磁釉、染付	鉄釉、高台端部露胎、高台内白磁釉	9/ 白	5YR3/4 暗赤褐	
1334	11g	SK01	020813	肥前磁器	染付小杯		推 7.4	残 4.7		推 7.6	白磁釉	染付	9/ 白	C4-M0-Y4-BL0	
1335	11i, h	SK01	020610	肥前磁器	染付小杯		推 8.6	5.0	推 3.6	推 8.8	染付	染付、高台端部露胎	5Y8/1 灰白	C4-M0-Y6-BL0	
1336	11i	SK01	020530	美濃陶器	不明	登 8 小期		残 4.2	4.2		鉄釉、錆釉	鉄釉、錆釉、高台端部露胎	5Y7/2 灰白	7.5YR5/3 にぶい褐	
1337	11i	SK01 ベルト	020802	美濃陶器	志野丸皿	登 3 小期	11.3	2.4	6.5	11.5	長石釉、タール付着、ピン痕3ヶ残、ヘラケズリ、スス付着	長石釉、タール付着、トチン痕3ヶ残、ヘラケズリ、スス付着	2.5Y4/1 黄灰	2.5Y6/2 灰黄	
1338	11i	SK01	020528	美濃陶器	志野丸皿	登 2 小期	推 11.6	2.1	推 6.8	推 11.8	長石釉、ピン痕1ヶ残	長石釉、ヘラケズリ、トチン痕1ヶ残	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/1 灰白	
1339	11i	SK01	020806	美濃陶器	志野丸皿	登 2 小期	推 10.6	2.1	推 6.6	推 11.0	長石釉、ピン痕1ヶ残	長石釉、ヘラケズリ、トチン痕2ヶ残	10YR8/3 浅黄橙	2.5Y8/2 灰白	
1340	11h	SK01	020603	美濃陶器	志野菊皿	登 3or4 小期	推 12.8	3.1	推 7.4	推 13.0	長石釉	長石釉、下半露胎、ヘラケズリ	10YR8/3 浅黄橙	2.5Y8/3 浅黄	
1341	11i	SK01	020807	美濃陶器	皿	登 3or4 小期	推 13.4	2.8	推 6.8	推 13.6	灰釉、重ね焼き痕	灰釉、下半露胎、ヘラケズリ	2.5Y 7/2 灰白	5Y7/3 浅黄	
1342	11h	SK01 B 下層	020808	美濃陶器	丸皿	登 5 小期	推 12.0	2.7	推 6.6	推 12.2	灰釉、重ね焼き痕	灰釉、下半露胎、ヘラケズリ	10YR8/2 灰白	5Y6/2 灰オリーブ	
1343	11h	SK01 B	020809	産地不明陶器	皿		推 11.4	残 2.9		推 11.6	灰釉	灰釉	2.5Y6/1 黄灰	7.5Y7/1 灰白	瀬戸美濃ではない
1344	11h	SK01	020604	肥前系陶器	平碗	17c 後半 ~ 18c 初	推 13.8	残 3.3		推 14.0	灰釉鉄絵、白濁	灰釉、下半露胎	2.5Y6/2 灰黄	2.5Y6/3 にぶい黄	
1345	11h	SK01 B	020807	美濃陶器	型打皿	登 3or4 小期		3.0	推 5.4		灰釉	灰釉、下半露胎	2.5Y7/1 灰白	2.5GY7/1 明オリーブ灰	
1346	11h	SK01	020613	中国磁器?	青花皿			残 1.5	推 6.6		青花	青花、高台端部露胎	5Y8/1 灰白	C16-M4-Y10-BL0	
1347	11h	SK01 B 下層	020808	肥前磁器	染付皿	17c 後半		残 2.0	推 5.6		染付	白磁釉、高台端部露胎	5Y8/1 灰白	7.5Y7/1 灰白	
1348	11i	SK01 ベルト	020803	肥前磁器	染付皿		推 20.6	残 3.5		推 20.8	染付	染付	5Y8/1 灰白	C12-M4-Y8-BL0	
1349	11i	SK01	020530	美濃陶器	御深井鉢	登 2 小期		残 4.4			灰釉、柳描文状	灰釉	2.5Y7/1 灰白	7.5Y7/2 灰白	
1350	11h	SK01	020611	美濃陶器	鉢	登 2 小期		残 3.1			長石釉鉄絵	長石釉	7.5YR5/6 明褐、10YR8/2 灰白	2.5Y8/3 浅黄	
1351	11i	SK01	020530	美濃陶器	織部向付	登 1 小期		残 3.7			銅緑釉、布目あり	銅緑釉、長石釉鉄絵	2.5Y8/2 灰白	C80-M60-Y100-BL10	
1352	11i	SK01	020806	美濃陶器	織部向付	登 1 小期		残 5.7			長石釉、布目	長石釉鉄絵	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/3 浅黄	
1353	11h, 11i	SK01 B	020807	美濃陶器	笠原鉢	登 3or4 小期	推 36.6	残 8.1		推 37.6	灰釉鉄絵に銅緑釉散らし、トチン痕	灰釉	2.5Y6/1 黄灰	5Y6/1 灰	
1354	11h	SK01	020613	美濃陶器	笠原鉢	登 3or4 小期	推 30.6	残 4.1		推 31.3	長石釉鉄釉に銅緑釉散らし	長石釉	2.5Y8/4 淡黄	2.5Y7/4 浅黄	
1355	11i	SK01	020528	美濃陶器	笠原鉢	登 1or2 小期	推 26.6	5.1	推 15.8	推 27.0	灰釉鉄絵、トチン痕	灰釉、重ね焼き痕	2.5Y7/3 浅黄	5Y7/3 浅黄	
1356	11h	SK01 B 下層	020808	美濃陶器	平鉢	登 1or2 小期		残 3.2	推 15.0		長石釉	長石釉、高台端部露胎	2.5Y8/2 灰白	2.5Y7/2 灰黄	

遺物一覧表

図版番号	グランド	遺構番号	日付	産地・材質	器種	時期	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	内面	外面	胎土(外部)	釉1	備考
1357	11h	SK01	020611	瀬戸陶器	平鉢	登 1or2 小期		残 4.1	推 16.8		長石釉鉄絵に銅緑 釉散らし	長石釉、高台内一 部露胎	7.5YR5/6 明褐 2.5Y8/2 灰白	2.5Y7/2 灰黄	
1358	11i	SK01	020806	美濃陶器	壺	登 5or6 小期		残 3.2	推 8.4		筋釉	筋釉、下半露胎	2.5Y8/2 灰白	2.5Y5/6 黄褐	
1359	11i	SK01	020530	美濃陶器	香炉	登 3or4 小期	推 11.2	6.9	推 8.2	推 11.6	灰釉、下半露胎	灰釉、下半露胎、 ヘラケズリ?	10YR8/3 浅黄橙	2.5Y6/6 明黄褐	
1360	11h	SK01 B	020807	美濃陶器	鉢	?	推 44.0	残 5.1		推 44.5	灰釉	灰釉	2.5Y7/2 灰黄	7.5Y6/2 灰オリーブ	
1361	11i	SK01	020528	瀬戸陶器	楕鉢	登 1or2 小期	推 29.2	残 4.4		推 30.0	錆釉、柳目1単 位残	錆釉	10YR8/4 浅黄橙	5YR2/1 黒褐	
1362	12i	SK01	020531	瀬戸陶器	楕鉢	登 5 小 期	推 30.6	残 7.4		推 31.2	錆釉、柳目1単 位残	錆釉	10YR8/3 浅黄橙	5YR3/3 暗赤褐	
1363	11h	SK01, SK47	020806	瀬戸陶器	楕鉢	登 4or5 小期		残 5.7			鉄釉	鉄釉	2.5Y5/1 黄灰	7.5YR3/3 暗褐	
1364	11h	SK01 B	020808	美濃陶器	わり鉢	登 5 ~ 7 小期	推 27.8	残 7.3		推 28.3	灰釉	灰釉	10YR6/1 褐灰	5Y6/2 灰オリーブ	
1365	11h	SK01 B	020808	肥前磁器	青磁大皿	17c 中		残 1.7	推 14.8		青磁釉	青磁釉、高台内錆 釉	2.5Y8/1 灰白	7.5CY7/1 明緑灰	波佐見
1366	11h	SK01	020531	美濃陶器	向付	登 3or4 小期	推 14.2	3.2	8.2	推 14.4	灰釉呉須絵	灰釉、下半露胎	5Y8/1 灰白	7.5Y7/2 灰 白	
1367	11h	SK01 B	020807	瀬戸陶器	煙硝桶	登 4 小 期	推 13.4	残 4.3		推 14.8	鉄釉、うすい錆 釉	鉄釉	2.5Y8/2 灰白	5YR2/1 黒褐	
1368	11h	SK01	020611	瀬戸陶器	広口瓶子	古後	推 12.4	残 5.2			灰釉	灰釉	7.5YR6/4 にぶい橙	2.5Y 5/4 黄褐	
1369	11h	SK01 B	020807	瀬戸陶器	壺	17c		残 3.1	推 11.4		鉄釉	鉄釉、底面うすい 鉄釉、ヘラケズリ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR2/1 黒	
1370	11h	SK01 B	020807	美濃陶器	壺	登 5 ~ 7 小期		残 2.4	推 12.0		うすい鉄釉	うすい鉄釉、ヘラ ケズリ	2.5Y7/2 灰黄	7.5YR3/4 暗褐	
1371	11g	SK01	020814	肥前磁器	碗	1690~ 1750		残 2.7	推 5.8		緑釉、輪充げ	灰釉、下半露胎、 ヘラケズリ	2.5Y7/4 浅黄	2.5Y6/3 にぶい黄	
1372	11i	SK01	020530	中国漳州窯 系磁器	青花大皿			残 2.0			青花	青花	2.5Y7/2 灰黄 7.5YR6/6 橙	10Y 7/1 灰白	
1373	11h	SK01 B	020808	肥前磁器	三島手大皿	18c 前 か?		残 3.7			灰釉、白化粧象嵌	灰釉、下半露胎	10YR4/1 褐灰	7.5Y4/3 暗オリーブ	
1374	11i	SK01	020530	産地不明陶 器	徳利?			残 2.6	推 18.0		露胎	自然釉	5YR6/3 にぶい橙、 10YR4/1 褐灰	7.5YR3/3 暗赤褐	
1375	11h	SK01 B 下層	020808	備前陶器	小瓶			残 1.6	推 4.0		露胎	自然釉、回転糸切 痕	10R4/2 灰赤	10R3/3 暗赤褐	
1376	12h	SK01	020613	肥前磁器	白磁不明 (小瓶?)			残 3.0		推 3.6	露胎	白磁釉	9/ 白	C4-M0-Y4- BLO	
1377	11h	SK01	020531	肥前磁器	白磁鉢		推 19.8	残 5.5		推 19.8	白磁釉	白磁釉	2.5Y8/1 灰白	C6-M4-Y6- BLO	
1378	11i	SK01	020806	肥前磁器	青磁大皿		推 22.0	残 4.3		推 22.2	青磁釉、片切彫運 弁紋	青磁釉	5Y8/1 灰白	10Y7/2 灰白	
1379	11h	SK01, SK47	020806	土師器	ロクロ調整 皿		推 11.5	2.4	6.0	推 11.8	ヨコナデ、わずか にタール付着	ヨコナデ、回転糸 切痕	7.5YR7/6 橙		
1380	11h	SK01	020613	土師器	ロクロ調整 皿		推 11.0	2.3	推 6.4	推 11.2	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸 切痕	10YR7/4 にぶい黄橙		
1381	11g	SK01	020617	土師器	ロクロ調整 皿		推 15.8	3.3	推 9.3	推 16.0	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸 切痕	7.5YR6/6 橙		
1382	11g	SK01	020617	土師器	ロクロ調整 皿			残 2.8	推 8.8		ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸 切痕	5YR6/8 橙		
1383	11g	SK01	020617	土師器	ロクロ調整 皿			残 2.8	推 8.6		ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸 切痕	5YR6/8 橙		
1384	11g	SK01	020617	土師器	ロクロ調整 皿			残 2.2	推 8.2		ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸 切痕	7.5YR6/6 橙		
1385	12h	SK01	020613	土師器	焙烙			残 3.8			ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、指オサ エ	10YR5/2 灰黄褐		
1386	11h	SK01, SK47	020806	土師器	半球形内耳 鍋		推 24.0	残 2.3			ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ	5YR6/6 橙		
1387	12h	SK01	020613	土師器	焼塩壺蓋		推 5.8	1.3		推 6.1	ヨコナデ	指オサエ、ヨコナ デ	7.5YR6/6 橙		
1388	11h	SK01	020531	土師器	焼塩壺身 A 類		推 5.6	残 2.6			ヨコナデ	ヨコナデ	2.5YR6/6 橙		
1389	11i	SK01	020610	土師器	焼塩壺身 A 類			残 3.7 (推 4.0)			布目痕	調整不明	5YR7/6 橙		
1390	11i	SK01 A	020807	土師器	焼塩壺身 A 類			残 4.0 (推 3.0)			布目痕	調整不明	2.5YR6/6 橙		
1391	11h	SK01	020611	瓦器	甌		残長 3.5	残幅 5.5		残厚 1.7	磨減する		2.5Y5/1 黄灰		
1392	11i	SK01	020530	常滑陶器	赤物甕	17c末 ~18c初		残 5.7			ヨコナデ	ヨコナデ	5YR6/6 橙		
1393	11h	SK01	020531	常滑陶器	赤物甕	18c 後		残 6.2			ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR7/6 橙		
1394	11h, 11i	SK01	020528	常滑陶器	赤物甕	17c		残 9.7			ヨコナデ	ヨコナデ	5YR6/6 橙		
1395	11h	SK01 B 下層	020808	常滑陶器	赤物甕	18c 後		残 10.9			ヨコナデ	ヨコナデ	10YR8/3 浅 黄橙		
1396	11i	SK01	020530	常滑陶器	赤物火鉢		推 18.8	7.4	推 15.8	推 20.2	ヨコナデ、スス付 着	ヨコナデ	5YR4/4 にぶい赤褐		
1397	11i	SK01	020806	常滑陶器	赤物火鉢			残 7.0			ヨコナデ、スス付 着	ヨコナデ、磨減	7.5YR7/6 橙		
1398	11h	SK01	020603	瀬戸陶器	志野皿? (加工丹盤)						長石釉、露胎	長石釉		5Y8/1 灰白	
1399	11i	SK01 ベ ルト	020803	肥前磁器	青磁不明 (加工丹盤)						青磁釉	青磁釉		10GY7/1 明緑灰	
1400	12h	SK01	020613	瀬戸美濃陶 器	御室茶碗	登 5or6 小期		残 0.8			灰釉	露胎、刻印あり	2.5Y8/3 淡黄	2.5Y8/2 灰白	
1401	11h	SK01	020807	銅製品	銭貨(元豊 通宝)					2.5					3枚重複
1402	12h	SK01	020613	鉄製品	釘		残長 6.6	幅 2.8	厚 1.4						
1403	12h	SK01	020613	鉄製品	釘		残長 5.6	幅 1.3	厚 1.2						
1404	12h	SK01	020613	鉄製品	釘		残長 3.8	幅 1.2	厚 0.7						
1405	12h	SK01	020613	鉄製品	釘		長 6.1	幅 1.9	厚 1.9						
1406	11i	SK01	020530	鉄製品	不明		長 5.8	幅 3.9	厚 1.4						
1407	12h	SK01	020613	鉛	不明		残長 4.2	幅 0.5	厚 0.4						
1408		SK01 B 下層		木製品	楔		長 19.5	幅 4.1	厚 2.7			割裂、ノミ痕			

名古屋城三の丸遺跡 VII

図版番号	グッド	遺構番号	日付	産地・材質	器種	時期	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	内面	外面	胎土(外部)	軸1	備考
1409	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	楔		長 18.6	幅 3.0	厚 3.2			割裂、ノミ痕			
1410		SK01 B 下層		木製品	楔		長 18.0	幅 3.2	厚 3.3			割裂、ノミ痕			
1411		SK01 B 下層		木製品	楔		長 17.3	幅 4.1	厚 2.7			割裂、ノミ痕			
1412	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	楔		長 17.1	残幅 4.0	残厚 3.7			割裂、ノミ痕			
1413	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	楔		長 17.2	幅 2.7	厚 2.7			割裂、ノミ痕			
1414	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	楔		長 16.8	幅 2.8	厚 3.5			割裂、ノミ痕			
1415	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	楔		長 16.5	幅 2.7	厚 2.9			割裂、ノミ痕			
1416	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	楔		長 15.3	幅 3.2	厚 2.6			割裂、ノミ痕			
1417	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	楔		長 15.2	幅 3.0	厚 2.6			割裂、ノミ痕			
1418	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	楔		長 14.3	幅 5.7	厚 1.7			割裂、ノミ痕			
1419		SK01 B 下層		木製品	楔		長 13.6	幅 2.5	厚 2.3			割裂、ノミ痕			
1420		SK01 B 下層		木製品	楔		長 12.6	幅 2.2	厚 1.5			割裂、ノミ痕			
1421	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	楔		長 7.6	幅 4.3	厚 1.3			割裂、ノミ痕			
1422	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	結桶底板		長 20.5	幅 3.3	厚 1.0			不明(台カンナ?)			
1423	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	結桶底板		長 23.2	幅 6.2	厚 1.4			不明(台カンナ?)			
1424	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	結桶側板		長 24.0	幅 5.2	厚 1.0		側面台カンナ	不明(台カンナ?)			
1425		SK01 B 下層		木製品	木屑		長 11.8	幅 6.5	厚 1.0			ノミ?			
1426	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	木屑		長 7.2	幅 6.8	厚 1.5			ノミ?			
1427	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	木屑		長 5.9	幅 5.0	厚 1.5			ノミ?			
1428	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	カンナ屑		残長 12.4	残幅 2.9	—			台カンナ			厚め
1429	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	カンナ屑		残長 11.9	残幅 1.6	—			台カンナ			薄め
1430		SK01 B 下層		木製品	建築部材片		長 13.9	幅 6.1	厚 2.7			ノコギリのち台カンナ			
1431	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	建築部材片		長 9.4	幅 4.7	厚 4.4			台カンナ			
1432	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	建築部材片		残長 12.9	幅 3.5	厚 1.2			ノコギリ			
1433	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	建築部材片		長 15.1	幅 2.8	厚 0.7			割裂のちヤリガンナ			
1434		SK01 B 下層		木製品	建築部材片		残長 13.1	幅 3.5	厚 1.1			線刻、裏はノコギリ			
1435	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	建築部材片		長 11.3	幅 3.5	厚 1.3			割裂のち台カンナ			
1436	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	建築部材片		長 6.5	幅 4.9	厚 3.2			不明			
1437	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	建築部材片		長 9.8	幅 5.0	厚 2.2			背・側面ノコギリ			
1438	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	建築部材片		残長 26.7	幅 3.8	厚 2.3			片面ノコギリ、片面ヤリガンナかノミ			
1439	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	建築部材片		長 18.7	幅 5.8	厚 3.6			ノコギリ、ノミ			
1440	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	建築部材片		残長 22.0	幅 2.1	厚 1.9			不明			
1441		SK01 B 下層		木製品	建築部材片		長 20.5	幅 3.5	厚 1.1			ノコギリのち台カンナ			
1442	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	建築部材片		残長 17.8	幅 3.9	厚 1.6			不明			
1443	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	建築部材片		残長 13.3	幅 2.5	厚 3.4			不明(ノコギリ?)			
1444	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	建築部材片		残長 26.5	幅 4.3	厚 3.3			不明			
1445	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	建築部材片		残長 27.2	幅 3.4	厚 1.7			ケズリ、裏面割裂			
1446	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	建築部材片		残長 27.0	幅 3.7	厚 2.1			ノコギリ			
1447	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	建築部材片		残長 30.0	幅 5.7	厚 1.3			表ケズリ、裏ノコギリ			
1448	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	建築部材片		長 32.7	幅 2.7	厚 0.8			表ケズリ、裏ノコギリ			
1449	11h	SK01 B 下層	020807	木製品	建築部材片		長 32.6	幅 3.4	厚 1.3			不明			
1450	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	建築部材片		長 34.4	幅 3.7	厚 1.9			ノコギリ			
1451	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	建築部材片		長 32.7	幅 4.5	厚 3.3			ケズリ			
1452	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	建築部材片		長 39.6	幅 4.0	厚 2.5			側面ノコギリ			
1453	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	建築部材片		長 45.0	幅 4.8	厚 5.8			ノコギリ?			
1454		SK01 B 下層		木製品	建築部材片		長 54.4	幅 3.6	厚 2.5			ノコギリ			
1455	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	建築部材片		残長 59.7	幅 3.0	厚 2.6			ノコギリ			
1456	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	建築部材片		残長 30.4	幅 4.6	厚 3.4			ノコギリ			
1457	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	建築部材片		長 24.7	幅 6.7	厚 5.6			ノコギリ			

遺物一覧表

図版番号	グランド	遺構番号	日付	産地・材質	器種	時期	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	内面	外面	胎土(外部)	軸I	備考
1458	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	建築部材片		残長 25.2	幅3.7	厚2.1			不明(ノコギリ?)			
1459	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	建築部材片		長23.7	幅3.1	厚2.3			不明(割裂?)			
1460	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	建築部材片		長19.4	幅3.8	厚1.9			不明(ノコギリ?)			
1461	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	建築部材片		長18.9	幅3.6	厚1.7			不明(ノコギリ?)			
1462	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	建築部材片		長18.3	幅6.6	厚1.1			ケズリ			
1463	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	建築部材片		長19.0	幅9.3	厚1.1			ケズリ			
1464	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	建築部材片		残長 26.0	幅8.0	厚0.4			ノコギリまたは割裂			
1465	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	建築部材片		長29.3	幅6.8	厚0.3			割裂			
1466	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	建築部材片		長35.5	幅7.1	厚0.4			割裂			
1467		SK01 B 下層		木製品	建築部材片		長20.7	幅5.8	厚0.5			割裂			
1468		SK01 B 下層		木製品	建築部材片		長15.5	幅5.9	厚1.0			割裂			
1469	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	建築部材片		長22.1	幅5.7	厚0.6			不明(割裂?)			
1470	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	建築部材片		残長 24.8	幅7.0	厚0.2			不明(割裂?)			
1471	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	建築部材片		残長 26.3	幅4.4	厚0.5			ノコギリ			
1472		SK01 B 下層		木製品	建築部材片		長15.4	幅9.0	厚5.2			ノコギリ			
1473	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	建築部材片		長5.1	幅4.7	厚3.2			ノコギリ			
1474	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	建築部材片		長8.3	幅5.5	厚3.7			ノコギリ			
1475	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	建築部材片		長13.1	幅9.5	厚3.4			割裂			
1476	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	建築部材片		残長 23.2	幅7.4	厚6.7			ノコギリ			
1477	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	建築部材片		長36.5	幅6.6	厚0.6			割裂			
1478	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	建築部材片		残長 37.2	幅6.2	厚0.8			ノコギリ、割裂			
1479	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	建築部材片		長32.7	幅5.2	厚0.4			ノコギリ			
1480	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	建築部材片		長30.2	幅5.9	厚0.7			割裂			
1481	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	建築部材片		残長 30.4	幅11.2	厚0.4			表ノコギリ、裏割裂			
1482	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	建築部材片		長35.1	幅8.2	厚0.4			割裂			
1483	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	建築部材片		長40.7	幅15.1	厚0.7			ノコギリ			
1484	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	建築部材片		長46.5	幅8.3	厚1.2			割裂、ノコギリ			
1485	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	建築部材片		長48.8	幅6.7	厚0.6			割裂			
1486	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	建築部材片		長12.3	幅8.3	厚0.4			割裂			
1487	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	建築部材片		長15.7	幅6.2	厚0.6			割裂			
1488	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	建築部材片		長20.3	幅9.6	厚0.7			不明(ノコギリ?)			
1489	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	建築部材片		長22.2	幅9.8	厚0.3			ノコギリのち台カンナ			
1490	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	建築部材片		長21.9	幅5.2	厚0.3			割裂			
1491	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	建築部材片		長28.0	幅4.5	厚1.2			表台カンナ、裏割裂			
1492	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	建築部材片		長23.3	幅8.7	厚1.2			不明(ケズリ?)			
1493		SK01 B 下層		木製品	建築部材片		長21.6	幅7.8	厚1.2			不明(ケズリ?)			
1494		SK01 B 下層		木製品	建築部材片		長17.8	幅7.9	厚1.1			不明(ケズリ?)			
1495	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	建築部材片		長13.4	幅5.9	厚1.7			不明(ノコギリ?)			
1496		SK01 B 下層		木製品	建築部材片		長28.1	幅8.5	厚1.8			ノコギリ			
1497	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	建築部材片		長27.8	幅11.2	厚1.6			ノコギリ			
1498		SK01 B 下層		木製品	建築部材片		残長 30.6	幅17.0	厚1.2			ノコギリ			
1499	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	建築部材片		残長 21.8	幅5.1	厚1.2			不明			
1500	11h	SK01 B 下層	020808	木製品	不明(板材)		残長8.9	幅3.3	厚0.3			ノコギリ			
1501	11h	SK01 B 下層	020808	繊維製品	紐		残長4.7	幅0.7	厚0.2			—			
1502	11h	SK01 B 下層	020808	繊維製品	紐		残長6.4	幅0.9	厚0.2			—			
1503	12i	SK01	020531	凝灰岩	砥石		残長5.1	幅3.4	厚1.8			磨減			
1504	11h	SK01	020604	凝灰質泥岩	砥石		残長5.2	幅4.5	厚1.6			磨減			
1505	12i	SK01	020531	凝灰質泥岩	砥石		残長5.1	幅4.1	厚2.9			磨減			
1506	11i	SK01	020806	凝灰質泥岩	砥石		残長4.6	幅3.5	厚0.9			磨減			
1507	11h	SK01 B 下層	020808	凝灰岩	切石(建築部材片)		残長 20.3	幅21.6	厚8.2			ノミ			
1508	11h	SK01 B 下層	020809	凝灰質砂岩	切石(建築部材片)		残長 18.3	幅18.1	厚10.1			ノミ			

名古屋城三の丸遺跡 VII

図版番号	グッド	遺構番号	日付	産地・材質	器種	時期	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	内面	外面	胎土(外部)	軸1	備考
1509	11h	SK01 B下層	020809	凝灰質砂岩	切石(建築部材片)		残長15.4	幅18.1	厚10.5			ノミ			
1510	11h	SK01	020611	凝灰質砂岩	切石(建築部材片)		長40.1	幅30.0	厚8.6			ノミ			
1511	11h	SK01 B下層	020809	凝灰質砂岩	切石(建築部材片)		残長30.1	幅14.1	厚10.8			ノミ			
1512	11h	SK01 B下層	020808	凝灰岩	切石(建築部材片)		残長25.6	幅20.7	厚9.2			ノミ			
1513	14f	SX09	020920	凝灰岩	切石(建築部材片)		残長32.0	幅25.5	厚11.5			ノミ			
1514	14e	SX09	020920	凝灰岩	切石(建築部材片)		残長41.8	幅22.7	厚10.6			ノミ			
1515	11h	SK47	020618	凝灰岩	切石(建築部材片)		長24.9	残幅18.7	厚15.1			ノミ			
1516	10c	SK64	020703	凝灰質砂岩	切石(建築部材片)		残長27.5	幅26.3	厚7.2			不明			
1517	11d	SK105	020621	肥前磁器	青磁丸碗		推10.4	残5.6		推10.6	青磁軸	青磁軸	2.5Y8/1 灰白	10GY7/1 明緑灰	
1518	11d	SK105	020621	美濃陶器	皿	登4小期	14.0	3.3	7.8	14.4	灰軸、ビン痕3ヶ残	灰軸、高台内露胎軸拭き取り、回転ヘラケズリ、トチン痕3ヶ残	2.5Y7/3 浅黄	5Y7/3 浅黄	
1519		SX02 南東肩口	020619	肥前磁器	染付丸碗	18c 中～後	推10.3	5.5	4.2	推10.4	白磁軸	染付、高台端部露胎	N8/ 灰白	C20-M10-Y16-BL0	
1520		SX02 南東	020620	肥前磁器	染付丸碗		推10.6	残4.5		推10.7	白磁軸	染付	N8/ 灰白	C16-M6-Y10-BL0	波佐見
1521		SX02 北東	020621	肥前磁器	染付丸碗		推10.4	残3.6		推10.6	染付	染付	9/ 白	C16-M4-Y6-BL0	
1522	—	SX02 南西	020624	肥前磁器	染付丸碗		残3.5	推4.4		染付	染付	染付、高台端部露胎	C0-M0-Y4-BL4	C6-M0-Y4-BL4	
1523	—	SX02 南東	020620	肥前磁器	染付小杯		推8.6	残2.4		推8.8	染付	染付	9/ 白	C6-M0-Y8-BL4	
1524	9c, 8c	SX02 床1層	020816	瀬戸美濃陶器	丸碗	登1or2小期	残3.5	推4.8		鉄軸	鉄軸、高台端部露胎軸拭き取り	10YR8/3 浅黄橙	2.5Y4/4 浅黄橙		
1525	—	SX02 南西	020624	肥前陶器	碗		推11.6	残5.4		推11.8	灰軸(透明軸)	灰軸(透明軸)	10YR7/3 にふい黄橙	10YR5/3 にふい黄橙	瀬戸美濃ではない
1526	—	SX02 南西	020624	瀬戸美濃陶器	小碗	登5or6小期	残2.5	推4.8		灰軸	灰軸、高台端部露胎	2.5Y7/1 灰白	7.5Y7/1 灰白		
1527	—	SX02 南東	020620	肥前陶器	小碗		推7.0	4.2	推3.7	推7.2	灰軸	灰軸、下半露胎	2.5Y8/3 淡黄N6/ 灰	10Y6/2 オリーブ灰	瀬戸美濃ではない
1528	—	SX02 北西	020625	肥前磁器	染付皿		推13.4	残2.0		推13.8	染付	染付	9/ 白	C12-M0-Y8-BL4	
1529		SX02 北西	020626	瀬戸美濃陶器	志野腰折皿	登1小期	推14.3	3.2	推7.6	推14.5	長石軸、ビン痕1ヶ残	長石軸、高台端部露胎	2.5Y8/2 灰白	2.5Y7/2 灰黄	
1530	8c	SX02 北東	020621	瀬戸美濃陶器	志野皿	登1～3小期	残1.4	推8.2		長石軸	長石軸、高台内露胎軸拭き取り、回転ヘラケズリ	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/2 灰白		
1531	—	SX02 南西	020624	中国景德鎮窯系	青花輪花鉢		残4.1			青花	青花	9/ 白	C8-M0-Y4-BL4		
1532	8a	SX02 北東	020621	美濃陶器	中皿	登7or8小期	推21.8	3.9	推11.8	推22.0	鉄軸	鉄軸、高台端部露胎	2.5Y8/3 淡黄	5YR4/4 にふい赤褐	
1533	8a	SX02 北東	020621	美濃陶器	鉢	登1～4小期	残3.8	推16.8		灰軸呉須絵	灰軸、下半露胎	5Y7/1 灰白	7.5Y7/2 灰白		
1534	—	SX02 南西	020624	美濃陶器	笠原鉢	登3or4小期	残5.5			長石軸に銅緑軸流し	長石軸、ヘラケズリ	5Y8/2 灰白	5Y7/1 灰白		
1535	9c	SX02 清掃	020812	瀬戸陶器	鉢	登1～3小期	残3.3			灰軸に銅緑軸流し	灰軸、重ね焼き痕	2.5Y8/2 灰白	2.5Y 7/3 白灰		
1536		SX02 北東	020621	美濃陶器	笠原鉢	登1or2小期	推40.8	残5.2		推42.0	長石軸鉄絵	長石軸	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/3 淡黄	
1537	—	SX02 北東下層	020621	瀬戸陶器	掃鉢	登6小期	推36.6	残5.2		推37.2	鉄軸	鉄軸	2.5Y 7/2 灰白	7.5YR3/3 暗褐	
1538	—	SX02 南東肩口	020619	常滑陶器	真焼甕		推39.0	残6.5		推40.6	ヨコナデ、自然軸	ヨコナデ、ハケ、自然軸	7.5YR7/1 明褐灰	5Y8/1 オリーブ黄	
1539	—	SX02	020913	常滑陶器	真焼火鉢		推17.2	残6.6	推10.6	推18.6	ヨコナデ、スス付箱、大きく歪む	ヨコナデ、脚1ヶ残、静止ヘラケズリ、自然軸	N6/ 灰、2.5YR6/6 橙	10YR3/2 黒褐	
1540		SX02 南	020621	土師器	焼壺身A類		残3.6	推5.4		布目痕	調整不明	5YR6/4 にふい橙			
1541	8b	SX02 西	0208-	美濃陶器	藁茶入	登1or2小期	推8.8	残2.7		推10.0	鉄軸	口縁部露胎軸拭き取り、鉄軸に灰軸流し	7.5Y7/1 灰白	5YR4/4 にふい赤褐	
1542	—	SX02 南東	020619	瀬戸陶器	火鉢?	大か?	残4.4			錆軸		10YR8/4 浅黄橙	10R3/2 暗赤褐		
1543	8a	SX02 北東	020621	常滑陶器	赤物甕		残12.4			ヨコナデ、うすく白色付着物、指オサエ	ヨコナデ、うすく白色付着物	5YR6/6 橙			
1544	—	SX02 南西	020624	常滑陶器	赤物火鉢か		残7.0			ヨコナデ、スス付箱	ヨコナデ	7.5Y8/3 浅黄橙			
1545	—	SX02 北西	020615	木製品	杭		長40.5	幅12.1	厚12.3			ケズリ			池埋没後設置
1546	—	SX02 北西	020615	木製品	杭		長20.4	幅10.1	厚9.8			ケズリ			池埋没後設置
1547	—	SX02 北西	020625	木製品	杭		長32.5	幅9.3	厚7.4			ケズリ			池埋没後設置
1548	8c	SX02 北東	020621	木製品	板材		長43.1	幅9.3	厚2.0			不明(割裂?)			
1549	8c	SX02 北東	020621	木製品	板材		長23.3	幅3.9	厚0.9			不明(ケズリ?)			
1550	—	SX02	020813	砂岩	墨書石材		残長14.5	幅14.7	厚7.1			墨書「十」			
1551	13a	SD01 2層	020529	肥前磁器	染付丸碗	18c 前半	推10.2	5.1	推4.2	推10.4	白磁軸	染付、高台端部露胎	9/ 白	C6-M0-Y4-BL4	有田
1552	13a	SD01	020531	肥前磁器	染付丸碗	18c 前半	10.9	5.6	4.5	11.0	白磁軸、蛇の目軸ほぎ	染付、高台端部露胎	5Y8/1 灰白	C6-M6-Y10-BL0	波佐見
1553	12b	SD01 掘形外	020604	肥前磁器	上絵付丸碗	1670～1690	推11.0	6.2	推4.4	推11.1	白磁軸	白磁、上絵付、高台端部露胎	9/ 白	C0-M0-Y6-BL4	
1554	13a	SD01 清掃	020521	肥前磁器	染付丸碗		残4.1	推3.5		白磁軸	染付、高台端部露胎	N8/ 灰白	C12-M4-Y10-BL0	波佐見	
1555	13a	SD01 1層	020527	中国磁器	青花碗		残3.0	4.4		青花	青花、高台端部露胎	9/ 白	C16-M4-Y6-BL0		



遺物一覧表

図版番号	グランド	遺構番号	日付	産地・材質	器種	時期	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	内面	外面	胎土(外部)	釉1	備考
1556	13a	SD01 裏込め	020531	肥前陶器	鉄軸丸碗		推 9.6	残 4.2		推 9.7	鉄軸	鉄軸	2.5Y8/2 灰白	2.5Y2/1 黒	瀬戸美濃ではない
1557	13b	SD01 裏込め	020530	瀬戸美濃陶器	天目茶碗か丸碗	登 3or4 小期		残 2.5	推 5.7		鉄軸に灰軸流し	鉄軸、下半露胎、回転ヘラケズリ	2.5Y7/2 灰黄	7.5YR3/4 暗褐	
1558	13b	SD01 石組中	020524	中国磁器	青花小杯		推 6.2	3.3	推 2.4	推 6.4	青花	青花、高台露胎のみ露胎	9/ 白	C6-M0-Y4-BLO	C16-M4-Y4-BLO
1559	13a	SD01 清掃中	020521	産地不明陶器	碗?		推 13.8	残 3.9		推 14.0	灰軸	灰軸	10YR6/1 褐灰	10Y7/2 灰白	瀬戸美濃ではない
1560	13a	SD01 清掃中	020527	瀬戸美濃陶器	碗	17c	推 15.0	残 3.1		推 15.2	灰軸	灰軸	10YR6/4 にぶい黄橙	7.5Y6/3 灰オリーブ	
1561	13b	SD01 裏込め	020529	産地不明陶器	碗?		推 13.0	残 3.9		推 13.2	灰軸	灰軸	2.5Y6/1 黄灰	10Y6/2 オリーブ灰	瀬戸美濃ではない
1562	12a	SD01 2 層	020524	肥前陶器	小碗		推 6.8	残 3.1		推 7.0	灰軸	灰軸	5Y6/1 灰	7.5Y6/3 灰オリーブ	
1563	13b	SD01 裏込め	020529	瀬戸美濃陶器	碗	登 5or6 小期		残 3.7	推 5.1		灰軸、やや軟質	灰軸、下半露胎	5Y8/1 灰白	5Y7/2 灰白	
1564	13b	SD01 石組中	020722	瀬戸美濃陶器?	平碗	17c	推 13.2	5.1	4.2	推 13.4	長石軸	長石軸、高台露胎、重ね焼き痕、ヘラケズリ	10YR7/4 にぶい黄橙	7.5YR7/3 にぶい橙	
1565	13b	SD01 掘肩	020718	瀬戸美濃陶器	碗	登 5or6 小期	推 14.4	残 3.8		推 14.6	長石軸鉄絵	長石軸、下半露胎	5Y8/1 灰白	5Y7/2 灰白	
1566	13a	SD01 1 層,	020521	美濃陶器	碗	登 5or6 小期	推 12.2	残 6.9		推 12.4	長石軸	長石軸、下半露胎	2.5Y6/1 黄灰	5Y7/2 灰白	銘器写し?
1567	13c	SD01 清掃中	020523	肥前磁器	染付皿		推 14.4	3.7	推 8.6	推 14.6	染付	染付、高台露胎	9/ 白	C6-M0-Y4-BLO	
1568	13a	SD01 清掃中	020529	肥前磁器	染付蓋			残 1.7			染付	染付、高台露胎	9/ 白	C8-M0-Y4-BLO	
1569	13b	SD01 石組中	020722	瀬戸美濃陶器	志野丸皿	登 3 小期	10.8	2.2	6.4	11.0	長石軸、ピン痕 3ヶ残	長石軸、回転ヘラケズリ、トチン痕 3ヶ残	2.5Y8/2 灰白	5Y7/2 灰白	
1570	13b	SD01 石組中	020722	美濃陶器	志野皿?	登 3or4 小期		残 2.1	推 8.4		長石軸	長石軸、高台露胎	5Y7/1 灰白	7.5Y7/1 灰白	
1571	13a	SD01 2 層	020531	瀬戸陶器	播鉢?	登 1 小期		残 3.0			錆軸	錆軸	2.5Y8/2 灰白	10R3/2 暗赤褐	
1572	12d	SD01 2 層	020524	瀬戸陶器	煙硝播鉢	登 5 小期	推 15.4	残 2.9		推 16.4	鉄軸、下半露胎	鉄軸	2.5Y8/2 灰白	2.5Y3/3 暗オリーブ褐	
1573	13b	SD01 裏込め	020529	肥前磁器	青磁皿	II-2 期?	推 19.0	残 3.1		推 19.8	青磁軸	青磁軸	5Y8/1 灰白	2.5GY7/1 明オリーブ灰	
1574	12f	SD01 2 層	020603	土師器	ロクロ調整皿		推 16.3	3.3	推 8.6	推 16.6	ヨコナデ、沈線	ヨコナデ、回転糸切痕	5YR6/8 橙		
1575	12e	SD01 清掃中	020524	土師器	ロクロ調整皿		推 12.8	2.5	6.0	推 13.0	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	5YR6/6 橙		
1576	13a	SD01 1 層	020527	土師器	ロクロ調整皿		推 11.8	2.3	推 6.0	推 12.0	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	5YR6/8 橙		
1577	13a	SD01 1 層	020527	土師器	ロクロ調整皿			残 1.6	5.4		ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	5YR6/6 橙		
1578	13b	SD01 裏込め	020529	土師器	ロクロ調整皿			残 2.2	推 8.4		ヨコナデ、スス付着	ヨコナデ、回転糸切痕、スス付着、火弾状に放射状線	10YR4/2 灰黄褐		
1579	13b	SD01 裏込め	020529	美濃陶器	有耳壺	登 5or6 小期		残 4.1	6.2		鉄軸、うすい錆軸	鉄軸、うすい錆軸、下半露胎、ヘラケズリ	10YR7/3 にぶい黄橙	2.5Y4/3 オリーブ褐	
1580	13b	SD01 裏込め	020530	常滑陶器	火鉢			残 3.3			ヨコナデ	ヨコナデ	10YR7/3 にぶい黄橙	5YR6/6 橙	
1581	13a	SD01 1 層	020527	美濃陶器	内耳鍋	登 7or8 小期	推 14.2	残 3.6			鉄軸、口縁部スス付着	鉄軸、錆軸、口縁部スス付着	10YR7/3 にぶい黄橙	7.5YR3/2 黒褐	
1582	13a, 13b	SD01 裏込め	020524	瀬戸美濃陶器	匣鉢			残 4.3			露胎	自然軸、回転糸切痕、露胎	10YR7/3 にぶい黄橙	2.5Y8/2 灰白	
1583	12e	SD01 1 層	020529	美濃陶器	笠原鉢	登 3or4 小期		残 2.0	推 13.6		長石軸に銅緑軸散らし	長石軸、高台外面露胎、ヘラケズリ	2.5Y8/3 淡黄	2.5Y7/3 浅黄	
1584	13c	SD01 2 層	020527	肥前陶器	大皿?			残 2.5	推 9.0		白化粧、ハケ目、灰軸?	露胎、ヘラケズリ	2.5Y4/1 黄灰	7.5YR4/4 褐	
1585	13b	SD01 石組中	020722	肥前陶器	水指		推 12.6	9.0		推 15.6	灰軸	口縁部磨減、灰軸と鉄軸の流しかけ、他は露胎、回転ヘラケズリ、静止ヘラケズリ	10YR7/4 にぶい黄橙、7.5YR6/4 にぶい橙	10YR3/3 暗褐	
1586	13a	SD01 2 層	020531	瀬戸陶器	播鉢	登 5 小期		残 8.1	16.5~17.0		わずかに磨減、錆軸、播目1単位 4.9cm17本 12単位	ヘラケズリ、錆軸、回転糸切痕	10YR7/3 にぶい黄橙	2.5YR3/1 暗赤灰	
1587	13c	SD01 清掃中	020517	瀬戸陶器	播鉢?	古後?		残 2.0			錆軸	錆軸	10YR8/3 浅黄橙	10R3/1 暗赤灰	
1588	13b	SD01 裏込め	020529	土師器	焙烙			残 3.4			ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、指オサエ、スス付着	7.5YR4/2 灰褐		
1589	13a	SD01 1 層	020527	土師器	焼壺壺身B類	18c 中		残 9.1	5.6	7.0	布目、板ナデ	布目?、刻印「ナニワ浄因」、指オサエ	7.5YR6/6 橙		
1590	13b	SD01 2 層	020524	瓦器?	筒形製品			残 9.0			表面風化する	表面風化する、沈線	N4/ 灰		
1591	13c	SD01 清掃中	020517	瓦器?	筒形製品			残 9.0			表面風化する	表面風化する、沈線	N3/ 暗灰		
1592	12f	SD01 清掃中	020524	常滑陶器	赤物甕			残 12.1	推 19.2		指オサエのちヨコナデ	指オサエ、ハケ、砂目	10YR7/3 にぶい黄橙	7.5Y8/3 浅黄橙	
1593	13a	SD01 1 層	020527	常滑陶器	真焼壺		56.2	63.2	19.6	64.8	指オサエ、ナデ	指オサエ、自然軸、沈線、砂目			やや焼成不良
1594	13c	SD01 1 層	020524	鉄製品	釘		長 9.0	幅 3.0	厚 2.3						
1595	13c	SD01 2 層	020527	鉄製品	釘		長 6.6	幅 2.1	厚 1.4						
1596	12e	SD01 清掃中	020524	鉄製品	釘		残長 6.1	幅 1.6	厚 1.0						
1597	13a	SD01 裏込め	020531	鉄製品	釘		長 6.1	幅 1.4	厚 1.6						
1598	12f	SD01 2 層	020529	鉄製品	釘		残長 5.6	幅 1.7	厚 1.4						
1599	12e	SD01 清掃中	020524	鉄製品	釘		残長 5.6	幅 1.6	厚 1.2						
1600	13a	SD01 1 層	020527	鉄製品	釘		残長 5.3	幅 2.1	厚 0.8						
1601	12e	SD01 清掃中	020524	鉄製品	釘		残長 5.0	幅 1.8	厚 0.9						

名古屋城三の丸遺跡 VII

図版番号	グッド	遺構番号	日付	産地・材質	器種	時期	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	内面	外面	胎土(外部)	釉1	備考
1602	12e	SD01 清掃中	020524	鉄製品	釘		残長 4.9	幅 1.4	厚 1.1						
1603	13d	SD01 裏込め	020530	鉄製品	釘		残長 5.1	幅 2.0	厚 1.9						
1604	12f	SD01 1層	020524	鉄製品	釘		長 5.0	幅 1.0	厚 0.7						
1605	13a	SD01 2層	020531	鉄製品	釘		長 4.8	幅 2.0	厚 0.9						
1606	13a	SD01 裏込め	020531	鉄製品	釘		長 4.6	幅 2.5	厚 1.0						
1607	13d	SD01 2層	020529	鉄製品	釘		残長 4.7	幅 1.8	厚 1.2						
1608	12f	SD01 2層	020529	鉄製品	釘		残長 4.8	幅 1.2	厚 0.9						
1609	13d	SD01 2層	020529	鉄製品	釘		残長 4.2	幅 2.0	厚 1.3						
1610	13a	SD01 1層	020527	鉄製品	釘		長 4.2	幅 0.9	厚 0.9						
1611	12e	SD01 清掃中	020524	鉄製品	釘		残長 3.7	幅 0.9	厚 0.7						
1612	13a	SD01 2層	020531	鉄製品	釘		残長 3.8	幅 0.7	厚 0.6						
1613	12e	SD01 清掃中	020524	鉄製品	釘		長 3.7	残幅 3.1	厚 0.7						
1614	12f	SD01 1層	020524	鉄製品	釘		長 3.8	幅 1.5	厚 0.9						
1615	12e	SD01 清掃中	020524	鉄製品	釘		残長 3.7	幅 1.7	厚 1.7						
1616	12e	SD01 清掃中	020524	鉄製品	釘		残長 3.6	幅 1.1	厚 1.0						
1617	12e	SD01 清掃中	020524	鉄製品	釘		長 3.6	幅 1.2	厚 0.7						
1618	12e	SD01 清掃中	020524	鉄製品	釘		残長 3.3	幅 1.0	厚 1.0						
1619	12f	SD01 2層	020529	鉄製品	釘		残長 3.3	幅 1.5	厚 1.2						
1620	13d	SD01 2層	020529	鉄製品	釘		長 3.4	幅 1.2	厚 0.7						
1621	13a	SD01 1層	020527	鉄製品	釘		残長 3.0	残幅 1.3	厚 0.8						
1622	13d	SD01 2層	020529	鉄製品	釘		長 3.4	幅 1.1	厚 0.9						
1623	13a	SD01 裏込め	020531	鉄製品	釘		長 3.6	幅 0.8	厚 0.6						
1624	12e	SD01 清掃中	020524	鉄製品	釘		長 2.8	幅 1.4	厚 0.9						
1625	12f	SD01 2層	020529	鉄製品	釘		長 2.7	幅 1.8	厚 0.8						
1626	13a	SD01 裏込め	020531	鉄製品	釘		長 2.2	幅 1.5	厚 0.7						
1627	13c	SD01 2層	020527	鉄製品	釘		長 2.0	幅 0.3	厚 0.3						
1628	13a	SD01 裏込め	020531	鉄製品	釘		長 2.2	幅 1.1	厚 0.6						
1629	13a	SD01 1層	020524	銅製品	銭貨					2.5					
1630	13b	SD01 裏込め	020529	凝灰岩	砥石		長 6.1	幅 3.8	厚 1.2						
1631	12a	SD03	020606	肥前磁器	染付丸碗		推 10.0	5.6	3.9	推 10.2	白磁釉	染付、高台端部露胎	9/白	C4-M0-Y4-BL0	
1632	12a	SD03	020603	肥前磁器	染付丸碗		推 11.0	残 4.5		推 11.1	白磁釉	染付	9/白	C8-M4-Y6-BL0	
1633	11a	SD03	020604	美濃陶器	灯明皿	登8小期	推 11.0	残 1.9		推 11.2	鉄釉	鉄釉、うすい筋釉、重ね焼き痕	10YR8/3 浅黄橙	7.5YR3/3 暗褐	
1634	12a	SD03	020606	土師器	ロクロ調整皿		12.2	5.6	6.0	12.4	ヨコナデ	ヨコナデ、わずかにタール付着、回転糸切痕	5YR6/8 橙		
1635	12a	SD03	020604	土師器	ロクロ調整皿		推 10.6	2.2	推 5.0	推 10.8	ヨコナデ	ミガキ、回転ヘラケズリ、表面雲母片あり	5YR6/6 橙		異系統
1636	12a	SD03	020606	土師器	ロクロ調整皿		推 8.4	1.6	推 4.4	推 8.6	ヨコナデ、タール付着	ヨコナデ、タール付着、回転糸切痕	10YR6/6 明黄褐		
1637	12a	SD03	020604	土師器	焼壺壺蓋 B 類	17c 後元禄	8.4	2.4		8.9	布目	ミガキ?	7.5YR6/4 にぶい橙		
1638	12a	SD03 裏込め	020603	土師器	焼壺壺蓋 B 類	17c 後元禄	8.2	2.1		8.4	布目	ミガキ?	7.5YR6/6 橙		
1639	11a	SD03 トレンチ	020604	土師器	焼壺壺蓋 A 類			残 1.7			ナデ?	ナデ?	5YR6/6 橙		
1640	12a	SD03	020604	鉄製品	釘		残長 5.0	幅 1.6	厚 1.2						
1641	12a	SD03	020604	鉄製品	釘		長 4.6	幅 1.2	厚 0.8						
1642	12a	SD03	020604	鉄製品	釘		長 4.4	幅 2.1	厚 1.2						
1643	12a	SD03	020604	鉄製品	釘		残長 4.1	幅 1.3	厚 0.9						
1644	12a	SD03	020604	鉄製品	釘		残長 3.8	幅 2.0	厚 0.8						
1645	12a	SD03	020604	鉄製品	釘		長 3.4	幅 0.8	厚 0.6						
1646	12a	SD03	020604	鉄製品	釘		残長 3.2	幅 1.3	厚 0.8						
1647	11a	SD03 トレンチ	020604	銅製品	銅塊(板状)		残長 2.6	残幅 1.6	厚 0.7						
1648	8a	SK23	020905	不明磁器	染付丸碗		推 10.0	4.5	推 3.7	推 10.2	白磁釉	染付、高台端部露胎	9/白	C12-M4-Y6-BL0	関西系?
1649	8a	SK23	020911	肥前磁器	染付丸碗		推 10.0	4.8	3.5	推 10.2	白磁釉	染付、高台端部露胎	9/白	C4-M0-Y4-BL0	
1650	8a	SK23	020911	肥前磁器	染付丸碗		推 9.5	4.9	3.4	推 9.7	白磁釉	染付、高台端部露胎	9/白	C8-M0-Y4-BL0	
1651	9a	SK23	020911	肥前磁器	染付丸碗		推 10.0	4.7	推 3.6	推 10.2	白磁釉	染付、高台端部露胎	9/白	C10-M0-Y6-BL0	
1652	9a	SK23	020911	肥前磁器	染付丸碗		推 10.9	5.6	推 4.8	推 11.1	白磁釉、輪壳げ	染付、高台端部露胎	9/白	C10-M4-Y16-BL4	波佐見
1653	9a	SK23	020911	肥前磁器	染付丸碗		推 10.1	4.9	推 4.1	推 10.2	白磁釉	染付、高台端部露胎	9/白	C8-M0-Y4-BL4	

遺物一覧表

図版番号	グランド	遺構番号	日付	産地・材質	器種	時期	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	内面	外面	胎土(外部)	軸1	備考
1654	8a	SK23	020905	肥前磁器	染付丸碗		推 10.0	残 4.3		推 10.2	白磁軸	染付	9/ 白	C8-M0-Y4-BL0	
1655	8a	SK23	020919	肥前磁器	染付丸碗		推 10.0	残 3.9		推 10.2	白磁軸	染付	9/ 白	C16-M4-Y6-BL0	
1656	8a	SK23	020905	肥前磁器	染付丸碗		推 9.7	残 3.6		推 9.9	白磁軸	染付	9/ 白	C16-M4-Y10-BL0	
1657	9a	SK23	020911	肥前磁器	染付丸碗		推 9.7	残 3.1		推 9.8	白磁軸	染付	9/ 白	C10-M0-Y6-BL0	
1658	9a	SK23	020911	肥前磁器	染付丸碗			残 2.4	推 4.2		白磁軸	染付、高台端部露胎	9/ 白	C16-M4-Y6-BL0	
1659	9a	SK23	020911	肥前磁器	染付丸碗		推 9.0	残 2.7		推 9.1	白磁軸	染付	9/ 白	C8-M4-Y10-BL0	
1660	9a	SK23	020911	肥前磁器	染付丸碗			残 3.0			白磁軸、輪禿げ	染付	2.5Y8/1 灰白	C12-M4-Y8-BL0	
1661	9a	SK23	020911	肥前磁器	染付蓋物		推 8.1	残 3.2		推 8.3	白磁軸、口縁端部露胎	染付	9/ 白	C4-M8-Y16-BL0	
1662	11a	SK23	020607	美濃陶器	碗	登 8 小期	推 12.0	5.6	4.5	推 12.2	灰軸鉄絵、型打	灰軸、下半露胎、回転ヘラケズリ	N6/ 灰	7.5Y7/2 灰白	
1663	9a	SK23	020911	瀬戸陶器	丸碗	登 7or8 小期		残 3.1			鉄軸	灰軸、下半露胎	2.5Y7/2 灰黄	7.5Y6/2 灰オリーブ	
1664	10a	SK23	020919	美濃陶器	箱形湯呑	登 8 小期	推 9.4	残 5.6		推 9.8	鉄軸	鉄軸、灰軸、刺突文	2.5Y7/2 灰黄	5Y7/2 灰白	
1665	8a	SK23	020905	信楽陶器	丸碗			残 1.9	推 3.6		灰軸	灰軸、下半露胎	5Y7/1 灰白	7.5Y6/2 灰オリーブ	
1666	11a	SK23	020828	肥前陶器?	碗?			残 1.3	推 5.2		長石軸	長石軸、下半露胎	5Y8/2 灰白	2.5Y7/3 灰オリーブ	瀬戸美濃ではない
1667	9a	SK23	020911	不明陶器	平碗		推 14.0	残 3.7		推 14.2	灰軸?	灰軸?	2.5Y6/3 にぶい黄	10YR 4/4 梅	
1668	8a	SK23	020905	肥前陶器	京焼丸碗		推 13.8	残 3.0		推 14.0	灰軸	灰軸	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y6/4 にぶい黄	
1669	11a	SK23 栗石上	020607	不明陶器	丸碗			残 3.3			長石軸	長石軸鉄絵、下半露胎	2.5Y7/1 灰白	5Y7/1 明オリーブ灰	
1670	9a	SK23	020911	肥前磁器	染付猪口		推 9.2	6.0	5.6	推 9.3	白磁軸	染付、高台端部露胎	9/ 白	C10-M0-Y4-BL4	
1671	9a	SK23	020911	肥前磁器	染付皿		9.7	2.0	4.7	9.8	染付	染付、高台端部露胎	9/ 白	C6-M4-Y10-BL0	
1672	8a	SK23	020905	肥前磁器	染付皿		推 7.2	1.6	推 4.2	推 7.3	染付	白磁軸、高台端部露胎	7.5Y8/1 灰白	C0-M0-Y4-BL0	
1673	9a	SK23	020919	肥前磁器	染付皿		推 15.2	4.3	推 9.0	推 15.3	染付	染付、高台端部露胎	9/ 白	C6-M0-Y4-BL4	
1674	8a	SK23	020911	肥前磁器	染付皿		推 17.4	2.9	推 11.0	推 17.7	染付、口紅	染付、高台端部露胎	9/ 白	C12-M4-Y12-BL4	
1675	9a	SK23	020911	肥前磁器	染付皿		推 10.9	残 1.8		推 11.1	染付	染付	9/ 白	C10-M4-Y8-BL0	
1676	9a	SK23	020911	肥前磁器	染付皿			残 1.9	推 4.8		染付	染付、高台端部露胎	5Y8/1 灰白	10YR7/4 にぶい黄橙	
1677	8a	SK23	020911	土師器	ロクロ調整皿		推 12.2	2.9	推 7.0	推 12.4	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	5YR6/6 橙		
1678	8a	SK23	020911	土師器	ロクロ調整皿		推 11.0	2.2	推 5.2	推 11.2	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	7.5YR6/6 橙		
1679	10a	SK23	020919	土師器	ロクロ調整皿		推 10.4	2.2	推 6.2	推 10.6	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	5YR6/8 橙		
1680	8a	SK23	020905	土師器	非ロクロ調整皿?		推 11.0	残 2.2		推 11.0	ヨコナデ	ヨコナデ	5YR6/8 橙		
1681	9a	SK23	020911	肥前磁器	染付蓋		推 9.8	2.7		推 9.9	白磁軸	染付	9/ 白	C8-M0-Y4-BL4	
1682	8a	SK23	020905	美濃陶器	蓋物の蓋	登 7or8 小期	推 9.6	残 1.6		推 9.8	露胎	灰軸呉須絵	2.5Y8/2 灰白	5Y7/2 灰白	
1683	11a	SK23	020606	瀬戸陶器	再興織部蓋	19c 初		残 1.4		推 13.0	露胎	灰軸鉄絵に緑軸流し	2.5Y8/2 灰白	5Y6/4 オリーブ黄	
1684	9a	SK23	020911	瀬戸美濃陶器	箸置?		残長 6.2	最大幅 1.9	最大高 1.4			灰軸	10YR7/3 にぶい黄橙	2.5Y7/3 浅黄	
1685	11a	SK23	020628	美濃陶器	徳利	17c		残 5.3	推 6.6		うすい灰軸	灰軸	2.5Y8/2 灰白	7.5Y7/2 灰白	
1686	11a	SK23	020606	瀬戸陶器	播鉢	登 8 小期		残 5.3			鉄軸	鉄軸	10YR7/3 にぶい黄橙	7.5YR3/2 黒褐	
1687	10a	SK23	020624	瀬戸陶器	播鉢	登 8 小期		残 5.2			うすい鉄軸	うすい鉄軸	10YR8/3 浅黄橙	7.5YR3/4 暗褐	
1688	11a	SK23	020606	瀬戸陶器	播鉢	登 8 小期		残 4.9			鉄軸	鉄軸	10YR8/3 浅黄橙	7.5YR3/4 暗褐	
1689	10a	SK23	020624	常滑陶器	真焼甕	18c 前		残 7.3			ヨコナデ、自然軸	ヨコナデ、自然軸	10YR6/2 灰黄褐	7.5YR3/2 黒褐	
1690	11a	SK23	020607	美濃陶器	火鉢?	登 7or8 小期	推 29.0	残 2.3			鉄軸	鉄軸	10YR8/3 浅黄橙	10YR3/2 黒褐	
1691	10a	SK23	020624	土師器	焼塩壺蓋 B 類		推 6.7	1.8		推 7.2	布目痕	調整不明、ヨコナデ	5YR6/6 橙		
1692	9a	SK23	020912	土師器	焼塩壺身 A 類		推 5.0	残 5.5			ヨコナデ、布目痕	ヨコナデ、ヘラケズリ	7.5YR6/6 橙		
1693	10c	SK262	020730	瀬戸陶器	灰軸丸碗	登 7or8 小期		残 4.3	4.0		灰軸	灰軸、高台端部露胎	5Y8/1 灰白	5Y8/2 灰白	
1694	11c	SK262	020731	土師器	ロクロ調整皿			残 2.0	6.4		ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	10YR7/4 にぶい黄橙		
1695	11c	SK262	020731	瀬戸美濃陶器	播鉢	登 3 小期		残 4.0			錆軸	錆軸	10R4/2 灰赤		
1696	10c	SK262	020730	瀬戸美濃陶器	播鉢	登 1 小期		残 4.5			錆軸	錆軸、磨滅	10R3/1 暗赤灰		
1697	10c	SK262	020730	中国漳州窯系	青花大皿			残 2.6			青花	青花	2.5Y7/1 灰白	C4-M0-Y6-BL4	
1698	10c	SK262	020730	美濃陶器	笠原鉢	登 3or4 小期	推 38.0	残 8.0		推 39.0	長石軸鉄絵に銅緑軸流し	長石軸、ヘラケズリ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/3 淡黄	
1699	11c	SK262	020731	美濃陶器	笠原鉢	登 1 小期	推 39.8	残 5.8		推 41.3	長石軸に銅緑軸流し	長石軸、ヘラケズリ	5Y8/1 灰白	2.5Y7/3 浅黄	
1700	13d	SK37	020610	瀬戸美濃陶器	志野鉄絵丸皿	登 1 小期	推 12.0	2.8	7.4	推 12.2	長石軸鉄絵、ピン痕 2ヶ残	長石軸、高台内軸拭き取り、回転ヘラケズリ、トチン痕 2ヶ残	2.5Y8/2 灰白	5Y8/2 灰白	
1701	13d	SK37 3 層	020613	瀬戸美濃陶器	加工円盤	大窯	最大長 2.4	最大幅 2.1	最大厚 0.9		錆軸	錆軸	C30-M30-Y20-BL60		播鉢?

名古屋城三の丸遺跡 VII

図版番号	カド	遺構番号	日付	産地・材質	器種	時期	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	内面	外面	胎土(外部)	釉1	備考
1702	12e	SK93	—	瀬戸陶器	蓋	登8小期	12.0	3.3		12.0	露胎	灰釉鉄絵	5Y8/2 灰白	2.5Y7/2 灰黄	
1703	12e	SK93	—	瀬戸陶器	水指	登8小期	12.8	18.3	14.2	16.7	灰釉	灰釉鉄絵	5Y8/2 灰白	2.5Y7/2 灰黄	
1704	12e	SK93 容器内	—	石	石		長9.7	幅7.4	厚2.8						
1705	12e	SK93 容器内	—	石	石		長9.8	幅6.5	厚3.8						
1706	11g	SK47	020614	肥前陶器	御室茶碗		推9.4	6.8	推5.2	推9.8	灰釉	灰釉呉須絵、高台端部露胎	2.5Y8/3 淡黄	2.5Y6/3 にぶい黄	
1707	11h	SK47	020614	美濃陶器	鉄軸丸碗	登3or4小期		残2.8	推5.4		鉄軸	鉄軸、高台端部露胎	2.5Y8/2 灰白	10YR3/2 黒褐	
1708	11h	SK47	020614	美濃陶器	双耳壺	17c	推11.4	残5.3			鉄軸、錆軸	鉄軸に灰釉流し	N7/ 灰	7.5YR3/3 暗褐	
1709	8d	SK55	020613	肥前磁器	白磁紅皿		推4.6	1.4	推1.6	推4.6	白磁釉	白磁釉、下半露胎	9/ 白	9/ 白	
1710	11g	SK63	020614	肥前磁器	染付丸碗		推11.0	残4.2		推11.2	白磁釉	染付	5Y8/1 灰白	C4-M0-Y4-BL4	
1711	11g	SK63	020614	肥前磁器	染付丸碗		推10.1	残4.0		推10.2	白磁釉	染付	9/ 白	C0-M0-Y4-BL4	
1712	11g	SK63	020614	肥前陶器	丸碗			残1.8	推5.0		灰釉、目痕1ヶ	灰釉、高台端部露胎	10YR8/2 灰白	10YR8/3 浅黄橙	
1713	11g	SK63	020819	肥前陶器	丸碗		推9.6	6.5	推5.2	推9.9	灰釉	灰釉呉須絵、高台端部露胎	7.5YR6/6 橙	2.5Y7/4 浅黄	
1714	11g	SK63	020618	肥前磁器	染付小杯			残2.4	2.6		白磁釉	染付、高台端部露胎	9/ 白	C6-M0-Y4-BL0	
1715	11g	SK63	020614	肥前磁器	白磁小杯			残1.9	2.8		白磁釉	白磁釉、高台端部露胎、砂付	9/ 白	C8-M4-Y4-BL0	
1716	11g	SK63	020819	肥前陶器	京焼風丸碗			残1.6	5.5		透明釉呉須絵？	透明釉、下半露胎、刻印	10YR8/2 灰白、7.5YR5/6 明褐	10YR8/4 浅黄橙	白色系粘土と褐色系粘土の練り込み
1717	11g	SK63	020614	瀬戸陶器	黄瀬戸 菊皿	登2or3小期	12.8	3.0	7.4	13.0	長石釉に銅緑釉流し	長石釉、下半露胎、回転ヘラケズリ	2.5Y8/2 灰白、7.5YR6/6 橙	5Y8/3 淡黄	
1718	10c	SK60	020614	肥前陶器	京焼風丸碗			残2.3	4.6		灰釉呉須絵	灰釉、下半露胎、ヘラケズリ	2.5Y8/3 浅黄	2.5Y7/4 浅黄	
1719	10d	SK60	020703	肥前磁器	染付丸碗		推8.6	残3.4		推8.7	白磁釉上絵付	染付	5Y8/1 灰白	C4-M0-Y0-BL0	
1720	10d	SK60	020617	瀬戸陶器	丸碗？	登3or4小期		残1.7	推9.4		鉄軸	露胎、ヘラケズリ	2.5Y8/1 灰白	10YR2/3 黒褐	
1721	10d	SK60	020617	美濃陶器	皿？	登5or6小期		残1.7	推7.4		灰釉	灰釉、下半露胎、回転ヘラケズリ	2.5Y8/2 灰白	10Y6/2 灰オリーブ	
1722	10d	SK60	020617	瀬戸陶器	揃鉢	登5小期		残1.9			錆軸	錆軸	10YR7/4 にぶい黄橙	5YR3/3 暗赤褐	
1723	10c	SK60	020614	土師器	焼壺蓋 B類		推7.7	1.7		推8.4	布目痕	調整不明	5Y6/6 橙		
1724	10d	SK60	020617	土師器	ロクロ調整皿		推17.5	4.2	8.9	推17.8	ヨコナデ、一部タール付着	ヨコナデ、回転糸切痕	5YR6/6 橙		
1725	10d	SK60	020617	土師器	ロクロ調整皿		推13.8	3.2	推7.0	推14.0	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	5YR6/8 橙		
1726	10d	SK60	020617	土師器	ロクロ調整皿		11.6~12.3	2.5~2.9	6.0~6.1	11.8~12.6	ヨコナデ、被熱痕、大きく歪む	ヨコナデ、回転糸切痕	5YR6/6 橙		
1727	10d	SK60	020617	土師器	ロクロ調整皿		推12.0	2.4	推5.8	推12.0	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	5YR6/6 橙		
1728	10d	SK60	020617	土師器	ロクロ調整皿			残1.6	7.2		ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	5YR6/6 橙		
1729	10d	SK60	020703	土師器	ロクロ調整皿			残1.4	推7.8		ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕？	5YR6/6 橙		
1730	10d	SK60	020617	土師器	ロクロ調整皿			残1.0	推6.4		ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	7.5YR6/6 橙		
1731	10d	SK60	020617	瀬戸美濃陶器	圓鉢		推16.8	残7.7		推17.8	露胎、ヨコナデ	露胎、ヨコナデ	10YR7/2 にぶい黄橙		
1732	10d	SK60	020617	常滑陶器	赤物甕			残11.3			ヨコナデ、指オサエ	ヨコナデ、指オサエ	10YR8/3 浅黄橙		
1733	10d	SK60	020703	常滑陶器	真焼甕		推54.4	残12.5			ヨコナデ、指オサエ、自然釉	ヨコナデ、指オサエ、自然釉	10R 4/3 赤褐	7.5Y6/2 灰オリーブ	
1734	10d	SK60	020617	常滑陶器	真焼甕		推51.4	残52.4		推58.4	ヨコナデ、指オサエ、ヘラケズリ	ヨコナデ、指オサエ	2.5YR5/3 にぶい赤褐	5YR4/3 にぶい赤褐	
1735	10d	SK60	020617	常滑陶器	真焼甕		48.2~56.4	残39.1		推62.6	ヨコナデ、指オサエ	ヨコナデ、指オサエ、ハケ、自然釉	2.5YR5/3 にぶい赤褐	5Y6/2 灰オリーブ	
1736	8e	SK75	020618, 020621	瀬戸美濃陶器	角壺	登6~8小期	推16.8	残5.1		推19.4	鉄軸	鉄軸に灰釉流し、施軸前刻線文	7.5YR7/1 明褐灰	10YR3/1 黒褐	
1737	9d	SK100	020621	肥前磁器	白磁小杯		推6.8	残2.7		推7.0	白磁釉	白磁釉	C4-M4-Y4-BL0	C10-M6-Y8-BL0	
1738	9d	SK100 裏込め	020621	肥前磁器	白磁鉢			残4.4			白磁釉	白磁釉	9/ 白	C6-M4-Y4-BL0	
1739	9d	SK100 裏込め	020621	瀬戸美濃陶器	揃鉢	登5小期		残2.5			錆軸	錆軸	10YR8/3 浅黄橙	10YR4/3 にぶい黄褐	
1740	9d	SK100 裏込め	020624	美濃陶器	鉢	登1or2小期		残3.1	推18.0		長石釉鉄絵	長石釉、高台端部露胎、回転ヘラケズリ	2.5Y8/2 灰白	5Y8/2 灰白	
1741	11d	SK131	020626	肥前磁器	白磁小杯		推6.4	残3.4		推6.5	白磁釉	白磁釉	9/ 白	C4-M0-Y4-BL4	
1742	11d	SK131	020626	肥前磁器	白磁丸碗			残2.9	3.2		白磁釉	白磁釉、高台端部露胎	5Y8/1 灰白	7.5GY8/1 明緑灰	
1743	8e	SK139	020702	瀬戸美濃陶器	双耳德利	古後IV新	推5.2	残8.5			鉄軸、下半露胎	鉄軸、貼付文	2.5Y7/1 灰白	5PB2/1 青黒	
1744	11f	SK159	020723	瀬戸陶器	こね鉢？	登1~4小期		残4.5	推16.0		うのふ釉、灰釉、露胎	灰釉、露胎、ヘラケズリ	10YR8/3 浅黄橙	5Y7/3 浅黄	
1745	11j	SK03	020530	美濃陶器	灯臺	登8小期	推9.6	2.1	推4.2	推9.8	鉄軸	鉄軸、下半露胎軸拭き取り、回転ヘラケズリ	2.5Y8/3 淡黄	5YR4/3 にぶい赤褐	
1746	11j	SK03	020530	土師器	焼壺身 A類		推5.4	残6.5		推6.0	ヨコナデ、布目痕	ヨコナデ、ヘラケズリ	10YR6/6 明黄褐		
1747	11j	SK03	020530	土師器	非ロクロ調整皿		7.0	1.1		7.3	ヨコナデ、一方ヨコナデ	ヨコナデ、指オサエ	10YR8/3 浅黄橙		
1748	11j	SK03	020530	土師器	非ロクロ調整皿		6.6	1.2		6.9	ヨコナデ、指オサエ	ヨコナデ、指オサエ	10YR8/3 浅黄橙		
1749	11e	SD11	020619	瀬戸美濃陶器	尾呂茶碗	登5or6小期	推10.4	残4.4		推10.6	鉄軸に灰釉流し	鉄軸に灰釉流し	10YR7/3 にぶい黄橙	7.5YR2/2 黒褐	
1750	11e	SD11	020619	灰釉陶器？	不明			残1.1			降灰著しい	自然釉、ヘラケズリ	2.5Y7/1 灰白	7.5Y5/3 灰オリーブ	

遺物一覧表

図版番号	グッド	遺構番号	日付	産地・材質	器種	時期	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	最大径 (cm)	内面	外面	胎土 (外部)	釉1	備考
1751	11e	SD11	020621	瀬戸陶器	描鉢	登2小期		残2.3			錆軸	錆軸	7.5YR6/4 にぶい橙	10R4/1 暗赤灰	
1752	11e	SD11	020621	土師器	土鈴			残2.1			不明?	指オサエ、ヘラケズリ	7.5YR7/4 にぶい橙		
1753	12c	SD15上	020625	瀬戸美濃陶器	灯明皿	登5小期		残2.5	推4.2		鉄軸	鉄軸、下半露胎、回転ヘラケズリ	2.5Y7/2 灰黄	7.5YR2/3 暗黄褐	
1754	12d	SD15	020624	美濃陶器	笠原鉢	登1or2小期		残4.3			長石軸鉄絵に銅緑軸流し	長石軸	2.5Y8/3 淡黄	2.5Y7/3 浅黄	
1755	11c	SD13	020626	肥前磁器	染付筒形容器		推5.6	残4.0			白磁軸	染付	2.5Y8/1 灰白	C6-M0-Y6-BL0	
1756	11c	SD13	020626	美濃陶器	丸皿	登3or4小期		残1.8	推8.4		灰軸、印花文	灰軸、下半露胎、回転ヘラケズリ	2.5Y7/3 淡黄	5Y5/6 オリーブ	
1757	11b	SD13	020621	瀬戸美濃陶器	反り皿	登2小期	推13.0	2.6	6.8	推14.2	長石軸、ビン痕2ヶ残	長石軸、高台内露胎軸拭き取り、トチン痕2ヶ残	2.5Y5/1 灰灰	2.5Y6/1 黄灰	
1758	12b	SD13	020621	美濃陶器	不明			残存長3.2			露胎	露胎	2.5Y8/3 淡黄	2.5Y7/3 浅黄	
1759	11b	SD13	020625	瓦器	灯火具		推9.5	残5.6		推10.7	いぶしミガキ、焼成前刻書	いぶしミガキ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR4/1 褐灰	
1760	11c	SD13	020626	美濃陶器	花瓶	登5~7小期	推17.4	残1.2		推18.0	鉄軸に灰軸流し	鉄軸、下半露胎	10YR6/1 褐灰	7.5YR3/3 暗褐	
1761	11b	SD13	020625	常滑陶器真焼	甕	12新		残8.5			ヨコナデ	自然軸	5Y4/1 灰	5Y4/3 暗オリーブ	
1762	12b	SD13	020621	常滑陶器赤物	鉢?			残13.5			ヨコナデ、焼成前刻書	指オサエ	10YR8/3 浅黄橙		
1763	11b	SD13	020621	鉄製品	釘		長6.7	幅2.5	厚1.3						
1764	11b	SD13	020621	鉄製品	釘		長4.8	幅0.8	厚0.7						
1765	11b	SD13	020621	鉄滓	流動滓		残長3.0	幅2.0	厚1.0						
1766	10f	SK16	020606	瀬戸美濃陶器	白目茶碗	登2小期	推10.8	残4.3		推11.2	長石軸	長石軸	2.5Y7/1 灰白	10Y8/1 灰白	
1767		表土	020419	美濃陶器	黒織部香茶碗	登1小期		残3.8			鉄軸(引き出し黒)	長石軸鉄絵	2.5Y7/2 灰黄	5Y8/1 灰白	
1768	13f	SK50	020612	美濃陶器	鉄軸丸碗	登1~4小期	推9.8	残4.4		推10.0	鉄軸	鉄軸	2.5Y7/1 灰白	5YR4/4 にぶい赤褐	
1769		表土	020415	瀬戸陶器	京焼写し碗	登5小期	10.0~10.5	6.4	4.8	10.7	灰軸	灰軸、錆軸、ヘラケズリ、刻印	2.5Y8/3 淡黄	2.5YR4/3 にぶい赤褐	平面形が歪んでいる
1770	13f	SK50	020612	瀬戸美濃陶器	灰軸丸碗	登1or4小期	推12.7	残5.6		推13.0	灰軸	灰軸	2.5Y8/2 灰白	5Y7/2 灰白	
1771	13e	SK38	020610	美濃陶器	白目茶碗	登2小期	推13.0	残3.8		推13.2	鉄軸	鉄軸	2.5Y8/2 灰白	5Y6/3 オリーブ黄	
1772	13e	SK38	020612	美濃陶器	錆軸碗	登8小期	推12.8	残3.5	推13.0	錆軸	錆軸	10YR8/3 浅黄橙	5YR5/2 灰褐		
1773	13e	SK38	020610	瀬戸陶器	丸碗	登3or4小期		残2.7	5.6		灰軸	灰軸、下半露胎、回転ヘラケズリ	5Y8/1 灰白	5Y8/2 灰白	
1774	13f	SK50	020613	肥前磁器	染付丸碗			残2.9	推5.5		染付	染付、高台端部露胎、砂目付着	5Y8/1 灰白	C10-M0-Y4-BL4	
1775	13a	検出II	020724	瀬戸美濃陶器	志野丸皿	登2小期	推12.0	2.7	6.8	推12.2	長石軸、降灰著しい	長石軸、高台内露胎軸拭き取り、回転ヘラケズリ、トチン痕3ヶ残	2.5Y8/2 灰白	5Y8/2 灰白	
1776	11e	検出II	020718	瀬戸美濃陶器	志野丸皿	登3小期	推10.8	1.8	推6.0	推11.2	長石軸、ビン痕1ヶ残	長石軸、高台内露胎軸拭き取り、回転ヘラケズリ、トチン痕1ヶ残	5Y8/1 灰白	2.5Y8/2 灰白	
1777	13d	SK36	020610	瀬戸美濃陶器	志野丸皿	登2小期	推11.2	2.3	推6.6	推11.4	長石軸	長石軸、回転ヘラケズリ、トチン痕1ヶ残	10YR5/1 褐灰	2.5Y6/1 黄灰	
1778	13b	南トレンチ	020509	瀬戸陶器	志野輪花皿	登1小期	推14.2	3.2	推7.4	推14.4	長石軸と鉄軸のかけ分け?	長石軸と鉄軸のかけ分け?、高台端部露胎、重ね焼き痕	2.5Y7/2 灰黄	5Y6/1 灰	破断面に漆継痕
1779	12b	検出III	020802	美濃陶器	反り皿	登4小期	推12.8	2.9	7.4	推13.2	灰軸、ビン痕1ヶ残	灰軸、下半露胎、回転ヘラケズリ、トチン痕2ヶ残	2.5Y8/2 灰白	7.5Y7/2 灰白	
1780	12j	SK19	020706	美濃陶器	反り皿	登4小期		残2.6			灰軸	灰軸、下半ヘラケズリ	7.5Y7/1 灰白	5Y7/2 灰白	
1781		表土	020419	瓦質土器?	腰折皿?		推12.6	2.2	推8.0	推12.8	ヨコナデ、コチ?、わずかにスス付着	ヨコナデ、回転ヘラケズリ、削出高台	10YR6/1 褐灰		
1782	13a	検出II	020724	土師器	非ロクロ調整皿		4.0	1.0		4.3	一方向ナデ	手の平圧痕	10YR7/4 にぶい黄橙		
1783	13e	SK38	020611	土師器	非ロクロ調整皿		4.0	1.1		4.4	指オサエのみ	指オサエのみ	10YR7/3 にぶい黄橙		
1784	13a	検出II	020724	土師器	ロクロ調整皿		推10.4	2.3	推6.0	推10.6	ヨコナデ、赤色化	ヨコナデ、回転糸切痕	10YR6/3 にぶい黄橙		
1785	13a	西トレンチ	020513	土師器	ロクロ調整皿		11.8	2.4	7.0	12.3	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕のち板状圧痕	10YR8/3 浅黄橙		
1786	13a	検出II	020724	土師器	ロクロ調整皿		推11.6	2.6	6.6	推11.8	ヨコナデ、スス付着、焼成後穿孔	ヨコナデ、回転糸切痕、スス付着	10YR7/4 にぶい黄橙		
1787	13a	検出II	020724	土師器	ロクロ調整皿		推10.2	2.3	推4.8	推10.2	ヨコナデ	ヨコナデ、沈線、下半調整不明	7.5YR7/4 にぶい橙		
1788		表土	020423	肥前磁器	染付皿		推9.8	2.2	推5.0	推10.0	染付	染付、高台端部露胎	C0-M0-Y0-BL4	C10-M12-Y20-BL8	
1789	13b	南トレンチ	020509	肥前磁器	染付丸皿		13.4	3.2	5.0	13.8	染付	白磁軸、高台端部露胎、砂目付着	C0-M0-Y0-BL4	C16-M4-Y12-BL0	
1790		表土	020423	肥前磁器	染付無頸壺		推6.6	残3.6		推8.8	白磁軸	染付		C12-M4-Y6-BL0	
1791	11d	検出II	020722	美濃陶器	茶入	大窯	推4.0	残2.2			鉄軸、下半露胎	鉄軸	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR5/4 にぶい褐	
1792	13e	SK38	020612	美濃陶器	土瓶?	18c~不明	推9.4	残4.6			黄瀬戸軸?鉄絵、下半うすい灰軸	黄瀬戸軸?鉄絵	10YR8/3 浅黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	
1793		表土	020412	美濃陶器	合子身	登8小期以降	5.8	2.6	4.4	5.8	口縁端部露胎、口軸	口縁端部露胎、灰軸、下半露胎、回転ヘラケズリ、墨書あり?	2.5Y8/2 灰白	5Y7/3 浅黄	
1794	12a	西トレンチ	020513	美濃陶器	蓋物身	登7or8小期	推7.6	3.7	推5.2	推8.6	灰軸	灰軸、下半露胎、回転ヘラケズリ	10YR8/2 灰白	5Y7/2 灰白	
1795	8c	北壁	020827	美濃陶器	柳茶碗蓋	登8小期	9.6	3.1		9.8	透明軸	端部露胎、透明軸鉄絵	7.5YR5/4 にぶい褐	10Y7/1 灰白	
1796		表土	020423	瀬戸美濃陶器	匣鉢	江戸時代		残5.7		推15.0	露胎、ナデ、ヘラケズリ、重ね焼き痕	自然軸、露胎、回転糸切痕	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR5/6 黄褐	



名古屋城三の丸遺跡 VII

図版番号	グッド	遺構番号	日付	産地・材質	器種	時期	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	内面	外面	胎土(外部)	釉1	備考
1797	13c	SK38	020612	美濃陶器	徳利	登8小期		残9.3	推6.2	推8.4	錆軸	鉄軸、重ね焼き痕	10YR8/3 浅黄橙	5YR3/4 暗赤褐	
1798	13c	検出II	020723	美濃陶器	茶入	17c(ピ) 登1小期 (キ)		残1.0	2.9	4.2	露胎、回転ヘラケズリ	長石軸に鉄軸と銅緑軸をかけ分け	2.5Y7/1 灰白	5Y7/2 灰白	軸3) 5YR3/2 暗赤褐
1799	11g	SK67	020813	瀬戸美濃陶器	挿鉢 加工 円盤	大濠	最大長 2.8	最大巾 2.6	最大厚 1.4		錆軸	錆軸	10R3/1 暗赤灰		
1800	11e	検出II	020718	美濃陶器	笠原鉢	登1or2 小期	推31.0	残8.9		推31.6	長石軸鉄軸に銅緑軸流し	長石軸、ヘラケズリ	10YR7/2 にふい黄橙	2.5Y7/2 灰黄	
1801	12a	西トレ ンチ	020513	瀬戸美濃陶器	挿鉢	登2小期	推33.0	残6.5		推33.4	錆軸、櫛目1単位 2.2cm11本2 方向残	錆軸、一部磨減	2.5Y8/2 灰白	2.5Y2/2 極暗赤褐	
1802	13e	SK38	020610	瀬戸陶器	挿鉢	登1小期		残2.7			錆軸	錆軸	10YR7/3 にふい黄橙	5YR3/1 黒褐	
1803	8b	検出I	020522	瓦器	火鉢?		推21.4	残5.0	推20.0	推21.8	ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、沈線、 ミガキ、砂目痕?	10YR5/2 灰黄褐		
1804	11c	SK25	020606	常滑陶器	赤物火鉢?			残3.1			ヨコナデ	ヨコナデ	10YR7/3 にふい黄橙		
1805	11c	SK18	020607	常滑陶器	真焼甕			残9.8			ヨコナデ、指オサエ	ヨコナデ	7.5YR4/3 褐		
1806	13d	SK38	020612	常滑陶器	火鉢	17c	推21.2	5.6	推14.0	推22.0	ヨコナデ	ヨコナデ、うすく 自然軸、ヘラケズリ	2.5YR6/8 橙	7.5YR3/3 暗褐	
1807	13e	SK38	020610	産地不明陶器	壺			残5.2	推10.2		ヨコナデ、露胎	ヨコナデ、露胎、 底部調整不明	2.5Y5/1 黄灰	7.5YR4/3 褐	常滑ではない
1808	13d	SK36	020610	土師器	半球形内耳 鍋			残3.7			ヨコナデ、調整不 明	ヨコナデ、調整不 明、スス付着	10YR4/2 灰黄褐		
1809	11e	SK18	020605	土製品	形代(鳥)			残2.8				型打	10YR8/3 浅黄橙		
1810	11d, 12d	SK101	020621	土師器	焼壺壺蓋A 類		推8.0	残1.3		推8.2	ヨコナデ	ヨコナデ	5YR7/6 橙		
1811	13a	西トレ ンチ	020509	土師器	焼壺壺蓋A 類		推7.4	残1.4		推7.8	ヨコナデ	ヨコナデ	5YR7/6 橙		
1812	12i	SK05	020603	土師器	焼壺壺身A 類		推5.8	残4.0			ヨコナデ、布目痕	ヨコナデ、ヘラケ ズリ	5YR6/6 橙		
1813	11e	SK24 上 面	020607	土師器	焼壺壺身A 類		推4.8	残4.7			指オサエのちな デ、布目痕	指オサエ、ヘラケ ズリ	5YR7/6 橙		
1814		表土	020418	土師器	焼壺壺身A 類		推5.8	残6.3			ヨコナデ、布目痕	ヨコナデ、ヘラケ ズリ	5YR6/6 橙		
1815	11e	SK24	020606	瓦	軒丸瓦 M01 型式		残長 27.2	幅17.6	厚2.0		コビキB、布目痕	ヘラケズリ、ミガ キ	C30-M20- Y30-BL60		M01-1
1816	11h	SK01 B	020807	瓦	軒丸瓦 M01 型式		残長 12.6	幅18.2	厚2.3		コビキB、布目痕	ヘラケズリ、ミガ キ	C40-M20- Y30-BL60		M01-2
1817	11h	SK01 B	020809	瓦	軒丸瓦 M01 型式						—	ヘラケズリ、ミガ キ	C30-M20- Y20-BL60		M01-3
1818	11h	SK01 B	020809	瓦	軒丸瓦 M01 型式						—	ヘラケズリ、ミガ キ	C30-M20- Y30-BL60		M01-4
1819	—	北壁	020514	瓦	軒丸瓦 M01 型式						—	ヘラケズリ、ミガ キ	C30-M20- Y30-BL60		M01-6
1820	10c	SK60	020614	瓦	軒丸瓦 M01 型式						—	ヘラケズリ、ミガ キ	C40-M20- Y30-BL60		M01-9
1821	11h	SK01 B	020807	瓦	軒丸瓦 M01 型式		長34.7	幅17.9	厚1.9		コビキB、布目痕	ヘラケズリ、ミガ キ	C30-M20- Y20-BL60		M01-5
1822	11h	SK01, SK47	020806	瓦	軒丸瓦 M01 型式						—	ヘラケズリ、ミガ キ	C40-M20- Y20-BL60		—
1823	10b	SX04	020626	瓦	軒丸瓦 M01 型式						—	ヘラケズリ、ミガ キ	C20-M10- Y20-BL60		M01-7
1824	—, 10a	SX02 南 西	020628	瓦	軒丸瓦 M01 型式						—	ヘラケズリ、ミガ キ	C30-M20- Y20-BL60		M01-8
1825	11h	SK01 B	—	瓦	軒丸瓦 M04 型式						—	ヘラケズリ、ミガ キ	C30-M20- Y30-BL60		M04-1
1826	10b	SX04	020626	瓦	軒丸瓦 M04 型式						—	ヘラケズリ、ミガ キ	C30-M20- Y20-BL60		M04-2
1827	—	表土掘 削中	020418	瓦	軒丸瓦 M05 型式		残長 14.6	幅18.6	厚2.3		コビキB、布目痕	ヘラケズリ、ミガ キ	C30-M20- Y20-BL60		M05-1
1828	10i	SX05	020703	瓦	軒丸瓦 M02 型式						—	ヘラケズリ、ミガ キ	C30-M20- Y30-BL60		M02-1
1829	11h	SK01 B	020805	瓦	軒丸瓦 M02 型式		残長 14.6	幅20.1	厚2.3		コビキB、布目痕	ヘラケズリ、ミガ キ	C30-M20- Y30-BL60		M02-2
1830	13d	検出II	020724	瓦	軒丸瓦 M02 型式						—	ヘラケズリ、ミガ キ	C30-M20- Y30-BL60		M02-3
1831	10a, —	SX02 南 西	020624	瓦	軒丸瓦 M02 型式						—	ヘラケズリ、ミガ キ	C20-M10- Y20-BL60		M02-4
1832	8c	SX02 北 東	020621	瓦	軒丸瓦 M02 型式						—	ヘラケズリ、ミガ キ	C20-M10- Y30-BL60		M02-5
1833	—	SX05 南 西	020628	瓦	軒丸瓦 M02 型式						—	ヘラケズリ、ミガ キ	C30-M20- Y20-BL60		M02-6
1834	10f	SK16	020606	瓦	軒丸瓦 M02 型式						—	ヘラケズリ、ミガ キ	C30-M20- Y30-BL60		M02-7
1835	8a	SK23	020911	瓦	軒丸瓦 M02 型式						—	ヘラケズリ、ミガ キ	C40-M20- Y30-BL60		M02-8
1836	—	表土	020423	瓦	軒丸瓦 M03 型式						—	ヘラケズリ、ミガ キ	C0-M0-Y10- BL60		M03-1
1837	10e	SK94 北 下層	020702	瓦	軒丸瓦 M03 形式						—	ヘラケズリ、ミガ キ	C30-M20- Y20-BL60		
1838	13c	SK163	020725, 020729	瓦	軒丸瓦 M03 型式						—	ヘラケズリ、ミガ キ	C30-M20- Y20-BL60		M03-2
1839	13a	SK224	020729	瓦	軒丸瓦 M03 型式						—	ヘラケズリ、ミガ キ	C30-M20- Y30-BL60		M03-3
1840	11a	西トレ ンチ	020513	瓦	軒丸瓦 M03 型式						—	ヘラケズリ、ミガ キ	C40-M20- Y30-BL60		M03-4
1841	13a	検出II	020724	瓦	軒丸瓦 M03 系式						—	ヘラケズリ、ミガ キ	C0-M0-Y10- BL60		
1842	9b	T-01	020527	瓦	軒丸瓦 M10 型式						—	ヘラケズリ、ミガ キ	C0-M0-Y0- BL60		M10-1
1843	—	北壁	020514	瓦	軒丸瓦 M10 型式						布目痕	ヘラケズリ、ミガ キ	C10-M0-Y0- BL60		M10-2
1844	9c	T-01	020528	瓦	軒丸瓦 M10 型式						—	ヘラケズリ、ミガ キ	C20-M10- Y30-BL60		M10-3

遺物一覧表

図版番号	グッド	遺構番号	日付	産地・材質	器種	時期	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	最大径 (cm)	内面	外面	胎土 (外部)	軸 I	備考
1845	9d	SK94	020625	瓦	軒丸瓦 M10 型式						—	ヘラケズリ、ミガキ	C30-M20-Y30-BL60		M10-4
1846	11g	SK01	020617	瓦	軒丸瓦 M10 型式						コビキ B、布目痕	ヘラケズリ、ミガキ	C20-M10-Y20-BL60		M10-5
1847	11h	SK01 B	020807	瓦	軒丸瓦 M20 型式						—	ヘラケズリ、ミガキ	C20-M10-Y20-BL60		M20-5
1848	11h	SK47	020614	瓦	軒丸瓦 M20 型式						—	ヘラケズリ、ミガキ	C10-M0-Y10-BL60		M20-1
1849	—	SX02 北西	020615	瓦	軒丸瓦 M20 型式						—	ヘラケズリ、ミガキ	C30-M20-Y20-BL60		M20-3
1850	—	SX02 南西	020624	瓦	軒丸瓦 M20 型式						—	ヘラケズリ、ミガキ	C30-M20-Y30-BL60		M20-2
1851	11i	SK01 A	020807	瓦	軒丸瓦 M20 型式						—	ヘラケズリ、ミガキ	C30-M20-Y20-BL60		M20-4
1852	—	SX02 北西	020625	瓦	軒丸瓦 M30 型式						—	ヘラケズリ、ミガキ	C30-M20-Y20-BL60		M30-1
1853	—	SX02 北西	020626	瓦	軒丸瓦 M30 型式			厚 2.0			?	ヘラケズリ、ミガキ	C40-M20-Y30-BL60		M30-2
1854	—	西壁	020507	瓦	軒丸瓦 M30 型式						コビキ B	ヘラケズリ、ミガキ	C60-M30-Y30-BL60		M30-3
1855	11i	SK01	020530	瓦	軒丸瓦 M30 型式						—	—	C20-M10-Y20-BL60		M30-4
1856	—	SX02 北西	020625	瓦	軒丸瓦 M00?						—	—	C30-M20-Y20-BL60		
1857	11a	SK23	200828	瓦	軒丸瓦 M02 か?						—	—	C20-M10-Y20-BL60		瓦当面ナデ
1858	11h	SK01	020611	瓦	軒丸瓦 M00?						—	—	C30-M20-Y20-BL10		
1859	11h	SK01	020531	瓦	軒平瓦 H01 型式								C60-M40-Y40-BL30		H01-1
1860	11h	SK01 B	020805	瓦	軒平瓦 H01 型式								C60-M40-Y40-BL30		H01-3
1861	11e	検出 I	020522	瓦	軒平瓦 H01 型式								C40-M20-Y20-BL60		H01-4
1862	10c	SK60	020614	瓦	軒平瓦 H01 型式								C30-M20-Y20-BL60		H01-5
1863	12h	SK01 ベルト	020805	瓦	軒平瓦 H01 型式								C30-M20-Y20-BL60		H01-6
1864	11h	SK01 B	020808	瓦	軒平瓦 H01 型式								C20-M10-Y20-BL60		H01-7
1865	10b	SX04	020626	瓦	軒平瓦 H01 型式								C20-M20-Y20-BL60		H01-8
1866	11h	SK47	020614	瓦	軒平瓦 H01 型式								C60-M40-Y40-BL30		H01-9
1867	11h	SK01	020603	瓦	軒平瓦 H01 型式								C10-M10-Y20-BL60		H01-10
1868	10c	SK60	020614	瓦	軒平瓦 H01 型式								C30-M20-Y20-BL60		H01-11
1869	11i	SK01 ベルト	020805	瓦	軒平瓦 H01 型式								C30-M20-Y20-BL60		H01-2
1870	11i	SK01	020610	瓦	軒平瓦 H02 型式								C0-M0-Y0-BL60		H02-1
1871	12b	検出 II	020722	瓦	軒平瓦 H02 型式								C40-M20-Y30-BL60		H02-2
1872	13f	SK50	020612	瓦	軒平瓦 H02 型式								C40-M30-Y40-BL10		H02-4
1873	11h	SK01 B	020807	瓦	軒平瓦 H02 型式								C60-M40-Y40-BL10		H02-5
1874	10b	SX04	020523	瓦	軒平瓦 H02 型式								C0-M0-Y10-BL30		H02-3
1875	11b	SD13	020621	瓦	軒平瓦 H02 型式								C30-M20-Y20-BL60		
1876	—	SK01	—	瓦	軒平瓦 H02 型式								C40-M20-Y30-BL60		
1877	11i	SK01 ベルト	020805	瓦	軒平瓦 H02 型式								C30-M20-Y30-BL60		H02-6
1878	10b	SX04	020627	瓦	軒平瓦 H03 型式								C30-M20-Y30-BL60		H03-1
1879	10a	SX05	020703	瓦	軒平瓦 H03 型式								C30-M20-Y30-BL60		H03-2
1880	10a	SX05	020702	瓦	軒平瓦 H03 型式								C40-M20-Y30-BL60		H03-3
1881	13j	SK12	020604	瓦	軒平瓦 H04 型式								C60-M30-Y30-BL60		H04-3
1882	11i	SK01	020528	瓦	軒平瓦 H04 型式								C20-M10-Y20-BL60		
1883	—	SX02 南西	020624	瓦	軒平瓦 H04 型式								C30-M20-Y20-BL60		
1884	10a	SX05	020702	瓦	軒平瓦 H04 型式								C40-M20-Y30-BL60		H04-1
1885	11h	SK01 B	020808	瓦	軒平瓦 H05 型式								C30-M20-Y30-BL60		H05-1
1886	11i	SK01	020528	瓦	軒平瓦 H05 型式								C10-M0-Y0-BL60		H05-2
1887	11h	SK01 B	020807	瓦	軒平瓦 H05 型式								C0-M0-Y0-BL60		H05-3
1888	—	SX02 南西	020626	瓦	軒平瓦 H06 型式								C0-M0-Y0-BL60		H06-1
1889	10a	検出 I	020702	瓦	軒平瓦 H06 型式		残長 12.0	残幅 8.3	厚 2.3				C30-M20-Y30-BL60		H06-2
1890	13c	SD22	020725	瓦	軒平瓦 H07 型式								C0-M0-Y0-BL10		
1891	8d	SX02 北東	020621	瓦	軒平瓦 H09 型式								C30-M20-Y20-BL60		H09-1
1892	8a	SK23	020911	瓦	軒平瓦 H09 型式								C40-M20-Y20-BL60		H09-2
1893	10a	検出 I	020702	瓦	軒平瓦 H09 型式								C30-M20-Y30-BL60		H09-3
1894	13e	南トレンチ	020507	瓦	軒平瓦 H09 型式								C40-M20-Y30-BL60		H09-4

名古屋城三の丸遺跡 VII

図版番号	グッド	遺構番号	日付	産地・材質	器種	時期	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	内面	外面	胎土(外部)	釉1	備考
1895	10a	SX05	020703	瓦	軒平瓦H09型式								C0-M0-Y10-BL30		H09-5
1896	—	SX02北東下層	020621	瓦	軒平瓦H09型式								C10-M10-Y20-BL30		H09-6
1897	13f	SK50	020612	瓦	軒平瓦H09型式								C60-M40-Y40-BL30		H09-7
1898	11h	SK01 B	020809	瓦	軒平瓦H11型式								C60-M40-Y40-BL60		H11-1
1899	11h	SK01 B	020807	瓦	軒平瓦H11型式								C40-M20-Y20-BL60		H11-2
1900	11h	SK01	020613	瓦	軒平瓦H11型式								C20-M10-Y10-BL30		H11-3
1901	—	SX02南東肩口	020619	瓦	軒平瓦H12型式								C30-M20-Y20-BL60		H12-1
1902	12a	SD03ベルト	020625	瓦	軒平瓦H12型式								C30-M20-Y30-BL60		H12-2
1903	9c	T02	020607	瓦	軒平瓦H13型式								C60-M40-Y40-BL30		H13-1
1904	—	SX02北西	020625	瓦	軒平瓦H13型式								C30-M20-Y20-BL60		H13-2
1905	10b	SK262	020730	瓦	軒平瓦H19型式								C30-M20-Y20-BL10		H19-1
1906	11h	SK01 B	020807	瓦	軒平瓦H19型式								C30-M20-Y20-BL60		H19-2
1907	12h	SK01	020613	瓦	軒平瓦H19型式								C20-M10-Y10-BL60		
1908	8d	SX02北東	020621	瓦	軒平瓦H19型式								C60-M40-Y40-BL30		H19-3
1909	12b	SK96	020621	瓦	軒平瓦H19型式	近代か?							C40-M30-Y30-BL10		
1910	12a	西トレンチ	020513	瓦	軒棧瓦S01型式								C30-M10-Y10-BL60		
1911	14e,d	SX09	020919	瓦	軒棧瓦S01型式								C40-M20-Y20-BL60		
1912	—	西トレンチ	—	瓦	軒棧瓦S01型式								C30-M20-Y20-BL60		
1913	11a	SK23下層	020826	瓦	軒棧瓦S02型式								C30-M20-Y20-BL60		
1914	—	北壁	020514	瓦	軒棧瓦S03型式								C40-M20-Y30-BL60		
1915	—	表土	020418	瓦	軒棧瓦S04型式								C60-M30-Y30-BL60		
1916	12a	SK22	020606	瓦	軒棧瓦S04型式								C20-M10-Y20-BL60		
1917	12a	西トレンチ	020513	瓦	軒棧瓦								C40-M20-Y20-BL60		
1918	—	SK60	020704	瓦	軒棧瓦S01型式?								C20-M10-Y20-BL60		
1919	—	SX02南東	020619	瓦	丸瓦		長33.8	幅18.6	厚2.6		コビキB、布目痕	ヘラケズリ、ミガキ	C20-M10-Y10-BL60		
1920	—	SX02南東	020619	瓦	丸瓦		長35.3	幅17.6	厚2.5		コビキB、布目痕	ヘラケズリ、ミガキ	C10-M0-Y0-BL60		
1921	11b	SD12	020718	瓦	丸瓦		長31.8	幅16.2	厚2.3		コビキB、布目痕、 縦あり	ヘラケズリ、ミガキ	C30-M20-Y20-BL60		
1922	12c	SD01 2層	020524	瓦	丸瓦		長27.9	幅14.7	厚1.8		コビキB、布目痕	ヘラケズリ、ミガキ	C40-M20-Y30-BL60		
1923	11h	SK01トレンチ	020806	瓦	丸瓦		長34.1	幅17.6	厚2.2		コビキB、布目痕	ヘラケズリ、ミガキ	C30-M10-Y10-BL60		
1924	11h	SK01	—	瓦	丸瓦		長31.1	幅16.2	厚2.1		コビキB、布目痕	ヘラケズリ、ミガキ	C10-M0-Y0-BL60		
1925	11h	SK01 B下層	020809	瓦	丸瓦		長32.4	残幅15.2	厚2.1		コビキB、布目痕	ヘラケズリ、ミガキ	C40-M20-Y30-BL60		焼成前切断面あり
1926	11h	SK01 B下層	020809	瓦	丸瓦		長32.4	残幅14.2	厚2.2		コビキB、布目痕	ヘラケズリ、ミガキ	C40-M20-Y20-BL60		
1927	11i	SK01ベルト	020802	瓦	丸瓦		長26.0	幅13.1	厚1.6		コビキB、布目痕	ヘラケズリ、ミガキ	C10-M0-Y0-BL60		
1928	—	SK01	—	瓦	平瓦		長30.4	残幅28.8	厚2.0				C30-M20-Y20-BL30		
1929	11b	SD12	020625	瓦	平瓦		長31.8	残幅27.3	厚2.1				C20-M10-Y10-BL60		
1930	12a	西トレンチ	020513	瓦	平瓦		長31.2	幅29.7	厚2.0				C10-M0-Y0-BL60		
1931	12c	SD12	020724	瓦	平瓦		長32.6	幅31.5	厚2.3				C30-M20-Y30-BL60		
1932	12a	西トレンチ	020513	瓦	平瓦		長27.8	幅25.9	厚1.8				C10-M0-Y0-BL60		
1933	12a	西トレンチ	020513	瓦	平瓦		長32.1	幅14.7	厚1.8				C10-M0-Y0-BL60		
1934	12a	西トレンチ	020513	瓦	平瓦		長26.9	残幅13.0	厚1.6				C60-M40-Y40-BL60		
1935	12a	西トレンチ	020513	瓦	平瓦		長30.0	残幅16.5	厚1.8				C30-M10-Y10-BL60		
1936	—	SX02北西	020625	瓦	平瓦		残長13.0	幅21.5	厚1.4				C20-M10-Y20-BL60		
1937	11c	SK262	020731	瓦	棧瓦		残長28.6	幅30.3	厚2.2				C30-M10-Y10-BL60		
1938	12a	西トレンチ	020513	瓦	棧瓦		長27.9	幅17.8	厚2.2				C30-M20-Y20-BL60		
1939	12a	西トレンチ	020509	瓦	棧瓦		長28.6	幅17.3	厚1.9				C40-M20-Y20-BL60		
1940	10c	SK262	020730	瓦	棧瓦		長31.5	幅30.2	厚1.8				C20-M10-Y10-BL60		
1941	12a	西トレンチ	020509	瓦	棧瓦		残長21.9	残幅21.0	厚1.8				C20-M10-Y10-BL60		
1942	10c	SK262	020730	瓦	棧瓦		残長25.7	残幅21.7	厚1.9				C10-M0-Y0-BL60		
1943	11h, 11i	SK01 B	020610	瓦	飾瓦K01型式		長27.5	残幅12.4	厚2.2				C0-M0-Y0-BL60		K01-1
1944	11h	SK01	020611	瓦	飾瓦K01型式		長27.9	残幅17.3	厚2.0				C10-M0-Y0-BL60		K01-2

遺物一覧表

図版番号	グランド	遺構番号	日付	産地・材質	器種	時期	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	内面	外面	胎土(外部)	軸1	備考
1945	11h	SK01 B	020613	瓦	飾瓦 K01 型式		長 28.8	残幅 19.0	厚 2.2				C40-M20-Y20-BL60		K01-3
1946	11i	SK01 ベルト	020802	瓦	飾瓦 K01 型式		残長 22.8	残幅 14.8	厚 2.2				C30-M10-Y10-BL60		K01-4
1947	11h	SK01 B	—	瓦	飾瓦 K01 型式		残長 16.9	残幅 14.7	厚 2.0				C80-M60-Y60-BL60		K01-5
1948	11i	SK01	020610	瓦	飾瓦 K01 型式		残長 20.4	残幅 16.4	厚 2.3				C10-M0-Y10-BL60		K01-6
1949	11h	SK01 B	020807	瓦	飾瓦 K01 型式		残長 14.1	残幅 12.4	厚 2.1				C20-M10-Y20-BL60		K01-7
1950	11e	SK25	020606	瓦	飾瓦 K01 型式		残長 20.2	残幅 16.9	厚 2.1				C30-M10-Y10-BL60		K01-8
1951	11i, 11h	SK01 B	020610, 020805	瓦	飾瓦 K01 型式		長 29.5	残幅 13.3	厚 2.2				C20-M10-Y20-BL60		K01-9
1952	11h	SK01 B	020807	瓦	飾瓦 K01 型式		残長 19.2	残幅 17.2	厚 2.1				C30-M20-Y20-BL60		K01-12
1953	11h	SK01 B	020807	瓦	飾瓦 K01 型式?		残長 21.8	残幅 15.5	厚 2.0				C20-M10-Y10-BL30		K01-15
1954	11h	SK01 B	020807	瓦	飾瓦 K01 型式?		残長 17.3	残幅 13.8	厚 2.1				C30-M20-Y30-BL60		K01-20
1955	—	SX02 北西	020625	瓦	飾瓦 K01 型式		残長 10.9	残幅 8.4	厚 1.7				C10-M0-Y0-BL60		穿孔後焼成前に塞ぐ? K01-85
1956	12j	検出 I	020515	瓦	飾瓦 K02 型式		残長 14.7	残幅 14.0	厚 2.5				C10-M0-Y10-BL60		K02-1
1957	11h	SK01 B	020807	瓦	飾瓦 K02 型式		残長 27.7	残幅 17.0	厚 2.7				C30-M20-Y20-BL60		K02-2
1958	11h	SK01 B	020807	瓦	飾瓦 K02 型式		残長 16.1	残幅 15.2	厚 3.3				C40-M20-Y20-BL60		K02-3
1959	10b	SX04	020626	瓦	飾瓦 K02 型式		残長 11.9	残幅 7.0	厚 4.0				C40-M30-Y30-BL10		K02-4
1960	13c	SD01 清掃中	020524	瓦	飾瓦 K02 型式		残長 12.2	残幅 9.0	厚 3.6				C0-M0-Y0-BL60		K02-5
1961	11h	SK01 B	020809	瓦	飾瓦 K02 型式		残長 14.6	残幅 11.4	厚 3.2				C30-M20-Y20-BL60		焼成後削って面取りしてある。 K02-6
1962	13b	SD01 裏込め	020530	瓦	飾瓦 K02 型式		残長 19.9	残幅 12.2	厚 3.1				C20-M10-Y20-BL60		K02-7
1963	11h	SK01 B	020807	瓦	飾瓦 K02 型式		残長 14.8	残幅 14.1	厚 3.2				C10-M10-Y20-BL60		K02-8
1964	—	SX02 北西	020615	瓦	飾瓦 K02 型式		残長 10.8	残幅 7.9	厚 4.6				C30-M20-Y20-BL60		K02-10
1965	—	SX02 北西	020615	瓦	飾瓦 K02 型式		残長 17.1	残幅 7.2	厚 4.7				C30-M20-Y20-BL60		K02-11
1966	11g, 11h	SK63, SK01 B	020814, 020805	瓦	飾瓦 K03 型式		残長 38.7	残幅 31.5	厚 5.3				C60-M30-Y30-BL60		K03-1
1967	—	西壁	020507	瓦	飾瓦 K03 型式		残長 11.0	残幅 7.1	残厚 1.7				C30-M20-Y30-BL60		K03-2
1968	11h	SK01 B	020807	瓦	飾瓦 K03 型式		残長 10.6	残幅 8.3	残厚 3.4				C40-M20-Y30-BL60		K03-4
1969	10e	東トレンチ	020514	瓦	飾瓦 K03 型式		残長 13.6	残幅 5.1	残厚 3.5				C0-M0-Y0-BL60		K03-3
1970	11i	SK01	020530	瓦	飾瓦 K03 型式		残長 15.6	残幅 6.9	残厚 2.9				C40-M20-Y30-BL60		K03-5
1971	—	SK01	—	瓦	飾瓦 K03 型式		残長 15.0	残幅 9.2	厚 5.0				C30-M20-Y30-BL60		K03-6
1972	11h	SK01 B	020807	瓦	飾瓦 K03 型式		残長 19.8	残幅 17.7	厚 5.2				C30-M20-Y30-BL60		K03-7
1973	—	西壁	020507	瓦	飾瓦 K03 型式		残長 16.6	残幅 18.3	厚 3.5				C40-M20-Y30-BL60		K03-9
1974	11h	SK01 B	020809	瓦	飾瓦 K03 型式		残長 20.1	残幅 18.6	厚 4.2				C10-M10-Y20-BL60		K03-8
1975	—	SX02 北西	020615	瓦	飾瓦 K04 型式		残長 19.8	残幅 20.4	厚 6.6				C20-M10-Y0-BL60		K04-1
1976	8c	SX02 北東	020621, 020620	瓦	飾瓦 K04 型式		残長 15.5	残幅 10.1	厚 7.3				C20-M10-Y10-BL10		K04-2
1977	—	SX02 北西	020615	瓦	飾瓦 K04 型式		残長 10.9	残幅 7.3	厚 7.1				C30-M10-Y10-BL60		K04-3
1978	11h	SK01 B	020808	瓦	飾瓦 K04 型式		残長 13.5	残幅 8.9	厚 7.6				C60-M30-Y30-BL60		K04-4
1979	11h	SK01 B	020809	瓦	飾瓦 K04 型式								C40-M20-Y20-BL60		K04-5
1980	11h	SK01	020613	瓦	飾瓦 K04 型式								C10-M10-Y20-BL60		K04-6
1981	13b	SD12	020726	瓦	鬼瓦		長 43.1	幅 32.6	厚 7.7				C60-M40-Y40-BL30		寺西家家紋
1982	11i	SK01	020528	瓦	鬼瓦		残長 12.3	残幅 11.3	厚 7.6				C10-M0-Y0-BL60		
1983	11i	SK01	020530	瓦	鬼瓦?		残長 9.1	残幅 6.4	残厚 2.1				C40-M20-Y30-BL60		
1984	—	SK01	—	瓦	鬼瓦		残長 19.5	残幅 14.9	厚 4.9				C40-M20-Y30-BL60		
1985	11g	SK63	020814	瓦	鬼瓦		残長 11.7	残幅 11.3	残厚 4.4				C30-M20-Y20-BL60		
1986	11d	SK156	020723	瓦	鬼瓦		残長 10.8	残幅 8.5	厚 3.4				C60-M40-Y40-BL10		
1987	11g	SK63	020819	瓦	鬼瓦		残長 11.7	残幅 7.3	厚 3.5				C30-M20-Y20-BL60		
1988	10a	SX05	020703	瓦	鬼瓦		残長 12.5	残幅 9.2	厚 5.8				C40-M20-Y20-BL60		
1989	9b	検出 I	020523	瓦	鬼瓦		残長 10.6	残幅 9.3	残厚 5.5				C30-M20-Y20-BL60		
1990	10d	SK127	020626	瓦	鬼瓦		残長 14.4	幅 8.6	残厚 3.3				C0-M0-Y10-BL60		
1991	13c	SK163	020725	瓦	鬼瓦?		残長 7.2	残幅 6.5	厚 2.6				C30-M20-Y30-BL60		
1992	11f	SK16	020606	瓦	鬼瓦?		残長 11.5	残幅 8.5	厚 2.2				C40-M20-Y30-BL60		
1993	12f	SK185	020726	瓦	鬼瓦		残長 15.3	残幅 9.6	厚 3.6				C30-M20-Y30-BL60		

名古屋城三の丸遺跡 VII

図版番号	グッド	遺構番号	日付	産地・材質	器種	時期	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	内面	外面	胎土(外部)	釉1	備考
1994	11i	SK01 清掃中	020705	瓦	菊丸瓦 Z01 型式								C20-M10-Y20-BL60		Z01-1
1995	11h	SK01 B	020807	瓦	菊丸瓦 Z01 型式								C20-M10-Y20-BL30		Z01-2
1996	11i	SK01 トレンチ	020806	瓦	菊丸瓦 Z01 型式								C30-M20-Y20-BL60		Z01-3
1997	11h	SK01	020613	瓦	菊丸瓦 Z01 型式								C30-M10-Y10-BL60		Z01-5
1998	11h, 11i	SK01 トレンチ	020806	瓦	菊丸瓦 Z01 型式		長 14.7	幅 9.3	厚 1.8				C40-M20-Y20-BL60		Z01-4
1999	10e	SK94 北下層	020702	瓦	菊丸瓦 Z02 型式								C30-M20-Y30-BL60		Z02-1
2000	11i	SK01 A	020807	瓦	菊丸瓦 Z02 型式								C20-M10-Y10-BL30		Z02-2
2001	10c	SX02T-01	020610	瓦	菊丸瓦 Z02 型式								C30-M20-Y20-BL60		Z02-3
2002	一, 9b	SX02 北西	020625, 020527	瓦	菊丸瓦 Z03 型式								C20-M10-Y20-BL60		Z03-1
2003	—	SX09	020917	瓦	面戸瓦		残長 10.8	幅 6.5	厚 1.7				C30-M20-Y20-BL60		
2004	11i	SK01 ベルト	020805	瓦	面戸瓦?				厚 2.1				C30-M20-Y20-BL60		
2005	11i	SK01 ベルト	020805	瓦	輪違い瓦		長 14.0	残幅 13.5	厚 1.7				C30-M20-Y20-BL60		
2006	11i	SK01 ベルト	020805	瓦	輪違い瓦		長 14.2	残幅 12.9	厚 1.8				C10-M0-Y0-BL60		
2007	—	SK01	—	瓦	輪違い瓦		長 14.4	残幅 14.0	厚 1.8				C40-M20-Y20-BL60		
2008	—	SK01	—	瓦	輪違い瓦		残長 11.1	幅 12.6	厚 2.0				C30-M20-Y20-BL60		
2009	12h	SK01	020613	瓦	輪違い瓦		長 14.6	残幅 10.1	厚 2.1				C80-M60-Y60-BL60		
2010	11i	SK01 トレンチ	020806	瓦	輪違い瓦		残長 16.7	残幅 10.3	厚 2.0				C30-M20-Y30-BL60		
2011	11h	SK01 B	020809	瓦	輪違い瓦		長 17.0	幅 14.5	厚 2.4				C40-M20-Y20-BL60		
2012	—	SX02 北東	020626	瓦	輪違い瓦		長 14.5	残幅 13.9	厚 1.9				C80-M60-Y60-BL60		
2013	11h	SK01, SK47	020806	瓦	輪違い瓦		長 12.2	残幅 11.8	厚 2.4				C30-M20-Y20-BL10, C30-M20-Y20-BL60		
2014	10a	SX05	020703	瓦	輪違い瓦		長 14.6	残幅 11.3	厚 2.0				C40-M20-Y30-BL60		
2015	10d	検出 I	020522	瓦	輪違い瓦		長 11.5	残幅 10.3	厚 1.8				C40-M20-Y20-BL60		
2016	11g	SK63	020819	瓦	輪違い瓦		長 15.8	幅 14.0	厚 2.0				C40-M20-Y20-BL60		
2017	11g	SK63	020819	瓦	輪違い瓦		長 15.5	幅 14.2	厚 2.1				C40-M20-Y20-BL60		
2018	11g	SK63	020819	瓦	輪違い瓦		長 16.6	幅 13.5	厚 2.0				C40-M20-Y20-BL60		
2019	12h	SK01	020613	瓦	丸瓦系道具瓦		残長 17.0	残幅 9.8	厚 2.2				C60-M40-Y40-BL30		
2020	11h	SK01 B	020808	瓦	丸瓦系道具瓦		残長 12.4	残幅 7.3	厚 2.2				C60-M30-Y30-BL60		
2021	11h	SK01	020611	瓦	丸瓦系道具瓦		残長 10.5	幅 8.6	厚 1.3				C60-M30-Y30-BL60		
2022	11i	SK01 ベルト	020802	瓦	丸瓦系道具瓦		残長 10.8	残幅 7.2	厚 2.6				C80-M60-Y60-BL60		
2023	—	表土	020513	瓦	丸瓦系道具瓦		残長 14.0	残幅 12.7	厚 7.9				C30-M20-Y30-BL60		
2024	—	SX02 北西	020625	瓦	丸瓦系道具瓦		残長 18.5	残幅 8.9	厚 2.0				C40-M30-Y30-BL0		
2025	13j	SK11	020603	瓦	丸瓦系道具瓦		残長 10.2	残幅 8.5	厚 2.6				C40-M20-Y30-BL60		
2026	13c	検出 II	020729	瓦	丸瓦系道具瓦		残長 7.5	残幅 7.5	厚 1.8		コビキ A		C10-M0-Y0-BL60		
2027	11i	SK01 ベルト	020805	瓦	平瓦系道具瓦		残長 22.1	幅 14.6	厚 3.5				C10-M0-Y0-BL60		
2028	11h	SK01 B	020807	瓦	平瓦系道具瓦		残長 17.5	残幅 13.8	厚 5.3				C30-M20-Y20-BL60		
2029	—	SK01	—	瓦	平瓦系道具瓦		残長 11.3	残幅 7.6	厚 4.9				C30-M20-Y20-BL60		
2030	11h	SK01 B	020807	瓦	平瓦系道具瓦		残長 12.2	残幅 12.2	厚 2.5				C40-M20-Y20-BL60		
2031	11h	SK01 B	020805	瓦	平瓦系道具瓦		残長 20.2	残幅 12.1	厚 2.0				C60-M40-Y40-BL60		
2032	11h	SK01 B	020807	瓦	平瓦系道具瓦		残長 16.3	残幅 12.2	厚 2.0				C60-M40-Y40-BL60		
2033	11i	SK01 ベルト中	020805	瓦	平瓦系道具瓦		残長 9.9	残幅 7.2	厚 2.4				C40-M20-Y30-BL60		
2034	11b	SD13	020621	瓦	平瓦系道具瓦		残長 18.6	残幅 18.0	厚 2.4				C0-M0-Y10-BL60		
2035	14e, d	SX09	020919	瓦	平瓦系道具瓦		残長 19.8	残幅 14.8	厚 1.8				C30-M20-Y30-BL60		
2036	8c	SX02 北東	020621	瓦	平瓦系道具瓦		残長 8.5	残幅 7.3	厚 1.4				C20-M10-Y30-BL60		
2037	11b	T03	020621	瓦	平瓦水返し付		残長 9.5	残幅 8.2	厚 3.0				C30-M20-Y20-BL60		
2038	10a	SX05	020703	瓦	平瓦系道具瓦		残長 12.5	残幅 9.7	残厚 2.4				C30-M20-Y20-BL60		
2039	9c	T01	020528	瓦	緑釉瓦丸瓦		残長 10.5	幅 13.0	厚 1.8			墨書	10YR8/2 灰白	C60-M30-Y100-BL60	
2040	-	表土	020424	瓦	緑釉瓦丸瓦		残長 10.3	残幅 8.2	厚 2.2				10YR8/2 灰白	C60-M30-Y100-BL60	
2041	8c	SX02 北東	020621	瓦	緑釉瓦丸瓦		残長 21.6	残幅 9.9	厚 1.5			墨書「中」	10YR7/3 にぶい黄橙	C80-M60-Y80-BL60	
2042	—	SX02 北西	020625	瓦	緑釉瓦丸瓦		残長 9.1	残幅 5.7	厚 1.8			墨書	2.5Y8/2 灰白	C80-M40-Y100-BL60	



遺物一覧表

図版番号	グランド	遺構番号	日付	産地・材質	器種	時期	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	内面	外面	胎土(外部)	釉1	備考
2043	—	SX02北東下層	020621	瓦	緑釉瓦丸瓦		残長 7.4	残幅 3.6	厚 1.5				2.5Y8/2 灰白	C60-M30-Y60-BL10	
2044	—	SX02南西	020624	瓦	緑釉瓦丸瓦		残長 5.6	残幅 4.8	厚 1.4				2.5Y8/2 灰白	C60-M40-Y80-BL0	
2045	—	SX02北東	020620	瓦	緑釉瓦丸瓦		残長 4.0	残幅 1.7	厚 1.2				10YR8/3 浅黄橙	C80-M60-Y80-BL60	
2046	8c	SX02北東	020621	瓦	緑釉瓦丸瓦		残長 8.8	残幅 6.0	厚 1.5				2.5Y8/2 灰白	C80-M40-Y100-BL60	
2047	—	SX02北西	020625	瓦	緑釉瓦丸瓦		残長 10.0	残幅 6.4	厚 1.9				2.5Y8/2 灰白	C80-M40-Y80-BL0	
2048	8d	SX02北東	020621	瓦	緑釉瓦丸瓦		残長 10.7	残幅 4.1	厚 1.5				10YR7/2 にぶい黄橙	C30-M20-Y80-BL60	
2049	10b	SX04	020626	瓦	緑釉瓦丸瓦		残長 4.0	残幅 3.3	厚 1.1				2.5Y8/2 灰白	C40-M30-Y100-BL60	
2050	8c	SX02北東	020621	瓦	緑釉瓦平瓦		残長 12.2	残幅 9.3	厚 2.2				2.5Y8/2 灰白	C60-M40-Y80-BL60	
2051	—	SX02北東1層	020619	瓦	緑釉瓦平瓦		残長 13.4	残幅 12.2	厚 1.4			墨書	2.5Y8/2 灰白	C60-M10-Y60-BL60	
2052	—	SX02北西	020625	瓦	緑釉瓦平瓦		残長 5.5	残幅 4.5	厚 1.1				2.5Y8/2 灰白	C60-M20-Y60-BL60	
2053	—	SX02北西	020625	瓦	緑釉瓦平瓦		残長 8.6	残幅 5.6	厚 1.3				2.5Y8/2 灰白	C80-M40-Y100-BL30	
2054	—	表土	020424	瓦	緑釉瓦平瓦		残長 8.1	残幅 7.9	厚 1.6				2.5Y8/2 灰白	C80-M30-Y100-BL60	
2055	8c	SX02北東	020621	瓦	緑釉瓦平瓦 糸道具瓦?		残長 8.5	残幅 4.2	厚 2.1				2.5Y8/2 灰白	C100-M40-Y60-BL60	
2056	—	SX02北東	020620	瓦	長石釉瓦道具瓦?		残長 5.8	残幅 2.9	厚 1.0			墨書	2.5Y8/2 灰白	2.5Y7/1 灰白	
2057	—	SX02北東	020620	瓦	緑釉瓦のし瓦		長 11.5	残幅 8.8	厚 1.6				2.5Y8/2 灰白	C60-M20-Y80-BL60	
2058	—	SX02北西	020625	瓦	緑釉瓦飾瓦		残長 17.4	幅 12.2	厚 1.8				2.5Y8/2 灰白	C80-M30-Y100-BL60	
2059	—	SX02南西	020624	瓦	緑釉瓦飾瓦		残長 24.3	残幅 17.5	厚 2.8			墨書	2.5Y8/2 灰白	C100-M80-Y100-BL60	
2060	12b	SK96	020621	瀬戸磁器?	大碗		14.8	6.0	5.4	15.0	白磁釉、コバルト 鉄、酸化クロム 釉	白磁釉、コバルト 鉄、酸化クロム 釉、高台端部露胎	9/ 白	C60-M30-Y60-BL10	CO-M10-Y60-BL60
2061	12b	SK96	020621	瀬戸磁器?	大碗		14.8	5.8	5.2	15.0	白磁釉、コバルト 鉄、酸化クロム 釉	白磁釉、コバルト 鉄、酸化クロム 釉、高台端部露胎	9/ 白	C60-M30-Y60-BL10	CO-M10-Y60-BL60
2062	12b	SK96	020621	瀬戸磁器?	大碗		14.6	6.0	5.4	14.8	白磁釉、コバルト 鉄、酸化クロム 釉	白磁釉、コバルト 鉄、酸化クロム 釉、高台端部露胎	9/ 白	C60-M30-Y60-BL10	CO-M10-Y60-BL60
2063	12b	SK96	020621	瀬戸磁器?	大碗		14.0	5.1	5.8	14.2	白磁釉、コバルト 鉄、酸化クロム 釉	白磁釉、コバルト 鉄、酸化クロム 釉、高台端部露胎	9/ 白	9/ 白	C100-M80-Y10-BL0
2064	12b	SK96	020621	瀬戸磁器?	大碗		14.0	5.1	5.6	14.2	白磁釉、コバルト 鉄、酸化クロム 釉	白磁釉、コバルト 鉄、酸化クロム 釉、高台端部露胎	9/ 白	9/ 白	C100-M80-Y10-BL0
2065	12b	SK96	020621	瀬戸磁器?	大碗		13.8	5.1	5.8	14.1	白磁釉、コバルト 鉄、酸化クロム 釉	白磁釉、コバルト 鉄、酸化クロム 釉、高台端部露胎	9/ 白	C4-M4-Y4-BL0	C100-M80-Y10-BL0
2066	12b	SK96	020621	瀬戸磁器?	大碗		15.2	7.2	5.9	15.6	白磁釉、コバルト 鉄、口紅	白磁釉、コバルト 鉄、高台端部露胎	9/ 白	9/ 白	C60-M80-Y100-BL30
2067	12b	SK96	020621	瀬戸磁器?	大碗		15.0	7.2	6.0	15.5	白磁釉、コバルト 鉄、口紅	白磁釉、コバルト 鉄、高台端部露胎	9/ 白	9/ 白	C60-M80-Y100-BL30
2068	12b	SK96	020621	瀬戸磁器?	大碗		15.1	7.2	6.1	15.5	白磁釉、コバルト 鉄、口紅	白磁釉、コバルト 鉄、高台端部露胎	9/ 白	9/ 白	C60-M80-Y100-BL30
2069	12b	SK96	020621	瀬戸磁器?	大碗		15.0	7.1	6.0	15.4	白磁釉、コバルト 鉄、口紅	白磁釉、コバルト 鉄、高台端部露胎	9/ 白	9/ 白	C60-M80-Y100-BL30
2070	12b	SK96	020621	瀬戸磁器?	大碗		15.2	7.2	6.0	15.6	白磁釉、コバルト 鉄、口紅	白磁釉、コバルト 鉄、高台端部露胎	9/ 白	9/ 白	C60-M80-Y100-BL30
2071	12b	SK96	020621	瀬戸磁器?	大碗		15.0	7.2	6.0	15.4	白磁釉、コバルト 鉄、口紅	白磁釉、コバルト 鉄、高台端部露胎	9/ 白	9/ 白	C60-M80-Y100-BL30
2072	12b	SK96	020621	瀬戸磁器?	大碗		推 15.2	7.2	推 6.0	推 15.6	白磁釉、コバルト 鉄、口紅	白磁釉、コバルト 鉄、高台端部露胎	9/ 白	9/ 白	C60-M80-Y100-BL30
2073	12b	SK96	020621	瀬戸磁器?	小杯		5.5	2.9	2.3	5.7	白磁釉、コバルト 鉄	白磁釉、高台端部露胎	9/ 白	9/ 白	
2074	12b	SK96	020621	瀬戸磁器?	小杯		7.5	5.2	3.2	7.6	白磁釉、口紅	白磁釉、高台端部露胎、上絵付赤、スタンプ文	9/ 白	9/ 白	CO-M80-Y80-BL30、C30-M0-Y10-BL0、CO-M100-Y80-BL30、C100-M100-Y100-BL0
2075	12b	SK96	020621	瀬戸磁器?	湯呑		6.8	6.7	4.3	6.9	白磁釉	白磁釉、高台端部露胎	9/ 白	9/ 白	
2076	12b	SK96	020621	瀬戸磁器?	湯呑		6.4	6.7	4.3	6.8	白磁釉	白磁釉、高台端部露胎	9/ 白	9/ 白	
2077	12b	SK96	020621	瀬戸磁器?	小杯		5.2	5.9	3.5	5.3	瑠璃釉	瑠璃釉、底部露胎、型押し	9/ 白	C60-M40-Y0-BL10	
2078	12b	SK96	020621	瀬戸磁器?	湯呑		7.6	7.7	4.8	8.0	白磁釉	白磁釉、上絵付(赤)印刷、高台端部露胎	9/ 白		CO-M80-Y80-BL0
2079	12b	SK96	020621	瀬戸磁器?	湯呑		7.6	7.6	4.4	7.8	白磁釉	白磁釉、上絵付(赤)印刷、高台端部露胎	9/ 白	CO-M0-Y0-BL4	
2080	12b	SK96	020621	瀬戸磁器?	湯呑		7.3~7.7	6.7	4.4	7.8	白磁釉	白磁釉、上絵付①目の丸→赤色 ②文字→青色	9/ 白	CO-M0-Y4-BL4	CO-M80-Y80-BL0、
2081	12b	SK96	020621	ノリタケ磁器?	カップ		推 4.7	残 4.7			白磁釉	白磁釉、上絵付	9/ 白	9/ 白	
2082	12b	SK96	020621	瀬戸磁器?	皿		14.8	2.8	7.8	15.2	白磁釉	半分が露胎、残りは白磁釉、高台端部露胎、突帯	9/ 白	CO-M0-Y0-BL4	
2083	12b	SK96	020621	碁子	ノッパ碁子		3.0	5.0	3.4	3.4	白磁釉	白磁釉、底部露胎、型の合わせ目1対	9/ 白	9/ 白	

名古屋城三の丸遺跡 VII

図版番号	グッド	遺構番号	日付	産地・材質	器種	時期	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	内面	外面	胎土(外部)	釉1	備考
2084	12b	SK96	020621	瀬戸磁器?	蓋			2.6	1.2	3.0	—	白磁釉、下半露胎、型の合わせ目1対、タール状黒色付着物	9/白	C4-M4-Y4-BL4	
2085	12b	SK96	020621	瀬戸磁器?	蓋			2.5	1.2	2.8	—	白磁釉、下半露胎、型の合わせ目1対あり	9/白	C0-M0-Y4-BL4	
2086	12b	SK96	020621	瀬戸磁器?	徳利		推 2.2	13.0	4.4	7.6	白磁釉	白磁釉、上絵付	9/白	C4-M0-Y4-BL8	C10-M80-Y100-BL10, C40-M0-Y20-BL0, C0-M0-Y8-BL0
2087	12b	SK96	020621	瀬戸美濃陶器	四方植木鉢		長径 17.8	7.4		短径 15.2	なまこ釉、下半露胎、ヘラケズリ、指ナデ	なまこ釉、底部露胎、指ナデ	2.5Y8/2 灰白	C60-M10-Y30-BL0	C60-M40-Y80-BL0 型つくり
2088	12b	SK96	020621	土器	植木鉢		10.4	10.2	6.8	10.8	露胎、ヨコナデ、コテナデ	露胎、ヨコナデ?、三方向スカシ、黒書「西七番病室」	5YR6/6 橙		衣浦常滑系か?
2089	12b	SK96	020621	土器	植木鉢		推 12.0	10.0	推 7.5	推 12.4	露胎、ヨコナデ、コテナデ	露胎、口縁マンガン釉、ヨコナデ、調整不明	2.5YR5/6 明赤褐		衣浦常滑系
2090	12b	SK96	020621	土器	植木鉢		15.4	13.6	9.6	15.8	露胎、ヨコナデ、コテナデ	露胎、ヨコナデ、調整不明	5YR6/6 橙		衣浦常滑系
2091	12b	SK96	020621	土器	植木鉢		推 15.4	14.3	推 10.4	推 16.0	露胎、ヨコナデ、コテナデ	露胎、ヨコナデ	5YR7/4 にふい橙		衣浦常滑系
2092	12b	SK96	020621	土器	植木鉢	大正以降	26.6	19.7	16.0	27.0	露胎、ヨコナデ、コテナデ	露胎、ヨコナデ、調整不明	10R4/6 赤		衣浦常滑系
2093	12b	SK96	020621	産地不明磁器	灰皿			5.7	10.6?		青磁釉、白磁釉	青磁釉、下半露胎	9/白	C30-M0-Y20-BL10	型打?
2094	12b	SK96	020621	瀬戸磁器?	蓋		推 14.8	5.4	推 4.8	推 15.6	白磁釉	白磁釉、露胎	9/白	9/白	
2095	12b	SK96	020621	瀬戸磁器?	汚物入れ		15.2	14.5	14.0	15.6	白磁釉	口縁部露胎、白磁釉	9/白	9/白	
2096	12b	SK96	020621	プラスチック?	歯ブラシ		長 16.1	幅 1.1	厚 0.5			毛残る	C0-M6-Y12-BL6		
2097	12b	SK96	020621	プラスチック?	歯ブラシ		長 15.3	幅 1.1	厚 0.5			毛残る	C0-M30-Y100-BL10		
2098	12b	SK96	020621	ガラス	瓶		1.9	24.4	5.2	6.4		陽刻「大日本麥酒株式会社製造」「BNK」	C8-M4-Y12-BL0		うすい緑色系
2099	12b	SK96	020621	ガラス	瓶		1.8	24.8	4.6	6.0	内容物の痕跡?	陽刻「3DLITER」「10」	C20-M4-Y10-BL4		青色系
2100	12b	SK96	020621	ガラス	瓶		2.0	残 23.0		6.4			C6-M0-Y8-BL0		うすい緑色系
2101	12b	SK96	020621	ガラス	瓶		2.3	20.2	7.4	8.6			C80-M60-Y100-BL10		緑色系
2102	12b	SK96	020621	ガラス	瓶		3.6	15.9	推 4.2	推 6.8			無色透明		無色系
2103	12b	SK96	020621	ガラス	瓶		2.8	14.4	4.8	5.7		陽刻「内田牧場電二二六七」「高温殺菌 全乳一八八粉入」	無色透明		無色系
2104	12b	SK96	020621	ガラス	瓶			残 13.1	4.1	5.3		陽刻「全乳」「都築牧場 電話東六八七一番(呼)」「正1.8粉 非黄燐」	無色透明		無色系
2105	12b	SK96	020621	ガラス	瓶		1.3	18.1	3.8	4.5	わずかに気泡	陽刻「容器非賣」	C20-M0-Y16-BL6		うすい緑色系
2106	12b	SK96	020621	ガラス	瓶		2.5	16.8	6.4	7.3	わずかに気泡	陽刻「京都陸軍病院」「瓶製田増」	C20-M0-Y10-BL4		うすい青色系
2107	12b	SK96	020612	ガラス	瓶			残 12.2	4.1	推 5.6	わずかに気泡		C16-M0-Y16-BL0		うすい青色系
2108	12b	SK96	020621	ガラス	瓶			残 8.4	4.6	5.2	わずかに気泡	陽刻「レットワード」底部陽刻「P」	無色透明		透明系
2109	12b	SK96	020621	ガラス	瓶		2.4	6.9	4.2	5.9	わずかに気泡	底部陽刻「PILOT 2oz」「MADE IN JAPAN」	C0-M0-Y4-BL0		うすい黄色系
2110	12b	SK96	020621	ガラス	瓶		1.4	8.5	3.2	4.0	わずかに気泡		C0-M0-Y0-BL4		透明系
2111	12b	SK96	020621	ガラス	瓶		1.4	8.1	2.6	2.8	付着物あり、わずかに気泡	歪みあり	無色透明		透明系
2112	12b	SK96	020621	ガラス	瓶		1.6	7.2	1.9	2.3	わずかに気泡	底部陽刻「15」	無色透明		透明系
2113	12b	SK96	020621	ガラス	瓶		2.0	6.0	4.2	5.1	わずかに気泡	底部陽刻	無色透明		透明系
2114	12b	SK96	020621	ガラス	瓶		4.4	9.4	3.9	5.4	わずかに気泡	陽刻「TABLE SALT」	C20-M0-Y10-BL8		ややうすい青色系
2115	12b	SK96	020621	プラスチック	蓋		1.7	1.6	-	1.7	わずかに気泡	やや魚けている	2.5Y5/6 黄褐		
2116	12b	SK96	020621	ガラス	瓶		1.1	12.6	4.5	5.2	わずかに気泡	陽刻「ヘチマ○」底部「登録商標 180300」	C100-M10-Y100-BL30		緑色系
2117	12b	SK96	020621	ガラス	瓶		3.8	3.3	3.6	4.5			9/白		白色系
2118	12b	SK96	020621	ガラス	瓶		4.5	3.9	4.6	5.0			C20-M0-Y10-BL8		うすい青色系
2119	12b	SK96	020621	ガラス	瓶		4.4	4.3	4.6	5.1	気泡くあり		C20-M0-Y10-BL8		うすい青色系
2120	12b	SK96	020621	ガラス	瓶		3.7	4.4	4.0	4.5		底部に突起1ヶ	9/白		白色系
2121	12b	SK96	020621	ガラス	瓶		4.4	4.9	5.0	5.3	口唇部に緑色付着物	底部に○△の突起物	9/白		白色系
2122	12b	SK96	020621	ガラス	瓶		4.6	5.7	5.0	5.2	褐色付着物あり		C4-M4-Y4-BL4		白色系
2123	12b	SK96	020621	プラスチック	蓋		3.4	1.1	-	3.4			7.5Y5/3 灰オリーブ		蓋
2124	12b	SK96	020621	ガラス	瓶		3.6	4.9	4.0	4.9			9/白		白色系
2125	12b	SK96	020621	ガラス	瓶		4.8	9.2	3.5	5.8	わずかに気泡	口縁付近鉄錆状のもの付着、底部陽刻「705」	無色透明		透明系
2126	12b	SK96	020621	ガラス	コップ		5.5	9.1	4.0	5.8	わずかに気泡	底部陽刻	無色透明		透明系
2127	12b	SK96	020621	ガラス	コップ		5.5	9.1	4.0	5.8	わずかに気泡	底部陽刻	無色透明		透明系
2128	12b	SK96	020621	ガラス	瓶		3.7	7.4	2.8	4.5	気泡あり		C20-M0-Y10-BL8		うすい青色系
2129	12b	SK96	020621	ガラス	瓶		4.0	7.4	3.2	4.5	気泡あり		C20-M0-Y10-BL8		うすい青色系

遺物一覧表

図版番号	グランド	遺構番号	日付	産地・材質	器種	時期	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	内面	外面	胎土(外部)	軸I	備考
2130	12b	SK96	020621	ガラス	瓶		3.2	7.3	3.1	4.4	気泡ややあり		C20-M0-Y10-BL8		うすい青色系
2131	12b	SK96	020621	ガラス	瓶		3.3	7.3	3.0	4.3	気泡あり		C20-M0-Y10-BL8		うすい青色系
2132	12b	SK96	020621	ガラス	瓶		3.8	7.2	3.0	4.4	気泡ややあり		C20-M0-Y10-BL8		うすい青色系
2133	12b	SK96	020621	ガラス	瓶		3.9	7.5	3.0	4.4	気泡ややあり		C20-M0-Y10-BL8		うすい青色系
2134	12b	SK96	020621	ガラス	瓶		2.8	7.3	2.8	4.4	気泡少しあり		C20-M0-Y10-BL8		うすい青色系
2135	12b	SK96	020621	ガラス	瓶		3.8	7.4	3.0	4.4	気泡少しあり		C20-M0-Y10-BL8		うすい青色系
2136	12b	SK96	020621	ガラス	瓶		3.1	7.3	3.0	4.4	気泡多くあり		C20-M0-Y10-BL8		うすい青色系
2137	12b	SK96	020621	ガラス	瓶		3.1	7.3	2.8	4.5	気泡少しあり		C20-M0-Y10-BL8		うすい青色系
2138	12b	SK96	020621	ガラス	瓶		3.0	7.3	2.9	4.4	気泡あり		C20-M0-Y10-BL8		うすい青色系
2139	12b	SK96	020621	ガラス	瓶		2.8	7.3	2.8	4.3	気泡多くあり		C20-M0-Y10-BL8		うすい青色系
2140	12b	SK96	020621	ガラス	瓶		3.1	7.3	2.9	4.4	気泡少しあり		C20-M0-Y10-BL8		うすい青色系
2141	12b	SK96	020621	ガラス	瓶		3.1	7.2	2.8	4.4	気泡あり		C20-M0-Y10-BL8		うすい青色系
2142	12b	SK96	020621	ガラス	瓶		3.9	7.5	2.8	4.4	気泡少しあり		C20-M0-Y10-BL8		うすい青色系
2143	12b	SK96	020621	ガラス	試験管			残13.8		1.6			無色透明		透明系
2144	12b	SK96	020621	ガラス	試験管		1.6	残13.7		1.6		白色プリント	無色透明		透明系
2145	12b	SK96	020621	ガラス	試験管		1.3	残10.7		1.4		口縁やや歪む、玉緑状	無色透明		透明系
2146	12b	SK96	020621	ガラス	試験管			残10.0		1.8			無色透明		透明系
2147	12b	SK96	020621	ガラス	試験管			残9.9		1.7			無色透明		透明系
2148	12b	SK96	020621	ガラス	試験管			残8.2		1.7			無色透明		透明系
2149	12b	SK96	020621	ガラス	試験管		1.6	残4.3		1.7		口縁歪む、玉緑状	無色透明		透明系
2150	12b	SK96	020621	ガラス	試験管			残3.5		1.0			無色透明		透明系
2151	12b	SK96	020621	ガラス	スライドガラス		最大長7.8	最大幅2.6	最大厚0.15				無色透明		
2152	12b	SK96	020621	ガラス	スライドガラス		最大長7.7	最大幅2.6	最大厚0.07				無色透明		
2153	12b	SK96	020621	ガラス	スライドガラス		最大長7.7	最大幅2.6	最大厚0.13				無色透明		
2154	12b	SK96	020621	ガラス	スライドガラス		残存長3.7	最大幅2.7	最大厚0.13				無色透明		
2155	12b	SK96	020621	ガラス	スライドガラス		残存長6.3	最大幅2.6	最大厚0.13				無色透明		
2156	12b	SK96	020621	ガラス	スライドガラス		残存長4.3	最大幅2.6	最大厚0.08				無色透明		
2157	12b	SK96	020621	ガラス	板ガラス		残存長9.1	残存幅8.5	最大厚0.22				無色透明		
2158	12b	SK96	020621	ガラス	板ガラス		残存長11.5	残存幅6.7	最大厚0.2				無色透明		
2159	12b	SK96	020621	ガラス	板ガラス		残存長11.8	残存幅7.6	最大厚0.2				C6-M4-Y6-BL0		
2160	12b	SK96	020621	プラスチック	ピンポン玉		3.7	1.9	-	3.7			9/白		
2161	12b	SK96	020621	プラスチック	ピンポン玉		3.7	3.7	-	3.7			9/白		
2162	12b	SK96	020621	その他の製品	乾電池?		長6.5	幅1.7	厚1.5						
2163	12b	SK96	020621	その他の製品	乾電池?		長6.7	幅1.7	厚1.7						
2164	12b	SK96	020621	その他の製品	乾電池?		長6.5	幅2.0	厚1.6						
2165	12b	SK96	020621	その他の製品	乾電池?		長6.5	幅1.6	厚1.5						
2166	12b	SK96	020621	その他の製品	乾電池?		長5.9	幅0.7	厚0.6						
2167	12b	SK96	020621	鉄製品	王冠(蓋)		2.9	0.9							
2168	12b	SK96	020621	鉄製品	王冠(蓋)		2.9	0.9							
2169	12b	SK96	020621	鉄製品	王冠(蓋)		3.1	0.9							
2170	12b	SK96	020621	鉄製品	王冠(蓋)		3.0	0.9							
2171	12b	SK96	020621	鉄製品	釘		長12.0	幅2.8	厚1.7						
2172	12b	SK96	020621	鉄製品	釘		残長6.7	幅1.9	厚1.8						
2173	12b	SK96	020621	鉄製品	釘		長7.2	幅1.7	厚1.3						
2174	12b	SK96	020621	鉄製品	円筒形容器			残2.9	5.2						
2175	12b	SK96	020621	鉄製品	円筒形容器		残長6.4	残幅5.2	厚0.3						
2176	12b	SK96	020621	鉄製品	円筒形容器			残3.6	8.0						
2177	12b	SK96	020621	鉄製品	円筒形容器			残4.9	8.5						
2178	12b	SK96	020621	鉄製品	円筒形容器			残3.0	11.4						
2179	12b	SK96	020621	その他の製品	蓋		長3.7	残幅3.6	厚1.7						
2180	12b	SK96	020621	鉄製品	箱物		残長10.5	幅8.2	厚1.0						
2181	12b	SK96	020621	鉄製品	箱物		残長11.8	残幅4.0	厚0.6						
2182	12b	SK96	020621	革製品	靴		長3.4	幅1.4	厚0.3						
2183	8c	SK56	020619	磚子	不明		最大長9.1	最大径6.2				露胎、白磁軸、黒色付着物	白磁軸、黒色付着物	9/白	9/白
2184	8c	SK56	020619	磚子	不明		残存長6.2	最大径5.0				露胎、クロム緑軸	クロム緑軸	C4-M4-Y4-BL4	C80-M30-Y80-BL30
2185	8c	SK56	020619	磚子	ノップ磚子		最大長5.1	最大径3.6				白磁軸	白磁軸、露胎	9/白	9/白
2186	8c	SK56	020619	磚子	ノップ磚子		最大長5.0	最大径3.6				白磁軸	白磁軸、底部露胎、黒色付着物	9/白	9/白
2187	8d	SK56	020614	石製品	碁石			0.6		2.2					3/暗灰
2188	8c	SK56	020619	革製品	靴		長5.7	幅9.6	厚0.1						
2189	8c	SK56	020619	革製品	靴		長15.4	幅9.1	厚0.1						
2190	8c	SK56	020619	革製品	靴		長12.7	幅9.1	厚0.5						

名古屋城三の丸遺跡 VII

図版番号	グッド	遺構番号	日付	産地・材質	器種	時期	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	内面	外面	胎土(外部)	釉1	備考
2191	8e	SK56	020619	革製品	靴		長 14.3	残幅 8.4	厚 0.3						
2192	8e	SK56	020619	革製品	靴		長 15.8	幅 9.1	厚 0.1						
2193	8e	SK56	020619	革製品	靴		長 6.8	残幅 5.3	厚 0.4						
2194	8e	SK56	020619	革製品	靴		長 6.7	残幅 6.1	厚 0.3						
2195	8e	SK56	020619	革製品	靴		長 11.1	幅 6.8	厚 0.5						
2196	8e	SK56	020619	革製品	靴		長 7.3	残幅 8.5	厚 0.2						
2197	8e	SK56	020619	革製品	靴		長 10.1	幅 7.0	厚 0.6						
2198	8e	SK56	020619	革製品	靴		長 15.6	幅 8.7	厚 0.3						
2199	8e	SK56	020619	革製品	靴		長 14.2	幅 4.0	厚 0.1						
2200	8e	SK56	020619	革製品	靴		長 7.1	幅 5.5	厚 0.3						
2201	8e	SK56	020619	革製品	靴		長 13.3	幅 8.9	厚 0.5						
2202	8e	SK56	020619	革製品	靴		長 6.9	幅 6.1	厚 0.4						
2203	8e	SK56	020619	革製品	靴		長 23.5	幅 7.5	厚 0.4						
2204	8e	SK56	020619	革製品	靴		長 23.2	幅 7.6	厚 0.2						
2205	8e	SK56	020621	真ちゅう製 品	ボタン			0.9		2.0					
2206	8e	SK56	020619	鉄製品	鉄筋とボルト		長 20.3	幅 3.9	厚 3.2						
2207	8e	SK56	020619	鉄製品	鉄筋?		長 15.2	幅 9.6	厚 1.0						
2208	8e	SK56	020619	銅製品	金具		長 2.8	幅 1.1	厚 1.1						
2209	8e	SK56	020619	鉄製品	戸車		長 3.5	幅 7.0	厚 1.7						
2210	8e	SK56	020619	銅+木製品	金具(鍵用?)		長 5.6	幅 4.7	厚 1.0						
2211	10c	SK114	020624	ガラス 薬	瓶		2.4	18.8	6.0	7.4	気泡多くあり	陽刻目盛り	C20-M0-Y8- BL4		うすい青色系
2212	10c	SK114	020624	ガラス 薬	瓶		2.2	18.8	5.9	7.3		陽刻目盛り	C16-M0-Y8- BL4		うすい青色系
2213	10c	SK114	020624	ガラス ラ ムネ	瓶		2.0	19.8	4.4	5.4	ビー玉入り		C20-M0-Y16- BL4		緑色系
2214	10c	SK114	020624	ガラス	瓶		5.5	4.3	6.4	6.6		陽刻「石 25」	無色透明		透明系
2215	10c	SK114	020624	瀬戸磁器	合子身		4.6	2.0	5.0	5.6	白磁釉	受口部露胎、白磁 釉、底部露胎	9/白	9/白	
2216	10c	SK114	020624	鉄製品	円筒形容器		4.6	1.8	4.5						
2217	8d	SK66	020614	鉄製品	容器		推 17.6	残 2.1							
2218	9d	SK68	020617	鉄製品	ハサミ		長 16.2	幅 6.8	厚 2.0						
2219	11e	SK25	020606	鉄製品	蛇口のつま み		長 6.1	幅 5.7	厚 1.2						
2220	11e	SK25	020606	鉄製品	鉄筋		長 14.4	幅 3.1	厚 1.3						
2221	11e	SK25	020606	鉄製品	釘		残長 4.6	幅 1.2	厚 1.0						
2222	11e	SK25	020606	ガラス	レンズ		長 5.3	幅 3.7	厚 0.5						
2223	11e	SK24	020607	ガラス	眼鏡レンズ		最大長 3.7	最大幅 3.6	最大厚 0.15				無色透明		
2224	11e	SK24	020607	木製品	建築部材片		長 25.9	幅 4.6	厚 4.5			ノコギリ			
2225	10d	SK107	020704	木製品	箱物		長 64.2	幅 13.6	厚 6.5			ノコギリ			
2226	8d	SK57	020614	木製品	板材(不明)		長 41.7	幅 10.6	厚 2.9			ノコギリ			
2227	10b	SK362	020919	木製品	板材(不明)		長 34.0	幅 13.8	厚 0.9			ノコギリ			
2228	10b	SK362	020919	木製品	結物底板		長 42.0	幅 17.6	厚 2.8			台カンナ?			
2229	10a	検出 I	020702	銅製品	不明(円盤)		長 1.5	幅 1.5	高 0.2						No 314
2230	10a	検出 I	020702	金属製品	徽章		長 1.6	幅 1.0	高 0.2						No 316
2231	10a	検出 I	020702	金属製品	活字		長 2.36	幅 0.74	高 0.74		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No 271 乙
2232	10a	検出 I	020702	金属製品	活字		長 2.36	幅 0.74	高 0.75		尻面溝 1本、空 洞	側面丸穴 1ヶ			No 272 二
2233	10a	検出 I	020702	金属製品	活字		長 2.6	幅 0.6	高 1.2						No 301 庶務
2234	10a	検出 I	020702	金属製品	活字		長 2.4	幅 0.6	高 1.2						No 300 人事
2235	10a	検出 I	020702	金属製品	活字		長 2.6	幅 0.5	高 0.5						No 298 昭
2236	10a	検出 I	020702	金属製品	活字		長 2.4	幅 0.6	高 0.6						No 299 入
2237	10a	検出 I	020702	金属製品	活字		長 2.38	幅 0.38	高 0.38		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No 1 軍
2238	10a	検出 I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.37	高 0.37		尻面溝 1本	側面丸穴 3ヶ			No 153 ト
2239	10a	検出 I	020702	金属製品	活字		長 2.36	幅 0.38	高 0.38		尻面溝 1本、穴	—			No 174 編
2240	10a	検出 I	020702	金属製品	活字		長 2.34	幅 0.38	高 0.38		尻面溝 1本	側面丸穴 2ヶ			No 193 備?
2241	10a	検出 I	020702	金属製品	活字		長 2.3	幅 0.4	高 0.4						No 302 郷
2242	10a	検出 I	020702	金属製品	活字		長 2.0	幅 0.6	高 0.5						No 310 スペース
2243	10a	検出 I	020702	金属製品	活字		長 2.0	幅 1.4	高 0.5						No 305 スペース
2244	10a	検出 I	020702	金属製品	活字		長 2.0	幅 1.5	高 0.5						No 307 スペース
2245	10a	検出 I	020702	金属製品	活字		長 2.0	幅 1.1	高 0.5						No 304 スペース
2246	10a	検出 I	020702	金属製品	活字		長 2.0	幅 1.0	高 0.5						No 309 スペース
2247	10a	検出 I	020702	金属製品	活字		長 2.0	幅 0.8	高 0.4						No 313 スペース
2248	10a	検出 I	020702	金属製品	活字		長 2.0	幅 0.7	高 0.3						No 312 スペース
2249	10a	検出 I	020702	金属製品	活字		長 2.0	幅 0.3	高 0.3						No 311 スペース
2250	10a	検出 I	020702	金属製品	活字		長 2.2	幅 0.9	高 0.2						No 308 スペース
2251	10a	検出 I	020702	金属製品	活字		長 4.1	幅 1.4	高 0.5						No 274
2252	10a	検出 I	020702	鉄製品	箱物		長 14.6	幅 9.2	高 11.1		活字が固着				
2253	10a	検出 I	020702	金属製品	活字		長 2.37	幅 0.38	高 0.38		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No 2 代
2254	10a	検出 I	020702	金属製品	活字		長 2.36	幅 0.37	高 0.37		尻面溝 1本	—			No 4 依
2255	10a	検出 I	020702	金属製品	活字		長 2.36	幅 0.38	高 0.38		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No 5 者
2256	10a	検出 I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.37	高 0.37		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No 6 團
2257	10a	検出 I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.38	高 0.38		尻面溝 1本	—			No 7 師
2258	10a	検出 I	020702	金属製品	活字		長 2.33	幅 0.39	高 0.39		—	—			No 8 十?
2259	10a	検出 I	020702	金属製品	活字		長 2.37	幅 0.37	高 0.37		—	側面丸穴 1ヶ			No 9 密
2260	10a	検出 I	020702	金属製品	活字		長 2.36	幅 0.37	高 0.37		尻面溝 1本	—			No 10 賃
2261	10a	検出 I	020702	金属製品	活字		長 2.36	幅 0.38	高 0.38		尻面溝 1本	—			No 11 洋
2262	10a	検出 I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.38	高 0.38		尻面溝 1本	—			No 12 ヨ

遺物一覽表

図版番号	グッド	遺構番号	日付	産地・材質	器種	時期	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	内面	外面	胎土(外部)	軸1	備考
2263	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.36	幅 0.38	高 0.38		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.14 諸
2264	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.38	高 0.38		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.15 谷
2265	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.34	幅 0.38	高 0.38		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.16 山
2266	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.37	高 0.37		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.18 法
2267	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.37	幅 0.38	高 0.38		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.19 伐
2268	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.38	幅 0.39	高 0.39		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.20 青
2269	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.36	幅 0.38	高 0.38		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.21 生
2270	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.36	幅 0.37	高 0.37		尻面溝 1本	—			No.22 樓
2271	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.37	幅 0.38	高 0.38		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.23 第
2272	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.37	高 0.37		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.24 試
2273	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.34	幅 0.37	高 0.38		尻面溝 1本	—			No.27 選?
2274	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.37	高 0.37		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.28 々残
2275	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.36	幅 0.37	高 0.37		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.29 耐
2276	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.36	幅 0.37	高 0.37		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.30 タ
2277	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.40	高 0.38		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.31 二
2278	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.36	幅 0.38	高 0.38		—	側面丸穴 1ヶ			No.32 歩?
2279	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.38	高 0.38		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.33 衛
2280	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.36	幅 0.37	高 0.37		?	側面丸穴 1ヶ			No.34 二
2281	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.40	幅 0.39	高 0.39		尻面溝 1本	—			No.35 ?
2282	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.36	幅 0.37	高 0.37		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.36 習
2283	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.38	高 0.37		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.37 護
2284	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.33	幅 0.38	高 0.38		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.38 月
2285	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.38	高 0.38		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.39 歩?
2286	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.36	幅 0.37	高 0.37		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.40 西
2287	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.36	幅 0.39	高 0.39		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.41 備
2288	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.36	幅 0.38	高 0.38		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.42 担
2289	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.45	幅 0.39	高 0.40		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.43 季
2290	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.37	高 0.37		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.44 取
2291	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.34	幅 0.38	高 0.41		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.45 貝
2292	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.37	幅 0.38	高 0.38		尻面溝 1本	—			No.46 八
2293	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.37	幅 0.38	高 0.38		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.47 歩
2294	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.38	高 0.38		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.48 償?
2295	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.38	高 0.38		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.49 工
2296	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.36	幅 0.38	高 0.38		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.50 了
2297	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.37	高 0.37		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.51 神
2298	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.38	高 0.37		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.52 篠?
2299	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.37	高 0.37		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.53 衛
2300	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.39	高 0.38		尻面溝 1本	—			No.54 迄?
2301	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.37	高 0.37		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.55 倉
2302	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.37	高 0.37		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.56 婦
2303	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.37	高 0.38		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.57 補
2304	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.38	高 0.38		尻面溝 1本	—			No.59 桶
2305	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.38	高 0.38		尻面溝 1本	—			No.60 品
2306	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.38	高 0.38		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.61 籍?
2307	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.38	高 0.38		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.62 分
2308	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.37	高 0.37		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.63 罫
2309	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.36	幅 0.38	高 0.38		尻面溝 1本	—			No.64 戦
2310	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.34	幅 0.37	高 0.37		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.65 終
2311	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.37	幅 0.38	高 0.38		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.66 殊
2312	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.37	高 0.37		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.67 役
2313	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.34	幅 0.37	高 0.37		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.68
2314	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.37	高 0.37		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.69 生
2315	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.38	高 0.38		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.70 ?
2316	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.38	高 0.38		尻面溝 1本	—			No.71 ?
2317	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.51	幅 0.42	高 0.45		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.72 附
2318	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.38	高 0.37		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.73 武
2319	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.38	高 0.38		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.74 第
2320	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.36	幅 0.37	高 0.37		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.75 子
2321	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.34	幅 0.38	高 0.38		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.77 期
2322	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.38	高 0.39		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.78 十
2323	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.34	幅 0.37	高 0.37		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.79 御
2324	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.43	幅 0.40	高 0.41		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.80 歩
2325	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.38	幅 0.38	高 0.37		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.81 際
2326	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.37	高 0.37		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.83 算
2327	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.37	幅 0.44	高 0.47		尻面溝 1本	—			No.84 衛
2328	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.39	高 0.39		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.85 十
2329	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.39	幅 0.41	高 0.42		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.86 九
2330	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.38	高 0.39		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.87 金
2331	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.37	高 0.37		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.88 軍
2332	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.37	高 0.37		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.89 昭
2333	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.37	高 0.37		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.90 岩
2334	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.34	幅 0.38	高 0.38		尻面溝 1本	—			No.91 二
2335	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.37	高 0.37		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.92 銃
2336	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.33	幅 0.39	高 0.39		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.93 五
2337	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.37	高 0.37		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.94 退
2338	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.38	高 0.38		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.95 /
2339	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.34	幅 0.37	高 0.38		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.96 和
2340	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.37	高 0.37		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.97 期
2341	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.38	高 0.38		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.98 佐
2342	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.36	幅 0.38	高 0.38		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.99 演
2343	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.34	幅 0.38	高 0.38		尻面溝 1本	—			No.100 店
2344	10a	検出I	020702	金属製品	活字		—	幅 0.40	高 0.39		?	側面丸穴 1ヶ			No.101 擧
2345	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.36	幅 0.38	高 0.38		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.102 隊?
2346	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.40	幅 0.38	高 0.38		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			No.103 官
2347	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.37	幅 0.38	高 0.37		尻面溝 1本	—			No.104 醫
2348	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.36	幅 0.38	高 0.38		尻面溝 1本	—			No.105 修



名古屋城三の丸遺跡 VII

図版番号	グッド	遺構番号	日付	産地・材質	器種	時期	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	内面	外面	胎土(外部)	釉1	備考
2349	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.45	幅0.43	高0.43		尻面溝1本	側面丸穴1ヶ			№106 者
2350	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.34	幅0.38	高0.37		尻面溝1本	側面丸穴1ヶ			№107 小
2351	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.35	幅0.38	高0.38		尻面溝1本	側面丸穴1ヶ			№108 色
2352	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.35	幅0.38	高0.38		尻面溝1本	側面丸穴1ヶ			№109 八
2353	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.36	幅0.38	高0.38		尻面溝1本	側面丸穴1ヶ			№110 中
2354	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.35	幅0.37	高0.38		尻面溝1本	側面丸穴1ヶ			№111 履
2355	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.35	幅0.38	高0.38		尻面溝1本	側面丸穴1ヶ			№112 東
2356	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.36	幅0.37	高0.37		尻面溝1本	側面丸穴1ヶ			№113 務
2357	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.35	幅0.37	高0.37		尻面溝1本	側面丸穴1ヶ			№114 曇
2358	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.34	幅0.38	高0.38		尻面溝1本	側面丸穴1ヶ			№115 青
2359	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.35	幅0.38	高0.37		尻面溝1本	側面丸穴1ヶ			№116 珊
2360	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.34	幅0.38	高0.37		尻面溝1本	側面丸穴1ヶ			№117 日
2361	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.36	幅0.37	高0.37		尻面溝1本	側面丸穴1ヶ			№119 東
2362	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.42	幅0.39	高0.39		尻面溝1本	側面丸穴1ヶ			№120 へ
2363	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.35	幅0.37	高0.37		尻面溝1本、穴	側面丸穴1ヶ			№121 校
2364	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.35	幅0.38	高0.38		尻面溝1本、穴	側面丸穴1ヶ			№122 區
2365	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.35	幅0.37	高0.37		尻面溝1本	側面丸穴1ヶ			№123 立
2366	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.35	幅0.38	高0.38		尻面溝1本	側面丸穴1ヶ			№125 沖
2367	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.36	幅0.38	高0.38		尻面溝1本	側面丸穴1ヶ			№126 剛
2368	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.35	幅0.37	高0.37		尻面溝1本	側面丸穴1ヶ			№127 官
2369	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.36	幅0.38	高0.38		尻面溝1本	側面丸穴1ヶ			№128 知?
2370	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.36	幅0.39	高0.38		尻面溝1本	側面丸穴1ヶ			№129 練
2371	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.36	幅0.38	高0.38		尻面溝1本	側面丸穴1ヶ			№130 小
2372	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.35	幅0.37	高0.37		尻面溝1本	側面丸穴1ヶ			№131 候
2373	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.35	幅0.38	高0.38		尻面溝1本	側面丸穴1ヶ			№133 陸
2374	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.34	幅0.38	高0.37		尻面溝1本	側面丸穴1ヶ			№134 通
2375	10a	検出1	020702	金属製品	活字		-	-	高0.38		尻面溝1本	側面丸穴1ヶ			№135 曹
2376	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.36	幅0.39	高0.38		尻面溝1本	側面丸穴1ヶ			№136 九
2377	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.35	幅0.38	高0.38		尻面溝1本、穴	側面丸穴1ヶ			№137 店
2378	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.40	幅0.40	高0.39		尻面溝1本	側面丸穴1ヶ			№139 木
2379	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.35	幅0.39	高0.39		尻面溝1本	側面丸穴1ヶ			№140 與
2380	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.36	幅0.38	高0.38		尻面溝1本	側面丸穴1ヶ			№142 レ
2381	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.43	幅0.39	高0.39		尻面溝1本	側面丸穴1ヶ			№143 原
2382	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.36	幅0.38	-		尻面溝1本	-			№144 職
2383	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.35	幅0.38	高0.38		尻面溝1本	側面丸穴1ヶ			№145 亞
2384	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.35	幅0.38	高0.38		尻面溝1本	側面丸穴1ヶ			№146 電
2385	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.35	幅0.37	高0.37		尻面溝1本	側面丸穴1ヶ			№147 本
2386	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.34	幅0.37	高0.37		尻面溝1本	側面丸穴1ヶ			№148 二
2387	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.36	幅0.38	高0.38		尻面溝1本	側面丸穴1ヶ			№149 幹?
2388	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.35	幅0.38	高0.37		尻面溝1本	側面丸穴1ヶ			№150 鏝
2389	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.35	幅0.38	高0.38		尻面溝1本	側面丸穴1ヶ			№151 ハ
2390	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.35	幅0.38	高0.38		尻面溝1本	側面丸穴1ヶ			№154 司?
2391	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.36	幅0.38	高0.38		尻面溝1本	側面丸穴1ヶ			№155 南
2392	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.36	幅0.38	高0.38		尻面溝1本	側面丸穴2ヶ			№156 季
2393	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.35	幅0.37	高0.37		尻面溝1本	側面丸穴1ヶ			№157 動
2394	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.37	幅0.38	高0.38		尻面溝1本	側面丸穴1ヶ			№158 沙
2395	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.36	幅0.37	高0.37		尻面溝1本	側面丸穴1ヶ			№159 第
2396	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.36	幅0.38	高0.38		尻面溝1本	側面丸穴1ヶ			№160 充
2397	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.35	幅0.38	高0.38		尻面溝1本	側面丸穴1ヶ			№161 金
2398	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.36	幅0.37	高0.37		尻面溝1本	側面丸穴1ヶ			№162 解
2399	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.36	幅0.37	高0.37		尻面溝1本	側面丸穴1ヶ			№163 備
2400	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.38	幅0.38	高0.38		尻面溝1本	側面丸穴1ヶ			№164 延
2401	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.36	幅0.38	高0.38		尻面溝1本	側面丸穴1ヶ			№165 ナ
2402	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.37	幅0.39	高0.39		尻面溝1本	側面丸穴1ヶ			№166 ハ
2403	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.36	幅0.37	高0.37		尻面溝1本	側面丸穴2ヶ?			№167 術
2404	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.34	幅0.37	高0.37		尻面溝1本	側面丸穴1ヶ			№169 年
2405	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.36	幅0.38	高0.38		尻面溝1本	側面丸穴1ヶ			№170 徴
2406	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.36	幅0.37	高0.37		尻面溝1本	側面丸穴1ヶ			№171 派
2407	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.35	幅0.28	高0.28		尻面溝1本	側面丸穴1ヶ			№172 鳴
2408	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.35	幅0.39	高0.37		尻面溝1本	側面丸穴1ヶ			№173 術?
2409	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.38	幅0.38	高0.38		尻面溝1本	側面丸穴1ヶ			№175 四
2410	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.36	幅0.37	高0.37		尻面溝1本	側面丸穴1ヶ			№176 貧
2411	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.35	幅0.38	高0.38		尻面溝1本、穴	側面丸穴2ヶ			№177 為
2412	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.34	幅0.37	高0.37		尻面溝1本	側面丸穴1ヶ			№178 行
2413	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.36	幅0.40	高0.40		尻面溝1本、穴	-			№179 哈
2414	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.36	幅0.38	高0.38		尻面溝1本、穴	-			№180 骨
2415	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.35	幅0.37	高0.37		尻面溝1本、穴	-			№181 南
2416	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.35	幅0.30	高0.38		尻面溝1本	側面丸穴1ヶ			№182 年
2417	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.37	幅0.38	高0.38		尻面溝1本、穴	-			№183 何
2418	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.37	幅0.38	高0.38		尻面溝1本、穴	-			№185 朝
2419	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.36	幅0.37	高0.37		尻面溝1本	側面丸穴1ヶ			№186 張
2420	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.35	幅0.38	高0.38		尻面溝1本、穴	-			№187 準
2421	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.37	幅0.38	高0.38		尻面溝1本、穴	-			№188 砲
2422	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.36	幅0.38	高0.38		尻面溝1本、穴	側面丸穴1ヶ			№189 手
2423	10a	検出1	020702	金属製品	活字		-	幅0.37	高0.37		-	側面丸穴1ヶ			№190 前
2424	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.36	幅0.37	高0.37		尻面溝1本	-			№191 馬
2425	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.36	幅0.40	高0.40		尻面溝1本	側面丸穴1ヶ			№192 九
2426	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.35	幅0.38	高0.38		尻面溝1本	側面丸穴1ヶ			№194 三
2427	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.36	幅0.38	高0.38		尻面溝1本	-			№195 徴
2428	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.37	幅0.38	高0.38		尻面溝1本	-			№196 國
2429	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.38	幅0.38	高0.38		尻面溝1本	側面丸穴1ヶ			№197 役
2430	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.37	幅0.40	高0.40		尻面溝1本	-			№198 一?
2431	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.37	幅0.38	高0.38		尻面溝1本	-			№199 三
2432	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.35	幅0.38	高0.38		尻面溝1本	側面丸穴1ヶ			№200 現
2433	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.41	幅0.38	高0.38		尻面溝1本	-			№202 陸
2434	10a	検出1	020702	金属製品	活字		長2.35	幅0.39	高0.39		尻面溝1本	-			№203 兵

遺物一覧表

図版番号	グレード	遺構番号	日付	産地・材質	器種	時期	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	内面	外面	胎土(外部)	軸1	備考
2435	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.37	高 0.37		尻面溝 1本	—			№ 204 動
2436	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.37	幅 0.39	高 0.39		尻面溝 1本	—			№ 205 軍
2437	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.37	幅 0.39	高 0.36		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			№ 206 帆
2438	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.38	高 0.37		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			№ 207 大
2439	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.00	幅 0.37	高 0.37		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			№ 208 スペース?
2440	10a	検出I	020702	金属製品	活字		—	幅 0.38	高 0.37		—	側面丸穴 1ヶ			№ 209 愛
2441	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.42	高 0.38		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			№ 210 免
2442	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.36	幅 0.42	高 0.41		尻面溝 1本	—			№ 211 修
2443	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.45	高 0.44		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			№ 212 六
2444	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.38	高 0.38		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			№ 213 八
2445	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.36	幅 0.39	高 0.38		尻面溝 1本	—			№ 214 薬
2446	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.37	幅 0.39	高 0.39		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			№ 215 改
2447	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.36	幅 0.38	高 0.38		尻面溝 1本	—			№ 216 營
2448	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.38	高 0.38		尻面溝 1本	—			№ 217 入
2449	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.38	高 0.38		尻面溝 1本	—			№ 218 年
2450	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.44	幅 0.41	高 0.41		尻面溝 1本	—			№ 219 及
2451	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.36	幅 0.38	高 0.38		尻面溝 1本	—			№ 220 同
2452	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.36	幅 0.40	高 0.40		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			№ 221 八
2453	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.37	高 0.37		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			№ 222 入
2454	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.38	高 0.38		尻面溝 1本	側面丸穴 2ヶ			№ 223 著
2455	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.46	幅 0.41	高 0.40		尻面溝 1本	—			№ 224 ミ
2456	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.37	高 0.37		尻面溝 1本、穴	—			№ 225 過
2457	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.36	幅 0.39	高 0.38		尻面溝 1本	—			№ 226 善
2458	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 1.98	幅 0.38	高 0.38		尻面溝 1本	—			№ 229 スペース?
2459	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.34	幅 0.37	高 0.37		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			№ 230 兵
2460	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.38	高 0.37		尻面溝 1本	—			№ 231 名
2461	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.37	幅 0.38	高 0.39		尻面溝 1本	—			№ 233 見
2462	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.37	高 0.37		尻面溝 1本、穴	—			№ 234 轉
2463	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.37	幅 0.37	高 0.37		尻面溝 1本	—			№ 235 支
2464	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.37	高 0.37		尻面溝 1本、穴	—			№ 236 地
2465	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.31	幅 0.37	高 0.37		尻面溝 1本	—			№ 238 一
2466	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.36	幅 0.38	高 0.38		尻面溝 1本、穴	側面丸穴 1ヶ			№ 239 期
2467	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.45	高 0.43		尻面溝 1本	—			№ 240 六?
2468	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.37	幅 0.38	高 0.38		尻面溝 1本、穴	側面丸穴 1ヶ			№ 241 八?
2469	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.38	高 0.38		尻面溝 1本	—			№ 243 務
2470	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.37	幅 0.39	高 0.40		尻面溝 1本、穴	側面丸穴 1ヶ			№ 244 臨
2471	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.47	幅 0.44	高 0.40		尻面溝 1本	—			№ 245 十?
2472	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.36	幅 0.40	高 0.40		尻面溝 1本、穴	側面丸穴 1ヶ			№ 246 ?
2473	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.37	高 0.37		尻面溝 1本、穴	—			№ 247 ニ
2474	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.34	幅 0.38	高 0.38		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			№ 248 十
2475	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.37	高 0.37		尻面溝 1本	—			№ 249 部
2476	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.32	幅 0.37	高 0.37		尻面溝 1本、穴	側面丸穴 1ヶ			№ 250 二
2477	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.38	高 0.38		尻面溝 1本	—			№ 251 二
2478	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.38	高 0.38		尻面溝 1本	—			№ 253 斑
2479	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.36	幅 0.42	高 0.40		尻面溝 1本	—			№ 254 東
2480	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.36	幅 0.38	高 0.38		尻面溝 1本	—			№ 255 三
2481	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.36	幅 0.38	高 0.40		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			№ 256 隊
2482	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.36	幅 0.38	高 0.38		尻面溝 1本	—			№ 257 轉
2483	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.36	幅 0.40	高 0.39		尻面溝 1本	—			№ 258 醫
2484	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.37	高 0.37		尻面溝 1本	—			№ 259 校
2485	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.37	幅 0.39	高 0.38		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			№ 260 名
2486	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.38	幅 0.39	高 0.38		尻面溝 1本	—			№ 262 留
2487	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.40	高 0.39		—	側面丸穴 1ヶ			№ 263 別
2488	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.37	高 0.38		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			№ 264 八
2489	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.37	高 0.38		尻面溝 1本	—			№ 265 ヶ残
2490	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.36	幅 0.38	高 0.38		尻面溝 1本	—			№ 266 寺
2491	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.34	幅 0.40	高 0.40		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			№ 267 一
2492	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.36	幅 0.37	高 0.34		尻面溝 1本	—			№ 268 十
2493	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.36	幅 0.40	高 0.38		尻面溝 1本	—			№ 269 夫
2494	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.49	高 0.49		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			№ 3 遣
2495	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.36	幅 0.49	高 0.49		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			№ 13 週
2496	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.36	幅 0.49	高 0.49		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			№ 25 歩
2497	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.49	高 0.49		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			№ 58 火
2498	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.36	幅 0.50	高 0.50		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			№ 124 陣
2499	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.36	幅 0.49	高 0.49		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			№ 152 煎
2500	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.36	幅 0.44	高 0.44		尻面溝 1本	—			№ 227 動
2501	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.38	幅 0.46	高 0.44		尻面溝 1本	—			№ 228 基
2502	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.36	幅 0.76	高 0.74		尻面溝 1本	側面丸穴 2ヶ			№ 270 特
2503	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.37	幅 0.76	高 0.75		溝 1本、空洞	側面丸穴 1ヶ			№ 273 部
2504	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.36	幅 0.28	高 0.29		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			№ 17 召
2505	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.34	幅 0.28	高 0.28		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			№ 132 與
2506	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.29	高 0.29		尻面溝 1本	—			№ 184 分
2507	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.28	高 0.28		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			№ 237 號
2508	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.36	幅 0.19	高 0.38		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			№ 26 スペース?
2509	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.20	高 0.38		尻面溝 1本	側面丸穴 3ヶ			№ 138 (
2510	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 1.92	幅 0.25	高 0.49		尻面溝 1本	側面丸穴 2ヶ			№ 201 スペース
2511	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 1.96	幅 0.24	高 0.49		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			№ 232 スペース?
2512	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 1.95	幅 0.24	高 0.50		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			№ 252 スペース
2513	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.21	高 0.43		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			№ 261 「
2514	10a	検出I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.19	高 0.37		尻面溝 1本	側面丸穴 1ヶ			№ 76 横に七

名古屋城三の丸遺跡 VII

図版番号	グッド	遺構番号	日付	産地・材質	器種	時期	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	内面	外面	胎土(外部)	軸1	備考
2515	10a	検出 I	020702	金属製品	活字		長 2.35	幅 0.19	高 0.38		尻面溝 1本	側面丸穴 2ヶ			No.242 横に十
2516		西壁	020507		碗	明治10 年まで	推 11.2	5.3	3.6	推 11.4	白磁袖コバルト 絵	白磁袖コバルト 絵、高台端部露胎	C4-M4-Y4- BL0	C8-M4-Y6- BL0	
2517		西壁	020507	瀬戸磁器	碗	明治10 ~20年 代ぐら いまで	推 11.4	4.7	3.8	推 11.6	白磁袖コバルト 絵、型紙刷り	白磁袖コバルト 絵、型紙刷り、高 台端部露胎	C4-M4-Y6- BL0	C8-M6-Y8- BL0	
2518		表土	020412	瀬戸磁器	碗	明治10 年まで	推 13.1	5.9	推 4.1	推 13.3	白磁袖コバルト 絵	白磁袖コバルト 絵、高台端部露胎	C6-M4-Y4- BL0	C6-M0-Y4- BL0	
2519		表土	020412	瀬戸磁器	湯呑		推 6.6	7.2	推 4.2	推 6.7	白磁袖コバルト 絵、型紙刷り	白磁袖コバルト 絵、型紙刷り、高 台端部露胎	C4-M4-Y6- BL0	C16-M4- Y6-BL0	
2520		表土	020412	瀬戸磁器	皿		推 15.0	4.0	7.2	推 15.3	白磁袖コバルト 絵、型紙刷り	白磁袖コバルト 絵、型紙刷り、蛇 の目高台軸剥ぎ	C6-M4-Y4- BL0	C16-M4- Y10-BL0	
2521		西壁	020507	瀬戸磁器	輪花皿		推 14.9	4.1	7.6	推 15.2	白磁袖コバルト 絵、型紙刷り	白磁袖コバルト 絵、型紙刷り、蛇 の目高台軸剥ぎ	N7/ 灰白	C20-M10- Y20-BL10	
2522		表土	020412	瀬戸陶器	石皿		推 23.4	3.2	10.4	推 24.1	白磁袖コバルト 絵、ビン痕 2ヶ残	白磁袖コバルト 絵、高台端部露胎	7.5Y8/1 灰白	C4-M6- Y10-BL0	
2523		表土	020412	瀬戸磁器	湯呑		推 7.0	7.0	4.6	推 7.2	白磁袖	白磁袖、クロム 緑袖絵、高台端部 露胎	9/ 白	9/ 白	
2524		表土	020412	瀬戸磁器	蓋	明治20 年代~ 大正・ 昭和	推 6.2	残 1.8		推 6.8	白磁袖、口縁部 露胎	白磁袖、クロム 緑袖絵型紙刷り	9/ 白	9/ 白	
2525		表土	020412	瀬戸磁器	白磁(染付) 鉢?		推 16.0	残 3.6		推 17.0	白磁袖コバルト 絵?、スタンプ?	白磁袖	9/ 白	9/ 白	
2526	SX02 南 東肩口	020619	瀬戸磁器	どんぶり碗			推 15.2	6.4	5.6	推 15.6	白磁袖	白磁袖、青線、陽 刻印、高台端部 露胎		C0-M0-Y0- BL4	
2527	南壁	020917	産地不明陶 器	鉢?			推 11.6	残 3.7			白色袖	緑色袖、白色袖	5Y8/1 灰白	C0-M0-Y4- BL0	
2528	表土	020412	真ちゅう製 品	食器皿			12.6	1.8	9.4	12.8	回転調整痕	回転調整痕、破損 により歪みあり、 陰刻	C0-M0-Y20- BL10		アルミ皿
2529	表土	020412	真ちゅう製 品	食器皿			12.6	1.8	9.4	12.8	回転調整痕	回転調整痕、破損 により歪みあり、 陰刻	C0-M0-Y20- BL10		アルミ皿
2530	10f	SK16	020606	鉄製品	鉄筋		残長 22.9	幅 0.9	厚 0.9						
2531	11f	SK16	020605	鉄製品	番線		残長 10.6	残幅 7.4	厚 0.3						
2532	10f	SK16	020606	鉄製品	釘		残長 3.0	幅 1.6	厚 1.2						
2533	10f	SK16	020606	鉄製品	ネジ		長 2.0	幅 0.7	厚 0.7						
2534	11f	SK16	020605	銅+ゴム製 品	コード		残長 4.6	幅 0.7	厚 0.6						
2535	11e	SK95	020621	銅製品	飾金具		長 2.6	幅 3.0	厚 0.3						
2536	13j	SD07	020603	土製品	土錘			残 3.3				指オサエ?	10YR8/4 浅黄橙		
2537	11c	SK134	020625	土師器?	土錘			残 3.1		推 3.0		ヘラケズリと指オ サエ	2.5Y6/1 黄灰		
2538	8e	SK70	020617	土師器	碁石?			0.6		1.9		調整不明	5YR6/6 橙		
2539	10c	SK141	020703	瓦器	井戸側?			残 13.8	推 30.0		磨耗、ヘラケズリ	刻線文あり、ヘラ ケズリ	N4/ 灰		
2540	8d	SK308	020827	濃飛流紋岩	砥石		残長 8.2	残幅 4.8	厚 2.4						
2541	11a	検出皿	020820	濃飛流紋岩	凹み石		残長 17.8	残幅 16.9	厚 6.6						
2542	西壁	020507		泥岩	硯		長 14.1	幅 6.3	厚 1.9						
2543	13a	西トレ ンテ	020509		硯		残長 5.5	幅 4.5	厚 1.1						
2544	13e	SK170	020724	凝灰質泥岩	硯		残長 7.6	残幅 5.6	厚 1.7						
2545	11e	SK43	020610	凝灰質泥岩	硯		残長 10.9	残幅 4.9	厚 2.3						
2546	11e	検出 II	020718	凝灰質泥岩	砥石		残長 11.5	幅 5.9	厚 4.0						
2547	10a	検出 I	020523	凝灰質泥岩	砥石		長 12.1	幅 2.5	厚 2.1						
2548	10d	SK341	020829	凝灰岩	砥石		残長 5.2	幅 4.3	厚 0.9						
2549	12h	SK05	020705	凝灰質泥岩	砥石		残長 3.6	幅 2.2	厚 1.1						
2550	11b	検出 I	020523	凝灰質泥岩	砥石		長 2.1	幅 2.1	厚 0.9						
2551	9d	SK304	020826	凝灰質泥岩	砥石		長 2.1	幅 2.1	厚 0.4						
2552	10h	SX05	020703	花崗岩	上白		推 32.7	12.2	推 32.0	推 35.4					
2553	12i	SK02	020530	鉄製品	釘		残長 8.6	幅 2.6	厚 1.8						
2554	8d	検出 II	020712	鉄製品	錠		長 13.6	幅 3.6	厚 0.6						
2555	13f	SD26	020726	鉄製品	不明		長 11.2	幅 4.9	厚 2.0						
2556	9b	SD31	020919	銅+鉄製品	刀子		残長 9.4	幅 1.6	厚 0.5						
2557	10a	検出 I	020703	銅製品	不明		1.5	4.6	1.5	1.6					
2558	10a	検出 I	020703	銅製品	不明		直径 1.5	厚 0.2							
2559	13j	SD05	020603	銅製品	銅線		残長 4.1	幅 0.3	厚 0.3						
2560	13j	SD05	020603	鉛製品	鉄砲玉		直径 1.3								
2561	13d	SK202	020727	ガラス	不明		残長 4.2	残幅 2.0	厚 0.2						

# 図 版

1. 遺構図版  $s = 1 : 250$

遺構図版 1 : 第 1 面の遺構

遺構図版 2 : 第 2 面の遺構

遺構図版 3 : 第 3 面の遺構

遺構図版 4 : 第 1 面の遺構 (掘削前の略測図)

遺構図版 5 : 第 2 面の遺構 (掘削前の略測図)

2. 写真図版

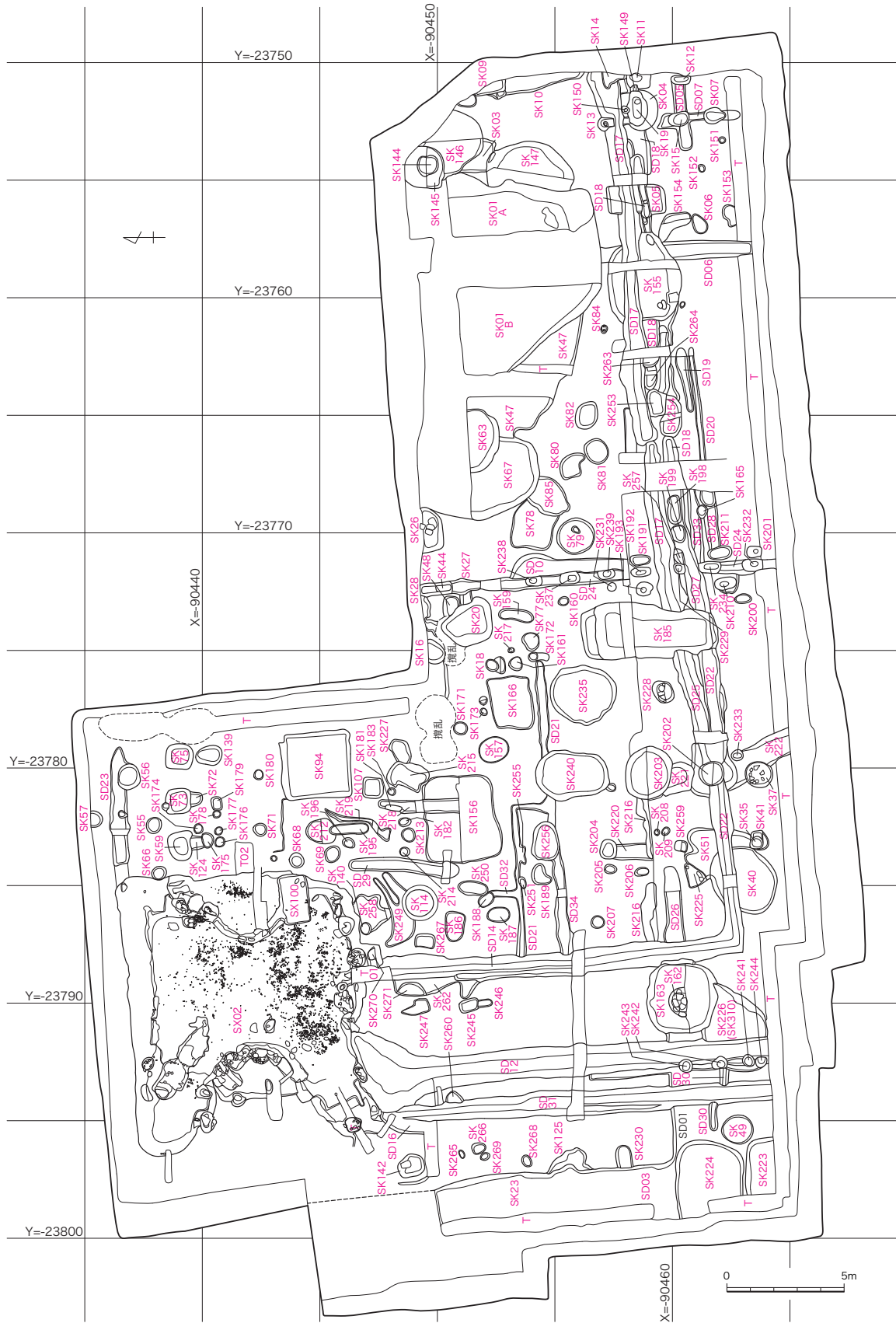
遺構写真 : 写真図版 1 ~ 写真図版 16

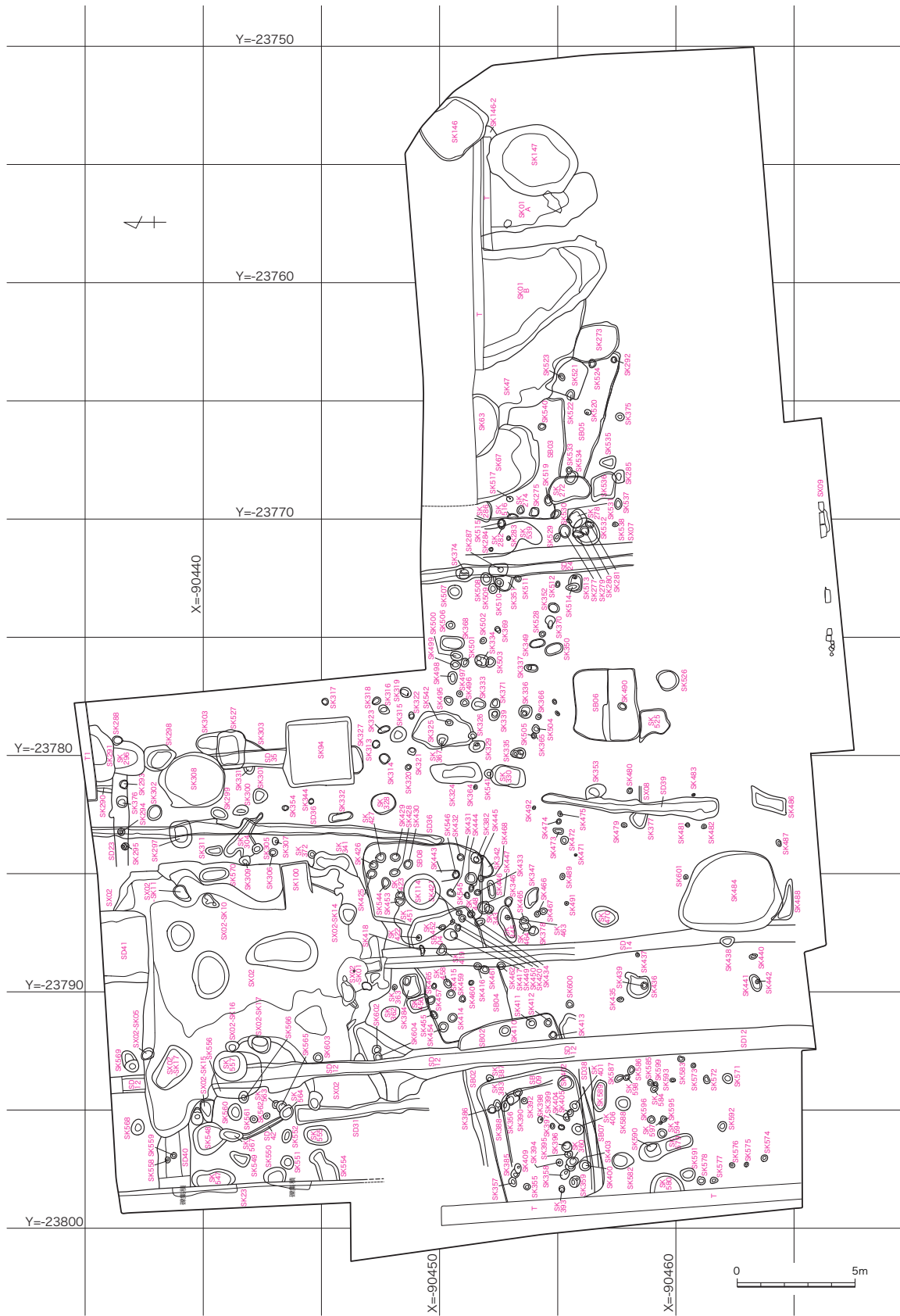
遺物写真 : 写真図版 17 ~ 写真図版 30

関連絵図の写真 : 写真図版 31 ~ 写真図版 32





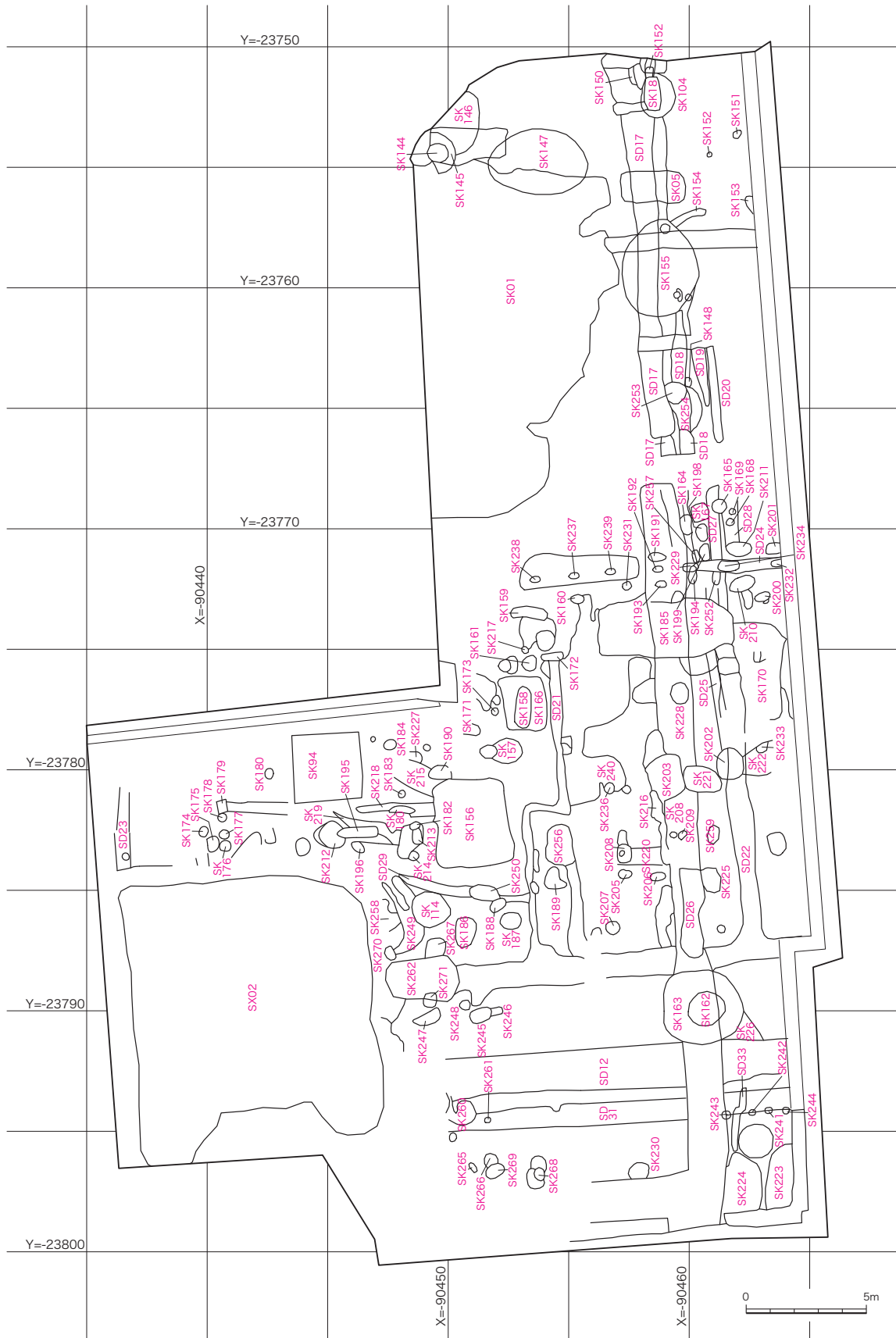




第1面の遺構（掘削前の略測図）

遺構図版 4









調査区遠景（南東からみる） 左上に見える建物が名古屋城天守



1面遺構全体（北西からみる）



名古屋城三の丸遺跡 VII

写真図版 2



2面遺構全体（北西からみる）



3面遺構全体（北西からみる）





土坑 SK308 遺物出土状態 (東からみる)



竪穴建物跡群 (北からみる)



名古屋城三の丸遺跡 VII

写真図版 4



井戸 SK226 土層断面 (北からみる)



溝 SD17, 18 全体 (東からみる)





溝 SD12, SD14 等全体 (北からみる)



土坑 SK185, 柵列 SD24 全体 (南からみる)



名古屋城三の丸遺跡 VII

写真図版 6

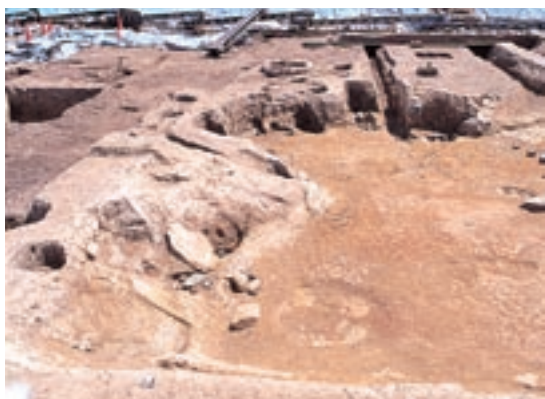


石組溝 SD01 ～ 03 全体（西からみる）



池 SX02 全体（北西からみる）





池 SX02 東張り出し部（北からみる）



池 SX02 西張り出し部（北からみる）



池 SX02 階段状遺構（西からみる）



池 SX02 東張り出し部正面（西からみる）



池 SX02 東張り出し部上面玉石（南からみる）



池 SX02 床面玉石（東からみる）



池 SX02 南壁盛土層断面（東からみる）



池 SX02 導水部漆喰断面（南西からみる）



名古屋城三の丸遺跡 VII

写真図版 8



礎石建物跡 SB01 全体（東からみる）



礎石建物跡 SB01 床面（南西からみる）



左:調査区遠景  
(南からみる)



右:SK331遺物  
出土状態  
(南西からみる)



左:SB07,SB09  
(西からみる)



右:SB02  
(西からみる)



左:SB03,SB05  
(北からみる)



右:SB06  
(北からみる)



左:SB04土層断面  
(東からみる)



右:SB08土層断面  
(南からみる)



左:3面中央部  
柱穴群  
(北東からみる)



右:3面南西部  
柱穴群  
(東からみる)





名古屋城三の丸遺跡 VII

写真図版 10

左:SD17・SD18  
土層断面  
(東からみる)



右:SD22  
土層断面  
(西からみる)

左:SD24・SA03  
(北からみる)



右:SD39遺物  
出土状態  
(北からみる)



左:SK226遺物  
出土状態  
(北西からみる)



右:SK146・  
SK147  
(北からみる)



左:SK147  
土層断面  
(西からみる)



右:SK146  
土層断面  
(南からみる)



左:SK330  
土層断面  
(南からみる)



右:SK202  
(南からみる)





左:SK484遺物  
出土状態  
(東からみる)



右:SD31・SD12  
(南からみる)



左:SK93遺物  
出土状態  
(東からみる)



右:SK26石材  
出土状態  
(南からみる)



左:SK60遺物  
出土状態  
(東からみる)



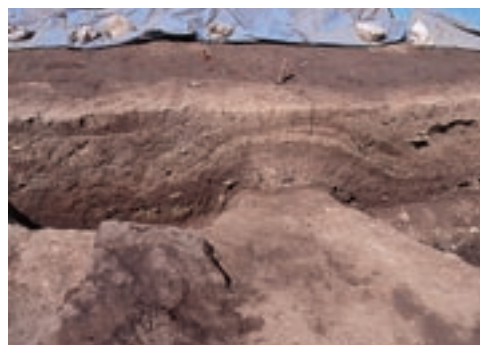
右:SK01  
(東からみる)



左:SK01  
土層断面  
(南からみる)



右:SK63・SK01  
土層断面  
(南からみる)



左:SK01  
木材出土状況  
(西からみる)



右:SK01  
出土状態  
(東からみる)





名古屋城三の丸遺跡 VII

写真図版 12

左:SD01全体  
(西からみる)



右:SD01遺物  
出土状態  
(北からみる)



左: SX01  
(南からみる)



右:SD01部分  
(南からみる)



左:SD01部分  
(南からみる)



右:SD01部分  
(南からみる)



左:SD01部分  
(北からみる)



右:SD01部分  
(北からみる)



左:SD02  
(南からみる)



右:SD01・SD03  
(南からみる)





左:SD04  
(東からみる)



右:SD02  
(西からみる)



左:SD01  
土層断面  
(西からみる)



右:SD01  
土層断面  
(西からみる)



左:SK23  
(西からみる)



右:SD01 掘肩  
(西からみる)



左:SK185  
土層断面  
(南からみる)



右:SK100  
(西からみる)



左:SK94  
土層断面  
(南からみる)



右:SK94  
壁面崩落状態  
(南からみる)





名古屋城三の丸遺跡 VII

写真図版 14

左: SX02  
調査風景  
(北西からみる)



右: SX02  
北壁部  
(東からみる)

左: SX02  
階段状遺構  
(北西からみる)



右: SX02  
南壁  
(北からみる)

左: SX02・SK01  
(北からみる)



右: SX02・SK03  
(北からみる)

左: SX02・SK04  
(北からみる)



右: SX02・SK09  
(東からみる)

左: SX02・SK16  
(東からみる)



右: SX02・SK07  
(北東からみる)



左: SX02  
導水部  
(南西からみる)



右: SX02  
導水部下端  
(南からみる)

左: SX02  
土層断面  
(東からみる)



右: SD41  
(南からみる)

左: SX02  
完掘状態  
(北西からみる)



右: SX02  
床面土層断面  
(東からみる)

左: SX03  
土層断面  
(南からみる)



右: SK20  
石材出土状態  
(南からみる)

左: SX09  
(東からみる)



右: SX03  
全体  
(北からみる)



名古屋城三の丸遺跡 VII

写真図版 16

左:SK163  
土層断面  
(南からみる)



右:SK202  
壁面  
(北からみる)



左:SK49  
土層断面  
(北からみる)



右:SK37  
土層断面  
(北からみる)



左:SK56  
遺物出土状態  
(東からみる)



右:SK66  
遺物出土状態  
(南からみる)



左:SK68  
遺物出土状態  
(南からみる)



右:SK107  
(南からみる)



左:SK142  
土層断面  
(南からみる)



右:SK362  
遺物出土状態  
(南からみる)







土坑 SK308 出土遺物



井戸 SK226 出土遺物

名古屋城三の丸遺跡 VII

写真図版 18



井戸 SK147 出土遺物



土坑 SK185 出土遺物



地下室 SK94 出土遺物



土坑 SK96 出土遺物

名古屋城三の丸遺跡 VII

写真図版 20







2078



2071

2061

2074

2124



2098



2099



2101



2106



2103



2110



2109



2129



2141



2086



2088



2087



2252



2093



2204



2203



2237 2238 2239 2240 2233 2234 2251 2230

2249 2242 2247 2248 2250 2246 2245 2243





1515



1508



2562



1514



1508



SX02-S54



SX02-S7



1510



SX02-玉石



SK20-玉石



SX02-玉石



SX02-S75



SX02東張りだし部-玉石



SX02-玉石



2059



2041

2039



2050

2051

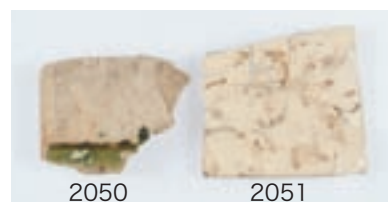


2059



2042

2039



2050

2051



1981



1966



1602

1601

1600

1599

1598

1597

1596

1595

1626

1625

1624

1623

1622

1621

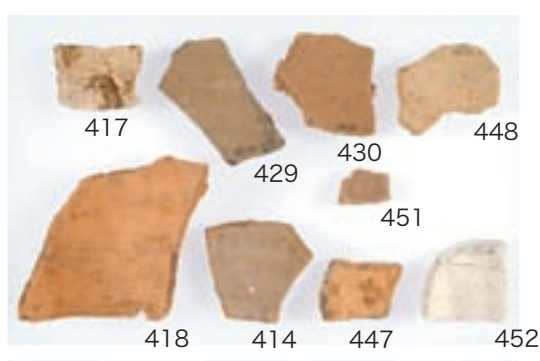
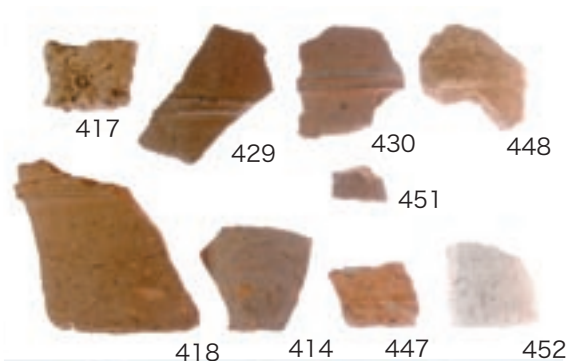
1620

1619



名古屋城三の丸遺跡 VII

写真図版 24

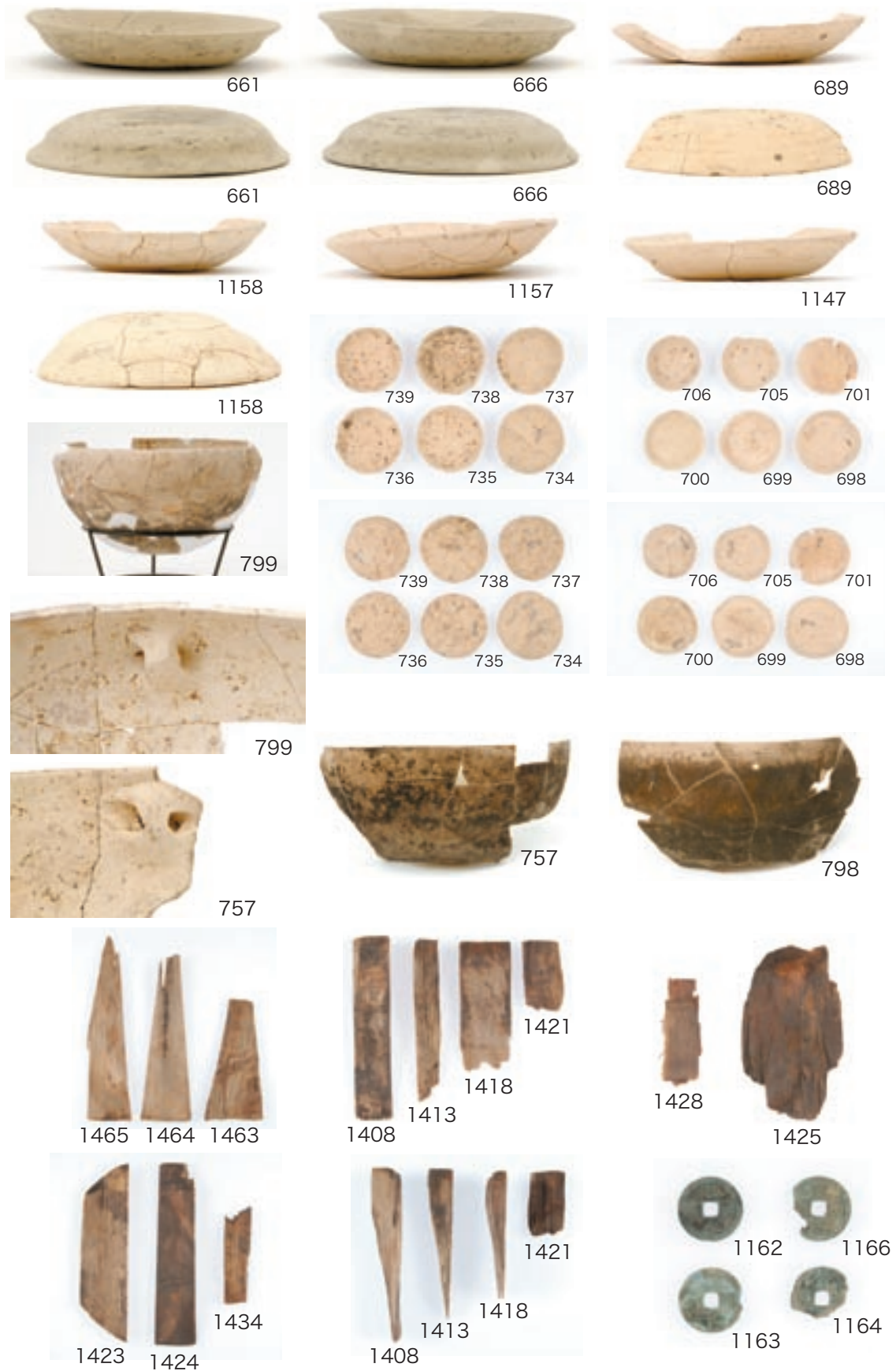






名古屋城三の丸遺跡 VII

写真図版 26







名古屋城三の丸遺跡 VII

写真図版 28



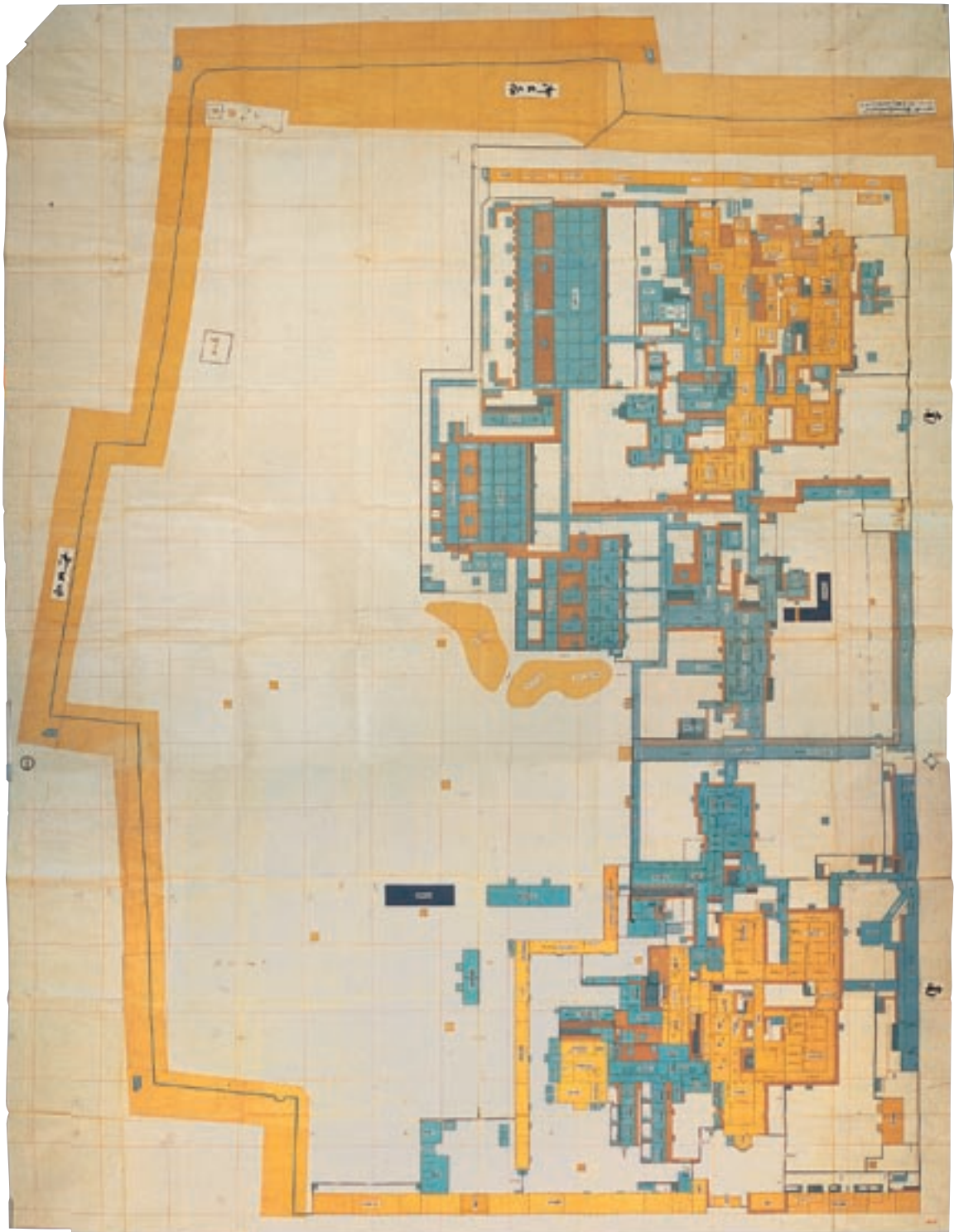












「御屋形御絵図」(名古屋市蓬左文庫蔵)

# 報告書抄録

ふりがな	なごやじょうさんのまるいせき なな							
書名	名古屋城三の丸遺跡 VII							
副書名								
巻次								
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第127集							
編著者名	鈴木正貴、早野浩二、永井邦仁、鬼頭剛、古澤明、森勇一、上田恭子、堀木真美子、小村美代子、植田弥生、鶴飼雅弘							
編集機関	財団法人 愛知県教育サービスセンター 愛知県埋蔵文化財センター							
所在地	〒498-0017 愛知県海部郡弥富町前ヶ須新田野方802-24							
発行年月日	西暦 2005年 3月 31日				TEL0567(67)4161			
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯 ° , ' , "	東経 ° , ' , "	調査期間	調査面積	調査原因
なごやじょうさん のまるいせき 名古屋城 三の丸遺跡	なごやし なかく 名古屋市中区  さんのまる4ちょうめ 三の丸4丁目	23106	01-7027	35度 10分 33秒	136度 54分 5秒	20020401 ～ 20020930	1100㎡	看護婦 養成所 大型化 整備
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
名古屋城 三の丸遺跡	集落  城郭	古墳～ 奈良時代  鎌倉～ 戦国時代  江戸時代  明治～ 昭和時代	竪穴建物跡7棟、 掘立柱建物跡、 溝、土坑など  掘立柱建物跡、 柵列、溝、井戸、 土坑など  池、石組溝、 掘立柱建物跡、 溝、土坑など  礎石建物跡、 井戸、土坑など	土師器、 須恵器、 灰釉陶器  山茶碗類、 瀬戸美濃窯産陶器、 肥前窯産陶磁器 石器・石製品、 木製品、木材、 金属製品および その関連遺物  ガラス製品など		古墳時代から古 代の集落  那古野城関連の 遺構を検出  江戸時代の庭園 遺構を検出 御屋形に関する 遺構群  名古屋陸軍病院 の病棟やその関 連遺物		
文書番号	発掘届出(13埋セ第171号・2002.2.28) 通知(13教生第36-26号・2002.3.6) 終了届・保管証・発見届(14埋セ第82号・2002.9.20)							
要約	今回の調査で確認された遺構や遺物を4期に大別した。古墳時代から古代では竪穴建物を中心とした集落が確認された。中世では戦国時代の那古野城に関連する屋敷群とそれに先行する集落の存在が明らかになった。近世では当初名古屋城三の丸の武家屋敷が展開したが、17世紀中頃に尾張藩主徳川家の親族らが居住する御屋形が建設され、それに伴う庭園遺構や石組溝が検出された。庭園遺構は池泉鑑賞式庭園で屋敷の中庭的存在であったと推測される。近代では名古屋陸軍病院に関連する遺構や遺物が発見され、戦時中の切迫した物質生活様相を明らかにした。土師器皿や鍋類、及び遺構の変遷を辿ることにより、当地域における物質生活上の画期や歴史的な変遷を考察することができた。							

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第127集

名古屋城三の丸遺跡 VII  
—旧国立名古屋病院地点の調査—

2005年3月31日

編集・発行

財団法人愛知県教育サービスセンター  
愛知県埋蔵文化財センター

印刷

西濃印刷株式会社